

# 二之宮宮下西遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1994

建 設 省  
群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





に の みや みや した にし い せき  
二之宮宮下西遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1994

建 設 省  
群 馬 県 教 育 委 員 会  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





遺跡周辺航空写真





# 序

埼玉県深谷市と本県の前橋市を結ぶ一般国道17号線のバイパスである上武道路は、本県の中央部をほぼ南北に縦断します。既に、尾島町の国道354号線から前橋市今井町の一般国道50号線までの区間が開通・共用されており、通過市町村の産業経済発展に大きく貢献しています。

上武道路の通過する地域は、本県でも有数の埋蔵文化財包蔵地が分布しています。特に赤城南麓に位置する前橋市二之宮地区は、それが顕著であります。本書に報告する二之宮宮下西遺跡は、昭和61年度より62年度にかけて当事業団が発掘調査を実施しました。旧石器時代から中世に至るまでの複合遺跡で、石器時代の土坑、古墳時代後期の住居跡、中世の墓域が確認され、調査されました。

この調査成果は、平成5年度から6年度にかけての整理事業にて、『二之宮宮下西遺跡発掘調査報告書』としてまとめることができました。

発掘調査から報告書に至るまで、建設省関東地方建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者等から種々、ご指導ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて、本報告書が群馬県の歴史を解明する上で、広く活用される事を願います。

平成7年3月

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長

小寺弘之





## 例 言

- 1 本書は、一般国道17号線(上武道路)改築工事に伴い発掘調査された、群馬県前橋市二之宮町字宮下西・字五分一に所在する二之宮宮下西遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 事業主体 建設省、群馬県教育委員会
- 3 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査期間 試掘調査 昭和60年度  
発掘調査 昭和61年7月1日～昭和62年3月31日
- 5 調査面積 12,000平方メートル
- 6 調査組織
  - 事務担当 常務理事 白石保三郎  
事務局長 井上 唯雄  
調査研究部長 上原 啓巳  
管理部長 大沢 秋良  
調査研究第二課長 桜場 一寿  
庶務課長 定方 隆史  
庶務課員 国定 均、笠原 秀樹、須田 朋子、吉田 有光、柳岡 良宏
  - 調査担当 主任調査研究員 飯田 陽一  
調査研究員 丸山 公夫、新倉 明彦
- 7 整理期間 平成5年12月1日～平成7年3月31日
- 8 整理主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 9 整理組織
  - 事務担当 常務理事 中村 英一  
事務局長 近藤 功  
管理部長 佐藤 勉 (～平成6年3月)  
蜂巣 実 (平成6年4月～)
  - 調査研究部長 神保 侑史  
調査研究第二課長 能登 健 (～平成6年3月)  
中束 耕志 (平成6年4月～)
  - 総務課長 斉藤 俊一  
総務課 係長代理 国定 均、笠原 秀樹  
主任 須田 朋子、柳岡 良宏、吉田 有光(平成6年4月～)  
主事 高橋 定義、船津 茂(～平成6年3月)  
非常勤嘱託員 松下 登(～平成6年3月)、大沢 友治(平成6年4月～)  
補助員 吉田 恵子、松井美智代、内山 佳子、星野美智子  
羽鳥 京子、今井もと子、塩浦ひろみ(～平成6年11月)、  
菅原 淑子(平成7年1月～)

整理担当	主任調査研究員	新倉 明彦
	嘱託員	青木 静江
	補助員	神谷みや子、高橋フジ子、田村 栄子(～平成6年4月)、 原島 弘子(～平成6年4月)、鈴木 紀子(～平成6年4月)、 木暮 芳枝(～平成6年4月)、嶋崎しづ子(平成6年4月～)、 阿部 幸恵(平成6年4月～)、中曽根貞子(平成6年1月～)、 市橋 晴子(平成7年1月～)、小比木智子(平成6年4月～6月)
遺物写真撮影	主任技師	佐藤 元彦
遺物保存処理	主任技師	関 邦一
	非常勤嘱託員	土橋まり子
	補助員	小材 浩一、樋口 一之(～平成5年6月)、小沼 恵子
木器整理	補助員	五十嵐由美子、高橋 節子、伊藤 博子、 狩野なつ子、高橋真樹子(～平成6年4月)、 生巢由美子(平成6年4月～)

#### 10 本報告書執筆者

第1章 第1節	調査に至る経過	主任調査研究員	田村 公夫
第3章 第1節	旧石器時代	主任調査研究員	岩崎 泰一
	第2節 縄文時代	専門員	藤巻 幸男
第4章 第1節	住居跡出土の土器	専門員	飯田 陽一
	第2節 出土埴輪について(遺物観察を含む)	主任調査研究員	南雲 芳昭
	第3節 砥石(遺物観察を含む)	専門員	大江 正行
	第4節 出土の瓦に就いて(遺物観察を含む)	専門員	木津 博明
	第6節 人骨及び馬骨について	群馬県立大間々高校教諭	宮崎 重雄
	上記以外	主任調査研究員	新倉 明彦

#### 11 出土遺物の科学分析・鑑定

獣骨・人骨鑑定	群馬県立大間々高校教諭	宮崎 重雄
石材鑑定	群馬地質研究会	飯島 静男

- 12 発掘調査時および本報告書作成時には、群馬県教育委員会・前橋市教育委員会をはじめとする関係機関、および下記の方々からご指導・ご教示をいただいた。記して感謝の意を表したい。

山崎 一(故人)、近藤義雄、峰岸純夫、大江正行、木津博明、大西雅広、神谷佳明、坂口 一、南雲芳昭  
また、発掘調査時における館跡地下レーダー探査については、国際航業株式会社の協力を得た。

- 13 本遺跡の図面・写真・出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センター・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団にて保管する。各方面での研究・教育等の分野で保管資料の活用を望む。

## 凡 例

### 1、遺構番号について

本報告書に用いた遺構の番号は、遺物注記・遺構測量原図・遺構写真との整合性を保つため、原則として発掘調査時に付した番号を踏襲したため、一部に欠番が生じた。また、土坑の遺構番号については調査時に便宜的に用いた調査区ごとに1号から付したため、整理時において通番に振替え、調査時の旧番号を「土坑一覧表」内に記した。

### 2、遺物番号について

本報告書内の遺物番号については、それぞれが掲載されている挿図ごとにNo.1から付した。

また、本報告書作成にあたり、整理用の番号として出土遺物に4桁の番号を付した。遺物整理台帳等がこの番号を用いて作成されているため、遺物観察表の「遺物番号」欄の下段にこれを記した。なお、この4桁番号は、便宜的にNo.1～1999までが土器・土製品を、No.2000～2999までが石製品を、No.3000～3999までが木製品を、No.4000から4999までが金属製品を示すように付し、欠番を含む。

### 3、図面の縮尺について

本報告書に掲載された挿図の縮尺は、原則として下記のとおりとし、下記以外の縮尺を用いた場合には挿図内に縮尺を明示した。

遺構実測図 竪穴住居跡=1/80、住居カマド拡大図=1/40、井戸跡・土坑跡=1/80、溝跡=1/80

凡例 遺構



焼土



攪乱

遺物実測図 土器類=1/3(写真1/4)、石器類=1/3(写真1/4)、金属器・木器=1/3(写真1/4)、  
小形遺物=1/2(写真1/2)、石造物・大型石製品=1/6(写真1/6)

遺物



灰釉



赤色処理



環元



焼けている部分(石)



黒色処理



酸化



磨り面

また、五輪塔の実測にあたっては、曲面の様相を図化するために、航空写真測量の応用であるステレオ写真からの等高線図化を行った。

### 4、遺構主軸と方位について

本報告書の遺構図・全体図に記された方位記号の北は、座標北(真北)を示し、主軸等の計算に用いた方位も座標上の方位である。

また、遺構の主軸については、カマドを有する住居跡については、カマドが設けられた壁と相対する壁との各中心を結ぶ線を主軸とした。





# 目 次

## 序

例 言  
凡 例

## 第1章 発掘調査に至る経緯

第1節 調査に至る経過	
第1項 調査に至る経過	1頁
第2項 試掘調査	1頁
第2節 調査の方法	
第1項 グリッドの設定	2頁
第2項 基本土層	3頁

## 第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境	5頁
第2節 歴史的環境	7頁

## 第3章 検出遺構と遺物

第1節 旧石器時代の遺構	9頁
第2節 縄文時代	10頁
第3節 古墳時代以降	
第1項 竪穴住居跡	16頁
第2項 井戸跡	157頁
第3項 溝跡	205頁
第4項 土坑跡	346頁
第4節 遺構外出土遺物	371頁

## 第4章 調査成果

第1節 住居跡出土の土器の土器について	430頁
第2節 出土埴輪について	432頁
第3節 砥石	435頁
第4節 出土の瓦に就いて	442頁
第5節 中世館跡について	445頁
第6節 宮下西遺跡の人骨及び馬骨について	450頁

## 挿図目次

第 1 図	C区グリッド設定図	2
第 2 図	グリッド設定図	2
第 3 図	基本土層柱状図	3
第 4 図	遺跡位置図	4
第 5 図	上武道路沿いの地質断面図	6
第 6 図	周辺の遺跡分布図	8
第 7 図	旧石器時代試掘トレンチ設定図及び土坑跡	9
第 8 図	縄文時代の出土遺物(土器)	10
第 9 図	縄文土器出土分布図	11
第10 図	縄文時代の出土遺物(石器)	12
第11 図	縄文時代の出土遺物(石器)	13
第12 図	縄文時代の出土遺物(石器)	14
第13 図	縄文時代の出土遺物(石器)及び分布図	15
第14 図	1号住居跡及び出土遺物	16
第15 図	1号住居跡出土遺物	17
第16 図	4号住居跡及び出土遺物	18
第17 図	4号住居跡出土遺物	19
第18 図	6号住居跡及び出土遺物	20
第19 図	6号住居跡出土遺物	21
第20 図	7号住居跡及び出土遺物	22
第21 図	8号住居跡及び出土遺物	23
第22 図	8号住居跡出土遺物	24
第23 図	9号住居跡	25
第24 図	9号住居跡出土遺物	26
第25 図	10号住居跡	28
第26 図	10号住居跡及び出土遺物	29
第27 図	10号住居跡出土遺物	30
第28 図	11号住居跡及び出土遺物	32
第29 図	11号住居跡出土遺物	33
第30 図	12号住居跡	34
第31 図	12号住居跡出土遺物	35
第32 図	13号住居跡及び出土遺物	36
第33 図	13号住居跡出土遺物	37
第34 図	13号住居跡出土遺物	38
第35 図	13号住居跡出土遺物	39
第36 図	13号住居跡出土遺物	40
第37 図	13号住居跡出土遺物	41
第38 図	14号住居跡	44
第39 図	14号住居跡出土遺物	45
第40 図	14号住居跡出土遺物	46
第41 図	14号住居跡出土遺物	47
第42 図	15号住居跡及び出土遺物	49
第43 図	16号住居跡及び出土遺物	51
第44 図	16号住居跡出土遺物	52
第45 図	17号住居跡及び出土遺物	53
第46 図	17号住居跡出土遺物	54
第47 図	18号住居跡	55
第48 図	18号住居跡及び出土遺物	56
第49 図	18号住居跡出土遺物	57
第50 図	19号住居跡	59
第51 図	19号住居跡出土遺物	60
第52 図	20号住居跡及び出土遺物	61
第53 図	20号住居跡出土遺物	62
第54 図	21号住居跡	63
第55 図	21号住居跡出土遺物	64
第56 図	23号住居跡	66
第57 図	23号住居跡出土遺物	67
第58 図	24号住居跡	68
第59 図	24号住居跡及び出土遺物	69
第60 図	24号住居跡出土遺物	70
第61 図	24号住居跡出土遺物	71
第62 図	24号住居跡出土遺物	72
第63 図	25号住居跡及び出土遺物	74
第64 図	25号住居跡出土遺物	75
第65 図	25号住居跡出土遺物	76
第66 図	26号住居跡	78
第67 図	26号住居跡出土遺物	79
第68 図	26号住居跡出土遺物	80
第69 図	26号住居跡出土遺物	81
第70 図	27号住居跡	83
第71 図	27号住居跡及び出土遺物	84
第72 図	27号住居跡出土遺物	85
第73 図	28号住居跡及び出土遺物	86
第74 図	29号住居跡	87
第75 図	29号住居跡	88
第76 図	29号住居跡出土遺物	89
第77 図	29号住居跡出土遺物	90
第78 図	29号住居跡出土遺物	91
第79 図	30号住居跡及び出土遺物	93
第80 図	30号住居跡出土遺物	94
第81 図	31号住居跡	95
第82 図	31号住居跡出土遺物	96
第83 図	31号住居跡出土遺物	97
第84 図	32号住居跡	98
第85 図	32号住居跡及び出土遺物	99
第86 図	32号住居跡出土遺物	100
第87 図	33号住居跡	101
第88 図	33号住居跡出土遺物	102
第89 図	34号住居跡及び出土遺物	103
第90 図	35号住居跡	104
第91 図	35号住居跡出土遺物	105
第92 図	36号住居跡及び出土遺物	106
第93 図	36号住居跡出土遺物	107
第94 図	37号住居跡及び出土遺物	108
第95 図	37号住居跡出土遺物	109
第96 図	38号住居跡及び出土遺物	110
第97 図	38号住居跡出土遺物	111
第98 図	39号住居跡及び出土遺物	113
第99 図	39号住居跡出土遺物	114
第100 図	40号住居跡及び出土遺物	115
第101 図	41号住居跡及び出土遺物	116
第102 図	42号住居跡	117
第103 図	42号住居跡出土遺物	118
第104 図	43号住居跡及び出土遺物	119
第105 図	43号住居跡出土遺物	120

第106図	44号住居跡及び出土遺物	122	第160図	井戸跡出土遺物	186
第107図	45号住居跡及び出土遺物	123	第161図	井戸跡出土遺物	187
第108図	45号住居跡出土遺物	124	第162図	井戸跡出土遺物	188
第109図	46号住居跡及び出土遺物	125	第163図	井戸跡出土遺物	189
第110図	47号・48号住居跡及び出土遺物	126	第164図	井戸跡出土遺物	190
第111図	47号・48号住居跡出土遺物	127	第165図	井戸跡出土遺物	191
第112図	47・48号住居跡出土遺物	128	第166図	井戸跡出土遺物	192
第113図	49号住居跡	129	第167図	井戸跡出土遺物	193
第114図	49号住居跡及び出土遺物	130	第168図	井戸跡出土遺物	194
第115図	49号住居跡出土遺物	131	第169図	溝跡	207・208
第116図	49号住居跡出土遺物	132	第170図	3号溝木橋柱跡	209
第117図	50号住居跡及び出土遺物	134	第171図	3号溝木橋柱跡	210
第118図	51号住居跡及び出土遺物	135	第172図	溝跡	213・214
第119図	52号住居跡	136	第173図	溝跡出土遺物	215
第120図	52号住居跡出土遺物	137	第174図	溝跡出土遺物	216
第121図	53号住居跡及び出土遺物	138	第175図	溝跡出土遺物	217
第122図	54号・55号住居跡	139	第176図	溝跡出土遺物	218
第123図	54号住居跡出土遺物	140	第177図	溝跡出土遺物	219
第124図	56号住居跡及び出土遺物	141	第178図	溝跡出土遺物	220
第125図	56号住居跡出土遺物	142	第179図	溝跡出土遺物	221
第126図	57号住居跡及び出土遺物	143	第180図	溝跡出土遺物	222
第127図	58号住居跡及び出土遺物	144	第181図	溝跡出土遺物	223
第128図	59号・60号住居跡	145	第182図	溝跡出土遺物	224
第129図	59号住居跡出土遺物	146	第183図	溝跡出土遺物	225
第130図	60号住居跡出土遺物	146	第184図	溝跡出土遺物	226
第131図	61号住居跡	147	第185図	溝跡出土遺物	227
第132図	61号住居跡出土遺物	148	第186図	溝跡出土遺物	228
第133図	62号住居跡及び出土遺物	149	第187図	溝跡出土遺物	229
第134図	63号住居跡	150	第188図	溝跡出土遺物	230
第135図	63号住居跡出土遺物	151	第189図	溝跡出土遺物	231
第136図	64号住居跡	151	第190図	溝跡出土遺物	232
第137図	64号住居跡出土遺物	152	第191図	溝跡出土遺物	233
第138図	65号住居跡及び出土遺物	152	第192図	溝跡出土遺物	234
第139図	1・3号竪穴遺構及び出土遺物	153	第193図	溝跡出土遺物	235
第140図	4号竪穴遺構出土遺物	154	第194図	溝跡出土遺物	236
第141図	4号竪穴遺構出土遺物	155	第195図	溝跡出土遺物	237
第142図	井戸跡	168	第196図	溝跡出土遺物	238
第143図	井戸跡	169	第197図	溝跡出土遺物	239
第144図	井戸跡	170	第198図	溝跡出土遺物	240
第145図	井戸跡	171	第199図	溝跡出土遺物	241
第146図	井戸跡	172	第200図	溝跡出土遺物	242
第147図	井戸跡	173	第201図	溝跡出土遺物	243
第148図	井戸跡出土遺物	174	第202図	溝跡出土遺物	244
第149図	井戸跡出土遺物	175	第203図	溝跡出土遺物	245
第150図	井戸跡出土遺物	176	第204図	溝跡出土遺物	246
第151図	井戸跡出土遺物	177	第205図	溝跡出土遺物	247
第152図	井戸跡出土遺物	178	第206図	溝跡出土遺物	248
第153図	井戸跡出土遺物	179	第207図	溝跡出土遺物	249
第154図	井戸跡出土遺物	180	第208図	溝跡出土遺物	250
第155図	井戸跡出土遺物	181	第209図	溝跡出土遺物	251
第156図	井戸跡出土遺物	182	第210図	溝跡出土遺物	252
第157図	井戸跡出土遺物	183	第211図	溝跡出土遺物	253
第158図	井戸跡出土遺物	184	第212図	溝跡出土遺物	254
第159図	井戸跡出土遺物	185	第213図	溝跡出土遺物	255

第214図	溝跡出土遺物	256
第215図	溝跡出土遺物	257
第216図	溝跡出土遺物	258
第217図	溝跡出土遺物	259
第218図	溝跡出土遺物	260
第219図	溝跡出土遺物	261
第220図	溝跡出土遺物	262
第221図	溝跡出土遺物	263
第222図	溝跡出土遺物	264
第223図	溝跡出土遺物	265
第224図	溝跡出土遺物	266
第225図	溝跡出土遺物	267
第226図	溝跡出土遺物	268
第227図	溝跡出土遺物	269
第228図	溝跡出土遺物	270
第229図	溝跡出土遺物	271
第230図	溝跡出土遺物	272
第231図	溝跡出土遺物	273
第232図	溝跡出土遺物	274
第233図	溝跡出土遺物	275
第234図	溝跡出土遺物	276
第235図	溝跡出土遺物	277
第236図	溝跡出土遺物	278
第237図	溝跡出土遺物	279
第238図	溝跡出土遺物	280
第239図	溝跡出土遺物	281
第240図	溝跡出土遺物	282
第241図	溝跡出土遺物	283
第242図	溝跡出土遺物	284
第243図	溝跡出土遺物	285
第244図	溝跡出土遺物	286
第245図	溝跡出土遺物	287
第246図	溝跡出土遺物	288
第247図	溝跡出土遺物	289
第248図	溝跡出土遺物	290
第249図	溝跡出土遺物	291
第250図	溝跡等出土石造物・石製品	333
第251図	溝跡等出土石造物・石製品	334
第252図	溝跡等出土石造物・石製品	335
第253図	溝跡等出土石造物・石製品	336
第254図	溝跡等出土石造物・石製品	337
第255図	溝跡等出土石造物・石製品	338
第256図	井戸跡等出土石造物・石製品	339
第257図	井戸跡等出土石造物・石製品	340
第258図	土坑跡	349
第259図	土坑跡	350
第260図	土坑跡	351
第261図	土坑跡	352
第262図	土坑跡	353
第263図	土坑跡	354
第264図	土坑跡	355
第265図	土坑跡	356
第266図	土坑跡出土遺物	357
第267図	土坑跡出土遺物	358

第268図	土坑跡出土遺物	359
第269図	土坑跡出土遺物	360
第270図	土坑跡出土遺物	361
第271図	土坑跡出土遺物	362
第272図	土坑跡出土遺物	363
第273図	土坑跡出土遺物	364
第274図	遺構外出土遺物	371
第275図	遺構外出土遺物	372
第276図	遺構外出土遺物	373
第277図	遺構外出土遺物	374
第278図	遺構外出土遺物	375
第279図	遺構外出土遺物	376
第280図	遺構外出土遺物	377
第281図	遺構外出土遺物	378
第282図	遺構外出土遺物	379
第283図	遺構外出土遺物	380
第284図	遺構外出土遺物	381
第285図	遺構外出土遺物	382
第286図	遺構外出土遺物	383
第287図	遺構外出土遺物	384
第288図	遺構外出土遺物	385
第289図	遺構外出土遺物	386
第290図	遺構外出土遺物	387
第291図	遺構外出土遺物	388
第292図	遺構外出土遺物	389
第293図	遺構外出土遺物	390
第294図	遺構外出土遺物	391
第295図	遺構外出土遺物	392
第296図	出土埴輪	393
第297図	出土埴輪	394
第298図	出土埴輪	395
第299図	出土埴輪	396
第300図	出土埴輪	397
第301図	出土埴輪	398
第302図	出土埴輪	399
第303図	出土埴輪	400
第304図	出土埴輪	401
第305図	出土埴輪	402
第306図	出土埴輪	403
第307図	土師器坏分類例	430
第308図	二次調整が施される資料	432
第309図	一次調整のみの資料(1)	433
第310図	一次調整のみの資料(2)および形象埴輪	434
第311図	宮下西遺跡出土中世瓦復原図	444
第312図	館推定復元図	445
第313図	地形区分図	446

付図 上武国道二之宮宮下西遺跡全体図



## 写真図版目次

口 絵	遺跡周辺航空写真	
写真図版1	遺跡周辺航空写真	
写真図版2	遺跡周辺航空写真	
写真図版3	中世館跡並びに古墳～平安時代集落跡(東より)	
写真図版4	1号住居跡	全景(西より) セクション(西より) 遺物出土状態(西より) カマドセクション(南より) カマド掘り方全景(西より)
写真図版5	4号住居跡	全景(南東より) 遺物出土状態(西より) 全景(南西より)
写真図版6	6号住居跡	全景(北西より) カマド全景(南より) カマド確認状態(南西より) カマド全景(西より) カマド掘り方(西より)
写真図版7	7・8号住居跡	7号住居跡カマド遺物出土状態(西より) 8号住居跡全景(南西より)
写真図版8	9号住居跡	全景(西より) セクション(南より) 遺物出土状態(北より) 遺物出土状態(北より) 全景(東より)
写真図版9	10号住居跡	全景(南より) セクション(東より) 遺物出土状態(南より) カマド全景(南西より) カマド遺物出土状態(南西より)
写真図版10	11号住居跡	全景(西より) セクション(北より) 遺物出土状態(北より) カマド全景(西より) カマドセクション(西より)
写真図版11	12号住居跡	全景(西より) セクション(南より) 遺物出土状態(北より) カマド全景(西より) カマド掘り方セクション(北西より)
写真図版12	13号住居跡	全景(西より) セクション(南より) 遺物出土状態(西より) カマド全景(南西より) カマド掘り方セクション(西より)
写真図版13	13号住居跡	滑石製模造品出土状態 遺物(勾玉)出土状態 遺物出土状態(東より) 遺物出土状態(西より) 掘り方全景(西より)
写真図版14	14号住居跡	全景(西より) セクション(西より) 遺物出土状態(東より) カマドセクション(北東より) カマドセクション(南西より)
写真図版15	15号住居跡	全景(南より) セクション(南東より) 遺物出土状態(南より) カマドセクション(北より) 掘り方全景(西より)
写真図版16	16号住居跡	全景(南西より) セクション(西より) 遺物出土状態(南西より) カマドセクション(南西より) 遺物出土状態(西より)
写真図版17	17号住居跡	全景(西より) セクション(南より)
写真図版18	18号住居跡	全景(南より) セクション(西より) 遺物出土状態(西より) カマド全景(南東より) カマド掘り方セクション(南より)
写真図版19	19号住居跡	全景(南より) 掘り方全景(西より) 遺物出土状態(南より) カマド全景(南より) カマドセクション(東より)
写真図版20	20・28号住居跡	全景(南より) 遺物出土状態(南より) 遺物出土状態(管玉) カマドセクション(北西より) カマド掘り方セクション(南西より)
写真図版21	21号住居跡	全景(西より) 遺物出土状態(西より) 遺物出土状態(西より) 重複関係
写真図版22	23号住居跡	全景(西より) セクション(南より) 遺物出土状態(西より) カマド掘り方セクション(西より) 掘り方全景(西より)
写真図版23	24号住居跡	全景(西より) セクション(西より) 遺物出土状態(西より) カマドセクション(北西より) 掘り方全景(北西より)
写真図版24	25号住居跡	全景(西より) 遺物出土状態(西より) 遺物出土状態(西より) カマドセクション(西より) 全景(西より)
写真図版25	26号住居跡	全景(西より) セクション(西より) 遺物出土状態(西より) 滑石製模造品出土状態 遺物出土状態
写真図版26	27号住居跡	全景(西より) カマドセクション(南より) 遺物出土状態(北より) 掘り方セクション 遺物出土状態
写真図版27	29号住居跡	全景(南西より) セクション(南西より) 遺物出土状態(南西より) カマド遺物出土状態(南東より) 遺物出土状態(南西より)
写真図版28	30号住居跡	全景(西より) セクション(西より)
写真図版29	31号住居跡	全景(西より) セクション(西より) 遺物出土状態(西より) 遺物出土状態 カマド全景(西より)



写真図版30	32号住居跡	全景(南東より) セクション(西より) 遺物出土状態(南より) カマドセクション・遺物出土状態 カマドセクション(南東より)	写真図版48	59号住居跡	遺物出土状態(西より) 遺物出土状態近景 遺物出土状態近景 遺物出土状態近景
写真図版31	33号住居跡	全景(南より) 遺物出土状態(東より)	写真図版49	61号住居跡	遺物出土状態(西より) 遺物出土状態近景 遺物出土状態近景 遺物出土状態近景
写真図版32	34号住居跡	全景(西より) セクション(西より) セクション(南より) 遺物出土状態(北より) カマドセクション(南より)	写真図版50	60・62号住居跡	60号住居跡全景(西より) 62号住居跡全景(東より)
写真図版33	35号住居跡	全景(西より) 遺物出土状態(西より)	写真図版51	63号住居跡	全景(北より) 63・49・61号住居跡周辺全景(北より)
写真図版34	36号住居跡	全景(西より) セクション(東より) 遺物出土状態(西より) カマド遺物出土状態(西より) カマドセクション(北より)	写真図版52	64号住居跡	全景(西より) セクション(南より) カマド全景(西より) カマドセクション(南より)
写真図版35	36・37号住居跡	37号住居跡全景(西より) 36号住居跡遺物出土状態	写真図版53	1・2・3・4号井戸	
写真図版36	38号住居跡	全景(南より) セクション(南より) 遺物出土状態(東より) カマドセクション(東より)	写真図版54	5・6・7・8・9・10号井戸	
写真図版37	39号住居跡	全景(南より) 遺物出土状態(南より) カマドセクション(南より) カマド煙道確認状態(北より) カマドセクション(東より)	写真図版55	11・12・14・15・16号井戸	
写真図版38	40号住居跡	遺物出土状態(北より) セクション(西より) 遺物出土状態(西より)	写真図版56	17・18・19・20・21号井戸	
写真図版39	41号住居跡	遺物出土状態(西より) セクション(南より) カマドセクション(北より) カマド全景(西より)	写真図版57	21・22・23・24・25・26・27号井戸	
写真図版40	43号住居跡	遺物出土状態(西より) セクション(東より) 全景(西より) カマド全景(西より) カマド遺物出土状態(南より)	写真図版58	27・29・30・31・32・33・34号井戸	
写真図版41	42・44号住居跡	42号住居跡全景(北より) 44号住居跡全景(西より)	写真図版59	35・36・37・38・39・40・41・42号井戸	
写真図版42	45・47・48号住居跡	45号住居跡遺物出土状態(西より) 47・48号住居跡遺物出土状態(北より)	写真図版60	43・44・45・46・47号井戸	
写真図版43	49号住居跡	遺物出土状態(西より) セクション(西より) ピット遺物出土状態 カマド全景(西より) カマド掘り方セクション(西より)	写真図版61	47・48・49・50・51・52号井戸	
写真図版44	50・51号住居跡	50・51号住居跡全景(西より) 50・51号住居跡セクション(南より) 50・51号住居跡セクション(南より) 50・51号住居跡遺物出土状態(東より)	写真図版62	53・55・56・57・58・59・60・61号井戸	
写真図版45	52号住居跡	全景(西より) 遺物出土状態(西より) 貯蔵穴セクション カマドセクション(南より)	写真図版63	溝遠景	遺跡東端部遠景(西より) 遺跡中央～西端部遠景(北東より)
写真図版46	53・54・55号住居跡	53号住居跡全景(西より) 54・55号住居跡遺物出土状態(北より)	写真図版64	1号溝	東端部土橋東側全景(西より) 中央部セクション(西より) 東端部セクション(北より) 中央部遺物出土状態 中央部全景(西より)
写真図版47	56・58号住居跡	56号住居跡全景(西より) 58号住居跡遺物出土状態(東より)	写真図版65	3号溝	東側部全景(西より) 全景(東より) 全景(西より)
			写真図版66	3号溝	西端部セクション(東より) 4号溝合流部セクション(南より) 遺物出土状態(東より) 底面板碑出土状態 溝内敷石(五輪塔)跡 溝内敷石(五輪塔)跡 木橋柱穴跡 木橋柱穴跡
			写真図版67	4・5号溝	4・5号溝全景(南より) 4・5号溝全景(北より) 4号溝南端部セクション(北より) 4号溝遺物出土状態(南より) 4号溝南端部セクション(北より)
			写真図版68	5号溝	全景(北より) 仕切り部北側セクション(南より) 南端部セクション(北より) 南端部セクション(北より) セクション(北より)
			写真図版69	5号溝	遺物出土状態近景 遺物出土状態近景 仕切り部(北より) 遺物出土状態(北より) 仕切り部近景 4・5号溝全景(北より) 仕切り部(南より)

写真図版70	6号溝	全景(北より) 遺物出土状態(北より) セクション(北より) 仕切り部近景 遺物出土状態近景 遺物出土状態近景	写真図版104	27・28・29号住居跡出土遺物
写真図版71	7号溝	全景(東より) 3・7号溝全景(西より) セクション 全景(西より)	写真図版105	29・30・31・32号住居跡出土遺物
写真図版72	8・9号溝	8号溝遺物出土状態(南より) 9号溝全景(南より) 9号溝遺物出土状態 9号溝仕切り部(南より) 9号溝遺物出土状態(南より)	写真図版106	32・33・34・35・36号住居跡出土遺物
写真図版73	10号溝	全景(東より) 西端部遺物出土状態(東より) 遺物出土状態近景 遺物出土状態近景	写真図版107	36・37・38号住居跡出土遺物
写真図版74	11号溝	遺物出土状態(東より) 全景(東より) セクション 遺物出土状態近景 遺物出土状態近景 遺物出土状態近景	写真図版108	38・39・40・41・42号住居跡出土遺物
写真図版75	13号溝	全景(西より) 西端部セクション(南より) 遺物出土状態近景 遺物出土状態近景 遺物出土状態近景	写真図版109	43・44号住居跡出土遺物
写真図版76	旧石器土坑	旧石器2号土坑 旧石器1号土坑 旧石器2号土坑セクション 旧石器2号土坑確認状態 旧石器試掘トレンチ設定状況遠景	写真図版110	45・46・48号住居跡出土遺物
写真図版77	1・2・3・4・5号土坑		写真図版111	48・49号住居跡出土遺物
写真図版78	5・6・7・8・9・17号土坑		写真図版112	50・51・52・53・54・56号住居跡出土遺物
写真図版79	18・20・21・22・23・24・25号土坑		写真図版113	56・58・59・60・61号住居跡出土遺物
写真図版80	25・26・27・28・29・34号土坑		写真図版114	62・63・64・65号住居跡、3・4号竪穴遺構出土遺物
写真図版81	35・36・38・39号土坑		写真図版115	1・3号溝出土遺物
写真図版82	40・41・42・45・46・48・58号土坑		写真図版116	3号溝出土遺物
写真図版83	61・62・63・72号土坑		写真図版117	3号溝出土遺物
写真図版84	76・77・78・79・80・81号土坑		写真図版118	3号溝出土遺物
写真図版85	81・82・83・84・85・86号土坑		写真図版119	3号溝出土遺物
写真図版86	87・88・89・90・91・92・93・94号土坑		写真図版120	4号溝出土遺物
写真図版87	94・95・96・97・98・99・100・101・102・103号土坑		写真図版121	5・6号溝出土遺物
写真図版88	104・105・107・109・110・111・112・113号土坑		写真図版122	6・7・8号溝出土遺物
写真図版89	縄文時代出土遺物		写真図版123	9・10号溝出土遺物
写真図版90	1・4・6号住居跡出土遺物		写真図版124	10号溝出土遺物
写真図版91	7・8・9号住居跡出土遺物		写真図版125	10号溝出土遺物
写真図版92	10号住居跡出土遺物		写真図版126	10号溝出土遺物
写真図版93	11・12・13号住居跡出土遺物		写真図版127	11号溝出土遺物
写真図版94	13号住居跡出土遺物		写真図版128	11・12・13号溝出土遺物
写真図版95	13号住居跡出土遺物		写真図版129	13号溝出土遺物
写真図版96	14号住居跡出土遺物		写真図版130	13号溝出土遺物
写真図版97	15・16・17号住居跡出土遺物		写真図版131	13号溝出土遺物
写真図版98	17・18号住居跡出土遺物		写真図版132	13号溝出土遺物
写真図版99	19・20・21号住居跡出土遺物		写真図版133	13・14・15号溝出土遺物
写真図版100	23・24号住居跡出土遺物		写真図版134	2・3・4・5・6・7号井戸出土遺物
写真図版101	24・25号住居跡出土遺物		写真図版135	8・9・10・11・14号井戸出土遺物
写真図版102	25・26号住居跡出土遺物		写真図版136	17・19・21号井戸出土遺物
写真図版103	26・27号住居跡出土遺物		写真図版137	21・22・23・24・30・32・36・37・38・41・42号井戸出土遺物
			写真図版138	42・44・45・46・47号井戸出土遺物
			写真図版139	50・51・52・53・55号井戸出土遺物
			写真図版140	56・60号井戸出土遺物、1・3号溝出土石造物
			写真図版141	3・4・5・6・9・10号溝出土石造物
			写真図版142	10号溝出土石造物
			写真図版143	10・11・13号溝出土石造物
			写真図版144	13号溝・4・7号井戸出土石造物
			写真図版145	8・17・19・22・42・47号井戸、遺構外出土石造物
			写真図版146	1・2・4・5・7・14・15・17・18号土坑出土遺物
			写真図版147	18・26・27・29・35・36号土坑出土遺物
			写真図版148	46・58・64・76・77・79・85・88・98・100・104・106・116号土坑出土遺物
			写真図版149	遺構外出土遺物
			写真図版150	遺構外出土遺物
			写真図版151	遺構外出土遺物
			写真図版152	遺構外出土遺物
			写真図版153	遺構外出土遺物
			写真図版154	遺構外出土遺物
			写真図版155	遺構外出土遺物
			写真図版156	遺構外出土遺物
			写真図版157	遺構外出土遺物
			写真図版158	遺構外出土遺物



# 第1章 発掘調査に至る経緯

## 第1節 調査に至る経過

### 第1項 調査に至る経過

建設省は、昭和46年一般国道17号線の交通緩和のため、上武道路（国道17号線バイパス）の建設計画を発表した。計画路線は、埼玉県熊谷市で国道17号線と分岐し、利根川を渡り、群馬県に入る。県内では、新田郡尾島町・新田町、佐波郡境町・東村・赤堀町、伊勢崎市、前橋市、勢多郡富士見村を経て、前橋市田口町で再び国道17号線に接続される全長40.5kmの道路である。この計画に伴い、上武道路が開通する地域の文化財保護と開発諸事業との調整をはかる資料作成が実施された。調査の結果、総数472件の埋蔵文化財対象地域が明らかになり、最終的に発掘調査を要する対象地は57ヶ所となった。昭和46年11月に正式路線を発表され、昭和47年度尾島町から前橋市について協議が行われ、昭和48年4月1日付けで「一般国道17号線（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が締結された。これに基づき、昭和49年度から1班体制で県教育委員会により発掘調査は開始された。

昭和53年に、県教育委員会は増大する埋蔵文化財発掘調査に対し、調査・研究および資料の保存・活用を目的として、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を設置した。上武道路に伴う調査も、県教育委員会から本事業団が継続する事となった。調査は、工事の進捗に対応するよう昭和59年度から3班、昭和60年度から4班体制を取り、昭和63年度には国道50号線までの調査を終了した。

調査終了に伴って、工事は着工され、平成元年に国道50号線から埼玉県までが開通した。

二之宮宮下西遺跡は、昭和60年度試掘調査を実施し、古墳時代から平安時代にかけての集落跡・水田跡、中世の溝・土坑など多岐にわたる遺跡が存在することが判明した。この結果をうけて、昭和61年7

月より昭和62年3月にかけて本調査を行い、中世館跡を中心に各時代の遺構が検出した。本遺跡名は、調査区内の町名「二之宮」に字名「宮下」を付して命名されるが、字名が広域にわたることと、遺跡の性格から東西に分け本調査地を「二之宮宮下西」とした。調査範囲は、12,000㎡である。調査に際しては、二之宮赤城神社の南に近接する遺跡であることなど、中世関連の遺跡に大きな期待が持たれた地域でもある。なお、調査にあたっては、表土掘削における土砂除去は適宜重機を用いた。井戸の調査は掘削委託により行った。この地は、水田及び桑畑に利用されていたが、上武道路建設用地となって以降は未耕地であった。ただし、上武道路が東西に横切ることから、現農道が数本存在し、調査中においても生活道として常に確保しておく必要があった。調査区内にある農道については、調査区内に付け替え道を作り極力調査を行ったが、路線を横断する市道については付け替えが困難の状態であったため未調査となってしまった。また、中世館跡を区画する溝に対し、地下レーダー探査を実施し、おおよその範囲確認を行った。また、昭和61年12月には、中世館跡を中心に現地説明会を実施し多くの人々の参加を得た。

### 第2項 試掘調査

昭和60年度試掘調査を行った。試掘調査の結果、古墳時代から平安時代にかけての集落跡・水田跡、中世の溝・土坑などの遺構量の多いことが予想される遺跡であることがわかった。

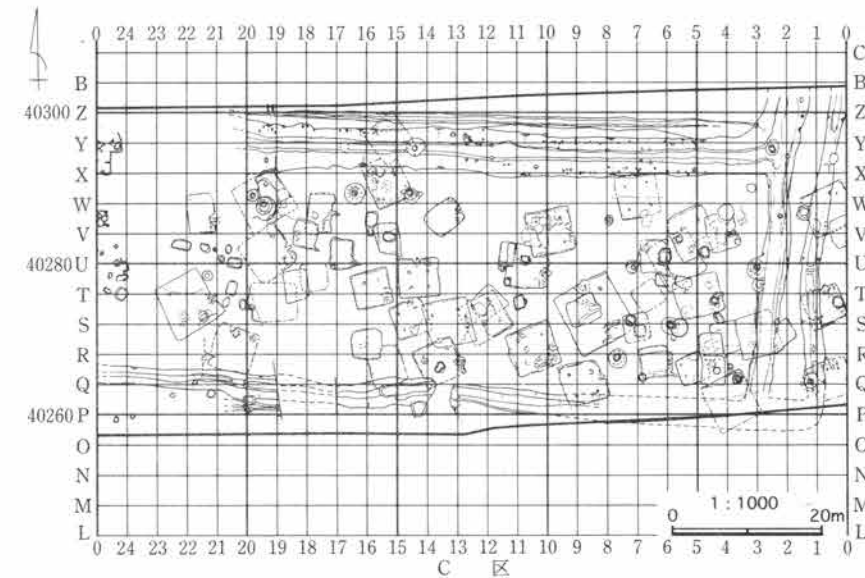
## 第2節 調査の方法

### 第1項 グリッド設定

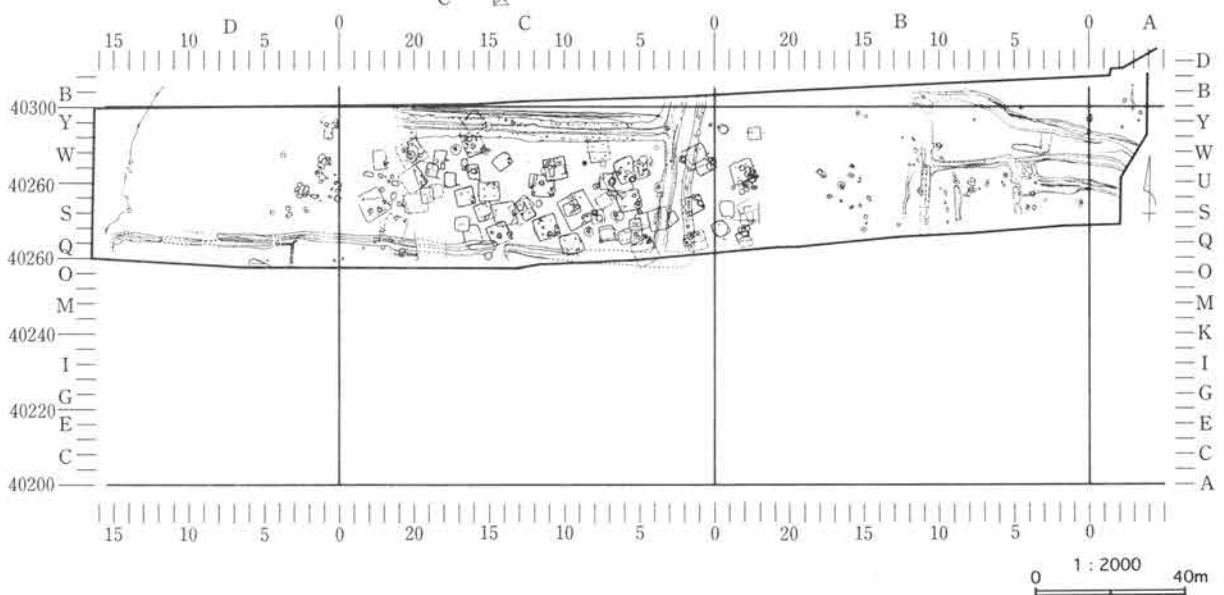
調査に際しては、調査区の設定は国家座標を基準に実施している。グリッドは4×4mを1単位とし、東西に1・2・3…25、南北にA・B・C…Zを付けを行った。大区画の設定は、調査時は生活道である農道により設定したが、本報告書では国家座標から100mを大区画として東からA区・B区・C区・D区に分割している。グリッドの呼称は、南東隅を基点

とし、A-1A・B-1Aなどと、大グリッド—東西ライン・南北ラインで示している。

遺構図面は、1/20を基本に平板測量を中心に、遺構により1/40の平板測量や1/10のやり方測量を加え作成した。遺構写真は、現場担当者が6×9版モノクロを中心に、35mmモノクロ、同リバーサルの3種類を用いて行った。また、遺構の全景撮影に際しては、ローリングタワーからの撮影のほか、高所作業車からの撮影・バルーンによる撮影や試行中のモニタリング撮影機を使用し行った。



第1図 C区グリッド設定図



第2図 グリッド設定図

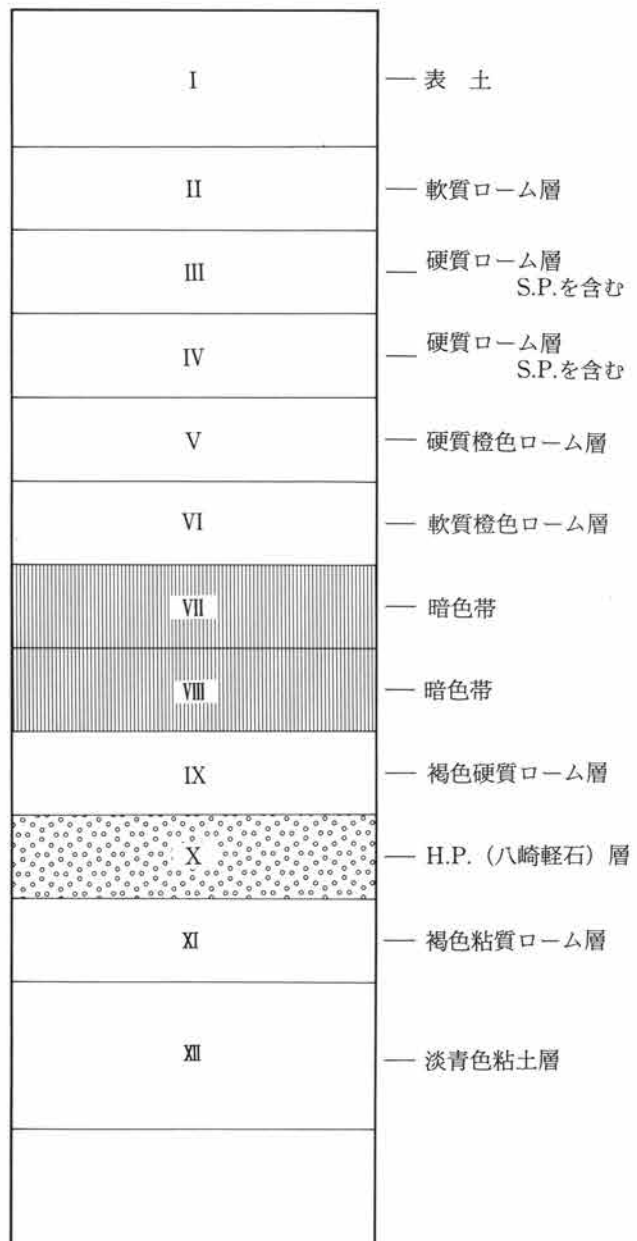


第2項 基本土層

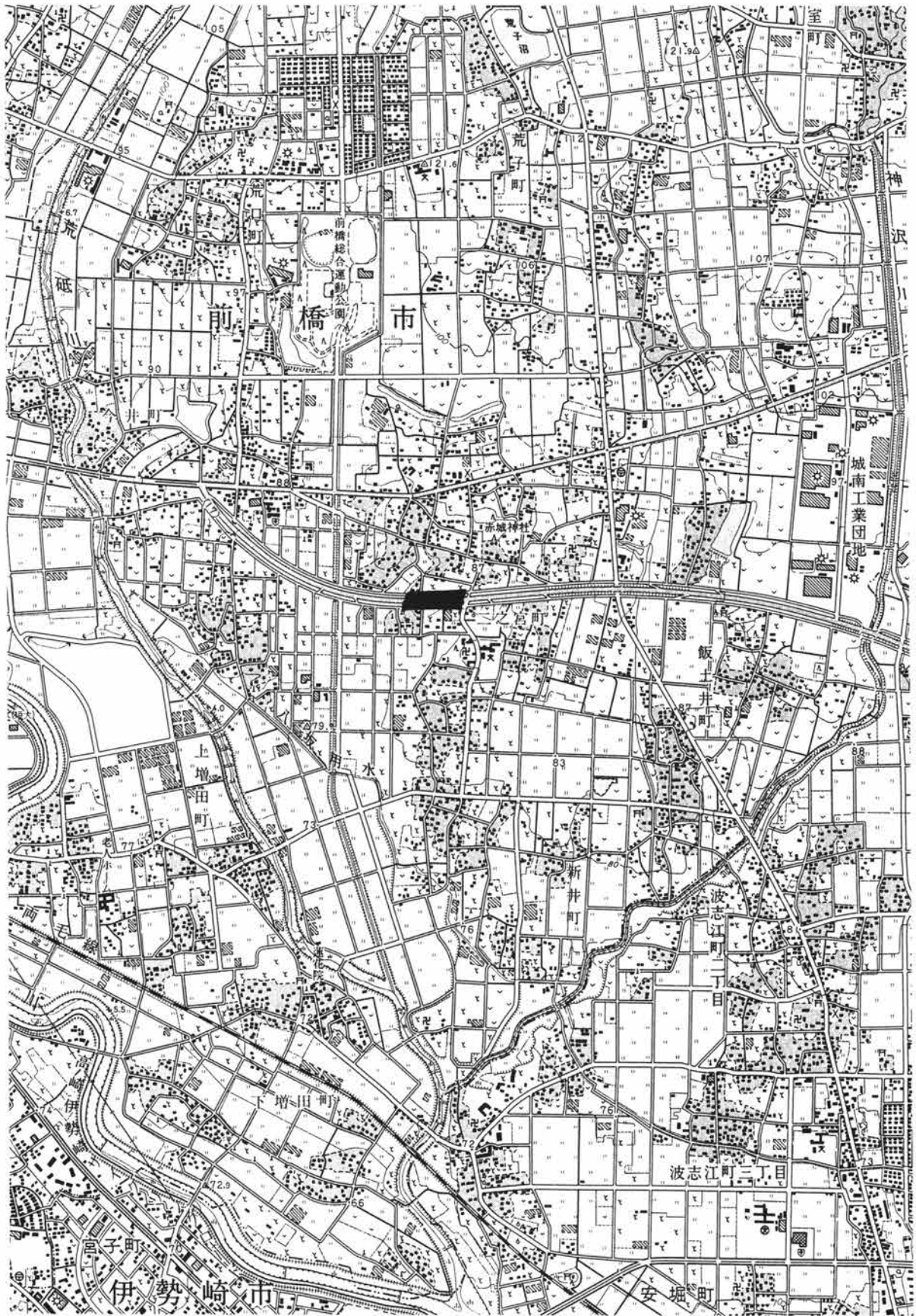
上武道路は、沖積地と丘陵性の台地が交互に入り込む山麓末端を東西に分断して走る。周辺地域には河川氾濫に起因する沖積地の台地化や、同様な河川氾濫で台地全体が覆われ、見た目には平坦な台地が存在するなど、複雑な地形観を呈している。

本遺跡内においても、東側は湧水地による沖積地で中央部は台地、西側は小谷地形を呈している。ここで一区の地層で証明する。

- 第I層 表土。遺跡西側は、削平が激しく、層まで客土が存在する。
- 第II層 軟質ローム。いわゆる「ソフトローム」で、風化・土壌化により相違を基準に細分した。II a層は土壌化によるものである。
- 第III層 硬質ローム。白色パミス (As-SP) が混入する。第IV層と区別する基準は色調の相違で、III層はIV層に比べやや明るい色調を呈する。これより以下、硬質ロームである。
- 第IV層 硬質ローム。As-BP をブロック状に混入する。全体に砂質で、黒色の鉱物を多く含んでいる。
- 第V層 硬質橙色ローム。硬質で台地の平坦部に安定して堆積しており、台地の縁辺部ではその堆積が不明瞭である。
- 第VI層 軟質橙色ローム。V層とVII層の漸移層で、全体に白色が強い。
- 第VII層 茶褐色粘質ローム。いわゆる「暗色帯」である。VIII層とは色調の相違で、VII層はVIII層に比べやや暗色を呈する。
- 第VIII層 茶褐色粘質ローム。「暗色帯」に相当する。
- 第IX層 褐色硬質ローム。粘性が強く、黒色鉱物を多く含む。
- 第X層 八崎軽石層。(HP)
- 第XI層 褐色粘質ローム
- 第XII層 淡青色粘土



第3図 基本土層柱状図



第4図 遺跡位置図(国土地理院25000分の1 地形図「大胡」を使用)

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 地理的環境

二之宮宮下西遺跡は、前橋市二之宮町字宮下と字五分一に所在する。二之宮町は、市の東部に位置し、西に荒砥川が南流し、佐波新田用水・宮川が南部の水田を灌漑している。北中央部を国道50号線が横断する。本遺跡北300m程には上野国二之宮である二之宮赤城神社が鎮座する。

本遺跡は、群馬県の県央東部に位置する赤城山南麓端部に立地している。赤城山（最高峰黒檜山1828m）は、第三紀世の複合成層火山である。南麓は浅い輻射谷と緩やかな原形面からなる広大な裾野地形となっている。標高500m前後に山地帯から丘陵性の台地への地形変換点がみられ、200m以下の地域は比高差の少ない低台地となっている。また、その末端は旧利根川の浸食による崖線で区切られその氾濫原である沖積地に接している。

本地域は、赤城山南麓の端部にあたり、山麓を流下する荒砥川・神沢川・桂川などの河川や台地端部からの湧水により樹枝状の開析がすすみ、台地と沖積地が複雑に入り込む地形が形成されている。

基盤層は、赤城山起源の泥流層である。地表面はローム層を原形面とする台地と、ロームの二次堆積である砂壤土性微高地と、沖積地とに分類される。ローム台地は下部ロームをこせる古いもので板鼻黄色軽石層（Y P）・板鼻褐色軽石層（B P）・八崎軽石層（H P）などのテフラが堆積している。微高地は、赤城山の山体が降雨災害などによって崩壊した土砂が河川沿いに流出し、流速の衰える山麓末端に再堆積したもので、ローム台地に接している。また、沖積地は山体に浸透した伏流水が湧出する湧水地を伴う小支谷とも数多く見られる。これらの要素が本地域の地形をさらに複雑なものとしており、またこの地域の特性を生む要因ともなっている。低台地の末端は旧利根川の崖線によって、北西から南東方向に区切られるが、本地区では比高差はほとんど見ら

れない。

本遺跡の西側を流れる宮川は、旧利根川の第三次支流で、荒砥川に合流した後に旧利根川筋の桃ノ木川から現利根川へ流下している。全長約5kmの小河川で、河川に伴う沖積面は上流域では2～4mと狭いが、中流域では小支谷を合わせて幅300m程の広い沖積面を伴っている。下流域では再び幅が減少し、東側から流下する無名の小河川とその間の支谷を合わせて旧利根川の崖線ラインを越えて、旧利根川低地帯を流下し荒砥川を合流する。

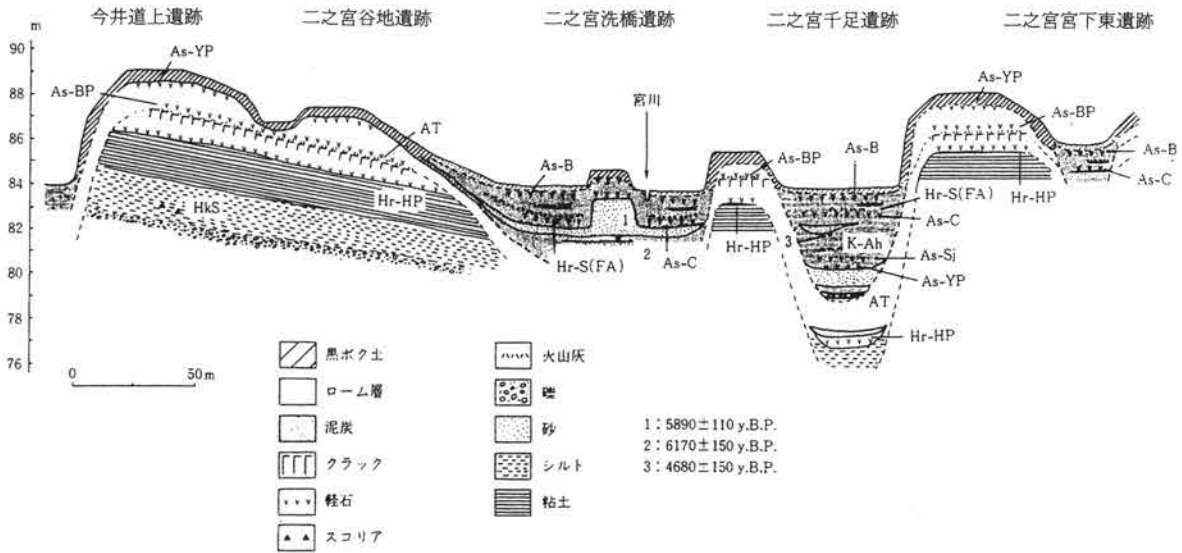
本遺跡内においては、東側は二之宮宮下東遺跡に接する沖積地で小河川による谷地形を呈する。浅間B軽石層が部分的に確認され、当初水田もしくは溜井の存在が予想されたが、それらの遺構は確認されなかった。中央部はローム台地で、古代の集落が密集して検出され、さらに中世館跡南辺を確認した。なお、ローム台地西側は圃場整備などで削平され、層が露呈していた。西側は二之宮千足遺跡に接する沖積地で、奥行き500m程の小谷地形を呈し、5面の水田跡が検出された。

第5図は、上武道路関連の発掘調査結果をもとに作成された本地域の主要地質断面図である。ローム台地は榛名八崎軽石層（Hr-HP）以上をのせた洪積台地で緩やかな東側斜面に比べて西側斜面は急な傾斜面となっている。特に、河川を伴う沖積地ではこの傾斜が顕著である。宮川が形成した沖積地には砂壤土の堆積が認められ、浸食をのがれた中央部が微高地となっている。この微高地に立地する二之宮洗橋の調査では、砂壤土上から縄文時代後期前半の土器が出土し、砂壤土下から縄文時代の石器が数点出土している。この調査結果を補足するため、砂壤土下の黒色土で14C年代測定を実施し、測定結果を得ている。このような砂壤土の堆積は飯土井二本松遺跡でも認められ、ほぼ同様の結果が得られている。このことからこの地域では縄文時代早期末葉から中期後半のある一時期、あるいは数時期にわたって大

第2章 遺跡の環境

規模な山体崩壊があり、宮川遺跡や荒砥島原遺跡をのせる微高地も、この時に形成された可能性が高いと思われる。なお、この沖積地では泥土化した浅間C軽石(As-C)と同B軽石(As-B)純層の堆積が認められている。

本遺跡は、宮川による沖積地と小谷地に挟まれたローム台地上に立地する。



第5図 上武道路沿いの地質断面図(群馬県史通史編より転載)

## 第2節 歴史的環境

旧石器時代の遺跡は、二之宮千足遺跡でSP下・AT下より検出されたほか、二之宮谷地遺跡でもAT下より検出されている。

縄文時代の遺跡は、本地域北側の台地を中心に多くの遺跡が確認されている。本地域においては草創期後半から後期のものが認められるが、大半はごく少量の散布が見られたにすぎない。草創期後半の土器は荒砥天之宮遺跡・二之宮千足遺跡で検出されている。早期は、草創期と同様の遺跡分布傾向を持ち、二之宮千足遺跡では遺構が確認されている。前期になると、先の遺跡の他に二之宮谷地遺跡・二之宮宮下東遺跡で遺物の分布が認められた。特に千足遺跡では末期の遺構が確認されている。中期においては、本地域北側で中小規模の集落が確認されている。後期では遺跡の数が減少し、荒砥島原遺跡や二之宮洗橋遺跡で確認されたにすぎない。

弥生時代の遺跡は、水田耕作に適した沖積地を臨む台地縁辺や微高地に立地しており、中期後半から後期の小規模集落が、荒砥島原遺跡で検出されている。

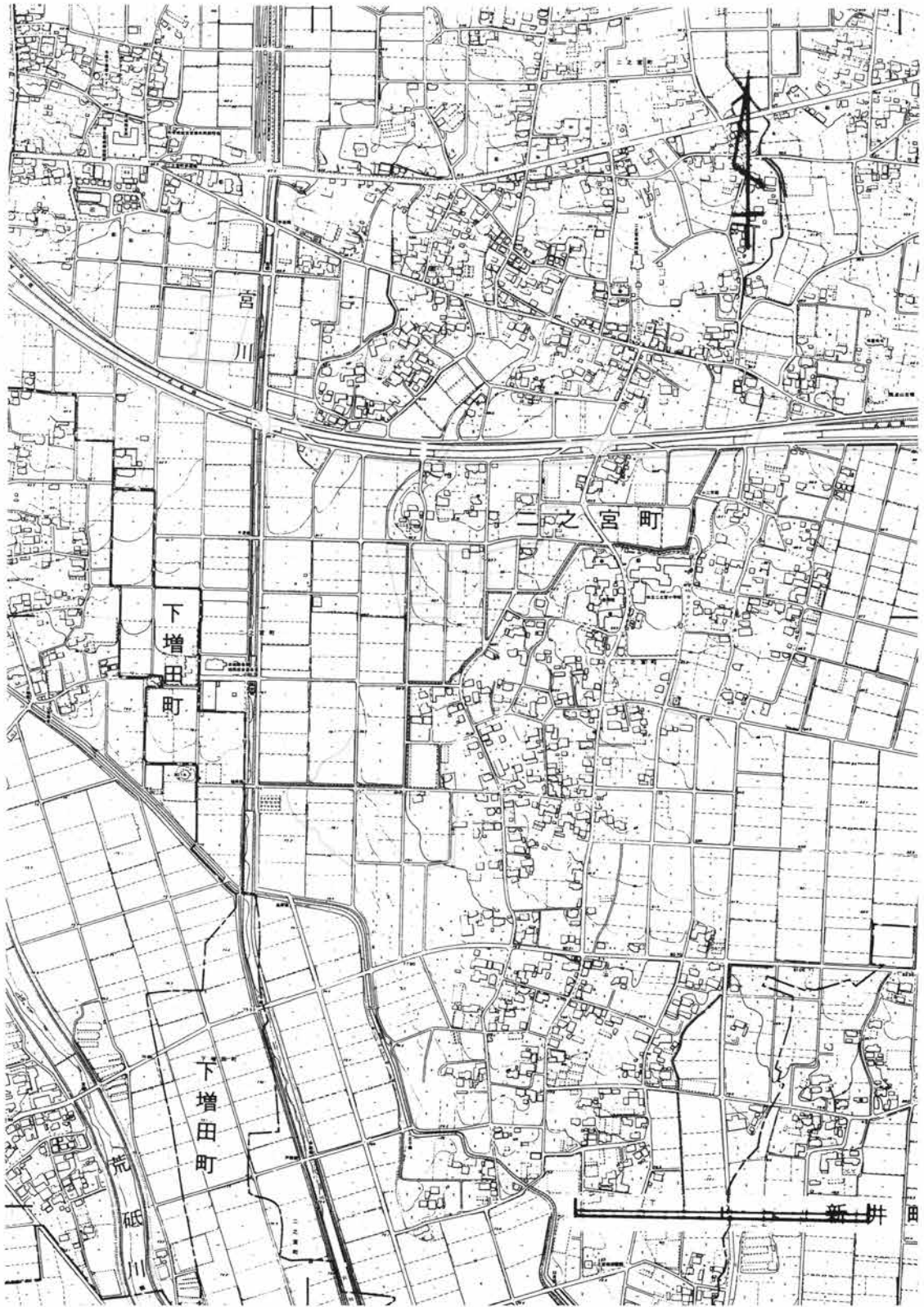
古墳時代にはいと、水田耕作が本格化し、それに伴って集落も急増し始める。前期の集落は、弥生時代同様の立地を示すが、居住域の規模が拡大されるとともに、方形周溝墓による墓域を形成する集落も多くなる。この時期の集落としては、荒砥島原遺跡・宮川遺跡・宮原遺跡などがあり、島原遺跡では方形周溝墓が検出されている。また、宮田遺跡では畠も検出されており、水田耕作と並行して畠作が行われていたことが明らかになっている。後期になると、水田耕地はさらに拡大され、集落も安定し拡大される。本遺跡北東方約5.5kmにある西大室町周辺を中心に、6世紀代の前方後円墳が構築されており、この地区が当時の中心地的様相を呈するようになる。また、本遺跡の西約1.3kmに位置する今井神社古墳は5世紀後半の一時期に小地域圏の統括者として君臨した者の墓と考えられる。これらの大型古墳構

築の経済的背景には、水田農耕地の拡大が存在すると思われるが、それは弥生時代から古墳時代前半にみられる自然条件に恵まれた水田適地の選択に加えて、荒砥天之宮遺跡などで検出された、湧水を積極的に利用した溜井に見られるような、新しい灌溉技術の導入及び小河川からの用水の確保などによって、水田農耕地の拡大が可能になったことが明らかになっている。6世紀後半から7世紀代になると、墓域は小円墳による群集化が進み、各地に数十基からなる群集墳を形成するとともに、1～3基程度の散在する小円墳も出現する。このことは、支配階層の多層化と系列化が進んだことを意味しており、散在する古墳は、新たに成立した集落である荒砥天之宮遺跡・宮西遺跡・荒砥洗橋遺跡などの立地と符合している。

奈良・平安時代に入ると、低台地周辺の沖積地の水田開発はほぼ完了し、新たに丘陵性台地地帯に散在する谷地状の冷水地域や劣悪な黒泥土地域にまで耕地を拡大させている。水田は低台地にまで拡大され、居住域は台地奥部にまで拡大するとともに、さらに集落が開発されていく。そして、平安時代末期から従来の集落を中心に荘園が成立し、中世に入っていく。その端境期にあたる1108年に浅間山が大噴火を起こし、これに伴う降灰により、本地域の水田地帯はほとんど壊滅してしまう。この浅間B軽石により埋没した水田は、荒砥島原遺跡・宮川遺跡・荒砥天之宮遺跡・宮田遺跡などの遺跡で検出されている。また、二之宮洗橋遺跡で旧河川の埋没土中から芳賀郷を示すと思われる「芳郷」の墨書土器が出土している。

中世になると、本地域の中心は二之宮赤城神社周辺に移る。上野二宮である赤城神社の里宮が鎮座しており、同社の社域は方約220mで外側に土塁および濠があり、中世城館跡をしのぼせるものである。社殿の東に鎌倉期と思われる塔跡があり、西には南北朝期と推定される多宝塔もある。



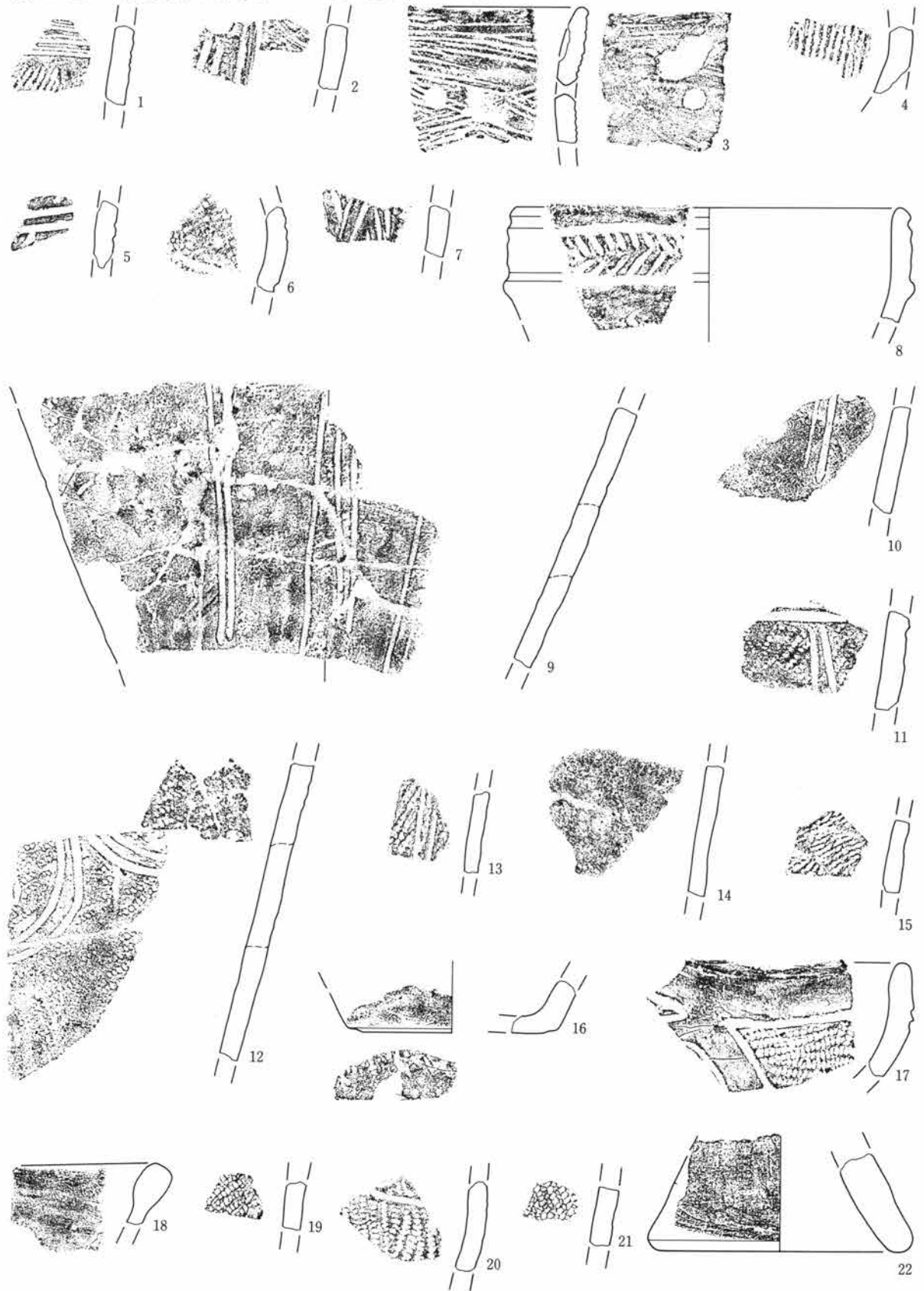


第6図 周辺の遺跡分布図



第2節 縄文時代

包含層出土の土器

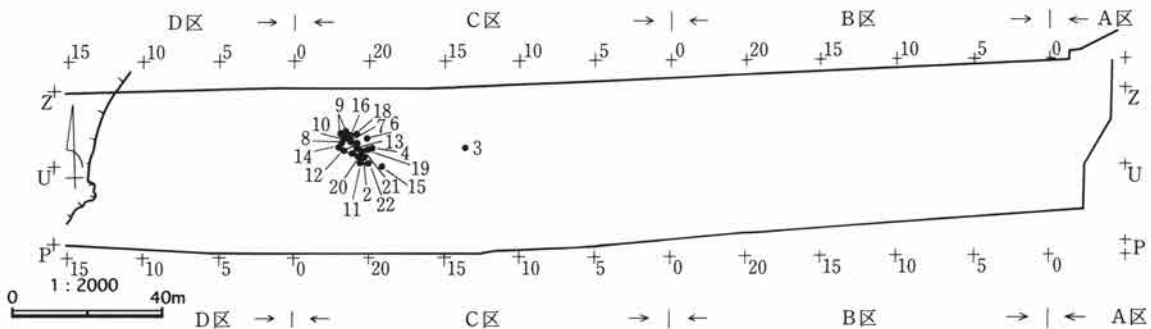


第8図 縄文時代の出土遺物（土器）

0 1:3 10cm



図版番号	型 式 名	出 土 位 置	量	目	胎土・焼成・色調	器形・文様・施文
8 図-1	諸磯 a 式	Ⅲ区南中1トレ	厚さ(1.1cm)		良好・砂粒多・浅黄橙	深鉢。平行沈線・縄文
1638	前期					
8 図-2	諸磯 a 式	1 住	厚さ(1.0cm)		良好・砂粒少・灰黄	深鉢。凹線・縄文 R L。
1624	前期					
8 図-3	諸磯 b 式	16 住	厚さ(1.1cm)		良好・砂粒多・にぶい橙	深鉢。集合沈線。 補修孔あり。
1625	前期					
8 図-4	加曾利 E 1~2 式	1 住	厚さ(1.2cm)		良好・砂粒多・にぶい橙	深鉢。燃糸文 R。
1632	中期					
8 図-5	不明	グリッド	厚さ(1.1cm)		良好・砂粒多・灰黄橙	不明。沈線。
1633						
8 図-6	加曾利 E 3 式	1 住	厚さ(1.1cm)		良好・砂粒多・浅黄橙	深鉢。沈線・縄文 直前段反撚り L L。
1634	中期					
8 図-7	堀之内 1 式	1 住	厚さ(1.0cm)		良好・砂粒少・にぶい橙	深鉢。沈線。
1631	後期					
8 図-8	加曾利 E 3 式	1 住	厚さ(1.3cm)口径(20.2cm)		良好・砂粒多・にぶい橙	深鉢。隆帯・沈線・縄文
1627	中期					
8 図-9	堀之内 1 式	1 住	厚さ(1.2cm)		良好・砂粒少・にぶい黄橙	深鉢。沈線。
1620	後期					
8 図-10	堀之内 1 式	1 住	厚さ(1.0cm)		良好・砂粒少・灰黄	深鉢。沈線。
1623	後期					
8 図-11	堀之内 1 式	1 住	厚さ(1.1cm)		良好・砂粒少・灰黄	深鉢。沈線・縄文 R L。
1622	後期					
8 図-12	堀之内 1 式	1 住	厚さ(1.1cm)		良好・砂粒多・淡黄	深鉢。沈線・縄文 R L。
1621	後期					
8 図-13	堀之内 1 式	1 住	厚さ(0.8cm)		良好・砂粒少・にぶい黄橙	深鉢。沈線・縄文 R L。
1642	後期					
8 図-14	堀之内 1 式	1 住	厚さ(0.9cm)		良好・砂粒少・淡黄	深鉢。無文
1643	後期					
8 図-15	不明	Ⅲ区10土坑	厚さ(0.9cm)		良好・砂粒少・にぶい橙	深鉢。縄文 L。
1639	中期?					
8 図-16	堀之内式	1 住	厚さ(1.3cm)底径(10.9cm)		良好・砂粒多・灰黄	深鉢。底部に網代痕。
1644	後期					
8 図-17	加曾利 E 式系	Ⅲ区北2トレンチ	厚さ(1.2cm)		良好・砂粒多・褐灰	深鉢。沈線・縄文 L R。
1628	後期					
8 図-18	加曾利 E 2~3 式	1 住	厚さ(1.6cm)		良好・砂粒多・にぶい橙	浅鉢。無文。 赤色塗彩。
1626	中期					
8 図-19	加曾利 E 式	1 住	厚さ(0.9cm)		良好・砂粒多・にぶい橙	深鉢。縄文 R L。
1637	中期					
8 図-20	加曾利 E 3 式	1 住	厚さ(0.9cm)		良好・砂粒多・にぶい橙	深鉢。沈線・縄文 R L。
1636	中期					
8 図-21	加曾利 E 式	1 住	厚さ(1.0cm)		良好・砂粒少・橙	深鉢。縄文 R L。
1635	中期					
8 図-22	加曾利 E 3 式	1 住	厚さ(2.0cm)底径(15.7cm)		良好・砂粒少・にぶい黄橙	器台形土器。無文。
1629	中期					



第9図 縄文土器出土分布図

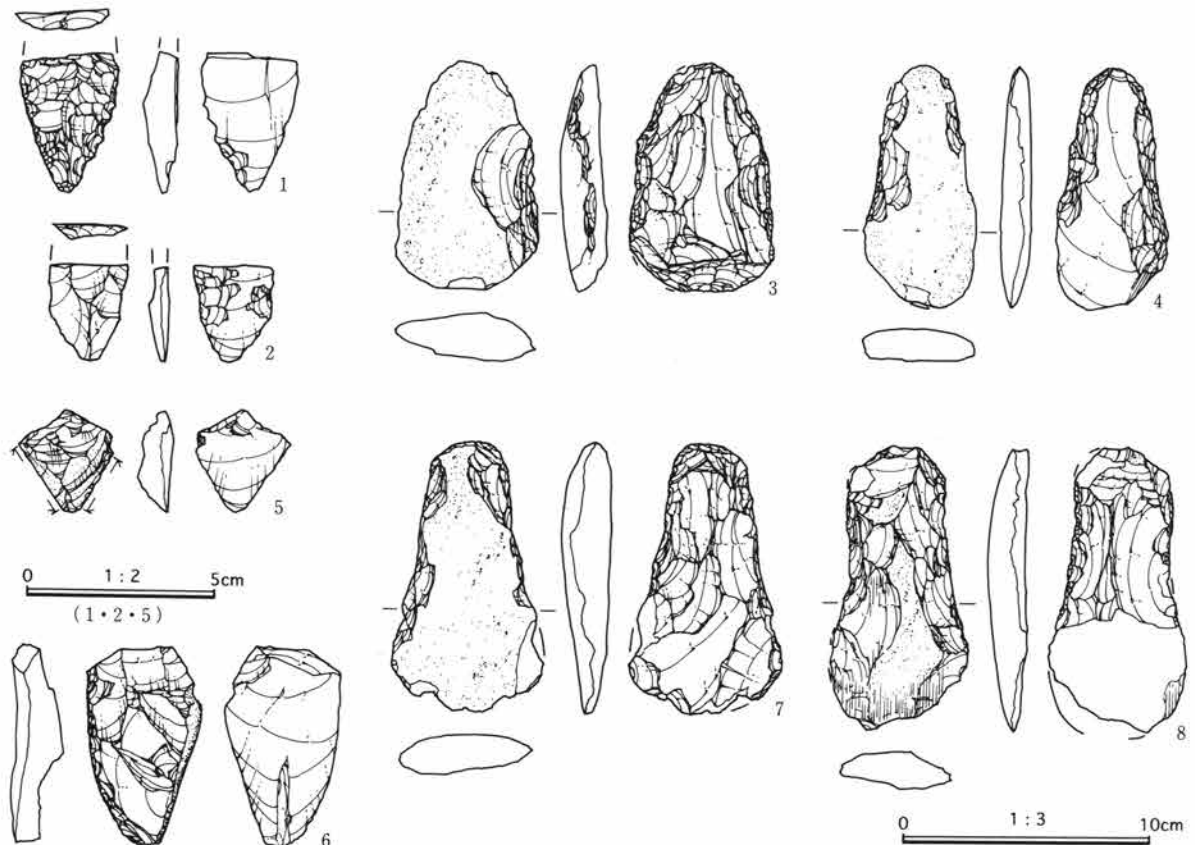
包含層出土の石器

遺跡は台地中央より西側の部分を大きく削平され包含層を全て欠く一方、東側の部分は住居その他の遺構が密集しており、全般的に包含層の残り具合は良好ではない。出土資料は住居や溝の埋土の出土例が多く、遺構の密集する台地の東側部分に多く出土している。

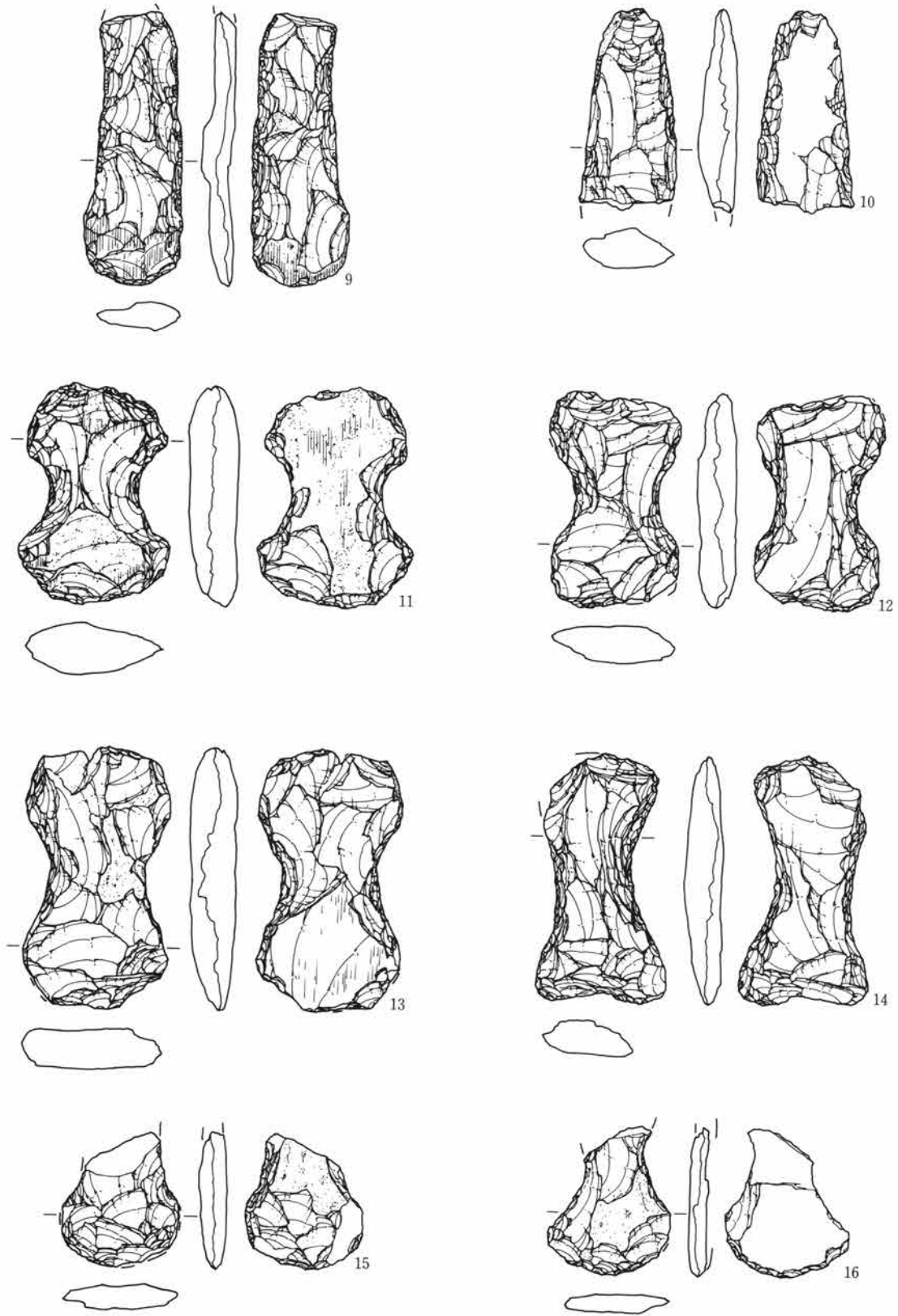
出土資料には前期や後期に多い打製石斧の他にも、形状や加工状態から旧石器の可能性も否定できない資料(第10図1・2)や撚糸文土器に伴う側の多い資料(第12図21)も若干だが出土している。細別の可能な土器には中・後期の例が多く、前期の例は数量的に概して少ない。が、打製石斧に限り見れば、前期に典型的な例も多く、一概には中・後期の例が主体ともいえない。敢えて分布傾向を言えば、前期の遺跡に多い打製石斧は台地の高い部分に多く、台地の斜面や低地部分(I区)には全く見られないこと、中・後期の遺跡に多い例の主たる分布域

は低地部分に見られ、以上の分布の相違が指摘できよう。

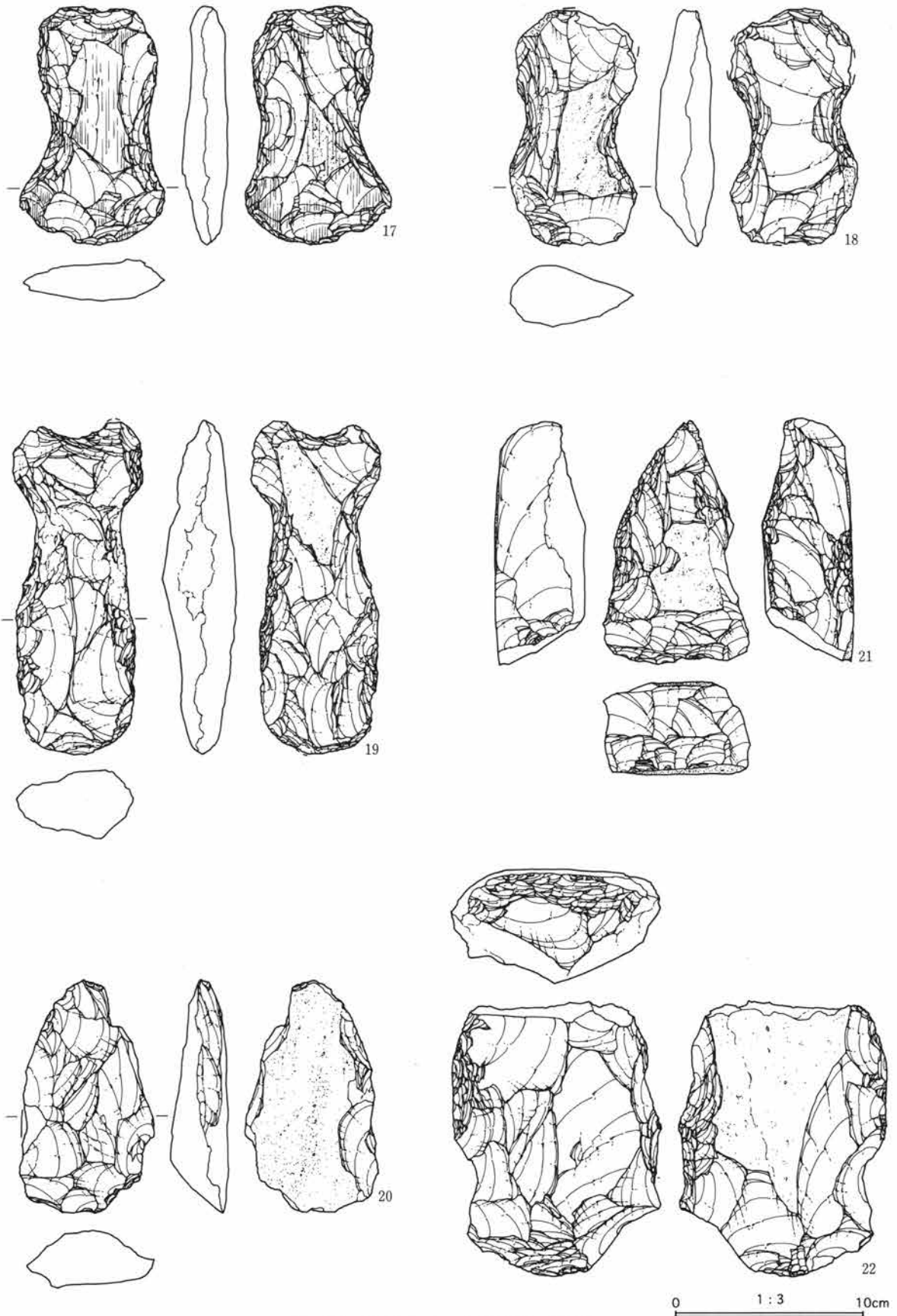
出土資料の主たる構成器種の大部分は打製石斧が占める。打製石斧は形態的に大きく二分され、短冊状を呈するもの6例(第10図3・4・7・8、第11図9・10)、分銅状を呈するもの8例(第11図11~16、第12図17・18)の他、上端に近い側縁部分に浅い「抉り」を入れ、石匙の「つまみ」に似た形状を呈する打製石斧(第12図19)が出土している。このほかには削器や石核(各3点)が若干出土している程度で、石皿や磨石、凹石など組成に加わる加工具の類は全く見られない。剥片の類は概して少なく、製作活動は極めて乏しい。打製石斧を例に採れば製品と剥片の量比、及び、摩耗の著しい使用の実態からみて、この地点には完成状態に近い状態で持ち込まれ使用した状況を呈しており、また、削器の類も形態的に整い、さらには石核も充分消費が可能な状態を保ち、以上の状況も先の製作状況の推定が裏づけられよう。



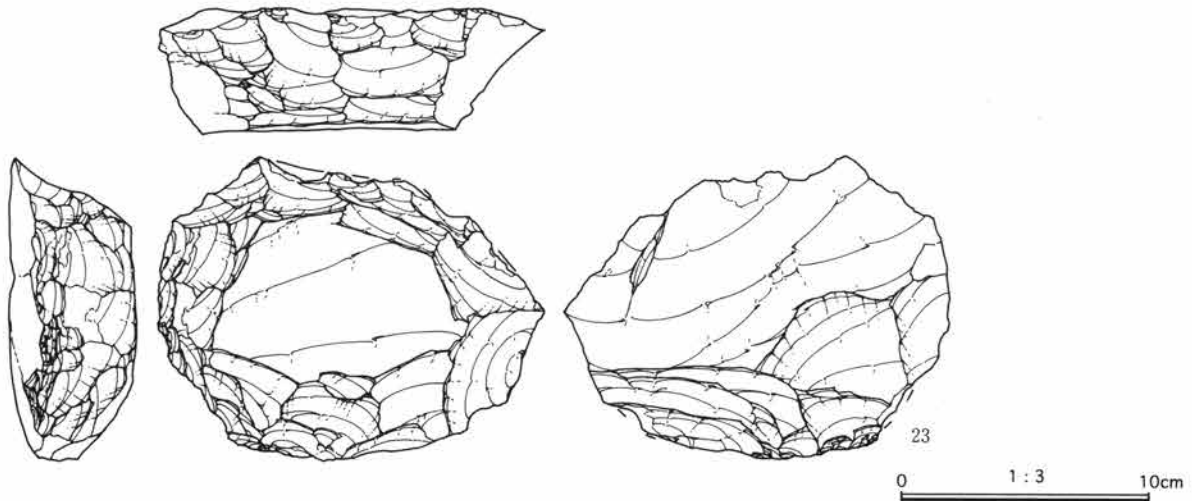
第10図 縄文時代の出土遺物(石器)



第11図 縄文時代の出土遺物（石器）

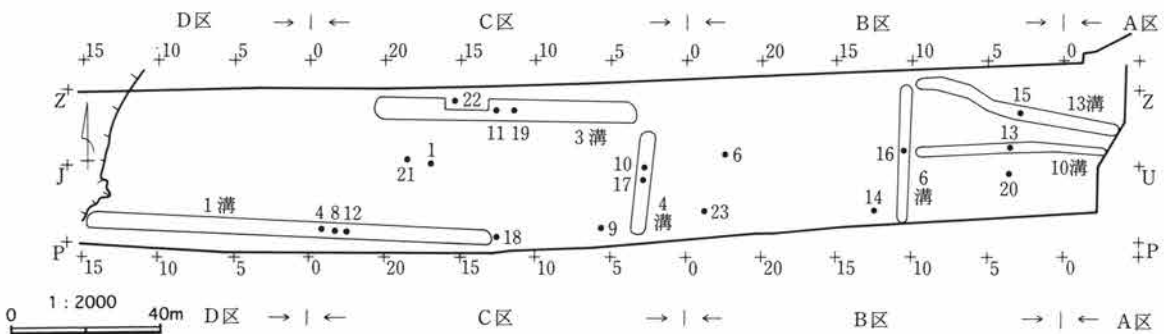


第12図 縄文時代の出土遺物（石器）



石器の石材と出土位置の一覧表

整理番号	図版番号	出土位置	器種	石材	長(cm)	巾(cm)	厚(cm)	重量g
2857	1	12 住	削器	珪質頁岩	( 3.7)	2.6	0.9	6
2858	2	II区4土坑	削器	チャート	( 2.5)	2.1	0.5	3
2873	3	III区	打製石斧	黒色頁岩	8.9	5.7	1.9	105
2869	4	1 溝西	打製石斧	黒色頁岩	9.5	4.5	1.2	66
2856	5	表採	使用痕ある剥片	黒曜石	2.7	2.5	0.9	4
2875	6	49 住	削器	黒色頁岩	7.8	4.6	2.2	57
2872	7	II区BC	打製石斧	灰色安山岩	10.6	6.0	2.0	118
2870	8	1 溝	打製石斧	黒色頁岩	(11.1)	5.5	1.6	85
2868	9	II区南東2層	打製石斧	黒色頁岩	(13.2)	4.8	1.6	100
2871	10	II区4溝	打製石斧	変質玄武岩	( 9.8)	4.7	1.9	92
2860	11	II区3溝	打製石斧	黒色頁岩	10.7	7.5	2.5	227
2864	12	1 溝	打製石斧	黒色頁岩	10.4	6.3	1.9	143
2861	13	10 溝	打製石斧	黒色頁岩	12.7	7.1	2.3	250
2863	14	14 井戸	打製石斧	黒色頁岩	12.0	6.3	1.9	146
2867	15	13 溝	打製石斧	黒色頁岩	( 6.5)	5.7	1.4	56
2866	16	I区6溝	打製石斧	黒色頁岩	( 7.2)	6.0	0.9	39
2862	17	II区4溝	打製石斧	黒色頁岩	12.3	7.7	2.3	215
2865	18	CQ-12表	手製石斧	黒色頁岩	12.2	6.6	3.1	262
2859	19	3 溝	打製石斧	黒色頁岩	17.2	6.7	3.8	454
2874	20	I区J39	打製石斧	黒色頁岩	12.0	6.9	3.5	251
2876	21	CU-18G	三角錐形石器	黒色頁岩	12.5	7.6	4.7	528
2878	22	II区4住	石核	黒色頁岩	5.9	10.8	14.3	1135
2877	23	48 住	石核	黒色頁岩	5.0	15.3	11.9	1879



第13図 縄文時代の出土遺物(石器)及び分布図

### 第3節 古墳時代以降

#### 第1項 竪穴住居跡

##### 1号住居跡 (写真図版4・90)

位置：C-21Vグリッド付近

主軸方位：N-85°-E 規模：3.7m×5.1m

形状：平面形状は、隅丸長方形を呈し、北東コーナー部付近の壁は検出できなかった。床面までの深度は確認面より20cm~30cm程を測る。

カマド：住居東壁の中央やや南寄りに位置し、燃燒部は壁の内側にあり、煙道はあまり突出せず、先端部の土に焼土化が見られる。袖部は礫等を用いず、

粘性土を固めて構築され、大きく屋内に張り出す。  
内部施設：柱穴は検出されておらず、貯蔵穴と考えられる径40cm程、深度50cm程を測る土坑が、南東コーナー部付近から検出された。

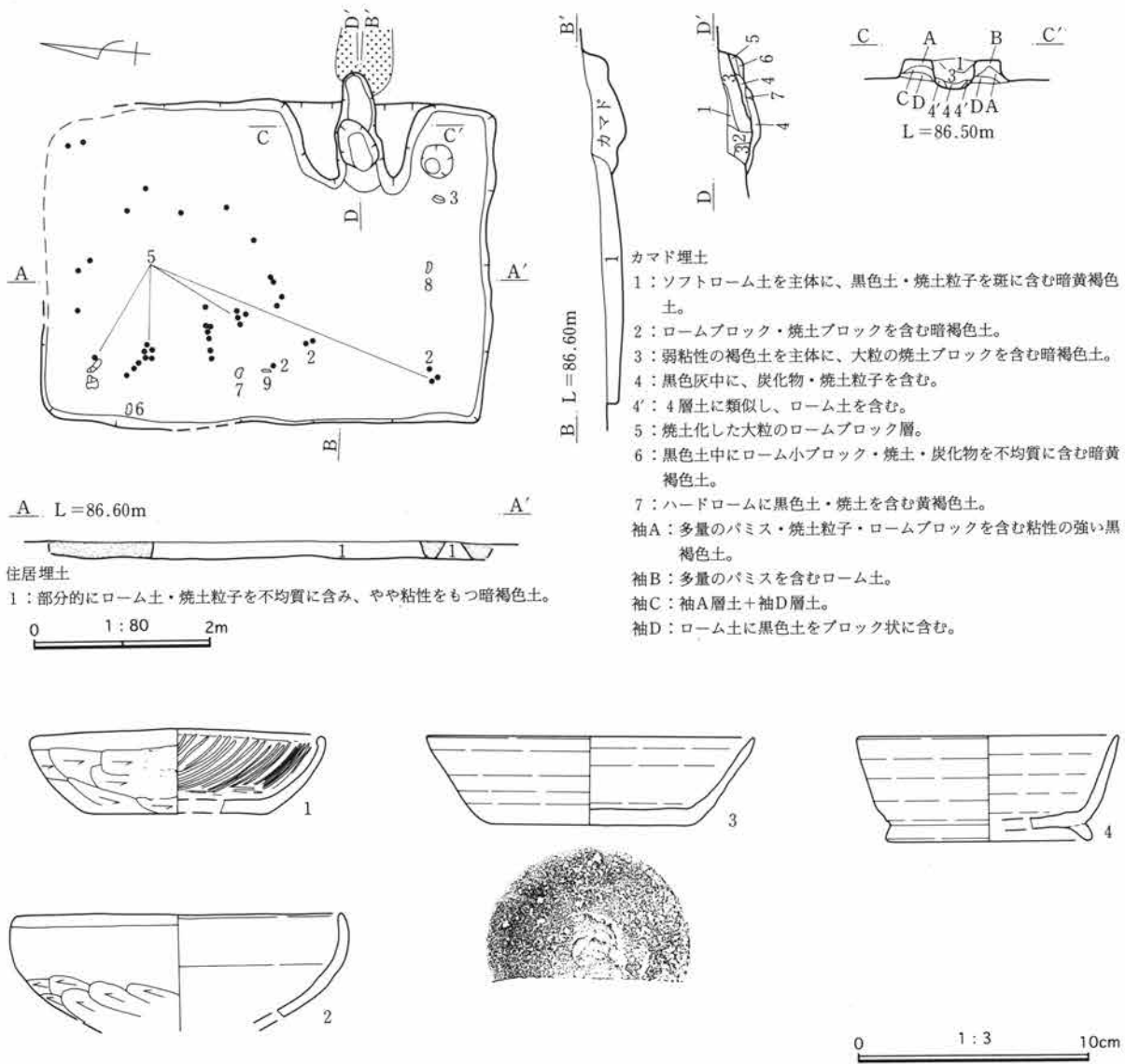
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

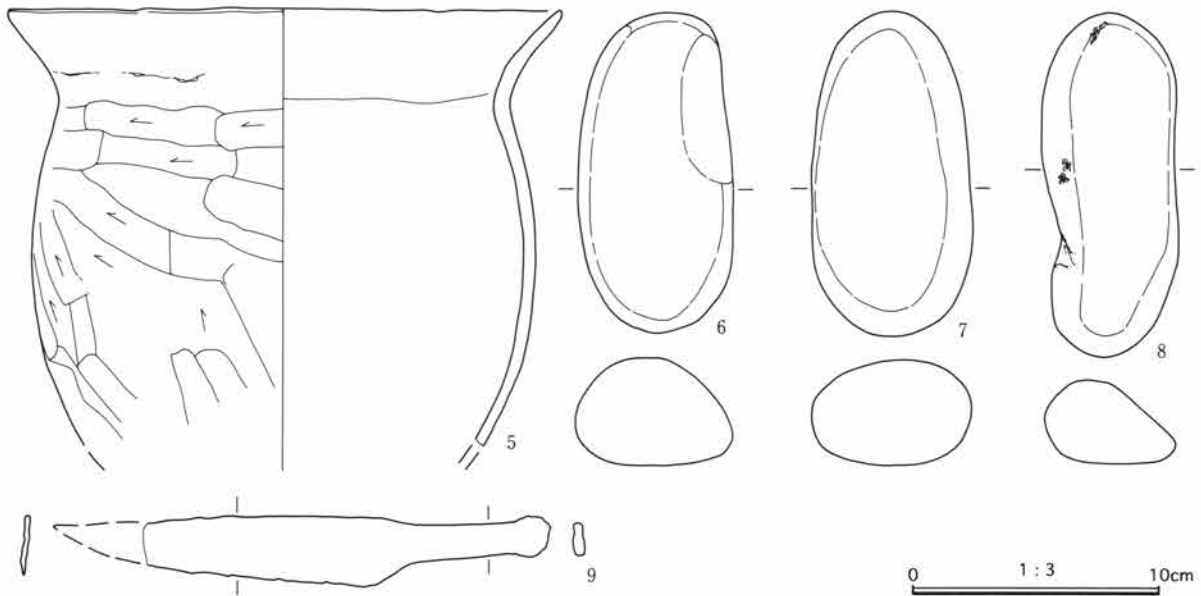
出土遺物：土師器杯・甕、須恵器杯・椀、鉄製品刀子などが出土し、うち土師器甕、刀子が床面に近い状態で出土するが、特別な出土状態の遺物はない。

重複：重複遺構なし。

時期：出土する遺物の年代より、8世紀代の住居跡と推定される。



第14図 1号住居跡及び出土遺物



第15図 1号住居跡出土遺物

1号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 90 No0001	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径(12.7) 底径(7.9) 器高 3.6	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙～赤褐色	口縁部はやや内湾する。外面体部及び底部はへら削り 口縁部は横方向の撫で、内面は斜方向のへら磨きを施す。	
2 90 No0003	土師器 杯	口縁～底部 1/3	口径(14.0) 器高(4.4)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:明赤褐色	器形はやや否。外面底部はへら削り、内面は全面横方向の撫でを施す。	
3 90 No0005	須恵器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径(14.0) 底径 8.6 器高 3.7	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰白色	ロクロ成形、ロクロ右回転。底部回転へら切り、無調整。	
4 90 No0006	須恵器 椀	口縁～高台 部1/5	口径(11.2) 底径(8.4) 器高 4.4	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色	ロクロ成形、底部高台内側は回転撫で調整。	
5 90 No0007	土師器 甕	口縁～胴部 破片	口径(22.0) 底径 — 器高 —	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:明赤褐色	外面胴部は下位が縦方向、上位が斜～横方向の削り、 口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は粗い撫でを施す。	
6 90 No2254	石製品 こもあみ石	完形	長 12.6 幅 6.2 厚 4.3	石英閃緑岩	平面形は長楕円形、横断面は右端がやや尖り気味の楕円形を呈す。	525 g
7 90 No2255	石製品 こもあみ石	完形	長 12.8 幅 6.4 厚 4.1	粗粒安山岩	平面形は長楕円形、横断面形も楕円形を呈す。	541 g
8 90 No2256	石製品 こもあみ石	完形	長 13.5 幅 5.3 厚 3.6	粗粒安山岩	平面形は長楕円形を呈するが、下方左側にくびれあり。 横断面は右端がやや尖り気味の楕円形を呈す。	374 g
9 90 No4001	鉄器 刀子		長(19.8) 幅 2.8 厚 0.5		先部欠損。錆ぶくれあり。基部との区は鈍角となり、 棟区も浅い。	37.36 g



第3章 検出遺構と遺物

4号住居跡 (写真図版5・90)

位置：C—15Yグリッド付近

主軸方位：不明。 規模：不明。

形状：平面形状は、複数の重複遺構間に僅かに壁を検出する程度であり、明らかではない。床面までの深度は確認面より35cm程を測る。

カマド：検出されていない。

内部施設：確認された範囲からは、柱穴等は検出されていない。

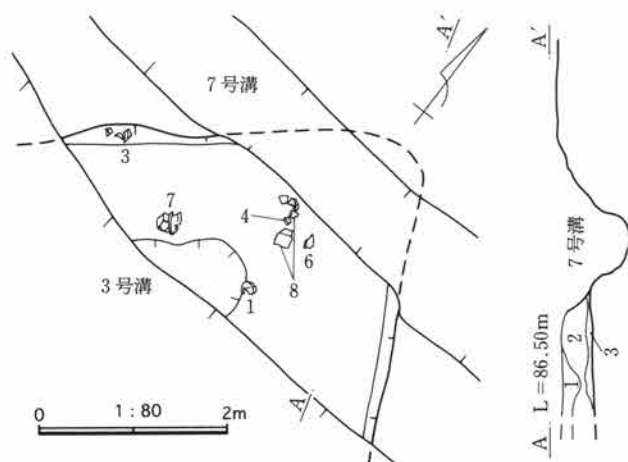
床面：部分的な確認ではあるが、地山ローム土を固めて床面とする。

掘り方：なし。

出土遺物：出土遺物には床面直上よりの出土は見られず、全て床面より10cm～20cm程からの出土である。

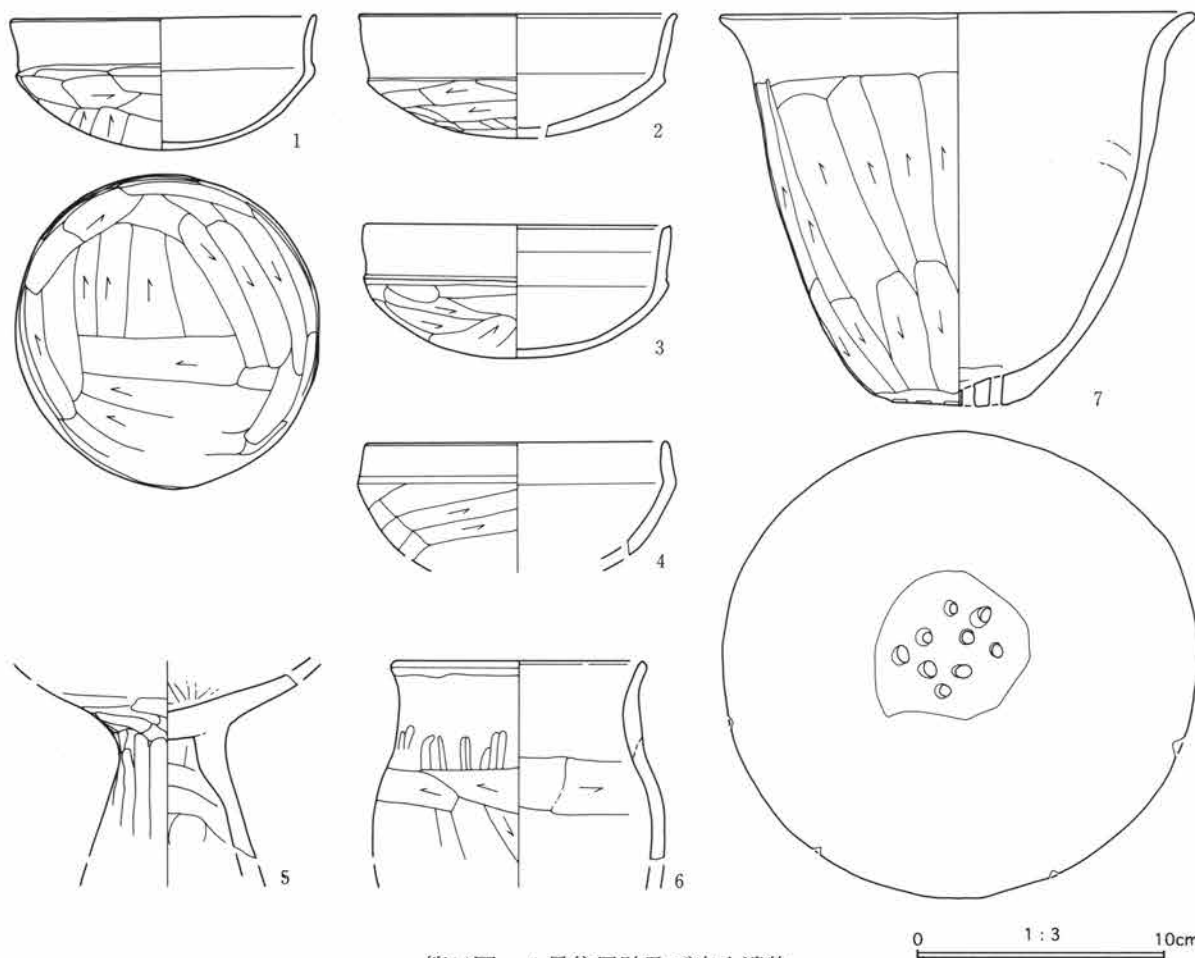
重複：3号溝、7号溝が縦断するように重複し、溝間に本遺構が検出される。新旧関係は確認面からの埋土の状態より、本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



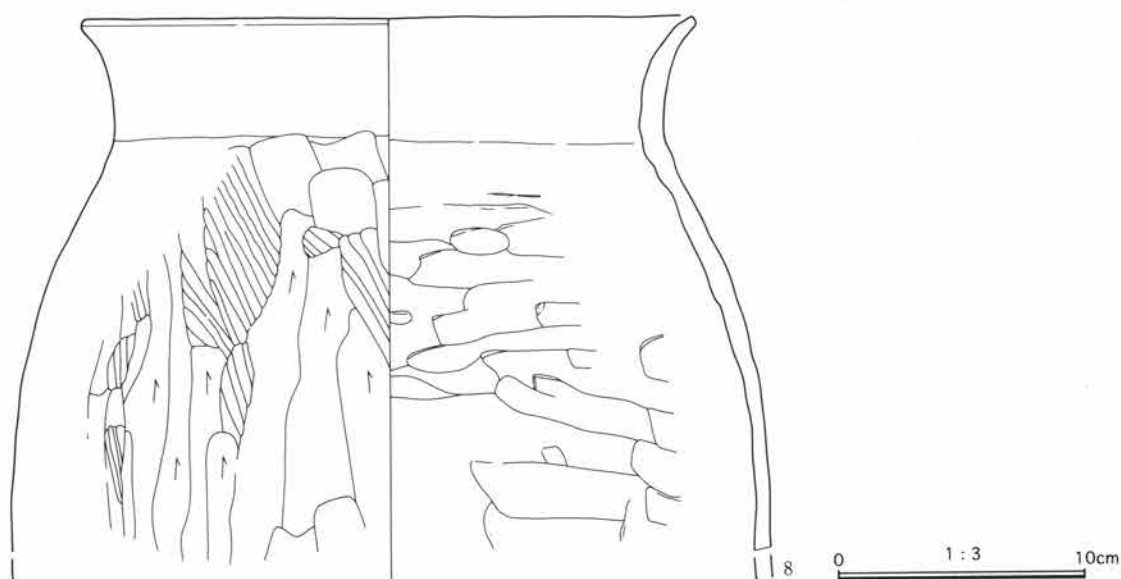
住居埋土

- 1：少量の浅間C軽石・炭化物を含む暗褐色土。
- 2：多量の浅間C軽石・炭化物と少量のローム粒子を含み、しまりのある黒色土。
- 3：多量のC軽石とローム土を斑状に含む暗褐色土。



第16図 4号住居跡及び出土遺物





第17図 4号住居跡出土遺物

## 4号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 90 No0016	土師器 杯	口縁～底部 1/5	口径 12.2 稜径 12.0 器高 5.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	器形は均質。外面底部はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も撫でを施す。	
2 90 No0018	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径 12.8 稜径 11.9 器高 4.9	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面は粘土乾燥による亀裂あり、底部外面はヘラ削り、口縁部内外面及び底部内面は横方向の撫でを施す。	
3 90 No0017	土師器 杯	口縁～底部 1/5	口径 12.3 稜径 12.2 器高 5.2	胎：細砂 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は撫でを施す。	
4 90 No0019	土師器 杯	口縁～底部 上位破片	口径(12.0) 稜径(12.8) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～灰褐色	外面底部はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も撫でを施す。	
5 90 No0022	土師器 高杯	杯底～胴部 破片	口径 — 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	杯部内面は放射状の研磨、杯部外面及び脚部外面は丁寧なヘラ撫で、脚部内面は粗い指撫でを施す。	
6 90 No0021	土師器 小形甕	口縁～胴部 上位破片	口径(10.2) 器高 — 最大径(11.6)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	外面胴部上位はヘラ削り、外面口縁部は細かい縦方向の削り痕を残し横方向の撫で、内面口縁部～胴部上位は横方向の撫でを施す。	
7 90 No0023	土師器 甕	完形	口径 18.8 底径 4.7 器高 15.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～にぶい褐色	底部に外面よりの刺突による9穴の穿孔。外面体部は縦方向の削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は粗い撫でを施す。	
8 90 No0024	土師器 甕	口縁～胴部 破片	口径 24.6 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～灰褐色	外面胴部は縦方向のヘラ削り後、一部細かいヘラ撫で口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は横方向の粗いヘラ削り後、粗いヘラ撫でを施す。	

## 6号住居跡 (写真図版6・90)

位置：C-22Sグリッド付近

主軸方位：N-65°-E 規模：(7.7)m×7.2m

形状：本遺構付近は上位を現代の削平を受けており、本遺構も東側のみ僅かに壁を残す程度の検出で

ある。床面と柱穴の位置より推定での平面形状は、一辺7m強のややいびつな方形を呈するものと考えられる。

カマド：住居東壁の中央やや南よりに位置し、燃焼部は壁の内側にあり、袖部は屋内に張り出す。袖部

### 第3章 検出遺構と遺物

の両端には礫を埋設し、手前に大型の礫が出土していることから、天井部にも礫を使用した石組のカマドと考えられる。

**内部施設：**床面にまで至る攪乱のため、明瞭な遺構としては検出し得ないが、柱穴の痕跡が3箇所において確認される。

**床面：**攪乱を受け明らかではないが、地山ローム土

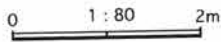
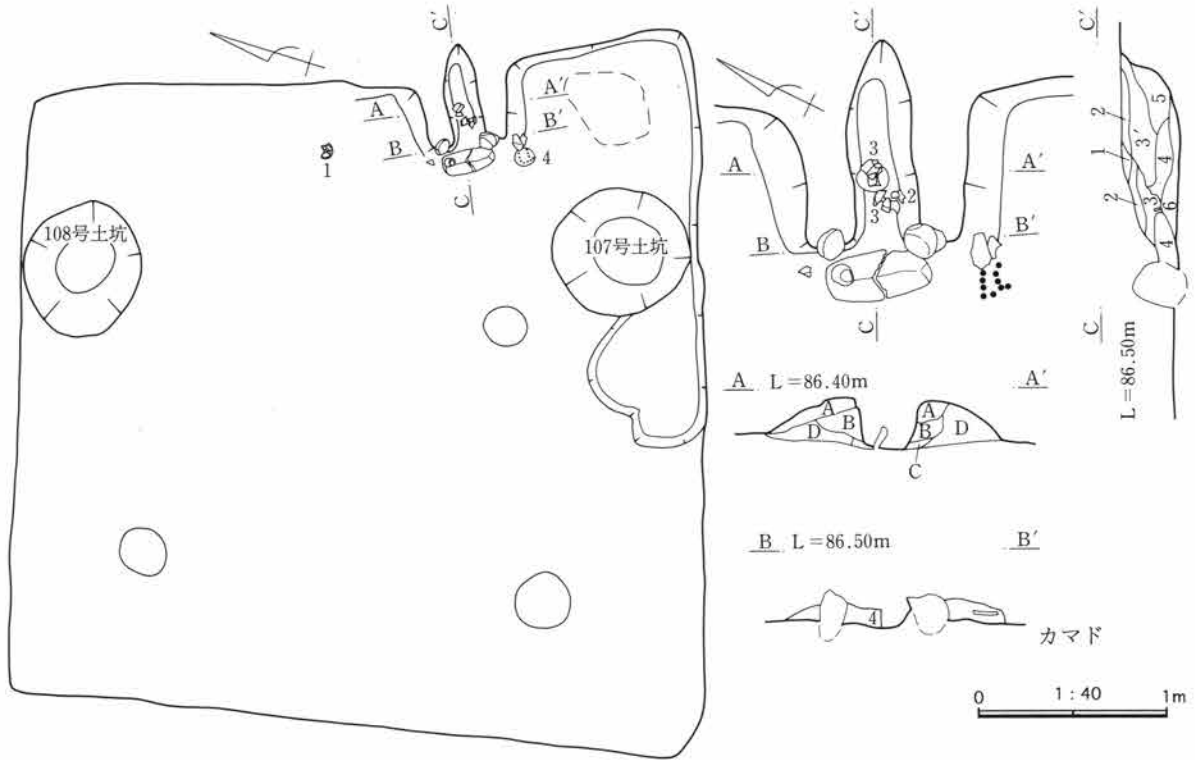
を固めて床面としたものと考えられる。

**掘り方：**なし。

**出土遺物：**出土遺物の大半がカマド内よりの出土。

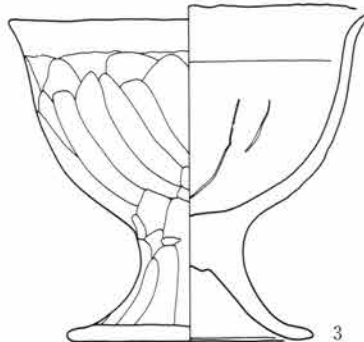
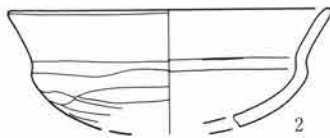
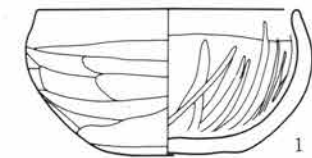
**重複：**土坑が2基重複し、確認面よりの埋土の状態から、本遺構の方が古いものと判断される。

**時期：**出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。

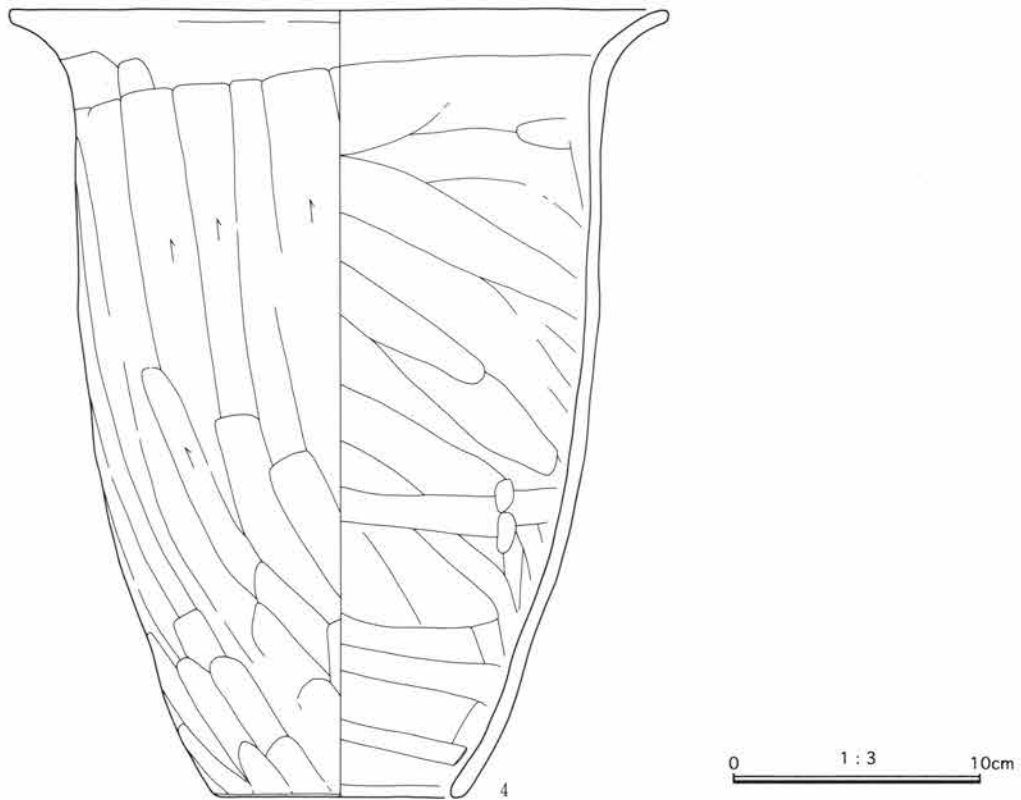


カマド埋土

- 1：ローム小ブロックと多量の焼土を含む暗褐色土。
- 2：灰・炭化物とローム粒・焼土を少量含む黒褐色土。
- 3：粘性のない黒色土にローム粒・パミス・焼土・炭化物を斑に含む暗褐色土。
- 3'：3層土に類似し、ソフトローム粒を多く含む。
- 4：多量の焼土・ロームブロックを含み、粘性の弱い暗赤褐色土。
- 5：少量のローム・炭化物と極少量の焼土を含み、やや腐植土質のしまりのない暗褐色土。
- 6：炭化物をやや多く含み、しまりの強い黒褐色土。
- A：黒色土とソフトロームの混土。内側に焼土が多い暗黄褐色土。
- B：黒色土を僅かに含むローム土。焼土化。
- C：多量の灰と少量の炭化物・焼土を含む黒灰色土。
- D：混入物の少ないローム土。



第18図 6号住居跡及び出土遺物



第19図 6号住居跡出土遺物

6号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 90 No0031	土師器 杯	カマド出土 完形	口径 10.5 底径 5.0 器高 5.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐色	口縁部はやや波を打ち、全体にやや歪む。外面は横方向の撫で。内面口縁部は撫で、体部は縦方向の粗い磨きを施す。	
2 90 No0032	土師器 杯	カマド出土 口縁～体部 破片	口径(13.0) 稜径(11.1) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	器形は均質。外面底部はへら削り、口縁部は横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
3 90 No0034	土師器 小形台付甕	カマド出土 完形	口径 14.5 底径 10.0 器高 13.2	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：黒褐色	口縁部はやや波を打ち歪む。外面体～脚部は縦方向の削り後に弱い撫で、内面は全面に撫でを施す。	
4 90 No0036	土師器 甕	カマド出土 口縁～底部 1/2	口径 26.7 底径 10.0 器高 31.1	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	胴部は均質、口縁部はやや波を打ち歪む。外面胴部は縦方向のへら削り、口縁部は横方向の撫で、内面はへら撫でを施す。	

7号住居跡 (写真図版7・91)

位置：C-22Rグリッド付近

主軸方位：不明。 規模：不明。

形状：僅かにカマドの痕跡を残すのみで、上方は現代の削平を受けるため、住居形態等は不明である。

カマド：住居東壁部に位置していたことは明らかではあるが、壁やコーナー部との位置関係は明らかではない。燃烧部の南側に小土坑が検出されるが、カ

マドに伴う施設か否かは明らかではない。

内部施設：不明。

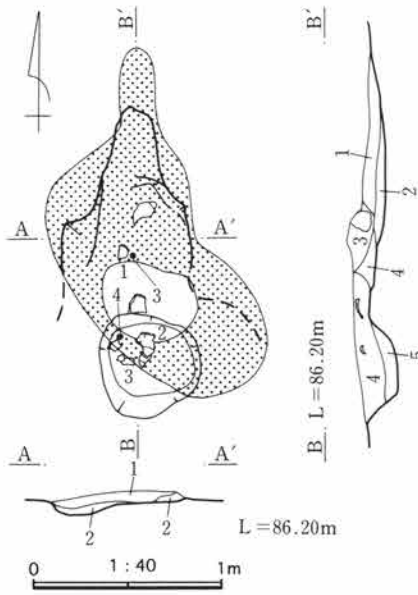
床面：不明。

掘り方：不明。

出土遺物：いずれもカマド燃烧部付近より出土し、年代差のある遺物が含まれ、重複遺構に伴うものと考えられる。

重複：カマド煙道端部において、8号住居跡と重複

第3章 検出遺構と遺物

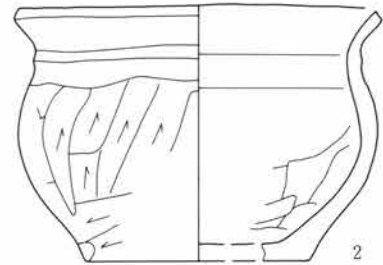
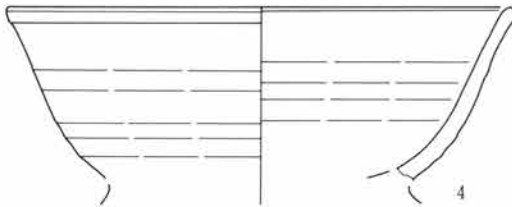
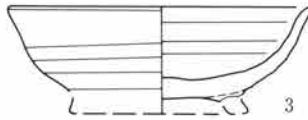
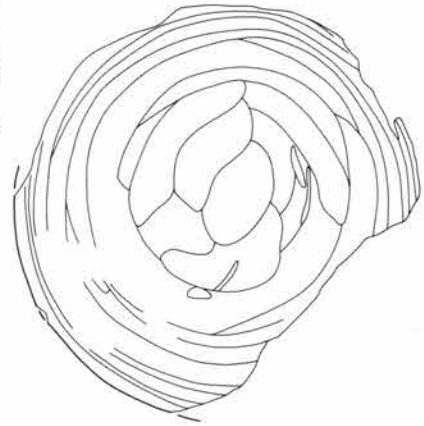
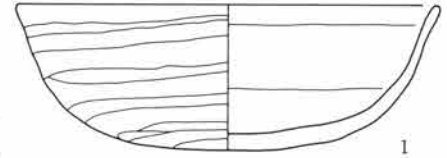


カマド埋土

- 1：少量のローム粒子・焼土粒子を含み、しまり弱く粘性のない暗褐色土。
- 2：1層土に類似し、ローム土を斑に含み、少量の焼土粒子を含む暗褐色土。
- 3：2層土に類似、ローム土を多く含む。
- 4：多量のローム粒子・焼土粒子と少量の炭化物を含む褐色土。
- 5：多量の焼土ブロック・ロームブロック、炭化物を含む暗褐色土。

し、カマドの残存状態から、本遺構の方が新しいものと判断される。

時期：出土する遺物のうち、重複遺構に伴うであろう遺物を除く年代から、10世紀代の住居跡と推定される。



第20図 7号住居跡及び出土遺物

7号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 91 No0026	土師器 杯	口縁～底部 2/3	口径 16.8 器高 5.7	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：褐～黒褐色	外面に回転条痕。底面にヘラ削目あり。部分的に土師質土器様相あり。	
2 91 No0027	土師器 小形甕	口縁～底部	口径(14.7) 底径( 9.0) 器高 10.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～褐灰色	外面体部はヘラ削り、口縁部は外反し、端部は平坦、内外面共に横方向の撫で、内面体部は粗い指撫でを施す。	
3 91 No0028	須恵器 椀	高台部欠損	口径 12.0 底径( 7.0) 器高( 4.2)	胎：細砂粒(大粒含) 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り後に高台貼付。	
4 91 No0030	須恵器 椀	口縁～体部 破片	口径(20.2) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～橙色	ロクロ成形、口縁口唇部やや肉厚。	

8号住居跡 (写真図版7・91)

位置：C-20Rグリッド付近

主軸方位：N-25°-E 規模：5.5m×5.5m

形状：平面形状は、ほぼ正方形を呈すると考えられるが、西壁から北西コーナー部にかけて、上方が現代の削平を受けるため、検出できなかった。

カマド：住居北壁の中央やや西寄りに位置し、燃烧部は壁の内側にあり、煙道はあまり突出せず、袖部は屋内に張り出す。袖部は芯材を用いず、粘性土を固めて構築される。

内部施設：柱穴は検出されず、住居北東コーナー部

に径90cm程、深度80cm程を測る土坑が1基検出され、貯蔵穴としての用途が推察される。

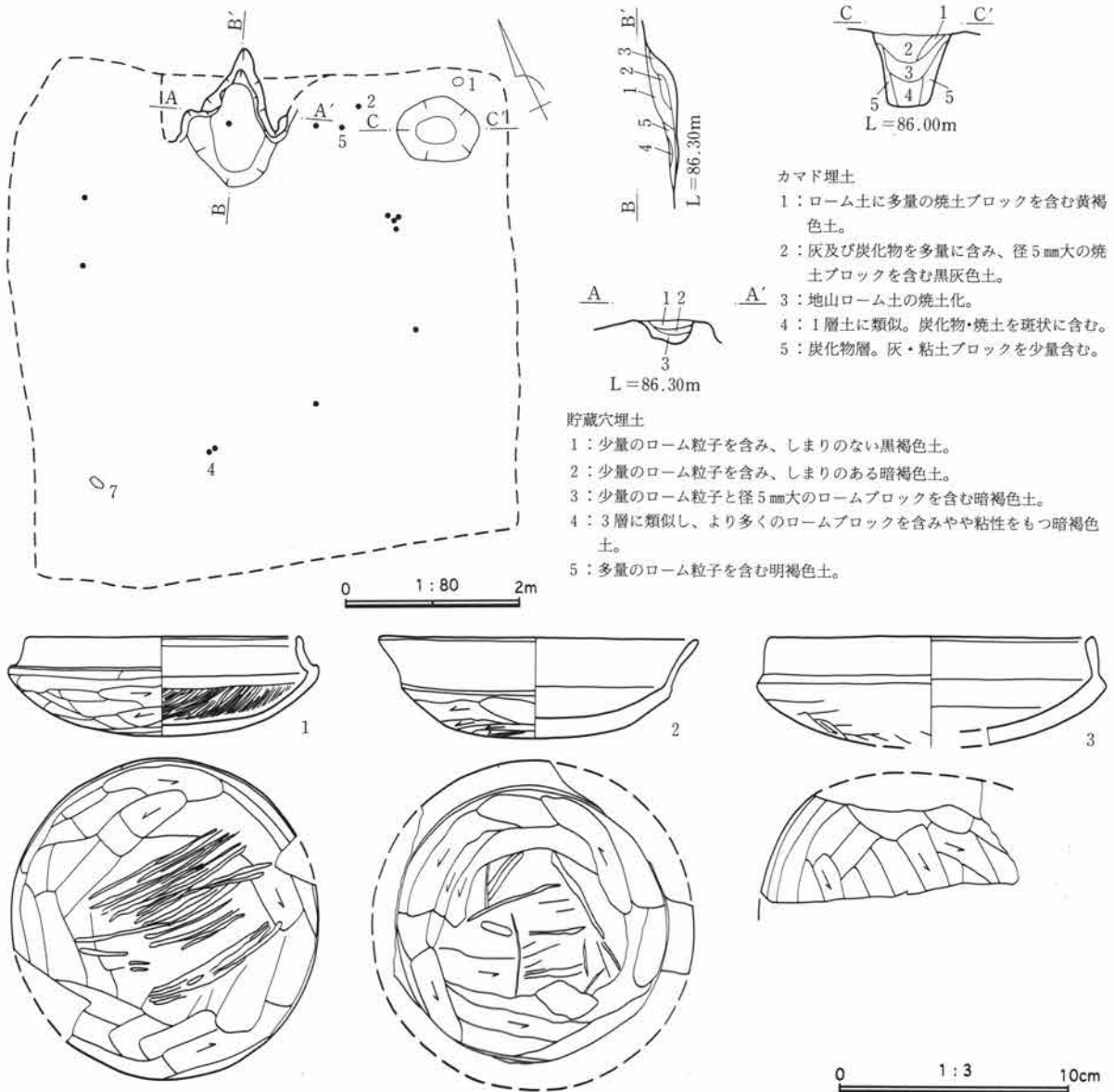
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

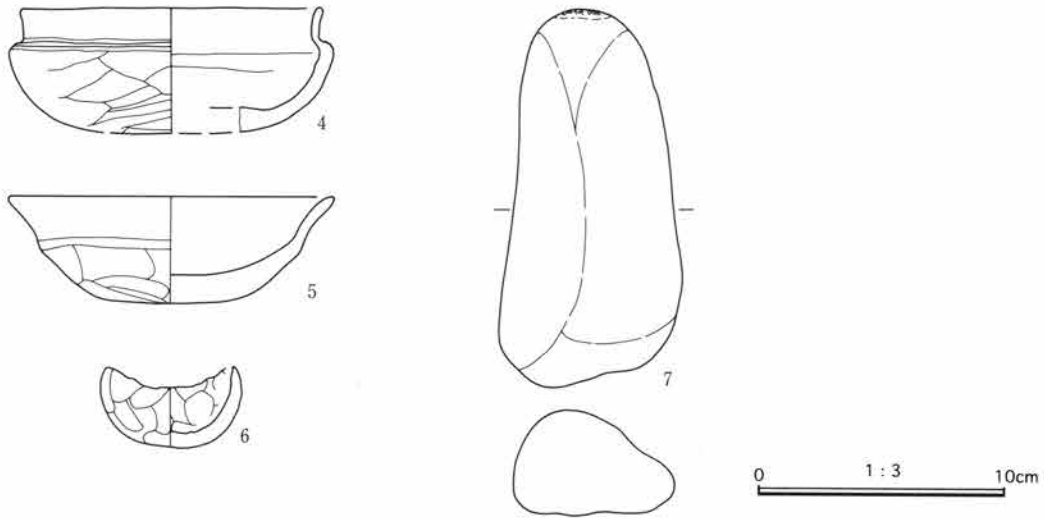
出土遺物：土師器杯(No.3)が床下より出土する。

重複：僅かに南西コーナー部において、7号住居跡と重複し、7号住居のカマドの残存状態から本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



第21図 8号住居跡及び出土遺物



第22図 8号住居跡出土遺物

8号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 91 No0037	土師器 杯	略完形	口径 13.3 稜径 13.4 器高 4.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐～黒褐色	器形は均質。外面底部はへら削り後に一部磨き、口縁部は横方向の撫で、内面口縁部は稜を持つ撫で、底部は一方方向の丁寧な磨きを施す。	
2 91 No0040	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径 13.8 稜径 11.7 器高 4.3	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	器形は均質だが、底部は肉厚。外面は底部へら削り、口縁部は横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
3 91 No0038	土師器 杯	床下出土 口縁～体部 破片	口径 14.0 稜径 15.0 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：褐色	器形は均質。外面は底部～体部上位にかけ異方向の削り、口縁部は横方向の撫で。内面は全面に横方向の撫でを施す。	
4 91 No0039	土師器 杯	口縁～体部 破片	口径 12.1 稜径 13.0 器高( 5.0)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	器形は均質。外面体部は横方向の削り、稜端はへら撫で、口縁部は撫で。内面は全面に横方向の撫でを施す。	
5 91 No0041	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径 13.0 稜径 10.4 器高 4.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部肉厚。外面底部は粗いへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は粗い撫でを施す。	
6 91 No0045	土製品 ミニチュア 杯形	1/3	口径( 4.5) 器高 2.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	手捏ね成形。内面の一部に細いへら削りを施す。内面及び外面の一部に指頭圧痕多く残る。	
7 91 No2884	石製品 こもあみ石	完形	長 15.0 幅 7.3 厚 4.2	玢岩	平面形は、一端が膨む楕円形。横断面は一端が細い楕円形を呈す。	592 g

9号住居跡 (写真図版 8・91)

位置：C—19Wグリッド付近

主軸方位：N—63°—E 規模：(5.1)m×6.4m

形状：平面形状は、方形を呈するものと考えられるが、南西部の半分程が調査区域外にあるため、全体形状は不明である。床面までの深度は、確認面より50cm程を測る。

カマド：調査範囲内からは検出されておらず、おそらくは住居北東壁に重複する井戸跡により破壊されたものと推察される。

内部施設：北部及び東部に径40cm程を測る柱穴を2穴検出し、東部柱穴の周辺には径20cm～30cmを測るピットを検出する。また、壁下には壁溝が巡る。

床面：各柱穴間を結ぶ方形のライン上のみ、土手状に地山ローム土を残し、その内側と外側に貼り床を施す。この貼り床は、柱穴間の内側のみやや高まる。

掘り方：前述の柱穴間を結ぶラインの外側から壁際までを溝状に掘り込み、内側である住居中央部を浅く皿状に掘り込む。

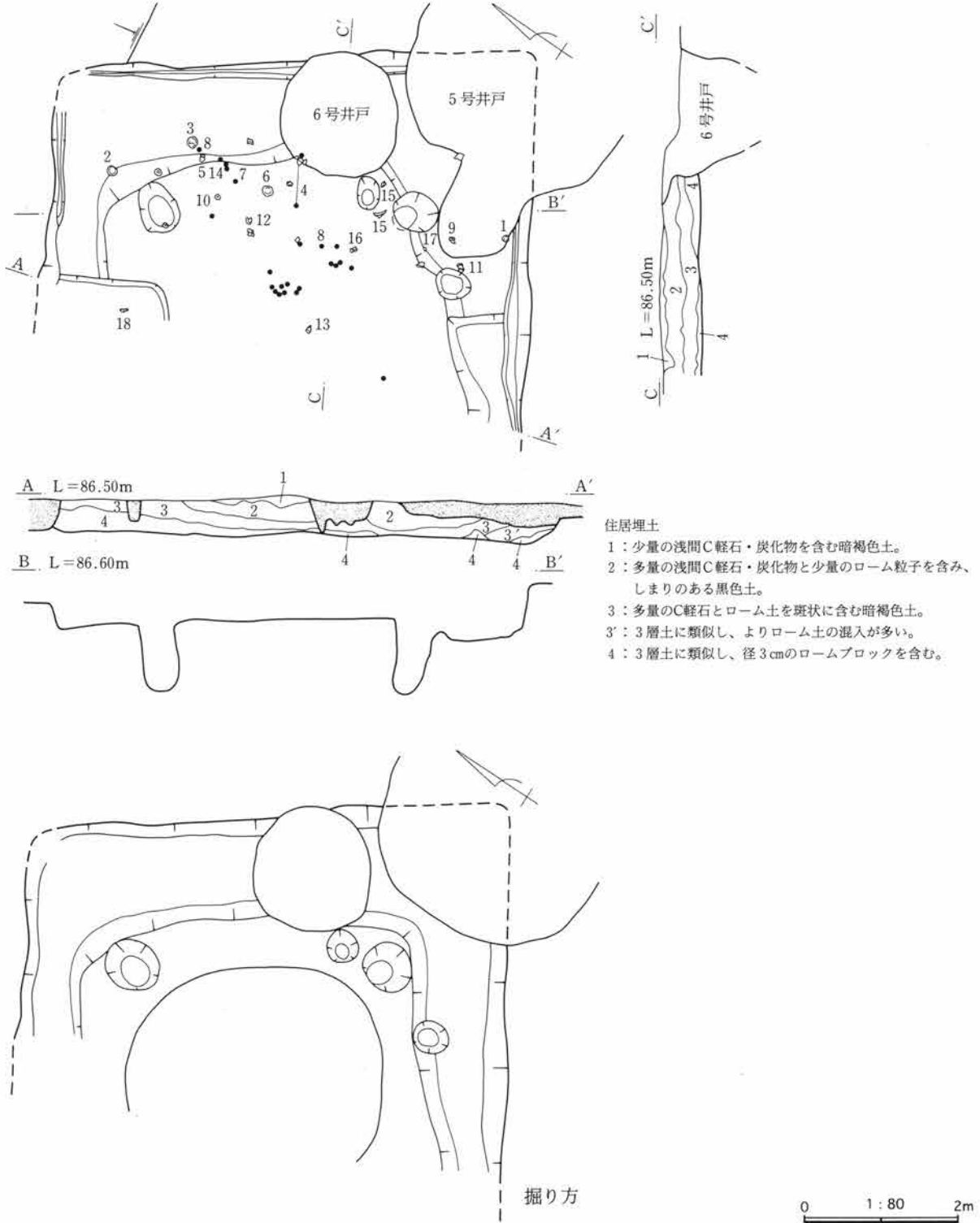


出土遺物：土師器ミニチュア(No.16・17)が出土。

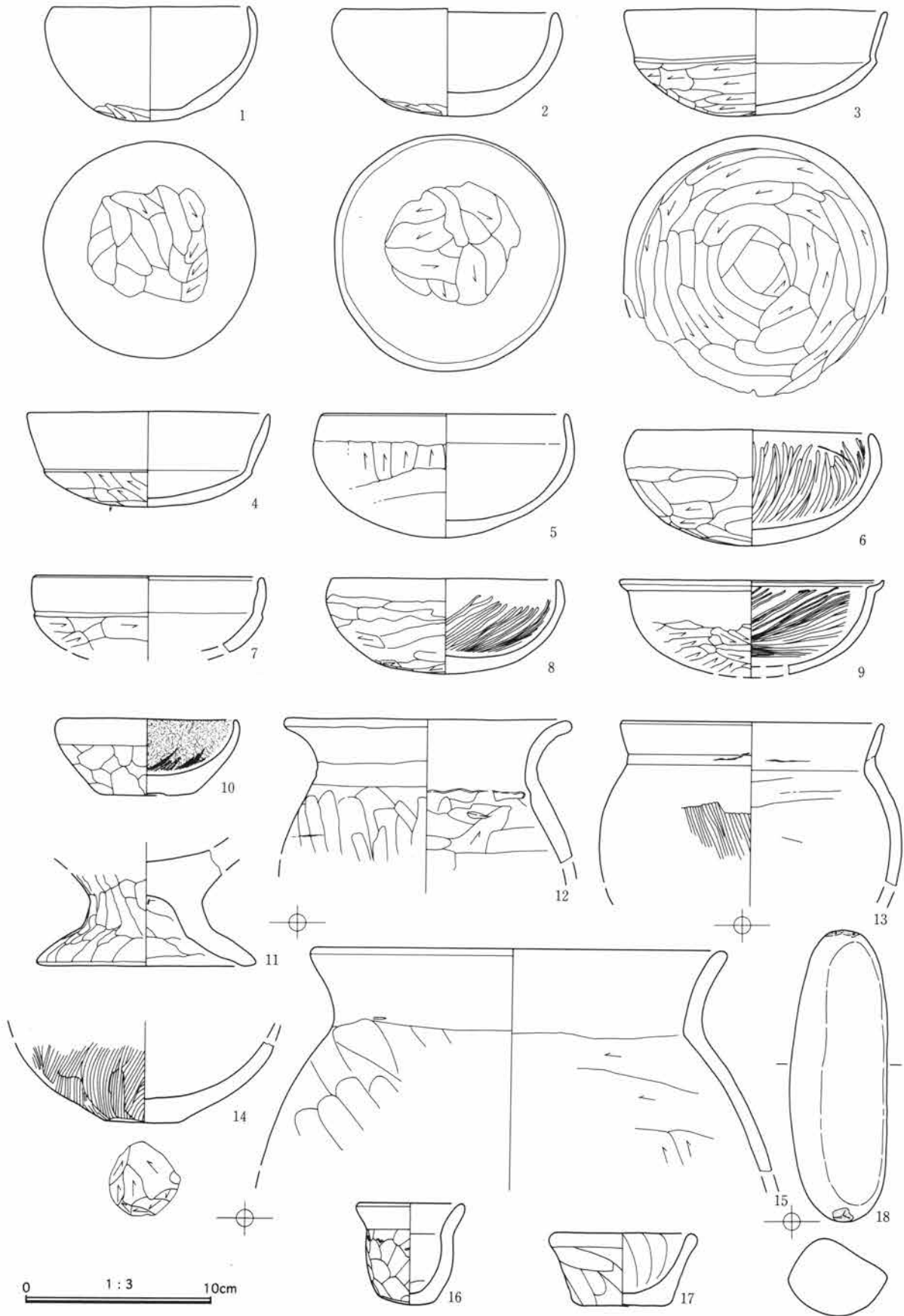
重複：北コーナー部において3号溝と、北東壁中央からコーナー部にかけて5号・6号井戸とそれぞれ重複し、確認面よりの埋土の状態より、いづれの遺

構より本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



第23図 9号住居跡



第24図 9号住居跡出土遺物

第3節 古墳時代以降

9号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 91 No0051	土師器 杯	完形	口径 10.5 器高 6.0	胎：細砂粒(石英多) 焼：酸化焰 色：橙色	外面底部は中心部のみヘラ削りを残し、周囲は撫で、内面は全面撫でを施す。	
2 91 No0050	土師器 杯	完形	口径 11.5 器高 5.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	底部肉厚。外面底部はヘラ削り、体部は削り後に撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面撫でを施す。	
3 91 No0057	土師器 杯	口縁～底部 1/5	口径 13.9 稜径 13.0 器高 5.5	胎：細砂粒(長石多) 焼：酸化焰 色：橙色	外面底部は円を描くようにヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面撫でを施す。	
4 91 No0059	土師器 杯	口縁～底部 2/5	口径 12.9 稜径 11.0 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：暗赤褐～黒褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は円状の撫でを施す。	
5 91 No0054	土師器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径(13.0) 器高(6.5)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～赤褐色	外面底部はヘラ削り後ヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は円状の撫でを施す。	
6 91 No0052	土師器 杯	略完形	口径 12.6 器高 6.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	口縁部はやや肉厚。外面の底部はヘラ削り、横方向の撫で後に軽く研磨、内面は全面研磨を施す。	
7 91 No0063	土師器 杯	口縁～底部 上位破片	口径(12.2) 稜径(12.2) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面底部はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は撫でを施す。	
8 91 No0053	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径 12.1 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～灰褐色	外面底部はヘラ削り後に撫で、口縁部は横方向の撫で後に外面のみ軽く研磨、内面は全面研磨を施す。	
9 91 No0056	土師器 杯	口縁～底部 破片	口径(14.0) 器高(5.1)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	体～底部外面は細かく丁寧なヘラ削り、口縁部は内外面共に丁寧な横方向の撫で、内面は斜方向の研磨を施す。	
10 91 No0074	土師器 杯	口縁～底部 2/3	口径 9.4 底径 5.0 器高 4.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰内面吸炭 色：橙～灰褐・黒色	小形、底部肉厚。底部外面中心部は円形に凹む。外面は指撫で、内面は撫での後、粗く研磨を施す。	
11 91 No0076	土師器 台付甕 (高杯か)	底～脚部	口径 — 底径 11.7 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	外面脚部から底部にかけハケ目状の削り後ヘラ撫で、脚部内面は粗い指撫で、胴底部内面は丁寧な撫でを施す。	
12 91 No0073	土師器 小形甕	口縁～胴部 破片	口径 15.3 口径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～にぶい橙色	胴部外面は縦方向の削り、口縁部は内外面共に丁寧な横方向の撫で、胴部内面は異方向のヘラ撫でを施す。	
13 91 No0067	土師器 小形甕	口縁～胴部 上位破片	口径(14.0) 器高(6.5) 最大径(16.0)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	外面口縁部は横方向の撫で、口縁部は胴部も同様、胴部最大径部は縦方向のハケ目、内面は全面撫でを施す。	
14 91 No0070	土師器 甕	底部～胴部 下位破片	口径 — 底径 3.9 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐～黒褐色	底部外面はヘラ削り、胴部外面はハケによる削り、胴部内面は撫でを施す。	
15 91 No0071	土師器 甕	口縁～胴部 上位破片	口径(22.0) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面胴部上位は斜方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面はヘラ削り後、口縁部は内外面共に丹彩を施す。	
16 91 No0061	土師器 ミニチュア 甕形	完形	口径 5.8 底径 3.1 器高 5.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	均質な形状を呈す。外面底～胴部はヘラ削り後に軽く撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は上位が撫で、下位はヘラ削りを施す。	
17 91 No0062	土師器 ミニチュア	口縁～底部 1/2	口径(7.6) 底径(5.2) 器高 3.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	手捏ね成形。外面は粗く指撫で、内面は指頭による成形痕を残す。	
18 91 No2886	石製品 こもあみ石	完形	長 15.2 幅 5.1 厚 4.1	砂岩	平面形は、長楕円形を、横断面は、片側がやや細い楕円形を呈す。	471 g

10号住居跡 (写真図版9・92)

位置：C-19Uグリッド付近

主軸方位：N-54°-E 規模：(3.3)m×6.2m

形状：平面形状は、隅丸方形を呈すると考えられるが、南西側の半分ほどが調査区域外にあるため、全体形状は不明である。床面までの深度は、確認面より約50cm程を測る。

カマド：北東壁の南寄りに位置する。構築は袖部の芯材として土師器甕2個体を逆位に埋設し、同じく土師器甕2個体を連結して天井部に転用する。燃烧部は壁の内側に位置し、煙道もあまり突出しない。

内部施設：住居内の東及び北側に径25cm～30cm程の柱穴を2穴検出する。また、住居東コーナー部に貯蔵穴と考えられる土坑を1基検出する。

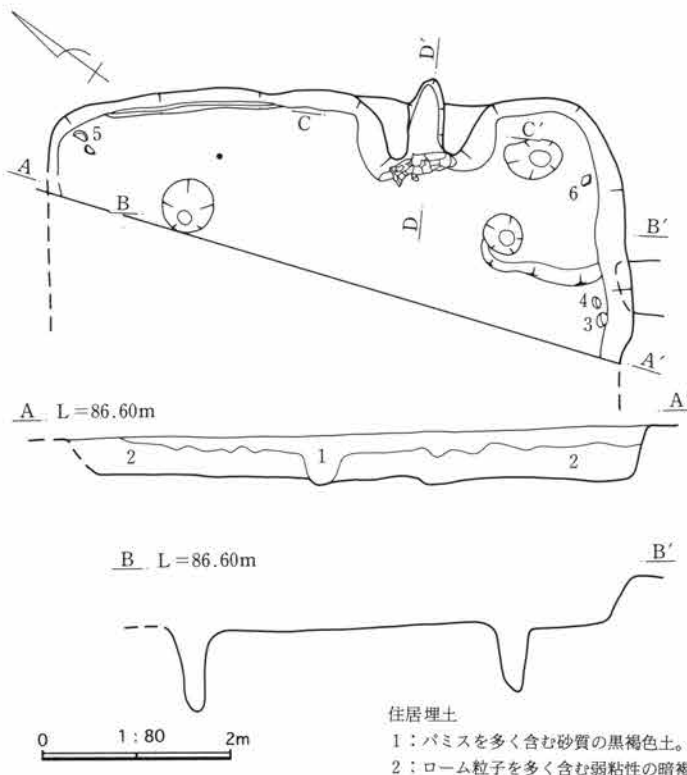
床面：全面にローム土を主体とする貼り床を施し、東側柱穴から南東壁までの間に床面の段差が確認される。

掘り方：住居中央部に径2m程の土坑を、北側及び東部コーナー付近にピットを数基検出する。

出土遺物：土師器杯(No.2・6)、金環(No.11)が床下より、土師器甕(No.8・10)がカマド内より出土する。

重複：直接的な重複はないものの、北西側に9号住居跡が、カマド煙道端部には11号住居跡がそれぞれ近接する。

時期：出土する遺物の年代より、7世紀代の住居跡と推定される。

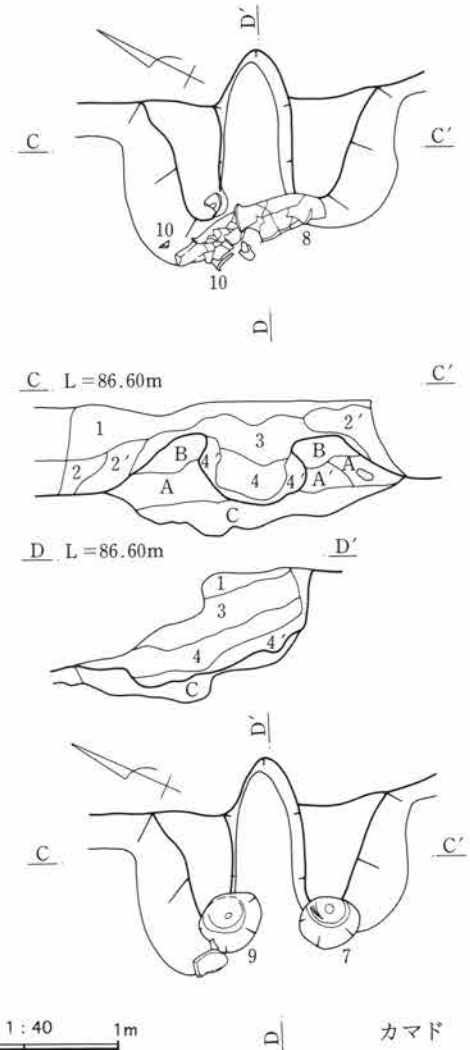


カマド埋土

- 1：ローム粒子を斑に含む黒褐色土。
- 2：径5cm大のロームブロックを含む弱粘性の暗褐色土。
- 2'：2層土に類似し、ローム粒子を含む暗黄褐色土。
- 3：多量のローム粒子と少量の焼土を含む暗黄褐色土。
- 4：多量の焼土ブロックと灰・炭化物を少量含む暗赤褐色土。
- 4'：ローム土の焼土化。
- 袖A：ローム土を主体に暗褐色粘質土を混入する。
- 袖A'：A層土に類似し、よりロームの割合が高い。
- 袖B：暗褐色粘質土にローム土を混入する。
- 袖C：黒色土中にハードロームブロックを混入する。火床下。

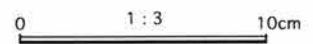
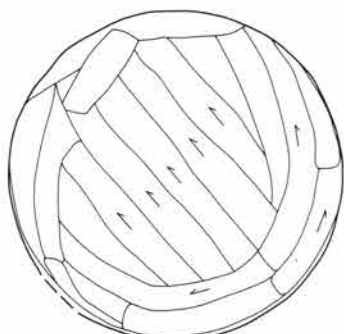
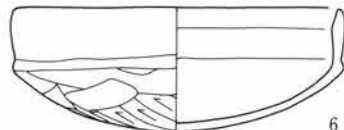
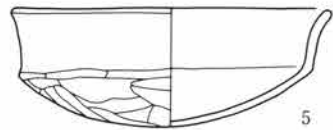
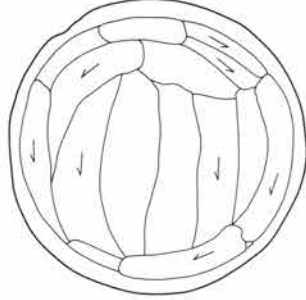
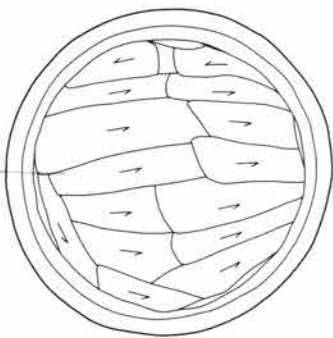
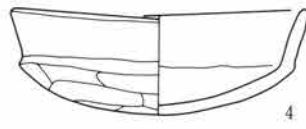
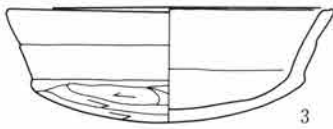
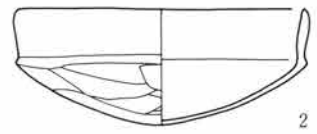
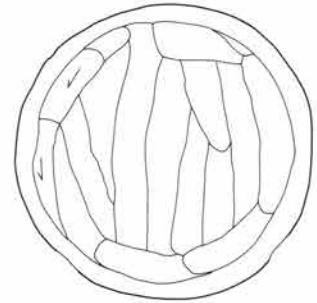
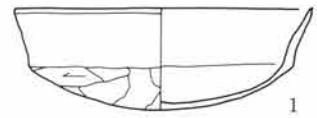
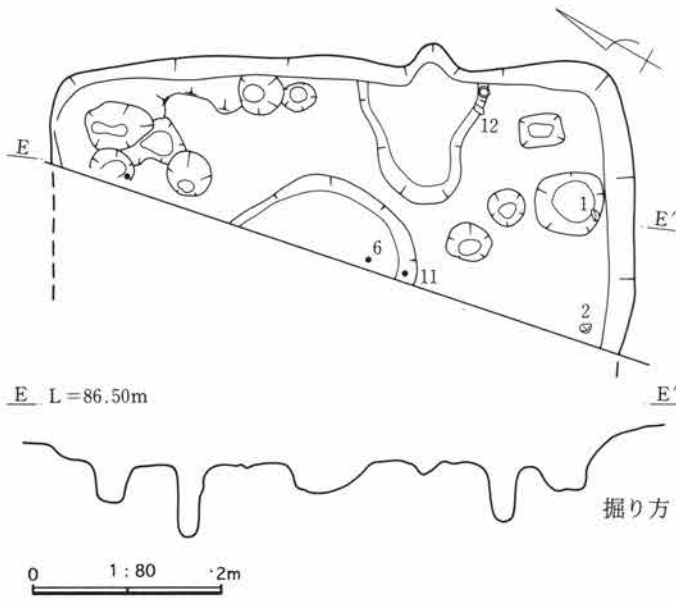
住居埋土

- 1：パミスを多く含む砂質の黒褐色土。
- 2：ローム粒子を多く含む弱粘性の暗褐色土。

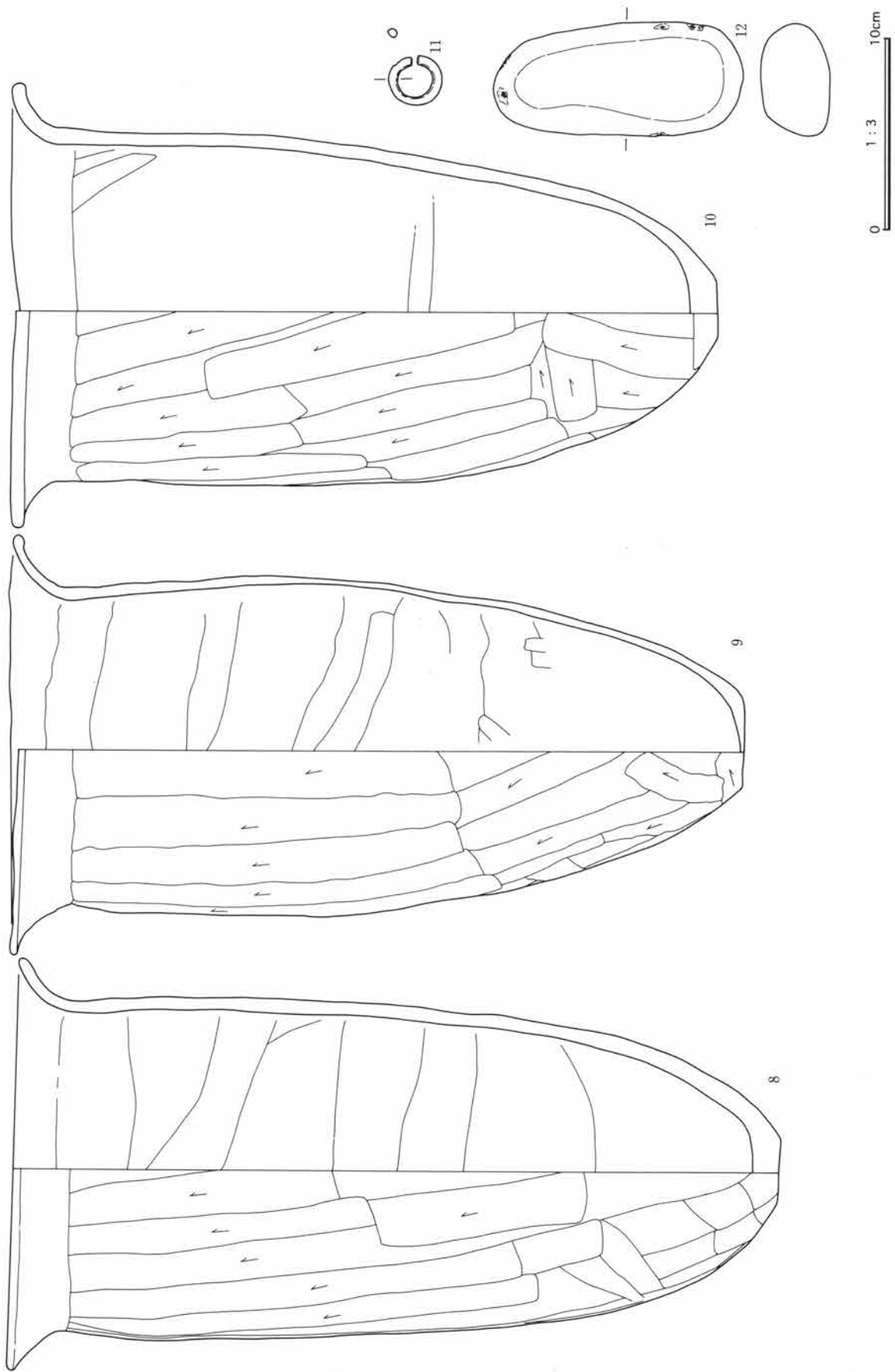


第25図 10号住居跡

第3節 古墳時代以降



第26図 10号住居跡及び出土遺物



第27図 10号住居跡出土遺物



## 10号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 92 No0082	土師器 杯	完形	口径 11.9 稜径 10.5 器高 4.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も撫でを施す。	
2 92 No0085	土師器 杯	口縁～底部 1/2 掘り方	口径(11.2) 稜径(11.7) 器高 4.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に丁寧な横方向の撫で、底部内面も全面に丁寧な撫でを施す。	
3 92 No0080	土師器 杯	完形	口径 13.1 稜径 11.0 器高 4.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	口縁部中位に段有り。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も撫でを施す。	
4 92 No0081	土師器 杯	完形	口径 11.9 稜径 11.0 器高 3.9	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も撫でを施す。	
5 92 No0083	土師器 杯	完形	口径 12.8 稜径 11.8 器高 4.7	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も全面に撫でを施す。中央より縦方向に直線に二つに割れる。型造りか。	
6 92 No0084	土師器 杯	掘り方 完形	口径 13.2 稜径 13.3 器高 4.9	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗・黒褐色	口縁部やや内湾気味。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も円形状に撫でを施す。	
7 92 No0090	土師器 長胴甕	略完形 胴部一部欠	口径 19.8 底径 4.4 器高 38.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	胴部外面の中位は縦方向の、上・下位は斜方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も横～斜方向の撫でを施す。	
8 92 No0088	土師器 長胴甕	完形	口径 21.0 底径 3.3 器高 39.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	胴部外面上～中位は縦方向、下位は斜方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も横方向の撫でを施す。	
9 92 No0089	土師器 甕 (長胴甕)	略完形 口縁一部欠	口径 20.4 底径 4.5 器高 37.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	胴部外面は縦(下から上)方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も横方向の撫でを施す。	
10 92 No0091	土師器 甕 (長胴甕)	略完形 口縁一部欠	口径 22.7 底径 2.9 器高 36.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～黒色	胴部外面は縦(下から上)方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面の全面に撫でを施す。外面胴部上位の一部に煤付着。	
11 92 No4002	金環	掘り方	長 2.8 幅 2.5 厚 0.5	銅主材	銅主材による耳飾で、やや細い。袂部は片側が少し開らき気味。	12.09 g
12 92 No2885	石製品 こもあみ石	掘り方 完形	長 12.9 幅 5.8 厚 3.9	粗粒安山岩	平面形は長楕円形を呈し、横断面は楕円歪む。	423 g

## 11号住居跡 (写真図版10・93)

位置：C-18Uグリッド付近

主軸方位：N-108°-E 規模：3.2m×3.6m

形状：平面形状は、隅丸方形を呈し、床面までの深さは、確認面より40cm～50cm程を測る。

カマド：住居南東コーナー部に位置し、煙道は比較的に長く、燃烧部は壁の外側に突出し設けられる。燃烧部手前より焼礫の散乱が見られることから、袖部等の構築材への礫の使用が推察される。

内部施設：床面上に浅い凹凸が認められるものの、柱穴や貯蔵穴等の遺構は検出されていない。また、東側壁際にのみ壁溝が検出される。

床面：地山ローム土を床面とし、堅く硬化する。

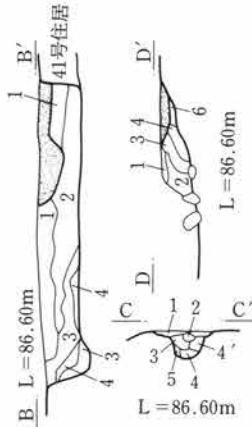
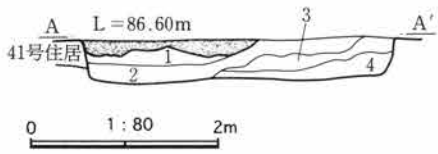
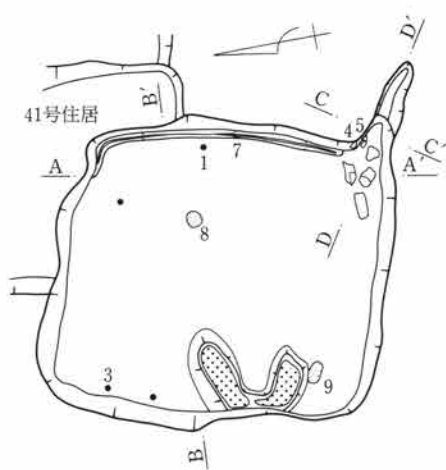
掘り方：なし。

出土遺物：土師器甕 (No.5) がカマド内より出土する。

重複：北東コーナー部において41号住居跡と重複し、埋土の状態より本遺構の方が新しいものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、10世紀代の住居跡と推定される。

第3章 検出遺構と遺物

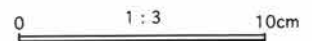
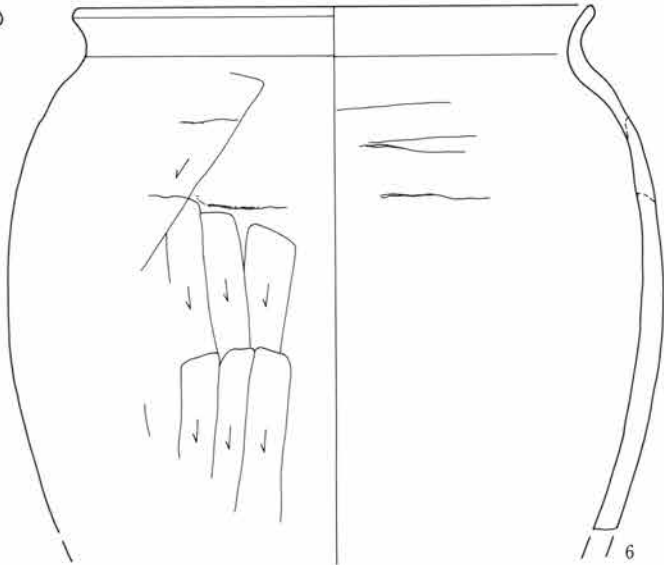
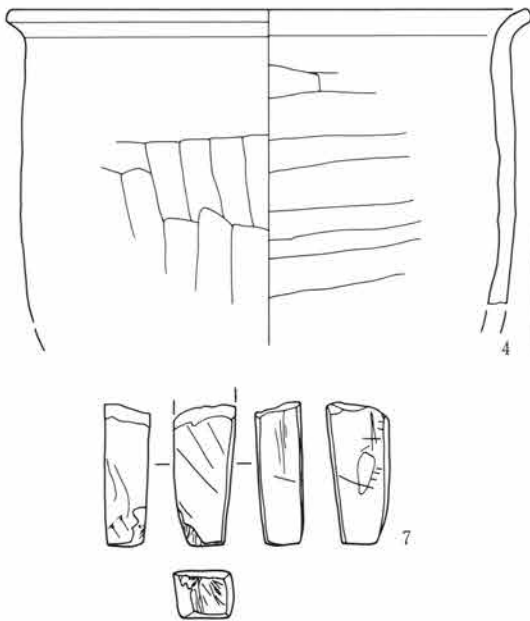
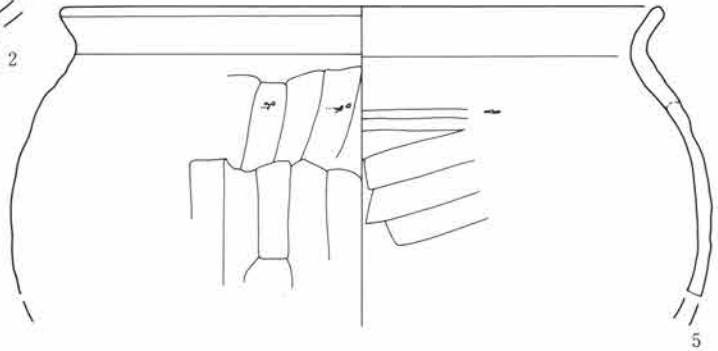
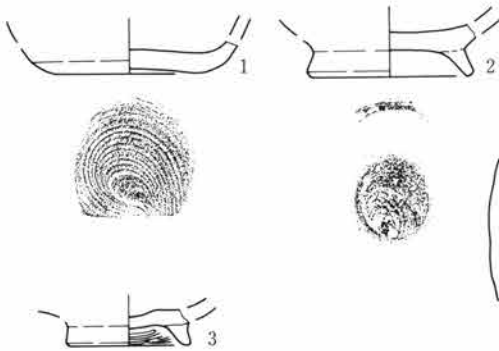


住居埋土

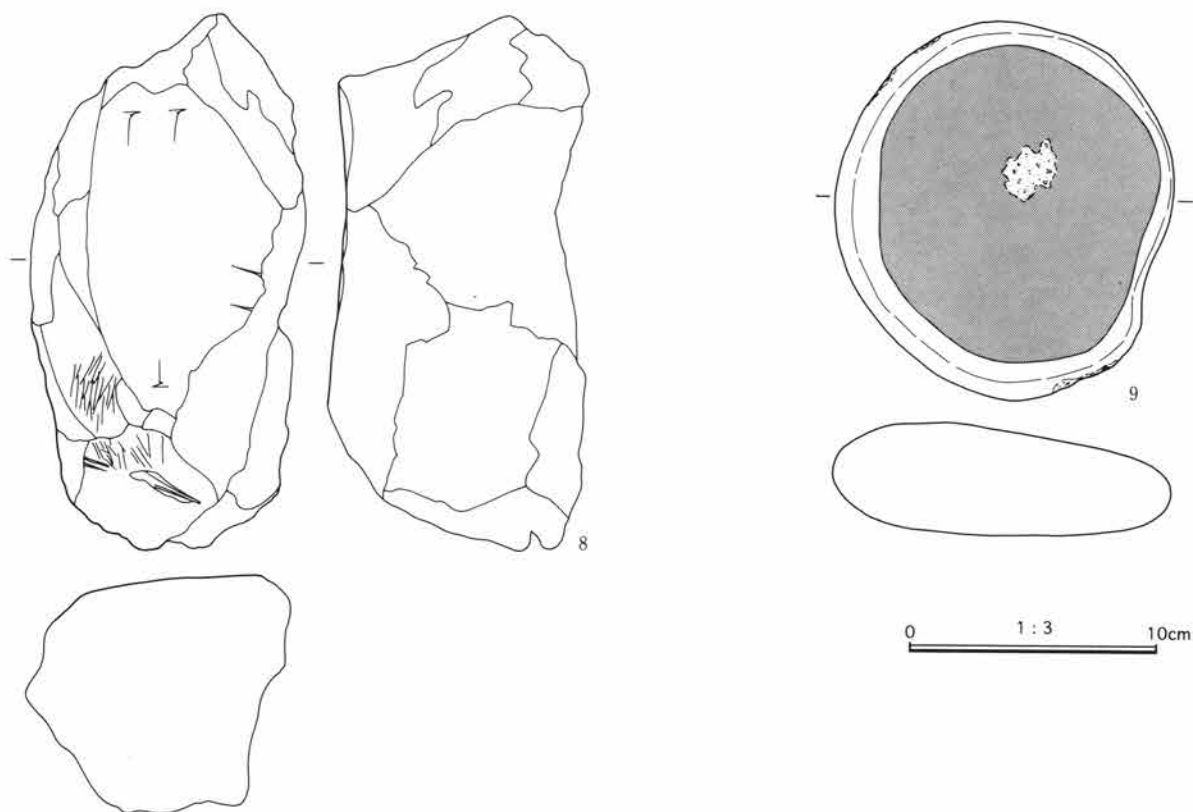
- 1: パミスを多く含む黒褐色砂質土。
- 2: ローム粒子・ブロックを不均質に含む暗褐色土。
- 3: ハードロームブロックを多く含む暗黄褐色土。
- 4: 炭化物を多く含み、しまりのない黒褐色土。

カマド埋土

- 1: ローム粒子を含む粘性のない褐色土。
- 2: 多量のローム粒子・FPと少量の炭化物・焼土粒子を含む暗褐色土。
- 3: 多量のローム粒子・ブロックと少量の焼土粒子・ブロックを含む褐色土。
- 4: 多量の焼土粒子・焼土ブロック・炭化物を含む暗褐色土。
- 4': 4層土+多量のロームブロック(壁・天井部の崩れか)。
- 5: 多量の焼土粒子・小ブロック・炭化物を含む褐色土。
- 6: 多量の焼土小ブロックを含む暗褐色土。



第28図 11号住居跡及び出土遺物



第29図 11号住居跡出土遺物

11号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 — No0095	須恵器 杯	底部破片	口径 — 底径(6.0) 器高 —	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ右回転。	
2 — No0097	須恵器 碗	底部破片	口径 — 底径(6.1) 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい黄橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り後に高台取付、外面底部中央に糸切り痕を残す。	
3 — No0098	須恵器 碗	高台部のみ	口径 — 底径 4.8 器高 —	胎:細砂粒 焼:酸化焰黒色処理 色:黒色	ロクロ成形、内外面共に全て丁寧な研磨を施し、黒色処理。	
4 93 No0102	土師器 甕	口縁~胴部 上位破片	口径(20.9) 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:赤褐~黒褐色	外面胴部は縦方向のヘラ削り後に撫で、外面口縁部は丁寧な横方向の撫で、内面は全面横方向の撫でを施す	
5 — No0101	土師器 甕	カマド 口縁~胴部 上位破片	口径(24.0) 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙~黒褐	外面胴部は縦方向のヘラ削り後に撫で、外面口縁部は丁寧な横方向の撫で、内面は全面横方向の撫でを施す	
6 93 No0103	土師器 甕	口縁~胴部 破片	口径(20.8) 器高(20.7) 最大径(26.0)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい黄橙色	外面胴部は縦方向のヘラ削り、外面口縁部は内外面共に丁寧な横方向の撫で、胴部内面は撫でを施す。	
7 93 No2143	石製品 砥石		長 (5.7) 幅 2.5 厚 1.9	砥沢石	流紋岩で斑晶少なく良砥石。小口一面と表・裏、側部5面の使用。中砥級。刃傷あり。	40 g
8 93 No2244	石製品 砥石		長 22.2 幅 10.8 厚 10.2	粗粒安山岩	側部・裏面は自然面。置砥。荒砥級。刃傷あり。	1860 g
9 93 No2969	石製品 磨石類	完形	長 15.0 幅 13.5 厚 4.4	二ツ岳軽石	質は軽く、全体に丸みおびる。トーン部は磨耗部で中央に凹あり。	1356 g

第3章 検出遺構と遺物

12号住居跡 (写真図版11・93)

位置：C-17Uグリッド付近

主軸方位：N-97°-E 規模：3.1m×4.0m

形状：平面形状は、隅丸方形を呈し、床面までの深度は確認面より40cm～50cm程を測る。

カマド：住居南東コーナー部に位置し、煙道は比較的長く、燃焼部は壁の外側に突出して設けられる。

内部施設：住居南西コーナー部において、貯蔵穴と考えられる隅丸長方形の土坑が検出される。また、柱穴は検出されていない。

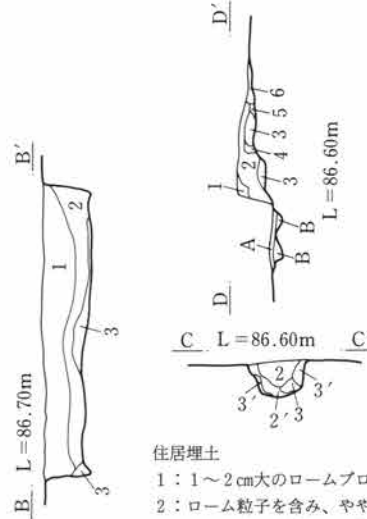
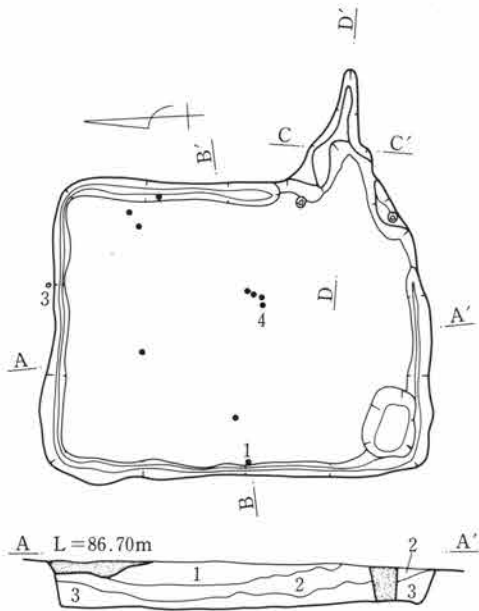
床面：住居中央部にはローム土を主体とする貼り床を施すが、周囲は地山ローム土を固めて床面とし、堅く硬化する。

掘り方：住居中央部に径80cm～100cm、深度20cm～30cm程を測る楕円形の床下土坑及び径30cm～40cm、深度15cm～25cmを測るピットを検出する。

出土遺物：出土遺物中の円筒埴輪は、カマド側壁・煙道・天井部に構築材として転用されたもの。

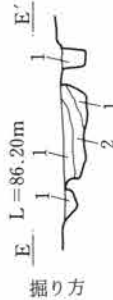
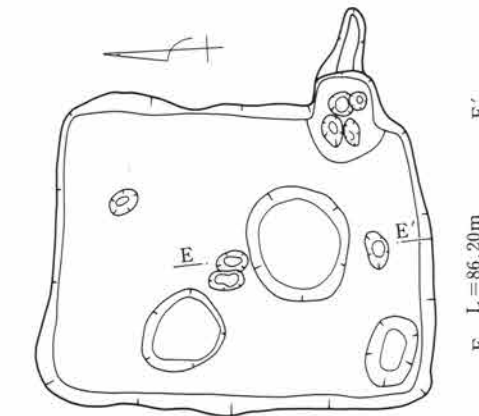
重複：重複する遺構はない。

時期：出土する遺物の年代より、10世紀代の住居跡と推定される。



住居埋土

- 1：1～2cm大のロームブロックを含む暗褐色土。
- 2：ローム粒子を含み、やや粘性をもつ黒褐色土。
- 3：ローム土・黒色土が不均質に混入する暗黄褐色土。



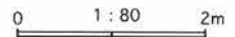
カマド埋土

- 1：FP・ローム小ブロックを少量含む暗褐色砂質土。
- 2：多量のロームブロックと少量のローム・焼土粒子を含む暗褐色土。
- 2'：2層土に類似し、より多くのローム粒子を含み、焼土を含まない暗褐色土。
- 3：2層土に類似し、より多くのローム粒子を含む暗褐色土。
- 3'：3層土に類似し、より多くのローム粒子を含む褐色土。
- 4：ロームブロック層。
- 5：ローム粒子・黒褐色土を含み、焼土を含まない暗褐色土。
- 6：ローム粒子・焼土粒子を含み、一部焼土化する褐色土。
- A：細粒の灰に炭化物・焼土粒子を含む。
- B：暗褐色粘質土に黒色土がラミナ状に混入する層。

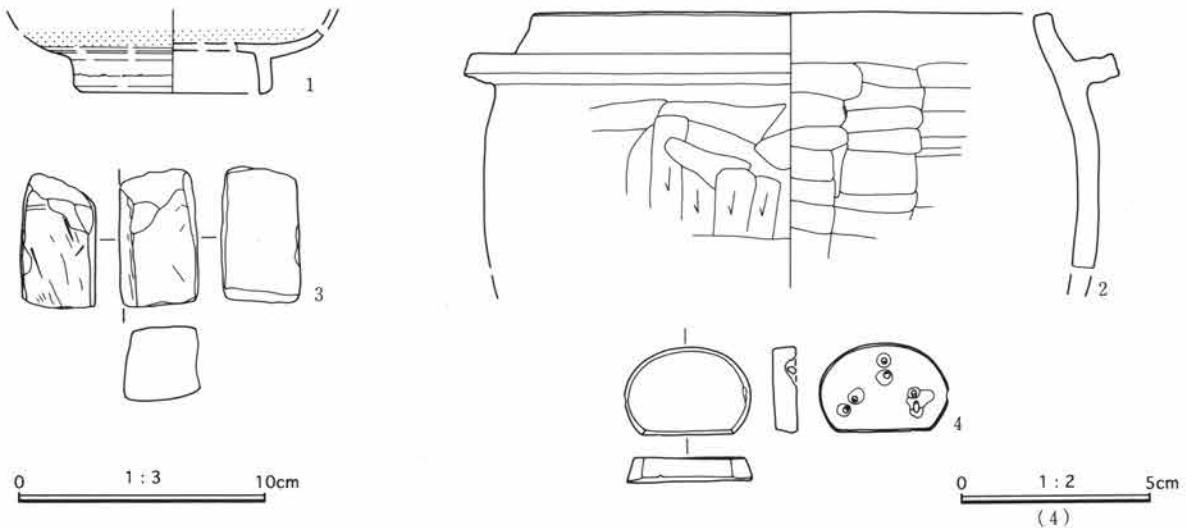
貯蔵穴埋土

- 1：しまりがなく、混入物の少ない黒色土。
- 1'：1層土に類似し、ローム小粒子を含む黒色土。
- 2：径1～3cm大のロームブロックと炭化物を多量に含む暗黄褐色土。

掘り方



第30図 12号住居跡



第31図 12号住居跡出土遺物

12号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 — No0108	灰釉陶器 碗	底部～高台 部破片	底径(7.2) 高台径 (8.0)	胎:緻密 焼:還元焰堅致	ロクロ整形、回転方向不明。高台は貼付で高く断面長方形を呈す。施釉方法は漬け掛けか。釉調は不透明な灰白色。	
2 93 No0111	須恵器 羽釜	床下 口縁～鐔～ 胴上位破片	口径(20.7) 鐔径(26.1) 底高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙～黒褐色	器形は均質。外面鐔下はへら削り、鐔～口縁は横方向の撫で、内面口縁は横方向の撫で、内面胴部は横方向のへら削り・へら撫で。外面鐔下に煤付着。	
3 93 No2149	石製品 砥石		長(5.4) 幅(3.1) 厚(3.0)	砥沢石	流紋岩で斑晶少なく良砥石。小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部3面使用。中砥級。	3面使用。 80g
4 93 No2843	石帯 丸柄	完形	長2.2 幅3.4 厚0.65	珪質頁岩	表面は精砂磨、裏面は、留めのための小孔があり。やや荒い研磨の条痕あり。	10g

13号住居跡 (写真図版12・13・93～95)

位置：C—16Tグリッド付近

主軸方位：N—75°—E 規模：4.7m×4.8m

形状：平面形状は、正方形を呈し、床面までの深度は確認面より40cm程を測る。

カマド：住居東壁の中央やや南寄りに位置し、燃烧部は壁の内側に設けられ、煙道部は極めて短い。両袖の端部に土師器甕を逆位に埋設し、芯材とする。また、燃烧部の中央にも甕の一部が埋設され、支脚としての機能が推察される。

内部施設：住居各コーナー部を結ぶ対角線上に、径10cm～40cm、深度35cm～40cmを測る柱穴が4穴検出される。また、住居南東コーナー部において径65cm×90cm、深度75cmを測る貯蔵穴を検出する。住居壁際には巾15cm程の壁溝が巡るが、この貯蔵穴の位置す

るコーナー部のみ床面が隆起し、壁溝を持たない。

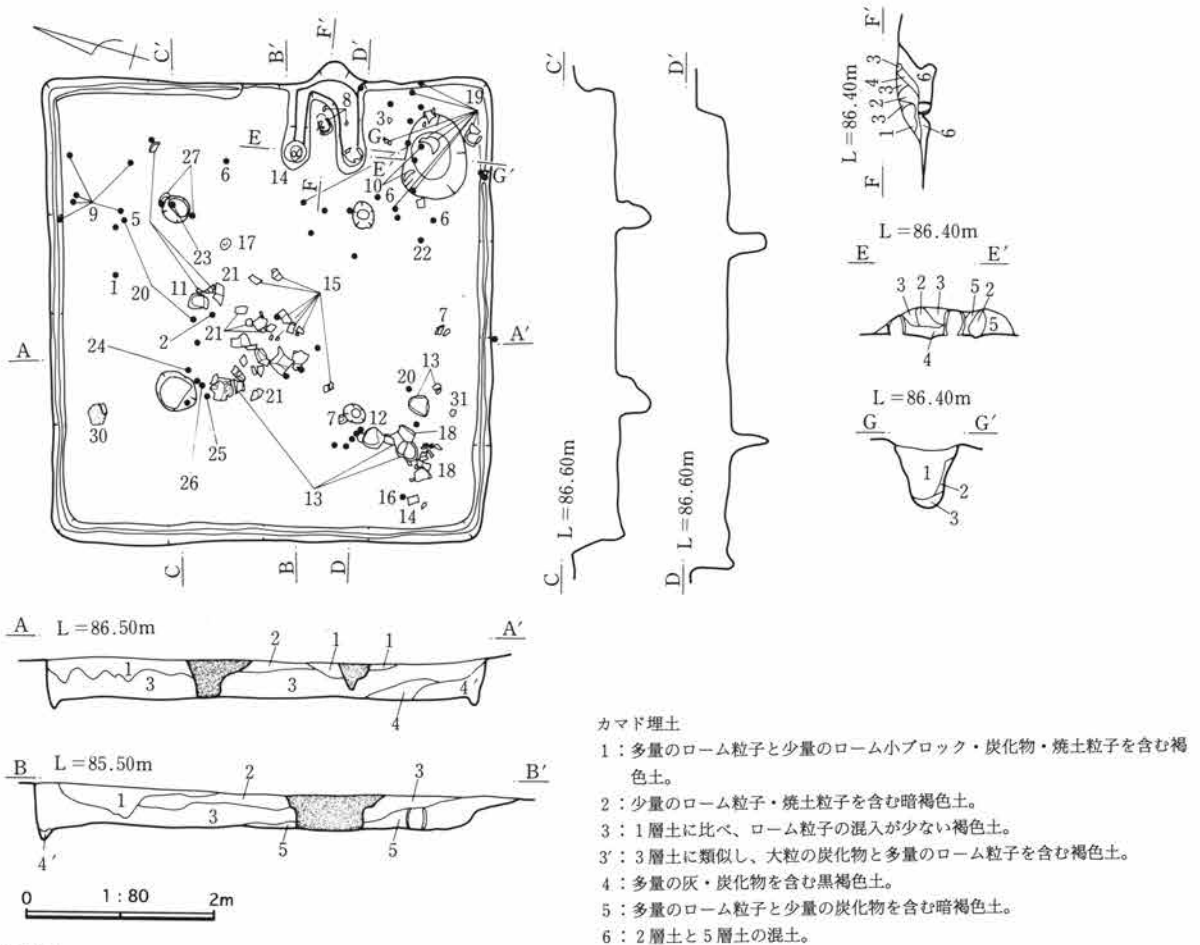
床面：地山ローム土を固めて床面とし、所々の浅い凹みを埋めるように貼り床を施す。

掘り方：浅い皿状の凹みを数カ所有するが、土坑状の掘り込みはない。

出土遺物：住居中央部の北西側柱穴付近の床面直上より134個の滑石製白玉が集中して出土し、また、北東側柱穴内部とその周囲より滑石製勾玉と白玉13個が出土する。

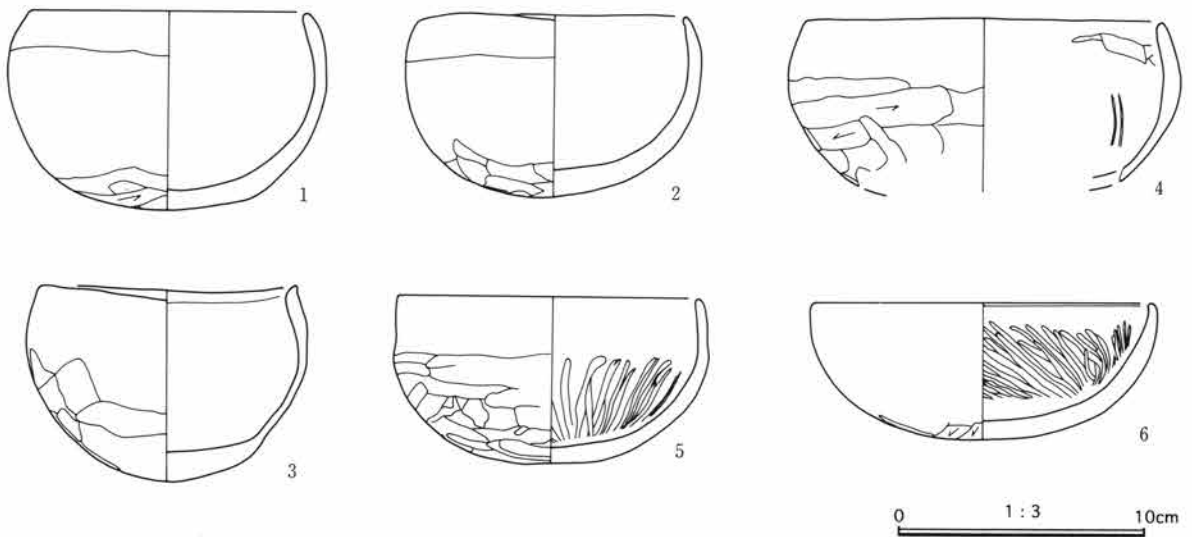
重複：重複する遺構はない。

時期：出土する遺物の年代より、5世紀代の住居跡と推定される。



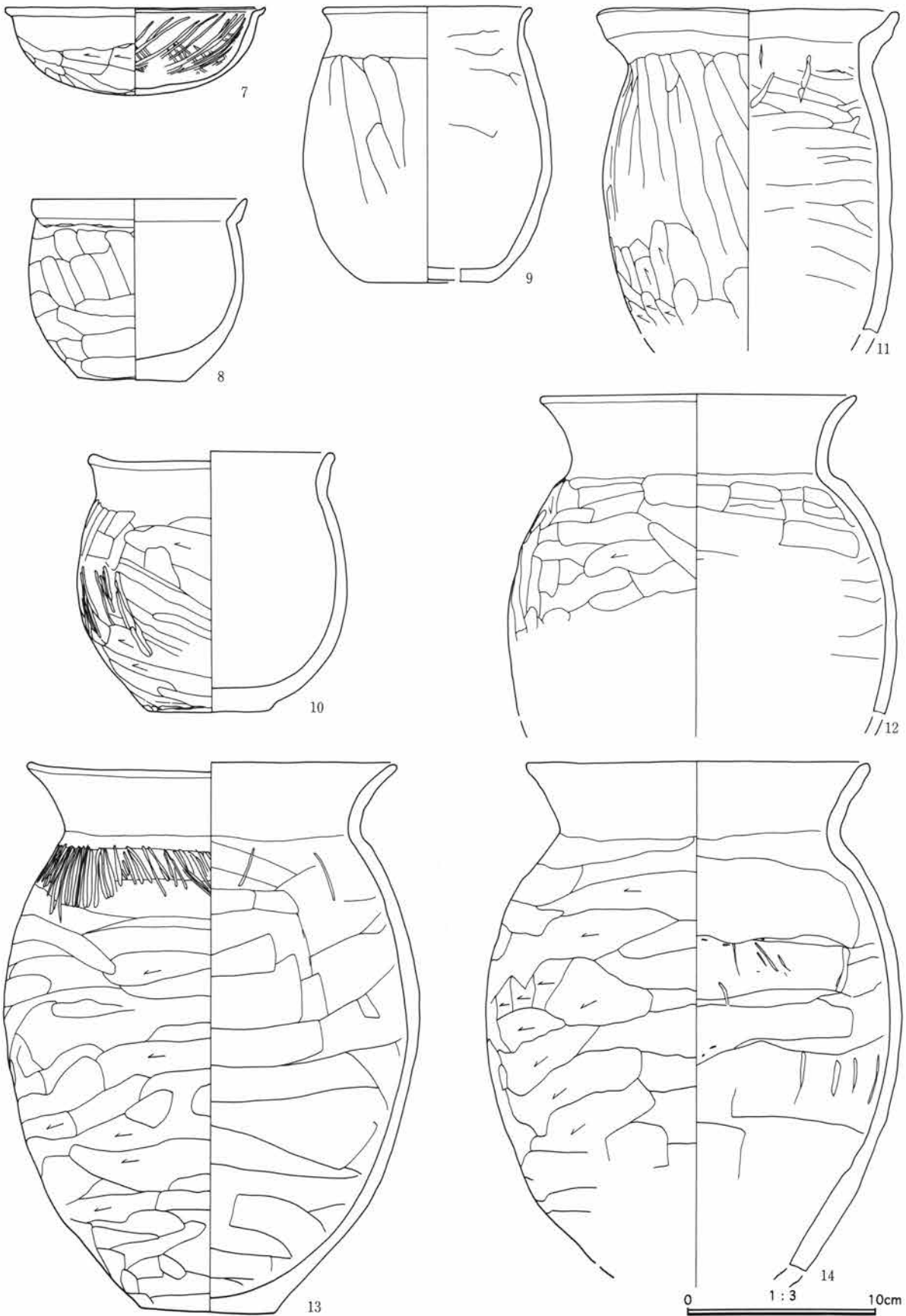
- 住居埋土
- 1：粘性がなく、部分的に焼土を含む黒褐色砂質土。
  - 2：1層土に比べ、やや粘性をもち、ローム粒子を含む黒褐色土。
  - 3：ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子を含む暗黄褐色土。
  - 4：ロームブロックを含まず、炭化物を含む暗褐色土。
  - 4'：4層土に類似し、ローム粒子を含む暗褐色土。
  - 5：4層土に類似するが、混入物が少なく、しまりのある暗褐色土。

- カマド埋土
- 1：多量のローム粒子と少量のローム小ブロック・炭化物・焼土粒子を含む褐色土。
  - 2：少量のローム粒子・焼土粒子を含む暗褐色土。
  - 3：1層土に比べ、ローム粒子の混入が少ない褐色土。
  - 3'：3層土に類似し、大粒の炭化物と多量のローム粒子を含む褐色土。
  - 4：多量の灰・炭化物を含む黒褐色土。
  - 5：多量のローム粒子と少量の炭化物を含む暗褐色土。
  - 6：2層土と5層土の混土。
- 貯蔵穴埋土
- 1：ローム粒子を少量含み、しまりのない暗褐色土。
  - 2：1層土に類似し、より多くのローム粒子を含む暗褐色土。
  - 3：炭化物を多く含み、有機質でしまりのない黒褐色土。

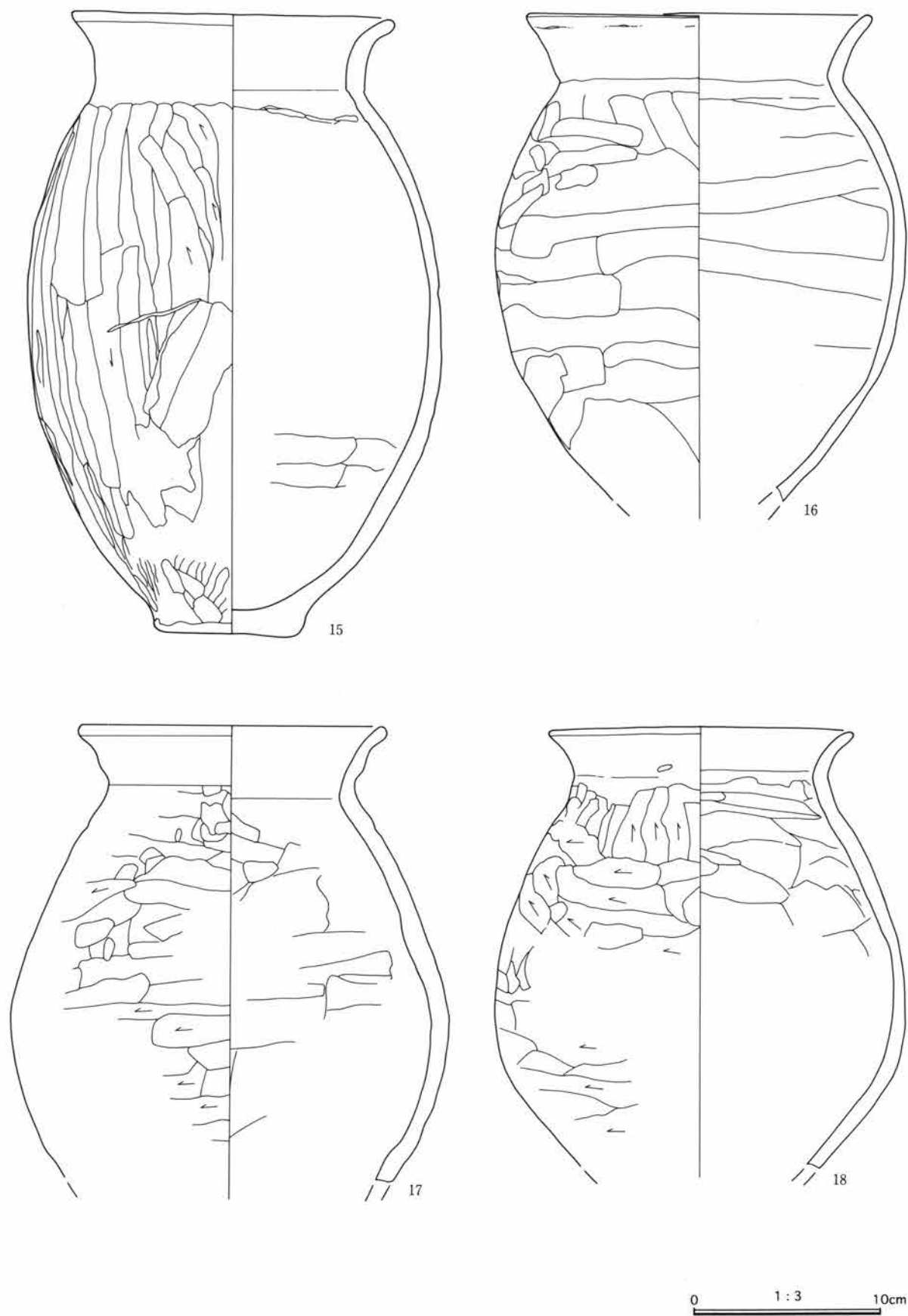


第32図 13号住居跡及び出土遺物

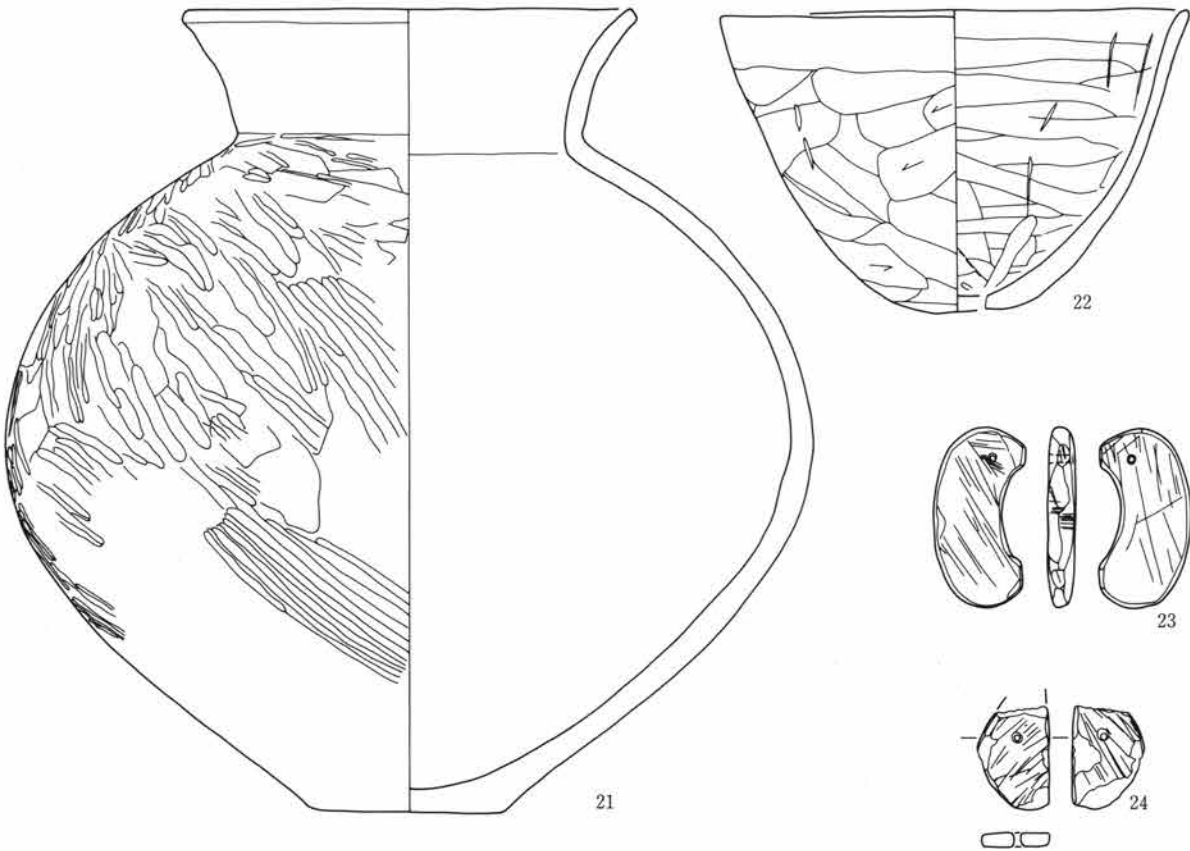
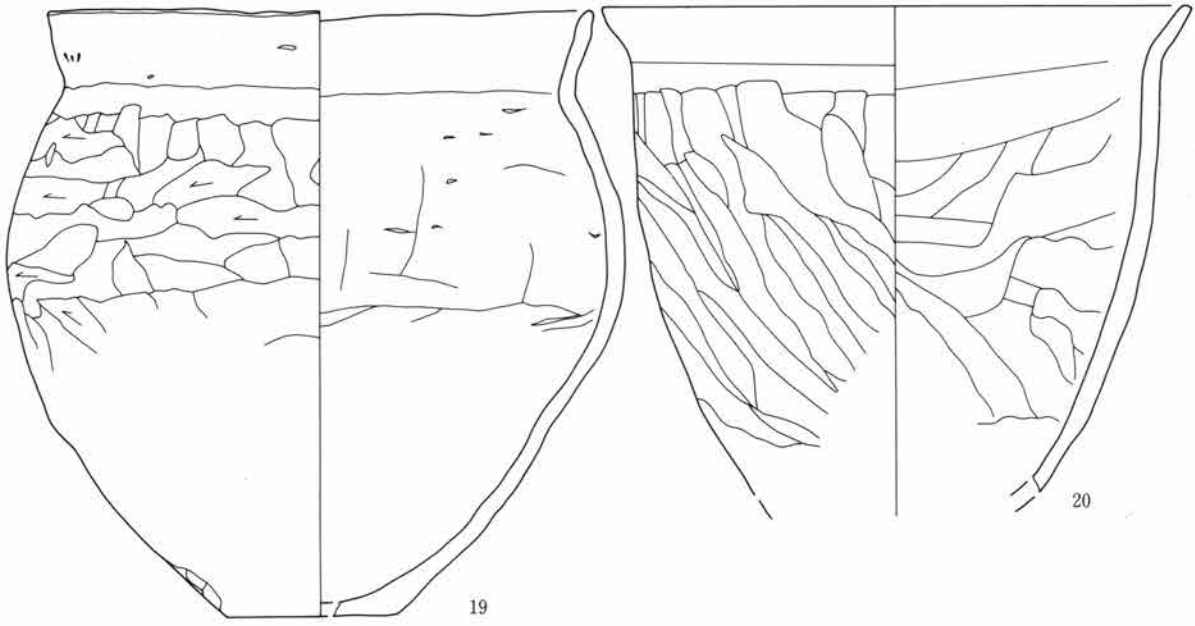




第33図 13号住居跡出土遺物



第34図 13号住居跡出土遺物



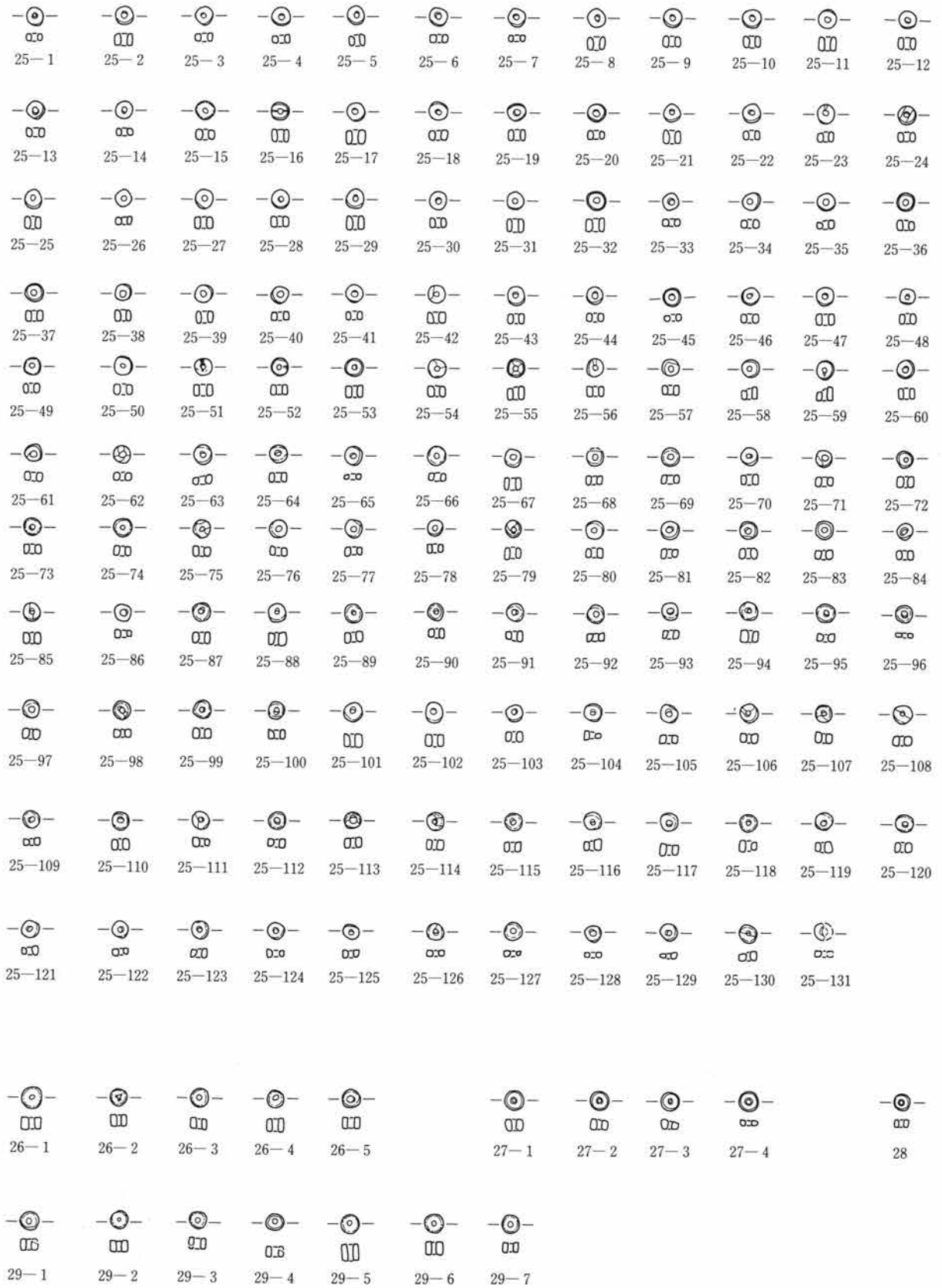
0 1:3 10cm

0 1:2 5cm

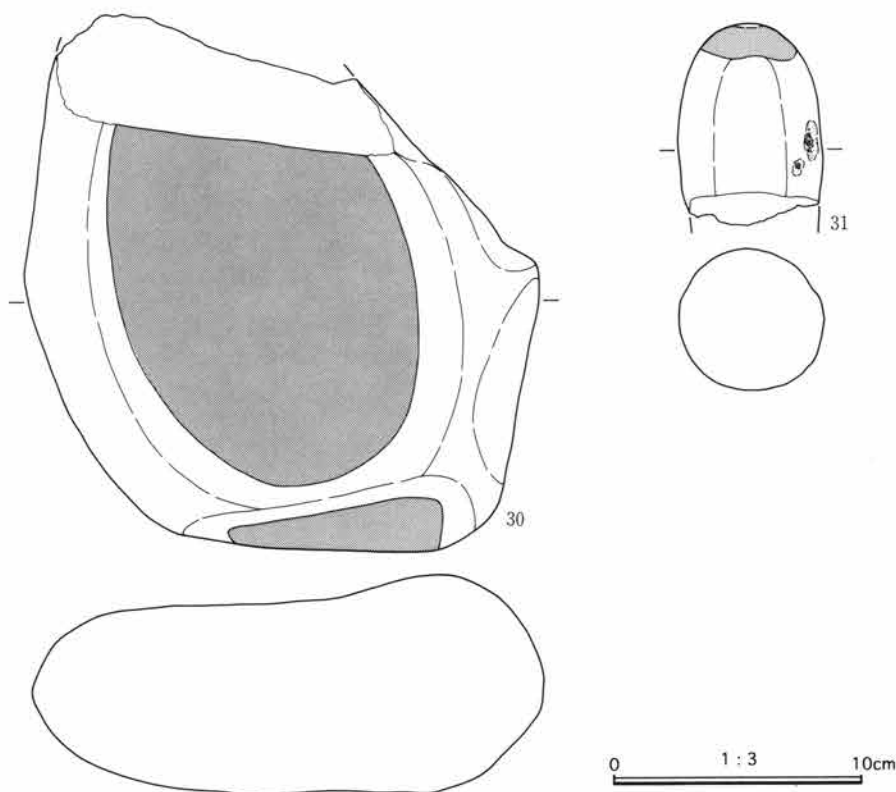
(23・24)

第35図 13号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と遺物



第36図 13号住居跡出土遺物



第37図 14号住居跡出土遺物

13号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 93 No0122	土師器 杯 (鉢)	略完形 口縁一部欠	口径 11.1 器高 7.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	底部外面はヘラ削り、体部外面はヘラ削り後に撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、体部～底部内面は縦方向の撫で。	
2 93 No0121	土師器 杯 (鉢)	完形	口径 10.7 器高 7.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	底部外面はヘラ削り、体部外面はヘラ削り後にやや粗い撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面体部～底部は全面に撫でを施す。	
3 93 No0123	土師器 杯 (鉢)	完形	口径 10.4 器高 7.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明黄褐～黒褐色	口縁部非水平、器形やや歪む。底部～体部外面はヘラ削り後に撫で、口縁部外面は粗い横方向の撫で、内面は全面にやや粗い撫でを施す。	
4 93 No0120	土師器 鉢	口縁～体部 破片	口径(14.3) 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～褐色	体部外面はヘラ削り、口縁部外面は横方向の撫で、内面は全面に撫での後、口縁部に一部にヘラ撫でを施す。	
5 93 No0118	土師器 杯	口縁～底部 1/5	口径 12.1 器高 6.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	底部～体部外面はヘラ削り・ヘラ撫で後にヘラ磨き、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底～体部は全面に撫での後に放射状のヘラ磨きを施す。	
6 93 No0119	土師器 杯	口縁～底部 1/5弱	口径(13.8) 器高 5.4	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り後に撫で、口縁部は内外面共にやや粗い横方向の撫で、内面は全面に撫での後、底部を除き体部のみ斜方向のヘラ磨きを施す。	
7 93 No0117	土師器 杯	口縁～底部 1/5	口径 13.7 器高 4.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部及び外面口縁部下は横方向の丁寧な撫で、内面は全面に撫での後、底部を除き体部のみ格子状のヘラ磨きを施す。	
8 93 No0133	土師器 小形甕	カマド掘方 略完形	口径 11.4 底径 5.8 器高 9.4	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～橙色	口縁部非水平。底部～胴部はヘラ削り。口縁部は内外面共に粗い横方向の撫で、胴部内面も全面に撫でを施す。底部内面は器壁の一部が剥落する。	
9 93 No0131	土師器 小形甕	口縁～底部 1/2	口径(11.0) 底径(6.5) 器高 14.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～灰褐色	器形はやや歪む。胴部外面は縦方向のヘラ削り、口縁部付近は内外面共に横方向の撫で、胴部～底部内面は全面に撫でを施す。	
10 93 No0132	土師器 甕	口縁～底部 3/4	口径 12.9 底径 6.5 器高 13.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	胴部外面はヘラ削りの後に部分的に粗いヘラ磨き、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は全面に撫での後に部分的に粗いヘラ磨きを施す。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考			
11 93 No0135	土師器 甕	口縁～胴部 中位(全周)	口径 15.8 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	胴部外面中位は縦方向のヘラ削り、上位はヘラ削り後縦方向の粗いヘラ撫で、口縁部外面はハケ目状の横方向の撫で、口縁部及び胴部内面は横方向の撫でを施す				
12 93 No0136	土師器 甕	口縁～胴部 中位(全周)	口径 16.5 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗赤褐色	胴部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も横方向の撫でを施す。				
13 94 No0138	土師器 甕	略完形 胴部一部欠	口径 19.4 底径 6.9 器高 28.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒色	胴部外面は横方向のヘラ削り、胴部外面上位のみ縦方向の細かいヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横方向のヘラ撫でを施す。				
14 94 No0140	土師器 甕	カマド掘方 口縁～胴部 下位	口径 18.1 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	胴部外面は横方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横方向のヘラ撫でを施す。				
15 94 No0141	土師器 甕	略完形 胴部一部欠	口径 17.0 底径 7.8 器高 32.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	胴部外面は縦方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も全面に横方向の撫でを施す。				
16 94 No0139	土師器 甕	口縁～胴部 下位	口径 18.2 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	胴部外面は横方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横方向のヘラ撫でを施す。				
17 94 No0144	土師器 甕	口縁～胴部 下位破片	口径(16.2) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明～暗赤褐色	胴部外面は横方向のヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横方向のヘラ撫でを施す。				
18 94 No0143	土師器 甕	口縁～胴部 下位	口径 16.1 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	胴部外面は上位が縦方向、中位～下位が横方向のヘラ削り及びヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横方向のヘラ撫でを施す。				
19 95 No0151	土師器 甕	口縁～底部 $\frac{2}{3}$	口径 21.7 底径(7.8) 器高 23.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色・黒色	胴部外面は縦・横方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は全面に撫でを施す。				
20 94 No0137	土師器 甕	口縁～胴部 中位破片	口径 23.4 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	胴部外面は縦～斜方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横～斜方向のヘラ撫で及び指撫でを施す。				
21 95 No0142	土師器 壺	口縁～底部 $\frac{1}{3}$	口径 18.1 底径 7.5 器高 31.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	胴部外面は全面に撫での後に斜方向の粗いヘラ磨き、口縁部は内外面共に横方向の撫での後に外面のみ縦方向のヘラ磨き、胴部内面は全面に撫でを施す。				
22 94 No0130	土師器 甕 (一穴)	完形	口径 18.6 孔径 2.2 器高 11.9	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒色	体部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、体部内面も全面に撫でを施す。縦方向に直線的に大きく2分割。				
23 95 No2831	滑石製模造 品 勾玉	完形	長 7.2 幅 2.8 厚 1.0	滑石質蛇紋岩	側部のくびれ部、背部ともに研磨時の削面単位が残る、表・裏ともに荒い研磨痕が残る。	13g			
24 95 No2835	滑石製模造 品 不明	完形	長(2.7) 幅 1.9 厚 0.4	滑石	図上方は欠損部、表・裏ともに荒い研磨痕が残される。	4.34g			
25 95 No2822	滑石製模造 品 白玉				全体に穿孔位置は中央であるが、片寄る個体もある。穿孔は片側の穿孔を主とする。	131個			
図版番号	外 径	厚	重 量	石 材	図版番号	外 径	厚	重 量	石 材
25-1	0.6mm	0.2mm	0.16g	滑 石	25-67	0.6mm	0.4mm	0.28g	滑石質蛇紋岩
-2	0.6mm	0.4mm	0.26g	滑 石	-68	0.6mm	0.3mm	0.17g	滑 石
-3	0.6mm	0.2mm	0.08g	滑 石	-69	0.6mm	0.3mm	0.20g	滑 石
-4	0.6mm	0.3mm	0.18g	滑石質蛇紋岩	-70	0.6mm	0.3mm	0.22g	滑 石
-5	0.6mm	0.3mm	0.22g	滑石質蛇紋岩	-71	0.6mm	0.3mm	0.18g	滑石質蛇紋岩
-6	0.6mm	0.2mm	0.18g	滑石質蛇紋岩	-72	0.6mm	0.4mm	0.26g	滑 石
-7	0.6mm	0.2mm	0.14g	滑 石	-73	0.6mm	0.3mm	0.21g	滑石質蛇紋岩
-8	0.6mm	0.4mm	0.31g	滑石質蛇紋岩	-74	0.6mm	0.3mm	0.25g	滑 石
-9	0.6mm	0.3mm	0.28g	滑 石	-75	0.6mm	0.3mm	0.25g	滑 石
-10	0.6mm	0.3mm	0.29g	滑 石	-76	0.6mm	0.3mm	0.20g	滑石質蛇紋岩
-11	0.6mm	0.4mm	0.31g	滑 石	-77	0.6mm	0.3mm	0.23g	滑石質蛇紋岩
-12	0.6mm	0.3mm	0.24g	滑石質蛇紋岩	-78	0.6mm	0.3mm	0.16g	滑石質蛇紋岩
-13	0.6mm	0.3mm	0.18g	滑 石	-79	0.6mm	0.4mm	0.26g	滑 石
-14	0.6mm	0.2mm	0.12g	滑石質蛇紋岩	-80	0.6mm	0.3mm	0.25g	滑 石
-15	0.6mm	0.3mm	0.17g	滑 石	-81	0.6mm	0.3mm	0.20g	滑石質蛇紋岩



第3節 古墳時代以降

25-16	0.6mm	0.4mm	0.26 g	滑石質蛇紋岩	25-82	0.6mm	0.3mm	0.20 g	滑石質蛇紋岩	
-17	0.6mm	0.5mm	0.28 g	滑石質蛇紋岩	-83	0.6mm	0.3mm	0.21 g	滑石質蛇紋岩	
-18	0.6mm	0.3mm	0.23 g	滑石	-84	0.5mm	0.2mm	0.12 g	滑石質蛇紋岩	
-19	0.6mm	0.4mm	0.20 g	滑石質蛇紋岩	-85	0.6mm	0.3mm	0.21 g	滑石	
-20	0.6mm	0.3mm	0.19 g	滑石質蛇紋岩	-86	0.6mm	0.3mm	0.14 g	滑石質蛇紋岩	
-21	0.5mm	0.4mm	0.26 g	滑石	-87	0.6mm	0.3mm	0.23 g	滑石	
-22	0.6mm	0.3mm	0.17 g	滑石質蛇紋岩	-88	0.6mm	0.4mm	0.29 g	滑石	
-23	0.6mm	0.3mm	0.18 g	滑石	-89	0.6mm	0.3mm	0.24 g	滑石	
-24	0.6mm	0.3mm	0.20 g	滑石	-90	0.6mm	0.3mm	0.20 g	滑石	
-25	0.6mm	0.4mm	0.25 g	滑石	-91	0.6mm	0.3mm	0.20 g	滑石	
-26	0.5mm	0.3mm	0.14 g	滑石質蛇紋岩	-92	0.6mm	0.3mm	0.19 g	滑石	
-27	0.6mm	0.3mm	0.22 g	滑石質蛇紋岩	-93	0.6mm	0.3mm	0.19 g	滑石質蛇紋岩	
-28	0.6mm	0.3mm	0.21 g	滑石	-94	0.6mm	0.4mm	0.30 g	滑石	
-29	0.6mm	0.4mm	0.29 g	滑石	-95	0.6mm	0.2mm	0.20 g	滑石質蛇紋岩	
-30	0.6mm	0.3mm	0.19 g	滑石質蛇紋岩	-96	0.6mm	0.2mm	0.13 g	滑石質蛇紋岩	
-31	0.6mm	0.4mm	0.24 g	滑石質蛇紋岩	-97	0.6mm	0.3mm	0.25 g	滑石質蛇紋岩	
-32	0.6mm	0.4mm	0.30 g	滑石質蛇紋岩	-98	0.6mm	0.2mm	0.14 g	滑石	
-33	0.6mm	0.2mm	0.17 g	滑石質蛇紋岩	-99	0.6mm	0.4mm	0.26 g	滑石	
-34	0.6mm	0.3mm	0.20 g	滑石	-100	0.6mm	0.3mm	0.22 g	滑石質蛇紋岩	
-35	0.6mm	0.2mm	0.18 g	滑石質蛇紋岩	-101	0.6mm	0.4mm	0.29 g	滑石	
-36	0.6mm	0.3mm	0.19 g	滑石	-102	0.6mm	0.4mm	0.28 g	滑石質蛇紋岩	
-37	0.6mm	0.4mm	0.26 g	滑石質蛇紋岩	-103	0.6mm	0.4mm	0.24 g	滑石	
-38	0.6mm	0.3mm	0.22 g	滑石質蛇紋岩	-104	0.6mm	0.3mm	0.17 g	滑石質蛇紋岩	
-39	0.6mm	0.4mm	0.28 g	滑石	-105	0.6mm	0.3mm	0.20 g	滑石質蛇紋岩	
-40	0.6mm	0.2mm	0.12 g	滑石質蛇紋岩	-106	0.6mm	0.3mm	0.22 g	滑石	
-41	0.6mm	0.3mm	0.15 g	滑石質蛇紋岩	-107	0.6mm	0.3mm	0.24 g	滑石	
-42	0.6mm	0.3mm	0.24 g	滑石	-108	0.6mm	0.3mm	0.23 g	滑石	
-43	0.6mm	0.3mm	0.21 g	滑石	-109	0.6mm	0.3mm	0.16 g	滑石質蛇紋岩	
-44	0.6mm	0.2mm	0.15 g	滑石質蛇紋岩	-110	0.6mm	0.3mm	0.20 g	滑石質蛇紋岩	
-45	0.6mm	0.2mm	0.12 g	滑石質蛇紋岩	-111	0.6mm	0.2mm	0.14 g	滑石	
-46	0.6mm	0.3mm	0.15 g	滑石質蛇紋岩	-112	0.6mm	0.2mm	0.21 g	滑石質蛇紋岩	
-47	0.6mm	0.3mm	0.27 g	滑石質蛇紋岩	-113	0.6mm	0.3mm	0.27 g	滑石質蛇紋岩	
-48	0.6mm	0.3mm	0.18 g	滑石質蛇紋岩	-114	0.6mm	0.4mm	0.25 g	滑石質蛇紋岩	
-49	0.6mm	0.3mm	0.23 g	滑石質蛇紋岩	-115	0.6mm	0.3mm	0.22 g	滑石	
-50	0.6mm	0.3mm	0.26 g	滑石	-116	0.6mm	0.3mm	0.20 g	滑石	
-51	0.6mm	0.3mm	0.22 g	滑石	-117	0.6mm	0.3mm	0.23 g	滑石質蛇紋岩	
-52	0.6mm	0.3mm	0.20 g	滑石質蛇紋岩	-118	0.6mm	0.3mm	0.18 g	滑石質蛇紋岩	
-53	0.6mm	0.4mm	0.27 g	滑石質蛇紋岩	-119	0.6mm	0.4mm	0.25 g	滑石質蛇紋岩	
-54	0.6mm	0.3mm	0.19 g	滑石	-120	0.6mm	0.2mm	0.20 g	滑石質蛇紋岩	
-55	0.6mm	0.4mm	0.25 g	滑石質蛇紋岩	-121	0.6mm	0.2mm	0.14 g	滑石質蛇紋岩	
-56	0.6mm	0.3mm	0.22 g	滑石	-122	0.6mm	0.2mm	0.13 g	滑石質蛇紋岩	
-57	0.6mm	0.3mm	0.18 g	滑石質蛇紋岩	-123	0.6mm	0.3mm	0.19 g	滑石質蛇紋岩	
-58	0.6mm	0.4mm	0.18 g	滑石質蛇紋岩	-124	0.6mm	0.2mm	0.12 g	滑石質蛇紋岩	
-59	0.6mm	0.3mm	0.24 g	滑石	-125	0.5mm	0.2mm	0.13 g	滑石質蛇紋岩	
-60	0.6mm	0.3mm	0.21 g	滑石	-126	0.6mm	0.2mm	0.10 g	滑石質蛇紋岩	
-61	0.5mm	0.3mm	0.16 g	滑石質蛇紋岩	-127	0.6mm	0.2mm	0.06 g	滑石質蛇紋岩	
-62	0.6mm	0.2mm	0.16 g	滑石質蛇紋岩	-128	0.6mm	0.1mm	0.06 g	滑石質蛇紋岩	
-63	0.6mm	0.3mm	0.20 g	滑石質蛇紋岩	-129	0.6mm	0.1mm	0.09 g	滑石	
-64	0.6mm	0.3mm	0.25 g	滑石質蛇紋岩	-130	0.6mm	0.3mm	0.15 g	滑石	
-65	0.6mm	0.2mm	0.13 g	滑石質蛇紋岩	-131	(0.6)	(0.1)	0.10 g	滑石	
-66	0.6mm	0.3mm	0.22 g	滑石						
図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴					備考
26 95 No.2827	滑石製模造 品 白玉	完形			26-1が少し大きめのほか、4点は、前出25の大きさに近い。片側穿孔を主とする。					5個
図版番号	外 径	厚	重 量	石 材	図版番号	外 径	厚	重 量	石 材	
26-1	0.6mm	0.3mm	0.35 g	滑 石	26-4	0.6mm	0.4mm	0.32 g	滑 石	
-2	0.5mm	0.3mm	0.24 g	滑 石	-5	0.6mm	0.3mm	0.24 g	蛇 紋 岩	
-3	0.6mm	0.3mm	0.27 g	蛇 紋 岩						

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考			
27 95 No2836	滑石製模造 品 白玉	完形			大きさは前出25・26に近い。片側の穿孔を主とする。	4個			
図版番号	外 径	厚	重 量	石 材	図版番号	外 径	厚	重 量	石 材
27-1	0.6mm	0.4mm	0.31g	滑 石	27-3	0.6mm	0.3mm	0.24g	滑 石
-2	0.6mm	0.3mm	0.18g	滑 石	-4	0.6mm	0.2mm	0.11g	滑 石
図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考			
28 95 No2833	滑石製模造 品 白玉	完形	器高0.25 最大径0.55		最小級である。厚さも薄い。	0.15g 1個			
29 95 No2834	滑石製模造 品 白玉	完形			29-5のように長い玉も含まれている。	7個			
図版番号	外 径	厚	重 量	石 材	図版番号	外 径	厚	重 量	石 材
29-1	0.6mm	0.3mm	0.20g	蛇 紋 岩	29-5	0.6mm	0.5mm	0.34g	蛇 紋 岩
-2	0.6mm	0.4mm	0.32g	滑 石	-6	0.6mm	0.4mm	0.30g	滑 石
-3	0.6mm	0.3mm	0.23g	蛇 紋 岩	-7	0.6mm	0.3mm	0.29g	滑 石
-4	0.6mm	0.4mm	0.24g	滑 石					
図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考			
30 95 No2976	石製品 台石	3/4	長 (21.4) 幅 20.5 厚 9.7	輝緑岩	全体的には川原石状に丸みをおび上方に欠損あり。	5843g			
31 95 No2887	石製品 こもあみ石	1/2	長 ( 8.0) 幅 5.7 厚 5.6	粗粒安山岩	下方に欠損がある。平面形は楕円形を呈し、横断面は円形に近い。	382g			

14号住居跡 (写真図版14・96)

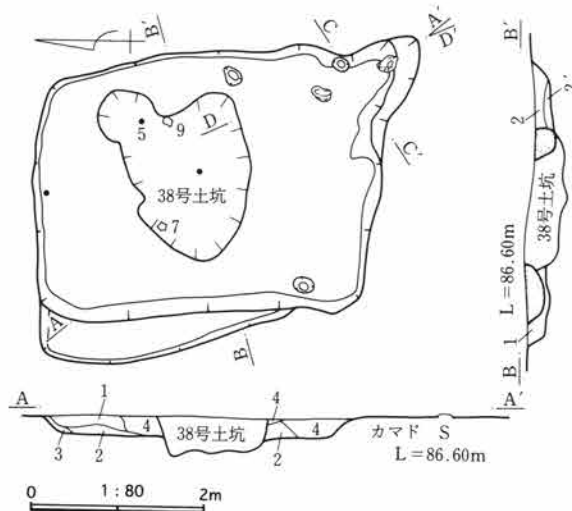
位置：C-15Uグリッド付近

主軸方位：N-90°-E 規模：3.0m×4.1m

形状：平面形状は、隅丸長方形を呈し、床面までの

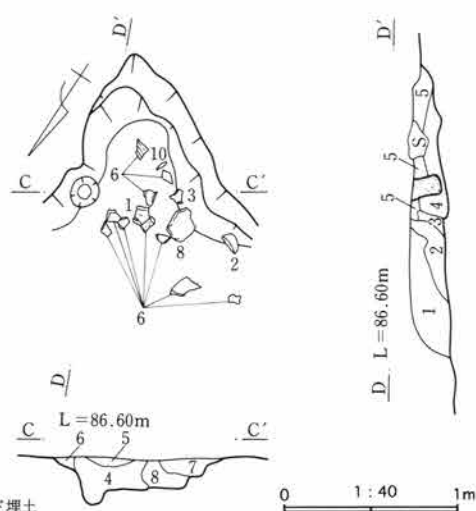
深度は確認面より20cm程を測る。

カマド：住居南東コーナー部に位置し、住居の主軸に対し約50°程南側に軸を振る。燃烧部は壁の外側に設けられ、その手前より礫の出土が見られることが



住居埋土

- 1：多量のローム粒子と少量のローム小ブロックを含む暗褐色土。
- 2：1層土に類似し、色調がやや暗く、ローム小ブロックがやや大粒となる。
- 2'：2層土に類似し、焼土粒子を含む暗褐色土。
- 3：2層土に類似し、径3~5cm大のロームブロックを含む暗褐色土。
- 4：ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土。
- 5：攪乱土。バミスを多く含み、しまりのない暗褐色砂質土。
- 6：4層土に類似し、バミスを含む暗褐色土。



カマド埋土

- 1：多量のバミスと少量のローム・焼土粒子を含む暗褐色土。
- 2：1層土に類似し、バミスの混入が少なく、焼土粒子を多く含む。
- 3：多量のローム粒子・ロームブロックを含む黄褐色土。
- 4：2層土に類似し、バミスとローム粒子の混入が極めて少ない。
- 5：多量の焼土粒子・焼土ブロックを含む暗褐色土。
- 6：多量のローム粒子と少量のバミスを含む暗褐色土。
- 7：4層土に類似し、ローム土を斑状に含み、粘性のない暗褐色土。
- 8：多量のローム粒子と少量のバミスを含み、堅くしまりのある明褐色土。

第38図 14号住居跡

ら、袖部等に礫を用いたと考えられる。また、燃焼部より鳥形埴輪の頸～胸部、及び円筒埴輪片が出土し、鳥形埴輪は頸部端に煤が付着していることから、煙道部の煙突として加工・転用されたものと考えられる。

**内部施設：**住居中央部の東側に柱穴を1穴検出するのみである。

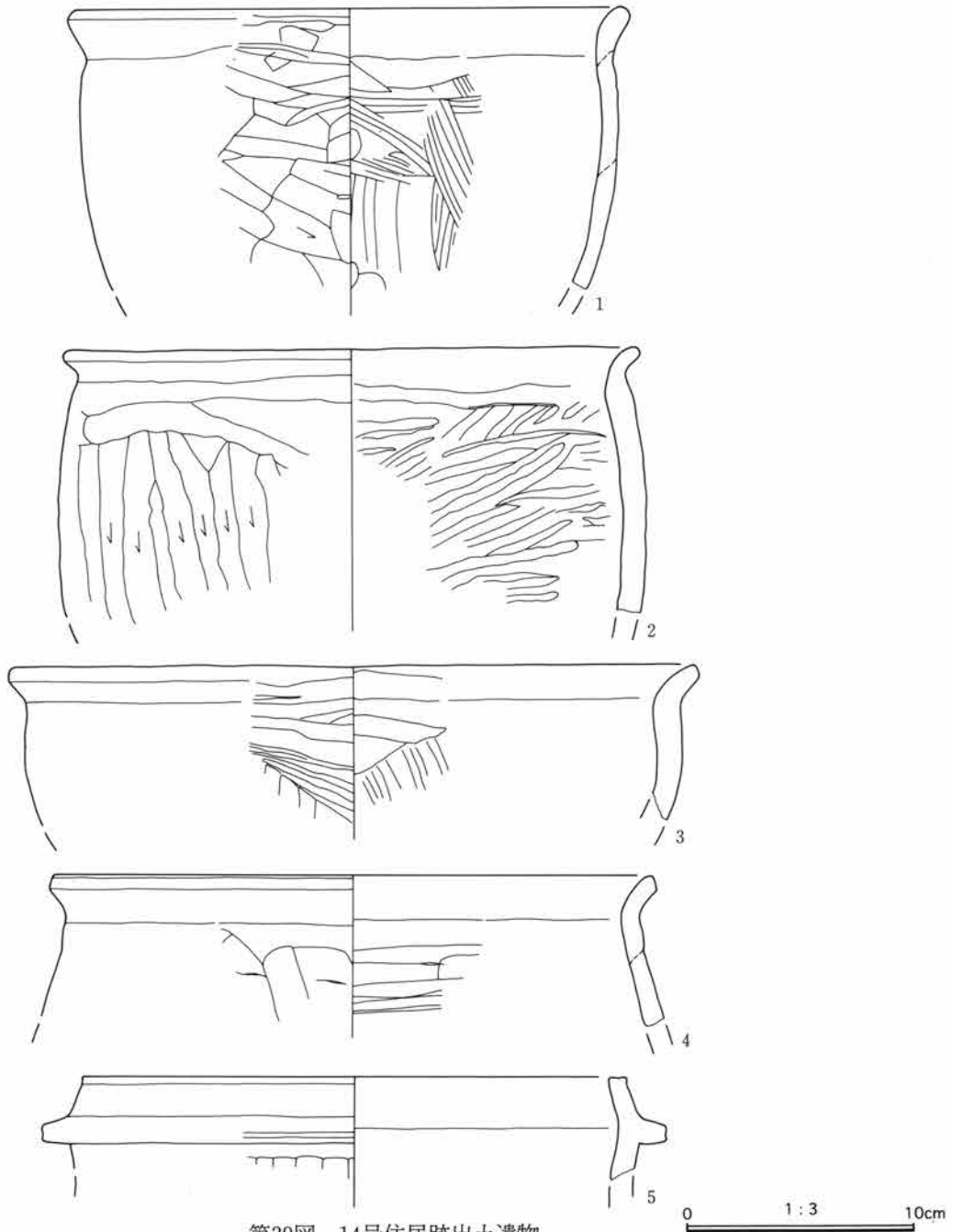
**床面：**地山ローム土を固めて床面とするが、硬化の度合いが少ない。

**掘り方：**なし。

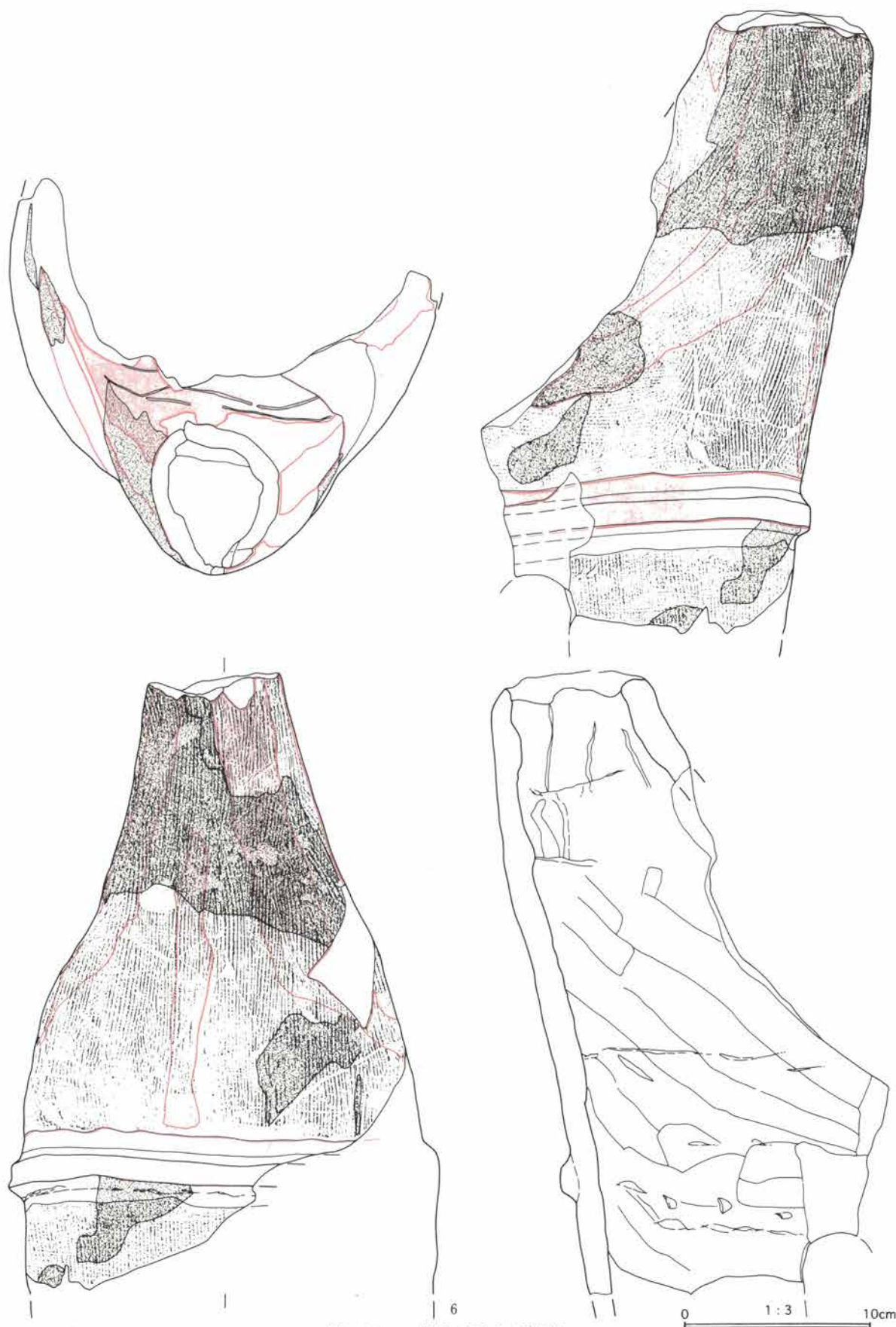
**出土遺物：**カマド埋土及び住居床面付近より、羽釜・土釜片が出土する。また、カマド構築材への転用としての埴輪類の出土が目立つ。

**重複：**住居中央部において馬骨を埋納した2号土坑と重複し、埋土の状態より本遺構の方が古いものと判断される。

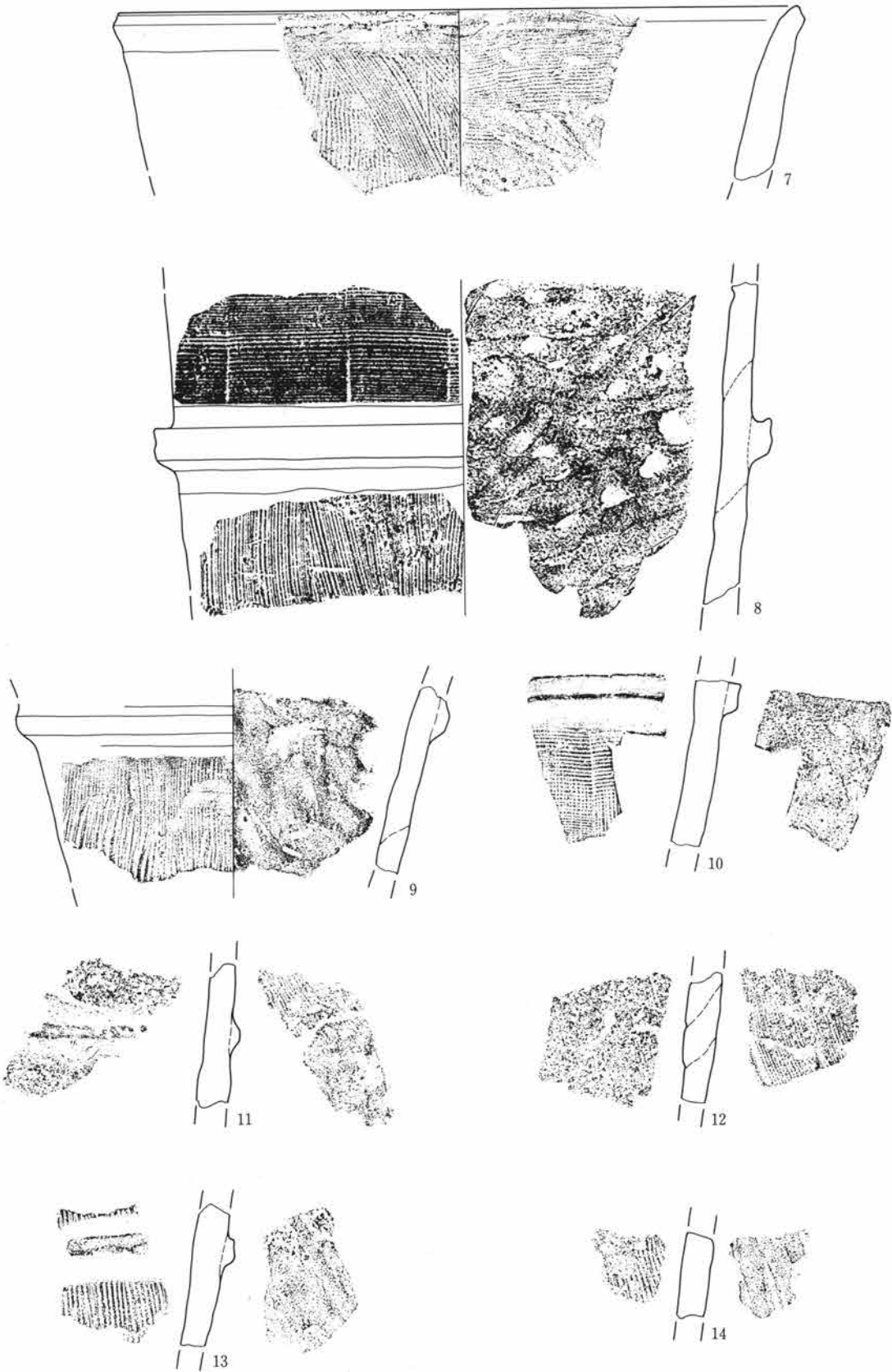
**時期：**出土する遺物の年代より、10世紀後半から11世紀初頭の住居跡と推定される。



第39図 14号住居跡出土遺物



第40図 14号住居跡出土遺物



第41図 14号住居跡出土遺物

0 1:3 10cm



第3章 検出遺構と遺物

14号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 96 No0156	須恵器 土釜	口縁～胴部 上位破片	口径(24.0) 底径 — 器高(12.1)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙～黒褐色	胴部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に粗い指撫で、胴部内面は粗いヘラ撫でを施す。	
2 96 No0155	須恵器 土釜	口縁～胴部 上位破片	口径 24.8 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙～黒褐色	口縁・胴部は歪み大。胴部外面は縦方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は細い工具による斜方向の撫でを施す。	
3 96 No0157	須恵器 土釜	カマド 口縁～胴部 上位破片	口径(30.0) 底径 — 器高( 6.7)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	胴部外面はヘラ削り後に上位のみ横方向の粗いヘラ撫で、口縁部は内外面共に粗い指撫で、胴部内面は粗いヘラ撫でを施す。	
4 96 No0158	須恵器 土釜	埋土 口縁～胴部 上位破片	口径(26.0) 底径 — 器高( 6.3)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:暗赤褐色	胴部外面は縦方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面はハケ目状の横方向のヘラ撫でを施す。	
5 96 No0159	須恵器 羽釜	口縁部破片	口径(23.6) 器高( 4.4) 鏝径(27.2)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙～暗褐色	口縁部は短く、やや内湾する。胴部外面は縦方向のヘラ削り、鏝は撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面上位も撫でを施す。	
6 96 No0164	埴輪 形象埴輪 鶏	カマド 頸部～胸部 ～基台部片	胴幅(21.0) 器高(32.2)	胎:細砂粒、白色粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙色	頸部巻き上げか。外面はハケ目後羽根表現の沈線ののち頸部～胴部、突帯に赤彩。内面指ナデで粘土紐接合痕残る。基台部に透孔残存。	赤彩あり 内外面に 煤付着。
7 96 No0165	埴輪 円筒埴輪	口縁部破片	口径(33.0) 底径 — 器高 —	胎:細砂粒、白色粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙色	外面縦・斜めハケ後口唇部横ナデ、内面斜め指ナデ後横ナデのち口唇部横ナデ。	外面赤彩 と斜めヘ ラ描き。
8 96 No0166	埴輪 円筒埴輪	カマド 胴部～基底 部	口径 — 底径 — 器高 —	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	外面縦ハケ後横ハケのち突帯横ナデ、突帯位置に幅4mmの浅い沈線あり。静止痕間隔4.8→5.8mm、工具幅6cm以上。内面斜め指ナデ、粘土紐接合痕残る。	カマド構 築材。突 帯方形。
9 96 No0168	埴輪 円筒埴輪	胴部突帯周 辺破片	口径 — 底径 — 器高 —	胎:細砂粒、白色粒 焼:酸化焰 色:橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面縦・斜め指ナデ。2種類のハケ目あり。突帯断面台形。	カマド構 築材か。
10 96 No0167	埴輪 円筒埴輪	胴部突帯周 辺破片	器高(10.2)	胎:細砂粒、白色粒 焼:酸化焰 色:にぶい黄橙色	外面縦ハケ後横ハケのち突帯横ナデ。内面指ナデ。ハケ目工具幅5cm以上。半円形透孔残存。突帯断面方形。	カマド構 築材。透 孔半円形
11 96 No0169	埴輪 円筒埴輪	胴部突帯周 辺破片	器高( 7.0)	胎:粗砂粒、赤色粒 焼:酸化焰 色:橙色	外面磨耗著しい。内面指ナデ後斜めハケ。突帯断面低い台形。	カマド構 築材。
12 96 No0171	埴輪 円筒埴輪	胴部破片	器高( 6.4)	胎:粗砂粒、赤色粒 焼:酸化焰 色:橙色	外面磨耗著しい。内面縦ハケ。	
13 96 No0170	埴輪 円筒埴輪	胴部突帯周 辺破片	器高( 6.9)	胎:細砂粒、赤色粒 焼:酸化焰 色:橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面縦指ナデ。突帯断面低い台形。	カマド構 築材
14 96 No0172	埴輪 円筒埴輪	カマド 胴部破片	器高( 4.2)	胎:粗砂粒、赤色粒 焼:酸化焰 色:にぶい褐色	外面縦ハケ。内面縦指ナデ。	

15号住居跡 (写真図版15・97)

位置: C—15Wグリッド付近

主軸方位: N—67°—E 規模: 5.1m×(6.0)m

形状: 平面形状は、長方形を呈すると考えられるが、北西側の壁が重複遺構に削平されるため、全体形状は明らかではない。

カマド: 床面上に焼土の散乱が見られるものの、残存する壁にはカマドが検出されていない。

内部施設: 径40cm～60cm、深度52cm～83cmを測る主

柱穴4本と、北側及び西側柱穴のそれぞれ北西側に各一穴の柱穴を検出するが、これが補助的なものか、拡張に伴うものかは、北西壁が残らないために明らかではない。

床面: 住居中央部のみにローム土を主体とする張り床を施し、周囲は地山ローム土を固めて床面とする。

掘り方: 住居中央部に径140cm程、深度80cm程を測る土坑を検出する。また、その北東側に径130cm程、深度50cm程を測る土坑を検出するが、この部分の床



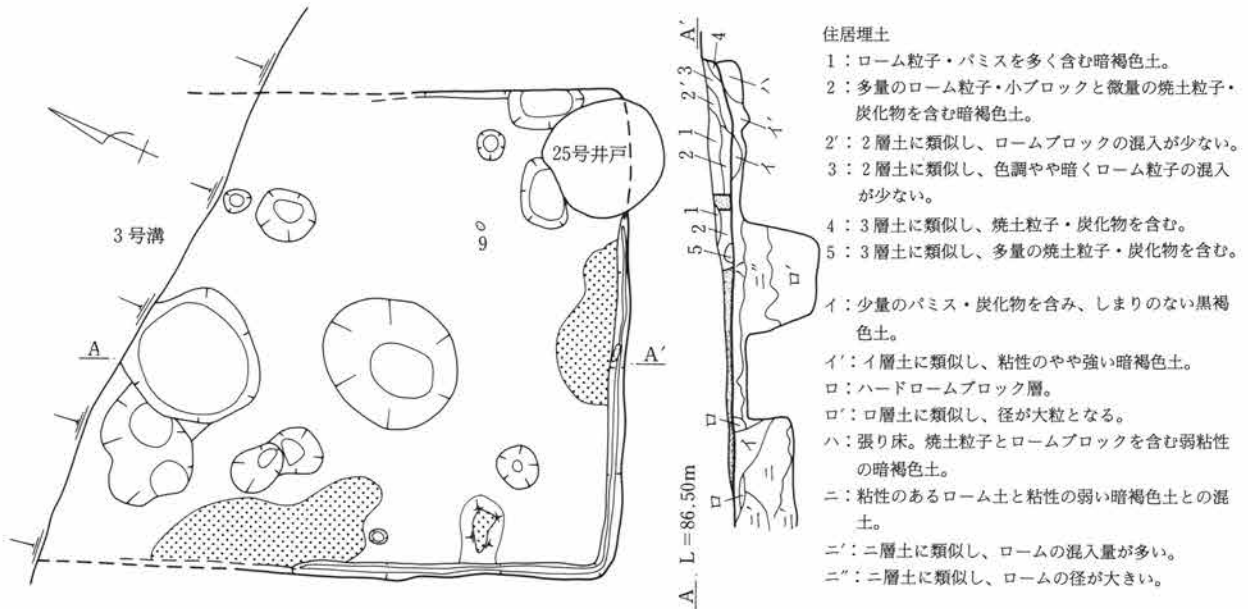
面が明瞭に検出されていないことから、掘り方になるか否かは明らかではない。

出土遺物：土師器杯 (No.2～6) は床下より出土する。

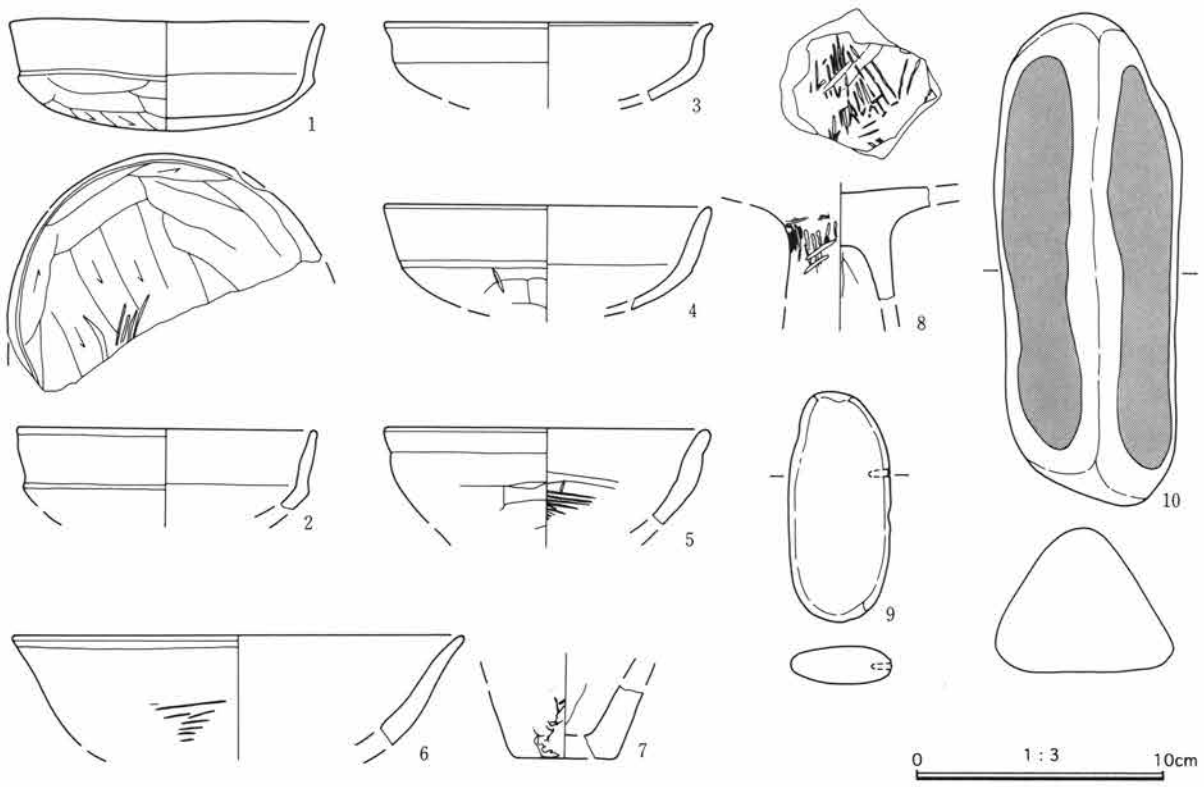
重複：北西側において3号溝、南東コーナー部にお

いて25号井戸とそれぞれ重複し、埋土の状態よりいづれの遺構よりも、本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



0 1:80 2m



0 1:3 10cm

第42図 15号住居跡及び出土遺物

### 第3章 検出遺構と遺物

#### 15号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 97 No0173	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径 12.6 稜径 11.9 器高 4.3	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に粗い撫でを施す。	
2 97 No0175	土師器 杯	掘り方埋土 口縁～底部 上位破片	口径(11.3) 稜径(11.4)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削りか、口縁部は内外共に丁寧な横方向の撫で、底部内面も撫でを施す。	
3 97 No0176	土師器 杯	掘り方埋土 口縁～底部 上位破片	口径(13.0) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：暗赤褐色	底部外面はヘラ削りか、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も撫でを施す。	
4 97 No0174	土師器 杯	掘り方埋土 口縁～底部 上位破片	口径(12.9) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は撫でを施す。	
5 97 No0173	土師器 杯	掘り方埋土 口縁部破片	口径(12.8) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：暗褐色	体部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に粗い横方向の撫で、体部内面は撫での後に粗い横方向のヘラ磨きを施す。	
6 97 No0177	土師器 杯 (鉢)	掘り方埋土 口縁部破片	口径(17.8) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	体部外面は撫での後に粗いヘラ磨き、口縁部内外面及び体部内面は横方向の撫でを施す。	
7 97 No0182	土製品 手捏ね	埋土 体部～底部 破片	口径(12.0) 稜径(11.4) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙色	底部外面は平坦。手捏ね成形。内外面共に指撫でを施す。	
8 97 No0179	土師器 高杯	杯部底部～ 脚部破片	口径 — 底部 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	杯部底部内面は撫での後に粗いヘラ磨き？脚部外面はヘラ撫で、脚部つけ根には削り痕を残す。脚部内面は削り状のヘラ撫でを施す。	
9 97 No2889	石製品 こもあみ石	完形	長 9.1 幅 4.1 厚 1.4	砂岩	平面形は長楕円形を呈し、横断面も扁平な楕円形。	87 g
10 97 No2888	石製品 こもあみ石	完形	長 19.2 幅 7.4 厚 6.2	石英閃緑岩	1 kgを越え、こも編み石として考えるなら大形級。形状も横断面隅丸三角形で異形。	1254 g

#### 16号住居跡 (写真図版16・97)

位置：C—13Vグリッド付近

主軸方位：N—49°—E 規模：4.9m×3.8m

形状：平面形状は、隅丸長方形を呈し、床面までの深度は確認面より40cm程を測る。

カマド：住居北東(長方形短辺)壁の中央やや南東寄りに位置し、燃焼部から煙道部にかけて壁の内側に設けられる。袖部は粘性土を固めて構築され、土器や礫の芯材は用いていない。

内部施設：住居東コーナー部付近に径60cm、深度70cm程を測る貯蔵穴と考えられる土坑を検出する。ま

た、柱穴は検出されず、住居北コーナー部に溝状の掘り込みが検出された。

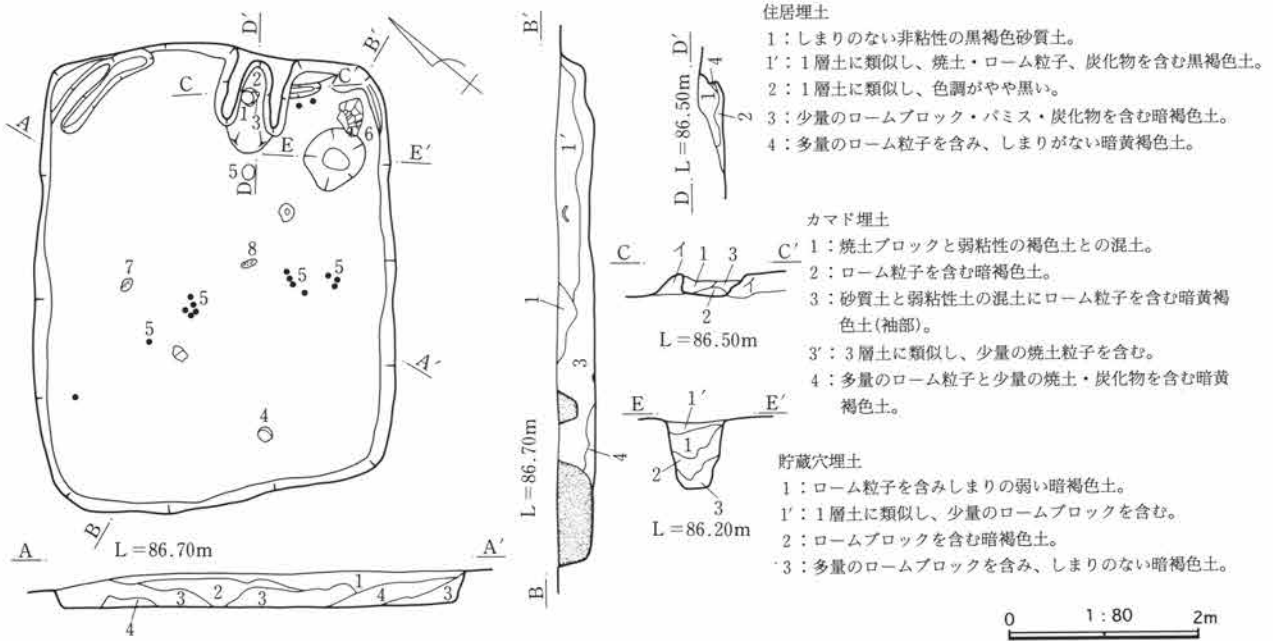
床面：地山ローム土を固めて床面とする。

掘り方：なし。

出土遺物：住居東コーナー付近の床面直上から土師器甕(No.6)が、カマド内部より土師器杯(No.1・2・3)がそれぞれ出土する。

重複：重複する遺構なし。

時期：出土する遺物の年代より、5世紀代の住居跡と推定される。



住居埋土

- 1: しまりのない非粘性の黒褐色砂質土。
- 1': 1層土に類似し、焼土・ローム粒子、炭化物を含む黒褐色土。
- 2: 1層土に類似し、色調がやや黒い。
- 3: 少量のロームブロック・バミス・炭化物を含む暗褐色土。
- 4: 多量のローム粒子を含み、しまりがない暗黄褐色土。

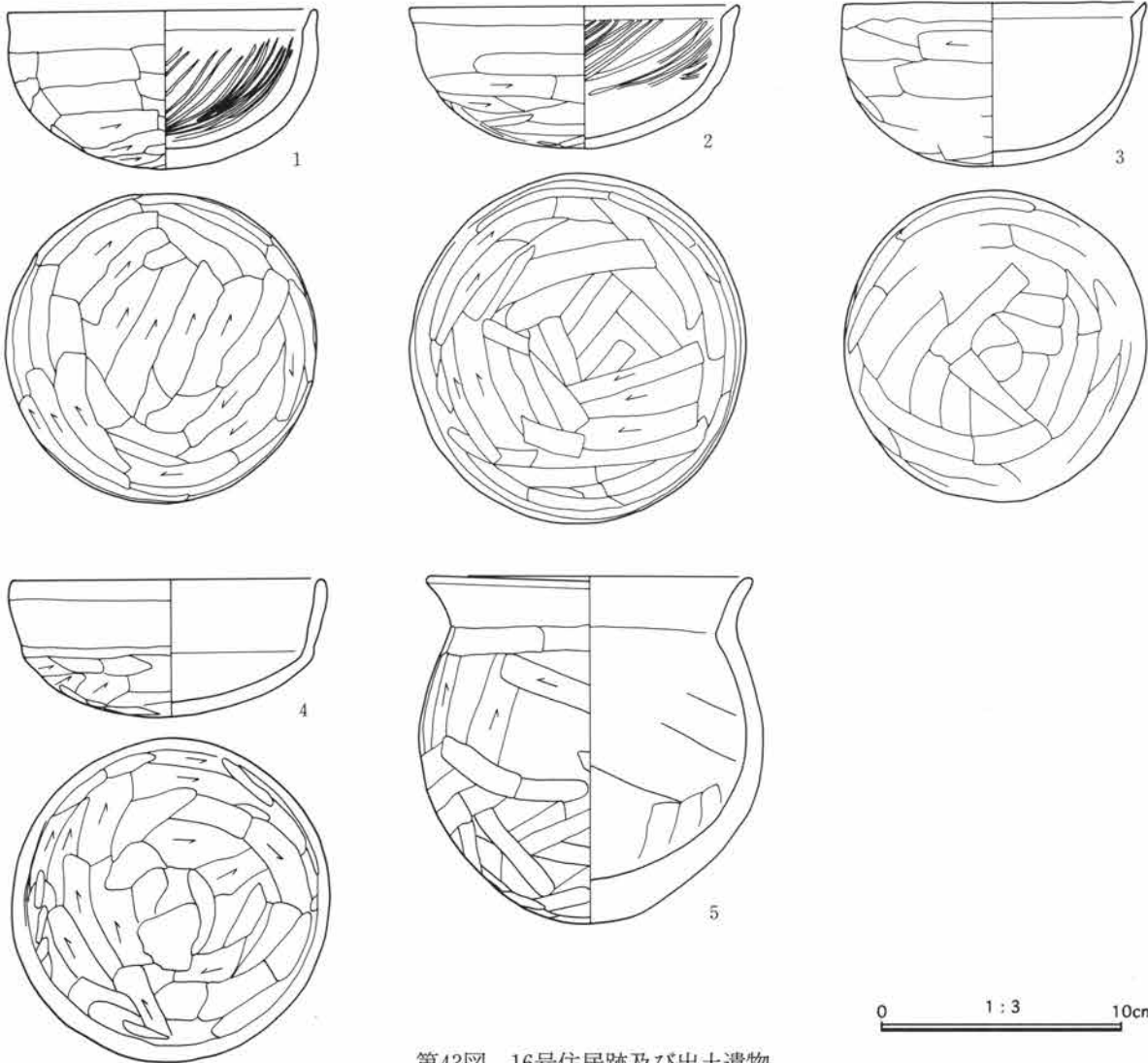
カマド埋土

- 1: 焼土ブロックと弱粘性の褐色土との混土。
- 2: ローム粒子を含む暗褐色土。
- 3: 砂質土と弱粘性土の混土にローム粒子を含む暗黄褐色土(袖部)。
- 3': 3層土に類似し、少量の焼土粒子を含む。
- 4: 多量のローム粒子と少量の焼土・炭化物を含む暗黄褐色土。

貯蔵穴埋土

- 1: ローム粒子を含みしまりの弱い暗褐色土。
- 1': 1層土に類似し、少量のロームブロックを含む。
- 2: ロームブロックを含む暗褐色土。
- 3: 多量のロームブロックを含み、しまりのない暗褐色土。

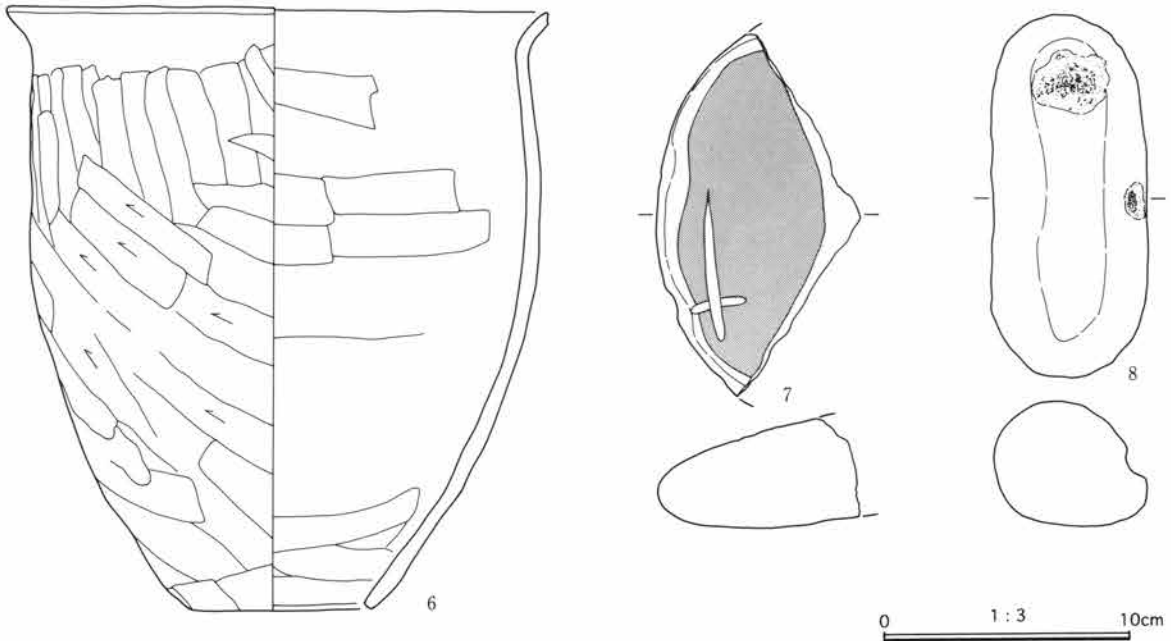
0 1:80 2m



0 1:3 10cm

第43図 16号住居跡及び出土遺物

第3章 検出遺構と遺物



第44図 16号住居跡出土遺物

16号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 97 No0183	土師器 杯	完形	口径 11.3 器高 9.4	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～明赤褐色	器壁やや肉厚。底部～体部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部～体部は全面に撫での後に渦巻状のヘラ磨きを施す。	
2 97 No0184	土師器 杯	完形	口径 13.7 器高 5.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面口縁下は全面に撫での後、底面を除き斜方向のヘラ磨きを施す。	
3 97 No0185	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径 12.4 器高 6.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～赤褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。器面の所々に板状の剥落があり、器壁は2層に分離。型造りか。	
4 97 No0186	土師器 杯	完形	口径 12.9 口径 12.1 器高 5.6	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～橙色	器壁やや肉厚。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も撫でを施す。	
5 97 No0189	土師器 小形甕	略完形 口縁一部欠	口径 13.6 器高 14.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐～暗褐色	丸底、底部肉厚。胴～底部外面はヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面はヘラ撫でを施す。	
6 97 No0191	土師器 甕 (一穴)	略完形 口縁一部欠	口径 21.5 底径 7.2 器高 23.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～黒色	胴部外面は縦～斜方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も横方向の撫でを施す。外面の約1/2に焼成時の黒斑有り。	
7 97 No2970	磨石類	1/2	長 (14.4) 幅 (8.1) 厚 (4.3)	二ツ岳軽石	側部に傷あり。欠損あり。質は軽い。	444 g
8 97 No2890	石製品 こもあみ石	完形	長 14.4 幅 6.3 厚 5.0	溶結凝灰岩	平面形は長楕円形を呈し、横断面は歪みの多い円～楕円形。	678 g

17号住居跡 (写真図版17・97・98)

位置：C-16Rグリッド付近

主軸方位：N-90°-E 規模：4.0m×4.0m

形状：平面形状は、隅丸方形を呈し、壁はやや蛇行

する。床面までの深度は確認面より20cm～30cm程を測る。

カマド：住居南東コーナー部に焼土が検出されたものの、遺構としては検出できなかった。

**内部施設：**柱穴・貯蔵穴等は検出されておらず、後記の掘り方のピット・土坑にも柱穴・貯蔵穴と断定できるものはない。

**床面：**掘り方の部分のみに貼り床を施し、他は地山ローム土を固めて床面とする。

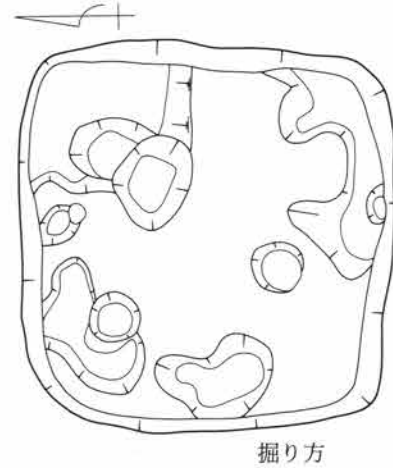
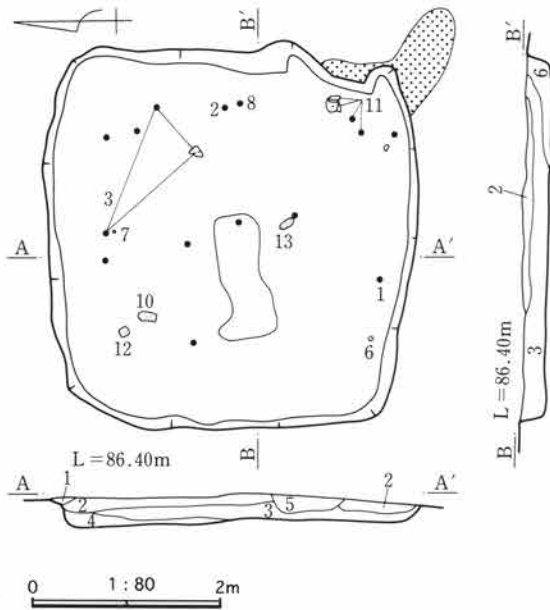
**掘り方：**住居中央部を除く壁よりに、径1m～1.5m、深度15cm～45cmを測る土坑と、径40cm～50cm、

深度10cm～30cmを測るピット群を検出する。

**出土遺物：**円筒埴輪 (No11) はカマド構築材としての転用。

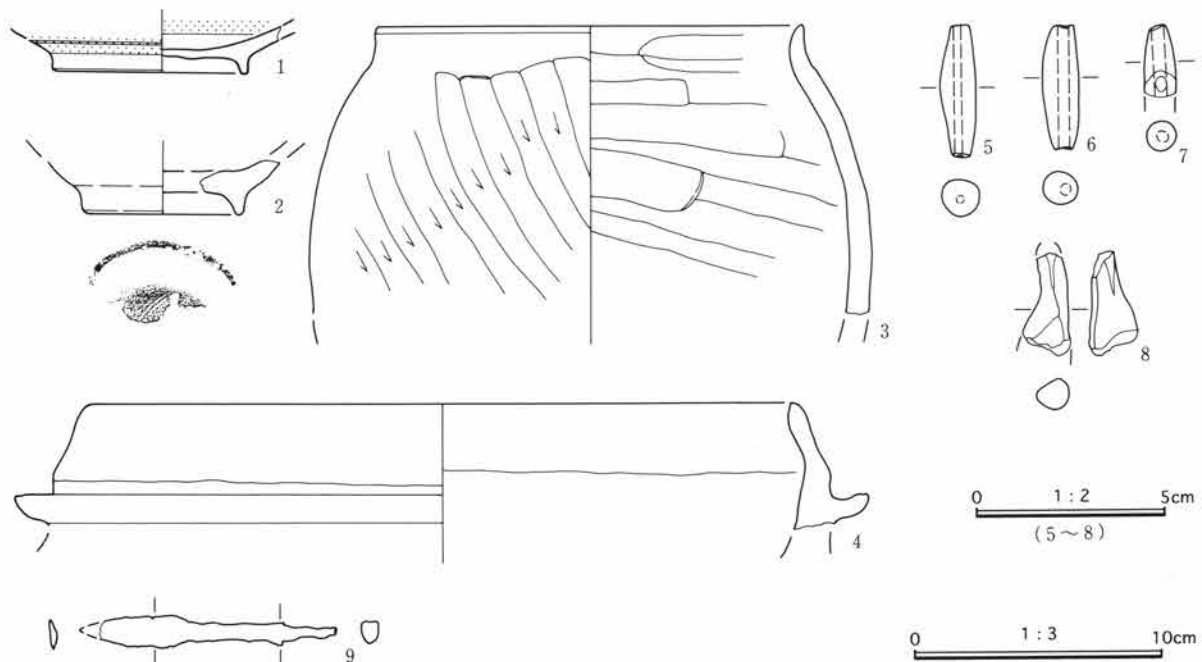
**重複：**南東部に於いて57号住居跡と重複し、埋土の状態より本遺構の方が新しいものと判断される。

**時期：**出土する遺物の年代より、10世紀代の住居跡と推定される。

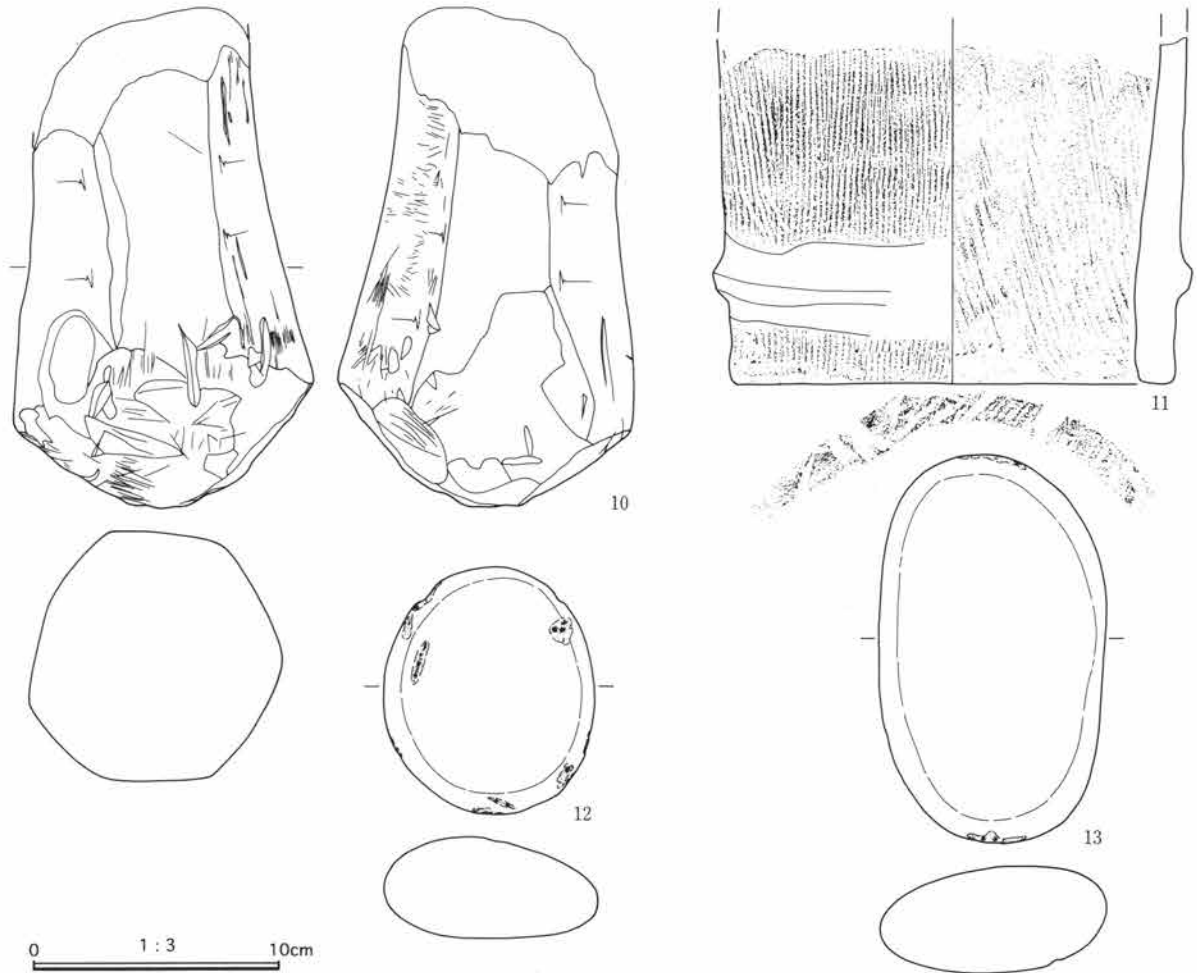


住居埋土

- 1：硬くしまった砂質の暗褐色土。住居の直接覆土ではない。
- 2：多量のローム微粒子・バミスと少量の炭化物・焼土粒子を含む暗褐色土。
- 3：多量のローム粒子を含み炭化物を2層土より多く含む暗褐色土。
- 4：3層土に類似し、ロームブロックを含み、部分的に炭化物を含む暗褐色土。
- 5：多量のローム粒子を含み、斑状に砂状土を含む暗褐色土。
- 6：3層土に類似し、色調やや暗く、ローム粒子の混入が少ない。



第45図 17号住居跡及び出土遺物



第46図 17号住居跡出土遺物

17号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 — No0198	灰釉陶器 椀	底(高台)部 破片	口径 — 高台径( 8.0) 器高 —	胎： 焼：	ロクロ整形、回転は右廻りか、高台は貼付。 施釉方法は不明。釉調は不透明な灰白色。	
2 97 No0197	須恵器 椀	底部～高台 部破片	口径 — 高台径( 6.2) 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白～灰色	ロクロ成形。底部回転糸切り後に高台貼付。 ロクロ回転方向不明。	
3 — No0201	須恵器 土釜	口縁～胴部 上位破片	口径(17.0) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	胴部外面上位は縦方向(上から下)のヘラ削り、 口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横方向のヘラ撫でを施す。	
4 — No0260	須恵器 羽釜	口縁一部残	口径(28.5) 最大径(34.2)	胎： 焼： 色：	口縁部の内外面に横撫あり、銚部は貼付。	
5 97 No0888	土製品 土錘	完形	器高 3.5 最大径 1.0	胎： 焼： 色：にぶい赤褐	軽量、小形土錘で、色調は土師器に近い。	2.71 g
6 97 No0884	土製品 土錘	完形	器高 3.3 最大径 0.95	胎： 焼： 色：にぶい黄橙	軽量、小形土錘で、色調は土師器に近い。	2.58 g
7 97 No0875	土製品 土錘	1/2	器高( 1.8) 最大径 0.9	胎： 焼： 色：にぶい褐	片側欠損。軽量、小形土錘で色調は土師器に近い。	1.14 g
8 97 No0923	土製品 不明	破片	長 ( 2.5)	胎： 焼： 色：	手捏ねに近い。	2.67 g



図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
9 97 No4003	鉄鏃		長 (9.3) 厚 (1.2)	鉄製	先端部欠損。有柄光根鏃である。茎と篋被部に区あり。	10.28 g
10 97 No2257	石製品 砥石	一部欠損	長 (19.7) 幅 12.0 厚 10.4	砂岩	多面体。各面刃傷多く残る。小口未使用。置砥。多角柱形。中〜荒砥。	7面使用。 3001 g
11 98 No0204	埴輪 円筒埴輪?	胴部〜基底 部破片	底径(17.8) 器高(14.4)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、上端に突帯貼付横ナデ僅かに残存。内面縦・斜めハケ。基部幅6〜7cm。底面に棒状圧痕。突帯断面台形。	形象埴輪 基台部か
12 98 No2961	磨石類	完形	長 9.8 幅 8.4 厚 4.0	粗粒安山岩	平面形は近円形を呈し、横断面は楕円形気味である。	430 g
13 98 No2960	磨石類	完形	長 15.4 幅 9.1 厚 4.3	粗粒安山岩	平面形は楕円形を呈し、横断面は扁平な楕円形気味である。	950 g

18号住居跡 (写真図版18・98)

位置：C-14Tグリッド付近

主軸方位：N-3°-W 規模：5.1m×5.5m

形状：平面形状は、ほぼ正方形を呈する。床面までの深度は確認面より30cm程を測る。

カマド：北側壁のほぼ中央に位置する。燃烧部は壁の内側に設けられ、袖部は屋内に張り出す。構築には芯材を用いず、粘性土を固めて造られる。

内部施設：住居の各コーナー部を結ぶ対角線上に径30cm〜40cm、深度50cm〜60cm程を測る4穴の柱穴を

検出する。また、北壁寄りのカマド東側に径1m、深度80cmを測る貯蔵穴を検出する。

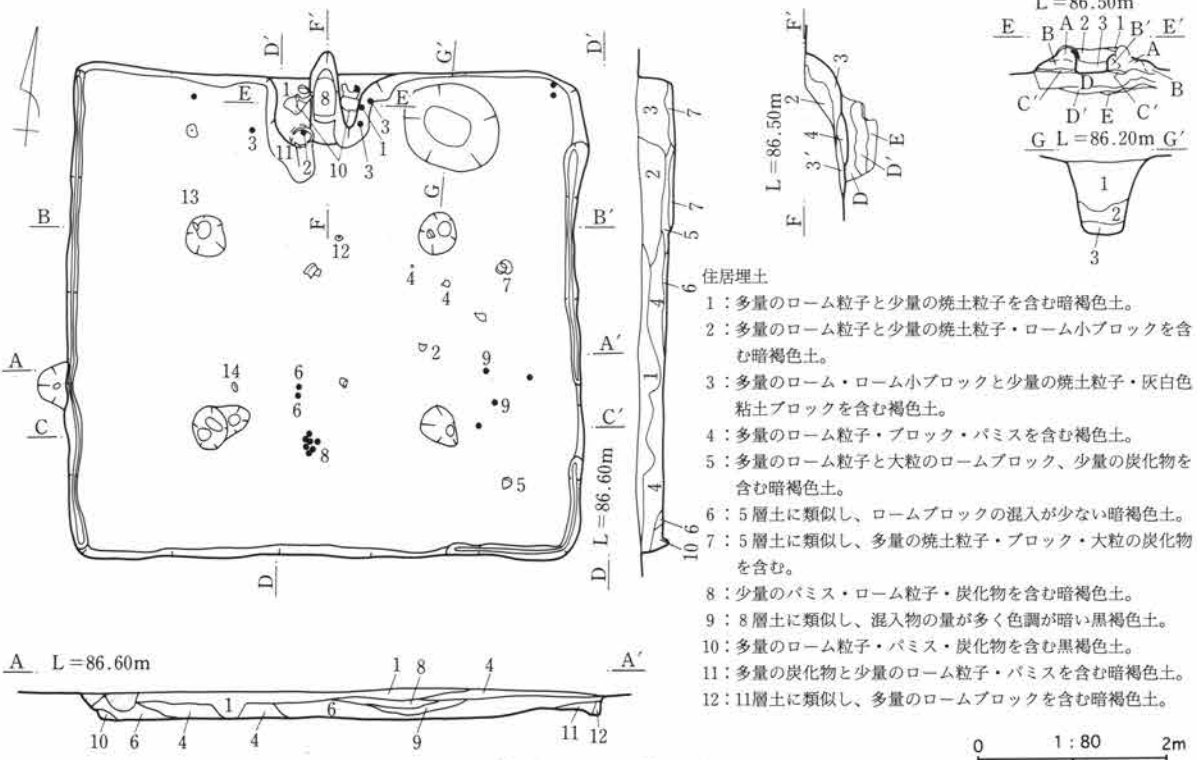
床面：地山ローム土を固めて床面とする。

掘り方：なし。

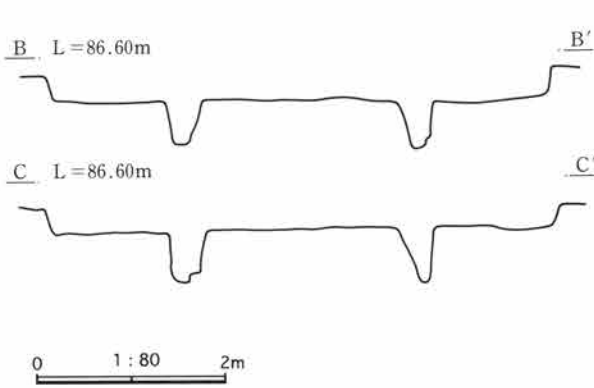
出土遺物：手捏ね土器 (No.12) が出土。

重複：住居南壁中央付近において19号住居跡と僅かに重複し、埋土の状態より本遺構の方が新しいものと判断される。

時期：カマドの方位及び出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



第3章 検出遺構と遺物

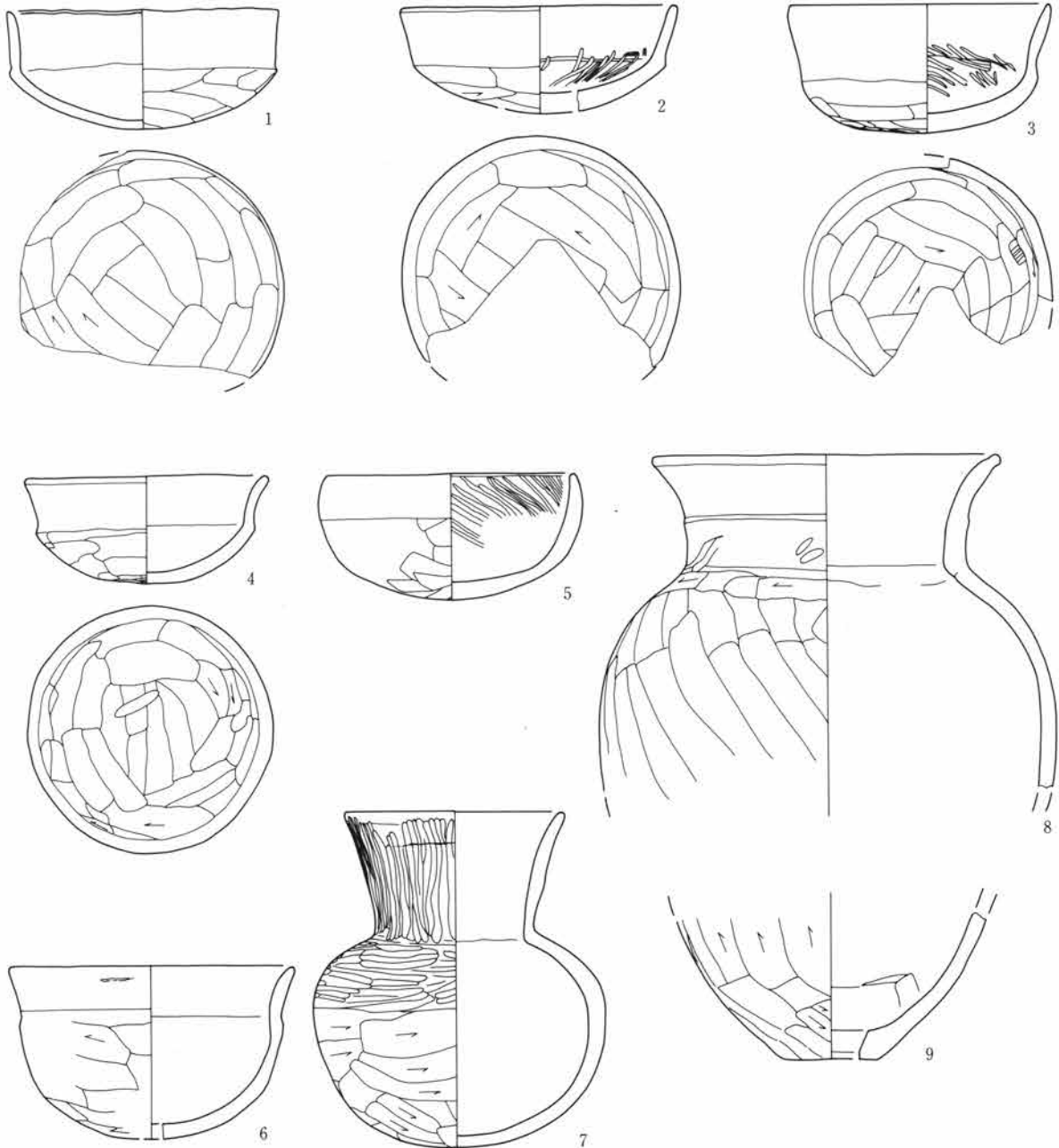


カマド埋土

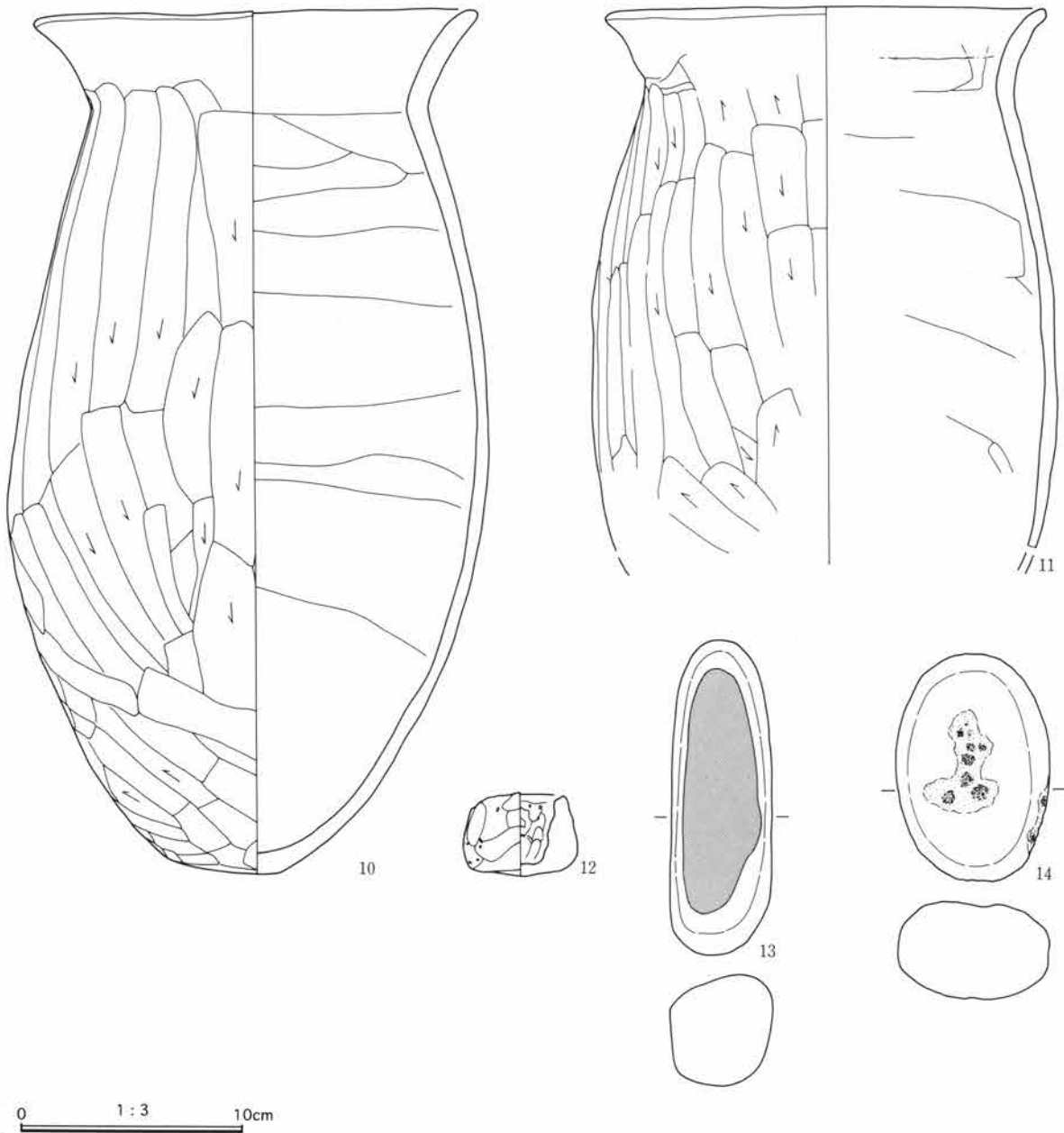
- 1：少量の炭化物・焼土粒子を含む暗黄褐色土。
- 2：焼土ブロック・灰を含む暗赤褐色土。
- 3：黒色灰・炭化物・焼土小ブロックを含む黒色土。
- 3'：3層土に類似し、褐色土を含む黒褐色土。
- 4：細粒の焼土・灰の暗赤褐色層。
- A：多量の粘性の強い灰色をおびたローム土を含む暗褐色土(袖部)。
- B：A層土の焼土化。
- C：A層土とD層土の混土。
- D：暗褐色の弱粘性土にローム小ブロックを混入する暗褐色土。
- D'：D層に似るが、ロームブロックが大粒で、黒色味が強い。
- E：少量の暗褐色土を含むローム土。

貯蔵穴埋土

- 1：少量のローム小ブロック・焼土・炭化物を含む弱粘性の暗褐色土。
- 2：1層土に類似し、大粒のロームブロックを含む暗黄褐色土。
- 3：底面に水平に堆積する粘性のない黒色有機質土。



第48図 18号住居跡及び出土遺物



第49図 18号住居跡出土遺物

18号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 98 No0207	土師器 杯	口縁～底部 $\frac{2}{3}$	口径(12.1) 稜径 12.0 器高 5.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も撫でを施す。	
2 98 No0208	土師器 杯	口縁～底部 $\frac{3}{4}$	口径 12.5 稜径 11.3 器高( 4.7)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～赤褐色	全体にやや肉厚の底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は撫での後に粗い放射状のヘラ磨きを施す。	
3 98 No0209	土師器 杯	口縁～底部 $\frac{2}{3}$	口径(11.6) 稜径 10.5 器高 5.7	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部外面は横方向の撫で、内面は全面に撫での後、口縁部下位～底部にかけて丁寧なヘラ磨きを施す。	
4 98 No0206	土師器 杯	完形	口径 10.9 稜径 9.9 器高 4.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～暗褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も撫でを施す。	

### 第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
5 98 No0205	土師器 杯	口縁～底部 2/4	口径(11.1) 器高 5.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒色	体部外面はヘラ削り、口縁部外面は横方向の撫で、内面は全面に撫での後に口縁部下のみ斜方向のヘラ磨きを施す。内面器壁が所々薄く剥落する。	
6 — No0210	土師器 杯	口縁～底部 破片	口径 12.8 稜径 11.8 器高( 7.7)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰内面黒色 色：明赤褐色・黒色	体～底部外面はヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は粗い撫でを施す。	
7 98 No0213	土師器 小形丸底壺 (埴)	完形	口径 9.9 頸径 7.1 器高 14.9	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐～暗褐色	胴部外面下半はヘラ撫で、上半は撫での後に横方向のヘラ磨き、口縁部外面は口唇部を除き縦方向のヘラ磨き、口縁部及び胴部内面は撫でを施す。	
8 98 No0219	土師器 壺	口縁～胴部 中位破片	口径 15.6 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～暗褐色	口縁外面中位に沈線が横一条巡る。胴部外面はヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も全面に撫でを施す。	
9 No0215	土師器 甗 (一穴)	底部破片	底径 4.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	底部平坦。底～胴部外面はヘラ削り、胴部内面は粗い撫でを施す。	
10 98 No0217	土師器 長胴甗	略完形 胴部一部欠	口径 19.7 底径 5.0 器高 37.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	底部非平坦。胴部外面下位は斜～横方向、上位～中位は縦方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も横方向の撫でを施す。	
11 98 No0218	土師器 甗	口縁～胴部 中位破片	口径 19.4 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒(φ 1～ 5 mm) 焼：酸化焰 色：浅黄橙～暗褐色	胴部外面は縦方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に粗い横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
12 98 No0225	土製品 手捏ね	略完形 口縁一部欠	口径 4.3 底径 3.2 器高 3.7	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	手捏ね成形。底部外面に一定方向の直線的な植物圧痕を残す。体部は内外面共に指頭圧痕を残し、一部に細い単位のヘラ削りを施す。	
13 98 No2891	こもあみ石	完形	長 13.8 幅 4.5 厚 5.3	石英閃緑岩	平面形は長楕円形、横断面は歪む近円形を呈す。	517 g
14 98 No2962	磨石類	完形	長 10.0 幅 6.8 厚 4.5	粗粒安山岩	両面にわずかに凹みあり。平面形は楕円形、横断面も楕円形を呈す。	429 g

#### 19号住居跡 (写真図版19・99)

位置：C—14Sグリッド付近

主軸方位：N—20°—W 規模：4.8m×4.6m

形状：平面形状は、ほぼ方形を呈する。床面までの深度は確認面より25cm～30cm程を測る。

カマド：北壁側の中央やや東寄りに位置し、燃焼部は壁の内側に設けられ、袖部は屋内に張り出す。構築には芯材を用いず、粘性土を固めて構築される。

内部施設：住居各コーナー部を結ぶ対角線上に径30cm～50cm、深度30cm～70cm程を測る4穴の柱穴を検出する。

床面：全面にわたり地山ローム土を固めて床面とす

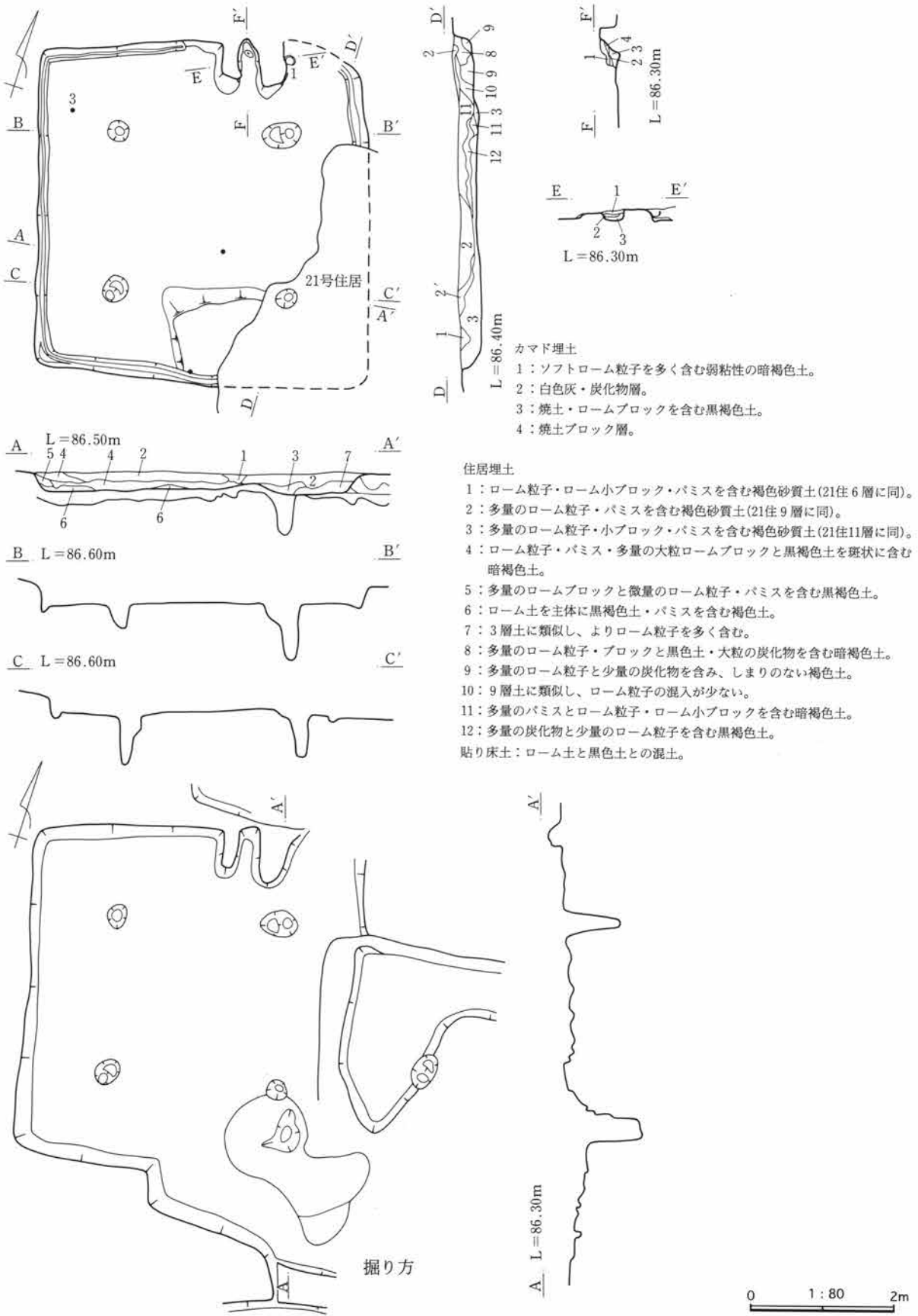
る。また、南壁寄りの中央付近に床の高まりを確認する。

掘り方：なし。

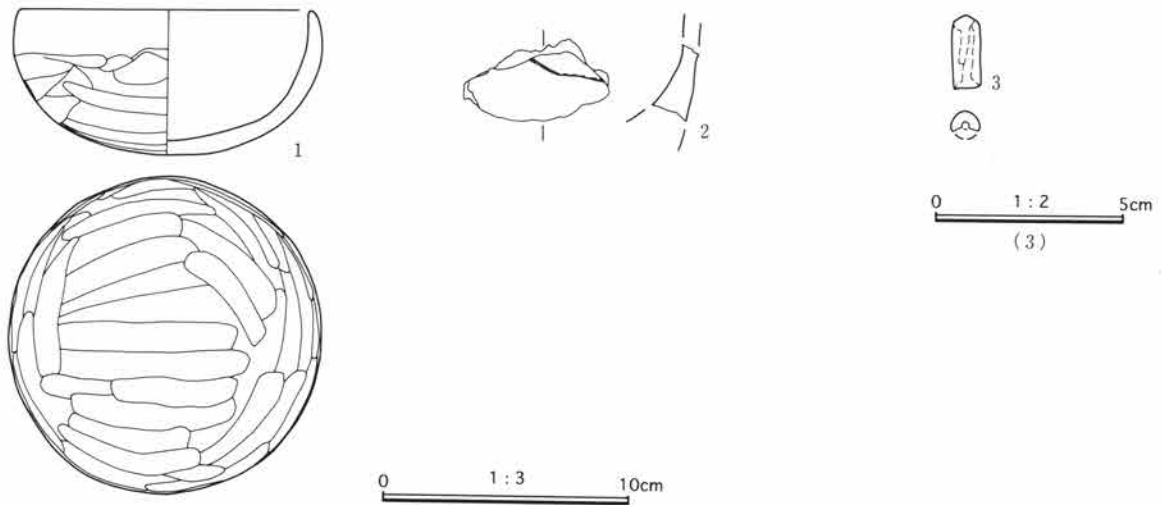
出土遺物：土師器杯(No.1)はカマド付近よりの出土。

重複：住居南東コーナー部において21号住居跡と重複し、北東コーナー部において18号住居跡と僅かに重複する。新旧関係については埋土の状態および住居主軸方向より、両住居跡より本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



第50図 19号住居跡



第51図 19号住居跡出土遺物

19号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目 (cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 99 No.0226	土師器 杯	完形	口径 11.8 器高 5.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焙 色：橙～黒褐色	外面底部はヘラ撫で、外面口縁部は横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
2 99	土師器 甕	底部破片		胎：粗砂粒 焼：酸化焙 色：橙色	墨痕少々あり。底部付近の破片のため、下方の器肉厚くなる。	19.79 g
3 99 No.2825	石製模造品 管玉	1/2	長 2.0 幅 0.8	蛇紋岩	穿孔は双小口面から、半身欠損のため穿孔状態が知れる。	1 g

20号住居跡 (写真図版20・99)

位置：C-12Sグリッド付近

主軸方位：N-27°-W 規模：(5.4)m×不明

形状：平面形状は、ほぼ方形を呈するものと考えられるが、攪乱と重複により西側壁が確認できず、形状は定かではない。床面までの深度は確認面より40cm程を測る。

カマド：北側壁の中央やや西寄りに位置し、燃焼部は壁の内側に設けられる。構築には礫等の芯材は用いず、粘性土を固めて造られる。比較的に残存状態は良好で、天井の一部と支脚石を残す。

内部施設：径30cm～70cm、深度49cm～59cmを測る柱穴が3穴検出され、残る南西側の1穴は攪乱を受けたため、検出し得なかった。

床面：住居北東コーナー付近の重複遺構部分のみ貼

り床を施し、他の部分については地山ローム土を固めて床面とする。

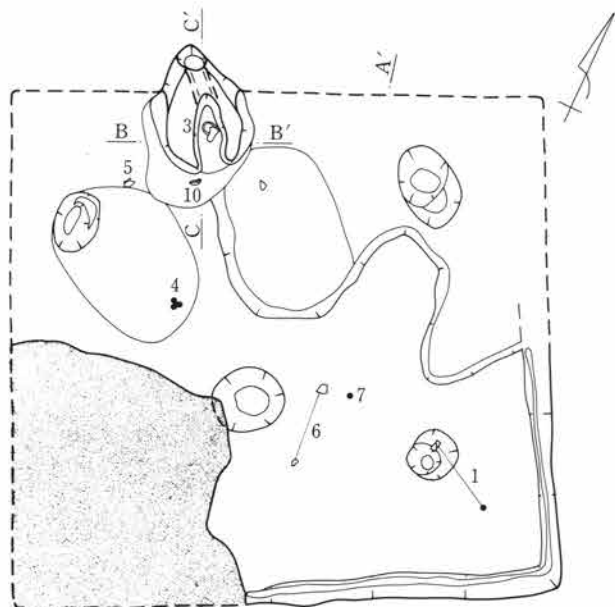
掘り方：掘り方はないが、住居中央部に径80cm、深度81cmを測る小土坑を1基検出する。

出土遺物：カマド燃焼部の埋土内より土師器杯 (No.3) が出土する。

重複：住居西側において21号住居跡と、北西部において28号住居跡とそれぞれ重複する。28号住居との新旧関係については、カマドの残存状態より本遺構の方が新しいものと、21号住居との関係については、埋土および住居主軸より本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。

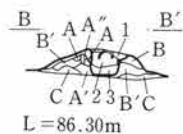
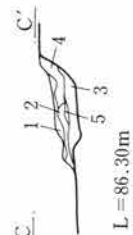




A/住居埋土

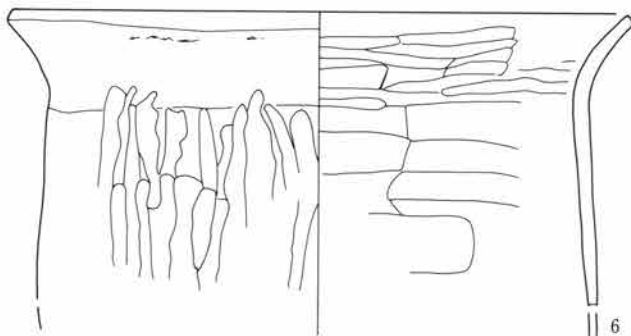
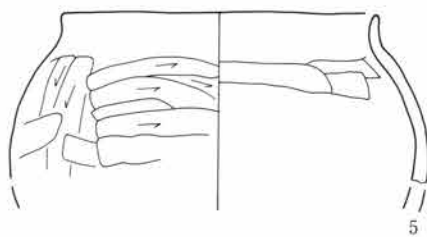
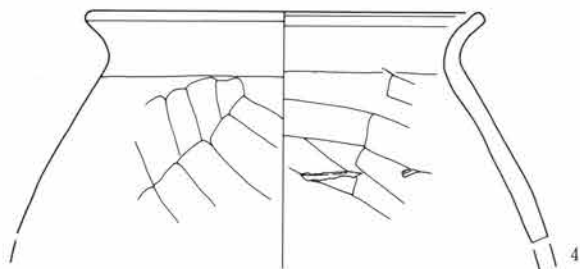
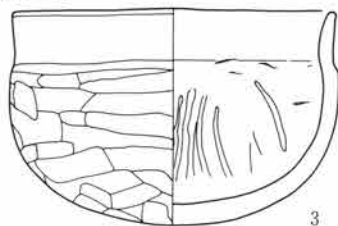
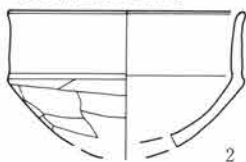
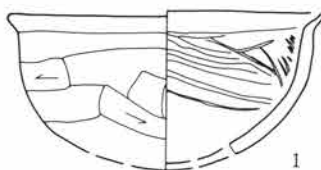
0 1:80 2m

- 1: 多量のバミスを含む暗褐色砂質土。
- 2: 多量のハードロームブロックと炭化物を含む暗黄褐色土。
- 3: 黒褐色土を主体にローム粒子を含む暗褐色土。
- 4: 多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土。
- 5: 多量の大粒のローム粒子含む黒褐色土。
- 貼り床土: ローム土と黒色土との混土。



L=86.30m

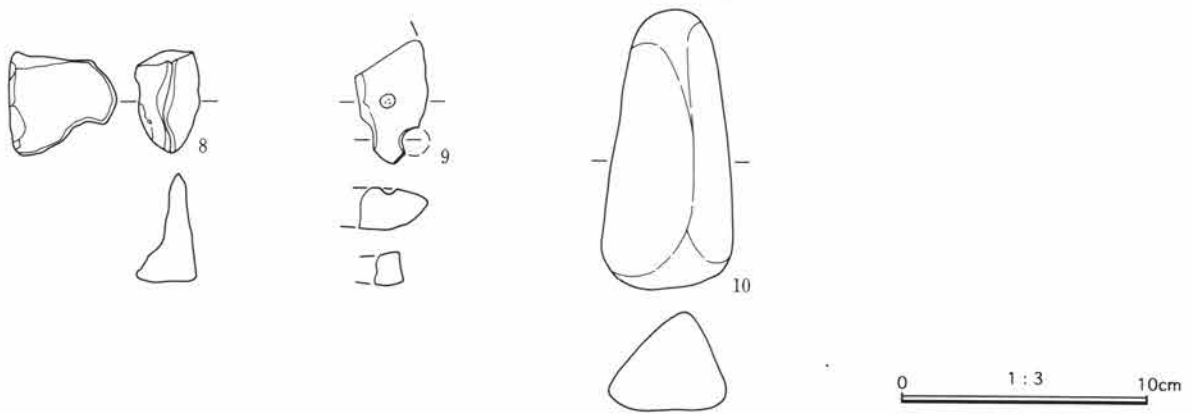
- カマド埋土
- 1: シルト質の灰褐色粘質土を主体に焼土小ブロックを含む。構築材の一部か。
  - 2: 1層土をブロック状に含む黒褐色土。
  - 3: ローム小ブロックと黒色灰を含む黒褐色土。
  - 4: 焼土ブロック層。
  - 5: 灰・炭化物を含む黒色土ブロック層。
  - A: 山砂状のやや粒子の粗い灰色粘土層。
  - A': A層土に焼土・ローム粒子を含む。
  - A'': A層土にローム粒子を含み、色調に黄色味を帯びる。
  - B: ローム粒子を含み、しまりのある弱粘性の暗褐色土。
  - B': B層土に類似し、ローム小ブロックを含む。
  - C: 袖部材。ハードロームを主体にB層土を混入する暗黄褐色土。



0 1:3 10cm

第52図 20号住居跡及び出土遺物

第3章 検出遺構と遺物



第53図 20号住居跡出土遺物

20号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 99 No0232	土師器 杯	口縁～体部 2/3	口径(12.7) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	外面底部はヘラ削り後に粗く撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は撫での後に斜方向の粗いヘラ研磨を施す。破片ごとに色調異、破損後の変色。	
2 — No0233	土師器 杯	埋土中 口縁～底部 破片	口径(9.5) 稜径(9.5)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面底部はヘラ削り、口縁部は口唇部が稜を持ち外反し平坦、内外面共に横方向の撫で、内面底部は撫でを施す。	
3 99 No0231	土師器 鉢	略完形 口縁一部欠	口径 12.9 稜径 13.1 器高 8.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	外面体～底部はヘラ削り後に横方向のヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は撫での後に一部粗い研磨を施す。	
4 99 No0237	土師器 甕	埋土中 口縁～胴部 上位破片	口径(16.0) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：淡橙色	外面胴部は斜方向のヘラ削り、口縁部は内外面共にやや粗い撫で、内面胴部は斜方向のヘラ撫でを施す。	
5 — No0235	土師器 小形壺 (短頸)	口縁～胴部 上位破片	口径(12.6) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐～黒褐	外面胴部は縦方向のヘラ削り後に横方向の撫で、口縁部は内外面共に丁寧な横方向の撫で、胴部内面も撫でを施す。	
6 99 No0236	土師器 甕	口縁～胴部 上位破片	口径(14.9) 底部 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	外面胴部は縦方向の細い単位のヘラ撫で、口縁部は横方向の撫で、内面口縁部は横方向の細い単位のヘラ撫で、内面胴部は横方向の撫でを施す。	
7 — No0234	土師器 甕 (一穴)	底部破片	口径 — 底径(8.2) 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐色	孔一穴。外面は横方向のヘラ削りに底部付近のみ縦方向の撫で、底部の孔端部はヘラ撫で、内面は横方向の撫でを施す。	
8 99 No0900	土師器 不明	完形	長 2.7 幅 2.9 厚 1.7	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	手捏ね。撫で等の調整はなし。表面は若干磨滅。	7.60g
9 99 No2849	石製品 不明	完形	長 (4.9) 幅 (2.9) 厚 (1.65)		形状不定形で、横断面も整った形状ではない。透し状は孔跡か割り込みか不明。	重18.83g
10 99 No2892	こもあみ石	完形	長 11.0 幅 5.3 厚 4.1	流紋岩	平面形は隅丸長三角形、横断面も三角形を呈す。	278g

21号住居跡 (写真図版21・99)

位置：C-13Sグリッド付近

主軸方位：N-80°-E 規模：6.2m×6.1m

形状：平面形状は、正方形を呈し、床面までの深度は確認面より35cm程を測る。

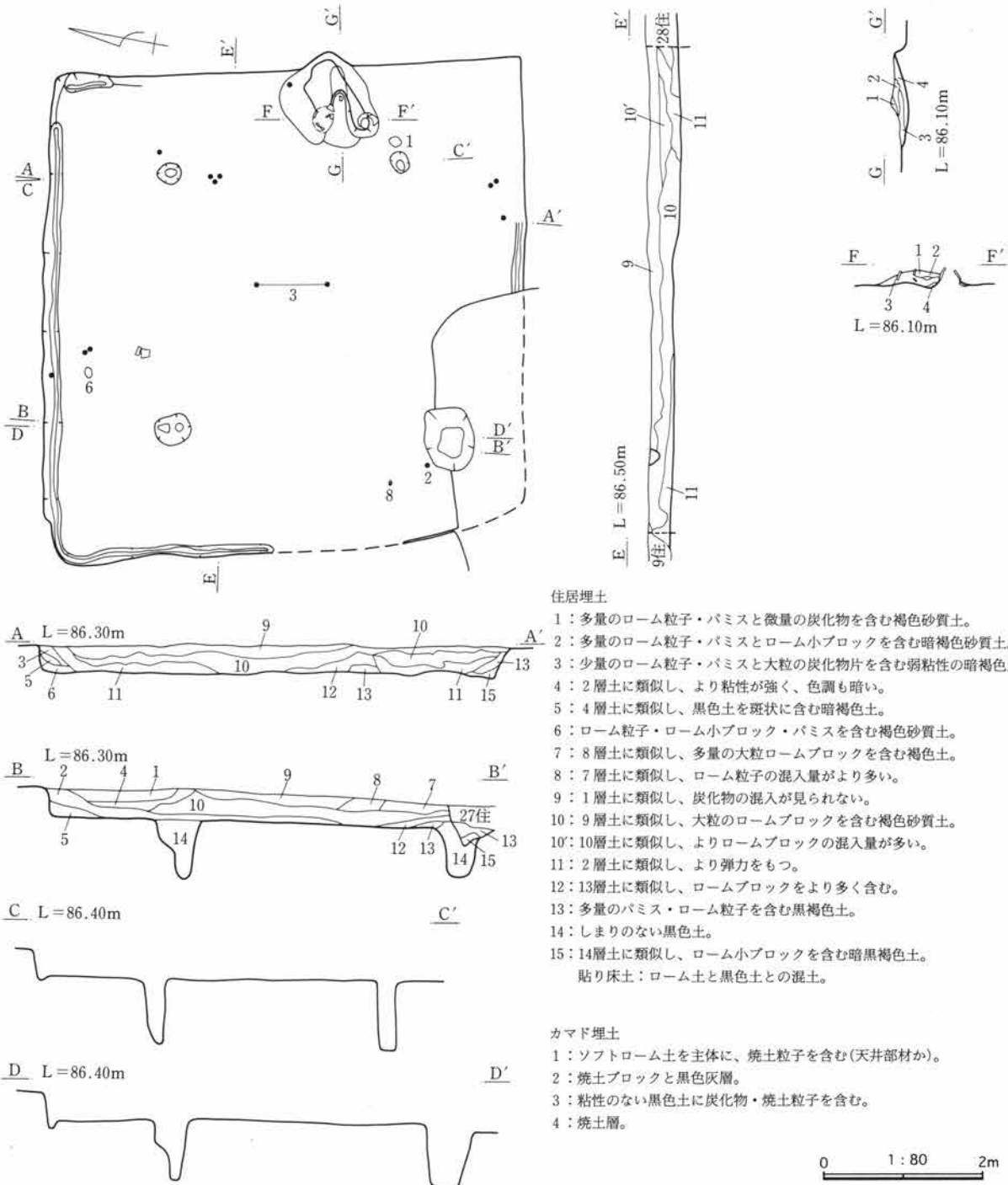
カマド：住居東壁中央やや南寄りに位置する。燃烧

部は壁の内側に位置し、袖部は逆に土師器甕を埋設し粘性土を貼り構築される。

内部施設：径20cm~60cm、深度75cm~90cmを測る柱穴が4穴検出される。

床面：地山ローム土を固めて床面とする。

掘り方：なし。



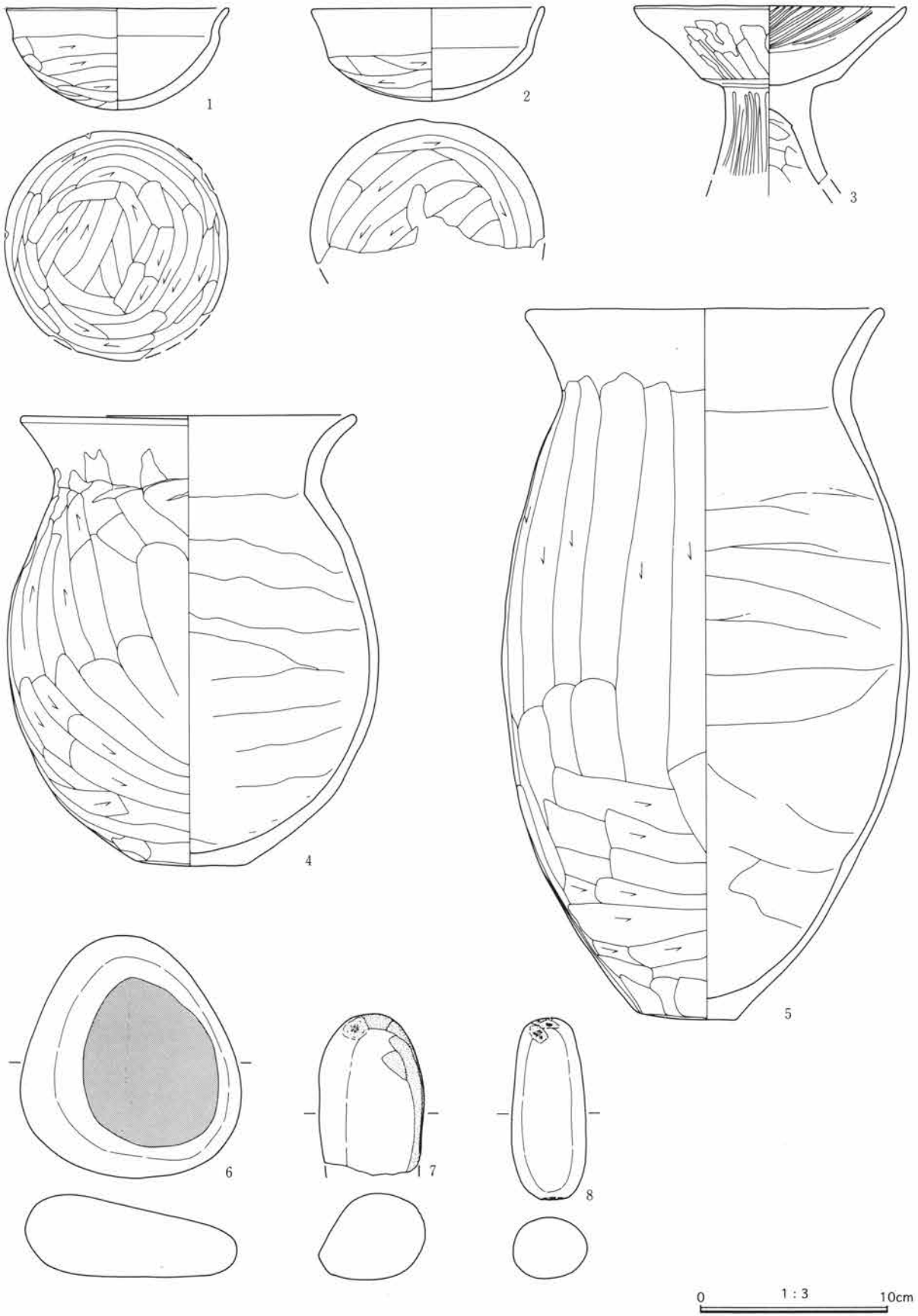
住居埋土

- 1：多量のローム粒子・パミスと微量の炭化物を含む褐色砂質土。
  - 2：多量のローム粒子・パミスとローム小ブロックを含む暗褐色砂質土。
  - 3：少量のローム粒子・パミスと大粒の炭化物片を含む弱粘性の暗褐色土。
  - 4：2層土に類似し、より粘性が強く、色調も暗い。
  - 5：4層土に類似し、黒色土を斑状に含む暗褐色土。
  - 6：ローム粒子・ローム小ブロック・パミスを含む褐色砂質土。
  - 7：8層土に類似し、多量の大粒ロームブロックを含む褐色土。
  - 8：7層土に類似し、ローム粒子の混入量がより多い。
  - 9：1層土に類似し、炭化物の混入が見られない。
  - 10：9層土に類似し、大粒のロームブロックを含む褐色砂質土。
  - 10'：10層土に類似し、よりロームブロックの混入量が多い。
  - 11：2層土に類似し、より弾力をもつ。
  - 12：13層土に類似し、ロームブロックをより多く含む。
  - 13：多量のパミス・ローム粒子を含む黒褐色土。
  - 14：しまりのない黒色土。
  - 15：14層土に類似し、ローム小ブロックを含む暗黒褐色土。
- 貼り床土：ローム土と黒色土との混土。

カマド埋土

- 1：ソフトローム土を主体に、焼土粒子を含む(天井部材か)。
- 2：焼土ブロックと黒色灰層。
- 3：粘性のない黒色土に炭化物・焼土粒子を含む。
- 4：焼土層。

第54図 21号住居跡



第55図 21号住居跡出土遺物

**出土遺物：**土師器甕 (No.4・5) はカマド袖部芯材として転用。

**重複：**西壁部において19号住居跡、東壁部において20号住居跡、南西コーナー部において27号住居跡とそれぞれ重複し、新旧関係は19・20号住居跡はカマドの残存と埋土状態により本遺構より古いものであ

り、27号住居跡は埋土状態により本遺構より新しいものと判断される。

**時期：**出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。

## 21号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 99 No0238	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 11.8 稜径 11.0 器高 5.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も全面に撫でを施す。	
2 99 No0239	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径 12.3 稜径 10.7 器高 4.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に粗い横方向の撫で、底部内面も全面に粗い撫でを施す。	
3 99 No0243	土師器 高杯	口縁～脚部 中位	口径 14.6 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	杯部外面は削り後にヘラ撫で、内面は撫での後に底部を除き斜方向のヘラ磨き、脚部外面は縦方向のヘラ磨き、脚部内面はヘラ撫でを施す。	
4 99 No0244	土師器 甕	カマド袖部 略完形 胴部一部欠	口径 17.7 底径 5.7 器高 23.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～暗褐色	胴部外面は縦～斜方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も横方向の撫でを施す。	
5 99 No0245	土師器 長胴甕	カマド袖部 略完形	口径 18.8 底径 5.3 器高 36.9	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～暗褐色	胴部外面下位は斜～横方向、上位～中位は縦方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の粗い撫で、胴部内面は削り後、横方向の粗い撫でを施す。	
6 99 No2971	磨石類	完形	長 12.6 幅 11.6 厚 4.3	玢岩	平面形は、近円形、横断面は長楕円状を呈する。	861 g
7 99 No2894	こもあみ石	1/2	長 8.4 幅 5.4 厚 4.7	砂岩	片側欠損。平面形は片側欠損部を除き楕円状、横断面形は近楕円形。	361 g
8 99 No2893	こもあみ石	完形	長 9.5 幅 3.9 厚 3.4	粗粒安山岩	平面形は長楕円、横断面形は近円形を呈す。	183 g

## 23号住居跡 (写真図版22・100)

**位置：**C—10Rグリッド付近

**主軸方位：**N—69°—E **規模：**6.1m×5.9m

**形状：**平面形状は、ほぼ正方形を呈し、床面までの深度は確認面より30cm～50cm程を測る。

**カマド：**住居東壁中央のやや南寄りに位置し、燃焼部は壁の内側にあり、煙道部はあまり突出しない。袖部は南側のみに芯材として土師器甕を逆位に埋設し、粘性土を貼り構築される。

**内部施設：**住居コーナー部を結ぶ対角線上に径20cm～50cm、深度80cm～100cmを測る柱穴が4穴検出される。また、住居南東コーナー部付近に、径90cm、深度90cmを測る貯蔵穴と推察される土坑が1基検出さ

れる。

**床面：**地山ローム土を主体とした貼り床をほぼ全面に施す。

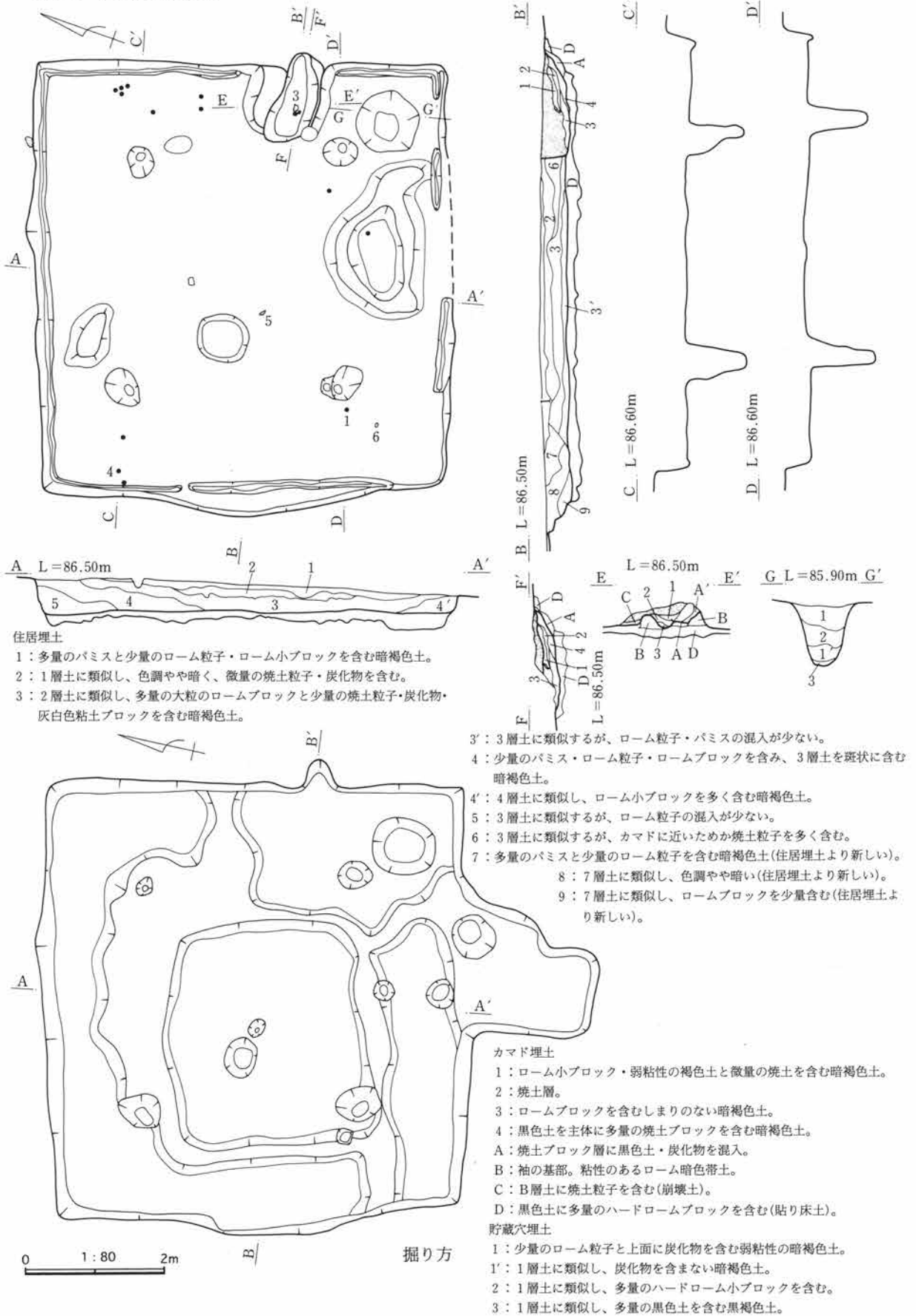
**掘り方：**住居中央部は方形に凹み、壁際も口の字状に凹む。南壁側に張り出し部が検出されたが、付帯施設か否かは明らかではない。

**出土遺物：**土師器小型甕 (No.3) がカマド内より出土。土師器甕 (No.4) はカマド袖部芯材として転用。

**重複：**重複する遺構はない。

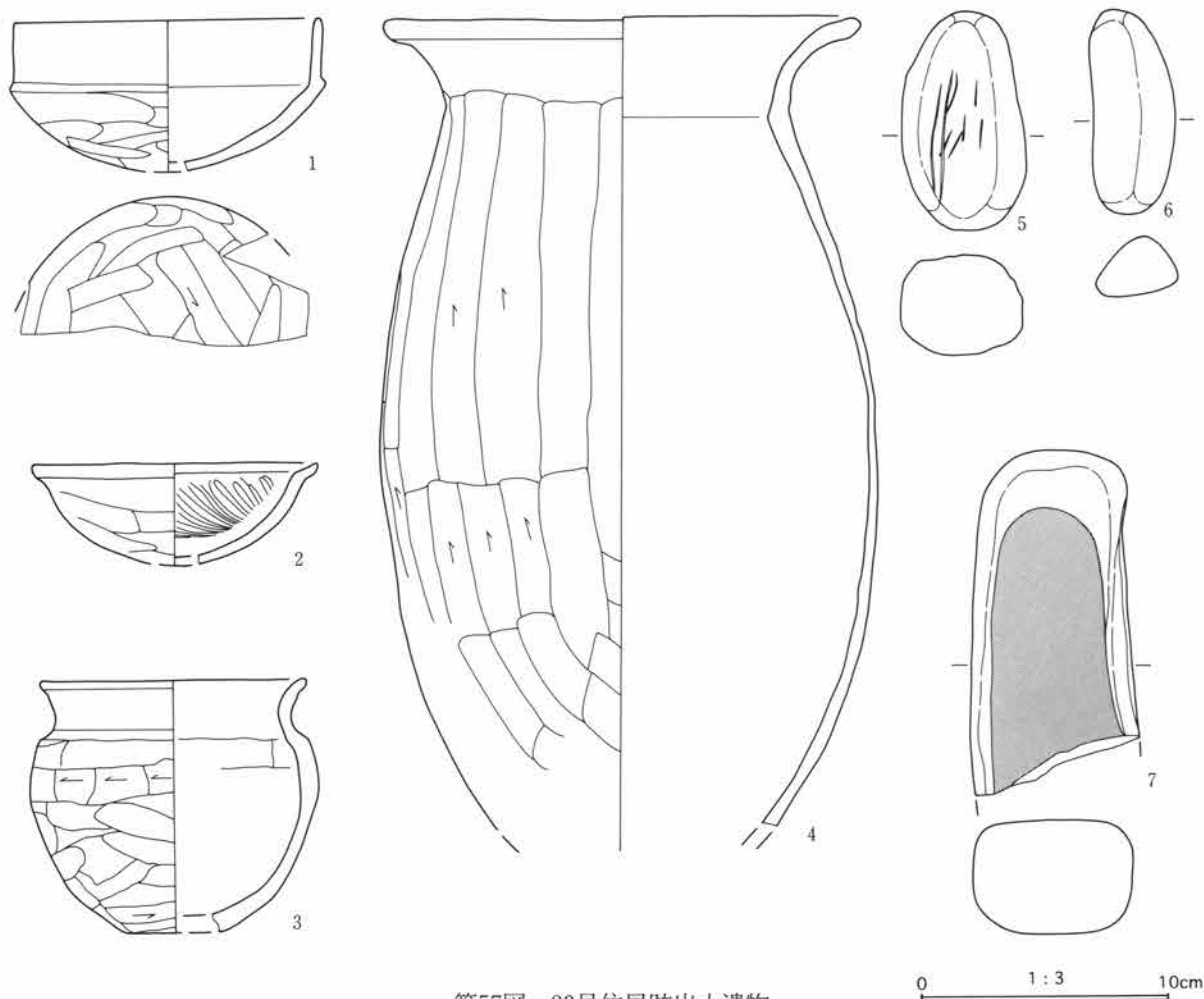
**時期：**出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。

第3章 検出遺構と遺物



第56図 23号住居跡





第57図 23号住居跡出土遺物

23号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 100 No0248	土師器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径(12.3) 稜径(12.6) 器高(6.1)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙～明赤褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も撫でを施す。	
2 100 No0249	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径(11.6) 器高(4.1)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に撫で、底部内面は撫での後に放射状のヘラ磨きを施す。外面及び口縁部内面のみ器壁が荒れる。	
3 100 No0253	土師器 小形甕	口縁～底部 1/2	口径(10.6) 底径(3.7) 器高—	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:明赤褐色	外面胴部～底部はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も撫でを施す。	
4 100 No0254	土師器 甕	カマド 口縁～胴部 下位	口径 19.0 底径— 器高—	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙～褐灰色	胴部外面は縦方向(下から上)のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も全面に撫でを施す。	
5 100 No2895	こもあみ石	完形	長 8.7 幅 4.9 厚 3.9	粗粒安山岩	平面形は楕円形、横断面は隅丸方形気味。	209 g
6 100 No2896	こもあみ石	完形	長 8.2 幅 3.2 厚 2.4	粗粒安山岩	平面形は長楕円形、横断面は隅丸三角形状を呈す。	105 g
7 100 No2242	石製品 磨石		長 (13.0) 幅 6.7 厚 4.9	変質玄武岩	トーン部が磨耗を現わす。平面形は隅丸長方形、横断面も隅丸長方形。	733 g

24号住居跡 (写真図版23・100・101)

位置：C-09Qグリッド付近

主軸方位：N-70°-E 規模：5.7m×5.3m

形状：平面形状は、ややいびつな方形を呈し、床面までの深度は確認面より20cm~40cm程を測る。

カマド：住居東壁のほぼ中央に位置し、燃烧部はほぼ壁のライン上に有り、煙道部はあまり突出しない。袖部は南側に土師器甕を逆位に埋設し、粘性土を固め構築される。また、燃烧部中央より土製支脚(No.16)が、ほぼ使用時の位置より出土する。

内部施設：住居コーナー部を結ぶ対角線上に径30cm~50cm、深度60cm~90cmを測る柱穴4穴が検出される。また、住居南東コーナー部に径60cm×90cm、深度67cmを測る楕円形の貯蔵穴と考えられる土坑が検

出される。

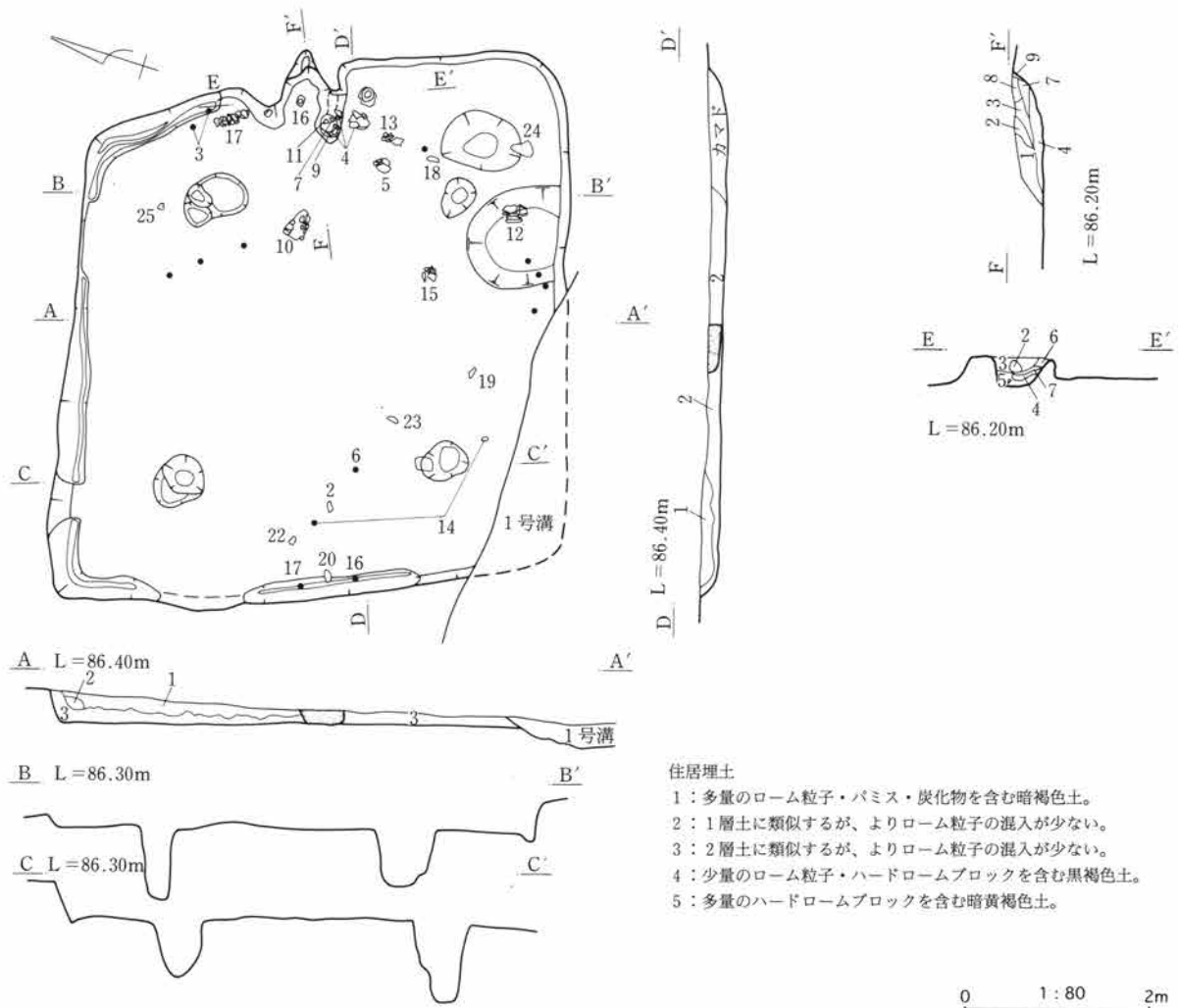
床面：後記の掘り方部のみに、貼り床を施す。

掘り方：住居東壁際と西壁際より深度26cm~62cmを測る方形、長方形の土坑を検出するが、いずれも床面より上面では検出されず、掘り方の一部と考えられる。

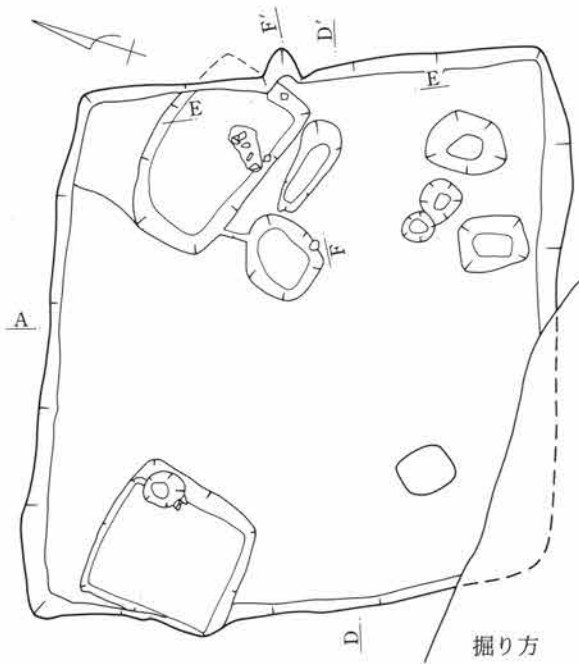
出土遺物：土製カマド支脚(No.16)がカマド内の原位置より出土する。

重複：南壁西寄りにおいて、1号溝と重複し、埋土の状態より本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



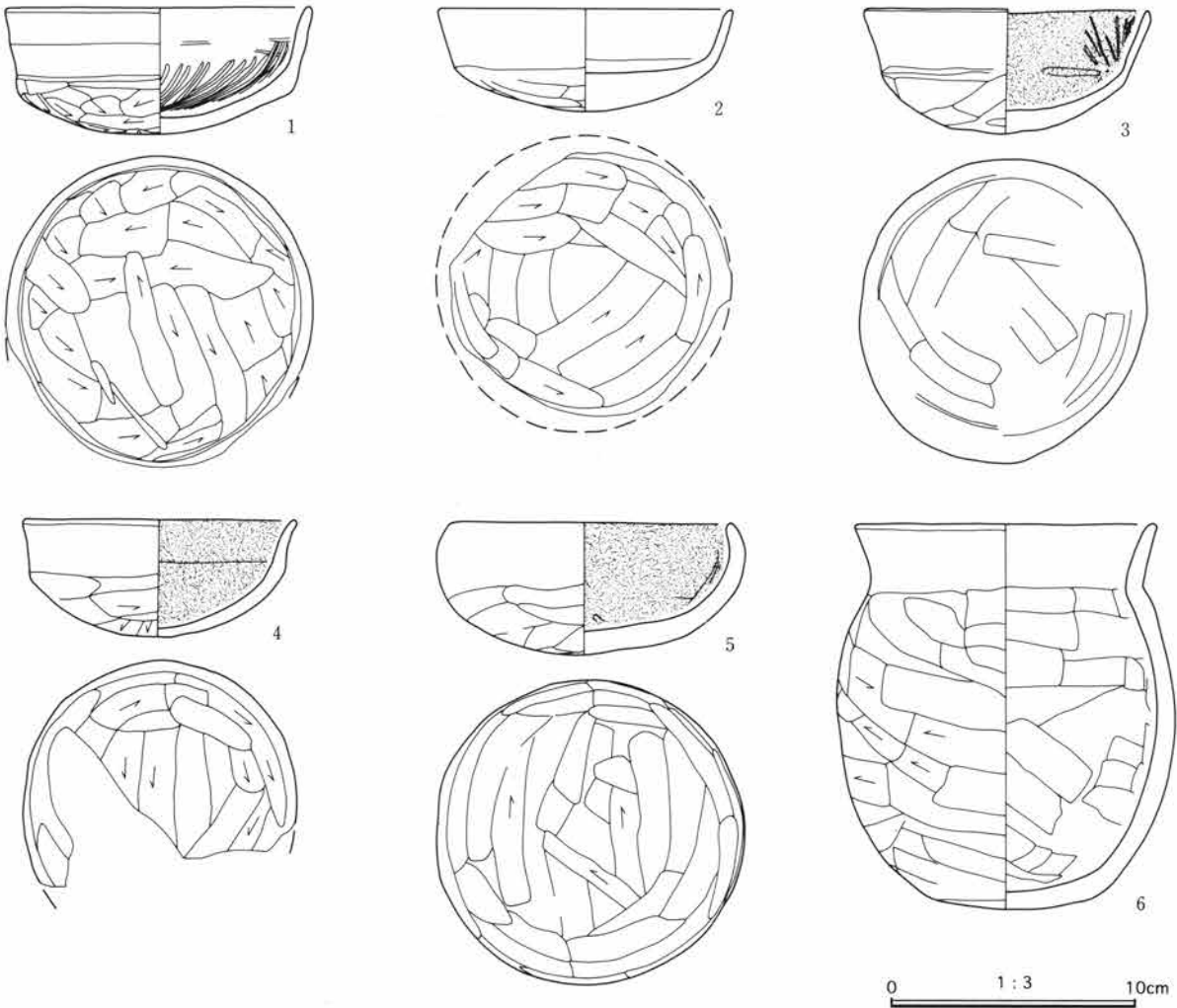
第58図 24号住居跡



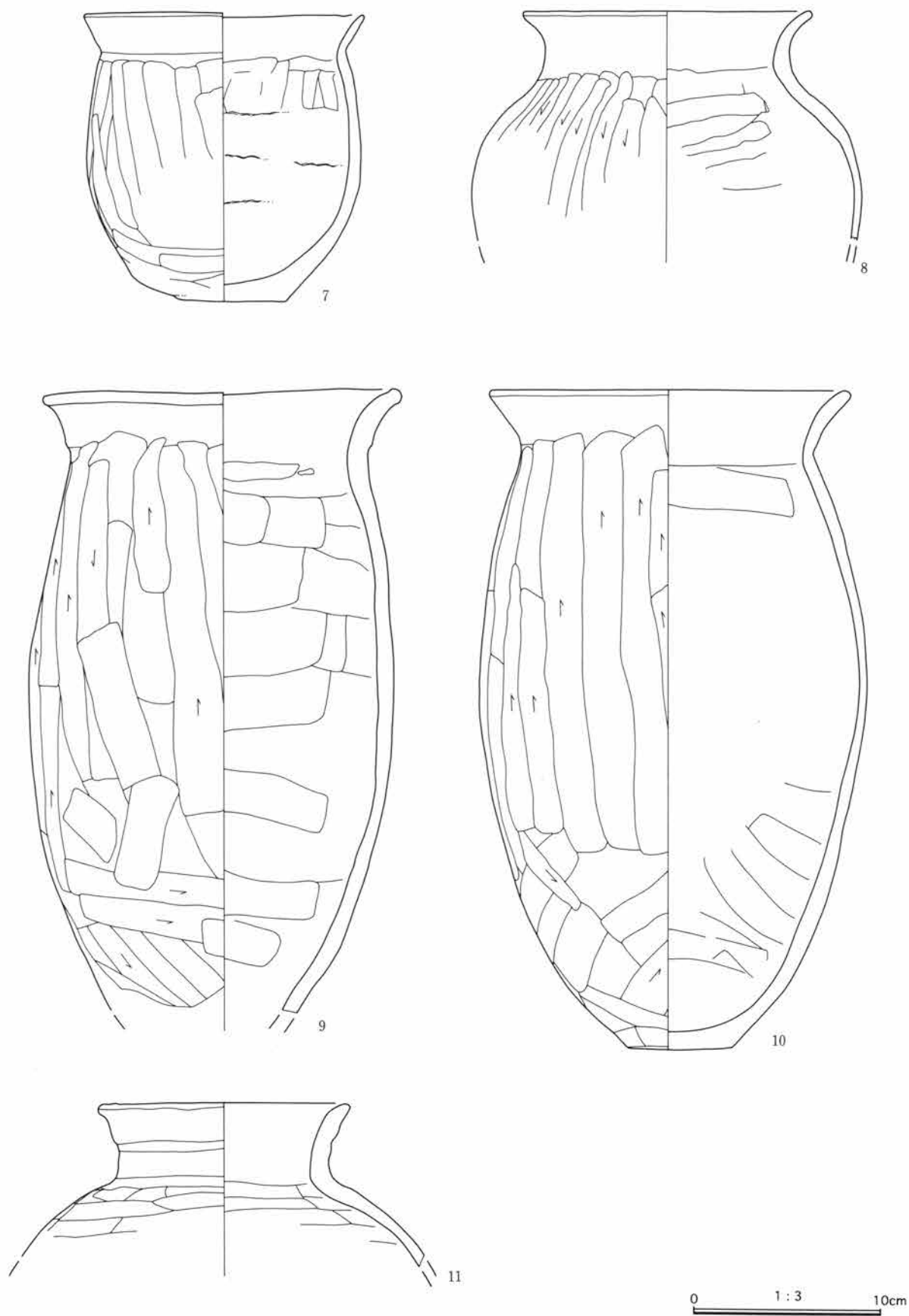
カマド埋土

- 1: パミス・ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含む暗褐色土。
- 2: 多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土。
- 3: ローム土を主体に多量の焼土と2層土を斑状に含む黄褐色土。
- 3': 3層土に類似し、より多くの焼土粒子・焼土ブロックを含む。
- 4: 多量のローム粒子・ロームブロックと少量の炭化物を含む褐色土。
- 5: 少量のローム粒子と焼土粒子を含む暗褐色土。
- 6: 9層土を主体に7層土を斑状に含む。
- 7: 焼土ブロック層。
- 8: ローム土を主体に多量の焼土粒子を含む黄褐色粘質土。
- 9: 焼土粒子・ローム粒子を含み、黒褐色土を斑状に含む褐色土。

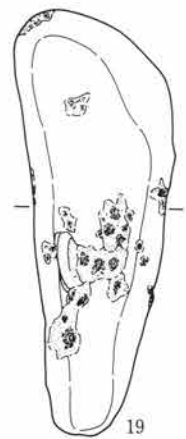
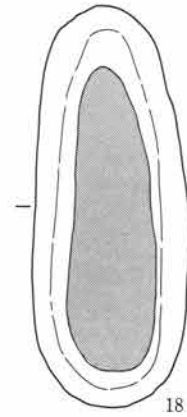
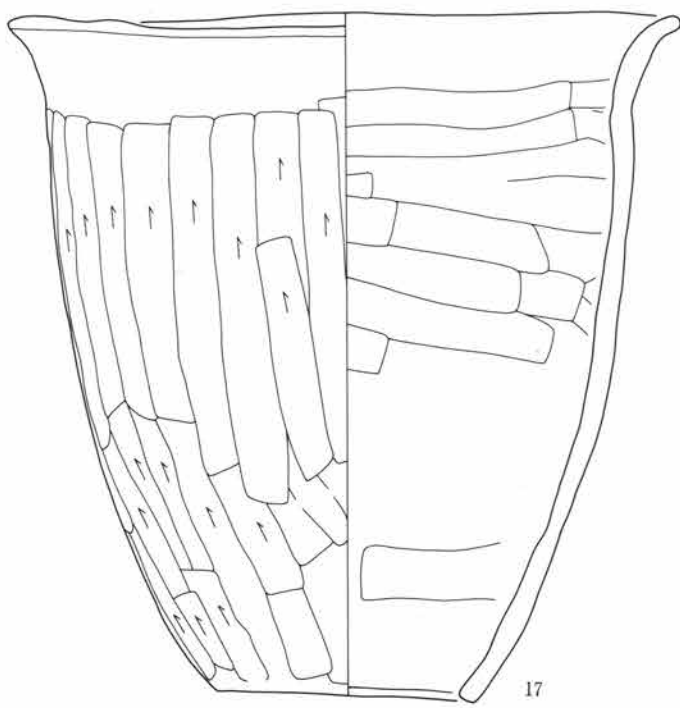
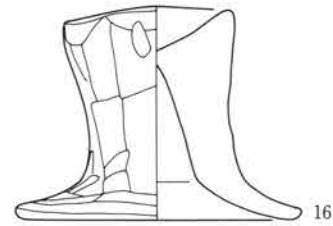
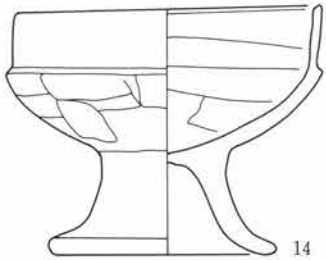
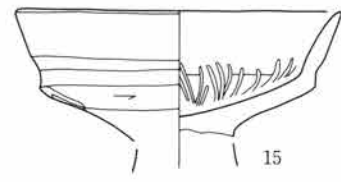
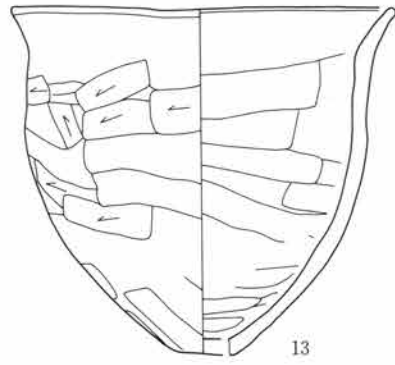
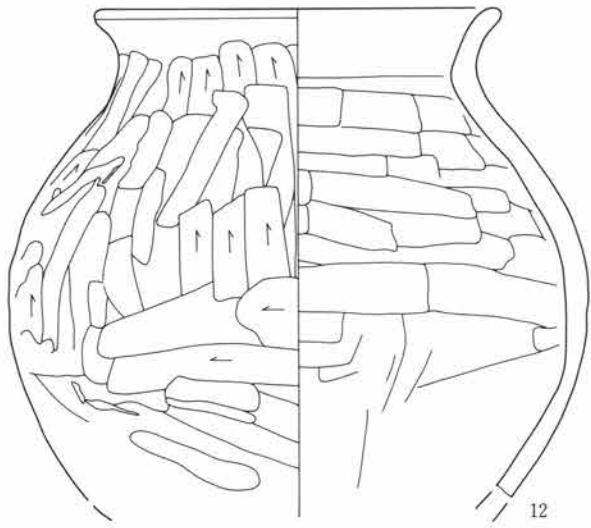
0 1:80 2m



第59図 24号住居跡及び出土遺物



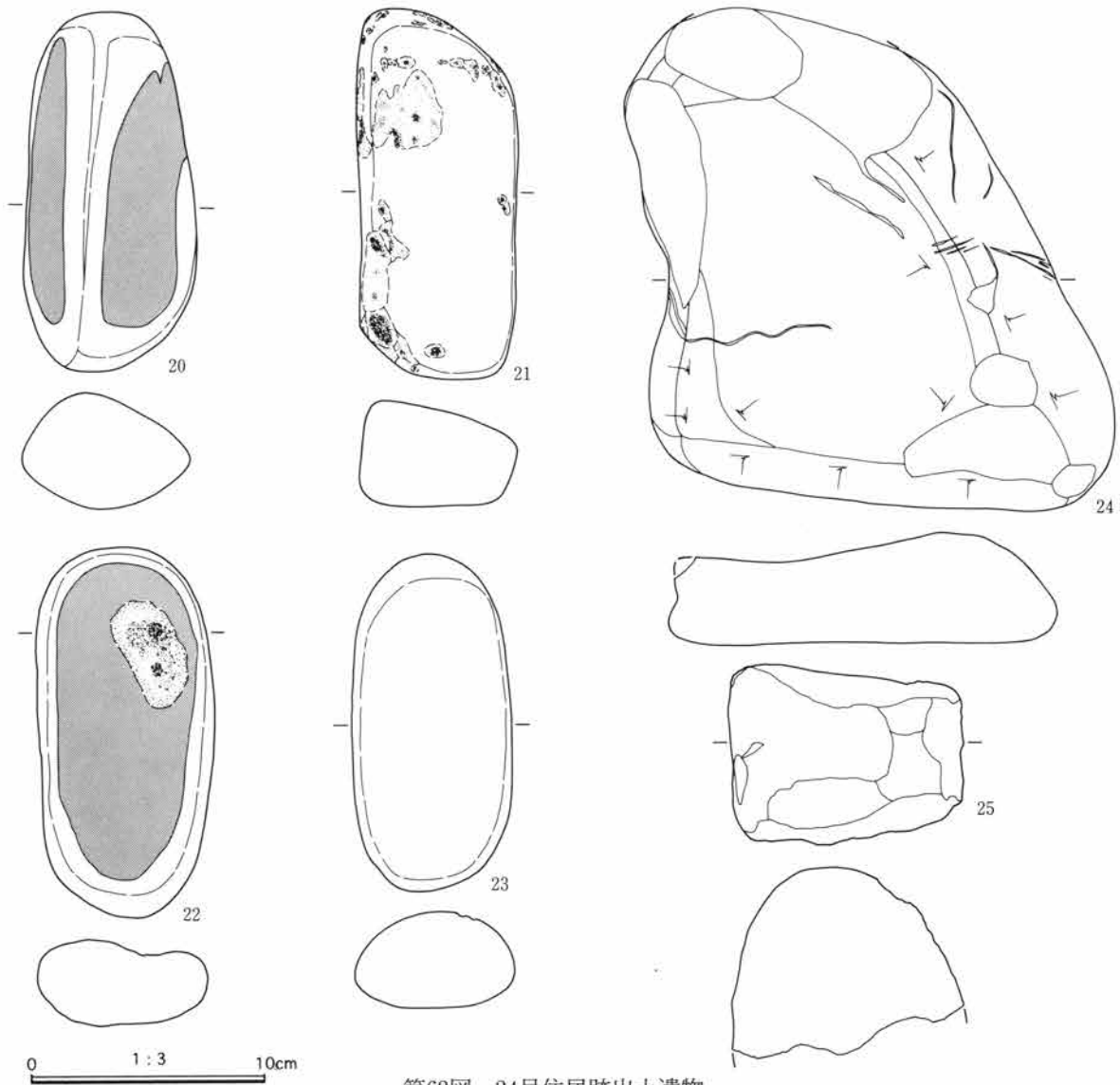
第60図 24号住居跡出土遺物



0 1:3 10cm

第61図 24号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と遺物



第62図 24号住居跡出土遺物

24号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 100 No0257	土師器 杯	口縁～底部 1/3	口径 12.5 稜径 11.2 器高 5.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	全体にやや肉厚の底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は撫での後に放射状のヘラ磨きを施す。	
2 100 No0260	土師器 杯	カマド掘方 口縁～底部 口縁ほぼ欠	口径(11.9) 稜径 10.4 器高 4.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐色	底部肉厚、底部内面は水平。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
3 100 No0258	土師器 杯	口縁～底部 1/3	口径 11.5 稜径 9.8 器高 5.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰・内黒 色：橙色・黒色	底部外面はヘラ削り、口縁部は横方向の撫で、内面は撫での後に口縁部のみ極めて粗いヘラ磨きを施し、焼成時に内面黒色処理。	
4 100 No0261	土師器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径 11.2 稜径 10.4 器高 4.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰・内黒 色：橙～暗褐・黒色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施し、ヘラ磨きは施さず、焼成時に内面黒色処理。	
5 100 No0259	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 11.6 器高 5.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰内面黒色 色：橙色・黒色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は撫での後に不歩方向の粗いヘラ磨きを施す	内面黒色 処理
6 100 No0265	土師器 小形甕	口縁～底部 1/3	口径 12.2 底径 5.3 器高 15.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐～黒褐色	底部非平坦。胴部外面は横方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は横方向のヘラ撫でを施す。	



図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
7 100 No0271	土師器 小形甕	口縁～底部 1/5	口径 14.9 底径 5.6 器高 15.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐～黒褐色	胴部外面は縦方向のヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は全面に撫でを施す。	
8 100 No0269	土師器 壺	口縁～胴部 中位破片	口径(15.2) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	胴部外面は縦方向(上から下)の丁寧なヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横方向のヘラ撫でを施す。	
9 100 No0273	土師器 甕	口縁～胴部 下位1/4	口径 18.8 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	胴部外面は縦方向(下から上)のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は全面に撫でを施す。	
10 100 No0272	土師器 甕	口縁～底部 1/5	口径 18.9 底径 5.6 器高 34.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～暗褐色	底部非水平。胴部外面は縦方向(下から上)のヘラ削り口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横方向のヘラ撫でを施す。	
11 100 No0268	土師器 壺	口縁～胴部 上位破片	口径 13.3 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～明赤褐色	口縁部外面中位に沈線が巡る。胴部外面上位は横方向のヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横方向のヘラ撫でを施す。	
12 101 No0275	土師器 甕	口縁～胴部 中位破片	口径(15.2) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色・黒色	外面口縁部～胴部上位は縦方向(下から上)のヘラ削り胴部中位下は横方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面上位は横方向のヘラ撫で。	
13 101 No0266	土師器 小形甕 (一穴)	口縁～底部 1/5	口径 15.3 底径 2.3 器高 13.8	胎：粗砂粒(φ1～5mm) 焼：酸化焰 色：橙～赤褐色	胴部外面は下位が縦方向、上位が横方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は横方向のヘラ撫でを施す。	
14 101 No0263	土師器 高杯	口縁～脚部 1/5	口径 12.2 底径 9.2 器高 10.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	杯部外面底部はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。脚部は内外面共に横方向の丁寧な撫でを施す。	
15 101 No0264	土師器 高杯	杯部のみ (脚部欠損)	口径 13.1 稜径 11.0 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	杯部底部外面は粗いヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、杯部内面底部は撫での後に粗い放射状のヘラ磨きを施す。	
16 101 No0267	土製品 カマド支脚	カマド 完形	口径 6.8 底径 11.5 器高 8.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	上半部は手捏ね成形で、底部よりヘラ状工具で三角錐状にえぐり中空に加工。裾部は紐作りか。外面はヘラ及び指撫で、底面はヘラ撫でを施す。	
17 101 No0274	土師器 甕 (一穴)	略完形 胴部一部欠	口径 26.8 底径 10.2 器高 26.9	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	底部非水平。胴部外面は縦方向(下から上)のヘラ削り口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横方向のヘラ撫でを施す。	
18 101	こもあみ石	完形	長 16.0 幅 6.3 厚 5.3		凝灰質砂岩。平面形は長楕円形、横断面は隅丸方形～近円形を呈す。	863 g No2902
19 101	こもあみ石	完形	長 16.8 幅 6.5 厚 5.3		粗粒安山岩。平面、表側に凹凸あり、平面形は一辺の長い隅丸長三角形、横断面は歪みのある隅丸方形。	692 g No2901
20 101	こもあみ石	完形	長 15.0 幅 7.1 厚 5.3		砂岩。平面形は長楕円形、横断面は隅丸の変形を呈する。	801 g No2897
21 101	こもあみ石	完形	長 15.4 幅 6.8 厚 4.75		砂岩。平面形は歪む隅丸の長方形を、横断面は隅丸台形気味。図表面に凹凸あり。	914 g No2898
22 101	こもあみ石	完形	長 15.5 幅 7.5 厚 3.8		粗粒安山岩。平面形は、長楕円形を呈し、横断面も隅丸長方形、表面に凹凸あり。	670 g No2900
23 101	こもあみ石	完形	長 14.1 幅 6.8 厚 4.25		粗粒安山岩。平面形は長楕円形を呈し、横断面は楕円形気味。	528 g No2899
24 101	石製品 砥石	完形	長 20.9 幅 20.6 厚 40.8		玢岩 研磨主体は石など硬質で表裏使用。	3010 g No2258
25 101	石製品 不明	破片	長( 7.5) 幅 9.9 厚( 8.0)		二ツ岳軽石。石質は軽い。紡錘状自然石と割れ口あり。	549 g No2977

## 25号住居跡 (写真図版24・101・102)

位置：C-09Sグリッド付近

主軸方位：N-63°-E 規模：4.2m×3.7m

形状：平面形状は、ややいびつな隅丸長方形を呈し、壁は蛇行する。床面までの深度は確認面より30cm～50cm程を測る。

カマド：住居東壁の中央やや南寄りに位置し、煙道部はあまり突出しない。袖部芯材として土師器甕を逆位に埋設し、粘性土を貼り構築される。

内部施設：住居中央やや西寄りに柱穴を2穴、又、南東コーナー部付近に貯蔵穴を1基検出する。(規模については調査時未測定、写真より図化)

第3章 検出遺構と遺物

床面：地山ローム土を固め床面とし、住居南壁際のみ床がやや高まる。

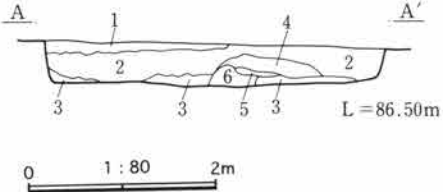
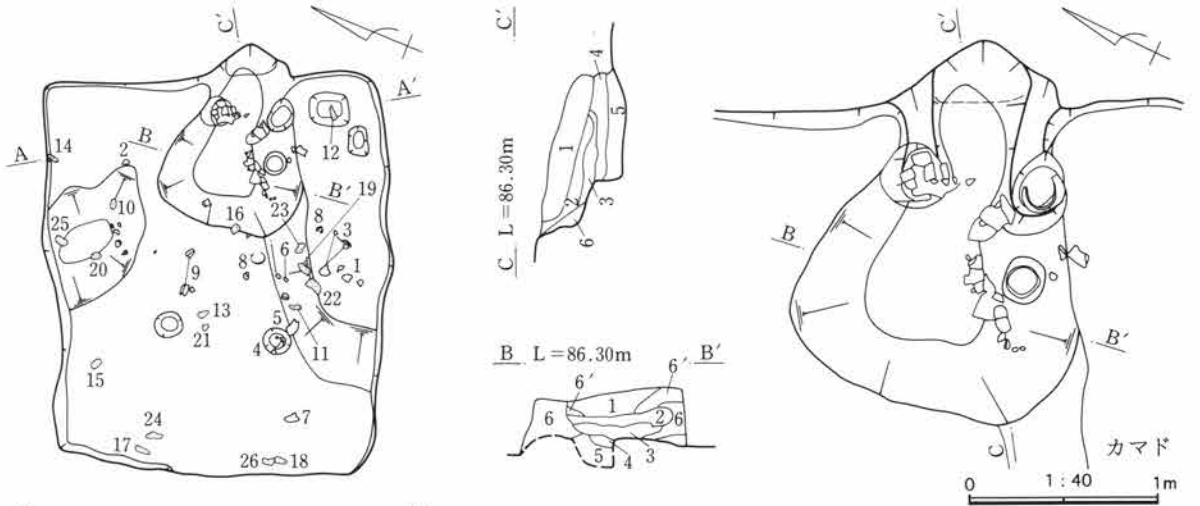
掘り方：なし。

出土遺物：こもあみ石等の石製品を多く出土する。

重複：29号住居跡内部に取まるように重複し、本遺

構のカマドの残存状態から、本遺構の方が新しいものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、7世紀代の住居跡と推定される。



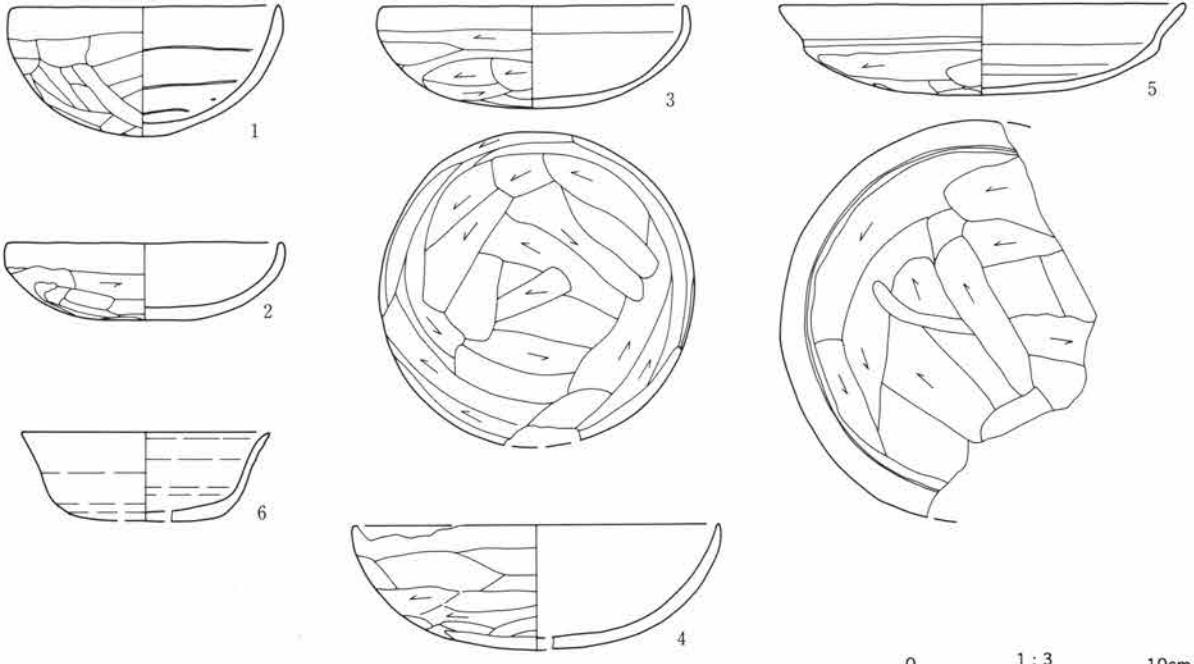
- 4：混入物の少ない黒褐色粘質土(カマド構築材)。
- 5：混入物の少ない暗赤褐色粘質土(カマド構築材)。
- 6：混入物の少ない暗灰褐色粘質土(カマド構築材)。

カマド埋土

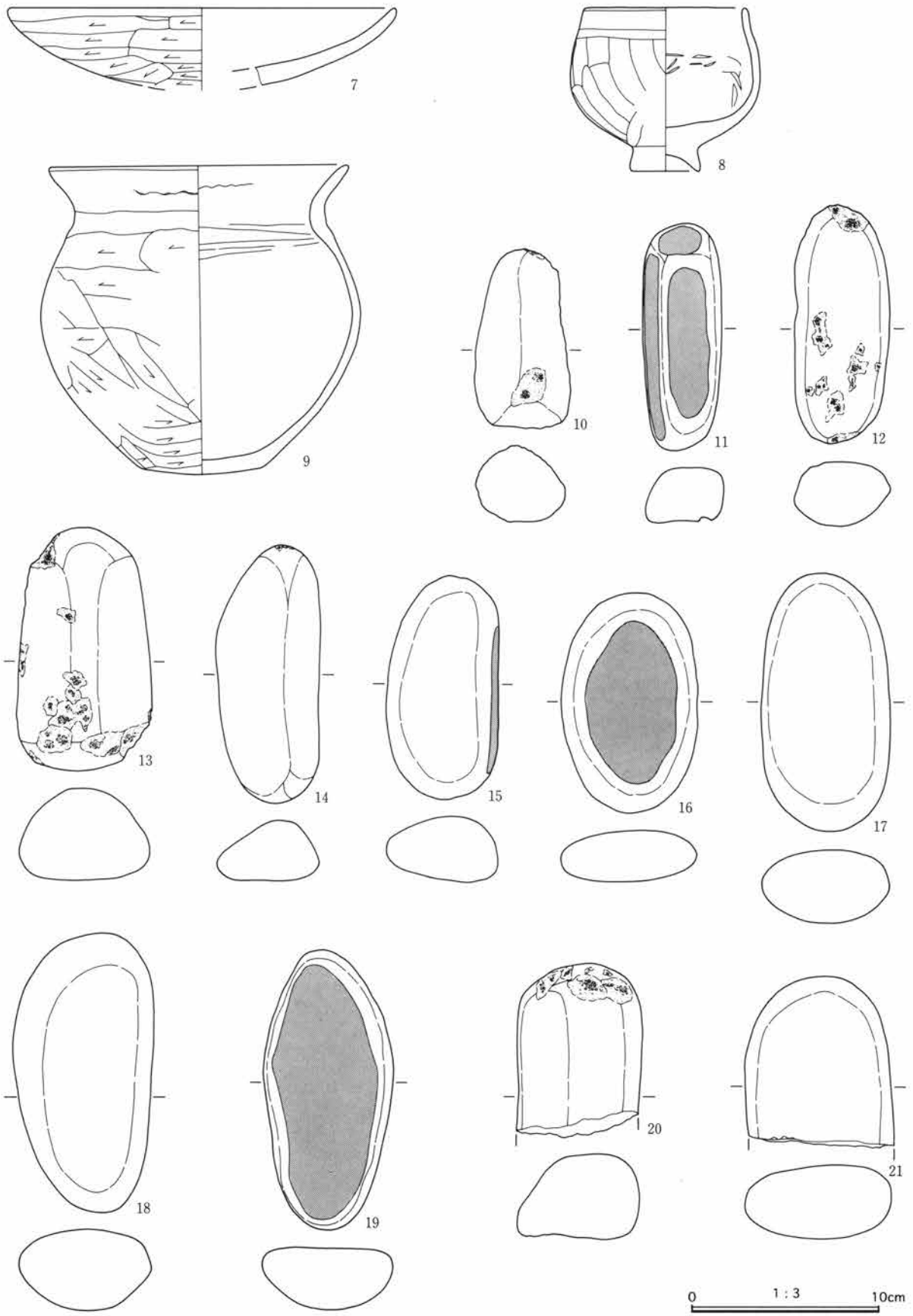
- 1：少量の焼土を含む細粒の暗褐色粘質土。
- 2：シルト質土の焼土化。
- 3：シルト質土を主体に多量の白色灰・焼土ブロックを含む灰褐色粘質土。
- 4：焼土粒子・炭化物を含む粒子の粗い暗褐色土(火床面)。
- 5：ローム粒子と少量の焼土粒子を含む弱粘性の暗褐色土。
- 6：袖部構築材。少量の焼土粒子・ローム粒子を含む暗褐色粘質土。
- 6'：6層土に類似し、崩落のためやや粒子が粗い。

住居埋土

- 1：多量のバミスを含む暗褐色砂質土。
- 2：バミス・ローム粒子・焼土粒子・炭化物を含む弱粘性の暗褐色土。
- 3：2層土に類似し、ロームブロックを含む。

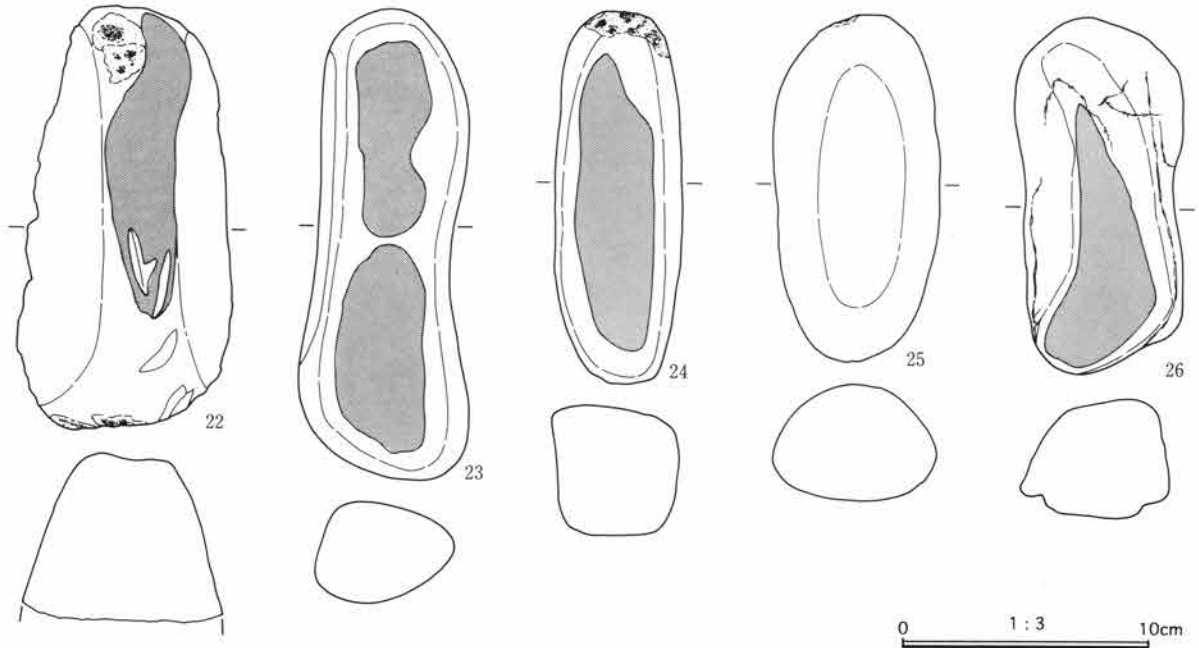


第63図 25号住居跡及び出土遺物



第64図 25号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と遺物



第65図 25号住居跡出土遺物

25号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 101 No0279	土師器 椀	完形	口径 10.8 器高 5.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～明褐色	外面底～体部はヘラ削り後にヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底～体部は全面に撫でを施す。	
2 — No0284	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径 11.2 器高 3.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	口縁部若干歪む。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も全面に撫でを施す。	
3 101 No0280	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 12.3 器高 4.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は全面に撫でを施す。	
4 — No0282	土師器 杯	口縁～底部 1/3	口径 14.7 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。使用によるためか内面器壁及び口縁部は摩耗が著しい。	
5 101 No0281	土師器 皿	口縁～底部 2/3弱	口径 16.3 稜径 14.2 器高 3.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も円状の撫でを施す。	
6 — No0288	須恵器 杯	口縁～底部 破片	口径 10.0 器高( 3.6)	胎： 焼： 色：	ロクロ成・整形。底部は切り離しは不明、全面ヘラ削り。ロクロ回転方向不明。	
7 — No0283	土師器 皿(盤)	口縁～底部 上位破片	口径 20.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は全面に撫でを施す。	
8 101 No0289	土師器 脚付鉢	口縁～脚部 1/2	口径 8.6 底径 3.5 器高 8.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	外面は器壁の剥落のため不明だが、体部はヘラ削り、口縁部は横方向の撫でか？内面は全面に撫でを施す。脚部は内外面共に粗い撫でを施す。	
9 102 No0290	土師器 小形甕	口縁～底部 1/2強	口径 15.8 底径 6.4 器高 16.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	底～胴部外面は横～斜方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は全面に撫でを施す。	
10 102 No2909	こもあみ石	完形	長 9.4 幅 5.1 厚 4.0	粗粒安山岩	平面形は隅丸の三角形気味。横断面は卵形を呈す。	180 g
11 102 No2915	こもあみ石	完形	長 11.8 幅 4.1 厚 3.5	粗粒安山岩	平面形は隅丸長方形を、横断面は、歪む隅丸菱形を呈す。	265 g

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
12 102 No2912	こもあみ石	完形	長 12.5 幅 5.0 厚 3.5	変質安山岩	平面形は長楕円形、横断面は卵形を呈す。図表面に凹凸あり。	295 g
13 102 No2907	こもあみ石	完形	長 12.7 幅 7.2 厚 5.0	石英閃緑岩	平面形は長楕円形、横断面は隅丸三角形を呈し、図表面に凹凸あり。	684 g
14 102 No2911	こもあみ石	完形	長 13.4 幅 5.5 厚 3.4	変質安山岩	平面形は楕円形を、横断面は隅丸三角形気味。	358 g
15 102 No2905	こもあみ石	完形	長 11.7 幅 5.9 厚 3.5	粗粒安山岩	平面形は楕円形を、横断面は楕円形気味。	363 g
16 102 No2963	磨石類	完形	長 11.4 幅 7.1 厚 2.6	粗粒安山岩	平面形は楕円形、横断面も楕円形を呈す。	357 g
17 102 No2903	こもあみ石	完形	長 13.5 幅 6.8 厚 3.9	粗粒安山岩	平面形は長楕円形、横断面は楕円形を呈す。	561 g
18 102 No2916	こもあみ石	完形	長 14.6 幅 7.3 厚 4.1	粗粒安山岩	平面形は長楕円形、横断面は楕円形を呈す。	686 g
19 102 No2913	こもあみ石	完形	長 14.6 幅 6.8 厚 3.3	変質玄武岩	平面形は長楕円形、横断面は扁平な隅丸三角形を呈す。	474 g
20 102 No2910	こもあみ石	1/2	長 (9.1) 幅 6.6 厚 4.7	変質安山岩	片側欠。平面形は隅丸長形、横断面は片側の張りが強い。図上方に凹凸あり。	407 g
21 102 No2906	こもあみ石	1/2	長 (8.8) 幅 7.6 厚 3.9	粗粒安山岩	片側欠。平面形は隅丸楕円形気味。横断面は楕円形を呈す。	442 g
22 102 No2247	磨石		長 (16.8) 幅 8.6 厚 (6.6)	粗粒安山岩	図裏側欠損。平面形長楕円形気味。横断面は截頭状で、その平部に磨耗痕と凹凸。	1125 g
23 102 No2914	こもあみ石	完形	長 18.5 幅 6.9 厚 4.2	輝緑岩	平面はくびれのある長楕円形、横断面は片辺の張った楕円形。トーンは磨耗を示めず。	794 g
24 102 No2904	こもあみ石	完形	長 (14.8) 幅 5.1 厚 5.1	粗粒安山岩	平面長楕円形、横断面は隅丸方形気味。トーンは磨耗を示めず。図上方に凹凸あり。	641 g
25 102 No2908	こもあみ石	完形	長 13.8 幅 6.7 厚 4.9	粗粒安山岩	平面は長楕円形、横断面は楕円形気味。	643 g
26 102 No2917	こもあみ石	完形	長 14.1 幅 6.7 厚 4.5	粗粒安山岩	平面は歪みのある隅丸長方形。横断面は不整形。トーンは磨耗を示めず。	649 g

26号住居跡 (写真図版25・101・102・103)

位置：C-10Vグリッド付近

主軸方位：N-79°-E 規模：5.8m×6.2m

形状：平面形状は、ほぼ正方形を呈し、床面までの深度は確認面より30cm～45cm程を測る。

カマド：住居東壁の中央やや南寄りに位置し、煙道

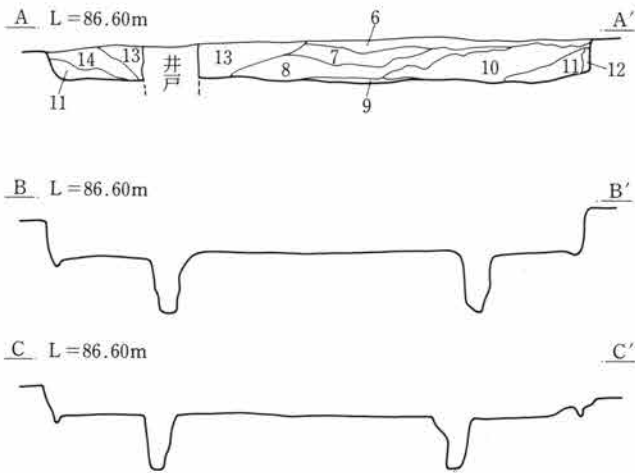
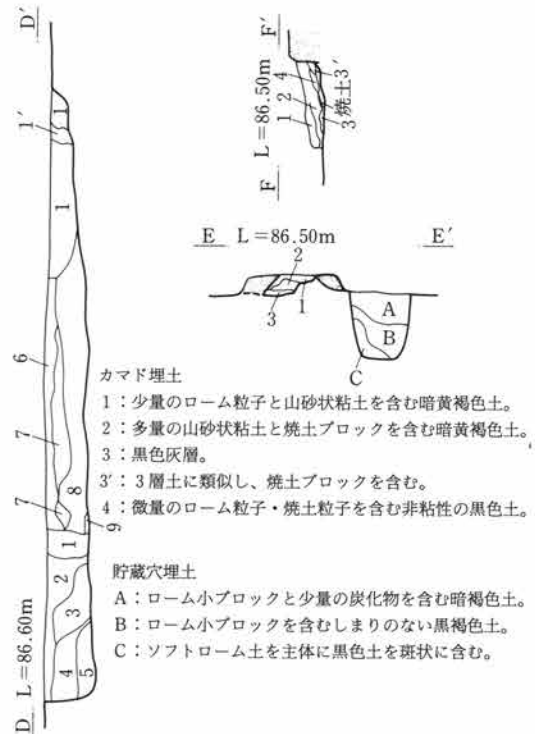
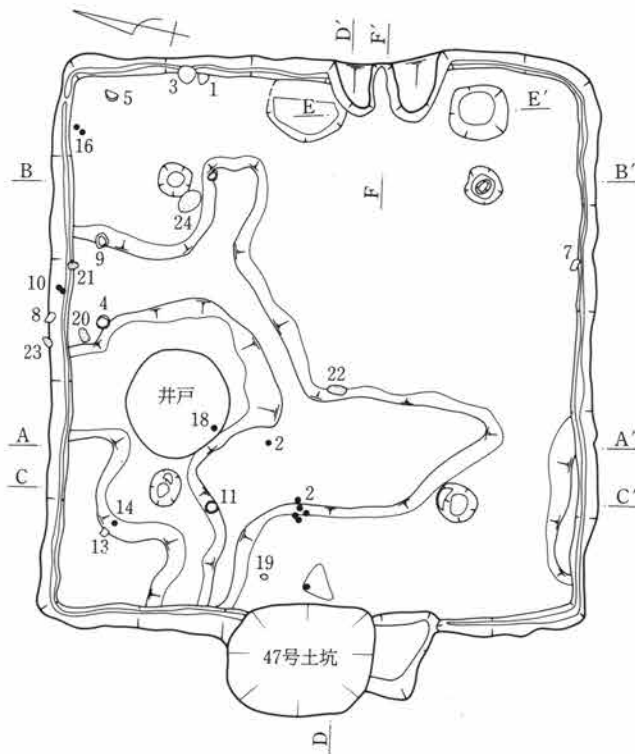
部はほとんど突出しない。燃焼部は壁の内側に有り、袖部は芯材を用いず、粘性土のみを固めて構築される。

内部施設：住居コーナー部を結ぶ対角線上に、径15cm～40cm、深度50cm～60cm程を測る柱穴が4穴検出される。また、カマド南側より径60cm、深度70cmを

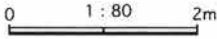
第3章 検出遺構と遺物

測る貯蔵穴と考えられる土坑が1基検出される。  
**床面**：地山ローム土を固めて床面とする。住居北壁際から中央部にかけて、やや床の高まりが確認される。  
**掘り方**：なし。  
**出土遺物**：滑石製模造品 (No16・17) が58点出土。  
**重複**：北西コーナー部において43号住居と重複し、埋土の状態から、本遺構の方が新しいものと判断さ

れる。また、西壁中央部において11号土坑と重複し、埋土の状態から本遺構の方が古いものと判断される。  
**時期**：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。

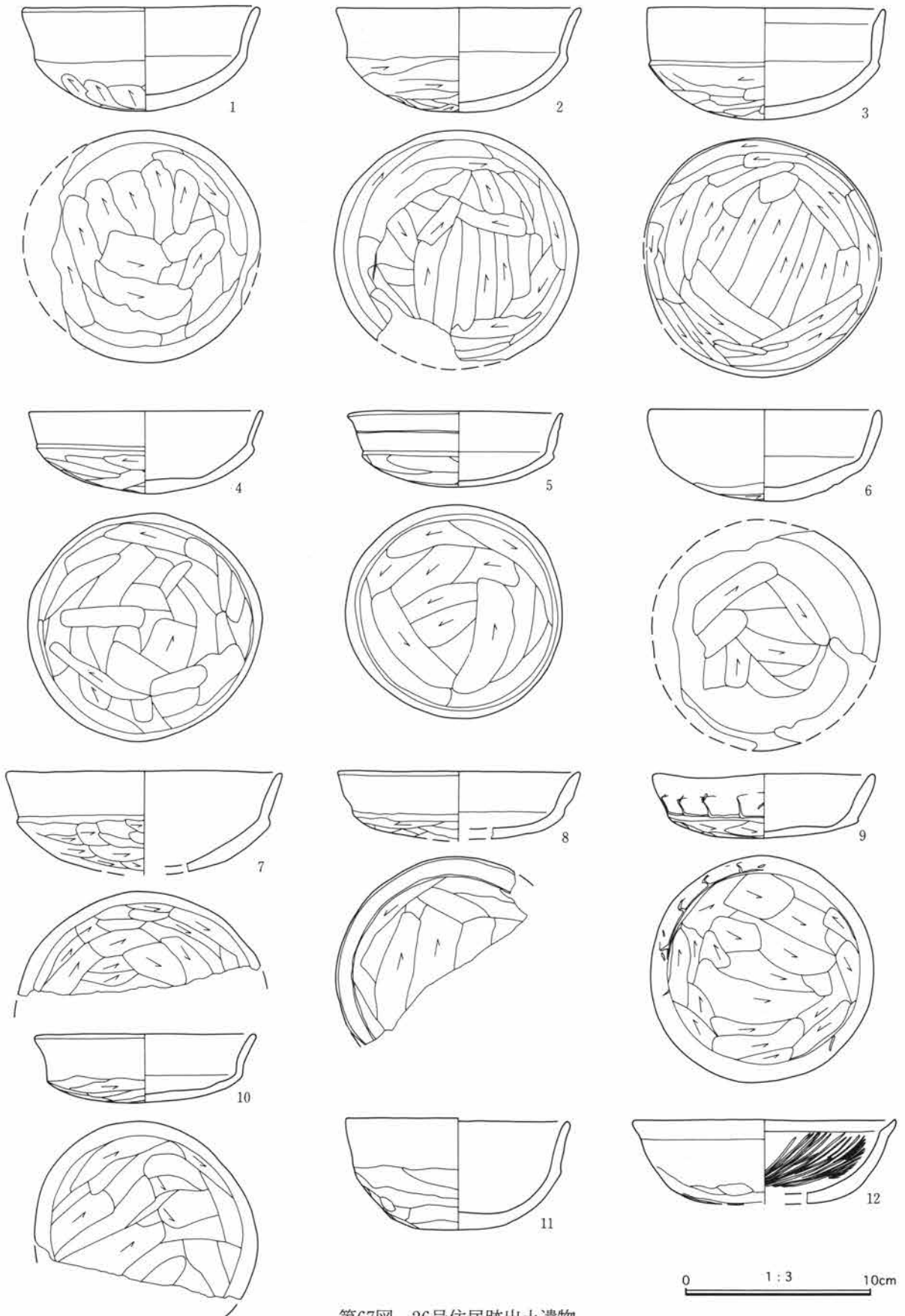


- 住居埋土**
- 1：パミス・ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色砂質土。
  - 1'：1層土に類似し、多量のローム粒子を含む。
  - 2：多量のローム粒子と少量のローム小ブロックを含む褐色土。
  - 3：少量のローム粒子・ロームブロックを含む暗褐色土。
  - 4：3層土に類似し、よりローム粒子の混入が多い。
  - 5：少量のローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土。
- (上記1～5は重複する47号土坑埋土)。
- 6：多量のパミスと少量のローム粒子を含む暗褐色砂質土。
  - 7：6層土に類似し、より多くのローム粒子を含む。
  - 8：多量のローム粒子と少量のパミス・ロームブロックを含む暗褐色土。
  - 9：パミスを含まず、ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土。
  - 10：8層土に類似し、少量の焼土粒子・炭化物を含む暗褐色土。
  - 11：少量のローム粒子・パミスを含む暗褐色土。
  - 12：11層土に類似し、多量のロームブロックを含む暗褐色土。
  - 13：11層土に類似し、多量のパミス・ローム粒子を含む暗褐色土。
  - 14：13層土に類似し、より多量のローム粒子を含む暗褐色土。



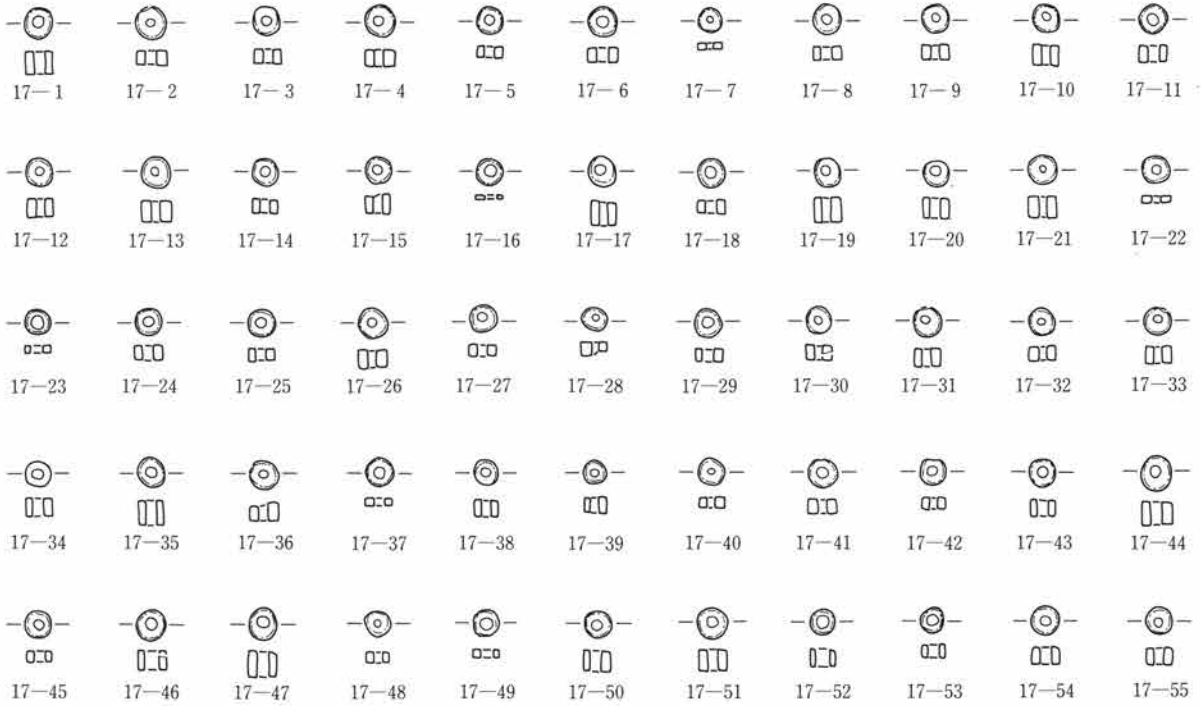
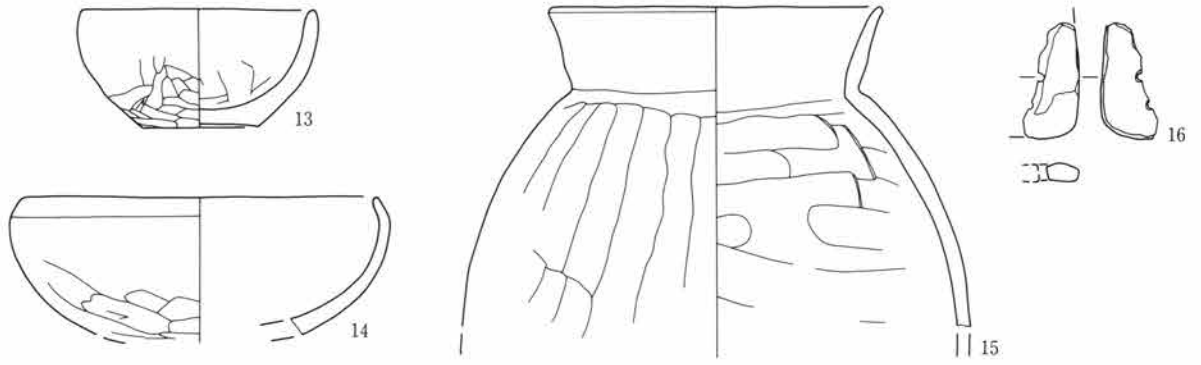
第66図 26号住居跡



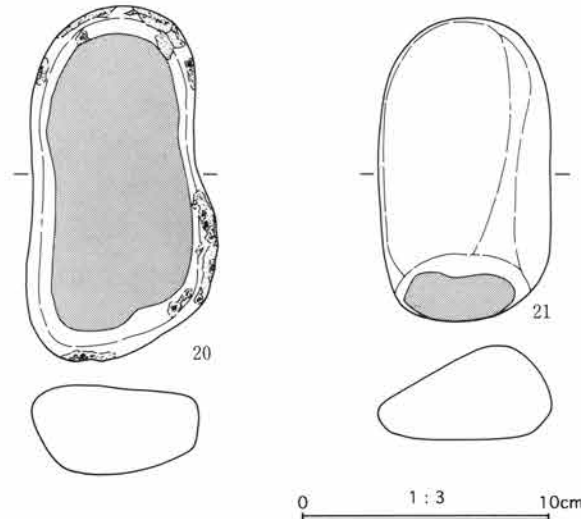
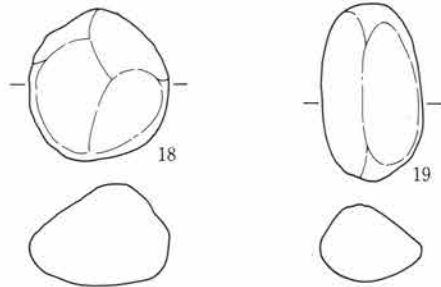


第67図 26号住居跡出土遺物

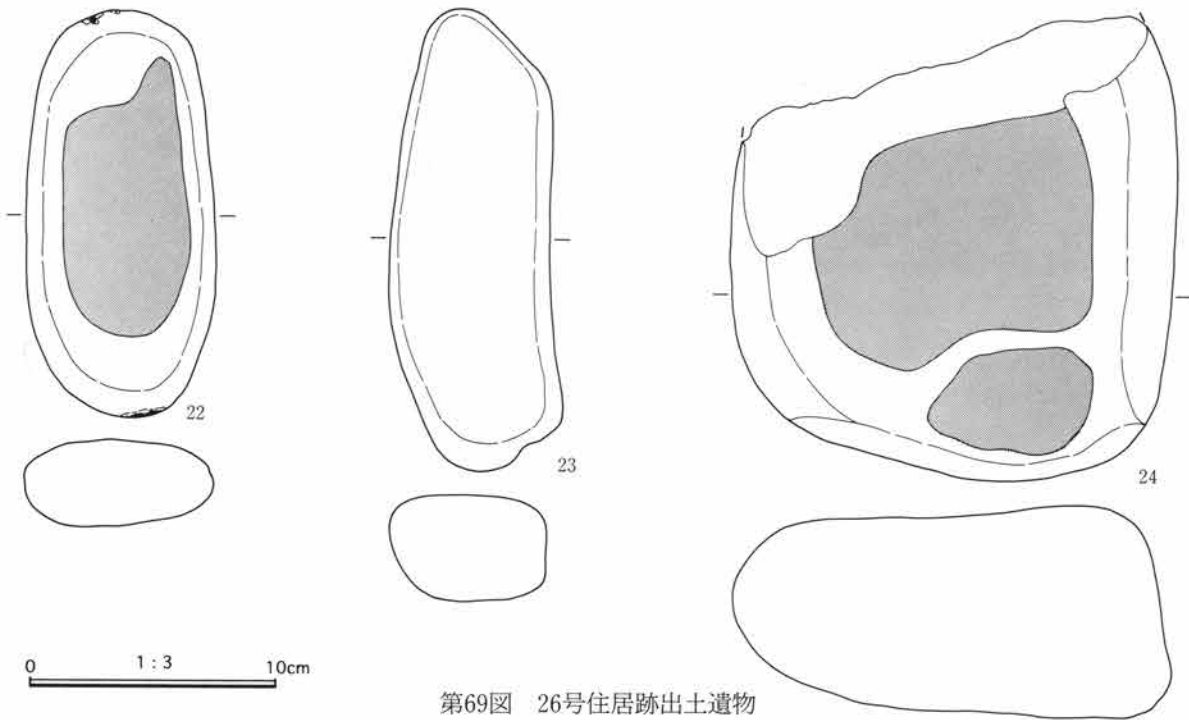
第3章 検出遺構と遺物



0 1:2 5cm  
(16・17)



第68図 26号住居跡出土遺物



第69図 26号住居跡出土遺物

26号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 102 No0308	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 12.7 稜径 11.4 器高 5.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も撫でを施す。	
2 102 No0309	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 13.2 稜径 11.9 器高 5.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～灰褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は撫でを施す。	
3 102 No0307	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 12.6 稜径 12.3 器高 5.9	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～明赤褐色	底部外面は丁寧なヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面口縁下は円弧状の撫で、底面は斜方向の撫でを施す。	
4 102 No0304	土師器 杯	完形	口径 12.5 稜径 11.6 器高 4.3	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～橙色	器形ややいびつ。底部外面ヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は粘土がかなり柔らかい状態での撫でを施す。	
5 102 No0305	土師器 杯	完形	口径 11.5 稜径 10.3 器高 4.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～橙色	口縁部外面中位に浅い沈線が巡る。底部外面は丁寧なヘラ削り、口縁部の内外面及び底部内面はすべて撫でを施す。	
6 102 No0301	土師器 杯	口縁～底部 3/5	口径(12.4) 稜径 10.8 器高 4.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐色	底部外面中央部はヘラ削り、周辺部は削り後に撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は撫でを施す。	
7 — No0310	土師器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径(14.7) 稜径(13.5)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	器壁やや肉厚。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は撫でを施す。	
8 102 No0311	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径(13.0) 稜径(11.4)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は撫でを施す。	
9 102 No0303	土師器 杯	完形	口径 11.8 稜径 10.2 器高 3.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：黒褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部外面は横方向のヘラ削り後に横方向の撫で、内面口縁部は横方向、内面底部は円状の撫でを施す。	
10 103 No0306	土師器 杯	口縁～底部 3/5	口径 11.8 稜径 10.4 器高 3.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～橙色	器形やや歪。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は粘土がかなり柔らかい状態での撫でを施す。	
11 103 No0302	土師器 杯	完形	口径 12.0 稜径 11.0 器高 5.9	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	器壁やや肉厚。底部外面はヘラ削り後ヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は撫でを施す。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考			
12 — No0300	土師器 杯	口縁～底部 破片	口径(14.0)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面底部はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は体部のみ斜方向のヘラ磨きを施す。	胎土赤色 鈹物含			
13 103 No0296	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径(9.4) 底径 4.6 器高 4.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面底～体部は細かいヘラ削り後一部ヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面はヘラ削り後にヘラ撫でを施す。				
14 — No0297	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径(14.3) 稜径(15.2)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部外面下位は丁寧なヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。				
15 103 No0313	土師器 壺	口縁～胴部 上位破片	口径(13.4)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	胴部外面はヘラ削り後に縦方向のヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は粗い横方向のヘラ撫でを施す。				
16 103 No2823	滑石製模造 品 不明	1/2	長 3.1 幅 1.5 器高 0.5	石製	中央に穿孔二穴あり。片側を欠損する。表・裏に擦痕あり。	3.19g			
17 103 No2821	滑石製模造 品 白玉	完形		石製	全体的に直径のわりに穿孔径大きい。長さも長い傾向あり。				
図版番号	外 径	厚	重 量	石 材	図版番号	外 径	厚	重 量	石 材
17-1	0.8mm	0.7mm	0.50g	頁岩(暗緑色)	17-31	0.7mm	0.6mm	0.41g	頁岩(暗緑色)
—2	0.8mm	0.4mm	0.42g	頁岩(暗緑色)	—32	0.7mm	0.3mm	0.28g	滑 石
—3	0.7mm	0.4mm	0.27g	頁岩(暗緑色)	—33	0.7mm	0.4mm	0.29g	頁岩(暗緑色)
—4	0.7mm	0.4mm	0.38g	頁岩(暗緑色)	—34	0.7mm	0.4mm	0.28g	頁岩(暗緑色)
—5	0.7mm	0.3mm	0.15g	頁岩(暗緑色)	—35	0.8mm	0.7mm	0.46g	頁岩(暗緑色)
—6	0.8mm	0.3mm	0.32g	頁岩(暗緑色)	—36	0.7mm	0.4mm	0.30g	頁岩(暗緑色)
—7	0.6mm	0.2mm	0.18g	滑 石	—37	0.7mm	0.1mm	0.10g	頁岩(暗緑色)
—8	0.7mm	0.3mm	0.23g	頁岩(暗緑色)	—38	0.7mm	0.4mm	0.26g	頁岩(暗緑色)
—9	0.8mm	0.3mm	0.26g	頁岩(暗緑色)	—39	0.6mm	0.4mm	0.19g	頁岩(暗緑色)
—10	0.7mm	0.5mm	0.42g	頁岩(暗緑色)	—40	0.7mm	0.3mm	0.24g	滑 石
—11	0.7mm	0.4mm	0.26g	頁岩(暗緑色)	—41	0.8mm	0.4mm	0.29g	頁岩(暗緑色)
—12	0.6mm	0.5mm	0.36g	頁岩(暗緑色)	—42	0.7mm	0.3mm	0.18g	頁岩(暗緑色)
—13	0.7mm	0.5mm	0.46g	頁岩(暗緑色)	—43	0.7mm	0.4mm	0.22g	頁岩(暗緑色)
—14	0.7mm	0.4mm	0.21g	頁岩(暗緑色)	—44	0.8mm	0.6mm	0.60g	頁岩(暗緑色)
—15	0.7mm	0.6mm	0.36g	頁岩(暗緑色)	—45	0.7mm	0.3mm	0.19g	頁岩(暗緑色)
—16	0.7mm	0.1mm	0.07g	頁岩(暗緑色)	—46	0.8mm	0.7mm	0.39g	頁岩(暗緑色)
—17	0.7mm	0.7mm	0.44g	頁岩(暗緑色)	—47	0.8mm	0.7mm	0.52g	頁岩(暗緑色)
—18	0.7mm	0.4mm	0.25g	頁岩(暗緑色)	—48	0.7mm	0.3mm	0.22g	滑 石
—19	0.8mm	0.7mm	0.48g	頁岩(暗緑色)	—49	0.7mm	0.3mm	0.15g	頁岩(暗緑色)
—20	0.7mm	0.5mm	0.31g	頁岩(暗緑色)	—50	0.7mm	0.4mm	0.21g	頁岩(暗緑色)
—21	0.8mm	0.5mm	0.34g	頁岩(暗緑色)	—51	0.8mm	0.5mm	0.36g	頁岩(暗緑色)
—22	0.8mm	0.2mm	0.11g	頁岩(暗緑色)	—52	0.7mm	0.4mm	0.21g	頁岩(暗緑色)
—23	0.6mm	0.1mm	0.07g	頁岩(暗緑色)	—53	0.6mm	0.3mm	0.12g	頁岩(暗緑色)
—24	0.7mm	0.5mm	0.30g	頁岩(暗緑色)	—54	0.7mm	0.4mm	0.27g	頁岩(暗緑色)
—25	0.7mm	0.4mm	0.28g	頁岩(暗緑色)	—55	0.7mm	0.4mm	0.32g	滑 石
—26	0.7mm	0.4mm	0.34g	頁岩(暗緑色)	—56	0.7mm	0.6mm	0.38g	頁岩(暗緑色)
—27	0.7mm	0.4mm	0.25g	頁岩(暗緑色)	—57	1.3mm	0.6mm	6.89g	頁岩(暗緑色)
—28	0.7mm	0.3mm	0.21g	滑 石					
—29	0.7mm	0.3mm	0.21g	頁岩(暗緑色)					
—30	0.7mm	0.3mm	0.12g	頁岩(暗緑色)					
図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考			
18 103 No2964	磨石類	完形	長 6.0 幅 5.6 厚 4.1	粗粒安山岩	平面形は円形、横断面は隅丸三角形。	149g			
19 103 No2918	こもあみ石	完形	長 7.1 幅 4.0 厚 3.2	石英閃緑岩	こも編み石としたら最小級。平面形は楕円形気味。横断面は隅丸三角形。	102g			
20 103 No2919	こもあみ石	完形	長 14.0 幅 7.5 厚 4.1	石英閃緑岩	平面形はくびれのある隅丸長方形気味。横断面は楕円形気味。各所に凹凸あり。	647g			

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
21 103 No2921	こもあみ石	完形	長 12.0 幅 6.8 厚 3.8	粗粒安山岩	平面形は、楕円形気味。横断面は隅丸三角形気味。	456 g
22 103 No2243	磨石	完形	長 16.0 幅 7.5 厚 3.5	粗粒安山岩	平面形は楕円形気味。横断面は楕円形、トーンは磨耗を現わす。	644 g
23 103 No2920	こもあみ石	完形	長 18.2 幅 7.0 厚 4.2	変質安山岩	平面形は不整な隅丸長方形。横断面は隅丸方形気味。	839 g
24 103 No2249	磨石	1/2	長 (18.6) 幅 (17.8) 厚 8.8	文象斑岩	大材で河原石面を残し、片側に欠損あり。トーンは磨耗を現わす。	4290 g

27号住居跡 (写真図版26・103・104)

位置：C-13Qグリッド付近

主軸方位：N-63°-E 規模：5.6m×(5.6)m

形状：平面形状は、南側の壁が未検出のため定かではないが、柱穴の位置などからほぼ正方形を呈すると考えられる。床面までの深度は確認面より15cm～40cm程を測る。

カマド：住居東壁中央やや南寄りに位置し、煙道部はあまり突出しない。袖部は芯材を用いず、粘性土を固め構築される。

内部施設：住居各コーナー部を結ぶ対角線上に径20cm～35cm程、深度40cm～80cm程を測る柱穴が4穴検

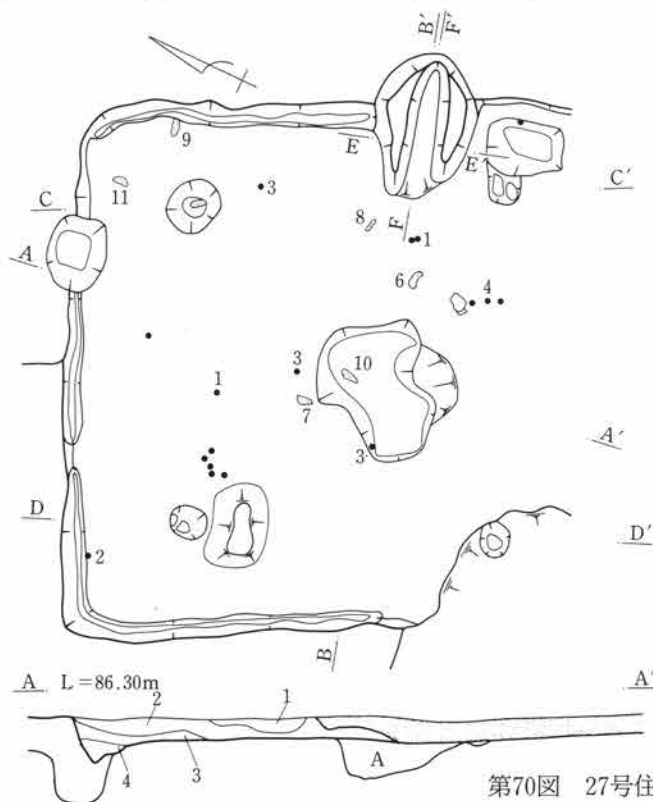
出される。また、南東コーナー部より柱穴に接するよう

に貯蔵穴と考えられる土坑が検出される。床面：後記の住居中央部掘り方土坑部分を除き、地山ローム土を固めて床面とする。

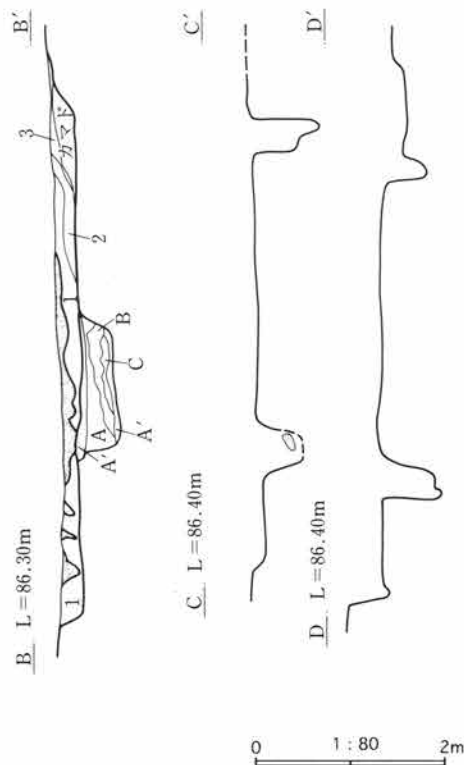
掘り方：住居中央部に径140cm、深度40cm程の不定形の土坑が1基検出される。

重複：住居南壁部を1号溝に切られる。北東コーナー部において21号住居跡と重複し、埋土の状態より本遺構の方が新しいと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



第70図 27号住居跡



### 第3章 検出遺構と遺物

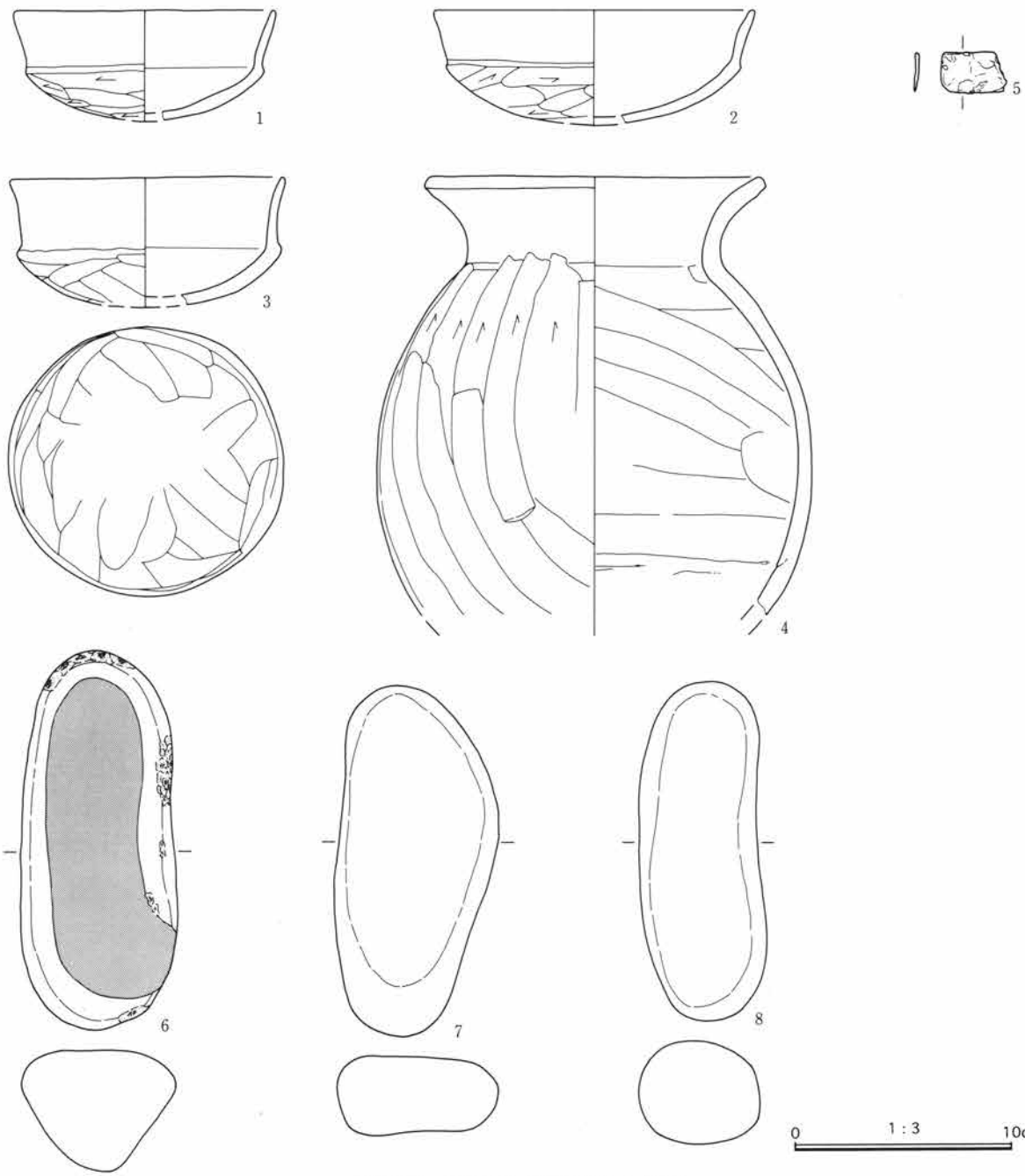
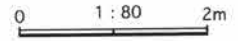
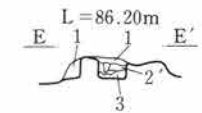
#### 住居埋土

- 1：多量のパミスを含む暗褐色砂質土。
- 2：多量のハードロームブロックと炭化物を含む暗黄褐色土。
- 3：黒褐色土を主体にローム粒子を含み、しまりのない暗褐色土。
- 4：多量のローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土。
- A：ロームと黒色土との混土。
- A'：A層土に類似し、ロームブロックを多量に含む。
- B：しまりのない黒褐色土。
- C：A層土に類似し、黒色土の混入が多い。

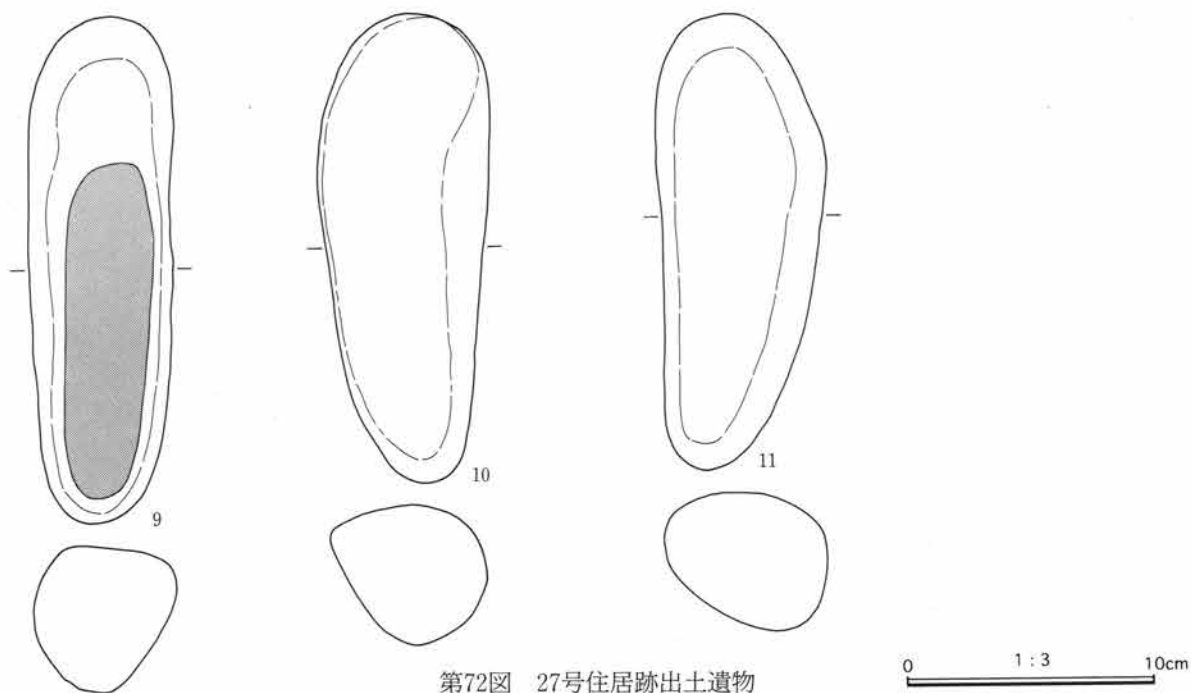


#### カマド埋土

- 1：焼土粒子を含むソフトローム土と弱粘性褐色土との混土。
- 2：黒色灰・ローム小ブロック・焼土ブロックの混土。
- 2'：2層土を主体に1層土が混入。
- 3：焼土ブロック層、若干の木の根による攪乱を受ける。
- 4：ローム粒子・焼土粒子を含む弱粘性の褐色土。



第71図 27号住居跡及び出土遺物



第72図 27号住居跡出土遺物

27号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 103 No0316	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径(12.0) 稜径(10.9)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は撫でを施す。	
2 103 No0315	土師器 杯	口縁～底部 1/3	口径(14.6) 稜径(13.3)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明黄橙～黒褐色	外面底部はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も撫でを施す。全体に丁寧な成・整形。	
3 103 No0314	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径 12.6 稜径 12.1 器高( 5.9)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面撫でを施す。	
4 103 No0318	土師器 甕	口縁～胴部 下位破片	口径(15.6)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	胴部外面は下から上への縦方向のへら削り、口唇部は平坦面をもち、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は横へ斜方向の撫でを施す。	
5 103 No4004	鉄製 不明				平面は鎌様の残片に見えるが種不明である。横断面は片側に刃部形状あり。	2.48 g
6 103 No2922	こもあみ石	完形	長 17.0 幅 7.1 厚 6.8	粗粒安山岩	平面形は長楕円形。横断面は近円形を呈する。	1010 g
7 103 No2927	こもあみ石	完形	長 15.7 幅 7.2 厚 5.5	粗粒安山岩	平面形は長楕円形。横断面は近円形～隅丸三角形気味である。	790 g
8 103 No2923	こもあみ石	完形	長 15.2 幅 5.5 厚 4.5	粗粒安山岩	平面形は長楕円形。横断面は隅丸三角形を呈す。表面のトーンは磨耗痕を現わす。各所に凹凸あり。	695 g
9 103 No2924	こもあみ石	完形	長 20.0 幅 5.9 厚 6.3	粗粒安山岩	平面形は長楕円形。横断面は楕円形を呈する。	1067 g
10 104 No2926	こもあみ石	完形	長 18.5 幅 6.8 厚 5.5	石英閃緑岩	平面形は片側に細い長楕円形。横断面は角ばりのある卵形を呈する。	994 g
11 104 No2925	こもあみ石	完形	長 18.0 幅 6.7 厚 6.5	変質安山岩	平面形は片側に細い長楕円形、横断面は楕円形を呈する。	1084 g



第3章 検出遺構と遺物

28号住居跡 (写真図版20・104)

位置：C-12Tグリッド付近

主軸方位：N-40°-E 規模：(4.0)m×3.7m

形状：後記の重複のため北西壁の一部と東コーナー部しか検出されず、明らかではないが、平面形状は、ほぼ方形を呈し、床面までの深度は確認面より50cm～60cm程を測るものと考えられる。

カマド：不明。北東壁中央部にその存在が推測される。

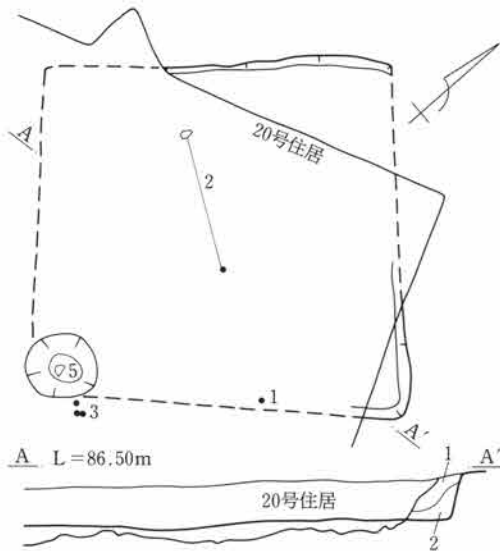
内部施設：不明。

床面：地山ローム土を固めた床面と考えられる。

掘り方：重複する20号住居跡の床下には深い掘り方ではなく、従って本遺構も掘り方を持たないものと考えられる。

重複：20号住居跡と重複し、埋土状態と20号住居カマドの残存状態より、本遺構の方が古いと判断される。

時期：出土遺物の年代より、5世紀代の住居跡と推定される。



住居埋土

- 1：パミスを含む暗褐色砂質土。
- 2：多量のハードロームブロックと少量の炭化物を含む暗黄褐色土。
- 掘り方埋土：ローム土を主体に黒色土を斑状に含む暗黄褐色土。

0 1:80 2m



第73図 28号住居跡及び出土遺物

28号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 104 No0319	土師器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径(15.1) 器高(5.7)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐～黒色	外面底部はヘラ削り後、ヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
2 104 No0320	土師器 杯	口縁～底部 3/4	口径 14.0 器高 4.6	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面底部はヘラ削り後に一部ヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は撫での後に斜方向のヘラ磨きを施す。	
3 — No0321	土師器 杯	口縁～底部 上位破片	口径(13.1)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	底部外面はヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も全面撫でを施す。	
4 104 No0323	土師器 甕	口縁～胴部 上位破片	口径(14.2)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～にぶい褐色	口縁端部は外へ折り返す。胴部外面はヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も横方向の撫でを施す。	
5 — No0322	土師器 小型台付甕 か	口縁～胴部 下位破片	口径(14.7)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	胴部外面は縦方向のヘラ削り後に縦方向のヘラ撫で、口縁部内外面及び胴部内面は横方向の撫でを施す。	

29号住居跡 (写真図版27・104・105)

位置：C-08Sグリッド付近

主軸方位：N-30°-W 規模：8.6m×8.3m

形状：平面形状は、ほぼ正方形を呈し、床面までの深度は20cm～45cm程を測る。本遺跡検出遺構中では最大規模の住居跡。

カマド：住居北西壁のほぼ中央に位置し、煙道部はあまり突出しない。袖部は芯材を用いず、粘性土のみを固めて構築される。

内部施設：住居コーナー部を結ぶ対角線上に、径40cm～60cm程、深度80cm～110cmを測る柱穴が4穴検出される。

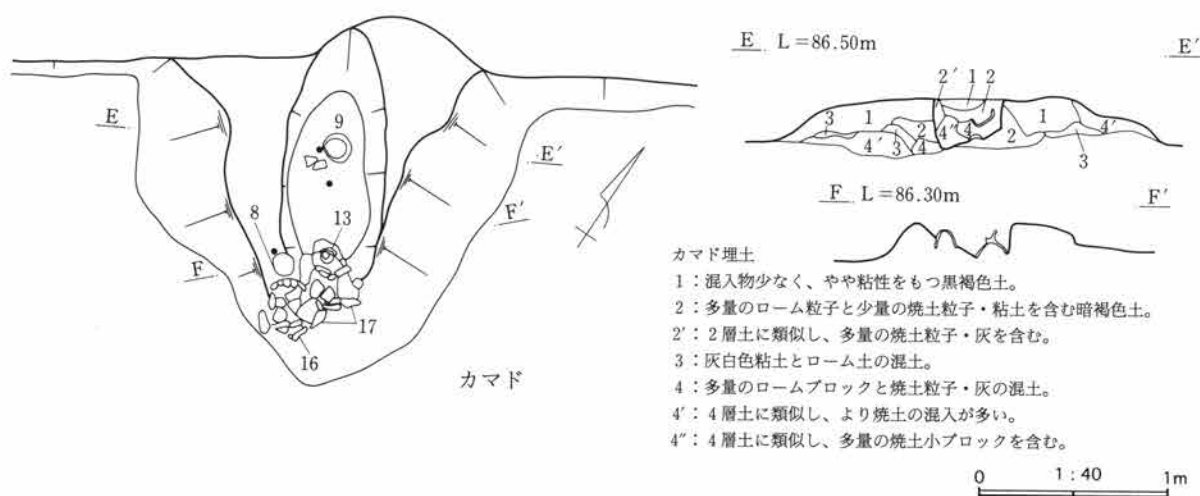
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

出土遺物：土師器杯 (No 8・9)、土師器甕 (No13・16・17) がカマド内より出土する。

重複：25号住居跡と重複し、埋土の状態及び25号住居跡のカマドの残存状態から、本遺構の方が古いものと判断される。

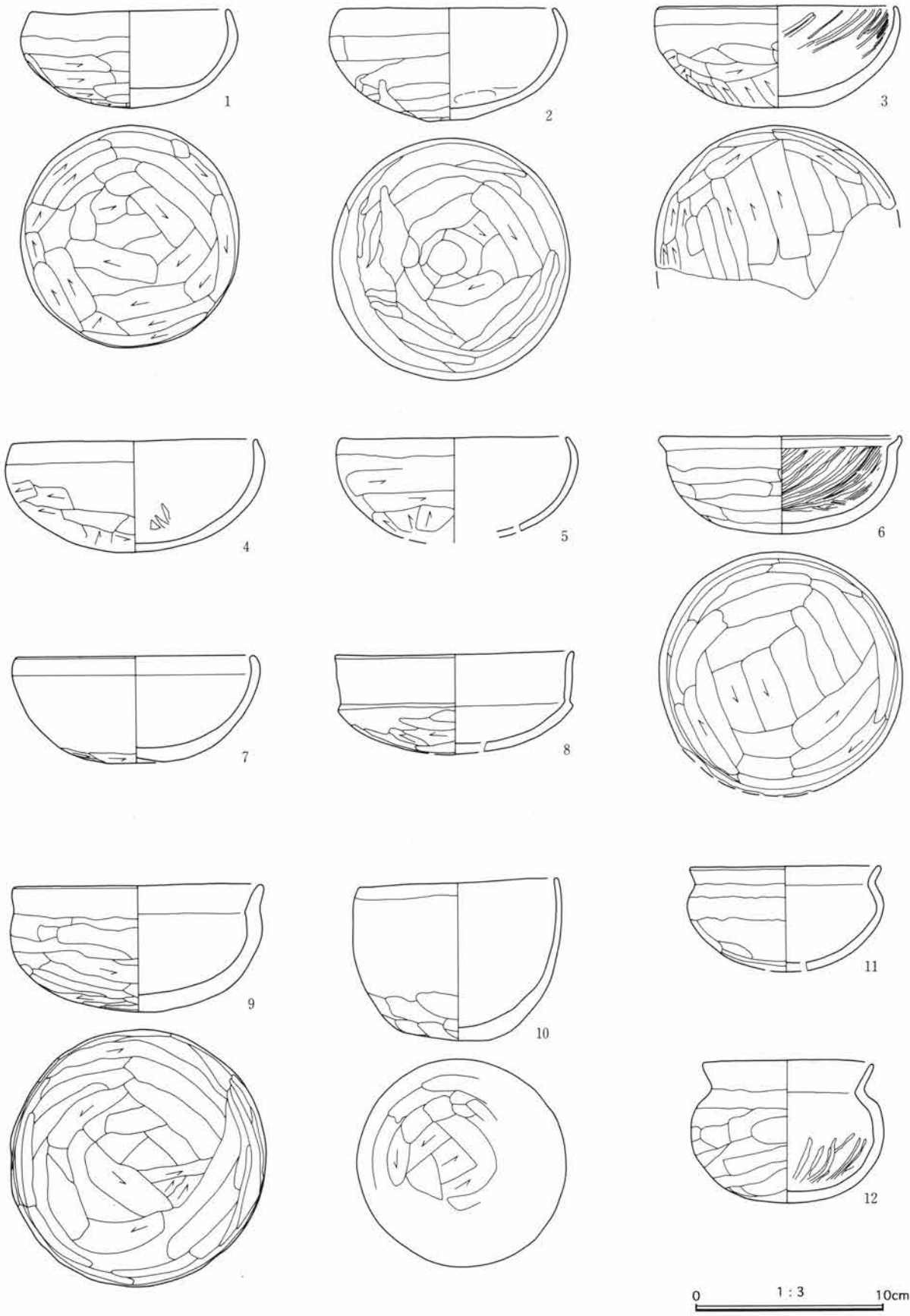
時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



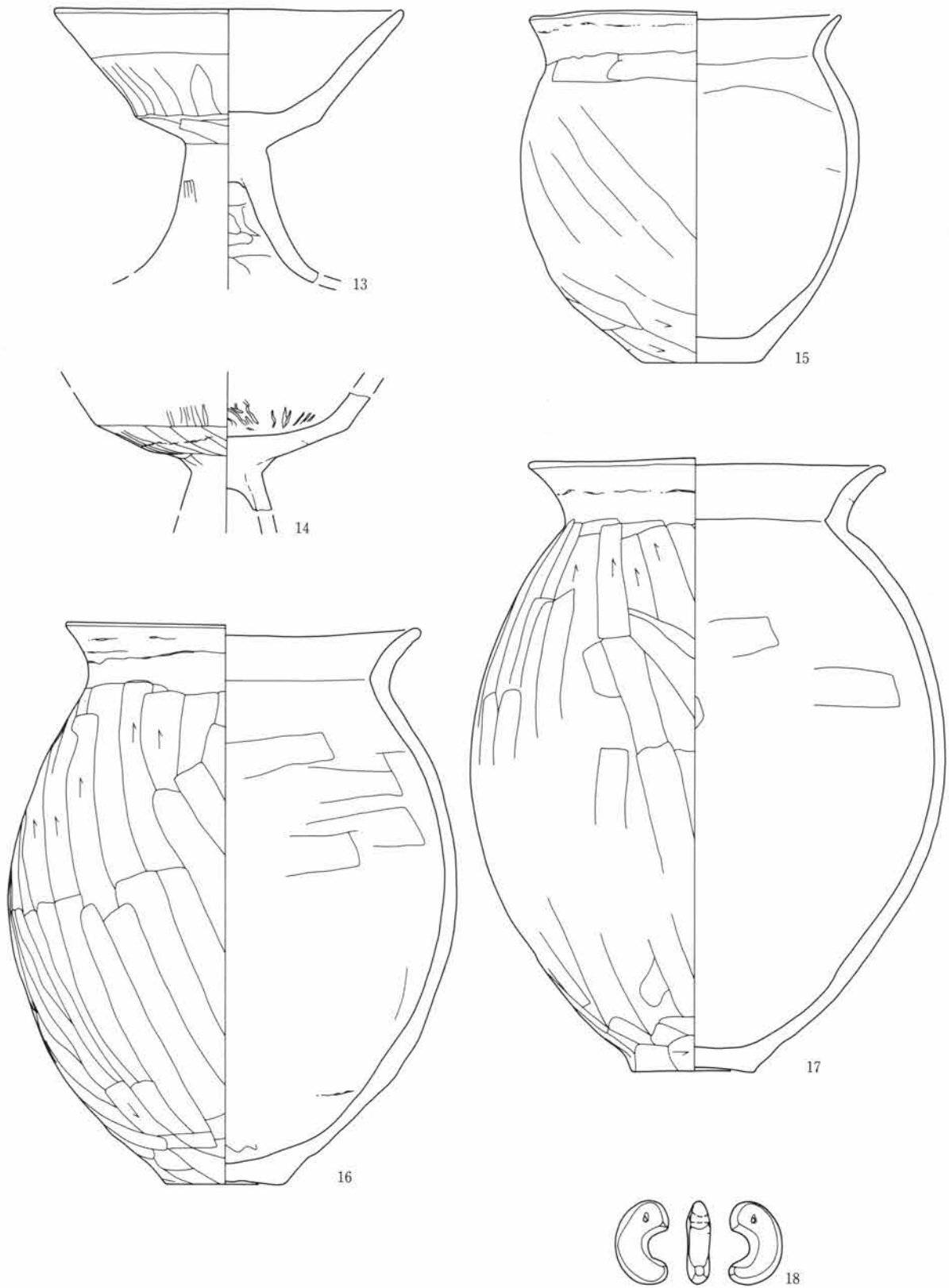
第74図 29号住居跡



第3節 古墳時代以降



第76図 29号住居跡出土遺物

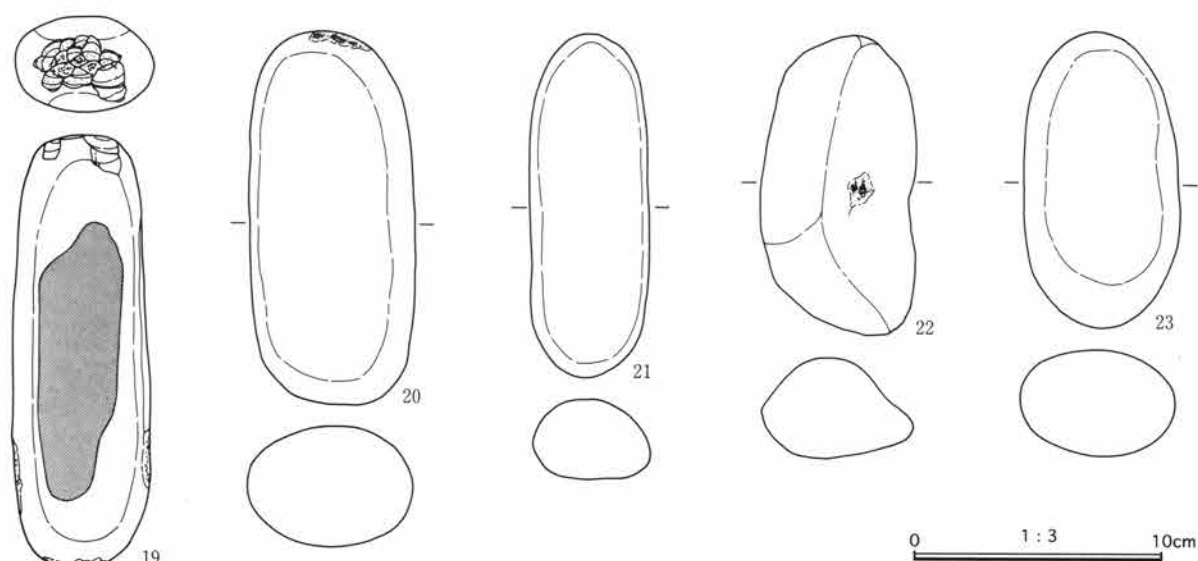


0 1:3 10cm

0 1:2 5cm

第77図 29号住居跡出土遺物

(18)



第78図 29号住居跡出土遺物

29号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 104 No0326	土師器 杯	完形	口径 10.5 稜径 11.4 器高 5.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～橙色	底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も全面に撫でを施す。	
2 104 No0325	土師器 杯	完形	口径 11.5 底径 2.0 器高 5.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	底部外面はへら削り後にへら撫で、底部中心は小さな平底。口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は全面に撫でを施す。	
3 104 No0328	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径 12.8 器高 5.3	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒色	底部外面はへら削り後にへら撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面撫で後に口縁部下のみ斜方向の粗いへら磨きを施す。	
4 104 No0332	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径(13.2) 稜径(13.6) 器高( 5.9)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒色	口縁部は非水平。底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で後に口縁端部はへら撫で、内面は全面に撫でを施す。	
5 104 No0327	土師器 杯	口縁～底部 上位3/4	口径 12.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐～黒褐色	底部外面下位はへら削り、上位は削り後に粗い撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
6 104 No0324	土師器 杯	完形	口径 12.8 器高 5.2	胎：細砂+赤色鉱物 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	器壁は全体に肉厚。口縁端部は内湾する。底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は斜方向の丁寧なへら磨きを施す。	
7 — No0331	土師器 杯	口縁～底部 1/2強	口径(12.4) 器高( 5.6)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	底部外面中央部は円形に浅く凹む。底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も撫でを施す。	
8 104 No0333	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径 12.6 稜径 12.4 器高( 5.2)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～黒色	口縁端部はやや外反。底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の丁寧な撫で、底部内面も全面に丁寧な撫でを施す。	
9 104 No0329	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 13.3 稜径 13.4 器高 6.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐～黒褐色	底部外面は円方向の丁寧なへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は全面撫でを施す。	
10 104 No0330	土師器 杯(鉢)	略完形 口縁一部欠	口径 10.7 器高 8.2	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～橙色	口縁は器形に対し非水平で波を打つ。底部外面はへら削り、体部外面は撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も全面に撫でを施す。	
11 104 No0334	土師器 杯(鉢)	口縁～底部 1/4	口径 10.0 器高 5.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面底部は粗い撫で、口縁部～肩部にかけて横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
12 104 No0335	土師器 小形丸底壺 (罎)	口縁～底部 1/2	口形 9.0 器高 7.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	外面底部～肩部はへら削り後にへら撫で、口縁部は内外面共に撫で、内面は体～底部にかけて撫で後に粗いへら磨きを施す。	

### 第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
13 104 No0345	土師器 高杯	略完形 脚部端部欠	口径 17.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐～黒色	杯部外面は下方がへら撫で、上方が撫で、内面は全面に撫でを施す。脚部は外面は撫で、内面がへら削り及び一部にへら撫でを施す。	
14 104 No0346	土師器 高杯	杯部底部～ 脚部破片		胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	杯部外面は下方が輪積痕を残しへら削り、上方は横方向の撫での後に縦方向の粗いへら磨き、内面は全面に撫での後に粗いへら磨きを施す。脚部は詳細不明。	
15 105 No0347	土師器 甕	口縁～底部 1/3強	口径 15.8 底径 5.9 器高 17.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	底部～胴部はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。胴部外面は器面が荒れ、所々剥落する。	
16 104 No0348	土師器 甕	略完形 胴部一部欠	口径 17.8 底径 5.9 器高 26.8	胎：粗砂粒 φ2～6 mm 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	胴部外面は縦方向のへら削り後、同方向の撫で、口縁部は外面に輪積痕をわずかに残し、内外面共に横方向の撫で、胴部内面は全面に撫でを施す。	
17 104 No0349	土師器 甕	略完形 胴部一部欠	口径 17.9 底径 6.1 器高 30.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	胴部外面は縦方向のへら削り後に一部同方向の撫で、口縁部外面には輪積痕をわずかに残し、内外面共に横方向の撫で、胴部内面は全面に撫でを施す。	
18 104 No2824	滑石製模造 品 勾玉	完形	長 2.8 幅 1.8	石製	平面形状は整い、厚みもある。平面形はコの字形の様式に近い。	6 g
19 105 No2928	こもあみ石	完形	長 17.1 幅 5.5 厚 3.8	黒色頁岩	平面形は長楕円形、横断面は楕円形。両小口側に凹凸あり。	604 g
20 105 No2929	こもあみ石	完形	長 14.7 幅 6.5 厚 4.8	砂岩	平面形は楕円形気味。横断面は楕円形を呈す。	765 g
21 105 No2932	こもあみ石	完形	長 13.6 幅 4.7 厚 3.3	粗粒安山岩	平面形は楕円形気味。横断面は卵形を呈す。	363 g
22 105 No2931	こもあみ石	完形	長 11.8 幅 6.2 厚 4.2	粗粒安山岩	平面形は歪む楕円形気味。横断面は片側の張った隅丸三角形。図表に凹みあり。	460 g
23 105 No2930	こもあみ石	完形	長 11.7 幅 6.2 厚 4.15	粗粒安山岩	平面形は楕円形、横断面も楕円形。	428 g

#### 30号住居跡 (写真図版28・105)

位置：C-06Rグリッド付近

主軸方位：N-75°-E 規模：3.6m×3.3m

形状：各壁は重複や攪乱のために明瞭に検出されず定かではないが、平面形状は、ほぼ隅丸方形を呈し、床面までの深度は25cm程を測る。

カマド：検出されていない。

内部施設：土坑の重複や攪乱を受け定かではないが、柱穴を持たない可能性が高い。

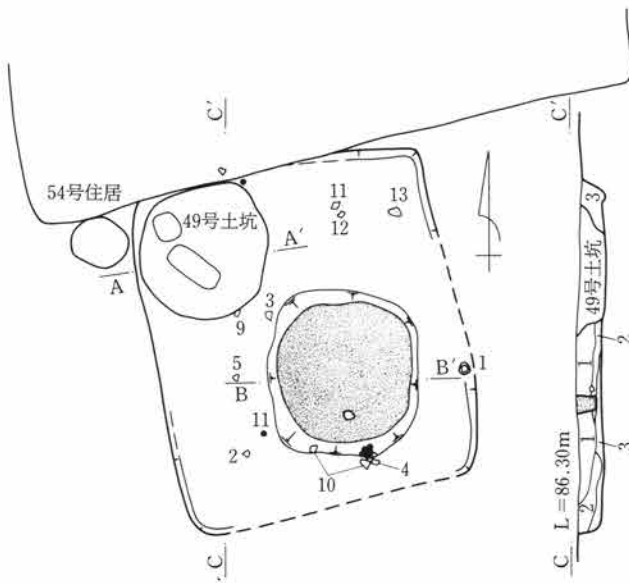
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

重複：13号土坑・29号住居跡・54号住居跡と重複し、埋土の状態から、本遺構に対し13号土坑は新しく、29号住居跡は古いものと判断されるが、54号住居跡との新旧関係については明らかでない。

時期：出土する遺物の年代より、7世紀代の住居跡と推定される。



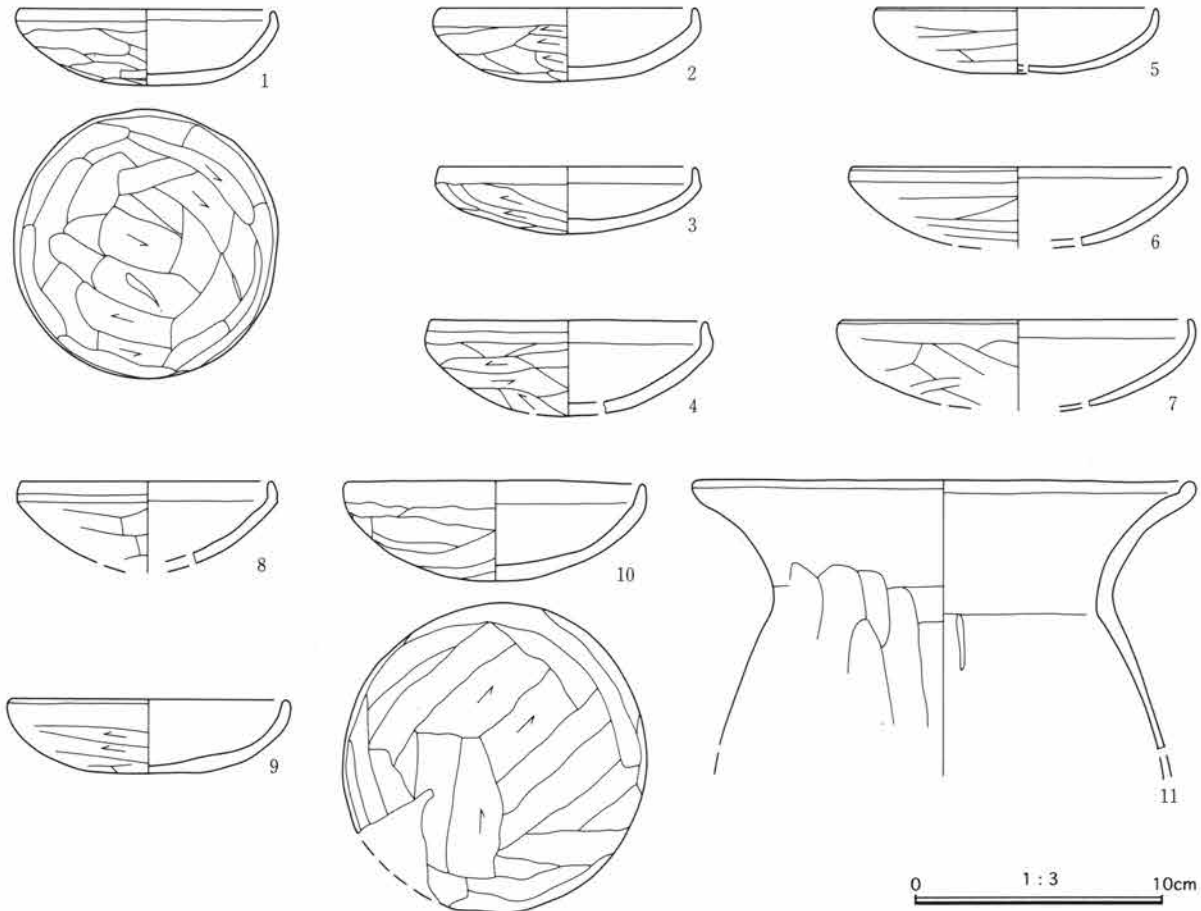
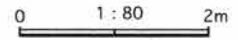
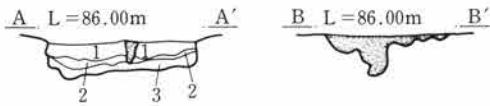


住居埋土

- 1：ローム粒子・焼土粒子・炭化物・バミスを含む暗褐色土。
- 2：ローム粒子・焼土粒子を含む弱粘性の黒褐色土。
- 3：不揃いのロームブロックを含む暗褐色土。

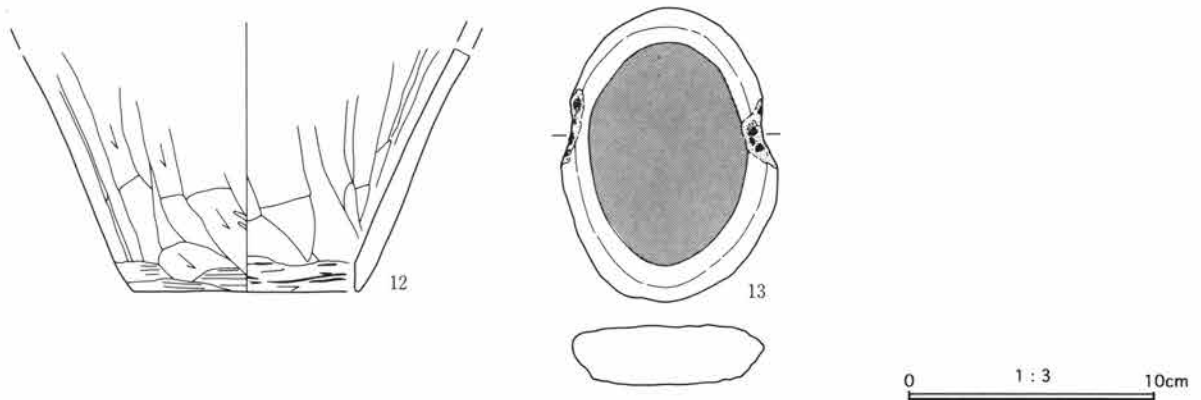
土坑埋土

- 1：ローム粒子・焼土粒子・炭化物・バミスを含む暗褐色土。
  - 2：赤茶褐色の焼土ブロック層。
  - 3：ロームブロックを含む暗黄褐色土。
- 攪乱土：ローム粒子・バミスを含む暗褐色砂質土。



第79図 30号住居跡及び出土遺物

第3章 検出遺構と遺物



第80図 30号住居跡出土遺物

30号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 105 No0353	土師器 杯	完形	口径 10.3 稜径 10.5 器高 3.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
2 — No0356	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径 10.3 稜径 10.6 器高 2.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
3 105 No0355	土師器 杯	口縁～底部 1/5弱	口径(10.3) 稜径(10.5) 器高 2.7	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
4 — No0357	土師器 杯	口縁～底部 破片	口径(11.2) 稜径(11.6) 器高( 3.8)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	口縁部はゆるいS字状を呈す。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
5 — No0358	土師器 杯	口縁～底部 破片	口径(11.0) 器高( 2.6)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部外面は横方向の撫で、内面口縁～底部は全面に撫でを施す。	
6 — No0364	土師器 杯	埋土 口縁～底部 破片	口径(13.1) 器高( 3.1)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も全面に撫でを施す。	
7 — No0362	土師器 杯	埋土 口縁～底部 破片	口径(14.0) 器高( 3.3)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も全面に撫でを施す。	
8 — No0363	土師器 杯	埋土 口縁～底部 破片	口径(10.0) 器高( 3.2)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も撫でを施す。	
9 — No0359	土師器 杯	口縁～底部 1/5弱	口径(11.0) 器高( 2.9)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も全面に撫でを施す。	
10 105 No0354	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 12.0 器高 4.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
11 105 No0366	土師器 甕	口縁～胴部 上位破片	口径 20.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～灰褐色	胴部外面は縦方向のヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も撫でを施す。	
12 — No0367	土師器 甕 (一穴)	底部～胴部 下位破片	底径 9.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～褐灰色	胴部外面は縦方向のヘラ削り、内面はハケ状の縦方向の撫で、底部孔端部はヘラ削りを施す。	
13 105 No2965	磨石類	完形	長 11.6 幅 8.6 厚 2.5	粗粒安山岩	両側部に凹みあり。平面両頭形の楕円形気味。横断面は近楕円形。	358 g

31号住居跡 (写真図版29・105)

位置：C-05Tグリッド付近

主軸方位：N-76°-E 規模：6.1m×5.3m

形状：平面形状は、隅丸長方形を呈し、床面までの深度は確認面より20cm~45cm程を測る。

カマド：住居東壁中央やや南寄りに位置し、煙道部は、あまり突出しない。燃焼部は壁の内側にあり、袖部は芯材を用いず、粘性土を固めて構築される。

内部施設：住居の各コーナー部を結ぶ対角線上に径20cm~75cm程、深度60cm~70cmを測る柱穴が3穴検出され、南東側の1穴は井戸との重複により検出できなかった。また、住居南東コーナー部において径60cmの浅い焼土分布が検出される。

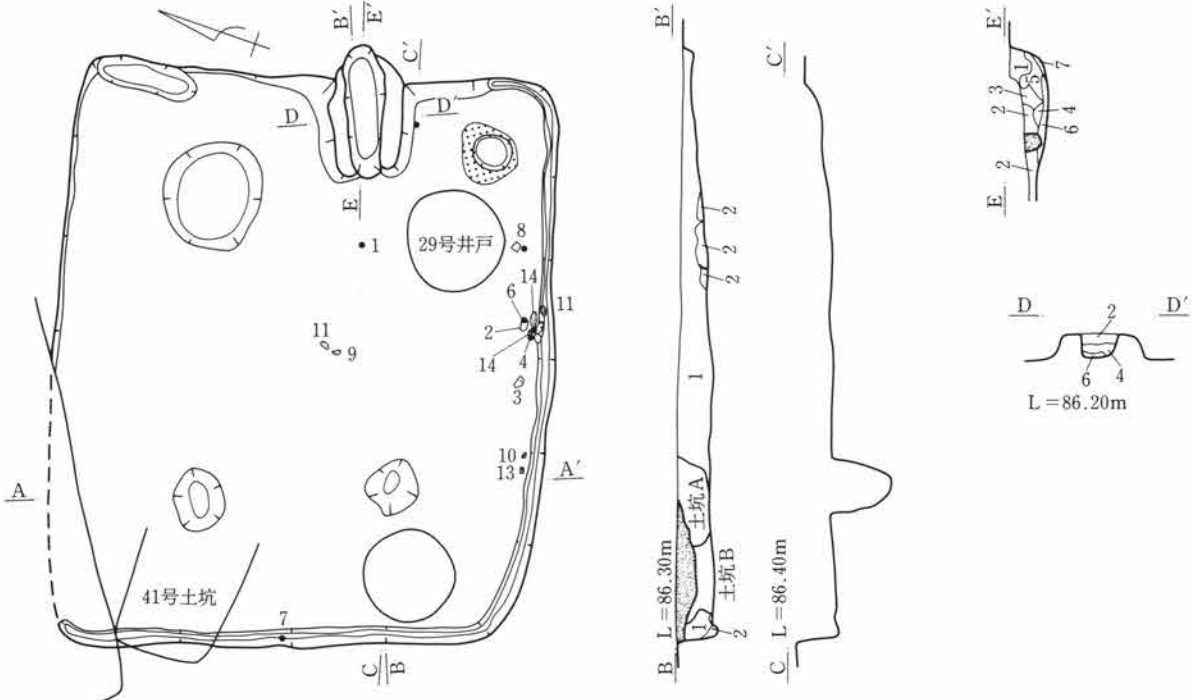
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

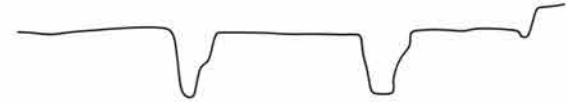
出土遺物：住居南壁下よりの出土が多い。

重複：29号井戸と重複し、埋土の状態から本遺構の方が古く、また、北西コーナー部において32号住居跡と重複し、埋土の状態から本遺構の方が新しいものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、8世紀代の住居跡と推定される。



A L=86.40m



住居埋土

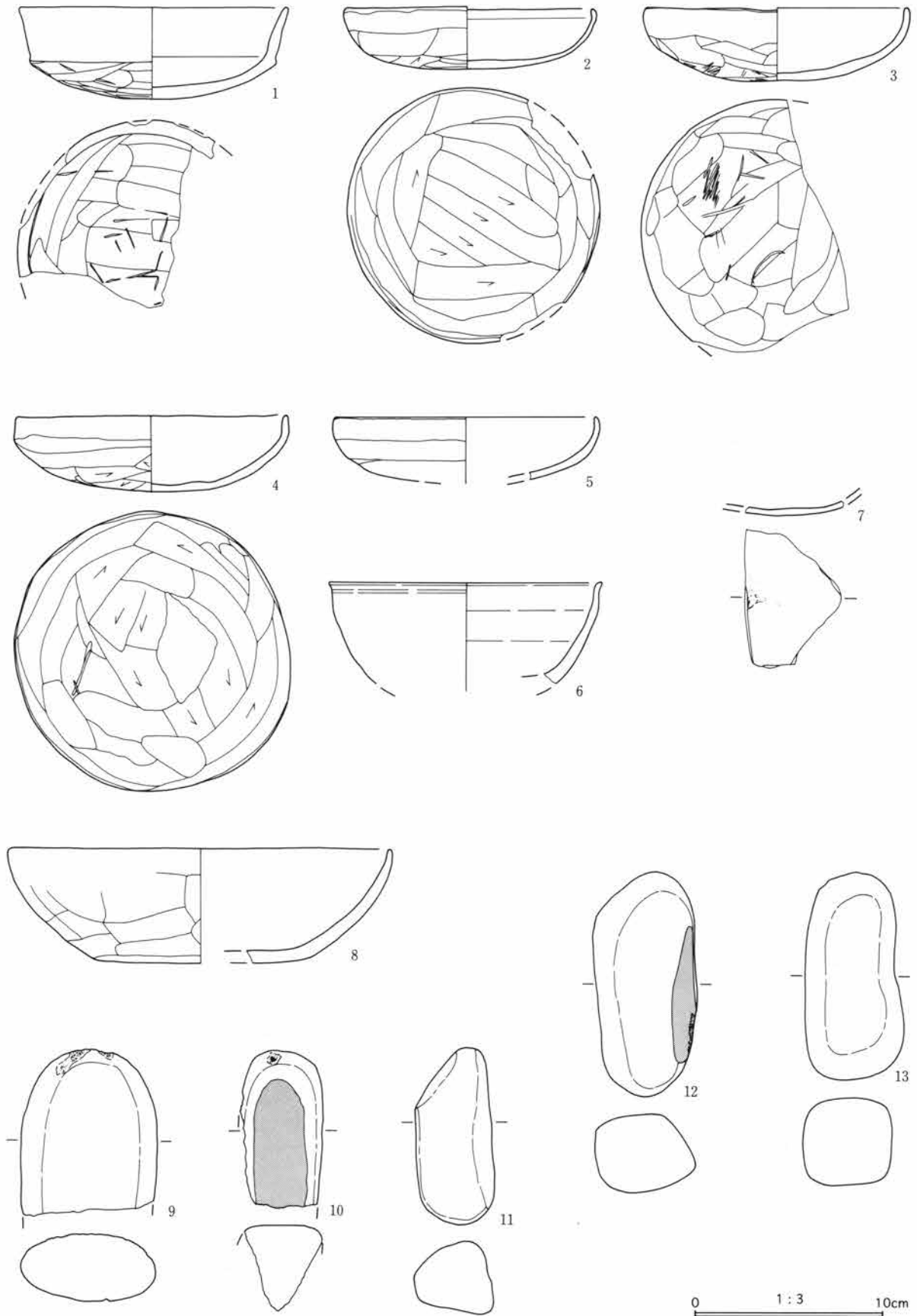
- 1：ローム粒子・パミス・焼土粒子を含む暗褐色土。
- 2：ローム粒子・灰白色粘土を含む暗黄褐色土。
- 土坑A：多量のパミスと少量のローム小ブロック・炭化物を含む黒褐色砂質土。
- 土坑B：多量のロームブロック・少量の焼土・炭化物を含む暗黄褐色砂質土。

カマド埋土

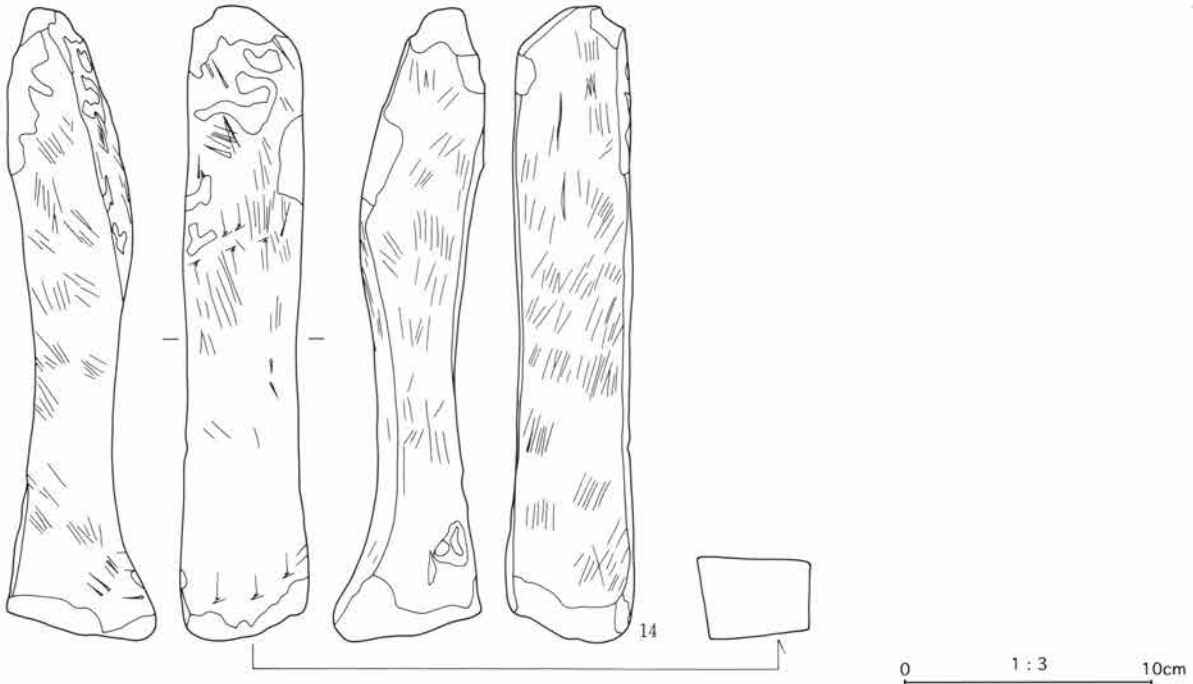
- 1：ソフトローム・焼土粒子を含む暗褐色砂質土。
- 2：ロームブロック・灰を含む暗褐色土。
- 3：黒色灰を多く含む黒色砂質土。
- 4：ロームブロック層。
- 5：焼土・白色灰・ローム粒子層。
- 6：ロームブロック・灰を含む弱粘性の暗褐色土。
- 7：粒子の粗いローム土を主体に焼土・灰を含む暗黄褐色土。

0 1:80 2m

第81図 31号住居跡



第82図 31号住居跡出土遺物



第83図 31号住居跡出土遺物

31号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 105 No0374	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径(14.2) 稜径(13.1) 器高 4.8	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:黄橙～橙色	底部外面はヘラ削り、(削り後に細い工具による線刻有) 口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
2 105 No0369	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 13.2 器高 3.3	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
3 105 No0370	土師器 杯	口縁～底部 1/2強	口径 14.0 底径 3.8	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
4 105 No0368	土師器 杯	略完形 底部一部欠	口径 14.4 器高 3.9	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	口縁部は歪む。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。外面は乾燥によるひび割れ、内面は水を浸けての撫で。	
5 105 No0371	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径(13.8) 器高( 3.3)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい黄褐色	口縁部は若干歪む。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も撫でを施す。	
6 — No0378	須恵器 杯	口縁～体部 破片	口径(14.4)	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰白色	ロクロ成形。ロクロ右回転。	
7 — No0377	土師器 杯	底部破片		胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	底部外面に墨書文字一字有り、判読不可。	墨書土器
8 105 No0372	土師器 杯(鉢)	口縁～底部 1/2	口径(20.2) 底径(10.9) 器高( 6.0)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙～暗褐色	底～体部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
9 105 No2966	磨石類		長 ( 8.7) 幅 7.2 厚 3.5	角閃石安山岩	片側欠損。平面形楕円形気味。横断面楕円形、図上方の小口面に凹凸あり。	249 g
10 105 No2935	こもあみ石		長 ( 5.2) 幅 ( 4.3) 厚 ( 4.7)	溶結凝灰岩	片側欠損。図上方の小口面に凹みあり。	209 g
11 105 No2934	こもあみ石	完形	長 9.1 幅 4.0 厚 3.8	粗粒安山岩	平面は、不整の楕円形気味。横断面は隅丸三角形。	185 g

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
12 105 No.2933	こもあみ石	完形	長 11.6 幅 5.3 厚 4.2	粗粒安山岩	平面は、不整の楕円形気味。横断面は、不整隅丸方形。	413g
13 105 No.2936	こもあみ石	完形	長 10.8 幅 5.1 厚 4.5	粗粒安山岩	平面は隅丸長方形。横断面は、隅丸方形。	424g
14 105 No.2234	石製品 砥石		長 25.0 幅 5.1 厚 5.9	砥沢石	流紋岩、表・裏、側部4面使用。上方は刃付け用部、小口面は節理か川原石面・原石面を残す。中砥紋。	830g 4面使用。

32号住居跡 (写真図版30・105・106)

位置：C-05Tグリッド付近

主軸方位：N-31°-W 規模：6.3m×6.1m

形状：平面形状は、ほぼ正方形を呈すると考えられるが、攪乱と他遺構の重複により全容は明らかではない。床面までの深度は確認面より30cm~40cmを測る。

カマド：住居北側壁のほぼ中央に位置し、煙道部はほとんど突出しない。

内部施設：西(北西)側と南(南西)側に径20cm~60cm、深度60cm~80cmを測る柱穴が2穴検出されたが、

相対する北・東側には検出できなかった。

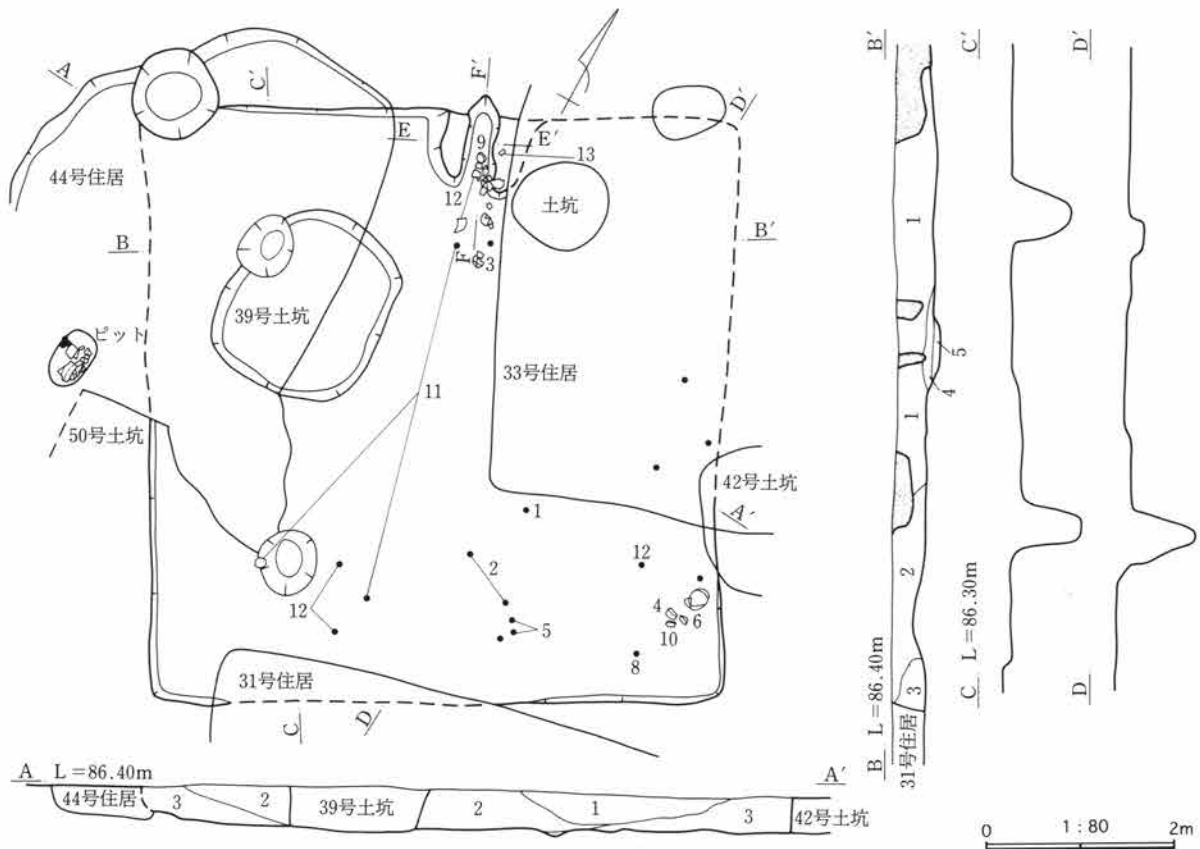
床面：地山ローム土を固め床面とする。

掘り方：なし。

出土遺物：土師器高杯 (No.9)、土師器甕 (No.12) がカマド内より出土する。

重複：31号住居跡・33号住居跡・44号住居跡と重複し、埋土の状態より、いづれの遺構より古いものと判断される。

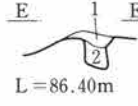
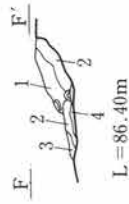
時期：出土する遺物の年代より、6世紀代初頭頃の住居跡と推定される。



第84図 32号住居跡

住居埋土

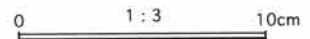
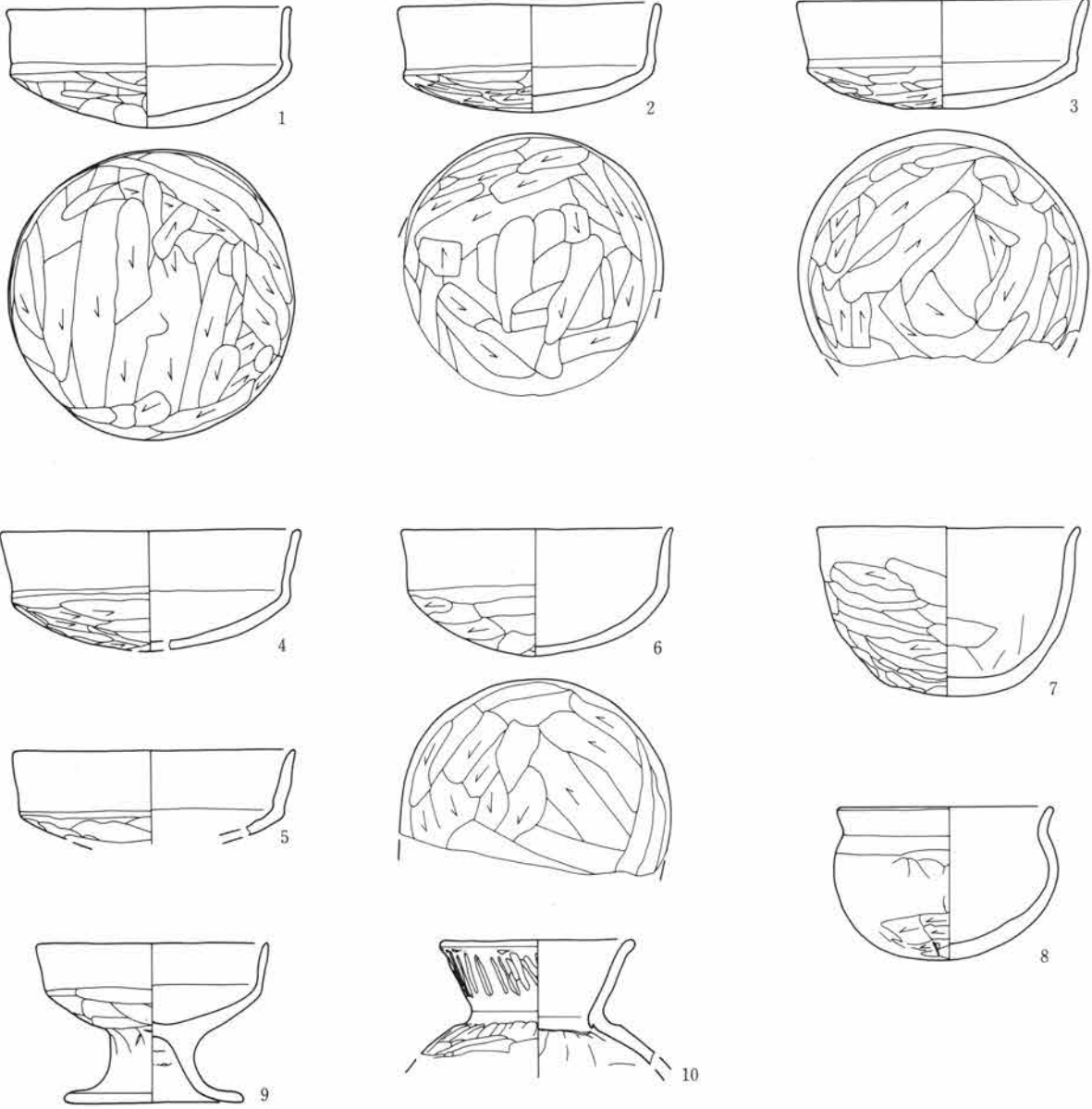
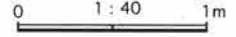
- 1: パミス・ローム粒子を多く含む暗褐色土。
- 2: 多量のローム粒子・ロームブロックを含む暗黄褐色土。
- 3: ソフトローム土を主に少量の焼土・パミス・炭化物を含む黄褐色土。
- 4: 多量の焼土・ロームを含む暗黄褐色土 (32号住居貼り床土)。
- 5: 4層土に類似し、ローム混入量がやや多い (33号住居貼り床土)。



カマド掘り方

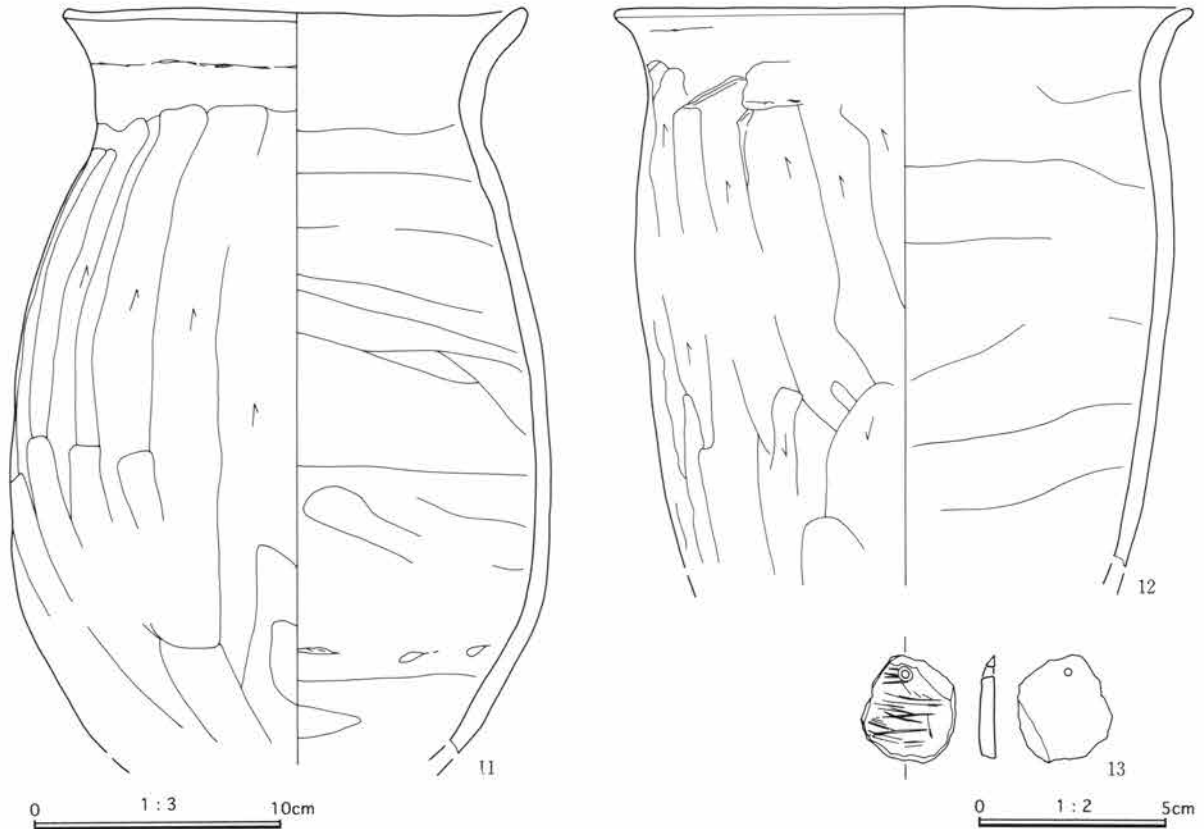
カマド埋土

- 1: ローム小ブロック・焼土小ブロックを含む暗褐色土。
- 2: 多量の焼土ブロックを含む暗褐色土。
- 3: ソフトローム土を主に黒色土・焼土粒子を含む暗黄褐色土。
- 4: 大粒の焼土ブロック層。



第85図 32号住居跡及び出土遺物





第86図 32号住居跡出土遺物

32号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備 考
1 105 No0379	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 12.3 稜径 12.2 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は全面に撫でを施す。	
2 105 No0380	土師器 杯	口縁～底部 1/5	口径 11.4 稜径 10.9 器高 4.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は円状の撫でを施す。	
3 105 No0381	土師器 杯	口縁～底部 1/5	口径 12.1 稜径 11.6 器高 4.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も全面に撫でを施す。	
4 105 No0383	土師器 杯	口縁～底部 1/4強	口径(13.0) 稜径(12.0) 器高( 5.0)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～灰褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は円弧状の撫でを施す。	
5 105 No0384	土師器 杯	口縁部破片	口径(12.2) 稜径(11.5)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫でを施す。	
6 105 No0382	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径 11.8 稜径 11.3 器高 5.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～灰褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は円弧状に撫でを施す。	
7 105 No0393	土師器 鉢	完形	口径 10.3 器高 7.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒色	底部丸底。底～体部外面はヘラ削り、口縁部外面及び内面口縁～体部は横方向の撫で、底部内面はヘラ撫でを施す。	
8 105 No0392	土師器 小形丸底壺	口縁～底部 1/2	口径 9.2 器高 6.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～黒褐色	底～胴部外面はヘラ削り、肩部及び口縁部内外面は横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
9 106 No0394	土師器 高杯	略完形 脚部一部欠	口径 10.1 底径( 7.7) 器高 6.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～明赤褐色	杯部外面下位はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、杯部内面も全面に撫で、脚部は内外面共に横方向の撫でを施す。	

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
10 106 No0395	土師器 小形壺	口縁～胴部 上位破片	口径 13.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	胴部外面上位は細かなへら撫で、口縁部外面は横方向の撫での後、縦方向の粗いへら磨き、口縁部内面は横方向の撫で、胴部内面上位は指撫でを施す。	
11 106 No0396	土師器 甕	口縁～胴部 下位	口径 18.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～黒褐色	胴部外面は下位が縦～斜方向、上～中位が縦方向のへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横～斜方向の撫でを施す。	
12 106 No0397	土師器 甕	口縁～胴部 下位破片	口径 23.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	胴部外面は縦方向のへら削り、口縁部内外面及び胴部内面はやや粗い横方向の撫でを施す。	
13 106 No2837	石製模造品 不明	1/2	長 2.9 幅 2.6 器高 0.5	頁岩	赤城山南麓では、桐生市周辺に産出地あり。周囲の側面不揃い。穿孔1穴。	3.88g

33号住居跡 (写真図版31・106)

位置：C-05Vグリッド付近

主軸方位：N-89°-W 規模：5.5m×6.3m

形状：平面形状は、隅丸長方形を呈するが、南側壁については重複のため明らかではない。

カマド：検出されておらず、東側壁の重複遺構部分への構築が想定できる。

内部施設：南東方向を除く3ヶ所から径40cm～70cm、深度70cm～80cm程を測る柱穴が検出される。南東部については攪乱を受け検出し得なかった。

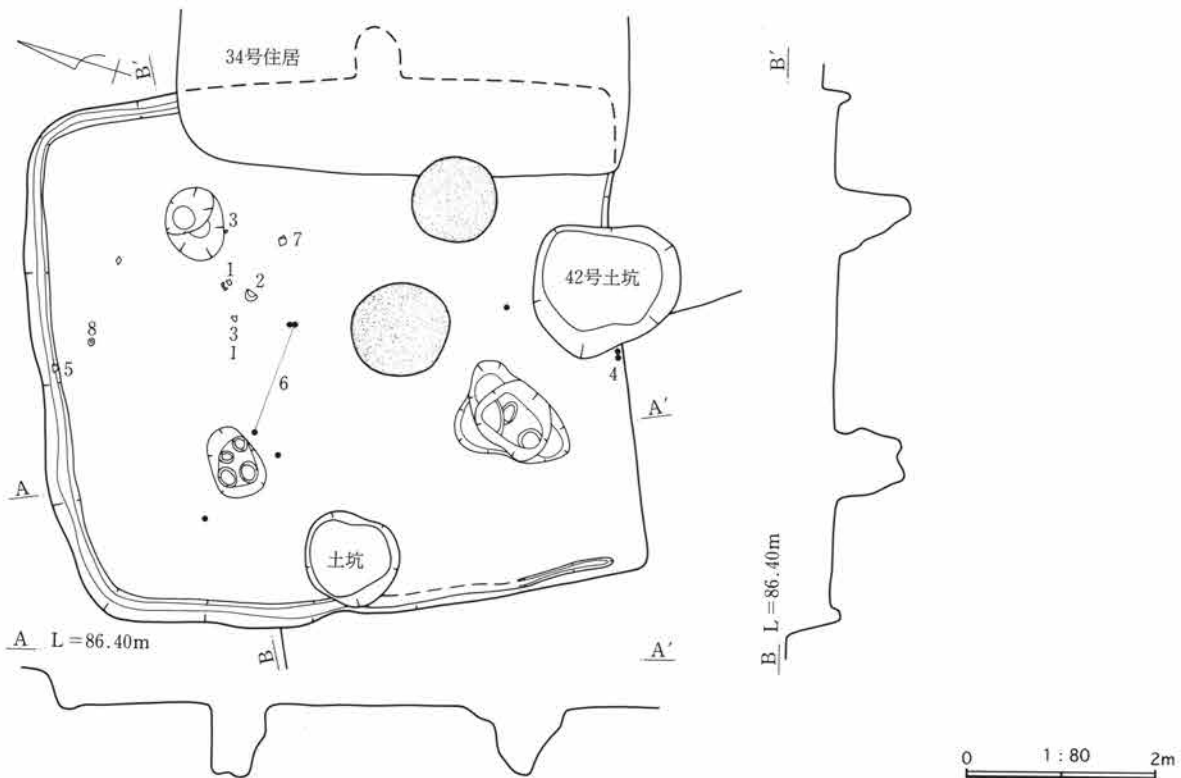
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

出土遺物：手捏ね土器 (No.8) の出土がある。

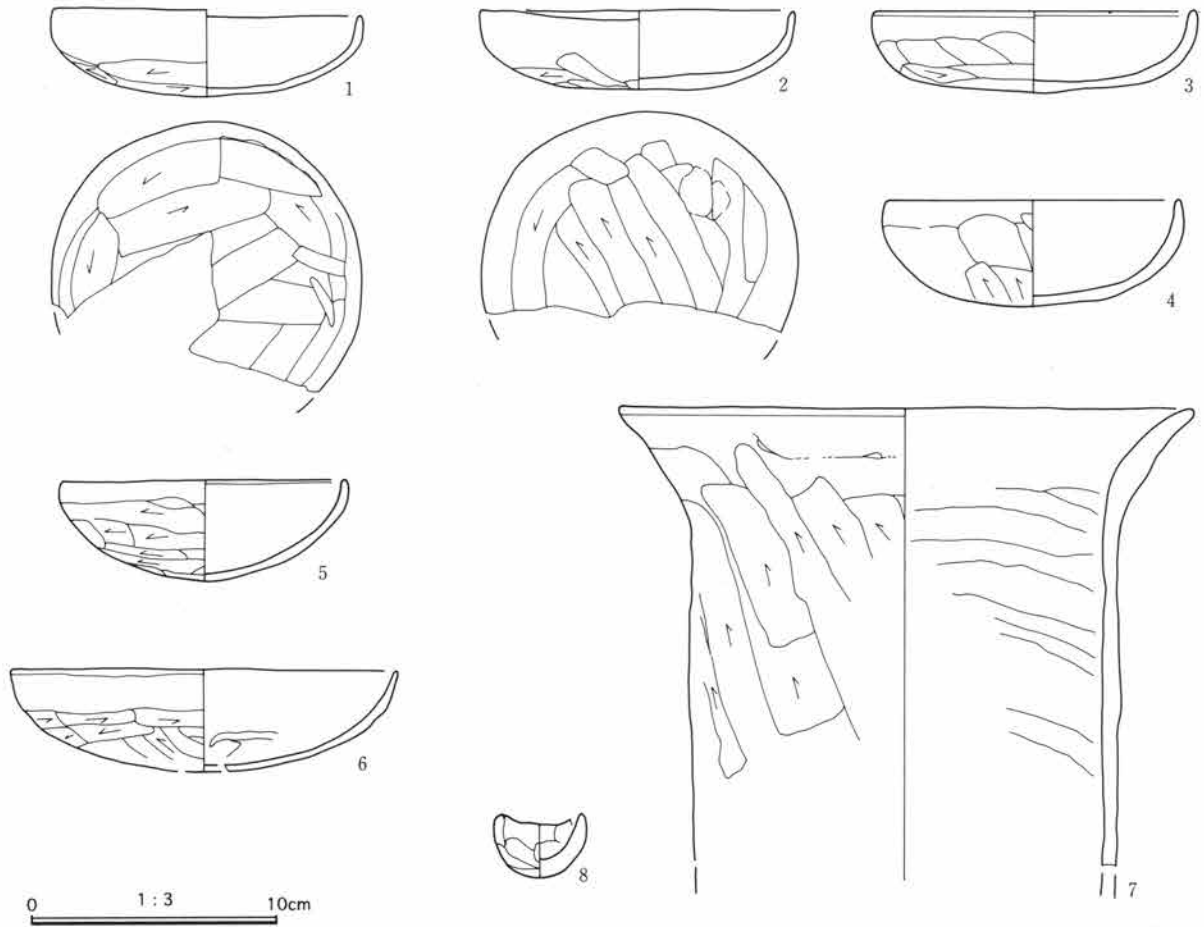
重複：南西部において32号住居跡と重複し、新旧関係は埋土の状態より本遺構の方が新しく、南東部において重複する34号住居跡との新旧関係は、カマドが破壊されていることから、本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代から、8世紀代の住居跡と推定される。



第87図 33号住居跡

第3章 検出遺構と遺物



第88図 33号住居跡出土遺物

33号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 106 No0402	土師器 杯	口縁～底部 2/3	口径 12.5 器高 3.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～にぶい褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は全面に撫でを施す。	
2 106 No0403	土師器 杯	口縁～底部 1/2強	口径 12.6 器高 3.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	底部外面はヘラ削り、削り後の指頭圧痕残る。口縁部内外面及び底部内面はやや粗い撫でを施す。	
3 106 No0404	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径(12.8) 器高( 3.2)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～褐色	底部外面～口縁部下位はヘラ削り後に指撫で、口縁部上位はやや粗い横方向の撫で、内面口縁～底部は全面に撫でを施す。	
4 — No0408	土師器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径(11.8) 器高 4.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	器形は口縁部やや歪む。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共にやや粗い横方向の撫で、底部内面は撫でを施す。	
5 — No0409	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径(11.5) 器高 4.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面にやや粗い撫でを施す。	
6 106 No0406	土師器 杯	口縁～底部 破片	口径(15.5) 器高( 4.0)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部外面は横方向の撫で、内面は器壁が荒れ、整形不祥。	
7 106 No0413	土師器 甕	口縁～胴部 上位破片	口径 22.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～褐色	胴部外面は縦方向のヘラ削り、口縁部は内外面共にやや粗い横方向の撫で、胴部内面は斜方向の撫でを施す	
8 106 No0414	土製品 手捏ね	完形	口径 3.7 器高 2.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	手捏ね成形。指撫で、指頭圧痕が残る。	

34号住居跡 (写真図版32・106)

位置：C-04Vグリッド付近

主軸方位：N-73°-E 規模：4.0m×4.8m

形状：平面形状は、隅丸方形を呈し、床面までの深度は確認面より35cm程を測る。

カマド：住居東壁の中央やや南寄りに位置し、袖部は大きく屋内に造り出され、煙道部は屋外へ突出しない。袖部は芯材を用いず、粘性土を固め構築される。

内部施設：住居南東コーナー部において、径70cm、深度80cmを測る土坑が検出され、貯蔵穴と推察される。柱穴は検出されていない。

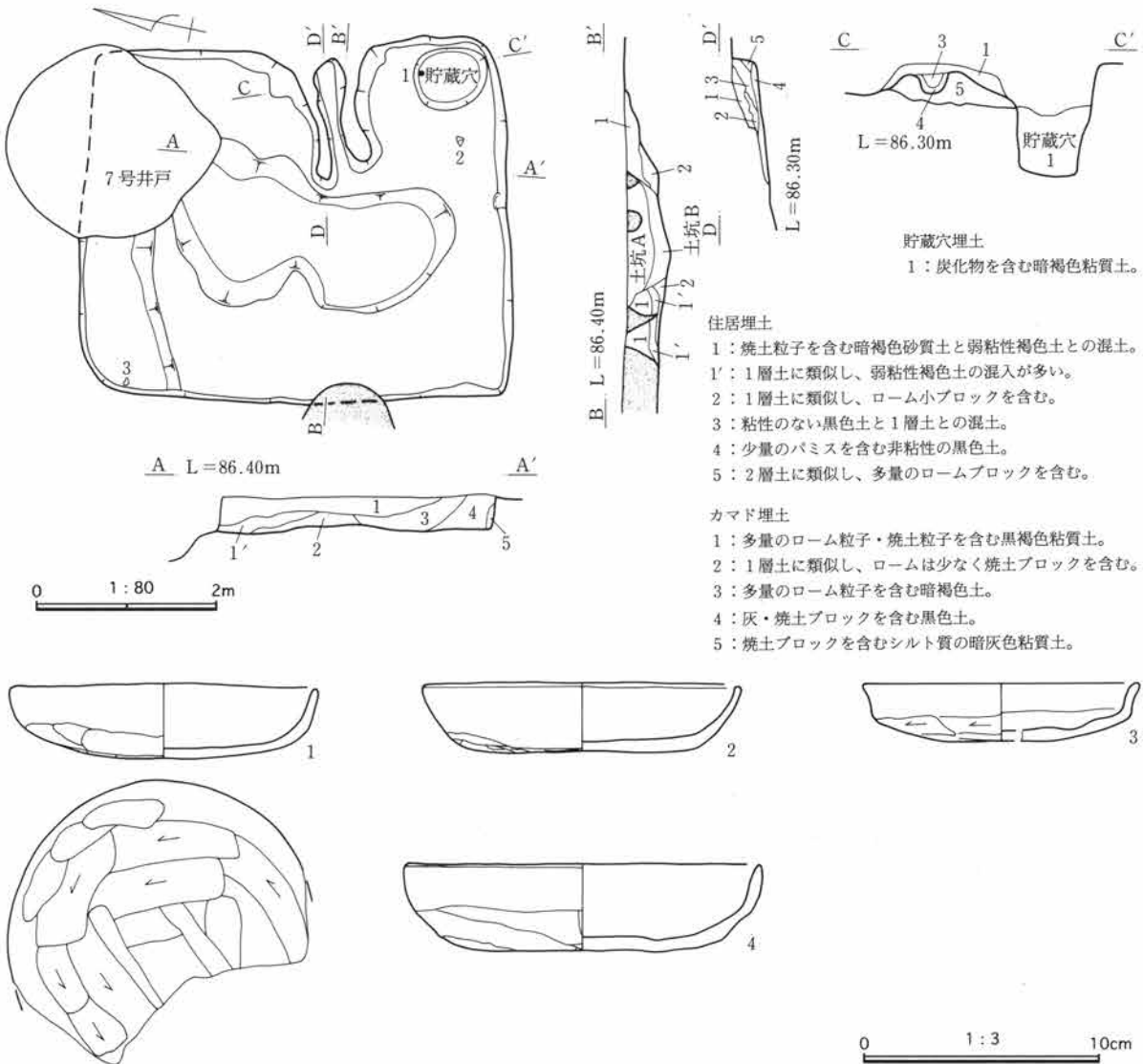
床面：地山ローム土を固めた床面と判断されるが、重複遺構と攪乱により、床面の半分程を失う。

掘り方：なし。

出土遺物：土師器杯 (No 1) が貯蔵穴内より出土。

重複：住居北東コーナー部において、7号井戸跡、56号住居跡と重複し、本遺構との新旧関係は埋土の状態より、7号井戸跡は新しく、56号住居跡は古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、8世紀代の住居跡と推定される。



第89図 34号住居跡及び出土遺物

### 第3章 検出遺構と遺物

#### 34号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 106 No0415	土師器 杯	口縁～底部 3/4	口径(12.9) 器高 3.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は円弧状の撫でを施す。	
2 — No0416	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径(13.3) 器高 2.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面は平坦にヘラ削り、口縁部外面はやや粗い横方向の撫で、内面口縁部～底部は全面に撫でを施す。	
3 — No0418	土師器 杯	口縁～底部 破片	口径(11.6) 稜径(10.6)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は全面に撫でを施す。	
4 — No0417	土師器 杯	口縁～底部 1/3	口径(14.9) 器高 3.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は全面に撫でを施す。	

#### 35号住居跡 (写真図版33・106)

位置：C-05Qグリッド付近

主軸方位：N-68°-E 規模：3.4m×3.7m

形状：平面形状は、台形状を呈し、床面までの深度は確認面より35cm程を測る。

カマド：住居東壁のほぼ中央付近に焼土の散乱が見られ、カマドの存在がうかがえるが、攪乱を受け遺構として検出しえなかった。

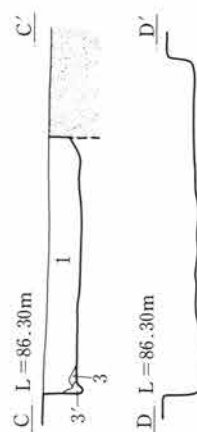
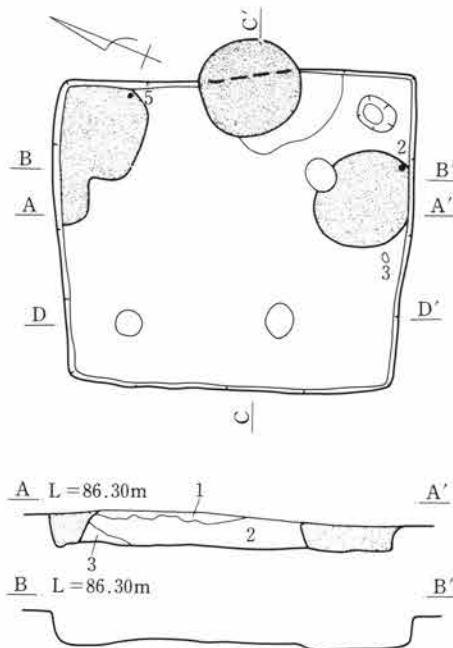
内部施設：住居南東コーナー部付近に径60cm程、深度15cmを測る浅い土坑を1基検出する。柱穴については床面上に3ヶ所程浅い凹みを検出したのみで、明瞭な柱穴は検出されていない。

床面：地山ローム土を固めて床面とする。

掘り方：なし。

重複：住居東側において、わずかに45号・46号住居跡と重複し、新旧関係については相互の出土遺物により本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、7世紀代の住居跡と推定される。

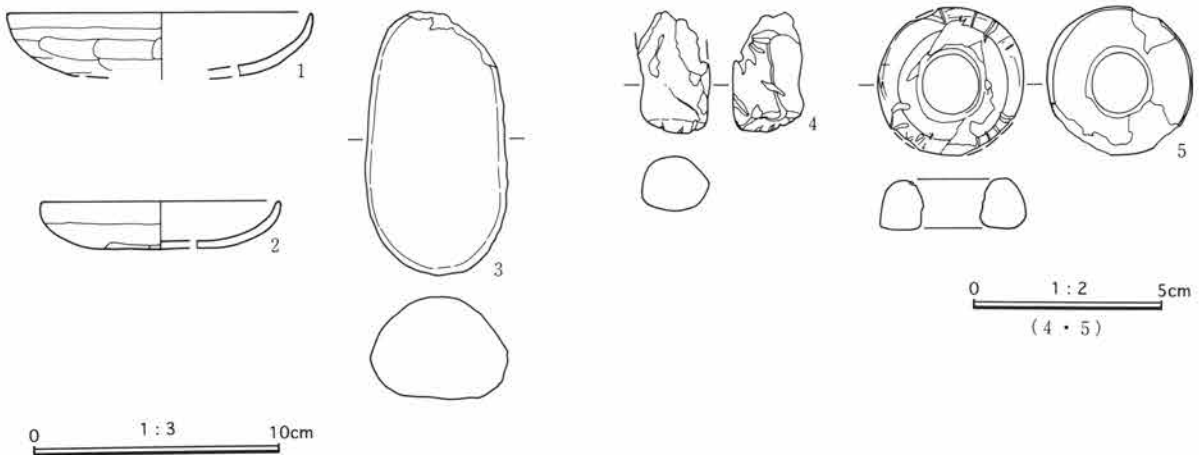


#### 住居埋土

- 1：ローム粒子・バミスを含む暗褐色砂質土。
- 2：不揃いのロームブロックと炭化物を含む暗黄褐色土。
- 3：2層土に類似し、多量のローム粒子を含む。2・3層ともに人為的埋め戻しか。
- 3'：3層土に類似し、ロームブロックの混入が少ない。

0 1:80 2m

第90図 35号住居跡



第91図 35号住居跡出土遺物

35号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 106 No0421	土師器 杯	埋土 口縁～底部 上位破片	口径(12.2)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は全面に撫でを施す。	
2 — No0422	土師器 杯	埋土 口縁～底部 上位破片	口径(9.7) 器高(1.9)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はへら削り、口縁部は内外面共にやや粗い横方向の撫で、底部内面は全面に撫でを施す。	
3 106 No2937	こもあみ石	完形	長 10.4 幅 5.6 厚 4.1	石英閃緑岩	平面形は楕円形気味。横断面は隅丸方形。	347 g
4 106 No0424	土製品	破片			平面形は隅丸長方形。横断面は近円形を呈す。	9.29 g
5 106 No2846	石製品 ドーナツ形	ほぼ完形	器高 1.3 最大径 3.9	滑石	平面形はドーナツ形で穿孔は大きく再整形ありに見える。	25 g

36号住居跡 (写真図版34・35・106・107)

位置：C-06Qグリッド付近

主軸方位：N-82°-E 規模：4.1m×3.3m

形状：平面形状は、隅丸長方形を呈し、床面までの深度は確認面より35cm程を測る。

カマド：住居南東コーナー部に位置する。燃烧部は壁の外側に位置し、煙道部は大きく突出する。袖部には楕円礫と円筒埴輪片を埋設し、燃烧部中央には支脚石を据える。

内部施設：住居南東コーナー部のカマド袖部脇に径40cm、深度10cm程の浅い土坑が検出されたのみで、柱穴等は検出されていない。

床面：重複遺構にあたる部分のみ、地山ローム土を主体とする貼り床を施す。

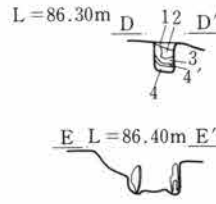
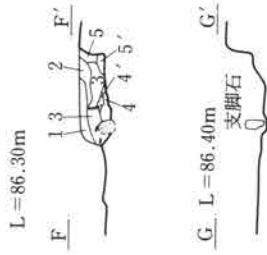
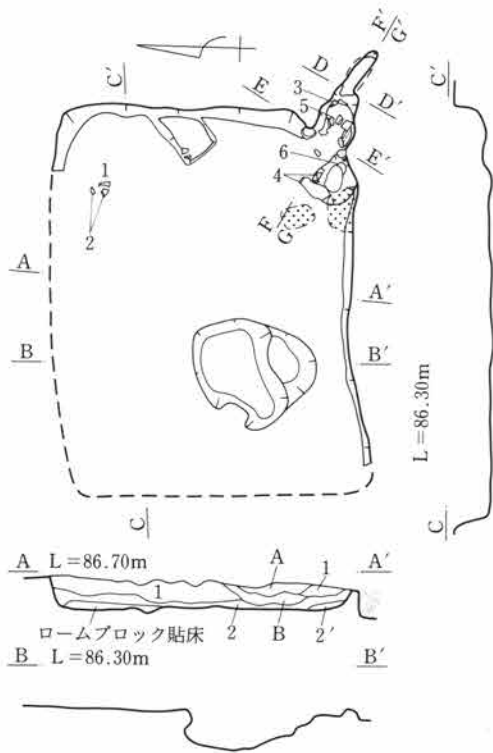
掘り方：住居中央やや南西寄りに径130cm程、深度40cm程を測る不定形の土坑を検出する。

出土遺物：羽釜片 (No.3) がカマド内より出土。また、円筒埴輪 (No.5) はカマド構築材としての転用。

重複：住居西半部において、37号住居跡と重複し、埋土の状態より、本遺構の方が新しいものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、10世紀代の住居跡と推定される。

第3章 検出遺構と遺物

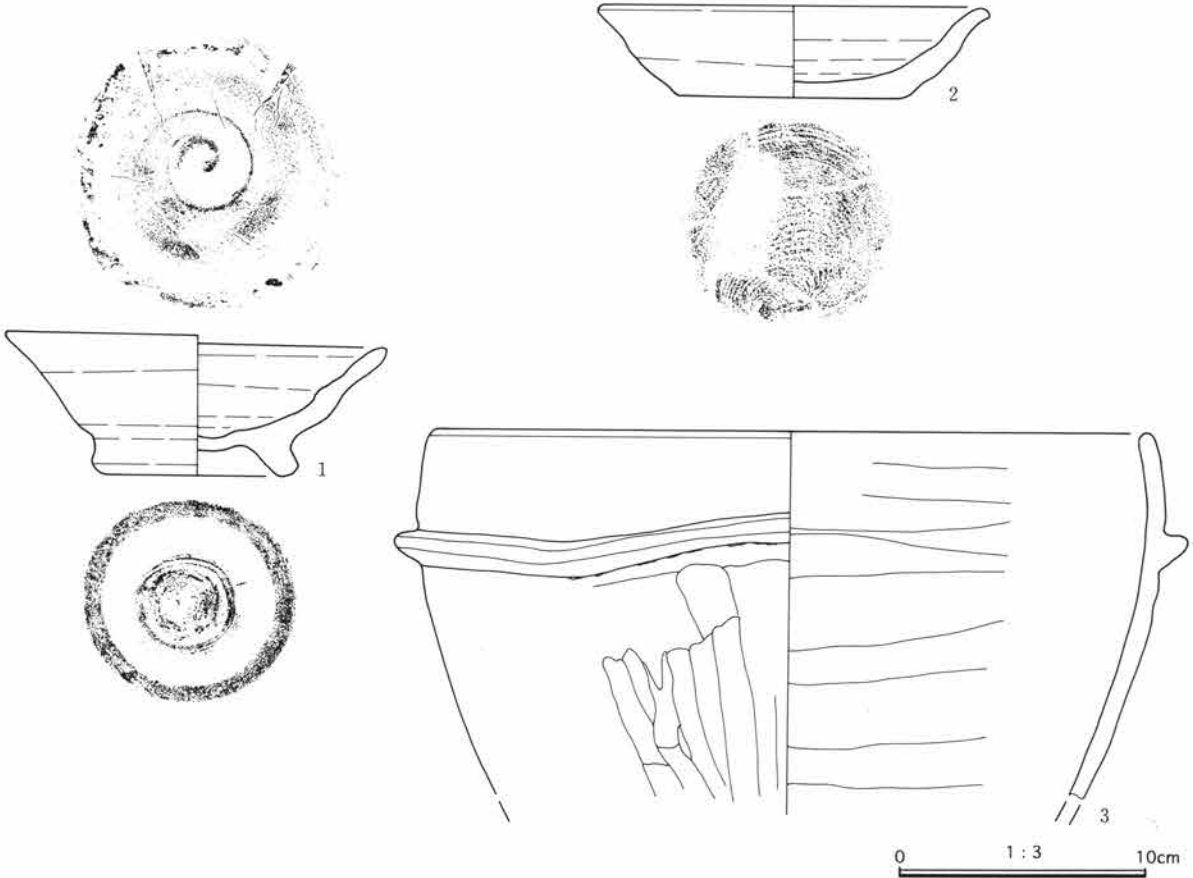
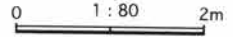


住居埋土

- 1: ローム粒子をまばらに含む黒褐色土。
- 2: 炭化物粒・炭化物ブロックを含む黒褐色土。
- 2': 2層土に類似し、ローム粒子を含む。
- A: ローム粒子を含む黒褐色砂質土。
- B: 多量のロームブロックを含む暗黄褐色砂質土。

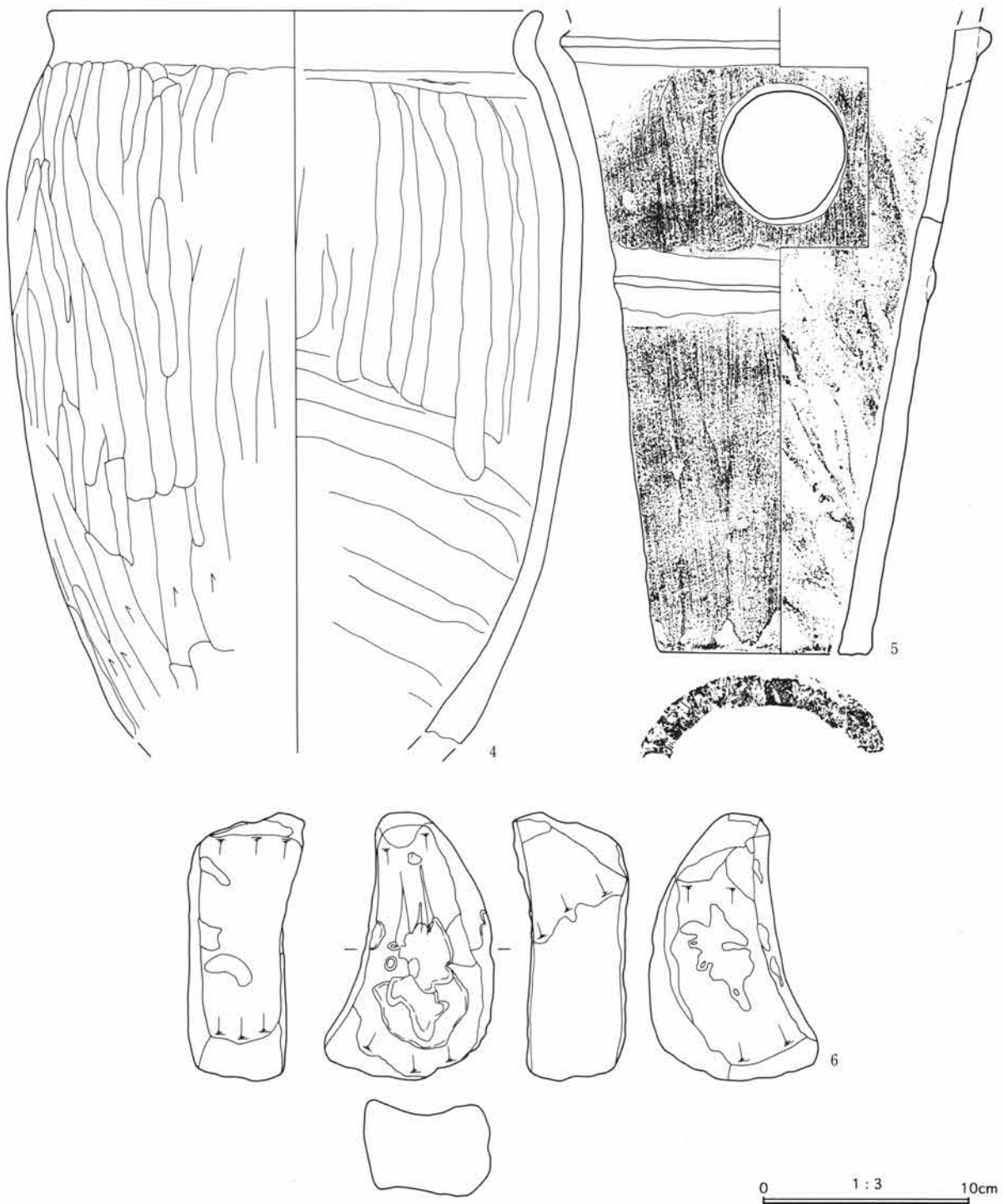
カマド埋土

- 1: パミス・焼土粒子・粘土小ブロックを含む、しまりのある黒褐色土。
- 2: 焼土粒子・黒色灰を含む暗褐色土。
- 3: 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子を含む暗褐色土。
- 4: 灰を含む黒色土。
- 4': 4層土に類似し、ローム粒子を含む。
- 5: ローム土を主に黒色土が混入する暗褐色土。
- 5': 5層土に類似し、黒色土の混入量が多い。



第92図 36号住居跡及び出土遺物





第93図 36号住居跡出土遺物

36号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 106 No0426	須恵器 椀	略完形 口縁一部欠	口径 15.2 底径 7.8 器高 5.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙色	ロクロ成形。内面底部に引き上げ痕を明瞭に残す。ロクロ右回転。底部高台内は調整。内面に重ね焼痕を残す。	
2 106 No0425	須恵器 杯	口縁～底部 1/5	口径 15.7 底径 9.3 器高 3.6	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：灰白～浅黄橙色	ロクロ成形。器形は歪。底部回転糸切り、ロクロ左回転。	

### 第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
3 106 No.0427	須恵器 羽釜	口縁～胴部 中位破片	口径(28.8) 鏝径(31.5) 器高 一	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐～暗褐色	鏝部は非水平。胴部外面は縦方向のヘラ削り、口縁部内外面及び胴部内面は横方向の撫でを施す。	
4 107 No.0428	須恵器 土釜	口縁～胴部 中位破片	口径 23.8	胎：粗砂粒(1.5～5mm) 焼：酸化焰 色：明赤褐～暗褐色	器形は歪。外面口縁～胴部は全面に粗い撫で、内面は全面にハケ目(削り)の後に粗い撫でを施す。	
5 107 No.0430	埴輪 円筒埴輪	カマド 胴部～基底部	底径 10.0 器高(29.8)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面浅い縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面縦板ナデ?後縦指ナデ。透孔残存。内外面一部に煤付着。突帯断面低い台形。	カマド構築財。透孔円形。
6 107 No.2805	砥石	一部欠	長 12.7 幅 8.0 厚 5.1	粗粒安山岩	小口は自然面。表・裏、側部のうち3面使用。1面自然。荒砥紙。	426g 3面使用。

#### 37号住居跡 (写真図版35・107)

位置：C-06Rグリッド付近

主軸方位：N-85°-E 規模：3.9m×3.4m

形状：平面形状は、隅丸方形を呈し、床面までの深度は確認面より40cm程を測る。

カマド：住居東壁中央やや南寄りに位置するが、重複遺構により破壊され、焼土の痕跡をわずかに残すのみである。

内部施設：柱穴等一切の施設は検出されていない。

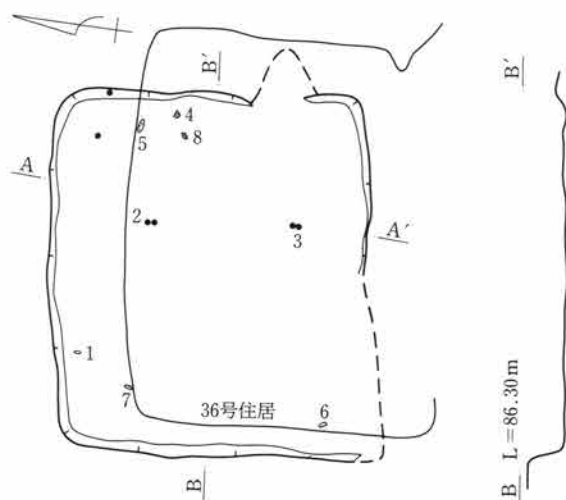
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

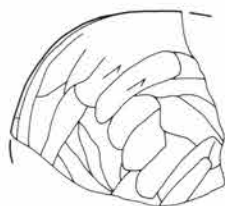
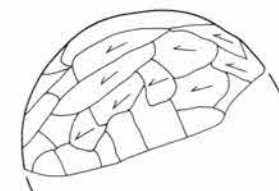
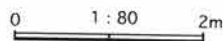
重複：住居南東部の大半が36号住居跡と重複し、埋土の状態より本遺構の方が古いものと判断される。

重複が浅いためわずかに壁と床面をとどめる。

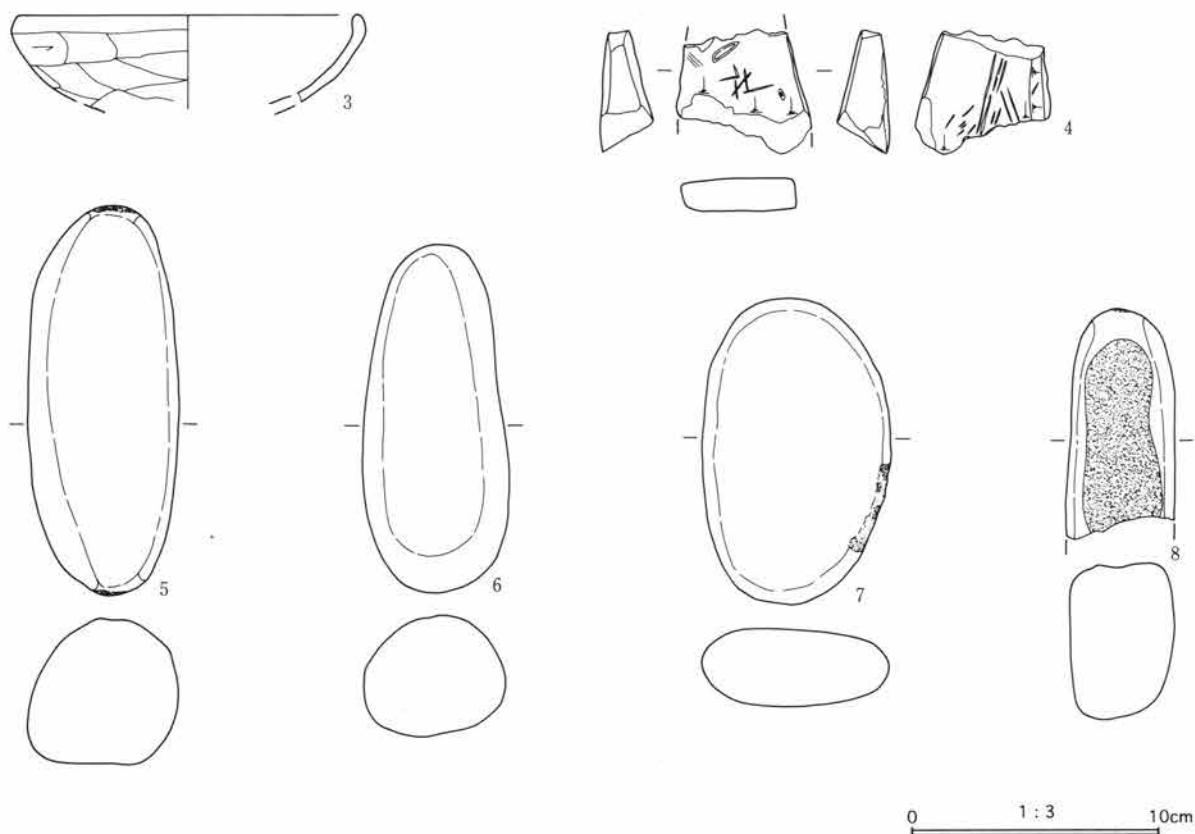
時期：出土する遺物の年代より、7世紀代の住居跡と推定される。



住居埋土  
1：多量のローム粒子を含む暗黄褐色土。



第94図 37号住居跡及び出土遺物



第95図 37号住居跡出土遺物

37号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 107 No0433	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径(10.6) 器高 3.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は全面に撫でを施す。	
2 107 No0434	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径(10.9) 器高 3.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も全面に撫でを施す。	
3 107 No0435	土師器 杯	口縁～底部 上位破片	口径(13.9)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も全面に撫でを施す。	
4 107 No2806	砥石	破片	長 ( 4.8) 幅 5.4 厚 1.9	砥沢石	流紋岩、小口は旧欠、自然。表・裏、側部のうち4面使用。刃傷あり。中砥級。	48 g
5 107 No2938	こもあみ石	完形	長 15.4 幅 6.0 厚 5.7	粗粒安山岩	平面形は楕円形を呈し、横断面形は近円形を呈する。	845 g
6 107 No2940	こもあみ石	完形	長 13.8 幅 5.9 厚 4.8	石英閃緑岩	平面形は楕円形を呈し、横断面形は楕円形気味。	549 g
7 107 No2967	磨石類	完形	長 12.1 幅 7.5 厚 3.2	粗粒安山岩	平面形は楕円形を呈し、横断面形は楕円形気味。	430 g
8 107 No2939	こもあみ石	完形	長 ( 9.1) 幅 4.4 厚 6.8	粗粒安山岩	片側小口欠。平面形は楕円形気味で、横断面は隅丸長方形気味。	401 g

第3章 検出遺構と遺物

38号住居跡 (写真図版36・107・108)

位置：C-00Qグリッド付近

主軸方位：N-20°-W 規模：(5.0)m×(5.5)m

形状：重複と攪乱を受け、住居の全容は明らかではないが、おそらく平面形状は、隅丸方形を呈すると考えられる。床面までの深度は確認面より35cm程を測る。

カマド：住居北壁側に位置し、袖部は屋内に大きく張り出し、煙道部はあまり突出しない。袖部は芯材を用いず、粘性土を固めて構築される。

内部施設：カマド南東部より径40cm、深度86cmを測る柱穴と考えられるピットが1穴検出される。また

柱穴の北側より径50cm、深度40cm程を測る小土坑が1基検出され、貯蔵穴と推察される。

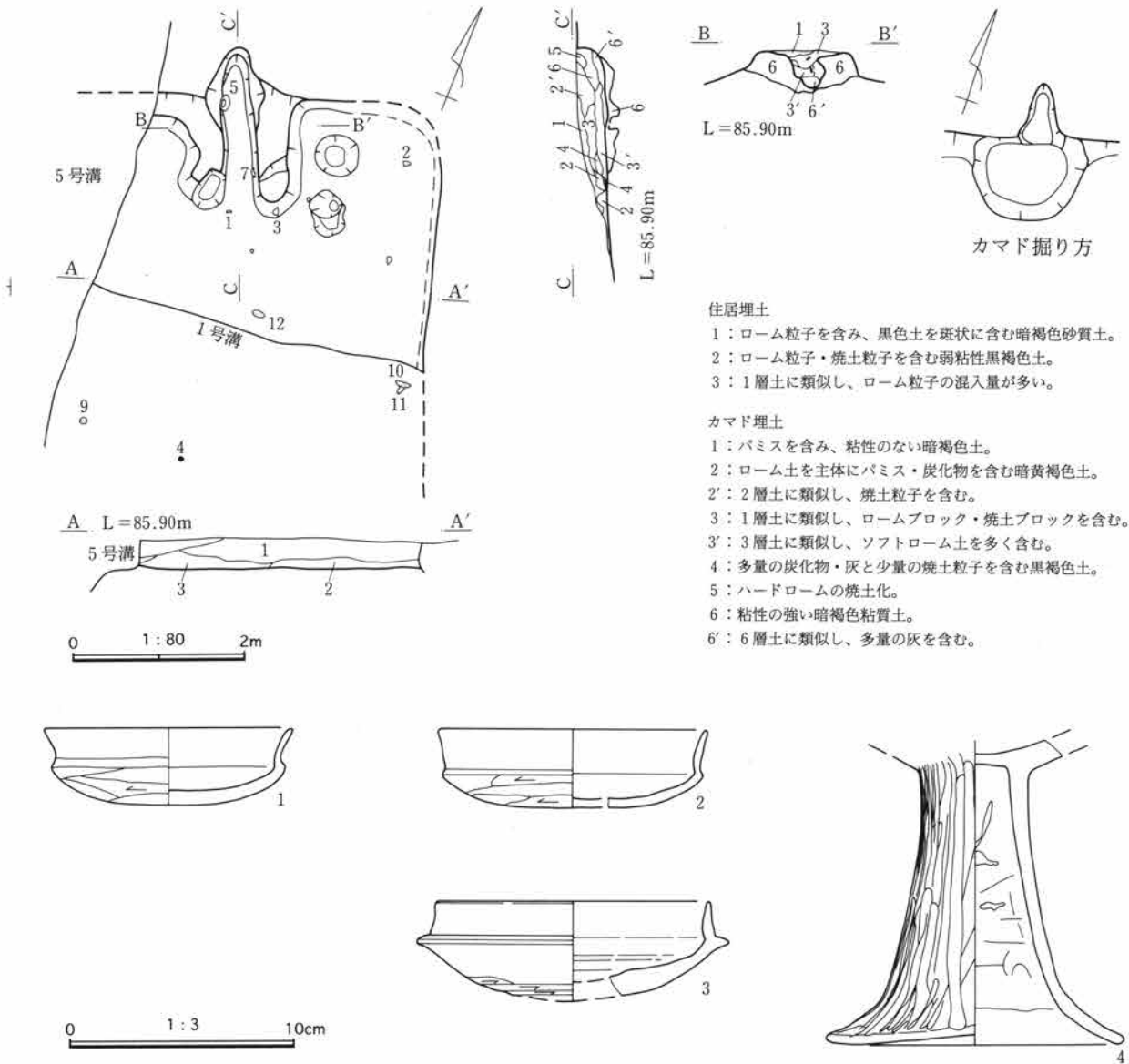
床面：地山ローム土を固めて床面とする。

掘り方：なし。

出土遺物：土師器甕 (No.5・7) がカマド内より出土する。

重複：住居西半部において5号溝と重複し、埋土の状態より、本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代及び、住居・カマドの軸方向より、6世紀代の住居跡と推定される。



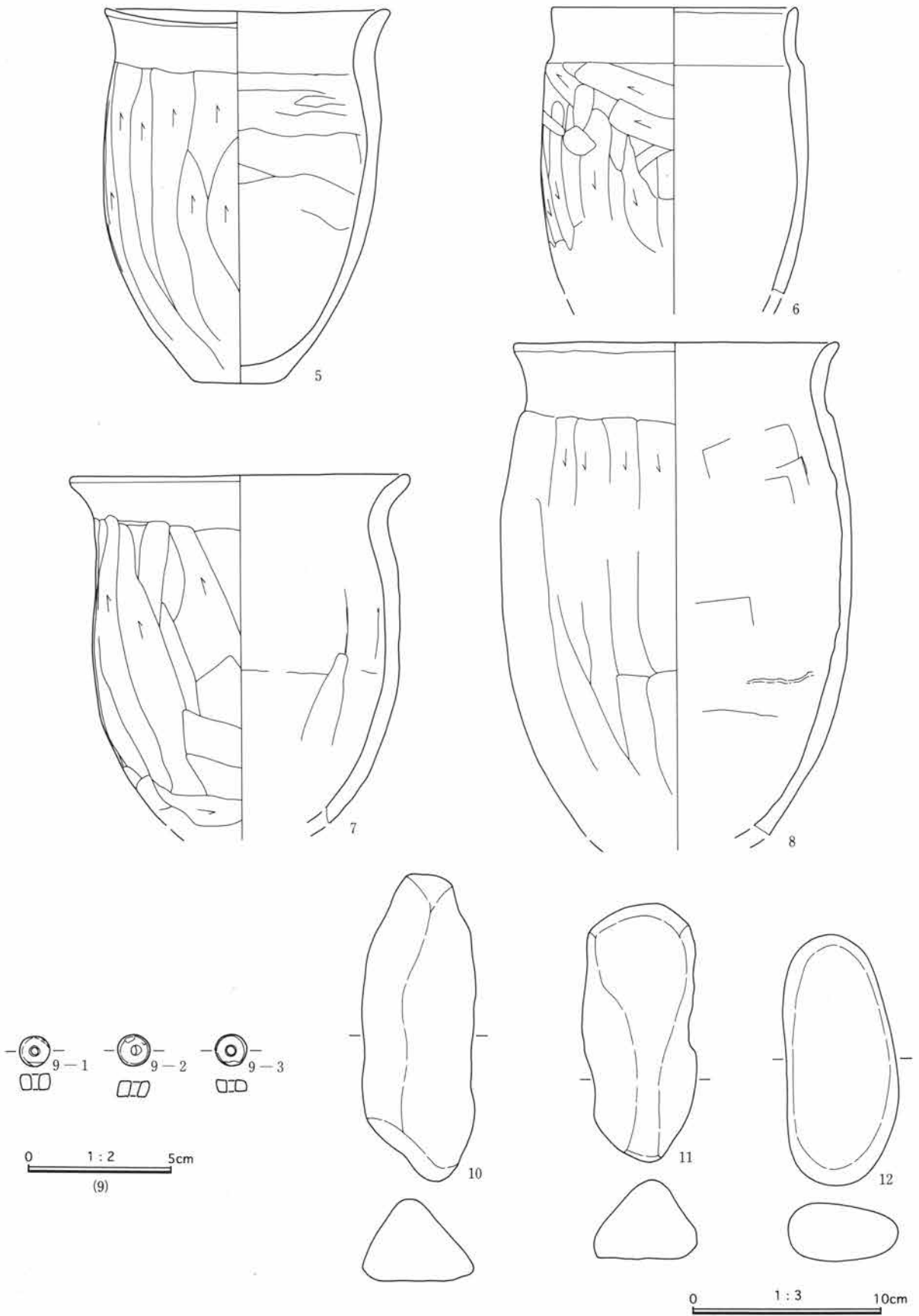
住居埋土

- 1：ローム粒子を含み、黒色土を斑状に含む暗褐色砂質土。
- 2：ローム粒子・焼土粒子を含む弱粘性黒褐色土。
- 3：1層土に類似し、ローム粒子の混入量が多い。

カマド埋土

- 1：パミスを含み、粘性のない暗褐色土。
- 2：ローム土を主体にパミス・炭化物を含む暗黄褐色土。
- 2'：2層土に類似し、焼土粒子を含む。
- 3：1層土に類似し、ロームブロック・焼土ブロックを含む。
- 3'：3層土に類似し、ソフトローム土を多く含む。
- 4：多量の炭化物・灰と少量の焼土粒子を含む黒褐色土。
- 5：ハードロームの焼土化。
- 6：粘性の強い暗褐色粘質土。
- 6'：6層土に類似し、多量の灰を含む。

第96図 38号住居跡及び出土遺物



第97図 38号住居跡出土遺物

第3章 検出遺構と遺物

38号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考			
1 107 No0439	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径(11.0) 稜径(10.3) 器高 3.3	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は全面に撫でを施す。				
2 107 No0440	土師器 杯	口縁～底部 1/4弱	口径(11.8) 稜径(11.4) 器高( 3.3)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は全面に撫でを施す。				
3 107 No0441	須恵器 杯	口縁～底部 1/4	口径(12.0) 器高( 4.1) 受径(13.6)	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	ロクロ成・整形。底部器壁やや肉厚。底部外面中心部は回転ヘラ削り。ロクロ左回転。				
4 107 No0443	土師器 高杯	脚部のみ	底径 13.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	脚部外面は縦方向のヘラ削り後に同方向のヘラ撫で、及び丁寧なヘラ磨き、脚部内面は削り後に横方向の丁寧なヘラ撫で及び撫でを施す。				
5 107 No0444	土師器 甕	略完形 底部一部欠	口径 14.9 底径 5.0 器高 19.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒色	胴部外面は縦方向(上から下)のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も横～斜方向の撫でを施す。				
6 107 No0446	土師器 甕	カマド下 口縁～胴部 中位	口径 12.9	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～灰褐色	口縁は直立きみ。胴部外面は縦～斜方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も全面に撫でを施す。				
7 107 No0445	土師器 甕	口縁～胴部 下位	口径 17.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～灰褐色	外面胴部下位は横方向、中～上位は縦方向のヘラ削り口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は全面に撫でを施す。胴部外面は火を受け、一部器面剥落。				
8 107 No0447	土師器 甕	口縁～胴部 下位	口径(17.0)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～褐灰色	胴部外面は縦方向(上から下)のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も横方向の撫でを施す。				
9 107 No2832	滑石製模品 白玉	完形		滑石	当遺跡では大形。穿孔は中心に近い。	3個			
図版番号	外 径	厚	重 量	石 材	図版番号	外 径	厚	重 量	石 材
9-1	1.0mm	0.6mm	1.07g	滑 石	9-3	1.0mm	0.4mm	0.84g	滑 石
-2	1.0mm	0.5mm	0.95g	滑 石					
図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考			
10 108 No2943	こもあみ石	完形	長 16.0 幅 5.9 厚 4.9	溶結凝灰岩	平面形はやや形が不整な隅尖り気味。横断面は隅丸三角形を呈す。	526g			
11 108 No2942	こもあみ石	完形	長 13.4 幅 5.7 厚 4.2	溶結凝灰岩	平面形はやや不整である。横断面は隅丸三角形を呈す。	396g			
12 108 No2941	こもあみ石	完形	長 13.1 幅 6.1 厚 3.1	粗粒安山岩	平面形は長楕円形。横断面は楕円形を呈す。	355g			

39号住居跡 (写真図版37・108)

位置：C-00Sグリッド付近

主軸方位：N-24°-W 規模：4.8m×(4.8)m

形状：住居西側壁が重複遺構により検出されていないものの、平面形状は、ほぼ方形を呈すると考えられ、床面までの深度は確認面より35cm～40cmを測る。

カマド：住居北壁側に位置し、袖部は大きく屋内に張り出し、煙道部はあまり突出しない。残存状態は比較的良好で、煙道部付近の天井部を残す。袖部は芯材を用いず、粘性土を固め構築される。燃焼部よ

り円礫が出土し、天井部材石の崩落と考えられる。

内部施設：住居南東・南西の各コーナー付近より、径30cm～40cm、深度45cm～55cmを測る穴が2穴検出され、位置的に壁に近いが柱穴の可能性が高い。また、北東コーナー部より径70cm、深度50cm程を測る土坑が検出され、貯蔵穴の用途が推察される。

床面：地山ローム土を固めて床面とする。

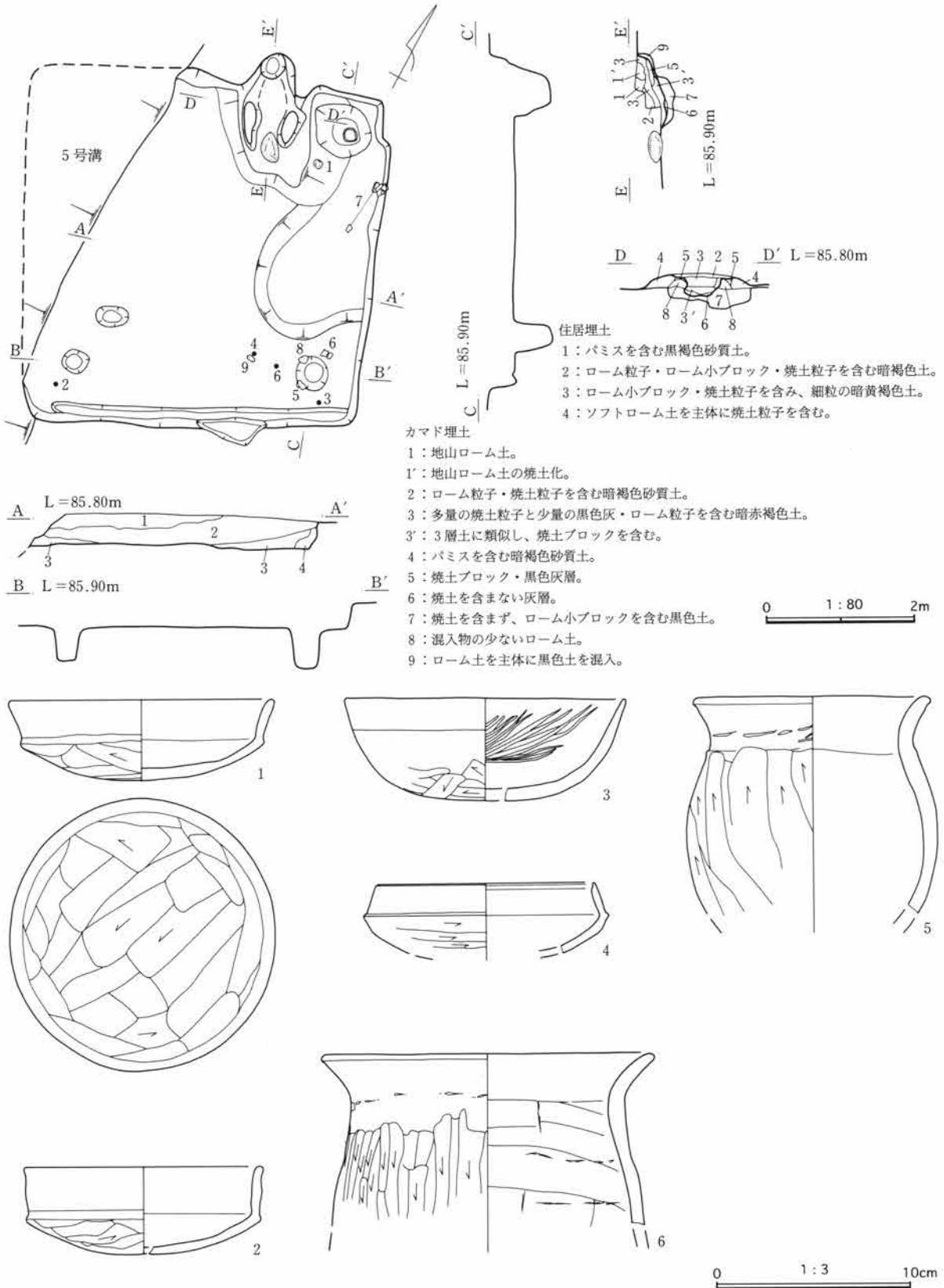
掘り方：なし。

出土遺物：土師器甕(No.7)が住居東壁下より出土する。

重複：住居西側において5号溝と重複し、確認面に

おける埋土の状態より、本遺構の方が古いものと判断される。

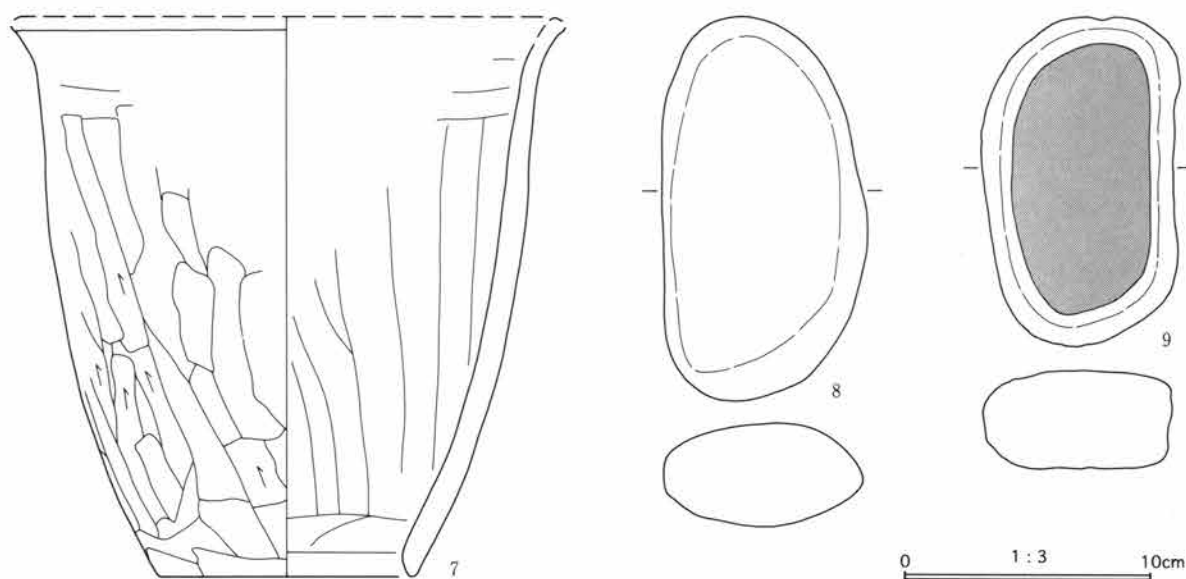
時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



第98図 39号住居跡及び出土遺物



第3章 検出遺構と遺物



第99図 39号住居跡出土遺物

39号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 108 No0450	土師器 杯	完形	口径 13.5 稜径 12.5 器高 4.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面底部はほぼ同一方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の丁寧な撫で、底部内面は円状の撫でを施す。	
2 — No0451	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径(12.2) 稜径(11.9) 器高(4.3)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は円状の撫でを施す。	
3 108 No0453	土師器 杯	口縁～底部 1/3	口径(14.4) 底径 — 器高(5.2)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面底部はヘラ削り、外面口縁部及び内面口唇部は横方向の撫で、内面口縁下～底部は斜方向のヘラ研磨、内面底部中央は撫でを施す。	
4 108 No0452	土師器 杯	口縁～底部 上位破片	口径(11.2) 稜径(12.5) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	外面底部は細かい単位のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は撫でを施す。	
5 108 No0455	土師器 小形甕	口縁～胴部 上位破片	口径(12.1) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	外面胴部は粗い縦方向(下から上)のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は粗い撫でを施す。	
6 — No0456	土師器 小形甕	口縁～胴部 上位破片	口径(16.9) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面胴部は縦方向のヘラ削り、口縁部は横方向の撫で、内面胴部も横方向の撫でを施す。	
7 108 No0457	土師器 甕 (一穴)	口縁～底部 破片	口径(22.1) 底径 10.3 器高(22.1)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	一穴。外面胴部は縦方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は縦方向の撫でを施す。	
8 108 No2944	こもあみ石	完形	長 15.2 幅 8.2 厚 4.3	粗粒安山岩	平面形は楕円形気味。断面形も楕円形気味。	767 g
9 108 No2968	磨石類	完形	長 13.1 幅 8.0 厚 3.9	玢岩	平面形は隅丸長方形。横断面も、隅丸長方形気味。	707 g

40号住居跡 (写真図版38・108)

位置：C-18Tグリッド付近

主軸方位：不明。 規模：(4.1)m×(3.2)m

形状：平面形状は、隅丸方形を呈すると思われるが、

壁をほとんど検出できず、床面だけの検出である。

カマド：検出されていない。

内部施設：検出されていない。

床面：地山ローム土を固めた床面で、この床面範囲

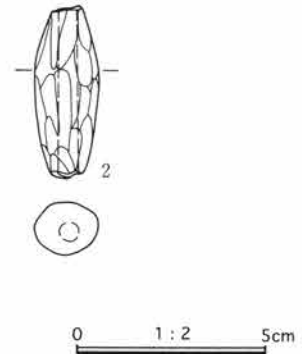
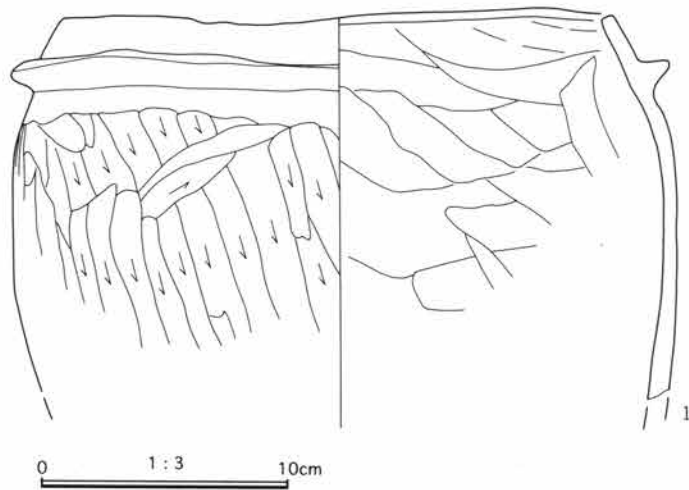
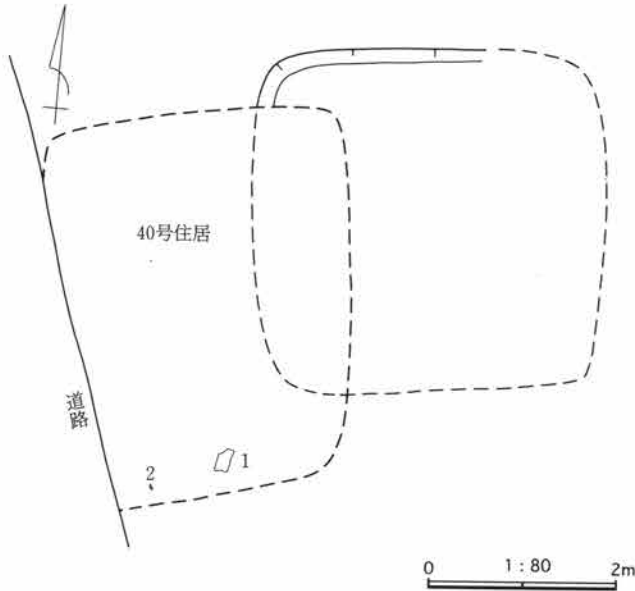
により住居プランを推定した。

掘り方：なし。

重複：北東コーナー部付近に別遺構の壁の一部が検出され、これも住居跡となる可能性があるが、床面

等が明瞭に確認されなかった。

時期：出土する遺物の年代より、10世紀代の遺構と推定される。



第100図 40号住居跡及び出土遺物

40号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備 考
1 108 No0459	須恵器 羽釜	口縁~胴部 上位1/2周	口径(22.0) 鏝径(25.2)	胎：粗砂粒 焼：酸化・還元焰 色：橙~黒褐色	口縁部及び鏝は波を打ち、鏝は胴部最大径より突出しない。外面胴部は縦方向のヘラ削り、口縁部及び鏝下は横方向の撫で、内面は異方向の撫でを施す。	
2 108 No0880	土製品 土錘	完形	器高 4.55 最大径 1.2	胎： 焼： 色：明黄褐色	焼成は、土師器に近似。全出土例の中では太い方。外面に整形痕あり。	10.38 g

41号住居跡 (写真図版39・108)

位置：C-17Vグリッド付近

主軸方位：N-88°-E 規模：3.4m×5.2m

形状：平面形状は、隅丸長方形を呈し、北東コーナー部がやや張り出す。床面までの深度は確認面より20cm~40cm程を測る。

カマド：住居東壁のほぼ中央に位置し、燃燒部は壁の外側に有り、煙道部は大きく突出する。

内部施設：検出されていない。

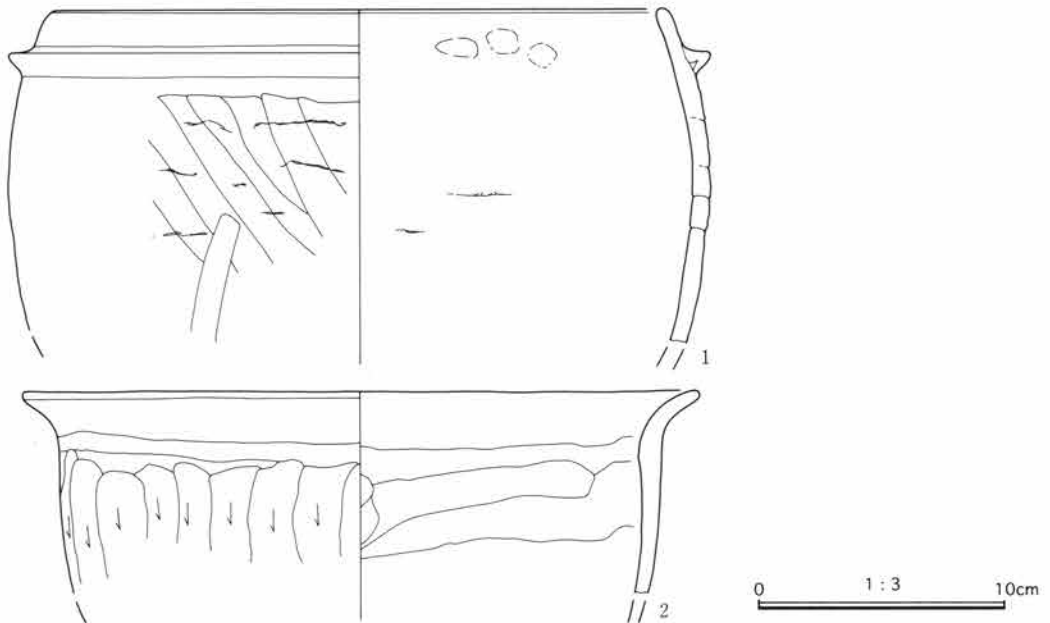
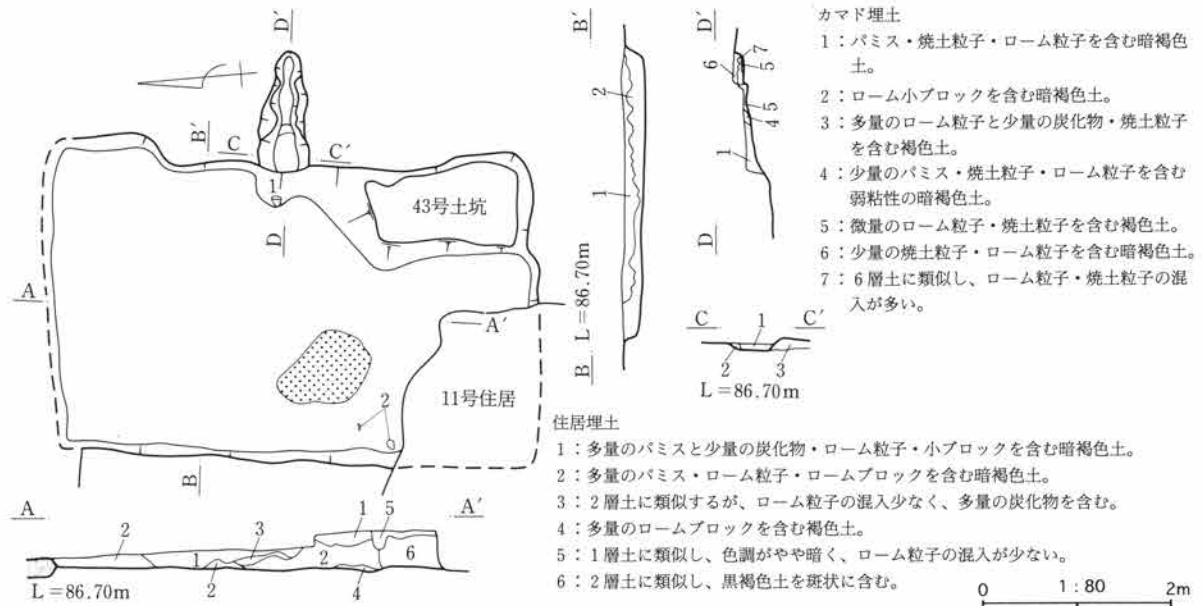
床面：地山ローム土を固めて床面とする。

掘り方：なし。

出土遺物：羽釜 (No.1) はカマド付近よりの出土。

重複：南東コーナー部において7号土坑と、南西コーナー部において11号住居跡とそれぞれ重複し、埋土の状態より本遺構の方が両者より古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、10世紀代の住居跡と推定される。



第101図 41号住居跡及び出土遺物

41号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 108 No0461	須恵器 羽釜	口縁～胴部 上位破片	口径(24.4) 器高 — 鏝径(28.0)	胎：粗砂粒 焼：酸化・還元焰 色：橙～黒褐色	鏝は胴部最大径より突出しない。胴部外面は輪積みの痕跡を残し、斜方向の撫で、外面口縁部及び鏝下は横方向の撫で、内面は撫でを施す。	
2 — No0458	須恵器 土釜	口縁～胴部 上位破片	口径(26.9) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化・還元焰 色：灰褐～黒褐色	外面胴部は縦方向(上から下)のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は横方向の指による削り気味の強い撫でを施す。	

42号住居跡 (写真図版41・108)

位置：C-07Wグリッド付近

主軸方位：N-80°-E 規模：(5.3)m×(5.3)m

形状：壁は南西コーナー部のみしか残らず、形状の全容は明らかではないが、柱穴の位置から方形を呈すると考えられる。

カマド：住居東壁又は北壁への存在が考えられるが、痕跡は確認できなかった。

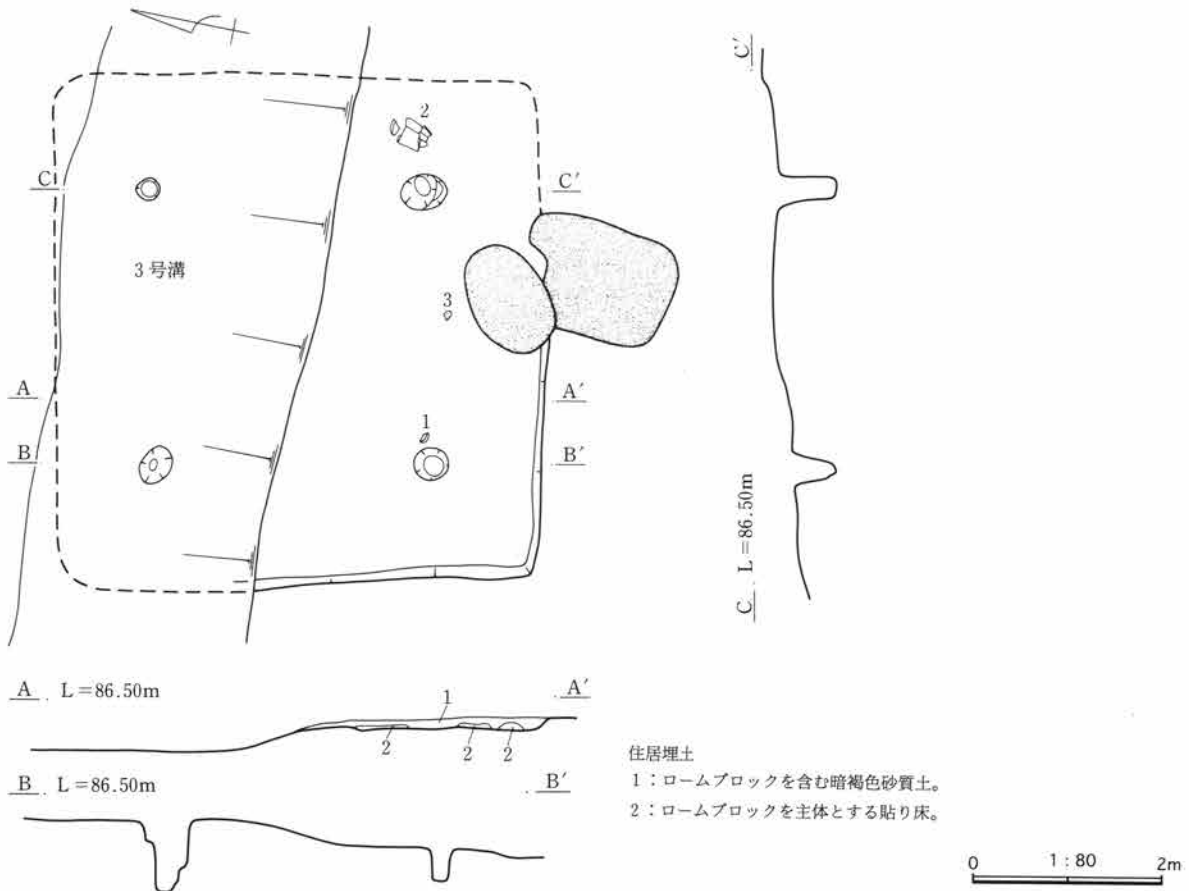
内部施設：径20cm～40cm程、深度50cm～70cm程を測る柱穴が4穴検出される。

床面：北半部は重複により欠失するが、南半部は地山ローム土を固めた床面が残る。

掘り方：なし。

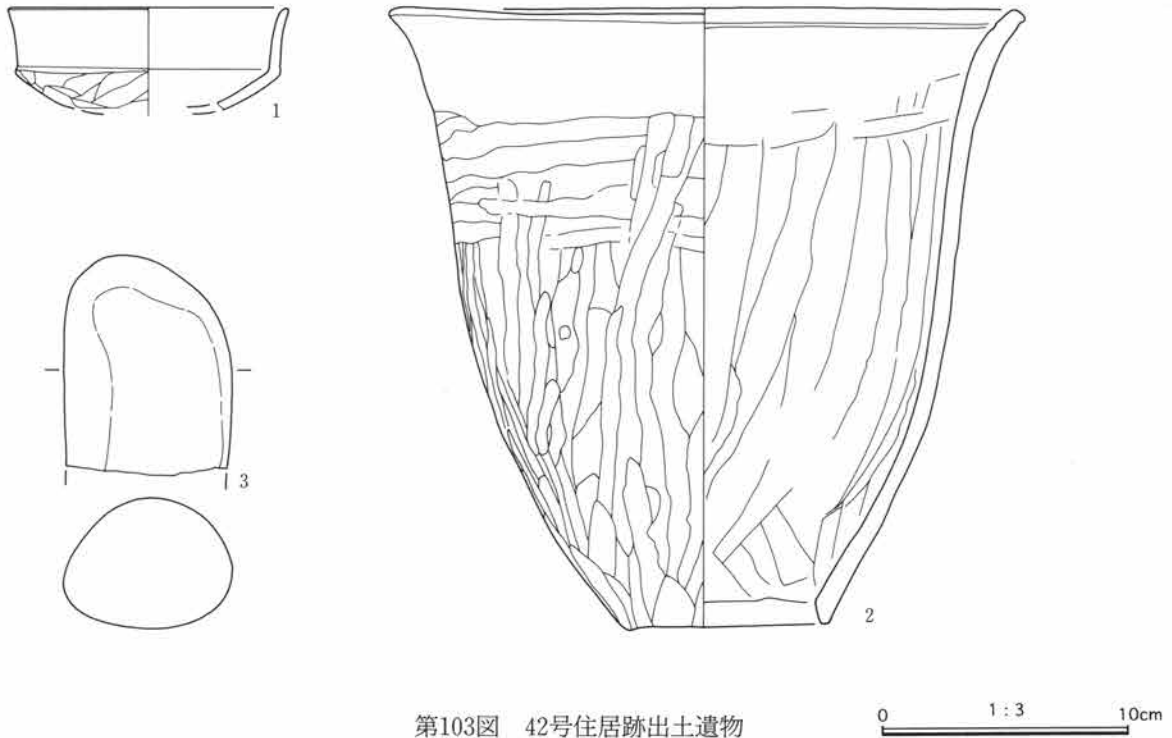
重複：北半部において3号溝と重複し、確認面よりの埋土の状態より、本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



第102図 42号住居跡

第3章 検出遺構と遺物



第103図 42号住居跡出土遺物

42号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 108 No0462	土師器 杯	口縁～底部 上位1/4	口径(11.2) 稜径(10.6)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	外面底部はヘラ削り後にヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は円状に撫でを施す。	
2 108 No0463	土師器 甕 (一穴)	略完形 口縁一部欠	口径 25.3 底径 8.0 器高 24.4	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒色	一穴。外面胴部は下位が縦方向のヘラ削り、上位が横方向のヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は縦方向の撫でを施す。底部が細かく剥落。	
3 108 No2945	こもあみ石	1/2	長 ( 8.7) 幅 6.7 厚 5.1	粗粒安山岩	片側小口欠。平面形は隅丸長方形気味。横断面は卵形。	479 g

43号住居跡 (写真図版40・109)

位置：C-10Tグリッド付近

主軸方位：N-91°-E 規模：5.8m×5.9m

形状：平面形状は、ややいびつな方形を呈する。床面までの深度は確認面より30cm程を測る。

カマド：住居東壁の中央南寄りに位置し、袖部は屋内に張り出し、煙道部は突出しない。袖部は芯材を用いず粘性土を固め構築される。

内部施設：住居西壁側に柱穴を2穴検出する。又、南東コーナー部には径60cm、深度80cmを測る貯蔵穴と考えられる土坑を検出し、この土坑の西側に南壁から伸びるしきり状の高まりを検出する。

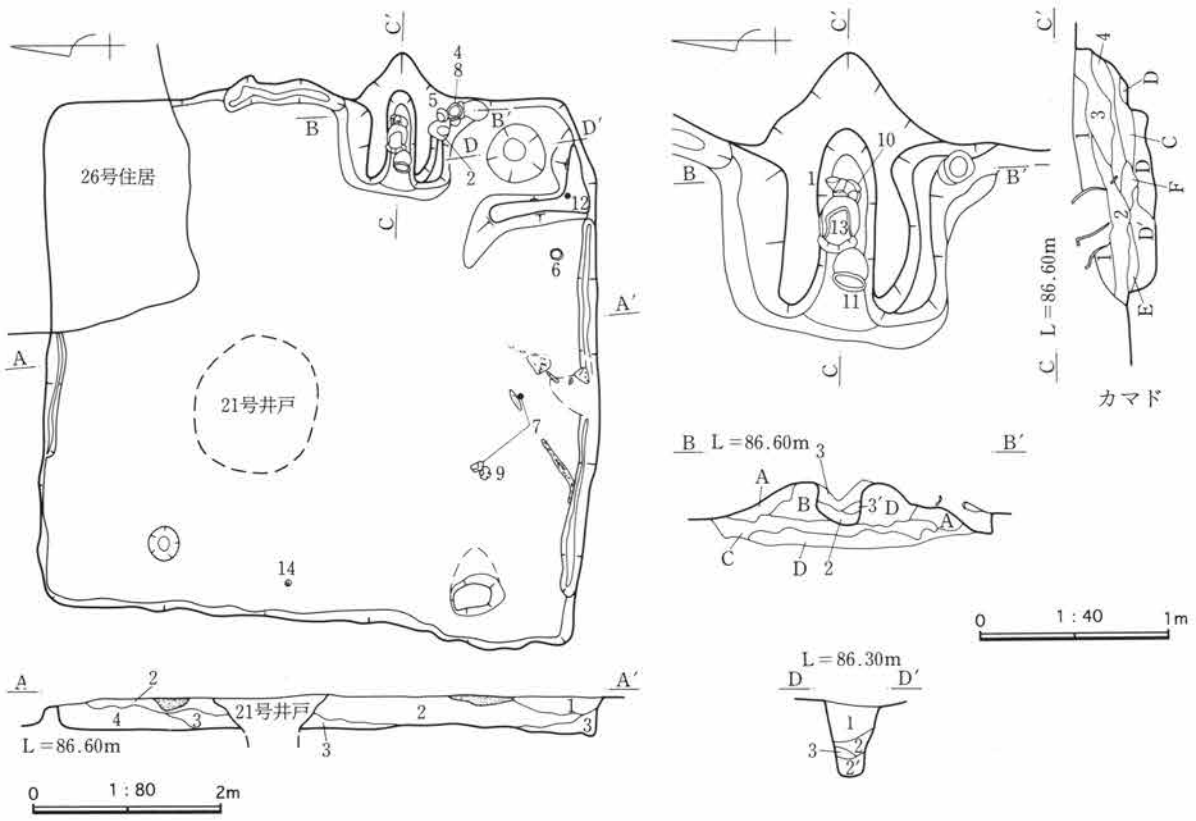
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

出土遺物：カマド燃焼部より土師器甕 (No11・13) が出土し、またカマド南袖脇より土師器杯 (No4・5・8) が集中して出土する。

重複：住居北東コーナー部において26号住居跡と重複し、埋土の状態より本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



カマド埋土

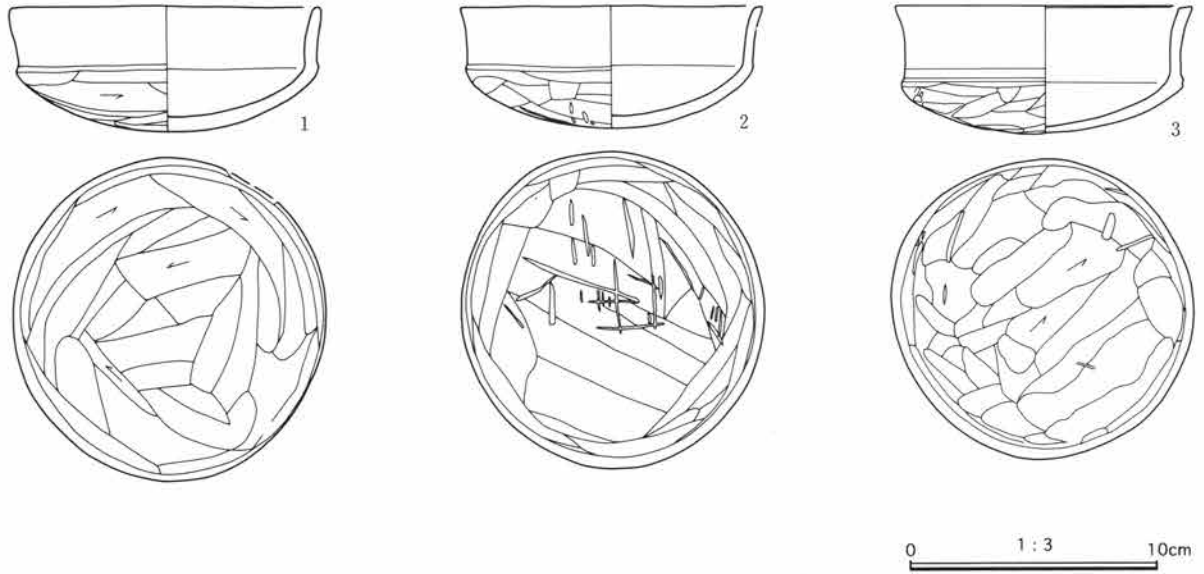
- 1: 灰白色の粗粒シルト質土を斑状に含み、焼土ブロックを含む暗褐色土。
- 2: 多量の焼土・炭化物・黒色灰を含む暗赤褐色土。
- 3: 焼土粒子・炭化物を含む灰白色の粗粒シルト質土(山砂状粘土)。
- 4: 焼土小ブロック・炭化物・山砂状粘土ブロックを含む黒褐色土。
- A: 焼土粒子・ローム粒子・バミスを含む粘性のない暗褐色土。
- B: 炭化物・焼土粒子を含む灰白色粘土。
- C: 黒色灰・ロームブロックを含む黒褐色土。
- D: 黒色土をブロック状に含むローム土。
- D': D層土に類似し、バミスを含む。
- E: D'層土の焼土化。
- F: 黒色灰層。

住居埋土

- 1: 砂質の暗褐色土。攪乱の可能性あり。
- 2: ローム主体の黄褐色土。
- 3: 砂質で多量のローム粒を含む暗褐色土。
- 4: 砂質でローム粒バミスを含む暗褐色土。

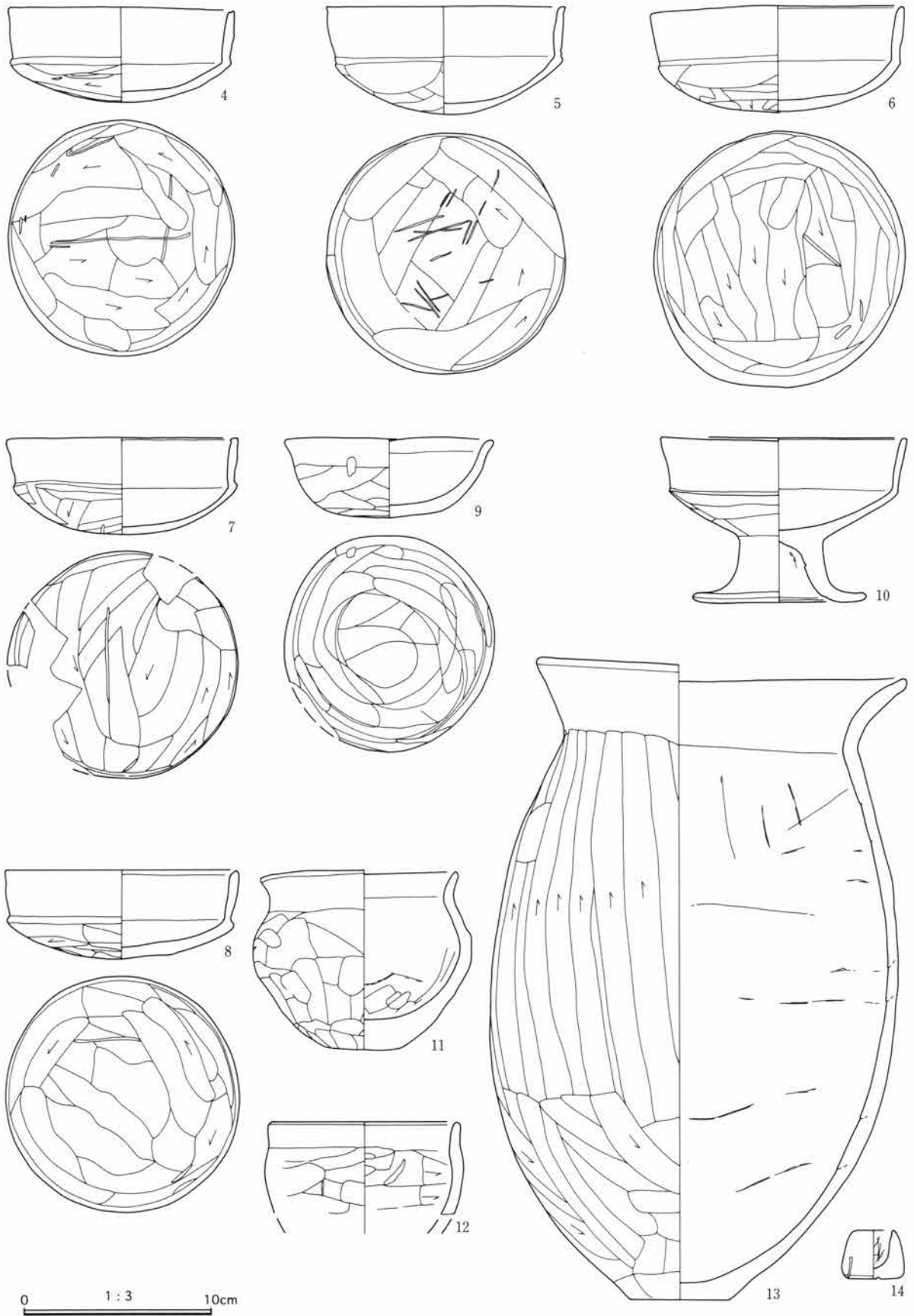
貯蔵穴埋土

- 1: ローム小ブロックを含み、上面に灰・焼土を含む弱粘性の暗褐色土。
- 2: 多量のロームブロックを含む黒色土。
- 2': 2層土に類似し、ロームブロックの混入が少ない。
- 3: ハードロームブロックを含むソフトローム土。



第104図 43号住居跡及び出土遺物

第3章 検出遺構と遺物



第105図 43号住居跡出土遺物



## 43号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 109 No0470	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 12.5 稜径 12.2 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も全面に撫でを施す。	
2 109 No0468	土師器 杯	完形	口径 12.2 稜径 11.6 器高 4.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は円状に撫でを施す。内面の器壁はやや荒れる。	
3 109 No0466	土師器 杯	完形	口径 11.8 稜径 11.2 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～明赤褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は撫でを施す。底部に3×10mm程の植物質夾雑物の焼失による孔が貫通する。	
4 109 No0469	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 11.9 稜径 11.6 器高 4.9	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～明赤褐色	底部外面はやや粗いヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は円状に撫でを施す。	
5 109 No0465	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 12.5 稜径 12.0 器高 5.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫でを施していると思われるが、内面器壁が著しく荒れ剥落しており、整形は不祥。	
6 109 No0472	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 13.3 稜径 12.7 器高 5.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：暗赤褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は円状の撫でを施す。	
7 109 No0471	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径 12.2 稜径 11.8 器高 5.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は撫でを施す。	
8 109 No0467	土師器 杯	完形	口径 12.3 稜径 11.9 器高 4.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はやや粗いヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は円状に撫でを施す。	
9 109 No0464	土師器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 11.0 底径 6.0 器高 4.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面底部～体部はヘラ削り、口縁部外面はやや粗い横方向の撫で、内面は全面に撫でを施す。	
10 109 No0475	土師器 高杯	略完形 底部一部欠	口径 13.0 底径 9.1 器高 9.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～明赤褐色	杯部底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、杯部内面は撫でを施し、脚部外面は横方向の撫で、脚部内面にも撫でを施す。	
11 109 No0476	土師器 小形甕	略完形 口縁一部欠	口径 10.4 底径 3.8 器高 9.3	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	外面胴部～底部はヘラ削り後にヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も撫でを施す。	
12 — No0474	土師器 杯 (鉢)	口縁部～胴 部破片	口径(10.0) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	体部外面はヘラ削り後にヘラ磨き、口縁部は内外面共に丁寧な横方向の撫で、体部内面は横方向の撫でを施す。	
13 109 No0477	土師器 甕	略完形 口縁一部欠	口径(14.3) 底径 5.2 器高 33.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～灰褐色	胴部外面下位は斜～横方向、上位は縦方向のヘラ削り口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も全面に撫でを施すが、一部に輪積の痕跡を残す。	
14 109 No0481	土製品 手捏ね	略完形 口縁一部欠	口径(2.6) 底径 3.2 器高 2.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部外面は平坦。手捏ね成形。内外面共に指撫で、内面に筋状の爪跡が残る。	

## 44号住居跡 (写真図版41・109)

位置：C-06Uグリッド付近

主軸方位：N-90°-E 規模：(3.4)m×(4.2)m

形状：平面形状は、ややいびつな隅丸長方形を呈すると考えられるが、北側の壁以外は明瞭に検出されておらず、定かではない。

カマド：住居南東コーナー部に位置し、燃烧部は壁の外側にあり、煙道部は突出する。残存状態は不良。燃烧部より円筒埴輪片の出土が見られ、構築部材と

して転用されたと推察される。

内部施設：柱穴等は検出されていない。

床面：重複遺構が多く、明瞭な床面が検出されていないが貼り床はなく、地山ローム土を固め床面としたものと推察される。

掘り方：なし。

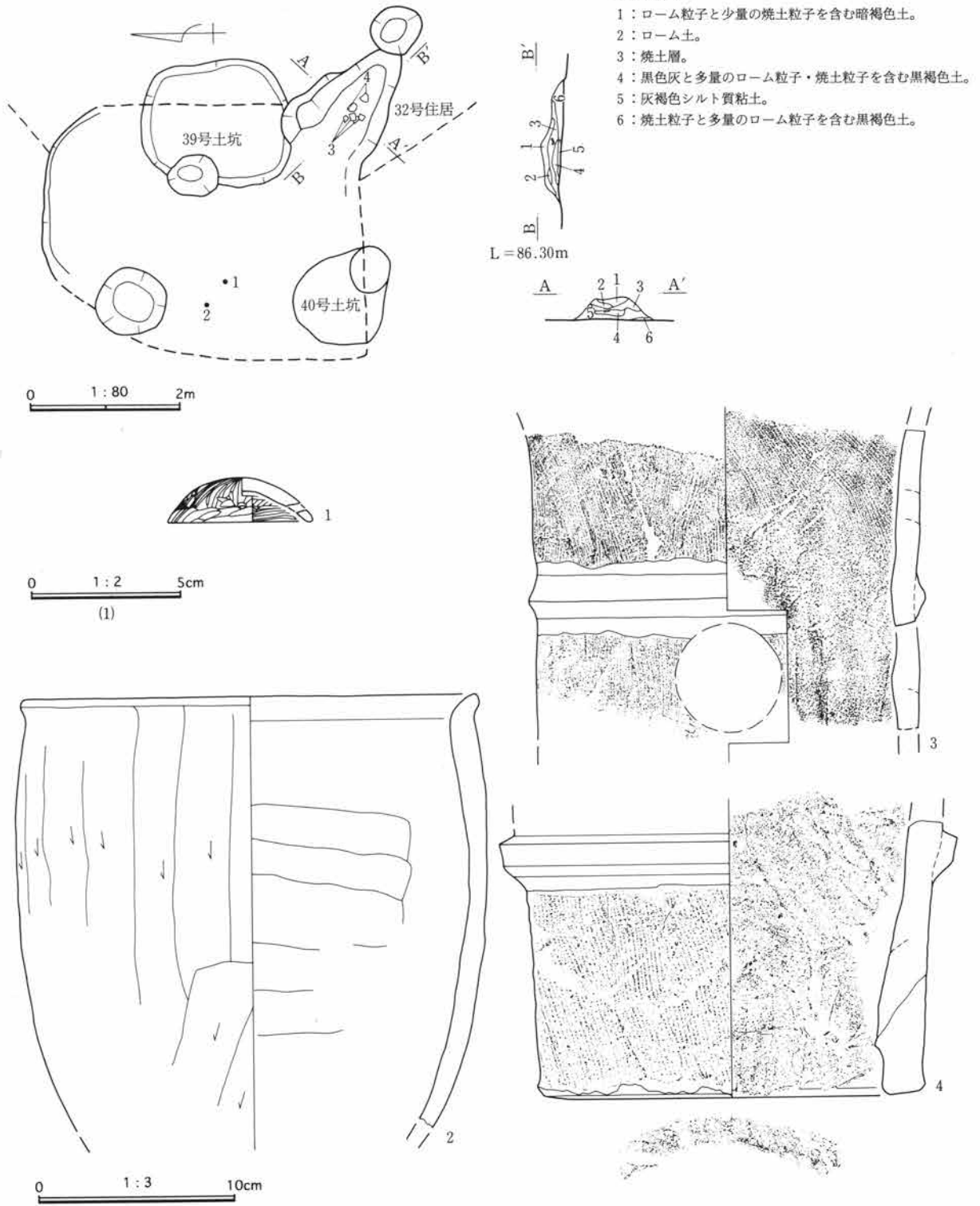
出土遺物：円筒埴輪 (No.3・4) はカマド構築材として転用されたものと考えられる。

重複：住居東壁部において3号土坑、南西コーナー

第3章 検出遺構と遺物

部において4号土坑と重複し、埋土の状態よりいづれの土坑より本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代及びカマドの形態より、10世紀代の住居跡と推定される。



第106図 44号住居跡及び出土遺物

44号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 109 No0889	土製品 土師器 蓋	一部欠損		胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	内外面共に撫での後に全面磨き。口縁付近の対角線上に径1mm強の孔を2穴、焼成前に内側より穿孔。	16.45g
2 109 No0482	須恵器 土釜	口縁～胴部 中位破片	口径(23.1) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化・還元焰 色：橙～黒褐色	胎土に径1～5mm大の鉱物粒を多量に含む。口縁部下は肉厚の外面胴部は縦方向のヘラ削り、口縁部及び内面胴部は横方向の撫でを施す。	
3 109 No0483	埴輪 円筒埴輪	カマド 口縁部～胴 部破片	胴径(19.0) 底径 — 器高(16.0)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面胴部縦指ナデ後口縁部斜めハケ。透孔残存。突帯断面低い三角形。	カマド構築材。透孔円形。
4 109 No0484	埴輪 円筒埴輪	カマド 基底部破片	口径 — 底径(19.4) 器高(15.0)	胎：細～粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ。基部幅7cm。底面棒状圧痕あり。突帯断面強い台形。	カマド構築材。

45号住居跡 (写真図版42・110)

位置：C-04Rグリッド付近

主軸方位：N-79°-E 規模：3.1m×(3.5)m

形状：平面形状は、隅丸方形を呈し、床面までの深度は確認面より20cm程を測る。

カマド：住居南東コーナー部に位置し、燃烧部は壁の外側にあるものと思われるが、重複のため残存状態が悪く、わずかに痕跡を残すのみである。

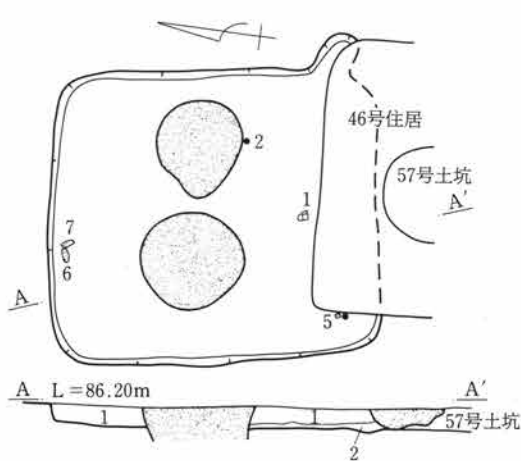
内部施設：柱穴等は検出されていない。

床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

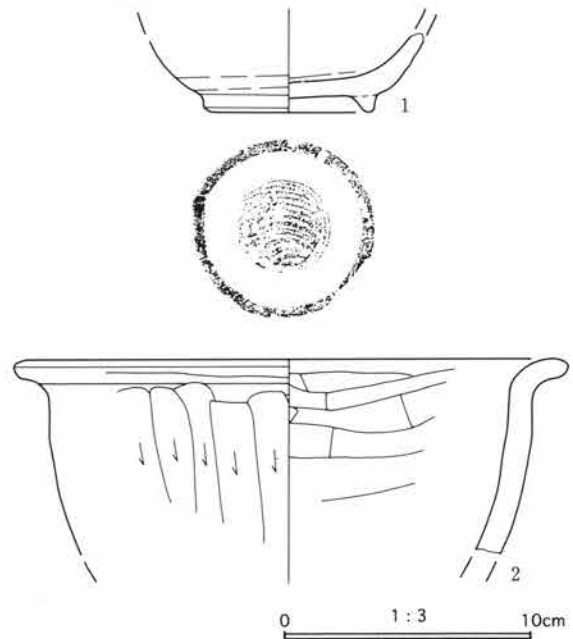
重複：住居南壁部において46号住居跡と重複し、新旧関係については、本遺構のカマドの残存状態より本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代及びカマドの形態から、10世紀代の住居跡と推定される。



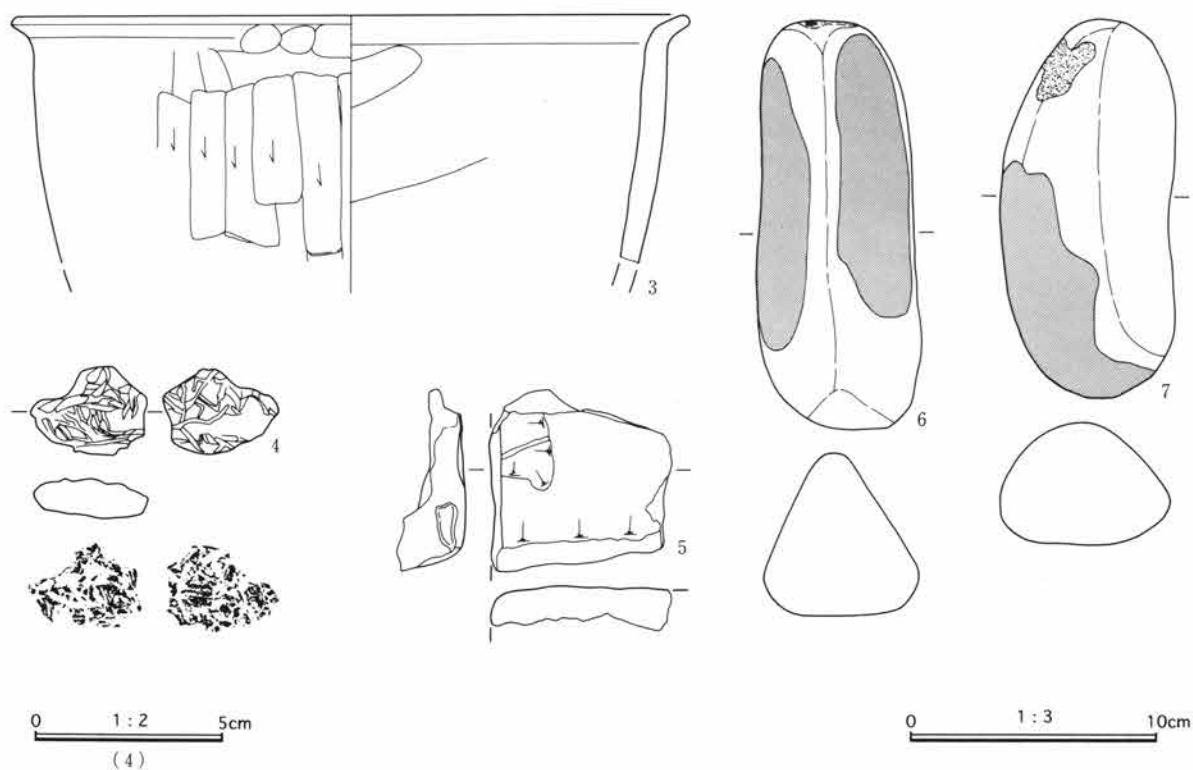
住居埋土  
1：多量のパミス・ローム粒子と少量の焼土粒子を含む暗褐色土。  
2：少量のローム粒子を含む弱粘性の黒褐色土。

0 1:80 2m



第107図 45号住居跡及び出土遺物

第3章 検出遺構と遺物



第108図 45号住居跡出土遺物

45号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 110 No0485	須恵器 椀	体部～底部 破片	底径(7.0) 高径(6.8)	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰白色	ロクロ成形。ロクロ右回転。底部回転糸切り後に高台貼付、高台貼付時に高台周辺のみ回転調整。	
2 110 No0487	土釜	口縁～胴部 上位破片	口径 22.0 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～黒褐色	外面胴部は縦方向(上から下)のヘラ削り、外面口縁部は撫で、内面はヘラ撫でを施す。	
3 110 No0488	土釜	口縁～胴部 上位破片	口径(27.2) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～暗褐色	外面胴部は縦方向(上から下)のヘラ削り、外面口縁部は横方向の撫での後に指頭による調整、口縁部内面はヘラ撫で、内面胴部は撫でを施す。	
4 110 No0922	土製品 不明	破片	最大径 3.1	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい赤褐色	こね上げた粘土塊か。質は土師器質。拓影図に圧痕らしき跡あり。	4.77 g
5 110 No2807	砥石	破片	長 (7.2) 幅 (7.3) 厚 (2.4)		研磨主体は硬質と考えられ、それが金属であったに於ては平滑面が鈍い。被熱。	151 g
6 110 No2947	こもあみ石	完形	長 16.2 幅 6.5 厚 6.4	変質安山岩	平面形は楕円形気味。横断面は隅丸三角形を呈す。	1011 g
7 110 No2946	こもあみ石	完形	長 15.0 幅 6.9 厚 5.0	石英閃緑岩	平面形は楕円形気味。横断面は隅丸三角形を呈す。	781 g

46号住居跡 (写真図版110)

位置：C-04Qグリッド付近

主軸方位：N-104°-E 規模：3.2m×(4.0)m

形状：平面形状は、ややいびつな台形を呈し、床面までの深度は15cm程を測る。

カマド：住居東壁中央やや南寄りに位置し、燃烧部は壁の外側に有る。残存状態が悪く、わずかに痕跡をとどめるのみである。

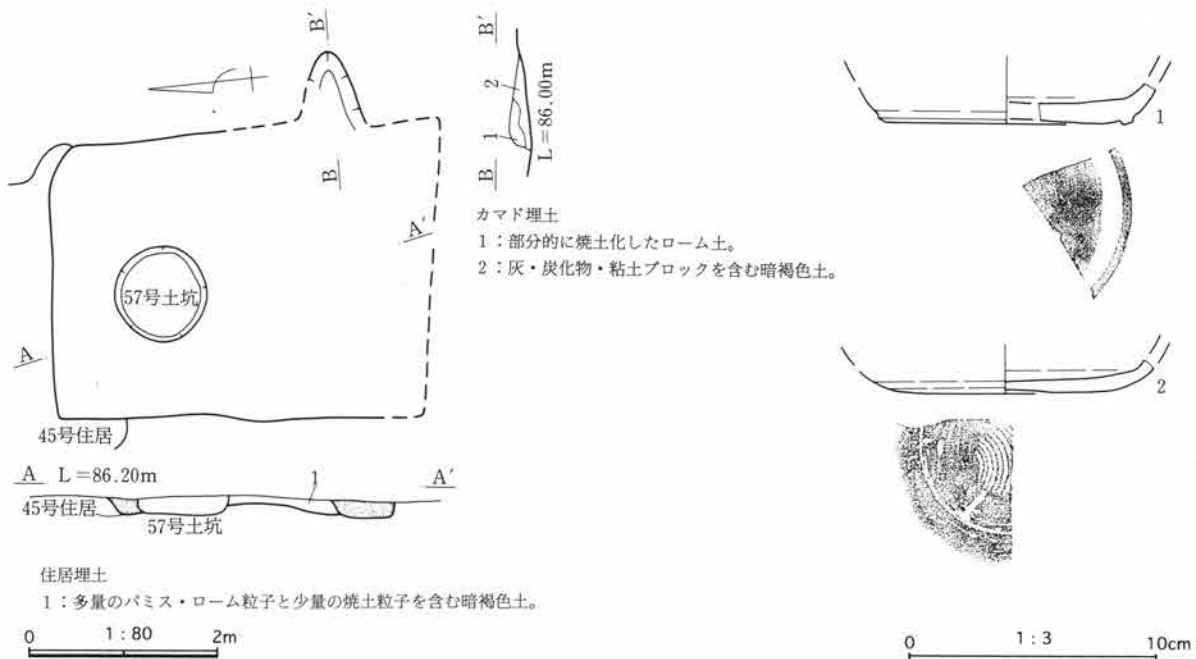
内部施設：柱穴等は検出されていない。

床面：地山ローム土を固めて床面とする。

掘り方：なし。

重複：住居北壁において45号住居跡と重複し、45号住居跡のカマドの残存状態より、本遺構の方が新しいものと判断される。また、住居中央付近において21号土坑と重複し、埋土の状態より、本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、10世紀代の住居跡と推定される。



第109図 46号住居跡及び出土遺物

46号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 110 No0490	須恵器 高台付杯	底部破片	底径(10.0) 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白色	ロクロ成形。底部は削り出し高台。回転ヘラ調整。	
2 110 No0489	須恵器 杯	底部破片	底径(8.0) 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白色	ロクロ成形。底部は回転糸切り後に中央部を残し回転ヘラ調整。	

47号・48号住居跡 (写真図版42・110・111)

位置：B-24Rグリッド付近

主軸方位：不明。 規模：4.2m×4.0m

形状：平面形状は、不定形を呈し、攪乱等を受け壁が明瞭に検出し得ない。床面までの深度は、確認面

より40cm程を測る。

カマド：検出されていない。

内部施設：柱穴等は検出されていない。

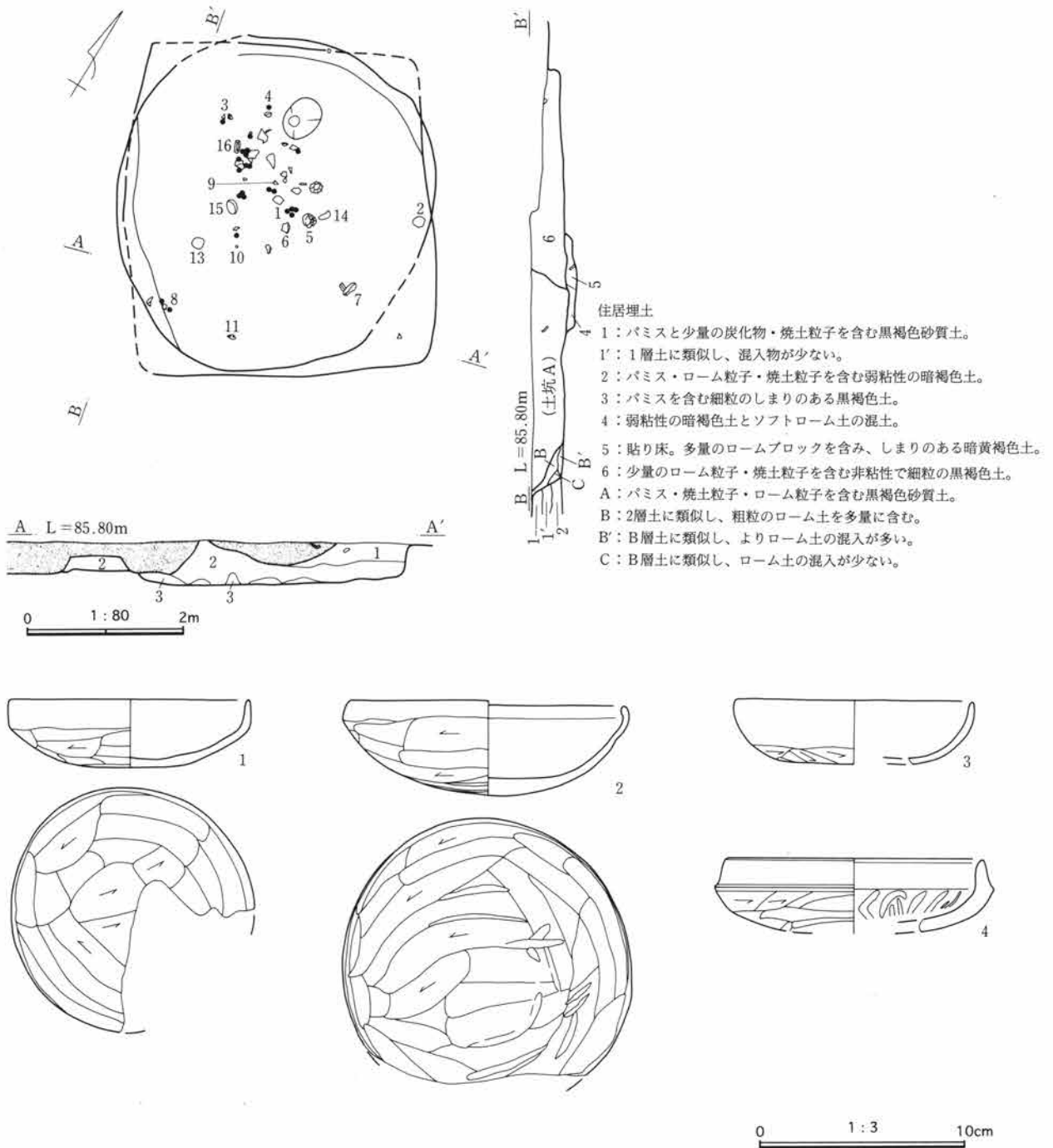
床面：明瞭に確認できる部分は少ないが、ほぼ地山ローム土を固め、床面とする。

第3章 検出遺構と遺物

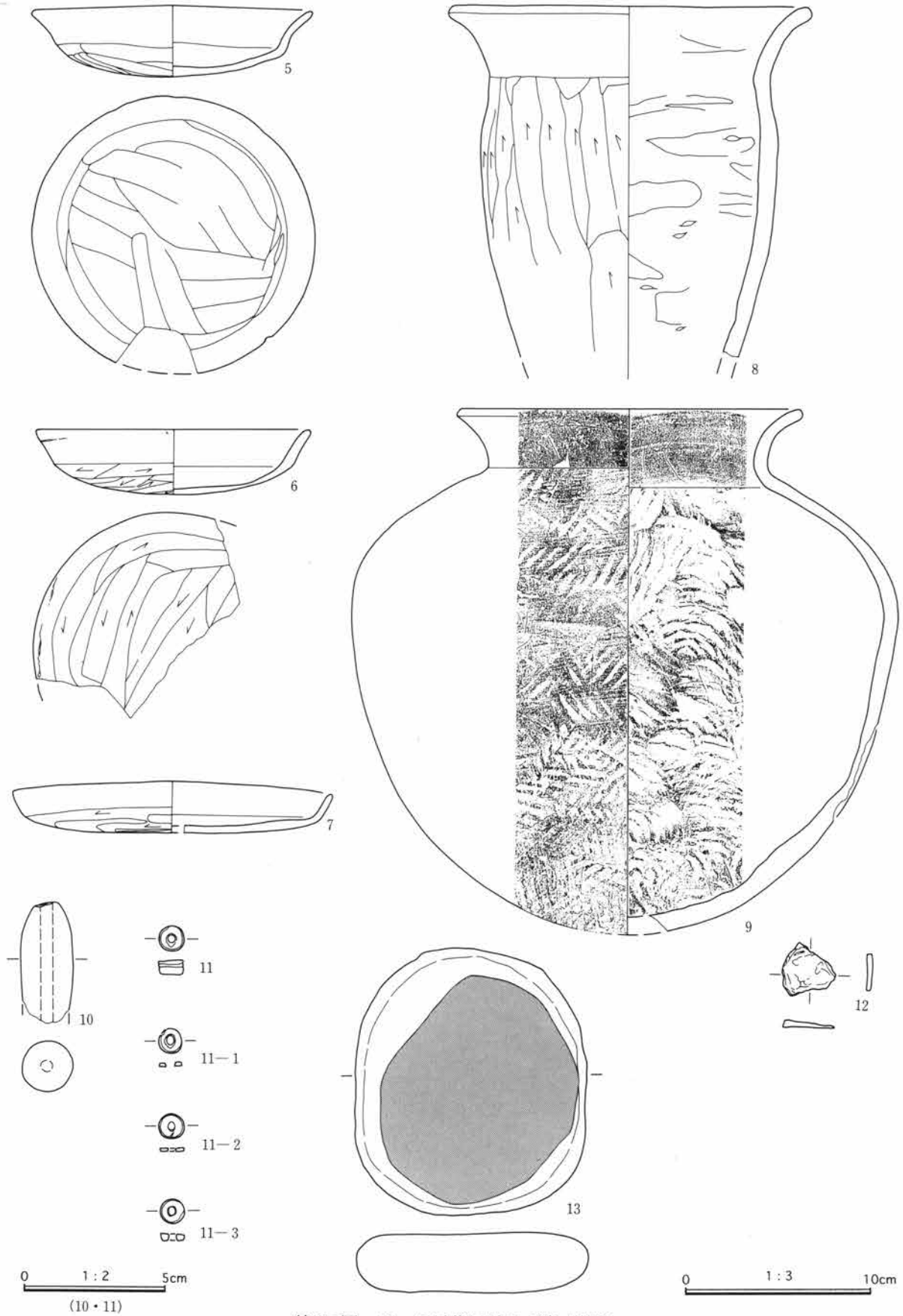
掘り方：なし。

重複：埋土や床面の状態と出土遺物の時期より、2軒の遺構が重複していると考えられるが、線引きができるほど明瞭には確認できなかった。

時期：年代は明らかではない。竪穴住居跡以外の遺構である可能性が高い。



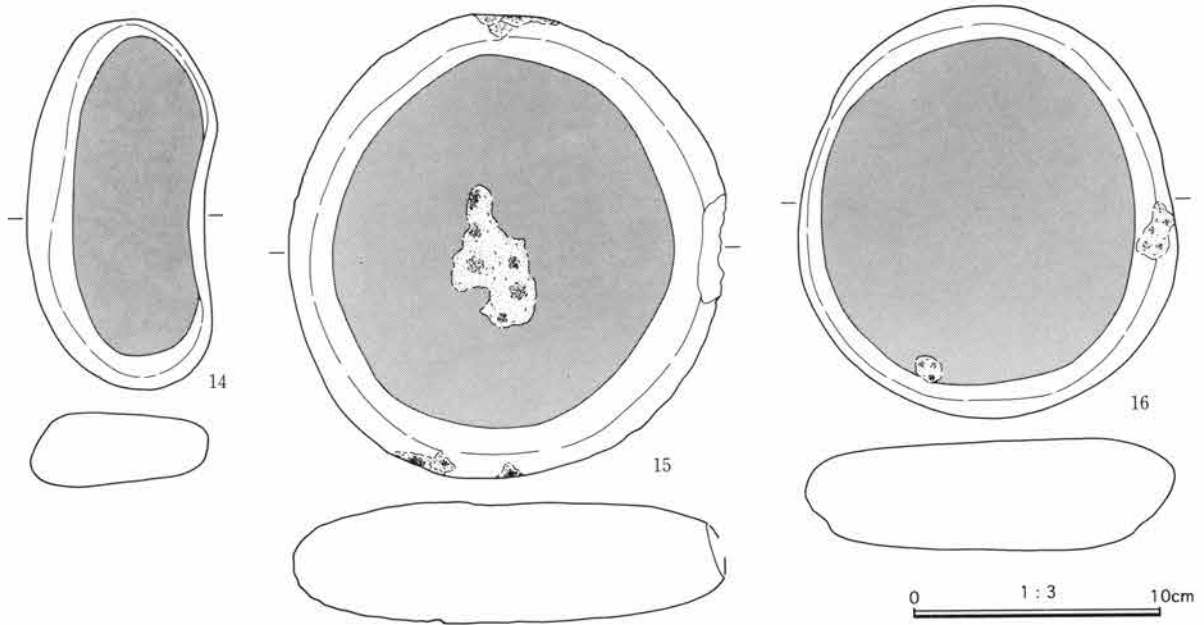
第110図 47・48号住居跡及び出土遺物



第111図 47・48号住居跡及び出土遺物



第3章 検出遺構と遺物



第112図 47・48号住居跡出土遺物

47号・48号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考			
1 110 No0501	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径 11.7 器高 3.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は横方向の粗い撫で、内面は全面に撫でを施す。				
2 110 No0500	土師器 杯	口縁～底部 1/5	口径 13.4 器高 4.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫でを施す。内面の器面はあばた状に荒れ、口縁から底部中心に一直線の亀裂が入る。型造りか。				
3 110 No0504	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径(11.5) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	底部外面はヘラ撫で、口縁部外面は粗い撫で、内面は全面に丁寧な撫でを施す。				
4 110 No0512	土師器 杯	口縁～底部 破片	口径(12.4) 稜径(13.5) 器高( 3.5)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は横方向の撫での後に縦方向の粗いヘラ磨きを施す。				
5 110 No0499	土師器 杯	略完形	口径 15.0 稜径 12.0 器高 3.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部外面は横方向のやや粗い指撫で、内面も全面に撫でを施す。				
6 110 No0503	土師器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径(14.7) 稜径 12.3 器高 3.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部外面は横方向のやや粗い指撫で、内面は全面に丁寧な撫でを施す。				
7 110 No0502	土師器 盤	口縁～底部 1/2強	口径(17.1) 器高( 2.8)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫でを施す。				
8 110 No0513	土師器 甕(概)	口縁～胴部 中位破片	口径(19.5) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	胴部外面は縦方向(下から上)のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は横方向の粗いヘラ撫でを施す。				
9 110 No0514	須恵器 甕	略完形	口径 18.4 器高(27.7)	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白～灰色	外面胴部は平行(羽状)叩きしめの後に中位より上半のみ横方向の撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は青海波叩きしめ。				
10 110 No0886	土製品 土錘	1/5	長 — 最大径 1.85	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	質は土師器質。全出土例中、太目の個体、下方を欠く。	11.74 g			
11 110 No2826	石製模造品 白玉	完形		頁岩	薄い玉が3点あり、全出土例中では薄い方である。	3個			
図版番号	外 径	厚	重 量	石 材	図版番号	外 径	厚	重 量	石 材
11-1	0.8mm	0.1mm	0.06 g	頁 岩	11-3	0.8mm	0.1mm	0.09 g	頁 岩
-2	0.8mm	0.2mm	0.20 g	頁 岩					

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
12 110 No4005	鉄?				平面形は三角形気味。横断面は扁平である。	6.54 g
13 110 No2974	磨石類	完形	長 14.1 幅 12.3 厚 3.1	粗粒安山岩	平面は隅丸方形気味。横断面楕円形気味。	911 g
14 111 No2241	磨石類	完形	長 14.6 幅 7.2 厚 2.9	変質安山岩	平面は不正な楕円形気味。横断面は楕円形気味。	486 g
15 111 No2972	磨石類	完形	長 18.4 幅 17.5 厚 4.8	粗粒安山岩	平面は円形。横断面は楕円形気味。図中央に凹みあり。	2029 g
16 111 No2973	磨石類	完形	長 16.3 幅 15.2 厚 4.5	石英閃緑岩	平面は円形。横断面は楕円形気味。図の打点部は凹む。	1747 g

49号住居跡 (写真図版43・111)

位置：B-22Uグリッド付近

主軸方位：N-71°-E 規模：6.4m×5.5m

形状：平面形状は、ほぼ方形を呈するが、壁は直線的ではなくやや蛇行し、北東コーナー部からカマドにかけて張り出しをもつ。床面までの深度は確認面より40cm～50cm程を測る。

カマド：住居東壁の中央やや南寄りに位置し、燃焼部の左右脇はテラス状の平段を有す。袖部は左右に楕円礫を埋設し、煙道部は壁外にあまり突出しない。

内部施設：住居各コーナー部を結ぶ対角線上に径30cm～60cm、深度70cm程を測る柱穴を4穴検出し、住

居南東コーナー部に径80cm、深度40cm程を測る貯蔵穴と考えられる土坑を検出する。また、南東部コーナーのテラス上に径30cm～50cm、深度40cm～50cmを測るピットを2穴検出し、補助柱穴の用途が推察される。

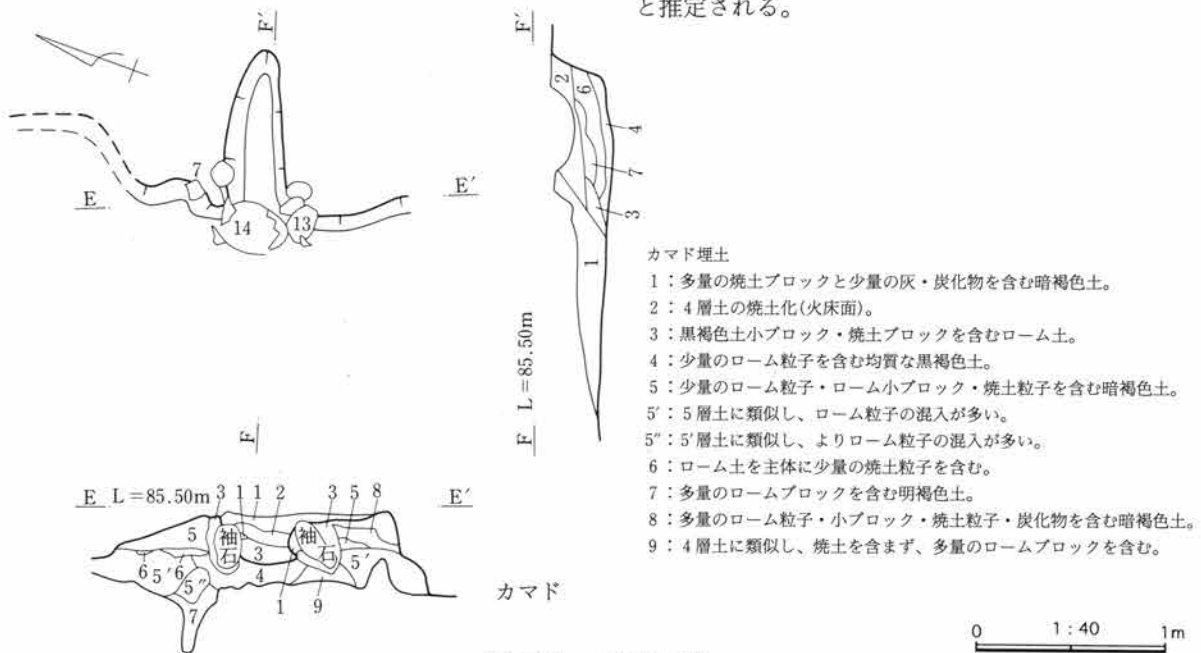
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

出土遺物：カマド燃焼部手前より、土師器甕(No13・14)の2個体が出土。また、南西部柱穴内より須恵器甕(No15)が出土する。

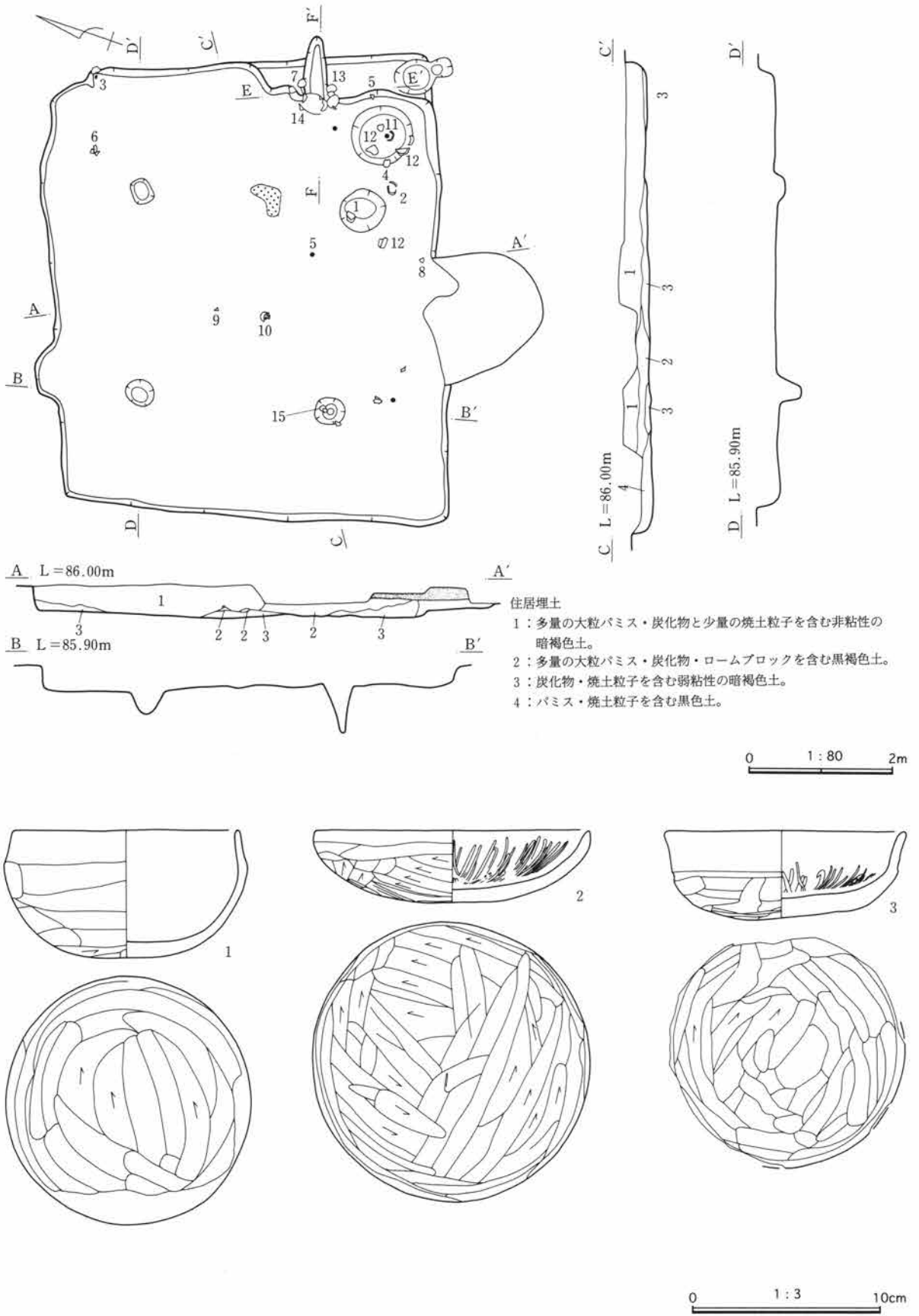
重複：重複する遺構はない。

時期：出土する遺物の年代より、7世紀代の住居跡と推定される。

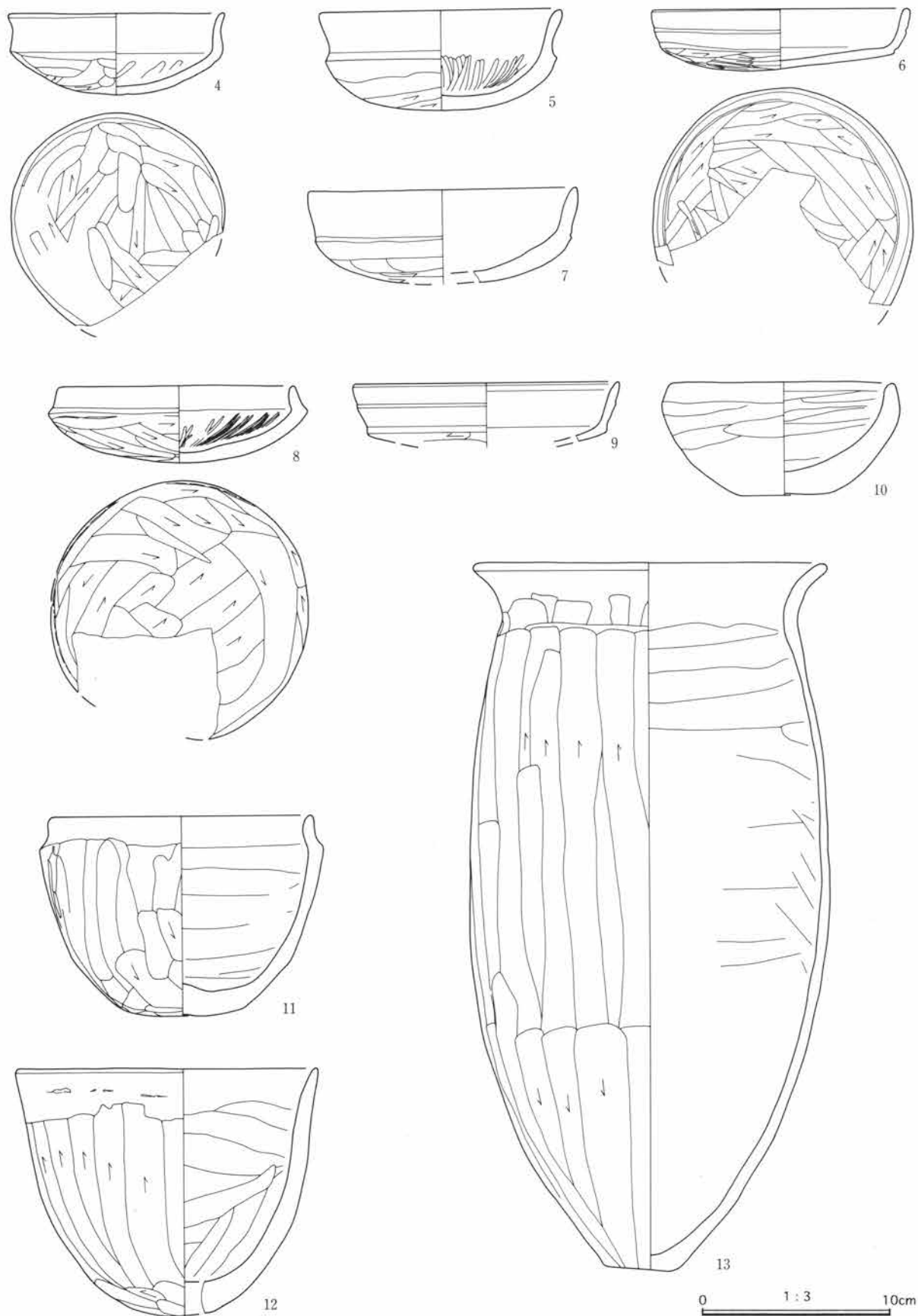


第113図 49号住居跡

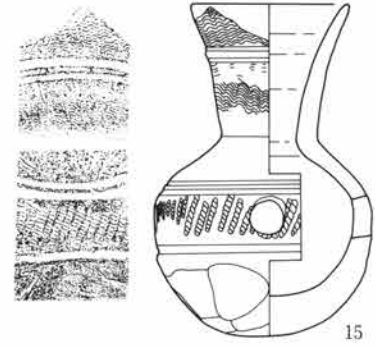
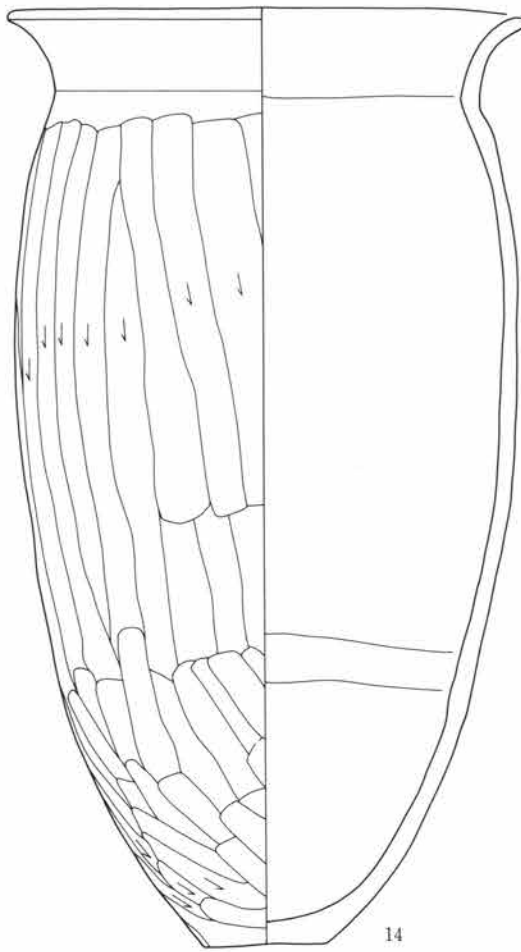
第3章 検出遺構と遺物



第114図 49号住居跡及び出土遺物



第115図 49号住居跡出土遺物



0 1:3 10cm

第116図 49号住居跡出土遺物

49号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 111 No0521	土師器 鉢	口縁～底部 1/3	口径(12.1) 稜径(12.8) 器高 6.2	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙～褐灰色	底部丸底。底部外面はヘラ削り、体部外面も横方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も全面に撫でを施す。	
2 111 No0515	土師器 杯	完形	口径 14.5 器高 3.8	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明～暗赤褐色	底部器壁やや肉厚。底部外面はヘラ削り後にヘラ撫で口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は撫での後に、放射状のヘラ磨きを施す。	
3 111 No0516	土師器 杯	口縁～底部 1/3	口径 12.7 器高 4.5	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙～暗赤褐色	底部器壁肉厚。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は撫での後に放射状のヘラ磨きを施す。	
4 111 No0520	土師器 杯	口縁～底部 1/3	口径 11.4 稜径 11.4 器高 4.3	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面はヘラ削り後に撫でを施す。	
5 — No0524	土師器 杯	口縁～底部 1/4弱	口径 12.8 稜径 12.2 器高 5.2	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	底部外面はヘラ削り後にヘラ撫で、口縁部外面は横方向の撫で、内面は全面に撫での後に、口縁部は横方向底部は放射状のヘラ磨きを施す。	
6 111 No0519	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径 13.6 器高 3.1	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:褐灰～黒褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は円状の撫でを施す。	

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
7 — No0518	土師器 杯	カマド 口縁～底部 破片	口径 14.2 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～赤褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部外面は横方向の撫でを施す。内面は器壁が荒れ、整形不祥。	
8 111 No0517	土師器 杯	口縁～底部 3/4	口径 12.5 稜径 13.7 器高 4.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明～暗赤褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は全面に撫での後に、放射状のヘラ磨きを施す。	
9 — No0528	土師器 杯	口縁～底部 上位破片	口径(14.0) 底径 — 器高(3.0)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：暗褐色	口縁部外面中位に段を有する。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も撫でを施す。	
10 — No0522	土師器 杯 (鉢)	完形	口径 11.8 底径 4.5 器高 5.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～褐灰色	器壁肉厚で歪む。外面底～体・口縁部全面に撫で、内面は底部中心部を除き、全面に横方向のヘラ磨きを施す。	
11 111 No0530	土師器 小形甕	口縁～底部 3/4	口径(13.9) 底径 5.8 器高 10.4	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～褐灰色	外面底～胴部は縦方向(上から下)のヘラ削り、口縁部外面及び内面口縁部～胴部は横方向の撫でを施す。内面黒色処理か。	
12 111 No0531	土師器 甕 (一穴)	口縁～底部 3/4	口径 15.8 器高 12.9 孔径 2.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～褐灰色	底部肉厚。外面胴部は縦方向の(下から上)のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向のヘラ削り後にヘラ撫で、胴部内面は横及び縦のヘラ撫でを施す。	
13 111 No0533	土師器 長胴甕	カマド 口縁～底部 1/2強	口径 18.7 底径 3.9 器高 36.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～褐灰色	胴部外面は縦方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は全面に撫でを施す。	
14 111 No0532	土師器 長胴甕	口縁～底部 3/4	口径 20.7 底径 4.9 器高 37.1	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～褐灰色	胴部外面下位は斜方向、上位は縦方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は全面に撫でを施す。	
15 111 No0534	須恵器 甕	略完形 口縁一部欠	口径 6.3 器高 13.1	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	ロクロ成形。ロクロ右回転。底部ヘラ調整。器形もやや歪み、全体に肉厚。焼成時降灰軸は片側面にのみ付着、焼成時には倒置か。	

## 50号住居跡 (写真図版44・112)

位置：C-03Rグリッド付近

主軸方位：N-74°-E 規模：5.6m×5.6m

形状：平面形状は、方形を呈し、床面までの深度は確認面より50cm程を測る。

カマド：住居東壁のほぼ中央に位置するが、重複遺構に壊され、床面付近に焼土の痕跡をわずかに残すのみである。

内部施設：ピット2穴と小土坑2基を検出するものの、重複する遺構も有り、本遺構に伴う施設が否か明らかではない。

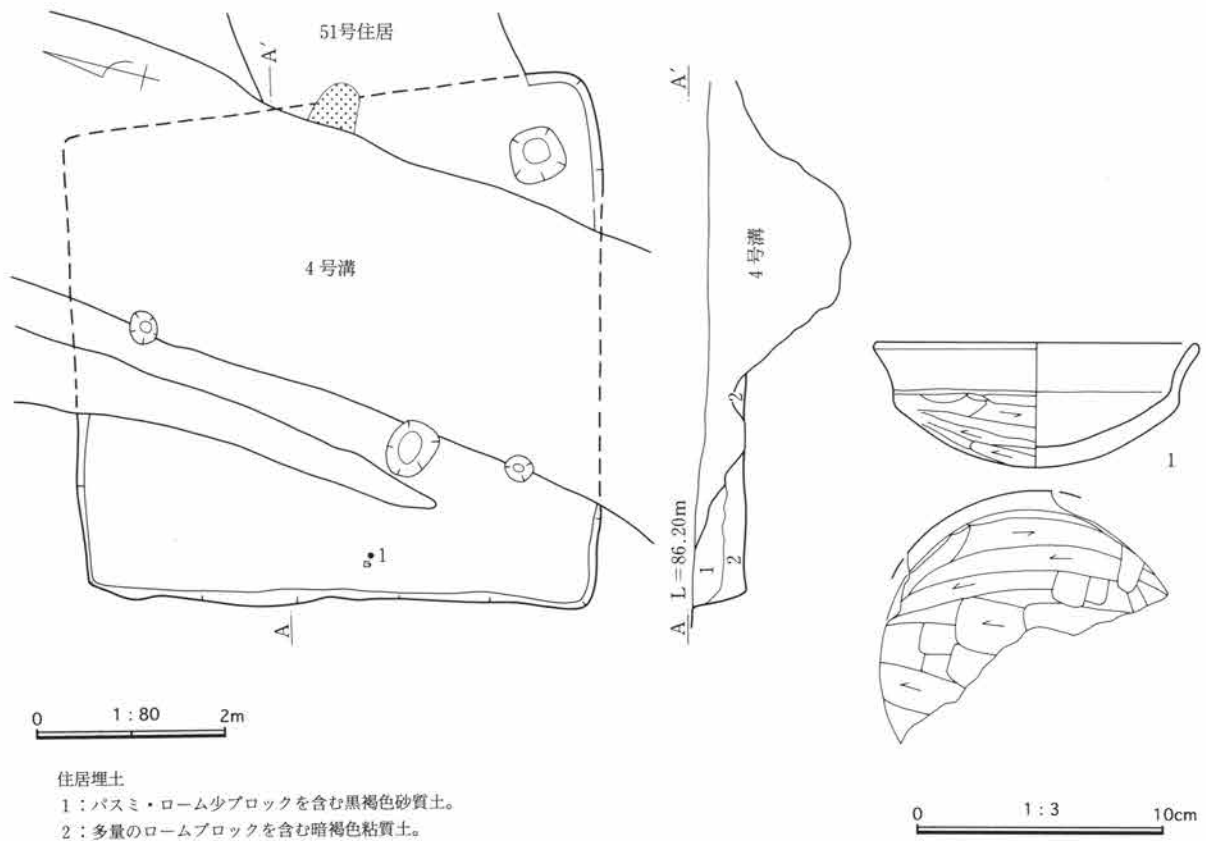
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

出土遺物：出土する遺物は少なく、土師器杯(No.1)が住居西壁際より出土する。

重複：本遺構を横断する形で4号溝が重複し、確認面よりの埋土の状態より、本遺構の方が古いものと判断される。また、住居東壁部において51号住居跡と重複し、埋土の状態からは新旧が明らかとならず、相互の出土遺物より本遺構の方が古いものと推察される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。



第117図 50号住居跡及び出土遺物

50号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 112 No0538	土師器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径(13.0) 稜径(11.5) 器高 4.9	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	器壁はやや肉厚。底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も撫でを施す。	

51号住居跡 (写真図版44・112)

位置：C-02Rグリッド付近

主軸方位：不明。 規模：3.0m×不明

形状：平面形状は、隅丸方形を呈すると思われるが、西側が重複遺構により明らかでないため、規模・形状共に不明である。床面までの深度は確認面より30cm程を測る。

カマド：検出された壁にはカマドの痕跡はなく、北側壁の未検出部分にあった可能性が高いと推察される。

内部施設：柱穴等は検出されていない。

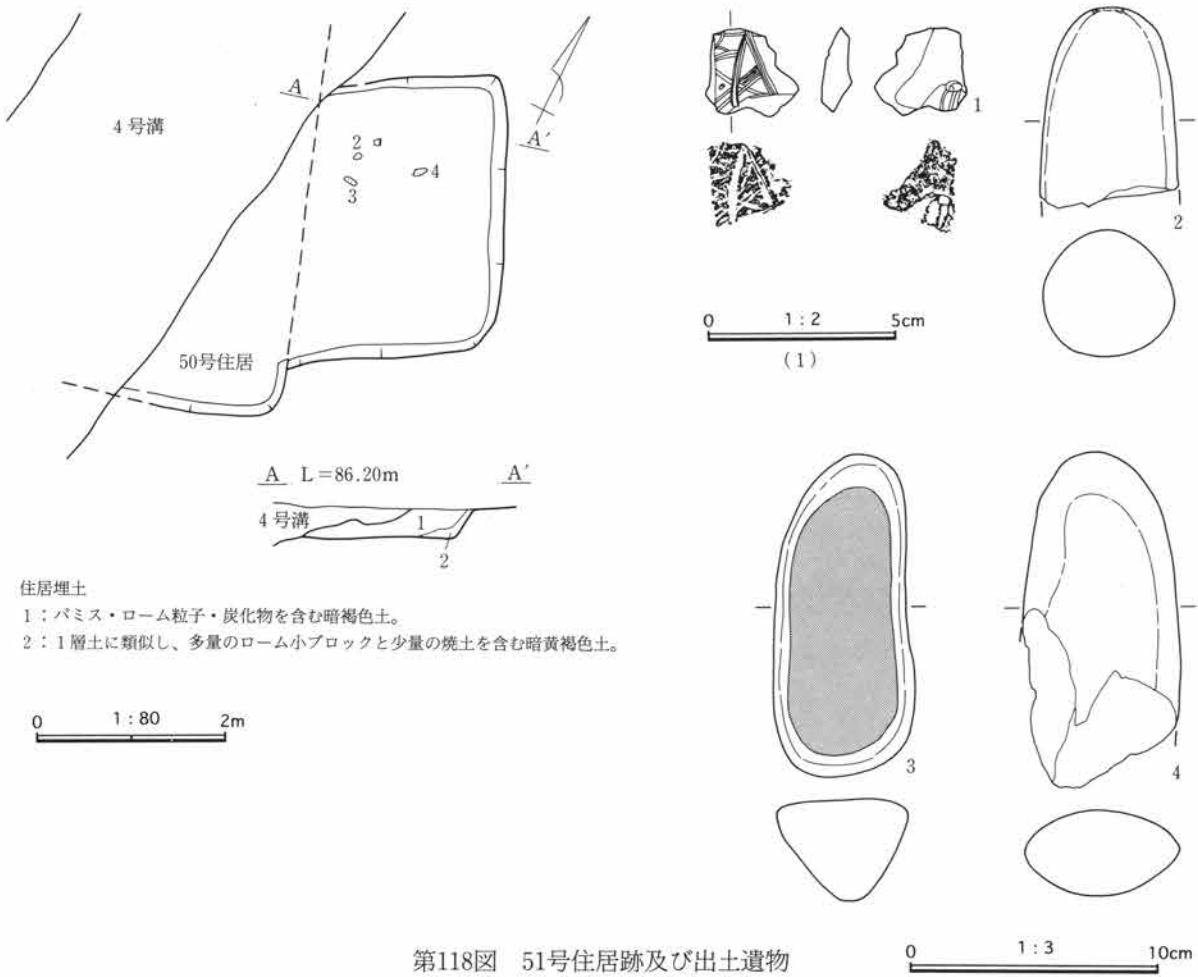
床面：地山ローム土を固めて床面とする。

掘り方：なし。

重複：住居西側において50号住居跡、4号溝と重複し、埋土の状態からいずれの遺構よりも4号溝が新しく、本遺構と50号住居跡の新旧関係については明らかではない。

時期：不明。





第118図 51号住居跡及び出土遺物

51号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 112 No0540	土製品 不明	破片	長さ(2.2) 厚み(0.8) 幅(2.5)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	片面にヘラ状工具による細い沈線が数条不走方向に刻まれ、一部に細い植物質棒状物の圧痕が見られる。	
2 112 No2949	こもあみ石	1/2	長(7.7) 幅(5.0) 厚 5.2	粗粒安山岩	片側欠。平面形は楕円形気味。断面は近円形。	335 g
3 112 No2948	こもあみ石	完形	長 12.7 幅 5.6 厚 4.1	粗粒安山岩	平面形は近楕円形。横断面は隅丸三角形。	441 g
4 112 No2950	こもあみ石	一部欠	長(13.2) 幅(6.3) 厚 3.7	変質玄武岩	片側欠。平面形は左右尖り気味の楕円形。	381 g

52号住居跡 (写真図版45・112)

位置: C-00Vグリッド付近

主軸方位: N-67°-E 規模: (6.1)m×5.9m

形状: 平面形状は、ほぼ正方形を呈し、床面までの深度は確認面より10cm~25cm程を測る。

カマド: 住居東壁の中央やや南寄りに位置し、燃焼部は壁の内側にある。袖部は芯材を用いず、粘性土を固めて構築される。

内部施設: 住居各コーナー部を結ぶであろう線上に径40cm~50cm程、深度40cm~65cm程を測る柱穴が4

第3章 検出遺構と遺物

穴検出される。また、南東コーナー部より、貯蔵穴と考えられる径60cm程、深度80cm程を測る方形の土坑が1基検出される。

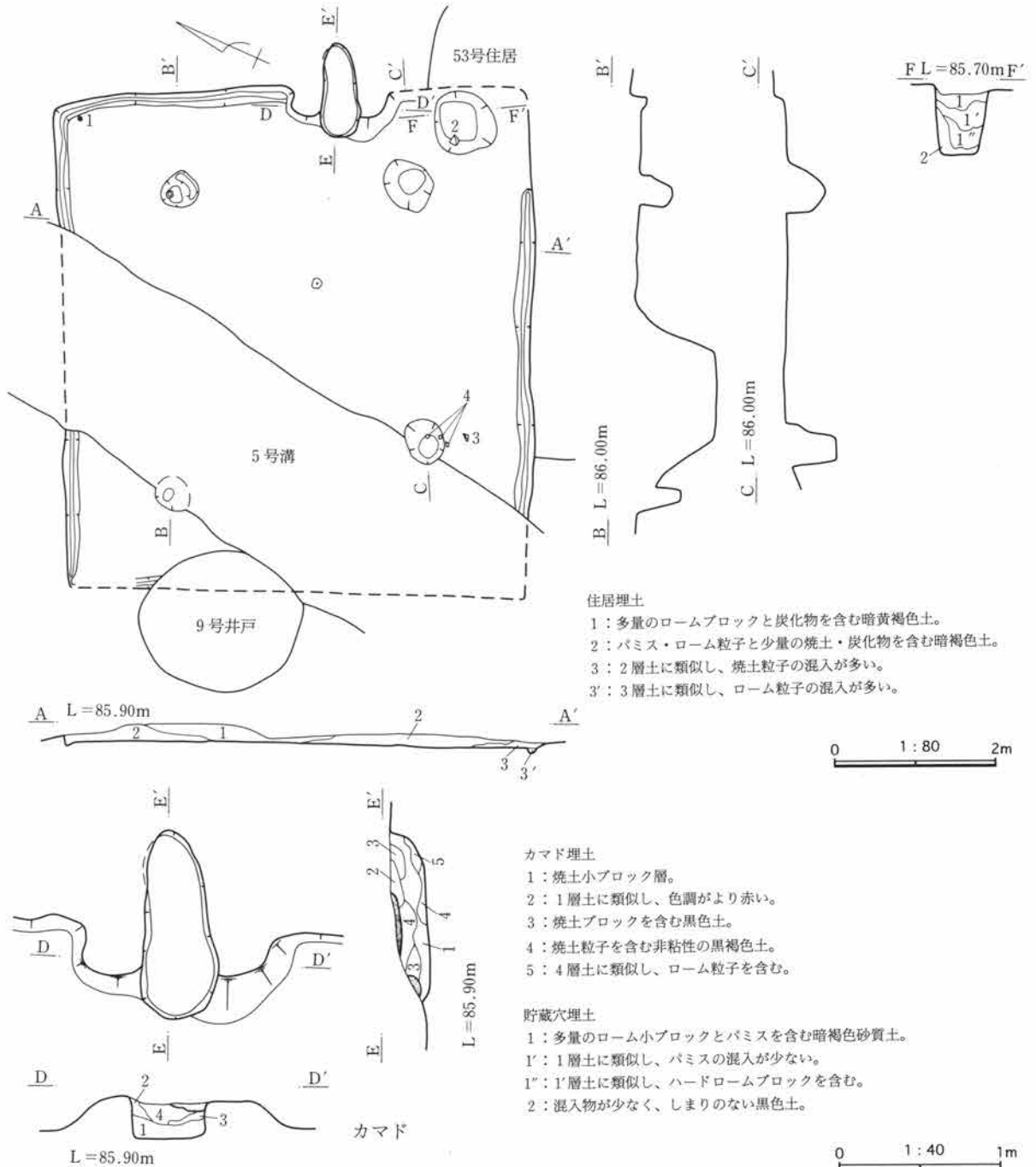
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

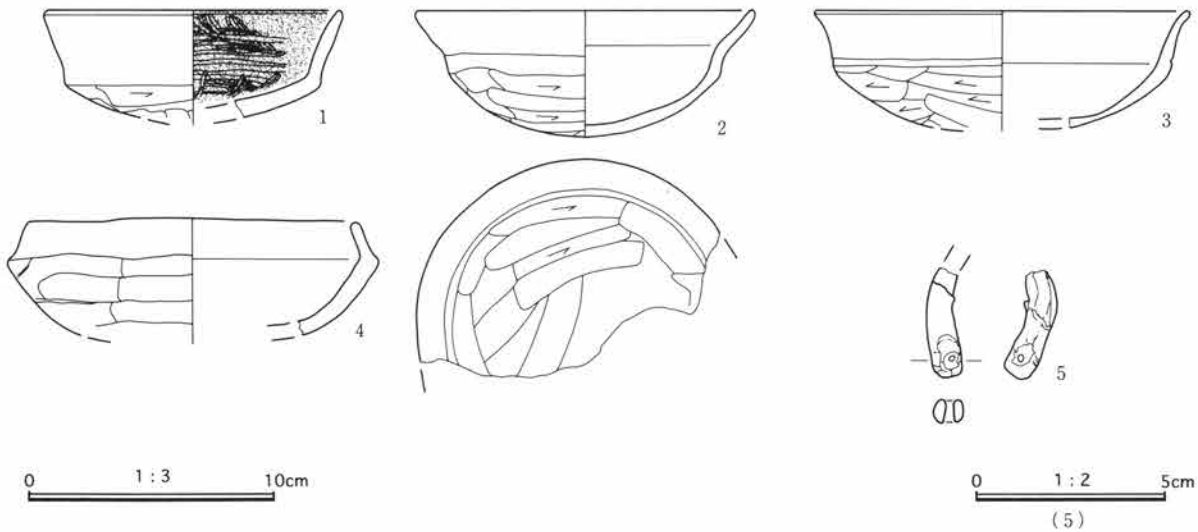
重複：住居中央から西にかけて5号溝、9号井戸と

重複し、確認面での埋土の状態より、本遺構の方が古いものと判断される。また、住居南東部において53号住居跡と重複し、埋土の状態より本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、7世紀代の住居跡と推定される。



第119図 52号住居跡



第120図 52号住居跡出土遺物

52号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 112 No0544	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径(12.0) 稜径(9.9) 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰内黒 色:橙色・黒色	底部外面はヘラ削り、口縁部外面は横方向の撫で、内面は全面に撫での後にやや粗い格子状のヘラ磨きを施す。焼成時に内面黒色処理を施す。	
2 112 No0542	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径(13.7) 稜径(10.6) 器高 5.0	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部外面は横方向の撫で、内面口縁～底部は全面に撫でを施す。	
3 112 No0543	土師器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径(15.0) 稜径(13.5) 器高(4.7)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面は円方向の撫でを施す。	
4 112 No0541	土師器 杯	口縁～底部 中位	口径(13.3) 稜径(14.9) 器高 —	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙～灰褐色	底部外面上位は横方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部は全面に撫でを施す。	
5 112 No0897	土製品 不明(有孔)	破片	長さ — 厚さ 0.8	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	穿孔あり。 手握ね。穿孔は焼成前であるが粗雑。	2.38 g

53号住居跡 (写真図版46・112)

位置: B-24Vグリッド付近

主軸方位: N-60°-E 規模: 5.7m×3.2m

形状: 平面形状は、ややいびつな隅丸長方形を呈し、床面までの深度はわずかに10cm程を測る。

カマド: 東壁部での存在が考えられるが、土坑と重複するため、明瞭な遺構として検出し得なかった。

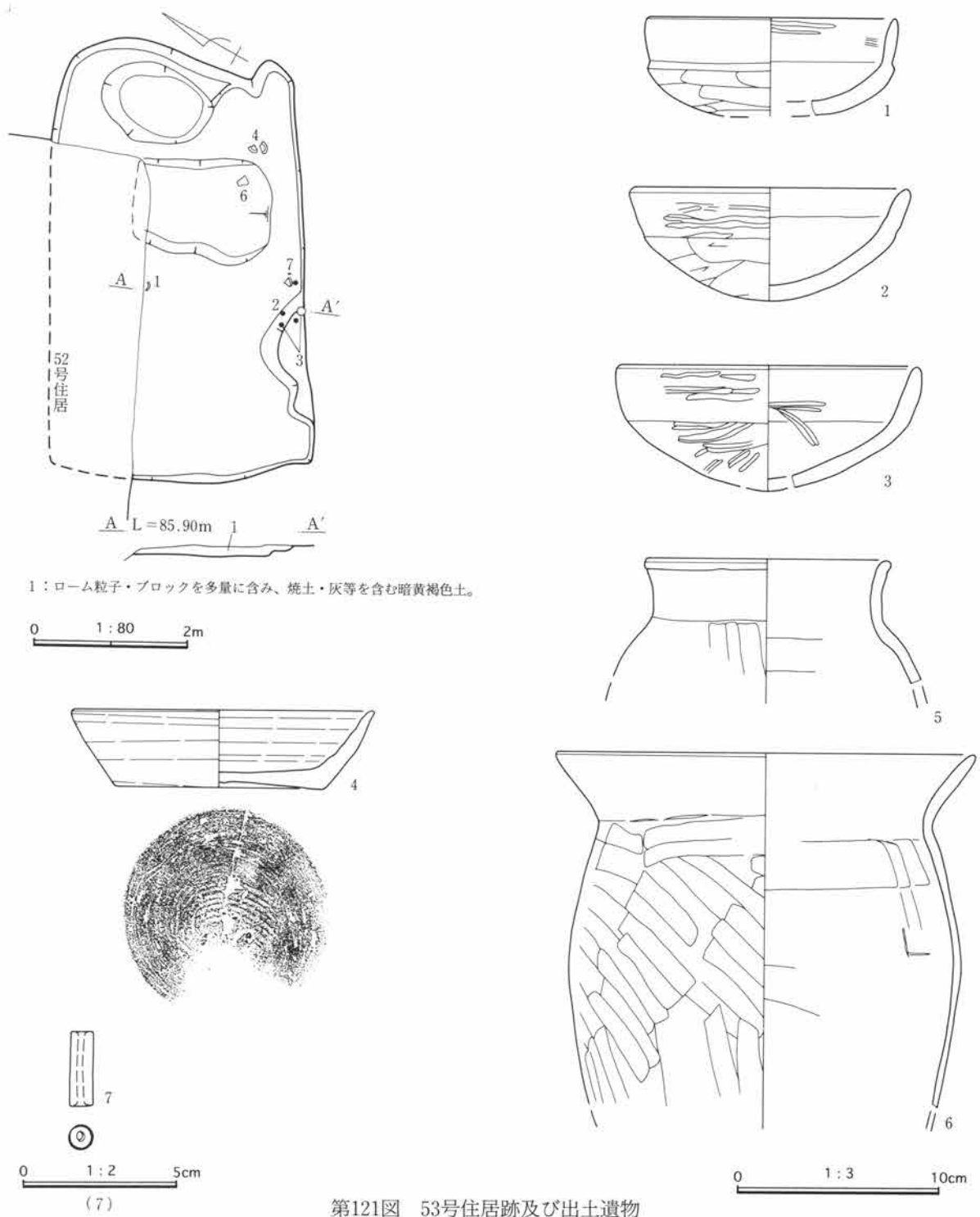
内部施設: 床面上に数ヶ所の凹凸を確認するが、柱穴等は検出し得なかった。

床面: 地山ローム土を固め床面とし、掘り方土坑上のみ貼り床を施す。

掘り方: 住居中央東に浅い方形の凹みを有する。

重複: 住居東側において10号土坑と重複し、確認面よりの埋土の状態より本遺構の方が古いと判断され、また、北側に重複する52号住居跡との新旧関係は、本遺構の方が新しいものと判断される。

時期: 出土する遺物の年代より、8世紀代の住居跡と推定される。



1：ローム粒子・ブロックを多量に含み、焼土・灰等を含む暗黄褐色土。

第121図 53号住居跡及び出土遺物

53号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 112 No0551	土師器 杯	口縁～底部 中位破片	口径(12.3) 稜径(12.0) 器高(4.7)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	全体的に器壁は肉厚。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫での後、口縁部内面に粗い横方向のヘラ磨き、底部内面は全面に撫でを施す。	
2 — No0549	土師器 杯	口縁～底部 1/3	口径(13.8) 稜径(12.0) 器高(6.5)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	全体に器壁は肉厚。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫での後、粗い横方向のヘラ磨き、底部内面は全面に撫でを施す。	

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
3 — No0550	土師器 杯	口縁～底部 中位破片	口径(15.0) 器高( 6.0)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	全体的に器壁は肉厚。底部外面はへら削り後に粗いへら磨き、口縁部の内外面及び底部内面は共に横方向の粗い撫での後に粗いへら磨きを施す。	
4 112 No0553	須恵器 杯	口縁～底部 1/5	口径(14.7) 底径( 9.9) 器高( 3.6)	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：橙～灰黄褐色	ロクロ成形、成形時ロクロ右回転。底部回転糸切り後回転へら削り、調整時ロクロ左回転。焼成は酸化焰ぎみの還元焰。	
5 112 No0555	土師器 小形甕	口縁部破片	口径(12.0) 底径 — 器高( 6.0)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	胴部外面上位は縦方向のへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も撫でを施す。	
6 112 No0554	土師器 甕	口縁～胴部 中位破片	口径(20.6) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	胴部外面は全面に斜方向の撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も撫でを施す。	
7	管 玉			滑石質蛇紋岩	平面は長方形、断面は円形。両側穿孔か。	

54号・55号住居跡 (写真図版46・112)

位置：C-06Tグリッド付近

主軸方位：不明。 規模：(6.5)m×(6.4)m

形状：平面形状は、ほぼ正方形を呈すると思われるが、壁が一部しか確認できず、全容は明らかではない。また、一部別遺構と思われる壁を55号住居跡とした。

カマド：不明。

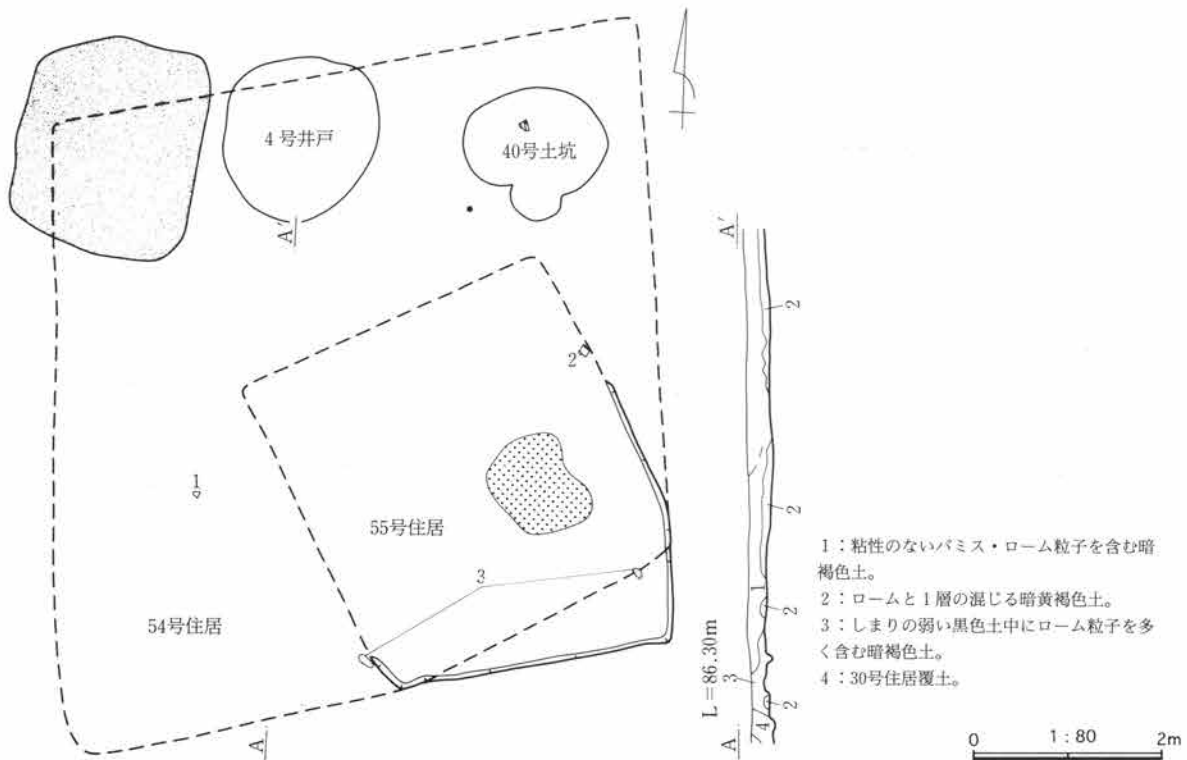
内部施設：不明。

床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

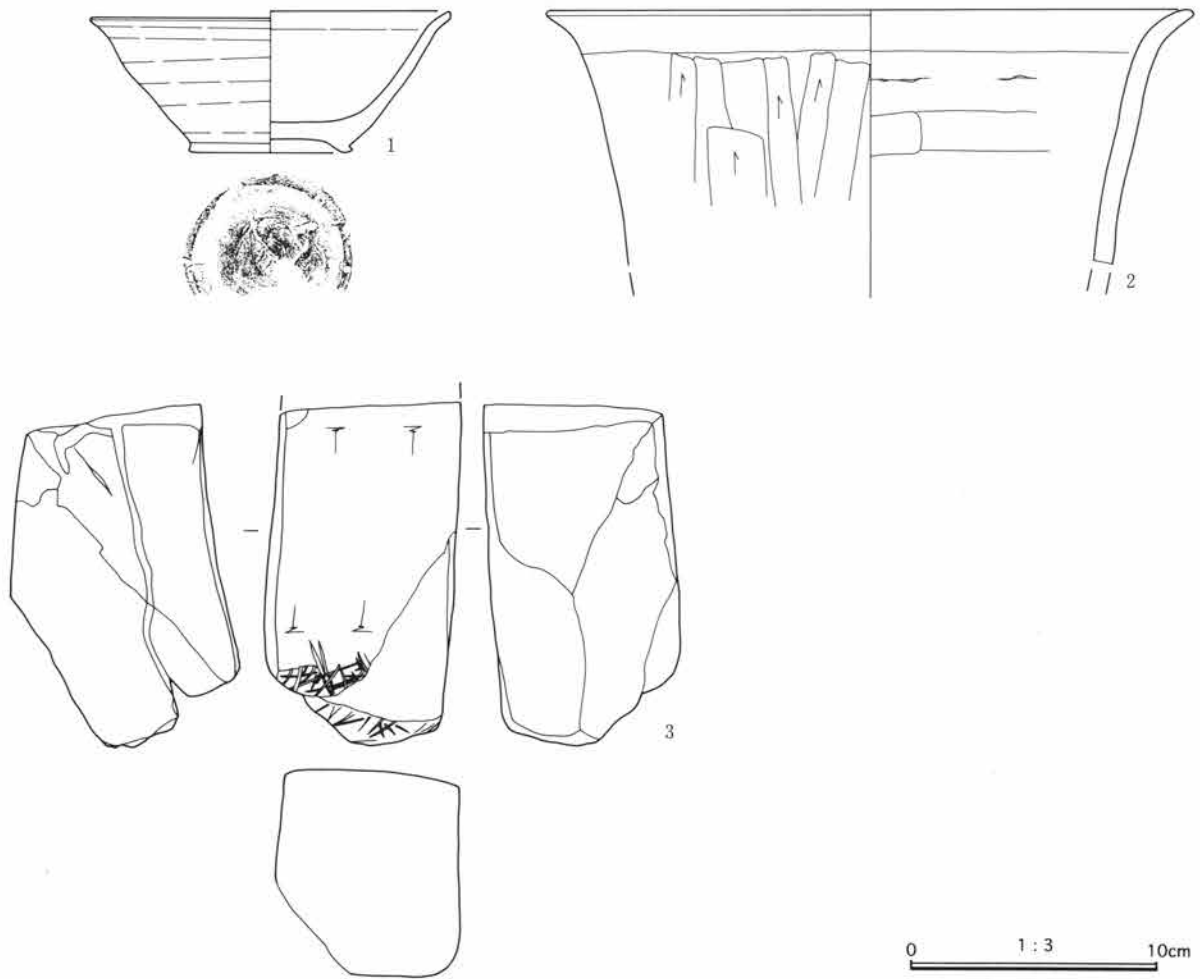
重複：55号住居跡との新旧関係は不明。また、北壁部において4号井戸と重複し、埋土の状態から本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物が少ないものの、その年代から9～10世紀代の遺構と推定される。



第122図 54・55号住居跡

第3章 検出遺構と遺物



第123図 54号住居跡出土遺物

54号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 112 No0556	須恵器 椀	口縁～高台 部 $\frac{1}{4}$	口径 14.5 底径 6.4 器高 5.6	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白～黄灰色	ロクロ成形。ロクロ右回転。底部回転系切後に高台貼付。	
2 112 No0557	土師器 甕	口縁～胴部 上位破片	口径(26.0) 器高(10.1)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄褐色	胴部外面上位は縦方向のへら削り、口縁部外面は横方向の撫で、内面は全面に横方向の撫でを施す。	
3 112 No2236	石製品 砥石		長 (13.6) 幅 7.5 厚 8.5	砥沢石	流紋岩で斑晶少なく良砥石、表・裏、側部4面使用。小口面は節理か川原石面・原石面を残す。二次被熱。置砥。中砥級。	1019g

56号住居跡 (写真図版47・112)

位置：C-03Vグリッド付近

主軸方位：N-105°-E 規模：(3.4)m×(3.5)m

形状：平面形状は、隅丸方形を呈すると考えられるが、西側及び南側の壁が不明瞭であり、明らかではない。

カマド：住居東壁のほぼ中央に位置し、燃焼部は壁の内側にある。遺存状態はあまり良くない。

内部施設：南東コーナー部に貯蔵穴と考えられる径70cm程、深度30cm程を測る土坑が検出される。

床面：地山ローム土を固め、床面とする。

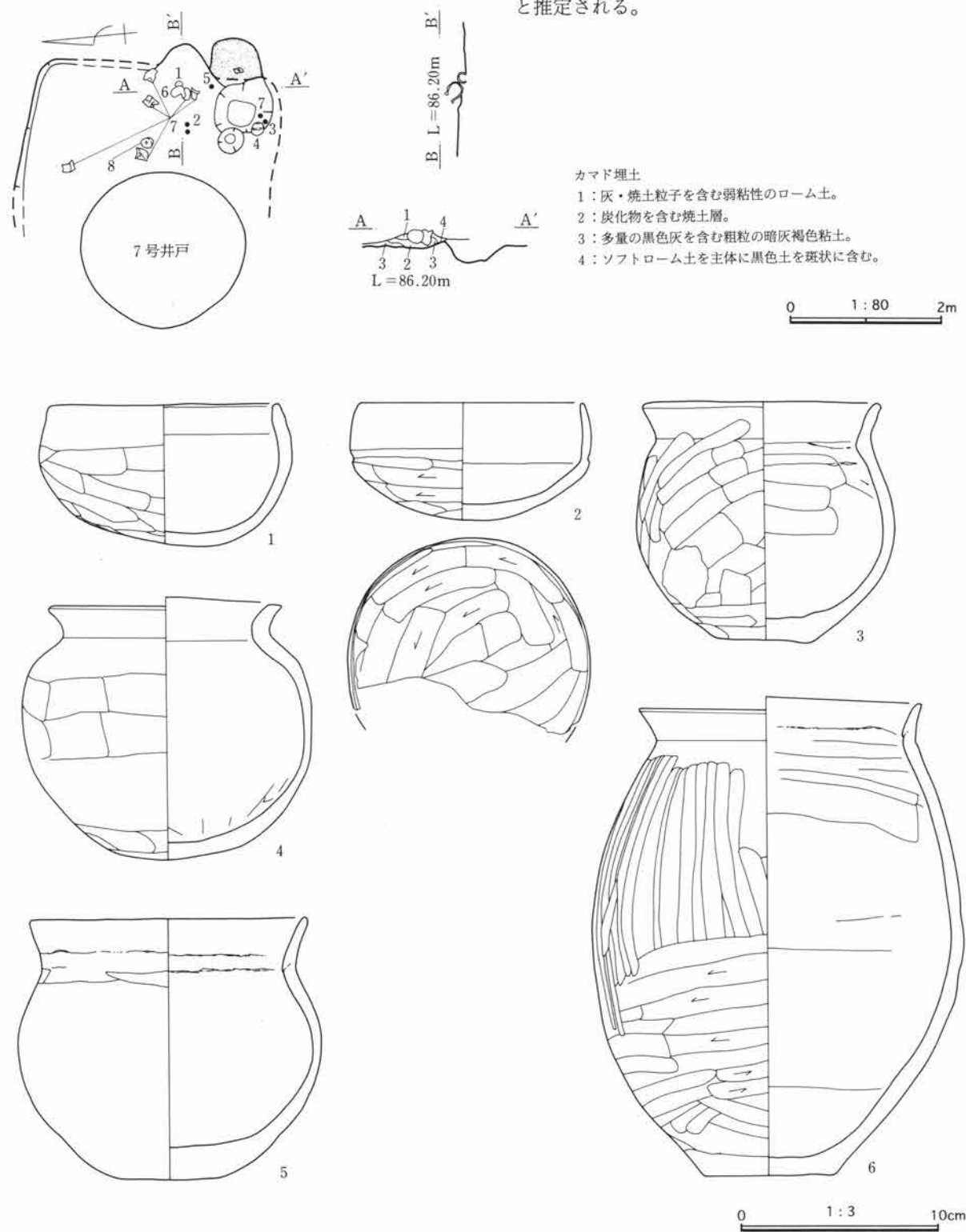
掘り方：なし。

出土遺物：カマド燃焼部付近より土師器杯 (No.1)、  
甕 (No.6)、甗 (No.7) が出土する。

重複：住居南西部において34号住居跡と重複し、埋  
土の状態より本遺構の方が古いものと判断され、住

居中央西側に重複する7号井戸跡については、確認  
面からの埋土の状態より、本遺構の方が古いものと  
判断される。

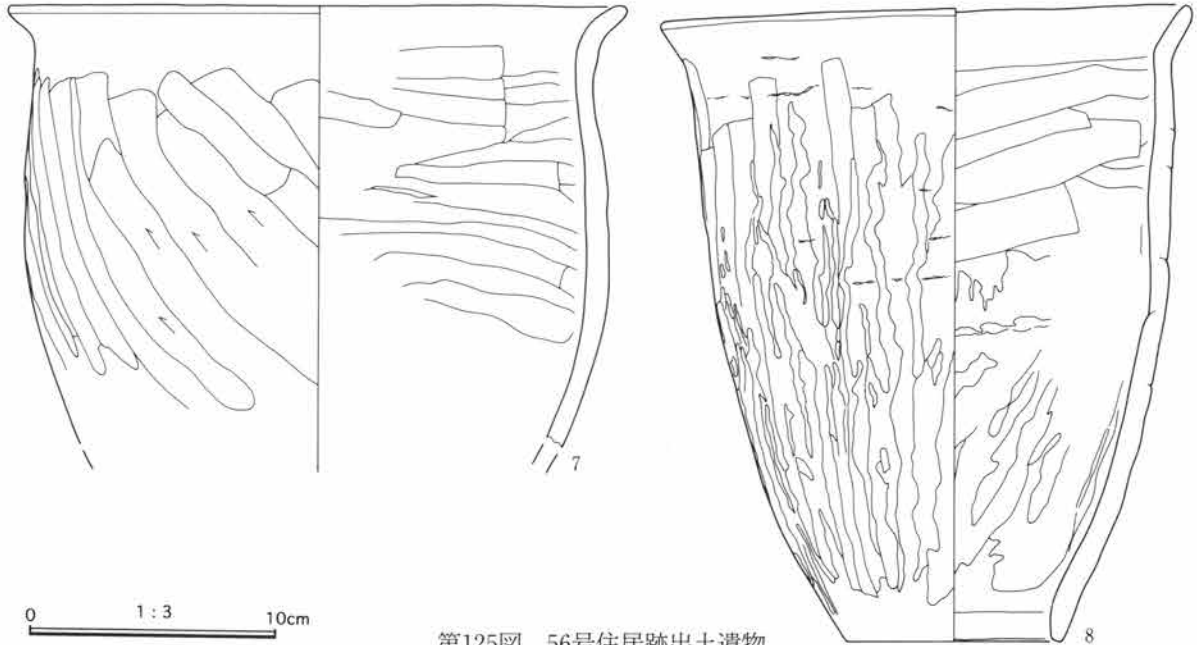
時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡  
と推定される。



第124図 56号住居跡及び出土遺物



第3章 検出遺構と遺物



第125図 56号住居跡出土遺物

56号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 112 No0558	土師器 杯	完形	口径 11.5 器高 6.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～橙色	口縁非水平、底部平底気味。外面底～体部はヘラ撫で 口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は全面に撫で を施す。	
2 112 No0559	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径 11.3 稜径(11.7) 器高 5.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は外面稜部に凹線が周 り、内外面共に撫で、底部内面も撫でを施す。	
3 112 No0565	土師器 小形甕	略完形	口径 11.8 底径 4.7 器高 11.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	底部平底。底部外面はヘラ削り、胴部外面はヘラ削り 後に斜方向のヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の 撫で、内面胴部も横方向の撫でを施す。	
4 112 No0561	土師器 小形甕	略完形	口径 11.7 器高 12.9	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	底部丸底。胴部外面は横方向のヘラ撫で、口縁部は口 唇部が平坦で、内外面共に横方向の撫で、胴部内面は ヘラ撫でを施す。	
5 112 No0560	土師器 小形甕	口縁～底部 1/2	口径 14.0 器高 12.9 底径 4.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～褐灰色	底部肉厚、丸底気味。胴部外面上位は横方向の撫で、 下位は器面の剥落で整形不詳。口縁部は内外面共に横 方向の撫で、胴部内面は撫でを施す。	
6 113 No0562	土師器 甕	略完形 口縁一部欠	口径 14.1 底径 6.4 器高 23.6	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	胴部外面は上位が縦方向、下位が横方向の丁寧なヘラ 撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も 横方向の撫で。	
7 113 No0563	土師器 甕か	口縁～胴部 中位、全周	口径(24.9) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒色	胴部外面は斜方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横 方向の撫で、胴部内面も横方向の撫でを施す。	
8 113 No0564	土師器 甕 (一穴)	略完形	口径 21.2 底径 8.5 器高 25.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒色	胴部外面は縦方向のヘラ削り後に、縦方向の研磨状の ヘラ撫で、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内 面は上位が横方向のヘラ撫で、下位はヘラ磨きを施す。	

57号住居跡 (写真図版35)

位置：C-15Qグリッド付近

主軸方位：不明。 規模：4.5m×不明

形状：平面形状は、隅丸長方形を呈すると思われる  
が、南壁が重複遺構により未検出のため明らかでは

ない。床面までの深度は、確認面より35cm程を測る。

カマド：検出されておらず、東壁の南寄りにその存  
在が推測される。

内部施設：柱穴等は検出されていない。

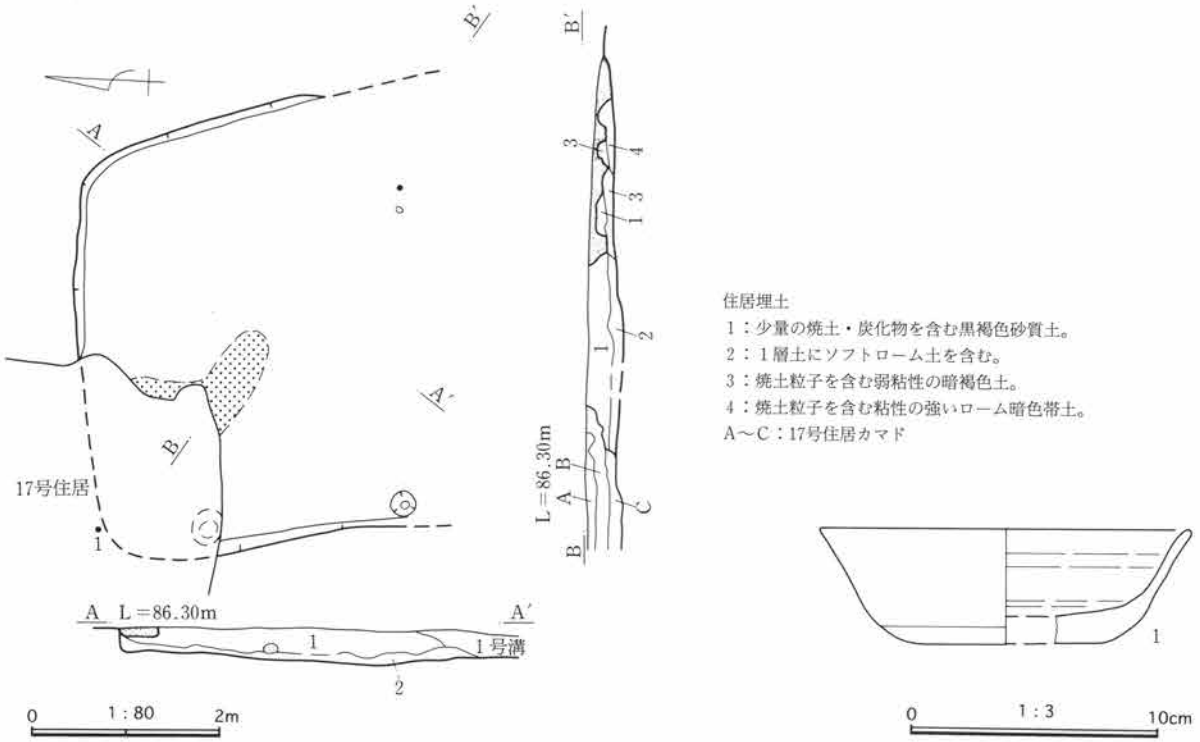
床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

重複：住居南半部において1号溝と、北西コーナー部において17号住居跡とそれぞれ重複し、新旧関係は埋土の状態等より、本遺構の方がいづれより古い

ものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、8世紀代の住居跡と推定される。



第126図 57号住居跡及び出土遺物

57号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 — No0195	須恵器 杯	17号住出土 口縁～底部 1/3	口径(14.8) 底径( 8.5) 器高( 4.5)	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	ロクロ成形。底部やや肉厚。底部外面は切り離し後に 静止ヘラ調整を施す。ロクロ右回転。	

58号住居跡 (写真図版47・113)

位置：C-04Rグリッド付近

主軸方位：不明。 規模：(3.8)m×(3.3)m

形状：平面形状は、隅丸方形を呈すると思われるが、壁が部分的にしか検出されておらず定かではない。

上部が大半掘削され、深度はほとんどない。

カマド：東側壁に存在が想定されるが、痕跡すら確認できなかった。

内部施設：住居中央やや北西寄りに、径60cm～90cm、深度23cm程を測る浅い楕円形の土坑が1基検出されたのみで、柱穴等は検出されていない。

床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

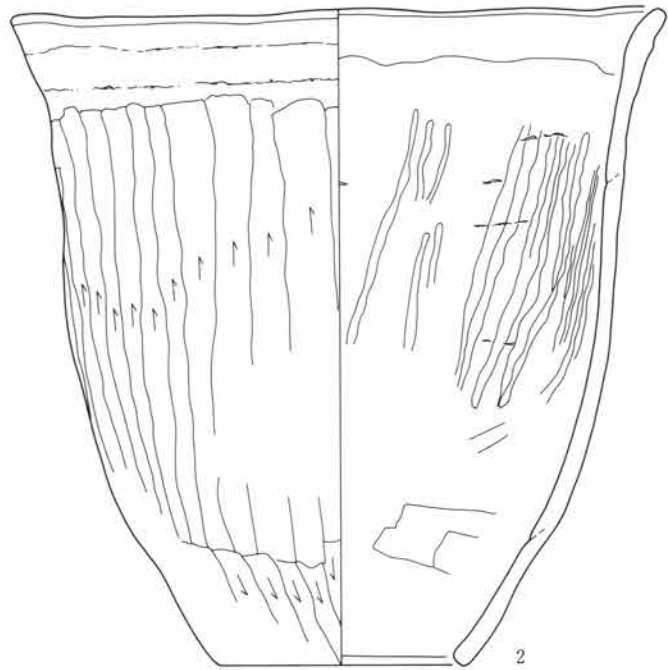
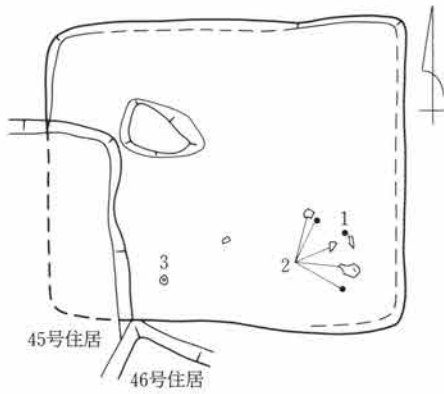
重複：住居南西コーナー部において45号住居跡と重複し、新旧関係については埋土の状態では明らかではないが、相互の出土遺物の年代より、本遺構のほ

第3章 検出遺構と遺物

うが古いものと判断される。

の住居跡と推定される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀～7世紀代



第127図 58号住居跡及び出土遺物

58号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 113 No.0570	土師器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径 11.7 稜径 11.2 器高 4.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：灰黄褐～黒褐色	底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も全面に撫でを施す。	
2 113 No.0571	土師器 甕 (一穴)	口縁～底部 2/3	口径 26.1 底径 10.0 器高 26.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒色	胴部外面は縦方向のへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫での後にごく一部へら磨き、胴部内面は全面にへら撫での後に縦方向の粗いへら磨きを施す。	
3 113 No.0572	土製品 手捏ね	略完形 口縁一部欠	口径 6.7 底径 3.5 器高 4.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	手捏ね成形。内面は縦方向のへら削り、外面は指頭による成・整形。	

59号住居跡 (写真図版48・113)

位置：B-22Sグリッド付近

主軸方位：不明。 規模：不明。

形状：わずかに壁と床面を検出するのみで、平面形状は、不明。3軒以上の住居跡の存在が想定されるが、59号住居跡A・B・Cとして扱った。

カマド：調査範囲内においては検出されておらず、東側調査区域外(農道)に、存在する可能性がある。

内部施設：柱穴等は検出されていない。

床面：しっかりした床面ではないが、地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

重複：西側において60号住居跡と重複し、埋土の状態より、本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。

60号住居跡 (写真図版50・113)

位置：B-22Nグリッド付近

主軸方位：N-90°-E 規模：4.2m×3.3m

形状：平面形状は、隅丸方形を呈し、床面までの深度は確認面より20cm程を測る。

カマド：住居東壁の南東コーナー寄りに位置する。残存状態は悪く、わずかに痕跡をとどめるにすぎない。

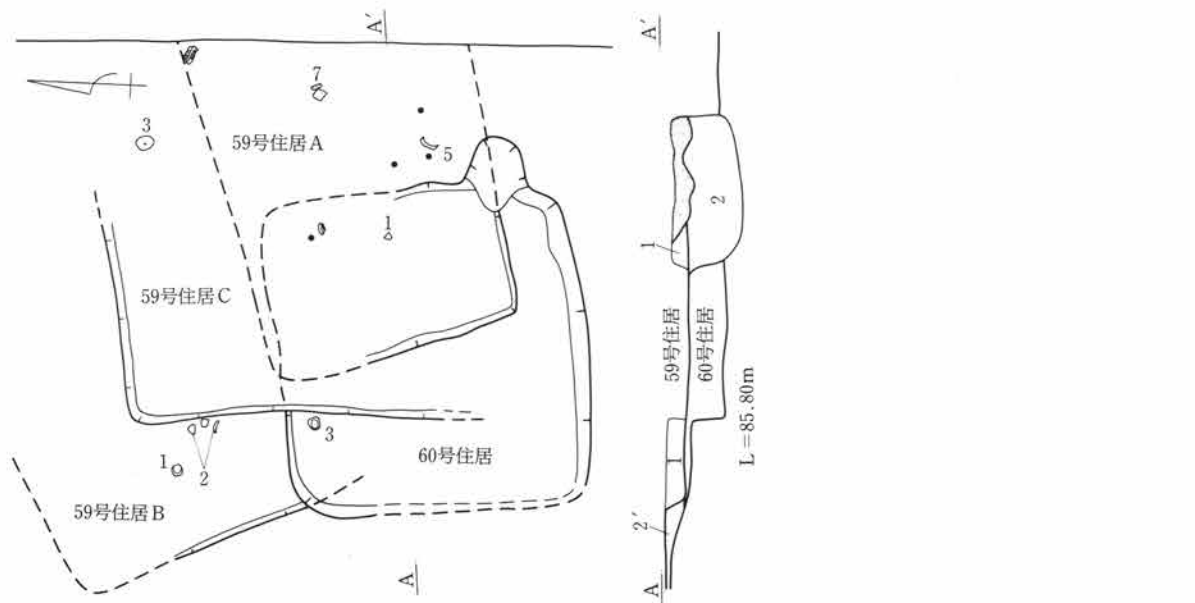
内部施設：柱穴等は検出されていない。

床面：地山ローム土を主体とする土を固め、貼り床を施す。

掘り方：なし。

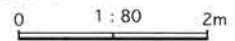
重複：59号住居跡A・B・Cの3軒と重複し、埋土の状態より、本遺構の方が新しいものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、8世紀代の住居跡と推定される。



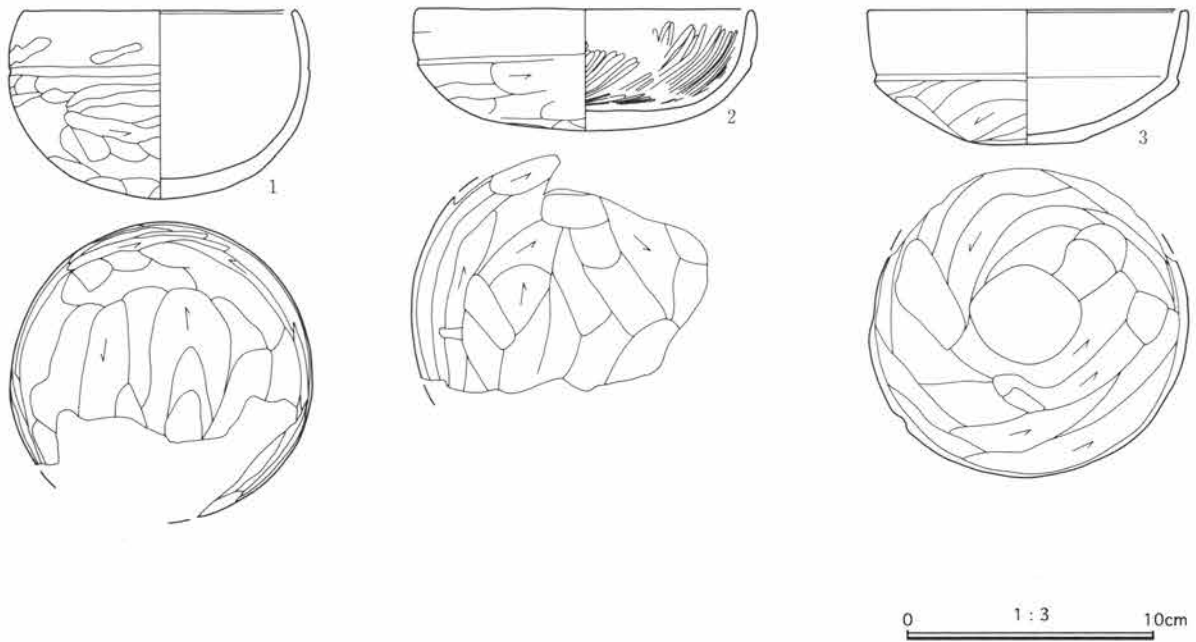
住居埋土

- 1：パミスを含む黒色砂質土。
- 2：1層土に類似し、ローム粒子を含み、パミスをより多く混入する。
- 2'：2層土に類似し、ローム粒子をあまり含まない。



第128図 59・60号住居跡

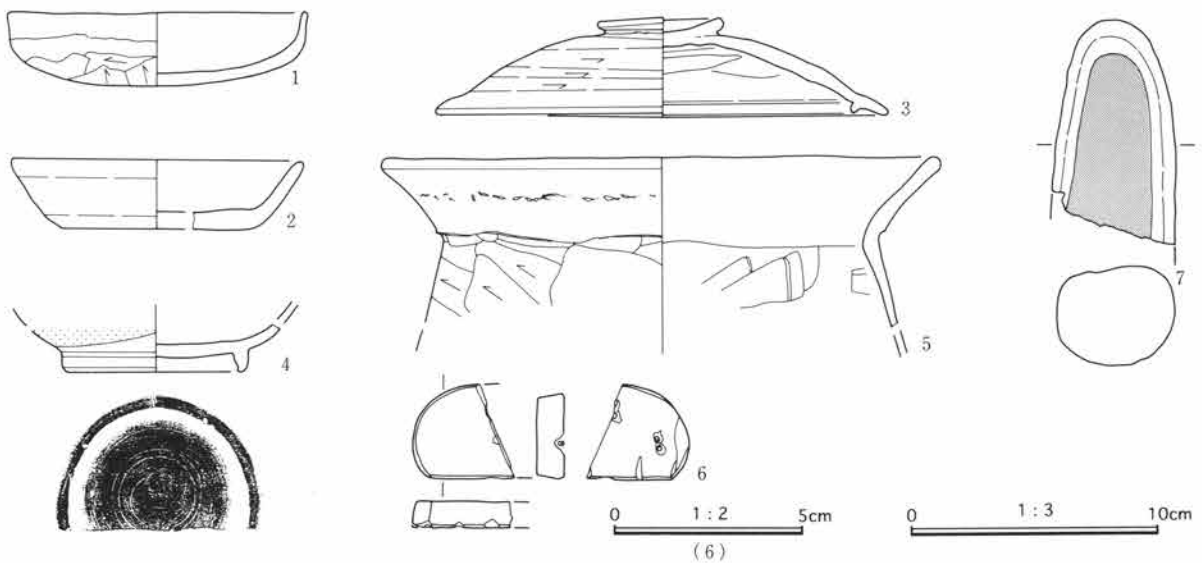
第3章 検出遺構と遺物



第129図 59号住居跡出土遺物

59号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 113 No0575	土師器 鉢	口縁～底部 ⅔	口径 11.0 器高 7.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面底部～体部はヘラ削り、口縁部外面は横方向の撫での後に部分的にヘラ磨き、内面は全面に撫でを施す。	
2 113 No0574	土師器 杯	口縁～底部 ⅓強	口径(13.6) 稜径(13.4) 器高 4.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～明赤褐色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面は撫での後、底部～口縁部中位にかけて斜方向のヘラ磨きを施す。	
3 113 No0573	土師器 杯	口縁～底部 ¼	口径 12.9 稜径 12.0 器高 5.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～明赤褐色	底部平坦。底部～口縁部下はヘラ削り、内面は全面に丁寧な撫での後、底部内面のみならず不歩方向のヘラ磨きを施す。	



第130図 60号住居跡出土遺物

60号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目 (cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 113 No0581	土師器 杯	口縁～底部 1/2弱	口径 12.0 器高 3.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～オリーブ灰	口縁部はやや歪む。底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共にやや粗い横方向の撫で、底部内面も全面に撫でを施す。	
2 113 No0585	須恵器 杯	口縁～底部 破片	口径(11.7) 底径(7.5) 器高(2.7)	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白色	ロクロ成・整形。底部回転ヘラ調整。ロクロ右回転。	
3 113 No0584	須恵器 蓋	完形	口径 15.1 摘径 5.0 器高 3.9	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	ロクロ成形、ロクロ右回転。つまみは大形で偏平。自然降灰釉は上面に均質に付着する。	
4 113 No0589	灰釉陶器 椀	底(高台)部 破片	底径(7.2) 高台径 6.9		ロクロ整形、回転右廻り。高台は貼付で断面三日月型を呈す。施釉方向は不明確である。内面底部にも釉薬が付着。釉調は、不透明な緑灰色。	光ヶ丘1号窯式期
5 113 No0577	土師器 甕	口縁部破片	口径 22.4 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	胴部外面上位は斜方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に丁寧な横方向の撫で、胴部内面上位は横方向のヘラ撫でを施す。	
6 113 No2842	石帯 丸靱	3/5	長 2.6 幅 (2.7) 厚 0.7	珪質頁岩	半分欠。表面平滑。裏面は留めのための小孔あり。	8 g
7 113 No2951	こもあみ石	1/2	長 (8.9) 幅 4.9 厚 4.1	粗粒安山岩	平面形楕円気味、片側小口欠。横断面近円形。	235 g

61号住居跡 (写真図版49・113)

位置：B-23Sグリッド付近

主軸方位：不明 規模：4.2m×4.2m

形状：しっかりした壁が検出されていないため、平面形状は、明らかではない。床面までの深度は、確認面より15cm程を測る。

カマド：明瞭な遺構としては検出されておらず、東壁中央付近の壁際に焼土の分布が見られ、このあたりにカマドが存在していた可能性がある。

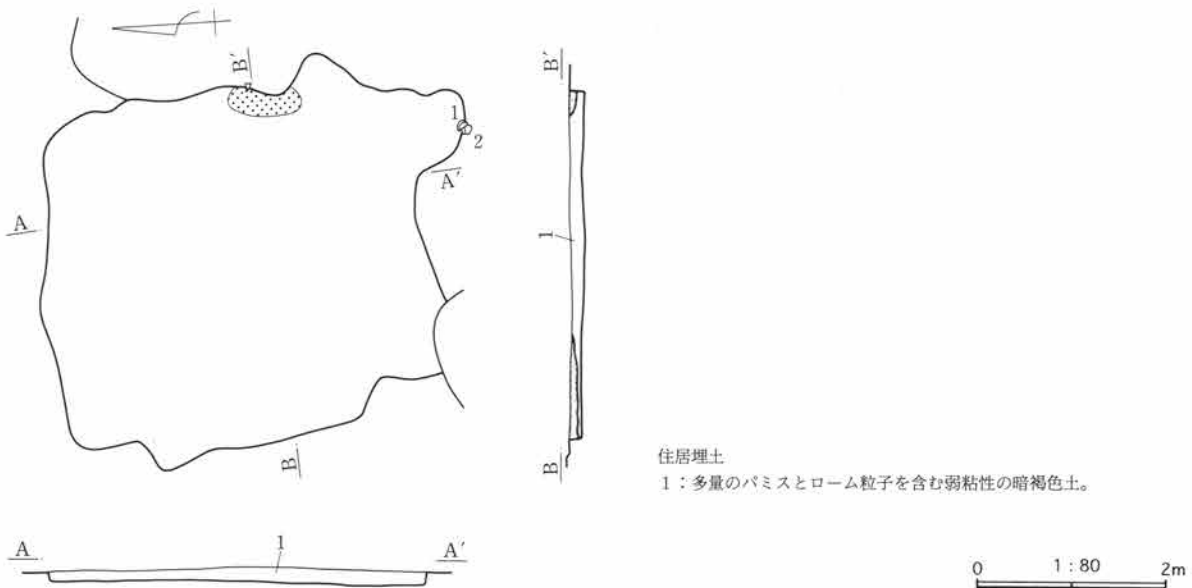
内部施設：柱穴等は検出されていない。

床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

重複：重複する遺構はないが、周囲に攪乱を多く受ける。

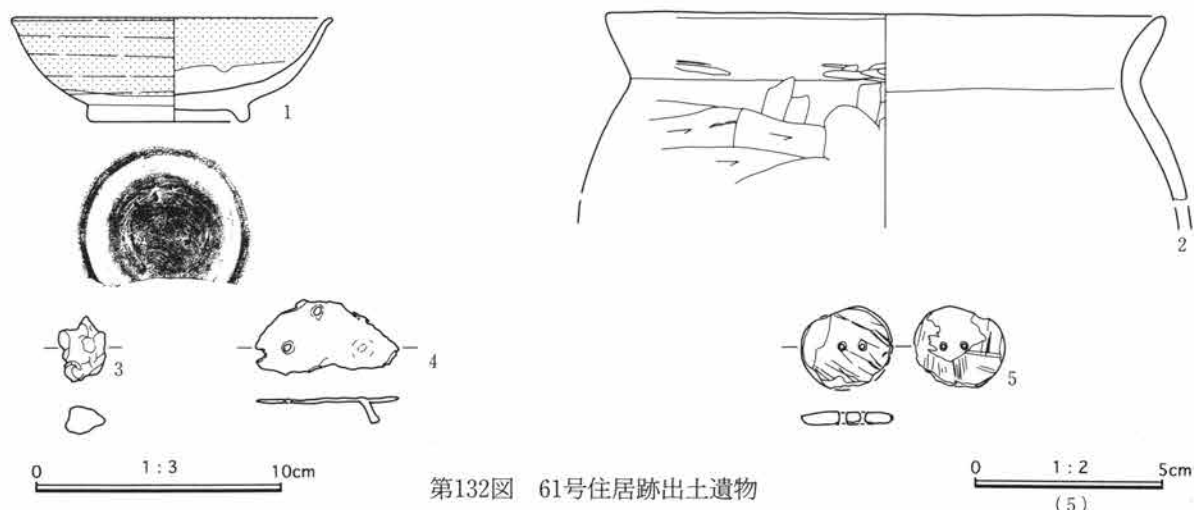
時期：出土する遺物の年代より、6～7世紀代の住居跡と推定される。



住居埋土  
1：多量のバミスとローム粒子を含む弱粘性の暗褐色土。

第131図 61号住居跡

第3章 検出遺構と遺物



第132図 61号住居跡出土遺物

61号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
1 113 Na0593	灰釉陶器 碗	口縁～高台 部 $\frac{1}{2}$ 強	口径 12.0 器高 3.0		ロクロ整形、回転右廻り。高台は貼付で外面に弱い稜をもつ断面三角形を呈す。施釉方法は漬け掛け、釉調は不透明な灰白色。	
2 113 Na0590	土師器 甕(甕)	口縁部破片	口径(15.0) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	外面胴部上位は横方向のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部も撫でを施す。	
3 113 Na4008	鉄 不明			鉄製		5.88 g
4 113 Na4074	鉄 飾金具			鉄製	座板と鉄釘からなる。竅は3ヶ所に見える。	12.50 g
5 113 Na2830	滑石製模造 品 不明	一部欠損	長 2.3 幅 2.5 器高 0.35	蛇紋岩	円形気味の平面で2穴の穿孔。横断面扁平。表・裏に擦痕あり。	2.62 g

62号住居跡 (写真図版50・114)

位置：C-04Pグリッド付近

主軸方位：N-60°-E 規模：6.1m×不明

形状：平面形状は、ほぼ方形を呈すると思われるが、南側の大半を重複遺構に切られ、明らかではない。

床面までの深度は、確認面より4cm～45cm程を測る。

カマド：残存範囲内では検出されておらず、おそらくは東側壁部に存在していたであろうと考えられる。

内部施設：柱穴等は検出されていない。また、施設ではないが、床面上に炭化材が散布し、焼失家屋である可能性もある。

床面：地山ローム土を固め、床面とする。

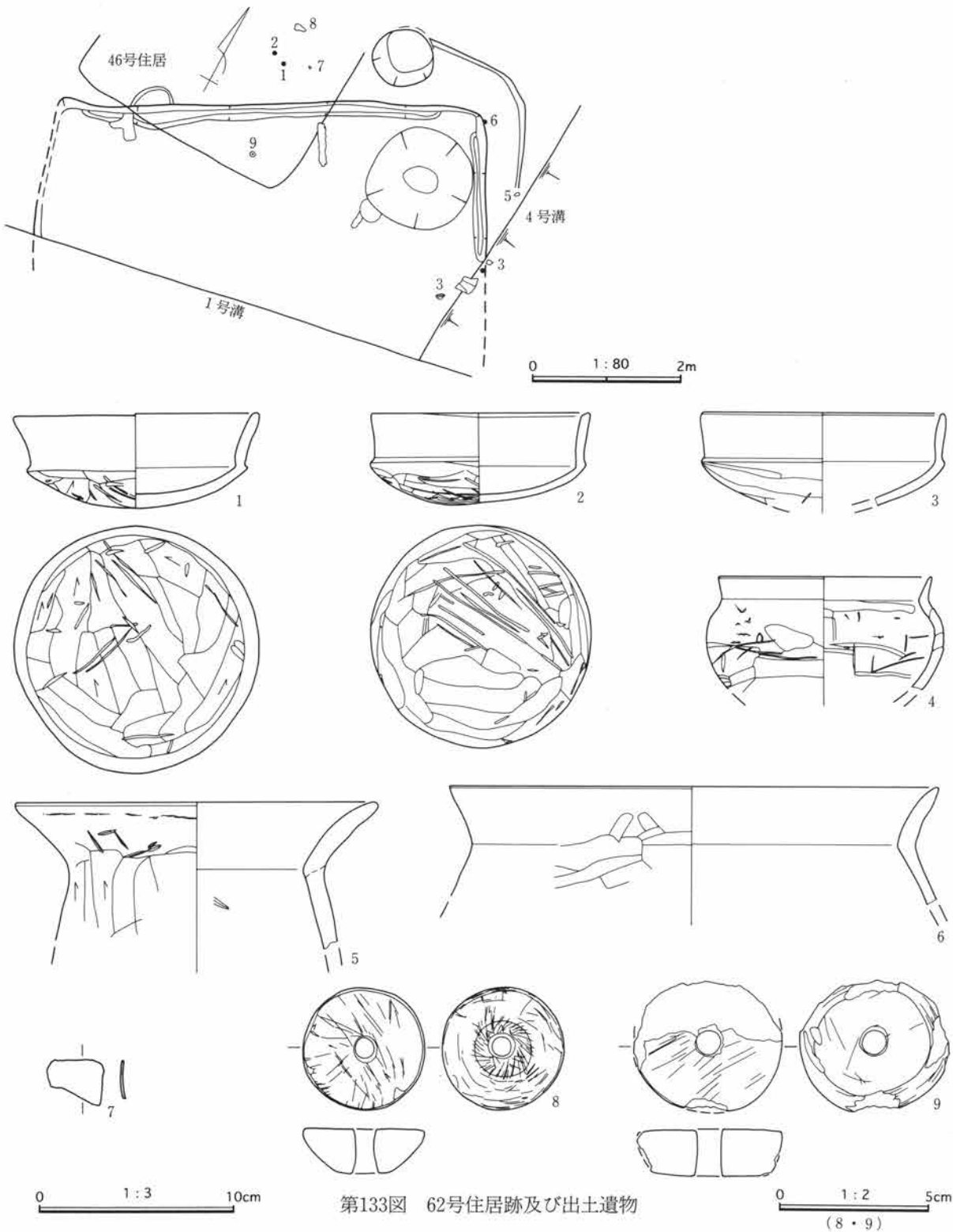
掘り方：なし。

出土遺物：石製紡錘車 (No.8・9) が2点出土する。

重複：南側・東側において1号・4号溝・57号井戸と重複し、新旧関係は埋土の状態より、本遺構の方が古いと、また北側壁部において46号住居跡と重複し、これも埋土の状態より、本遺構の方が古いものと判断される。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の住居跡と推定される。





第133図 62号住居跡及び出土遺物

62号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 114 No0595	土師器 杯	床下 完形	口径 12.5 稜径 11.2 器高 4.7	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙～黒	外面底部はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も撫でを施す。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
2 114 No0594	土師器 杯	床下 完形	口径 11.2 稜径 11.0 器高 4.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙～黒	外面底部はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も撫でを施す。	
3 — No0596	土師器 杯	口縁～底部 1/4	口径(12.4) 稜径(12.3) 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	外面底部はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も撫でを施す。	
4 114 No0599	土師器 小形壺 (短頸)	埋土 口縁～胴部 上位破片	口径(10.8) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐～黒褐色	外面胴部は横方向のヘラ撫で、外面肩部から口縁部内外面は共に横方向の丁寧な撫で、内面も丁寧な撫でを施す。	
5 114 No0600	土師器 甕(甔)	口縁部破片	口径(18.4) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	外面胴部は縦方向(下から上)の粗いヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部も撫でを施す。	
6 — No0601	土師器 甕(甔)	口縁部破片	口径(24.8) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：灰黄褐～黒褐色	口縁部内面に稜を持つ。外面胴部は上位横方向のヘラ撫で、口縁部は内外面及び胴部内面は共に丁寧な横方向の撫でを施す。	
7 114 No4009	金属製品 不明			鉄製か	筒状製品の破片で、錐とも見える破片である。鉄錆色を呈す。	2.58 g
8 114 No2844	石製品 紡錘車	完形	器高 1.5 最大径 4.2	蛇紋岩	外面、裏面に条痕や傷あり。小形で美しい石材である。	36 g
9 114 No2845	石製品 紡錘車	5/6	器高 1.6 最大径 5.0	砥沢石	外面、裏面に条痕や傷あり。部分欠あり。砥沢石は流紋岩を指す。	45 g

63号住居跡 (写真図版51・114)

位置：B-21Xグリッド付近

主軸方位：N-88°-E 規模：3.2m×3.3m

形状：平面形状は、ほぼ隅丸正方形を呈するものと考えられるが、周囲に攪乱を受け、一部壁が未確認となる。床面までの深度は、確認面より10cm～20cm程を測る。

カマド：検出されていない。

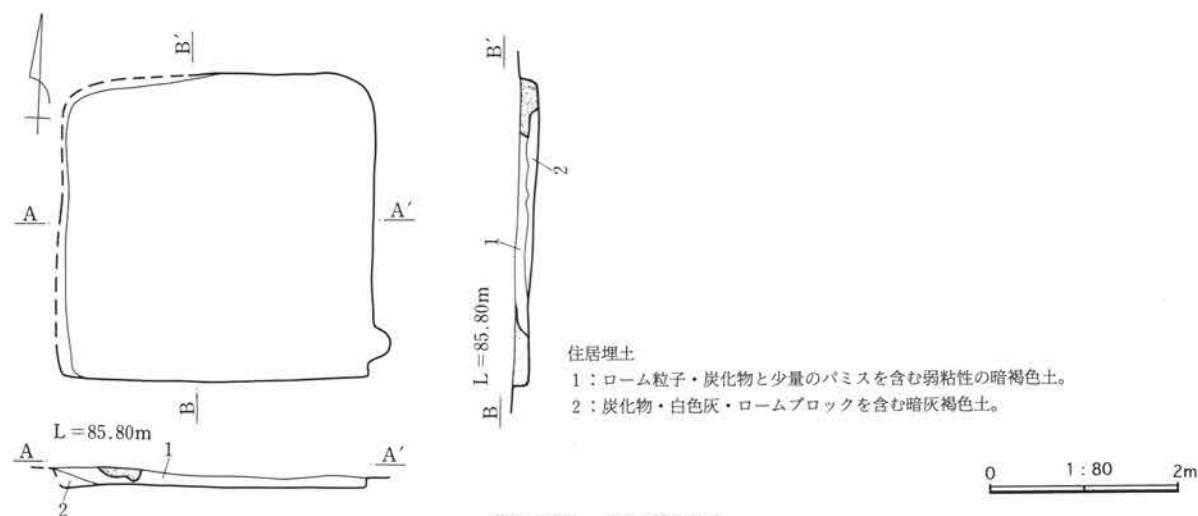
内部施設：柱穴等は検出されていない。

床面：地山ローム土を固め、床面とする。

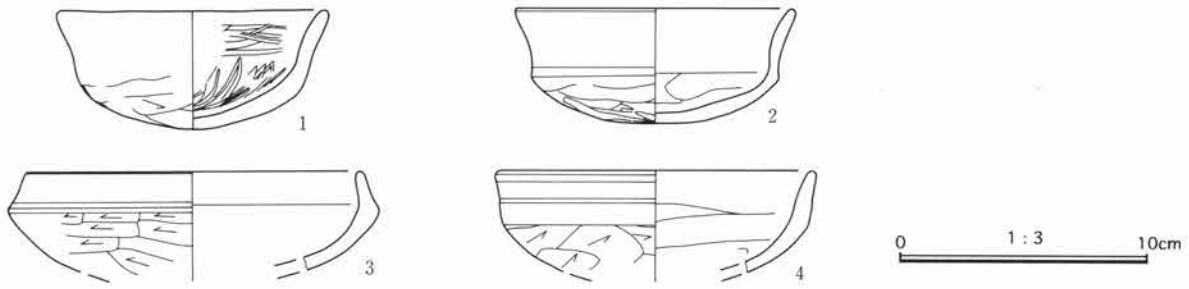
掘り方：なし。

重複：なし。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀代の遺構と推定される。竪穴住居跡以外の遺構である可能性が高い。



第134図 63号住居跡



第135図 63号住居跡出土遺物

63号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 — No0605	土師器 杯	口縁～底部 破片	口径 11.0 器高(4.7)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	全体にやや肉厚。外面底部は粗いヘラ削り、口縁部外面は横方向の撫で、口縁部内面は横方向の撫での後に横方向の粗い磨き、内面底部は放射状の磨きを施す。	
2 114 No0603	土師器 杯	口縁～底部 1/2	口径 11.1 稜径 9.9	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:明赤褐～黒褐色	外面底部はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面も撫でを施す。	
3 114 No0607	土師器 杯	口縁～底部 上位	口径(13.6) 稜径(15.0) 器高 —	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:黒褐色	全体にやや肉厚。外面底部は軽く研磨、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も撫でを施す。	
4 114 No0604	土師器 杯	口縁～底部 上位破片	口径(12.9) 器高 —	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい褐～黒色	外面底部はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も撫でを施す。	

64号住居跡 (写真図版52・114)

位置：B—22Qグリッド付近

主軸方位：N—75°—E 規模：3.2m×不明

形状：平面形状は、隅丸方形を呈すると思われるが、南壁が調査区域外となり未検出である。床面までの深度は確認面より60cm程を測る。

カマド：住居東壁に位置し、調査範囲には北半分程がかかると。燃烧部は壁の外側に有り、袖部は屋内に張り出さない。

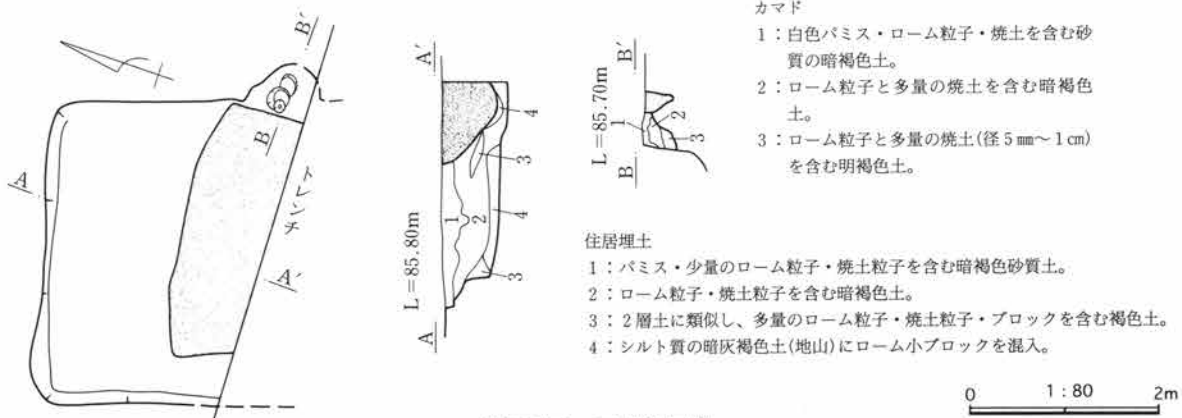
内部施設：柱穴等は検出されていない。

床面：地山ローム土を固め、床面とする。

掘り方：なし。

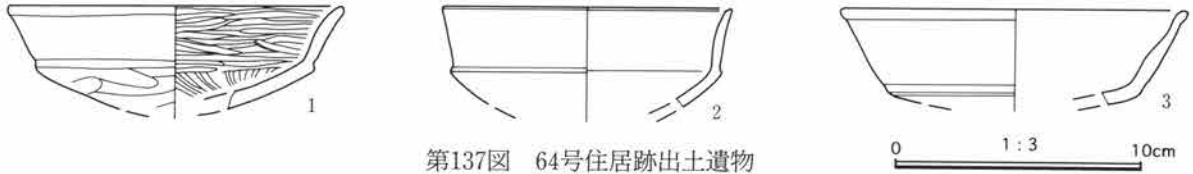
重複：なし。

時期：出土する遺物が乏しく、時期の推定が難しいが、遺構の形状や軸方位などから、7世紀～9世紀代の住居跡と推定される。



第136図 64号住居跡

第3章 検出遺構と遺物



第137図 64号住居跡出土遺物

64号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 114 No0609	土師器 杯 (高杯か)	口縁～底部 上位 $\frac{1}{2}$	口径(13.5) 稜径(11.1) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐色	外面底部はヘラ削り、口縁部外面は横方向の撫で、口縁部内面は丁寧な横方向の研磨、内面底部は撫での後、研磨を施す。	内面研磨
2 114 No0610	土師器 杯	カマド内 口縁～底部 上位破片	口径(11.6) 器高 — 稜径(10.8)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も撫でを施す。	
3 — No0611	土師器 杯	カマド内 口縁～底部 上位破片	口径(16.4) 底径(10.8) 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はヘラ削りか、口縁部は内外面共に横方向の撫で、底部内面も撫でを施す。	

65号住居跡 (写真図版114)

位置：B-23Qグリッド付近

主軸方位：N-80°-E 規模：不明。

形状：住居の平面形状は、不明であり、カマドのみの検出である。

カマド：住居東壁に位置していたと考えられ、袖石をはじめ、礫が散乱していることから、石組みのカマドであったと考えられる。

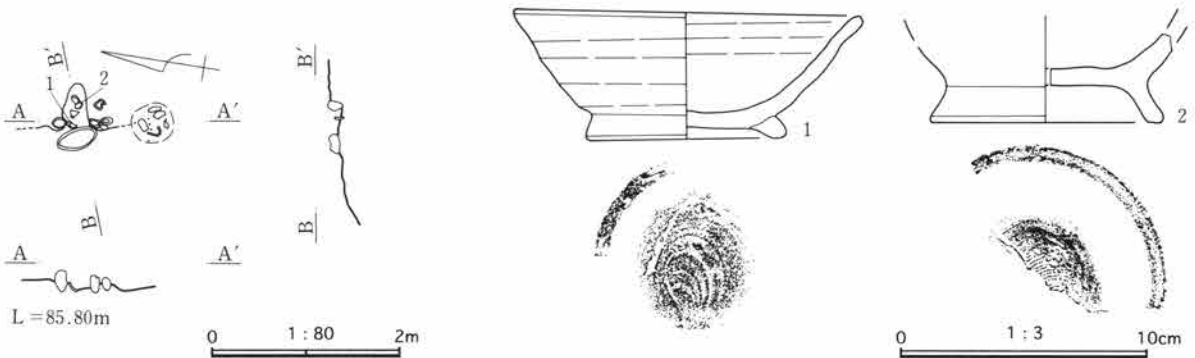
内部施設：なし。

床面：なし。

掘り方：なし。

重複：なし。

時期：出土する遺物の年代より、6世紀～7世紀代の住居跡と推定される。



第138図 65号住居跡及び出土遺物

65号住居

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 114 No0613	須恵器 椀	カマド内 略完形 高台一部欠	口径 14.1 底径 7.5 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	ロクロ成形。高台下端部はやや丸味を帯び、外面底部中央に回転糸切り痕を残す。内面はやや器面が荒れる。	
2 114 No0614	須恵器 椀	カマド内 高台部破片	口径 — 高台径 9.4 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄褐色	ロクロ成形。高台下端部は平坦。外面底部中央に回転糸切り痕を残す。	

1号竖穴遺構

規模：240cm×360cm強を測る。

形状：平面形状は南北方向に長い長方形を呈すると思われるが、北側の壁は3号竖穴との重複により、検出しえなかった。また、深度は20cm弱残るのみであった。

内部施設：柱穴と考えられる穴が南北壁の中央壁際に2穴検出された。

床面：平坦ではあるものの、柔らかく、踏み固められた形跡はない。

掘り方：なし。

出土遺物：出土遺物なし。

所見：3号竖穴遺構と重複し、3号側に出土遺物があるものの、重複関係が不明瞭なため、古墳時代の遺構と推察されるが明らかではない。

3号竖穴遺構

規模：不明

形状：方形を呈すると思われるが、明らかではない。

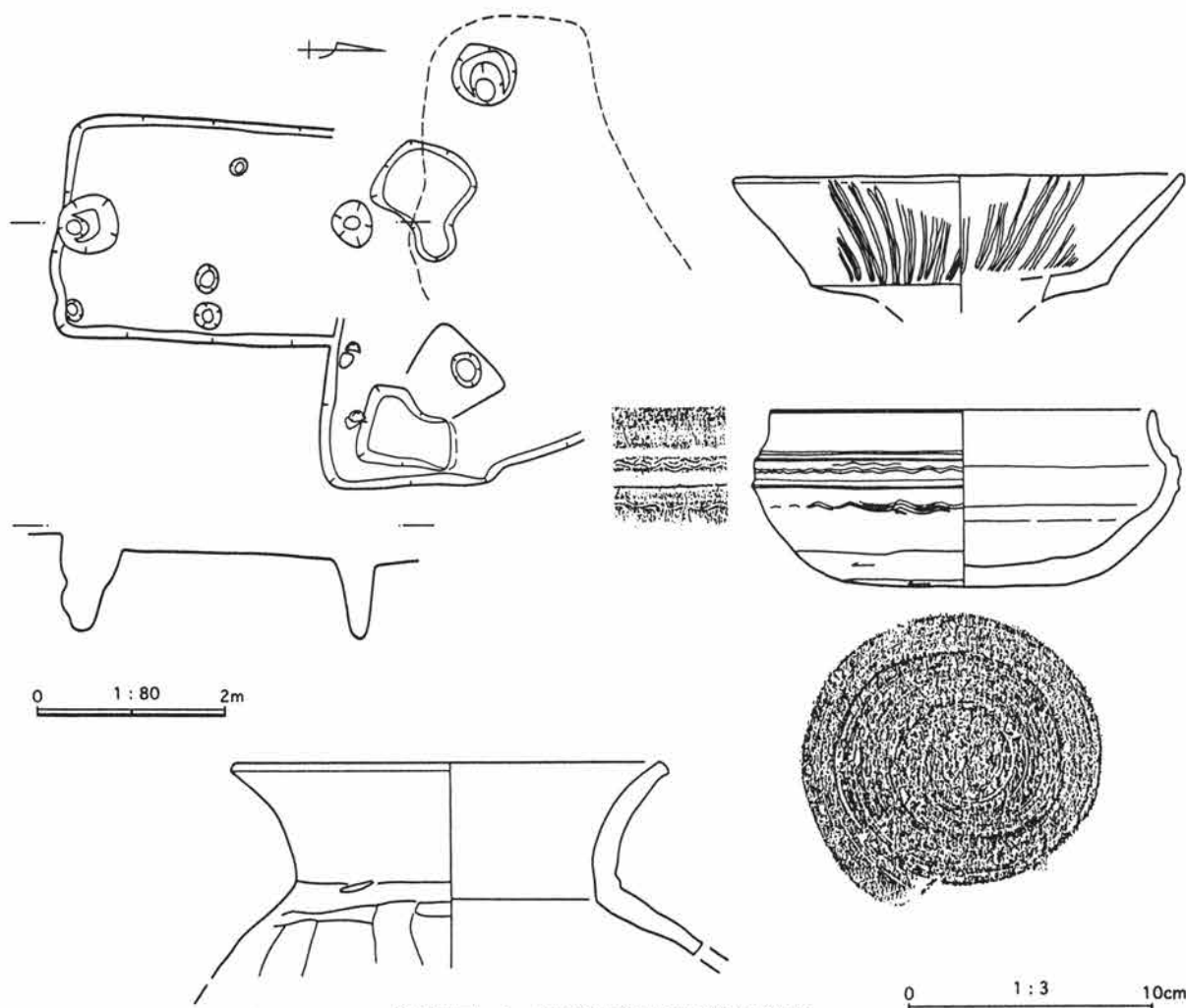
内部施設：浅く方形を呈する土坑が2箇所と浅い円形のピットが1穴確認される。

床面：ほぼ平坦ではあるものの、柔らかく、踏み固められた形跡はない。

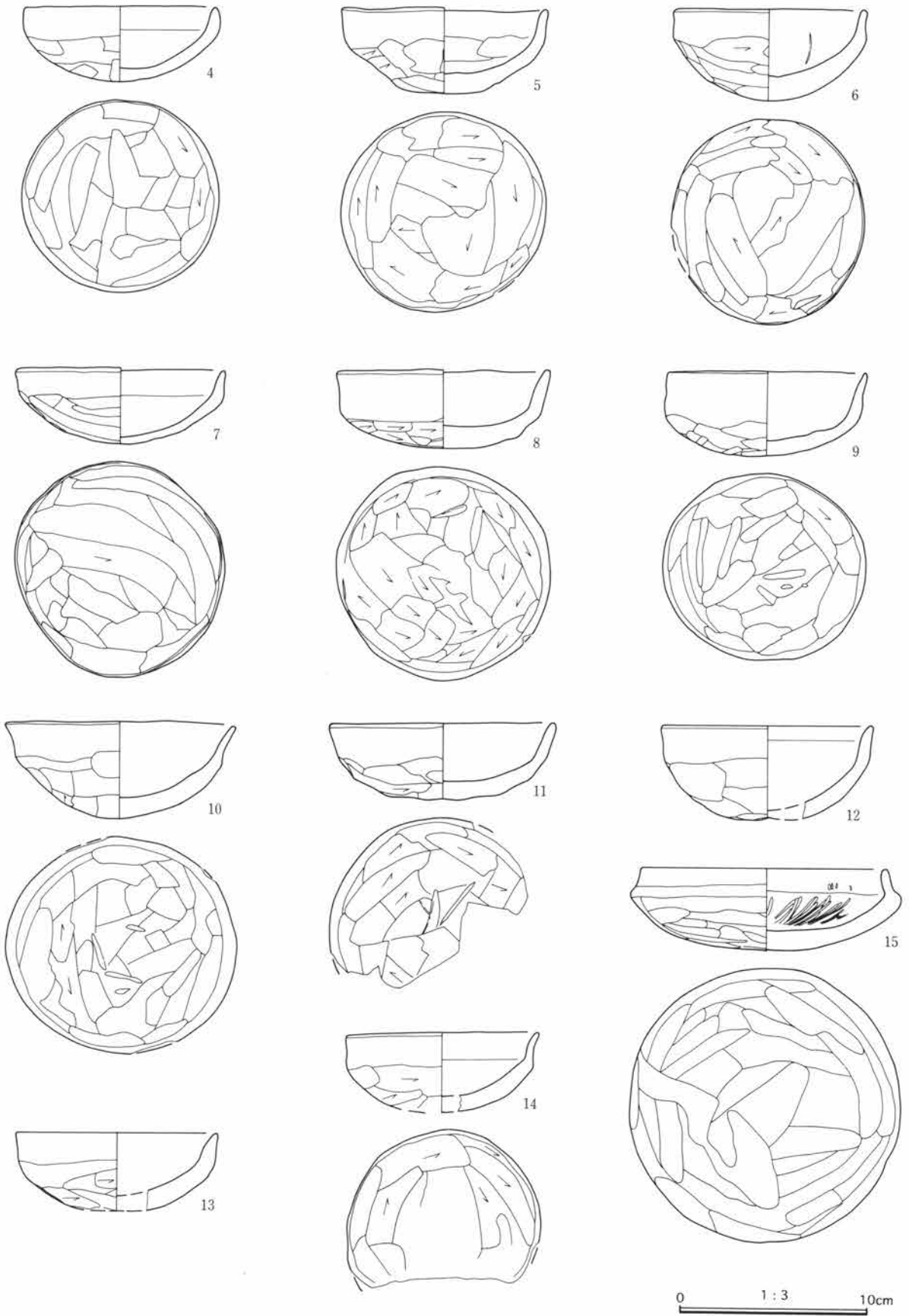
掘り方：なし。

出土遺物：須恵器鉢、土師器高坏杯部、土師器甕口縁部を出土する。

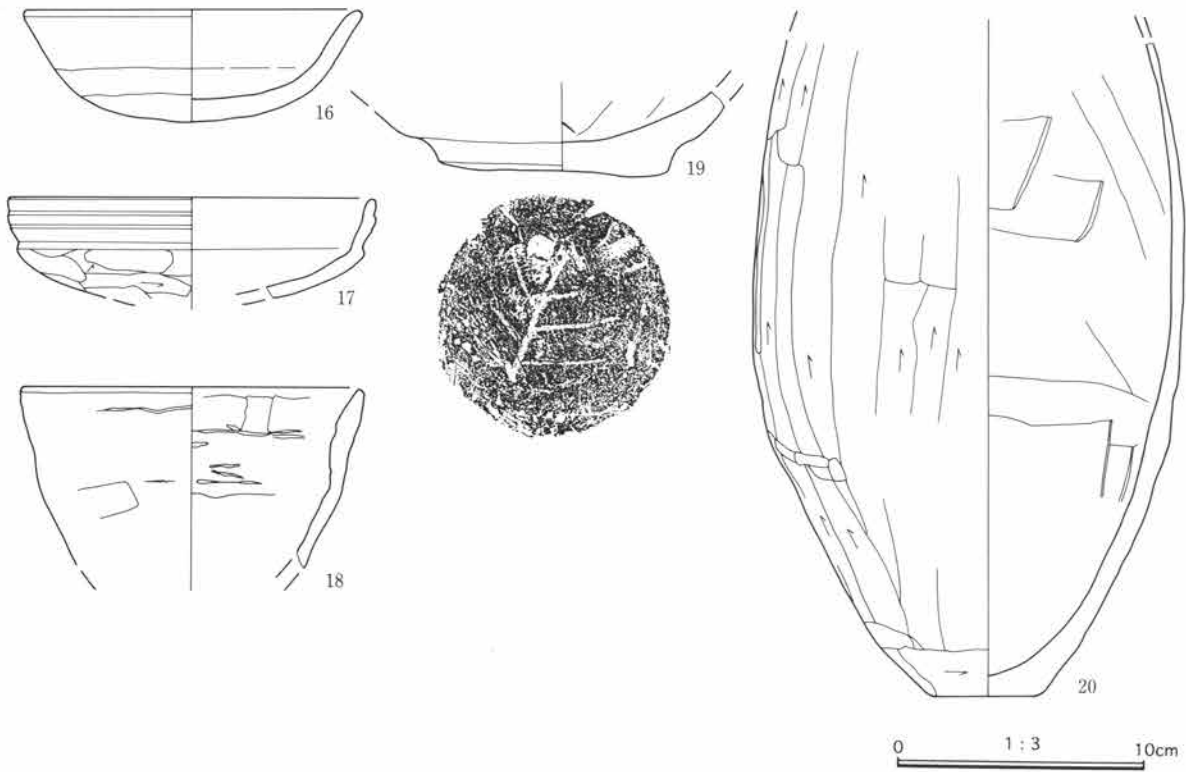
所見：出土する遺物より、古墳時代中頃の遺構と推察されるが、遺構の性格は明らかではない。



第139図 1・3号竖穴遺構及び出土遺物



第140図 4号竪穴遺構出土遺物



第141図 4号竪穴遺構出土遺物

3・4号竪穴遺構

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
1 114 No0664	土師器 甕	3号竪穴 口縁~胴部 上位1/3	口径 17.6 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙~赤褐色	口縁~頸部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は撫で、外面は斜め方向のヘラ削り。	
2 114 No0665	土師器 高杯	3号竪穴 杯部口縁~ 体部破片	口径 18.1 底径 — 器高(5.0)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色~暗褐色	杯部内面及び外面有段上位は横方向の撫での後に間隔をやや開けた放射状のヘラ磨きを施す。外面下位は粗い撫で。	
3 114 No0666	須恵器 杯	3号竪穴 略完形	口径 15.2 底径 9.0 器高 7.0	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色	ロクロ成形。底部回転ヘラ調整。外面口縁部下~体部上位に細隆帯をはさみ上下に波状文を施文。内面底部及び外面底~体部に重ね焼きの痕跡残る。	
4 114 No0667	土師器 杯	4号竪穴 完形	口径 10.3 底径 — 器高 4.0	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙~黒褐	成形はややいびつで器肉厚い。内面の全面及び口縁部外面は横方向の撫で。外面体~底部はヘラ削り。	
5 114 No0670	土師器 杯	4号竪穴 完形	口径 10.8 底径 — 器高 4.5	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙~暗褐	成形はいびつで器肉厚い。内面の全面及び外面口縁部は横方向の撫で。外面体~底部は粗いヘラ削り。	
6 114 No0672	土師器 杯	4号竪穴 略完形	口径 10.0 底径 — 器高 4.8	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙~暗褐色	器肉厚く、内面全面及び外面口縁部に横方向の撫で、外面体~底部はヘラ削り。	
7 114 No0668	土師器 杯	4号竪穴 略完形	口径 11.0 底径 — 器高 4.0	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙~暗褐	成形はいびつで器肉厚い。内面及び口縁部内外面は横方向の撫で。外面体~底部はヘラ削り。内面にわずか黒色付着物有り。	
8 114 No0671	土師器 杯	4号竪穴 略完形	口径 11.2 底径 — 器高 4.1	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙~暗褐色	成形はややいびつで器肉厚い。内面口縁~体部及び外面口縁部は横方向の撫で。外面体~底部は粗いヘラ削り。	
9 114 No0669	土師器 杯	4号竪穴 完形	口径 10.4 底径 — 器高 4.4	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙~橙色	成形はややいびつで器肉厚い。内面の全面と外面口縁部は横方向の撫で。外面体~底部はヘラ削り。	
10 114 No0673	土師器 杯	4号竪穴 略完形	口径 12.0 底径 — 器高 5.2	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙~黒褐色	成形はややいびつで器肉厚い。内面の全面及び外面口縁部は横方向の撫で、外面体~底部はヘラ削り。	



### 第3章 検出遺構と遺物

#### 4号竪穴遺構

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
11 114 No0681	土師器 杯	4号竪穴 口縁～底部 1/2	口径 11.8 底径 — 器高 4.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～暗褐色	成形はややいびつ。器肉厚い。内面及び口縁部内外面は共に横方向の撫で。外面体～底部はへら削り。	
12 114 No0682	土師器 杯	4号竪穴 口縁～底部 1/2弱	口径(11.1) 底径 — 器高(4.9)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色～暗褐色	器肉厚く、内面口縁～体部及び外面口縁部は横方向の撫で、外面体～底部はへら削り。	
13 114 No0675	土師器 杯	4号竪穴 口縁～体部 1/2弱	口径(10.6) 底径 — 器高(4.1)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～暗褐色	器肉厚く、内面口縁～体部及び外面口縁部は横方向の撫で、外面体～底部は粗いへら削り。	
14 114 No0674	土師器 杯	4号竪穴 口縁～底部 3/5	口径 10.2 底径 — 器高(4.2)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～暗褐色	成形はややいびつ。器肉厚い。内面及び口縁部内外面共に横方向の撫で。外面体～底部はへら削り。	
15 114 No0680	土師器 杯	4号竪穴 完形	口径 12.8 底径 — 器高 4.3	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色～暗褐色	口縁部は内外面共に横方向の撫で、外面底部はへら削り後にへら撫で、内面は撫での後に放射状へら磨きを施す。口縁部に磨減が著しい。	
16 114 No0676	土師器 杯	4号竪穴 口縁～底部 1/2強	口径 13.6 底径 — 器高 4.4	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色～黒褐色	内面の全面及び外面口縁部は横方向の撫で、外面底部はへら削り後に粗いへら撫で。器肉やや厚い。	
17 114 No0677	土師器 杯	4号竪穴 口縁～底部 破片	口径(14.8) 底径 — 器高(4.0)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色～黒褐色	内面の全面及び口縁部内外面は横方向の撫で、外面底部はへら削り後に撫で。口縁部外面に棒状工具により横方向の沈線を施す。	
18 114 No0678	土師器 甔か	4号竪穴 口縁～胴部 上位破片	口径(13.8) 底径 — 器高(7.0)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色～赤色	口縁部内外面は共に粗い撫で、胴部は内外面共にへら削り後に粗いへら撫で。	
19 114 No0679	土師器 壺	4号竪穴 底部破片	口径 — 底径 9.2 器高(3.4)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色～黒褐色	内面底部は撫で、底部外面は棒状工具により木葉痕を施す。	
20 114 No0685	土師器 甕	4号竪穴 胴部～底部	口径 — 底径 4.3 器高(25.8)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～暗褐色	内面胴～底部はへら撫で。外面胴部は縦方向のへら削り、外面底部付近は横方向のへら削り。	

## 第2項 井戸跡

### 1号井戸跡 (第142図、写真図版53)

位置：D-00Uグリッド付近

形状・規模：遺構確認面における平面形状は、径約1.2mの円形を呈し、上面のみ東側に1m程張り出す。断面形状は巾120cm～150cm、深さ4.4mを測る円筒形を呈する。

湧水層：深さ3.5m～3.8m付近の粘性土上の層。冬季調査のためか、調査時の湧水はない。

出土遺物：埋土中より桶側板・自然礫を出土。

重複：87号(旧称Ⅲ区12号)土坑と重複し、埋土の状態より本井戸の方が古いものと判断される。

所見：本井戸は、開口部等の形状より井戸杵を持たない素掘りの井戸であり、上部構造物をも持たず、東側より桶を縄により引き上げて使用し、また、底面北側に二次的な掘削の痕跡を有することから、長期間に渡り使用されたものと考えられる。

### 2号井戸跡 (第142・148図、写真図版53・134)

位置：C-06Uグリッド付近

形状・規模：平面形状は径210cm×250cmを測る楕円形を呈し、断面形状は巾1.0m～2.5m、深さ2.9mを測る朝顔型を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：上層より自然礫・羽口が出土する。

重複：上面において土坑と重複し、埋土の状態より本井戸の方が新しいものと判断される。

所見：本井戸は、その形状等より井戸杵を持たない素掘りの井戸と考えられる。

### 3号井戸跡 (第142図、写真図版53・134)

位置：C-08Rグリッド付近

形状・規模：平面形状は径220cm×250cmを測る楕円形を呈し、断面形状は巾60cm～250cm、深さ520cmを測り、中段部が膨らむ朝顔形を呈する。

湧水層：深さ4.2m付近の灰褐色土層。

出土遺物：中層より石臼が、下層より桶が出土する。

重複：なし。

所見：深さ4.5m以下は、二次的な掘り増しによるもので、中位の井壁は幾度かの崩落があったものと考えられる。

### 4号井戸跡 (第142・148図、写真図版53・134・144)

位置：C-07Vグリッド付近

形状・規模：上面の平面形状は径170cmの円形を呈し、中位以下は径1.3m程の隅丸方形を呈する。断面形状は、巾50cm～150cm、深さ330cmを測る朝顔形を呈し、深さ250cm付近が膨らむ。

湧水層：なし。

出土遺物：上層より自然礫、中層より砥石、下層より内耳鍋等が出土する。

重複：54号住居跡と重複し、埋土の状態より本井戸の方が新しいものと判断される。

所見：多量の粘性土の小ブロックを埋土中に含むことから、付近の井戸の掘削時に人為的に埋め戻されたものと考えられる。

### 5号井戸跡 (第142・148図、写真図版54・134)

位置：C-20Wグリッド付近

形状・規模：上面の形状は、径250cm×300cm程を測る楕円形を呈し、断面形状は巾40cm～300cm、深さ490cmを測る朝顔形を呈し、中位が膨らむ。

湧水層：深さ4.6m付近の灰褐色土層。

出土遺物：上位より板碑片、中位より石鉢片等が出土する。

重複：9号住居跡と重複し、埋土の状態より本井戸の方が新しいものと判断される。

所見：多量の粘性土の小ブロックを埋土中に含むことから、付近の井戸(6号井戸か)の掘削時に人為的に埋め戻されたものと考えられる。

### 6号井戸跡 (第142・149図、写真図版54・134)

位置：C-20Wグリッド付近

形状・規模：平面形状は径1.5m～1.7mを測る円形を呈し、断面形状は巾50cm～170cm、深さ460cmを測

### 第3章 検出遺構と遺物

る筒型を呈し、中位がやや膨らむ。

**湧水層**：深さ4.4m程の砂質土層。

**出土遺物**：上～中層より瓦片、中～下層より内耳鍋片・漆塗り椀が出土し、底面付近より自然木が多数出土する。

**重複**：9号住居跡と重複し、埋土の状態より本井戸の方が新しいものと判断される。

**所見**：調査時の冬季においても、深さ4.25mの所まで水位を保つ。近接する5号井戸より新しいものと考えられる。

#### 7号井戸跡 (第142・149図、写真図版54・134・144)

**位置**：C-04Vグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は、径221cm×215cmを測る円形を呈する。断面形状及び深度については、調査記録の不備、または記録の紛失のため不明である。

**湧水層**：不明。

**出土遺物**：上層より茶臼下臼・石臼片が出土する。

**重複**：34号住居跡と重複し、確認面の埋土の状況により、本井戸の方が新しいものと判断される。

**所見**：断面形状及び深度に関する記録不備のため明らかでないことが多い。

#### 8号井戸跡 (第143・150・151図、写真図版54・135・145)

**位置**：C-02Xグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は上面では径180cm×200cm、中位以下は径60cm～100cmを測る円形を呈し、断面形状は深さ280cmを測る朝顔形を呈する。

**湧水層**：確認面下260cm付近の小礫混じりの砂質層。

**出土遺物**：上～中位にて径20cm～50cm程の自然礫を38個、石臼・砥石・内耳鍋・陶磁器・板碑片等が出土する。

**重複**：3号・4号溝と重複し、埋土の状態より本井戸の方が新しいものと判断される。

**所見**：井戸の中位から底面にかけての出土遺物が少なく、井戸の掘削時には溝が完全に埋没しておらず、同時存在していた可能性が高い。

#### 9号井戸跡 (第143・152図、写真図版54・135)

**位置**：C-01Vグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は上面において径170cm×200cmを測る楕円形を、中位以下においては径50cm～150cmを測る円形を呈する。断面形状は深さ3.1mを測る朝顔形を呈し、中位がややえぐれる。

**湧水層**：不明。

**出土遺物**：馬骨(下顎)・内耳鍋片・石臼片等が出土する。

**重複**：5号溝並びに52号住居跡と重複し、埋土の状態から両遺構より新しいものと判断される。

**所見**：埋土の状態より、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

#### 10号井戸跡 (第143・152図、写真図版54・135)

**位置**：C-02Vグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は径70cm程を測る円形を呈し、断面形状は深さ370cmを測る筒形を呈する。

**湧水層**：深さ210cm～280cm地点の青灰色粘性土。

**出土遺物**：上層より石臼片・内耳鍋片、中～下層より自然木・自然石を出土する。

**重複**：4号溝と重複し、新旧関係は不明。

**所見**：湧水層までは自然堆積・崩落により埋まり、上層は人為的に埋め戻されたものと考えられる。

#### 11号井戸跡 (第143・152・153図、写真図版55・135)

**位置**：C-03Tグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は、上面では径270cm、中位では100cm程を測る円形を呈し、断面形状は深度4.1mを測る朝顔形を呈する。

**湧水層**：深度3.8m程の砂質土。湧水量は比較的少ない。

**出土遺物**：中層より茶臼片・椀等が出土する。

**重複**：4号溝と重複し、新旧関係は不明。

**所見**：確認面の井戸外周に径20cm程のピット列が巡ることから、上屋等の上部構造物の存在が推察される。また、埋没は埋土の状態より崩落と自然堆積によるものと考えられる。

12号井戸跡 (第143図、写真図版55)

位置：C-01Qグリッド付近

形状・規模：平面形状は、上面では径150cm×200cm程を測る楕円形を呈し、下方は径85cm程を測る隅丸方形形状を呈する。また、断面形状は深度5.5m程を測る朝顔形を呈し、中位がえぐれ、膨らむ。

湧水層：深度530cm程の小礫混じりの青灰色シルト質土層。湧水量は比較的少ない。

出土遺物：下層より桶底板および桶側板が出土する。

重複：5号溝と重複し、新旧関係は明らかではない。

所見：本井戸は、埋土の状態より、崩落と自然堆積により埋没したものと考えられる。

14号井戸跡 (第143・153図、写真図版55・135)

位置：B-12Rグリッド付近

形状・規模：平面形状は径100cm程を測る円形を呈し、断面形状は深度80cm程を測る円筒形を呈する。

湧水層：なし。

出土遺物：上層より凹石が出土する。

重複：なし。

所見：深度が浅く、井戸としての機能を有するか否か不明であるが、台地縁辺に位置し水位は高い。

15号井戸跡 (第143図、写真図版55)

位置：B-14Sグリッド付近

形状・規模：平面形状は径90cm程を測る円形を呈し、断面形状は深度74cm程を測る円筒形を呈する。

湧水層：なし。

出土遺物：特筆する遺物の出土は見られない。

重複：なし。

所見：深度が浅く、井戸としての機能を有するか否か不明であるが、台地縁辺に位置し水位は高い。

16号井戸跡 (第144図、写真図版55)

位置：B-15Sグリッド付近

形状・規模：平面形状は、上面では径90cm×135cmを測る楕円形を呈し、下位では径40cm程の円形を呈す

る。断面形状は、深度115cmを測る朝顔形を呈する。

湧水層：なし。

出土遺物：特筆する遺物の出土は見られない。

重複：倒木跡と重複し、新旧関係は本井戸の方が新しいものと判断される。

所見：低湿地に向かう台地縁辺部に位置し、深度は浅いものの、取水は可能である。

17号井戸跡 (第144・154図、写真図版56・136・145)

位置：B-15Vグリッド付近

形状・規模：平面形状は確認面では径119cm×150cmを測る楕円形を呈し、中位以下では径70cm程を測る円形を呈する。断面形状は深度370cmを測り、上部が朝顔形を呈し、中位以下は円筒形を呈する。

湧水層：深度270cm付近の青灰色粘質土。

出土遺物：上層より自然石が90個、中位以下で桶側板および底板・石白片・板碑等が出土する。

重複：なし。

所見：埋土の状態より、埋没は崩落と自然堆積によるもので、出土する自然石の量から、上部のみに石積みの井戸側を有していたものと考えられる。

18号井戸跡 (第144図、写真図版56)

位置：C-07Qグリッド付近

形状・規模：平面形状は112cm×121cmを測る円形を呈し、断面形状は深度240cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：なし。

出土遺物：上層より中層にかけて自然石が15個程出土する。

重複：36号住居跡と重複し、確認面よりの埋土の状態より本井戸の方が古いものと判断される。

所見：下層は自然堆積による埋没で、中層以上は人為的な埋め戻しによる埋没と考えられる。

19号井戸跡 (第144・155～157図、写真図版56・136・145)

位置：C-14Yグリッド付近

形状・規模：平面形状は234cm×272cmを測る楕円形を呈し、断面形状は、深度480cmを測る円筒形を呈す

### 第3章 検出遺構と遺物

る。

**湧水層**：深度440cm付近の砂質層より湧水。

**出土遺物**：上層より陶磁器片・内耳鍋片・砥石・五輪塔空風輪などが出土し、中位以下での遺物の出土は見られない。

**重複**：3号溝と重複し、新旧関係は明らかではない。

**所見**：埋土の状況より、自然堆積による埋没と考えられる。

#### 20号井戸跡 (第144図、写真図版56)

**位置**：C-03Tグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は、180cm×186cm程を測る隅丸方形を呈し、断面形状は深度300cm程を測る円筒形を呈する。

**湧水層**：なし。

**出土遺物**：なし。

**重複**：4号溝・11号井戸と重複し、新旧関係は不明である。

**所見**：平面形状から上方には方形の井戸枠があったものと考えられる。また、埋土の状況から、下方は自然堆積、上方は人為的な埋め戻しによる埋没と考えられる。

#### 21号井戸跡 (第144・157図、写真図版56・57・136・137)

**位置**：C-11Uグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は、142cm×146cmを測る隅丸方形を呈し、断面形状は深度360cmを測る円筒形を呈し、中位がややえぐれる。

**湧水層**：深度340cm付近の青灰色粘質土。

**出土遺物**：上層より自然石・内耳鍋片・桶底板等が出土し、中位より板碑片、下層より黒鞘付きの小刀が出土する。

**重複**：43号住居跡と重複し、埋土より本井戸の方が新しいものと判断される。

**所見**：下層は崩落と自然堆積による埋没で、上層は人為的な埋め戻しによる埋没と考えられる。

#### 22号井戸跡 (第144・158図、写真図版57・137・145)

**位置**：B-09Vグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は、径168cm×146cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度240cmを測る朝顔形を呈する。

**湧水層**：湧水点はなく、全体ににじみ出る。

**出土遺物**：上層から中層にて自然石が5個出土する。

**重複**：なし。

**所見**：埋没は、埋土の状況から、崩落と自然堆積によるものと考えられる。

#### 23号井戸跡 (第144・158図、写真図版57・137)

**位置**：B-07Tグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は、径180cm×184cmを測る隅丸方形を呈し、断面形状は深度100cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層**：なし。

**出土遺物**：特筆する遺物の出土は見られない。

**重複**：7号・8号土坑と重複し、埋土の状況より本井戸の方が古いものと判断される。

**所見**：低湿地にかかる所に位置し、深度は浅いものの、取水は可能。

#### 24号井戸跡 (第145・158図、写真図版57・137)

**位置**：B-05Uグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は、上面では径108cm×150cmを測る楕円形を呈し、中位以下では径70cm強を測る円形を呈する。断面形状は、深度110cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層**：なし。

**出土遺物**：特筆すべき出土遺物なし。

**重複**：なし。

**所見**：低湿地にかかる所に位置し、深度は浅いものの、取水は可能。

#### 25号井戸跡 (第145図、写真図版57)

**位置**：C-14Wグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は径248cm×226cmを測る円形を呈し、東側に張り出しを持つ。断面形状は、深度480cmを測る円筒形を呈し、中位がややえぐれる。

**湧水層**：深度470cm付近の砂質土層。

**出土遺物**：上層で自然石を20個、中層より五輪塔及びほぞ穴をもつ木製品が出土する。

**重複**：15号住居跡と重複し、埋土の状態より本井戸の方が新しいものと判断される。

**所見**：中層以下は崩落と自然堆積による埋没で、上層は人為的な埋め戻しによる埋没と考えられる。

#### 26号井戸跡 (第145図、写真図版57)

**位置**：C-11Tグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は径110cm×114cmを測る隅丸方形を呈し、断面形状は深度290cmを測る円筒形を呈し、下方がややえぐれる。

**湧水層**：不明。

**出土遺物**：上から中層にかけて、自然石7個出土する。

**重複**：43号住居跡と重複し、埋土の状態より本井戸の方が新しいものと判断される。

**所見**：下層は崩落土と自然堆積土による埋没、上層は人為的な埋め戻しによる埋没と考えられる。

#### 27号井戸跡 (第145図、写真図版57・58)

**位置**：B-05Tグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は径72cmを測る円形を呈し、断面形状は深度140cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層**：なし。

**出土遺物**：特筆すべき出土遺物は見られない。

**重複**：なし。

**所見**：深度は浅いものの、低湿地部にさしかかる所に位置し、取水は可能。

#### 28号井戸跡 (第145図)

**位置**：C-16Wグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は、径285cm×275cmを測る円形を呈し、断面形状は深度500cmを測る朝顔形を呈

し、中位がややえぐれる。

**湧水層**：深度475cm付近の砂質層より湧水。

**出土遺物**：上～中層にて自然石13個、下層より五輪塔火輪が出土する。

**重複**：なし。

**所見**：埋土下層には僅かに崩落土が、中層は人為的な埋め戻しによる埋没が考えられる。また、崩落の痕跡の割には底部の土砂の堆積が少なく、使用時に良く井戸替を行っていたものと考えられる。

#### 29号井戸跡 (第145図、写真図版58)

**位置**：C-04Sグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は、径124cm×114cmを測る隅丸方形を呈し、断面形状は深度230cmを測る朝顔形を呈する。

**湧水層**：不明。

**出土遺物**：特筆すべき出土遺物は見られない。

**重複**：31号住居跡と重複する。

**所見**：台地上に位置し、中世居館の副郭部に当たる。

#### 30号井戸跡 (第145・158図、写真図版58・137)

**位置**：B-17Tグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は、径132cm×167cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度120cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層**：不明。

**出土遺物**：焼締陶器甕・小刀が出土する。

**重複**：なし。

**所見**：台地縁辺部に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

#### 31号井戸跡 (第145図、写真図版58)

**位置**：B-16Uグリッド付近

**形状・規模**：平面形状は、径230cm×218cmを測る円形を呈し、断面形状は深度140cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層**：不明。

**出土遺物**：特筆すべき出土遺物は見られない。

### 第3章 検出遺構と遺物

重複：なし。

所見：台地縁辺部に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

#### 32号井戸跡 (第145・158図、写真図版58・137)

位置：B-14Tグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径123cm×165cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度90cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：鉄製鏝が出土する。

重複：なし。

所見：台地縁辺部に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

#### 33号井戸跡 (第145図、写真図版58)

位置：B-14Rグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径100cm×110cmを測る円形を呈し、断面形状は深度60cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：特筆すべき出土遺物は見られない。

重複：なし。

所見：台地縁辺部に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

#### 34号井戸跡 (第146図、写真図版58)

位置：B-16Tグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径93cm×88cmを測る円形を呈し、断面形状は深度80cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：特筆すべき出土遺物は見られない。

重複：なし。

所見：台地縁辺部に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

#### 35号井戸跡 (第146図、写真図版59)

位置：B-14Qグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径173cm×145cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度70cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：特筆すべき出土遺物は見られない。

重複：なし。

所見：台地縁辺部に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

#### 36号・37号井戸跡 (第146・158・159図、写真図版59・137)

位置：B-17Uグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径170cm×296cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度90cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：埋土内より古銭・陶磁器片・砥石等が出土する。

重複：井戸同士の重複。

所見：台地縁辺部に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

#### 38号井戸跡 (第146・159図、写真図版59・137)

位置：B-15Uグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径120cm×178cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度120cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：埋土内より石臼(上臼)片が出土する。

重複：なし。

所見：台地縁辺部に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

#### 39号井戸跡 (第146図、写真図版59)

位置：B-11Vグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径85cm×134cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度90cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：不明。



**出土遺物：**特筆すべき出土遺物は見られない。

**重複：**なし。

**所見：**台地縁辺から低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**40号井戸跡** (第146図、写真図版59)

**位置：**B-11Wグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径100cm×90cmを測る隅丸方形を呈し、断面形状は深度100cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**埋土内より凹石が出土する。

**重複：**41号井戸跡と重複し、新旧関係は不明。

**所見：**台地縁辺から低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**41号井戸跡** (第146・159図、写真図版59・137)

**位置：**B-11Wグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径130cm×122cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度70cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**埋土内より板碑片・砥石が出土する。

**重複：**40号井戸跡と重複し、新旧関係は不明。

**所見：**台地縁辺から低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**42号井戸跡** (第146・159～161図、写真図版59・137・138・145)

**位置：**B-11Xグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径82cm×78cmを測る円形を呈し、断面形状は深度110cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**埋土内より茶臼(下臼)・内耳鍋・砥石・石鉢等が出土する。

**重複：**なし。

**所見：**台地縁辺から低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**43号井戸跡** (第146図、写真図版60)

**位置：**C-08Vグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径120cm×148cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度110cmを測る朝顔形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**特筆すべき出土遺物は見られない。

**重複：**なし。

**所見：**台地上に位置し、中世居館内に位置する。

**44号井戸跡** (第146・161図、写真図版60・138)

**位置：**B-10Tグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径218cm×168cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度150cmを測る朝顔形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**埋土より凹石が出土する。

**重複：**6号溝と重複し、新旧関係は不明。

**所見：**台地縁辺から低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**45号井戸跡** (第146・161・162図、写真図版60・138)

**位置：**B-03Tグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径152cm×150cmを測る円形を呈し、断面形状は深度230cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**埋土より石臼(上臼)が出土する。

**重複：**11号溝と重複し、新旧関係は不明。

**所見：**台地縁辺から低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**46号井戸跡** (第146・162図、写真図版60・138)

**位置：**B-04Yグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径96cm×130cmを測る円形を呈し、断面形状は深度120cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層：**不明。

### 第3章 検出遺構と遺物

**出土遺物：**埋土より瓦・土製円盤等が出土する。

**重複：**なし。

**所見：**台地縁辺から低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**47号井戸跡** (第146・162～164図、写真図版60・61・138・145)

**位置：**A-24Yグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径164cm×194cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度240cmを測る朝顔形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**埋土より石臼・石鉢・砥石・桶・瓦等が出土する。

**重複：**なし。

**所見：**低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**48号井戸跡** (第146図、写真図版61)

**位置：**A-21Yグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径90cm×106cmを測る円形を呈し、断面形状は深度290cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**特筆すべき出土遺物は見られない。

**重複：**なし。

**所見：**低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**49号井戸跡** (第147図、写真図版61)

**位置：**B-22Zグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径114cm×106cmを測る円形を呈し、断面形状は深度80cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**特筆すべき出土遺物は見られない。

**重複：**なし。

**所見：**低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**50号井戸跡** (第147・164図、写真図版61・139)

**位置：**B-03Uグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径84cm×98cmを測る円形を呈し、断面形状は深度80cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**陶磁器・火鉢・桶底板・漆椀・板碑等が出土する。

**重複：**11号溝と重複し、新旧関係は不明。

**所見：**低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**51号井戸跡** (第147・164図、写真図版61・139)

**位置：**B-09Wグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径94cm×114cmを測る隅丸方形を呈し、断面形状は深度80cmを測る朝顔形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**古銭・板碑等が出土する。

**重複：**なし。

**所見：**低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**52号井戸跡** (第147・165図、写真図版61・139)

**位置：**B-15Yグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径140cm×150cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度190cmを測る円筒形を呈する。

**湧水層：**不明。

**出土遺物：**砥石が出土する。

**重複：**なし。

**所見：**低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

**53号井戸跡** (第147・165図、写真図版62・139)

**位置：**B-03Vグリッド付近

**形状・規模：**平面形状は、径154cm×155cmを測る円形を呈し、断面形状は深度130cmを測る朝顔形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：五輪塔水輪部を転用した石鉢が出土する。

重複：11号溝と重複し、新旧関係は不明。

所見：低湿地に位置し、深度は浅いものの、一定水位は保つ。

55号井戸跡 (第147・165～168図、写真図版62・139)

位置：C-10Zグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径95cm×140cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度260cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：深度240cm付近の砂質土層より湧水。

出土遺物：上～中層にかけて内耳鍋片・瓦・陶磁器・板碑片・石臼片等が出土する。

重複：6号溝と重複し、新旧関係は明らかではない。

所見：調査時の3月においても一昼夜で確認面付近まで水位が上がる。埋没は崩落と自然堆積によるものと考えられる。

56号井戸跡 (第147・168図、写真図版62・140)

位置：B-00Sグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径218cm×218cmを測る円形を呈し、断面形状は深度250cmを測る朝顔形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：石臼(上臼)・桶底板等が出土する。

重複：なし。

所見：低湿地部に位置する。

57号井戸跡 (第147・168図、写真図版62)

位置：C-03Qグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径124cm×150cmを測る円形を呈し、断面形状は深度230cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：埋土内より土師質須恵器杯底部を転用した土製円盤が出土する。

重複：62号住居跡と重複し、確認面の状態より本井戸の方が新しいものと判断される。

59号井戸跡 (第147図、写真図版62)

位置：B-24Yグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径112cm×84cmを測る円形を呈し、断面形状は深度150cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：特筆すべき出土遺物は見られない。

重複：22号土坑跡と重複し、新旧関係は不明。

所見：深度は浅いものの、一定水位を保つ。

60号井戸跡 (第147図、写真図版62・140)

位置：B-23Tグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径110cm×116cmを測る円形を呈し、断面形状は深度140cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：埋土内よりかわらけ・石鉢等が出土する。

重複：なし。

61号井戸跡 (第147図、写真図版62)

位置：B-24Xグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径95cm×108cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度150cmを測る円筒形を呈する。

湧水層：不明。

出土遺物：特筆すべき出土遺物は見られない。

重複：なし。

所見：低湿地に位置し、深度は浅いものの一定水位を保つ。

62号井戸跡 (第147図)

位置：B-22Qグリッド付近

形状・規模：平面形状は、径78cm×84cmを測る円形を呈し、断面形状は深度110cmを測る円筒形を呈する。

第3章 検出遺構と遺物

湧水層：不明。

出土遺物：特筆すべき出土遺物は見られない。

重複：34号土坑と重複し、新旧関係は不明。

所見：低湿地に位置し、深度は浅いものの一定水位を保つ。

湧水層：不明。

出土遺物：特筆すべき出土遺物は見られない。

重複：なし。

63号井戸跡 (第147図)

位置：B-03Sグリッド付近

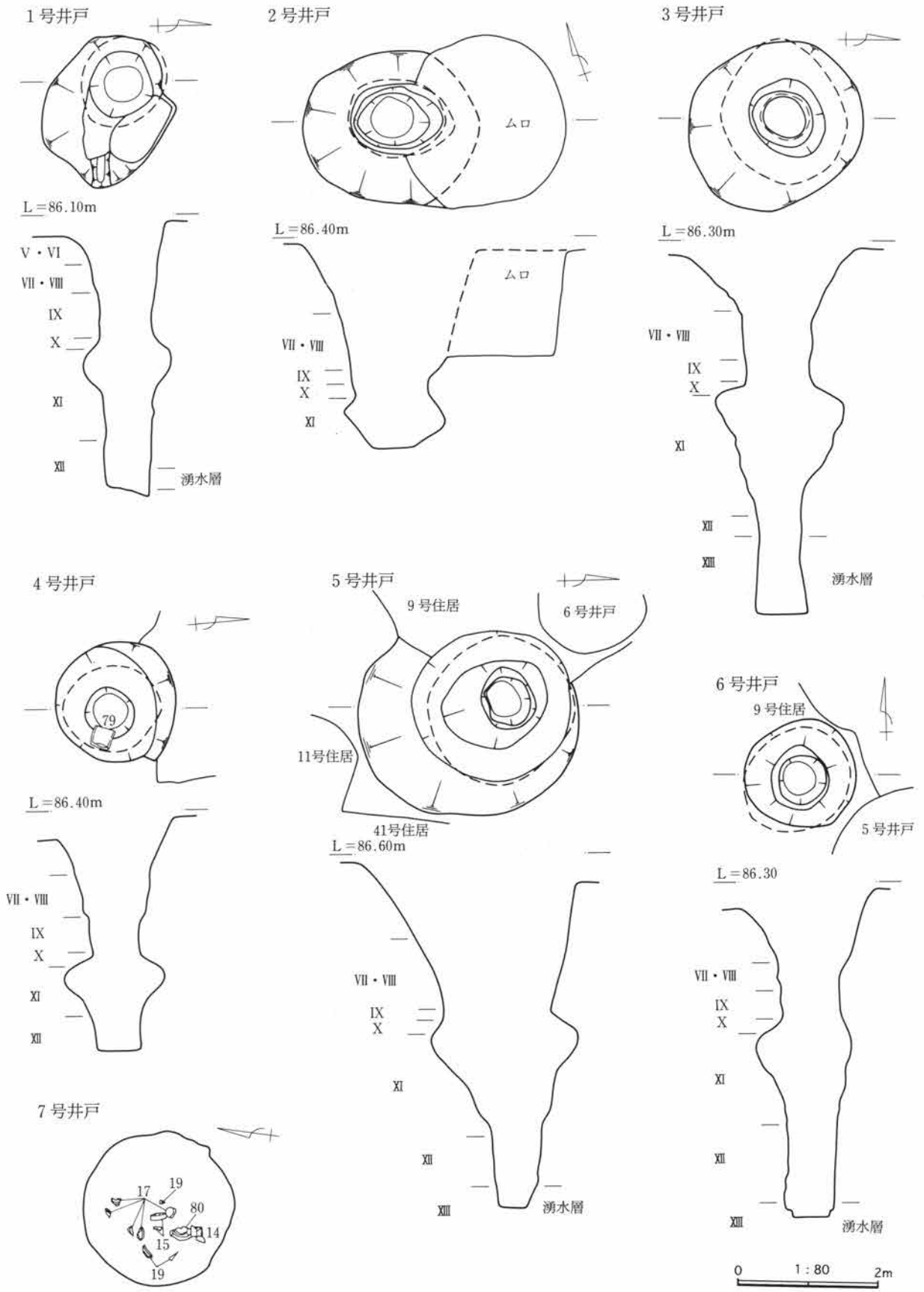
形状・規模：平面形状は、径106cm×156cmを測る楕円形を呈し、断面形状は深度260cmを測る円筒形を呈する。

井戸一覧表

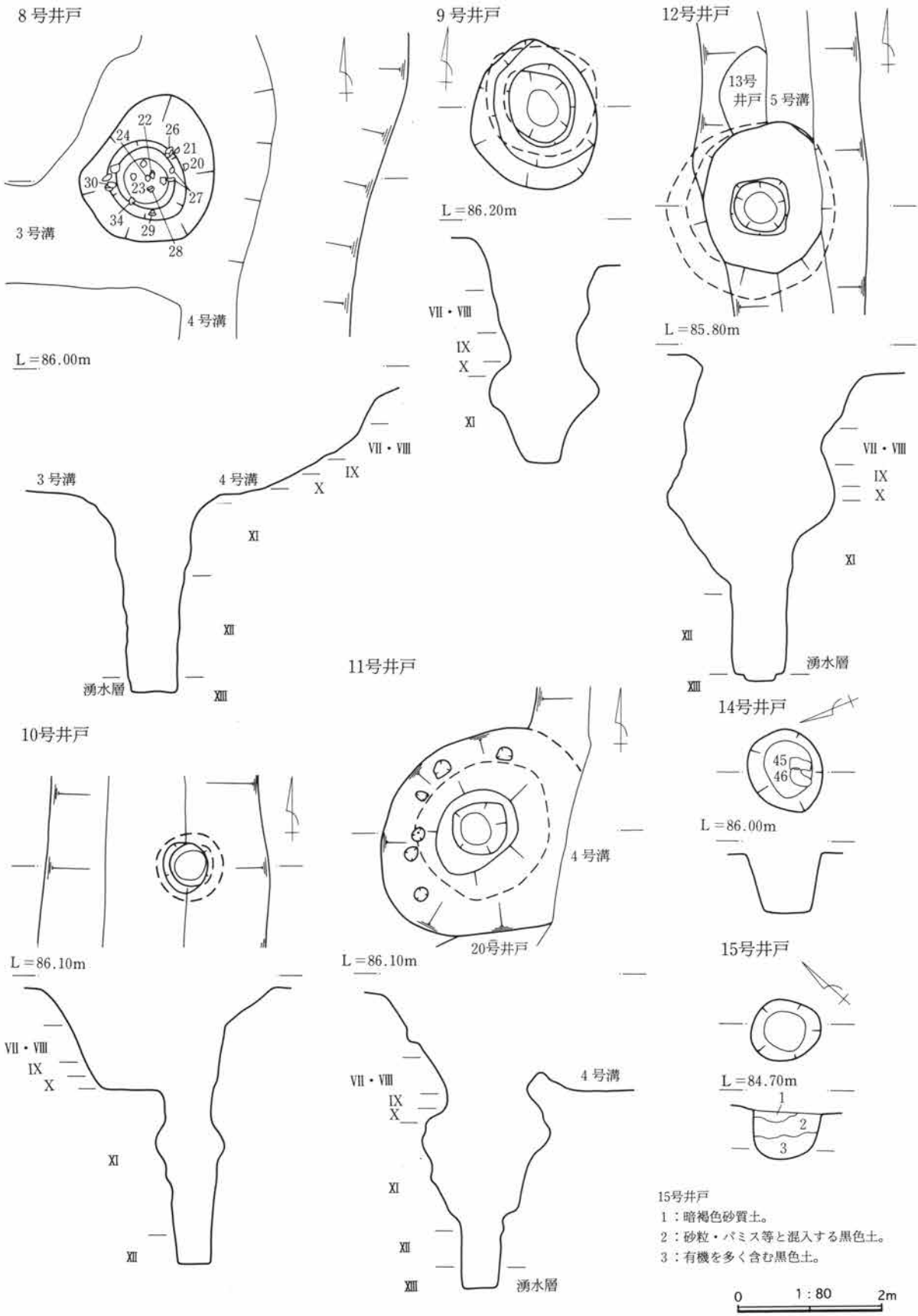
井戸番号	位置	平面形状	平面規模cm	断面形状	深 度	湧水深度	確認面標高	湧水標高	重複遺構
01号井戸	D-00U	円形・楕円形	212×190	円筒形	4.40m	3.50m	86.10m	82.60m	3区12号土坑
02号井戸	C-06S	楕 円 形	216×251	朝顔形	2.90m	不明	86.40m	不明	なし
03号井戸	C-08R	楕 円 形	245×249	朝顔形	5.20m	4.10m	86.30m	82.20m	なし
04号井戸	C-07V	円 形	169×170	朝顔形	3.30m	不明	86.40m	不明	54号住居
05号井戸	C-20W	楕 円 形	260×314	朝顔形	4.90m	4.60m	86.40m	81.80m	9号住居
06号井戸	C-20W	円 形	158×160	円筒形	4.60m	4.40m	86.30m	81.90m	9号住居
07号井戸	C-04V	円 形	221×215	不明					34号住居
08号井戸	C-02X	円形・楕円形	201×190	円筒形	2.80m	2.60m	86.00m	83.40m	3・4号溝
09号井戸	C-01V	円形・楕円形	206×180	朝顔形	3.10m	不明	86.20m	不明	5溝・52住
10号井戸	C-02V	円 形	93×95	円筒形	3.80m	2.10m	86.10m	84.00m	4号溝
11号井戸	C-03T	円形・楕円形	284×258	朝顔形	4.20m	3.80m	86.10m	82.30m	4溝・20井戸
12号井戸	C-01Q	円形・隅丸方形	245×235	朝顔形	3.20m	3.10m	85.80m	82.70m	5号溝
13号井戸	欠番								
14号井戸	B-12R	円形・楕円形	114×105	円筒形	0.80m	不明	86.00m	不明	なし
15号井戸	B-14S	円 形	84×94	円筒形	0.74m	不明	84.70m	不明	なし
16号井戸	B-15S	楕 円 形	90×135	朝顔形	1.15m	不明	85.00m	不明	倒木
17号井戸	C-15V	楕 円 形	119×150	朝顔形	3.70m	2.70m	84.40m	81.70m	なし
18号井戸	C-07Q	円 形	121×112	円筒形	2.40m	不明	86.20m	不明	36号住居
19号井戸	C-14Y	楕 円 形	234×272	円筒形	4.80m	4.40m	86.60m	82.20m	3号溝
20号井戸	C-03T	隅 丸 方 形	180×186	円筒形	3.00m	不明	85.90m	不明	4溝・11井戸
21号井戸	C-11U	隅 丸 方 形	142×146	円筒形	3.60m	3.40m	86.30m	82.90m	43号住居
22号井戸	B-09V	楕 円 形	168×146	朝顔形	2.40m	不明	84.40m	不明	なし
23号井戸	B-07T	隅 丸 方 形	184×180	円筒形	1.00m	不明	84.70m	不明	7・8号土坑
24号井戸	B-05U	円形・楕円形	108×150	円筒形	1.10m	不明	64.60m	不明	なし
25号井戸	C-14W	円 形	248×226	円筒形	4.80m	4.70m	86.60m	81.90m	15号住居
26号井戸	C-11T	隅 丸 方 形	110×114	円筒形	2.90m	不明	86.40m	不明	43号住居
27号井戸	B-05T	円 形	72×72	円筒形	1.40m	不明	84.60m	不明	なし
28号井戸	C-16W	円 形	285×275	朝顔形	5.00m	4.75m	86.60m	81.85m	なし

第3節 古墳時代以降

井戸番号	位置	平面形状	平面規模cm	断面形状	深 度	湧水深度	確認面標高	湧水標高	重複遺構
29号井戸	C-04S	隅丸方形	124×114	朝顔形	2.30m	不明	86.30m	不明	31号住居
30号井戸	B-17T	楕円形	132×167	円筒形	1.20m	不明	84.70m	不明	なし
31号井戸	B-16U	円形	230×218	円筒形	1.40m	不明	84.70m	不明	なし
32号井戸	B-14T	楕円形	123×165	円筒形	0.90m	不明	84.70m	不明	なし
33号井戸	B-14R	円形	100×110	円筒形	0.60m	不明	84.50m	不明	なし
34号井戸	B-16T	円形	93×88	円筒形	0.80m	不明	86.70m	不明	なし
35号井戸	B-14Q	楕円形	173×145	円筒形	0.70m	不明	84.30m	不明	なし
36号井戸	B-17U	楕円形	170×296	円筒形	0.90m	不明	84.80m	不明	なし
37号井戸	B-17U	楕円形		円筒形		不明		不明	
38号井戸	B-15U	楕円形	120×178	円筒形	1.20m	不明	84.60m	不明	なし
39号井戸	B-11V	楕円形	85×134	円筒形	0.90m	不明	84.50m	不明	なし
40号井戸	B-11W	隅丸方形	100×90	円筒形	1.00m	不明	84.50m	不明	41号井戸
41号井戸	B-11W	楕円形	130×122	円筒形	0.70m	不明	84.50m	不明	40号井戸
42号井戸	B-11X	円形	82×78	円筒形	1.10m	不明	84.60m	不明	なし
43号井戸	C-08V	楕円形	120×148	朝顔形	1.10m	不明	84.50m	不明	なし
44号井戸	B-10T	楕円形	218×168	朝顔形	1.50m	不明	84.60m	不明	6号溝
45号井戸	B-03T	円形	152×150	円筒形	2.30m	不明	84.20m	不明	11号溝
46号井戸	B-04Y	円形	96×130	円筒形	1.20m	不明	84.50m	不明	なし
47号井戸	A-24Y	楕円形	164×194	朝顔形	2.40m	不明	84.50m	不明	なし
48号井戸	A-21Y	円形	90×106	円筒形	2.90m	不明	84.80m	不明	なし
49号井戸	B-22Z	円形	114×106	円筒形	0.80m	不明	84.90m	不明	なし
50号井戸	B-03U	円形	84×98	円筒形	0.80m	不明	83.80m	不明	11号溝
51号井戸	B-09W	隅丸方形	94×114	朝顔形	0.80m	不明	84.40m	不明	なし
52号井戸	B-15Y	楕円形	140×150	円筒形	1.90m	不明	84.90m	不明	なし
53号井戸	B-03V	円形	155×154	朝顔形	1.30m	不明	84.40m	不明	11号溝
54号井戸	欠番								
55号井戸	C-10Z	楕円形	95×140	円筒形	2.60m	2.40m	84.80m	82.40m	6号溝
56号井戸	B-00S	円形	218×218	朝顔形	2.50m	不明	84.20m	不明	なし
57号井戸	C-03Q	円形・楕円形	124×150	円筒形	2.30m	不明	85.70m	不明	62号住居
58号井戸	欠番								
59号井戸	B-24Y	円形・楕円形	112×84	円筒形	1.50m	不明	85.50m	不明	22号土坑
60号井戸	B-23T	円形	110×116	円筒形	1.40m	不明	85.10m	不明	なし
61号井戸	B-24X	楕円形	95×108	円筒形	1.50m	不明	85.70m	不明	なし
62号井戸	B-22Q	円形	78×84	円筒形	1.10m	不明	85.10m	不明	34号土坑
63号井戸	B-03S	楕円形	106×156	円筒形	2.60m	不明	84.50m	不明	なし



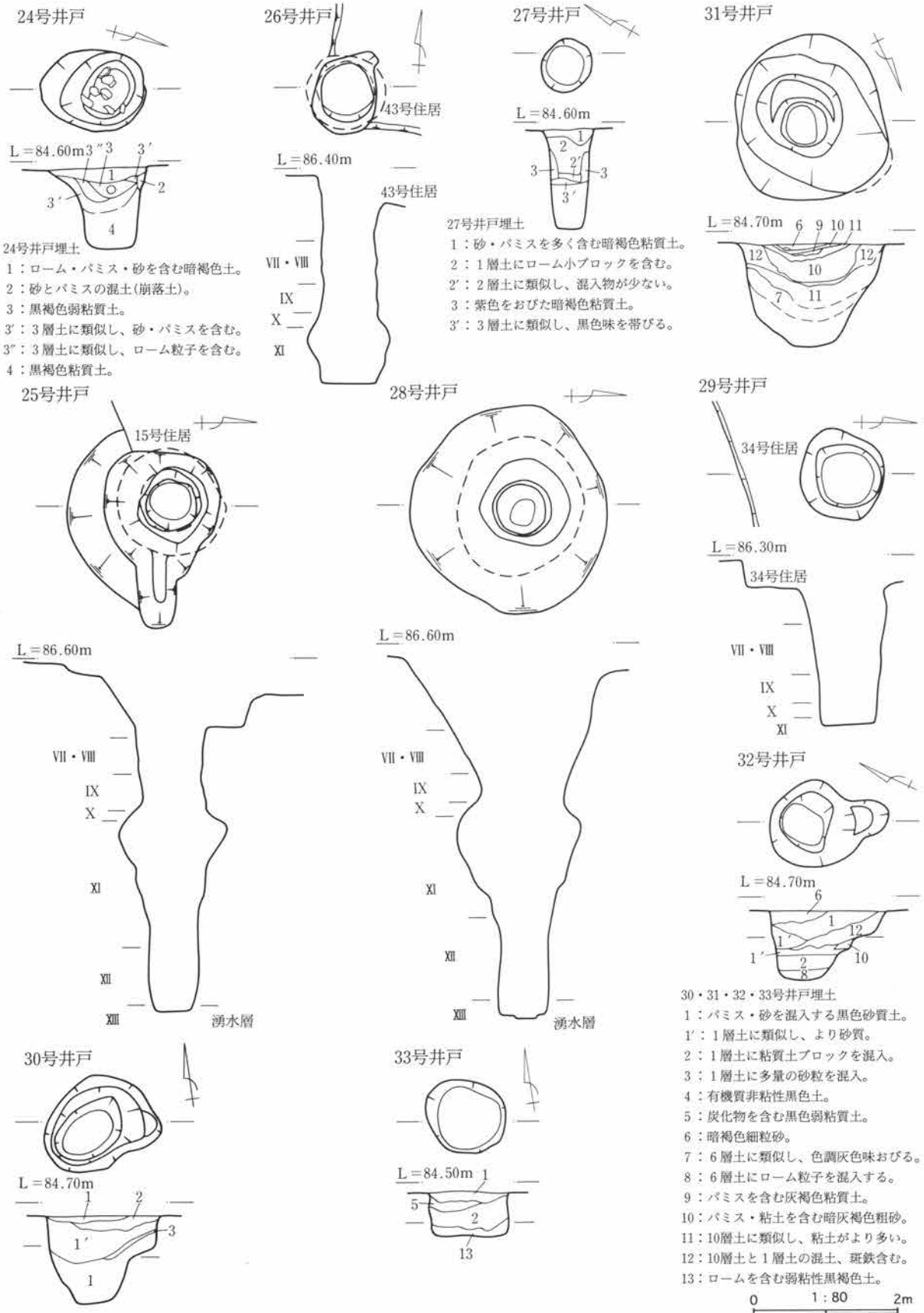
第142図 井戸跡



第143図 井戸跡

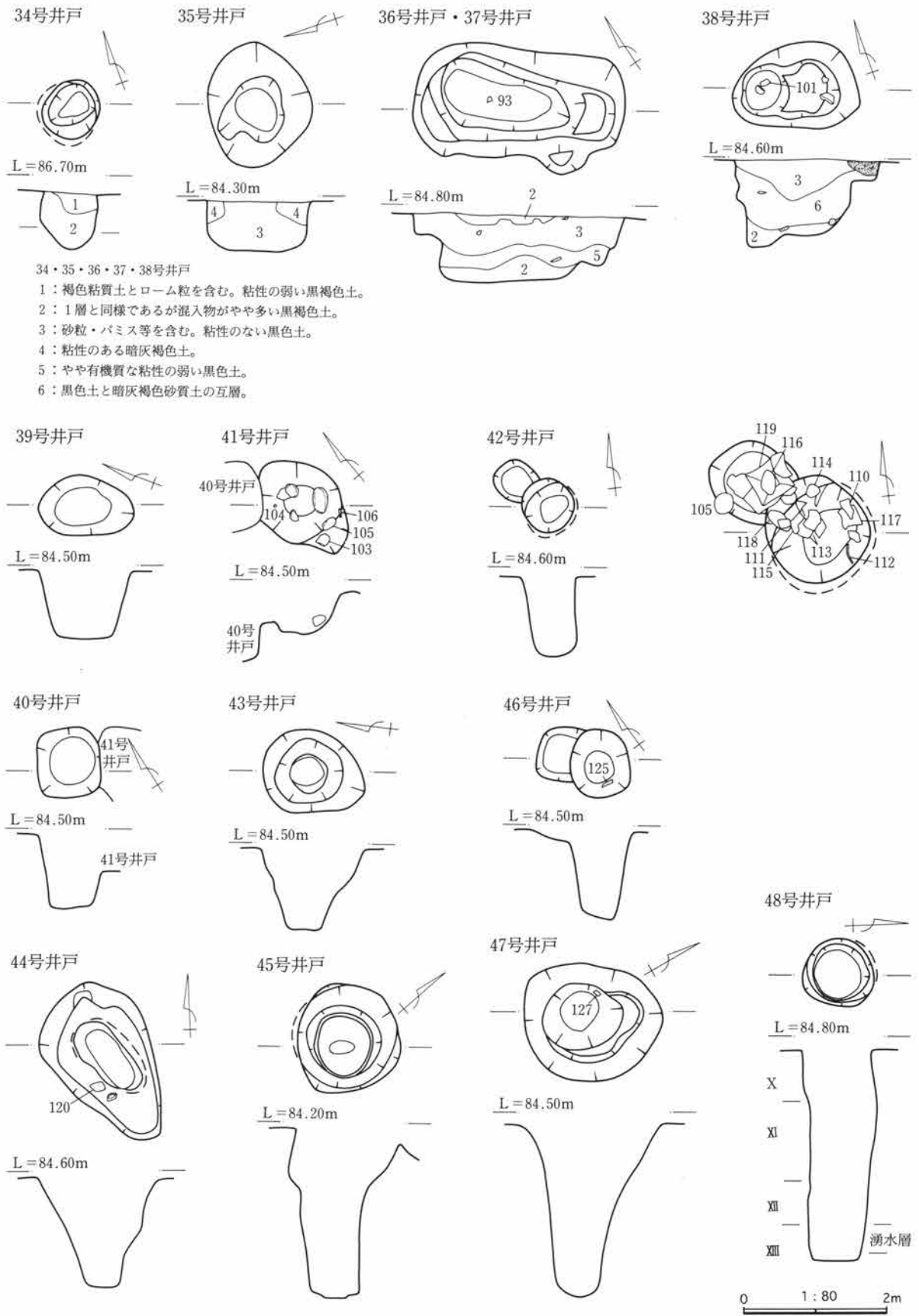




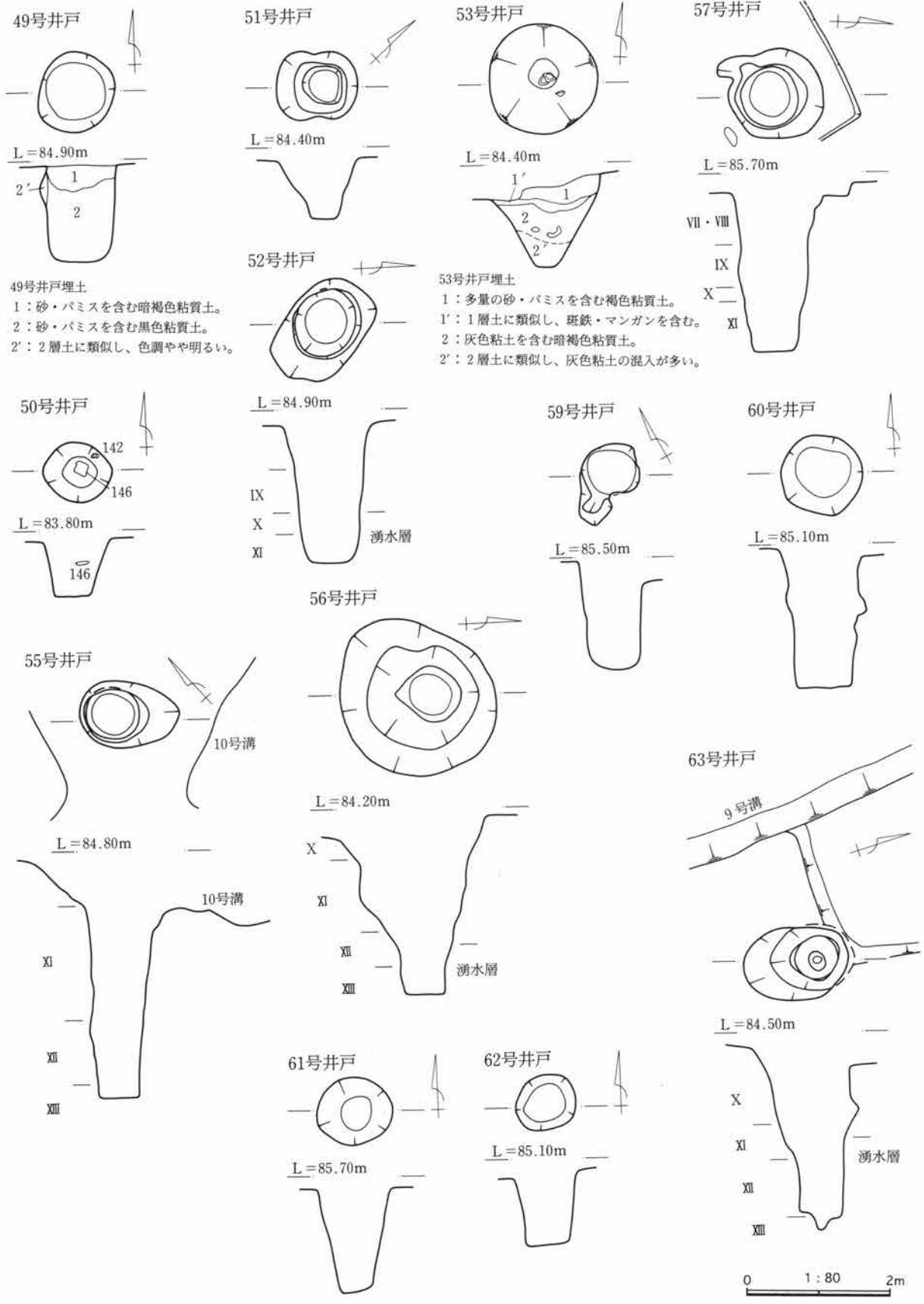


第145図 井戸跡

第3章 検出遺構と遺物



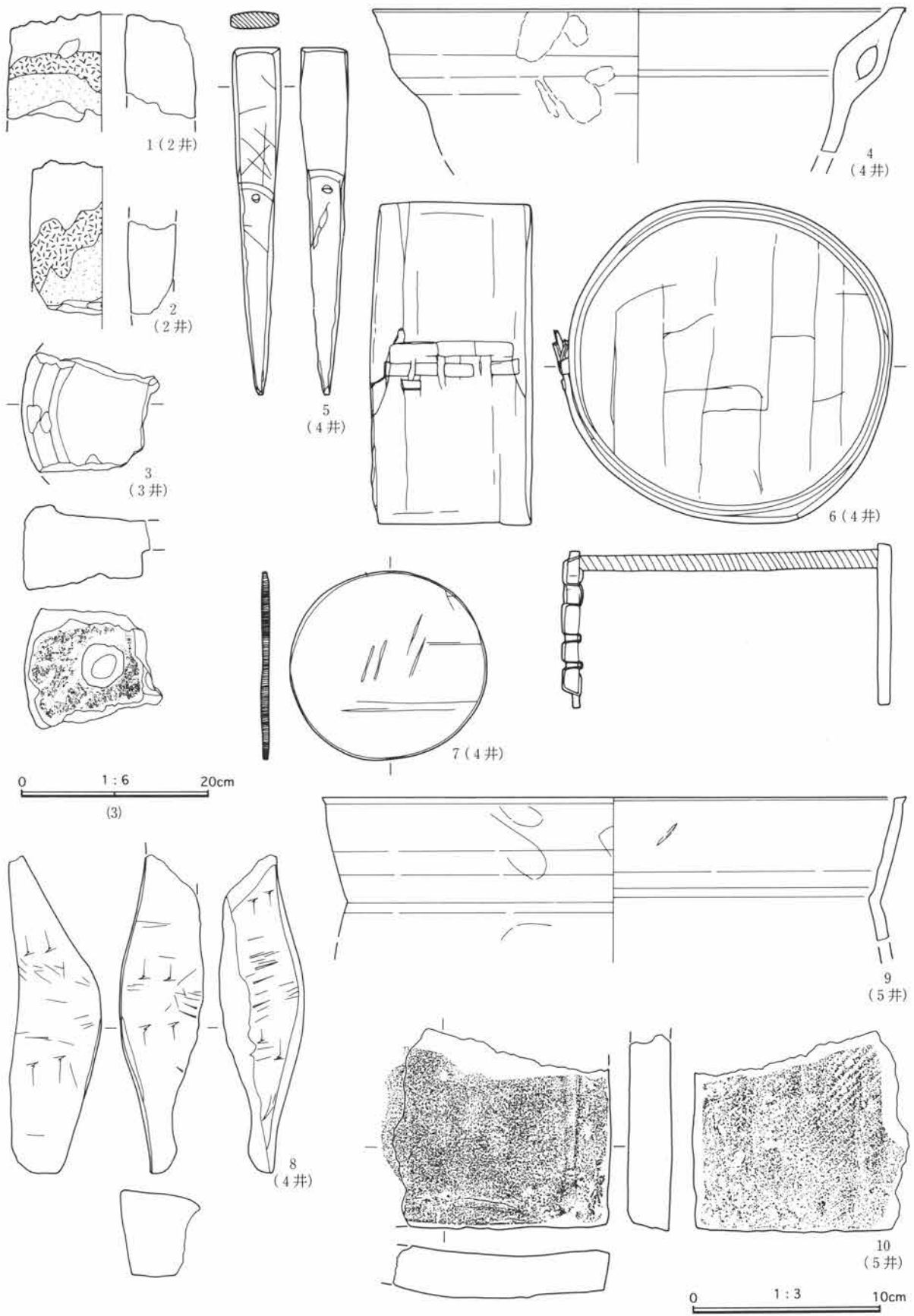
第146図 井戸跡



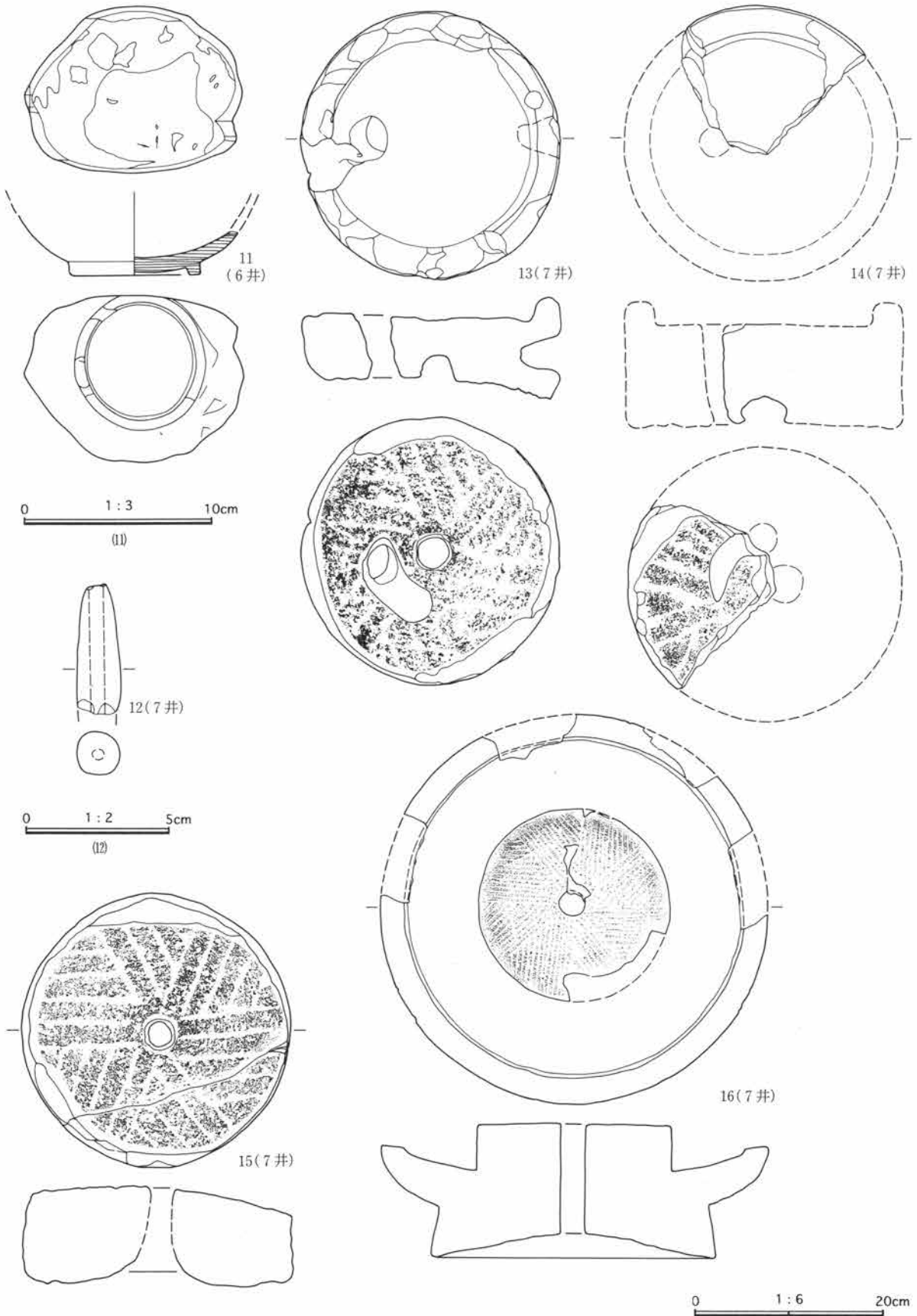
49号井戸埋土  
 1：砂・パミスを含む暗褐色粘質土。  
 2：砂・パミスを含む黒色粘質土。  
 2'：2層土に類似し、色調やや明るい。

53号井戸埋土  
 1：多量の砂・パミスを含む褐色粘質土。  
 1'：1層土に類似し、斑鉄・マンガンを含む。  
 2：灰色粘土を含む暗褐色粘質土。  
 2'：2層土に類似し、灰色粘土の混入が多い。

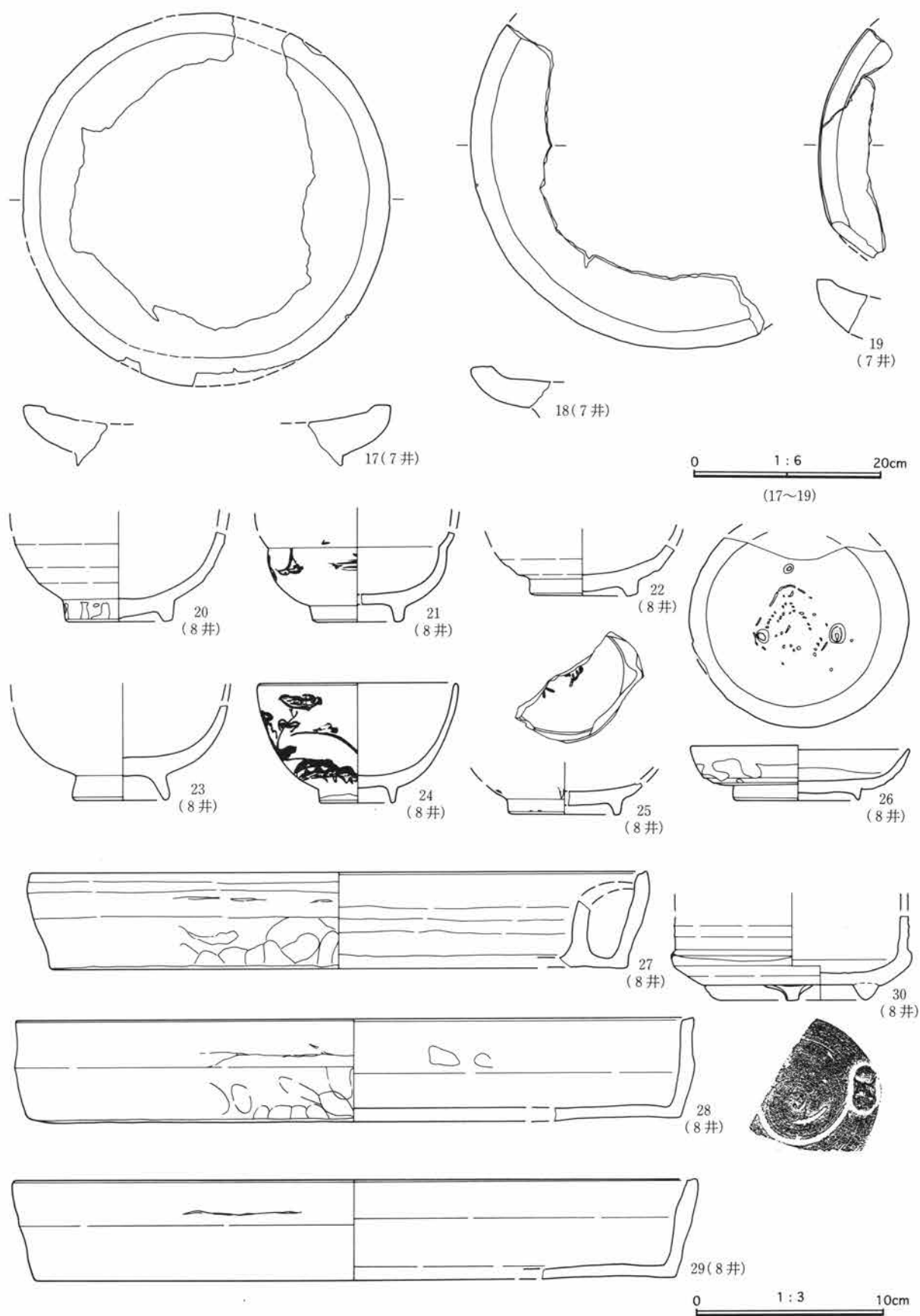
第147図 井戸跡



第148図 井戸跡出土遺物

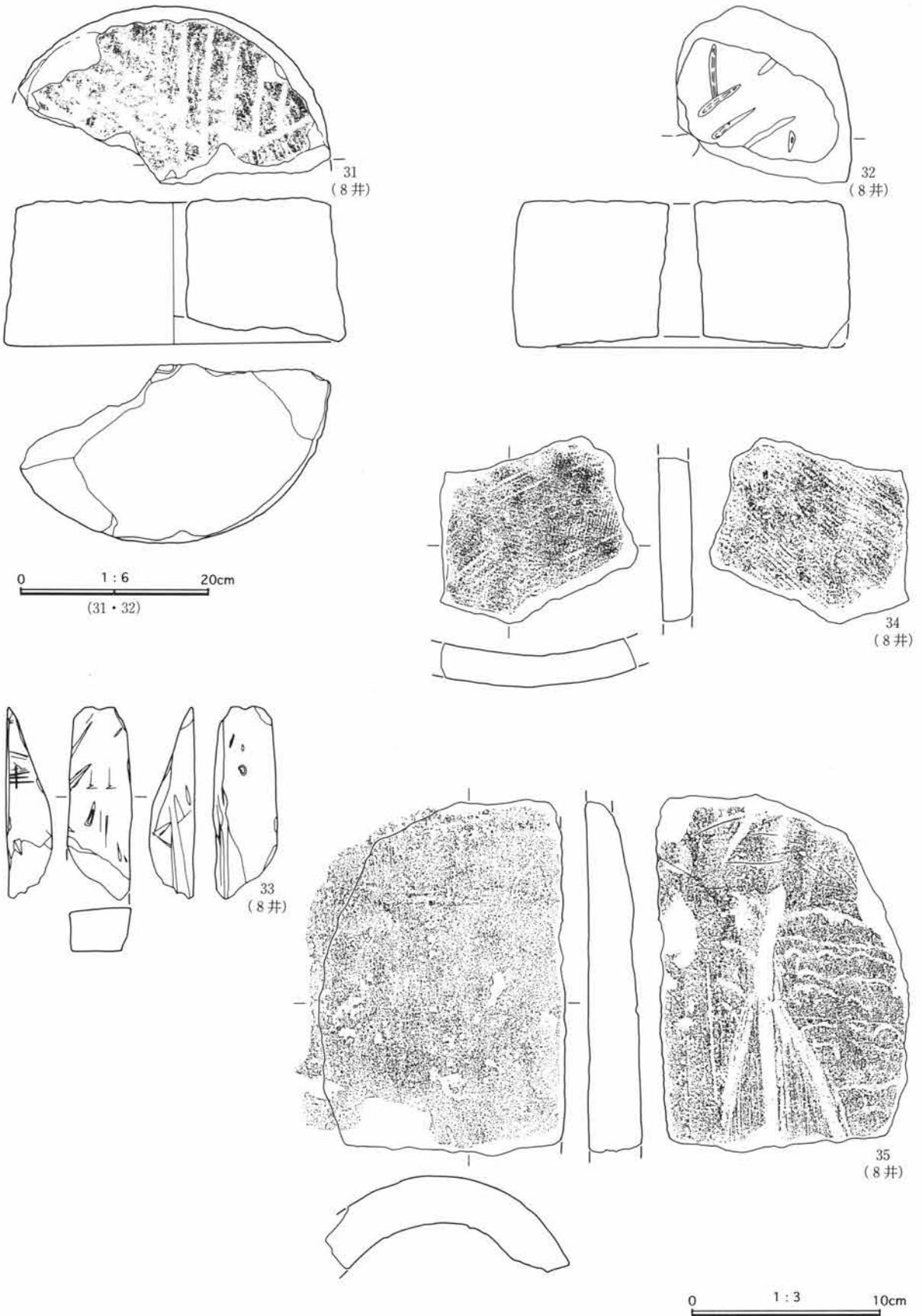


第149図 井戸跡出土遺物

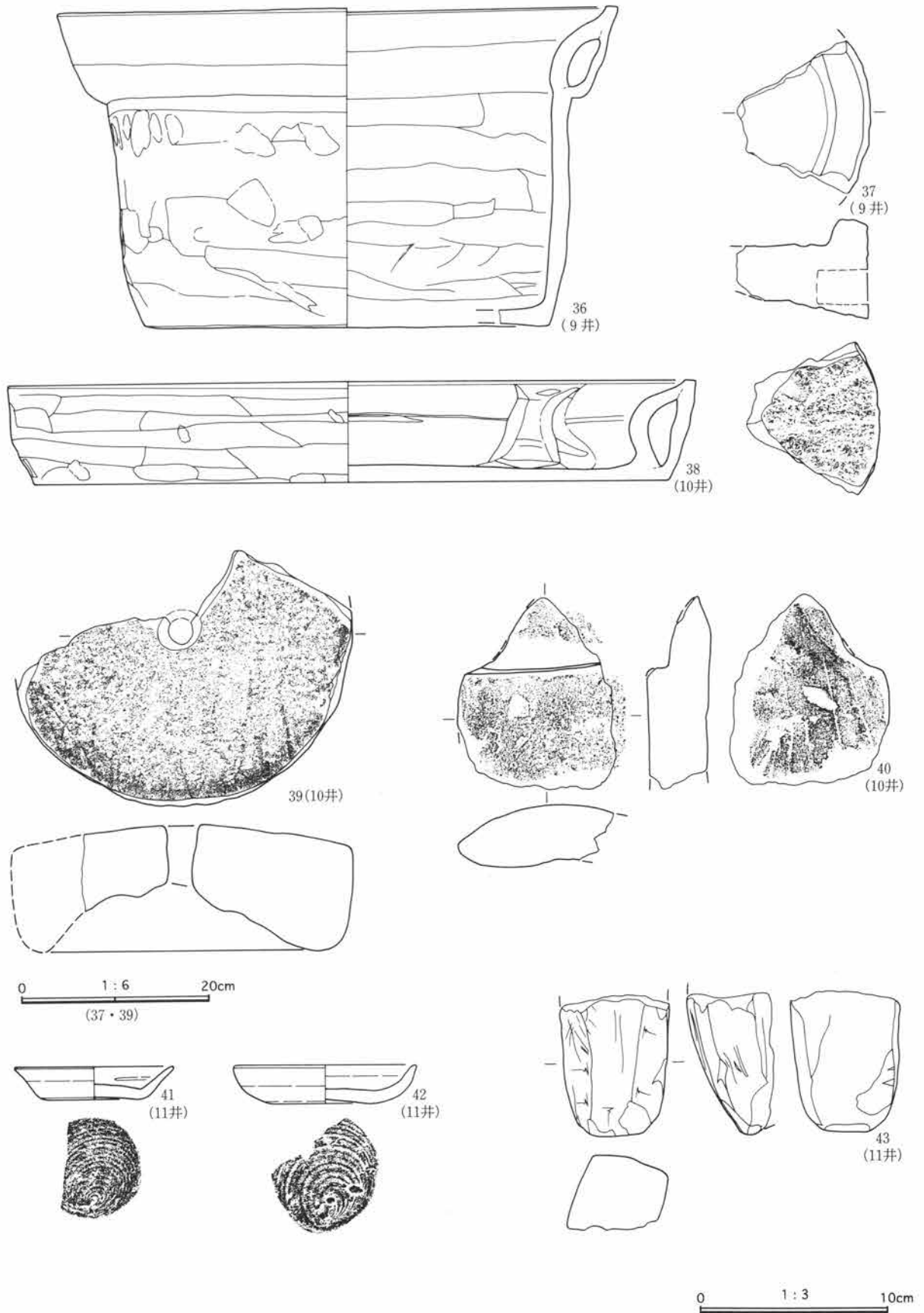


第150図 井戸跡出土遺物

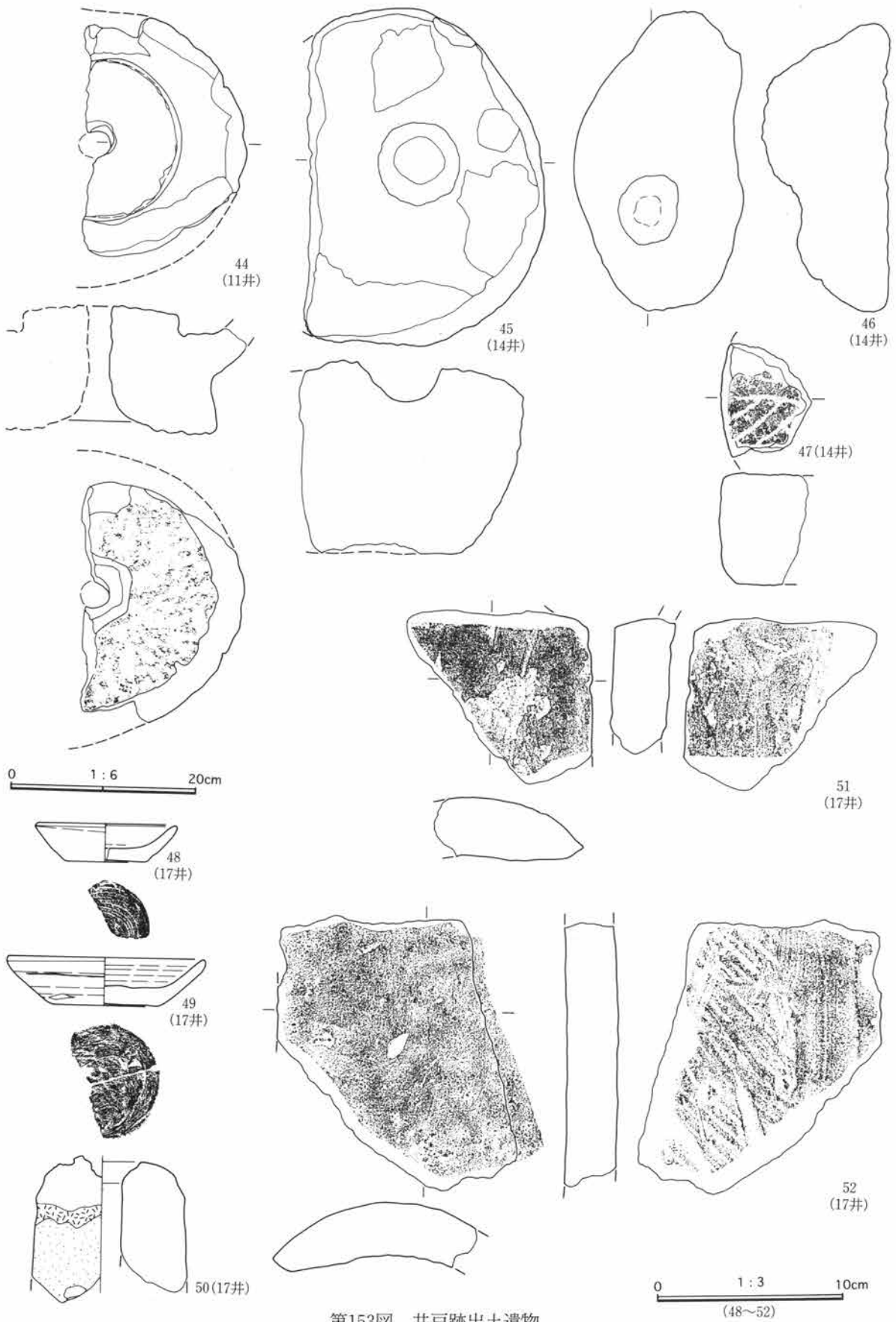




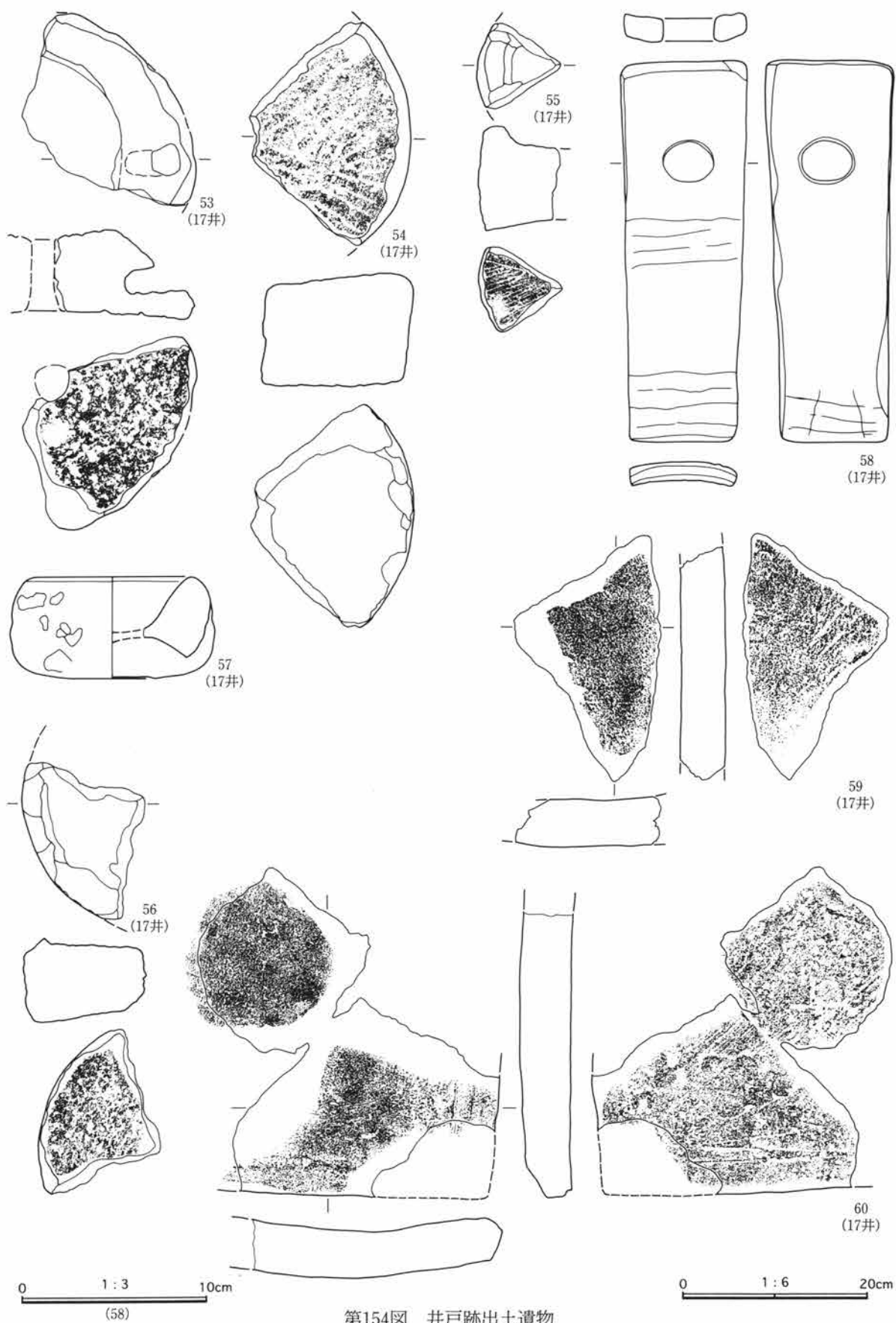
第151図 井戸跡出土遺物



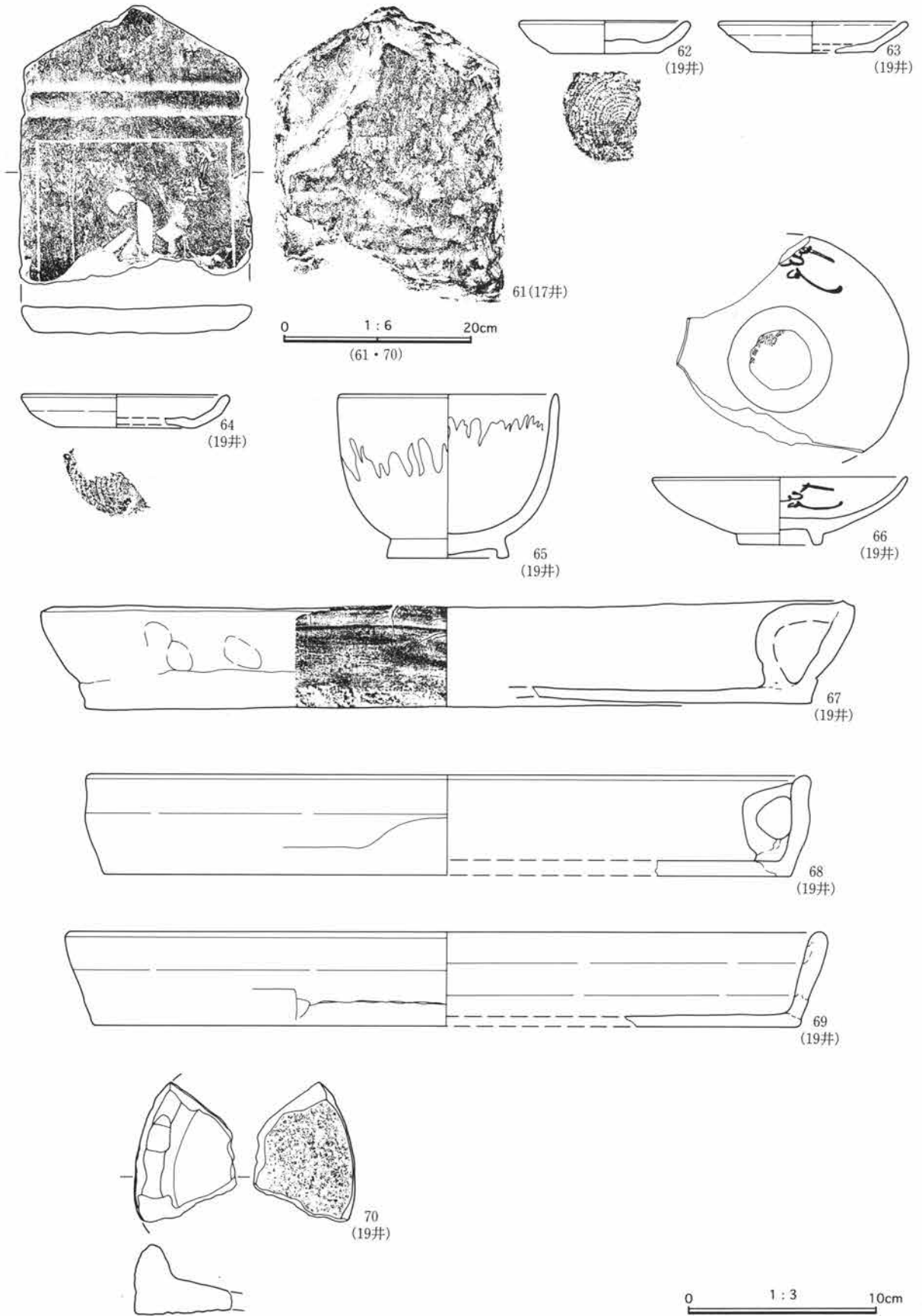
第152図 井戸跡出土遺物



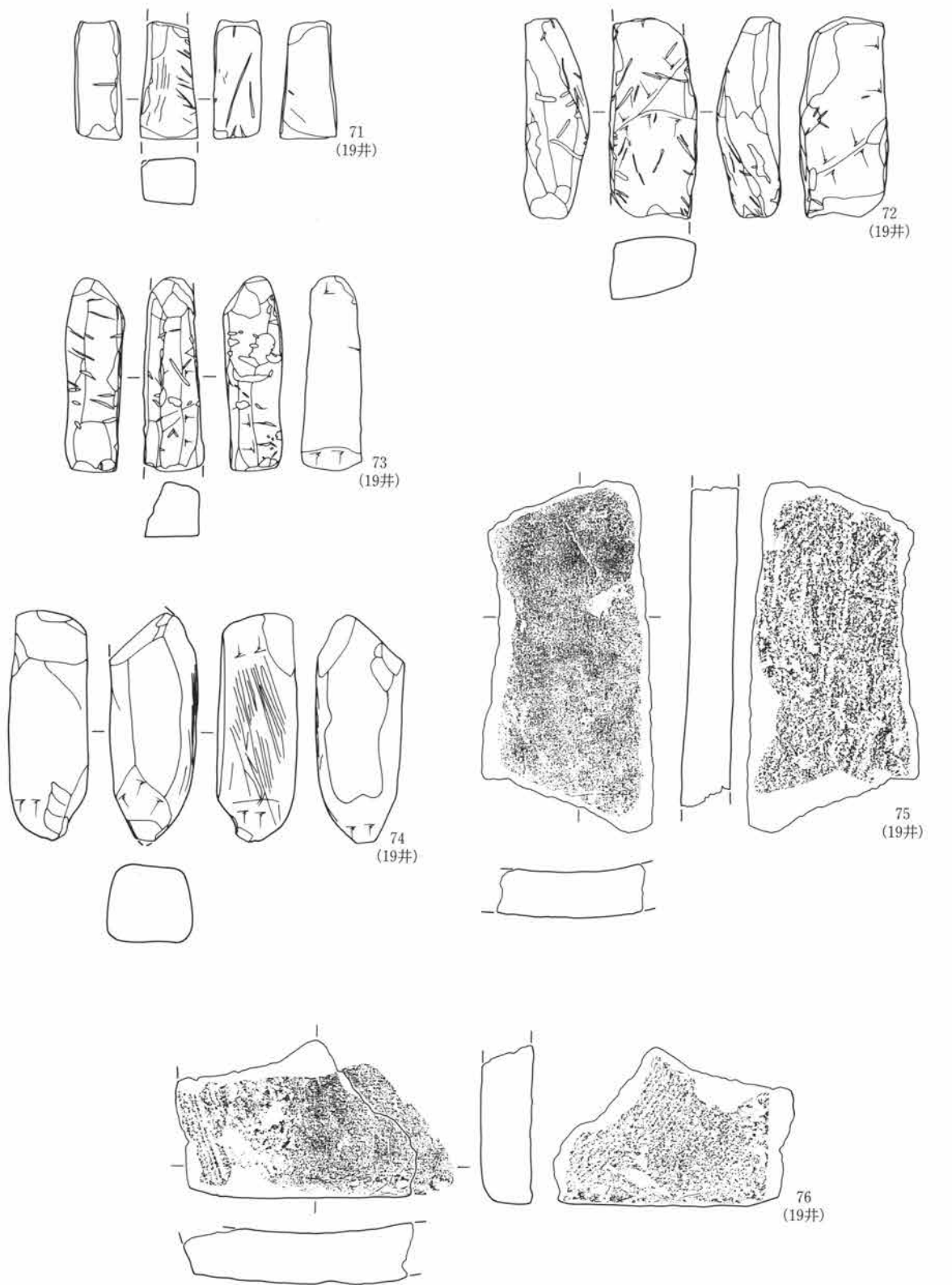
第153図 井戸跡出土遺物



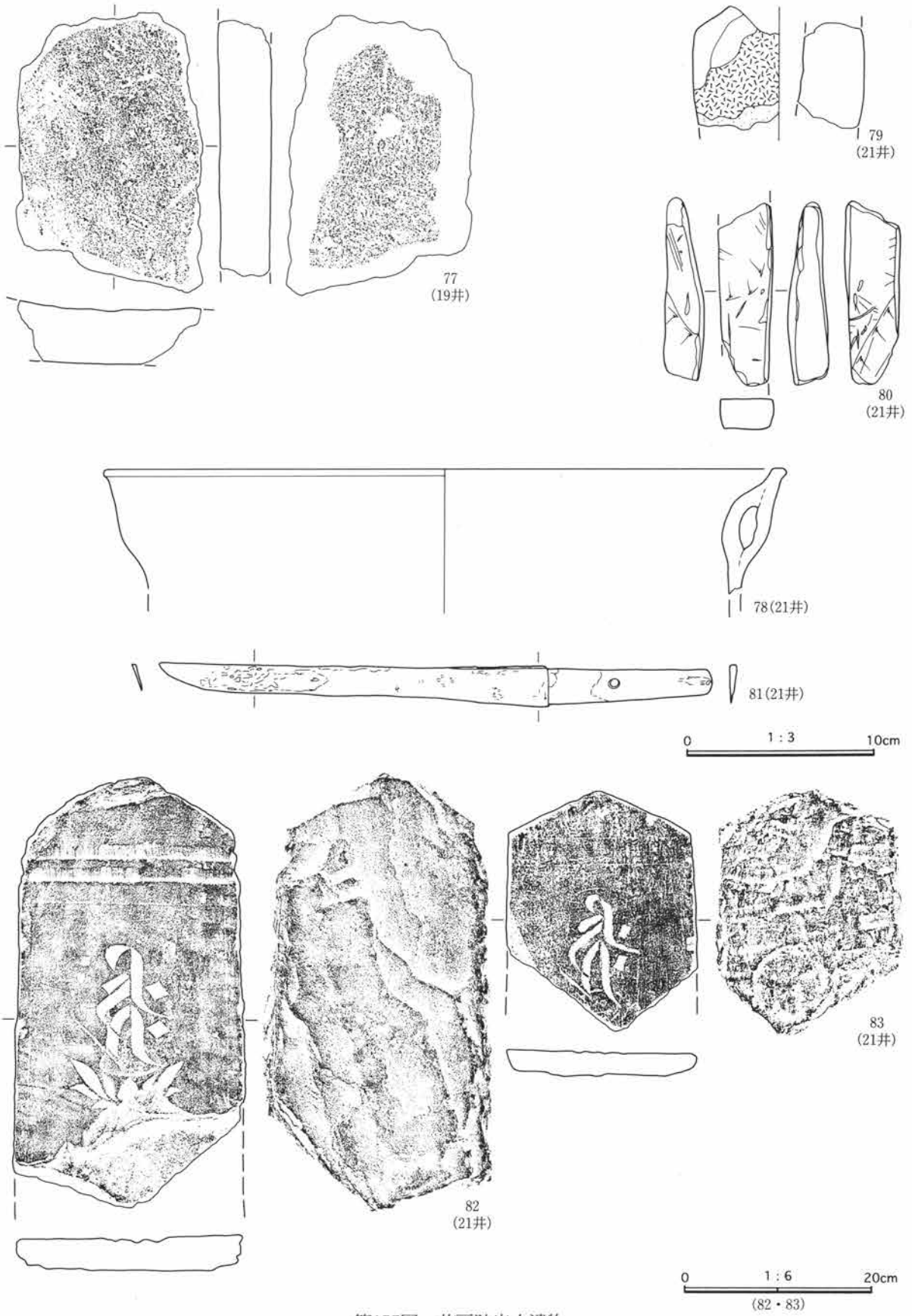
第154図 井戸跡出土遺物



第155図 井戸跡出土遺物

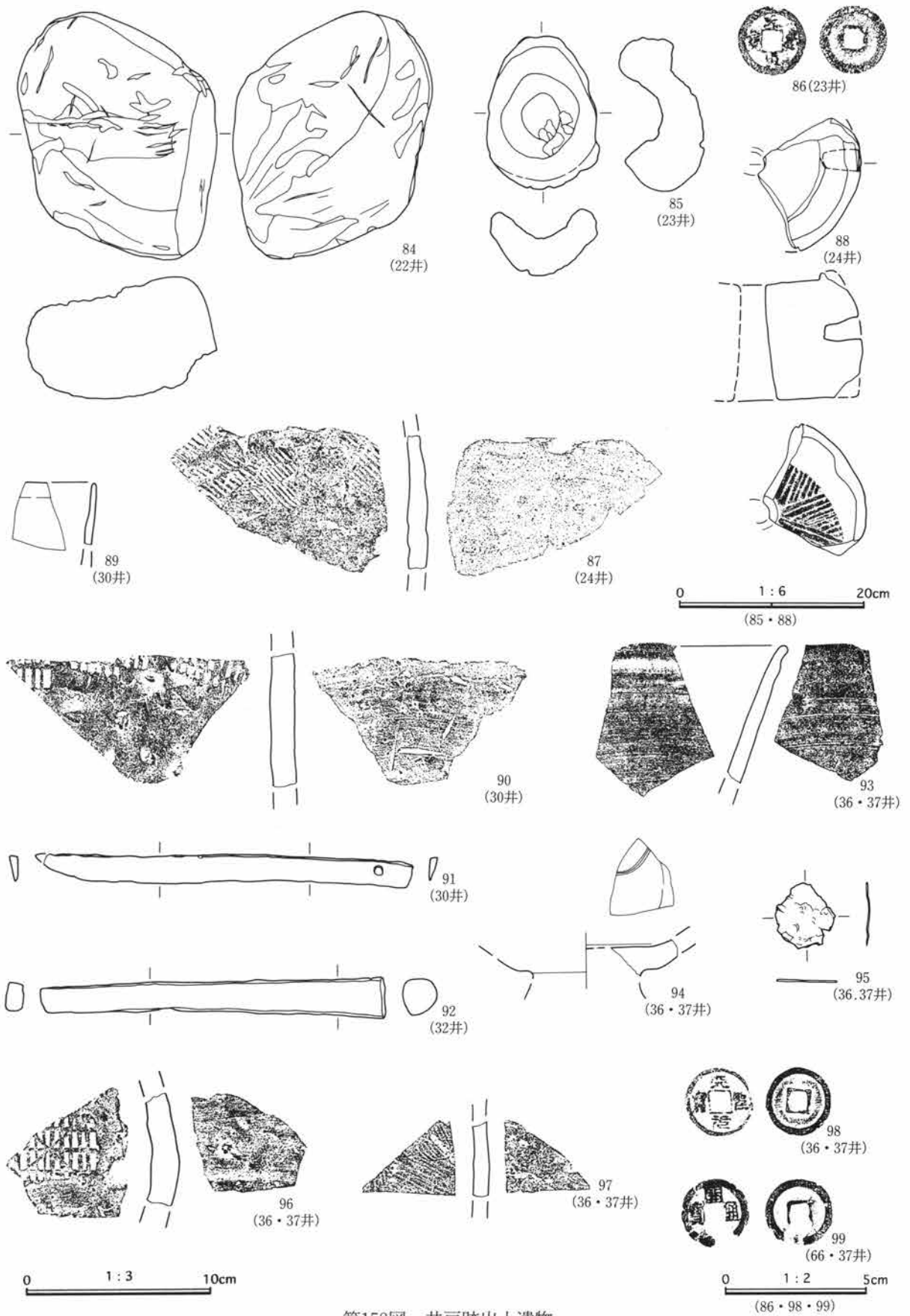


第156図 井戸跡出土遺物

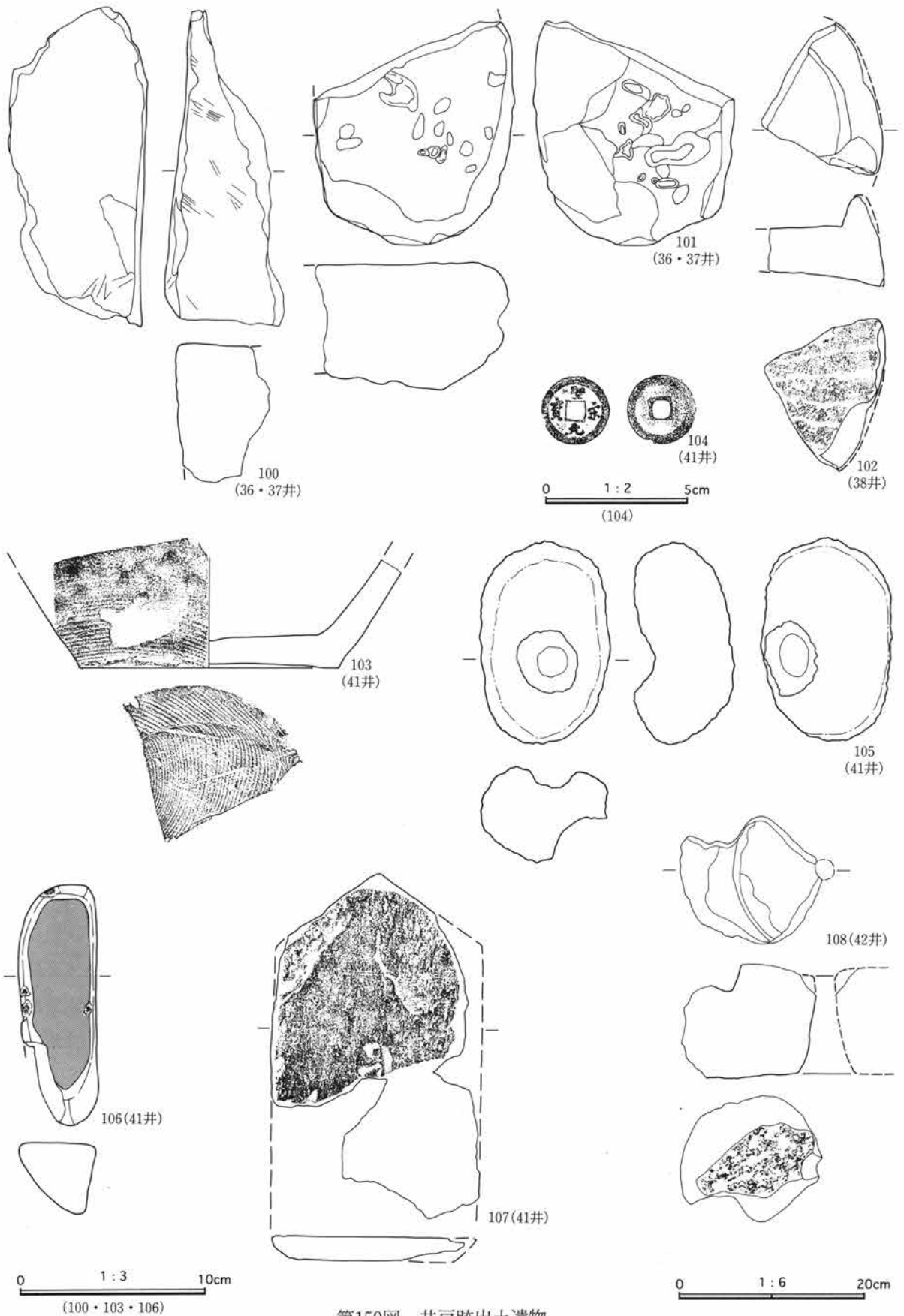


第157図 井戸跡出土遺物

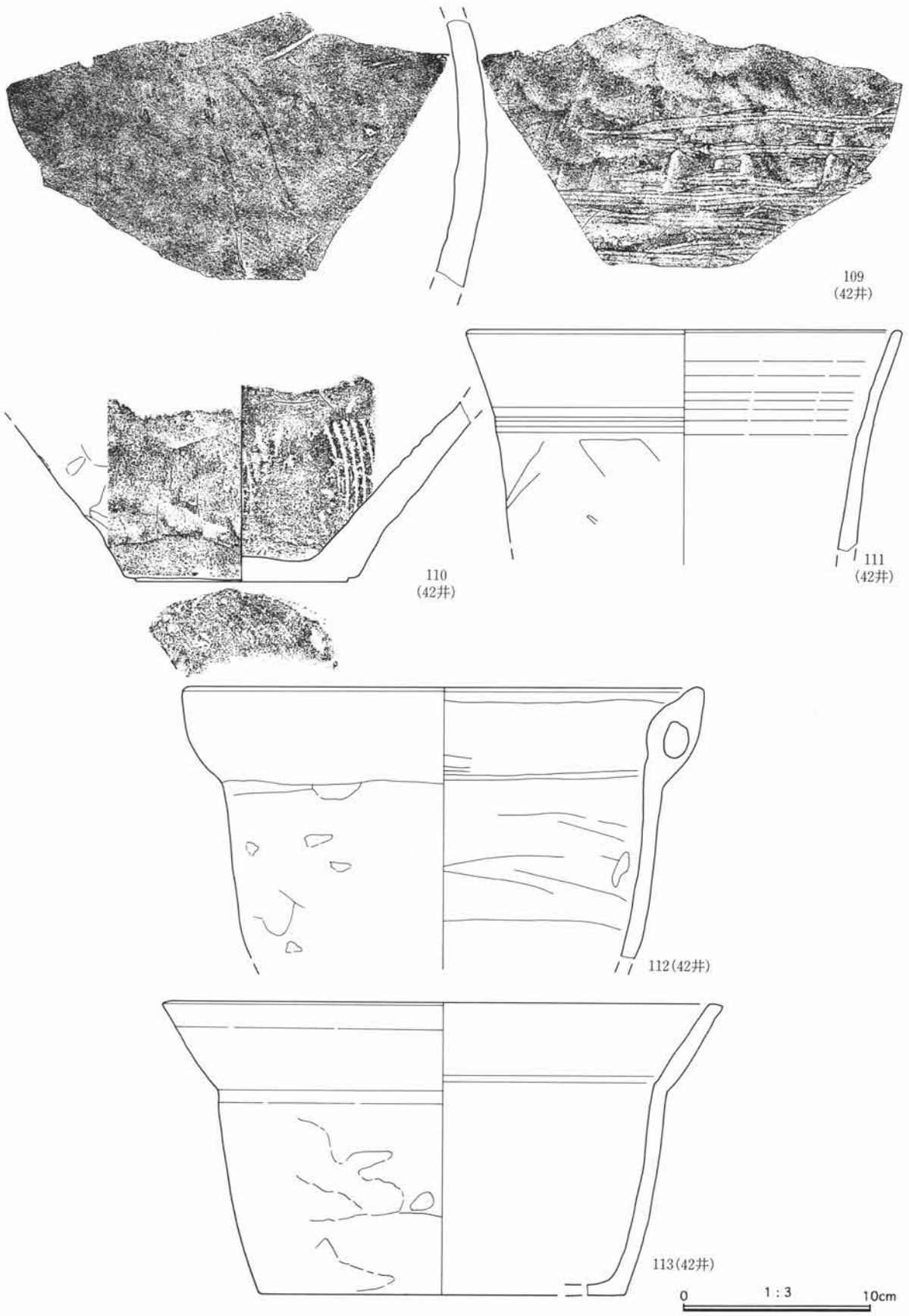




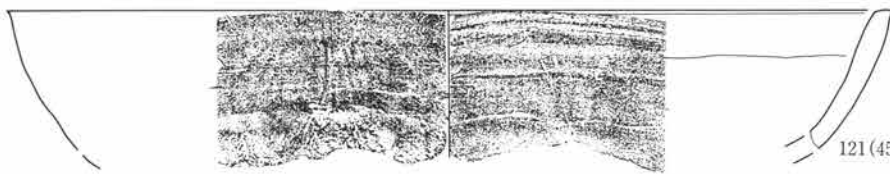
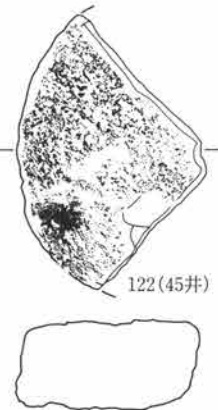
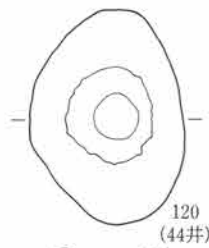
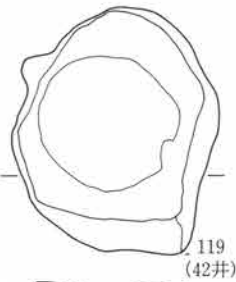
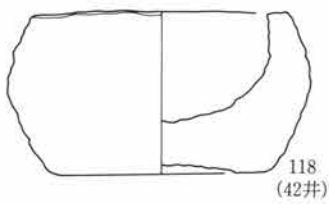
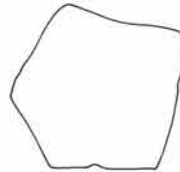
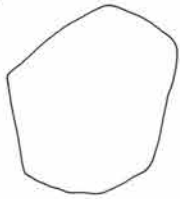
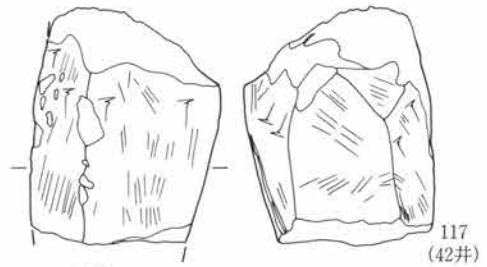
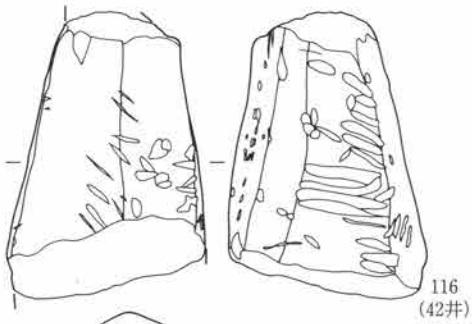
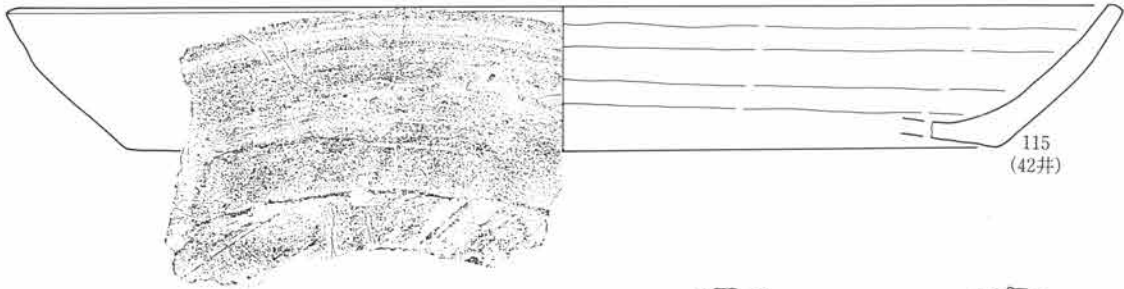
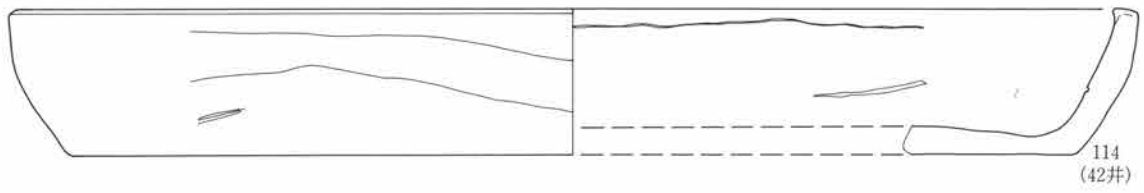
第158図 井戸跡出土遺物



第159図 井戸跡出土遺物



第160図 井戸跡出土遺物

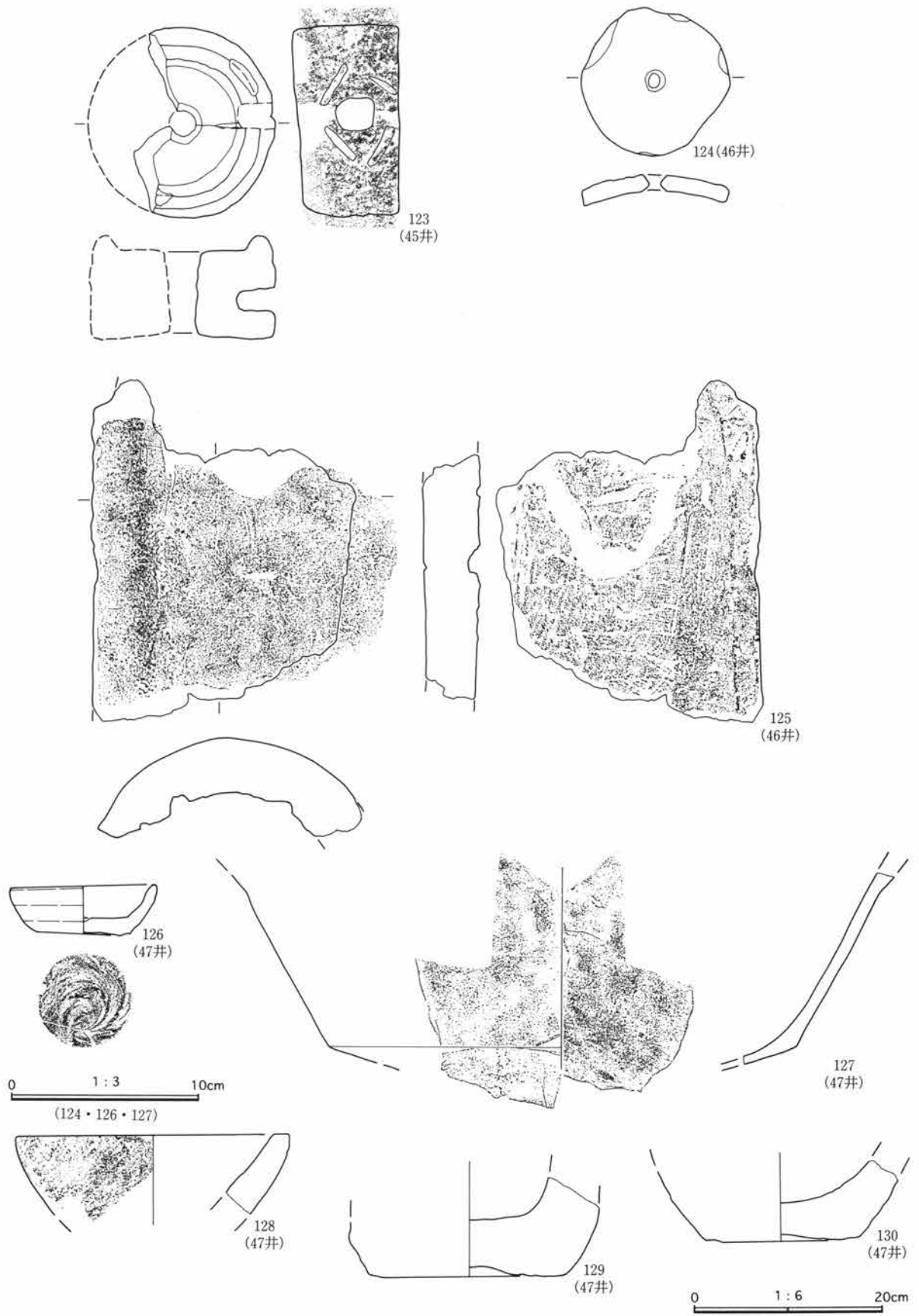


0 1 : 6 20cm

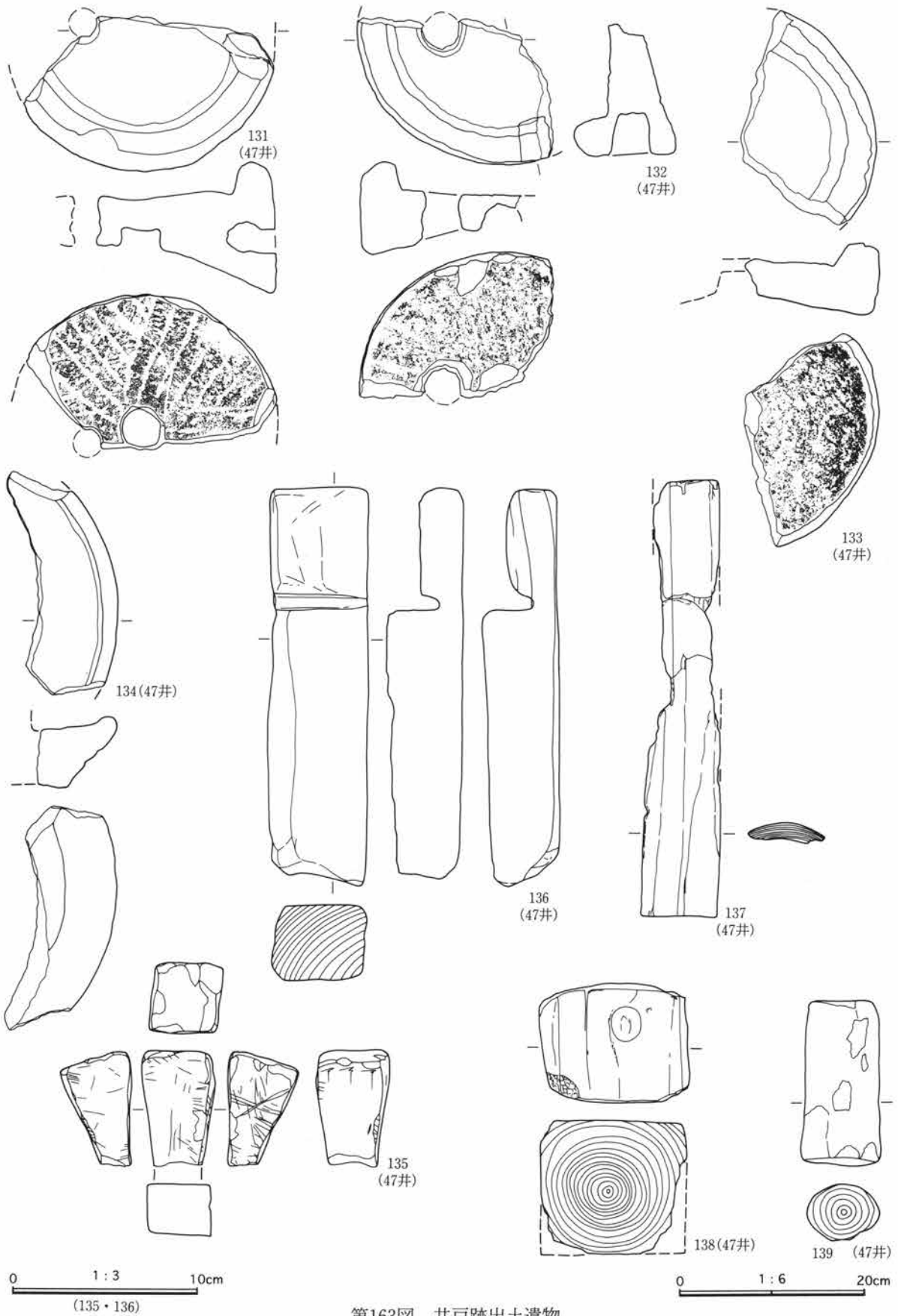
0 1 : 3 10cm

第161図 井戸跡出土遺物

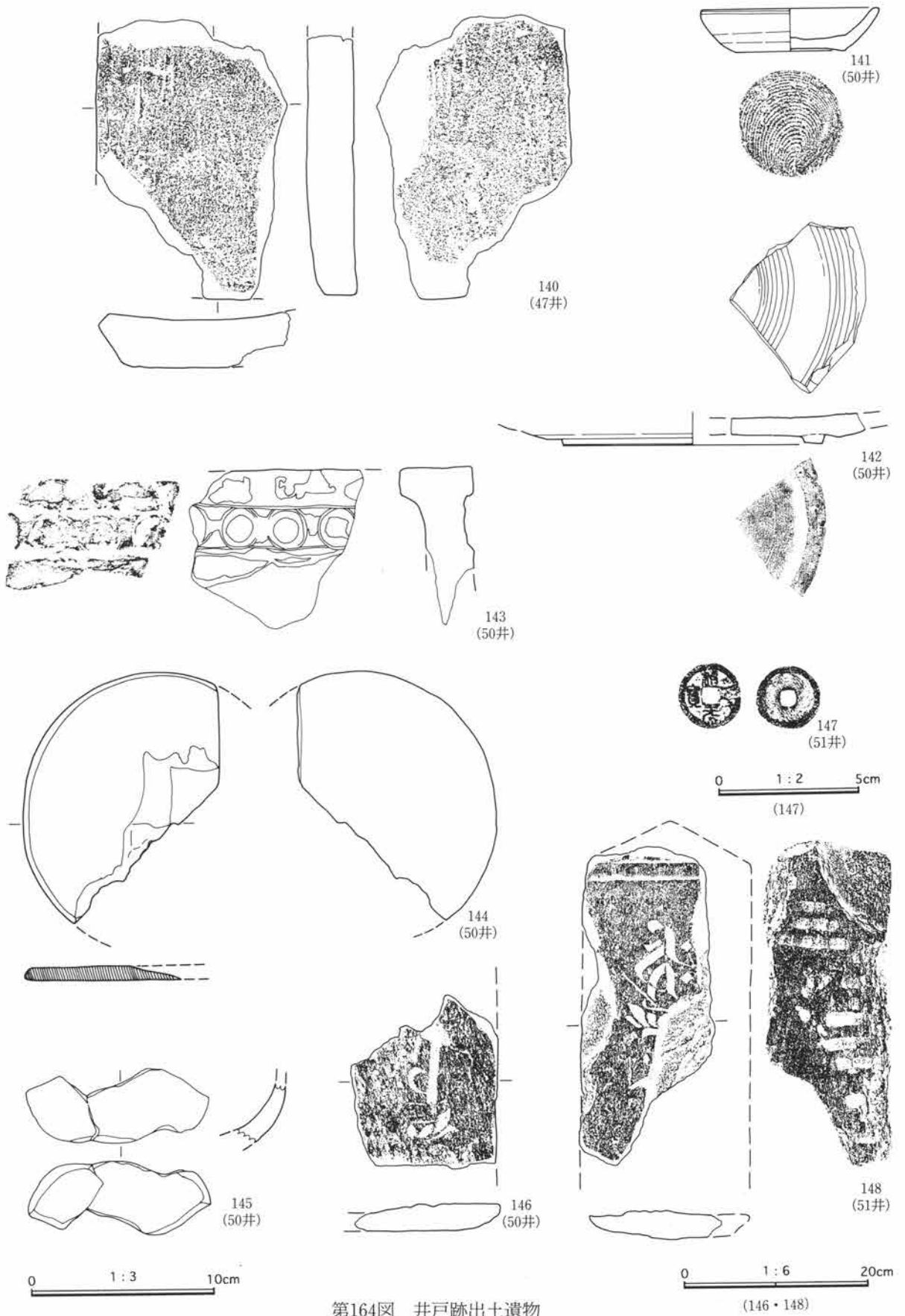
(114~117・121)



第162図 井戸跡出土遺物

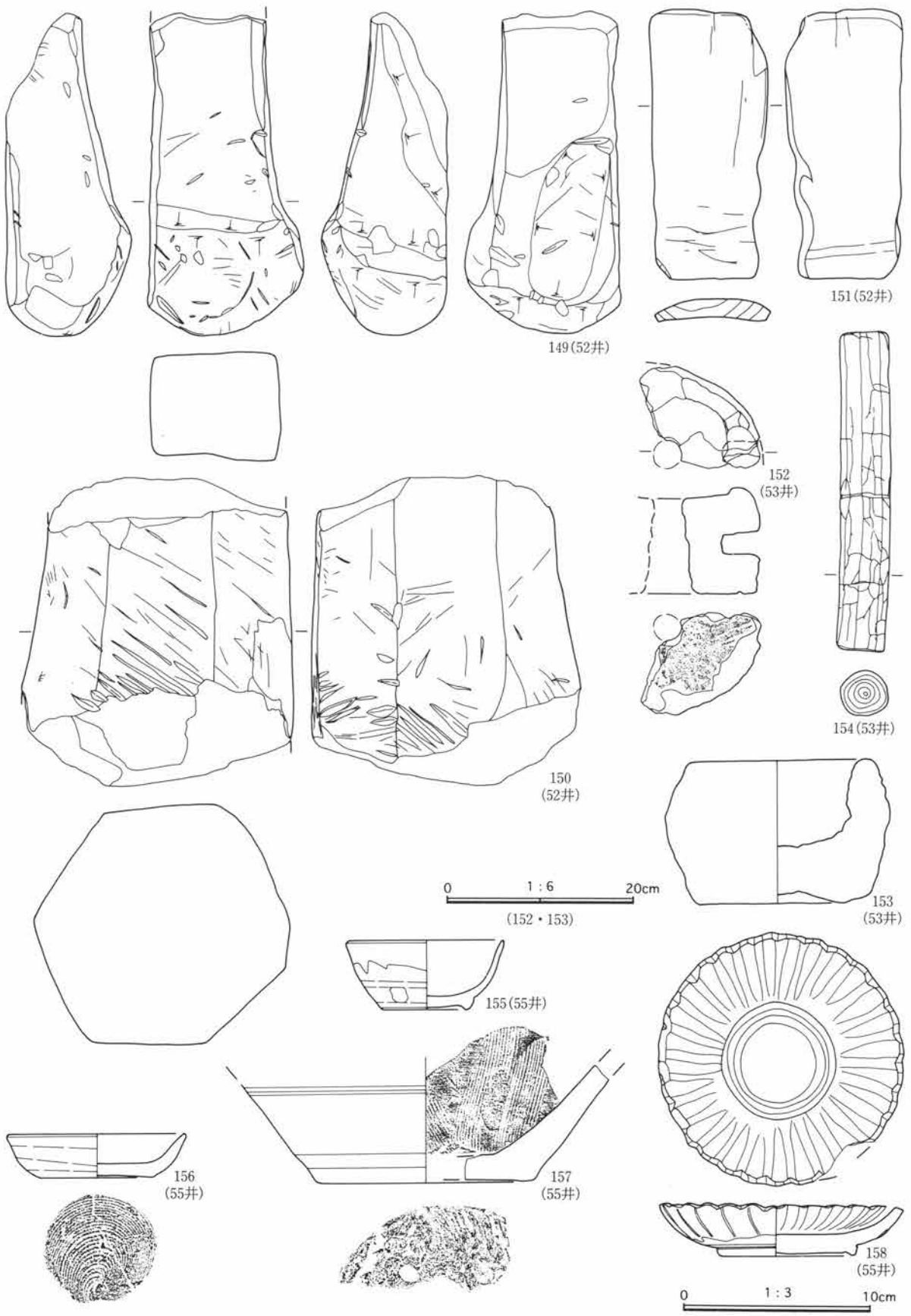


第163図 井戸跡出土遺物

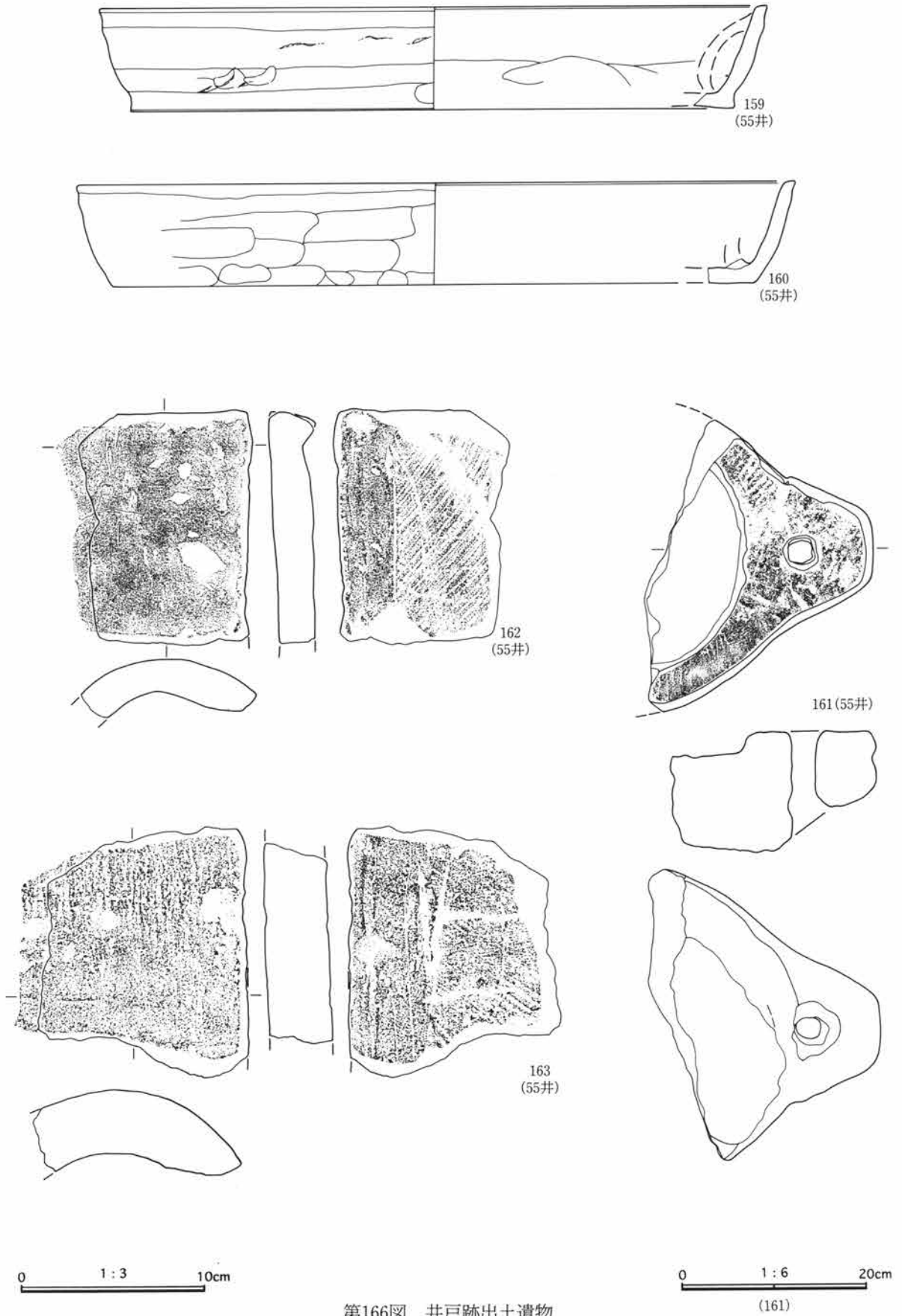


第164図 井戸跡出土遺物



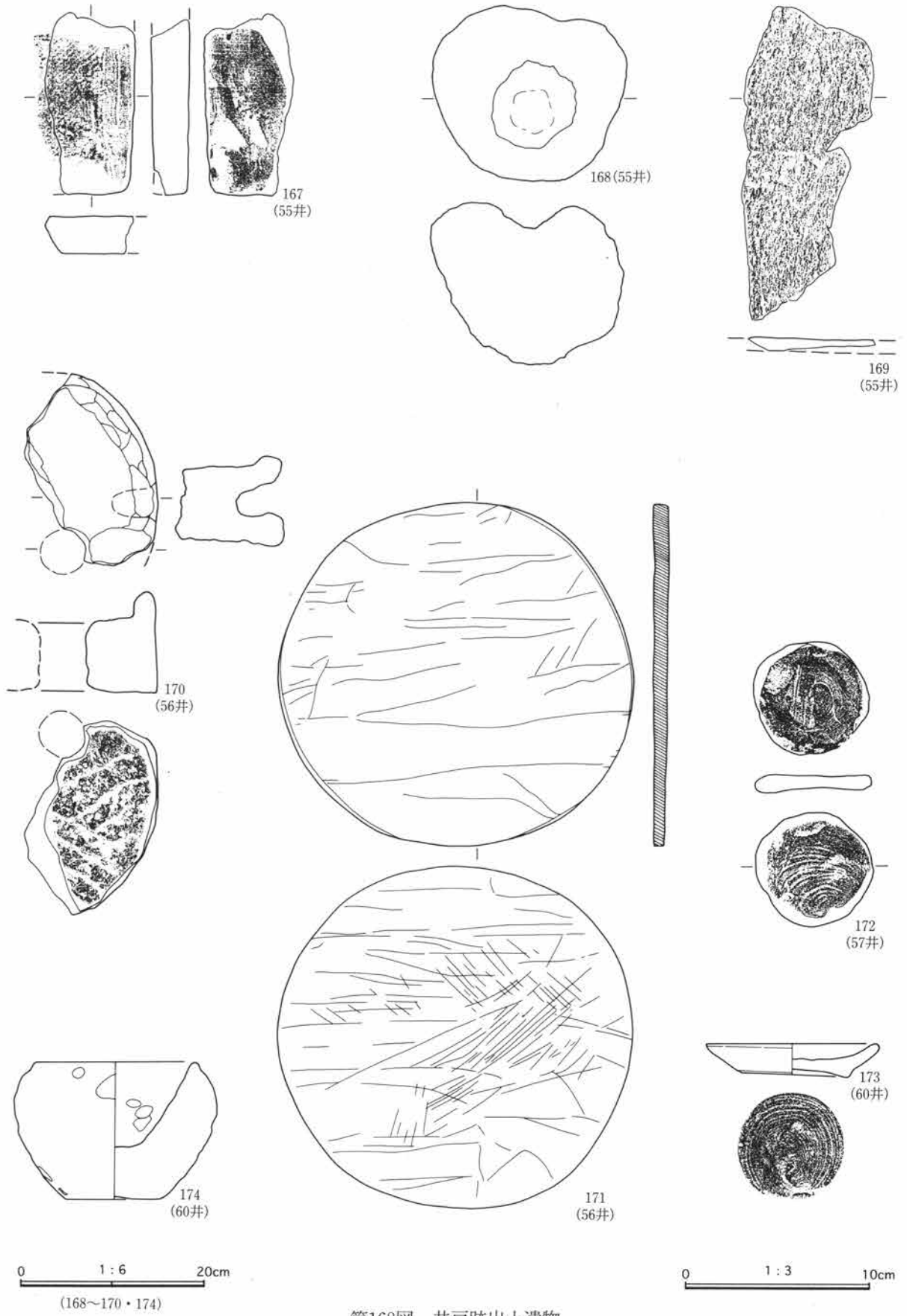


第165図 井戸跡出土遺物





第167図 井戸跡出土遺物



第168図 井戸跡出土遺物

第3節 古墳時代以降

2号・3号井戸

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
148-1 134 No1606	羽口	2号井戸	口径(2.0) 最大径(9.9) 器高(5.6)	焼物	左側面の上方から硅化部、還元、酸化部へと続く。下方欠損。	272g
148-2 134 No1605	羽口	2号井戸	口径(2.6) 最大径(7.8) 器高(8.2)	焼物	左側面の上方から硅化部、還元、酸化部へと続く。上・下方欠損。	412g
148-3 134 No2262	石白 上白	3号井戸 破片	最大径 — 高さ 8.9	粗粒安山岩	全体に比較的丁寧な整形だが、上面周縁は高さが低い。挽面は磨耗し、目は残らず、径4.5cm程の浅い皿状の凹みを有する。	1.7kg

4号井戸

148-4 134 No0686	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	4号井戸 口縁～体部 破片	口径(27.9) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：橙色～黒灰色	丁寧な成整形。口縁端部は明瞭な稜をもつ。耳部は1ヶ所残り、細く円筒状を呈す。	
148-5 134 No3044	串状木製品	4号井戸	長さ 18.1	有機質	中央に小孔あり。図左側に刃傷らしき線あり。	
148-6 134 No3042	曲物容器	4号井戸	径 16.8	木製	容器の身側と考えられ、側部に榫留めあり。底板の削り目が残される。底板は柾目気味である。側板は2重である。	
148-7 134 No3043	底板か	4号井戸	径 9.8	木製	杓底板のようにも思えるが薄い。刃傷様の条線あり。木目は目のつんだ柾目様である。	
148-8 134 No2232	砥石	4号井戸	長 (16.4) 幅 4.4 厚 4.4	砥沢石	表・裏、側部3面使用。側部は節理か川原石面・原石面を残す。小口尖形。中砥上級。刃付砥。	308g 3面使用

5号・6号井戸

148-9 — No0689	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	5号井戸 口縁部破片	口径 30.8 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：にぶい橙～灰色	口縁端部は明瞭な稜をもつ。	
148-10 134 No0687	女瓦	5号井戸			瓦一覽表(1)参照	
149-11 134 No3038	椀	6号井戸	口径 — 高台径 7.0 器高 —	木製	高台部を含めて挽かれる。体部上方欠。	

7号井戸

149-12 134 No0882	土錘	7号井戸 1/8	口径 — 器高(4.5) 最大径 1.5	胎：— 焼：— 色：橙色	やや細形の土錘で下方を欠損する。	10.31g
149-13 134 No2269	石白 上白	7号井戸 完形	最大径 27.1 高さ 10.4	粗粒安山岩	上面縁部を半円強欠失。供給口の対角に円形の挽木穴を有する。挽面は偏減りし、磨耗するが、わずかに目を残す。	6.9kg
149-14 134 No2270	石白 上白	7号井戸 1/8	最大径 — 高さ —	粗粒安山岩	上面及び側面は磨かれ、丁寧な整形。軸穴供給口の一部を有し、挽面は磨耗するが目は残る。	3.6kg
149-15 134 No2268	石白 上白	7号井戸 完形	最大径 28.0 高さ 10.4	粗粒安山岩	側面及び底面えぐり部は比較的丁寧な整形。挽面はやや磨耗し、やや偏減りするが、2～2.5cm間隔で6分割の目が良く残る。	10.1kg
149-16 134 No2104	石白(茶白) 下白	7号井戸 略完形	最大径 40.3 高さ 13.9	粗粒安山岩	全体に磨減少。受皿部及び下部側面は丁寧な磨き。底面挟り部は細かな工具による整形。挽面は周縁部がやや磨耗するが、4～5mm間隔の細かい8分割の目が残る	18.2kg
150-17 134 No2318	石白(茶白)	7号井戸 破片	最大径 38.5 高さ —	粗粒安山岩	受皿部のみほぼ全周分。表裏面共に丁寧な磨き整形。	3.2kg
150-18 — No2319	石白(茶白) 下白	7号井戸 受皿部破片	最大径 — 高さ —	粗粒安山岩	受皿部上面及び下面は共に工具痕を残さず、丁寧な水磨き仕上げを施す。	1.6kg

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
150-19 — No2320	石白(茶白) 上白	7号井戸 受皿部破片	最大径 — 高さ —	粗粒安山岩	受皿部上面は丁寧な水磨き仕上げ、側～下面は工具痕を残す程度の磨き仕上げを施す。	500g

8号井戸

150-20 — No0702	陶器 碗	8号井戸 体部～高台 部破片	口径 — 高台径 5.6 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白～暗黄褐色	外面ロクロ目かヘラ削り目が見える。高台部外面が部分的に露胎となる。	
150-21 135 No0700	陶器 碗	8号井戸 体部～高台 部破片	口径 — 高台径(4.7) 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰 色：明緑灰色	外面に絵が描かれる。内面平滑。	
150-22 — No0703	陶器 碗	8号井戸 底部破片	口径 — 高台径(5.6) 器高 —	胎：微・粗砂粒 焼：還元焰、施釉 色：浅黄～赤黒色	外面にロクロ目かヘラ削りが見える。内面平滑。	
150-23 135 No0704	陶器 碗	8号井戸 体部～高台 部破片	口径 — 高台径 5.0 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：淡黄色	内・外面平滑。	
150-24 135 No0710	磁器 染付碗	8号井戸 口縁～高台 1/2	口径 10.5 高台径 3.8 器高 6.2	胎：微砂粒 焼：還元焰 色：明緑灰、青色	高台端部の釉が発泡。外面に染付施文あり。内面平滑。高台端部は無釉となる。	
150-25 135 No0711	青磁 皿	8号井戸 底部破片	口径 — 高台径 5.7 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：オリーブ灰色	内面に文様有り。	中国 13c
150-26 135 No0701	陶器 皿	8号井戸 略完形 口縁一部欠	口径 11.6 高台径 6.8 器高 2.8	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰色、明緑灰色	底部回転ヘラ削り後に高台貼付け。内面及び外面口縁部に灰釉の漬け掛け。内面底部に鉄釉による印文型紙摺有り。内面底部に三ヶ所トチン痕残る。	
150-27 — No0692	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	8号井戸 口縁～底部 破片	口径 32.9 底径 31.0 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白～黒褐色	口縁端部は内面に丸味をおびる。耳部は1ヶ所残り、幅広で下方は底部に着く。	
150-28 — No0695	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	8号井戸 口縁～底部 破片	口径 35.4 底径 30.0 器高 5.1	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色～黒褐色	口縁端部は丸味をおび、一条の凹みをもつ。体部は直立気味に立ち上がり、耳部は残らず。外面体部に煤付着。	
150-29 135 No0694	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	8号井戸 口縁～底部 破片	口径(36.0) 底径(33.8) 器高 5.2	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色～黒褐色	口縁端部は丸味をおび、一条の凹みをもつ。体部は直立気味。耳部残らず、外面体部に煤付着。	
150-30 135 No0709	陶器 香炉	8号井戸 底部破片	口縁 35.8 底径(5.3) 器高(34.6)	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：淡黄～黄褐色	ロクロ成形、底部回転ヘラ切り後脚部貼付。ロクロ左回転。	
151-31 135 No2100	石白 下白	8号井戸 1/2	最大径(32.8) 高さ 15.0	粗粒安山岩	側面部は未整形で工具痕を残す。溝(目)はやや荒目だが、目は残る。穀白、左回転。	10.5kg
151-32 135 No2037	石白 上白	8号井戸 1/4	最大径(17.6) 高さ 7.6	粗粒安山岩	主溝と副溝との区分意識は薄い。穀白である。左回転である。	5.9kg
151-33 135 No2154	砥石	8号井戸	長 (10.0) 幅 (3.3) 厚 2.4	砥沢石	小口尖、他方欠、側部2面削り、表・裏2面使用。片小側口尖形。中砥級。刃付砥。	91g 2面使用
151-34 135 No0698	女瓦	8号井戸			瓦一覧表(1)参照	
151-35 135 No0697	男瓦	8号井戸			瓦一覧表(1)参照	

## 第3節 古墳時代以降

## 9号井戸

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
152-36 135 No0712	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	9号井戸 略完形 底部欠損	口径 29.4 底径 16.5 器高 21.0	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：暗褐色	全体に丁寧な成・整形。口縁部端は明瞭な稜を持つ。耳部2ヶ所共残り、相対する位置に付く。耳部は細く円筒状を呈する。外面体部に煤付着。	
152-37 135 No2265	石白 上白	破片	最大径 — 高さ 10.3	粗粒安山岩	成・整形は比較的丁寧だが石材が粗。側面に挽木穴の一部を有す。挽面は磨耗し、やや偏減りするが、2cm間隔の目が薄く残る。	1.5kg

## 10号井戸

152-38 135 No0713	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号井戸 口縁～底部 1/2強	口径 35.6 底径 32.8 器高 5.3	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：褐色～黒褐色	口縁部端は平坦で、角はやや丸味をおびる。耳部は1体2で相対する位置に有り、やや幅広く、下方は底部に着く。	
152-39 135 No2102	石白 下白	1/2	最大径 — 高さ 13.0	牛伏砂岩	磨減大。側面部は未調整。溝(目)は磨減し残らない。下面の一部に火を受けた痕跡あり。	
152-40 — No0715	玉男縁付	瓦10号井戸			瓦一覧表(1)参照	

## 11号井戸

152-41 135 No0717	かわらけ	11号井戸 口縁～底部 1/2	口径 7.4 底径 5.1 器高 1.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り。ロクロ左回転。	
152-42 135 No0716	かわらけ	11号井戸 口縁～底部 1/2	口径 9.3 底径 5.4 器高 1.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り。ロクロ左回転。	
152-43 135 No2273	砥石	11号井戸	長 (7.4) 幅 (5.8) 厚 (4.5)	砥沢石	表・裏、側部3面使用。片小側口調査時欠損?小口尖形。中砥級。	214g 3面使用
153-44 135 No2272	石白(茶白) 下白	11号井戸 1/2		粗粒安山岩	側半及び大半の受皿部を欠失。側面及び受皿部の整形は粗雑。挽面は磨耗し目は残らない。	4.8kg

## 14号井戸

153-45 135 No2120	石製品 凹石	14号井戸 完形	最大幅 24.0 高さ 20.0	角閃石安山岩	かまぼこ形の石の平坦な一面に播鉢状の凹みを有する。凹みの内面は磨耗する。	19.4kg
153-46 135 No2114	凹石	14号井戸 完形	長 18.2 幅 31.2 厚 13.6	粗粒安山岩	自然面の2ヶ所に浅い皿状の凹みを有する。凹みの内面はやや磨耗する。	6.2kg
153-47 135 No2795	石白 下白	14号井戸 破片		粗粒安山岩	側面及び下面は丁寧な整形で、特に下面周囲端は面取りされる。挽面はやや磨耗するが、1.7mm間隔の目が残る。	1.5kg

## 17号井戸

153-48 — No0720	かわらけ	17号井戸 口縁～底部 破片	口径 7.2 底径 4.2 器高 1.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
153-49 136 No0719	かわらけ	17号井戸 口縁～底部 1/2強	口径 9.9 底径 5.4 器高 2.1	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
153-50 136 No1607	羽口	17号井戸	径 3.6	焼物	側面上方から硅化部、続く下方が還元、打点部が酸化部。	
153-51 — No0721	玉縁付男瓦	17号井戸			瓦一覧表(1)参照	
153-52 136 No0722	男瓦	17号井戸			瓦一覧表(1)参照	



第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
154-53 136 No2274	石臼 上臼	17号井戸 1/5		粗粒安山岩	上面の縁部から側面にかけてほとんど欠失。整形は軽く磨く程度。側面に方形の挽木穴を有す。挽面はかなり磨耗し、目は残らない。	3.1kg
154-54 136 No2277	石臼 下臼	17号井戸 1/4	最大径 一 高さ 12.0	粗粒安山岩	側面及び下面えぐり部共に軽く磨かれ丁寧な整形。挽面はやや磨耗するが、目は残る。	5.3kg
154-55 — No2276	石臼(茶白) 上臼	17号井戸 1/6	最大径 一 高さ 11.0	粗粒安山岩	側面等の整形は磨かれているものの、茶白としては粗雑。挽面は磨耗するが、3~4mm間隔の細かい目がわずかに残る。	700 g
154-56 136 No2275	石臼 上臼	17号井戸 破片		粗粒安山岩	上面縁部が欠失。側面は比較的丁寧な整形。挽面はやや偏減りし、目も残らない。	1.8kg
154-57 136 No2280	石鉢	17号井戸 1/3		粗粒安山岩	2面にすり鉢状の深い凹みを有するが、特に1面は凹みの口縁部を丁寧に成整形する。凹み内面は研磨され滑らかとなる。	800 g
154-58 136 No3040	桶部材	17号井戸	長さ 40.5	木製	桶の持手受けの材で、年輪に沿って材を加工。	
154-59 — No0724	女瓦	17号井戸			瓦一覧表(1)参照	
154-60 — No0723	女瓦	17号井戸			瓦一覧表(1)参照	
155-61 136 No2770	板碑	上部破片	最大幅 24.5 長さ 一 厚さ 3.0	緑色片岩	碑面の磨減少。葉研彫り阿弥陀種子の一部残る。二条線、枠線有り。裏面に幅11mm程の工具痕が横・斜方向に残る。	

19号井戸

155-62 136 No0725	かわらけ	19号井戸 口縁~底部	口径 9.0 底径 5.6 器高 1.7	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り。ロクロ右回転。内面の全面に黒色の付着物有り。油煙か。	
155-63 — No0727	かわらけ	19号井戸 口縁~底部 破片	口径(10.0) 底径( 6.5) 器高 1.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り。ロクロ左回転。No64(Na726)と同一個体か。	
155-64 136 No0726	かわらけ	19号井戸 口縁~底部 1/3	口径(11.0) 底径( 7.4) 器高 1.7	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り。ロクロ左回転。No63(Na727)と同一個体か。	
155-65 136 No0737	陶器 碗	19号井戸 口縁~底部 1/2	口径 11.5 高台径 6.4 器高 8.6	胎：微砂粒 焼：還元焰 色：褐色~黒褐色	高台端部を除き、全面に施釉。内外面体部中位上で釉が溶け、垂れる。釉が垂れた部分は、青白く溶変する	近世
155-66 136 No0739	磁器 皿	19号井戸 口縁~底部 3/4	口径 13.3 高台径 4.2 器高 3.6	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白、明緑灰色	内面底部にドーナツ状、外面高台部には施釉せず。内面ドーナツ状無施釉部には重ね焼痕残る。内面体部に1ヶ所絵付有。	近世
155-67 136 No0728	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	19号井戸 口縁~底部 1/4	口径(42.4) 底径(37.9) 高さ 5.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：灰白~暗褐色	口縁端部は稜をもつ。耳部1つ残。耳部はやや幅広く下方は底部に着く。外面体部下方は未調整。	
155-68 — No0731	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	19号井戸 口縁~底部 破片	口径(38.0) 底径(36.0) 高さ 5.25	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰~暗褐色	口縁端部は丸味をおびる。耳部1つ残。耳部は幅広く下方は体部と底部の境に着く。	
155-69 136 No0729	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	19号井戸 口縁~底部 1/5	口径(40.0) 底径(37.0) 高さ 4.9	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白~暗褐色	口縁端部は丸味をおびる。耳部残らず。	
155-70 136 No2281	石臼 上臼	19号井戸	最大径 一 器高 3.6	安山岩か	穀白で、使用消耗し、薄くなる。	
156-71 136 No2140	砥石	19号井戸	長 ( 5.8) 幅 2.8 厚 2.3	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。1面削目、3面使用。中砥級。	63 g 3面使用

第3節 古墳時代以降

19号・21号井戸

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
156-72 136 No2167	砥石	19号井戸	長 (9.9) 幅 4.3 厚 3.1	砥沢石	表・裏2面使用。側部削り。小口尖形。中砥級。	161g 2面使用
156-73 136 No2168	砥石	19号井戸	長 (9.5) 幅 3.0 厚 2.9	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。小口・裏・側部3面削り。裏面使用。中砥級。	107g 1面使用
156-74 136 No2208	砥石	19号井戸	長 (11.1) 幅 3.9 厚 3.9	珪質頁岩	表・裏使用。小口・側部川原石面。極硬質。合せ砥か。	301g 2面使用
156-75 136 No0735	女瓦	19号井戸			瓦一覧表(1)参照	
156-76 136 No0734	女瓦	19号井戸			瓦一覧表(1)参照	
157-77 — No0736	女瓦	19号井戸			瓦一覧表(1)参照	
157-78 — No0742	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	21号井戸 口縁部破片	口径(18.0) 底径 — 器高(7.5)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	器肉は比較的薄い。口縁端部はやや丸味をおびる。耳部1ヶ残。耳部は細く円筒形を呈し、丁寧な成形。	
157-79 136 No1608	羽口	21号井戸	径 3.2	焼物	図側面上方から硅化部、その下方還元部、その下方が酸化部である。	
157-80 136 No2165	砥石	21号井戸	長 (9.6) 幅 2.9 厚 2.1	砥沢石	表・裏、側部4面使用。小口尖形。中砥級。刃付砥。	65g 4面使用
157-81 136 No4095	腰刀	21号井戸	長さ 29.4	鉄製	刀身中央部研磨消耗。茎に目釘穴1。	
157-82 137 No2773	板碑	21号井戸 上半部1/2	最大幅 24.5 長さ — 厚さ 3.7	緑色片岩	碑面の磨滅少。薬研彫り阿弥陀三尊種子、薬研彫り蓮座。二条線、杵線有り。裏面に幅11.5mm程の工具痕が横方向に残る。	
157-83 137 No2772	板碑	21号井戸 上部破片	最大幅 20.5 長さ — 厚さ 2.5	緑色片岩	碑面の磨滅少。薬研彫り阿弥陀種子。線刻蓮座、略式天蓋、線刻二条線有り。裏面に幅13mm程の工具痕が横方向に残る。	

22号・23号・24号井戸

158-84 137 No2286	磨石	22号井戸	長さ 13.1 幅 10.6 厚さ 7.8	粗粒安山岩	調欠あり。1面のみ使用。	1.2kg 1面使用
158-85 137 No2288	凹石	23号井戸 完形	長さ 16.1 幅 11.3 厚さ 8.9	軽石	自然石の1面に深いすり鉢状の凹みを有する。凹みの内面は滑らかに磨耗された状態。	800g
158-86 137 No4045	古銭 不明	23号井戸 完形	最大径 2.45 厚さ 0.12	銅製	欠損部はないものの、腐食が著しく、判読不可。	2.52g 元□□宝
158-87 — No0746	焼締陶器 大甕	24号井戸 胴部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：橙～にぶい橙色	外面叩き痕。	13～14c 知多窯
158-88 137 No2289	石臼(茶臼) 上臼	24号井戸 1/4		粗粒安山岩	側面の大半が剥落し形状不明。上面は丁寧な磨き整形 側面に方形の挽木穴を有するが、座の有無は不明。挽面は平坦で、4～5mm間隔の細い目が残る。左回転。	

30号井戸

158-89 137 No0749	青磁器 碗	30号井戸 口縁部破片		胎：微砂粒 焼：還元焰 色：緑灰色	内外面施釉。器肉薄い。	中国
-------------------------	----------	----------------	--	-------------------------	-------------	----

### 第3章 検出遺構と遺物

#### 30号・32号井戸

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
158-90 — No1617	焼締陶器 甕	30号井戸 胴部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：橙〜にぶい橙色	外面叩き痕。	13~14c 知多窯
158-91 137 No4046	鉄製 小刀	30号井戸	長さ(20.2)	鉄製	柄に小穴があり目釘穴か。	11.10g
158-92 137 No4047	鉄製 不明	32号井戸 フク土	長さ(18.6)	鉄製	ノミ状ではあるが先の形態が不明瞭。	79.90g

#### 36号・37号・38号井戸

158-93 — No1615	焼締陶器 片口鉢	36・37号井戸 口縁〜体部 破片	口径 — 底径 — 器径 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰色	内外面にクロロ目シャープ。	13c 知多的窯
158-94 137 No1618	青磁器 碗	36・37号井戸 底部破片	口径 — 高台径 — 器径 —	胎：微砂粒 焼：還元焰 色：明オリーブ灰	内面に文様有り。器肉厚い。	中国 龍泉窯系 13c
158-95 137 No4050	金属製品 板状	36・37号井戸 フク土	長さ(3.4)	金属製品	扁平な板状を呈す。	2.62g
158-96 — No1616	焼締陶器 甕	36・37号井戸 胴部破片	口径 — 底径 — 器径 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：橙〜にぶい赤褐	外面に叩き痕。	14c 知多窯
158-97 — No0752	焼締陶器	36・37号井戸 体部片		胎：— 焼：— 色：—	外面刷毛目状の条痕あり。	
158-98 137 No4048	古銭 天聖元宝	36号井戸 完形	最大径 2.44 厚さ 0.12	銅製	部分的に腐食がみられるものの縁及び文字の稜は良く残る。篆書体。	1.95g 北宋 1023年
158-99 137 No4049	古銭 開元通宝	36号井戸 ¾	最大径 2.44 厚さ 0.12	銅製	「元」の文字部を欠失。その他は縁に若干の腐食がみられるものの、稜は残る。	1.99g 唐
159-100 137 No2237	砥石	36・37号井戸	長 16.6 幅 (6.3) 厚 7.3	砥沢石	未使用面は節理か川原石面・原石面を残す。被熱。置砥。中砥級。	814g 1面使用
159-101 137 No2246	砥石	36・37号井戸	長 (11.7) 幅 10.6 厚 6.7	粗粒安山岩	側部河原石面。削り割り、旧時欠損あり。表・裏2面使用。荒砥級。	646g 2面使用
159-102 137 No2291	石臼 上臼	38号井戸 ¼	最大径 — 高さ —	粗粒安山岩	側面の大半が剥落する。丁寧な磨き整形。側面に挽木穴の一部を有するが形状不明。挽面は磨耗し、やや偏減りするが、2~3cm間隔の荒い目が残る。	1.1kg

#### 41号井戸

159-103 — No1371	軟質陶器 鉢(擂鉢)	41号井戸 体部下〜底 部破片	口径 — 底径 14.0 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	底部回転糸切り。糸切り痕に乱れ有り。内面使用による磨耗が認められる。	中世
159-104 137 No4051	古銭 聖宋元宝	41号井戸 完形	最大径 2.44 厚さ 0.11		真書体。縁に若干欠損があるものの、腐食は少なく、文字・縁の稜は良く残る。	2.74g 北宋 1101年
159-105 137 No2293	石製品 凹石	41号井戸 完形	長さ 21.3 幅 13.3 厚さ 10.4	粗粒安山岩	自然石の広い面2面に浅いすり鉢状の凹みを有し、凹み底面は削痕が残る。	2.7kg
159-106 137 No2238	磨石	41号井戸	長さ 12.6 幅 4.3 厚さ 3.8	石製 砂岩	トーン部が磨耗部。平面楕円気味。横断面隅丸三角形。	284g
159-107 137 No2775	板碑	41号井戸 上部破片	長さ — 幅 — 厚さ 2.7	緑色片岩	碑面やや磨減。浅い葉研彫り阿弥陀種子の一部残る。線刻二条線有。	

第3節 古墳時代以降

42号井戸

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
159-108 137 No2295	石臼(茶白) 下白	42号井戸 1/4	最大径 — 高さ —	粗粒安山岩	受皿部を欠損。底面えぐり部を除き磨き整形。挽面は磨耗し目は残らず、面は荒れる。	2.0kg
160-109 — No1619	硬質陶器 甕	42号井戸 胴部破片	口径 — 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰色	外面に叩き痕残。	
160-110 137 No0756	軟質陶器 擂鉢	42号井戸 体部～底部 破片	口径 — 底径 12.3 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：褐灰～灰色	底部に糸切りの痕跡が残るものの、体部等にはロクロ成形の痕跡なし。外面体部下半に指頭圧痕。内面に6条の弧を描く目が3ヶ所残る。	中世
160-111 — No0762	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	42号井戸 口縁～体部 破片	口径(23.0) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰色	口縁～体部の器肉薄く、口縁部内面に指による回転巻上げ状の段を有する。	
160-112 138 No0757	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	42号井戸 口縁～体部 破片	口径(27.4) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：暗褐色	口縁端部やや丸味をおびる。耳部1つ残、耳は細く円筒状を呈し、耳部のある位置のみ外面張り出す。外面口縁～体部に煤付着。	
160-113 138 No0758	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	42号井戸 口縁～底部 1/5	口径(29.4) 底径(19.2) 器高 15.4	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～暗褐	口縁端部やや丸味をおびる。耳部残らず。外面口縁下～体部にかけて煤付着。	
161-114 — No0760	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	42号井戸 口縁～底部 1/6	口径(44.9) 底径(39.8) 器高 5.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：褐灰～にぶい橙	口縁部やや歪む。口縁部～体部は内湾気味に開く。体部下半はへら撫で。	
161-115 137 No0759	軟質陶器 内耳鍋? (浅鍋)	42号井戸 口縁～底部 破片	口径(44.3) 底径(34.6) 器高 5.6	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	口縁部はやや内湾気味に開く。口縁端部はやや丸味をおびる。内面体部底部付近に炭化物付着。	
161-116 138 No2297	砥石	42号井戸	長さ(11.4) 幅(7.9) 厚 8.5	粗粒安山岩	小口旧欠。刃ならし条痕多数あり。多角柱形。荒砥級。	633g 7面使用
161-117 138 No2235	砥石	42号井戸	長さ(9.4) 幅 7.6 厚 7.5	粗粒安山岩	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。多角柱形。荒砥級。	485g 5面使用
161-118 138 No2296	石鉢	42号井戸 完形	口径 20.3 底径 16.5 器高 12.7	粗粒安山岩	体部中位より上に最大径をもち、口縁部は内湾する。成形は均質だが、一般的な石鉢の器形とは異なり、五輪塔水輪の転用か。	転用石鉢 5.4kg
161-119 — No2116	台石	42号井戸 完形		粗粒安山岩	自然石の一面に叩き痕を有し、熱を受け赤色に変色した部分が有る。鍛冶台石か。	4.0kg

44号・45号井戸

161-120 138 No2298	凹石	44号井戸 完形	長さ 17.0 幅 12.3 厚さ 7.4	角閃石安山岩	自然石の広い1面に径7cm程の深いすり鉢状の凹みを有し、凹みの内面は円形の削痕を有する。	1.8kg
161-121 — No0765	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	45号井戸 口縁～体部 破片	口径(36.0) 底径 — 器高(5.4)	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色～黒褐色	口縁端部は丸味をおびる。耳部は残らず。外面体部下方に指頭圧痕残る。	
161-122 138 No2301	石臼 下白	45号井戸 1/4	最大径 — 高さ 6.9	粗粒安山岩	側面及び下面えぐり部は比較的丁寧な整形。挽面は磨耗し、目は残らない。	2.1kg
162-123 138 No2299	石臼(茶白) 上白	45号井戸 3/5	最大径 — 高さ 10.7	粗粒安山岩	上面及び側面は丁寧な磨き整形。側面に方形の挽木穴と菱形の座を有する。座は周囲に溝を彫り、外面を削り込み造り出す。挽面は平坦に磨耗し、目は残らない	3.5kg

46号井戸

162-124 138 No0894	有孔土製円 盤(転用)	46号井戸 完形	長さ 7.6 幅 7.8 厚さ 1.6	胎：粗砂粒、砂質 焼：酸化焰 色：黒褐色	軟質陶器内耳鍋又は甕の胴部を転用。旧外面に煤付着。周囲を粗く打ち欠いた後に研磨。中央部に径7.8mm程の孔を穿つ。	
162-125 138 No0766	男瓦	46号井戸			瓦一覧表(1)参照	

第3章 検出遺構と遺物

47号井戸

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
162-126 138 No0767	かわらけ	47号井戸 略完形	口径 7.7 底径 4.5 器高 2.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	ロクロ成形。底部回転糸切り、ただし糸の条痕なく別種の切離し痕か。ロクロ左回転。	
162-127 — No0769	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	47号井戸 体部～底部 破片		胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～黒褐	底部端部はシャープな稜をもつ。体部は直線的に開く。内外面共に丁寧な整形。	
162-128 138 No2305	石鉢	47号井戸 破片		粗粒安山岩	口縁部破片。体部はやや湾曲する。内外面共に丁寧な整形。	500g
162-129 138 No2306	石鉢	47号井戸 破片	口径 — 底径 20.0 器高 —	粗粒安山岩	底部～体部。底径は広く器肉も厚手。内外面共に細かい工具痕を残す。	5.1kg
162-130 138 No2304	石鉢	47号井戸 破片	口径 — 底径 16.1 器高 —	粗粒安山岩	底部破片。外面は丁寧な磨き整形。内面は底面に使用による研磨痕が見られる。	1.4kg
163-131 138 No2307	石臼 上臼	47号井戸 3/4	最大径 — 高さ 13.6	粗粒安山岩	上・側面は比較的丁寧な整形。供給口の一部を有し、側面には挽木穴を有するが、挽面の磨耗により挽木穴との肉は薄くなる。目は残り、6分割。	4.5kg
163-132 138 No2302	石臼 上臼	47号井戸 1/4	最大径 — 高さ 10.5	粗粒安山岩	上面及び側面は丁寧な整形。供給口の一部を有し、供給口の直角方向側面に方形の挽木穴を有する。挽面は磨耗し目は残らない。	3.0kg
163-133 138 No2303	石臼 上臼	47号井戸 1/4	最大径 — 高さ 7.5	粗粒安山岩	上面及び側面は比較的丁寧な整形だが、全体に磨耗する。挽面は磨耗。やや偏減りし、目は残らない。	2.3kg
163-134 138 No2308	石臼(茶白) 下臼	47号井戸 受皿部破片	最大径 — 高さ —	粗粒安山岩	受皿部上面～縁部は丁寧な磨き整形。側面下方は工具痕を残す。	1.1kg
163-135 138 No2161	砥石	47号井戸	長 (6.1) 幅 3.9 厚 3.7	砥沢石	小口削。表・裏、側部4面使用。中砥級。	106g 4面使用
163-136 138 No3032	木製 組物材	47号井戸	長さ 35.0	木製	井桁板材を受ける割り込みあり。木目は小径材の4分割か。	
163-137 138 No3015	木製 加工材	47号井戸	長さ 45.2	木製	外面に加工の削り目あり。年輪に沿う削り方。	
163-138 138 No3018	木製 加工材	47号井戸	長さ 12.0	木製	方形材で、年輪の芯が残され、その周囲を4面に加工。小径材使用。	
163-139 138 No3017	木製 加工材	47号井戸	長さ 12.0	木製	年輪の芯が残される小径材で、小口面で切断される。	
164-140 138 No0768	女瓦	47号井戸			瓦一覧表(1)参照	

50号井戸

164-141 139 No0772	かわらけ	50号井戸 完形	口径 9.6 底径 5.8 器高 2.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～暗褐色	ロクロ成形。底部回転糸切り。内面、水引き痕明瞭に残る。ロクロ左回転。	
164-142 — No0770	陶器 皿	50号井戸 底部破片	口径 — 底径(13.9) 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：オリーブ灰	高台部と底面の一部が残存。	
164-143 — No0771	軟質陶器 火鉢	50号井戸	口径 — 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰色		
164-144 139 No3033	木製 底板	50号井戸	長さ(4.8)	木製	底板にしては薄いように思えるので曲物蓋材か。木目は柾目気味。	

第3節 古墳時代以降

50号井戸

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
164-145 139 No3039	木製 椀	50号井戸	体部片	木製	挽製作に思える椀の体部片。	
164-146 139 No2776	板碑	50号井戸	最大幅(15.5) 長さ(18.0) 厚さ 3.0	緑色片岩	大型板碑。碑面はやや磨滅。薬研彫り阿弥陀三尊種子。脇侍のサのみ残る(薬研彫り蓮座付き)。	3.0kg

51号井戸

164-147 139 No4052	古銭 不明	51号井戸 完形	最大径 2.33 厚さ 0.11	銅製	遺存状態は良いものの、部分的に腐食がみられ、文字の判読は難しい。	2.49 g
164-148 139 No2777	板碑	51号井戸 上部破片	最大幅(15.5) 長さ(34.0) 厚さ 3.0	緑色片岩	碑面の磨滅少。薬研彫り阿弥陀一尊種子、薬研彫り蓮座。二条線有。裏面に幅12mm程の工具痕が横方向に残る。	

52号井戸

165-149 139 No2310	砥石	52号井戸	長 (16.9) 幅 8.3 厚 6.7	粗粒安山岩	片側小口、旧欠。片側小口自然。荒砥級。	861 g 4面使用
165-150 139 No2311	砥石	52号井戸	長 (16.2) 幅 (14.2) 厚 (14.0)	粗粒安山岩	片側小口、旧欠。片側小口は旧打欠。多角柱形。置砥。荒砥級。	3.4kg 7面使用 中世以前
165-151 139 No3041	木製 桶側板	52号井戸	長さ 28.0	木製	桶側板で木取りは年輪に逆らって行う。	

53号井戸

165-152 139 No2312	石臼(茶白) 上白	53号井戸 1/4	最大径 — 高さ —	粗粒安山岩	側面は剥落し、整形状態が不明。上面は丁寧な磨き整形。側面に方形の挽木穴を有す。挽面は平坦に磨耗しわずかに目が残る。	1.2kg
165-153 139 No2057	石鉢	53号井戸 完形	口径 18.8 高さ 14.8 底径 18.3	粗粒安山岩		8.6kg
165-154 139 No3029	木製 棒状	53号井戸	長さ 33.5	木製	年輪の芯が残され、小径材。その側面を削る。	

55号井戸

165-155 139 No0779	陶器 小碗	55号井戸	口径 8.4 高台径 4.6 器高 3.6	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：浅黄橙、暗赤褐	高台部はやや雑な削り出し。内面は全面に施釉、外面は体部上位～中位程に施釉。	近世
165-156 139 No0773	かわらけ	55号井戸 略完形	口径 9.3 底径 6.0 器高 2.3	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙	ロクロ成形。底部回転糸切り。ロクロ左回転。	
165-157 139 No0777	焼締陶器 挿鉢	55号井戸 底部破片	口径 — 底径(11.3) 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：浅黄橙、赤褐色	内面に26条一単位の細かい目が放射状に刻まれる。	
165-158 139 No0778	陶器 菊皿	55号井戸 略完形 口縁一部欠	口径 12.8 高台径 7.1 器高 2.6	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：浅黄橙、緑色	内面は全面に施釉。外面は体部中位下まで施釉。細かな貫入あり。口縁部端の一部に火を受け、煤(油煙)付着。	近世
166-159 — No0775	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	55号井戸 口縁～底部 破片	口径(36.0) 底径(32.5) 器高 5.5	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白～黒褐色	口縁部は稜をもつ。耳部剥落痕残る。	
166-160 — No0774	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	55号井戸 口縁～底部 破片	口径(38.6) 底径(34.5) 器高 5.4	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	口縁部は稜をもつ。耳部痕跡1ヶ所残る。耳部は幅広く下方は底部に着く。外面体部下方に指頭圧痕残る。	
166-161 139 No2313	石臼 上白	55号井戸 1/4	最大径 — 高さ 12.6	粗粒安山岩	側面の一部が突出し挽木穴を上面に持つ武蔵型。外面は溝状の工具痕を全面に残す。挽面は平坦に磨耗し、目は残らない。	7.0kg 武蔵型石臼

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
166-162 139 No0782	玉縁付男瓦	55号井戸			瓦一覧表(1)参照	
166-163 139 No0781	男瓦	55号井戸			瓦一覧表(1)参照	
167-164 — No0870	玉縁付男瓦	55号井戸			瓦一覧表(1)参照	
167-165 139 No0780	男瓦	55号井戸			瓦一覧表(1)参照	
167-166 139 No0783	女瓦	55号井戸			瓦一覧表(1)参照	
168-167 — No0784	女瓦	55号井戸			瓦一覧表(1)参照	
168-168 139 No2117	凹石	55号井戸 完形	長さ 18.5 幅 20.9 高さ 17.3	粗粒安山岩	自然石の一面にやや深めの皿状の凹を有する。凹みの内面は磨耗する。	5.4kg
168-169 139 No2802	板碑	55号井戸 破片	最大幅 — 長さ — 高さ 1.4	緑色片岩	表裏面は剥落。阿弥陀種子のアク点の一部が残る。	1.4kg

56号井戸

168-170 140 No2316	石臼 上臼	56号井戸 1/5	最大径 — 高さ 10.7	粗粒安山岩	上・側面の整形は面を整える程度でやや粗雑。供給口の一部を有し、側面に円形の挽木穴を有する。挽面は磨耗するが、荒目の目が若干残る。目は6分割。	2.7kg
168-171 140 No3045	木製 底板	56号井戸	径 18.0	木製	桶底板か。表・裏に加工痕あり。片側に刃傷あり。	
168-172 — No0785	土製円盤 (転用)	57号井戸 完形	長さ 6.3 幅 6.2 高さ 1.1	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白色	須恵器杯底部を転用。周囲を打ち欠いた後に研磨。	

60号井戸

168-173 140 No0788	かわらけ	60号井戸 口縁～底部 3/4	口径 9.3 底径 5.7 器高 1.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	器形やや歪む。ロクロ成形、底部回転系切り、ロクロ左回転。	
168-174 140 No2317	石鉢	60号井戸 1/5	口径 — 底径 — 高さ 14.5	粗粒安山岩	内面は丁寧な磨き整形、外面は内湾し、整形はやや粗雑。器肉は厚手。	1.6kg



## 第3項 溝 跡

**1号溝** (第169図・第173～第175図、写真図版64・115・140)

**位置:** C区(大グリッド)北端部に位置し、調査区北端にあたる。

**走行方位:** 東西方向(N—89°—W、N—85°—W)

**規模:** 調査区域内における総延長は125mを測る。走行は東側では直線的であるが、西側はやや蛇行し走行する。

**断面形状:** 確認面における上巾は2.4m～4mを測り、深度130cm程を測る逆台形状を呈し、底面は平坦である。部分的に葉研(V字)状、割竹(U字)状を呈する。西端部では上層部が現代の攪乱を受けているため、確認面での上巾1.7m、深度20cm～60cm程を測るにとどまる。

**付帯施設:** 巾2m～3mを測る土橋が検出される。土橋は溝の掘削時に掘り残す形で造られる。

**出土遺物:** 五輪塔空風輪・内耳鍋・陶磁器・砥石・古銭・瓦などが出土する。

**所見:** 本溝は、館の副郭部の南辺を区画する溝と考えられ、前記の土橋の存在から、南側が正面と考えられる。溝の東側は調査区域外で4・5号溝に接続するものと推測され、また、西側は台地端部まで延び、堀切となる。埋土には水性堆積は見られず、流水はなく、空堀であったものと考えられ、出土する遺物に年代の巾があることから、江戸時代後期に至るまで開口していたものと考えられる。

**3号溝** (第169～171図・第175～193図、写真図版65・66・71・115～119・140・141)

**位置:** C区(大グリッド)中央北側に位置し、調査区南端にあたる。

**走行方位:** 東西方向(N—89°—W)

**規模:** 全長は75mを測り、走行は直線的である。

**断面形状:** 確認面における上巾は4.8m～7.2m、底部巾は1.4m～2mを測り、深度2m程を測る葉研(V字)状を呈する。

**付帯施設:** 木橋の4本柱跡が3箇所において検出さ

れ、掛け直されたものと考えられるが、それぞれの新旧関係は不明である。他の施設として、溝の両上端部に小さなピット列が検出され、柵の存在が推定される。また、溝がやや埋没した段階で、底部に五輪塔地輪を一行に敷き詰めた遺構が検出され、おそらくは溝内部に造られた井戸に至る通路としての機能が考えられる。

**出土遺物:** 板碑・五輪塔・宝篋印塔・内耳鍋・陶磁器・火鉢・瓦・多量の石臼と砥石等が出土する。また、前記の敷石の上面より多量の自然石が出土する。

**所見:** 本溝は、館の主郭部の南側を限る堀と考えられ、本遺跡で検出された溝のうち、一番規模が大きいものである。溝は東側に於いて4号溝と合流し、また、西側は調査区端で北へ曲がる様相を呈することから、両端で北へ折れ、それぞれ館主郭部の西・東を限る堀となるものと推察される。本溝の北側(館内部)に土塁が想定されるが、7号溝が接近し、平行して走ることから、土塁が設けられなかったか、または土塁が設けられない時期があったものと考えられる。また、埋土下方に水性堆積土がみられ、調査時においても底部付近に湧水が溜まることから、水量が多い時期には溝の半ばまで水没していたものと考えられる。底部付近から出土した南北朝期の板碑片を初めとし、溝内より出土する遺物に年代の巾があることから、近世に至るまで開口していたものと考えられ、前記の五輪塔地輪の敷石遺構もこの時期に至っての施設と考えられる。

**4号溝** (第169・第193～199図、写真図版67・69・120・141)

**位置:** C区(大グリッド)東端部に位置する。

**走行方位:** 南北方向(N—6°—E)

**規模:** 調査区内における全長は42mを測り、走行は直線的である。

**断面形状:** 確認面における上巾は2.6m～4m、下巾1.2m～2mを測り、深度1.4m程を測る逆台形状を呈し、底面は平坦である。

**付帯施設:** なし。

**出土遺物:** 五輪塔・石臼・かわらけを含む陶磁器・

### 第3章 検出遺構と遺物

瓦・砥石・古銭等が出土する。

**所見：**本溝は5号溝の西側に平行して走行し、館副郭部の東側を区画すると共に、北端部において3号溝と合流し、調査区外において館主郭部の東を限るのみと考えられる。また、南端部は調査区外において1号溝に接続するものと考えられる。また、本溝は埋没後に再度上巾2m、深度90cm程の葉研(V字)状を呈する掘直しが行われていることが埋土から確認された。

#### 5号溝 (第169・第199～201図、写真図版67～69・121・141)

**位置：**C区(大グリッド)東端部に位置する。

**走行方位：**南北方向(N-3°-W、N-10°-E)

**規模：**調査区内における全長は直線距離にしては42mを測る。走行は中央部でくの字状に折れる。

**断面形状：**確認面における上巾は1.7m～2.7mを測り、深度は1.3m程を測る逆台形状を呈し、底部に巾20cm～50cm、深度20cm程を測る箱堀を有する二段構造を呈する部分が数カ所ある。

**付帯施設：**中央部に巾30cm～110cm程の細い土橋状の仕切りを設ける。この仕切りは溝の掘削時に掘り残す形で造られる。

**出土遺物：**五輪塔・石臼・陶磁器・瓦・砥石等が出土する。

**所見：**本溝は4号溝の東側に平行して走行し、調査区外北側に延び、調査区外南側で西側に曲がり、1号溝と連結するものと考えられる。4号溝と対になり、館跡の主郭部・副郭部を囲う東限の堀と考えられる。

中央部のくの字状に折れた部分に前記の土橋状の仕切りを設ける。この仕切りは、溝内の流水を調節する施設か、溝内の歩行を止める施設か、または土橋、あるいは木橋の支え等の溝を渡る施設のいずれかと考えられる。溝の西側(館内側)に土塁の存在が想定されるが、4号溝との間隔が狭く、土塁は持たなかったものと考えられる。

#### 6号溝 (第172・第201～206図、写真図版70・121・122・141)

**位置：**B区～B'区(大グリッド)中央部に位置し、南

北端はそれぞれ調査区外に延びる。

**走行方位：**南北方向(N-1°-E)

**規模：**調査区内における全長は35m程を測り、走行は直線的である。

**断面形状：**北半部は巾2.3m、深度80cm～100cmを測る割竹(U字)状を呈し、南半部は更に底面に巾30cm、深度30cm～40cmの箱堀状の溝を掘り込む二段構造を呈する。

**付帯施設：**10号溝に接する地点に、巾40cm程を測る細い土橋状の仕切りが設けられる。

**出土遺物：**五輪塔・石臼・石鉢・内耳鍋・陶磁器・瓦・砥石・古銭等が出土する。

**所見：**本溝は台地の端部から低湿地にさしかかる所に位置し、4号・5号溝と平行し、ほぼ南北方向に走行することから、館の東側の別区画の東限にあたるものと考えられる。溝は館を区画するのみならず、中程で10号溝に分岐、北側で13号溝と交差することから、低湿地の湧水・雨水を10号・13号溝を通じて東側の谷へ流す機能をも有していたと考えられる。

#### 7号溝 (第169・第206図、写真図版71・122)

**位置：**C区(大グリッド)中央北側に位置し、調査区南端にあたる。

**走行方位：**東西方向(N-89°-W)

**規模：**全長は65m程を測り、直線的に走行する。

**断面形状：**上巾90cm、深度50cm程を測る割竹(U字)状および箱堀状を呈する。

**付帯施設：**なし。

**出土遺物：**特筆すべき出土遺物なし。

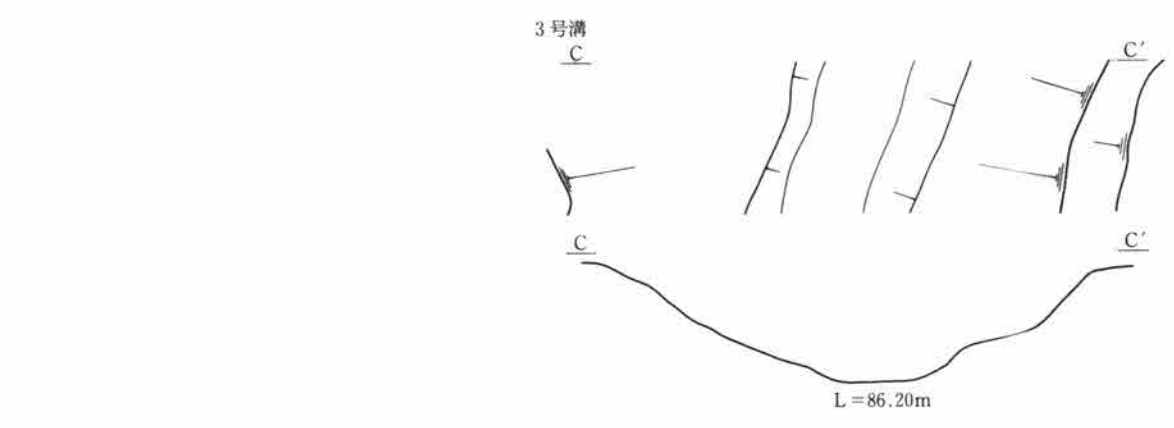
**所見：**本溝は3号溝の北側60cm程の所を平行するよう走る。

#### 8号溝 (第172・第206・207図、写真図版72・122)

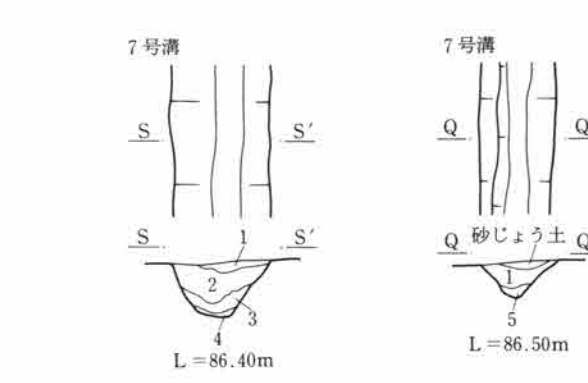
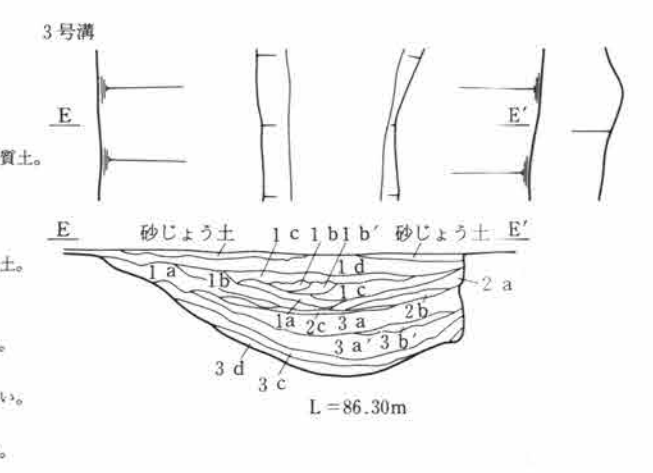
**位置：**B区(大グリッド)中央部やや東寄りに位置する。

**走行方位：**南北方向(N-4°-W)

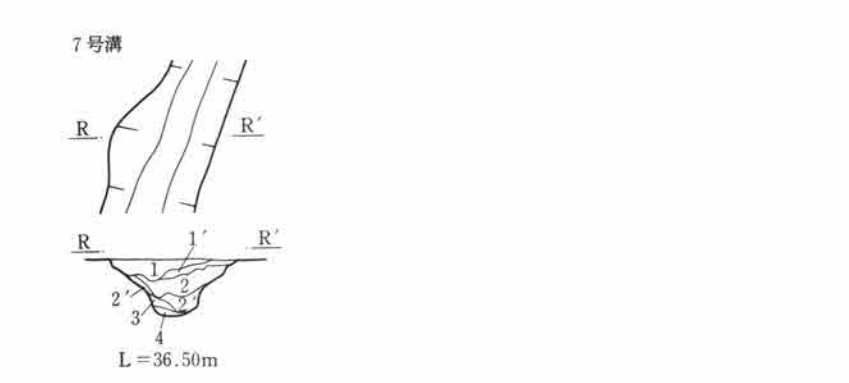
**規模：**調査区内における全長は9m程を測り、なお南側調査区外に延びる。走行は直線的である。



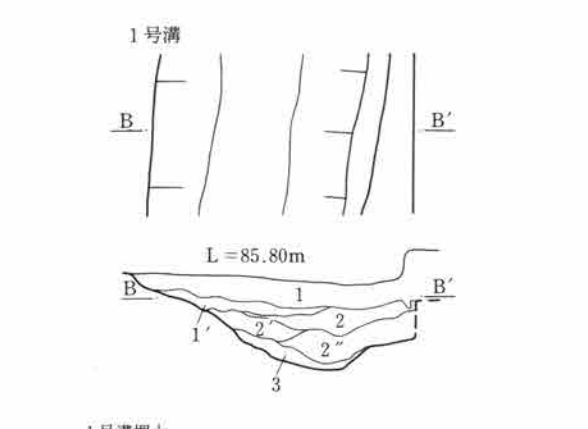
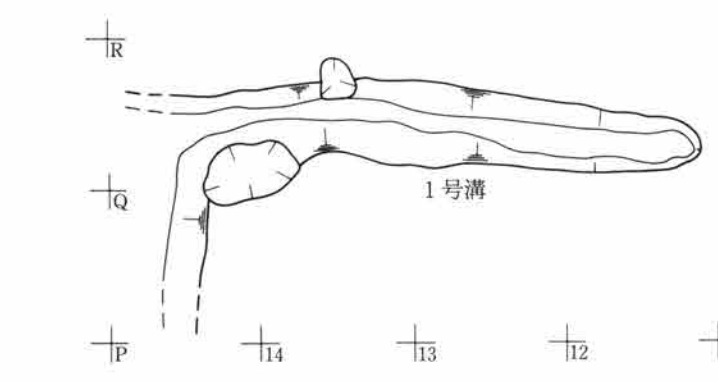
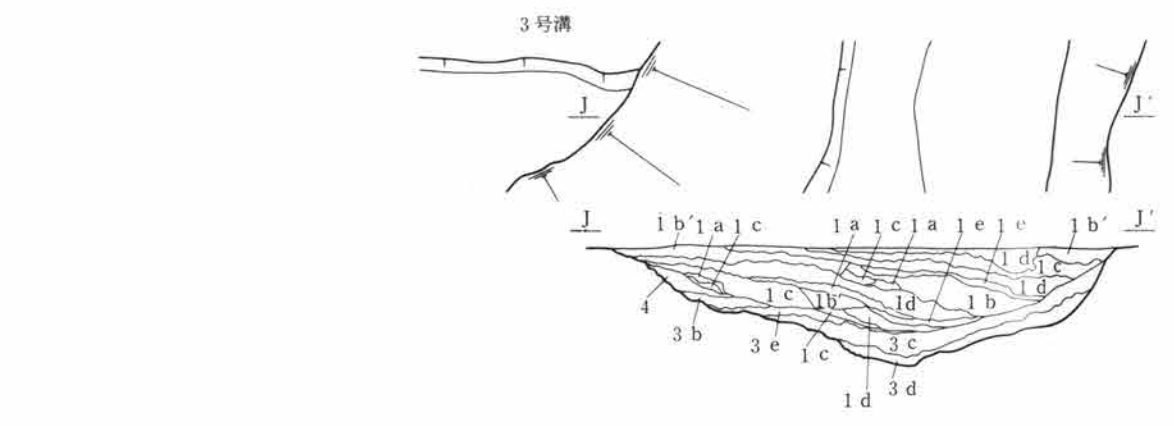
- 3号溝埋土
- 1 a: 7 割ほどをハードローム粒子がしめる黄褐色砂質土。
  - 1 b: 3 割ほどをロームブロックがしめる暗褐色砂質土。
  - 1 b': 1 b 層土から1 c 層土への漸移的層。
  - 1 c: 1 割方をローム粒子・小ブロックがしめる暗褐色砂質土。
  - 1 d: 径 5mm 程度のローム小ブロックとバミスを少量含む暗褐色砂質土。
  - 1 e: ローム粒子をほとんど含まない黒褐色砂質土。
  - 2 a: ローム粒子を不均質に含み、粘性のない黒褐色土。
  - 2 b: ソフトローム粒子を多く含み、粘性のない暗褐色土。
  - 2 c: 多量のソフトローム粒子を含み、やや粘性をもつ暗褐色土。
  - 3 a: 暗色帯に似て、バミスを含む暗灰色シルト質土。
  - 3 a': 3 a 層土に類似し、灰色味が強い。
  - 3 b: 3 a 層土に類似し、ローム粒子を含む暗褐色シルト質土。
  - 3 c: 多量の粘質土ブロックを含む暗褐色土。
  - 3 d: 3 a 層土と 3 c 層土と砂土との混土。水性堆積は見られない。
  - 3 e: シルト質の暗茶褐色土。
- 大きく1層・2層・3層に分類でき、溝の掘直しの可能性が高い。



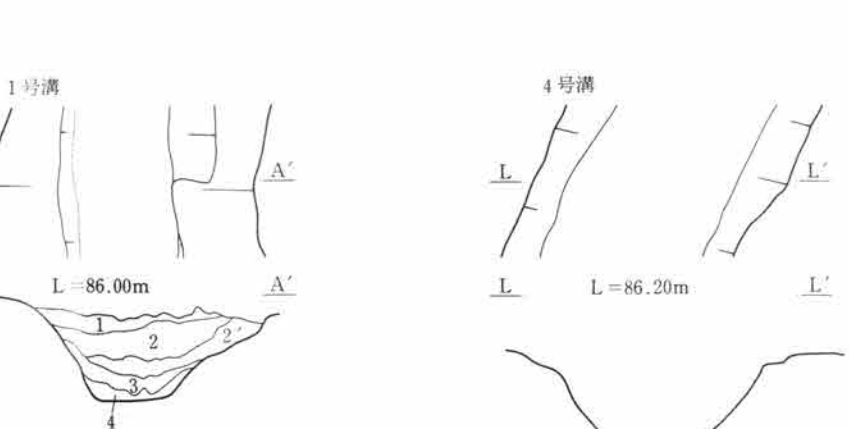
- 7号溝
- 1: ロームブロック・ソフトローム粒子を多量に含む暗褐色砂質土。
  - 1': 1 層土に類似し、ローム粒子の混入が多い。
  - 2: 多量のソフトローム土に暗褐色土を斑状に含む。
  - 4: ソフトローム粒子を少量含み、しまりのない暗褐色粘質土。
  - 5: 混入物の少ない黒褐色砂質土。



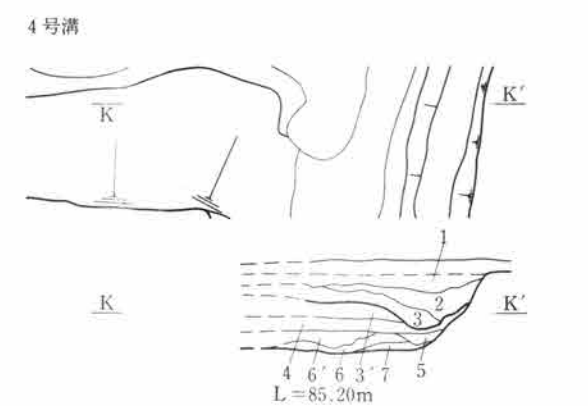
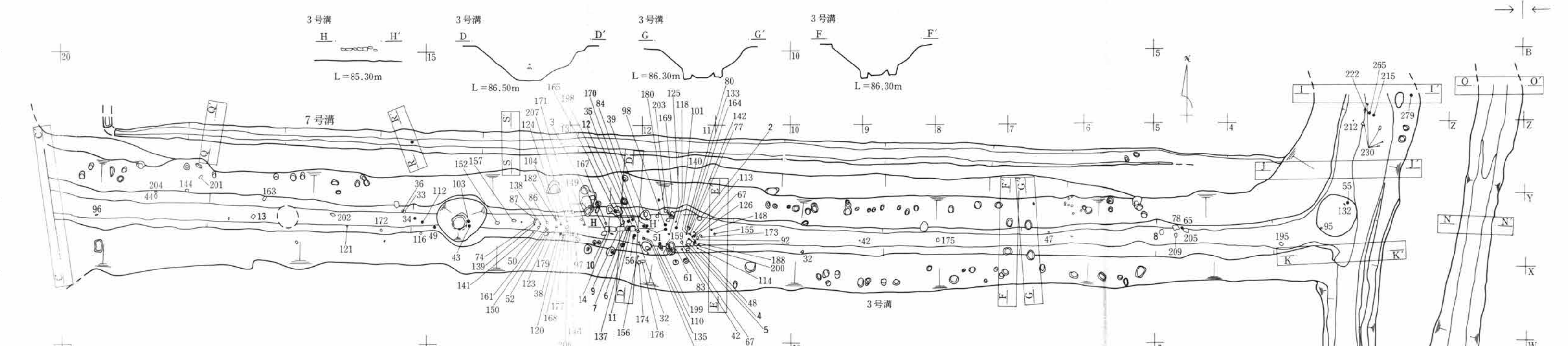
- 7号溝
- 1: ローム粒子・バミスを多く含む暗褐色砂質土。
  - 1': 1 層土に類似し、ローム粒子の混入が多い。
  - 2: 1 層土に類似し、ローム粒子の混入が少なく、炭化物を含む。
  - 2': 2 層土に類似し、黒色土を斑状に含む。
  - 3: 黒色土を斑状に含む明茶褐色シルト質土。
  - 4: しまりのない暗褐色粘質土。



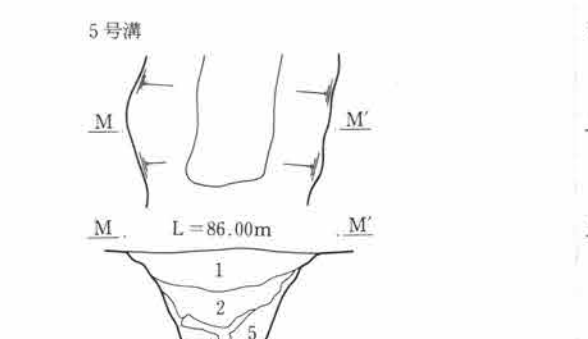
- 1号溝埋土
- 1: 多量の軽石と少量のローム粒子を含む黒褐色砂質土。
  - 1': 1 層土に類似し、2 層土との漸移的層。
  - 2: 混入物が少なく、細粒で粘性の強い暗褐色土。
  - 2': 2 層土に類似し、少量のローム粒子を含む。
  - 2'': 2 層土に類似し、しまりが強く茶色味をおびる。
  - 3: 多量のローム粒子を含み、粘性の強い暗褐色土。



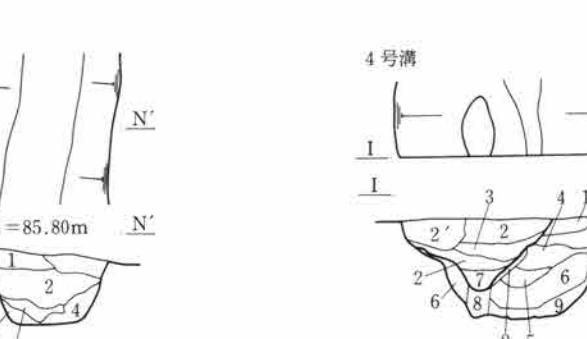
- 1号溝埋土
- 1: 表土・2 層土・ソフトロームブロック等の混土。
  - 2: バミスを含む粘性のない黒褐色土。
  - 2': 2 層土に類似し、ローム粒子を多く含む暗褐色土。
  - 3: ローム粒子・暗色帯小ブロックを含む暗褐色土。
  - 4: ハードローム・暗色帯ブロックを含み、粘性のある暗褐色土。



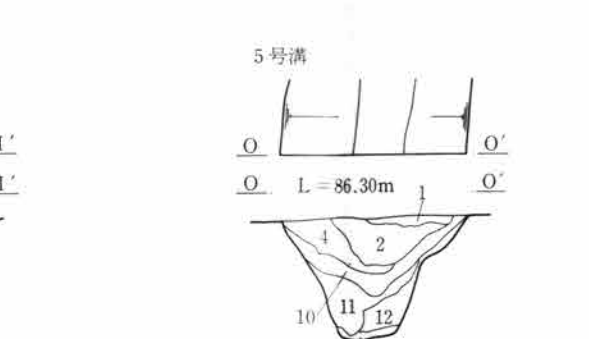
- 4号溝埋土
- 1: 黒色土・ローム小ブロック・バミスを不均質に含む暗褐色砂質土。
  - 2: ローム粒子の混入が少なく、水性堆積を示す暗褐色土。
  - 3: 径 5mm - 3cm 程度のロームブロックを多量に含む黄褐色土。
  - 3': 3 層土から 4 層土への漸移的層。
  - 4: ローム小ブロック・黒色土を不均質に含む細粒の暗褐色土。
  - 5: 黒色土細粒子を多く含む暗褐色土。
  - 6: 粘性の強い灰褐色土。
  - 6': 6 層土に類似し、ローム小ブロックを含む。
  - 7: ロームと灰褐色粘土との混土。



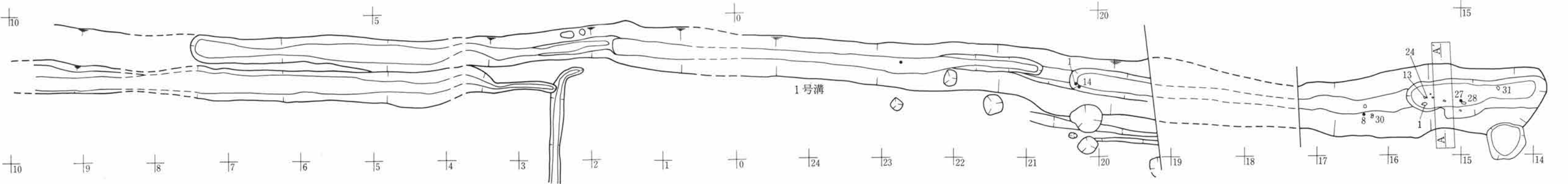
- 5号溝埋土
- 1: 軽石・ロームを含む暗褐色砂質土。
  - 2: ローム粒子・炭化物を含むしまりのない黒褐色土。
  - 2': 2 層土に多量のローム土を含む暗褐色土。
  - 4: 3 層土に類似し、ローム粒子は粗く、ロームブロックを含む。
  - 5: 少量のローム粒子・ローム小ブロック・暗色帯ブロックを含む暗褐色粘質土。
  - 6: ハードロームブロック層。



- 4・5号溝
- 1: 径 5mm 程度のローム小ブロックとバミスを少量含む暗褐色砂質土。
  - 2: 1 割方をローム粒子・小ブロックがしめる暗褐色砂質土。
  - 3: 3 割方をロームブロックがしめる暗褐色砂質土。
  - 4: 中央部にローム粒子が水平に堆積し、砂状土を含む暗褐色土。
  - 5: 4 層土に類似し、ローム粒子の混入が多い。
  - 6: 少量のローム粒子・バミスを含み、やや粘性を持つ暗褐色土。
  - 7: 多量のロームブロックを含むシルト質暗褐色粘質土。
  - 8: シルト質暗褐色粘質土。
  - 9: 少量のローム小ブロックを含むシルト質暗褐色土。
  - 10: 6 層土に類似し、ロームの混入が多い暗褐色粘質土。
  - 11: 10 層土に類似し、焼土・炭化物とローム粒子を斑状に含む。
  - 12: ローム土を主体に黒色土を含む暗褐色土。
  - 13: 12 層土に類似し、ロームの割合が多い黄褐色土。

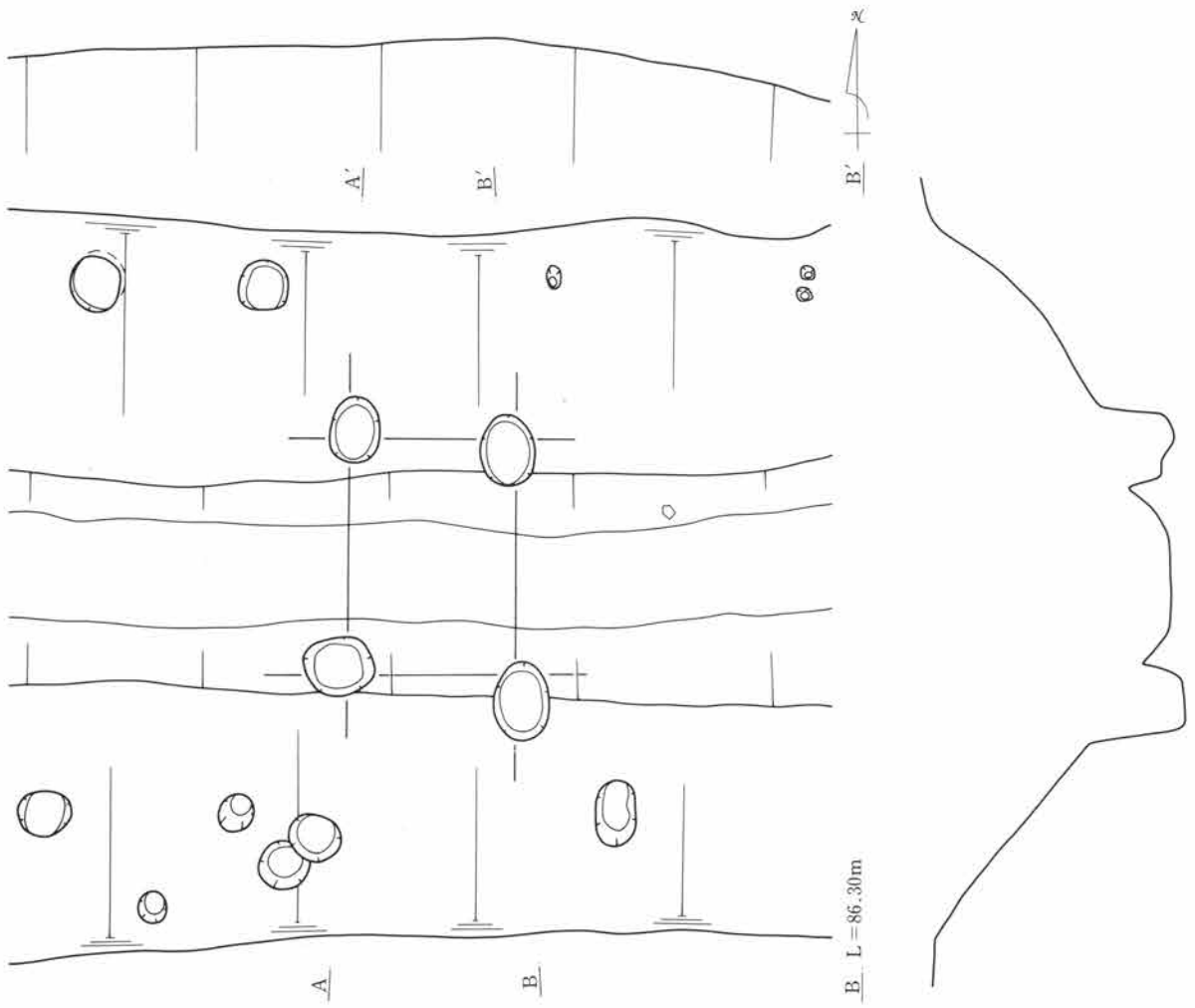


- 5号溝埋土
- 1: 表土・2 層土・ソフトロームブロック等の混土。
  - 2: バミスを含む粘性のない黒褐色土。
  - 2': 2 層土に類似し、ローム粒子を多く含む暗褐色土。
  - 3: ローム粒子・暗色帯小ブロックを含む暗褐色土。
  - 4: ハードローム・暗色帯ブロックを含み、粘性のある暗褐色土。



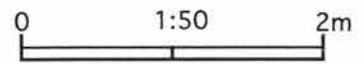
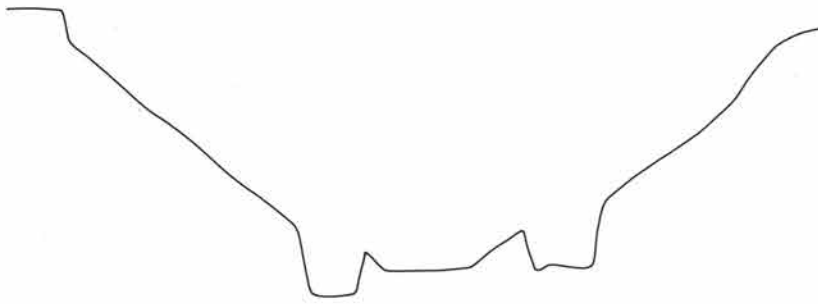
第169図 溝跡



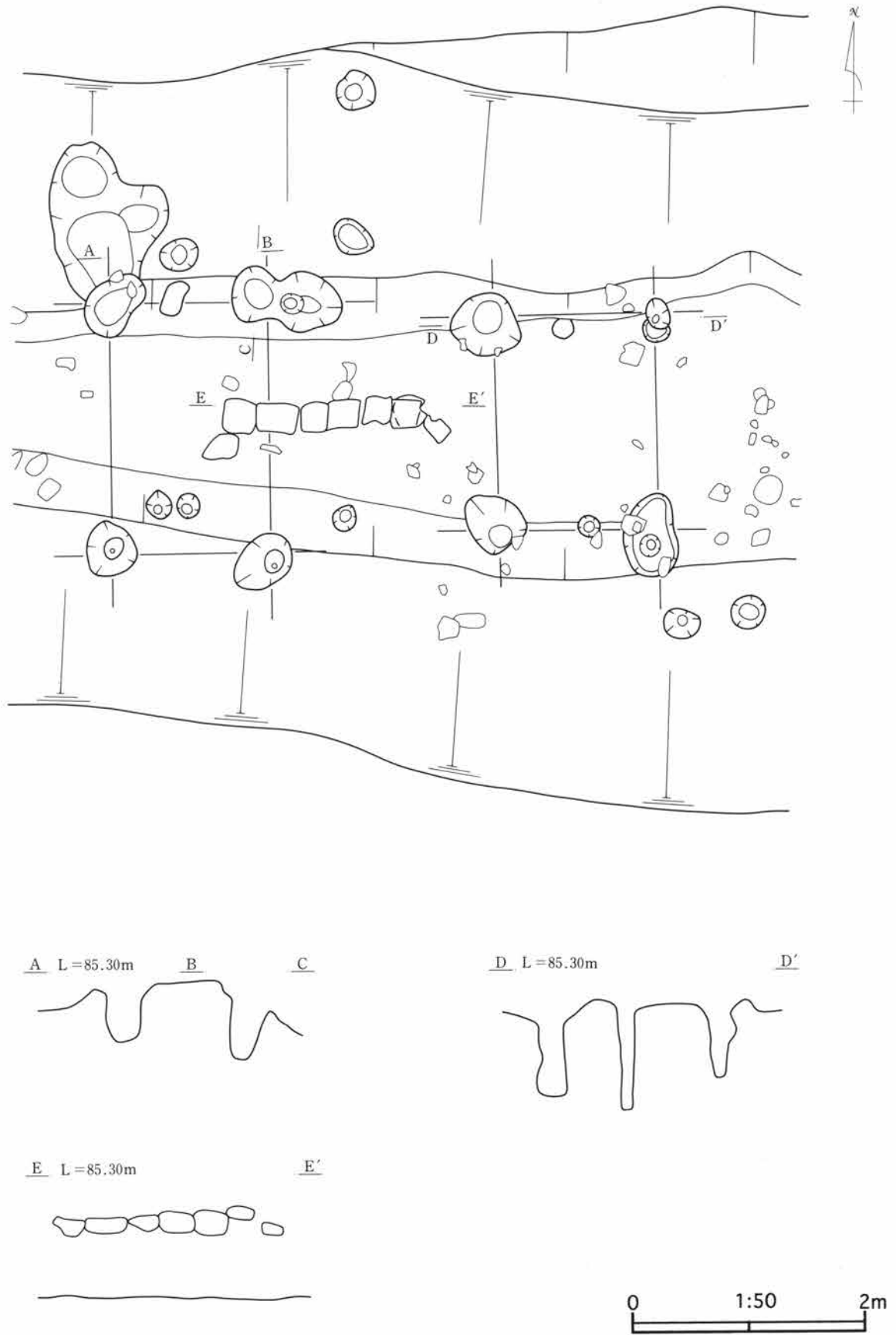


A L = 86.30m

A'



第170図 3号溝木橋柱跡



第171図 3号溝木橋柱跡



**断面形状：**上巾1.2m、深度60cm程を測る割竹(U字)状および箱堀状を呈する。

**付帯施設：**なし。

**出土遺物：**かわらけを含む陶磁器・砥石・古銭などが出土する。

**所見：**本溝は、低湿地部分に位置し、通水の痕跡をも有するが、10号・11号溝に接続しておらず、南側が未調査であることから、その用途は明らかではない。

**9号溝** (第172・第207図、写真図版72・123・141)

**位置：**B区(大グリッド)中央部東寄りに位置し、8号溝と平行する。

**走行方位：**南北方向(N—4°—W)

**規模：**調査区内における全長は8m程を測り、なお南側調査区外に延びる。走行は直線的である。

**断面形状：**上巾1.5m、深度60cm程を測る割竹(U字)状および箱堀状を呈する。

**付帯施設：**溝途中に巾20cm程を測る土橋状の細い仕切りを設ける。

**出土遺物：**五輪塔・瓦・石臼などが出土する。

**所見：**本溝は、8号溝と同様に低湿地部分に位置し、通水の痕跡をも有するが、10号・11号溝に接続しておらず、南側が未調査であることから、その用途は明らかではない。

**10号溝** (第172・第207～223図、写真図版73・123～126・141～143)

**位置：**A区～B区(大グリッド)中央部に位置する。

**走行方位：**東西方向(N—86°～95°—W、N—120°—E)

**規模：**調査区域内における全長は53m程を測り、やや蛇行し走行する。東側は調査区域外に延びる。

**断面形状：**上巾2.9m、深度70cm程を測る割竹(U字)状を呈し、部分的に深度が深くなる。

**付帯施設：**なし。

**出土遺物：**多量の自然礫に混じり、多量の五輪塔と石臼・石鉢が出土する。また、併せてかわらけを含む陶磁器・内耳鍋・砥石・瓦などが出土し、その出

土状況からこれらの遺物は本溝内に廃棄されたものと考えられる。

**所見：**西端部において6号溝と接し、中程で11号溝に分岐する。低湿地部に位置し、埋土の状態から流水の痕跡がうかがえることから、東側の谷への通水(排水)を目的とする溝と考えられる。

**11号溝** (第172・第223～229図、写真図版74・127・128・143)

**位置：**A区～B区(大グリッド)中央部に位置する。

**走行方位：**東西方向(N—74°～90°—W、N—11°—W)

**規模：**調査区域内における全長は32m程を測り、やや蛇行し走行する。東側は調査区域外に延びる。

**断面形状：**上巾2.2m～4.5m、深度40cm～70cm程を測る割竹(U字)状を呈し、部分的に深度が深くなる。

**付帯施設：**なし。

**出土遺物：**多量の自然礫に混じり、多くの五輪塔・石臼・石鉢が多く出土する。また、併せてかわらけを含む陶磁器・土製転用円盤・瓦・砥石・杭などが出土し、その出土状況からこれらの遺物は本溝内に廃棄されたものと考えられる。

**所見：**本溝は10号溝の中程から分岐し、10号溝の南側を平行して走る。低地部分に位置し、10号溝と同様に流水の痕跡がみられることから、東側の谷に通水(排水?)するための施設と考えられる。

**12号溝** (第172・第230図、写真図版128)

**位置：**B区(大グリッド)中央部に位置する。

**走行方位：**南北方向(N—10°—E)

**規模：**確認面を下げたためか、溝の両端は確認できなかった。検出範囲での全長は11m程を測り、やや蛇行し走行する。

**断面形状：**上巾70cm～90cm、深度20cm程を測る割竹(U字)状を呈する。

**付帯施設：**なし。

**出土遺物：**石臼・石鉢などが出土する。

**所見：**6号溝の西側を平行し走行する。館を区画するには規模が小さく、その用途については明らか



### 第3章 検出遺構と遺物

かではない。

**13号溝** (第172・第230～247図、写真図版75・128～133・143・144)

**位置**：B'区～B区、A区(大グリッド)に位置する。

**走行方位**：東西方向(N—59°～92°—W、N—121°—E)

**規模**：調査区域内における全長は57m程におよび、蛇行し走行する。東側および北側は調査区外に延びる。

**断面形状**：上巾2.2m～3.4m、深度60cmを測る割竹(U字)状を呈し、部分的に深度が深くなる。

**付帯施設**：なし。

**出土遺物**：多量の自然礫に混じり、多くの五輪塔・石臼・石鉢・瓦とかわらけを含む陶磁器・砥石などが出土する。また、湿地であるため、桶・杭などの木製品と自然木が多く出土し、その出土状況からこれらの遺物は本溝内に廃棄されたものと考えられる。

**所見**：北側において6号溝と交差する。低湿地部に位置し、埋土の状態から流水の痕跡がうかがえることから、東側の谷への通水(排水)を目的とする溝と考えられる。

**14号溝** (第172・第248図、写真図版133)

**位置**：B区(大グリッド)の北東に位置する。

**走行方位**：東西方向(N—82°—W)

**規模**：全長は15号溝に接した所から8m程を測る。

**断面形状**：上巾1.8m、深度10cm～20cmを測る割竹(U字)状を呈する。

**付帯施設**：なし。

**出土遺物**：瓦・内耳鍋などが出土する。

**所見**：13号溝より分岐した15号溝の延長に当たり、15号溝と対となり13号溝へ通水するための溝と考えられる。

**15号溝** (第172・第248・第249図、写真図版133)

**位置**：B区(大グリッド)の北東に位置する。

**走行方位**：南北方向(N—5°—E)

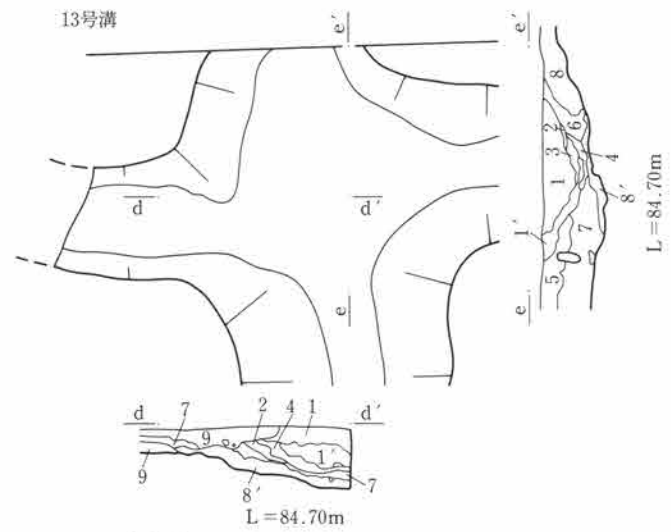
**規模**：全長は14号溝に接した所から5.4m程を測る。

**断面形状**：上巾2.5m～3m、深度10cm～20cmを測る割竹(U字)状を呈する。

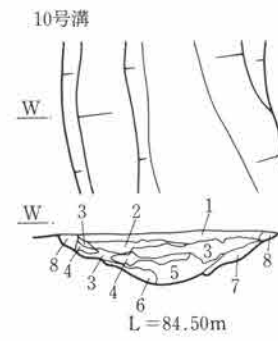
**付帯施設**：なし。

**出土遺物**：瓦・杭などの木製品が出土する。

**所見**：13号溝の途中より分岐し、14号溝と対となり13号溝へ通水するための溝と考えられる。



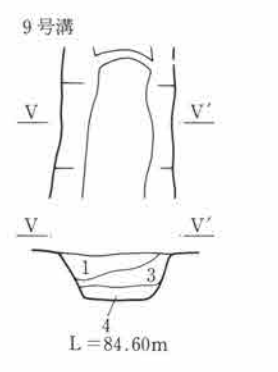
- 13号溝埋土
- 1: ローム小粒子を含む暗褐色弱粘質土。
  - 1': 1層土に類似し、ローム粒子は大粒で混入が少ない。
  - 2: 暗褐色弱粘質土と黒色土との混土。
  - 3: 多量のロームブロックを含む暗褐色粘質土。
  - 4: 1'層土に8層土を混入。
  - 4': 4層土に類似し、灰褐色粘土をラミナ状に含む。
  - 5: ロームブロック・ローム粒子を含む暗褐色弱粘質土。
  - 6: 多量のロームブロックを含む暗褐色粘質土。
  - 7: ローム小ブロック・砂・パミス・斑鉄を含む灰色粘質土。
  - 8: ローム小ブロック・炭化物を含むやや粗粒の灰褐色粘質土。
  - 8': 8層土に類似し、多量のローム粒子を含む。
  - 9: 1層土に類似する粘性の弱い黒褐色土。
  - 10: 多量の粗粒ローム粒子を含む弱粘性の黄褐色土。



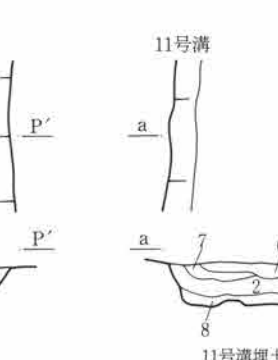
- 10号溝埋土
- 1: パミス・黄色スコリア・斑鉄を含む弱粘性暗褐色土。
  - 2: 1層土に類似し、色調がやや灰色味を帯びる。
  - 3: 2層土に類似し、粘性の弱い暗褐色砂質土。
  - 4: 3層土に類似し、色調やや暗い。
  - 5: 少量のパミスを含む暗褐色粘質土。
  - 6: 5層土に類似し、ロームブロックを含む。
  - 7: パミス・スコリアを含む暗褐色砂質土。
  - 8: 多量のパミスを含む粘性のない暗褐色土。



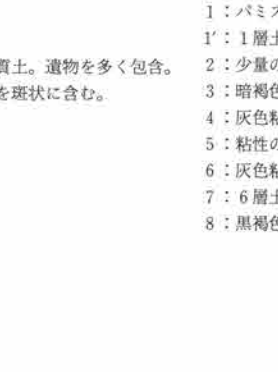
- 8号溝埋土
- 1: 多量の灰黄色のパミスを斑状に含む暗褐色土。
  - 1': 1層土に類似し、砂・黒褐色土を含む。
  - 2: 3層土にパミスを含む。
  - 3: 暗褐色粗粒シルト質土。
  - 3': 3層土に類似し、流砂をラミナ状に含む。
  - 3'': 3層土に類似し、混入物が少ない。
  - 4: 地山の灰黄色シルト質土を多量に含む灰黄褐色土。
  - 5: 地山の灰黄色シルト質土に多量のパミス・暗褐色粘質土を含む。



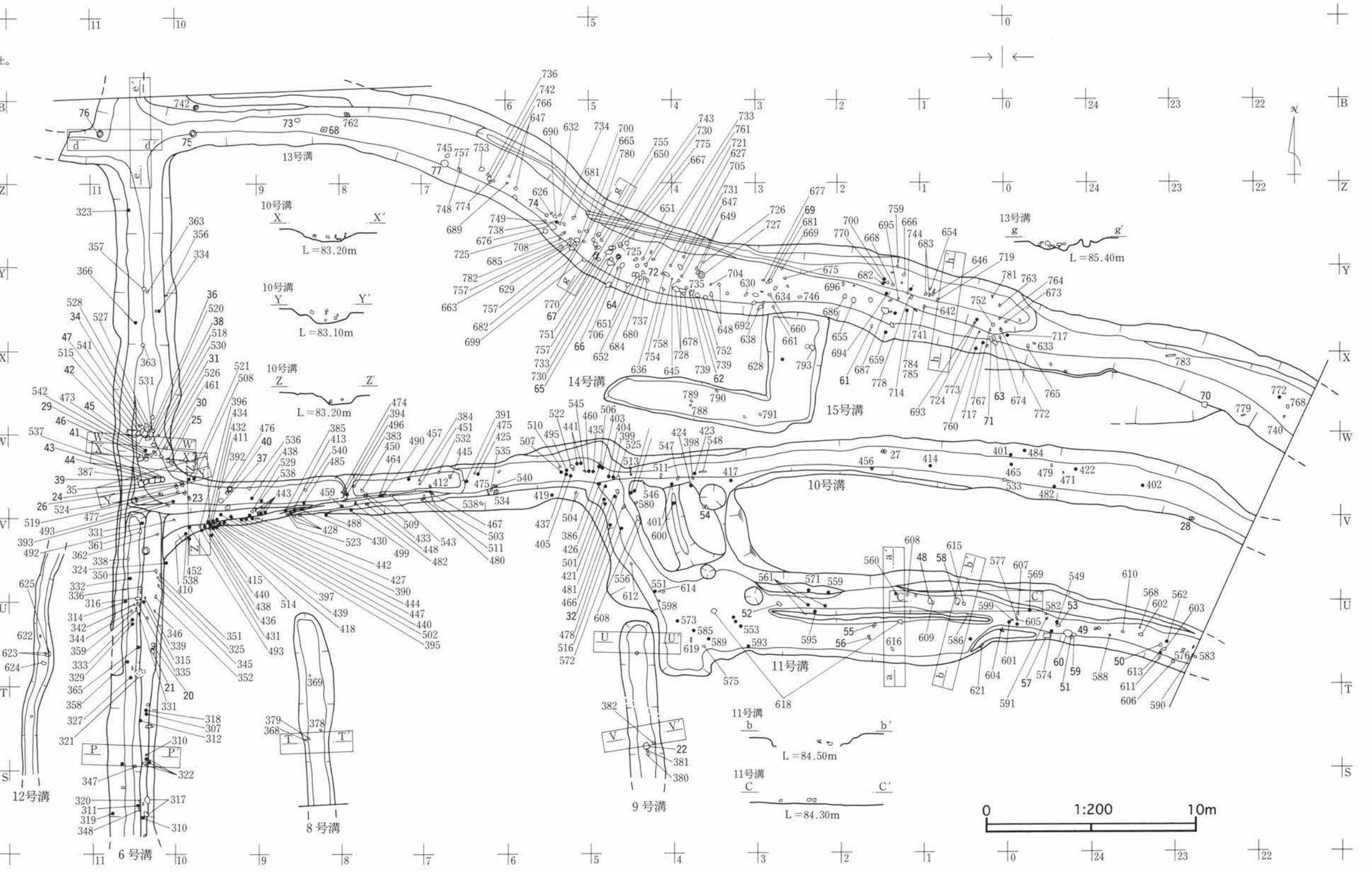
- 9号溝埋土
- 1: パミス・粘土ブロックを含む暗褐色粘質土。
  - 2: 1層土に類似し、やや黒色味をおび、混入物が少ない。
  - 3: 暗褐色土をブロック状に含む灰黄褐色粘質土。
  - 4: 斑鉄を含む暗褐色粘質土。



- 6号溝埋土
- 1: 暗褐色粘質土と砂質土の混土。
  - 2: パミス・炭化物を含む暗褐色粘質土。遺物を多く含む。
  - 3: 2層土に類似し、黒褐色粘質土を斑状に含む。
  - 4: シルト質黒褐色粘質土。

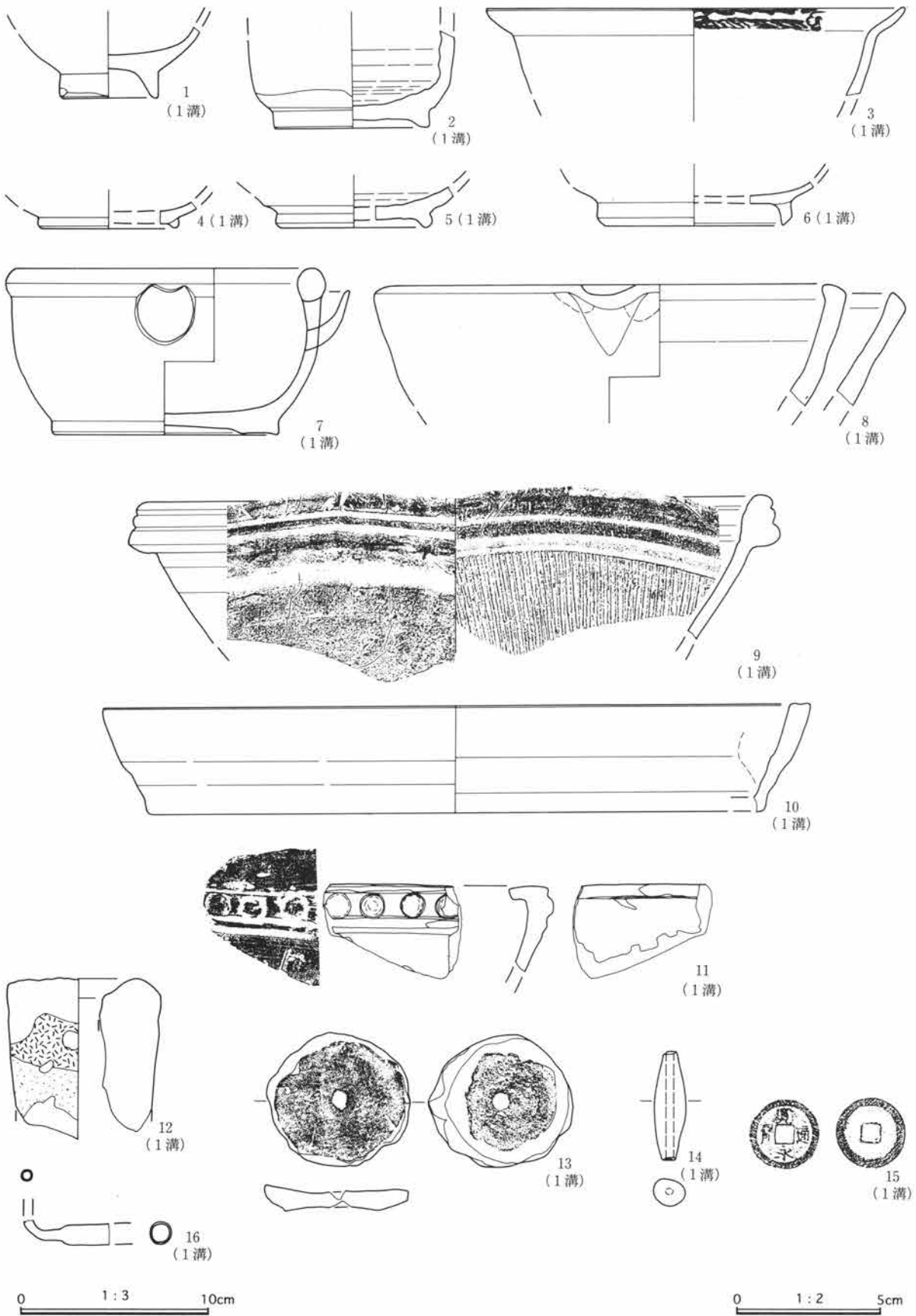


- 11号溝埋土
- 1: パミスを含む黒褐色砂質土と灰褐色粘質土との混土。
  - 1': 1層土に類似し、色調やや黒色味を帯びる。
  - 2: 少量のパミスを含む暗褐色土。
  - 3: 暗褐色粘質土と灰褐色土との混土。斑鉄を含む。
  - 4: 灰色粘土と黄褐色粘質土との混土。斑鉄を含む。
  - 5: 粘性のない黒褐色土。
  - 6: 灰色粘質土を含む暗褐色土。
  - 7: 6層土に類似し、少量のパミスを含む暗褐色土。
  - 8: 黒褐色粘質土。

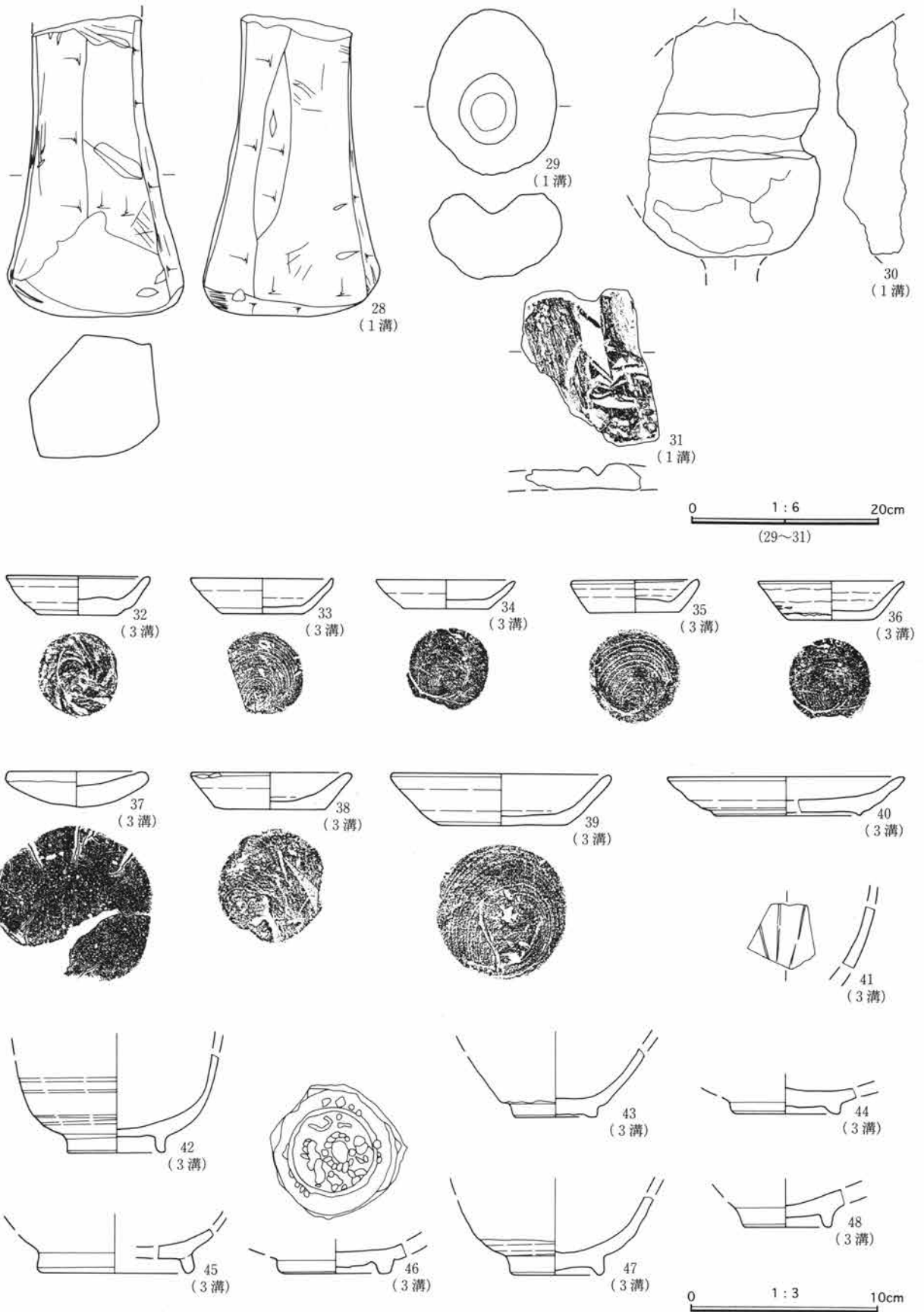


第172図 溝跡

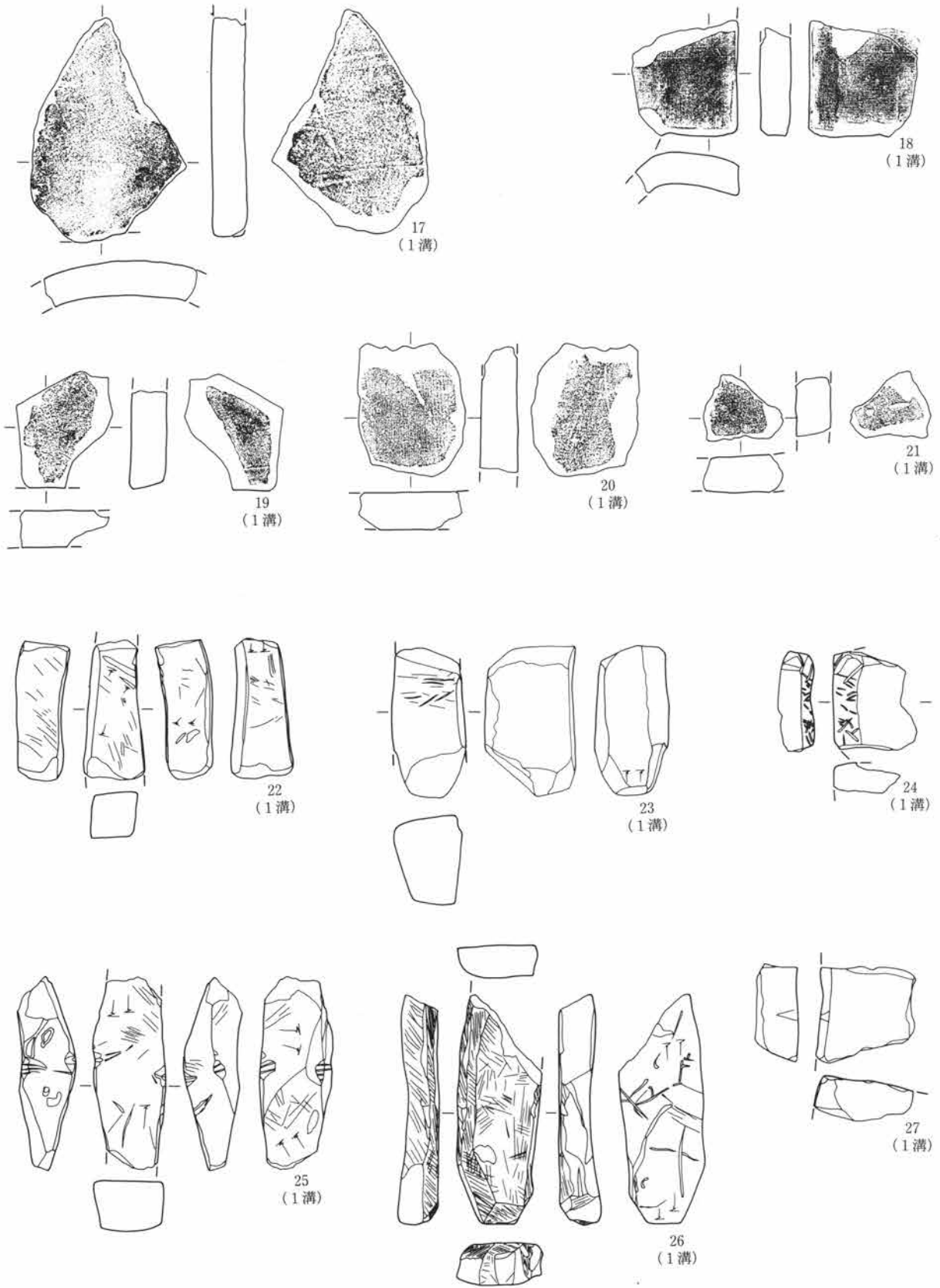




第173図 溝跡出土遺物

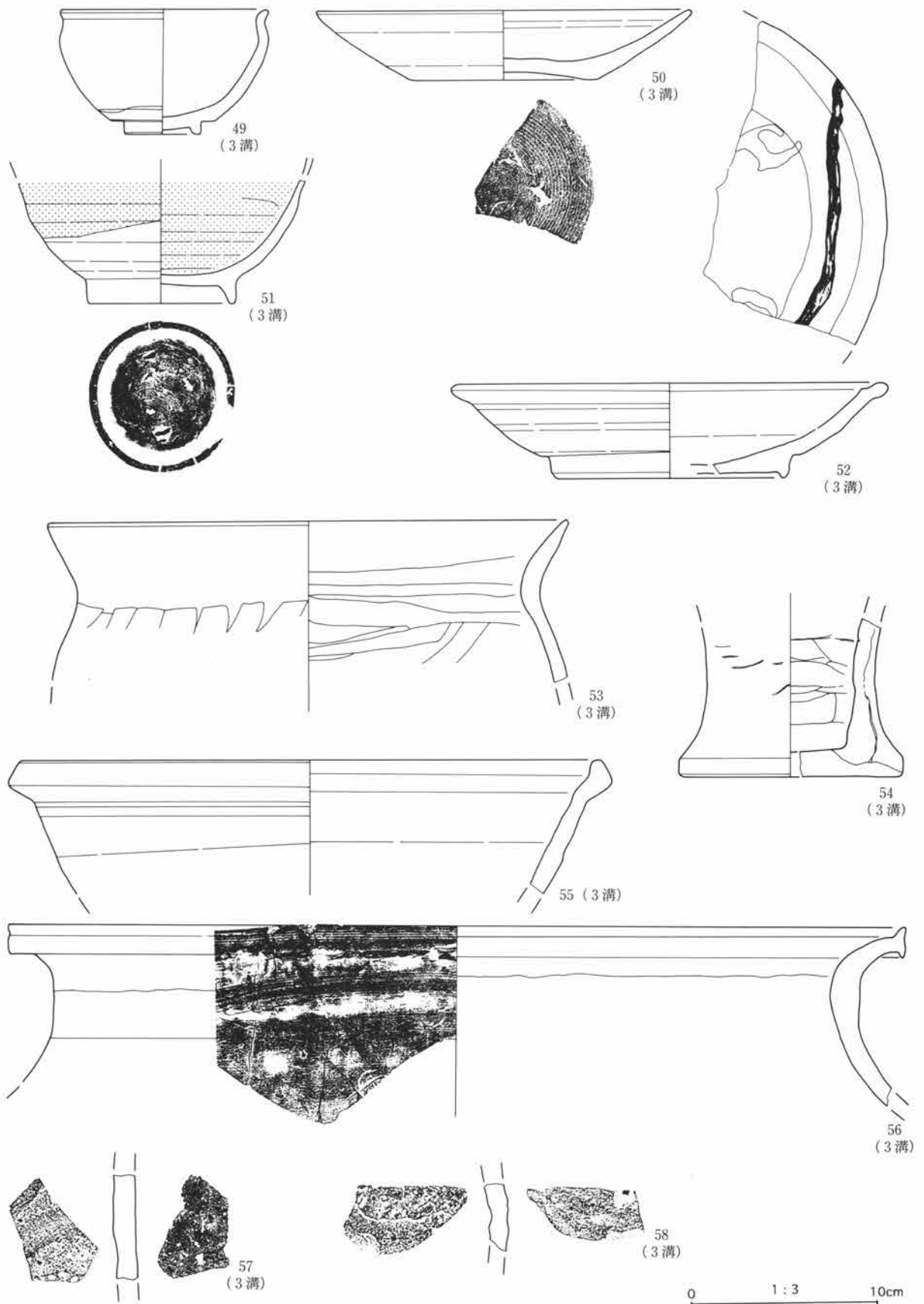


第174図 溝跡出土遺物



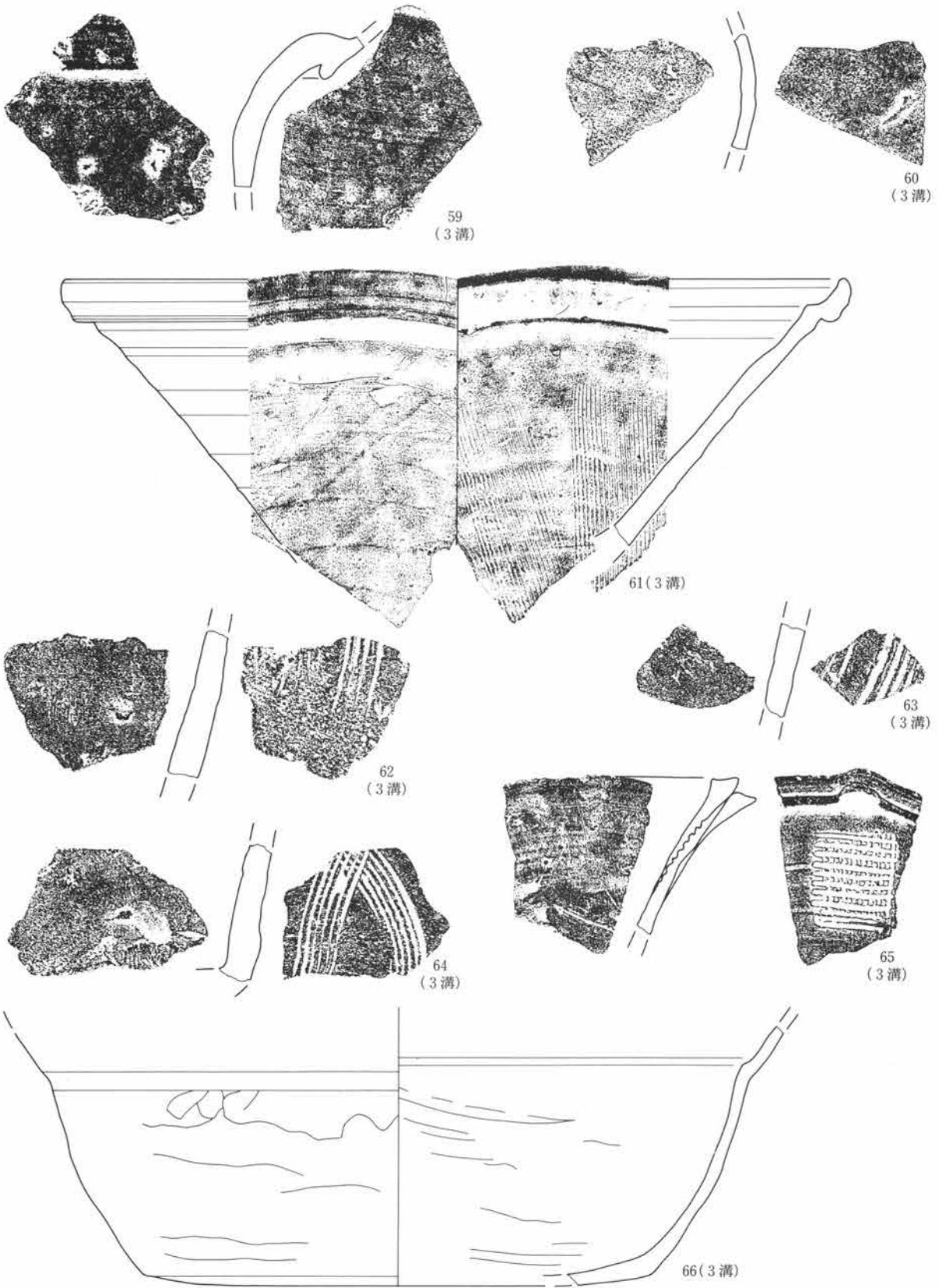
0 1:3 10cm

第175図 溝跡出土遺物

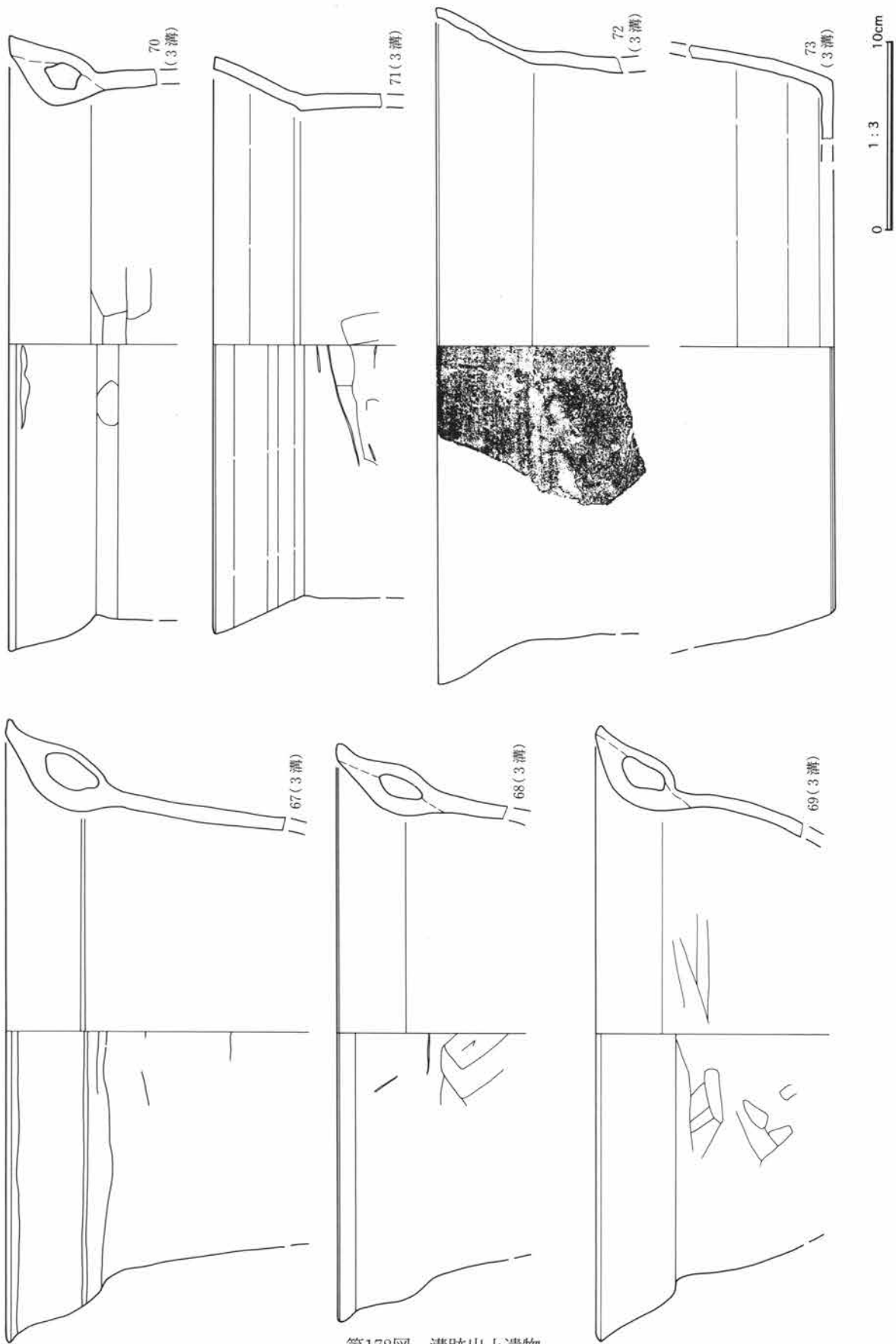


第176図 溝跡出土遺物

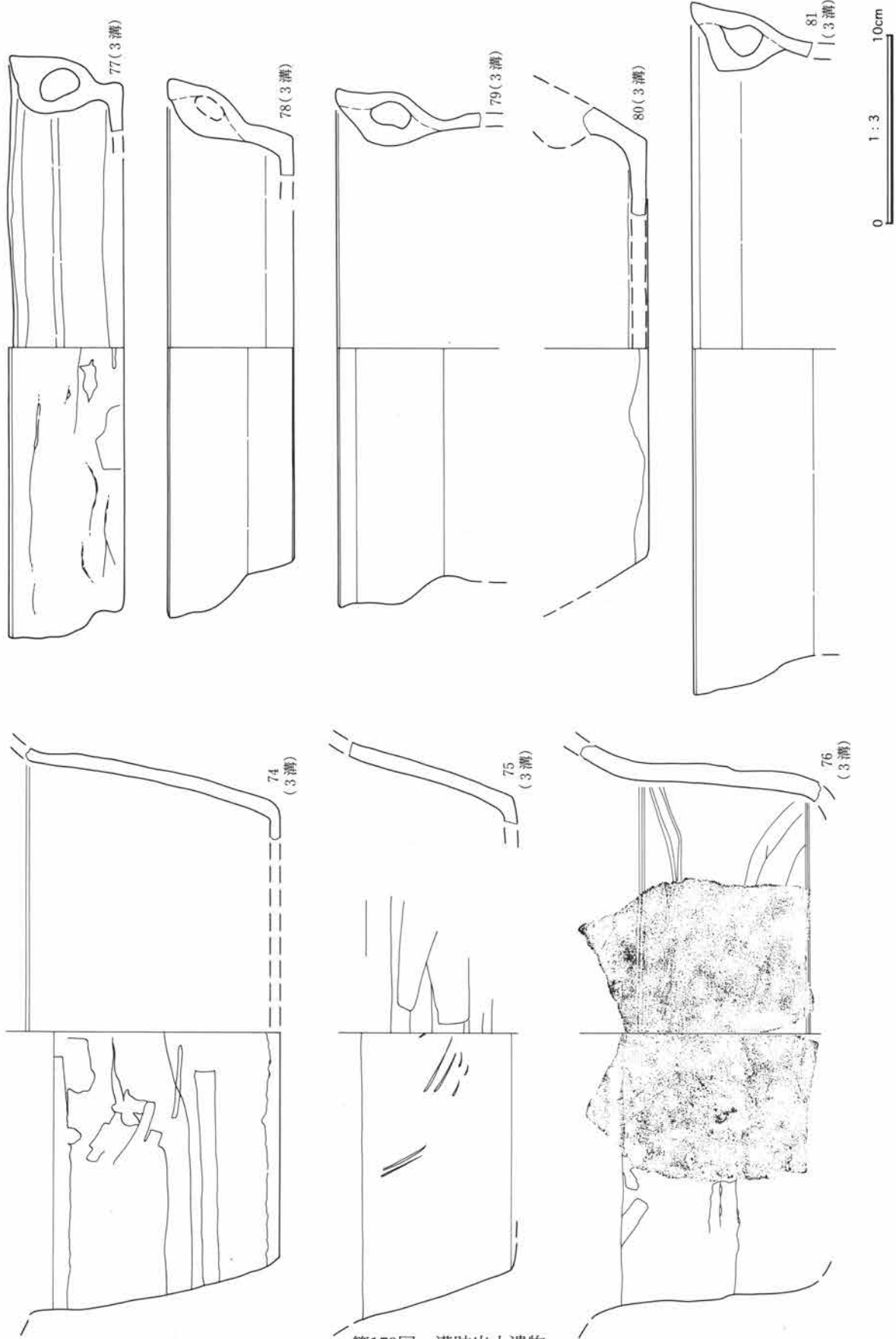




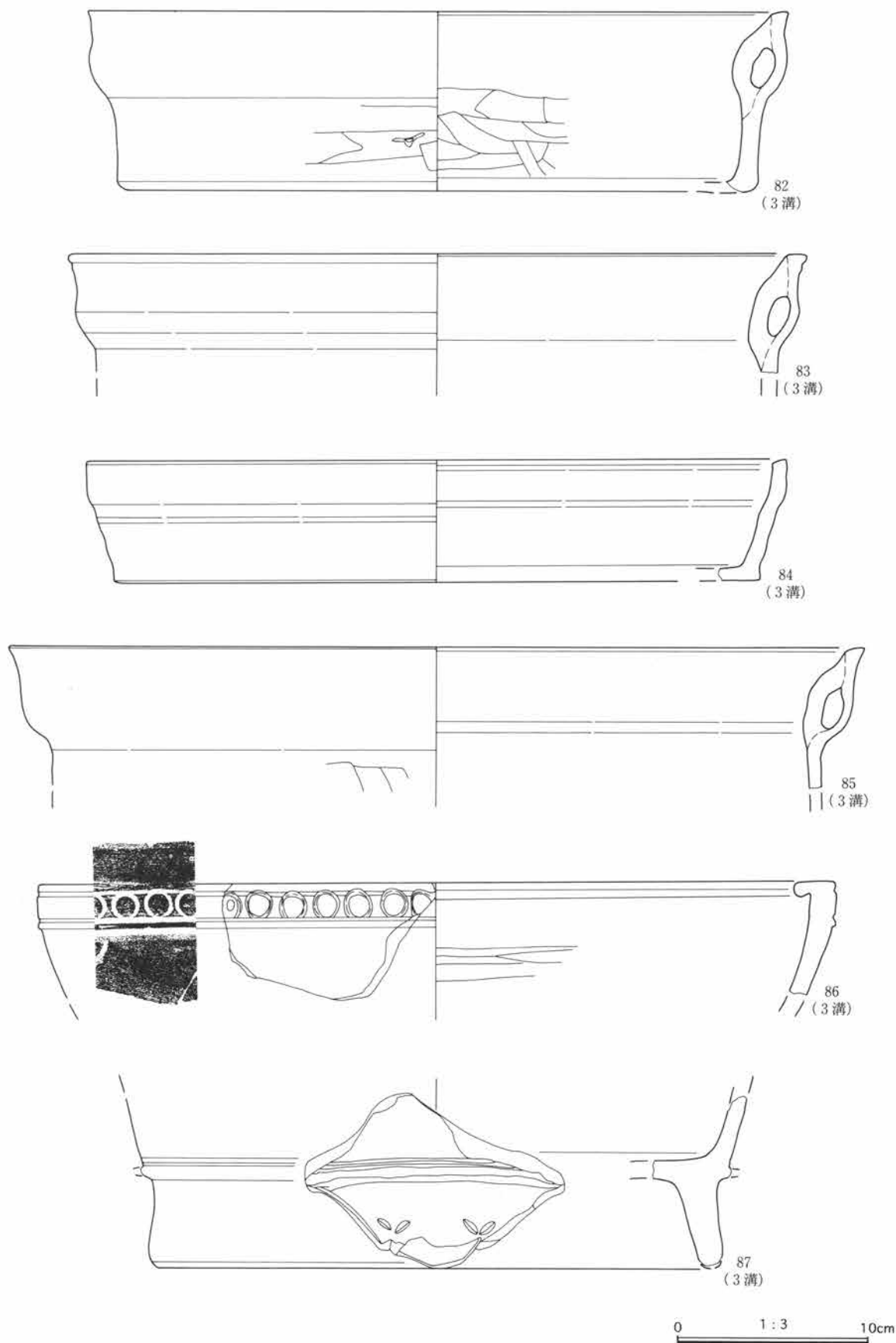
第177図 溝跡出土遺物



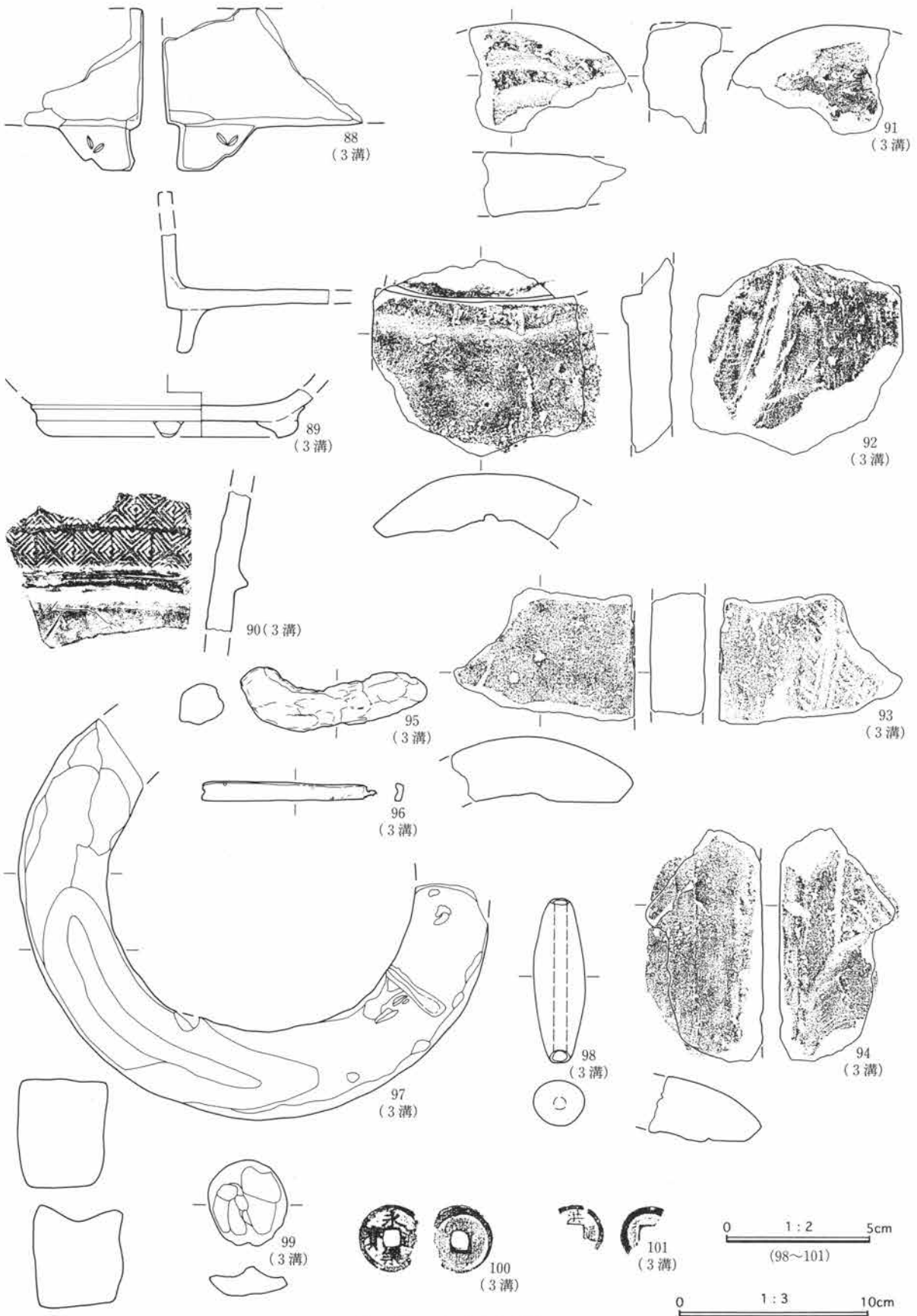
第178図 溝跡出土遺物



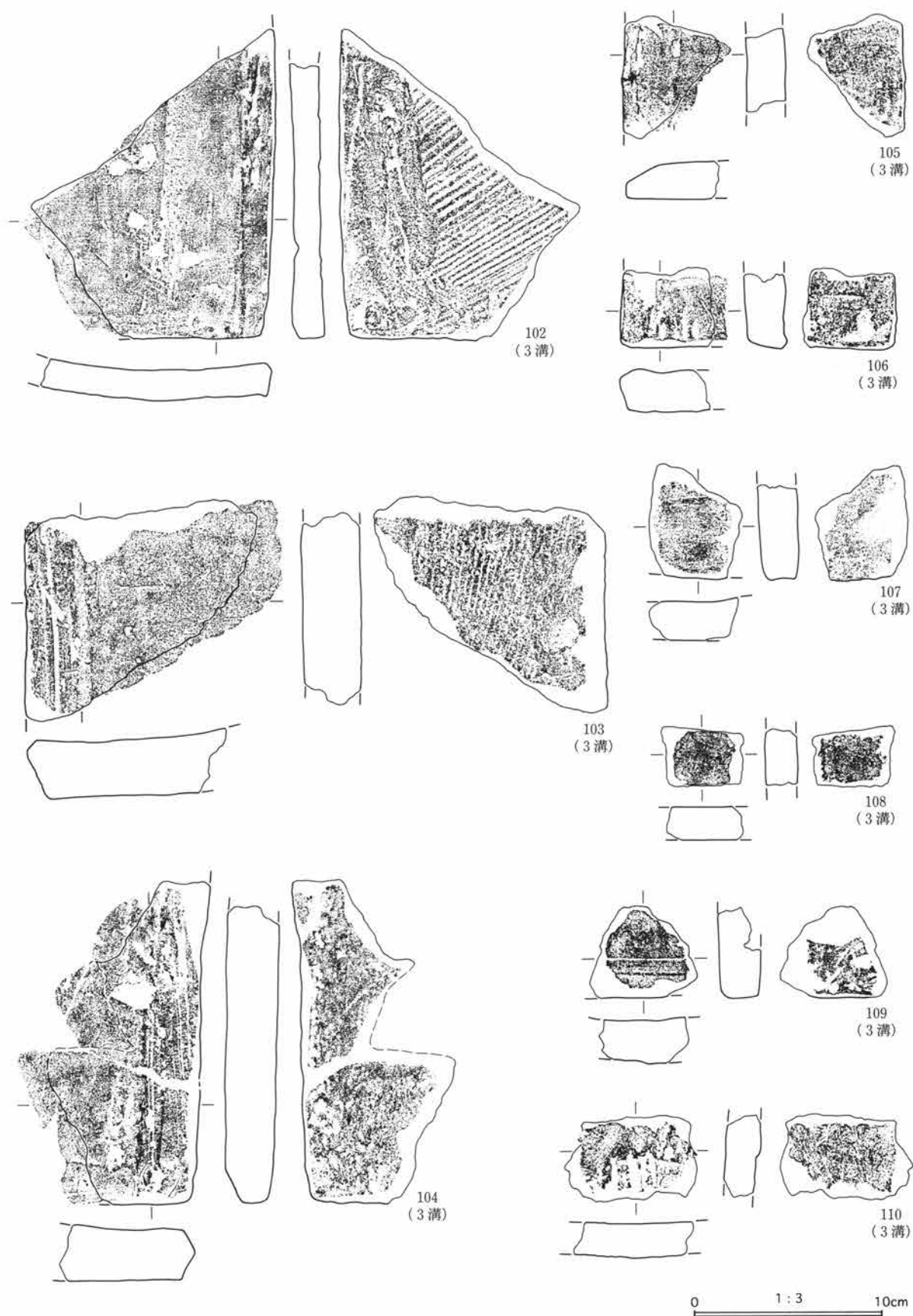
第179図 溝跡出土遺物



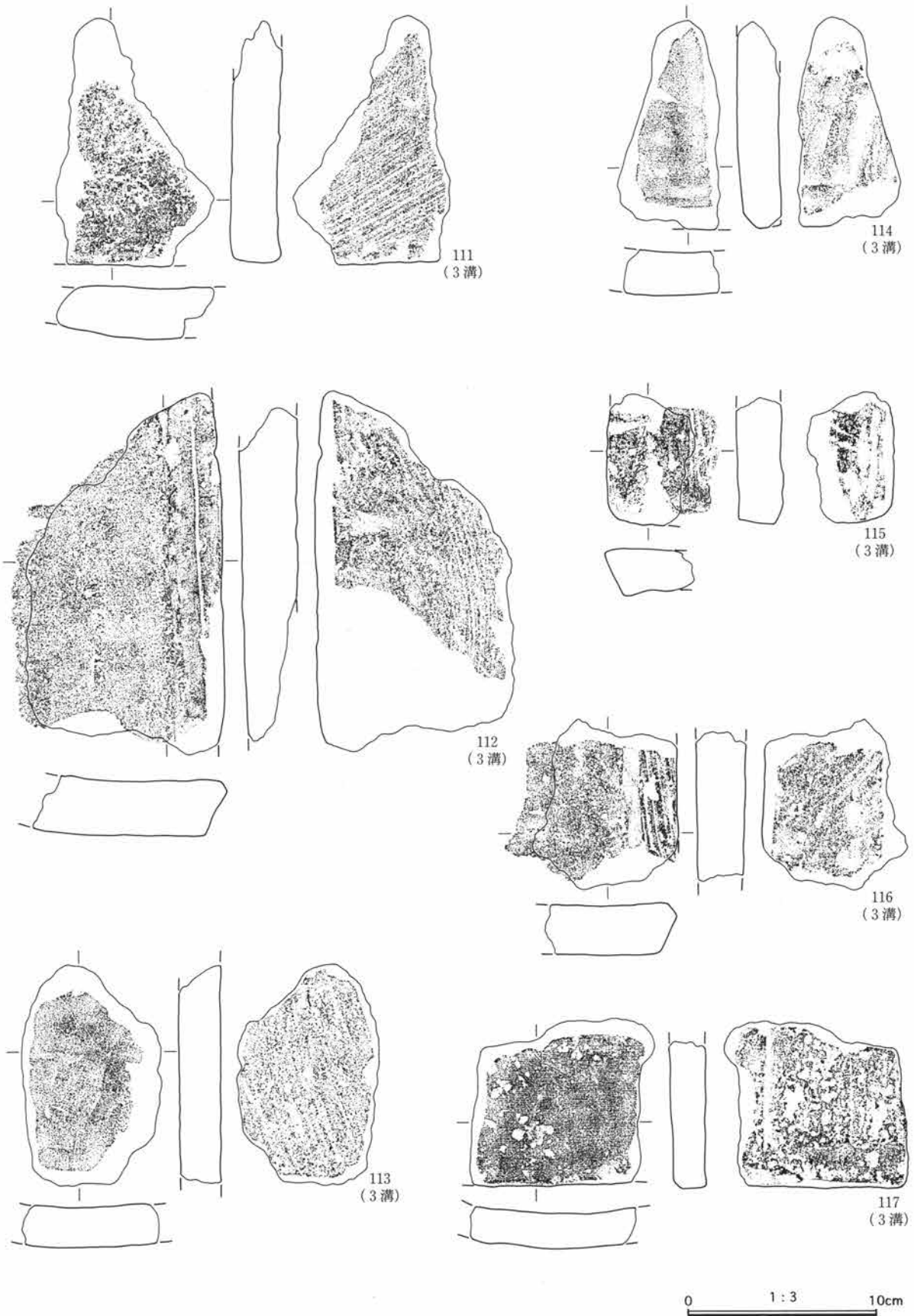
第180図 溝跡出土遺物



第181図 溝跡出土遺物

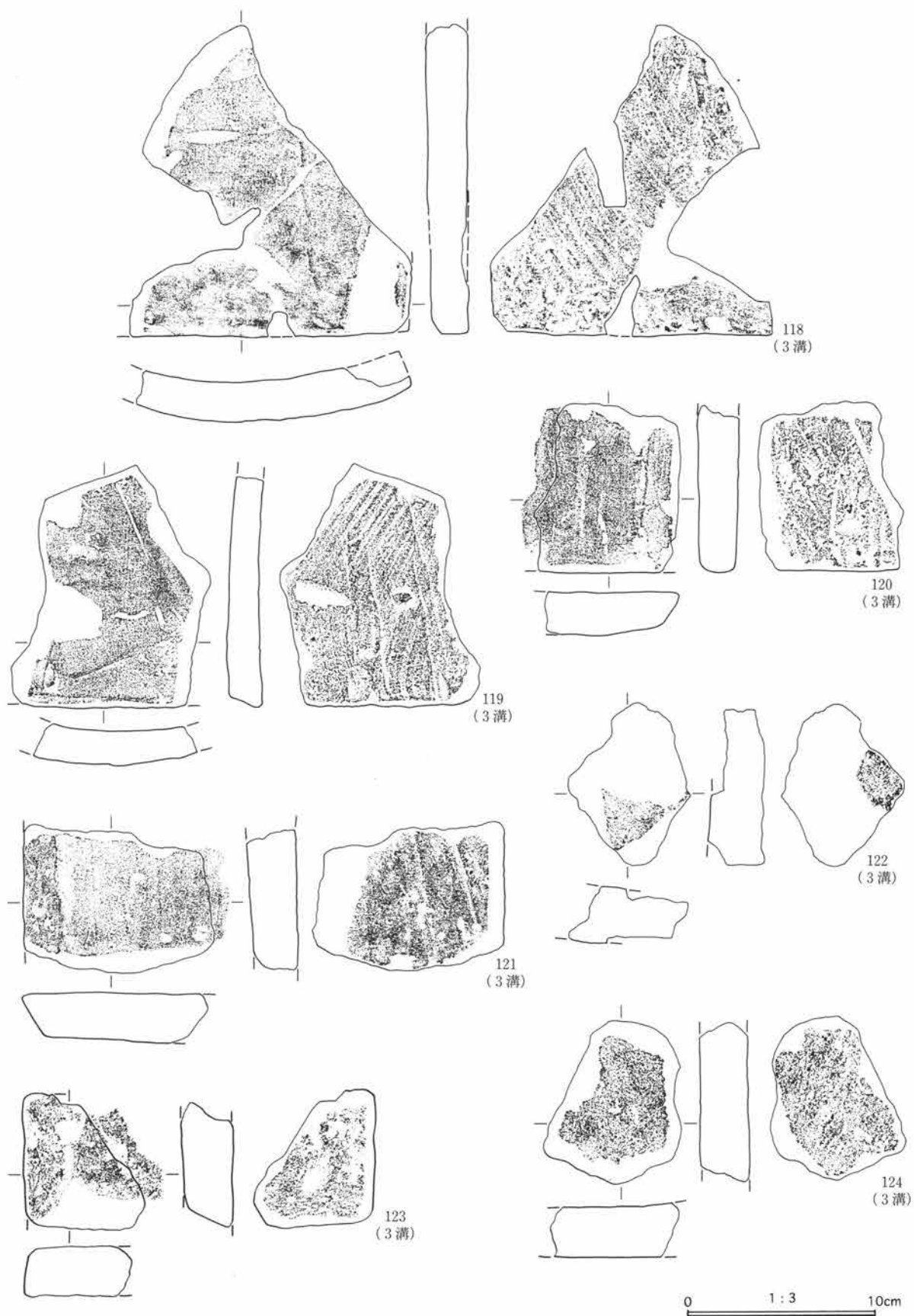


第182図 溝跡出土遺物



第183図 溝跡出土遺物



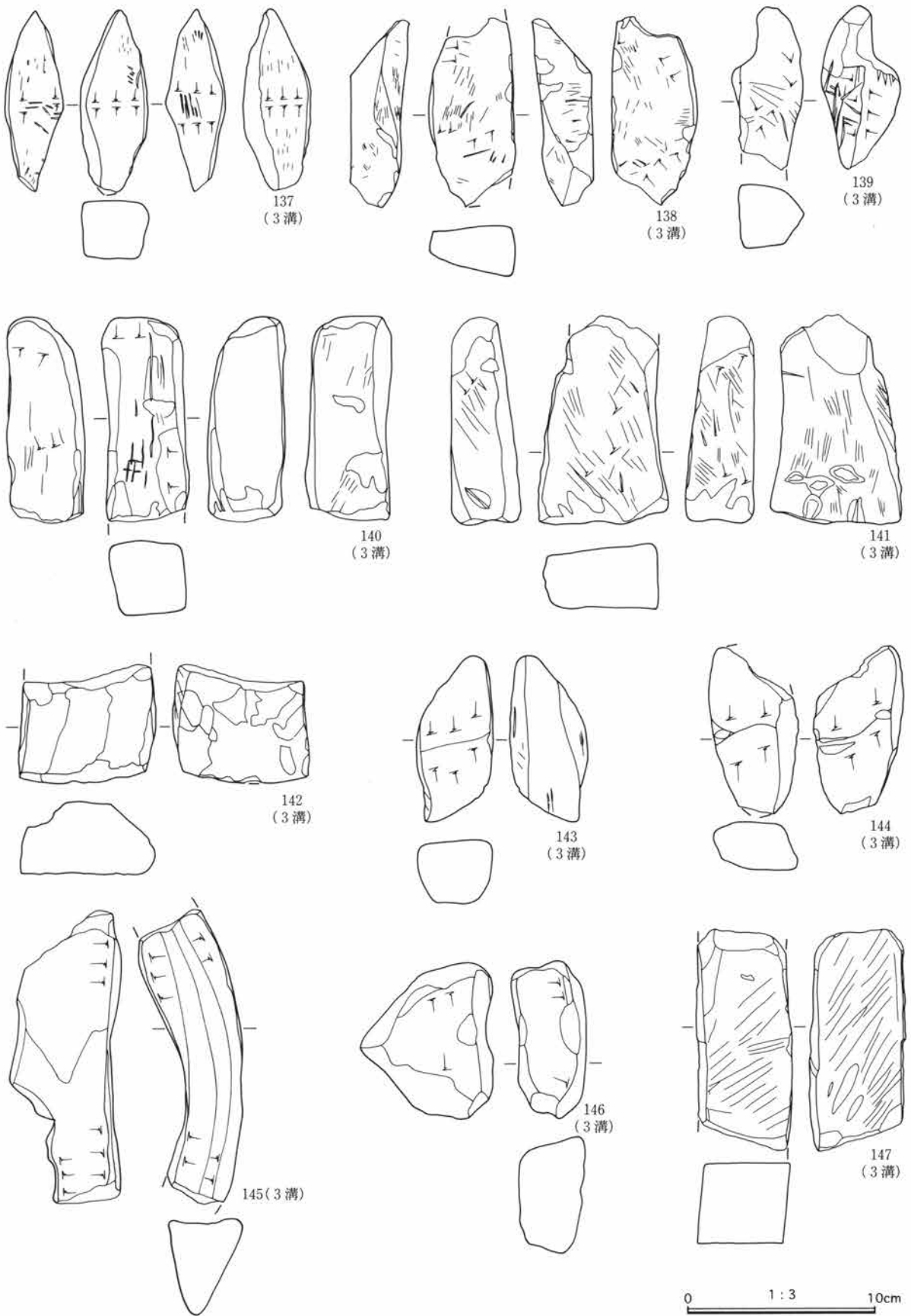


第184図 溝跡出土遺物

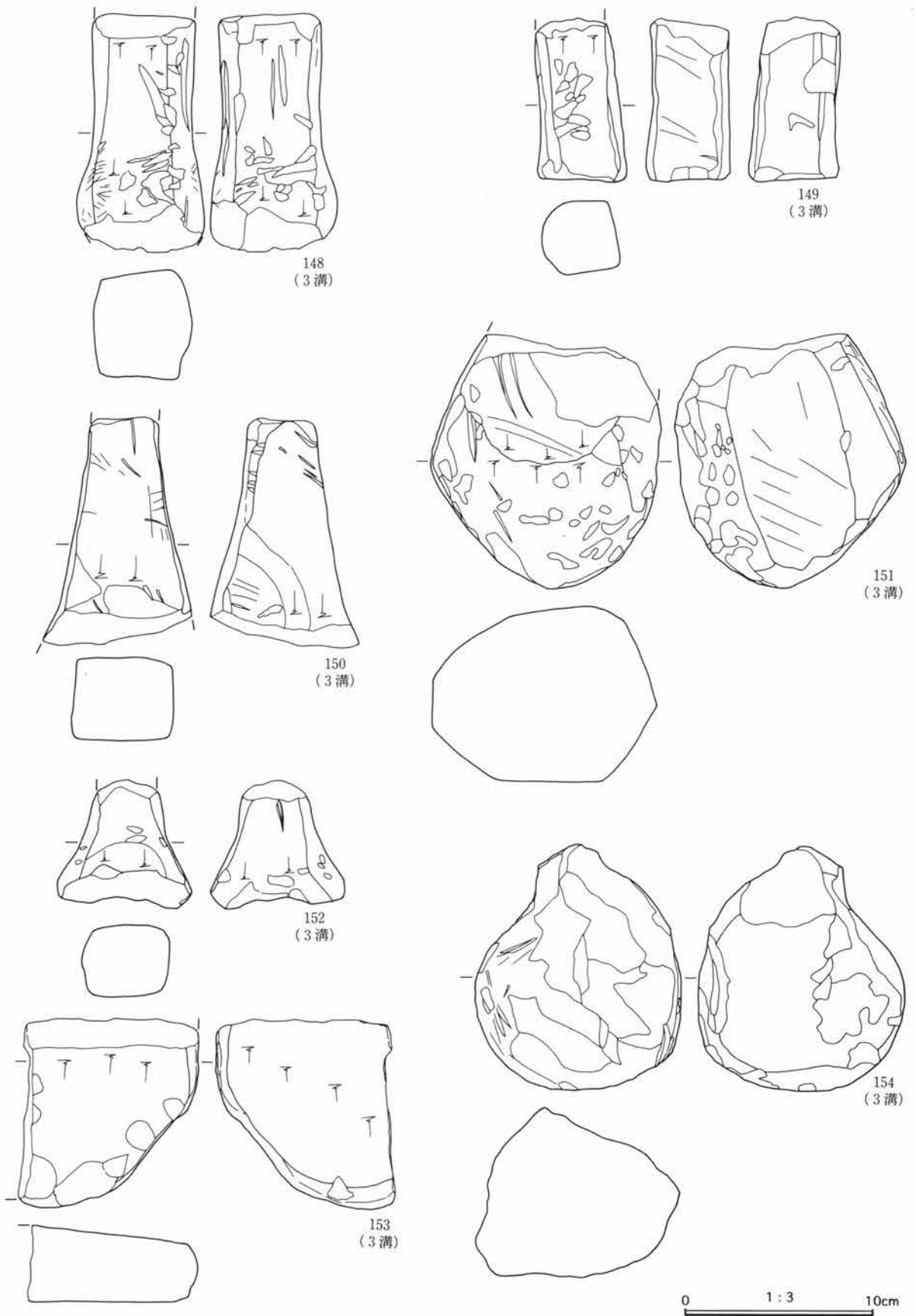


0 1:3 10cm

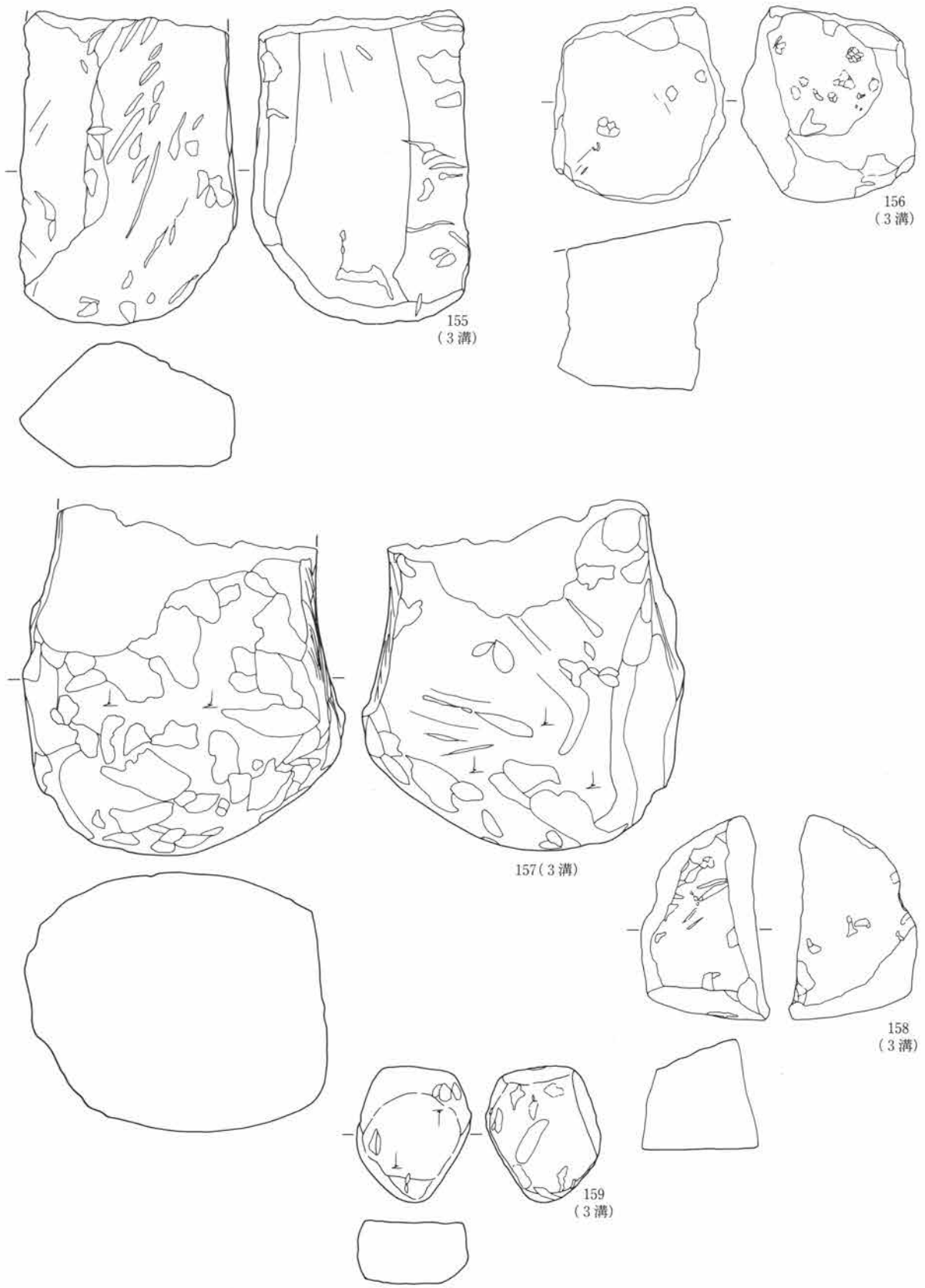
第185図 溝跡出土遺物



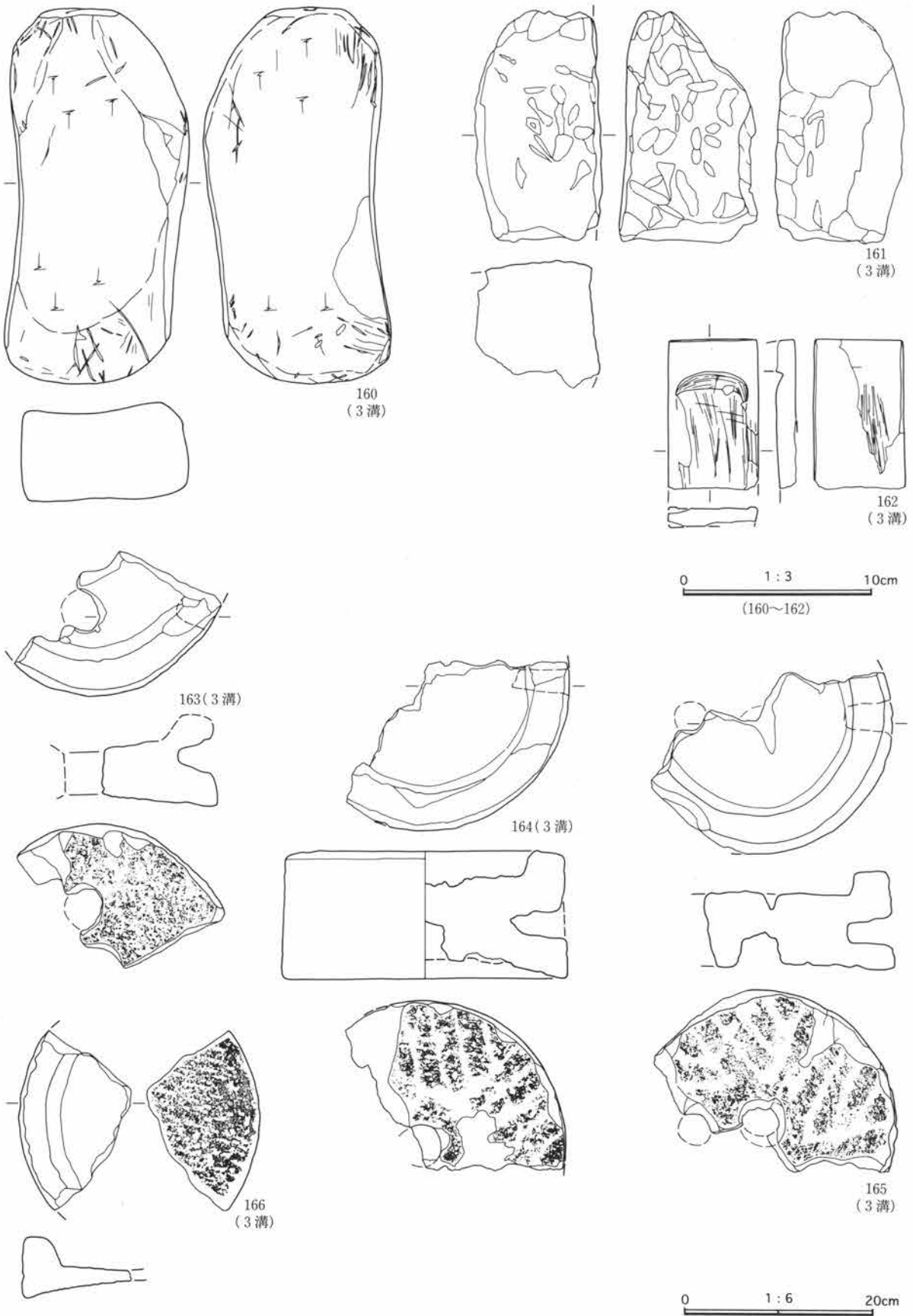
第186図 溝跡出土遺物



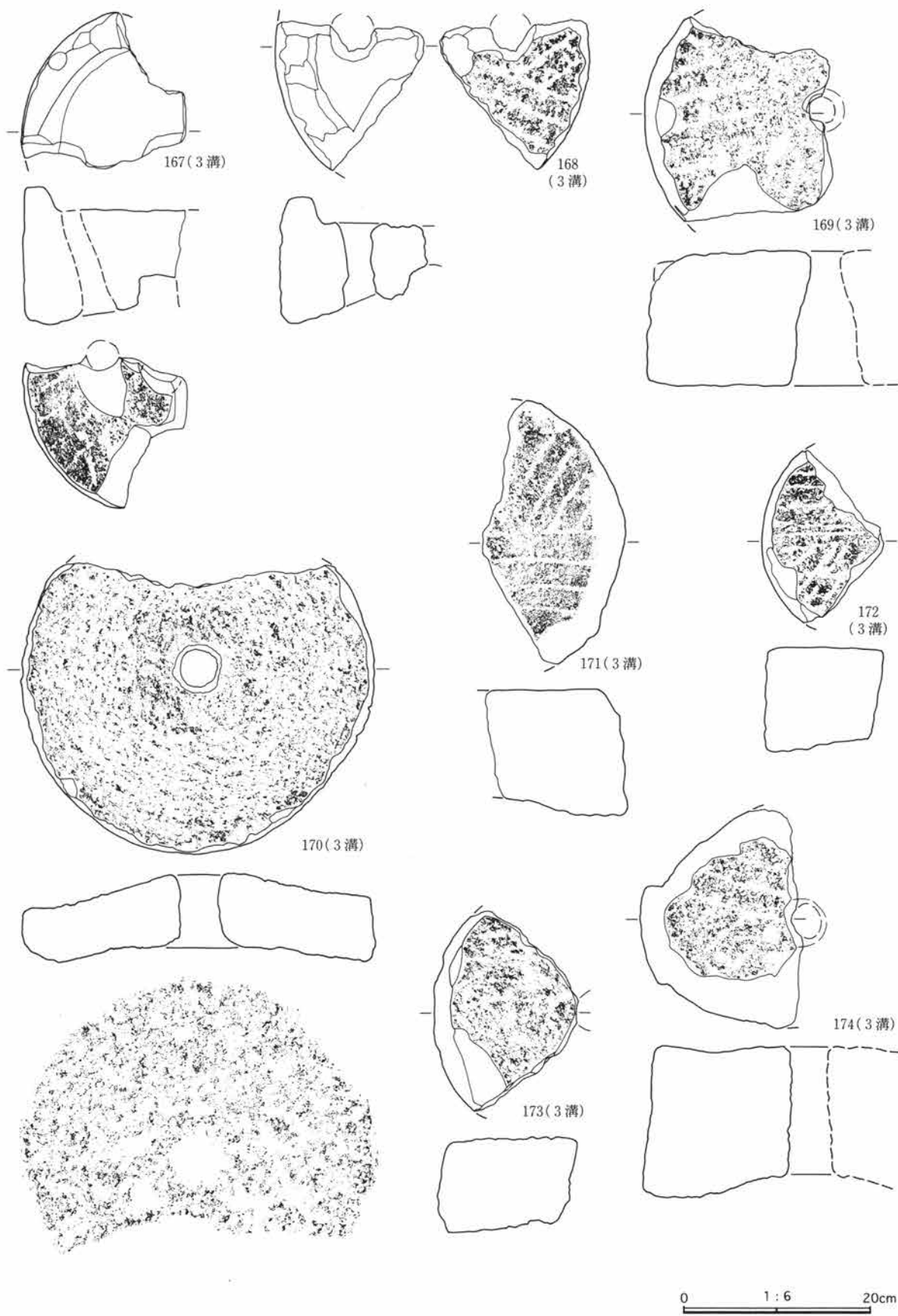
第187図 溝跡出土遺物



第188図 溝跡出土遺物

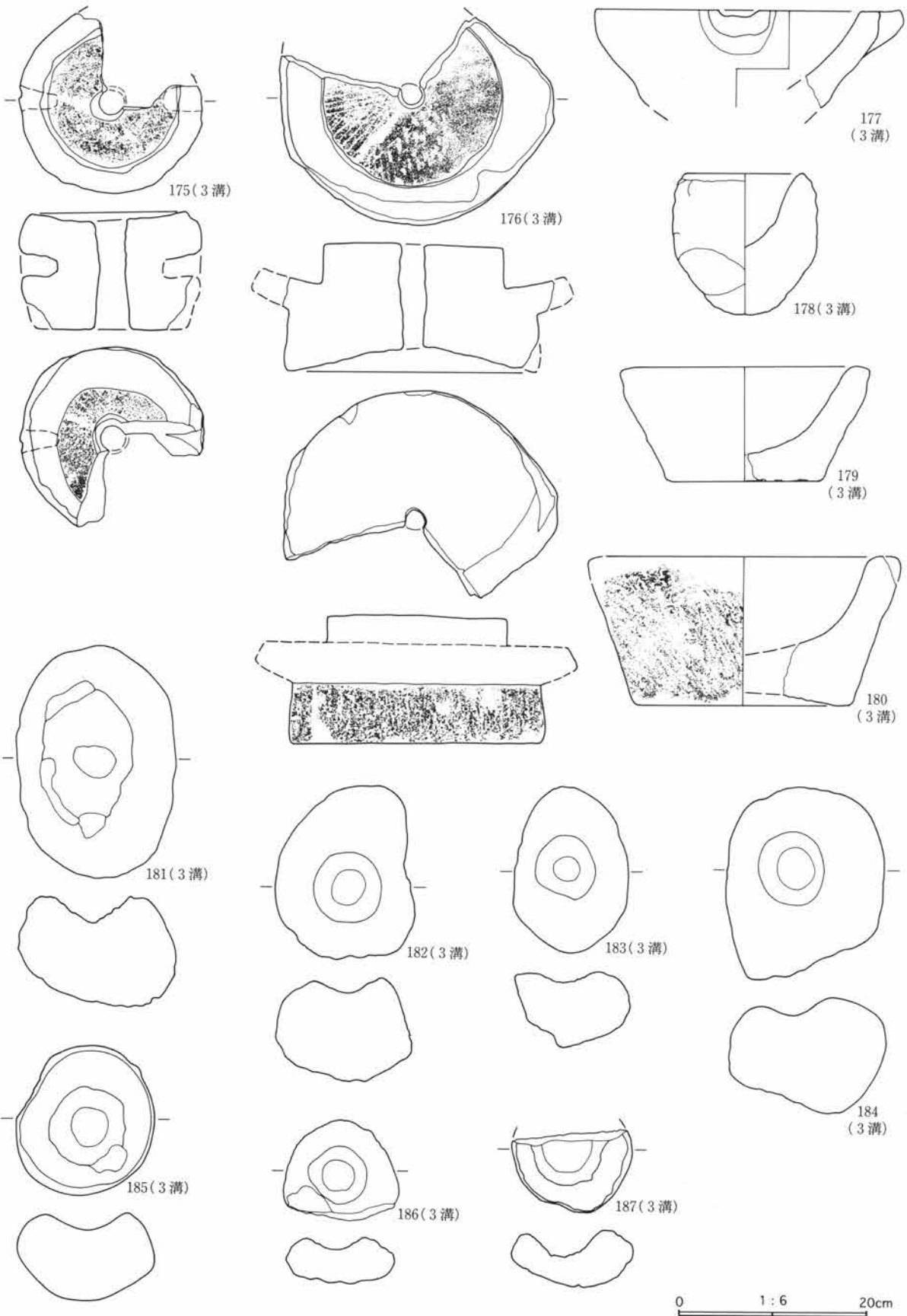


第189図 溝跡出土遺物

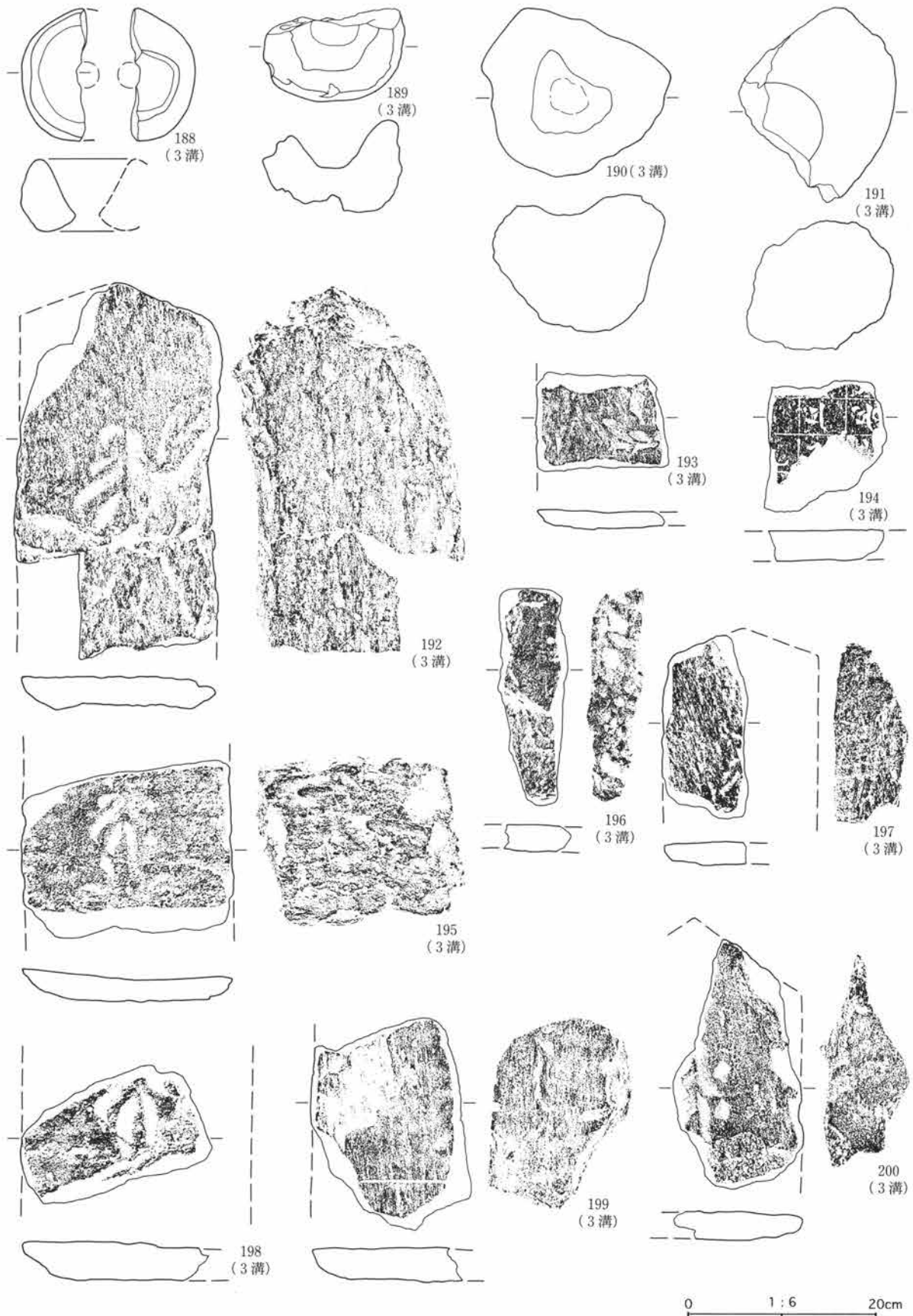


第190図 溝跡出土遺物

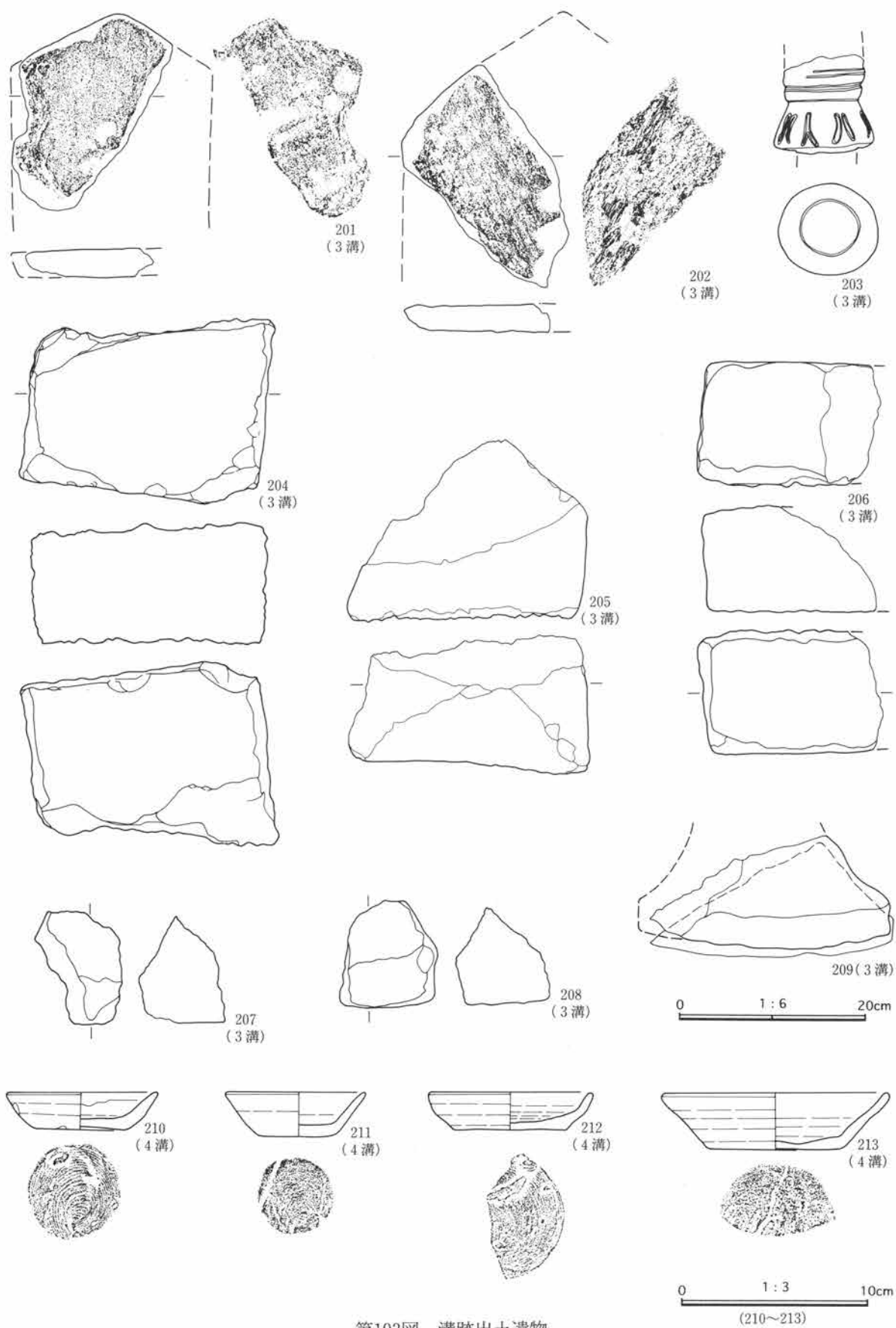




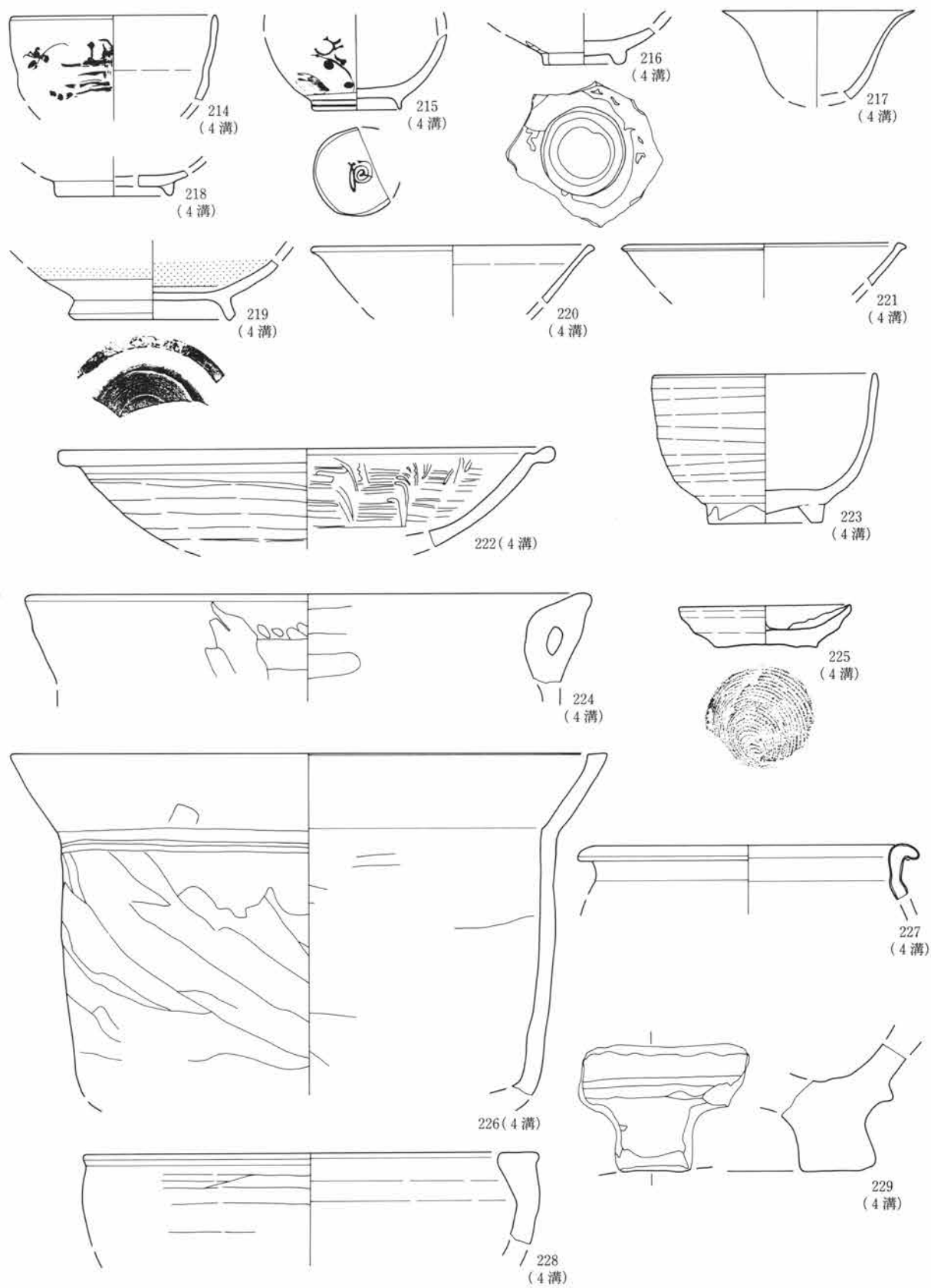
第191図 溝跡出土遺物



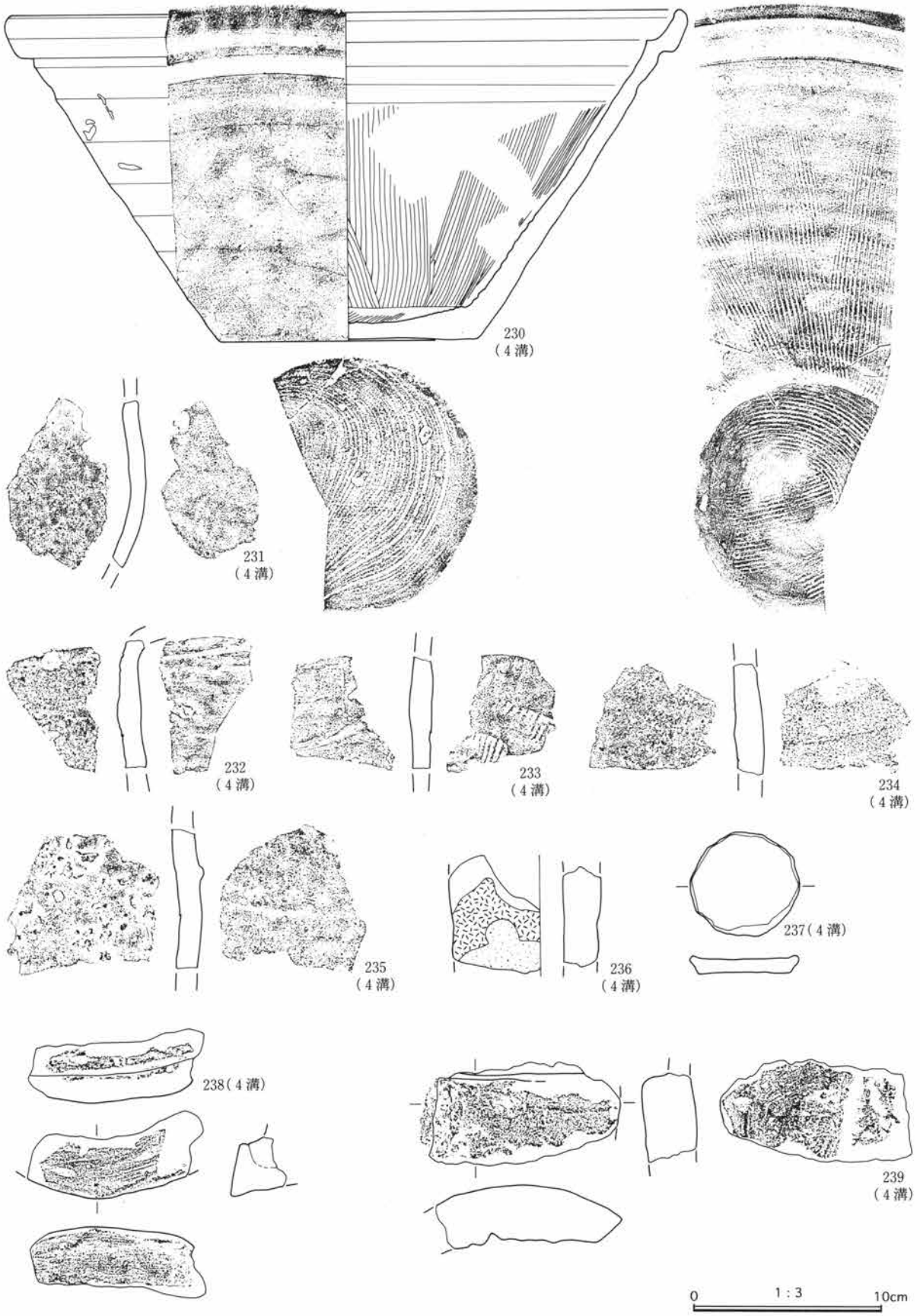
第192図 溝跡出土遺物



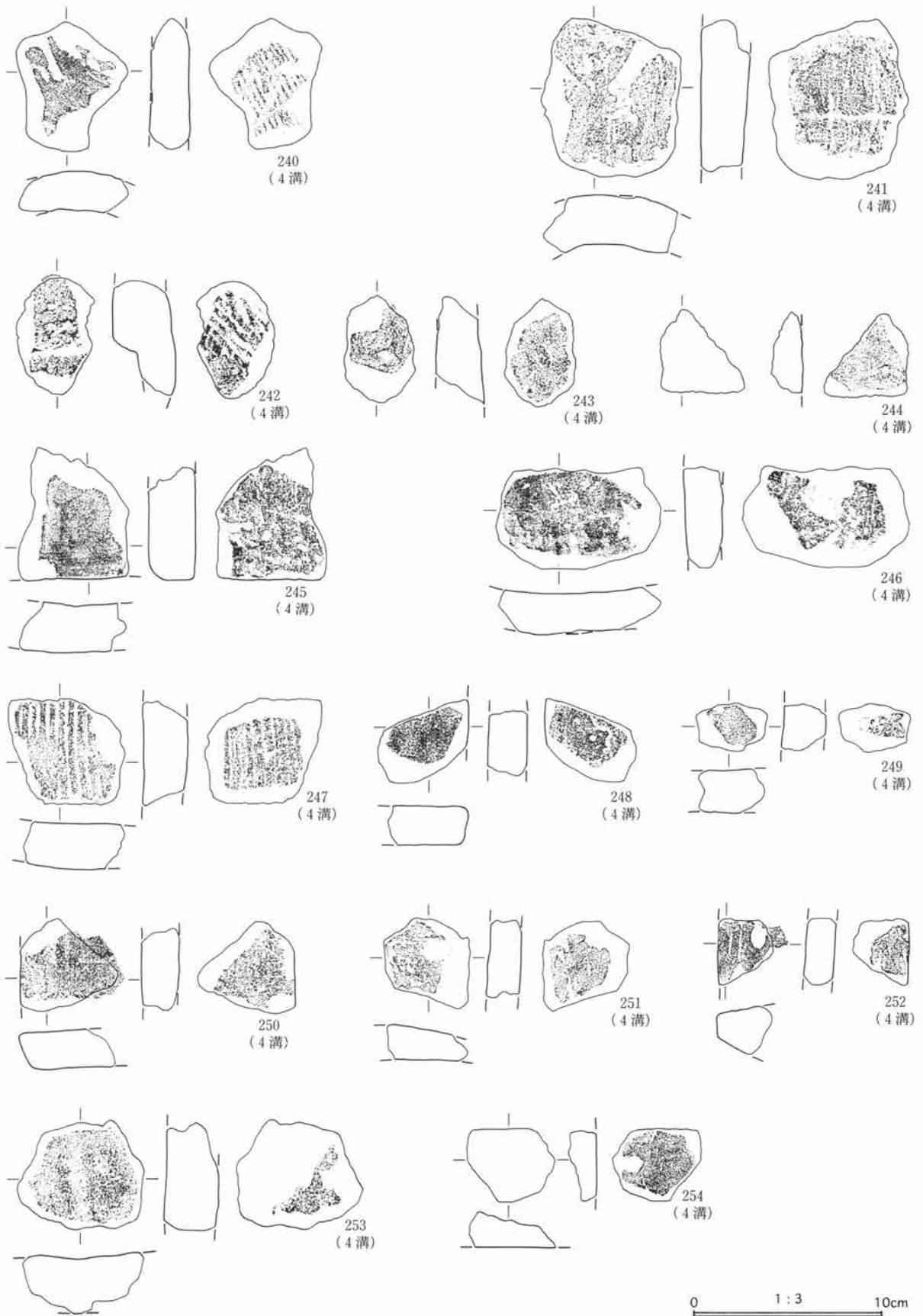
第193図 溝跡出土遺物



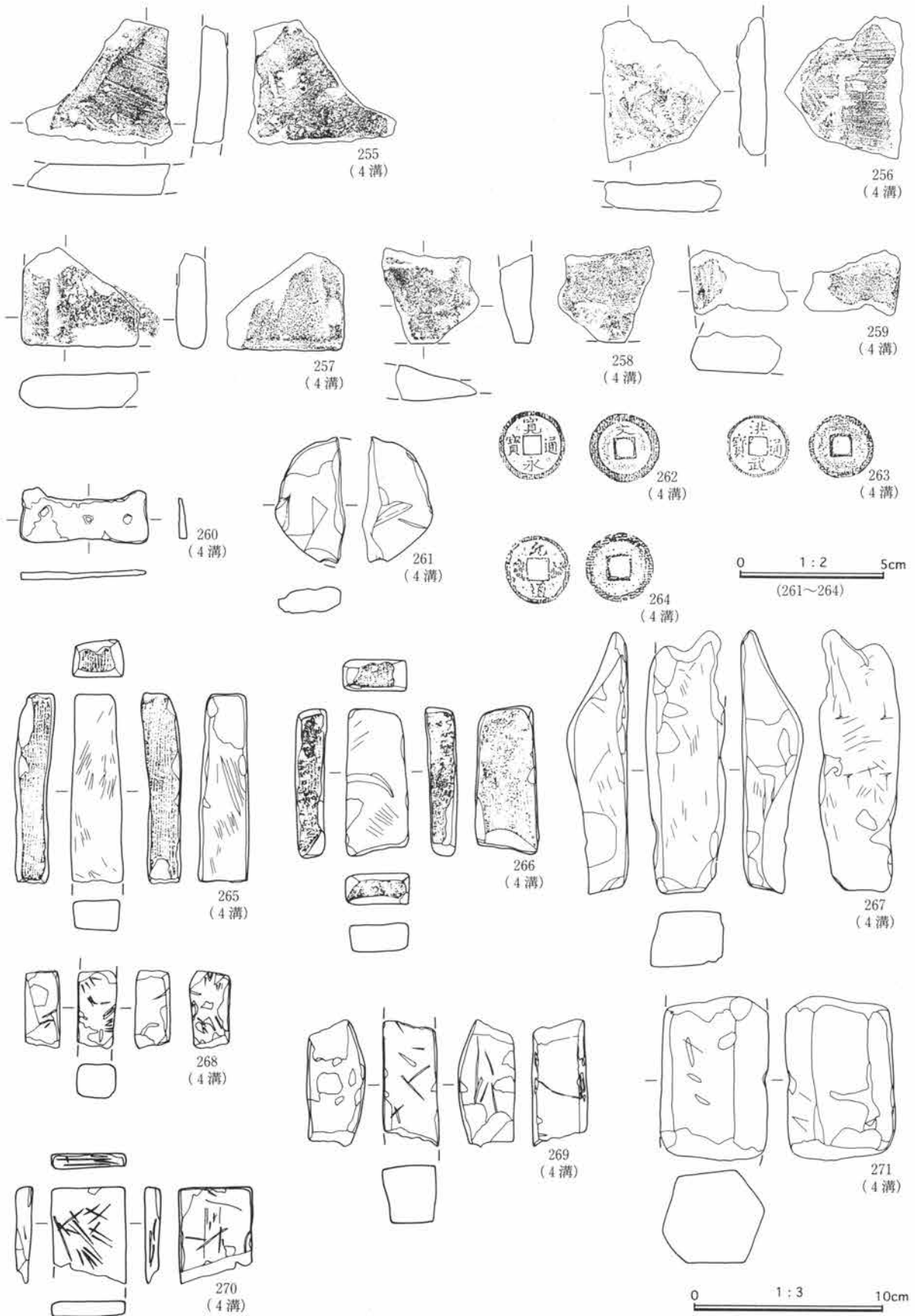
第194図 溝跡出土遺物



第195図 溝跡出土遺物

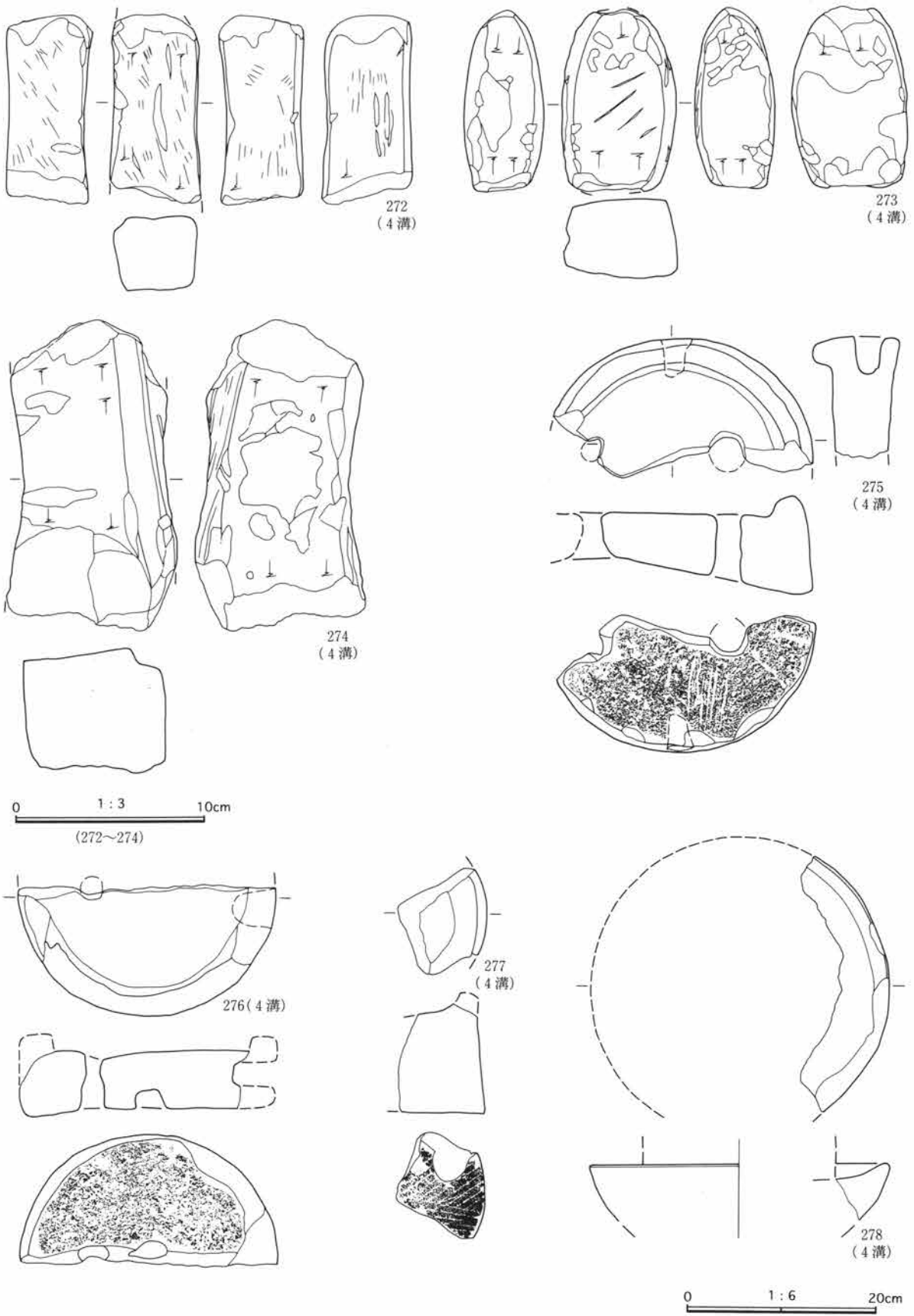


第196図 溝跡出土遺物

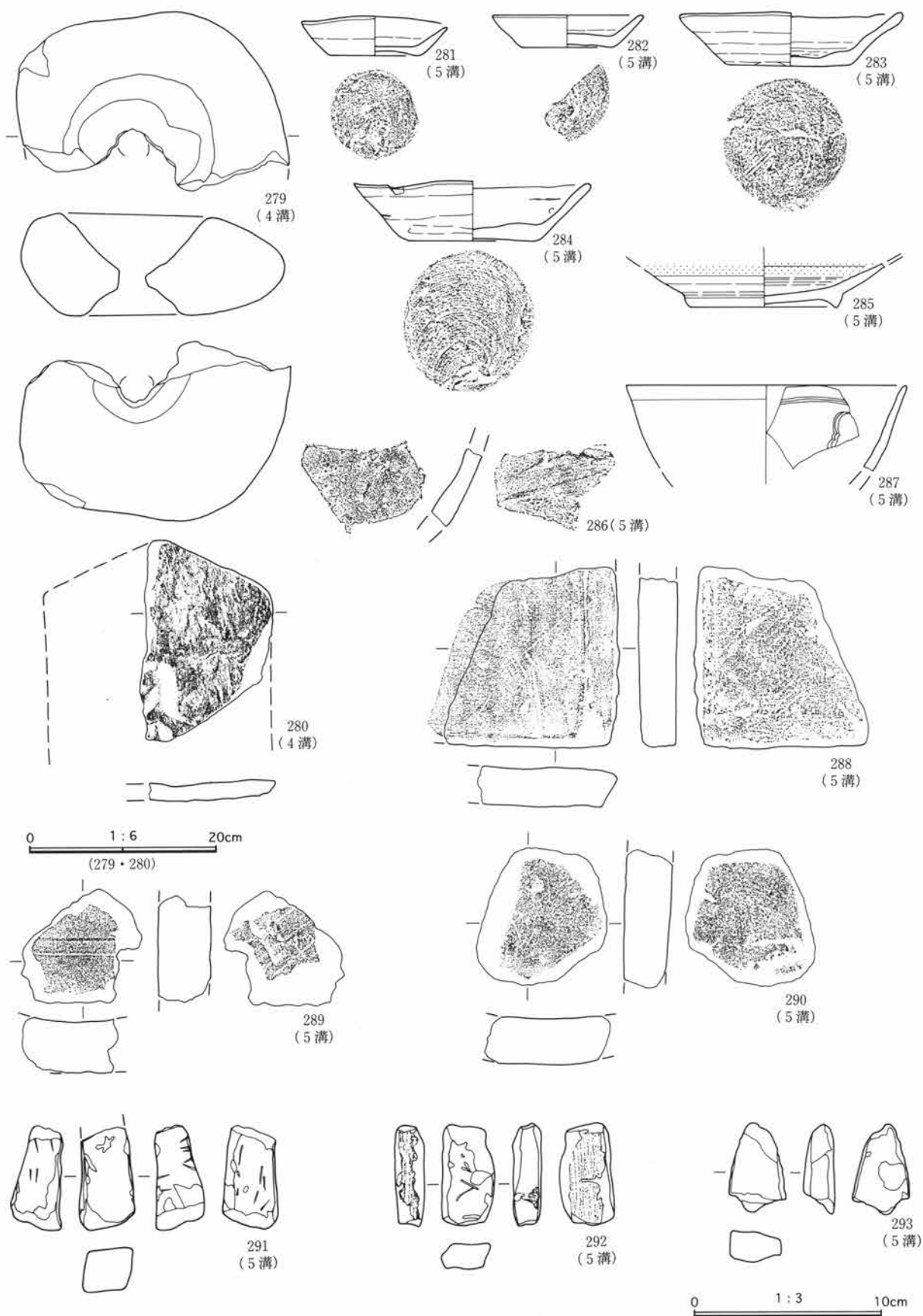


第197図 溝跡出土遺物

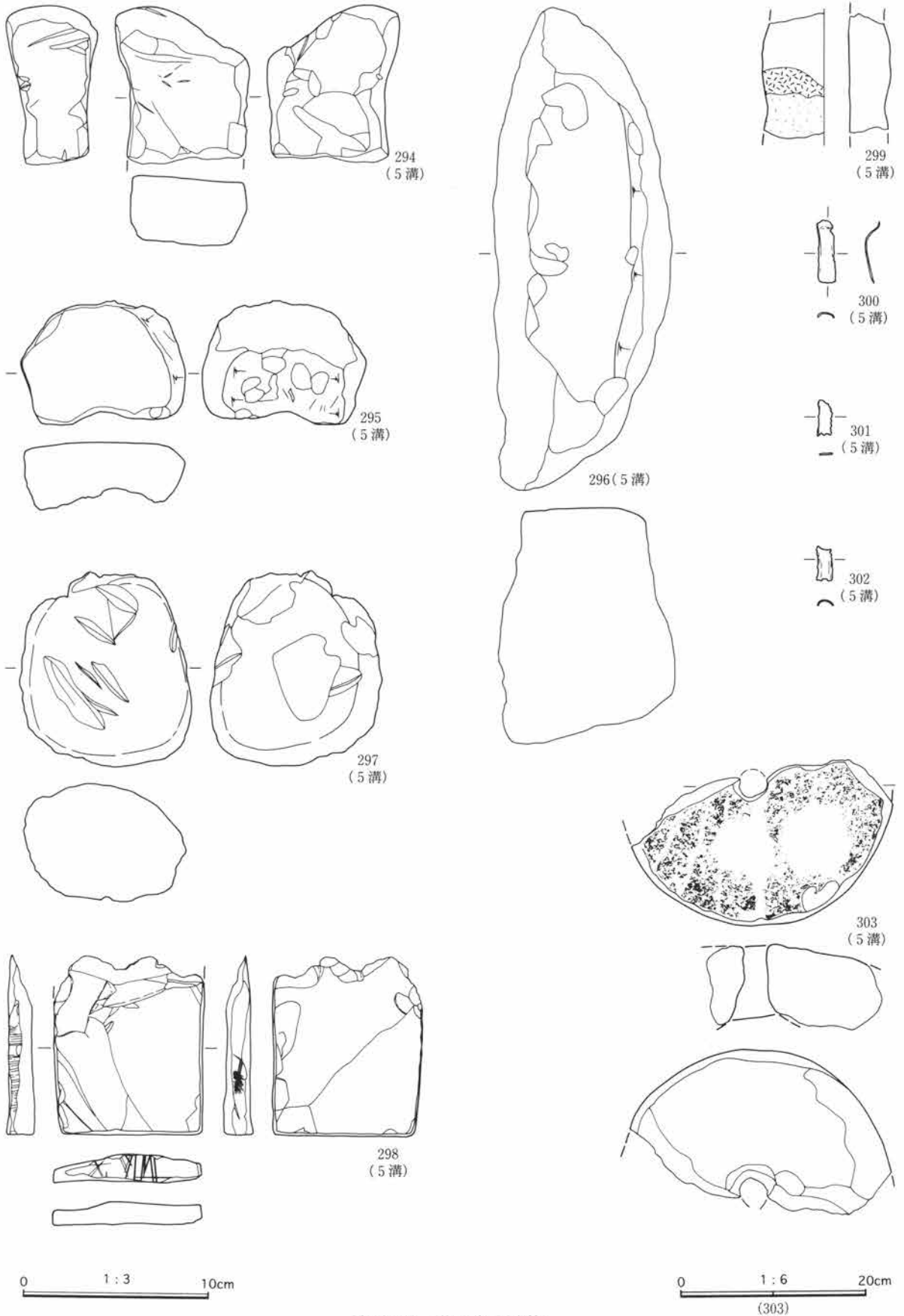




第198図 溝跡出土遺物

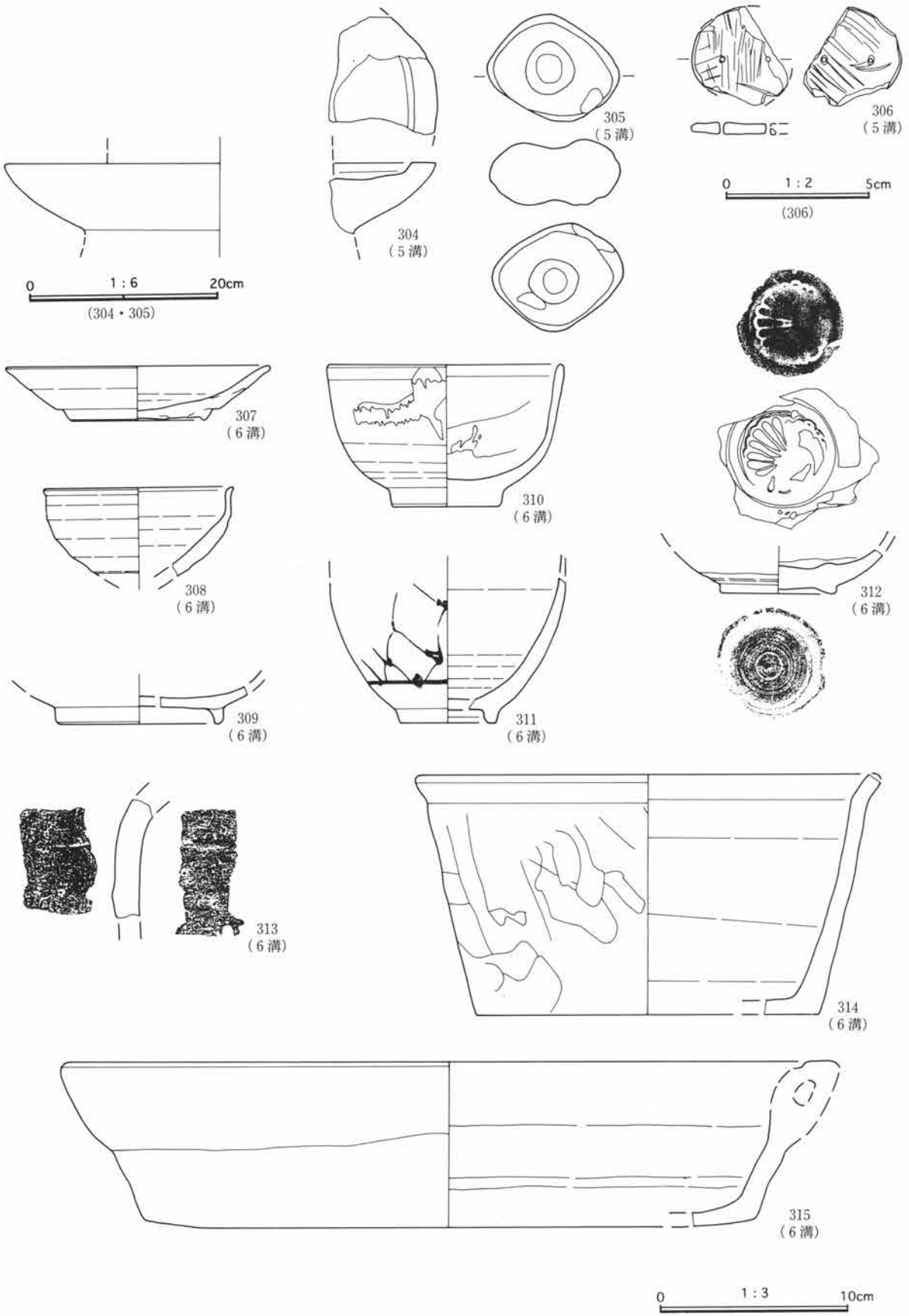


第199図 溝跡出土遺物

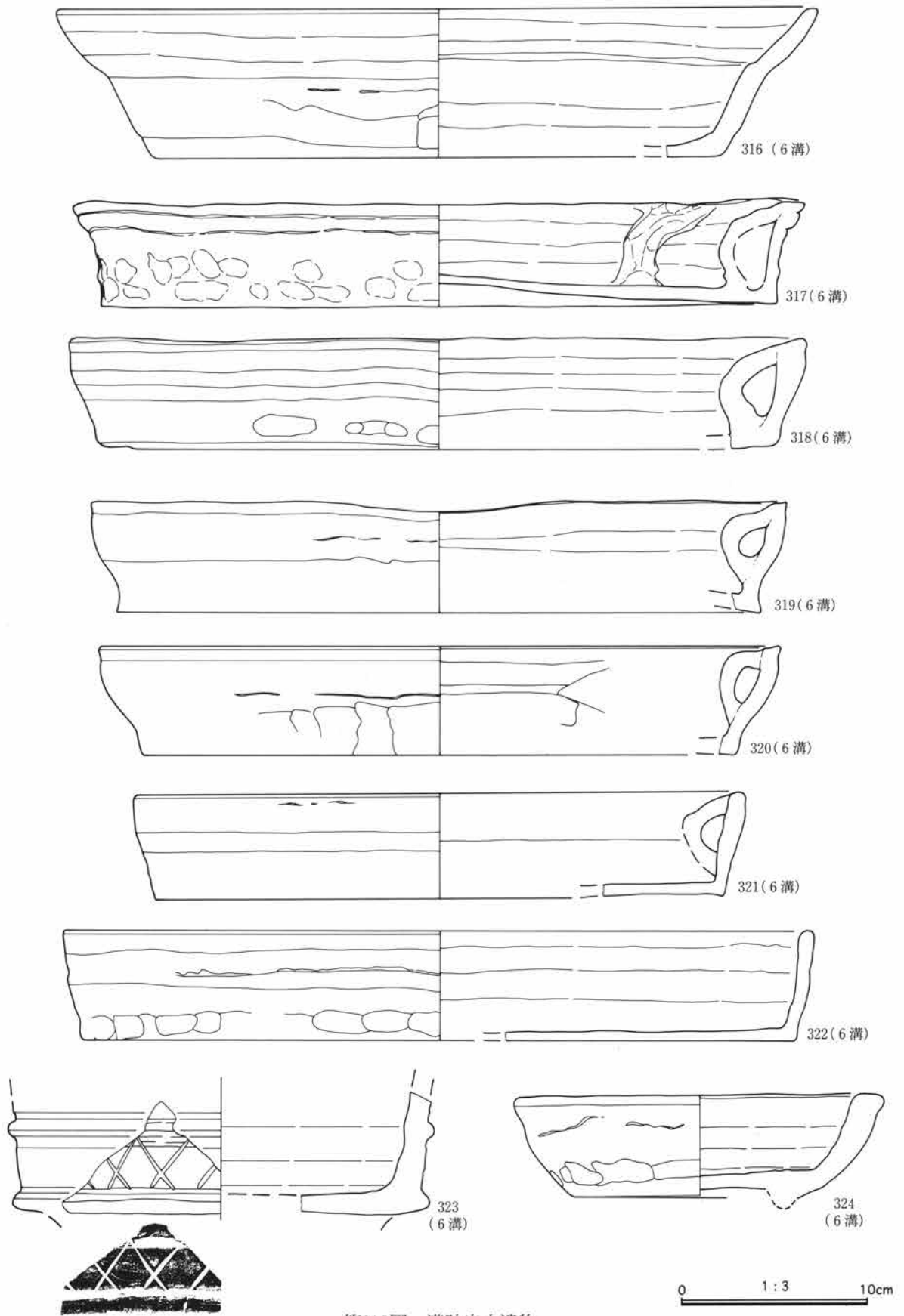


第200図 溝跡出土遺物

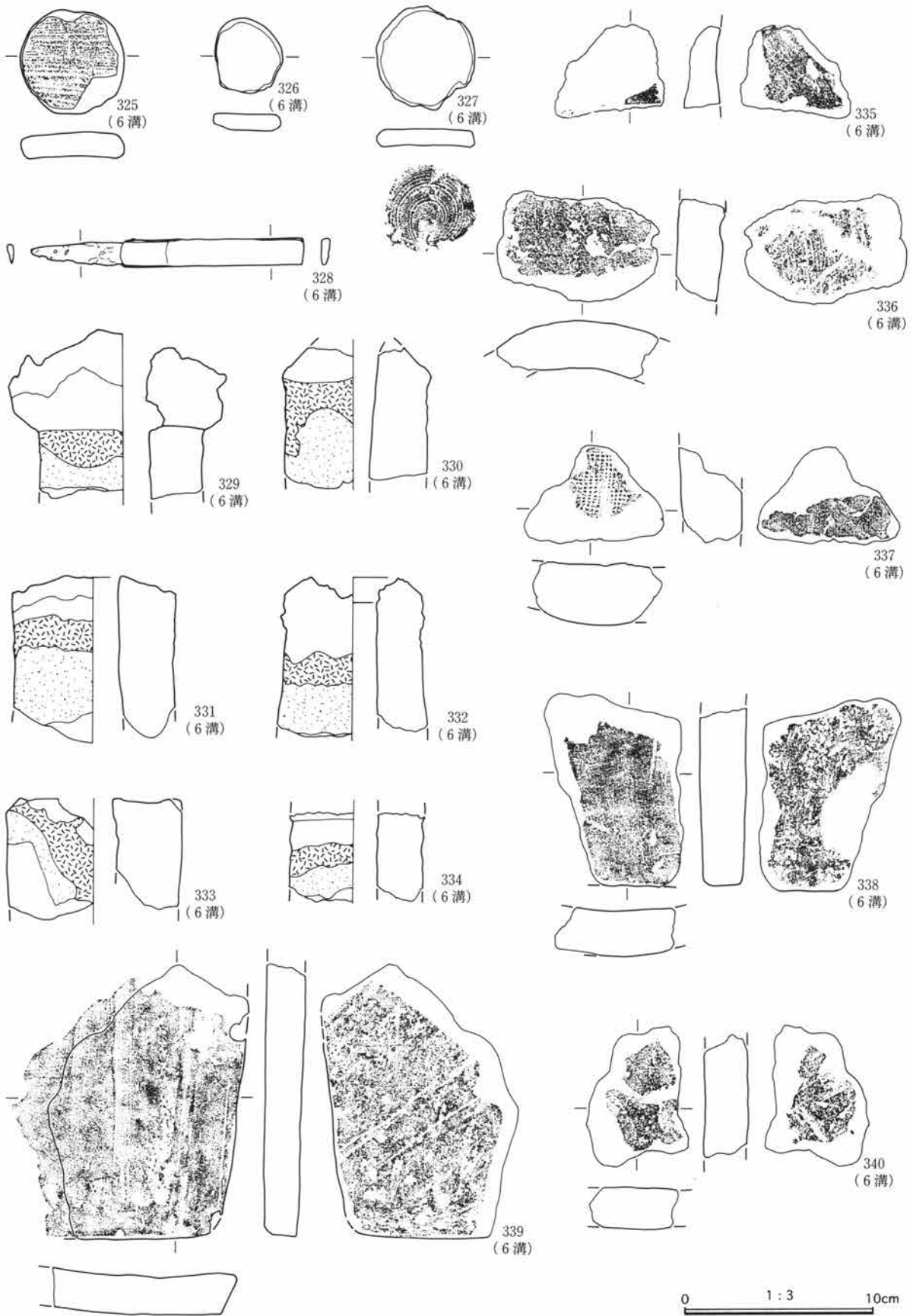
第3節 古墳時代以降



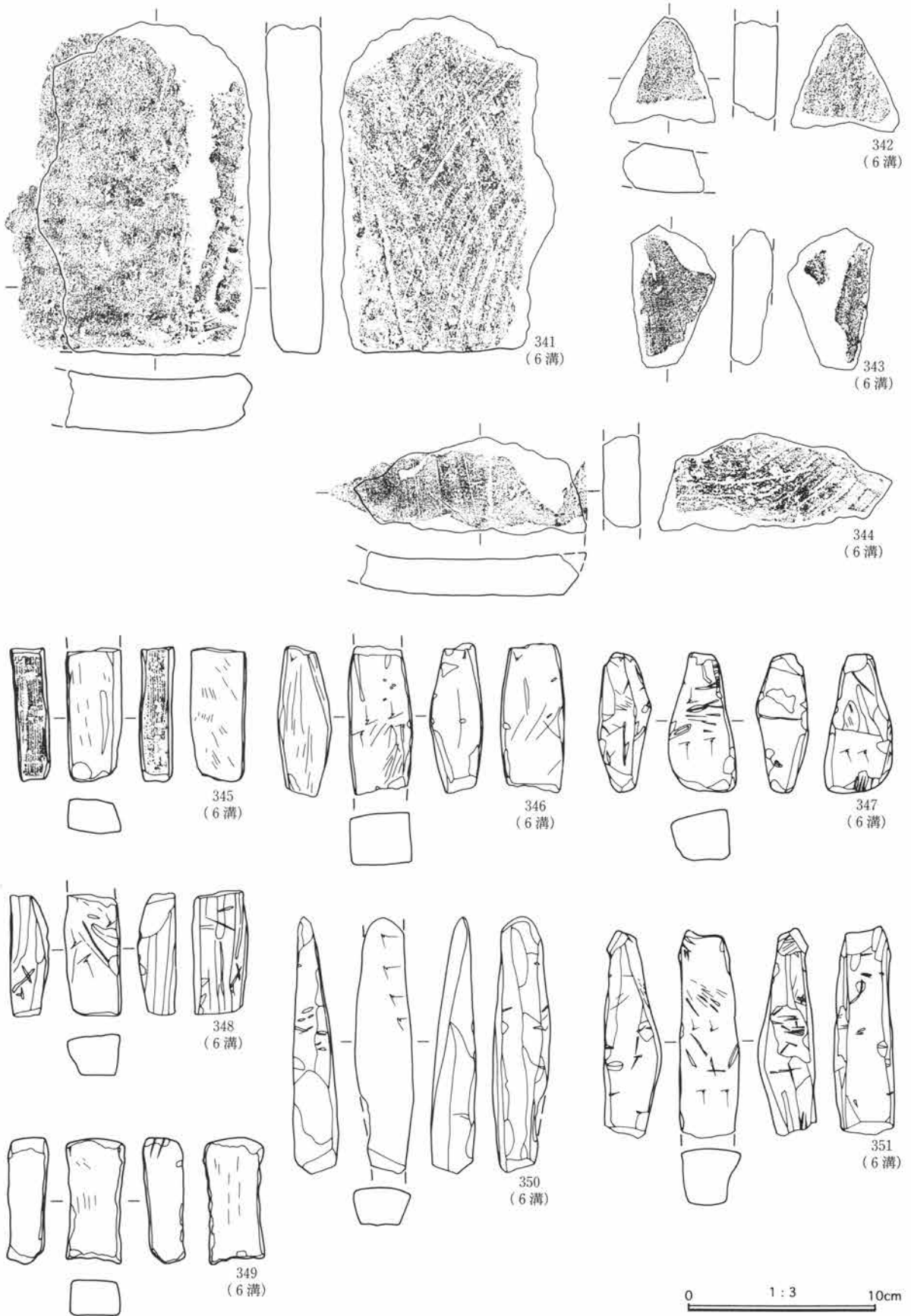
第201図 溝跡出土遺物



第202図 溝跡出土遺物



第203図 溝跡出土遺物

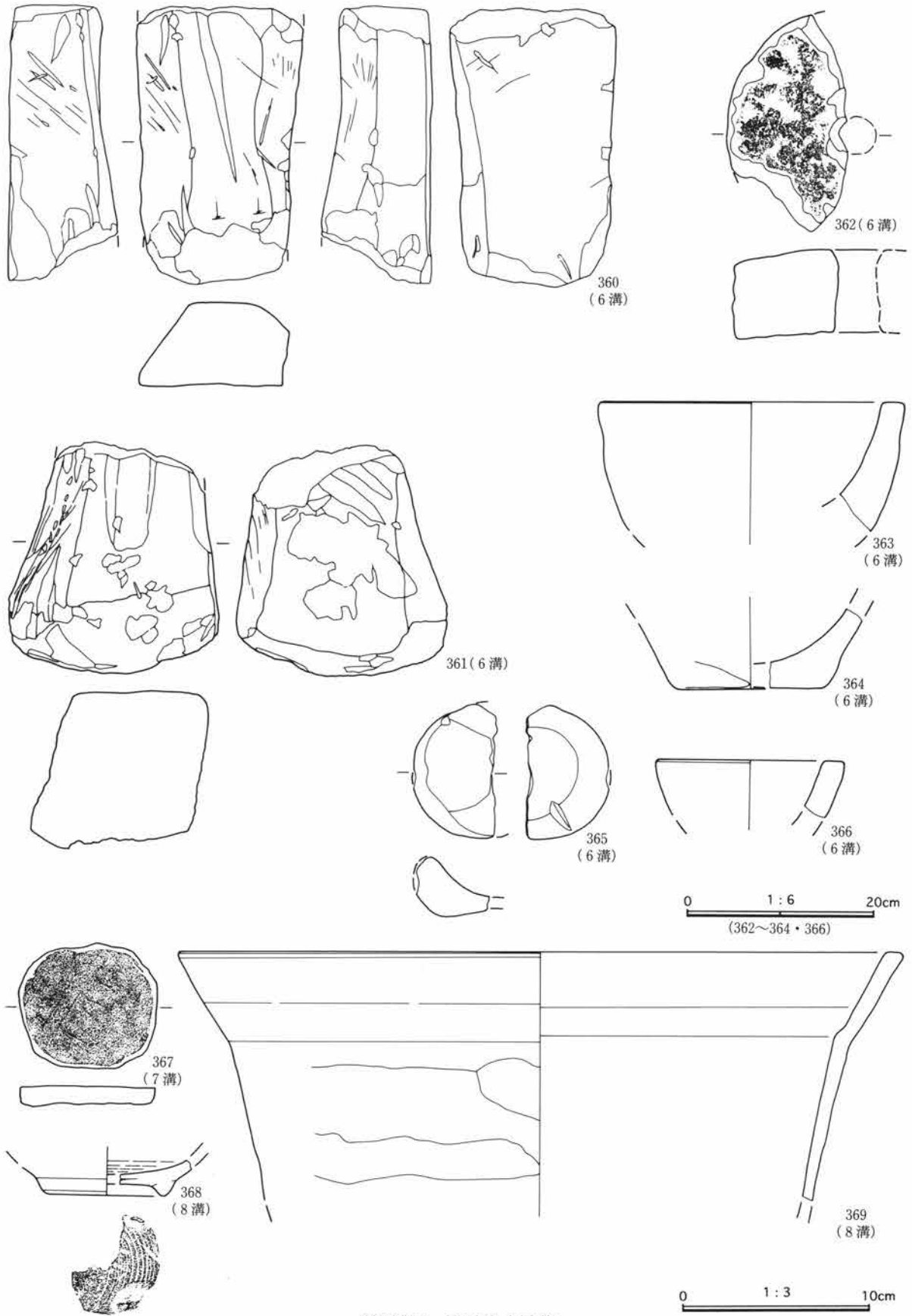


第204図 溝跡出土遺物



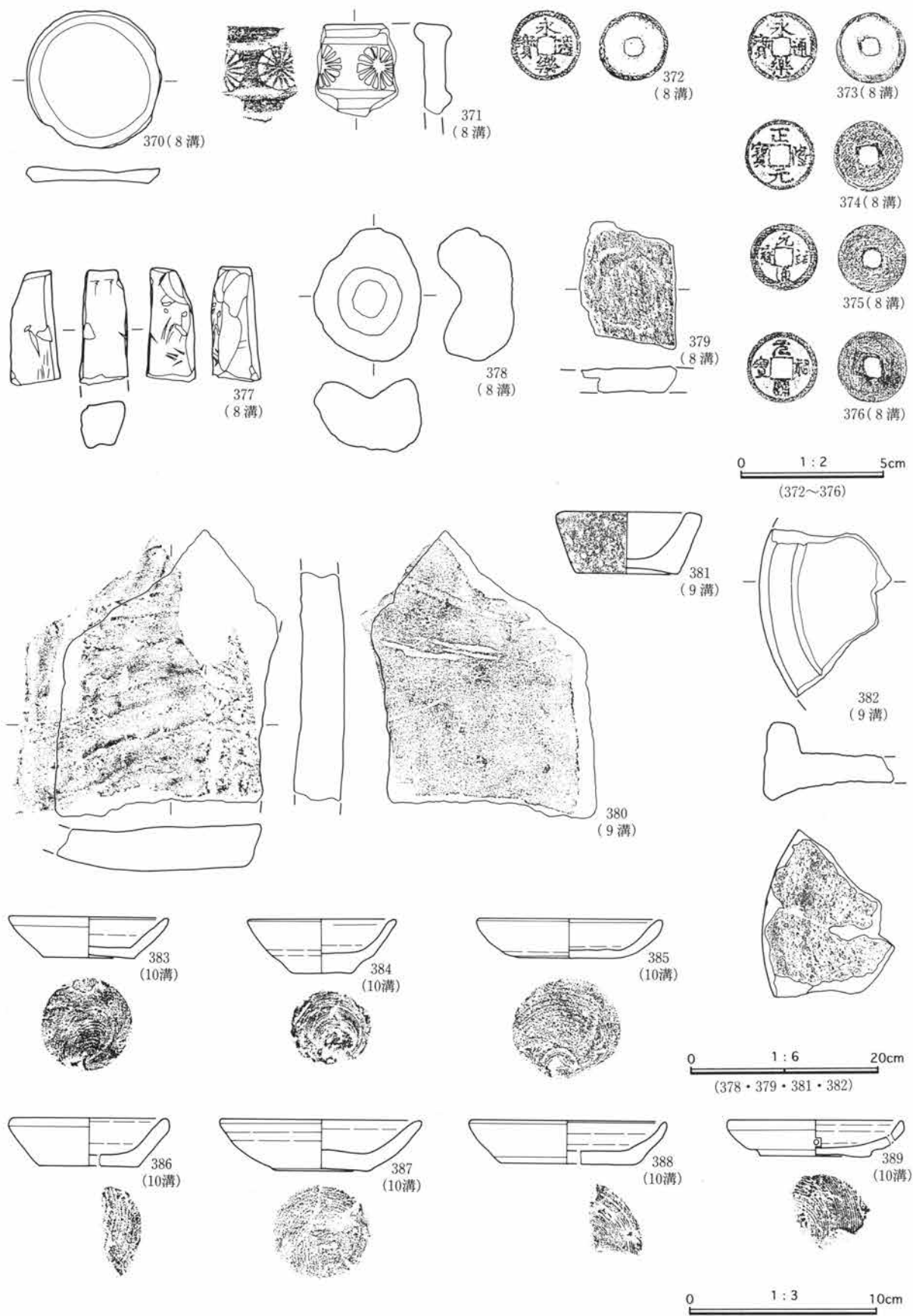


第205図 溝跡出土遺物



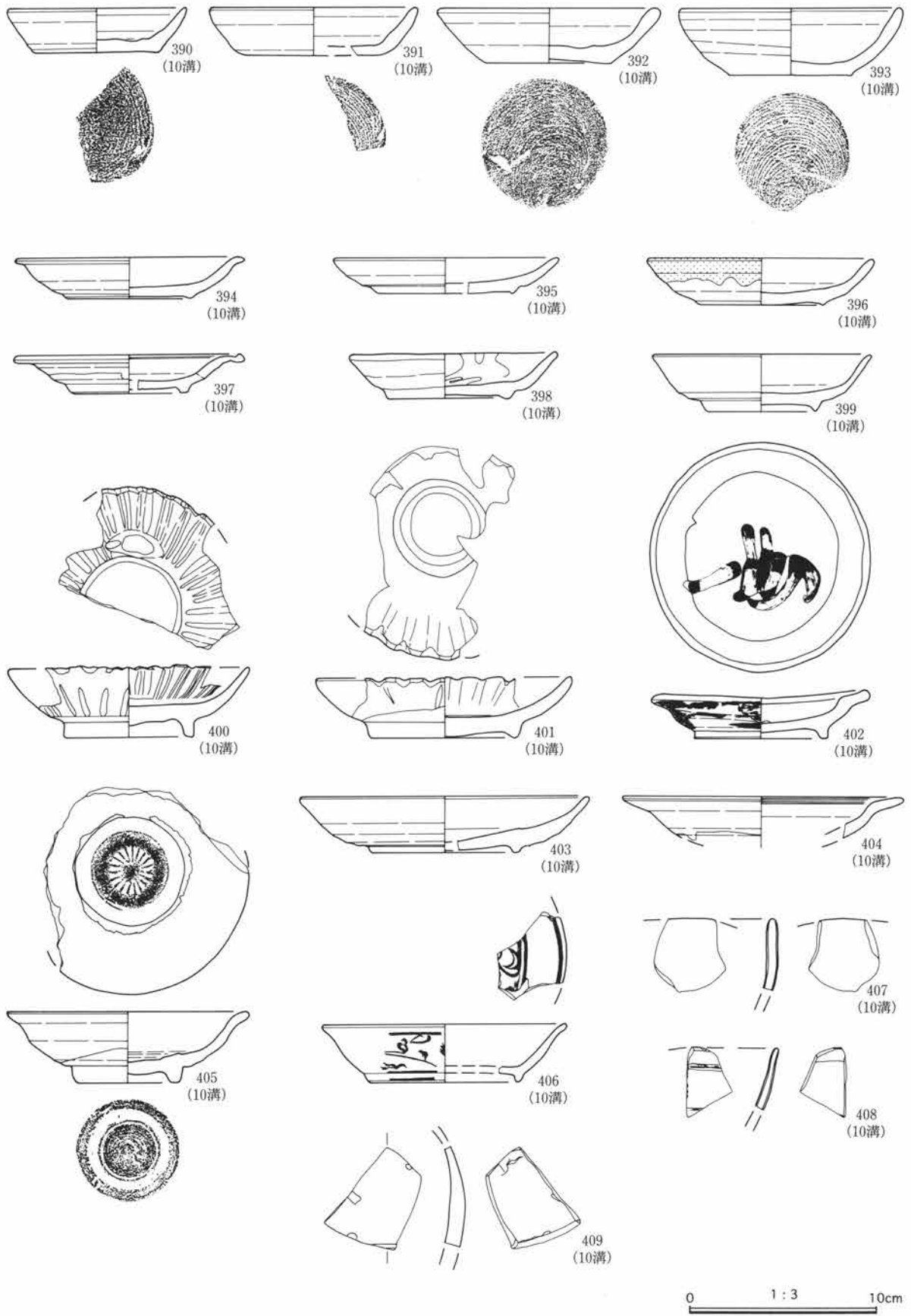
第206図 溝跡出土遺物

第3節 古墳時代以降

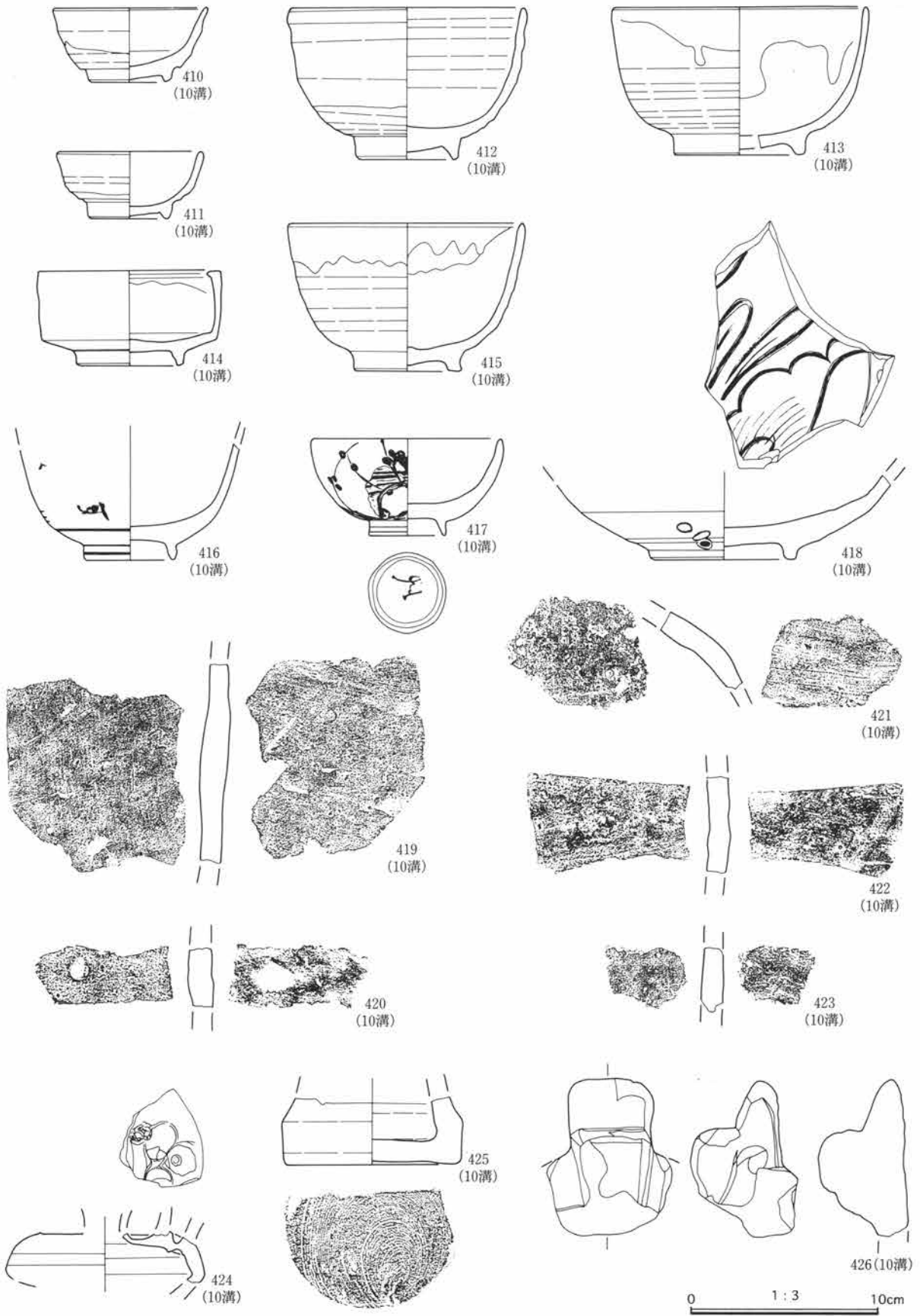


第207図 溝跡出土遺物

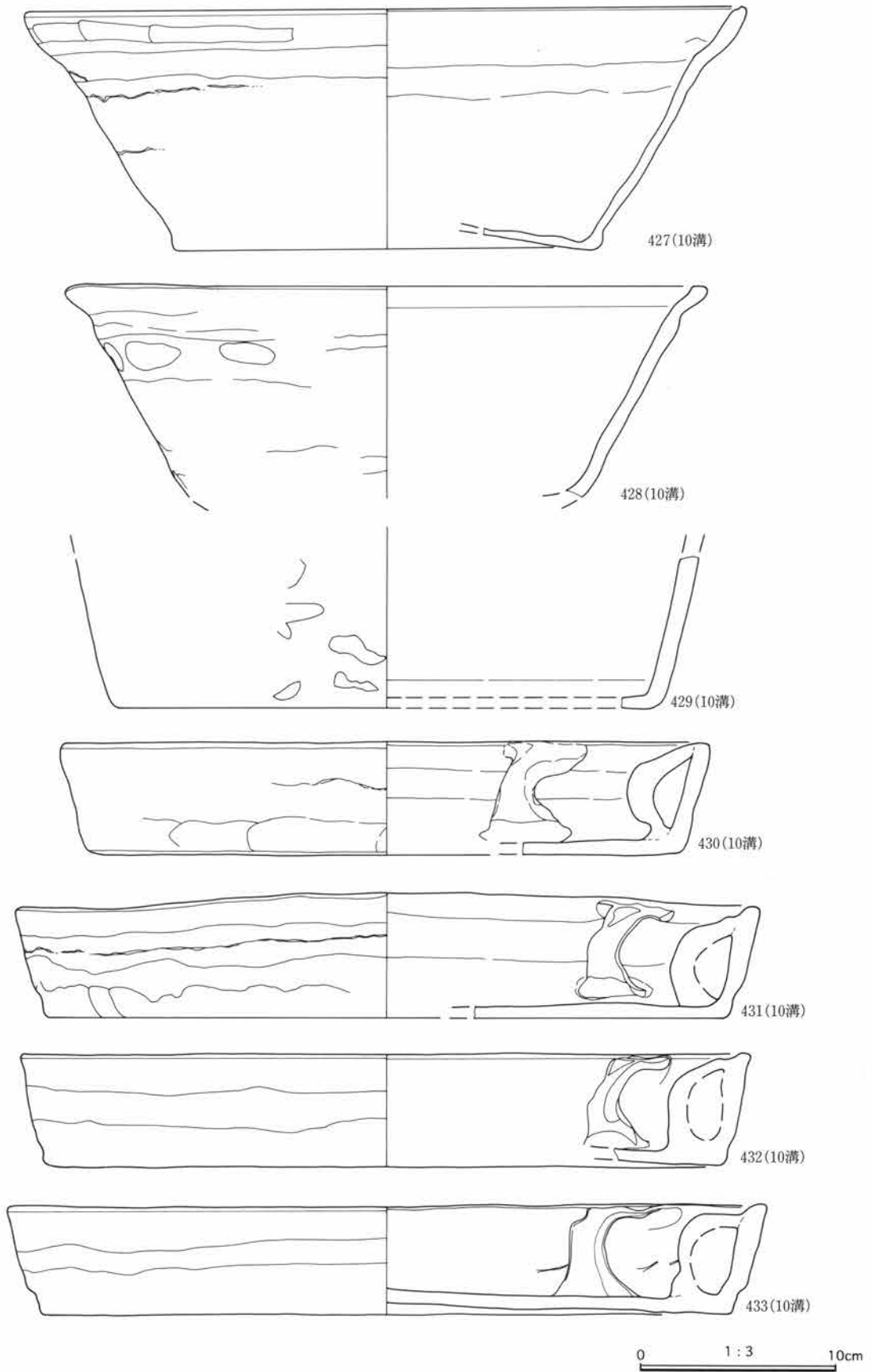
第3章 検出遺構と遺物



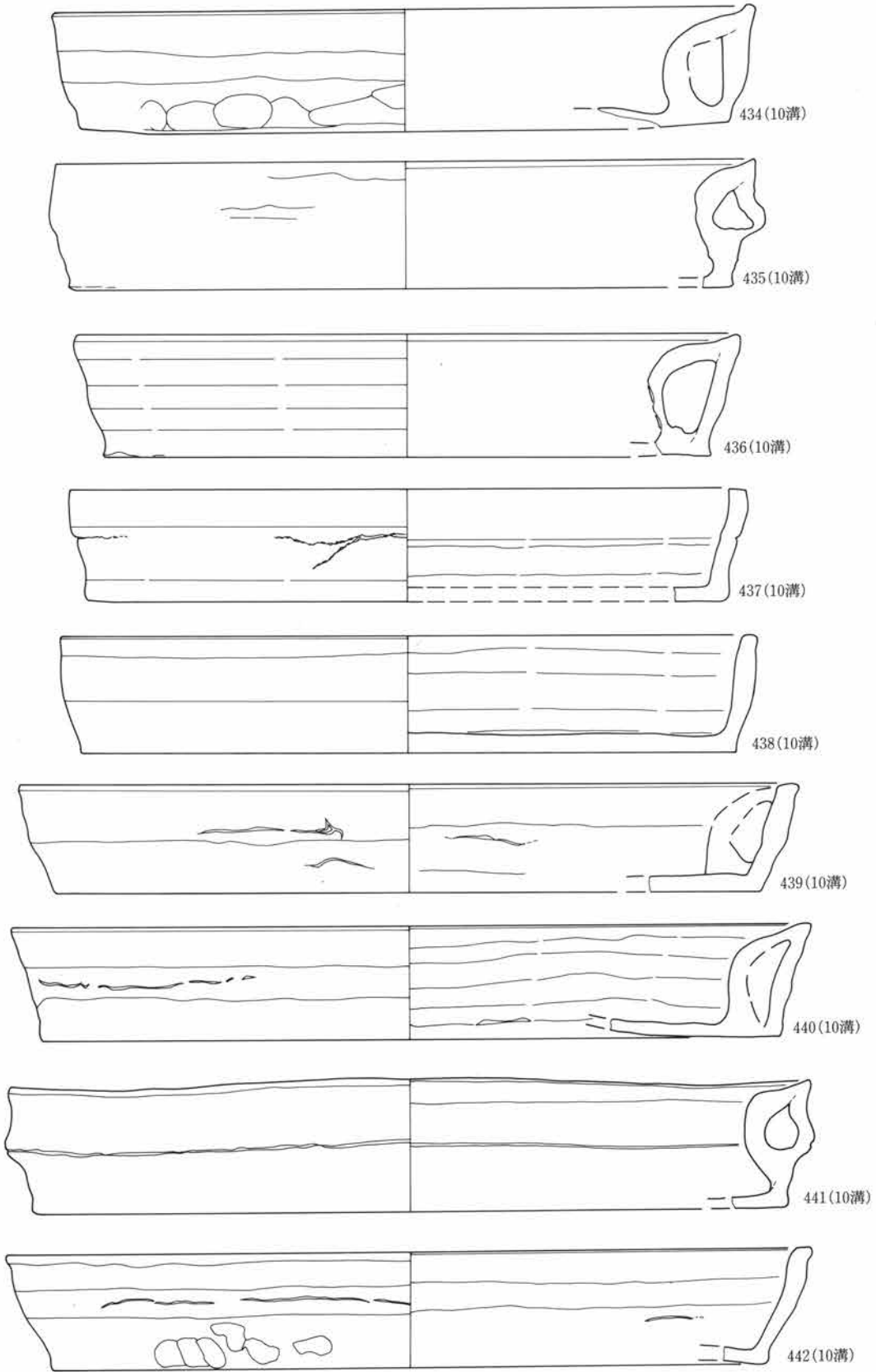
第208図 溝跡出土遺物



第209図 溝跡出土遺物



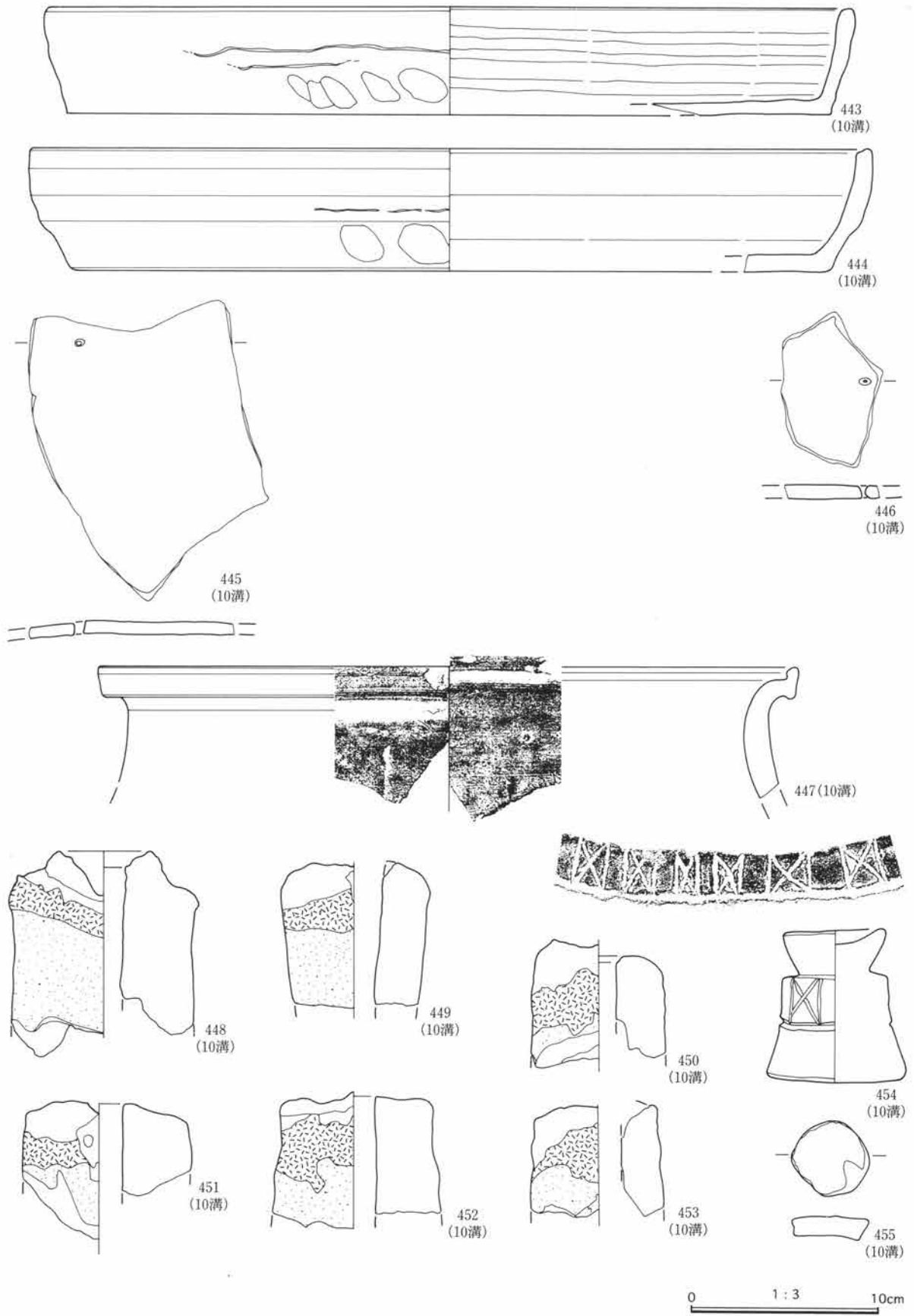
第210図 溝跡出土遺物



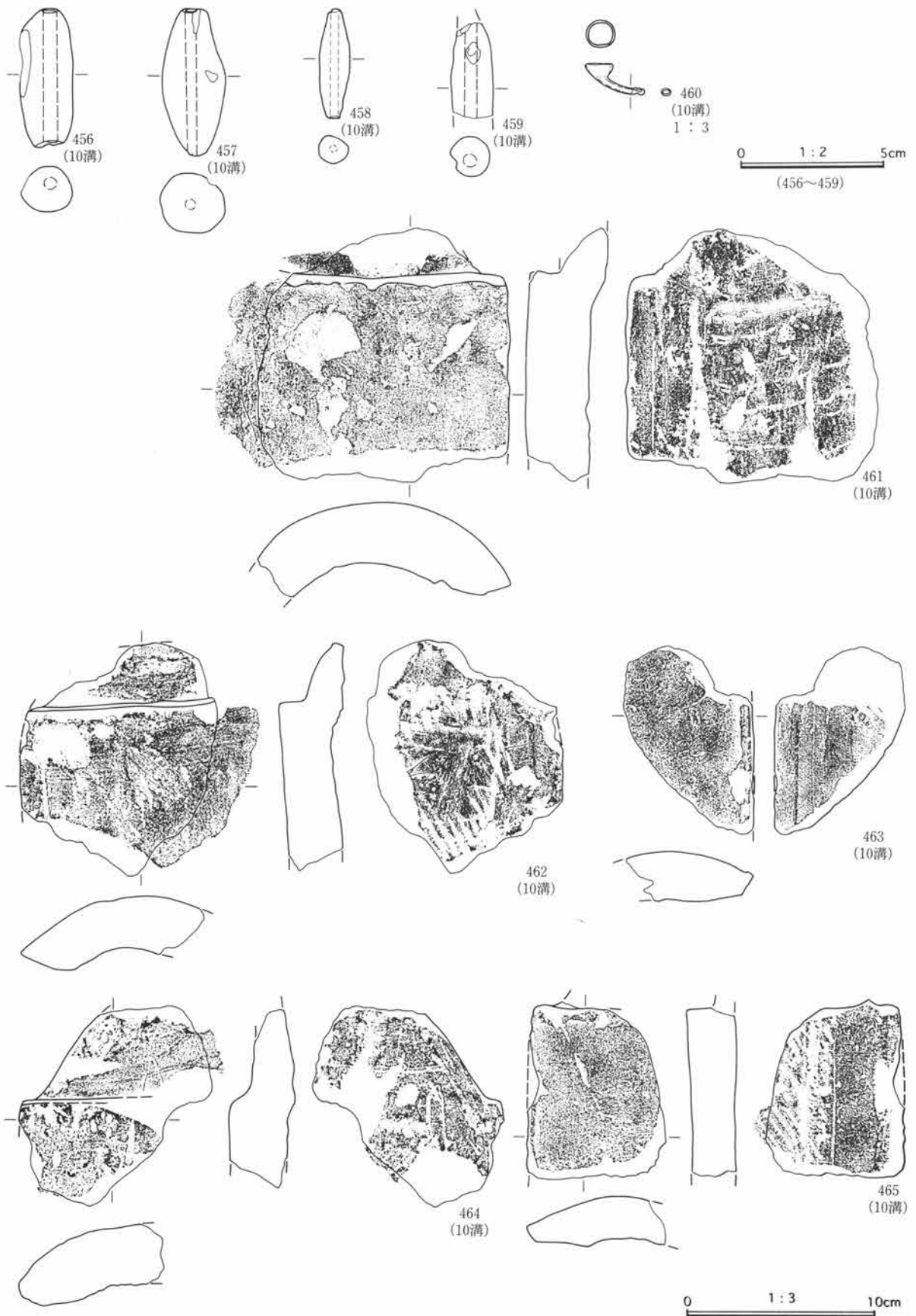
0 1:3 10cm

第211図 溝跡出土遺物

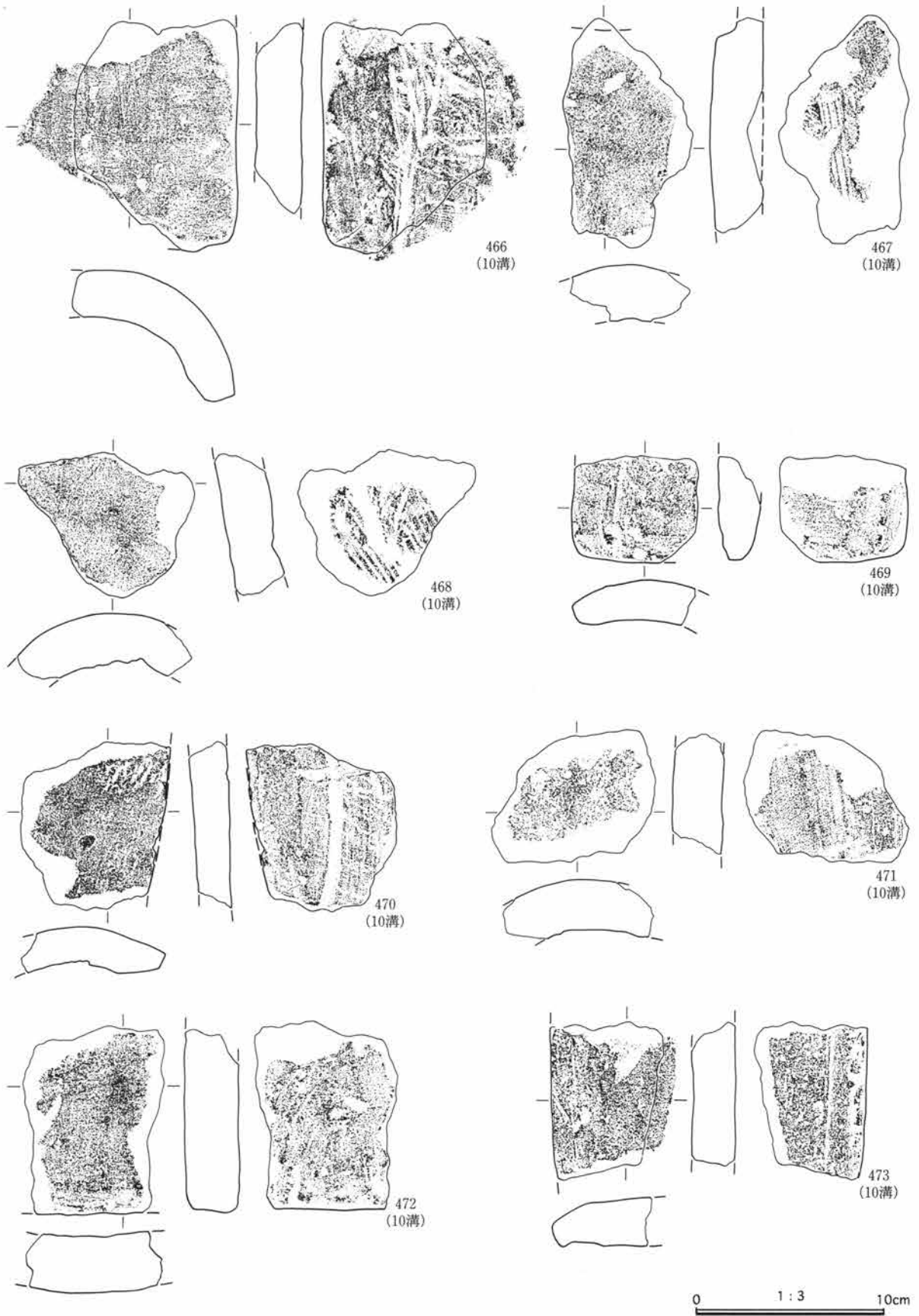




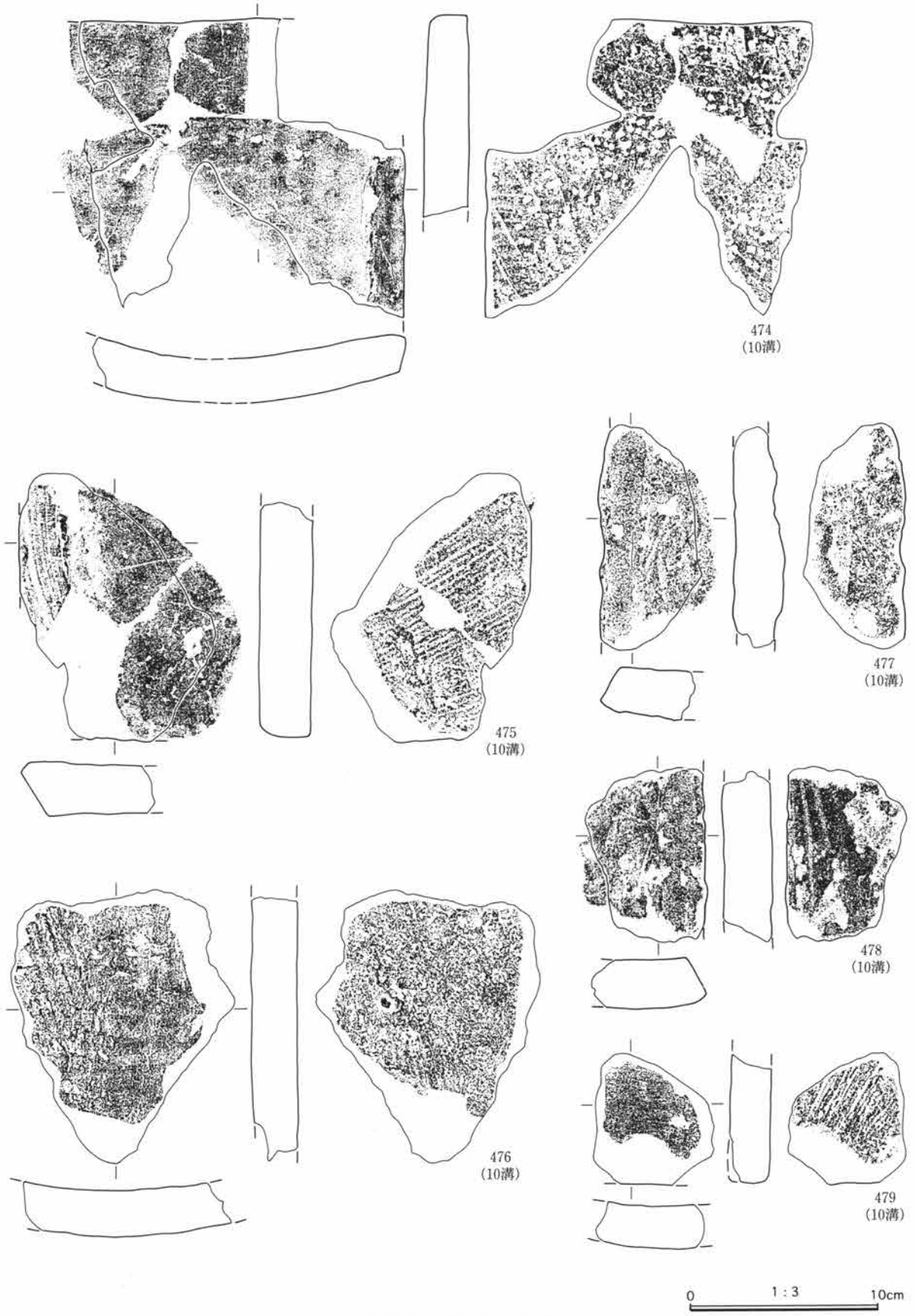
第212図 溝跡出土遺物



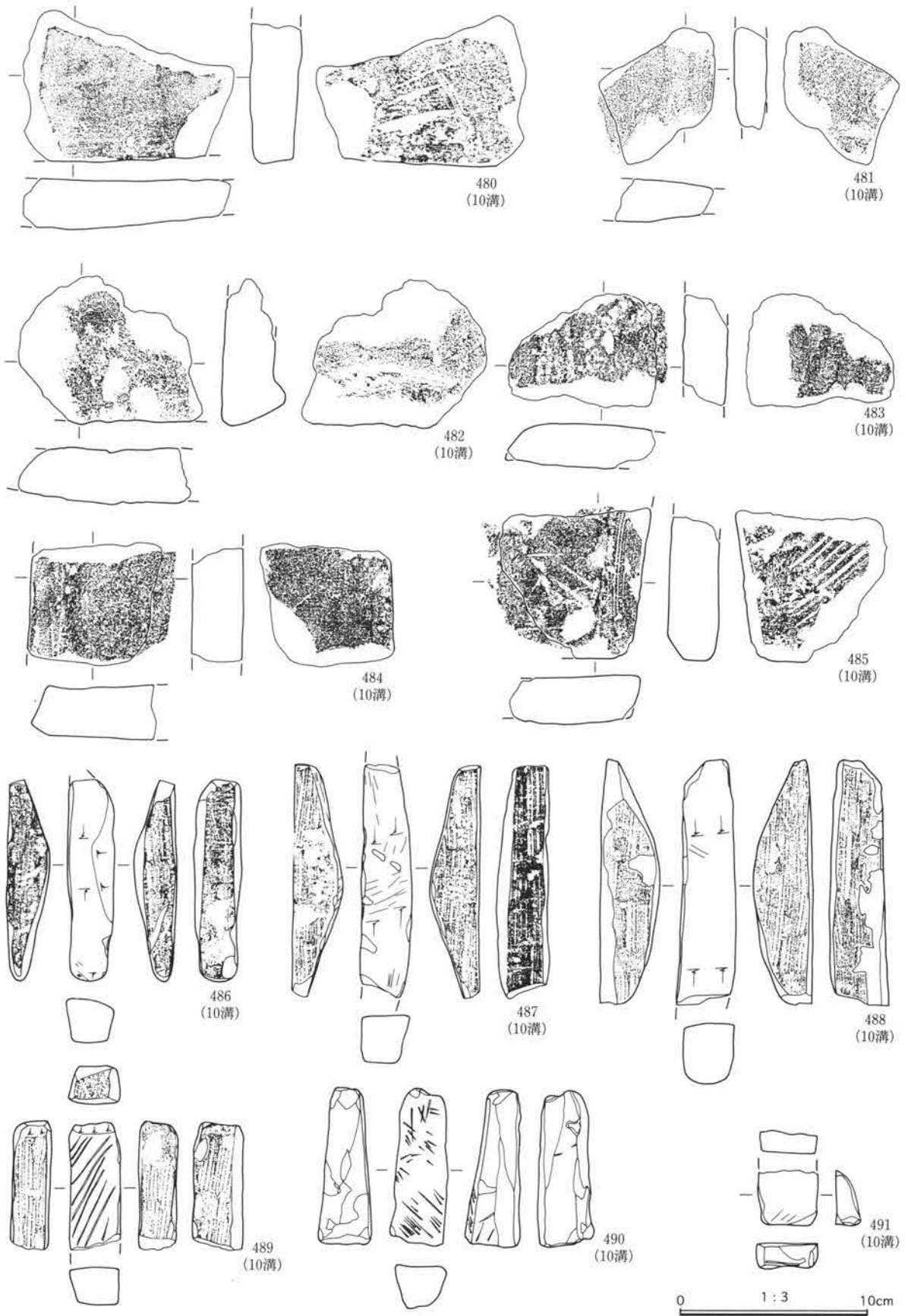
第213図 溝跡出土遺物



第214図 溝跡出土遺物



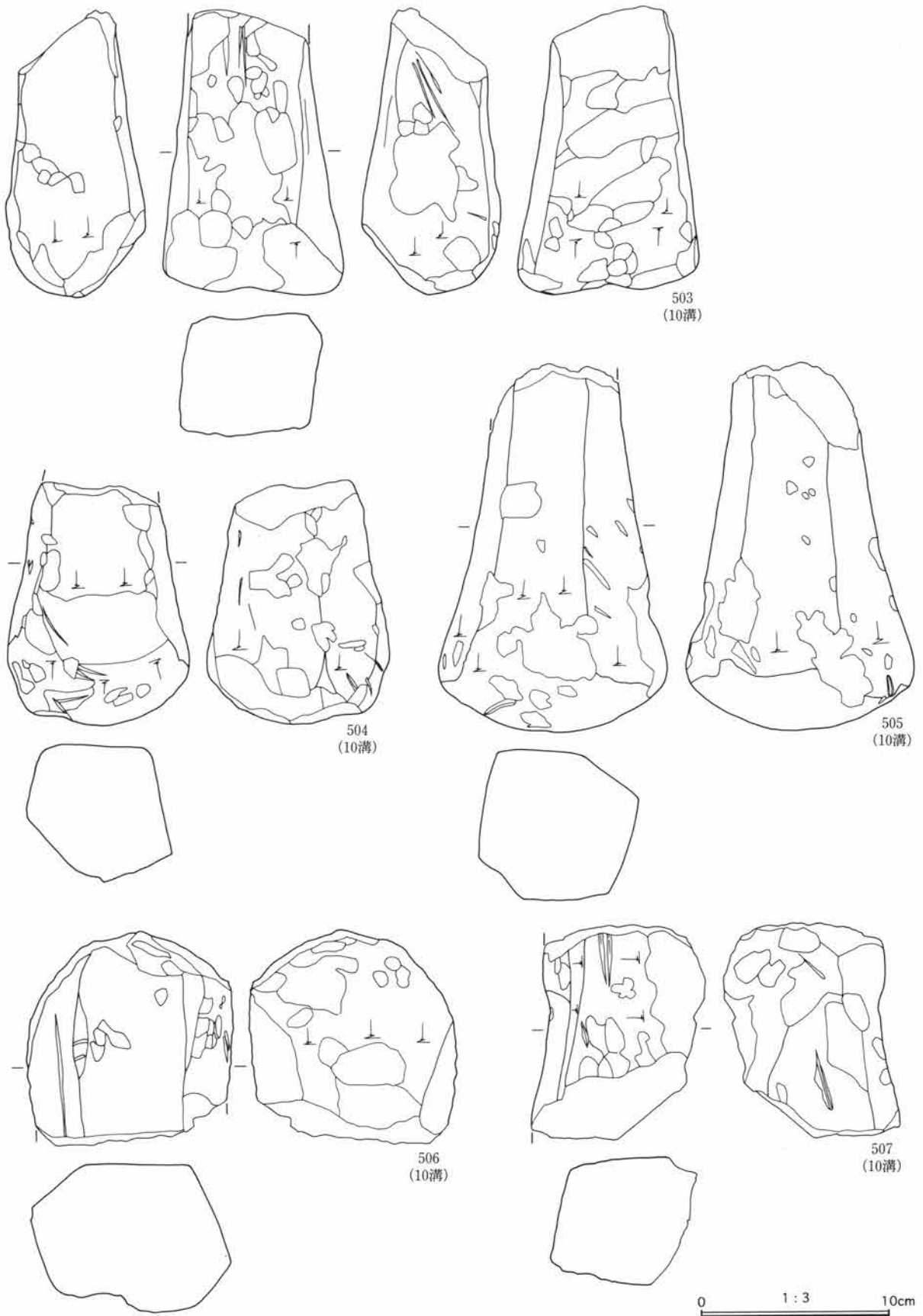
第215図 溝跡出土遺物



第216図 溝跡出土遺物

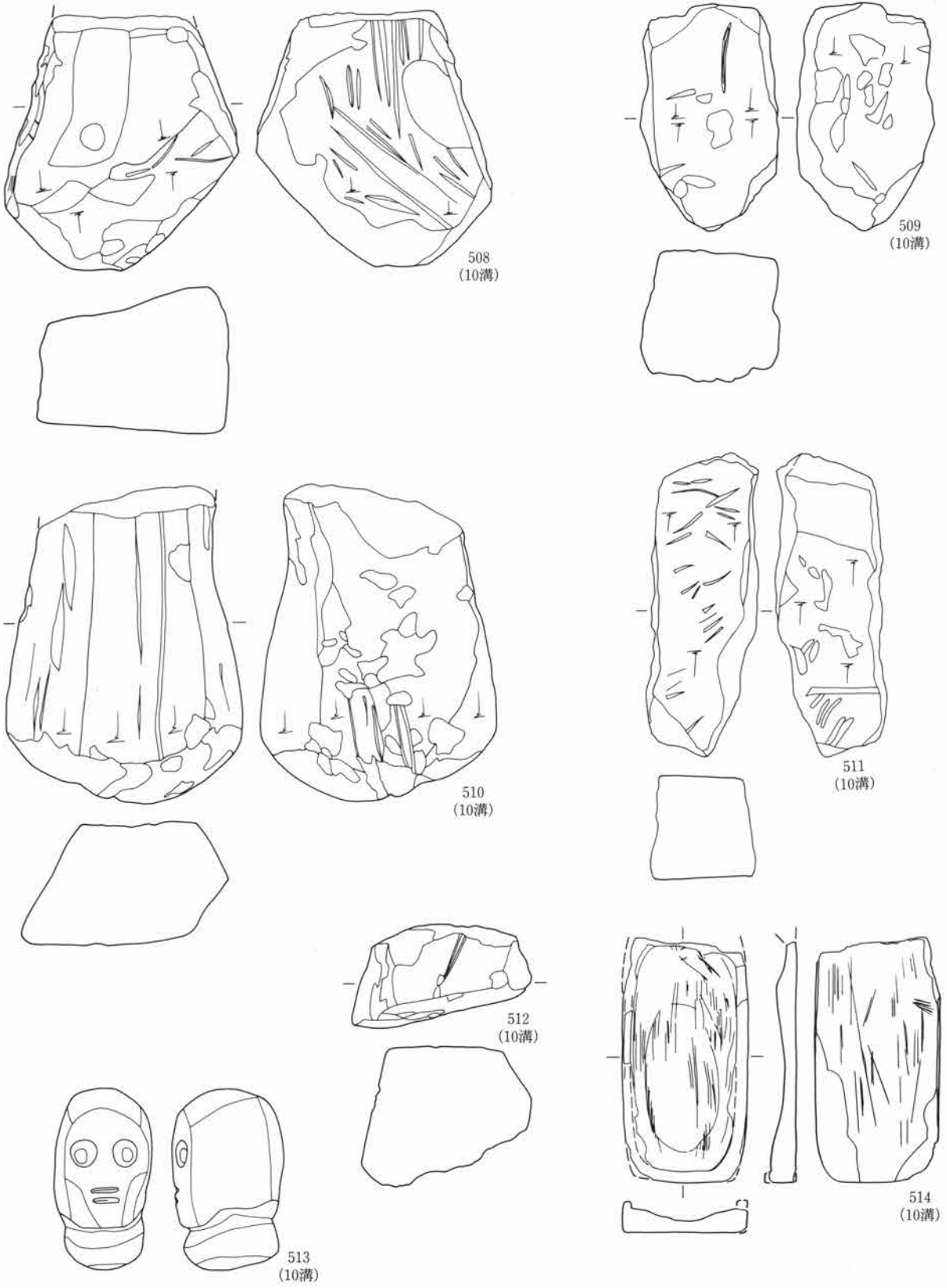


第217図 溝跡出土遺物



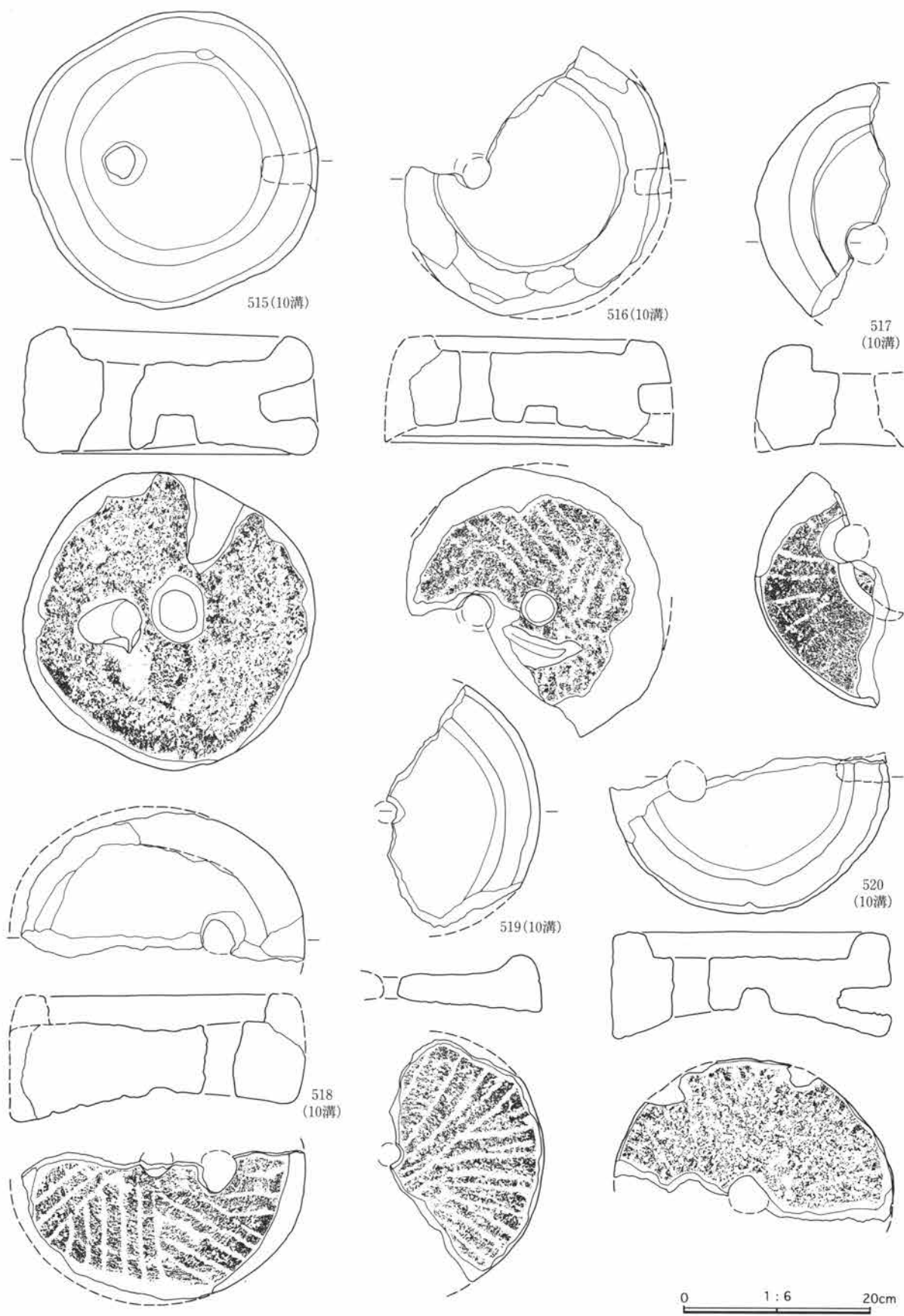
第218図 溝跡出土遺物



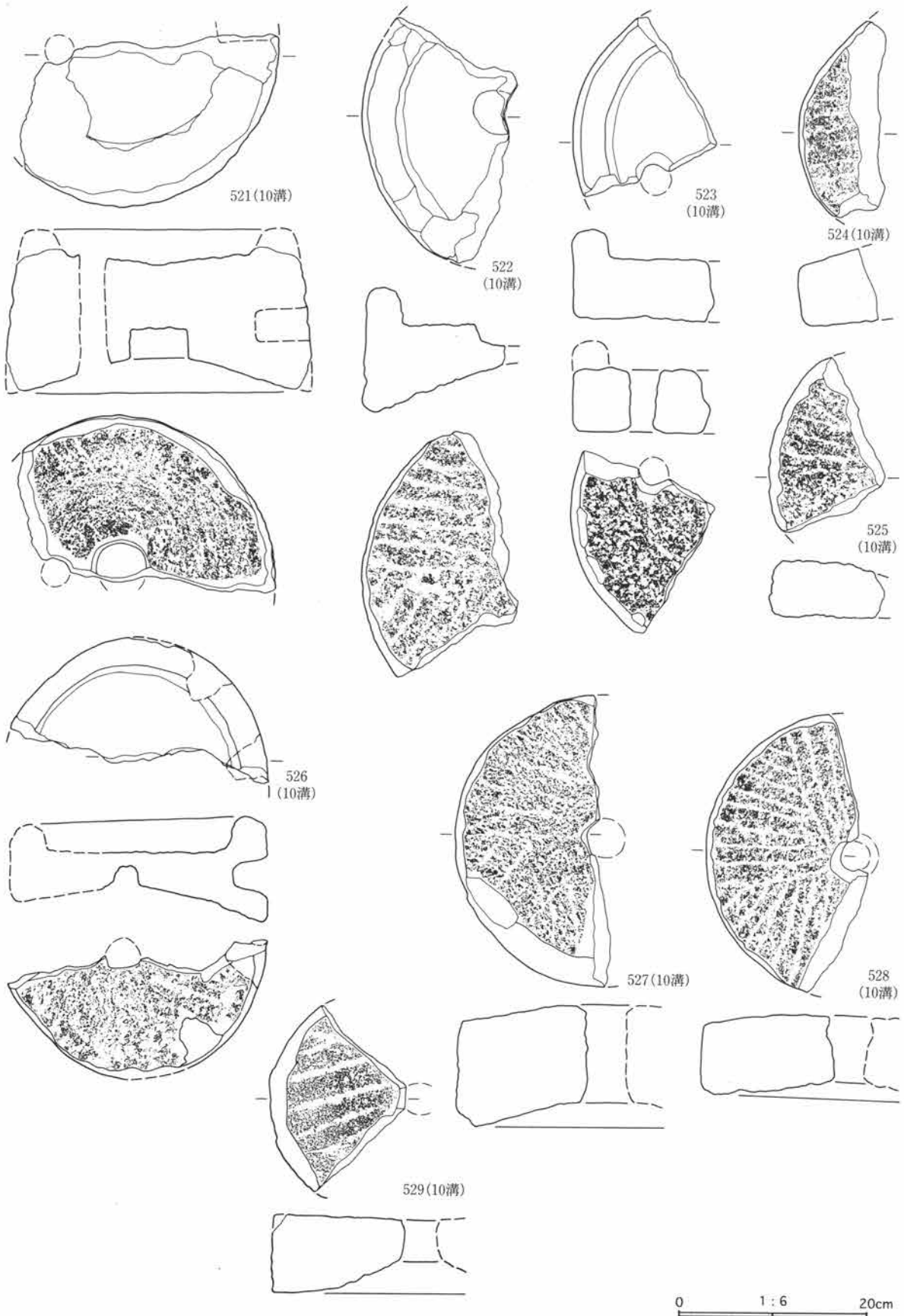


0 1:3 10cm

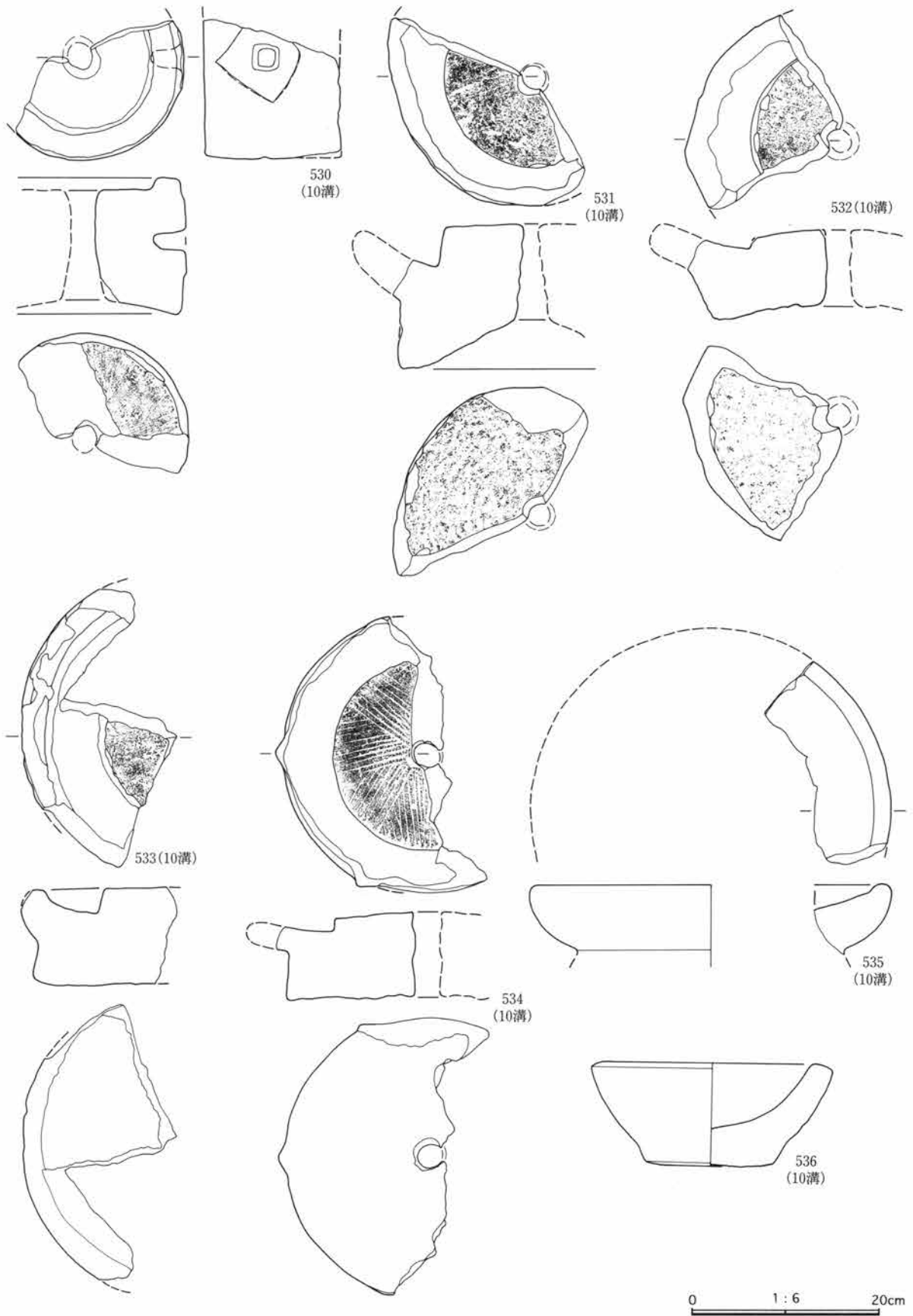
第219図 溝跡出土遺物



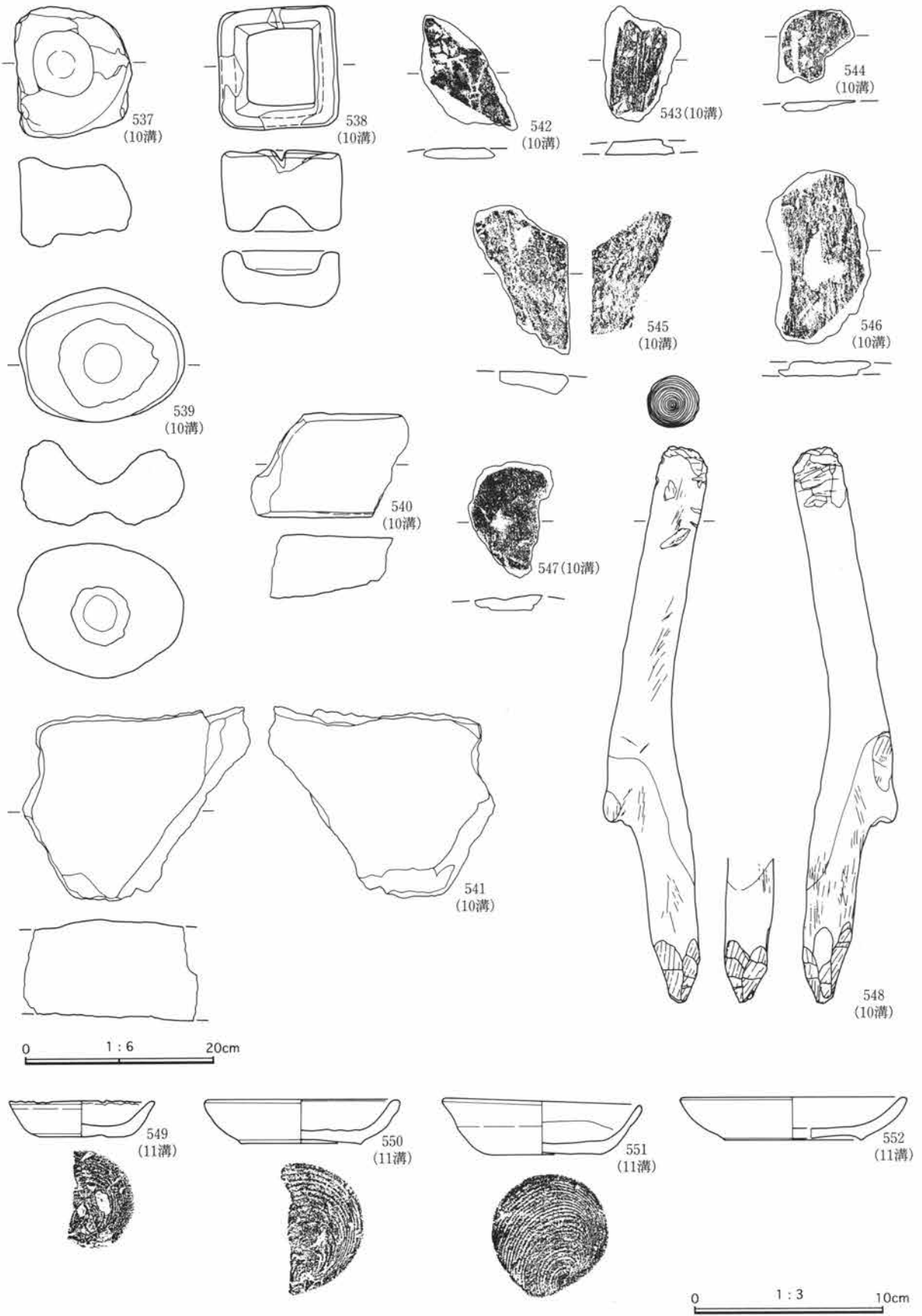
第220図 溝跡出土遺物



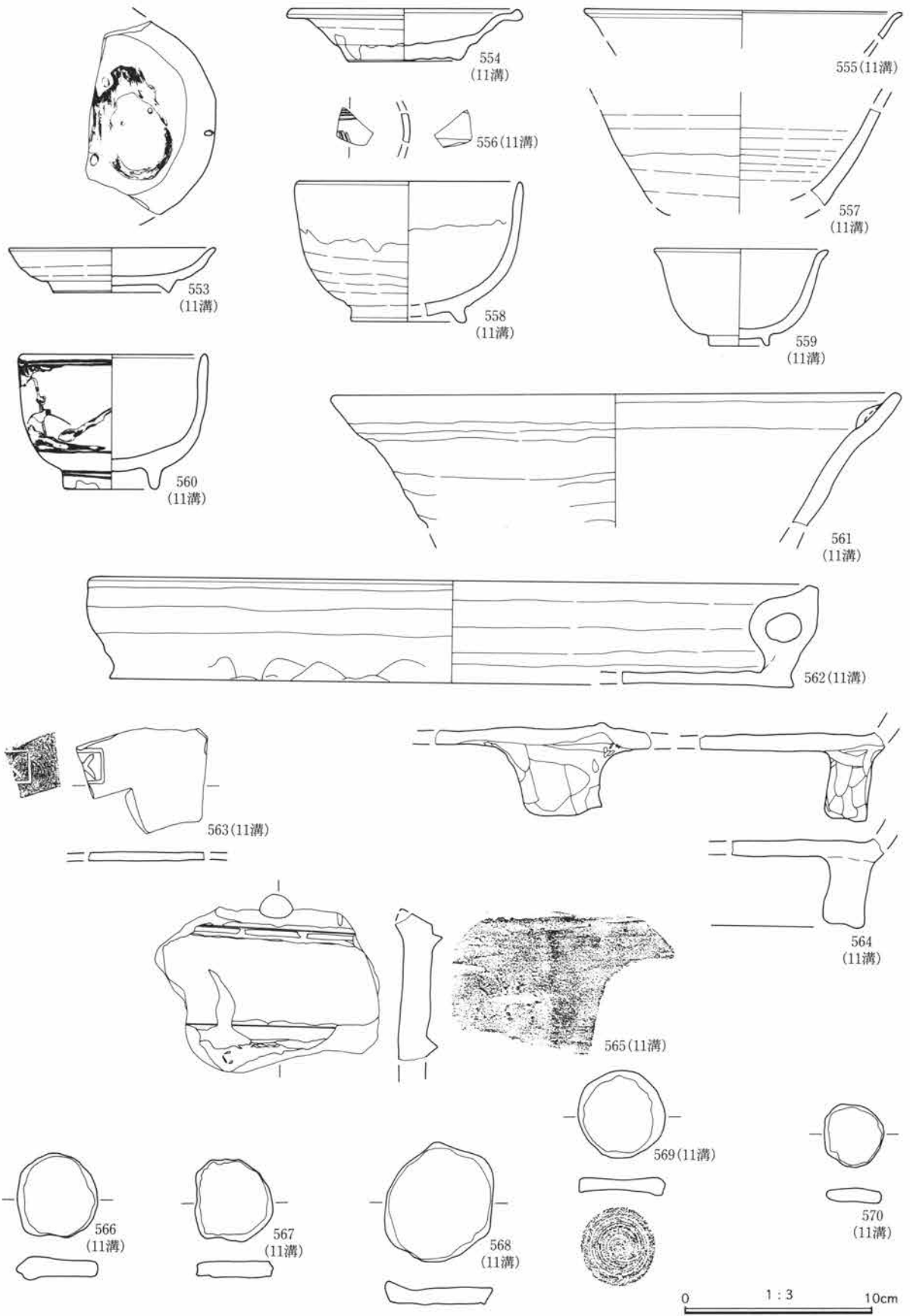
第221図 溝跡出土遺物



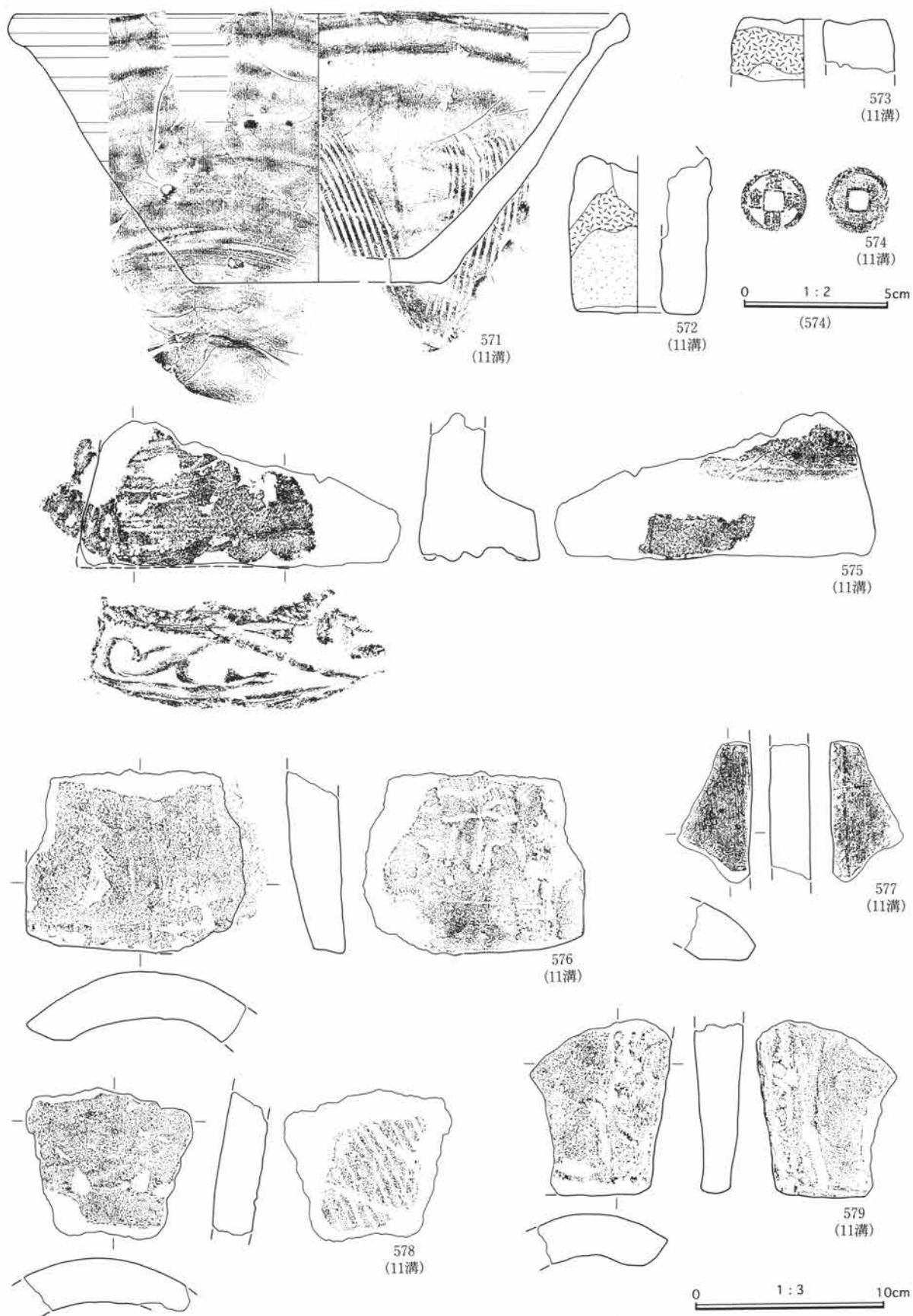
第222図 溝跡出土遺物



第223図 溝跡出土遺物

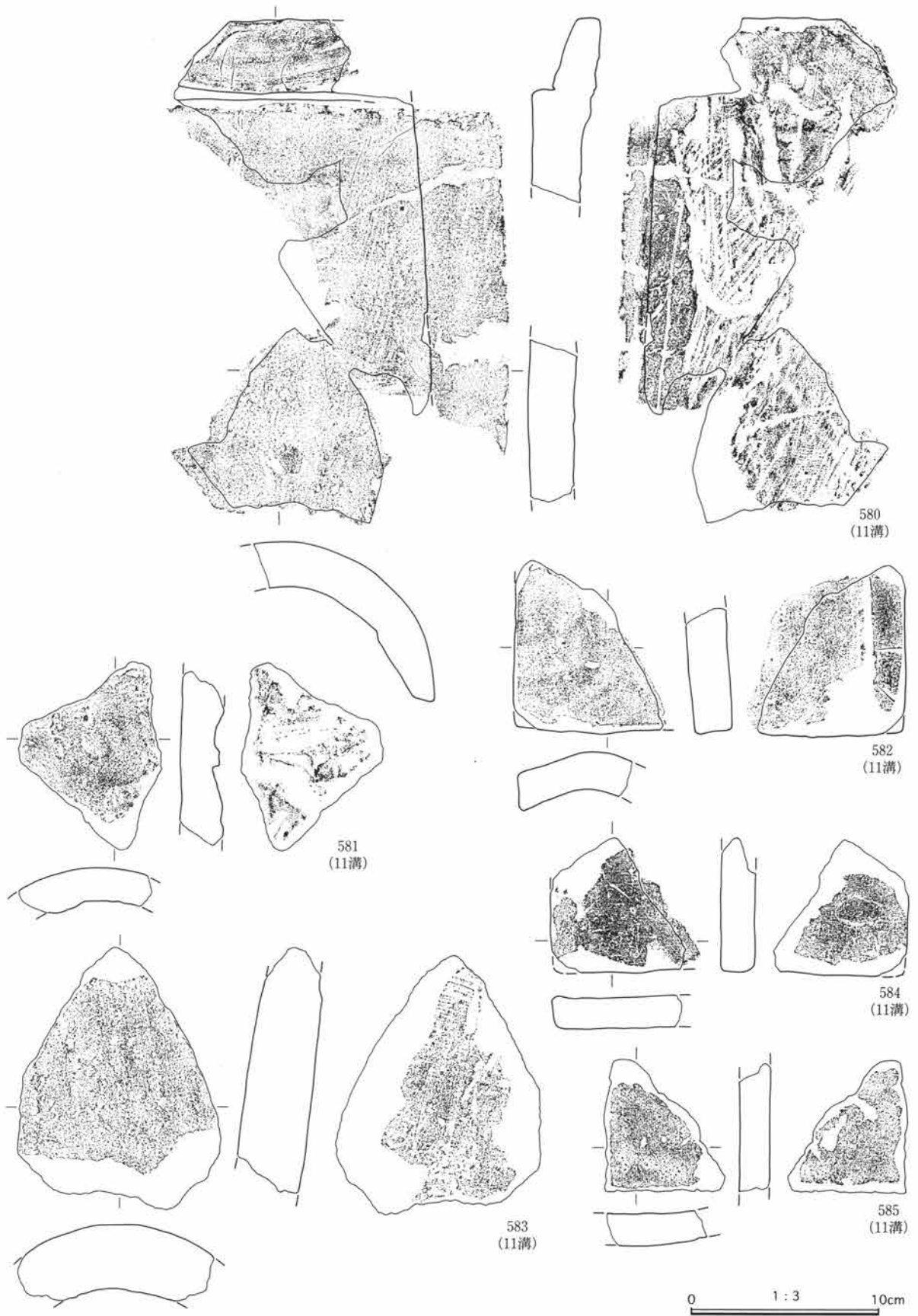


第224図 溝跡出土遺物

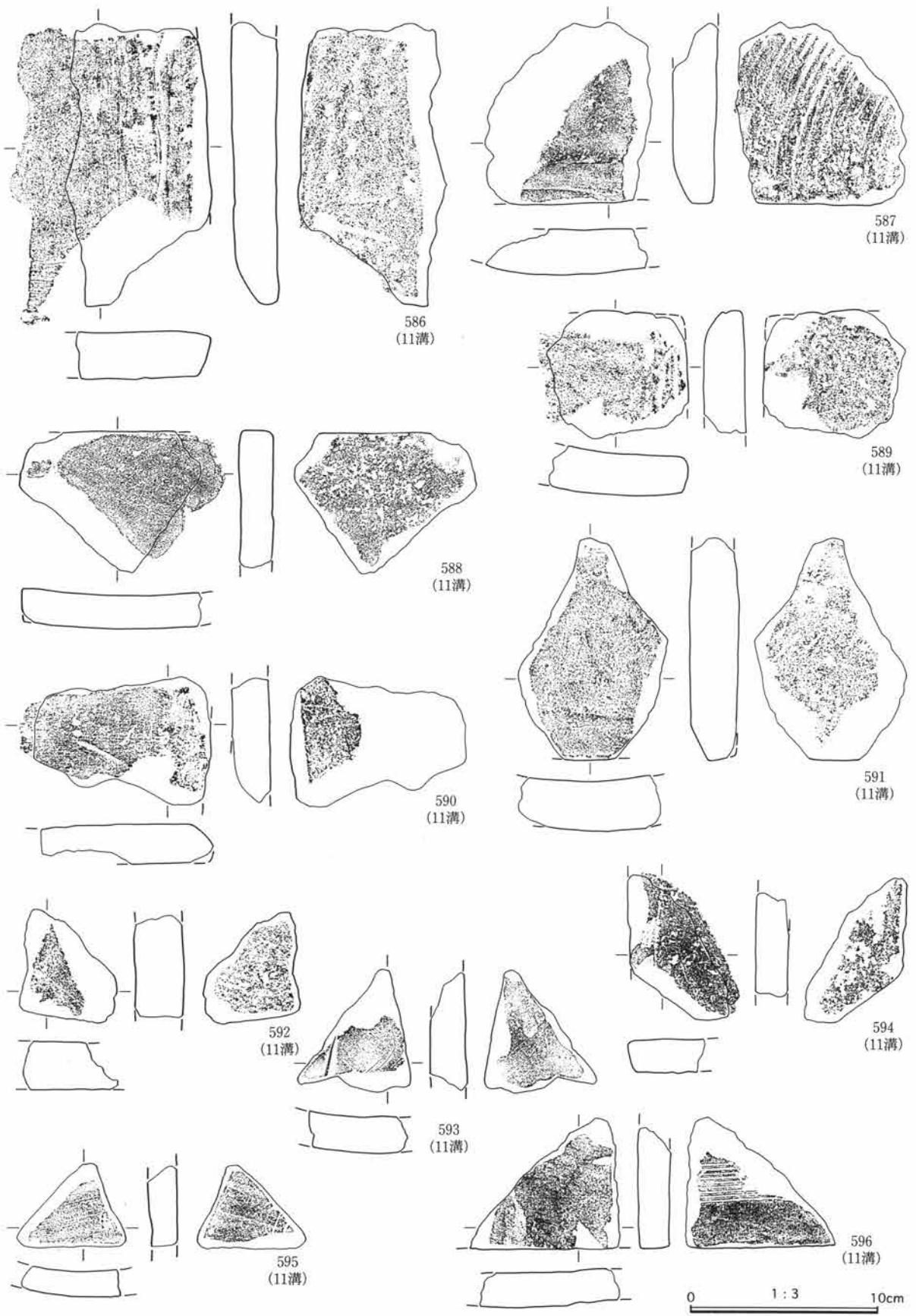


第225図 溝跡出土遺物





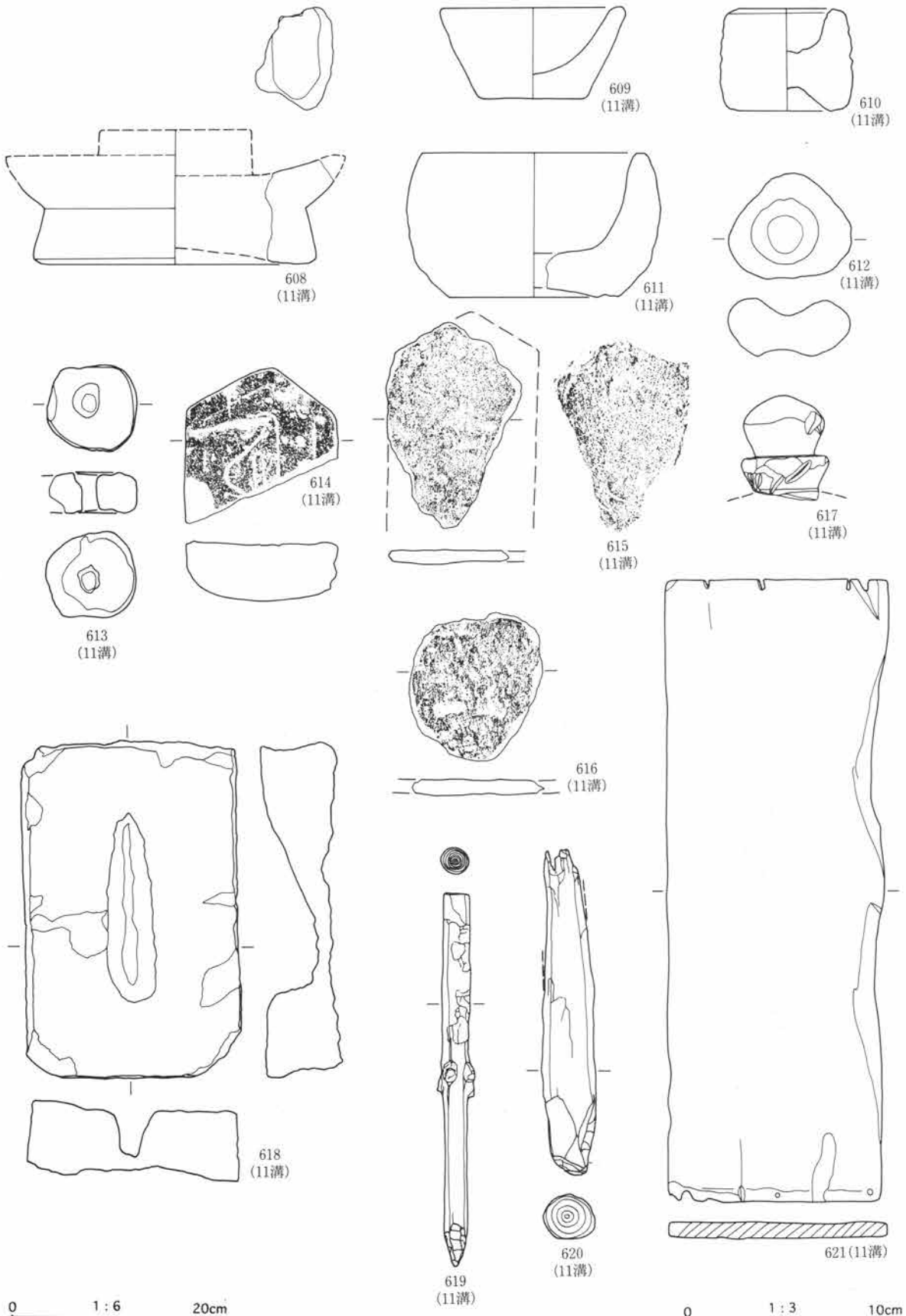
第226図 溝跡出土遺物



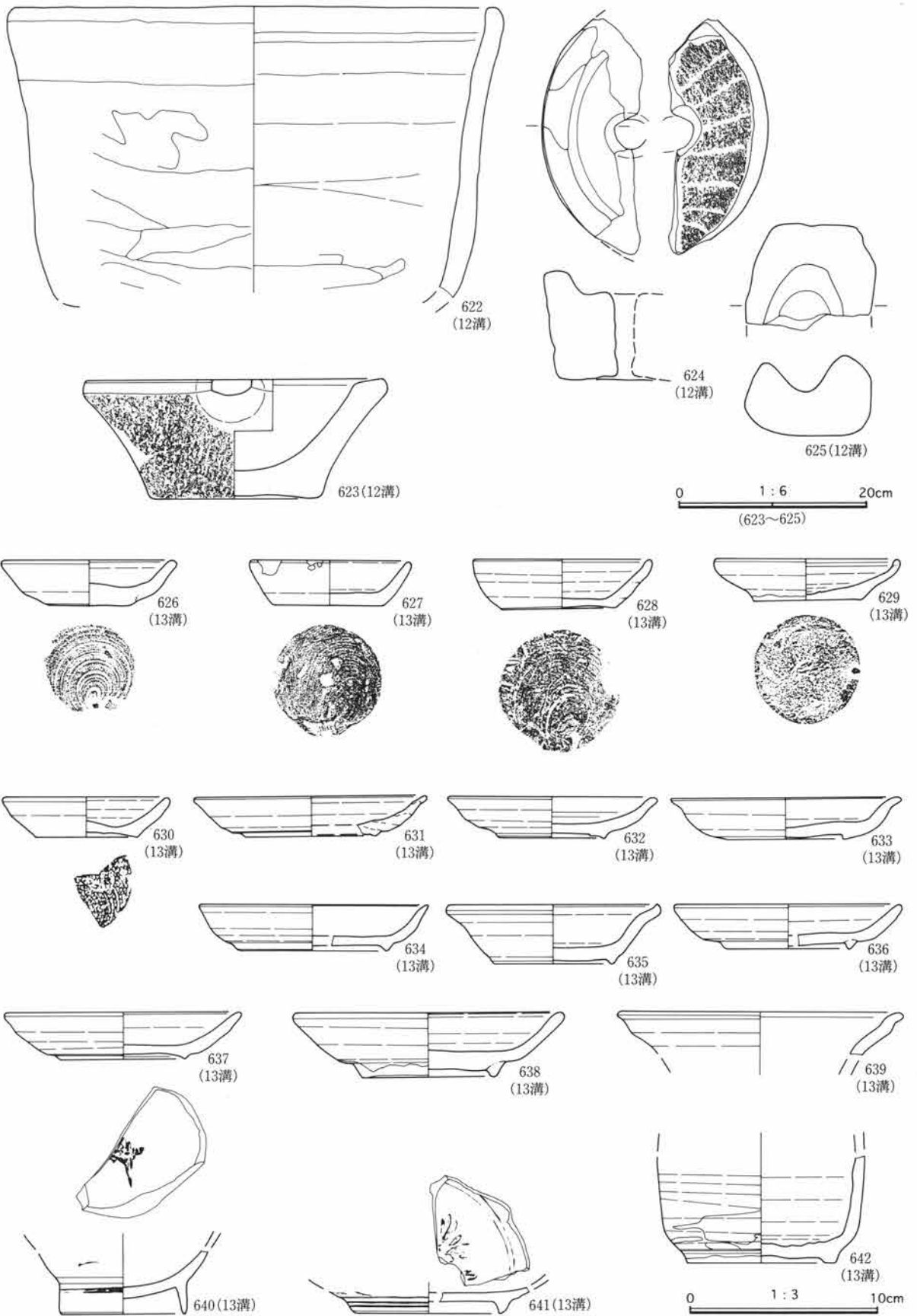
第227図 溝跡出土遺物



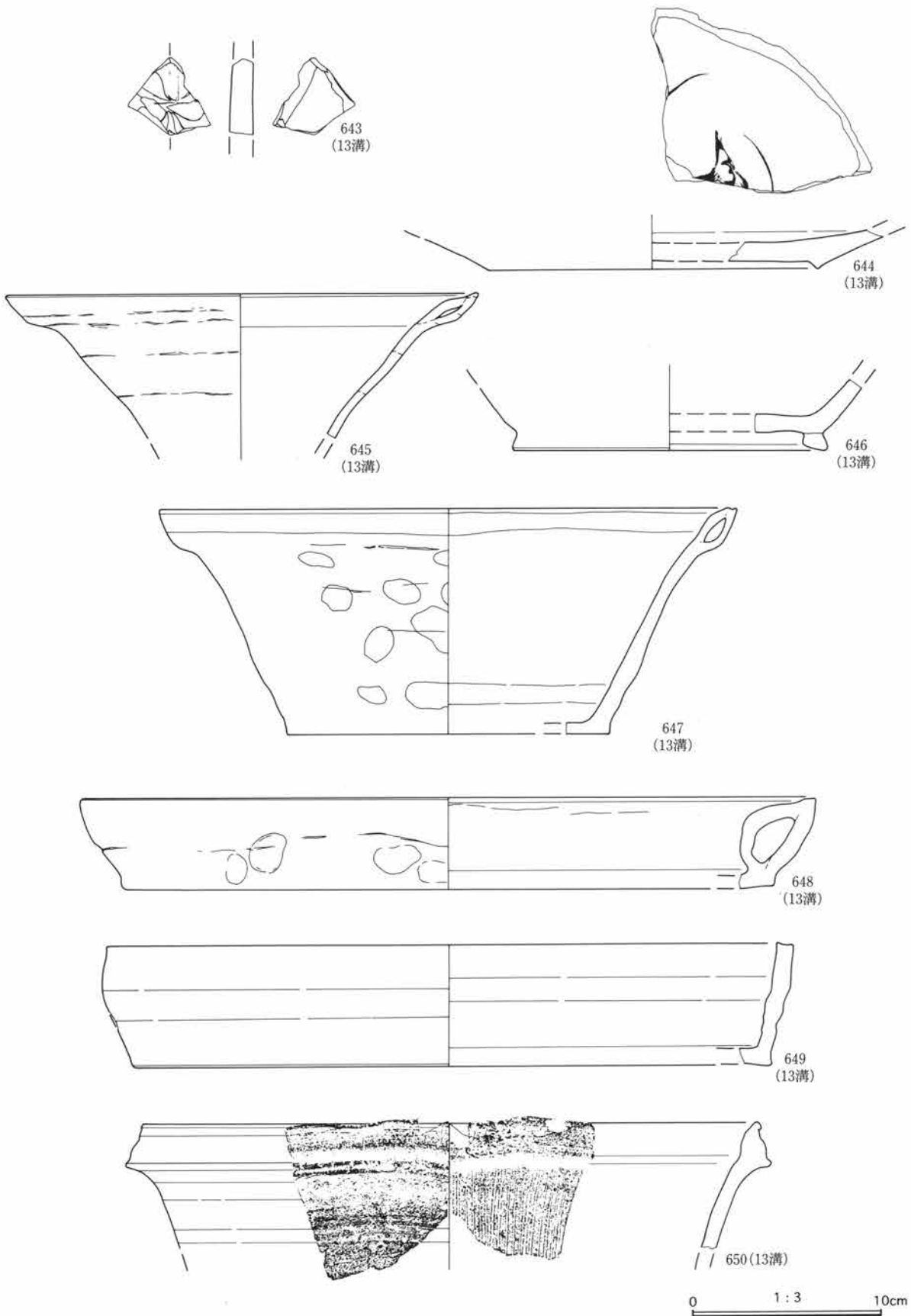
第228図 溝跡出土遺物



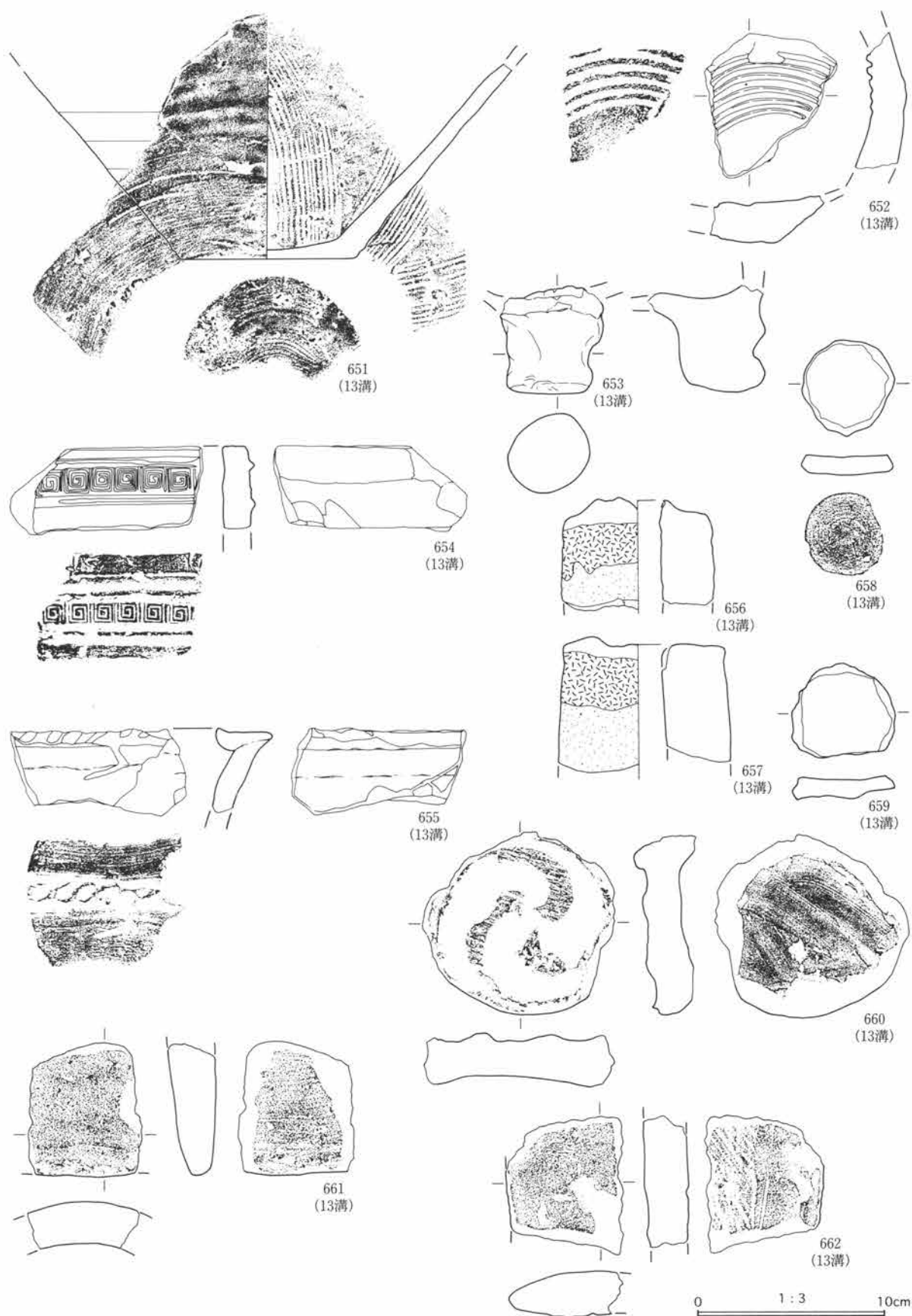
第229図 溝跡出土遺物



第230図 溝跡出土遺物

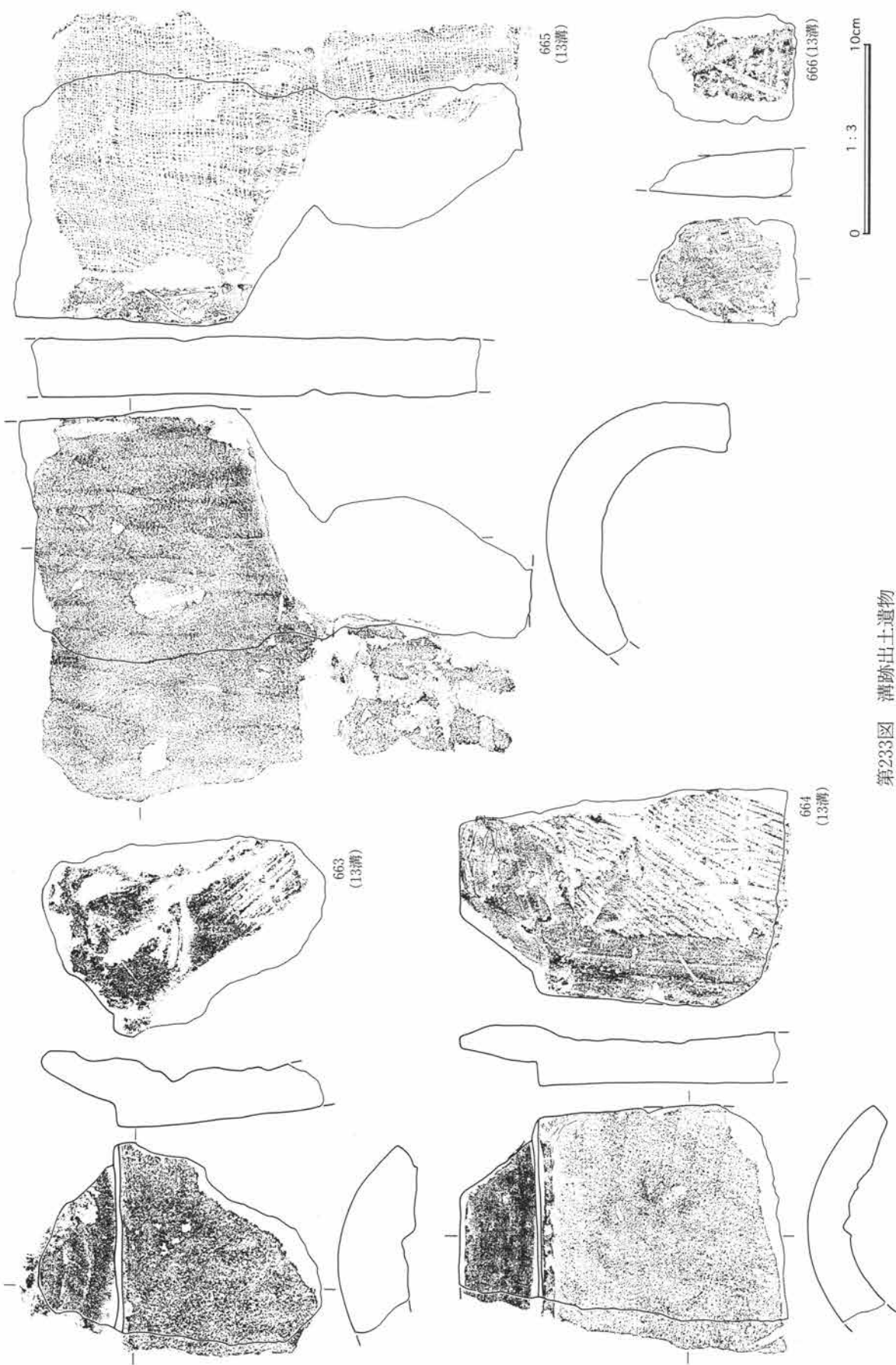


第231図 溝跡出土遺物

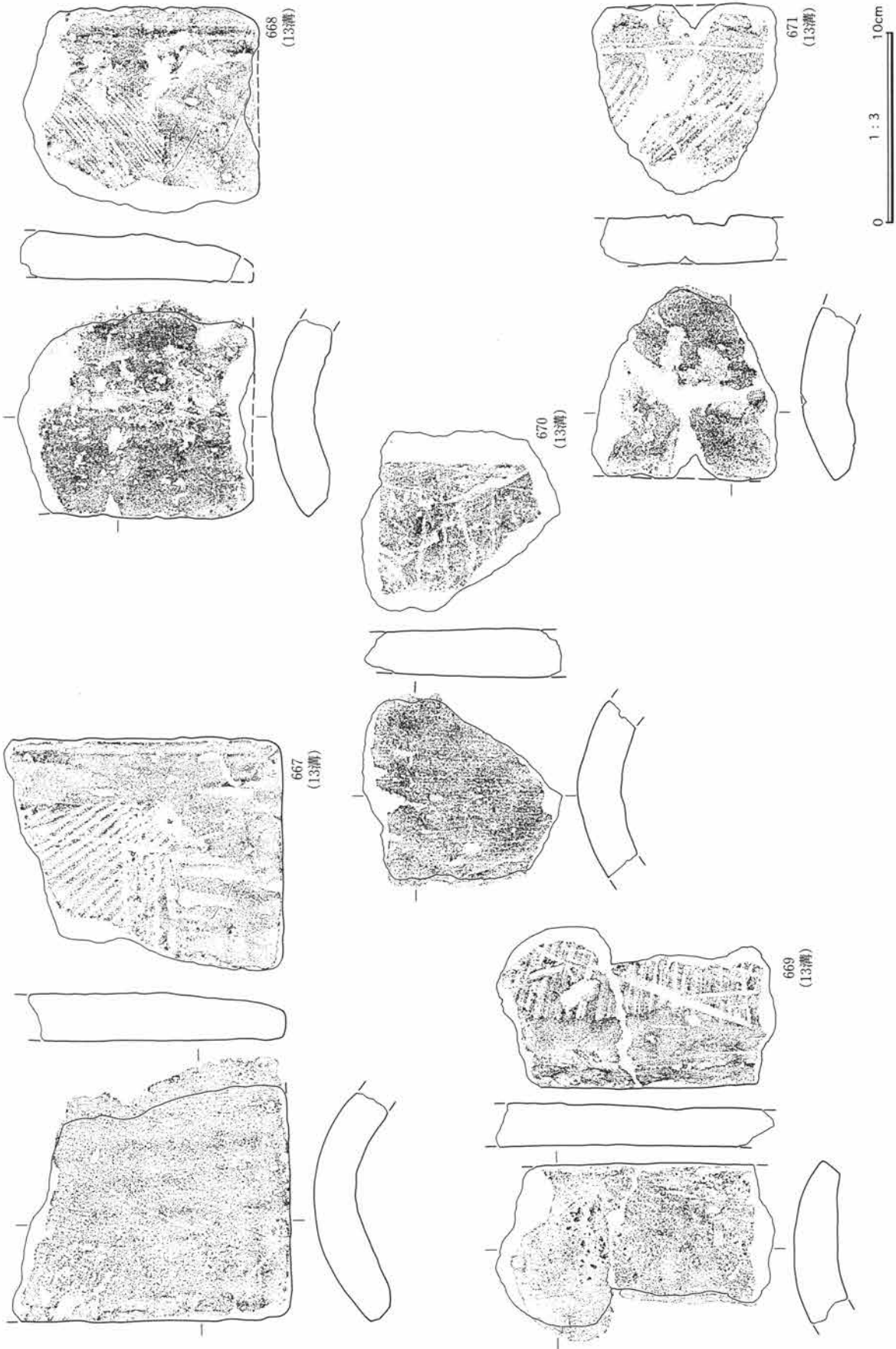


第232図 溝跡出土遺物

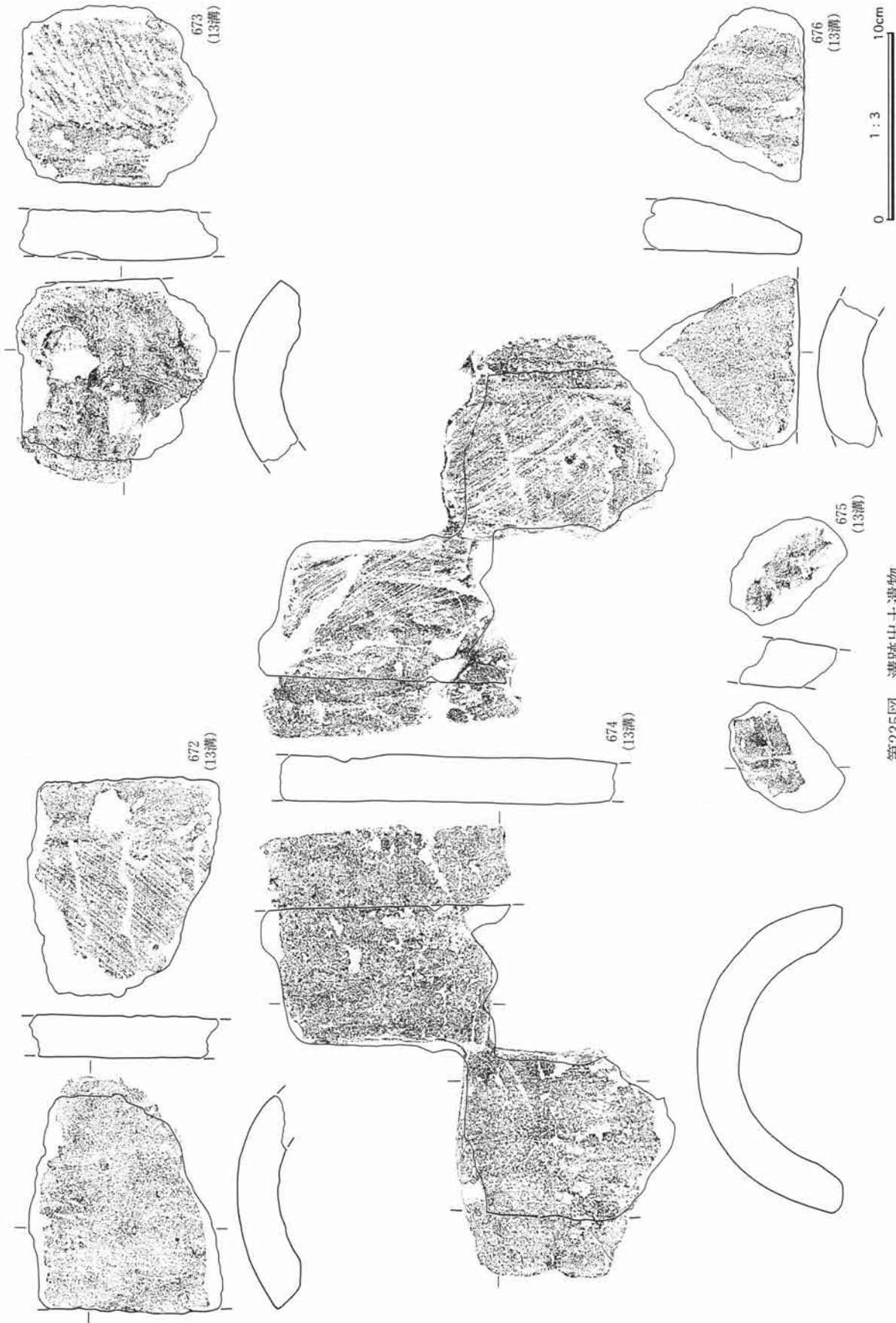




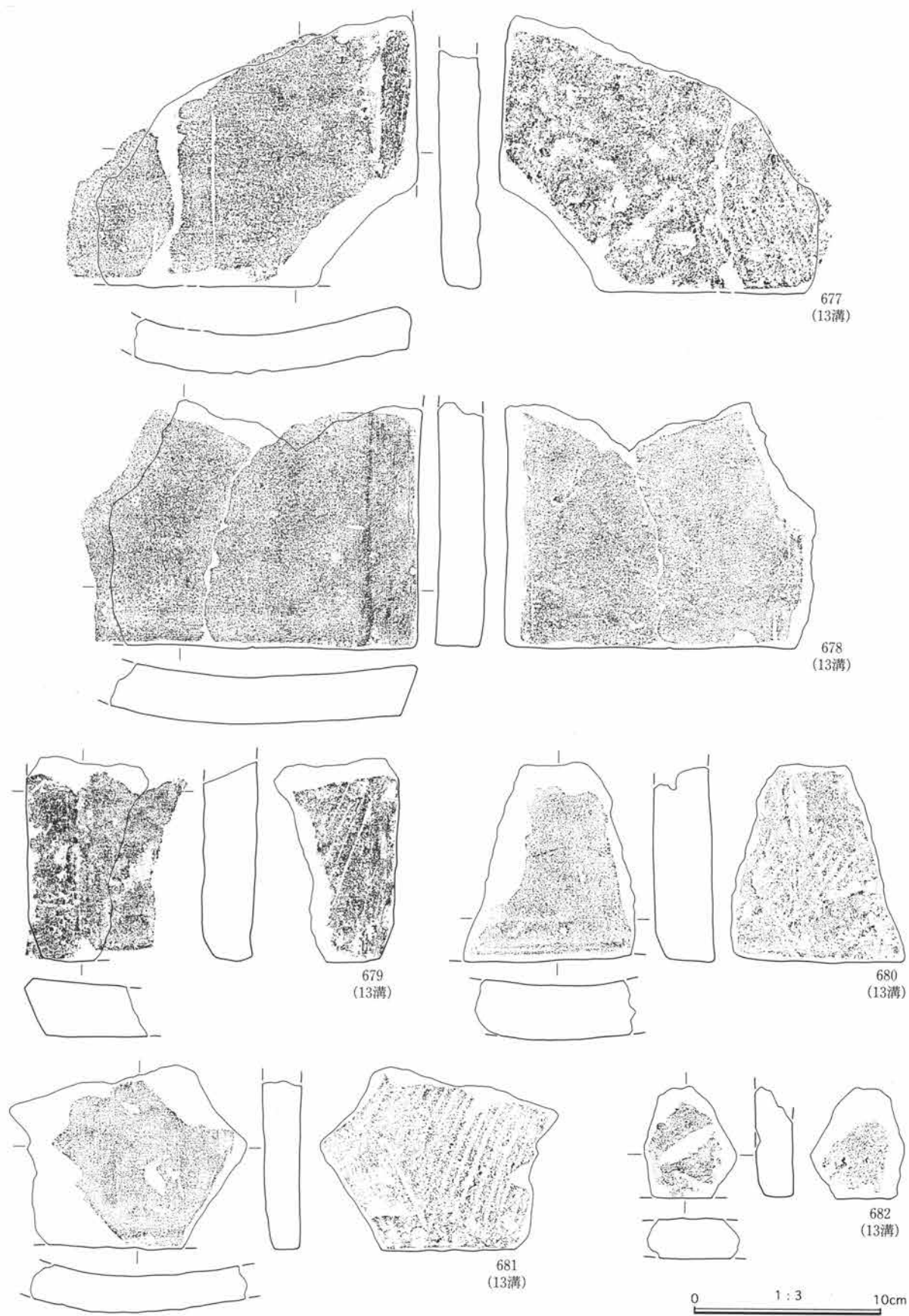
第233図 溝跡出土遺物



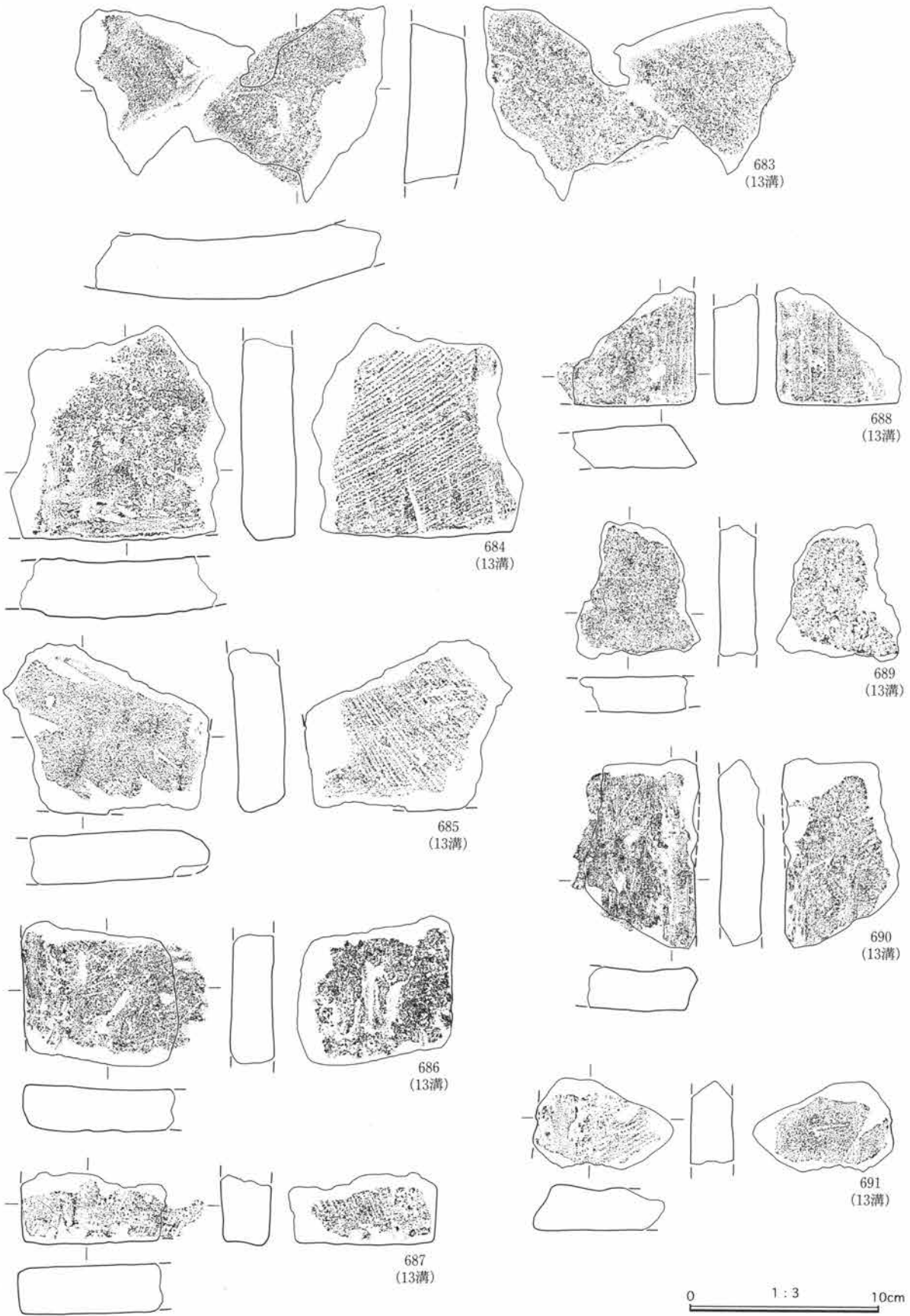
第234図 溝跡出土遺物



第235図 溝跡出土遺物



第236図 溝跡出土遺物

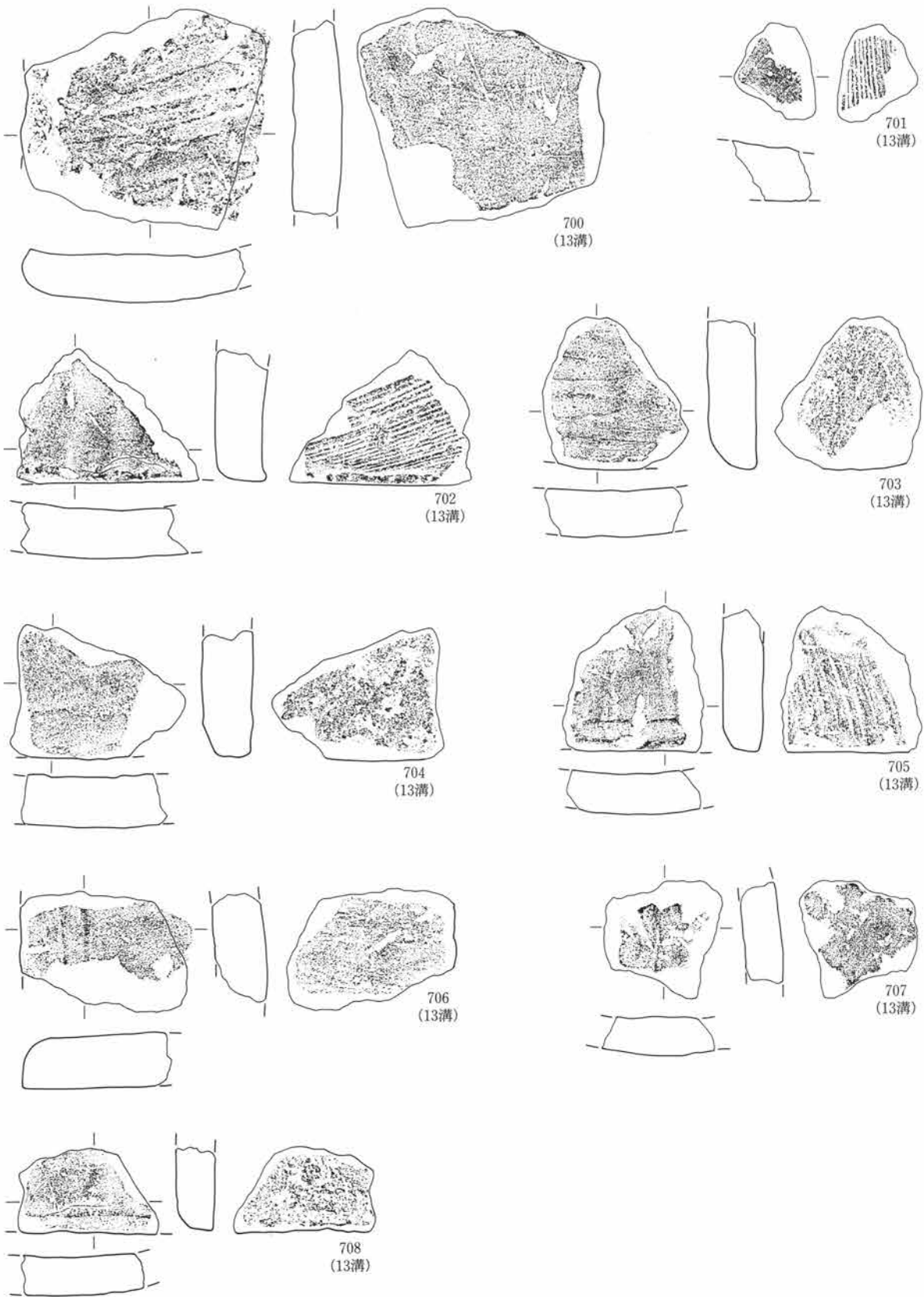


第237図 溝跡出土遺物



第238図 溝跡出土遺物





第239図 溝跡出土遺物

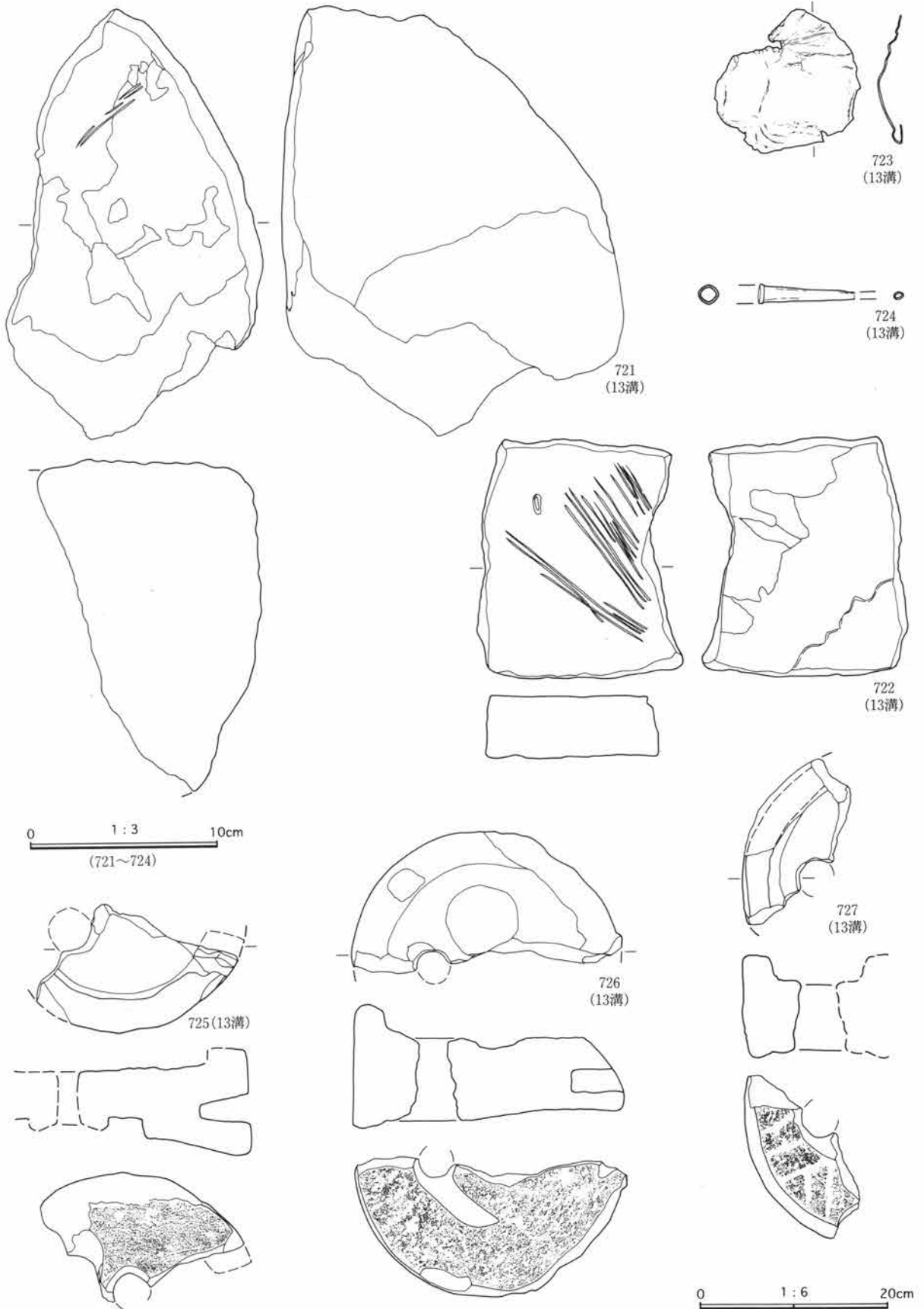




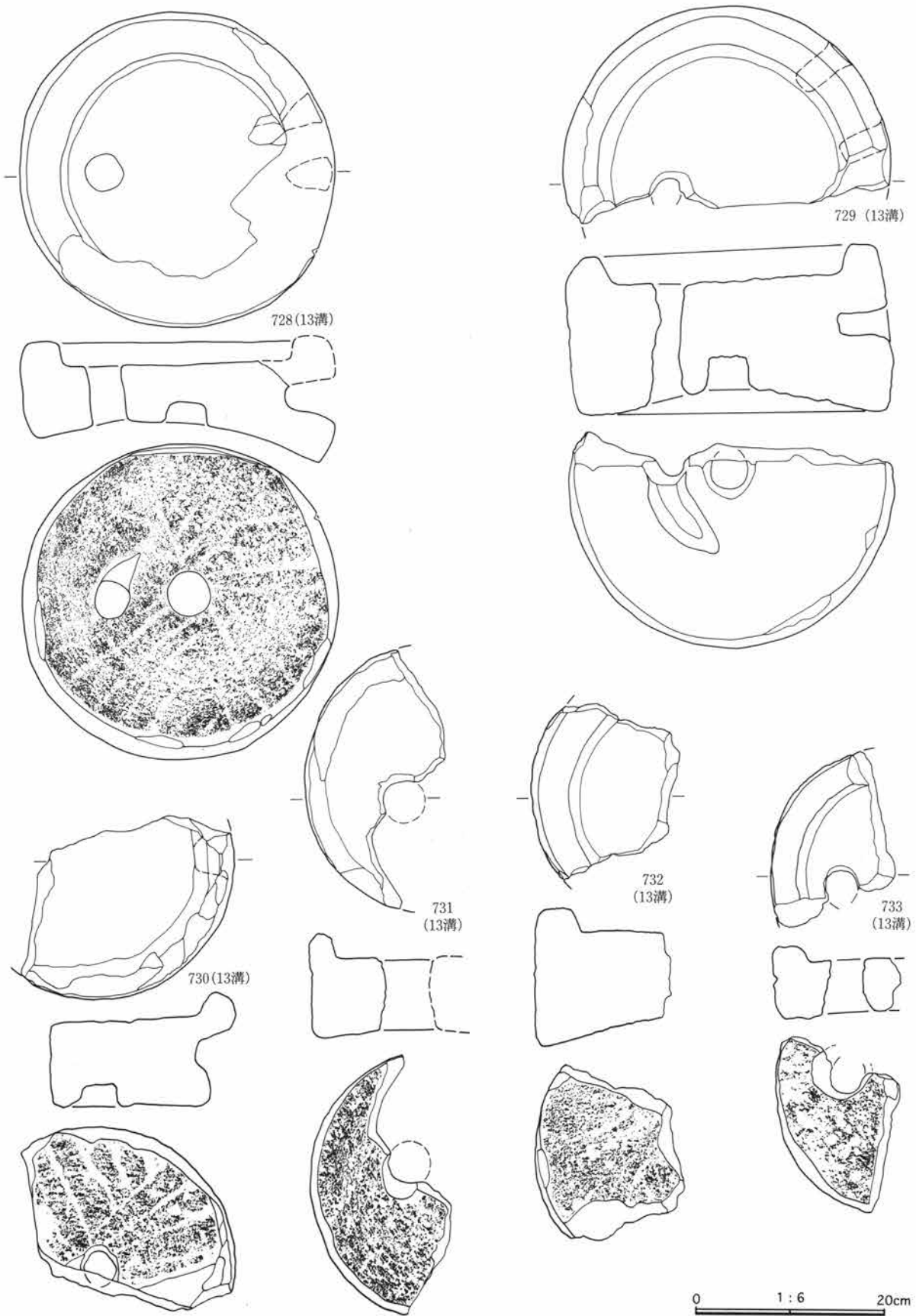
第240図 溝跡出土遺物



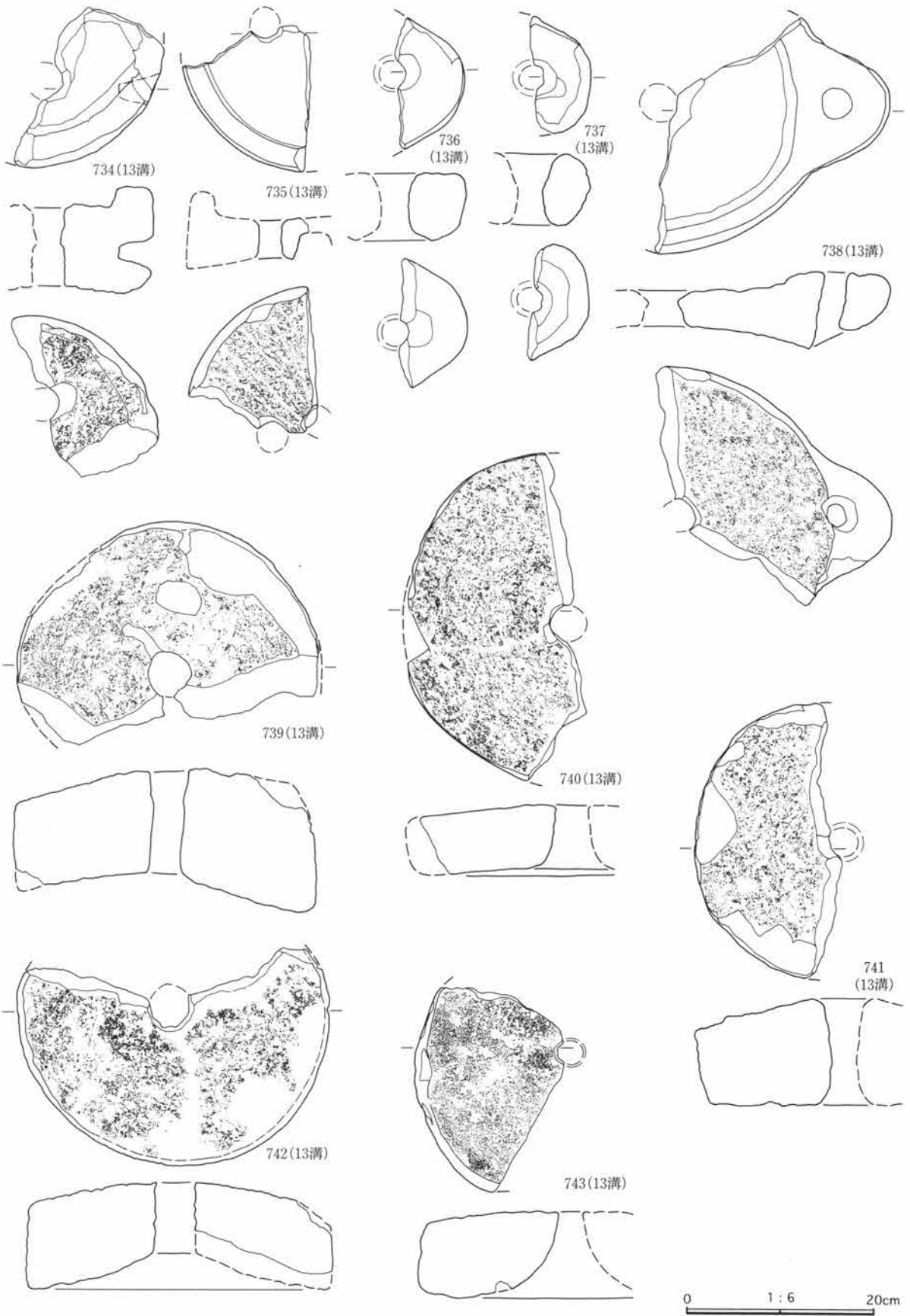
第241図 溝跡出土遺物



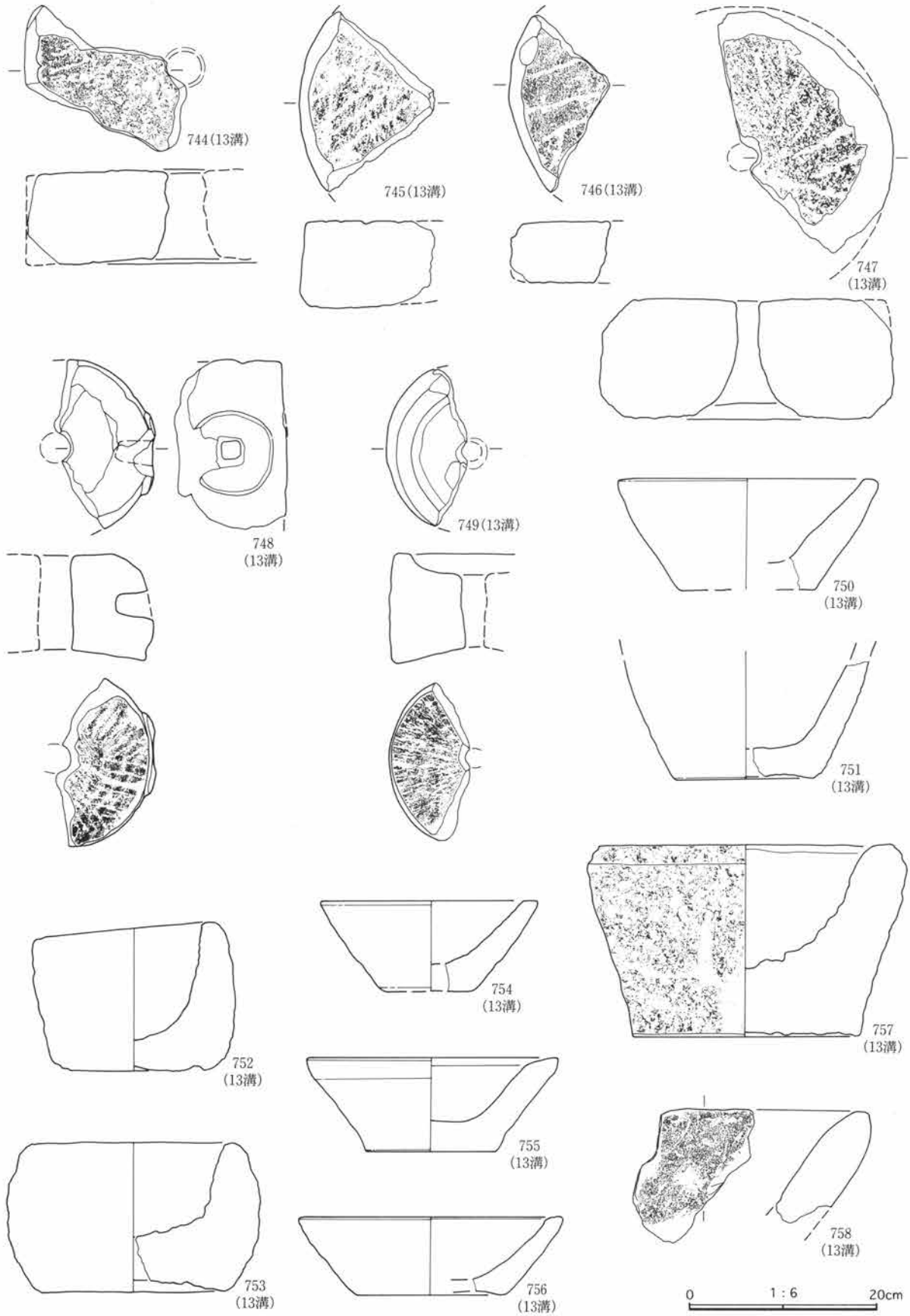
第242図 溝跡出土遺物



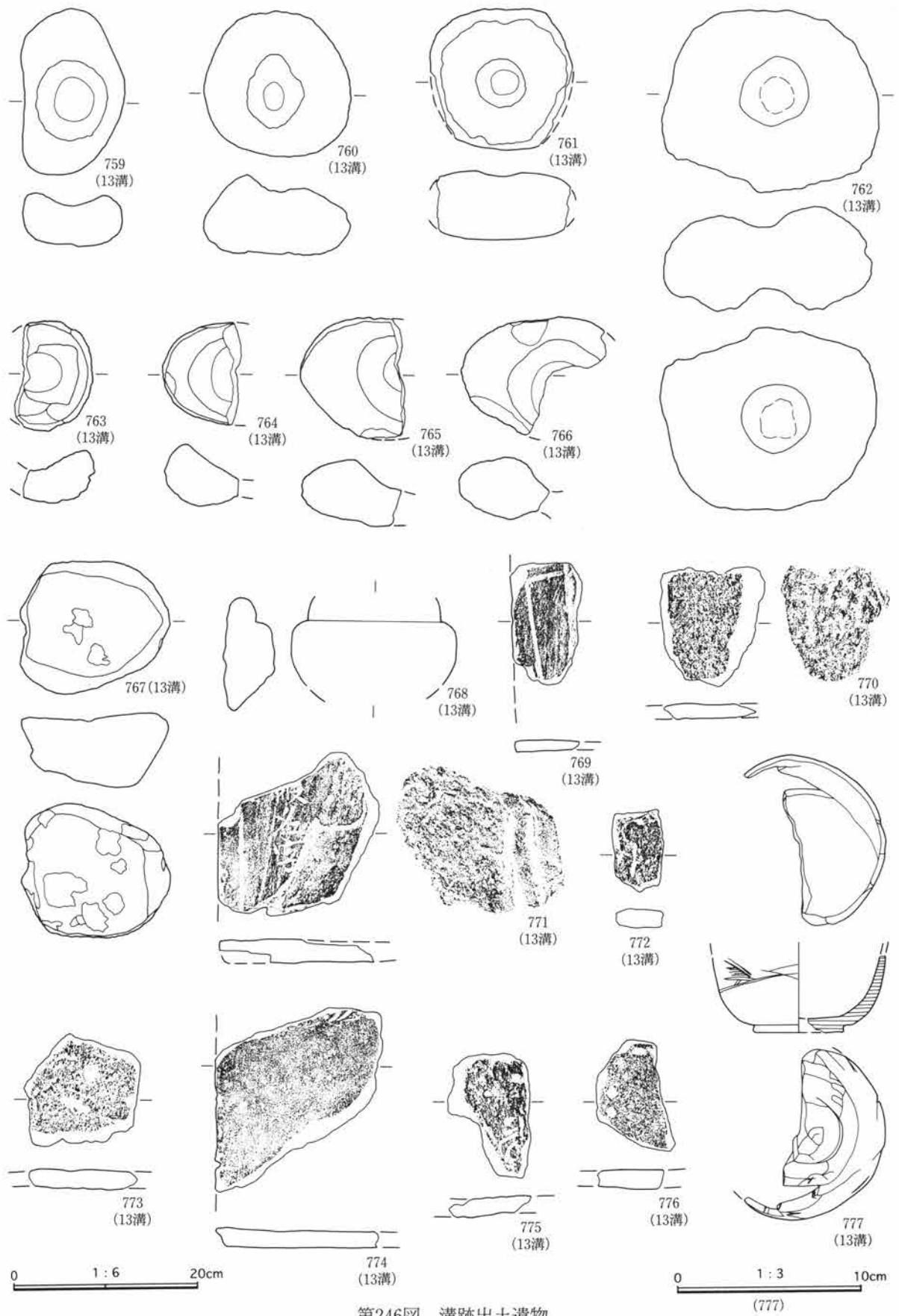
第243図 溝跡出土遺物



第244図 溝跡出土遺物

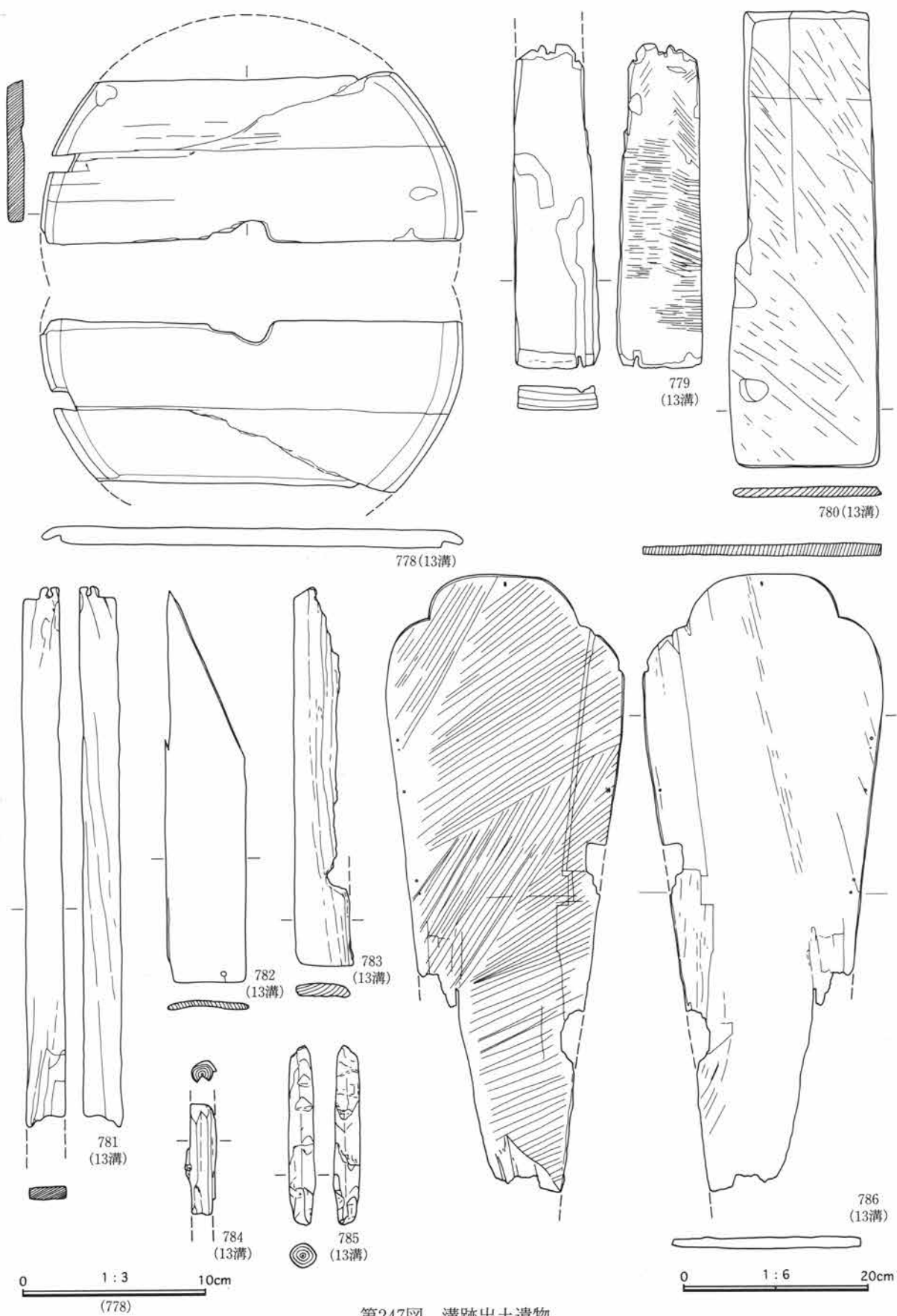


第245図 溝跡出土遺物

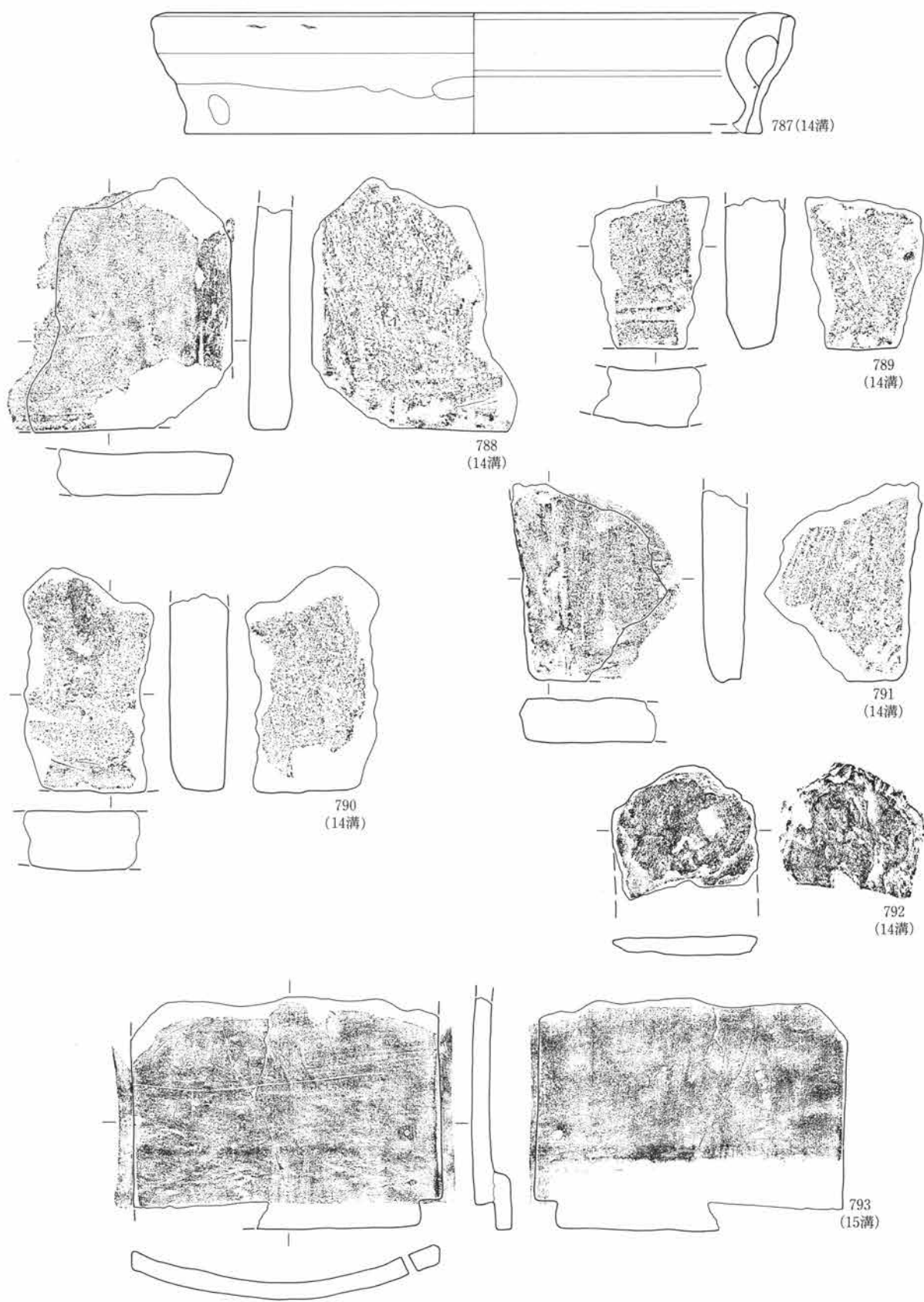


第246図 溝跡出土遺物





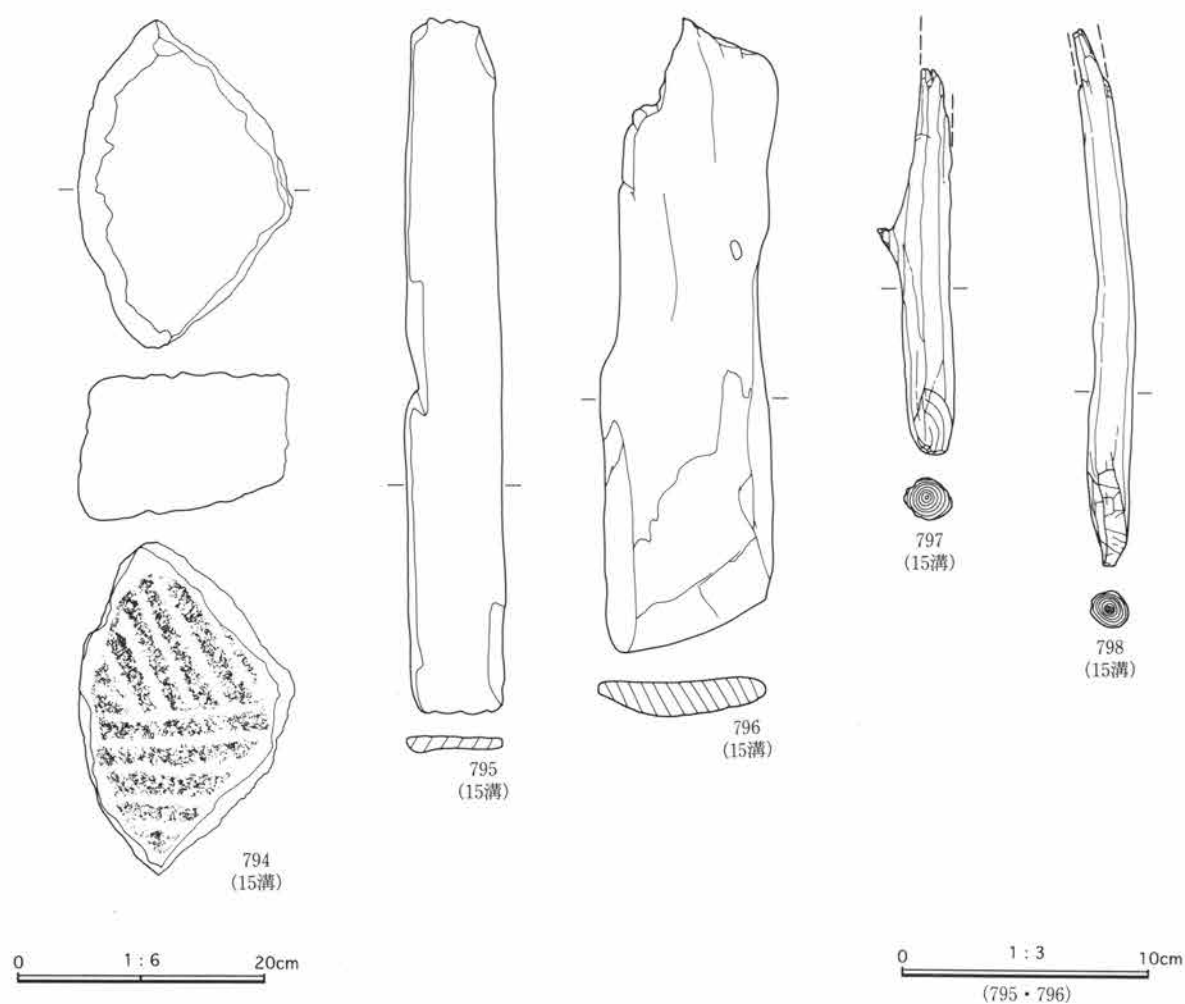
第247図 溝跡出土遺物



0 1:3 10cm  
(787~791)

0 1:6 20cm

第248図 溝跡出土遺物



第249図 溝跡出土遺物

溝出土遺物観察表  
1号溝

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
173-1 — No1116	陶器 碗	1号溝 体部～底部 破片	口径 — 底径 5.0 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：淡黄色	高台端部は施釉せず。釉に貫入有。	
173-2 — No1114	陶器 碗	1号溝 体部～底部 破片	口径 — 底径 8.0 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：にぶい橙～黒褐	内面に左回転の水引き痕を強く残す。内面及び外面下方～底部には薄く、外面口縁～体部中位下には厚く施釉する。	
173-3 — No1117	磁器 染付鉢	1号溝 口縁部破片	口径 22.0 底径 — 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：明緑灰、青色	口縁部を折る。器肉薄い。	
173-4 — No1377	陶器 碗	1号溝 底部破片	口径 — 高台径(7.5) 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	高台貼付後に高台内調整。外面底部及び内面底部は施釉無し。釉は植物灰釉を薄く施釉。	灰釉陶器か
173-5 — No1375	陶器 碗	1号溝 底部破片	口径 — 高台径(8.1) 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	高台貼付後に高台内調整。外面底部及び内面底部は施釉せず。釉は植物灰釉を薄く施釉。	灰釉陶器か
173-6 — No1378	陶器 碗	1号溝 底部破片	口径 — 高台径(10.2) 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	高台貼付後に高台内調整。外面底部及び内面底部は施釉せず。釉は植物灰釉を薄く施釉。	灰釉陶器か

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
173-7 115 No1461	陶器 片口鉢	1号溝 口縁～底部 %弱	口径 16.8 高台径 12.0 器高 8.7	胎:細砂粒 焼:還元焰、施釉 色:オリーブ灰	口縁部は厚く膨らみをもち、外面口縁部下体部に穿孔し注口を貼り付ける。外面底部以外全面に施釉。内面底部に8ヶ所トチン痕が残る。	明治期
173-8 — No1110	軟質陶器 片口鉢	1号溝 口縁(片口 部)破片	口径(25.0) 底径 — 器高 —	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色	口縁部端部は平坦で、浅くかえしあり。	
173-9 — No1425	陶器 播鉢	1号溝 口縁部破片	口径(33.0) 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:還元焰、施釉 色:暗赤褐、暗緑灰	口縁部は外側に三角形を呈し折り返し、二条の線を刻む。内面口縁下体部に縦方向の1～3mm間隔の目を刻む。	
173-10 — No1111	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	1号溝 口縁～底部 下端破片	口径 37.0 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい黄橙色	口縁部はやや凹みを有し、外端は明瞭な稜を、内端は丸味をおびる。内面体部に耳部の一部が残る。	
173-11 — No1112	軟質陶器 火鉢 (丸火鉢)	1号溝 口縁部破片		胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰～にぶい褐色	口縁部は平坦で、内側にかえしをもつ。体部はやや内湾し、口縁部外面に円形の浮文が連続し、上下に凹線と隆帯を巡らす。	3号溝 No1131と同 一団体か
173-12 115 No1578	羽口	1号溝	口径 2.2	焼物	図側面上から硅化部、次に還元部、その次に酸化部となる。	
173-13 115 No0895	有孔土製円 盤(未製品)	1号溝 完形	長さ 6.9 幅 7.6 厚さ 1.3	胎:粗砂粒(含黒鉱) 焼:酸化焰 色:にぶい黄橙色	軟質陶器又は須恵器碗の底部を転用。周囲を粗く打ち欠き、研磨せず。中央部に両面より穿孔途中で中止。両面よりの孔中心は不合。	
173-14 115 No0879	土製 土錘	1号溝	長さ 3.8 最大径 1.1	焼物	細い土錘で、質は土師器質。	
173-15 115 No4053	古銭 寛永通宝	1号溝 完形	最大径 2.46 厚さ 0.12	銅製	若干の腐食がみられるものの遺存状態は良好。	2.98 g
173-16 115 No4054	銅製か 雁首	1号溝	残存長 4.5	銅主材か	皿部を欠く。溝作で古様である。	5.98 g
174-17 — No0938	棧瓦	1号溝			瓦一覧表(1)参照	
174-18 — No0937	棧瓦	1号溝			瓦一覧表(1)参照	
174-19 — No0980	棧瓦	1号溝			瓦一覧表(1)参照	
174-20 — No0979	棧瓦	1号溝			瓦一覧表(1)参照	
174-21 — No0981	棧瓦	1号溝			瓦一覧表(1)参照	
174-22 115 No2146	砥石	1号溝	長 (7.2) 幅 3.2 厚 2.8	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部使用。中砥級。	77 g 4面使用
174-23 115 No2327	砥石	1号溝	長 (7.7) 幅 (3.9) 厚 4.5	砥沢石	表・裏使用、側部削り。小口、旧欠、削り。被熱あり。中砥級。	179 g 2面使用
174-24 115 No2810	砥石	1号溝	長 (5.1) 幅 (4.2) 厚 1.6	砥沢石	被熱割れ。表・裏、側部2面以上使用。中砥級。手持砥。	39 g 2 + α 面
174-25 115 No2157	砥石	1号溝	長 (9.9) 幅 3.7 厚 2.8	砥沢石	表・裏、側部3面使用。小口尖形。中砥級。刃付砥。	120 g 3面使用
174-26 115 No2252	砥石	1号溝	長 (11.7) 幅 4.3 厚 2.2	珪質頁岩	側部削面。表・裏2面使用。硬質。合せ砥級。	131 g 2面使用

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
174-27 115 No2251	砥石	1号溝	長 (4.9) 幅 (5.9) 厚 2.2	流紋岩	1面使用。側部1面削り。他は節理か川原石面・原石面を残す。中砥級。	71g 1面使用
175-28 115 No2326	砥石	1号溝	長 (15.8) 幅 9.4 厚 7.6	粗粒安山岩	片側小口、旧欠。置砥、多角柱形。荒砥級。	956g 6~7面 使用
175-29 115 No2321	石製品 凹石	3号溝 完形	長さ 17.2 幅 13.4 厚さ 8.9	粗粒安山岩	自然石の一面に径6×7cm程のやや楕円形を呈する皿状の凹みを有する。	2.0kg
175-30 115 No2328	石製品 五輪塔 空風輪?	3号溝 破片	最大径 — 高さ —	流紋岩質凝灰岩	空風輪側面に剥離片か。中程のくびれ部は上方が斜めに、下方が水平に切り込まれる。表面は荒れ、整形は不明。	2.4kg
175-31 115 No2686	石製品 板碑	3号溝 上部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 2.7	緑色片岩	碑面の磨減少、裏面剥落。深い葉研彫り阿弥陀種子及び蓮座の一部が残る。蓮座は蓮突の細かい装飾有り。	80g,3号溝 No2698と 同一

3号溝

175-32 115 No1118	かわらけ	3号溝 完形	口径 7.6 底径 4.2 器高 2.0	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切りなれど糸の条痕見えず。ロクロ左回転。口縁端部に煤(油煙)の痕が残る。灯明皿として利用か。	
175-33 115 No1123	かわらけ	3号溝 口縁~底部 3/5	口径 7.5 底径 4.3 器高 1.8	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。口縁端部の数ヶ所に煤(油煙)付着。灯明皿として利用か。	
175-34 — No1124	かわらけ	3号溝 口縁~底部 1/2	口径 7.3 底径 4.5 器高 1.5	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。口縁端部の数ヶ所に煤(油煙)付着。灯明皿として利用か。	
175-35 115 No1120	かわらけ	3号溝 略完形	口径 6.7 底径 4.8 器高 1.7	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。やや器肉厚い。	
175-36 115 No1121	かわらけ	3号溝 口縁~底部 3/4	口径 7.7 底径 4.5 器高 2.0	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。器形が楕円形にやや歪む。	
175-37 115 No1125	土製品 手捏ね かわらけ	3号溝 3/4強	口径 7.2 器高 1.8	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	厚さ6~10mmの粘土板の中央を凹め、皿状を呈す。平面形状は五角形を呈す。全体に撫でを施し、指頭圧痕は残さない。	
175-38 115 No1119	かわらけ	3号溝 口縁~底部 1/2	口径 8.4 底径 5.8 器高 1.9	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明赤褐色	粗雑なロクロ成形。底部回転糸切り後、軽くヘラ削り。ロクロ左回転。内面底部に水引き痕残る。	
175-39 115 No1122	かわらけ	3号溝 口縁~底部 1/2	口径 11.5 底径 6.9 器高 2.6	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。内面底部に水引き痕を残す。丁寧な成・整形。	
175-40 — No1167	陶器 小皿	3号溝 口縁~底部 1/4	口径(12.2) 底径(7.6) 器高 2.0	胎:細砂粒 焼:還元焰、施釉 色:灰(ねずみ)色	釉は薄目で、底部まで施釉。所々貫入する。	近世
175-41 115 No1369	青磁 碗	3号溝 体部小破片		胎:微砂粒 焼:還元焰、施釉 色:オリーブ灰	高台端部は施釉せず。下地釉に貫入する。	中国 龍泉窯系 13c
175-42 — No1169	陶器 染付碗	3号溝 体部~底部 破片	口径 — 高台径 5.0 器高 —	胎:微砂粒 焼:還元焰、施釉 色:明オリーブ灰	外面にロクロ目あり。高台高い。	近世
175-43 — No1172	陶器 碗 (天目碗)	3号溝 底部~体部 破片	口径 — 高台径 4.3 器高 —	胎:細砂粒 焼:還元焰、施釉 色:暗赤褐~黒色	底部外面~高台部にも鉄釉がかかる。	
175-44 — No1164	青磁 皿	3号溝 底部破片	口径 — 高台径 5.5 器高 —	胎:細砂粒 焼:還元焰、施釉 色:明緑灰~青色	高台端部にも施釉。全体に粗い貫入する。	中国
175-45 — No1381	灰釉陶器 碗	3号溝	口径 — 高台径 7.8 器高 —		古代の灰釉陶器片か。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
175-46 — No1170	陶器 碗	3号溝 底部破片	口径 — 高台径 6.0 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰オリーブ色	生地は橙色。高台内面は施釉せず。内面底面に花の絵柄有。	
175-47 — No1173	陶器 碗 (天目碗)	3号溝 体部～底部 破片	口径 — 高台径 4.8 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：黒～赤褐色、白色	外面体部下方～底部は施釉せず。体部下半の外面にロクロ目あり。	近世
175-48 115 No1163	青磁 碗	3号溝 底部破片	口径 — 高台径 4.4 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：明緑灰色	高台径が小さい特徴あり。	中国
176-49 — No1171	陶器 碗 (天目碗)	3号溝 口縁～底部 1/4強	口径 10.9 高台径 4.0 器高 6.4	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：暗赤褐色、白色	口縁部は屈曲して開く。外面体部下方～底部は施釉せず。	近世
176-50 — No1130	軟質陶器 鉢	3号溝 体部～底部 破片	口径 19.5 底径 9.7 器高 3.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～暗褐	ロクロ成形。底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
176-51 — No1373	陶器 碗	3号溝 体部～底部 1/2	口径 — 高台径 7.8 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	ロクロ成形、底部回転糸切り後高台貼付、糸切りは右回転、体部成形は左回転か。内外面口縁～体部中位に植物灰釉を施釉。	
176-52 — No1168	陶器 大皿	3号溝 口縁～底部 1/4弱	口径(22.2) 高台径(12.0) 器高 4.9	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：浅オリーブ黄色	口縁端、浅く外傾。体部外面にロクロ目かヘラ削り目。	近世
176-53 — No1156	土師器 甕	3号溝 口縁部片	口径 27.8	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：にぶい橙	体部外面ヘラ削り。内面整形痕あり。	
176-54 — No1368	陶器 瓶子	3号溝	口径 — 底径(11.4) 器高 —	胎：微・細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：明オリーブ灰	内面に整形痕。割れ口に粘土走行が見られる。	近世
176-55 115 No1165	陶器か 鉢	3号溝 口縁～体部	口径(30.8)		内外面にロクロ目かヘラ削り目が見える。	
176-56 115 No1157	焼締陶器か 甕	3号溝 口縁部片	口径(47.6)		体部内面側に指圧痕あり。口縁部～頸部に回転撫痕あり。	知多窯か
176-57 — No1162	焼締陶器か 甕	3号溝 体部片			体部内外面に整形痕あり。	知多窯か
176-58 — No1161	焼締陶器か 甕	3号溝 体部片			体部内外面に整形痕あり。	知多窯か
177-59 — No1158	焼締陶器 大甕	3号溝 口縁部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰赤、オリーブ	口縁部を返す。内面に回転糸痕あり。	中世 知多窯か
177-60 — No1160	焼締陶器 甕	3号溝 体部片			小形甕片で、内・外面に整形痕。	知多窯か
177-61 — No1432	焼締陶器 擂鉢	3号溝 口縁～体部 破片	口径(41.0) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：浅黄橙～赤褐色	4号溝出土No1431と接合。内面に卸目あり、外面にロクロ目。	
177-62 — No1127	軟質陶器 擂鉢	3号溝 体部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：褐灰色	内面下部に縦方向の浅くゆるやかな弧を描く4条の目が3ヶ所残る。内面は磨耗が認められる。	
177-63 — No1128	軟質陶器 擂鉢	3号溝 体部小破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：黒褐色	体部内面に数条のゆるやかな弧を描く目が刻まれる。	
177-64 — No1126	軟質陶器 擂鉢	3号溝 体部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：黒褐色	内面に6条の太目の刻みが弧を描き交差する。内面の磨滅はあまり認められない。	在地産
177-65 115 No1129	軟質陶器 片口鉢 (擂鉢)	3号溝 口縁～体部 破片		胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～黒褐	口縁端部は凹みを有し、内側にかえしをもつ。片口部下内面に8×10条の格子の刻みを有する。	



第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
177-66 115 No1136	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝 口縁～底部 1/5弱	口径 — 底径(25.5) 器高 —	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:暗褐～黒褐色	内外面共に丁寧な撫でによる調整。耳部残らず。外面体部に煤・炭化物付着。体部内面に径2mm程の穿孔の痕跡有り。補修を行おうとしたものか。	
178-67 115 No1135	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝 口縁～体部 破片	口径(32.9) 底径 — 器高 —	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:橙色～黒褐色	全体に比較的丁寧な成・整形。口縁端部は平坦で明瞭な稜を有する。耳部1ヶ所残り、細く円筒形を呈し、耳部の位置する外面は張り出す。外面体部に煤付着。	
178-68 — No1141	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝 口縁～体部 破片	口径 30.0 底径(23.5) 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙～黒褐	口縁部は丸味をおび、大きく外反する。耳部1ヶ所残り、細く円筒状を呈す。耳部の位置する外面体部はやや張り出す。	
178-69 116 No1137	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝 口縁～体部 破片	口径(32.1) 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:褐灰～黒褐色	口縁端部は平坦で明瞭な稜をもち、やや歪む。耳部1ヶ所残り、極めて細く円筒状を呈する。耳部位置の外面はやや張り出す。体部外面に少量の煤付着。	
178-70 — No1140	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝 口縁部破片	口径(31.8) 底径 — 器高 —	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色	全体に丁寧な成・整形。口縁端部は平坦で明瞭な稜を有する。耳部1ヶ所残り、細い円筒状を呈する。	
178-71 — No1148	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝 口縁部破片	口径(30.0) 底径 — 器高 —	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色	全体に丁寧な成・整形。口縁端部は平坦で明瞭な稜を有する。耳部残らず。	
178-72 — No1147	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝下層 口縁～体部 破片	口径(35.8) 底径 — 器高 —	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色	口縁端部は平坦で稜をもつ。外面体部中位以下に斜方向の直線的なヘラ削りを施す。	
178-73 — No1155	軟質陶器 内耳鍋	3号溝 体部～底部 破片	口径 — 底径 27.5 器高 —		浅い鍋形で器肉薄い。内面に回転の凹凸あり。	
179-74 — No1151	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝 体部～底部 破片	口径 — 底部(23.6) 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙～明褐	体部下方はあまり開かず、直立気味に立ち上がる。	
179-75 — No1648	軟質陶器 内耳鍋? (深鍋)	3号溝 体部下端破片	口径 — 底径(22.2) 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙～暗褐色	外面体部下方～底部に丁寧な横～斜方向の撫で、内面にヘラ撫でを施す。	
179-76 — No1150	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝 体部破片		胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰色	体部中位より屈曲し外反する。	
179-77 116 No1138	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	3号溝 口縁～底部 破片	口径(30.9) 底径(27.4) 器高 6.0	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙～黒褐色	口縁端部は平坦で明瞭な稜を有する。耳部は1ヶ所残り、細く円筒形を呈し、下方は体部に着く。外面体部口縁付近に煤付着。	
179-78 — No1144	軟質陶器 内耳鍋 (中深鍋)	3号溝 口縁～底部 破片	口径(28.0) 底径(21.8) 器高 6.5	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙～明褐	深さは浅いが、体部は中位で折れ、耳部は中位より上に着く。耳部は細く円筒形を呈する。耳部位置の外面体部は張り出し、周囲に煤、炭化物が付着する。	
179-79 — No1146	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝 口縁部破片	口径(27.0) 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:褐灰～黒褐色	口縁端部は平坦で明瞭な稜を有する。耳部1ヶ所残り、細く円筒状を呈する。耳部の位置する外面体部は張り出す。	
179-80 — No1154	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋?)	3号溝 体部～底部 破片	口径 — 底径(21.8) 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:暗褐色	体部内面に耳部下方と思われる隆起の一部が残る。	
179-81 — No1143	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	3号溝 口縁～体部 破片	口径(36.3) 底径 — 器高 —	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:浅黄橙～暗褐色	やや粗雑な成整形。耳部1ヶ所残り、細く円筒状を呈し、下方は体部に着く。外面口縁付近に煤付着。	
180-82 — No1139	軟質陶器 内耳鍋 (中深鍋)	3号溝 口縁～体部 下端破片	口径(36.0) 底径(33.0) 器高 9.3	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:褐灰～暗褐色	口縁端部は平坦で明瞭な稜を有する。耳部1ヶ所残り、細く円筒状を呈する。耳部位置の外面はやや張り出す。	
180-83 — No1145	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝 口縁部破片	口径(37.8) 底径 — 器高 —	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:暗褐色	口縁端部は平坦で明瞭な稜を有し、外側にふくらみを持つ。耳部1ヶ所残り、細く円筒形を呈し、耳部位置の外面はやや張り出す。	
180-84 — No1149	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	3号溝 口縁～底部 破片	口径(36.0) 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙～暗褐色	口縁部は内斜し、端部は平坦で稜をもつ。耳部は残らず。	
180-85 — No1142	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	3号溝 口縁～体部 破片	口径(43.8) 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:暗褐色	口縁部は外側にややふくらみ、端部は平坦で稜を有する。耳部は1ヶ所残り、細く円筒形を呈する。耳部の位置する外面体部は張り出す。	



第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
180-86 — No1131	軟質陶器 火鉢 (丸火鉢)	3号溝 口縁部破片	口径(41.1) 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰~暗褐色	口縁部は平坦で、内側にかえしを有する。体部はやや内湾し、口縁部外面に円形の線刻文が連続し、円部に円形突起を配する。円形文の下に細い隆帯が巡る。	1号溝 No1112と同 一器か
180-87 116 No1134	軟質陶器 火鉢 (丸火鉢)	3号溝 底部~脚部 破片	口径(30.3) 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰色	やや肉厚。外面底部外縁に突帯をもつ。脚部は両端が丸く、切り込みを有する。外面2ヶ所に二枚の花弁状の飾りを施す。	
181-88 116 No1133	軟質陶器 火鉢 (角火鉢)	3号溝 口縁~脚部 破片		胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:明褐色	比較的肉薄。脚部は角にL字状に着き、直線的な斜めの二段の切り込みを有する。脚部外面に二枚の花弁状の飾りを有する。	
181-89 — No1367	軟質陶器 香炉	3号溝 底部破片	口径 — 底径(11.0) 器高 —	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:白色	ロクロ成形、底部回転ヘラ切り、ロクロ左回転。底部外端部に粗雑な円錐形の脚部を貼り付ける。三足か。	
181-90 — No1132	軟質陶器 火鉢 (丸火鉢)	3号溝 体部破片		胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい褐色	外面体部横方向に鏝状の突帯がめぐり、上を丁寧に磨き、下に入り菱状の印文を施す。	
181-91 116 No0925	鍍瓦	3号溝			瓦一覽表(1)参照	
181-92 — No0931	玉縁付男瓦	3号溝			瓦一覽表(1)参照	
181-93 — No0939	男瓦	3号溝			瓦一覽表(1)参照	
181-94 — No0941	男瓦	3号溝			瓦一覽表(1)参照	
181-95 116 No4058	鉄製 不明	3号溝	長さ 9.8	鉄製	錆化顕著なため、形状そのものが不明。	81.72 g
181-96 116 No4057	鉄製 不明	3号溝	長さ 9.3	鉄製	錆化少ないが、種として不明。	13.99 g
181-97 116 No1174	土製品 リング状 不明土製品	3号溝 1/8	外径 25.0 内径 15.8 厚さ 5.7	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	砂質で耐火性が有るため、火鉢・コンロ等の一部かもしくは鋳造関連遺物か。数ヶ所に研磨による磨耗がみられる。	
181-98 116 No0878	土製品 土錘	3号溝	長さ 5.7		全個体からすれば太めである。	
181-99 116 No0892	土製品 土製模造品 (鏡?)	完形	長さ 3.0 幅 2.8 厚さ 1.1	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	手握ね。つまみ部分も指頭による造り出し、撫で等の調整はなし。	
181-100 116 No4055	古銭 永楽通宝	3号溝 1/8	最大径 2.41 厚さ 0.13	銅製	外径は歪み、全体に磨減(錆くずれ)が著しい。裏面の縁幅も不均質。	2.17 g
181-101 116 No4056	古銭 洪武通宝	3号溝 1/8	最大径 — 厚さ 0.19	銅製	磨減・腐食は比較的少ない。径が小さく、鋳銭か。	0.98 g
182-102 116 No0988	女瓦	3号溝			瓦一覽表(1)参照	
182-103 116 No0990	女瓦	3号溝			瓦一覽表(1)参照	
182-104 116 No0987	女瓦	3号溝			瓦一覽表(2)参照	
182-105 — No1004	女瓦	3号溝			瓦一覽表(2)参照	

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
182-106 — No1003	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
182-107 — No0995	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
182-108 — No1008	土管	3号溝	厚さ 1.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐色		
182-109 — No1005	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
182-110 — No1006	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
183-111 — No0997	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
183-112 116 No0991	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
183-113 — No0994	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
183-114 — No0996	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
183-115 — No1002	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
183-116 — No0998	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
183-117 — No0999	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
184-118 116 No0986	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
184-119 — No0989	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
184-120 — No0993	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
184-121 — No0992	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
184-122 — No1007	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
184-123 — No1000	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
184-124 — No1001	女瓦	3号溝			瓦一覧表(2)参照	
185-125 116 No2219	砥石	3号溝	長 (10.7) 幅 (1.7) 厚 1.8	珪質頁岩	表・裏2面使用。小口・側部に定形砥時の鋸挽痕あり。 二次被熱。(鳴滝か)合せ砥。	33g 2面使用

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
185-126 116 No2155	砥石	3号溝	長 (9.5) 幅 3.1 厚 3.0	砥沢石	小口尖、他方欠、側部2面削り、表・裏2面使用。片小口尖形。中砥級。刃付砥。	111g 2面使用
185-127 116 No2163	砥石	B区3号溝	長 (9.7) 幅 (2.9) 厚 2.6	砥沢石	表面使用。裏・側部3面削り。小口尖形。中砥級。刃付砥。	77g 1面使用
185-128 116 No2189	砥石	A区3号溝	長 (5.1) 幅 2.6 厚 1.0	砥沢石	表1面使用。裏・側部3面に櫛目状ナラシ条痕あり。中砥級。	18g 1面使用
185-129 116 No2194	砥石	A区3号溝	長 (6.5) 幅 3.6 厚 2.0	砥沢石	表・裏、側部4面使用。裏面に削痕残る。小口面は節理か川原石面・原石面を残す。中砥級。	58g 4面使用
185-130 116 No2178	砥石	3号溝 1.2ベルト	長 (8.8) 幅 3.1 厚 2.5	砥沢石	表・裏2面使用。側・裏の2面に削りあり。小口尖形。中砥級。刃付砥。	96g 2面使用
185-131 117 No2130	砥石	3号溝 1.2ベルト	長 (9.5) 幅 2.9 厚 1.5	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。中砥級。3面に整形の削り。	35g 1面のみ使用
185-132 117 No2159	砥石	3号溝	長 (10.0) 幅 3.1 厚 3.5	砥沢石	表面使用。裏・側部3面削り。中砥級。	129g 1面使用
185-133 117 No2405	砥石	3号溝	長 (10.6) 幅 4.2 厚 4.4	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部3面使用。片側部削り。片小口尖形。中砥級。刃付砥。	225g 3面使用
185-134 117 No2407	砥石	3号溝西周 辺	長 (5.2) 幅 3.5 厚 2.2	砥沢石	小口、旧欠。表・裏、側部4面使用。刃傷4条以上。中砥級。	58g 4面使用
185-135 117 No2211	砥石	3号溝	長 (7.2) 幅 4.6 厚 3.0	砥沢石	表・裏2面使用。片側部削痕。小口面は節理か川原石面・原石面を残す。側部に刃ならし傷。中砥級。	166g 2面使用
185-136 117 No2172	砥石	B区3号溝	長 (8.0) 幅 4.1 厚 3.0	砥沢石	表・裏3面使用。側部2面削り。小口尖形。中砥級。刃付砥。	109g 3面使用
186-137 117 No2348	砥石	3号溝	長 9.4 幅 3.5 厚 3.1	砥沢石	一部旧欠。表・裏、側部4面使用。小口尖形。中砥級。手持砥。刃付砥。	102g 4面使用
186-138 117 No2176	砥石	3号溝	長 (9.7) 幅 4.5 厚 2.8	砥沢石	表・裏、側部4面使用。小口尖形。中砥級。刃付砥。	123g 4面使用
186-139 117 No2180	砥石	3号溝	長 (8.5) 幅 3.7 厚 4.1	砥沢石	裏面は節理か川原石面・原石面を残す。表・側部3面使用。小口尖形。中砥級。刃付砥。	96g 3面使用
186-140 117 No2207	砥石	3号溝	長 (10.6) 幅 4.1 厚 4.2	砥沢石	表・裏2面主使用。両小口面は節理か川原石面・原石面を残す。側部2面に削痕微残存。中砥級。	308g 4面使用
186-141 117 No2213	砥石	3号溝	長 (10.7) 幅 6.8 厚 3.6	砥沢石	不定形。両小口・片側部は節理か川原石面・原石面を残す。片側部・表・裏使用。中砥級。	344g 3面使用
186-142 117 No2406	砥石	3号溝	長 (6.3) 幅 7.1 厚 4.2	砥沢石	小口は旧欠。小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表裏面削り。側部2面使用。被熱。	246g 2面使用
186-143 117 No2360	砥石	3号溝	長 8.7 幅 4.0 厚 3.2	砥沢石	表・裏、側部使用。片側部に旧材面あり。再用？中砥級。手持砥。	118g 3面使用
186-144 117 No2347	砥石	3号溝	長 (8.7) 幅 4.7 厚 2.6	砥沢石	一部旧欠。表・裏使用。側部は削面。小口尖形。中砥級。手持砥。刃付砥。	100g 2面使用
186-145 117 No2250	転用砥石	3号溝	長 (15.0) 幅 (4.2) 厚 5.3	凝灰質砂岩	1面のみ砥材に使用。鑄造型もしくは関連物を転用。	216g 范型転用砥 1面使用

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
186-146 117 No2253	范型・砥石	3号溝	長さ 8.1 幅 3.7 厚さ 6.9	凝灰質砂岩	表面に化粧らしき痕跡がある。	183g 范型
186-147 117 No2349	砥石	3号溝	長 (11.5) 幅 5.0 厚 4.2	砂岩		554g
187-148 117 No2337	砥石	3号溝	長 (12.4) 幅 6.7 厚 7.2	粗粒安山岩	小口、旧欠と節理か川原石面・原石を残す。置砥、多角柱状。荒砥級。手持砥。	595g 6面使用
187-149 117 No2402	砥石	3号溝	長 (8.4) 幅 4.7 厚 4.4	粗粒安山岩	小口、旧欠。多面使用。荒砥級。手持砥。	221g 4～9面使用
187-150 117 No2404	砥石	3号溝	長 (11.6) 幅 7.0 厚 6.2	粗粒安山岩	表・裏、側部4面使用。片側小口、旧欠、未使用。荒砥級。	432g 4面使用
187-151 117 No2400	砥石	3号溝	長 (13.2) 幅 11.8 厚 9.1	粗粒安山岩	小口、自然・旧欠。置砥、多角柱状。荒砥級。	1.4kg 6面使用
187-152 117 No2403	砥石	3号溝	長さ 6.3 幅 7.0 厚さ 5.6	粗粒安山岩	片側小口面は節理か川原石面・原石面を残す。片側小口使用。多面使用。荒砥級。手持砥。	139g 6面使用
187-153 117 No2346	磨石	B区3号溝	長さ(9.8) 幅(9.2) 厚さ 4.2	粗粒安山岩	欠損は旧時欠損。研磨主体不明。	487g
187-154 117 No2401	磨石 砥石	3号溝	長さ 12.7 幅 10.8 厚さ 8.8	粗粒安山岩	多面使用。傷が30ヶ所以上あり。	1.1kg
188-155 117 No2336	砥石	3号溝	長 (16.1) 幅 11.3 厚 6.8	粗粒安山岩	小口、旧欠と自然。置砥、多角柱状。荒砥級。	1.3kg 6面使用
188-156 117 No2338	磨石	3号溝	長 (10.1) 幅 (9.0) 厚 9.3	粗粒安山岩	旧欠あり。被熱?	1.2kg
188-157 118 No2353	砥石	3号溝	長 (18.0) 幅 16.6 厚 13.7	粗粒安山岩	小口は旧欠と節理か川原石面・原石面を残す。傷あり。置砥、多角柱状。荒砥級。	3.0kg 4～5面使用
188-158 117 No2339	磨石	3号溝	長さ(10.5) 幅 6.7 厚さ(6.2)	粗粒安山岩	旧欠あり。研磨主体は軟質の物。	555g 3面使用
188-159 117 No2354	砥石	3号溝	長 3.5 幅 6.0 厚 3.5	軽石	多面使用。手持砥。荒砥級。多角柱状。	71g
189-160 118 No2399	砥石	3号溝周辺	長 19.6 幅 9.7 厚 5.2	デイサイト	小口、自然。表・裏、側部4面使用。極硬。置砥。中砥(名倉)級。	1.6kg 4面使用
189-161 118 No2352	砥石	3号溝	長 (12.0) 幅 6.7 厚 7.3	二ツ岳軽石	表面使用。裏・側部、小口面は節理か川原石面・原石面を残す。荒砥級。	472g 1面使用
189-162 118 No2852	石製か 硯	3号溝	長さ(7.8) 幅 4.8 厚さ 1.1	石製か	長方形の硯で、墨溜の凹みあり。表・裏に擦痕あり。	
189-163 118 No2373	石臼 上臼	3号溝 1/4	最大径 一 高さ 一	粗粒安山岩	表面は比較的丁寧な整形だが全体に磨耗する。供給口を有し、側面に隅丸方形の挽木穴を2穴有するが、1穴は挽面の磨耗が達する。偏減りせず、目は磨滅。	2.0kg
189-164 118 No2109	石臼 上臼	3号溝 1/4	最大径 一 高さ 13.2	粗粒安山岩	上・側面は比較的丁寧な成・整形。上面縁部は剥落。下面(挽面)は石の凹みがクレーター状に残る。また、やや粗い目が残る。側面中位に方形の挽木穴有り。	4.9kg
189-165 118 No2370	石臼 上臼	3号溝 1/2	最大径 一 高さ 10.2	粗粒安山岩	表面は工具痕は残すが比較的丁寧な整形。供給口を有し、側面に方形の挽木穴を有する。挽面はあまり磨耗せず、2.5mm間隔の深い目が残る。	5.8kg

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
189-166 118 No2377	石白 上白	3号溝 破片	最大径 — 高さ 3.3	粗粒安山岩	上・側面共に丁寧な磨き整形。挽面は著しく磨耗し、中心寄りには厚さ1.2cm程しかない。挽面には目ではなく、一定方向に工具痕が走る。	1.0kg
190-167 118 No2371	石白 上白	3号溝 1/4	最大径 — 高さ 14.3	粗粒安山岩	側面及び上面は丁寧な磨き整形。挽面の磨耗は少なく、目は磨滅し残らないが、供給口排出口は良く残る。	3.6kg
190-168 118 No2374	石白 上白	3号溝 破片	最大径 — 高さ 13.2	粗粒安山岩	上面及び側面は比較的丁寧な整形。供給口の一部を有し、挽面は磨耗するが2~2.5cm間隔の目がわずかに残る。	2.6kg
190-169 118 No2383	石白 下白	3号溝 1/4	最大径 — 高さ 14.2	粗粒安山岩	側面及び底面えぐり部は丁寧な磨き整形。底面えぐり部はほぼ平坦。挽面は若干磨耗するが偏減りはない。目は3~4cmの荒い目が残る。	6.5kg
190-170 118 No2106	石白 下白	3号溝 1/4	最大径 37.3 高さ 9.2	角閃石安山岩	重い安山岩製である。穀臼であり、消耗のため目無しとなる。	9.3kg
190-171 118 No2384	石白 下白	3号溝 1/4	最大径 — 高さ 13.3	粗粒安山岩	側面は所々剥落する。整形は比較的丁寧。挽面は平坦で2.5~3cm間隔の目が残る。	6.1kg
190-172 118 No2386	石白 下白	3号溝 1/4	最大径 — 高さ 10.9	粗粒安山岩	側面及び底面えぐり部は丁寧な整形。挽面はやや磨耗するが平坦で、1~2cm間隔の目が若干残る。	2.4kg
190-173 118 No2387	石白 下白	3号溝 1/4	最大径 — 高さ 9.8	粗粒安山岩	側面及び底面えぐり部は比較的丁寧な整形。挽面は磨耗し、表面に細かな凹みが多く、荒れる。	3.0kg
190-174 118 No2385	石白 下白	3号溝 1/4	最大径 — 高さ 15.6	粗粒安山岩	側面の大半が剥落する。残存部分は丁寧な磨き整形。挽面は平坦で、2.5cm間隔の荒い目が薄く残る。	6.5kg
191-175 118 No2389	石白(茶白) 上白	3号溝 3/4	最大径 19.0 高さ 12.3	粗粒安山岩	側面は全体に剥落し、整形不明。上面は丁寧な磨き整形。側面に方形の挽木穴の一部を有す。挽面は縁を剥落し、面は偏減りせず平坦に磨耗。目は残らない。	3.3kg
191-176 118 No2391	石白(茶白) 下白	3号溝 3/4	最大径 — 高さ 13.3	粗粒安山岩	受皿部を欠損。側面は極めて丁寧な磨き整形。底面えぐり部は工具痕を残し未整形ながら均質な成形。挽面は偏減りせず平坦に磨耗。一部5~7mm間隔の目が残る	7.2kg
191-177 118 No2329	石鉢	3号溝 破片		粗粒安山岩	口縁片口部破片。器高はさほど深くなく、口径は広口。内外面共に丁寧な磨き整形。	500g
191-178 118 No2342	石製品 石鉢	3号溝 3/4	最大径 — 高さ 14.6	粗粒安山岩	外形・外面は荒く打ち欠き、部分的にノミで粗く加工する。形状は未定形。凹み部は深く、部分的にノミの加工痕を残すが、他は使用により磨耗する。	1.9kg
191-179 118 No2364	石鉢	3号溝 1/4	口径 — 底径 — 高さ 11.8	粗粒安山岩	比較的小型の石鉢。整形は内外面共に細かな工具痕を残すものの丁寧な仕上げ。内面の使用痕は明瞭には残らない。	1.4kg
191-180 118 No2365	石鉢	3号溝 1/4		粗粒安山岩	底部が肉厚で、外部も湾曲せず直立気味に立ち上がるため、器高の割に容積は少ない。内外面共に丁寧な磨き整形。	2.2kg
191-181 — No2355	凹石	3号溝 完形	長さ 24.1 幅 16.5 厚さ 11.3	榛名二ツ岳軽石	自然石の広い1面に径8×13cm程の楕円形の浅い皿状の凹みを有し、凹み内の中程はさらに径3cm程の円形に凹む。	2.0kg
191-182 119 No2333	凹石	3号溝 完形	長さ 18.0 幅 14.7 厚さ 10.2	粗粒安山岩	自然石の広い1面に径7cm程の浅いすり鉢状の凹みを有する。凹みの内面は使用による研磨痕が残る。	2.9kg
191-183 — No2356	凹石	3号溝 完形	長さ 17.2 幅 12.1 厚さ 8.1	粗粒安山岩	自然石の広い1面に径6cm程の浅い皿状の凹みを有する。凹み底面は比較的平坦。	1.9kg
191-184 119 No2334	凹石	3号溝 完形	長さ 20.1 幅 16.5 厚さ 12.0	粗粒安山岩	自然石の広い1面に径7cm程の浅いすり鉢状の凹みを有する。	4.8kg
191-185 119 No2344	凹石	3号溝 完形	長さ 15.6 幅 14.3 厚さ 7.4	粗粒安山岩	自然石の広い1面に径8cm程の浅いすり鉢状の凹みを有する。凹みの内面は凹凸が多い。	1.7kg

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
191-186 119 No2357	凹石	3号溝 2/3	長さ — 幅 12.0 厚さ 4.7	粗粒安山岩	自然石の広い1面に径6cm程の浅いすり鉢状の凹みを有する。	700g
191-187 119 No2419	凹石	3号溝 1/2	長さ — 幅 12.6 厚さ 5.9	粗粒安山岩	自然石の平坦な1面に浅いすり鉢状の凹みを有する。	600g
192-188 119 No2418	凹石 (小型石鉢)	3号溝 1/2	最大径 — 高さ 7.4	粗粒安山岩	形状はややいびつだが、外面を鉢状に加工し、口縁部を整える。底面よりも浅い凹みを有す。又、外面体部の一部に平坦な研磨面を有し、砥石としても利用。	500g
192-189 119 No2358	凹石	3号溝 1/2	長さ 14.5 幅 — 厚さ 9.6	榛名二ツ岳軽石	自然石の広い1面に径7cm程の浅いすり鉢状の凹みを有し、口は石鉢状の角をならす。	500g
192-190 — No2111	台石	3号溝	長さ 17.3 幅 19.5 厚さ 14.3	粗粒安山岩	自然石の一面に叩き痕を有する。	3.9kg
192-191 — No2112	凹石	3号溝	厚さ 13.7 幅 — 長さ —	粗粒安山岩	自然石の一面に浅く皿状に凹んだ部分を有する。	3.5kg
192-192 119 No2690	板碑	3号溝 上半部1/2 弱	最大幅 — 長さ — 厚さ 3.5	緑色片岩	碑面は磨滅・剥落甚大。葉研彫り阿弥陀種子。線刻二条線有か。	4.5kg No2700と 接合
192-193 119 No2695	板碑	3号溝 上部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 2.0	緑色片岩	碑面の磨滅・剥落大。浅い竹彫りの阿弥陀種子の一部残る。二条線なし。	510g No2724と 同一個体
192-194 119 No2693	板碑	3号溝 下部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 3.4	緑色片岩	碑面の磨滅少。肉厚。枠線で区画された葉研彫りの光門真言。	1.1kg
192-195 119 No2697	板碑	3号溝 上部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 2.8	緑色片岩	碑面は磨滅甚大。浅い葉研彫りの阿弥陀種子及び蓮座。裏面に幅14mm程の工具痕が残る。	2.2kg
192-196 119 No2705	板碑	3号溝 破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 3.0	緑色片岩	碑面は剥落。裏面に幅14.5mm程の工具痕が横方向に残る。	800g
192-197 119 No2692	板碑	3号溝 破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 2.5	緑色片岩	小型板碑。碑面はやや磨滅。浅い葉研彫りの阿弥陀種子の一部残る。裏面に幅13mm程の工具痕が横方向に残る。	790g
192-198 119 No2694	板碑	3号溝 上部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 4.0	緑色片岩	碑面の磨滅大。極めて肉厚。葉研彫り阿弥陀種子。	1.6kg
192-199 119 No2698	板碑	3号溝 下部破片	最大幅 — 長さ 15.5 厚さ —	緑色片岩 表面黒～褐色に変色	極めて厚く、大型板碑の左下部破片。碑面に1条の線刻が有り、枠線下側の一部と考えられる。	2.2kg No2686と 同一
192-200 119 No2696	板碑	3号溝 上部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 3.0	緑色片岩	碑面は磨滅甚大。浅い葉研彫りの阿弥陀種子の一部が残る。裏面に幅12mm程の工具痕が横・斜方向に残る。	530g No2724と 同一
193-201 119 No2691	板碑	3号溝 上部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 3.1	緑色片岩	碑面の磨滅大。浅い竹彫りの阿弥陀種子の一部が残る。裏面に幅10.5～12.5mm幅の工具痕が縦方向に残る。	1.5kg
193-202 119 No2699	板碑	3号溝 上部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 3.1	緑色片岩	碑面はやや磨滅。肉厚。葉研彫り阿弥陀種子の一部が残る。二条線なし。裏面に幅14mm程の工具痕が横方向に残る。	1.6kg
193-203 119 No2340	宝篋印塔 九輪・伏鉢 部	3号溝	最大径 5.4	石製	九輪部の輪界浅い。伏鉢部に蓮弁を刻むがやや粗な感じ。	900g
193-204 119 No2332	五輪塔 地輪	3号溝 1/2	最大径 27.3 高さ 12.5	榛名二ツ岳軽石	形状は均質で、下面を除く表面は丁寧な磨き整形、下面は工具痕を残す荒削り。	6.2kg
193-205 119 No2350	五輪塔 火輪	3号溝 1/4	最大径 24.8 高さ 13.0	粗粒安山岩	笠の四隅は緩やかに開き、側面は直立気味。表面は細かい工具痕を残す程度の磨き仕上げを施す。下面は粗い工具痕を残す。	5.4kg

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
193-206 119 No2331	五輪塔 地輪か	3号溝 破片	最大径 — 高さ 11.2	粗粒安山岩	形状は均質で、各面は平坦に面を整える。五輪塔地輪の角部か。	4.0kg
193-207 119 No2359	五輪塔 火輪	3号溝 破片		(榛名ニツ岳軽石)	上部～隅部破片。	500g
193-208 119 No2361	五輪塔 火輪	3号溝 破片		(榛名ニツ岳軽石)	火輪隅(麗端)部破片。四隅はあまり広がらない形か。面は丁寧に整形される。	700g
193-209 119 No2341	五輪塔 火輪	3号溝 弱		榛名ニツ岳軽石	笠の四隅は緩やかに開く。表面は丁寧に磨き仕上げを施す。下面は所々に工具痕を残す。	4.7kg

4号溝

193-210 120 No1175	かわらけ	4号溝 略完形 口縁一部欠	口径 8.0 底径 4.8 器高 1.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底面にロクロ左回転の糸切り痕あり。体部の内外面にロクロ目あり。	
193-211 120 No1177	かわらけ	4号溝 口縁～底部 1/2	口径 7.5 底径 3.8 器高 2.2	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り。器面の磨滅のため、ロクロ回転方向不明。	
193-212 120 No1176	かわらけ	4号溝 口縁～底部 1/2	口径 8.8 底径 5.8 器高 2.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色、黒色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。内面のほぼ全面に煤、油煙が付着。灯明皿として利用か。	
193-213 — No1178	かわらけ	4号溝 口縁～底部 破片	口径 12.0 底径 7.0 器高 2.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、器面磨滅のためロクロ回転方向不詳。	
194-214 — No1193	陶器 染付碗	4号溝 口縁部破片	口径(10.6) 高台径 — 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰 色：灰白色、青色	外面に染付施文あり。	
194-215 — No1194	磁器 染付碗	4号溝 体部～底部 破片	口径 — 高台径 4.8 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：白色、青色	外面に染付施文あり。底面に「福」銘染付。	
194-216 — No1191	陶器 碗	4号溝	口径 — 高台径 4.2 器径 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：白、にぶい黄橙	外面に露胎部あり。高台は削り出しか。	
194-217 — No1195	磁器 小碗	4号溝 口縁～体部 破片	口径(10.0) 高台径 — 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：白色	器肉は極めて薄い。外反形状強い。	
194-218 — No1379	陶器 碗	4号溝 底部破片	口径 — 高台径( 5.9) 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	ロクロ成形。高台貼付後に高台内側調整。	
194-219 — No1376	陶器 碗	4号溝 底部破片	口径 — 高台径 8.2 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	ロクロ成形。高台貼付後に高台内側調整。内外面口縁～体部1/2程まで薄く植物灰釉を施釉。	
194-220 120 No1197	陶・磁器 碗	4号溝	口径(14.7)		器肉平均的に薄い。白磁か。	
194-221 120 No1198	白磁 碗	4号溝 口縁部破片	口径(15.0) 高台径 — 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	器肉やや薄く、口縁部少し肥厚気味に尖る。	中国白磁 11～12c
194-222 — No1190	陶器 大皿	4号溝 口縁部破片	口径(26.0) 底径 — 器高 —	胎：微～細砂粒 焼：還元焰 色：灰褐、オリーブ	口縁部はS字状に屈曲。	
194-223 — No1192	陶器 碗	4号溝 口縁～底部 1/2	口径 11.6 高台径 6.0 器高 7.8	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰色～黄褐色	高台部及び高台内側には施釉せず。	
194-224 — No1181	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋?)	4号溝 口縁部破片	口径(29.6) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：黒褐色	口縁端部は丸味をおびる。耳部1ヶ所残。下方体部に着く。	



第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
194-225 — No1609	かわらけ 転用坩堝	4号溝 口縁～底部 2/3	口径 9.0 底径 5.3 器高 1.9	胎：粗砂粒 焼：不明(現状還元) 色：不明(現状灰色)	ロクロ成形。底部右回転糸切りのかわらけを坩堝に転用。口縁付近は内外面が発泡し、内面には銅滓が付着する。内面の一部に軸状の赤色ガラス膜が付着する。	
194-226 120 No1182	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	4号溝 口縁～体部 下端	口径(31.2) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：暗～黒褐色	口縁端部は平坦で幅広。内側にかえしを有する。外面体部に煤付着。	
194-227 — No1196	陶器 小形甕	4号溝 口縁部破片	口径(18.0) 底径 — 器高 —	胎：微～細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰褐～赤褐色	口縁部は屈曲し、大きく外反する。直立する短い頸部を有し胴部は膨らむ。	
194-228 — No1179	軟質陶器 火鉢？ (円火鉢)	4号溝 口縁部破片	口径(23.8) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰色	口縁部は平坦で広く、内面にかえしをもつ。	
194-229 120 No1180	軟質陶器 火鉢 (丸火鉢)	4号溝 底部～脚部 破片		胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	底部端に段を施け、脚部は四角柱の中位をつぼめる。	
195-230 120 No1431	焼締陶器 擂鉢	4号溝 口縁～底部 1/2	口径 35.5 底径 13.4 器高 17.0	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：浅黄橙～赤褐色	口縁部は段を有し、体部は直線的に開く。20条一単位の細かい目が放射状に刻まれる。内面底部付近に使用による磨耗が認められる。	3号溝 No1432と 接合。 近世
195-231 — No1185	焼締陶器 甕	4号溝 胴部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰褐、オリーブ	体部片で、内外に整形痕あり。	知多窯 中世
195-232 — No1183	焼締陶器 甕	4号溝 胴部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰褐、灰白色	頸部と思われる形状。内外面に整形痕あり。	知多窯 中世
195-233 — No1186	焼締陶器 甕	4号溝 胴部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰褐色、灰黄色	外面胴部に叩き目を残す。	知多窯
195-234 — No1184	焼締陶器 甕	4号溝 胴部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰褐、オリーブ	内外面に整形痕あり。	知多窯 中世
195-235 — No1187	焼締陶器 甕	4号溝 胴部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰褐、オリーブ	内外面に整形痕あり。	知多窯
195-236 120 No1579	羽口	4号溝	口径( 2.4)	焼物	図側面側の上方より硅化部、次に還元部、点打酸化部へと続く。	62 g
195-237 120 No0914	土製円盤？ (転用)	完形	長さ 5.4 幅 5.7 厚さ 0.9		軟質陶器杯(かわらけ)の底部を転用。周囲を粗く打ち欠くのみで研磨なし。	
195-238 — No0935	鏡瓦	4号溝			瓦一覽表(2)参照	
195-239 — No0934	男瓦	4号溝			瓦一覽表(2)参照	
196-240 — No0943	男瓦	4号溝			瓦一覽表(2)参照	
196-241 — No0942	男瓦	4号溝			瓦一覽表(2)参照	
196-242 — No0936	玉縁付男瓦	4号溝			瓦一覽表(2)参照	
196-243 — No0944	男瓦	4号溝			瓦一覽表(2)参照	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
196-244 — No0945	男瓦	測道下			瓦一覧表(2)参照	
196-245 — No1011	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
196-246 — No1010	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
196-247 — No1018	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
196-248 — No1020	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
196-249 — No1024	瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
196-250 — No1015	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
196-251 — No1023	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
196-252 — No1016	男瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
196-253 — No1019	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
196-254 — No1021	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
197-255 — No1009	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
197-256 — No1017	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
197-257 — No1012	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
197-258 — No1013	男瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
197-259 — No1014	女瓦	4号溝			瓦一覧表(2)参照	
197-260 120 No4062	火打金	C区4号溝 完形		鉄製品	鋸形を呈する。根の個所の先端欠損か。長さに比べ身幅広い。	11.57 g
197-261 120 No2855	原石	4号溝 破片		滑石質蛇紋岩	小さな原石で表裏に粗加工を施し、未製品か。	12.5 g
197-262 120 No4059	古銭 寛永通宝	4号溝 完形	最大径 2.53 厚さ 0.10	銅製	磨滅・腐食がほとんどなく、遺存状態は良好。裏上方に「文」の文字有。	2.92 g
197-263 120 No4061	古銭 洪武通宝	4号溝 完形	最大径 2.35 厚さ 0.17	銅製	裏面にやや腐食がみられるのみで、他は腐食・磨滅が少なく遺存状態は良好。	3.38 g 明 1368年

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
197-264 120 No4060	古銭 元祐通宝	4号溝 完形	最大径 2.44 厚さ 0.12	銅製	真書体。全体にやや腐食が進み、外縁が所々欠損する。	2.50g 北宋 1086年
197-265 120 No2198	砥石	4号溝	長 (9.7) 幅 2.7 厚 2.1	砥沢石	表・裏2面使用。小口・側部楕円状ナラシ条痕あり。中砥級。	70g 2面使用
197-266 120 No2197	砥石	4号溝側道 下	長 7.7 幅 3.3 厚 1.6	砥沢石	表面使用。小口・裏・側部4面に削痕。中砥級。	60g 1面使用
197-267 120 No2206	砥石	4号溝	長 (13.5) 幅 4.2 厚 3.2	砥沢石	表・裏2面使用。側部は節理か川原石面・原石面を残す。削痕。片側小口尖形。中砥級。刃付砥。	202g 2面使用
197-268 120 No2186	砥石	4号溝側道 下	長 (4.0) 幅 2.0 厚 1.7	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部4面使用。中砥級。	25g 4面使用
197-269 120 No2181	砥石	4号溝側道 下	長 (6.6) 幅 3.0 厚 3.0	砥沢石	表・裏2面使用。側部2面削り。小口尖形か。中砥級。刃付砥。	88g 2面使用
197-270 120 No2190	砥石	4号溝側道 下	長 (5.0) 幅 3.9 厚 0.7	珪質頁岩	表・裏2面使用。側部2面削り。小口切出し鋸挽様痕。合わせ砥(鳴滝砥)。	25g 2面使用
197-271 120 No2425	砥石	4号溝	長 (8.6) 幅 5.7 厚 4.9	粗粒安山岩	小口、旧欠。多面使用。荒砥級。	339g 6面使用
198-272 120 No2225	砥石	4号溝側道 下	長 (9.2) 幅 4.8 厚 4.4	粗粒安山岩	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部4面使用。荒砥級。	253g 4面使用
198-273 120 No2426	砥石	B区4号溝	長 (9.4) 幅 6.0 厚 4.2	粗粒安山岩	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部使用。荒砥級。	268g 4面使用
198-274 120 No2424	砥石	4号溝	長 (16.1) 幅 8.9 厚 7.8	粗粒安山岩	刃傷条痕あり。小口、旧欠。1.6cm幅で凹条研磨溝あり。置砥。荒砥級。	993g 4面使用
198-275 120 No2430	石臼 上臼	4号溝 1/3	最大幅 — 高さ 10.2	粗粒安山岩	整形は比較的丁寧。供給口の一部を有し、側面には方形の挽木穴を有する。挽面は磨耗し目はほとんど残らず、偏減りする。	3.0kg
198-276 120 No2431	石臼 上臼	4号溝 1/2	最大幅 27.0 高さ 6.0	粗粒安山岩	整形は比較的丁寧。上面縁端部を全体に欠損。供給口の一部残る。挽面は磨耗し、目は残らずに荒れる。	3.4kg
198-277 120 No2433	石臼(茶臼) 上臼	4号溝 1/4	最大幅 — 高さ 12.5	粗粒安山岩	上面縁部を欠損。上面及び側面は丁寧な磨き整形。挽面は磨耗するが、5~8mm間隔の細い目がわずかに残る。	950g
198-278 120 No2434	石臼(茶臼) 下臼	4号溝 破片		粗粒安山岩	受皿部破片。端部に平坦面を持つ。整形は丁寧だが、石材の細かな凹みが目立つ。	650g
199-279 120 No2427	石製 不明	4号溝	長径 28.0	石製品	表・裏から凹みがあり、底部で完通する。機能は不明。	4.8kg
199-280 120 No2724	板碑	4号溝 上部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 2.0	緑色片岩	碑面の磨減・剝落大。浅い竹彫りの阿弥陀種子の一部残る。二条線なし。	900g No2695と 同一個体

5号溝

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
199-281 121 No1201	かわらけ	5号溝 完形	口径 7.5 底径 4.7 器高 2.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。器肉は薄く、口縁は楕円形にやや歪む。良好な焼成で硬質。	
199-282 121 No1202	かわらけ	5号溝 口縁~底部 破片	口径 8.0 底径 4.7 器高 1.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙~黒褐	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。口縁部に油煙付着。灯明皿として利用か。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目 (cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
199-283 121 No1200	かわらけ (大形)	5号溝 完形	口径 11.8 底径 6.5 器高 2.6	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、糸切り痕に乱れ有り。 ロクロ左回転。	
199-284 121 No1199	かわらけ (大形)	5号溝 完形	口径 12.6 底径 6.8 器高 3.0	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
199-285 — No1374	陶器 皿	5号溝	底径 7.7		トーンは施釉部。高台は三角形。	
199-286 — No1204	焼締陶器 大壺	5号溝 胴部破片		胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰色〜オリーブ	外面体部に緑色の自然釉。	知多窯
199-287 121 No1203	青磁 碗	5号溝 口縁部破片	口径(14.8) 高台径 — 器高 —	胎:微砂粒 焼:還元焰、施釉 色:オリーブ灰色	3条一単位の陰線により、内面口縁下に横線、体部に 雲形を描く。	中国青磁 12c
199-288 — No1025	女瓦	5号溝			瓦一覧表(2)参照	
199-289 — No1027	女瓦	5号溝			瓦一覧表(2)参照	
199-290 — No1026	女瓦	5号溝			瓦一覧表(2)参照	
199-291 121 No2187	砥石	A区中層 5号溝	長 4.9 幅 2.9 厚 2.7	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側 部4面使用。中砥級。	54g 4面使用
199-292 121 No2184	砥石	B区5号溝	長 (5.2) 幅 (2.7) 厚 (1.4)	砥沢石	裏・側部削りあり。表・側部2面使用。中砥級。	40g 2面使用
199-293 121 No2811	砥石	5号溝	長 4.7 幅 3.0 厚 1.5	デイスait	被熱。小口は旧欠。表・裏、側部のうち3面使用、1 面旧欠。中砥級。刃付砥。手持砥。	3面使用
200-294 121 No2437	砥石	5号溝	長 (8.3) 幅 (7.0) 厚 (4.9)	粗粒安山岩	小口は旧欠と自然。表・裏、側部3面使用。荒砥級。	253g 3面使用
200-295 121 No2438	砥石	5号溝	長 (6.3) 幅 (8.7) 厚 (3.6)	粗粒安山岩	円礫の小片。表面と一部側部使用。荒砥級。	167g 1面使用
200-296 121 No2439	転用砥石か	5号溝	長 (25.4) 幅 (9.5) 厚 (12.4)	粗粒安山岩	白再用か。旧欠。置砥。荒砥級。	3.5kg 2面使用
200-297 121 No2440	砥石	5号溝	長 10.3 幅 9.2 厚 6.2	軽石	円礫状態。傷が5条あり。荒砥級。	391g
200-298 121 No2854	砥石か	5号溝	幅 (8.0)	石製品	側部2面、小口1面に旧状あり、上方は欠損。	136.31g
200-299 121 No1581	羽口	5号溝	口径(2.6)	焼物	側部上方から硅化部、その下方還元部、続く下方酸化 部に続く。	87g
200-300 121 No4063-1	金属 不明	5号溝A・ Bベルト上 層 破片	長さ 3.2	金属製	種不明である。	
200-301 121 No4063-3	金属 不明	5号溝A・ Bベルト上 層 破片	長さ(1.8)	金属製	種不明である。	
200-302 121 No4063-2	金属 不明	5号溝A・ Bベルト上 層 破片	長さ(1.8)	金属製	種不明である。	

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
200-303 121 No2446	石臼 下臼	5号溝 1/2	最大径(28.5) 高さ 92.0	粗粒安山岩	側面は軽く磨かれ、底面えぐり部も面が整えられる。挽面はかなり偏減りし、磨耗のため目は残らない。転用のためか上面に円形の凹みを2ヶ所有する。	4.1kg
201-304 121 No2448	石臼(茶臼) 下臼	5号溝 受皿部破片		粗粒安山岩	受皿部上面は丁寧な磨き整形。下面は工具痕を薄く残すが丁寧な整形を施す。	550g
201-305 121 No2442	凹石	5号溝 完形	長さ 13.7 幅 11.2 厚さ 6.7	粗粒安山岩	自然石の上下2面に浅いすり鉢状の凹みを有し、凹みの内面は磨耗する。	1.2kg
201-306 121 No2829	石製模造品 か有孔円盤 か	5号溝	長さ 3.4	滑石か	中央に穿孔2穴あり。表裏面に擦痕あり。小欠あり。	7g

6号溝

201-307 121 No1220	陶器 皿	6号溝 口縁～底部 1/2強	口径 13.9 底径 7.0 器高 2.8	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：乳灰白色	内外面にロクロ目らしき条痕あり。	近世
201-308 — No1219	陶器 碗	6号溝 口縁～体部 破片	口径(10.0) 底径 — 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：赤黒色	内外面にロクロ目らしき条痕あり。	近世
201-309 — No1380	陶器 皿	6号溝 底部破片	口径 — 底径( 1.9) 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	高台あり。体部上半欠損する。	
201-310 — No1218	陶器 碗	6号溝 口縁～底部 1/2弱	口径 12.6 底径 5.6 器高 7.3	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：暗赤褐色	体外面にロクロの条線あり。内・外面に斑状に別の釉の施釉か。	近世
201-311 — No1221	磁器か 瓶か	6号溝 底部～体部	最大幅 12.4		外面網代らしき文様の施文あり。内面にロクロの条痕あり。	
201-312 — No1217	陶器 皿	6号溝 底部破片	口径 — 底径 6.0 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰、施釉 色：淡黄・暗赤褐色	鉄釉、内面底部に菊花印花文。	16c末 美濃大窯
201-313 — No1209	焼締陶器 甕	6号溝	頸部片		頸部と思われる部分である。	
201-314 — No1207	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	6号溝 体部～底部 破片	口径 — 底径(18.0) 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～黒色	体部下半は直立気味。底部端は明瞭な稜を有す。体部外面に煤付着。	
201-315 121 No1205	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	6号溝 口縁～底部 破片	口径(40.8) 底径(32.0) 器高( 8.6)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰気味 色：浅黄橙～暗褐色	口縁部はやや内湾気味に立ち上り、口縁端部は稜をもつ。耳部1つ残、耳部は細く円筒状を呈する。外面の器面は剥落する。	
202-316 121 No1206	軟質陶器 内耳盤形	6号溝	口径(40.0)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：黒褐色	側面の体部中央付近に接合面らしき所あり。	
202-317 121 No1211	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	6号溝 口縁～底部 1/2	口径 38.4 底径 35.6 器高 5.5	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白～灰色	全体に丁寧な成・整形。口縁端部は明瞭な稜を有す。耳部2つ残。耳部は幅広、下方は底部に着く。外面体部上方に輪積痕を、下方に指頭圧痕を残す。	
202-318 — No1213	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	6号溝 口縁～底部 破片	口径(39.0) 底径(36.0) 器高( 5.7)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～黒褐	口縁端部はやや丸味をおびる。耳部1つ残。耳部は幅広で下方は底部に着く。外面体部上方に煤付着。	
202-319 — No1215	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	6号溝 口縁～底部 破片	口径(36.8) 底径(34.0) 器高 5.8	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：浅黄橙～灰色	器形やや歪む。口縁端部は明瞭な稜をもつ。耳部1つ残。耳部はやや歪み、細味。下方は体部に着く。	
202-320 — No1214	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	6号溝	口径(36.2)	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：褐灰色	外面の体部中央付近に接合面らしき所あり。	
202-321 121 No1208	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	6号溝 口縁～底部 破片	口径(32.3) 底径(30.0) 器高 5.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色～暗褐色	全体に丁寧な成・整形。口縁端部は明瞭な稜をもつ。耳部1つ残。耳部は細く、下方は体部に着く。外面体部に煤付着。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
202-322 121 No1212	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	6号溝 口縁～底部 1/4強	口径(39.8) 底径(37.6) 器高 5.7	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:浅黄橙～暗褐色	全体に丁寧な成・整形。口縁端部は稜をもつ。耳部残らず。外面体部下方に連続し指頭圧痕残る。	
202-323 — No1210	軟質陶器 火鉢 (丸火鉢)	6号溝 底部破片	口径 — 底径 — 器高( 6.5)	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:明灰色	脚部剥落。内外面共に丁寧な整形。外面に突帯を設け間に斜格子の線刻を施す。	
202-324 121 No1216	軟質陶器 火鉢	6号溝 口縁～底部 2/3弱	口径(19.6) 底径 12.3 器高( 5.0)	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰白～灰色	脚部は1ヶ所残り、剥落跡2ヶ所残る。内外面指撫で。外面底部に火を受けた痕跡有り。	
203-325 121 No0907	土製円盤 (転用)	6号溝 完形	長さ 5.4 幅 5.6 厚さ 1.4		厚手の軟質陶器を転用。周囲を細かく打ち欠いた後に丁寧に研磨。	
203-326 121 No0911	土製円盤 (転用)	6号溝 完形	長さ 3.9 幅 3.6 厚さ 0.9	胎:粗砂粒、砂質 焼:酸化焰 色:にぶい黄橙色	軟質陶器(内耳鍋胴部か)を転用。周囲を粗く打ち欠いた後に研磨。	
203-327 121 No0915	土製円盤 (転用)	6号溝 完形	長さ 5.4 幅 4.7 厚さ 0.9	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:明赤褐色	軟質陶器杯(カワラケ)の底部を転用。周囲を粗く打ち欠くのみで研磨なし。	
203-328 121 No4064	小柄小刀 腰刀用	6号溝	長さ 14.8 幅 1.5 厚さ 0.4	鉄製(小刀)	小刀は刃部が小さく、腰刀用小柄か。袋部は細長い。	
203-329 121 No1589	羽口	6号溝	長さ( 7.8)	焼物	側面上方から硅化部、下方トーン還元部、その下方酸化部へと続く。	
203-330 121 No1584	羽口	6号溝	長さ( 7.2)	焼物	側面上方から硅化部、下方トーン還元部、その下方酸化部へと続く。	
203-331 121 No1585	羽口	6号溝	長さ( 8.4)	焼物	側面上方から硅化部、下方トーン還元部、その下方酸化部へと続く。	
203-332 121 No1587	羽口	6号溝	長さ( 8.1)	焼物	側面上方から硅化部、下方トーン還元部、その下方酸化部へと続く。	
203-333 121 No1590	羽口	6号溝	長さ( 6.3)	焼物	側面上方から硅化部、下方トーン還元部、その下方酸化部へと続く。	
203-334 121 No1588	羽口	6号溝	長さ( 4.8)	焼物	側面上方から硅化部、下方トーン還元部、その下方酸化部へと続く。	
203-335 — No0947	男瓦	6号溝			瓦一覧表(2)参照	
203-336 — No0946	男瓦	6号溝			瓦一覧表(2)参照	
203-337 — No1033	男瓦	6号溝			瓦一覧表(2)参照	
203-338 — No1030	女瓦	6号溝			瓦一覧表(2)参照	
203-339 122 No1029	女瓦	6号溝			瓦一覧表(2)参照	
203-340 — No1034	女瓦	6号溝			瓦一覧表(2)参照	
204-341 122 No1028	女瓦	6号溝			瓦一覧表(2)参照	

## 第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
204-342 — No1035	女瓦	6号溝			瓦一覧表(2)参照	
204-343 — No1032	男瓦	6号溝			瓦一覧表(2)参照	
204-344 — No1031	女瓦	6号溝			瓦一覧表(2)参照	
204-345 122 No2127	砥石	6号溝	長 (7.0) 幅 2.9 厚 1.8	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。楕円状ナラシ条痕。中砥級。	59g 4面使用
204-346 122 No2169	砥石	6号溝	長 (7.8) 幅 3.3 厚 2.8	砥沢石	表・裏2面使用。側部削り。小口尖形。中砥級。刃付砥。	106g 2面使用
204-347 122 No2174	砥石	6号溝	長 7.2 幅 3.5 厚 2.7	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部3面使用。中砥級。	76g 3面使用
204-348 122 No2129	砥石	6号溝	長 (6.3) 幅 2.9 厚 2.0	砥沢石	表・裏、側部使用。中砥級。	54g 4面使用
204-349 122 No2183	砥石	6号溝	長 6.5 幅 3.1 厚 2.0	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部4面使用。中砥級。	65g 4面使用
204-350 122 No2164	砥石	6号溝	長 (13.4) 幅 3.0 厚 2.4	砥沢石	表面使用、裏・側部3面削り。小口尖形。中砥級。刃付砥。	102g 1面使用
204-351 122 No2177	砥石	6号溝	長 (10.8) 幅 3.2 厚 3.0	砥沢石	表・裏2面使用。側部削りあり。小口尖形。中砥級。刃付砥。	126g 2面使用
205-352 122 No2152	砥石	6号溝	長 (9.4) 幅 2.7 厚 3.1	砥沢石	表・裏、側部4面使用。小形尖形砥。中砥級。刃付砥。	90g 4面使用
205-353 122 No2454	砥石	6号溝	長 (10.3) 幅 5.1 厚 4.4	砥沢石	小口は旧欠と自然。表・裏、側部使用。中砥級。手持砥。	240g 4面使用
205-354 122 No2455	砥石	6号溝	長 8.2 幅 3.5 厚 3.0	砥沢石	表・裏、側部3面使用。片側部削り。小口尖形。中砥級。手持砥。	100g 3面使用
205-355 122 No2456	砥石	6号溝	長 (4.8) 幅 3.4 厚 1.1	凝灰質頁岩	側部切出し鋸挽痕。表・裏剥落。側部をのぞき旧欠。短辺3.4cm。合せ砥級。	20g
205-356 122 No2209	砥石	6号溝	長 (10.1) 幅 4.4 厚 4.7	凝灰質砂岩	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部4面使用。使用各面に桶状擦痕。硬質。荒砥(大村)級。	272g 4面使用
205-357 122 No2449	砥石	6号溝	長 (10.1) 幅 8.3 厚 8.1	粗粒安山岩	小口は旧欠と自然。多面使用。置砥? 荒砥級。	717g 5面使用
205-358 122 No2452	砥石	6号溝	長 (8.6) 幅 6.7 厚 4.3	粗粒安山岩	小口は旧欠と自然。表・裏、側部使用。荒砥級。手持砥。	232g 4面使用
205-359 122 No2453	砥石	6号溝	長 (6.8) 幅 5.3 厚 4.3	粗粒安山岩	小口は旧欠と自然。表・裏、側部使用。荒砥級。手持砥。	177g 4面使用
206-360 122 No2451	砥石	6号溝下層	長 (14.5) 幅 8.8 厚 5.9	粗粒安山岩	小口は旧欠と割れ。置砥。多角柱状。荒砥級。	592g 多角、5面使用
206-361 122 No2450	砥石	6号溝	長 (12.2) 幅 11.1 厚 9.2	粗粒安山岩	小口旧欠はと自然。表・裏、側部使用。置砥。荒砥級。	1005g 4面使用



### 第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
206-362 122 No2463	石臼 下臼	6号溝 1/3	最大径 — 高さ 9.5	(榛名二ツ岳軽石)	側面及び下面まで整形を施す。軸穴の一部を残し、挽面は磨耗し、目は残らない。	2.0kg
206-363 — No2457	石鉢	6号溝 口縁破片		粗粒安山岩	口縁部～体部1/3周程残る。外面に薄く工具痕を残すものの内外面共に丁寧な磨き整形。口縁部は平坦面を持ち、体部もあまり開かない。	1.7kg
206-364 122 No2458	石鉢	6号溝 破片		粗粒安山岩	底部～体部のみ残る。内外面共に丁寧な磨きによる整形で、底面のみ一部工具痕を残す。内面底部付近のみ研磨の痕跡を有する。	700g
206-365 122 No2848	石製品 凹石(小形)	6号溝 1/2強	長さ 6.9 幅 — 厚さ 2.0	粗粒安山岩	円形の石の表裏二面に凹みを有す。一面は深く播鉢状を呈し、他面は浅い皿状を呈する。両凹み共に内面は磨耗する。	70g
206-366 122 No2459	石製品 小形鉢	6号溝	口径 19.5 底径 — 器高 —	粗粒安山岩	口縁端部で、器肉の内置きよい。	

#### 7号溝

206-367 122 No0902	土製円盤 (転用)	7号溝 完形	長さ 6.5 幅 7.2 厚さ 1.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰(硬質) 色：橙色、黒色	軟質陶器(火鉢か)の一部を転用。周囲を粗く打ち欠くのみで研磨なし。	
--------------------------	--------------	-----------	---------------------------	-------------------------------	-----------------------------------	--

#### 8号溝

206-368 — No1222	軟質陶器 脚付皿	8号溝	口径 — 底径( 3.0) 器高( 1.9)	胎：細砂粒 焼：酸化焰気味 色：浅黄橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り後に脚部貼付。ロクロ回転右方向。底部に三足の足を有する。	
206-369 122 No1223	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	8号溝 口縁～底部 破片	口径(38.0) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰色	口縁部端は明瞭な稜をもち、体部屈曲部も明瞭な稜を有する。	
207-370 122 No0916	土製円盤? (転用)	8号溝 完形	長さ 7.1 幅 7.1 厚さ 0.8	胎：細砂粒(含雲母) 焼：酸化焰(硬質) 色：明赤褐色	軟質陶器杯(カワラケ)の底部を転用。周囲を細かく打ち欠いたのみで研磨なし。	
207-371 — No1224	軟質陶器 火鉢	8号溝 破片		胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～橙色	口縁部片で、菊花の印花文あり。	
207-372 122 No4067	古銭 永楽通宝	8号溝	最大径 2.48 厚さ 0.13	銅製	全体に腐食し、外縁の所々を欠損する。文字も稜がやや不鮮明。	3.09g 明 1368年
207-373 122 No4066	古銭 永楽通宝	8号溝 完形	最大径 2.45 厚さ 0.13	銅製	全体にやや腐食する。表裏面共に縁幅が不均質で文字の稜も不鮮明。	3.38g 明 1368年
207-374 122 No4068	古銭 正隆元宝	8号溝 完形	最大径 2.48 厚さ 0.14	銅製	外径がやや歪む。全体にやや腐食し、「隆」の文字部の腐食が進む。	2.84g 金 1158年
207-375 122 No4069	古銭 元祐通宝	8号溝 完形	最大径 2.41 厚さ 0.11	銅製	真書体。全体に腐食・磨滅が著しく、「祐」「通」「宝」の文字部の腐食が進み、裏面の縁の稜が残らない。	2.85g 北宋 1086年
207-376 122 No4065	古銭 元祐通宝	8号溝 完形	最大径 2.48 厚さ 0.14	銅製	篆書体。全体にやや磨滅するが遺存状態は良好。表裏面共に縁幅がやや不均質。	4.18g 北宋 1086年
207-377 122 No2175	砥石	8号溝	長 ( 6.0) 幅 ( 2.5) 厚 2.5	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部4面使用。中砥級。	51g 4面使用
207-378 122 No2548	凹石	8号溝 完形	長さ 13.8 幅 11.2 厚さ 7.8	粗粒安山岩	自然石の広い1面に径6cm程の浅いすり鉢状の凹みを有する。	1.4kg
207-379 122 No2735	板碑	8号溝 破片	厚さ 3.0	緑色片岩	肉厚。碑面の剥落大。文字の痕跡あれど判読不可。	

第3節 古墳時代以降

9号溝

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
207-380 123 No1036	女瓦	9号溝			瓦一覧表(2)参照	
207-381 123 No2549	石鉢	9号溝 1/2	口径 — 底径 10.6 器高 6.4	粗粒安山岩	小型石鉢。体部は湾曲せず斜めに立ち上がる。内外面共に丁寧な整形。内面は使用時の研磨痕が残る。	400 g
207-382 123 No2550	石臼 上臼	9号溝 破片	最大径 — 高さ 8.1	粗粒安山岩	上面及び側面の整形は比較的丁寧。挽面はかなり磨耗し、残存部中心付近では2.6cm程の厚さしかない。目は磨耗し残らない。	1.4kg No2561と 接合

10号溝

207-383 123 No1225	かわらけ	10号溝 完形	口径 8.3 底径 4.9 器高 2.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐～黒色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。口縁端部に煤附着、灯明皿か。	
207-384 123 No1226	かわらけ	10号溝 完形	口径 7.7 底径 3.1 器高 2.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	底部肉厚。ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。口縁端部に煤附着、灯明皿か。	
207-385 123 No1230	かわらけ	10号溝 口縁～底部 2/3	口径( 9.8) 底径 5.8 器高 2.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
207-386 — No1234	かわらけ	10号溝 口縁～底部 破片	口径( 8.0) 底径( 5.3) 器高 2.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙	ロクロ成形、底部回転糸切り、回転方向不明。	
207-387 123 No1228	かわらけ	10号溝 略完形	口径 10.6 底径 4.9 器高 2.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐～黒褐	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
207-388 — No1233	かわらけ	10号溝 口縁～底部 破片	口径(10.3) 底径( 7.4) 器高 2.2	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
207-389 — No1232	かわらけ	10号溝 完形	口径( 9.1) 底径( 6.0) 器高 1.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：暗～黒褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。口縁下部に焼成前の穿孔有り。	
208-390 — No1231	かわらけ	10号溝 口縁～底部 1/2	口径 9.6 底径 6.6 器高 2.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ回転方向不明。	
208-391 — No1235	かわらけ	10号溝 口縁～底部 1/3	口径(11.0) 底径 7.4 器高 2.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙	ロクロ成形、底部回転糸切り、回転方向不明。	
208-392 123 No1229	かわらけ	10号溝 口縁～底部 2/3	口径 11.0 底径 6.7 器高 2.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～にぶい橙色	器肉厚。ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
208-393 123 No1227	かわらけ	10号溝 完形	口径 11.6 底径 6.5 器高 3.45	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	器肉厚。ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
208-394 123 No1274	陶器 皿 志野	10号溝 口縁～底部 1/2	口径 12.0 高径 6.8 器高 2.2	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰(ねずみ)色	全面に施釉。体部は内外面共に厚目の施釉。貫入有り。高台内に円錐ピンの痕、見込に目痕2つ。	16c後～ 17c 美濃
208-395 123 No1276	陶器 皿 志野	10号溝 口縁～底部 1/2弱	口径(11.4) 底径( 7.0) 器高 1.9	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	全面に施釉。高台内に円錐ピンの痕1つ。見込に目痕1つ。	17c 美濃
208-396 123 No1273	陶器 皿 志野	10号溝 口縁～底部 1/2	口径 11.8 底径 6.4 器高 1.4	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：乳白色	やや焼成不良。全面に施釉し、口縁部内外面に釉厚く、貫入入る。	17c 美濃
208-397 — No1280	陶器 溝縁皿 灰釉	10号溝 口縁～底部 1/2	口径(12.0) 高径( 6.0) 器高 2.0	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：浅黄色	口縁部は外側に大きく開き、端部に膨らみをもつ。内面全面と外面体部中位上に施釉。見込に目痕3つ。	17c 瀬戸、美濃?
208-398 123 No1275	陶器 皿 志野	10号溝 口縁～体部 1/2	口径 11.0 底径 6.4 器高 2.3	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白、にぶい橙	焼成やや不良。全面に施釉。見込に目痕3つ。	17c 美濃

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
208-399 — No.1277	陶器 皿 志野	10号溝 口縁～底部 1/2強	口径 11.4 高台径 5.6 器高 3.0	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	外面高台内側を除き全面に施釉。見込に目痕1つ。	17c後～ 18c前 美濃
208-400 — No.1281	陶器 菊皿 灰釉	10号溝 口縁～底部 1/2弱	口径 12.6 高台径 6.8 器高 3.6	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：淡黄～オリーブ	高台端～内部は施釉なし。内面底部に釉のたまり有り。	17c 瀬戸、美 濃
208-401 123 No.1282	陶器 菊皿 灰釉	10号溝 口縁～底部 1/2強	口径 13.4 高台径 7.6 器高 3.2	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白、緑色	高台部は施釉せず。	17c 瀬戸、美 濃
208-402 123 No.1278	陶器 鉄絵皿 灰釉	10号溝 完形	口径 11.4 高台径 6.9 器高 2.4	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰色、浅黄色	内面口縁部に厚く、内面底部には薄く施釉し、外面は施釉せず。見込に(鉄絵)、外面に炭化物・煤が付着する。見込に高台痕有り。	17c後 瀬戸、美 濃
208-403 — No.1283	陶器 皿 錆釉	10号溝 口縁～底部 1/4	口径(15.0) 高台径(7.8) 器高 3.0	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：赤褐色	内面底部に円形の隆起部を設け、その部分は蛇の目軸剥ぎ。	
208-404 — No.1285	陶器 皿 灰釉	10号溝 口縁部破片	口径(14.6) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：緑色	焼成やや不良。口縁部は段をもち、大きく外へ開く。口縁部内面に同心円の線を陰刻。内面全面及び体部上半に緑釉を施釉。外面体部中位以下は施釉せず。	
208-405 123 No.1279	陶器 輪髡皿	10号溝 口縁～底部 1/3	口径 12.6 高台径 5.7 器高 3.6	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰色、浅黄色	外面底部、高台部は施釉せず。内面底部中央に菊花文印押。	17c～18 c前瀬戸、 美濃
208-406 123 No.1256	磁器 染付皿	10号溝 口縁～底部 破片	口径(13.0) 底径(7.8) 器高 3.0	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：明緑灰、青色	内面に圈線とほか施文。外面にも染付施文あり。	中国、明 代
208-407 123 No.1258	青磁 碗	10号溝 口縁部片			内外面施文なし。器内は口縁部まで平均的に厚い。	
208-408 123 No.1259	青磁 碗	10号溝 口縁～体部 破片		胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：緑灰色	釉は薄。内面劃文あり。口縁部側に器内薄作りの傾向あり。	中国？
208-409 123 No.1257	青磁 碗	10号溝 体部破片		胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：オリーブ灰色	体部外面に粗雑な蓮弁文。釉は薄。	13c 中国 龍泉窯系
209-410 123 No.1286	陶器 小碗 鉄釉	10号溝 口縁～底部 1/2	口径 8.2 高台径 4.4 器高 3.8	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：暗褐色、灰白色	外面体部上1/4～内面全面に施釉。外面体部下に目痕？が3つ。	18c 瀬戸・美 濃
209-411 123 No.1287	陶器 小碗	10号溝 口縁～底部 1/2弱	口径 7.7 高台径 4.0 器高 3.5	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	外面体部上1/4～内面全面に施釉。	近世
209-412 123 No.1292	陶器 碗	10号溝 口縁～底部 1/2弱	口径 12.4 高台径 5.3 器高 7.9	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：にぶい黒～赤褐	外面体部下半～高台部に薄く赤褐色の無光沢の釉、外面体部上半～内面に厚く黒色の釉を施釉。	
209-413 123 No.1291	陶器 尾呂茶碗 鉄釉	10号溝 口縁～底部 1/2	口径 13.3 高台径 6.8 器高 7.7	胎：微～細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：にぶい赤褐色	高台端部を除き全面に施釉。	17c末～ 18c初瀬 戸・美濃
209-414 123 No.1295	陶器 小鉢	10号溝 口縁～底部 1/2弱	口径 9.5 高台径 5.4 器高 5.0	胎：微～細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：明オリーブ灰色	口縁部は平坦で内側にかえし有り。口縁～外面体部にのみ施釉。釉に貫入入る。	近世
209-415 — No.1293	陶器 碗	10号溝 口縁～底部 1/4	口径 12.3 高台径 5.6 器高 7.8	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：暗オリーブ褐色	高台端部を除き全面に施釉。口縁部下内外面の釉が変色。	近世
209-416 — No.1288	陶器 染付碗	10号溝 体部～底部 破片	口径 — 高台径 4.6 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：明緑灰色、青色	陶胎染付。高台端部を除き全面に施釉。外面体部下方に1条、高台部に2条の横線、体部に小さな染付。	18c前 肥前
209-417 — No.1289	磁器 染付碗	10号溝 口縁～底部 1/3	口径 10.0 高台径 4.0 器高 5.0	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色、青色	くらわんか碗。外面体部に雪輪草花文、高台内銘「大明年製」?	18c中～ 末肥前
209-418 — No.1294	陶器 鉢	10号溝 底部破片	口径 — 高台径 7.4 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：明青灰色	内面底部に陰花文？有り。高台端部を除き施釉。	

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
209-419 — No.1250	焼締陶器 大甕	10号溝 胴部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：にぶい褐、赤褐	明瞭な叩き痕は残らないが、叩きによる凹凸有り。	中世
209-420 — No.1252	焼締陶器 甕	10号溝 胴部小破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：赤褐色	外面に無色の自然釉。	中世
209-421 — No.1253	焼締陶器 甕	10号溝 胴部小破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：褐色、緑色	外面に緑色の自然釉。	中世
209-422 — No.1251	焼締陶器 甕	10号溝 胴部小破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：褐色、赤褐色	内外面に薄く無色の自然釉。	
209-423 — No.1254	焼締陶器 甕	10号溝 胴部小破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰色、緑色	外面に緑色の自然釉。	中世
209-424 — No.1370	陶器 茶入れ	10号溝 肩部破片		胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：暗赤褐色	内外面に施釉。外面に釉のたまりが有り、発泡し、一部剝離する。	
209-425 123 No.1247	不明	10号溝	口径 — 底径 9.0 器高 3.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。体部外面に横方向・回転ヘラ調整。	
209-426 — No.1246	軟質陶器 火鉢	10号溝 胴部破片		胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	脚の上部に前・左・右の3方に突出部をもつ。表面は丁寧なヘラ撫でを施す。	
210-427 123 No.1236	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	10号溝 口縁～底部 1/3	口径(36.1) 底径(21.0) 器高 11.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：黄橙～黒褐色	口縁端部内側に一条凹む。底部は肉薄。外側面下方3/4に煤付着。	
210-428 — No.1265	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	10号溝 口縁～体部 2/3	口径(32.2) 底径 — 器高(10.3)	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白色	口縁部は屈曲し、外へ開く。口縁端部は丸味をおびる。耳部残らず。底面～体部下方に厚めに煤付着。	
210-429 — No.1239	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	10号溝 口縁～体部 破片	口径 — 底径(27.1) 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰色	体部はやや肉厚。煤付着せず。	
210-430 123 No.1240	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁～底部 破片	口径(32.4) 底径(29.6) 器高 5.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～暗褐色	口縁端部は丸味をおびる。耳部2ヶ残。耳部は肉厚で下方は底部コーナーに着く。	
210-431 123 No.1260	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁～底部 1/2	口径(37.4) 底径(34.0) 器高 6.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	口縁端部は丸味をおびる。耳部2ヶ残。耳部幅広く、取付けは雑で、下方は底部に着く。	
210-432 123 No.1261	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁～底部 1/2周	口径(36.6) 底径(34.3) 器高 5.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	口縁端部は稜をもつ。耳部2ヶ残。耳部は薄手で幅広く下方は底部に着く。外面側部下方に指頭圧痕。	
210-433 123 No.1262	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁～底部 1/3	口径 38.1 底径 34.5 器高 5.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～褐灰色	口縁端部は稜をもつ。耳部2ヶ残。耳部は薄手で幅広く下方は底部に着く。外側面に煤付着。	
211-434 — No.1267	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁～底部 破片	口径 34.1 底径 31.4 器高 5.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰気味 色：灰～暗褐色	口縁端部は丸味をおびる。耳部1ヶ残。耳部は幅広く下方は底面に着く。外側面の上方3/4程に煤付着。	
211-435 — No.1269	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁～底部 破片	口径 33.9 底径 32.2 器高 6.1	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰色～暗褐色	口縁端部は稜をもつ。耳部1ヶ残。耳部は円筒状に細く、下方は体部下方に着く。耳部の所のみ体部が外側に張り出す。	
211-436 — No.1270	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁～底部 破片	口径 32.0 底径 29.4 器高 5.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～褐色	耳部1ヶ残。耳部は肉厚で、幅広く下方は底部に着く。	
211-437 — No.1271	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁～底部 破片	口径(32.5) 底径(31.5) 器高(5.35)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～暗褐色	口縁端部は稜をもつ。耳部残らず。外側面上方3/4に煤軽く付着。	
211-438 — No.1263	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁～底部	口径 33.7 底径 31.6 器高 5.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～暗褐色	耳部残らず。口縁端部は丸味をおびる。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
211-439 — No1272	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁~底部 破片	口径(37.6) 底径(34.0) 器高 5.2	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙~暗褐色	口縁端部は丸味をおびる。耳部の一部残。耳部は細く、 下方は底部に着く。外側面に軽く煤附着。	
211-440 — No1264	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁~底部 破片	口径(38.7) 底径(35.7) 器高 5.4	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色~浅黄橙色	口縁端部は稜をもつ。耳部1ヶ残。耳部は薄手で幅広 く下方は底部に着く。外側面上方 $\frac{2}{3}$ に煤附着。	
211-441 123 No1241	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁~底部 $\frac{1}{2}$ 周	口径(38.7) 底径(36.6) 器高 6.4	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:浅黄橙~暗褐色	口縁端部は稜をもつ。耳部1ヶ残。耳部は円筒状に細 く、下方は体部下方に着く。外面側部は口縁付近に煤 附着。	
211-442 — No1268	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁~底部 破片	口径(38.9) 底径(34.5) 器高 5.5	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰~黒褐色	口縁端部は稜をもつ。耳部残らず。外面側部底部付近 に指頭圧痕。外面側部上方 $\frac{2}{3}$ 程に煤附着。	
212-443 — No1242	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁~底部 破片	口径(42.2) 底径(39.9) 器高 5.6	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:褐灰~黒褐色	口縁端部は丸味をおびる。耳部残らず。外側面に煤付 着。	
212-444 — No1243	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	10号溝 口縁~底部 破片	口径(44.0) 底径(39.8) 器高 6.4	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	口縁端部は丸味をおび、体部は円湾する。耳部残らず。 外側面下方に指頭圧痕。	
212-445 124 No1244	軟質陶器 内耳鍋	10号溝 底部破片		胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色、橙色	底部に穿孔有。補修孔と考えられるが、底部のため、 加熱利用は不可か。	
212-446 124 No1245	軟質陶器 内耳鍋	10号溝 底部破片		胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰色、橙色	底部に内面より径2mm程の穿孔有り。補修孔と考えら れるが、底部のため、加熱は不可か。	
212-447 — No1249	焼締陶器 甕	10号溝 口縁部破片	口径(36.6) 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:赤褐色	口縁部は大きく外反し、帯状に巡る。口縁上部に自然 釉が少量附着。	
212-448 124 No1592	羽口	10号溝	口径(1.8)	焼物	図側面上方より、硅化部、その下方還元部、酸化部へ と続く。	315 g
212-449 124 No1596	羽口	10号溝	口径(2.2)	焼物	図側面上方より、硅化部、その下方還元部、酸化部へ と続く。	136 g
212-450 124 No1593	羽口	10号溝	口径(1.8)	焼物	図側面上方より、硅化部、その下方還元部、酸化部へ と続く。	276 g
212-451 124 No1597	羽口	10号溝	口径(2.4)	焼物	図側面上方より、硅化部、その下方還元部、酸化部へ と続く。	149 g
212-452 124 No1595	羽口	10号溝	口径(2.2)	焼物	図側面上方より、硅化部、その下方還元部、酸化部へ と続く。	201 g
212-453 124 No1599	羽口	10号溝	口径(2.4)	焼物	図側面上方より、硅化部、その下方還元部、酸化部へ と続く。	63 g
212-454 124 No1248	土製品 カマド支脚	10号溝 完形	上径 5.2 下径 7.2 高さ 8.0	胎:粗砂粒 焼:酸化・還元焰 色:灰色~黒褐色	全体に分銅形を呈し、上面は浅く皿状に凹む。体部中 央に太い横線を描き、その上を縦に12分割し、1つお きにX文様で埋める。各所に煤附着。	
212-455 124 No0909	土製円盤 (転用)	10号溝 完形	長さ 3.9 幅 4.0 厚さ 1.2	胎:粗砂粒、砂質 焼:酸化焰 色:黒褐色	軟質陶器内耳鍋の口縁部付近を転用。周囲を打ち欠い た後に粗く研磨。	
213-456 124 No0877	土錘	10号溝	長さ 4.7	焼物	全出土例からすると太めの土錘である。部分欠損あり。	16.6 g
213-457 124 No0876	土錘	10号溝	長さ 5.1	焼物	全出土例からすると太めの土錘である。	17.5 g
213-458 —	土錘	10号溝	長さ 3.8	焼物	全出土例からすると太めの土錘である。	3.61 g

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
213-459 124 No0885	土錘	10号溝	長さ( 3.3)	焼物	上・下方を欠損。全出土例からすると太めの土錘である。	6.4 g
213-460 124 No4070	雁首	10号溝	長さ 3.2	銅製か	下方を欠損する。薄金製作か。	1.84 g
213-461 124 No0929	玉縁付男瓦	10号溝			瓦一覧表(2)参照	
213-462 124 No0932	玉縁付男瓦	10号溝			瓦一覧表(2)参照	
213-463 — No1109	男瓦	10号溝			瓦一覧表(2)参照	
213-464 — No0933	玉縁付男瓦	10号溝			瓦一覧表(2)参照	
213-465 — No0950	男瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
214-466 — No0949	男瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
214-467 — No0951	男瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
214-468 — No0953	男瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
214-469 — No0954	男瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
214-470 — No0952	男瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
214-471 — No1108	男瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
214-472 — No1040	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
214-473 — No1042	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
215-474 124 No1037	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
215-475 — No1038	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
215-476 124 No1050	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
215-477 — No1043	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
215-478 — No1041	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目 (cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
215-479 — No1049	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
216-480 — No1039	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
216-481 — No1048	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
216-482 — No1044	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
216-483 — No1047	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
216-484 — No1046	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
216-485 — No1045	女瓦	10号溝			瓦一覧表(3)参照	
216-486 124 No2199	砥石	10号溝	長 (10.4) 幅 2.5 厚 2.3	砥沢石	側部・裏面削痕。小口尖形。中砥級。刃付砥。	71 g 1面使用
216-487 124 No2204	砥石	10号溝	長 (12.0) 幅 2.7 厚 2.6	砥沢石	表面使用。裏・側部に櫛目状ナラシ条痕あり。小口尖形。中砥級。刃付砥。	96 g 1面使用
216-488 124 No2475	砥石	10号溝	長 (12.8) 幅 3.0 厚 3.1	砥沢石	表・裏、側部のうち3面に削り工具、1面使用。櫛状ナラシ条痕あり。小口尖形。中砥級。刃付砥。	164 g
216-489 124 No2193	砥石	10号溝	長 ( 6.7) 幅 2.7 厚 2.0	砥沢石	表面使用。小口削。裏・側部3面に櫛目状ナラシ条痕あり。中砥級。	59 g 1面使用
216-490 124 No2182	砥石	10号溝	長 8.2 幅 2.9 厚 2.7	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表面使用。裏・側部3面削り。中砥級。	78 g 1面使用
216-491 124 No2218	砥石	10号溝	長 ( 2.9) 幅 ( 3.2) 厚 ( 1.2)	砥沢石	表面使用。表面剥落。側部削りと欠損。小口削。中砥級。	15 g 1面使用
217-492 124 No2158	砥石	10号溝	長 ( 9.0) 幅 3.5 厚 2.6	砥沢石	小口削、表・裏、側部3面使用、1面削り。中砥級。	107 g
217-493 124 No2173	砥石	10号溝	長 ( 8.5) 幅 3.2 厚 1.5	砥沢石	表面使用。裏・側部2面に削りあり。中砥級。	74 g 1面使用
217-494 124 No2203	砥石	10号溝	長 (11.9) 幅 3.1 厚 2.6	砥沢石	表・裏2面使用。側部削痕。小口面は節理か川原石面・原石面を残す。小口に削痕。中砥級。	116 g 2面使用
217-495 124 No2170	砥石	10号溝	長 ( 8.0) 幅 3.3 厚 2.2	砥沢石	表・裏2面使用。側部削り。小口尖形。中砥級。刃付砥。	85 g 2面使用
217-496 124 No2156	砥石	10号溝	長 ( 9.7) 幅 3.7 厚 2.9	砥沢石	小口尖、他方欠、側部1面削り、1面使用。表・裏2面使用。片側小口尖形。中砥級。刃付砥。	115 g 3面使用
217-497 124 No2202	砥石	10号溝	長 ( 6.9) 幅 ( 3.5) 厚 ( 3.6)	砥沢石	表・裏、側部3面使用。側部は節理か川原石面・原石面を残す。小口尖形。中砥級。刃付砥。	82 g 3面使用
217-498 124 No2205	砥石	6号溝 10号溝重複	長 (13.0) 幅 3.2 厚 2.7	砥沢石	表・裏2面使用。側部に削痕あり。小口尖形。中砥級。刃付砥。	139 g 2面使用



第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
217-499 124 No2210	砥石	6号溝 10号溝重複	長 14.1 幅 3.8 厚 3.5	砥沢石	表・裏2面使用。側部に削痕。小口尖形。中砥級。刃付砥。	197g 2面使用
217-500 124 No2216	砥石	10号溝	長 (8.1) 幅 (4.8) 厚 (4.5)	砥沢石	表・裏2面使用。両側部削り。二次被熱。小口尖形。中砥級。刃付砥。	234g 2面使用
217-501 124 No2820	砥石	10号溝	長 (5.5) 幅 (3.8) 厚 (4.6)	珪質変質岩	使用1面を除いて旧欠。研磨明瞭は1面のみ。他旧欠。中砥級。手持砥。	83g 1面使用
217-502 124 No2473	砥石	10号溝	長 (8.2) 幅 (6.8) 厚 4.0	粗粒安山岩	小口は自然と旧欠。表・裏、側部3面使用。1面旧欠。荒砥級。	264g 3面使用
218-503 125 No2467	砥石	10号溝	長 (14.7) 幅 9.4 厚 7.3	粗粒安山岩	小口は旧欠と節理か川原石面・原石面を残す。表・裏側部4面使用。荒砥級。	1.0kg 4面使用
218-504 125 No2469	砥石	10号溝	長 (12.4) 幅 9.5 厚 8.2	粗粒安山岩	小口は旧欠と自然。多面使用。多角柱形。荒砥級。	925g 5面使用
218-505 125 No2465	砥石	10号溝	長 (19.1) 幅 12.0 厚 10.1	粗粒安山岩	小口は旧欠と自然。多面使用。置砥。多角柱形。荒砥級。	2.3kg 6面使用
218-506 125 No2470	砥石	10号溝	長 (10.7) 幅 10.7 厚 7.6	粗粒安山岩	小口は旧欠と自然。多面使用。置砥。多角柱形。荒砥級。	910g 4面使用
218-507 125 No2468	砥石	10号溝	長 (11.1) 幅 (8.5) 厚 (6.6)	粗粒安山岩	小口は旧欠。表・裏、側部3面使用。1面旧欠。荒砥級。	662g 3面使用
219-508 125 No2471	砥石	10号溝	長 (12.8) 幅 11.3 厚 9.0	粗粒安山岩	小口は旧欠と自然。荒砥級。	1.0kg
219-509 125 No2472	砥石	10号溝	長 (11.5) 幅 (6.9) 厚 7.5	粗粒安山岩	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏2面使用、側部削り2面。荒砥級。	452g 2面使用
219-510 125 No2466	砥石	10号溝	長 (15.8) 幅 12.0 厚 9.0	粗粒安山岩	小口は旧欠と自然。多面使用。置砥、多角柱形。荒砥級。	1.4kg 多角。5面使用
219-511 125 No2476	砥石・磨石	10号溝	長さ (15.3) 幅 (5.4) 厚さ 6.1	粗粒安山岩	研磨主体は軟質のもの。	687g
219-512 125 No2474	砥石	10号溝	長 (4.7) 幅 (8.6) 厚 7.0	粗粒安山岩	置砥から手持砥として再用か。小口は旧欠と使用。表・裏、側部3面使用、1面旧欠。置砥。荒砥級。	210g 3面使用
219-513 125 No2850	石製品	10号溝	高さ 9.3 最大幅 5.0 厚さ 5.8	軽石	人形(ひとがた)頭部を表現し、目・口など刻まれる。	107g
219-514 125 No2851	硯	10号溝	長さ 12.2 幅 6.2 厚さ 1.3	焼物か	隅丸長方形の硯で、海部の一部が欠損。使用消耗著しい。	119g
220-515 125 No2101	石臼 上臼	10号溝 ほぼ完形	最大径 31.5 高さ 13.1	粗粒安山岩	磨滅甚大。形状はいびつ。使用により当初の挽手穴の位置まで磨滅し、別所に再加工。溝(目)は磨滅し残らない。	12.2kg
220-516 125 No2108	石臼 上臼	10号溝 1/2	最大径 — 高さ 11.0	粗粒安山岩	磨滅・破損大。側面は未整形。溝(目)はやや荒目で、やや片減りするが残る。	7.7kg
220-517 125 No2496	石臼 上臼	10号溝 1/2		粗粒安山岩	上面及び側面は工具痕を残すものの磨き整形。供給口を有す。挽面はやや偏減りし、目は摩耗するがわずかに残る。	2.8kg
220-518 125 No2494	石臼 上臼	10号溝 1/2弱		粗粒安山岩	側面及び上面縁部は大半が欠損。上面及び側面は工具痕を残すが丁寧な整形。供給口を有し、挽面は目が深く残る。目は6分割で間隔は約2cm程。	3.9kg

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
220-519 125 No2495	石白 上白	10号溝 1/2	最大径 — 高さ 6.1	粗粒安山岩	上面及び側面は磨き整形。挽面は著しく摩耗し偏減りする。供給口の一部を有し、軸穴は上面に貫通する。	2.4kg
220-520 125 No2492	石白 上白	10号溝 1/2	最大径 — 高さ 10.8	粗粒安山岩	上面及び側面は軽く磨き面を整える。供給口を有し、側面に方形の挽木穴を有する。挽面はやや偏減りし、摩耗のため目はほとんど残らない。	5.5kg
221-521 126 No2105	石白 上白	10号溝 3/5		粗粒安山岩	破損・磨減甚大。上面の縁は欠失し、溝(目)も磨減し残らない。軸穴は磨減が少なく、側面は挽手穴1穴あり。	6.8kg
221-522 126 No2493	石白 上白	10号溝 1/4	最大径 — 高さ 13.0	粗粒安山岩	上面及び側面はやや粗雑な整形。挽面は中心部がかなり摩耗する。目は深く残り、6分割で間隔は約2cm程。	3.9kg
221-523 126 No2517	石白 上白	10号溝 1/4	最大径 — 高さ 9.4	粗粒安山岩	上面及び側面は丁寧な磨き整形。供給口の一部を有し、挽面は摩耗し、目は残らない。	2.7kg
221-524 126 No2502	石白 下白	10号溝 破片		粗粒安山岩	側・下面は比較的丁寧な整形。挽面は外縁に向かう程摩耗し、1.5cm間隔の目がわずかに残る。	1.3kg
221-525 126 No2503	石白 下白	10号溝 1/5	最大径 — 高さ 6.0	粗粒安山岩	外面は丁寧な磨き整形。高さが低く、やや偏減りする。挽面は摩耗するが、わずかに目は残る。	1.3kg
221-526 126 No2497	石白 上白	10号溝 1/2	最大径 — 高さ 10.8	粗粒安山岩	上面及び側面はやや粗雑な整形。側面には挽木穴が新旧2穴残る。旧挽木穴は方形で新挽木穴は円形。挽面は挽木穴に達する程摩耗し偏減りし、目は残らない。	3.3kg
221-527 126 No2498	石白 下白	10号溝 1/2	最大径 — 高さ 12.6	粗粒安山岩	側面及び底面えぐり部共に整形は丁寧。挽面は摩耗するが、2~2.5cm間隔の目がわずかに残る。目は6分割。	7.0kg
221-528 126 No2499	石白 下白	10号溝 1/5	最大径 — 高さ 8.7	粗粒安山岩	側面及び底面えぐり部共に整形は丁寧。挽面は摩耗するが、1.5~2.5cm間隔の目が若干残る。	4.4kg
221-529 126 No2500	石白 下白	10号溝 1/4	最大径 — 高さ 8.2	粗粒安山岩	側面は剥落し整形不明。下面えぐり部は丁寧な磨き整形。軸穴の一部を有す。挽面は摩耗するが、2~3cm間隔の荒い目が残る。	1.9kg
222-530 126 No2505	石白(茶白) 上白	10号溝 3/5	最大径 — 高さ 14.2	粗粒安山岩	上面及び側面は丁寧な磨き整形。側面に方形の挽木穴と菱形の座を有す。挽面は摩耗し、5mm間隔程の目がわずかに残る。	3.5kg
222-531 126 No2507	石白(茶白) 下白	10号溝 1/5	最大径 — 高さ 15.0	粗粒安山岩	受皿部は破損。側面は丁寧な磨き整形。底面えぐり部も整える。挽面は摩耗し、目は残らない。	4.1kg
222-532 126 No2510	石白(茶白) 下白	10号溝 1/4	最大径 — 器高 9.5	粗粒安山岩	受皿部を欠損。側面は磨き整形されるが、茶白としては粗。底面えぐり部は工具痕を残す。挽面は摩耗し、周縁で7~9mm程度。目は残らない。	2.9kg
222-533 126 No2508	石白(茶白) 下白	10号溝 1/4	最大径 — 器高 10.3	粗粒安山岩	側面及び受皿部上面、下面えぐり部は細かい凹凸を残したままで、やや整形は粗。挽面は摩耗し、目は残らない。	3.4kg
222-534 126 No2509	石白(茶白) 下白	10号溝 1/2	最大径 — 器高 9.4	粗粒安山岩	受皿部を欠損。表面は丁寧な磨き整形。底面えぐり部は工具痕を残す。挽面は摩耗し、周辺で高さ1.3cm程、目は3~6mm間隔の細かい目が残る。	5.3kg
222-535 126 No2511	石白(茶白) 下白	10号溝 破片	最大径 — 器高 7.2	粗粒安山岩	受皿部破片。表面は磨き整形されるが、茶白としては粗。	1.1kg
222-536 126 No2484	石鉢	10号溝 破片	口径 25.2 底径 13.2	粗粒安山岩	口縁~底部破片。体部は大きく湾曲し立ち上がる。体部下半と底面に工具痕を残すが、全体に丁寧な磨き整形。内面底部付近は研磨される。	850g
223-537 126 No2543	凹石	10号溝 完形	長さ 13.6 幅 12.1 厚さ 9.2	粗粒安山岩	自然石の1面に径6cm程の浅いすり鉢状の凹みを有する。	2.1kg
223-538 126 No2547	石製品 香炉	10号溝 略完形	最大幅 12.5 器高 8.5	粗粒安山岩	四本の脚を有す。上面はほぼ正方形を呈し、深さ2.2~2.7cm程の凹部を持つ。全体に比較的丁寧な整形だが、磨き整形はなし。底面の脚間に火を受ける。	1.4kg

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
223-539 126 No2477	凹石	10号溝 完形	長さ 17.2 幅 13.9 厚さ 8.8	粗粒安山岩	自然石の上下2面にすり鉢状の凹みを有し、凹みの内面は磨滅する。	2.2kg
223-540 126 No2540	台石 (砥石?)	10号溝 破片	長さ — 幅 — 厚さ 6.5	粗粒安山岩	成・整形された平坦面を3面(3面以上)持ち、うち側面1面は熱を受け赤色に変化する。	1.9kg
223-541 126 No2541	鍛冶台石	10号溝 破片	長さ — 幅 — 厚さ 10.5	粗粒安山岩	表裏面が平坦な自然石の一面が径約20cm程の範囲で赤黒く変色し、凹部に少量の黒色付着物と赤銅色付着物が見られる。	6.6kg
223-542 126 No2978	板碑 華瓶部破片	10号溝 華瓶部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 1.2	緑色片岩	碑面の磨滅少、裏面剥落。二茎の華瓶の蓮花から瓶の口の部分のみ残る。茎から二対の華瓶の向かって左側か。	190g
223-543 126 No2737	板碑 主導部破片	10号溝 主導部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 1.8	緑色片岩	碑面の磨滅大。大型板碑。深い葉研彫りの阿弥陀種子及び蓮座の一部が残る。	250g
223-544 126 No2748	板碑 主導部破片	10号溝 主導部破片		緑色片岩	主導部のサク(勢至菩薩)種子の一部が残る。幅形の阿弥陀三尊種子板碑か。種子はやや丸味をおびた浅い葉研彫り。	50g
223-545 126 No2739	板碑 側部破片	10号溝 側部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 2.2	緑色片岩	碑面やや磨滅。蓮座花卉のような彫り込みあれど、位置関係より蓮座にあらず。不明。	400g
223-546 126 No2741	板碑 破片	10号溝 破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 2.0	緑色片岩	碑面の磨滅・剥落大。文字らしき痕跡あれど判読不可。	550g
223-547 126 No2747	板碑 主導部破片	10号溝 主導部破片	最大幅 — 長さ — 厚さ 1.5	緑色片岩	碑面やや磨滅。浅い葉研彫りの阿弥陀種子の一部(アク点)が残る。	220g
223-548 126 No3003	木製 杭状	10号溝	長さ 28.8	木製	年輪を見ると芯は材の中央付近にあり、材が小径材であることが分かる。先は尖る。	

11号溝

223-549 127 No1299	かわらけ	11号溝 口縁～底部 1/2	口径 7.6 底径 5.0 器高 1.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～黒褐	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。口縁部に油煙付着。	
223-550 127 No1298	かわらけ	11号溝 口縁～底部 1/2弱	口径 10.2 底径 6.3 器高 2.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐～暗褐	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
223-551 127 No1297	かわらけ	11号溝 口縁～底部 3/4	口径 10.4 底径 6.0 器高 2.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：暗褐～黒褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。内面底部に薄い黒色付着物あり。	
223-552 — No1309	陶器 皿	11号溝 口縁～底部 1/3	口径(11.8) 底径(7.2) 器高 2.2	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色、橙色	やや厚目。施釉に貫入する。	近世
224-553 — No1310	陶器 皿	11号溝 口縁～底部 1/2強	口径 10.8 高台径 6.0 器高 2.3	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰黄、緑青色	全面に薄く施釉。内面底部中央に緑青色釉により円形の文様を描く。内面底部にトチン痕2ヶ所残る。	近世
224-554 127 No1307	陶器 皿	11号溝 口縁～底部 2/3	口径 12.4 高台径 6.0 器高 2.7	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：淡黄色	口縁部に段を有する。内面全面と外面体部下半までに施釉。外面は釉が厚目。内面底面にトチン痕3ヶ所残る。	近世
224-555 127 No1302	白磁 碗	11号溝 口縁部破片		胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	口縁部は折れて外反する。	中国 11c～12c
224-556 127 No1301	青磁 碗	11号溝 体部小破片		胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：オリーブ灰色	内外に文様と凹み一条あり。器内薄い。	中国 同安窯系 12c
224-557 127 No1312	陶器 平碗	11号溝 体部破片		胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：浅黄色、灰色	内面は全面に、外面は体部中位程まで施釉。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
224-558 — No1314	陶器 碗	11号溝 口縁～底部 1/2	口径(12.0) 高台径( 6.0) 器高 7.3	胎：微～細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：褐色	全面に施釉し、内外面口縁部に厚く施釉。	近世
224-559 127 No1315	陶器 碗	11号溝 口縁～底部 1/2強	口径 9.3 高台径 3.2 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：明オリブ灰色	高台部を除く全面に施釉。釉は厚目で全体に貫入する。	近世
224-560 — No1313	陶器 染付碗	11号溝 口縁～底部 1/2強	口径 10.0 高台径 5.0 器高 7.1	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：明緑灰、青色	外面口縁部と高台部に2条の横線、外面体部に山水風景画を画く。全体に貫入する。	近世
224-561 127 No1304	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	11号溝 口縁～体部 破片	口径(30.0) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白色	口縁端部は丸味をおび、内面口縁下に皿状の凹みを有する。この凹みを渡すように幅1.4cm、長さ2cm程の形骸化した耳(貫通せず)をもつ。	
224-562 127 No1303	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	11号溝 口縁～底部 破片	口径(38.6) 底径(36.2) 器高 5.4	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：暗～黒褐色	口縁端部はやや平坦で外斜し、明瞭な稜を有する。耳部1ヶ所残り、耳部は細めの楕円形を呈し、下方は体部に着く。	
224-563 127 No1306	軟質陶器 内耳鍋?	11号溝 底部小破片		胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	底部外面中央付近に枠囲いの文字刻印の一部が残る。	
224-564 127 No1305	軟質陶器 火鉢 (円火鉢)	11号溝 底部～脚部 破片		胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	底部は内耳鍋に似て平坦。外面底部端に楕円柱の脚を貼付。	近世
224-565 127 No1300	軟質陶器 火鉢 (角火鉢)	11号溝 体部破片		胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：赤色	外面体部の上下に隆帯を施す。	中世
224-566 127 No0903	土製円盤 (転用)	11号溝 完形	長さ 3.4 幅 4.3 厚さ 1.2	胎：粗砂粒、砂質 焼：酸化焰 色：黒褐色	軟質陶器(内耳鍋か)の胴部を転用。周囲を打ち欠いた後に粗く研磨。用途不明。	
224-567 127 No0908	土製円盤? (転用)	11号溝 完形	長さ 4.3 幅 4.1 厚さ 0.9	胎：粗砂粒、砂質 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	軟質陶器内耳鍋の底部を転用。周囲を粗く打ち欠いたのみで研磨なし。	
224-568 127 No0910	土製円盤 (転用)	11号溝 完形	長さ 6.2 幅 5.7 厚さ 1.2	胎：粗砂粒、砂質 焼：酸化焰 色：黒褐色	浅い軟質陶器内耳鍋の口縁～胴部を転用。口縁部を残し、他を打ち欠いた後に粗く研磨。用途不明。	
224-569 127 No0917	土製円盤 (転用)	11号溝 完形	長さ 4.5 幅 4.7 厚さ 0.9	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白色	陶器碗の底(高台)部を転用。周囲を細かく打ち欠いたのみで研磨なし。	
224-570 127 No0905	土製円盤 (転用)	11号溝 完形	長さ 3.3 幅 3.1 厚さ 0.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	土師質の土器を転用。周囲を打ち欠いた後に粗く、研磨。	
225-571 — No1430	陶器 擂鉢	11号溝 口縁～底部 破片	口径(32.4) 底径(13.0) 器高 14.2	胎：粗砂粒 焼：還元焰、施釉 色：暗赤褐色	口縁部は段を有す。体部内面に10～11条一単位のやや粗い目が、緩やかな弧を描いて刻まれる。	
225-572 127 No1600	羽口	11号溝	口径( 2.4)	焼物	側部上方から、珪化部、トーンの還元部、打点の酸化部へと続く。	98 g
225-573 127 No1601	羽口	11号溝	口径( 2.0)	焼物	側部上方から、珪化部、トーンの還元部、打点の酸化部へと続く。	57 g
225-574 127 No4071	古銭 元祐通宝	11号溝 完形	最大径 2.34 厚さ 0.11	銅製	篆書体。全体に磨滅・腐食し、特に外縁部は所々腐食により欠損する。全体に鉄錆が付着する。	北宋 1086年 2.67 g
225-575 127 No0924	宇瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
225-576 — No0955	男瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
225-577 — No0961	男瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
225-578 — No0957	男瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
225-579 — No0958	男瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
226-580 127 No0927	玉縁付男瓦	10・11号溝			瓦一覧表(3)参照	
226-581 — No0960	男瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
226-582 — No0959	棧瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
226-583 — No0956	男瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
226-584 — No1057	棧瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
226-585 — No1062	棧瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
227-586 127 No1051	女瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
227-587 — No1055	女瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
227-588 — No1054	棧瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
227-589 — No1056	女瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
227-590 — No1053	女瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
227-591 — No1052	女瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
227-592 — No1064	女瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
227-593 — No1063	棧瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
227-594 — No1058	女瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
227-595 — No1065	女瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
227-596 — No1059	棧瓦	11号溝			瓦一覧表(3)参照	
228-597 127 No2231	砥石	11号溝	長 ( 5.2) 幅 ( 2.3) 厚 0.5	珪質頁岩	剥片。当団実見唯一、京都内雲砥か。仕上砥(合せ砥)級。	9g 1面使用

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
228-598 127 No2179	砥石	11号溝	長 (10.3) 幅 2.8 厚 3.0	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表面使用。側・裏の3面に削りあり。中砥級。	105g 1面使用
228-599 127 No2201	砥石	11号溝	長 (10.3) 幅 4.0 厚 3.3	砥沢石	小口・側部に削痕。中砥級。	197g 2面使用
228-600 127 No2200	砥石	11号溝	長 (8.3) 幅 4.0 厚 4.0	砥沢石	側部・裏側計2面は節理か川原石面・原石面を残す。小口尖形。中砥級。	135g 2面使用
228-601 127 No2552	砥石	11号溝	長 (7.3) 幅 3.9 厚 3.3	粗粒安山岩	小口は旧欠。	98g 5面使用
228-602 127 No2551	砥石	11号溝	長 14.6 幅 8.3 厚 7.6	粗粒安山岩	小口は旧欠と自然。表・裏、側部の4面使用。置砥。荒砥。	997g 4面使用
228-603 127 No2558	石臼 上臼	11号溝 破片	最大径 — 高さ 11.3	粗粒安山岩	上面及び側面は丁寧な磨き整形。供給口の一部を有し、挽面は摩耗し、目も残らない。	1.8kg
228-604 — No2559	石臼 上臼	11号溝 破片		粗粒安山岩	上面及び側面は粗い整形で、細かな破損が多い。挽面は摩耗し、目は残らず、面は荒れる。	1.3kg
228-605 127 No2557	石臼 上臼	11号溝 1/4	最大径 — 高さ 7.0	粗粒安山岩	上面及び側面は比較的丁寧な整形。挽面は摩耗し、厚さ3.1mm程となるが偏減りはない。目は磨滅し残らない。	2.0kg
228-606 127 No2567	石臼(茶臼) 上臼	11号溝 1/5		粗粒安山岩	側面は剥落し、形状をほとんど残さない。側面に円形の挽木穴を有するが、座の有無は不明。挽面は摩耗し、3~4mm間隔の細い目を若干残す。	1.7kg
228-607 128 No2566	石臼 下臼	11号溝 破片		粗粒安山岩	側面一部剥落。側面及び底面めぐり部は丁寧な整形。挽面は摩耗するが、わずかに目が残る。	2.3kg
229-608 128 No2568	石臼(茶臼) 下臼	11号溝 破片		粗粒安山岩	底部~受皿部破片。受皿部先端は欠損。底面を除く外面は丁寧な磨き整形。	600g
229-609 128 No2553	石鉢	11号溝 1/5	口径 19.7 底形 10.3 高さ 9.4	粗粒安山岩	小型。体部は浅く、あまり開かず立ち上がり、器間も薄い。内外面共に丁寧な磨き整形。	650g
229-610 128 No2573	石鉢?	11号溝 1/2	口径(12.5) 底径(10.0)	粗粒安山岩	円筒形に成形し、上面を筒形に掘り込み、下面をすり鉢状にえぐる。全体に整形は施さず、工具痕を残し、面を整える程度。	1.2kg
229-611 128 No2572	石鉢	11号溝 破片	口径(23.6) 底径(18.0)	(榛名二ツ岳軽石)	底部~口縁部破片。外面は荒削り後軽く磨き、内面は丁寧な磨き整形。石材は異なるが、器形は安山岩製の石鉢に同じ。	850g
229-612 128 No2555	凹石	11号溝 完形	長さ 10.7 幅 13.0 厚さ 5.9	粗粒安山岩	自然石の上下2面にすり鉢状の凹みを有し、凹みの内面は磨滅する。	950g
229-613 128 No2574	不明石製品 (ドーナツ状)	11号溝	最大径 — 厚さ 4.2	(榛名二ツ岳軽石)	自然石の広い面を平坦に荒削りし、その中央付近に径2cm程の穴が貫通する。石の外周面は所々削り。	250g
229-614 128 No2576	舟型板碑	11号溝 頂部破片		粗粒安山岩	背を舟型にし、碑面周囲は幅2cm程の縁(額)を設け、中央上部に線刻の阿弥陀如来種子(キリーク)を刻む。表面は丁寧な磨き整形。碑面の磨滅は少ない。	1.2kg
229-615 128 No2753	板碑	11号溝 上部破片	厚さ 1.5	緑色片岩	小型板碑。碑面はやや磨滅。浅い竹彫りの阿弥陀一尊種子及び蓮座。二条線はなし。	7.3kg
229-616 128 No2750	板碑	11号溝 基部破片?	厚さ 1.5	緑色片岩	裏面に幅12.8mm程の工具痕が残るのみ。	580g
229-617 128 No2575	宝塔 相輪	11号溝 破片	最大径 9.2 器高 —	粗粒安山岩	宝塔又は宝篋印塔の相輪頂部宝珠~友花部破片。表面は丁寧な磨き整形。友花部は線刻による花卉表現。	700g

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
229-618 128 No2571	不明石製品	11号溝 完形	長さ 35.3 幅 22.5 厚さ 8.0	粗粒安山岩	板状に成形され、側面の内2面は丁寧な磨き整形。他の2面と上面は面を整える程度。上面に葉研状の彫り込みを有すが、内面は工具痕を残す。板碑礎石か。	9.8kg
229-619 128 No3004	木製 杭状	11号溝	残存長 19.5	木製	年輪芯と材中央とほぼ一致し、小径材。先部尖らせ、加工あり。	
229-620 128 No3005	木製 杭状	11号溝	長さ 17.0	木製	年輪芯と材中央とほぼ一致し、小径材。先部尖らせ、加工あり。	
229-621 128 No3036	木製 櫃材か	11号溝	長さ 32.5	木製	板材の左右に釘穴あり、木目は、柾目流れ、やや板目気味。	

12号溝

230-622 128 No1318	軟質陶器 鍋(内耳?) (深鍋)	12号溝 口縁~底部 破片	口径 25.8 底径 — 器高 —	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:暗褐色	口縁部と体部の境は明瞭な稜をもたず、体部下端は丸味をおびる。体部はやや肉厚。体部外面に煤付着。	
230-623 128 No2577	石鉢	12号溝 1/4	口径(31.8) 底径(17.8) 器高 12.3	粗粒安山岩	口縁~底部。器高は浅く、口径は広口。口縁端外側に把手。内外面共に丁寧な整形。内面底部付近は使用時の研磨の痕跡有り。	1.8kg
230-624 128 No2579	石臼 上臼	12号溝 破片	最大径 — 器高 11.2	粗粒安山岩	上面及び側面は比較的丁寧な整形。上面縁部端は摩耗。供給口の一部を有する。挽面は摩耗するが、3~3.5cm間隔の荒い目が残る。偏減りは見られない。	3.1kg
230-625 128 No2578	凹石	12号溝 1/2	長さ — 幅 13.2 厚さ 8.5	粗粒安山岩	自然石の広い1面に径7cm程の深いすり鉢状の凹みを有する。	250g

13号溝

230-626 128 No1322	かわらけ	13号溝 口縁~底部 1/3強	口径 9.1 底径 2.1 器高 4.5	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。全体に肉厚。	
230-627 128 No1320	かわらけ	13号溝 略完形 口縁一部欠	口径 8.2 底径 5.3 器高 2.2	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。内面の縁部に煤(油煙)付着。灯明皿として利用か。	
230-628 128 No1319	かわらけ	13号溝 完形	口径 9.2 底径 5.4 器高 2.3	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。体部~口縁部やや円湾さみ。	
230-629 128 No1321	かわらけ	13号溝 口縁~底部 1/5	口径 9.9 底径 5.3 器高 2.0	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:灰褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り後に撫で。ロクロ左回転か。口縁部は円湾する。	
230-630 — No1323	かわらけ	13号溝	口径(8.2) 底径(5.4) 器高 2.0	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい褐色	内外面にロクロ目あり。底面に糸切り痕あり。	
230-631 — No1358	陶器 皿	13号溝 口縁部破片	口径(12.1) 底径(6.9) 器高 1.9	胎:細砂粒 焼:還元焰、施釉 色:灰白、灰色	釉は均質に施釉、内外面共に細かな貫入入る。	近世
230-632 128 No1356	陶器 皿	13号溝 口縁~底部 1/2弱	口径 10.9 底径 5.2 器高 2.0	胎:細砂粒 焼:還元焰、施釉 色:灰色	釉は均質に施釉、内外面共に細かな貫入入る。	近世
230-633 128 No1353	陶器 皿	13号溝 口縁~底部 1/2	口径 12.0 底径 6.0 器高 2.0	胎:粗砂粒 焼:還元焰、施釉 色:灰白色	口縁部は弱いS字状に開く。釉は内面に薄く、外面にやや厚めに施釉。外面釉は発泡。底部にトチン痕3ヶ所有り、1ヶ所にトチン隔着。	美濃大窯 志野16c 後~17c
230-634 — No1360	陶器 皿	13号溝 口縁~底部 1/2弱	口径(11.9) 底径(8.0) 器高 2.2	胎:細砂粒 焼:還元焰、施釉 色:淡黄色	外面底部高台内側を除き施釉。内面は均質、外面はまだらな施釉。	近世
230-635 — No1362	陶器 皿	13号溝 口縁~底部 1/3	口径 11.0 底径 6.1 器高 3.0	胎:細砂粒 焼:還元焰、施釉 色:灰~灰オリーブ	口縁部はS字状を呈し、内面の口縁及び底部の平坦面に釉が厚くたまる。外面底部にも施釉し、高台内部に重ね焼の融着が残る。	近世
230-636 — No1357	陶器 皿	13号溝 口縁~底部 1/3強	口径 12.0 高台径 6.3 器高 2.1	胎:細砂粒 焼:還元焰、施釉 色:灰白色	釉は均質に施釉。内外面共に細かな貫入入る。	近世



第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
230-637 128 No1359	陶器 皿	13号溝 口縁～底部 1/3	口径 12.2 底径 6.2 器高 2.2	胎：細～粗砂粒 焼：還元焰、施釉 色：明オリブ灰	釉は薄目。2片の接合で、色調、貫入が異なる。片方は明色で貫入なし。片方は黄色味強く貫入多く入る。	近世
230-638 128 No1361	陶器 碗 (皿)	13号溝 口縁～底部 1/2強	口径 14.1 高台径 7.0 器高 3.2	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白～淡黄色	ロクロ成形、造り出し高台。内面底部にリング状の未施釉部あり、外面底部も施釉せず。	近世
230-639 — No1354	陶器 皿	13号溝 口縁部破片	口径(14.3) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	口縁部は弱いS字状に開く。釉は厚目で内面に貫入、外面は発泡。	美濃大窯 志野16c 後～17c
230-640 — No1364	磁器 染付碗	13号溝 底部破片	口径 — 高台径 6.7 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：明青灰～青色	外面高台側面に横一条の染付、外面体部絵柄不明、円面底部に帆かけ舟の絵付。	近世
230-641 128 No1363	磁器 染付皿	13号溝 底部破片	口径(24.8) 底径 — 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色、青色	外面高台部に2条、体部下に1条の線、外面体部絵柄不明。内面底部は外周に2条の線、内側に草花の絵付有り。	近世?
230-642 — No1365	陶器 花入れ	13号溝 体部～底部 破片	口径 — 高台径(7.9) 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：浅黄～黄褐色	外面胴部中位まで施釉、釉は一部溶変。内面には水引痕を残す。	近世
231-643 — No1334	青磁 碗	13号溝 底部小破片		胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰色、緑灰色	外面底部に施釉なし。内面底部に陰花文有り。	中国 中世
231-644 — No1355	陶器 大皿	13号溝 底部破片	口径 — 底径(17.4) 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	外面底部高台内側を除き施釉。内面底部に絵付、絵柄不明。	美濃大窯 志野 近世
231-645 129 No1336	軟質陶器 内耳鍋 (中深鍋)	13号溝 口縁～体部 破片	口径(24.8) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰～灰白色	体部は緩やかに外反し、体部外面は輪積痕と指頭圧痕を残す。内面口縁部に幅8mm、長さ2.5cm程の形骸化した耳をもつ。	
231-646 — No1382	陶器 壺	13号溝 底部破片	口径 — 高台径(16.6) 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白色	内外面に自然釉付着、上部の施釉は不明。	
231-647 129 No1335	軟質陶器 内耳鍋 (中深鍋)	13号溝 口縁～底部 1/2	口径(30.4) 底径(17.0) 器高 11.6	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰～灰白色	体部は緩やかに外反し、体部外面は輪積痕と指頭圧痕を残す。内面口縁部に幅8mm、長さ2.5cm程の形骸化した耳をもつ。	
231-648 — No1337	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	13号溝 口縁～底部 破片	口径(38.6) 底径(34.4) 器高 5.0	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：褐～黒褐色	口縁端部は平坦。体部に輪積痕残す。耳部残らず。内面体部に炭化物付着。	
231-649 — No1328	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	13号溝 口縁～底部 破片	口径(36.0) 底径(33.4) 器高 6.4	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：暗褐色～黒褐色	口縁端部は平坦。中位で直線的に屈曲し、口縁部は直立する。	
231-650 — No1427	焼締陶器 播鉢	13号溝 口縁部破片	口径(32.4) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：にぶい赤褐色	口縁部は外側に三角形に膨らむ。口縁端に浅い片口部を有し、体部内面に4mm間隔程の縦方向の細い目を刻む。	
232-651 129 No1350	陶器 播鉢	13号溝 体部～底部 破片	口径 — 底径 9.2 器高 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰、施釉 色：暗赤灰色	内面体部に弧を描く14条単位の目が、放射状に刻まれ、内面底部にも巴状に目を刻む。	美濃大窯 近世
232-652 — No1324	軟質陶器 播鉢	13号溝 体部破片		胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：灰色	体部内面に幅3mm程の広く深目の目が5mm間隔で弧を描き刻まれる。	
232-653 — No1327	軟質陶器 火鉢 (丸火鉢)	13号溝 脚部		胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～褐色	脚は体部端部に着き、円形の獣足形を呈する。	
232-654 — No1325	軟質陶器 火鉢	13号溝 体部破片		胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙	外面体部に2条の突帯を設け、その間に方形渦巻文を連ねる。	
232-655 — No1326	軟質陶器 火鉢	13号溝 口縁部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰白～灰色	口縁部は逆L字状を呈し、平坦面の両端に棒状工具の押圧により波状を呈す。	
232-656 129 No1603	羽口	13号溝	口径(2.4)	焼物	側面上方より硅化部、その下方のトーン部還元部、その下方酸化部へと続く。	

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
232-657 129 No1602	羽口	13号溝	口径(2.5)	焼物	側面上方より硅化部、その下方のトーン部還元部、その下方酸化部へと続く。	
232-658 129 No0913	土製円盤 (転用)	13号溝 完形	長さ 5.0 幅 4.9 厚さ 1.1	胎：微砂粒 焼：還元焰 色：淡黄色	陶器境の底部を転用。周囲を粗く打ち欠くのみで研磨なし。	
232-659 129 No0912	土製円盤？ (転用)	13号溝 完形	長さ 5.0 幅 5.4 厚さ 1.2		軟質陶器内耳鍋の胴部を転用。周囲を粗く打ち欠くが、研磨せず。	
232-660 129 No0926	鏡瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
232-661 — No0969	男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
232-662 — No0972	男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
233-663 129 No0930	玉縁付男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
233-664 129 No0928	玉縁付男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
233-665 129 No0940	男瓦	3・13号溝			瓦一覧表(3)参照	
233-666 — No0970	男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
234-667 129 No0962	男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
234-668 — No0963	男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
234-669 — No0974	男瓦	13・14号溝			瓦一覧表(3)参照	
234-670 — No0966	男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
234-671 — No0967	男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
235-672 — No0965	男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
235-673 — No0964	男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
235-674 129 No0948	男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
235-675 — No0973	男瓦	13号溝			瓦一覧表(3)参照	
235-676 — No0968	男瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
236-677 129 No1067	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
236-678 129 No1066	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
236-679 — No1079	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
236-680 129 No1073	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
236-681 — No1071	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
236-682 — No1088	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
237-683 129 No1092	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
237-684 130 No1069	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
237-685 — No1074	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
237-686 — No1076	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
237-687 — No1085	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
237-688 — No1089	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
237-689 — No1095	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
237-690 — No1077	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
237-691 — No1090	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
238-692 130 No1068	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
238-693 130 No1072	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
238-694 — No1075	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
238-695 — No1093	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
238-696 130 No1094	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
238-697 — No1080	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
238-698 — No1091	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
238-699 — No1086	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
239-700 130 No1070	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
239-701 — No1097	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
239-702 — No1078	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
239-703 — No1081	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
239-704 — No1084	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
239-705 — No1082	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
239-706 — No1083	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
239-707 — No1086	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
239-708 — No1087	女瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
240-709 130 No2196	砥石	13号溝	長 ( 8.2) 幅 3.2 厚 2.8	砥沢石	表面使用。小口・裏・側部4面に削痕。中砥級。	89g 1面使用
240-710 130 No2185	砥石	13号溝	長 ( 5.2) 幅 2.4 厚 2.0	砥沢石	表面使用。裏・側部2面に櫛目ナラシ条痕あり。1面削り。中砥級。	29g 1面使用
240-711 130 No2590	砥石	13号溝	長 12.1 幅 2.7 厚 2.7	砥沢石	小口は旧欠。表・裏・側部のうち2面使用、2面削り。小口尖形。中砥級。刃付砥。手持砥。	89g 2面使用
240-712 130 No2195	砥石	13号溝	長 ( 7.9) 幅 3.7 厚 2.4	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・側部2面使用。側部・裏に削痕あり。中砥級。	78g 2面使用
240-713 130 No2592	砥石	13号溝	長 ( 5.6) 幅 ( 4.5) 厚 ( 3.1)	砥沢石	小口は旧欠と割れ。表・裏・側部4面使用。被熱。中砥級。	71g 4面使用
240-714 130 No2589	砥石	13号溝	長 ( 5.3) 幅 ( 4.7) 厚 ( 3.1)	砥沢石	小口は旧欠と削り。表・裏・側部のうち1面使用。1面削り、1面は節理か川原石面・原石面を残す。中砥級。手持砥。	87g 1面使用
240-715 130 No2593	砥石	13号溝	長 ( 5.4) 幅 ( 4.3) 厚 ( 3.4)	流紋岩質凝灰岩	小口は旧時欠と調欠。表・裏・側部1面使用、2面削り、1面旧欠。被熱あり。	79g 1面使用
240-716 130 No2591	砥石	13号溝	長 ( 7.7) 幅 4.1 厚 3.1	流紋岩	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏・側部2面使用、削り2面。中砥級。	149g 2面使用

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
240-717 130 No2588	砥石	13号溝	長 (6.3) 幅 3.8 厚 3.8	粗粒安山岩	小口は削りと旧欠。表・裏、側面4面使用。荒砥級。	111g 4面使用
240-718 130 No2586	石鉢再用	13号溝	長さ 15.6 幅 13.2 厚さ 6.5	粗粒安山岩	石鉢再用、使用浅い。荒砥級。置砥。	1.4kg 1面使用
241-719 130 No2583	砥石	13号溝	長さ 14.7 幅 12.0 厚さ 11.1	粗粒安山岩	敲受石、磨石・砥石。川原石利用。荒砥。主体不明。自然面多し。置砥。	1.6kg
241-720 130 No2585	磨石・砥石	13号溝	長さ 19.8 幅 16.0 厚さ 9.6	粗粒安山岩	川原石利用。被熱あり。軟質の全体。	4.1kg
242-721 130 No2587	磨石	13号溝	長さ(22.3) 幅 (13.5) 厚さ(18.1)	粗粒安山岩	川原石利用。軟質の主体。	4.9kg
242-722 130 No2584	磨石	13号溝	長さ 12.5 幅 10.8 厚さ 3.1	粗粒安山岩	主体は軟質で被熱を受ける。	890g
242-723 130 No4073	金属製品 種不明	13号溝	長さ 7.4	金属製品	押し出しの造形物か。	10.97g
242-724 130 No4072	金属製品 煙管か	13号溝	長さ 5.0	金属製品	煙管の端部か。	2.62g
242-725 130 No2608	石臼 上臼	13号溝 1/4	最大径 — 高さ 11.4	粗粒安山岩	上面は工具痕を残す程度の整形。供給口を有し、側面には挽木穴の一部が残る。挽面は摩耗し、目は残らない。側面及び縁部上面の一部を砥石として転用。	転用砥石 2.3kg
242-726 130 No2596	石臼 上臼	13号溝 1/5	最大径 — 器高 12.9	粗粒安山岩	上面及び側面は丁寧な磨き整形。供給口の一部と側面に方形の挽木穴の一部を残す。挽面は摩耗し、目は残らない。上面に径7cm程のすり鉢状の凹みを有する。	4.3kg
242-727 130 No2606	石臼 上臼	13号溝 破片	最大径 — 高さ 11.0	粗粒安山岩	上面及び側面は比較的丁寧な整形。縁部～側面の一部を欠損。供給口有り。挽面には2.5cm間隔程の荒目の目が深く残る。	1.5kg
243-728 130 No2594	石臼 上臼	13号溝 一部欠損	最大径 32.6 器高 12.0	粗粒安山岩	縁～側面の一部を欠損。丁寧な磨き整形。挽面は摩耗し偏減りする。目はわずかに残る。側面挽木穴の両側に上面縁下から2穴が貫通する。	1.5kg
243-729 131 No2103	石臼 上臼	13号溝 1/2	最大径 34.2 高さ 17.2	粗粒安山岩	上・側面の整形は丁寧な磨き。側面に挽手穴2穴あり、軸穴と共に磨減は少ない。溝(目)はやや荒目だが、目は残る。	14.4kg
243-730 131 No2597	石臼 上臼	13号溝 1/5	最大径 — 器高 13.0	粗粒安山岩	上面及び側面は比較的丁寧な整形であるが、部分的に剥落多い。側面に円形の挽木穴を有する。挽面は摩耗するが、2～3.5cm間隔、6分割の荒い目が残る。	5.7kg
243-731 131 No2601	石臼 上臼	13号溝 1/5	最大径 — 器高 10.7	粗粒安山岩	上面及び側面は丁寧な磨き整形。供給口の一部残る。挽面は磨減し、目は残らない。	3.5kg
243-732 131 No2600	石臼 上臼	13号溝 1/5	最大径 — 器高 14.4	粗粒安山岩	上面及び側面は丁寧な磨き整形。側面に挽木穴の一部が残る。挽面は摩耗し、目はほとんど残らない。	4.4kg
243-733 131 No2605	石臼 上臼	13号溝 1/5		粗粒安山岩	上面及び側面は比較的丁寧な整形。供給口を有する。挽面はやや荒れて摩耗し、目は残らない。	1.7kg
244-734 131 No2607	石臼 上臼	13号溝 破片		粗粒安山岩	整形は粗雑。供給口を有し、側面には隅丸方形の挽木穴を有する。挽面は摩耗し、やや荒れる。目は残らない。	2.1kg
244-735 131 No2595	石臼 上臼	13号溝 1/5		粗粒安山岩	上面及び側面は丁寧な磨き整形。供給口の一部残る。挽面は摩耗するが、わずかに目が残る。	1.5kg
244-736 131 No2619	不明石製品 (ドーナツ状)	13号溝 1/2	最大径 — 器高 7.0	牛伏砂岩	円盤の上下2面を平坦に加工し、中央部に径2cm程の孔を両面から穿ち、開口部は開く。孔の内面は滑らかではあるが、使用痕か否かは不明。	800g

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目 (cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
244-737 131 No2620	不明石製品 (ドーナツ状)	13号溝 1/2	最大径 — 器高 7.5	粗粒安山岩	縁の相対する2面を平坦に加工し、中央部に径2.5cm程の孔を両面から穿ち、開口部は開く。孔の内面は滑らかではあるが、使用痕か否かは不明。	600g
244-738 131 No2617	石臼 上白	13号溝 2/5	最大径 — 器高 8.2	牛伏砂岩	側面の一部が突出し挽木穴を上面に持つ武蔵型。整形は比較的丁寧だが、上面は平坦ではなく細かな凹凸を有する。上面縁は低い。挽面は摩耗し、目も残らない。	4.8kg 武蔵型石臼
244-739 131 No2655	石臼 下白	13号溝 1/2強	最大径 31.7 器高 15.1	粗粒安山岩	上・側面部の縁を欠損。比較的丁寧な整形。挽面はかなり偏減りし、摩耗。目は残らない。	8.0kg
244-740 131 No2621	石臼 下白	13号溝 1/2	最大径 — 器高 7.5	粗粒安山岩	形状はややいびつ、整形は面を整える程度。挽面はかなり摩耗するが、偏減りはしない。目は磨減し残らない。廃棄破砕後に火を受けた痕跡有り。	5.3kg
244-741 131 No2623	石臼 下白	13号溝 2/5	最大径 — 器高 11.4	粗粒安山岩	側・底面は工具痕を残すものの比較的丁寧な整形。挽面は摩耗し、やや偏減りする。目は磨減し残らない。	5.4kg
244-742 131 No2654	石臼 下白	13号溝 2/5	最大径 32.0 器高 11.3	粗粒安山岩	側面及び底面えぐり部は比較的丁寧な整形。挽面は摩耗し、目は残らない。	8.2kg
244-743 131 No2624	石臼 下白	13号溝 1/4	最大径 — 器高 9.2	粗粒安山岩	形状はいびつで、整形も面を整える程度。挽面はかなり摩耗し、やや偏減りする。目は磨減し残らない。	2.5kg
245-744 131 No2625	石臼 下白	13号溝 破片	最大径 — 器高 10.0	粗粒安山岩	側面は工具痕を残す。挽面は摩耗し、目はわずかに残る程度。	2.0kg
245-745 131 No2627	石臼 下白	13号溝 1/5		粗粒安山岩	側面及び下面えぐり部は比較的丁寧な整形。挽面は摩耗するが、1.5～2cm間隔の目が薄く残る。	2.5kg
245-746 131 No2626	石臼 下白	13号溝 破片	最大径 — 器高 6.5	粗粒安山岩	外周縁部が所々欠損。形状はややいびつだが、比較的丁寧な整形。挽面は摩耗し、2.5～3.5cm間隔の荒い目が、わずかに残る。	1.3kg
245-747 131 No2107	石臼 下白	13号溝 1/4	最大径 — 器高 12.4	粗粒安山岩	穀臼下白で、主溝と副溝との差少ない。周囲は剥落のような欠損。	6.4kg
245-748 131 No2637	石臼(茶白) 上白	13号溝 1/3		粗粒安山岩	上面の縁部を欠損。上面及び側面は丁寧な磨き整形。側面に方形の挽木穴を有し、径8cm強の円形の額(座)を持つ。挽面は摩耗し、5～8mm間隔の目が僅かに残る。	1.9kg
245-749 131 No2636	石臼(茶白) 上白	13号溝 1/3	最大径 — 器高 11.5	粗粒安山岩	上面及び側面は丁寧な磨き整形。側面に円形の挽木穴の一部を有するが、額(座)は持たない。挽面は摩耗しわずかに2～4mm間隔の目を残す。	1.5kg
245-750 131 No2660	石鉢	13号溝 破片		粗粒安山岩	口縁～底部破片。体部は内湾せず斜めに開く。内外面共に丁寧な磨き整形。	450g
245-751 131 No2658	石鉢	13号溝 破片		粗粒安山岩	底部～体部のみ残る。内面は丁寧な磨き、外面はわずかに工具痕を残すが磨き整形。内面底部付近のみ研磨による磨減が認められる。	900g
245-752 131 No2123	石鉢	13号溝 完形	最大径 18.3 器高 14.6	粗粒安山岩	器形はやや縦長で、体部は直立気味に立ち上がる。底部は平坦。外面は比較的丁寧な仕上げ。内面は擂鉢状を呈し、やや摩耗する。	5.7kg
245-753 131 No2122	石鉢	13号溝 口縁～底部 1/2	最大径 26.8 器高 15.5	粗粒安山岩	器形は均整がとれ、外面は成形のみで、磨き仕上げはない。内面も整形痕・使用痕無く未成品か。底面は浅く皿状に凹む。	5.2kg
245-754 131 No2667	石鉢	13号溝 破片		粗粒安山岩	口縁～底部破片。体部はやや浅く、開き気味。内外面共に工具痕を少し残す程度の整形。	450g
245-755 132 No2657	石鉢	13号溝 1/5	口径 — 底径 13.4 器高 —	粗粒安山岩	外面は底面を含め工具痕を残すものの丁寧な磨き整形。片口部を残し、内面は底部付近に著しい磨減が認められる。	1.2kg
245-756 132 No2666	石鉢	13号溝 1/5		粗粒安山岩	浅く小型の石鉢。口縁及び内面は丁寧な磨き整形。外面は工具痕を残す。内面は全体に磨減。	400g

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
245-757- 132 No2656	石鉢	13号溝 3/5	口径 — 底径 24.0 器高 —	粗粒安山岩	体部は深く、あまり開かず立ち上がる。全体に整形は粗。内面も外面と同程度の整形。	10.2kg
245-758 — No2661	石鉢	13号溝 口縁へ体部 破片		粗粒安山岩	体部外面は細かい工具痕を残し、軽く磨く。内面は使用により摩耗する。	800g
246-759 132 No2651	凹石	13号溝 完形	長さ 17.8 幅 11.1 厚さ 5.7	粗粒安山岩	自然石の1面にすり鉢状の凹みを有し、凹み内面は研磨される。	1.2kg
246-760 132 No2650	凹石	13号溝 完形	長さ 15.6 幅 15.6 厚さ 8.5	粗粒安山岩	自然石の1面に浅い凹みを有する。凹み内面はあまり研磨されず、細かい凹凸を有する。	2.3kg
246-761 132 No2652	台石	13号溝 完形	長さ 15.1 幅 15.0 厚さ 7.5	粗粒安山岩	上下面は緩やかな凸面で、片面のみその中央に浅い凹みを有する。凸面は研磨され、凹み内面は円形に削痕が残る。	2.9kg
246-762 132 No2115	凹石	13号溝 完形	長さ 19.4 幅 23.1 厚さ 11.0	粗粒安山岩	自然石の表裏2ヶ所に浅い皿状の凹みを有し、凹みの内面はやや摩耗する。	4.2kg
246-763 132 No2647	凹石	13号溝 1/2	長さ — 幅 — 厚さ 5.0	粗粒安山岩	自然石の1面にすり鉢状の凹みを有する。	550g
246-764 132 No2648	凹石	13号溝 1/2	長さ 11.0 幅 — 厚さ 6.7	粗粒安山岩	自然石の1面にすり鉢状の凹みを有し、凹みの内面は研磨される。	550g
246-765 132 No2645	凹石	13号溝 1/2	長さ — 幅 — 厚さ 7.3	粗粒安山岩	自然石の上面のみ研磨し平坦面を造り出し、中央部にすり鉢状の凹みを有する。凹みの内面も研磨される。	900g
246-766 132 No2649	凹石	13号溝 1/2	長さ — 幅 — 厚さ 6.8	粗粒安山岩	自然石の上下2面にすり鉢状の凹みを有する。凹みは片面が極めて深く、他方は浅い。	1.0kg
246-767 — No2653	台石	13号溝 完形	最大径 16.0 器高 8.0	粗粒安山岩	自然石の一面に細かい叩き痕と研磨による平坦面とを有する。	2.0kg
246-768 132 No2581	宝塔 塔身部	13号溝 破片		粗粒安山岩	塔身上端部破片。推定径30cm強の小型宝塔塔身。塔身上端に段を持ち立ち上がる、いわゆる赤城塔型の宝塔。整形は丁寧な磨き仕上げ。	800g
246-769 132 No2757	板碑	13号溝 上部破片?	厚さ 1.5	緑色片岩	碑面の磨滅は少。枠線コーナー部分のみ残る。右肩部破片か。	250g
246-770 132 No2754	板碑	13号溝 破片	厚さ 2.0	緑色片岩	裏面に幅12.0mm程の工具痕が横方向に残る。	430g
246-771 132 No2761	板碑	13号溝 文部破片	厚さ 2.5	緑色片岩	碑面は磨滅少、剥落大。「順名字」の文字と枠線の一部のみが残る。枠線との位置関係から、文の一部か。	1.1kg
246-772 — No2764	板碑	13号溝 破片	厚さ 2.0	緑色片岩	碑面やや磨滅。葉研彫りの脇侍種子の一部らしきもののみ残る。	170g
246-773 132 No2759	板碑	13号溝 破片	厚さ 2.0	緑色片岩	碑面やや磨滅。浅い竹彫りの蓮座花弁らしきものあれど不明。	550g
246-774 132 No2763	板碑	13号溝 中位破片		緑色片岩	上端に蓮座の一部が残る。部位的に紀年銘部だが、磨滅し判読不可。	1.2kg
246-775 — No2760	板碑	13号溝 上部破片	厚さ 2.5	緑色片岩	小型板碑。碑面やや磨滅。葉研彫り阿弥陀種子。	310g
246-776 132 No2758	板碑	13号溝 主導部破片	厚さ 2.0	緑色片岩	小型板碑。碑面の磨滅は少なく、粗い葉研彫りの阿弥陀種子の一部(アク点)及び二条線の一部が残る。	340g



第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
246-777 — No3002	木製 椀	13号溝	底径 4.8	木製品	外面に施文らしき線が見える。	
247-778 132 No3013	木製 容器	13号溝	直径(22.7)	木製品	曲物の底板とも思え、周縁に沿い1.05cmの幅で一段下りの縁取りがある。	
247-779 132 No3012	木製 桶側板か	13号溝	長さ 17.4	木製品	桶の側板と考えられ、年輪と桶の円弧と近似する。	
247-780 132 No3034	木製 板状	13号溝	長さ 24.2	木製品	薄い材で用途不明。	
247-781 132 No3028	木製 棒状	13号溝	長さ 28.3	木製品	用途不明である。図上方に組手を思わせる作り出しと釘穴あり。	
247-782 133 No3009	木製 板状	13号溝	長さ 20.8	木製品	桶側板のように見えるが薄い。	
247-783 133 No3016	木製 板状	13号溝	長さ 40.0	木製品	桶側板のように見えるが少し薄い。木目は図表側で柾目流れる。	
247-784 132 No3014	木製 棒状	13号溝	長さ 11.5	木製	年輪の芯は材の中央側にあり、本来から小材らしい。	
247-785 132 No3047	木製 杭か	13号溝	長さ 19.0	木製	杭らしく先端が削られ尖がる。年輪は芯まであり、もともと小材らしい。	
247-786 133 No3046	木製 不明	13号溝	長さ 64.7	木製品	上方を花卉形に刻む。周囲に沿って、釘穴があり別材が留められていたらしい。	

14号溝

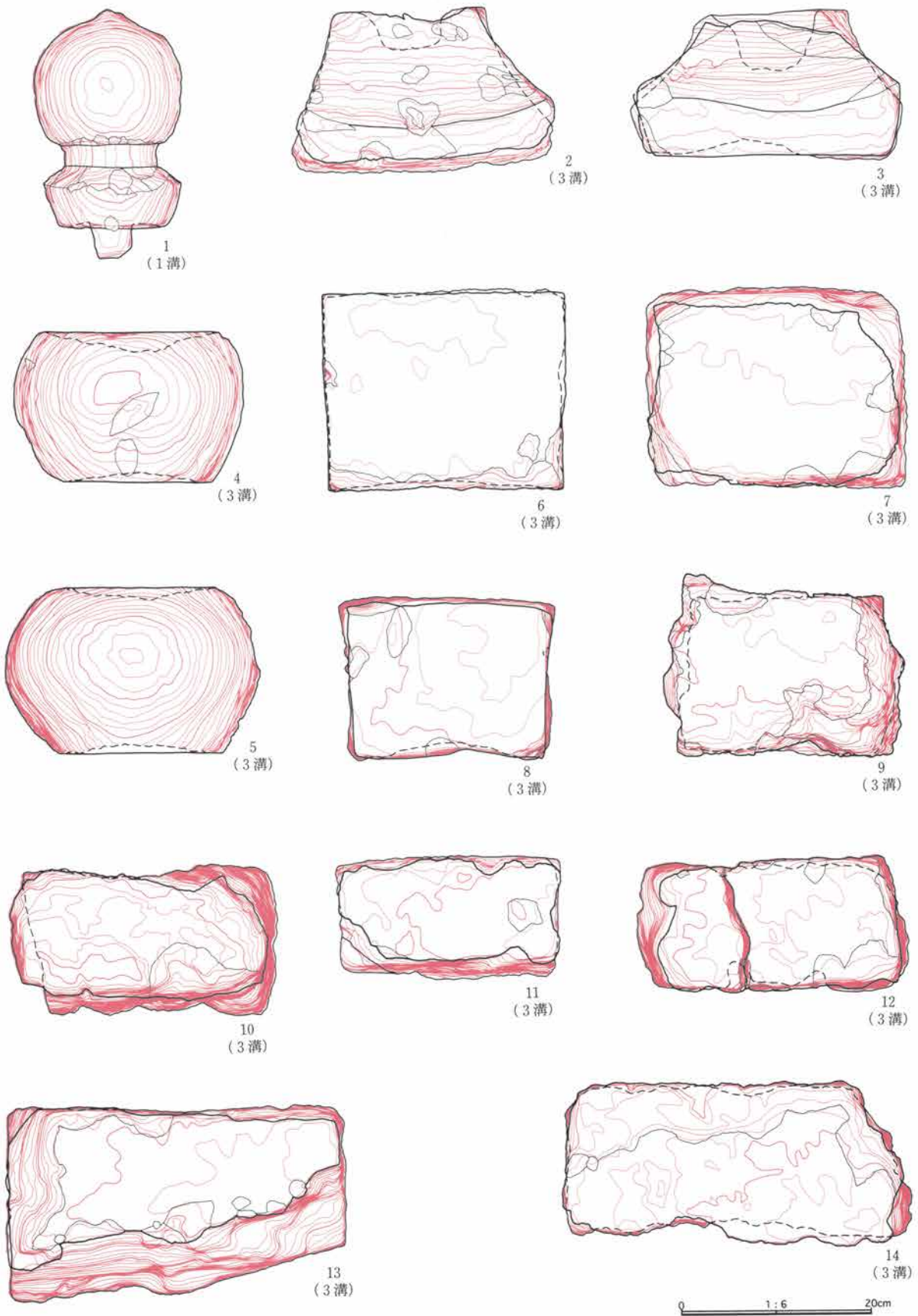
248-787 133 No1366	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	14号溝 口縁～底部 破片	口径(33.4) 底径(6.2) 器高 30.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：褐色～黒褐色	口縁端部は平坦で、明瞭な稜を有す。内面体部中位に段を有す。耳は細い円筒状を呈し、下方は体部に着く。	
248-788 133 No1098	女瓦	14号溝			瓦一覧表(4)参照	
248-789 — No1101	女瓦	14号溝			瓦一覧表(4)参照	
248-790 — No1099	女瓦	14号溝			瓦一覧表(4)参照	
248-791 — No1100	女瓦	14号溝			瓦一覧表(4)参照	
248-792 133 No2767	板碑	14号溝 上部破片?	厚さ 2.5	緑色片岩	小型板碑。碑面の磨滅・剥落大。浅い竹彫りの阿弥陀種子らしき痕跡あれど不明。	650 g

15号溝

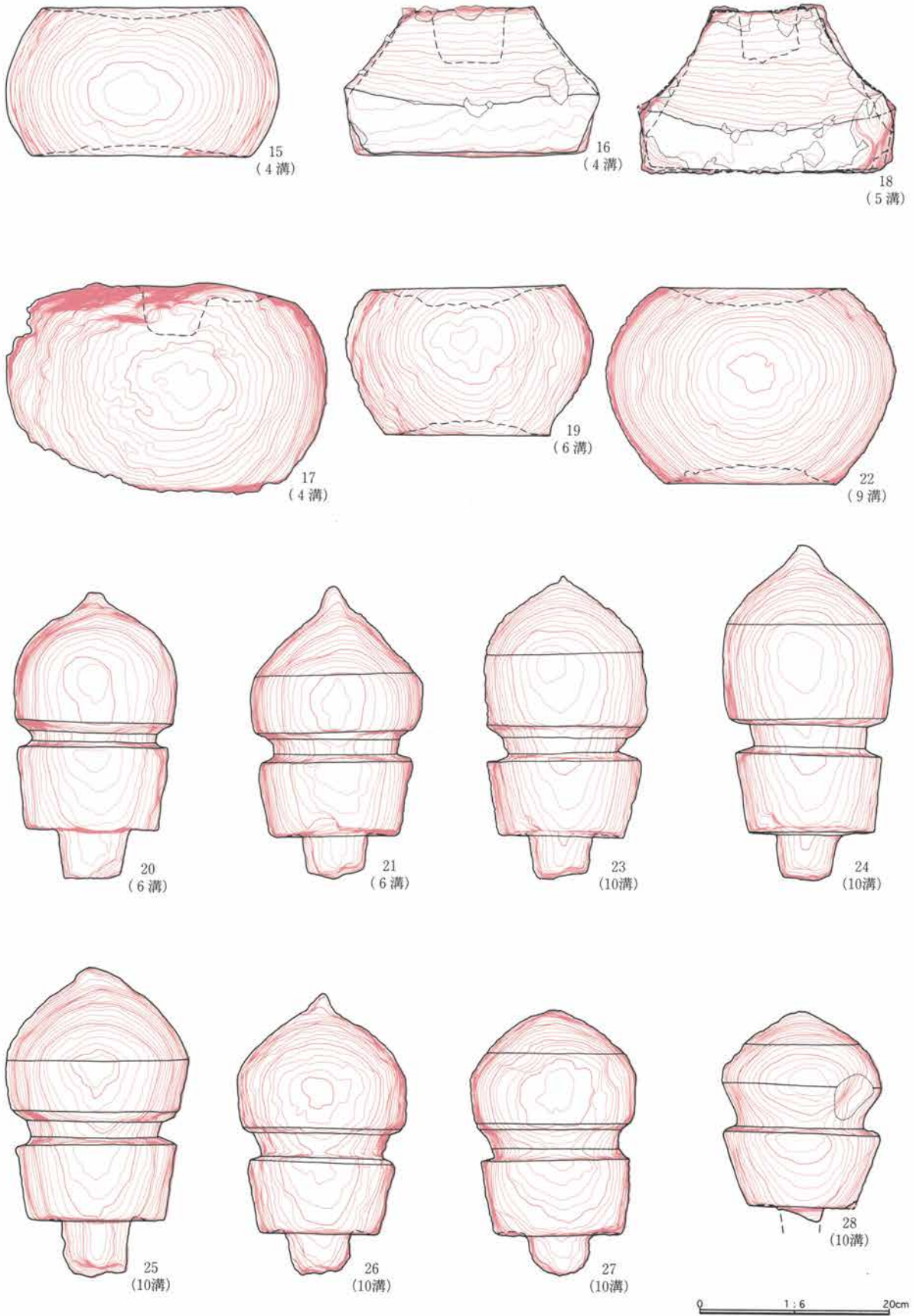
248-793 — No1106	女瓦	15号溝			瓦一覧表(4)参照	
249-794 133 No2668	石臼 下臼	15号溝 1/4	最大径 — 器高 11.5		側面及び底面えぐり部は、工具痕の粗い凹凸を全面に残す。挽面は摩耗が少なく2cm間隔の深い目が残る。	6.8kg

### 第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
249-795 133 No.3008	木製 板状	15号溝	長さ 27.7	木製	種は不明である。木目は柾目気味である。	
249-796 133 No.3037	木製 板状	15号溝	長さ 25.1	木製	種は不明である。木目は柾目気味である。	
249-797 133 No.3006	木製 杭状	15号溝	長さ 15.4	木製	年輪は材の芯にあり、もともと小材らしい。下方の先端に切られた面あり。	
249-798 133 No.3007	木製 杭状	15号溝	長さ 21.4	木製	年輪は材の芯にあり、もともと小材らしい。下方の先端に杭端の削りあり。	

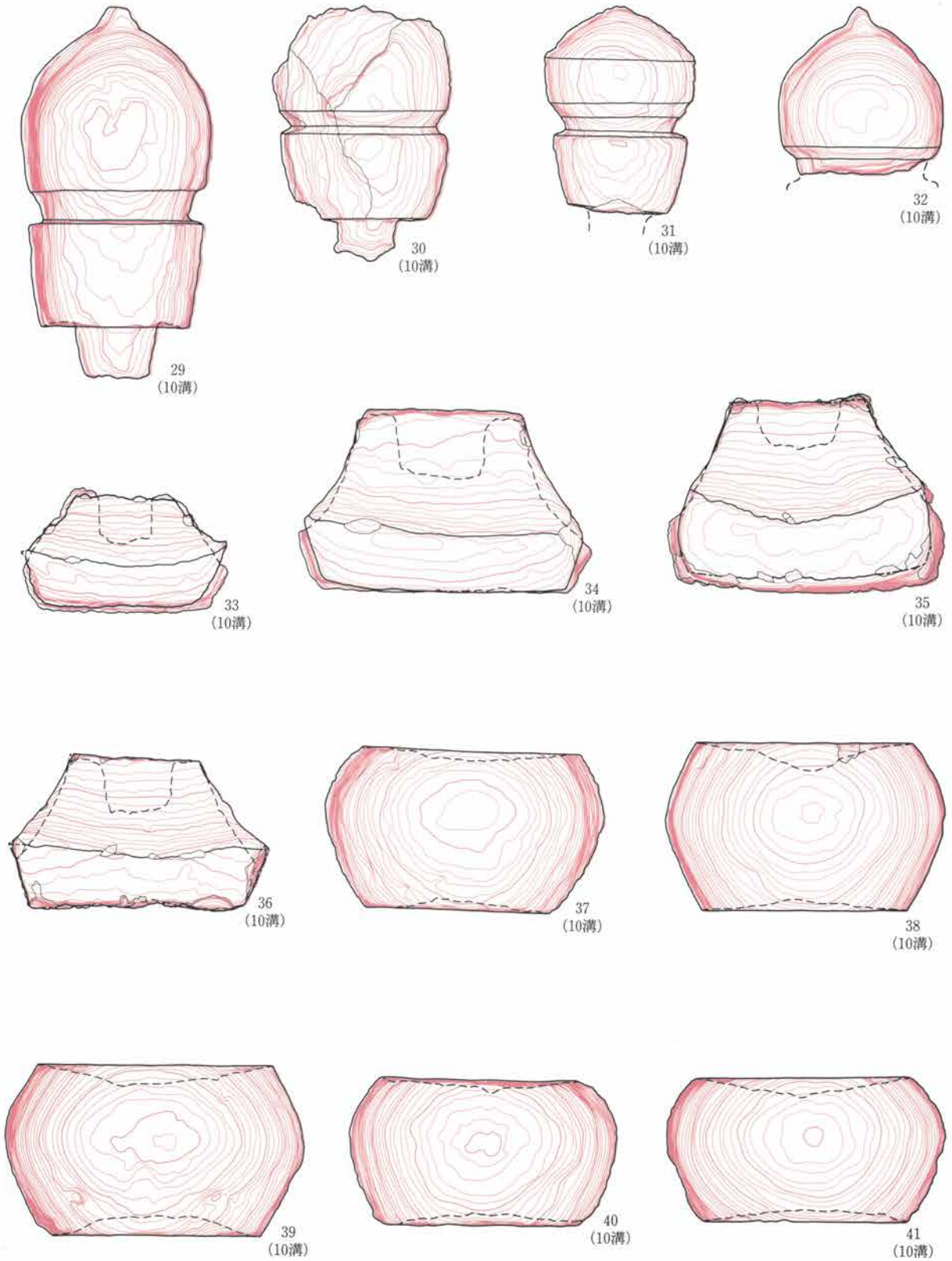


第250図 溝跡等出土石造物・石製品



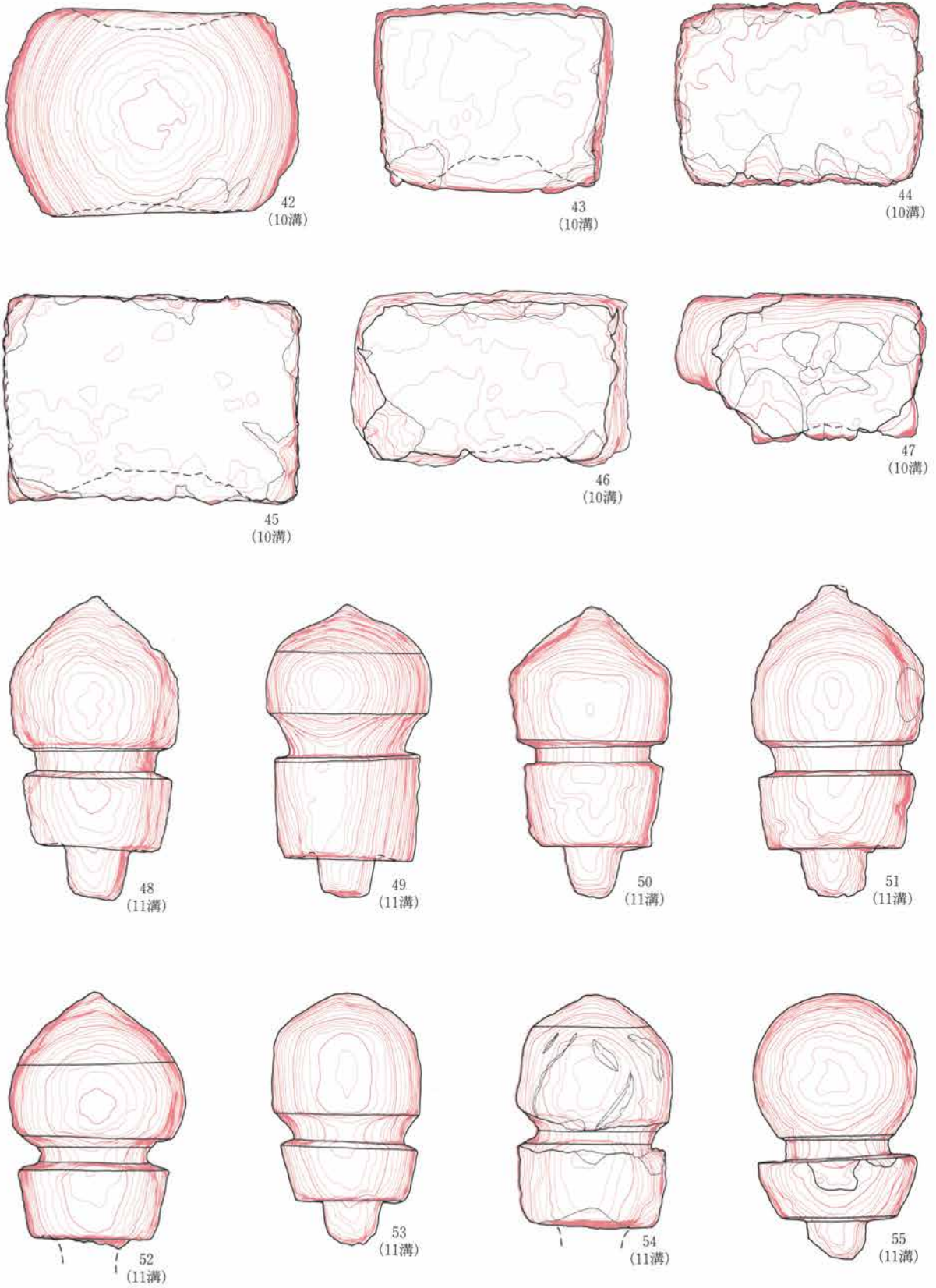
第251図 溝跡等出土石造物・石製品



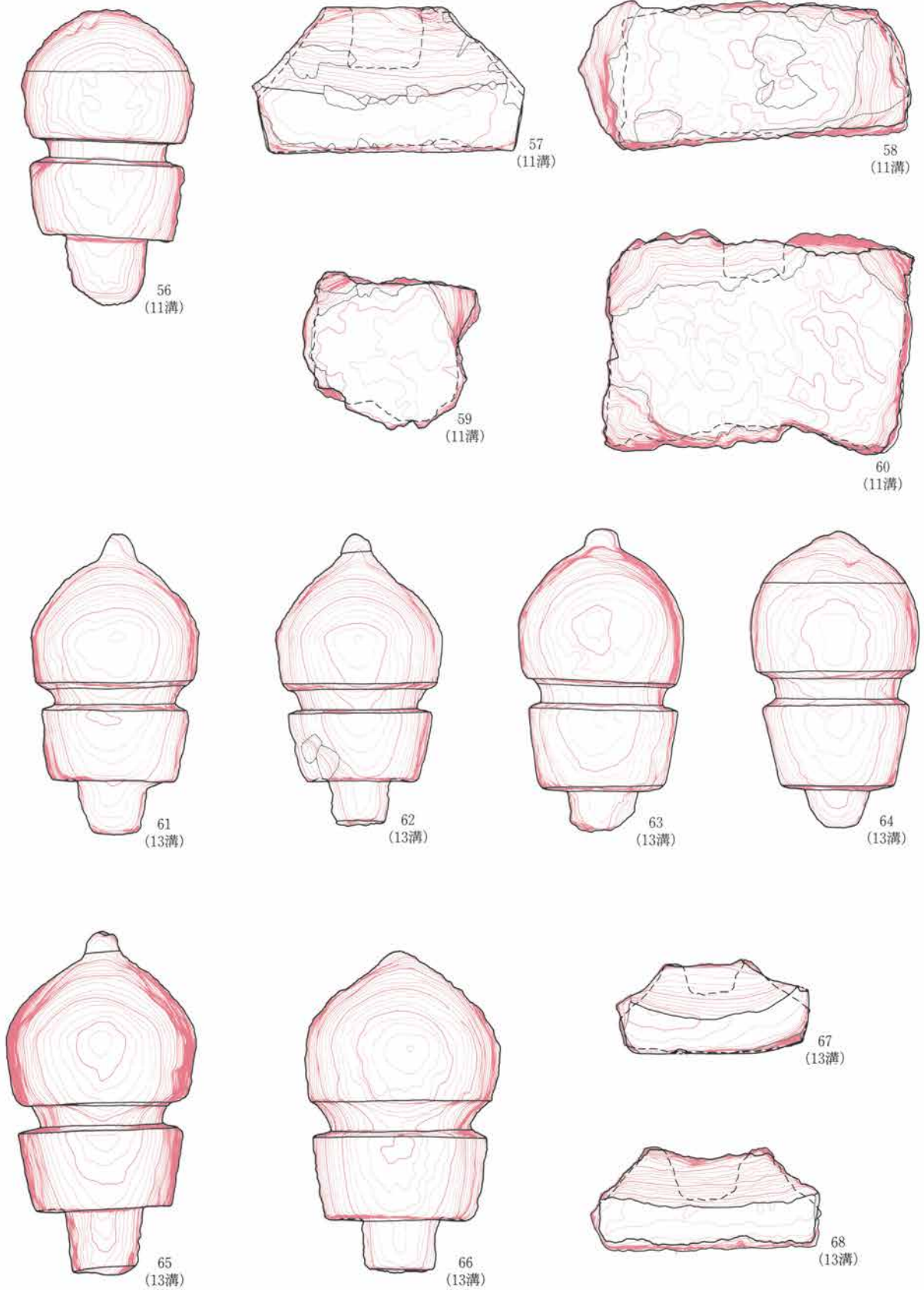


0 1:6 20cm

第252図 溝跡等出土石造物・石製品



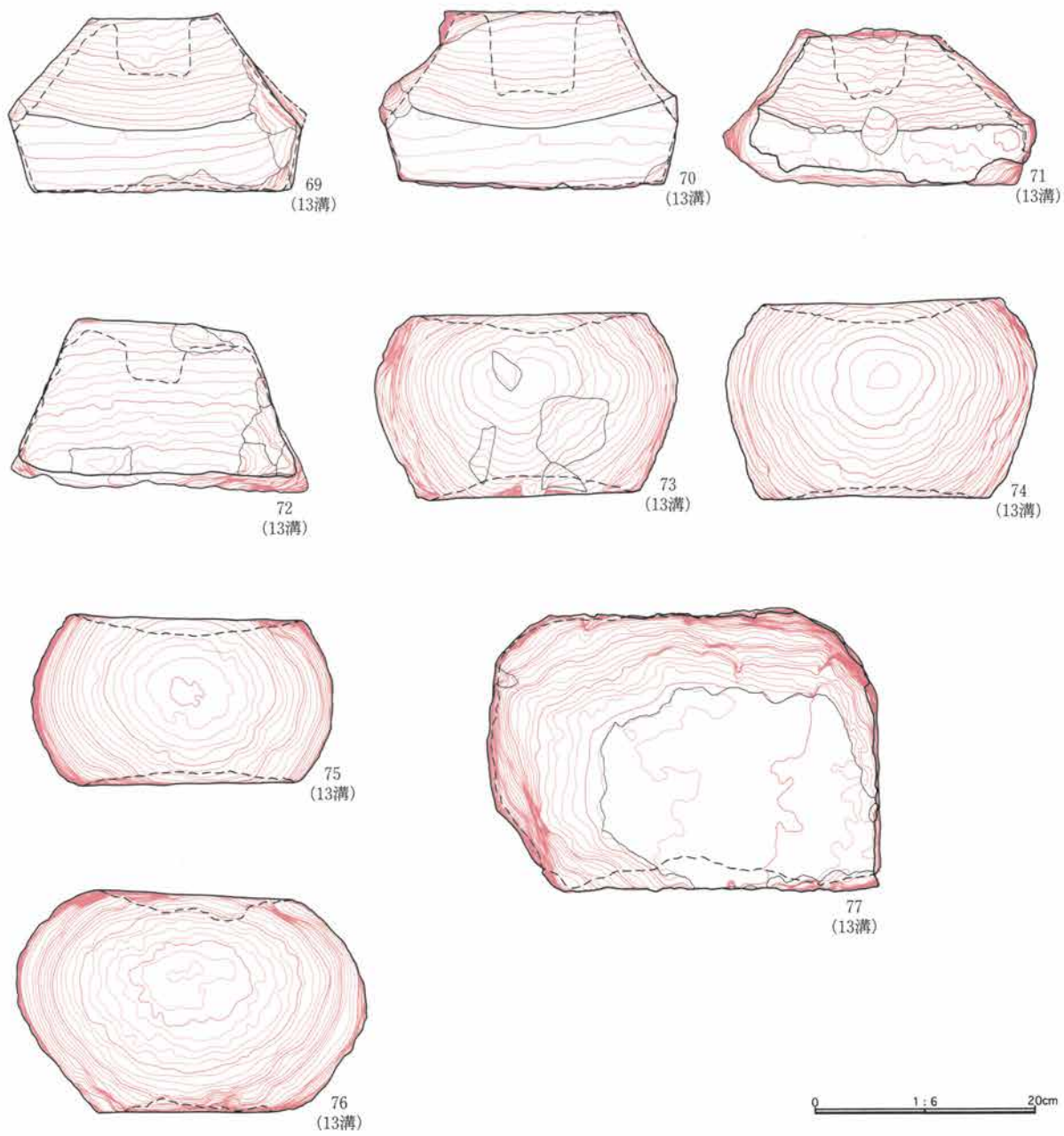
第253図 溝跡等出土石造物・石製品



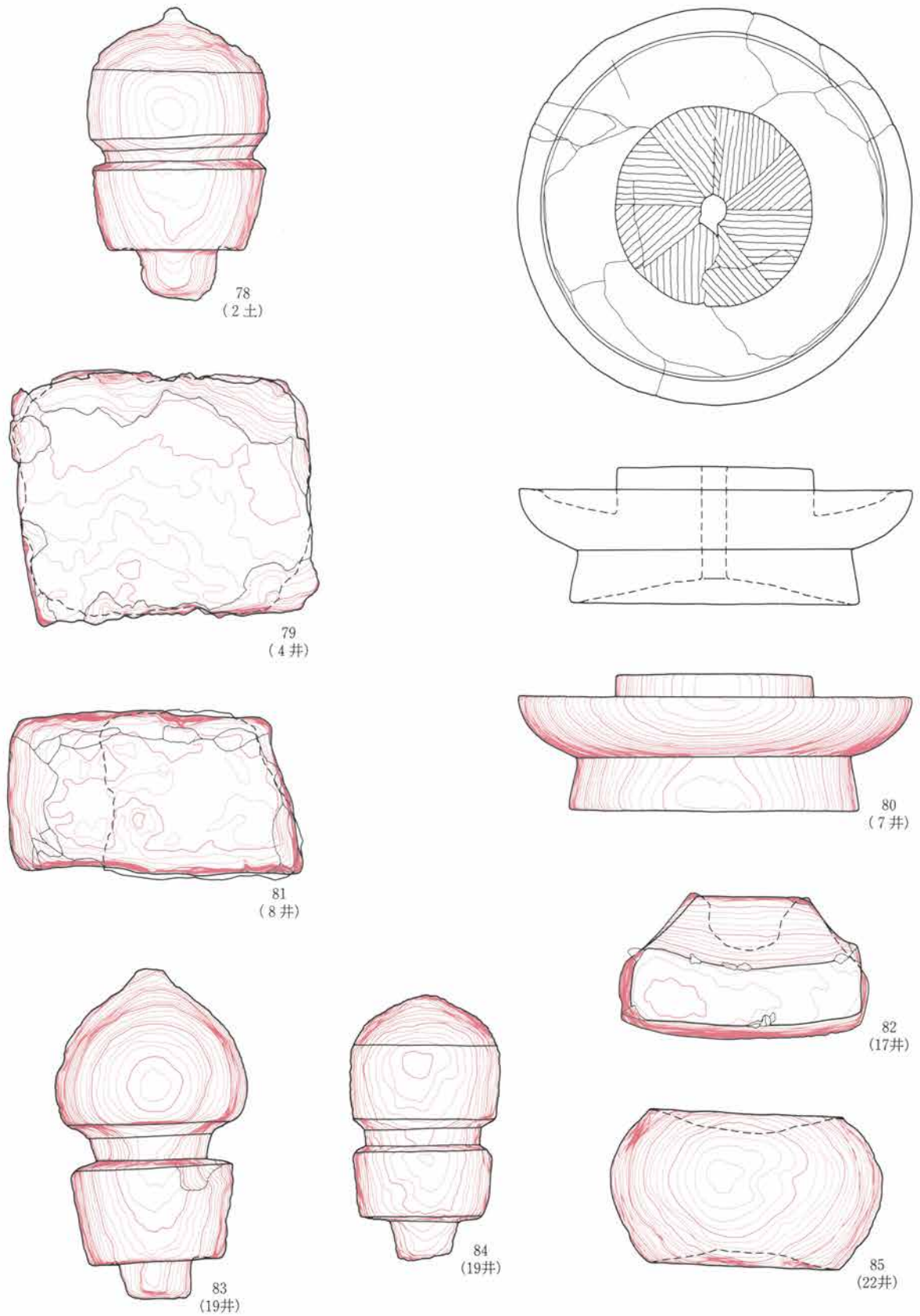
0 1:6 20cm

第254図 溝跡等出土石造物・石製品

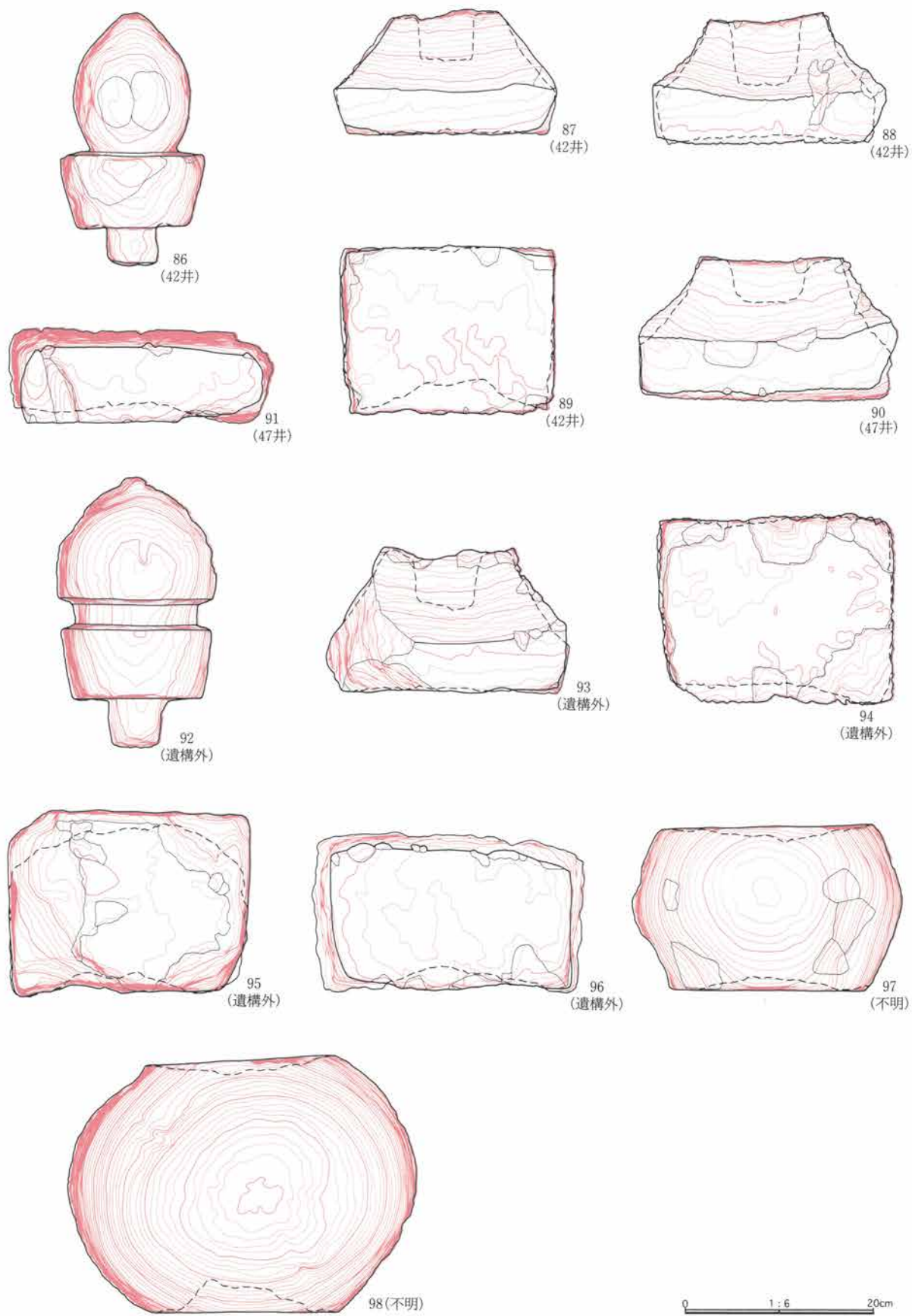




第255図 溝跡等出土石造物・石製品



第256図 井戸跡等出土石造物・石製品



第257図 井戸跡等出土石造物・石製品



五輪塔観察表

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
250-1 — No2070	五輪塔 空風輪	1号溝 一部欠損	最大幅 15.5 高さ 25.6	角閃石安山岩	やや磨滅、風輪端部破損。形状は空輪部に丸みを帯び、風輪部は空輪の三分の一程度。基部突起極小。整形は軽く表面を磨く。	4.4kg
250-2 — No2003	五輪塔 火輪	3号溝 完形	最大幅 28.0 高さ 16.6	粗粒安山岩	磨滅大。形状はややいびつで、四隅はやや反り、底面も反り上がる。整形は不良。底面に円形の変色があり、水輪の痕跡か。	14.0kg
250-3 — No2006	五輪塔 火輪	3号溝 完形	最大幅 28.3 高さ 15.4	粗粒安山岩	磨滅少。形状はややいびつで、四隅はやや反り、底面は反り上がらず中央付近が皿状に凹む。整形は良好。	12.2kg
250-4 — No2046	五輪塔 水輪	3号溝 完形	最大幅 24.0 高さ 15.6	角閃石安山岩	やや磨滅・破損。形状はややいびつ。最大径は比較的上位にあり、下面径が若干小さく、胴は張らず、上下面は皿状に凹む。整形は粗雑。	9.1kg
250-5 — No2055	五輪塔 水輪	3号溝 完形	最大幅 26.6 高さ 17.2	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状はややいびつで、楕円形を呈する。最大径が中位やや上にあり、胴がやや張る。上下面は浅く皿状に凹み、整形は表面を磨く。	12.7kg
250-6 — No2032	五輪塔 地輪	3号溝 完形	最大幅 25.5 高さ 21.0	粗粒安山岩	磨滅・破損極少。形状は均質な立方体を呈し、底面は皿状に凹む。整形は表面を丁寧に磨く。	27.7kg
250-7 — No2031	五輪塔 地輪	3号溝 完形	最大幅 27.0 高さ 21.6	粗粒安山岩	磨滅少、破損大。形状は高さが低く横長の直方体を呈し、整形は粗雑で表面に工具痕を残す。	21.0kg
250-8 — No2022	五輪塔 地輪	3号溝 完形	最大幅 22.5 高さ 16.9	角閃石安山岩	磨滅少。形状は下方に狭い逆台形状を呈し、整形は良好で表面を磨く。	12.4kg
250-9 — No2030	五輪塔 地輪	3号溝 一部欠損	最大幅 25.2 高さ 19.0	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状はほぼ立方体を呈す。整形はやや粗雑で凹凸が残る。上面に黒く不定形の変色が見られる。	11.1kg
250-10 — No2045	五輪塔 地輪	3号溝 3/4	最大幅 28.0 高さ 10.6	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状はややいびつで、整形も粗雑。	11.7kg
250-11 — No2026	五輪塔 地輪	3号溝 3/4	最大幅 23.5 高さ 12.8	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状は高さの低い直方体を呈し、底面は皿状に凹む。整形は面を整える程度。	15.6kg
250-12 — No2035	五輪塔 地輪	3号溝 3/4	最大幅 28.3 高さ 14.2	粗粒安山岩	磨滅・破損大。形状は横長の直方体を呈し、整形は粗雑で面を整える程度。	10.4kg
250-13 141 No2038	五輪塔 地輪	3号溝 2/3	最大幅 35.3 高さ 22.5	流紋岩質凝灰岩	磨滅少、破損大。形状はやや横長の直方体を呈し、整形は表面を丁寧に磨く。	15.6kg
250-14 141 No2033	五輪塔 地輪	3号溝 完形	最大幅 36.5 高さ 17.0	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状は横長の直方体を呈し、整形は面を整える程度。上面中央が黒く円形に変色し、水輪の痕跡か。	17.1kg
251-15 141 No2047	五輪塔 水輪	4号溝 完形	最大幅 28.6 高さ 15.5	粗粒安山岩	やや磨滅し破損少。形状はややいびつで、楕円形を呈する。最大径はやや上位にあり、下面径は若干小さく、上下面は浅く皿状に凹む。整形は丁寧に面を磨く。	13.0kg
251-16 141 No2011	五輪塔 火輪	4号溝 完形	最大幅 26.8 高さ 15.7	粗粒安山岩	磨滅少。形状は均整がとれ良好。四隅はやや反り、底面は反り上がる。整形は良好で表面を磨く。	13.4kg
251-17 141 No2053	五輪塔 水輪	4号溝 一部欠損	最大幅 33.6 高さ 22.4	流紋岩質凝灰岩	磨滅少、破損大。形状は最大径が中位やや上にあり、胴は張らない。上下面は平坦で、上面は径5cm程の穴を穿つ。整形は表面を磨く。	20.7kg
251-18 141 No2020	五輪塔 火輪	5号溝 完形	最大幅 26.7 高さ 18.7	粗粒安山岩	やや磨滅し破損大。形状は均整がとれ、四隅はやや反り底面は平坦。整形は良好。	12.4kg
251-19 141 No2049	五輪塔 水輪	6号溝 完形	最大幅 26.0 高さ 15.7	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状はいびつで、最大径は上位にあり、胴はあまり張らない。上下面は皿状に凹み、整形は粗雑。	9.0kg
251-20 141 No2094	五輪塔 空風輪	6号溝 一部欠損	最大幅 17.3 高さ 29.5	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状は均質で側面は直線的。空輪部上方のみ丸みを帯びる。整形は軽く表面を磨く。	8.5kg

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
251-21 141 No2086	五輪塔 空風輪	6号溝 完形	最大幅 18.4 高さ 30.1	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状は均質で空風輪部が小さく、上方が直線的に延びる。整形は軽く表面を磨く。	7.5kg
251-22 141 No2058	五輪塔 水輪	9号溝 完形	最大幅 30.3 高さ 20.4	粗粒安山岩	磨滅・破損少。成形は丁寧、形状は最大径が中位やや上になり、やや胴が張る。上下面は皿状に凹み、整形は丁寧で表面を磨く。	19.3kg
251-23 141 No2071	五輪塔 空風輪	10号溝 完形	最大幅 17.0 高さ 31.5	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状はややいびつで、側面は直線的。整形は面を整える程度。	6.1kg
251-24 141 No2068	五輪塔 空風輪	10号溝 完形	最大幅 17.8 高さ 35.0	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状は空輪部が細長くやや丸みを帯び、風輪部は空輪の半分弱。整形は丁寧に表面を磨く。	8.0kg
251-25 141 No2092	五輪塔 空風輪	10号溝 完形	最大幅 19.4 高さ 32.0	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状は均質で側面は直線的。整形は表面を磨く。	9.9kg
251-26 141 No2067	五輪塔 空風輪	10号溝 完形	最大幅 17.7 高さ 29.1	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状は空輪部にやや丸みを帯び、風輪部は空輪の半分強。整形は面を整える程度。	7.1kg
251-27 141 No2089	五輪塔 空風輪	10号溝 完形	最大幅 17.6 高さ 27.1	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状はややいびつ。空輪部は小さくやや丸みを帯びる。整形は一部に工具痕を残す。	6.8kg
251-28 141 No2090	五輪塔 空風輪	10号溝 一部欠損	最大幅 16.1 高さ —	粗粒安山岩	磨滅少。基部突起一部破損。形状は均質で、空輪部は小さく風輪部とほぼ等しい。整形は一部に工具痕を残す。	5.5kg
252-29 142 No2098	五輪塔 空風輪	10号溝 完形	最大幅 18.6 高さ 38.0	粗粒安山岩	大型。やや磨滅・破損。形状はややいびつで、全体に細長く、側面は直線的。整形は軽く面を整える程度。	13.8kg
252-30 142 No2072	五輪塔 空風輪	10号溝 2/3	最大幅 18.3 高さ —	粗粒安山岩	磨滅少、破損甚大。形状は空風輪部にやや丸みを帯び、風輪部は空輪部の半分強。整形は軽く表面を磨く程度。	6.7kg
252-31 142 No2077	五輪塔 空風輪	10号溝 一部欠損	最大幅 15.5 高さ —	二ツ岳軽石	小型。やや磨滅、基部突起欠損。形状はややいびつで、側面は直線的。整形は軽く面を整える程度で、一部に工具痕を残す。	1.9kg
252-32 142 No2078	五輪塔 空風輪	10号溝 1/2	最大幅 16.8 高さ —	粗粒安山岩	空輪部のみで下半部欠損。やや磨滅。形状は空輪部に丸みを帯びる。整形は面を整える程度。	3.8kg
252-33 142 No2005	五輪塔 火輪	10号溝 完形	最大幅 21.0 高さ 12.5	粗粒安山岩	小型。磨滅大。形状はいびつで、四隅はやや反り底面も反り上がる。整形は粗雑。	5.6kg
252-34 142 No2013	五輪塔 火輪	10号溝 完形	最大幅 30.1 高さ 18.7	粗粒安山岩	磨滅少。形状はいびつで、四隅はやや反り、底面は平坦。整形は良好で表面を磨く。	12.6kg
252-35 142 No2010	五輪塔 火輪	10号溝 完形	最大幅 28.2 高さ 21.3	粗粒安山岩	磨滅少。形状は均整がとれ良好。四隅は反り、底面も大きく反り上がる。また、上面はすり鉢状を呈する。整形は良好で表面を磨く。	16.6kg
252-36 142 No2009	五輪塔 火輪	10号溝 完形	最大幅 26.1 高さ 16.0	粗粒安山岩	磨滅少。形状は均整がとれ良好。四隅はあまり反らず、底面も平坦。整形は良好で表面を磨く。	11.6kg
252-37 142 No2052	五輪塔 水輪	10号溝 完形	最大幅 28.6 高さ 16.2	粗粒安山岩	やや磨滅、破損少。形状は最大径が上位にあり、やや胴が張る。上下面は浅く皿状に凹み、丁寧な造り。整形は上下面を除き表面を磨く。	15.3kg
252-38 142 No2064	五輪塔 水輪	10号溝 完形	最大幅 28.4 高さ 17.0	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状は均整がとれ、最大径が中位やや上になり、下面径が小さい。上下面は浅く皿状に凹み、整形は表面を磨く。	16.6kg
252-39 142 No2056	五輪塔 水輪	10号溝 完形	最大幅 30.6 高さ 17.3	粗粒安山岩	磨滅。破損極少。成形は丁寧、形状は最大径が中位やや上になり、下面径が小さい。整形は丁寧に表面を磨くが、上下面に斜方向の細かい工具痕を残す。	15.0kg
252-40 142 No2061	五輪塔 水輪	10号溝 完形	最大幅 27.4 高さ 15.1	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状は均整がとれ、最大径が中位にあり、胴があまり張らない。上下面は皿状に凹み、整形は丁寧に表面を磨く。	14.7kg

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
252-41 142 No2063	五輪塔 水輪	10号溝 完形	最大幅 28.0 高さ 14.7	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状はややいびつで、楕円形を呈し、最大径が上位にあるが高さは低く、上下面が皿状に凹む。整形は軽く表面を磨く。	13.7kg
253-42 142 No2059	五輪塔 水輪	10号溝 完形	最大幅 30.0 高さ 21.3	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状は最大径が中位やや上であり、胴があまり張らない。上下面は皿状に凹み、整形は軽く表面を磨く。	22.8kg
253-43 142 No2021	五輪塔 火輪	10号溝 完形	最大幅 22.5 高さ 18.5	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状は下方に狭い逆台形状を呈し、底面がすり鉢状に凹む。整形は良好で表面を磨く。	17.0kg
253-44 142 No2034	五輪塔 地輪	10号溝 一部欠損	最大幅 25.5 高さ 18.9	粗粒安山岩	磨滅・破損大。形状は立方体に近く、整形は面を整える程度。上面中央が黒く円形に変色し、水輪の痕跡か。	14.4kg
253-45 142 No2041	五輪塔 地輪	10号溝 完形	最大幅 30.3 高さ 21.5	角閃石安山岩	大型。磨滅・破損少。形状はやや高さの低い立方体を呈し、底面は皿状に凹む。整形は丁寧に表面を磨く。	25.5kg
253-46 143 No2027	五輪塔 地輪	10号溝 3/4	最大幅 — 高さ 17.9	角閃石安山岩	磨滅少、破損大。形状は高さの低い直方体を呈し、整形は丁寧に底面を除く面を磨く。	11.9kg
253-47 143 No2024	五輪塔 地輪	10号溝 一部欠損	最大幅 — 高さ 15.2	角閃石安山岩	磨滅・破損大。形状は高さの低い直方体を呈し、整形は粗雑で工具痕を残す。	7.1kg
253-48 143 No2069	五輪塔 空風輪	11号溝 略完形	最大幅 17.3 高さ 30.5	粗粒安山岩	磨滅・破損大。形状は空輪部に丸みを帯び、風輪部は空輪の半分程度。整形は軽く表面を磨く。	7.0kg
253-49 143 No2073	五輪塔 空風輪	11号溝 完形	最大幅 16.9 高さ 29.7	粗粒安山岩	磨滅・破損極少。形状は空輪部が小さく、風輪とほぼ等しい。括れ部も大きい。整形は丁寧に表面を磨く。	8.3kg
253-50 143 No2079	五輪塔 空風輪	11号溝 完形	最大幅 16.8 高さ 29.2	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状は均整がとれ、側面は直線的。整形は軽く面を整える程度で、一部に工具痕を残す。	7.4kg
253-51 143 No2096	五輪塔 空風輪	11号溝 1/2	最大幅 17.9 高さ 31.5	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状は均質で、側面及び空輪上部は直線的。整形は軽く表面を磨く。	7.0kg
253-52 143 No2088	五輪塔 空風輪	11号溝 一部欠損	最大幅 18.5 高さ —	粗粒安山岩	基部欠損。空輪部にやや丸みを帯び、空・風輪の境のくびれは深い。整形は軽く面を整える程度。	5.9kg
253-53 143 No2087	五輪塔 空風輪	11号溝 完形	最大幅 15.4 高さ 25.6	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状は均質で側面は直線的。空輪部が大きく風輪の二倍強。整形は表面を軽く磨く。	4.7kg
253-54 143 No2080	五輪塔 空風輪	11号溝 一部欠損	最大幅 16.3 高さ —	角閃石安山岩	やや磨滅、基部突起欠損。形状はややいびつで、側面は直線的。整形は軽く面を整える程度で、一部に工具痕を残す。	3.7kg
253-55 143 No2074	五輪塔 空風輪	11号溝 一部欠損	最大幅 17.0 高さ 27.0	粗粒安山岩	磨滅・破損大。形状は空輪部に丸みを持ち、ほぼ球体を呈する。大きさも風輪部の二倍強。整形は磨滅のため不明。	6.3kg
254-56 143 No2085	五輪塔 空風輪	11号溝 一部欠損	最大幅 18.2 高さ 30.3	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状は均整がとれ、側面は直線的。空輪部に丸みを帯び、整形は表面を磨く。	7.1kg
254-57 143 No2007	五輪塔 火輪	11号溝 完形	最大幅 28.3 高さ 15.1	粗粒安山岩	磨滅少。形状は均整がとれ、四隅はあまり反らず直線的で底面も平坦。整形は良好で表面を磨く。底面に円形の変色があり、水輪の痕跡か。	14.2kg
254-58 143 No2039	五輪塔 地輪	11号溝 完形	最大幅 34.7 高さ 15.8	粗粒安山岩	磨滅少、破損大。形状は高さの低い横長の直方体を呈し、整形は粗雑で工具痕を残す。	13.3kg
254-59 143 No2036	五輪塔 地輪	11号溝 完形	最大幅 18.5 高さ 16.4	角閃石安山岩	小型。磨滅少、破損大。形状は立方体に近く、整形は面を整える程度。	4.9kg
254-60 143 No2042	五輪塔 地輪?	11号溝 一部欠損	最大幅 32.7 高さ 23.5	粗粒安山岩	大型。磨滅少、やや破損。形状は若干高さの低い立方体を呈し、底面はすり鉢状に凹む。上面のほぼ中央に方形の穴を有する。整形は粗雑で工具痕を残す。	37.7kg

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
254-61 143 No2075	五輪塔 空風輪	13号溝 完形	最大幅 17.5 高さ 31.0	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状はややいびつ。側面は直線的だが空輪上部のみ丸みを帯びる。整形は丁寧に表面を磨く。	8.5kg
254-62 143 No2084	五輪塔 空風輪	13号溝 完形	最大幅 17.5 高さ 29.8	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状は均整がとれ、側面は直線的。空輪部上方が細長く延びる。整形は丁寧に表面を磨く。	7.2kg
254-63 143 No2076	五輪塔 空風輪	13号溝 一部欠損	最大幅 17.4 高さ 31.2	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状は空輪部径が大きく、側面は直線的。整形は軽く表面を磨く。	8.0kg
254-64 143 No2082	五輪塔 空風輪	13号溝 一部欠損	最大幅 17.7 高さ 30.6	角閃石安山岩	磨滅・破損少。形状は均整がとれ、側面は直線的。整形は軽く表面を磨く。	5.9kg
254-65 144 No2095	五輪塔 空風輪	13号溝 完形	最大幅 19.5 高さ 36.0	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状はややいびつ。側面は直線的で空風の境のくびれが深い。整形は粗雑で面を整える程度。	9.3kg
254-66 144 No2083	五輪塔 火輪	13号溝 完形	最大幅 20.0 高さ 33.8	粗粒安山岩	大型。磨滅・破損極少。形状は均整がとれ、側面は直線的。整形は丁寧に表面を磨く。	9.8kg
254-67 144 No2008	五輪塔 火輪	13号溝 完形	最大幅 20.1 高さ 9.8	角閃石安山岩	小型。磨滅少。形状はいびつで四隅は大きく反り、底面も反り上がる。整形は良好。	4.8kg
254-68 144 No2019	五輪塔 火輪	13号溝 完形	最大幅 24.0 高さ 10.8	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状はややいびつで、四隅はあまり反らず、底面も平坦。整形の良否は磨滅のため不明。	6.3kg
255-69 144 No2004	五輪塔 火輪	13号溝 完形	最大幅 27.0 高さ 16.0	粗粒安山岩	磨滅少。形状はややいびつで、四隅はあまり反らず直線的、底面は平坦。整形は表面を磨く。底面に円形の変色があり、水輪の痕跡か。	13.1kg
255-70 144 No2018	五輪塔 火輪	13号溝 完形	最大幅 27.2 高さ 16.0	粗粒安山岩	磨滅少。形状は均整がとれ、四隅はやや反り、底面は平坦。整形は良好で表面を磨く。	14.8kg
255-71 144 No2017	五輪塔 火輪	13号溝 完形	最大幅 29.3 高さ 15.2	粗粒安山岩	磨滅甚大。形状は均整がとれ、四隅はやや反り、底面も反り上がる。整形の良否は磨滅のため不明。	11.2kg
255-72 144 No2001	五輪塔 火輪	13号溝 完形	最大幅 27.0 高さ 15.2	粗粒安山岩	磨滅大。形状はややいびつで、四隅はあまり反らず、底面がやや反り上がる。整形は不良。底面にドーナツ状の変色があり、水輪の痕跡か。	13.9kg
255-73 144 No2051	五輪塔 水輪	13号溝 完形	最大幅 27.4 高さ 16.4	粗粒安山岩	やや磨滅・破損。形状はいびつで、最大径が上位にあり、胴はあまり張らない。上下面は皿状に凹み、整形は粗雑。	12.7kg
255-74 144 No2050	五輪塔 水輪	13号溝 完形	最大幅 28.1 高さ 18.0	粗粒安山岩	やや磨滅・破損少。形状は最大径が上位にあり、下面径が小さく、胴があまり張らない。上下面は浅く皿状に凹み、丁寧な造り。整形は丁寧に表面を磨く。	18.4kg
255-75 144 No2062	五輪塔 水輪	13号溝 完形	最大幅 27.2 高さ 15.3	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状はややいびつで、楕円形を呈し、最大径が中位にあり、胴があまり張らない。上下面は皿状に凹み、整形は軽く表面を磨く。	12.5kg
255-76 144 No2054	五輪塔 水輪	13号溝 完形	最大幅 31.6 高さ 19.9	粗粒安山岩	やや磨滅・破損少。形状はいびつで、最大径が中位よりやや上にあり、胴がやや張る。上下面は浅く皿状に凹み、整形は表面を磨く。	18.7kg
255-77 144 No2040	五輪塔 地輪	13号溝 一部欠損	最大幅 35.6 高さ 25.5	粗粒安山岩	大型。磨滅少・破損大。形状は均整がとれ高さの低い立方体を呈し、底面はすり鉢状に凹む。整形は極めて丁寧に表面を磨く。	43.1kg
256-78 — No2091	五輪塔 空風輪	2号土坑 略完形	最大幅 18.5 高さ 30.0	粗粒安山岩	空・風部間の刳込み浅めであり出柄部風輪下方に出柄部を作り出す。	8.8kg
256-79 144 No2043	五輪塔 地輪	4号井戸 完形	最大幅 31.8 高さ 26.0	粗粒安山岩	大型。磨滅少、やや破損。形状はややいびつで、整形は底面を除き整えるが、所々に工具痕を残す。	35.8kg
256-80 144 No2104	石臼 茶臼形	7号井戸 略完形	最大径 40.0 高さ 14.0	粗粒安山岩	下臼で主溝8分割、副溝10条前後。左回転用分割。	18.2kg



第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
256-81 145 No2028	五輪塔 地輪	8号井戸 1/2	最大幅 30.7 高さ 17.5	粗粒安山岩	磨減少、破損大。形状は高さの低い直方体を呈し、整形は粗雑で工具痕を残す。	12.2kg
256-82 145 No2015	五輪塔 火輪	17号井戸 完形	最大幅 25.3 高さ 14.4	角閃石安山岩	やや磨滅。形状は良好で、四隅はやや反り、底面も反り上がる。整形は良好で表面を磨く。	10.5kg
256-83 145 No2093	五輪塔 空風輪	19号井戸 一部欠損	最大幅 19.9 高さ 33.0	角閃石安山岩	やや磨滅・破損。形状は均質で、空輪部は丸みを帯び、風輪部も比較的大きく境のくびれも深い。整形は表面を磨く。	8.8kg
256-84 145 No2066	五輪塔 空風輪	19号井戸 完形	最大幅 15.3 高さ 26.6	粗粒安山岩	磨滅・破損少。形状は全体に直線的で風輪部は空輪のおよそ半分ほど。整形は表面を磨く。	5.3kg
256-85 145 No2048	五輪塔 水輪	22号井戸 略完形	最大幅 15.7 高さ 27.5	粗粒安山岩	少し磨耗気味。上下面を広くとり、最大幅との差少ない。高さの割に扁平。	13.3kg
257-86 145 No2081	五輪塔 空風輪	42号井戸 一部欠損	最大幅 15.5 高さ 26.3	流紋岩質凝灰岩	磨滅・破損少。形状は均整がとれ、空輪部が小さく、最大径は風輪部上端にある。整形は丁寧に表面を磨く。	4.0kg
257-87 145 No2014	五輪塔 火輪	42号井戸 完形	最大幅 23.5 高さ 13.1	粗粒安山岩	磨減少。形状は均整がとれ、四隅はあまり反らず、底面も平坦。整形は良好で表面を磨く。底面に円形の変色があり、水輪の痕跡か。	8.7kg
257-88 145 No2016	五輪塔 火輪	42号井戸 完形	最大幅 24.6 高さ 13.7	粗粒安山岩	磨減少。形状は均整がとれ、四隅はやや反り、底面は平坦で中央部がやや凹む。整形は良好で表面を磨く。底面が不定形に黒く変色する。	8.1kg
257-89 145 No2023	五輪塔 地輪	42号井戸 一部欠損	最大幅 22.6 高さ 17.8	粗粒安山岩	磨減少。形状は立方体に近く、底面はすり鉢状に凹む。整形は表面を磨く。上面は円形に変色し、水輪の痕跡か。	13.5kg
257-90 — No2012	五輪塔 火輪	47号井戸 完形	最大幅 27.4 高さ 15.1	角閃石安山岩	磨減少。形状は良好で、四隅はやや反り、底面もやや反り上がる。整形は良好で表面を磨く。底面に不定形の変色あり。	11.9kg
257-91 — No2124	五輪塔 地輪?	47号井戸 完形	最大幅 27.5 高さ 10.0	榛名二ツ岳軽石	形状はやや歪む。6面全面に加工を施し、各面共に軽く磨きを施す。	5.7kg
257-92 — No2097	五輪塔 空風輪	遺構外 完形	最大幅 16.5 高さ 28.5	粗粒安山岩	空・風部との削り込みをしっかりと設け、風輪部の出柄長い。	6.4kg
257-93 — No2002	五輪塔 火輪	遺構外 一部欠損	最大幅 25.5 高さ 15.5	粗粒安山岩	図左端は欠損。降棟の反り少なく特徴的。	9.9kg
257-94 — No2044	五輪塔 地輪	遺構外 一部欠損	最大幅 25.0 高さ 20.0	粗粒安山岩	図右上・左下に小欠損あり。幅と高さの割合の差が少ない。	15.0kg
257-95 — No2025	五輪塔 地輪	遺構外 一部欠損	最大幅 25.5 高さ 19.5	粗粒安山岩	図左上と右下に小穴あり。幅と高さの割合の差が少ない。側面少し膨らむ。	15.6kg
257-96 — No2029	五輪塔 地輪	遺構外 一部欠損	最大幅 28.5 高さ 17.3	粗粒安山岩	図右上小穴か。幅と高さの差は顕著。上・下面凹凸多い。	24.0kg
257-97 — No2060	五輪塔 火輪	不明 略完形	最大幅 28.5 高さ 18.8	粗粒安山岩	上・下面径と最大幅との差少ない。中位の丸みの少なさは特徴的。	14.9kg
257-98 — No2065	五輪塔 火輪	不明 略完形	最大幅 37.0 高さ 27.5	粗粒安山岩	やや大形の火輪。中位の丸みが強く、上・下面と最大幅の差大きい。	34.8kg

第3章 検出遺構と遺物

第4項 土坑跡

土坑一覧表

遺構番号	位置	平面形状	平面規模cm	断面形状	深度cm	調査時番号	重複遺構	時期・備考
01号土坑	B-09S	楕円形	124×82	筒形	6	1区01号土坑		古銭・鏡出土、土坑墓
02号土坑	B-09S	楕円形	90×62	U字状	15	1区02号土坑		
03号土坑	B-09T	隅丸方形	154×80	筒形	24	1区03号土坑		
04号土坑	B-08U	隅丸方形	174×90	筒形	50	1区04号土坑	6号土坑	人歯出土、土坑墓
05号土坑	B-07T	円形	74×72	筒形	15	1区05号土坑		中・近世
06号土坑	B-08U	円形	94×90	筒形	40	1区06号土坑	4号・9号土坑	
07号土坑	B-07T	隅丸方形	120×70	筒形	34	1区07号土坑	23号井戸	古銭出土、土坑墓
08号土坑	B-07T	隅丸方形	128×86	筒形	60	1区08号土坑		
09号土坑	B-08U	楕円形	188×108	U字状	50	1区09号土坑	6号土坑	中・近世
10号土坑						1区10号土坑		
11号土坑						1区11号土坑		
12号土坑	B-06T	楕円形	66×50	筒形	10	1区12号土坑		
13号土坑	B-06T	円形	85×85	筒形	32	1区13号土坑	14号土坑	
14号土坑	B-06U	楕円形	100×75	筒形	18	1区14号土坑	13号土坑	
15号土坑	B-07U	隅丸方形	215×(95)	不明	40	1区15号土坑	16号土坑	中・近世
16号土坑	B-07U	隅丸方形	150×(108)	U字状	48	1区16号土坑	15号土坑	
17号土坑	B-05U	円形	62×62	筒形	44	1区17号土坑		
18号土坑	B-03S	隅丸方形	128×104	筒形	112	1区19号土坑		
19号土坑	B-14R	円形	72×72	筒形	42	1区20号土坑		
20号土坑	B-14U	円形	90×86	筒形	48	1区21号土坑	21号土坑	
21号土坑	B-14U	円形	74×70	筒形	50	1区22号土坑	20号土坑	
22号土坑	B-11V	楕円形	72×87	筒形	56	1区23号土坑		
23号土坑	B-11V	円形	60×60	筒形	74	1区24号土坑		
24号土坑	B-11X	円形	78×78	U字状	44	1区25号土坑		
25号土坑						1区26号土坑		
26号土坑	B-02S	円形	86×86	筒形	38	1区27号土坑		中・近世
27号土坑	A-22X	円形	84×82	筒形	54	1区28号土坑		中・近世
28号土坑	A-21Y	楕円形	70×62	筒形	28	1区29号土坑		中・近世
29号土坑	B-07Y	円形	76×72	筒形	29	1区30号土坑		中・近世
30号土坑						1区31号土坑		
31号土坑	B-14Y	楕円形	94×84	U字状	20	1区32号土坑		
32号土坑						1区33号土坑		
33号土坑						1区34号土坑		中・近世
34号土坑	B-09T	円形	74×72	筒形	15	1区35号土坑		
35号土坑	B-08R	長方形	84×54	筒形	12	1区36号土坑		中・近世
36号土坑	B-03U	楕円形	76×66	V字状	64	1区37号土坑		
37号土坑	B-05U	円形	102×100	筒形	10	2区01号土坑	33号住居	
38号土坑	C-15V	隅丸方形	186×116	U字状	18	2区02号土坑	14号住居	馬の土坑墓(近世か)
39号土坑	C-06U	隅丸方形	192×170	筒形	50	2区03号土坑	44号住居	
40号土坑						2区04号土坑		古銭出土、土坑墓
41号土坑	C-05T	隅丸方形	不明×152	筒形	95	2区05号土坑	31号住居	

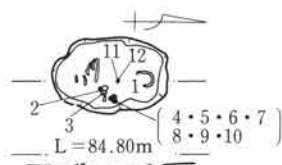
第3節 古墳時代以降

遺構番号	位置	平面形状	平面規模cm	断面形状	深度cm	調査時番号	重複遺構	時期・備考
42号土坑	C-04U	隅丸方形	154×140	筒形	44	2区06号土坑	33号住居	
43号土坑						2区07号土坑		
44号土坑	C-13Q	楕円形	152×128	筒形	36	2区08号土坑	27号住居	
45号土坑	C-16V	隅丸方形	198×160	筒形	38	2区09号土坑	73号土坑	土坑墓
46号土坑	B-24V	楕円形	184×146	筒形	80	2区10号土坑	53号住居	古銭出土、土坑墓
47号土坑						2区11号土坑		
48号土坑	C-11S	隅丸方形	176×140	筒形	120	2号地下式坑		地下式土坑、近世室か
49号土坑	C-07S	円形	140×140	V字状	42	2区13号土坑	30号住居	
50号土坑	C-06T	隅丸方形	不明×160	筒形	30	2区14号土坑		
51号土坑	C-03Q	円形	84×74	筒形	32	2区15号土坑		
52号土坑	C-00S	隅丸方形	148×136	筒形	114	2区16号土坑	39号住居	
53号土坑	B-22V	円形	154×156	U字状	68	2区17号土坑	49号住居、54号土坑	
54号土坑	B-22V	隅丸方形	202×142	筒形	70	2区18号土坑	49住、53・55・56土坑	
55号土坑	B-22U	隅丸方形	224×96	U字状	90	2区19号土坑	49号住、54・65土坑	
56号土坑	B-21U	楕円形	150×90	U字状	50	2区20号土坑	49号住、54・63土坑	
57号土坑	C-04Q	円形	104×98	筒形	48	2区21号土坑	46号住居	
58号土坑	B-23X	楕円形	270×252	U字状	74	2区22号土坑		古墳時代
59号土坑	B-22U	円形	224×226	筒形	152	2区24号土坑	49住、60・62・65土坑	
60号土坑	B-22T	円形	不明×142	筒形	54	2区25号土坑	59・66号土坑	
61号土坑	C-04S	楕円形	170×106	筒形	110	2区26号土坑	58号住居	縄文陥し穴
62号土坑	B-22U	円形	160×140	筒形	68	2区27号土坑	49号住居、59号土坑	縄文陥し穴
63号土坑	B-21U	隅丸方形	162×122	筒形	40	2区28号土坑	49号住居、65号土坑	
64号土坑	C-00X	楕円形	150×不明	筒形	18	2区29号土坑	5号溝	古墳時代
65号土坑	B-21U	楕円形	222×124	U字状	52	2区30号土坑	49住、55・59・63土坑	
66号土坑	B-22T	楕円形	154×140	筒形	42	2区31号土坑	60号土坑	
67号土坑	B-21T	隅丸方形	154×110	筒形	56	2区32号土坑		
68号土坑	B-22R	円形	130×130	U字状	84	2区33号土坑	69・71号土坑	
69号土坑	B-22R	楕円形	140×96	不明	90	2区34号土坑	62井、68・70・71土坑	
70号土坑	B-22R	楕円形	146×(116)	不明	94	2区35号土坑	62号井戸、69・71土坑	
71号土坑	B-22Q	楕円形	218×150	筒形	56	2区36号土坑	64住、68・69・70土坑	
72号土坑	C-11U	長方形	不明×86	不明	(92)	1号地下式坑	74号土坑	地下式土坑、近世室か
73号土坑	C-16V	隅丸方形	134×84	筒形	30	2区38号土坑	45号土坑	人骨出土、土坑墓
74号土坑	C-11U	長方形	320×198	筒形	130	2区39号土坑	43号住居、72号土坑	
75号土坑		円形	100×98	筒形	12	2区40号土坑		
76号土坑	D-13V	長方形	108×70	筒形	34	3区01号土坑		古銭出土、土坑墓
77号土坑	D-13V	長方形	108×70	筒形	48	3区02号土坑		古銭出土、土坑墓
78号土坑	D-13U	円形	90×80	筒形	20	3区03号土坑		
79号土坑	D-14Q	隅丸方形	252×154	筒形	46	3区04号土坑		平安時代?
80号土坑	D-03R	円形	126×118	筒形	26	3区05号土坑		
81号土坑	D-02S	隅丸方形	184×122	筒形	62	3区06号土坑		
82号土坑	D-02S	楕円形	140×124	U字状	40	3区07号土坑		
83号土坑	D-01S	楕円形	118×84	U字状	22	3区08号土坑		
84号土坑	D-01S	円形	80×74	筒形	36	3区09号土坑		
85号土坑	D-01T	不整形	414×386	筒形	52	3区10号土坑		土坑群
86号土坑	D-01T	楕円形	252×108	筒形	26	3区11号土坑	118号土坑	

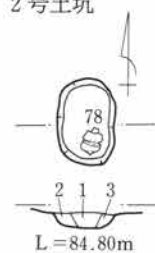
第3章 検出遺構と遺物

遺構番号	位置	平面形状	平面規模cm	断面形状	深度cm	調査時番号	重複遺構	時期・備考
87号土坑	D-00U	楕円形	164×150	筒形	14	3区12号土坑	1号井戸、88号土坑	
88号土坑	D-00U	円形	100×102	筒形	34	3区13号土坑	87号土坑	平安時代?
89号土坑	C-21S	隅丸方形	130×90	U字状	14	3区14号土坑		
90号土坑	C-20S	隅丸方形	138×94	U字状	18	3区15号土坑		
91号土坑	C-20T	隅丸方形	184×130	U字状	24	3区16号土坑		
92号土坑	C-20U	長方形	190×138	筒形	44	3区17号土坑		
93号土坑	C-21U	隅丸方形	88×80	筒形	36	3区18号土坑		
94号土坑	C-20U	楕円形	116×90	筒形	20	3区19号土坑		
95号土坑	C-21U	円形	64×60	U字状	26	3区20号土坑		
96号土坑	C-21U	楕円形	124×114	U字状	18	3区21号土坑		
97号土坑	C-22U	長方形	254×126	U字状	10	3区22号土坑		
98号土坑	C-19P					3区23号土坑		古墳時代?
99号土坑						3区24号土坑		
100号土坑	C-20P	楕円形	116×80	U字状	74	3区25号土坑		古墳時代?
101号土坑	C-20P	隅丸方形	168×128	U字状	22	3区26号土坑		
102号土坑	C-20P	円形	46×40	U字状	18	3区27号土坑		
103号土坑	C-21P	円形	116×112	筒形	30	3区28号土坑		
104号土坑	C-22Q	楕円形	90×68	筒形	70	3区29号土坑		古墳時代?
105号土坑	C-22P	円形				3区30号土坑		
106号土坑	C-24T	隅丸方形	168×152	U字状	46	3区32号土坑		
107号土坑	C-21S	円形	150×134	U字状	92	3区33号土坑	6号住居	
108号土坑	C-21T	円形	134×136	筒形	94	3区34号土坑		
109号土坑	D-00V	楕円形	224×162	筒形	20	3区35号土坑		
110号土坑	D-00V	隅丸方形	106×88	筒形	25	3区36号土坑	113号土坑	
111号土坑	D-00V	隅丸方形	226×142	U字状	20	3区37号土坑		
112号土坑	C-24U	円形	54×58	筒形	28	3区38号土坑		
113号土坑	D-00V	不整形	142×150	U字状	20	3区39号土坑	110号土坑	
114号土坑	C-20S	楕円形	96×76	筒形	88	3区40号土坑		
115号土坑	D-04O	不明	不明	筒形	84	3区41号土坑		
116号土坑	D-04O	楕円形	70×46	U字状	25	3区42号土坑		近世
117号土坑	D-03W	円形	132×130	U字状	36	3区43号土坑		
118号土坑	D-00T	楕円形	70×50	U字状	14	3区44号土坑	86号土坑	
119号土坑	C-24U	円形	92×82	筒形	32	3区45号土坑		
120号土坑	D-00T	隅丸方形	116×70	U字状	50	3区46号土坑		
121号土坑	D-00U	楕円形	72×44	U字状	56	3区47号土坑		
122号土坑	C-24T	長方形	78×60	筒形	26	3区48号土坑		
123号土坑		隅丸方形	98×50	U字状	46	3区49号土坑		
124号土坑	C-24U	不整形	不明×296	筒形	20	3区50号土坑		
125号土坑	C-24O	円形	86×76	筒形	94	3区51号土坑		
126号土坑	C-24P	円形	68×54	U字状	76	3区52号土坑		
127号土坑	D-00S	楕円形	60×40	U字状	20	3区53号土坑		
128号土坑		不整形	164×84	U字状	36	3区54号土坑		

1号土坑

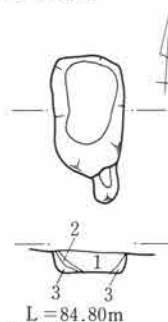


2号土坑



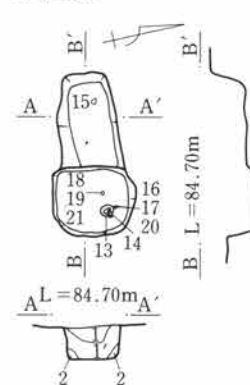
2号土坑埋土  
 1: パミスを含む弱粘性黒色土。  
 2: 1層土に類似し、褐色シルト含む。  
 3: 1層土に類似し、灰褐色シルト含む。

3号土坑



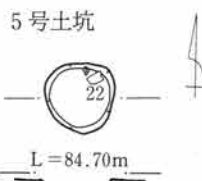
3号土坑埋土  
 1: パミスを含む弱粘性黒色土。  
 2: 1層土に類似し、灰褐色シルト含む。  
 3: 黒褐色砂質シルト質土。

4号土坑

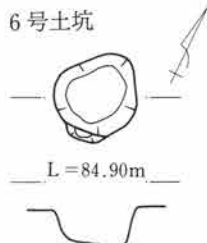


4号土坑埋土  
 1: パミスを含む弱粘性黒色土。  
 1': 1層土に類似し、黒色味を帯びる。  
 2: 弱粘性黒色シルト質土。

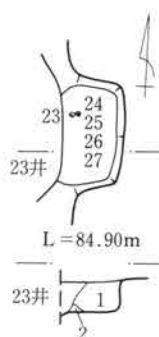
5号土坑



6号土坑

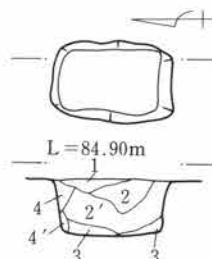


7号土坑



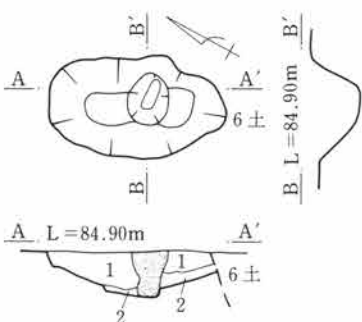
7号土坑埋土  
 1: 暗褐色砂質土。  
 2: パミスを含む黒褐色シルト質土。

8号土坑



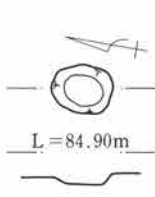
8号土坑埋土  
 1: 黒褐色砂質土。  
 2: パミスを含む暗褐色砂質土。  
 2': 2層土に類似し、ロームブロックを含む。  
 3: ローム粒子を含む暗褐色粘質土。  
 4: 粘性のない黒褐色土。  
 4': 黒褐色粘質土。

9号土坑

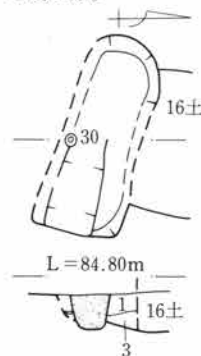


9号土坑埋土  
 1: 黒褐色砂質シルト質土。  
 2: ロームを含む灰褐色シルト質土。

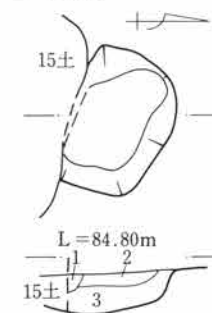
12号土坑



15号土坑

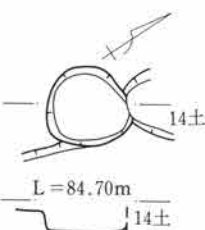


16号土坑

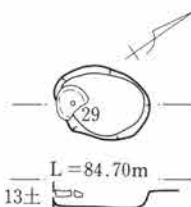


15・16号土坑埋土  
 1: 黒褐色砂質土。  
 2: 黒褐色砂質シルト質土。  
 3: ロームを含む灰褐色シルト質土。

13号土坑

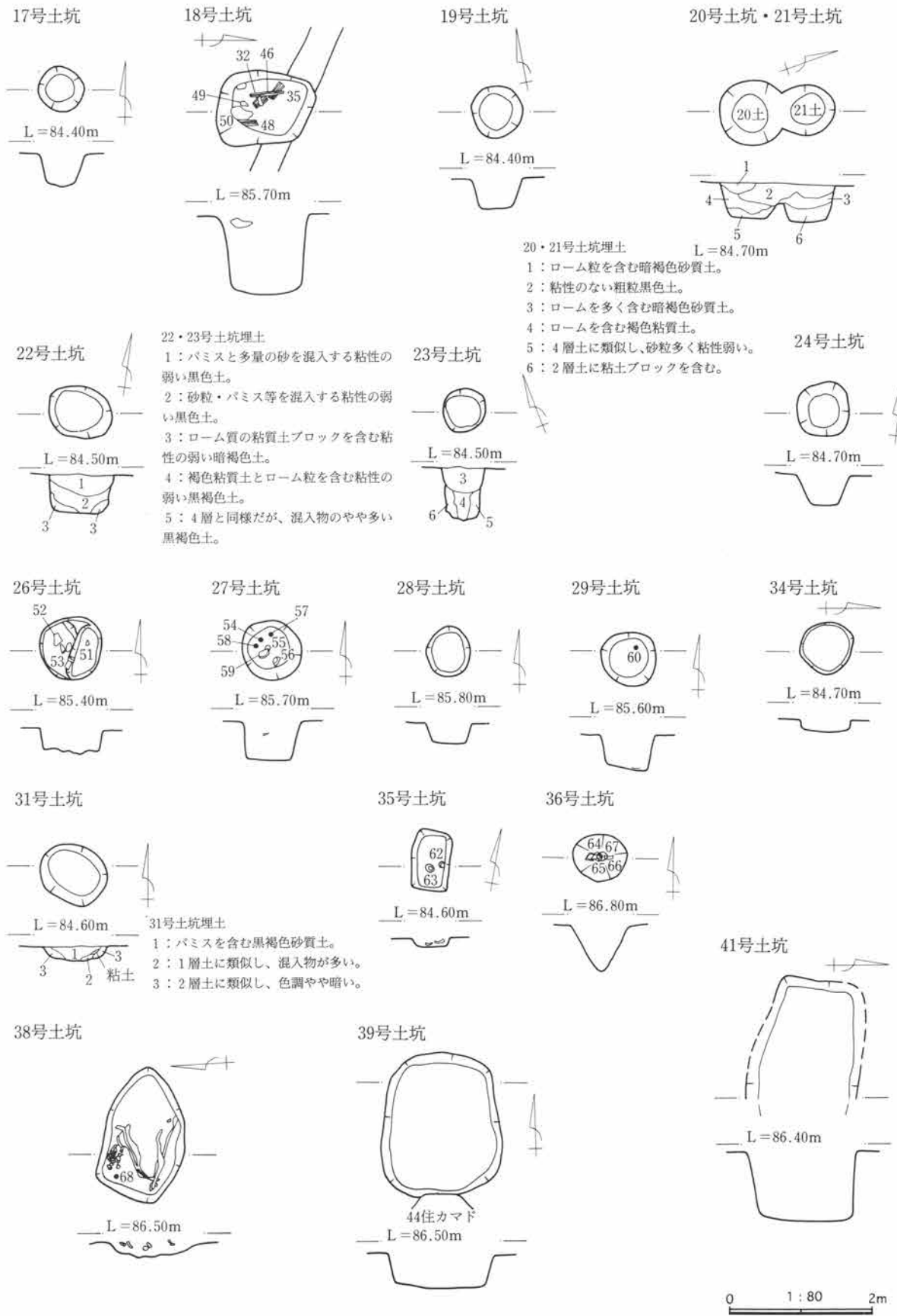


14号土坑



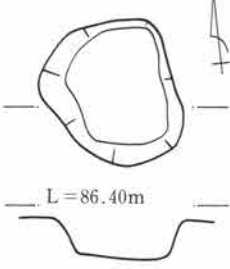
0 1:80 2m

第258図 土坑跡

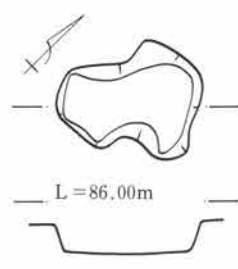


第259図 土坑 跡

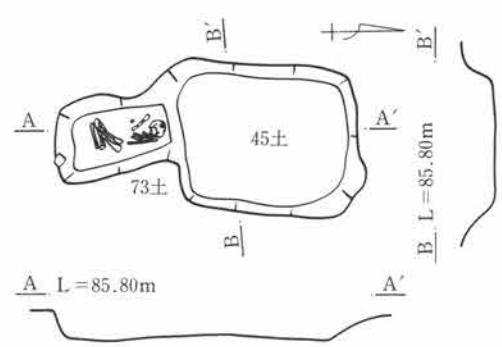
42号土坑



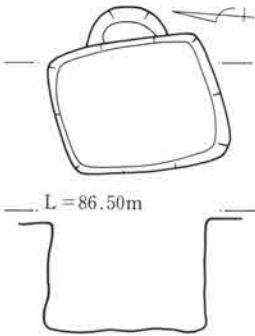
44号土坑



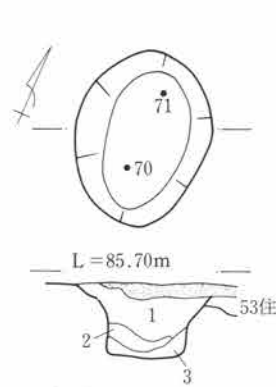
73号土坑・45号土坑



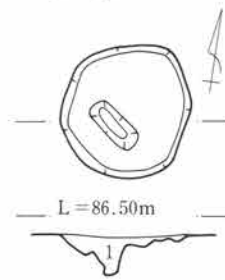
48号土坑



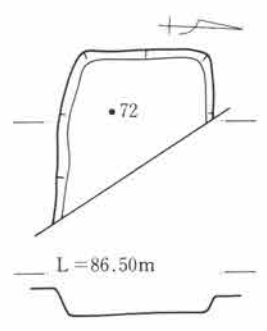
46号土坑



49号土坑



50号土坑



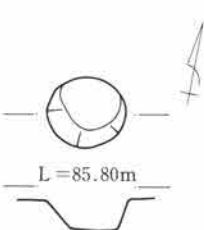
46号土坑埋土

- 1: ローム・黒色土を含む暗褐色土。
- 2: パミス・黒色土を含むローム土。
- 3: 暗褐色粘質土を含むローム土。

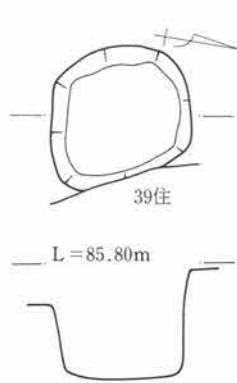
49号土坑埋土

- 1: ローム・パミスを含む暗褐色砂質土。

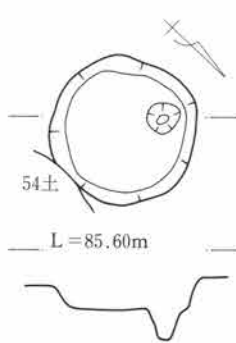
51号土坑



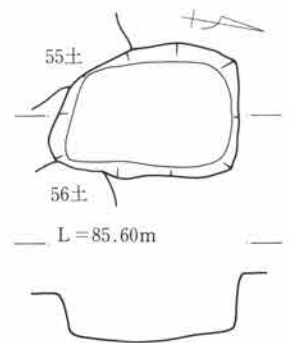
52号土坑



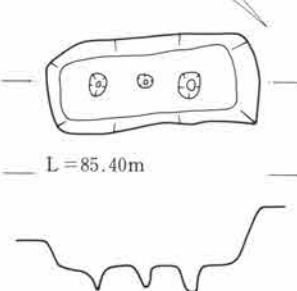
53号土坑



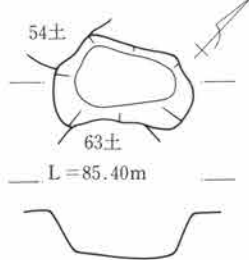
54号土坑



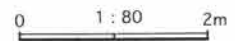
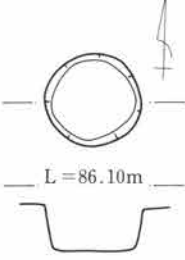
55号土坑



56号土坑



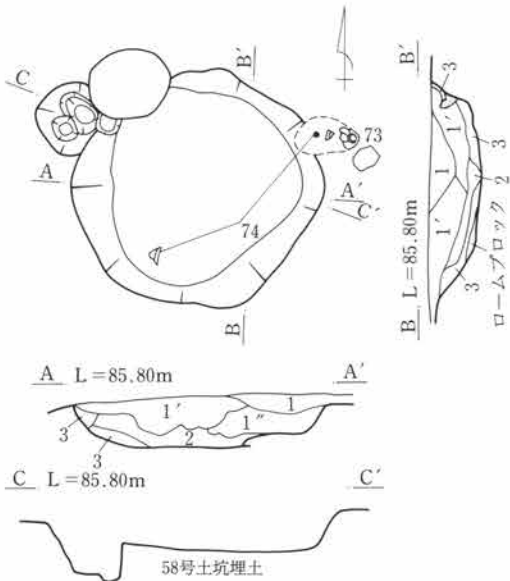
57号土坑



第260図 土坑跡



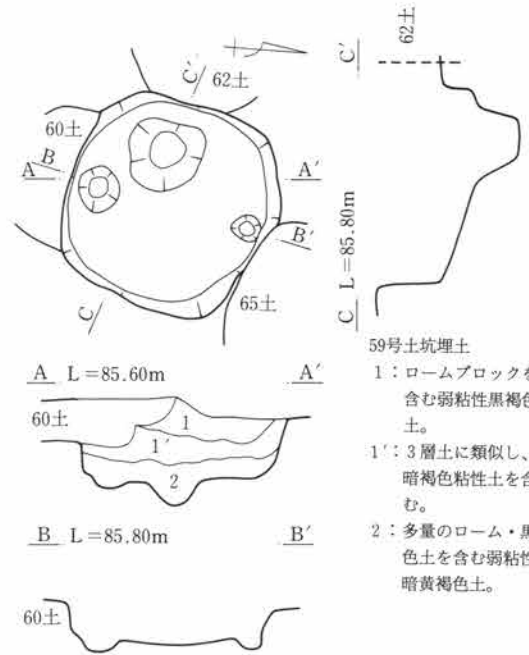
58号土坑



58号土坑埋土

- 1: ロームを含む暗褐色弱粘性土。
- 1': 1層土に類似し、黒色味を帯びる。
- 1'': 1層土に類似し、焼土粒を含む。
- 2: 1層土に類似し、ロームブロック含む。
- 3: 2層土に類似し、ロームブロックが多い。

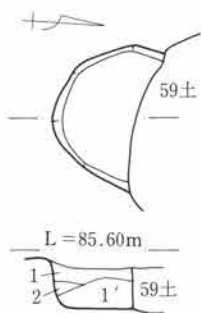
59号土坑



59号土坑埋土

- 1: ロームブロックを含む弱粘性黒褐色土。
- 1': 3層土に類似し、暗褐色粘性土を含む。
- 2: 多量のローム・黒色土を含む弱粘性暗黄褐色土。

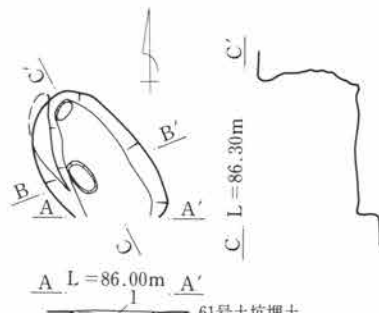
60号土坑



60号土坑埋土

- 1: 黒色砂質土。
- 1': 1層土に褐色土ブロックを含む。
- 2: ソフトロームブロック。

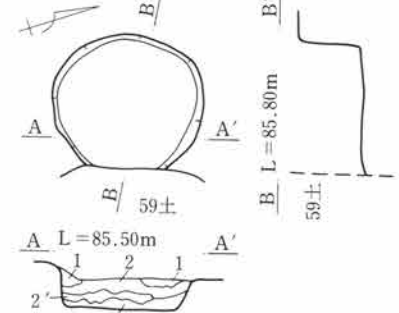
61号土坑



61号土坑埋土

- 1: 攪拌を受けた粗粒ローム。
- 2: パミス・A, Tを含む暗褐色土。
- 3: 2層土に類似し、茶色味を帯びる。
- 4: パミス・A, Tを含む明褐色土。
- 5: 2層土に類似し、暗色帯土を含む。

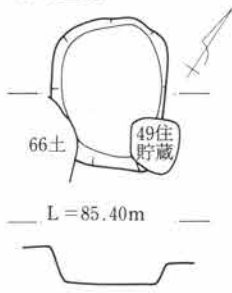
62号土坑



62号土坑埋土

- 1: ロームを含む黒褐色土。
- 2: ローム・黒色土を含む暗褐色土。
- 2': 2層土に類似し、ロームの混入が少ない。
- 2'': 2層土よりロームの混入が少ない。

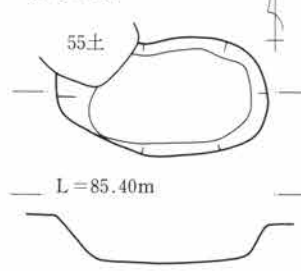
63号土坑



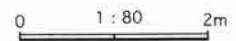
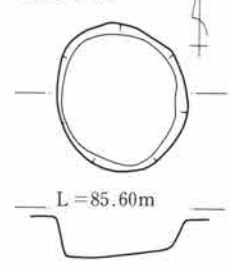
64号土坑



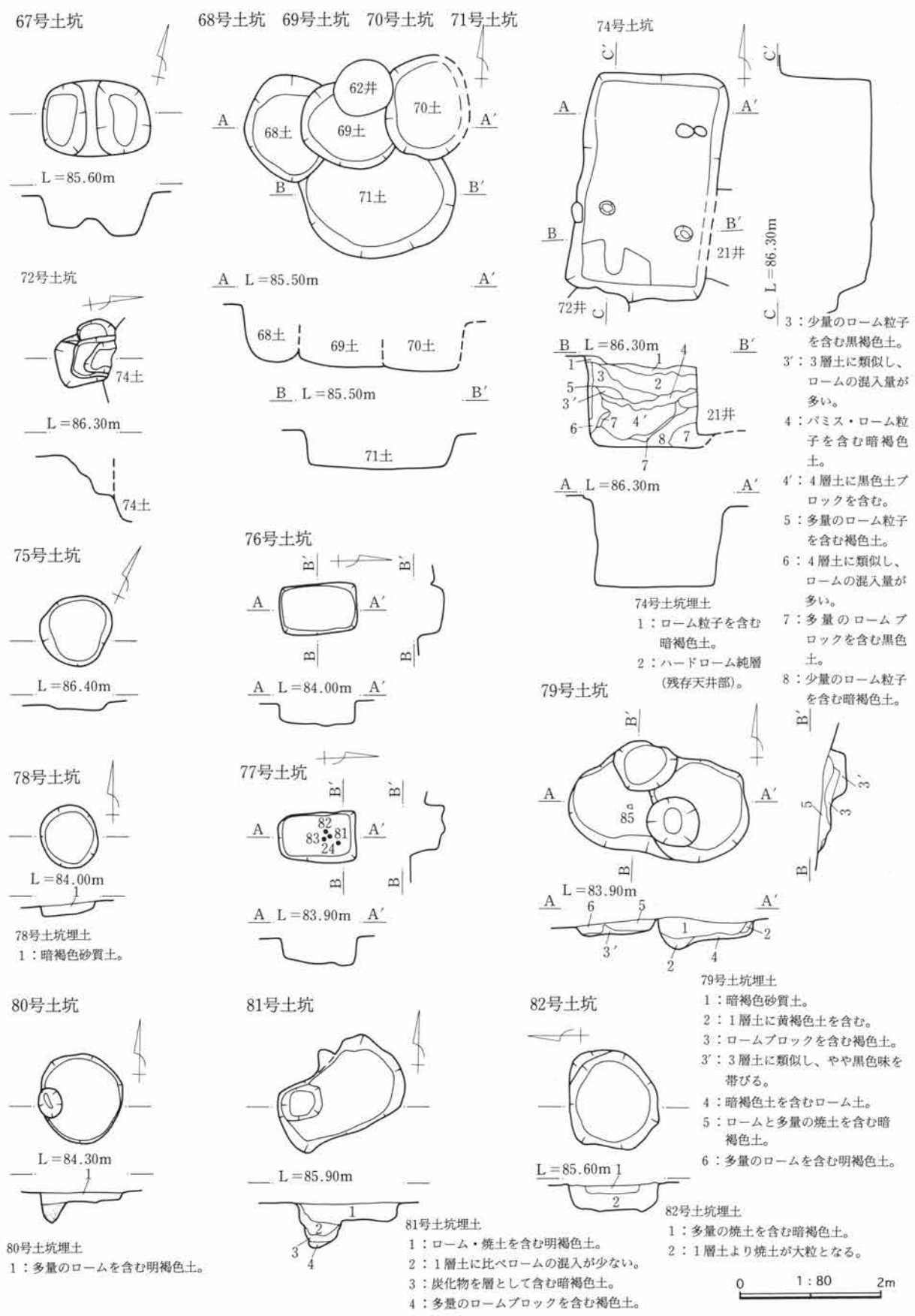
65号土坑



66号土坑

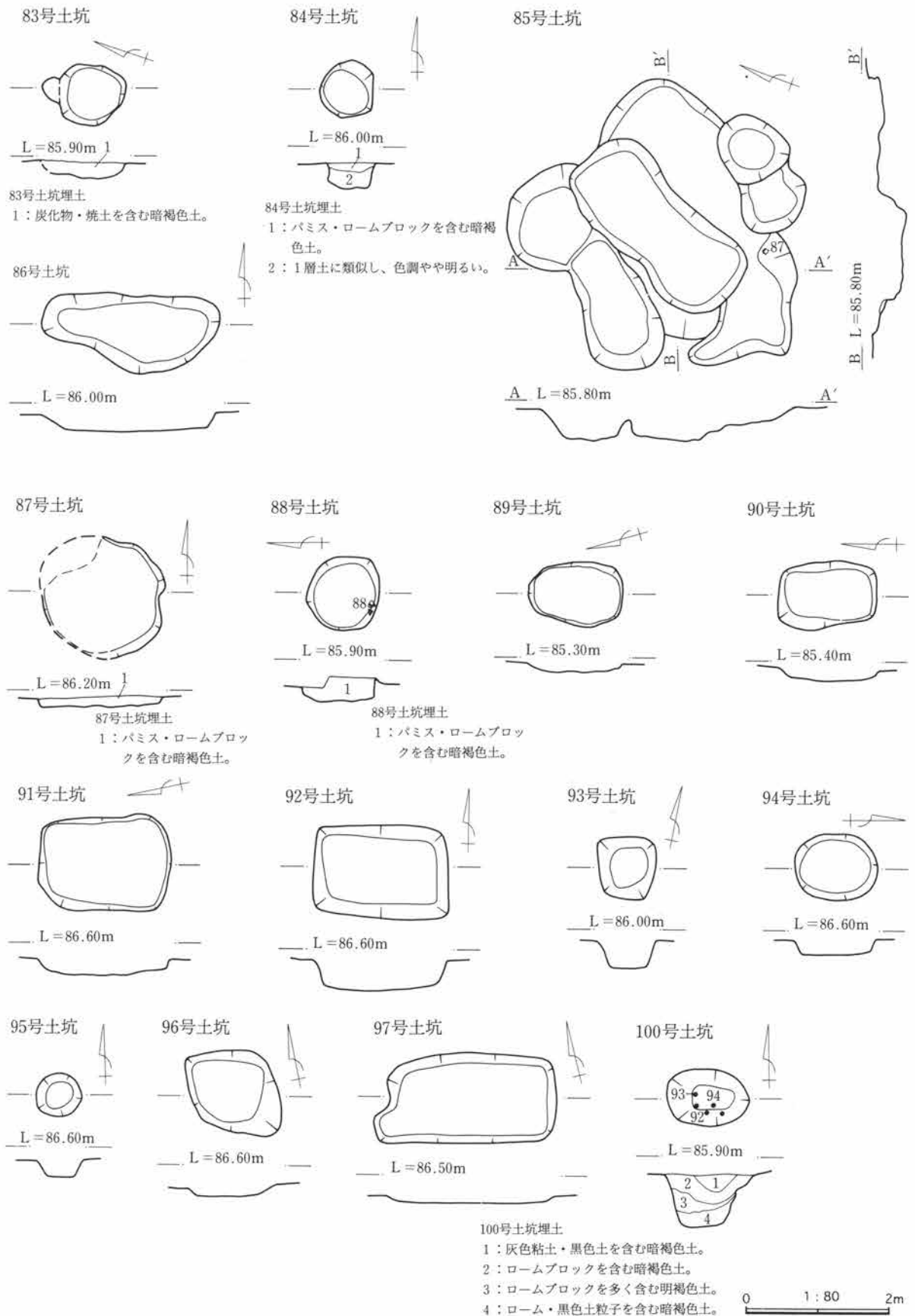


第261図 土坑跡

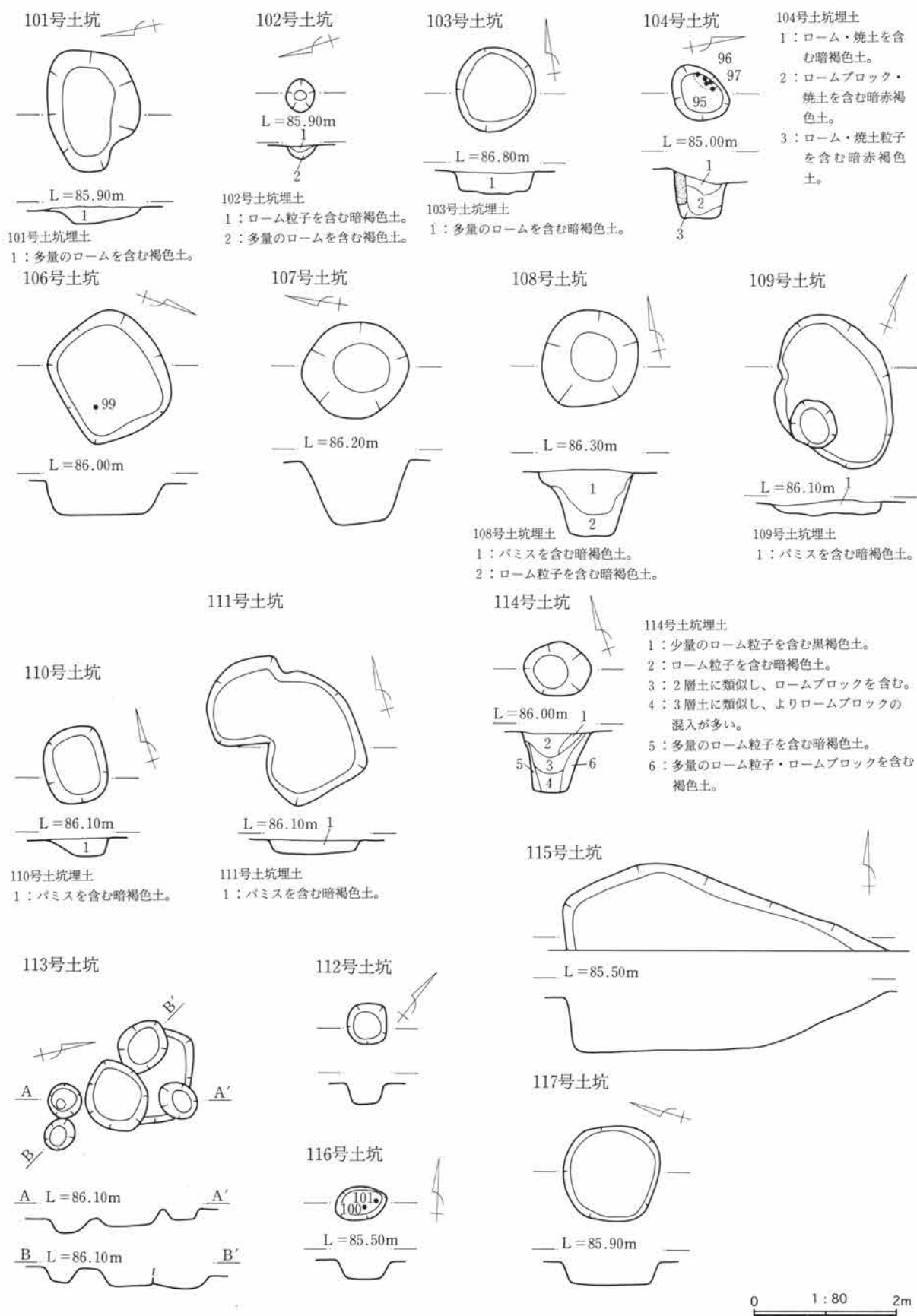


第262図 土坑跡

第3章 検出遺構と遺物

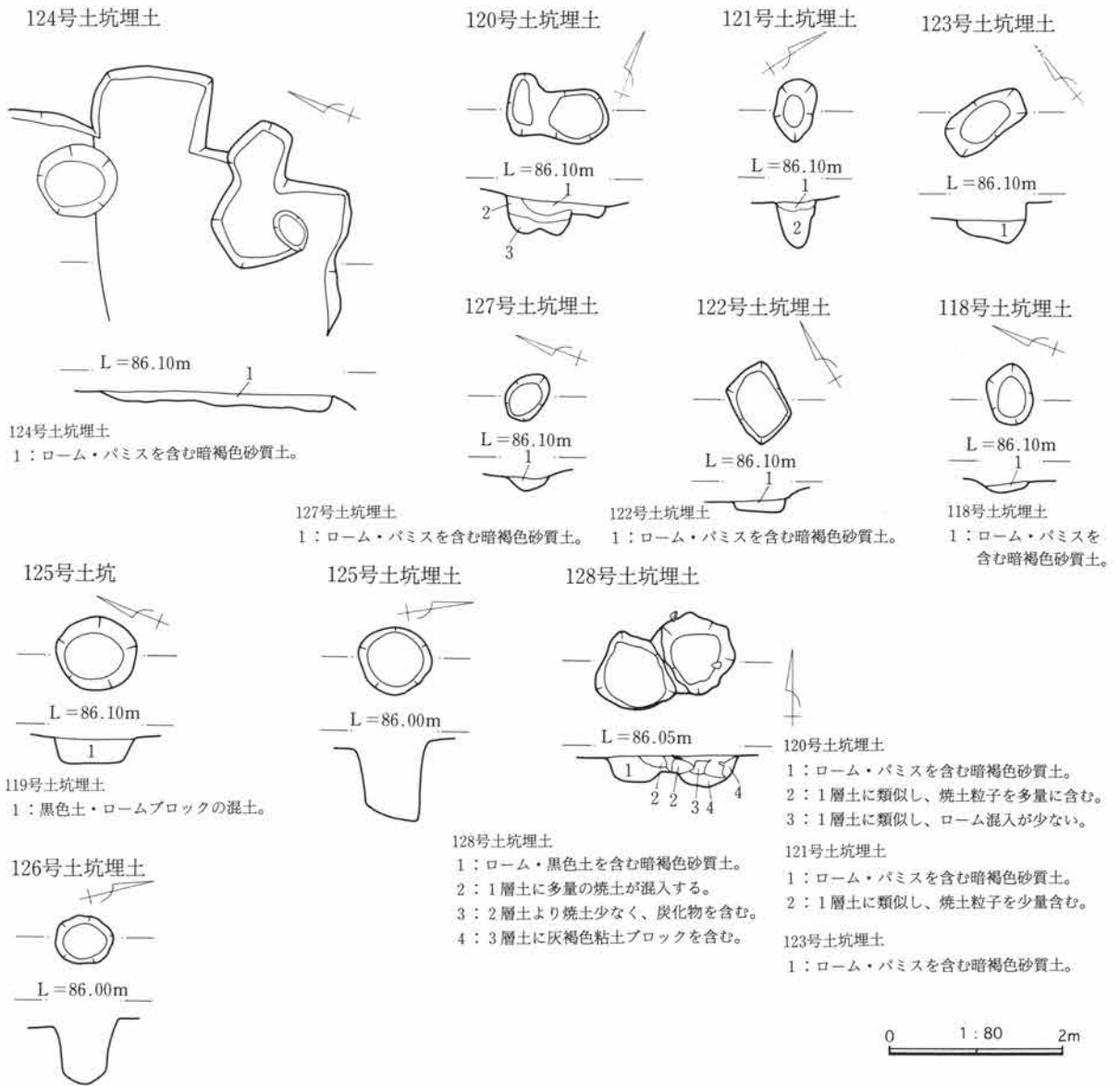


第263図 土坑跡

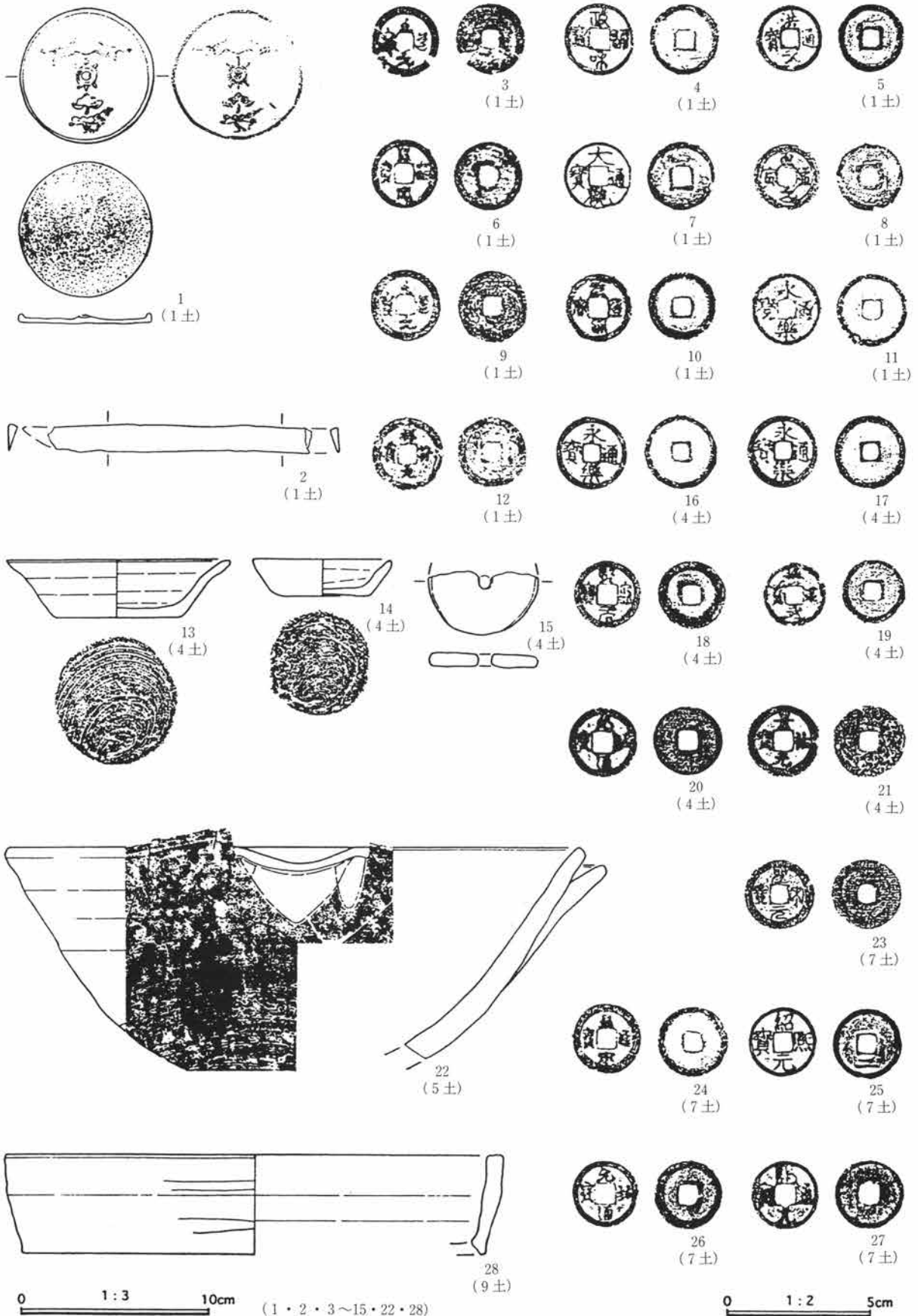


第264図 土坑跡

第3章 検出遺構と遺物

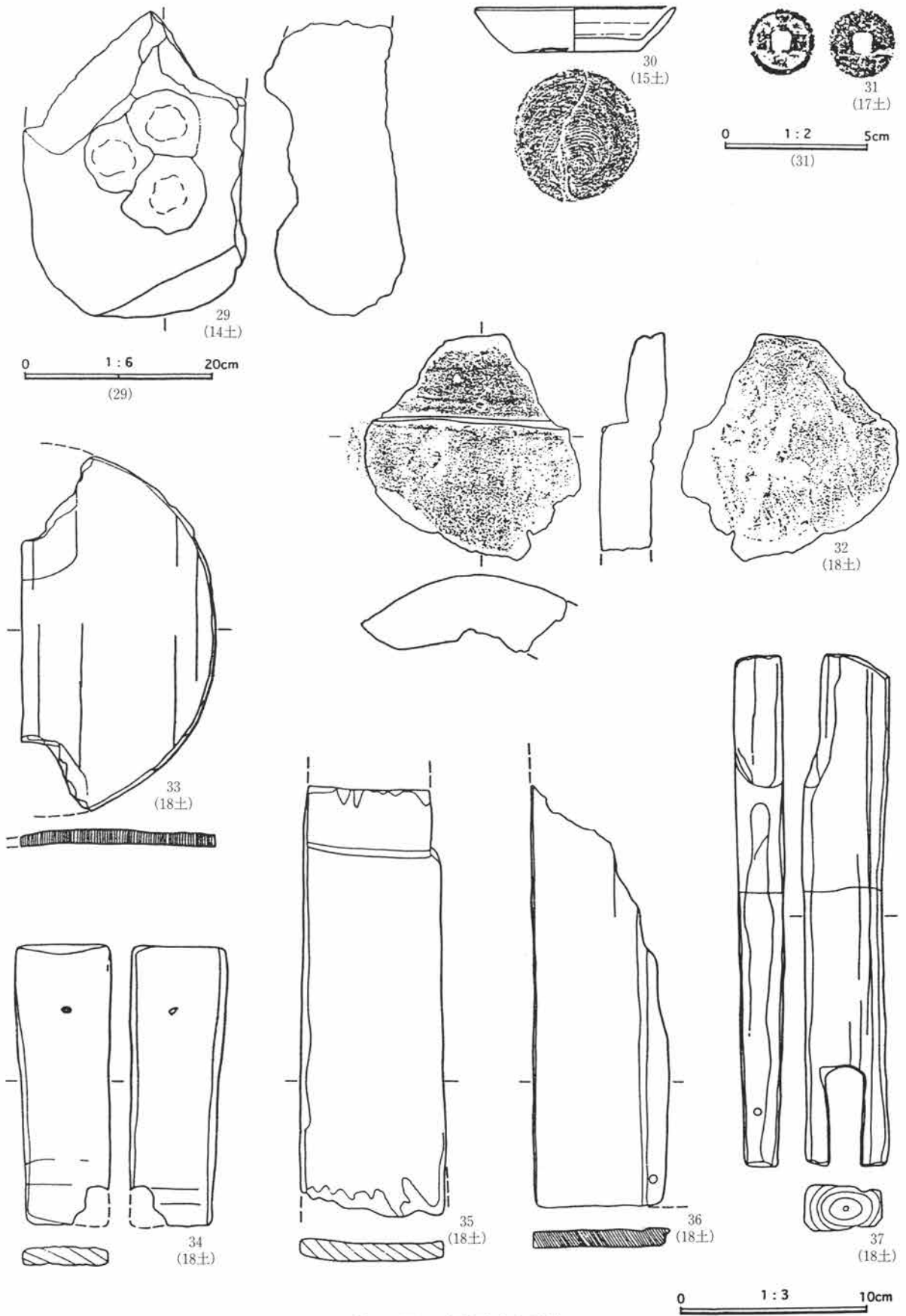


第265図 土坑跡



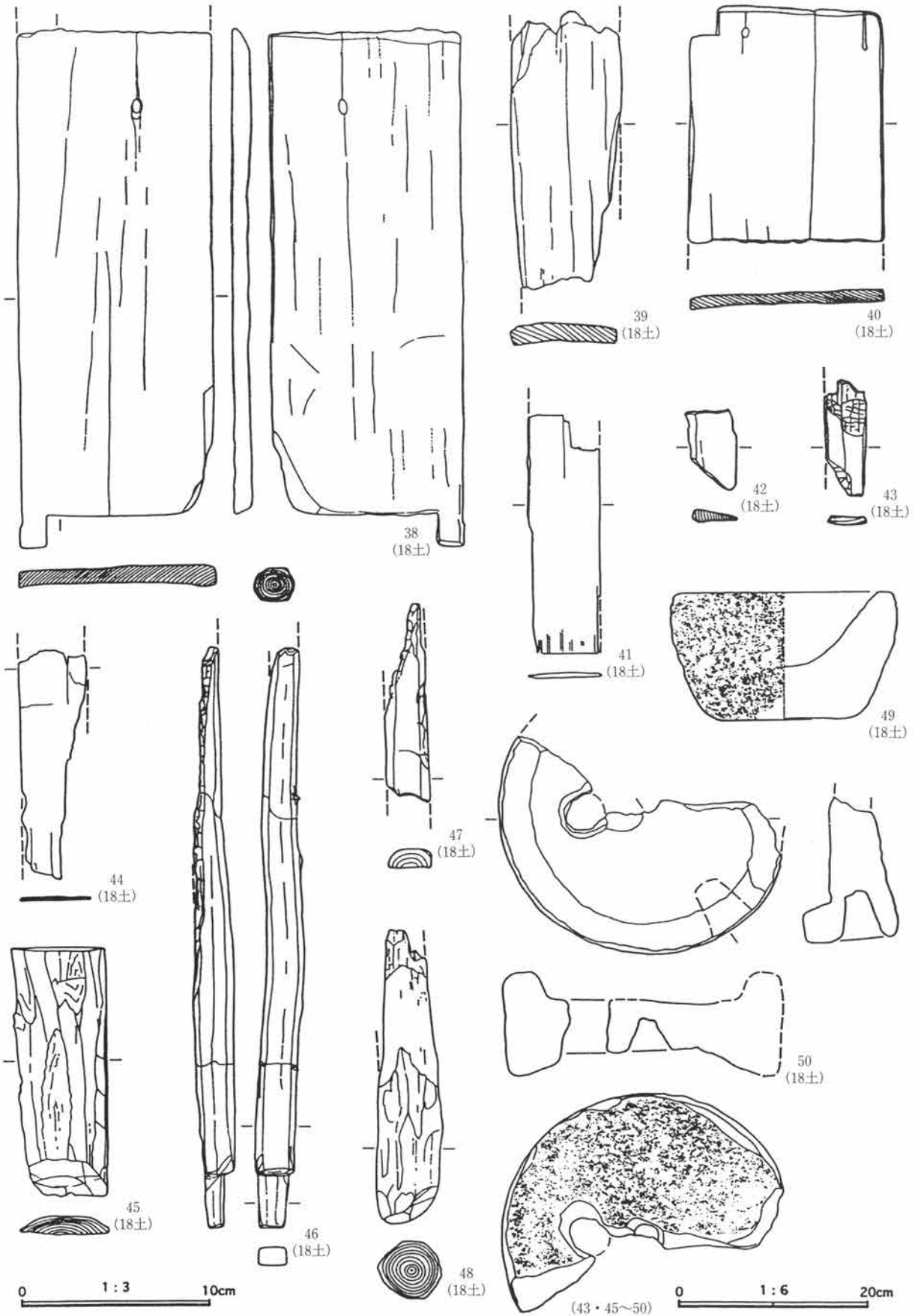
(1・2・3~15・22・28)

第266図 土坑跡出土遺物



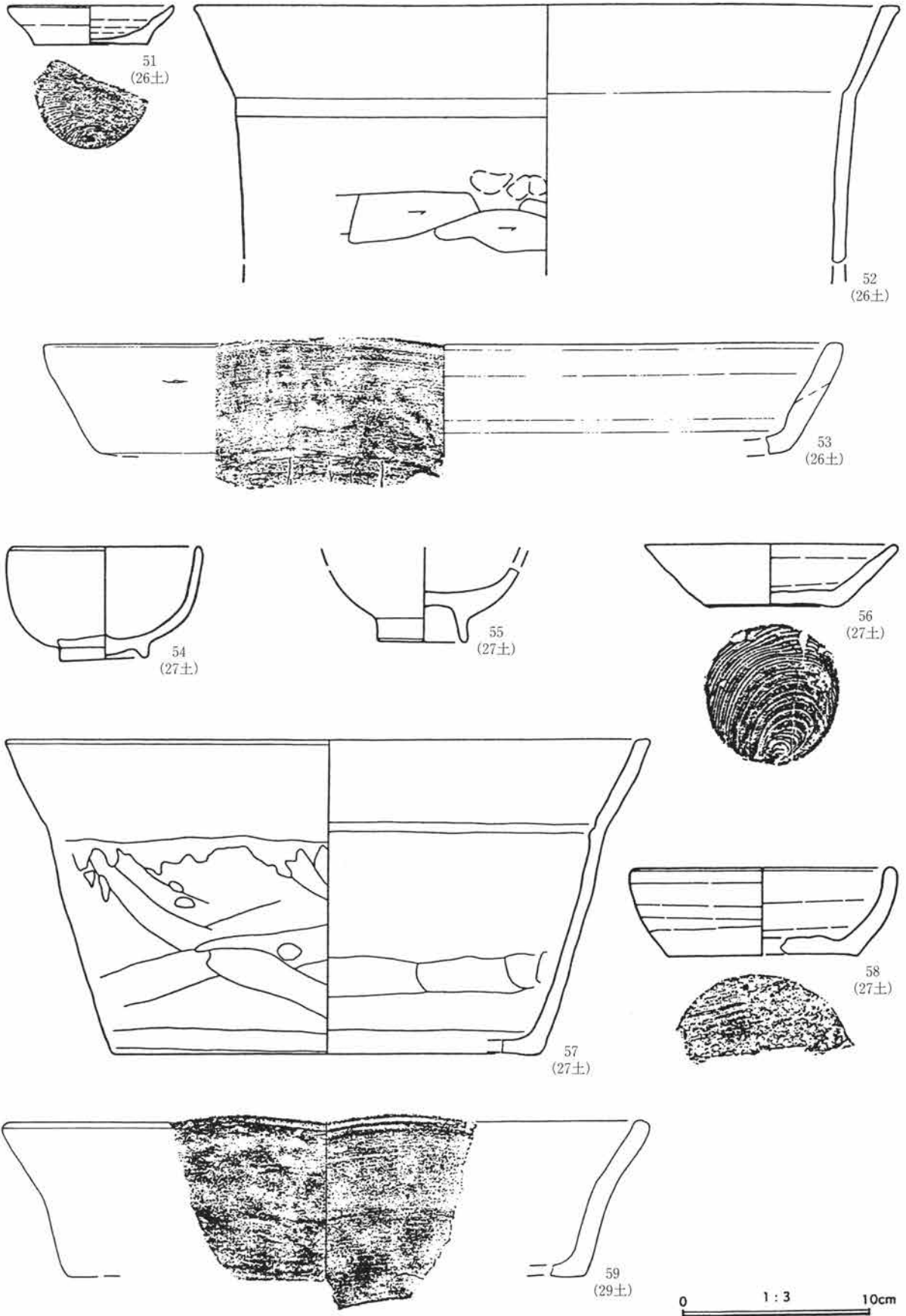
第267図 土坑跡出土遺物



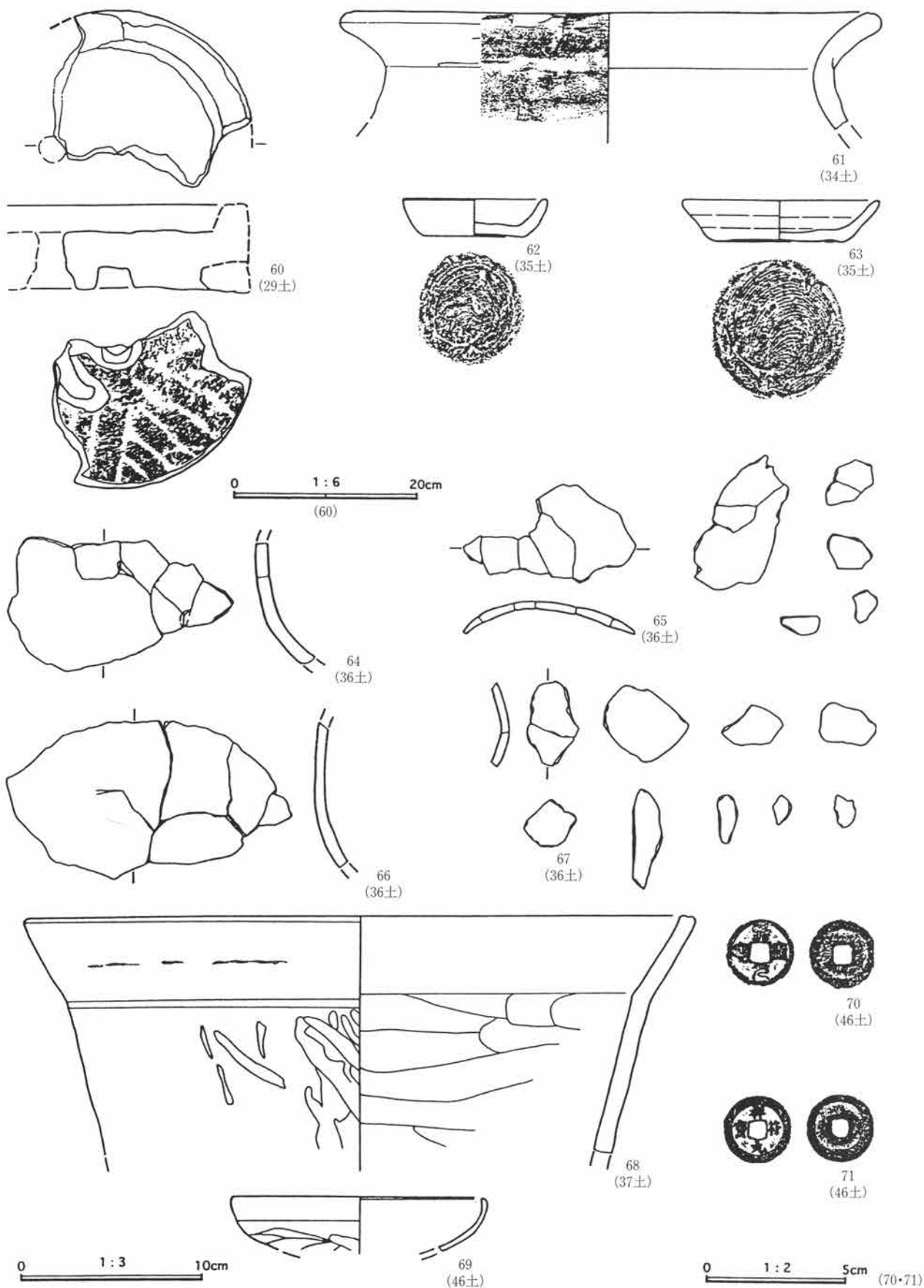


第268図 土坑跡出土遺物

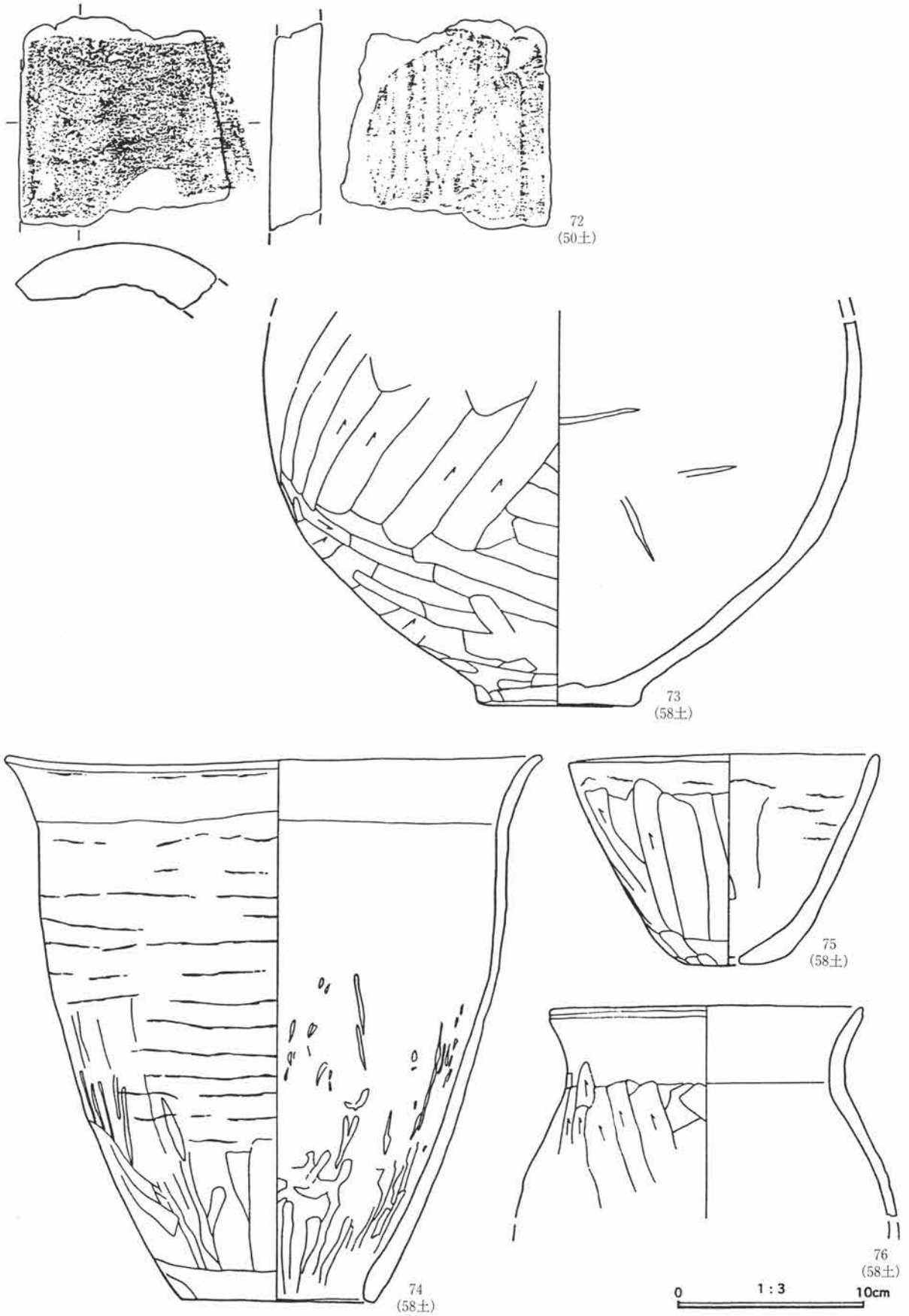
第3章 検出遺構と遺物



第269図 土坑跡出土遺物

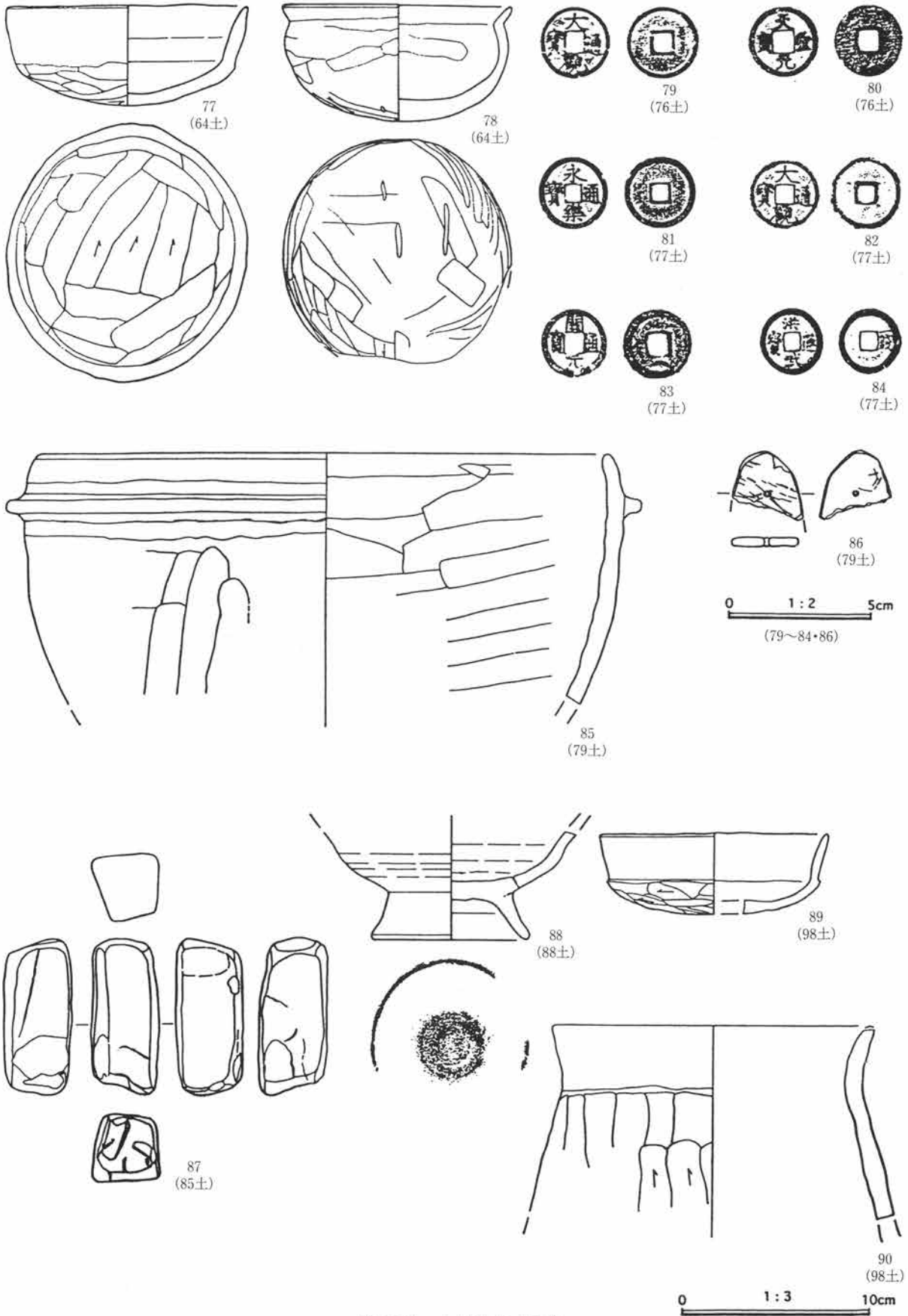


第270図 土坑跡出土遺物

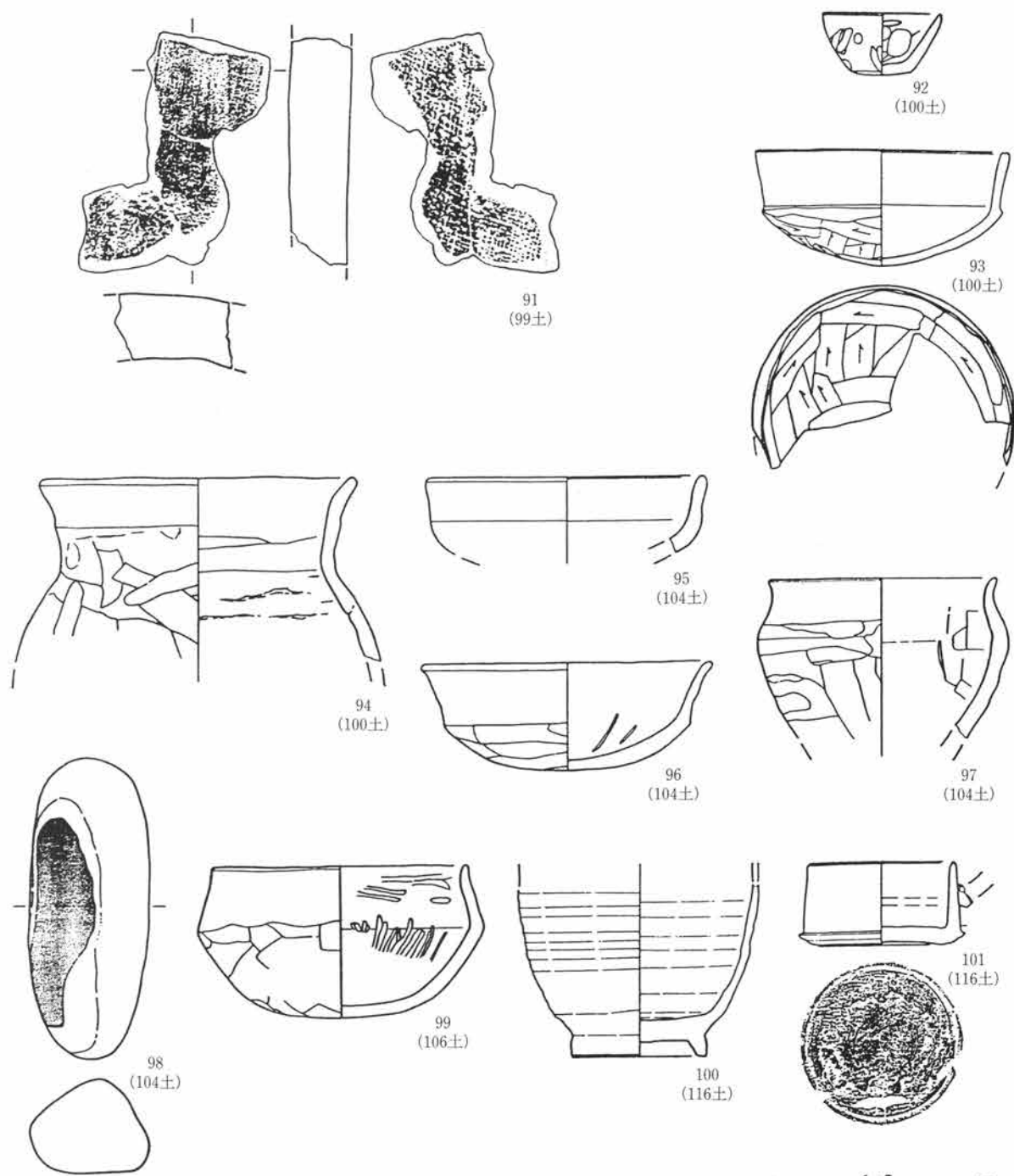


第271図 土坑跡出土遺物

第3節 古墳時代以降



第272図 土坑跡出土遺物



第273図 土坑跡出土遺物

0 1:3 10cm

第3節 古墳時代以降

土坑出土遺物観察表  
1号土坑

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
266-1 146 No4013	銅鏡(和鏡)	1号土坑 完形	最大径 6.98 厚さ 0.5	銅製	縁部に若干の腐食のみ遺存状態良好。表(鏡)面ほぼ全体に布目痕が残る。裏面は鈕に亀、上に向き合う二羽の鶴、下に松の文様を描き、鈕に繊維が残る。	57.0g 室町時代 (前期)か
266-2 146 No4014	鉄器 鉄+銅 小柄の小刀	1号土坑 完形	残存長 13.8	鉄製・銅主材製	小柄と同小刀で、袋部は長目で古様。袋尻欠。小刀先側欠。	16.32g 室町時代 か
266-3 146 No4015	古銭 至道元宝	1号土坑 1/4	最大径 2.44 厚さ 0.10	銅製	草書体。3分割。埋納後早い時点で割れたと思われる。「至」、「道」の文字部は残りが良いが、割れた「元」「宝」の字部分は腐食が著しい。	2.02g 北宋 995年
266-4 146 No4016	古銭 政和通宝	1号土坑 完形	最大径 2.44 厚さ 0.15	銅製	篆書体。若干の腐食があるものの、肉も厚く、遺存状態は良好。	3.85g 北宋 1111年
266-5 146 No4017	古銭 洪武通宝	1号土坑 完形	最大径 2.34 厚さ 0.18	銅製	全体にやや腐食が見られるものの、文字、縁の稜は良く残り、遺存状態は良好。	4.29g 明 1368年
266-6 146 No4018	古銭 皇宋通宝	1号土坑 完形	最大径 2.43 厚さ 0.12	銅製	篆書体。全体に腐食し、特に「宋」、「宝」の文字部、及び裏面の腐食が進む。	2.87g 北宋 1039年
266-7 146 No4019	古銭 大観通宝	1号土坑 完形	最大径 2.39 厚さ 0.12	銅製	外形が歪み、裏面の縁も均質ではない。「観」の文字部に腐食がみられる。	2.89g 北宋 1107年
266-8 146 No4020	古銭 至道元宝	1号土坑 完形	最大径 2.36 厚さ 0.12	銅製	行書体。下方縁端を一部欠損。やや腐食するが、文字の残りは良好。裏面の縁部幅が均質ではない。	2.59g 北宋 995年
266-9 146 No4022	古銭 至道元宝	1号土坑 完形	最大径 2.49 厚さ 0.12	銅製	草書体。全体に腐食し、特に「宝」字部が腐食する。裏面の縁部が著しく不均質。	2.99g 北宋 995年
266-10 146 No4021	古銭 元豊通宝	1号土坑 完形	最大径 2.34 厚さ 0.13	銅製	篆書体。磨滅・腐食は比較的少なく、遺存状態は良好。	3.09g 北宋 1078年
266-11 146 No4023	古銭 永楽通宝	1号土坑 完形	最大径 2.49 厚さ 0.12	銅製	全体に腐食が著しい。	2.66g 明 1408年
266-12 146 No4024	古銭 祥符元宝	1号土坑 完形	最大径 2.51 厚さ 0.12	銅製	全体に腐食が著しく、特に「符」、「宝」の文字部分が腐食する。	2.63g 北宋 1008年

4号土坑

266-13 146 No0616	かわらけ (大形)	4号土坑 完形	口径 11.9 底径 6.6 器高 3.0	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:褐色	体部は外反し開く。ロクロ成形、底部回転系切り、ロクロ左回転。	
266-14 146 No0615	かわらけ	4号土坑 略完形 口縁一部欠	口径 7.6 底径 4.7 器高 1.9	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	ロクロ成形、底部回転系切り、ロクロ左回転。口縁部に油煙付着。灯明皿として利用か。	
266-15 146 No0893	有孔土製円 盤	4号土坑 1/2	長さ(2.2) 幅 3.9 厚さ 0.5	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	成形後ヘラ撫で。穿孔は焼成前。厚さは均質で丁寧な造り。外縁部の一部に若干磨滅が認められる。	
266-16 146 No4025	古銭 永楽通宝	4号土坑 完形	最大径 2.48 厚さ 0.14	銅製	腐食は極めて少なく、遺存状態は良好。	3.30g 明 1408年
266-17 146 No4026	古銭 永楽通宝	4号土坑 完形	最大径 2.48 厚さ 0.16	銅製	「楽」、「宝」の文字部に若干の腐食がみられる他は、遺存状態は良好。	4.73g 明 1408年
266-18 146 No4028	古銭 熙寧元宝	4号土坑 完形	最大径 2.42 厚さ 0.15	銅製	篆書体。比較的腐食は少なく、遺存状態は良好。	3.81g 北宋 1068年



### 第3章 検出遺構と遺物

#### 4号・5号土坑

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
266-19 146 No4029	古銭 洪武通宝	4号土坑 完形	最大径 2.24 厚さ 0.12	銅製	径がやや小さい。全体に腐食が著しく、特に「洪」字部分は文字の判読困難。	2.22g 明 1368年
266-20 146 No4027	古銭 元祐通宝	4号土坑 完形	最大径 2.38 厚さ 0.12	銅製	表裏面共に磨滅・腐食し、裏面は縁の稜残らず。	2.97g 北宋 1086年
266-21 146 No4030	古銭 景祐元宝	4号土坑 完形	最大径 2.53 厚さ 0.13	銅製	全体にやや腐食する。文字の細部は潰れ、裏面の縁は無し。	2.76g 北宋 1034年
266-22 146 No0617	焼締陶器 片口鉢	5号土坑 口縁～体部 破片	口径(30.4) 器高 — 底径 —	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：赤褐色、灰白色	口縁部は内面に稜をもち、外側は丸味をおびる。やや大形の片口をもつ。内面全面に灰白色の自然釉付着。	

#### 7号土坑

266-23 146 No4031	古銭 聖宋元宝	7号土坑 完形	最大径 2.48 厚さ 0.12	銅製	篆書体。上半部の腐食が著しい。裏面の縁残らず。	2.79g 北宋 1101年
266-24 146 No4034	古銭 皇宋通宝	7号土坑 完形	最大径 2.41 厚さ 0.12	銅製	真書体。全体に磨滅・腐食し、裏面は縁の稜残らず。	3.06g 北宋 1039年
266-25 146 No4032	古銭 紹熙元宝	7号土坑 完形	最大径 2.38 厚さ 0.13	銅製	裏面下方に「二」の文字有り。全体に腐食が極めて少なく、遺存状態は良好。	2.74g 南宋 1190年
266-26 146 No4035	古銭 元祐通宝	7号土坑 完形	最大径 2.33 厚さ 0.12	銅製	真書体。全体に若干磨滅・腐食するものの、遺存状態は良好。	2.79g 北宋 1086年
266-27 146 No4033	古銭 開元通宝	7号土坑 完形	最大径 2.38 厚さ 0.10	銅製	「開」の文字の右側及び「通」の文字の左側が腐食する。	1.97g 唐

#### 9号土坑

266-28 — No0619	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	9号土坑 口縁～底部 破片	口径(26.3) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰白～灰色	口縁端部は平坦で、角は明瞭な稜を有す。耳部残らず。	
-----------------------	---------------------	---------------------	--------------------------	---------------------------	---------------------------	--

#### 14号土坑

267-29 146 No2113	石製品 凹石	14号土坑		榛名二ツ岳軽石	自然石の一面に浅い皿状の凹みを有し、凹みの内部は更に3穴の浅い凹みを有する。凹み内面は磨耗する。	
267-30 146 No0618	かわらけ	15号土坑 略完形 口縁一部欠	口径 10.8 底径 6.8 器高 2.3	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	

#### 17号土坑

267-31 146 No4036	古銭 皇宋通宝	17号井戸 1/2	最大径 2.38 厚さ 0.10	銅製	篆書体。2分割のうえ、全体に腐食が著しく、裏面も縁の稜を残さない。	1.91g 北宋 1039年
-------------------------	------------	--------------	---------------------	----	-----------------------------------	----------------------

#### 18号土坑

267-32 — No0869	玉縁付男瓦	18号土坑			瓦一覧表(4)参照	
267-33 146 No3010	木製 容器	18号土坑	長さ(19.8)	木製品	桶底板と考えられ、木理の状態は柾目気味。	
267-34 146 No3022	木製 桶側板	18号土坑	長さ 14.5	木製品	桶側板と考えられ、下側が少し狭い。	

第3節 古墳時代以降

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
267-35 147 No3011	木製 板	18号土坑	残存長 22.4	木製品	板状である。	
267-36 147 No3030	木製 板	18号土坑	残存長 22.0	木製品	板状で、下方に小孔あり。木理の状態は柾目気味。	
267-37 147 No3019	木製 板材	18号土坑	長さ 26.8	木製品	年輪は材の芯にあり、小径材利用らしい。下方に組物の のり込みと釘穴あり。	
268-38 147 No3023	木製 板材	18号土坑	長さ 27.1	木製品	小口に粗物用組手が作り出され、上方に小穴あり、木 理は、柾目が流れる状態。	
268-39 146 No3048	木製 桶か	18号土坑	残存長 14.6	木製品	桶の側板とも考えられ、木理は柾目が流れる状態。	
268-40 146 No3035	木製 板材	18号土坑	残存長 12.3	木製品	1 + α で釘穴らしき小穴あり。木目は板目気味。	
268-41 146 No3031	木製 板材	18号土坑	残存長 12.5	木製品	種は不明。	
268-42 146 No3050	木製 小材	18号土坑	長さ 4.4	木製品	種は不明。木理は柾目気味。	
268-43 146 No3026	木製 小材	18号土坑	残存長 12.0	木製品	種は不明。材は小径材らしく、外面と年輪が接する。	
268-44 146 No3049	木製 板材	18号土坑	残存長 12.2	木製品	種は不明。	
268-45 146 No3020	木製 小材	18号土坑	残存長 29.5	木製品	種は不明。材は小径材らしく、外面と年輪が接する。	
268-46 147 No3024	木製 棒状	18号土坑	残存長 61.0	木製品	上方を欠。下方に突出部を作り出す。	
268-47 146 No3025	木製 小材	18号土坑	残存長 20.5	木製品	外面に削目あり。材の中央に年輪の芯があるため小径 材か。	
268-48 146 No3027	木製 小材	18号土坑	残存長 30.7	木製品	下端と下方に削目あり。材の中央に年輪の芯があり小 径材である。	
268-49 147 No2260	石製品 石鉢	18号土坑 口縁～底部 1/4	最大径 23.8 高さ 13.2	粗粒安山岩	外面体部は緩やかに円湾し、底部は平坦。口縁部はや や丸味をおびる。外面には工具痕を残さず、軽く磨く。 内面は使用による磨耗が認められる。	2.1kg
268-50 147 No2259	石臼 上臼	1/2弱	最大径 — 高さ 10.5	粗粒安山岩	全体に比較的丁寧な整形。供給口の一部を有し、側面 には円形の挽木穴を有する。挽面は磨耗し、目は残ら ない。	5.4kg

26号土坑

269-51 147 No0620	かわらけ	26号土坑 口縁～底部 1/2	口径 8.8 底径 6.0 器高 2.0	胎：細砂粒、砂粒多 焼：酸化焰 色：褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、糸切り痕偏る。ロクロ 左回転。	
269-52 147 No0621	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	26号土坑 口縁～体部 破片	口径(37.2) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	口縁端部は平坦で、外縁に膨らみをもつ。外面口縁～体 部中位まで撫でを施す。	
269-53 147 No0622	軟質陶器 内耳鍋 (浅鍋)	26号土坑 口縁～底部 破片	口径(42.2) 底径(36.4) 器高 5.8	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：にぶい褐～灰色	口縁端部は平坦で、角は明瞭な稜をもつ。体部はやや 広き直線的に立ち上がる。	

第3章 検出遺構と遺物

27号土坑

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
269-54 147 No0625	陶器 碗	27号土坑 完形	口径 10.0 高台径 4.7 器高 5.8	胎：微・細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：浅黄～オリーブ	外面底部～高台部を除き施釉。内外面体部は波状に釉が垂れ、濃色となる。	瀬戸・美濃18c中～後
269-55 147 No0626	陶器 碗	27号土坑 底部破片	口径 — 高台径 4.7 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：オリーブ黄色	底部肉厚。全面に施釉。細かな貫入入る。	
269-56 147 No0623	かわらけ (杯)	27号土坑 略完形 口縁一部欠	口径 13.4 底径 7.1 器高 3.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
269-57 — No0628	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	27号土坑 口縁～底部 1/4	口径(33.6) 底径(22.2) 器高 16.4	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：暗褐～黒褐色	口縁端部はやや丸味をおびる。内面体部屈曲部に2条の隆起がみられる。体部外面の全面に煤付着。	
269-58 147 No0624	軟質陶器 鉢(脚付)	27号土坑 口縁～底部 1/3	口径(14.0) 底径(10.0) 器高 4.6	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	器肉やや厚め。ロクロ成形、回転方向不明。底部に円形の脚部剥離跡が残る。脚部は欠失するが、円形の三足であろう。	中世?

29号土坑

269-59 — No0627	軟質陶器 内耳鍋 (中深鍋)	29号土坑 口縁～底部 破片	口径(33.3) 底径(27.2) 器高 8.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：暗褐～黒褐色	体部中位よりやや開く。口縁端部は丸味をおびる。	
270-60 147 No2261	石臼 上臼	29号土坑 1/4	最大径 — 高さ —	粗粒安山岩	側面は比較的丁寧な整形で、上面部のみ磨き整形。供給口の一部を有し、側面には方形の挽木穴の一部を有する。挽面は2～3cm間隔で6分割の目が残る。	3.1kg

34号・35号・36号・37号土坑

270-61 — No0629	焼締陶器 甕	34号土坑 口縁破片	口径(28.2) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：赤褐色、緑色	口縁内面及び外面肩部に緑色の自然釉。	
270-62 147 No0630	かわらけ	35号土坑 完形	口径 7.8 底径 5.6 器高 2.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。口縁部に油煙付着。灯明皿として利用か。	
270-63 147 No0631	かわらけ (大形)	35号土坑 完形	口径 10.6 底径 7.2 器高 2.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
270-64 147 No3001	ふくべ様 容器	36号土坑	体部片	有機質	器肉あり。	
270-65 147 No3001	ふくべ様 容器	36号土坑	体部片	有機質	器肉薄い。	
270-66 147 No3001	ふくべ様 容器	36号土坑	体部片	有機質	器肉あり。	
270-67 147 No3001	ふくべ様 容器	36号土坑	体部片	有機質	小片8点。	
270-68 — No0632	軟質陶器 内耳鍋 (深鍋)	37号土坑 口縁～体部 破片	口径(36.2) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：褐色、黒褐色	口縁端部は平坦だが、角は丸味をおびる。耳部残らず。	

46号土坑

270-69 — No0633	土師器 杯	46号土坑 口縁部破片	口径(13.8) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面口縁部は横方向の撫で、底部はヘラ削り。内面は全面に撫でを施す。	
270-70 148 No4037	古銭 □□元宝	46号土坑 完形	最大径 2.48 厚さ 0.09	銅製	全体にやや磨滅、腐食する。文字は判読できるが、名称不明。	2.94g
270-71 148 No4038	古銭 祥符元宝	46号土坑 完形	最大径 2.43 厚さ 0.12	銅製	やや磨滅するものの腐食は少ない。裏面の縁部幅が不均質。	3.08g 北宋 1008年

## 第3節 古墳時代以降

## 50号土坑

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
271-72 — No0634	男瓦	50号土坑			瓦一覽表(4)参照	

## 58号土坑

271-73 148 No0639	土師器 壺	58号土坑 胴部～底部 破片	口径 — 底径 8.1 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～黒褐色	胴部外面下半は全面に撫で、胴部内面も全面に撫でを施す。	
271-74 148 No0638	土師器 甗 (一穴)	58号土坑 口縁～底部 3/4	口径 28.0 底径 10.1 器高 28.1	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～暗褐色	口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部外面はヘラ削り後に撫で、若干輪痕残る。胴部内面は撫での後、下方に粗い研磨を施す。	
271-75 148 No0637	土師器 甗 (一穴)	58号土坑 略完形 口縁一部欠	口径 16.3 底径 4.2 器高 11.1	胎：細・粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～赤褐色	口縁部は波を打つ。外面体部は縦方向のヘラ削り後に撫で、内面は全面に撫でを施す。	
271-76 148 No0645	土師器 甗	58号土坑 口縁～胴部 上位破片	口径(16.4) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	口縁端部に横方向の沈線。口縁部内外面共に横方向の撫で、外面胴部は縦方向のヘラ削り、胴部内面は撫でを施す。	

## 64号土坑

272-77 148 No0643	土師器 杯	64号土坑 完形	口径 12.4 器高 5.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	内面は発泡、剥離し、細かいクレーター状となる。口縁部は内外面共に横方向の撫で、外面底部はヘラ削りを施す。	
272-78 148 No0642	土師器 杯	64号土坑 略完形 口縁一部欠	口径 11.9 器高 6.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～赤褐色	丸底。内面は全面にわたり丁寧な撫で、外面口縁部は横方向の撫で、体部～底部はヘラ削り後に撫でを施す。	

## 76号土坑

272-79 148 No4039	古銭 大観通宝	76号土坑 完形	最大径 2.46 厚さ 0.16	銅製	3分割。磨滅・腐食は少なく、文字・縁共に良好に残る。	2.58 g 北宋 1107年
272-80 148 No4040	古銭 天聖元宝	76号土坑 完形	最大径 2.46 厚さ 0.12	銅製	真書体。全体に磨滅・腐食は少ないが、「聖」、「宝」字部がやや腐食する。	2.38 g 北宋 1023年

## 77号土坑

272-81 148 No4041	古銭 永楽通宝	77号土坑 完形	最大径 2.48 厚さ 0.12	銅製	磨滅・腐食はほとんどなく、遺存状態は極めて良好。	2.74 g 明 1408年
272-82 148 No4042	古銭 大観通宝	77号土坑 完形	最大径 2.44 厚さ 0.13	銅製	やや磨滅し、外縁部全体に若干の腐食・欠損がみられるものの遺存状態は良好。	3.41 g 北宋 1107年
272-83 148 No4043	古銭 開元通宝	77号土坑 完形	最大径 2.38 厚さ 0.14	銅製	全体に腐食するものの、遺存状態は良く、「開」の文字部右側が腐食し貫通し、縁部下方が腐食し膨れる。裏面に「一」?の文字有。	3.33 g 唐
272-84 148 No4044	古銭 洪武通宝	77号土坑 完形	最大径 2.25 厚さ 0.18	銅製	全体に腐食するものの比較的遺存状態は良好。裏面右側に文字有り。「一銭」か。	3.51 g 私鑄銭?

## 79号土坑

272-85 148 No0791	羽釜	79号土坑 口縁～胴部 破片	口径 30.2 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～赤褐色	口縁部及び鑊部は波を打ち歪む。鑊部はあまり突出しない。口縁部内外面及び鑊下は横方向の粗い撫で、外面胴部は縦方向のヘラ削りを施す。	平安時代
272-86 148 No2829	滑石製品	79号土坑	残存長 2.4	滑石	下方欠。小孔あり。厚さは扁平である。	

## 85号土坑

272-87 148 No2808	磨石	85号土坑	長さ 8.2 幅 3.6 厚さ 3.4	溶結凝灰岩	級は荒砥級であるが磨耗面が砥石様ではなく、軟質の研磨主体に思える。	164 g
-------------------------	----	-------	---------------------------	-------	-----------------------------------	-------

### 第3章 検出遺構と遺物

#### 88号土坑

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
272-88 148 No0792	土師質土器 椀	88号土坑 体部～底部 破片	口径 — 高径 8.2 器高 —	胎：細・粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	ロクロ成形。足高高台。	平安時代

#### 98号土坑

272-89 148 No0795	土師器 杯	98号土坑 口径～底部 1/3強	口径(11.8) 稜径(11.0) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～にぶい褐色	口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面底部も撫で、外面底部はヘラ削りを施す。	
272-90 148 No0796	土師器 小形甕	98号土坑 口縁～胴部 中位破片	口径(16.7) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙～暗褐色	口縁部は内外面共に横方向の撫で、外面胴部はヘラ撫で、内面胴部は撫でを施す。	

#### 99号土坑

273-91 — No0797	男瓦	99号土坑			瓦一覧表(4)参照	
-----------------------	----	-------	--	--	-----------	--

#### 100号土坑

273-92 148 No0651	土製品 手捏ね	100号土坑 口縁～底部 1/2	口径 5.5 底径 2.2 器高 3.1	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色～黒褐色	丸底杯形。	
273-93 148 No0649	土師器 杯	100号土坑 口縁～底部 1/2	口径 11.9 稜径 11.2 器高 5.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	口縁部内外面共に横方向の撫で、内面底部も撫で、外面底部はヘラ削りを施す。	
273-94 148 No0650	土師器 小形甕	100号土坑 口縁部破片	口径(14.6) 底径 — 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～褐色	口縁部内外面共に横方向の撫で、外面体部はヘラ削り、内面体部は輪積痕を残し粗い撫でを施す。	

#### 104号土坑

273-95 148 No0653	土師器 杯	104号土坑 口縁部破片	口径(13.0) 器高 —	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	口縁部内外面共に横方向の撫でを施す。外面体部～底部の稜はなく、丸味をおびる。	
273-96 148 No0652	土師器 杯	104号土坑 口縁～底部 1/3	口径 13.5 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙～黒褐色	外面口縁部は横方向の撫で、外面底部はヘラ削り。内面は全面に撫でを施す。全体に器肉厚。	
273-97 — No0654	土師器 小形甕	104号土坑 口縁～胴部 破片	口径(10.5) 底径 — 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	口縁部内外面共に横方向の撫で、胴部外面はヘラ削り。	
273-98 148 No2248	磨石	104号土坑	長さ 13.8 幅 5.5 厚さ 4.4		各面磨耗微。平面は長楕円形。横断面は隅丸三角形。	539 g

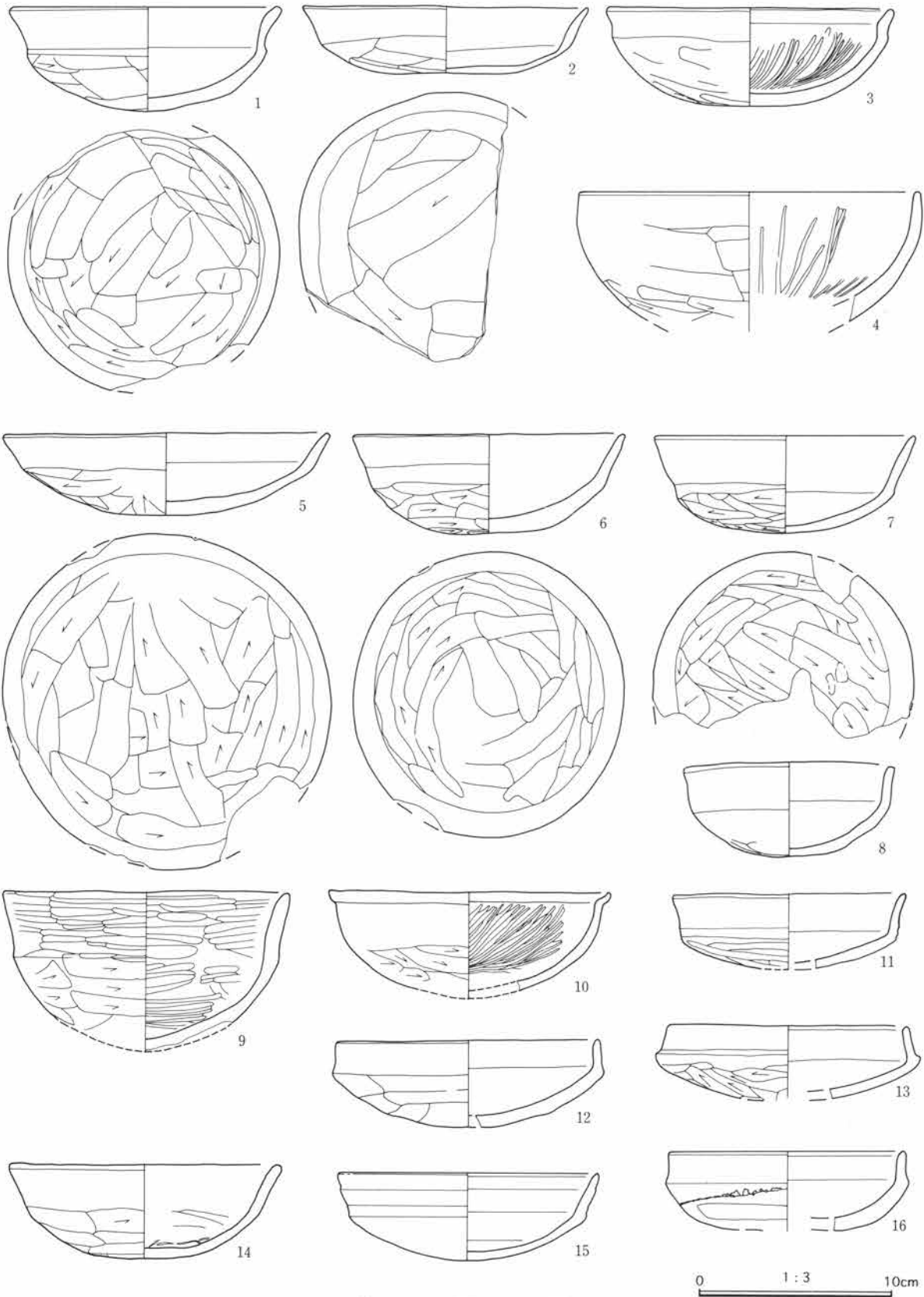
#### 106号土坑

273-99 148 No0656	土師器 杯	106号土坑 口縁～底部 1/4	口径 11.8 稜径 13.2 器高 6.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	口縁部外面は横方向の撫で、外面底部はヘラ削り、内面は撫での後に部分的に粗い研磨を施す。	
-------------------------	----------	------------------------	------------------------------	------------------------	---	--

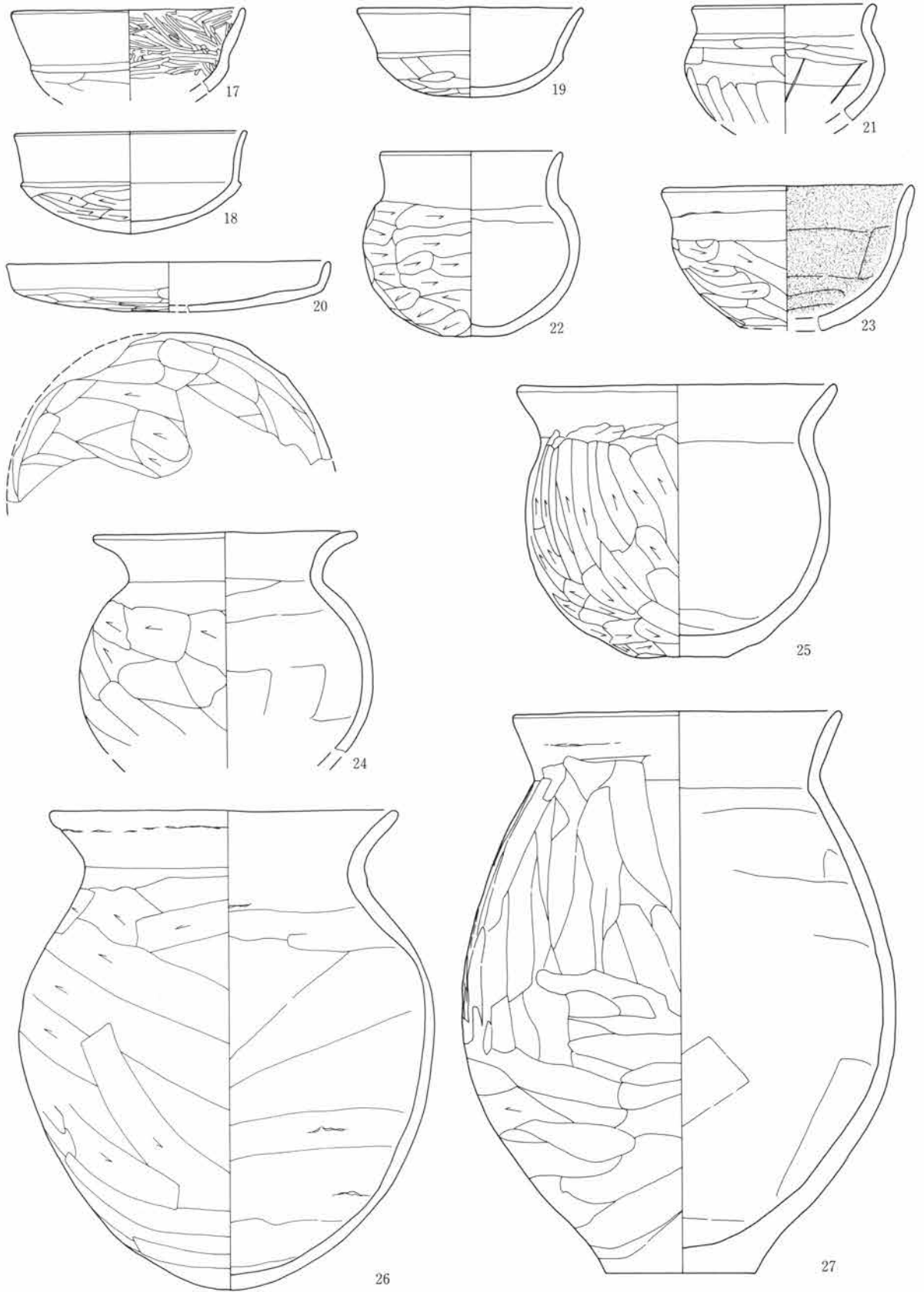
#### 116号土坑

273-100 148 No0657	陶器 小形甕	116号土坑 胴～底部	口径 — 高径 6.3 器高 —	胎：微砂粒 焼：還元焰、施釉 色：赤褐色、灰白色	内面全面及び外面胴部下方まで施釉。外面体部に黒色釉のたれが有る。外面底部高台内側に墨書銘有り。	
273-101 148 No0658	陶器 小鉢 (水入れ)	116号土坑 略完形 口縁一部欠	口径 6.8 稜径 7.7 器高 3.7	胎：細砂粒 焼：還元焰、施釉 色：灰白色	底部回転糸切り後、周辺部調整。外面底部を除き施釉。外面体部中位上に小把手有り、欠損し形状不明。	

第4節 遺構外出土遺物



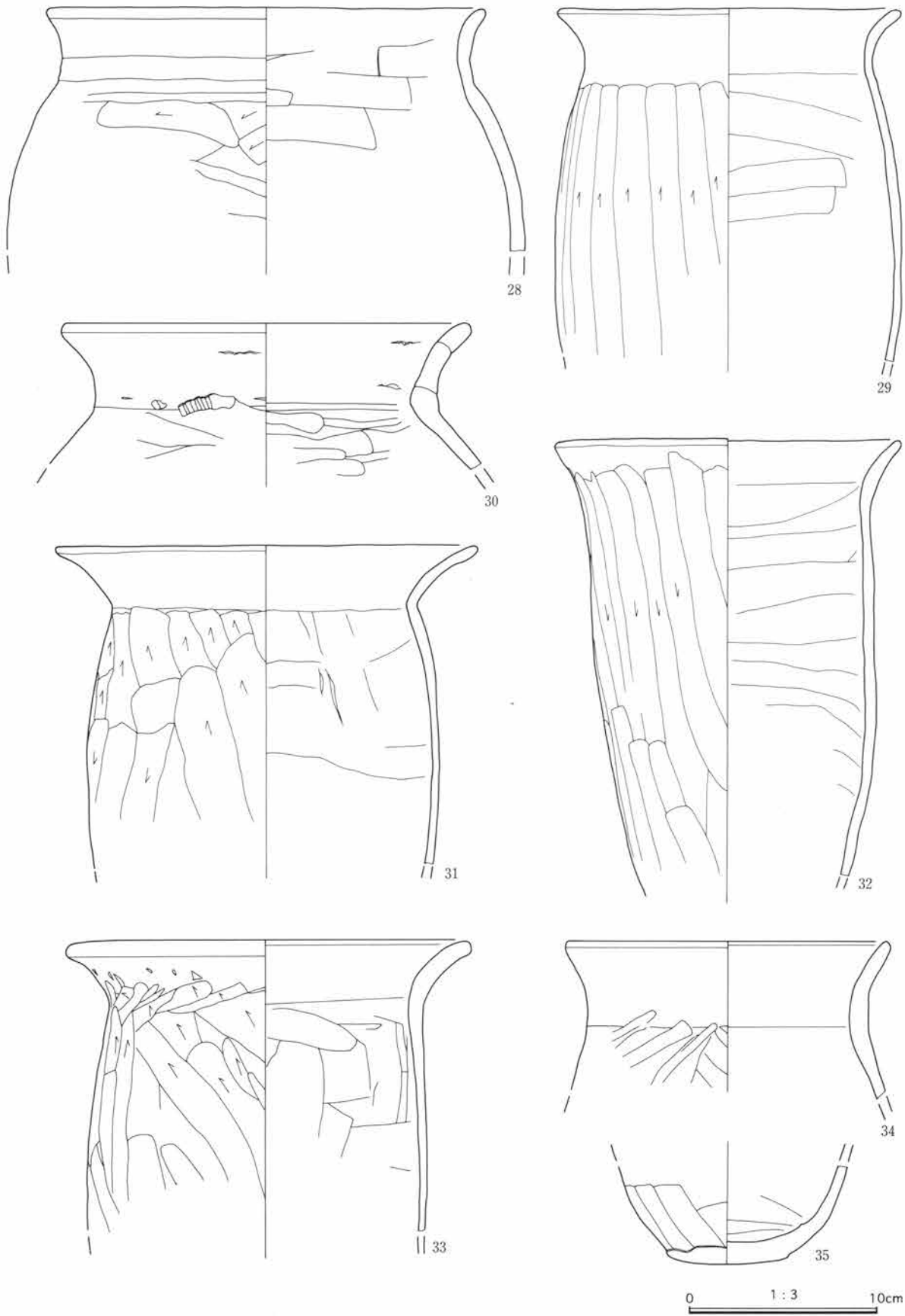
第274図 遺構外出土遺物



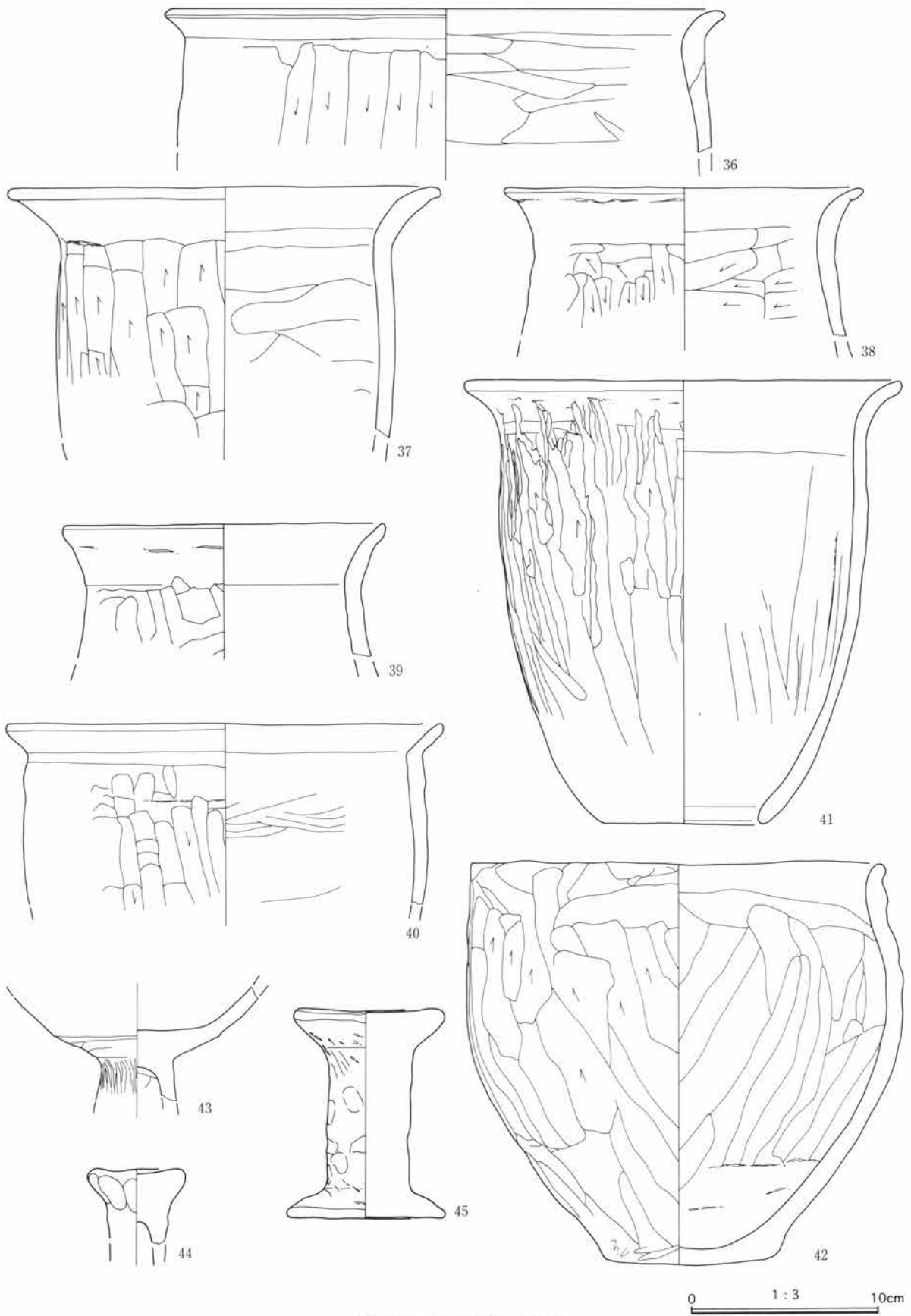
0 1:3 10cm

第275図 遺構外出土遺物

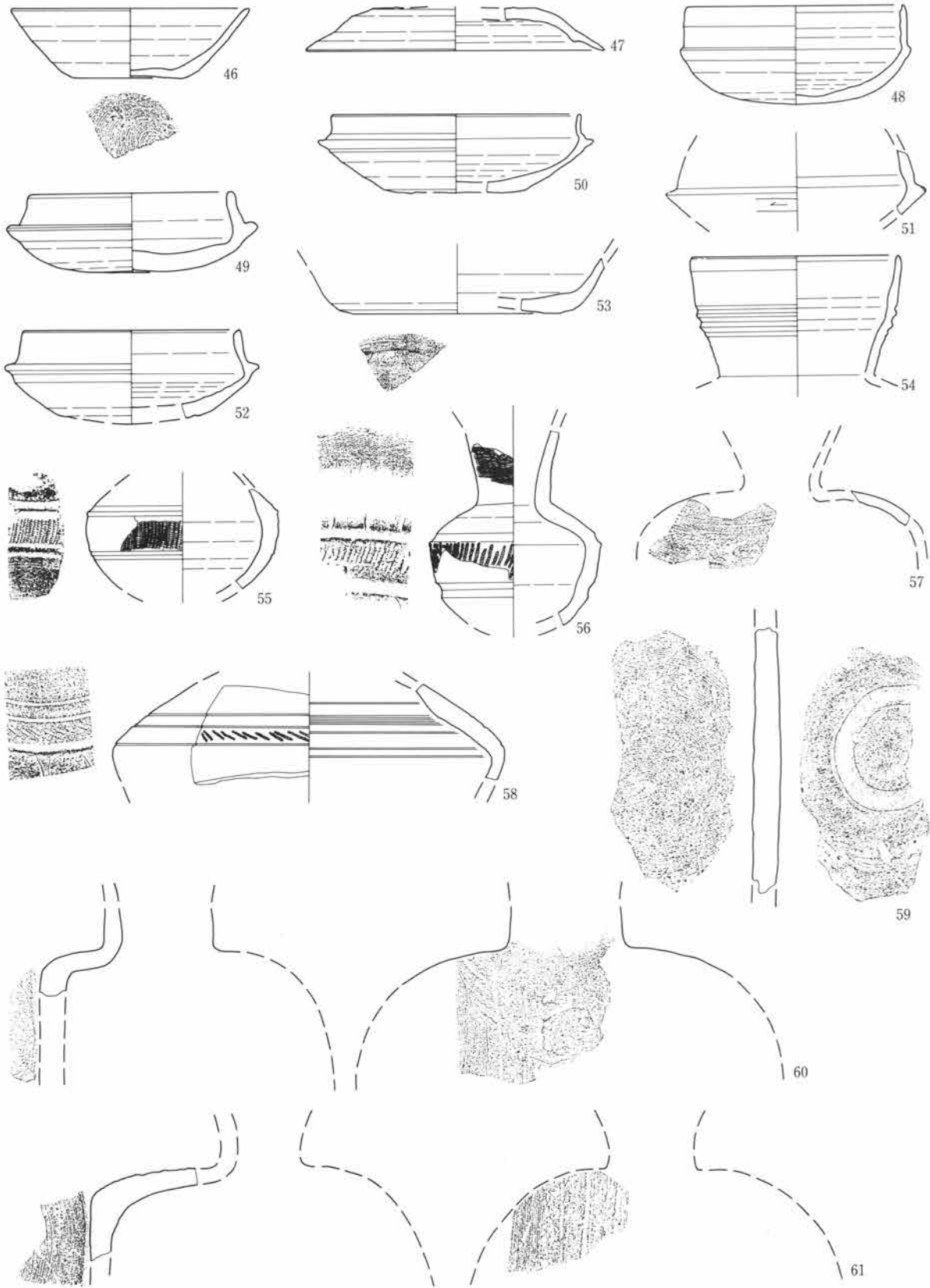




第276図 遺構外出土遺物

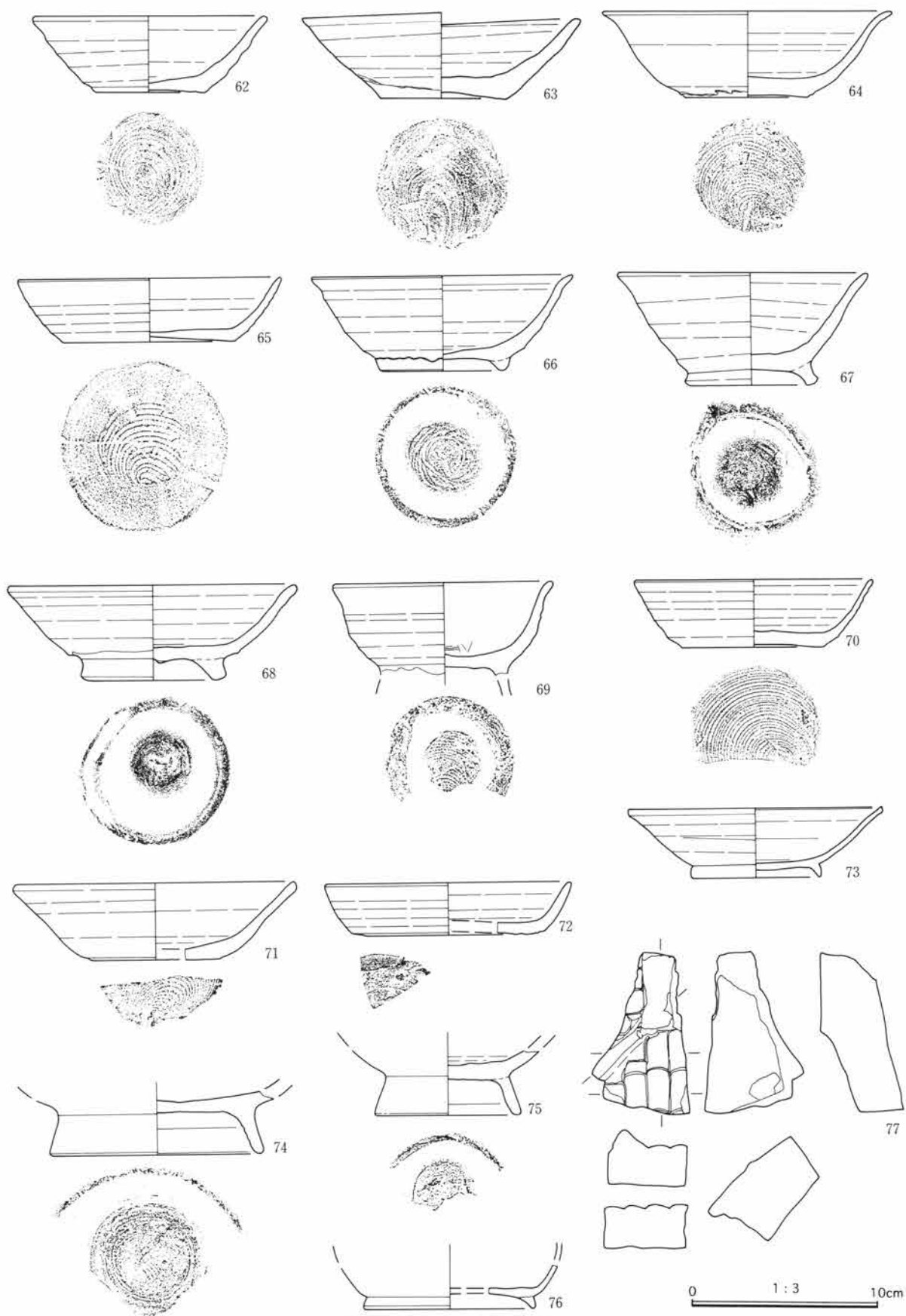


第277図 遺構外出土遺物

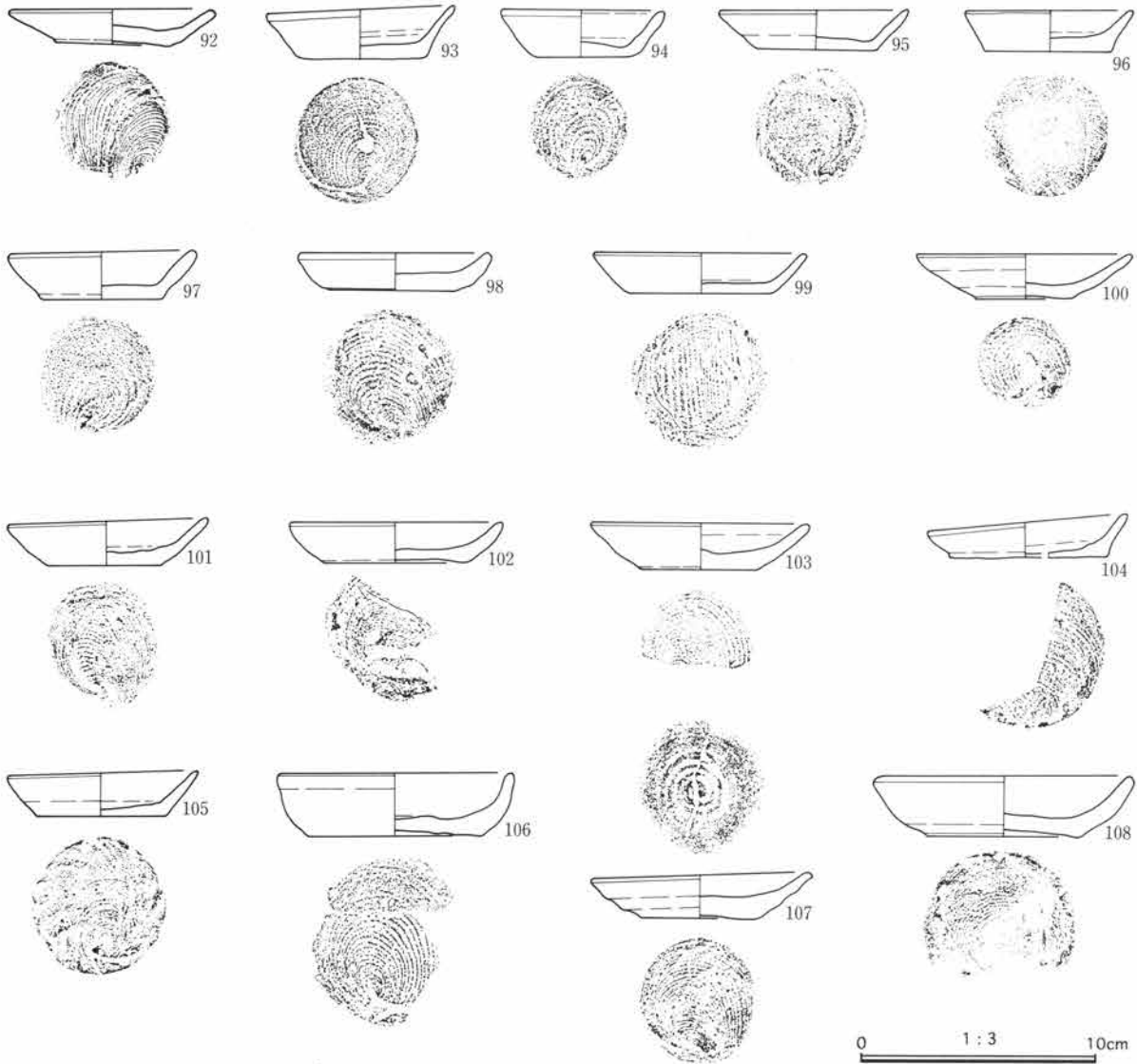
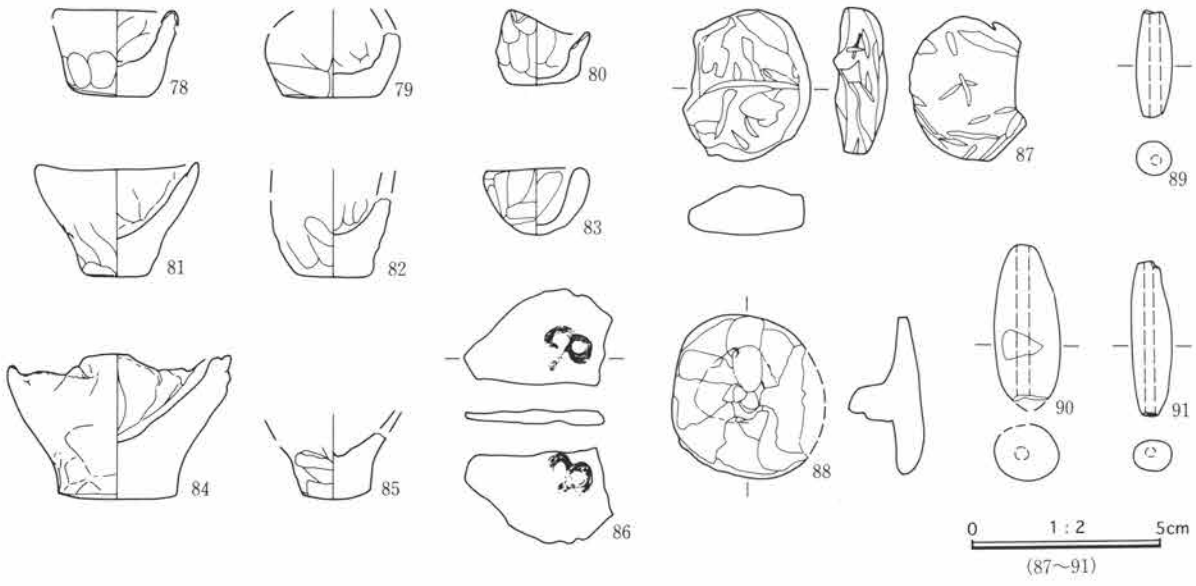


第278図 遺構外出土遺物

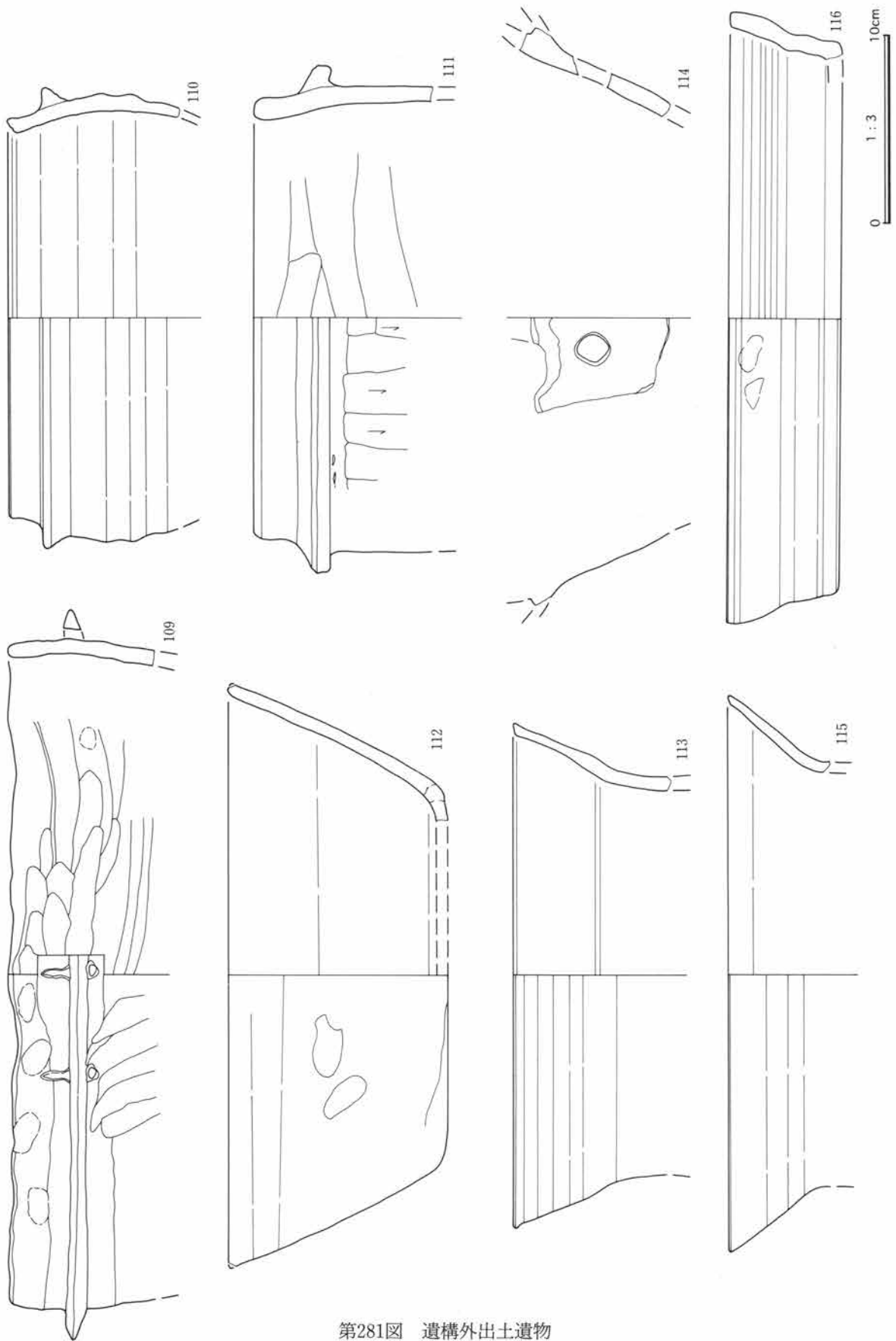
0 1:3 10cm



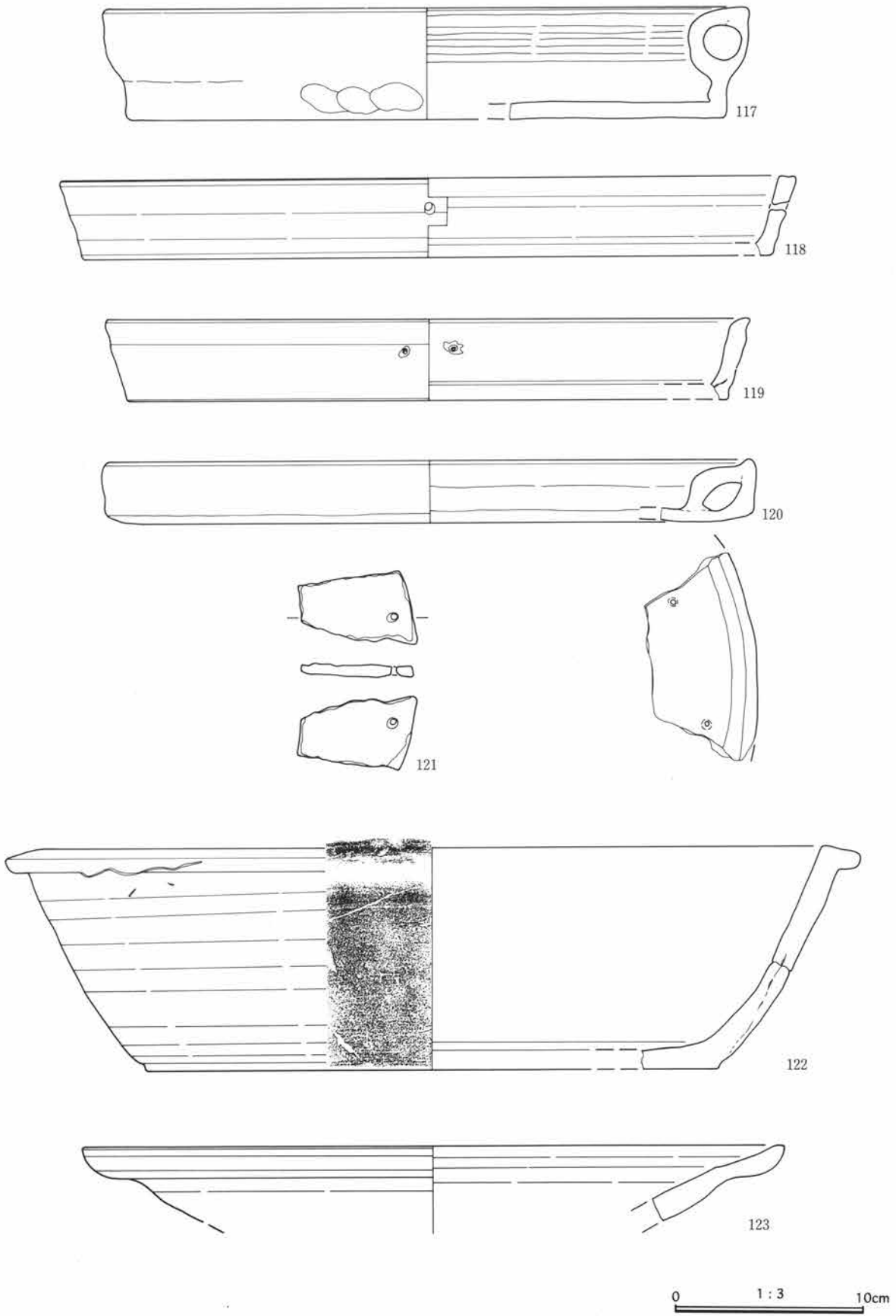
第279図 遺構外出土遺物



第280図 遺構外出土遺物

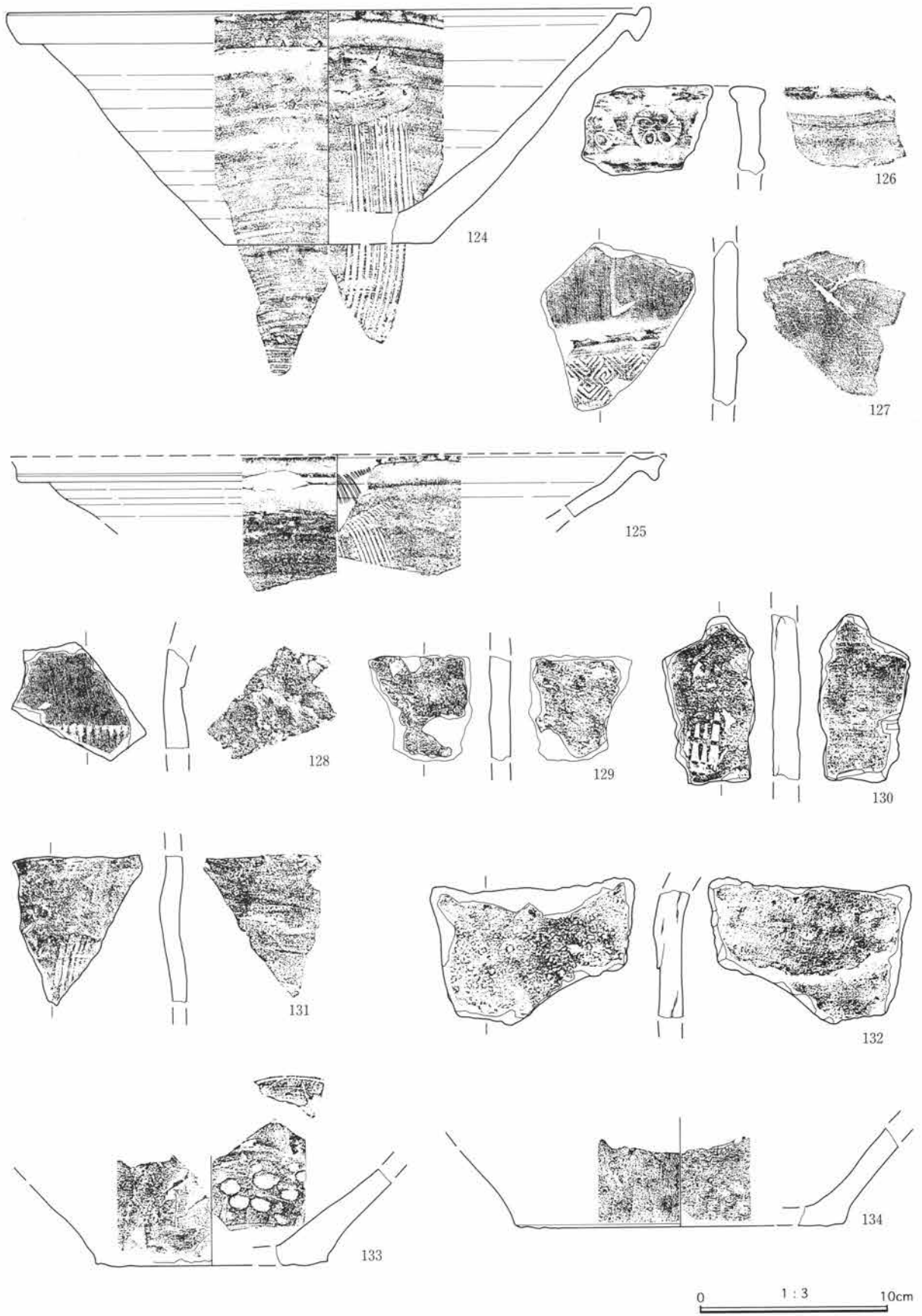


第281図 遺構外出土遺物

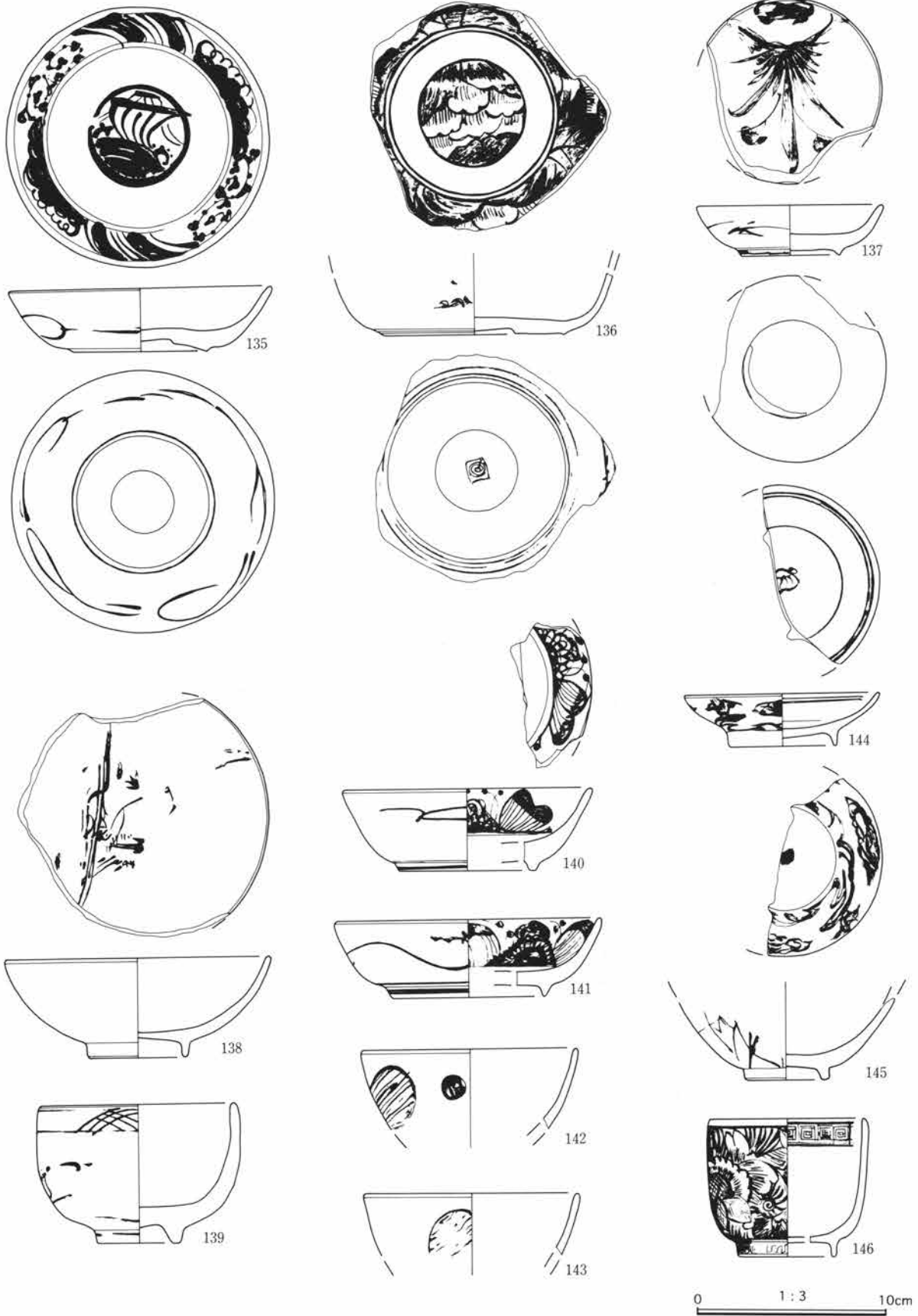


第282図 遺構外出土遺物

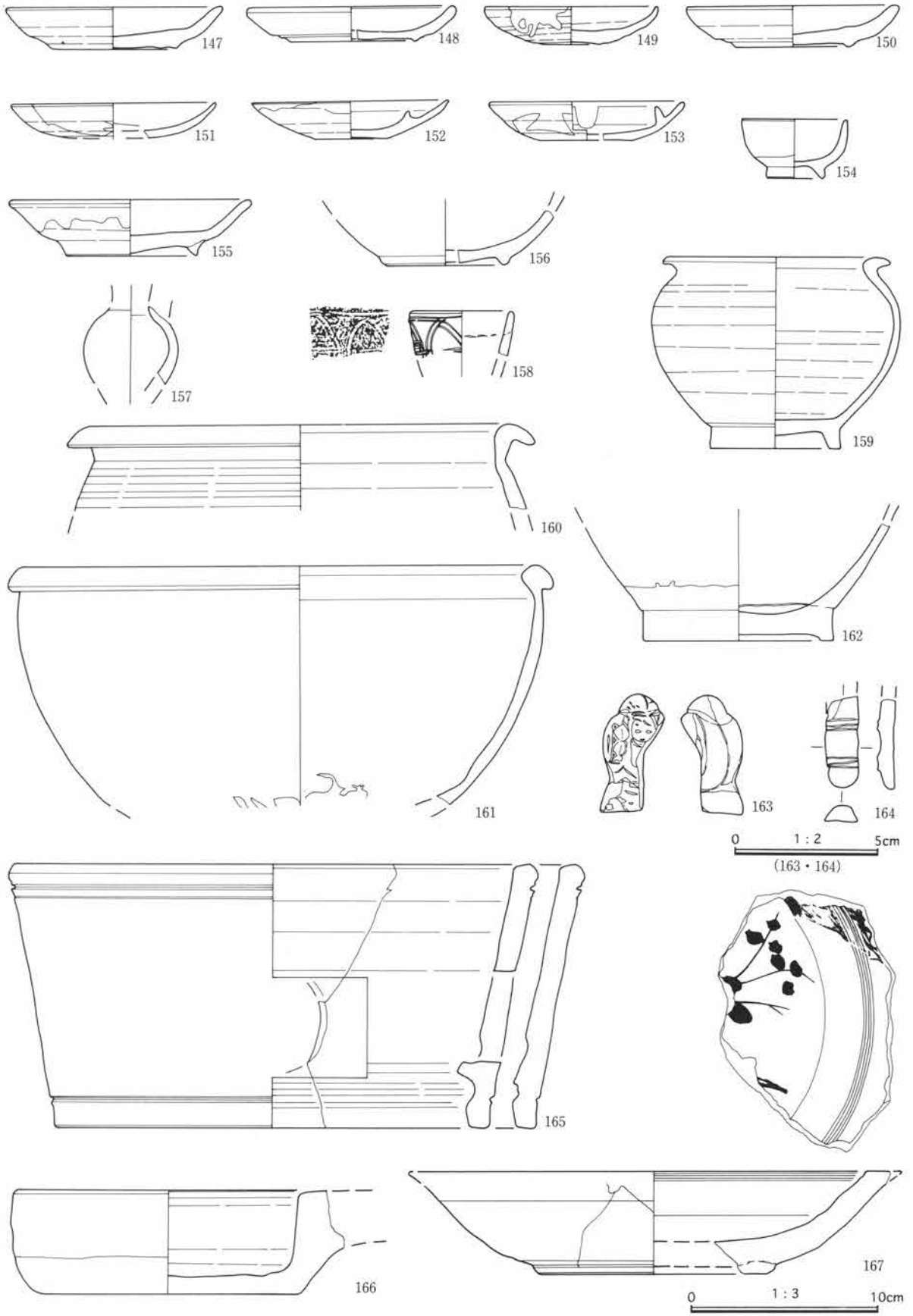




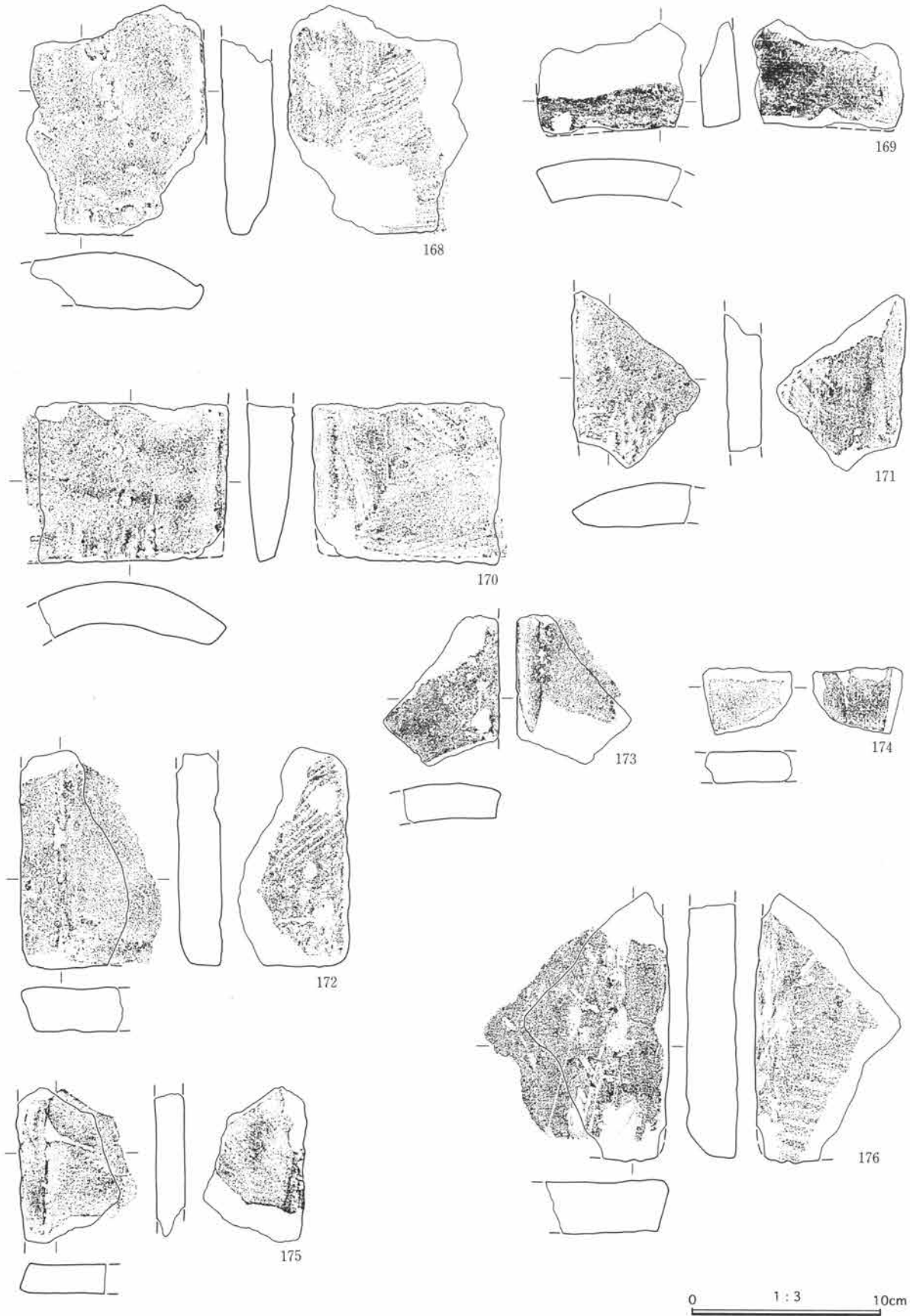
第283図 遺構外出土遺物



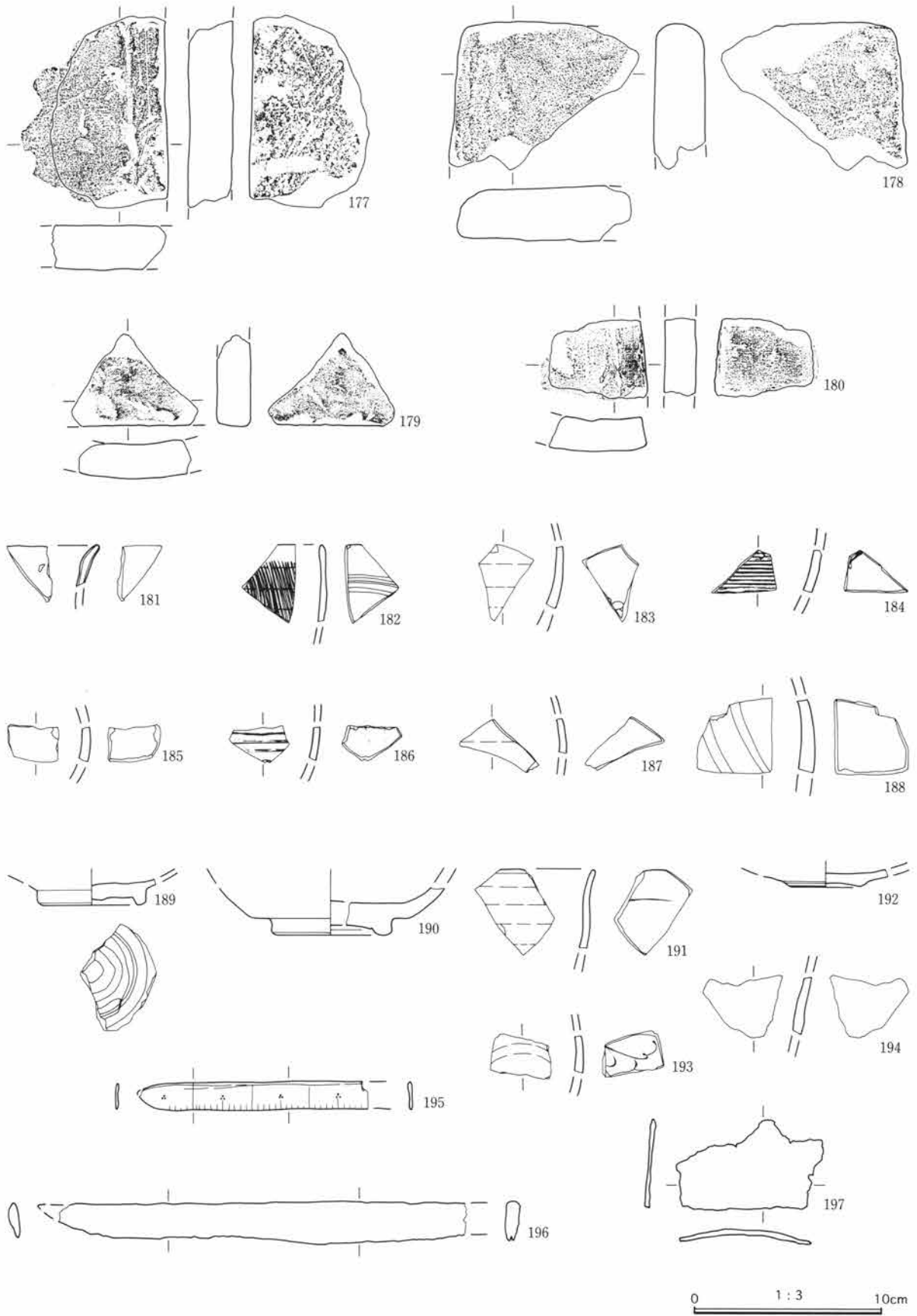
第284図 遺構外出土遺物



第285図 遺構外出土遺物



第286図 遺構外出土遺物



第287図 遺構外出土遺物



第288図 遺構外出土遺物

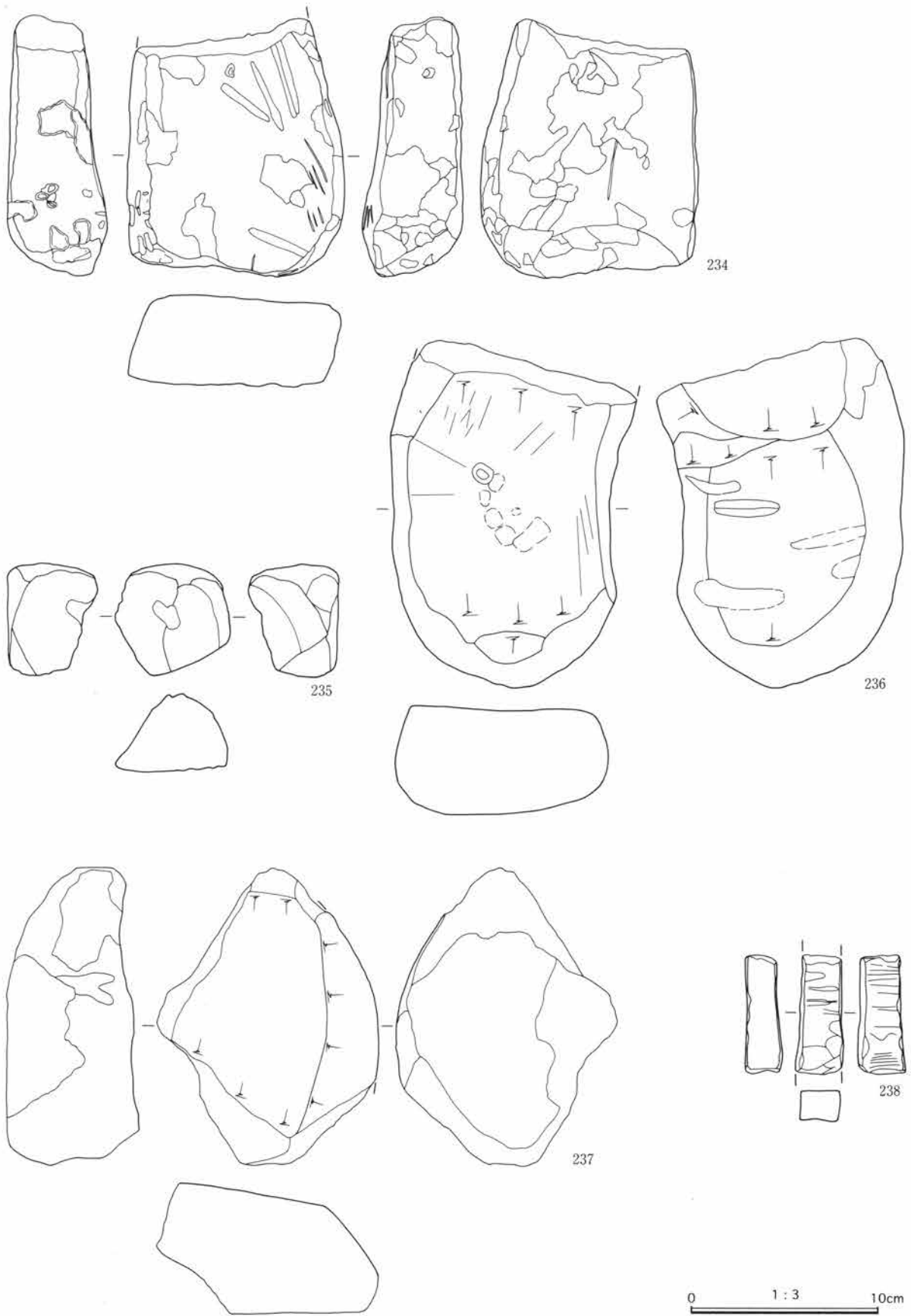


第289図 遺構外出土遺物

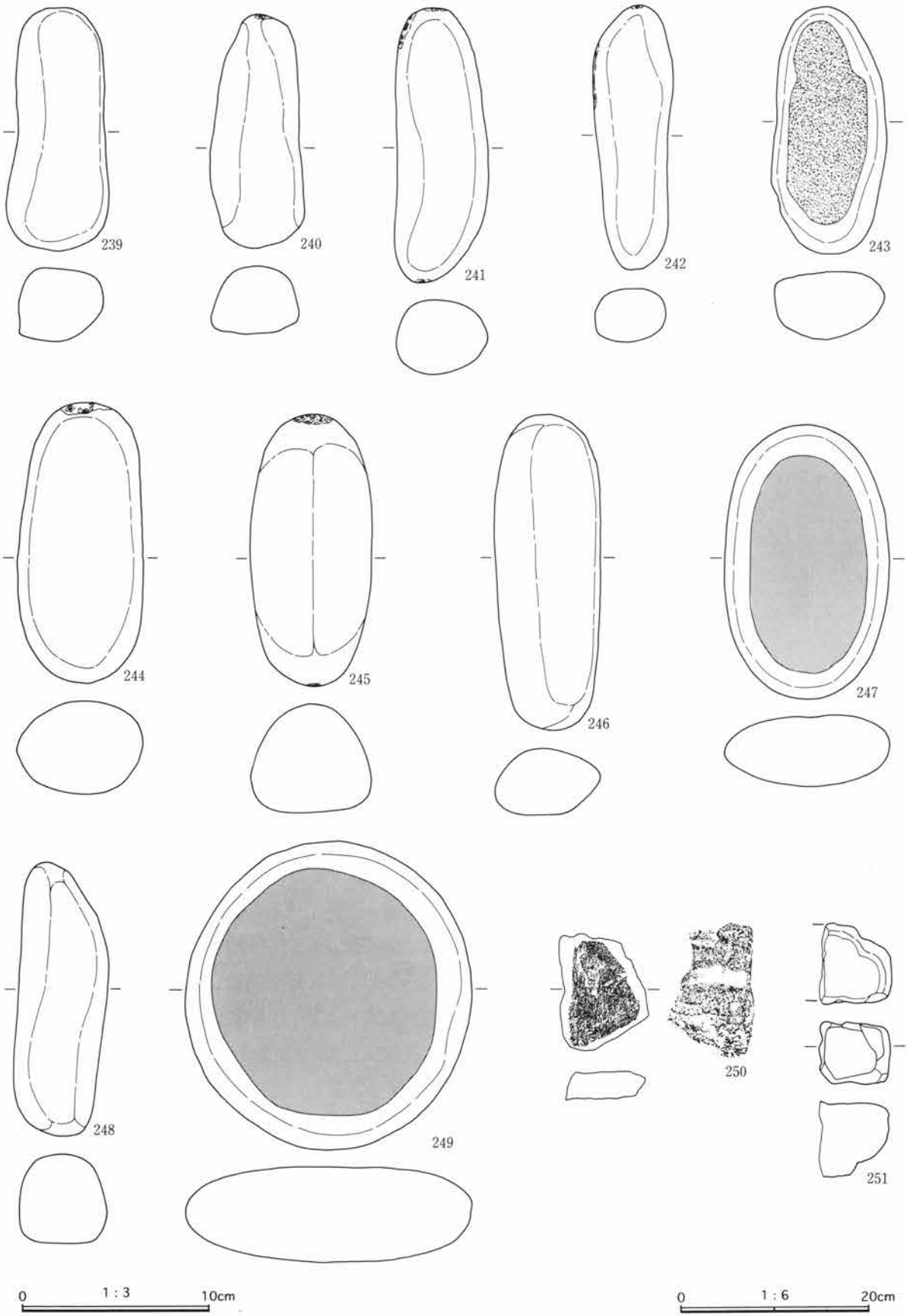




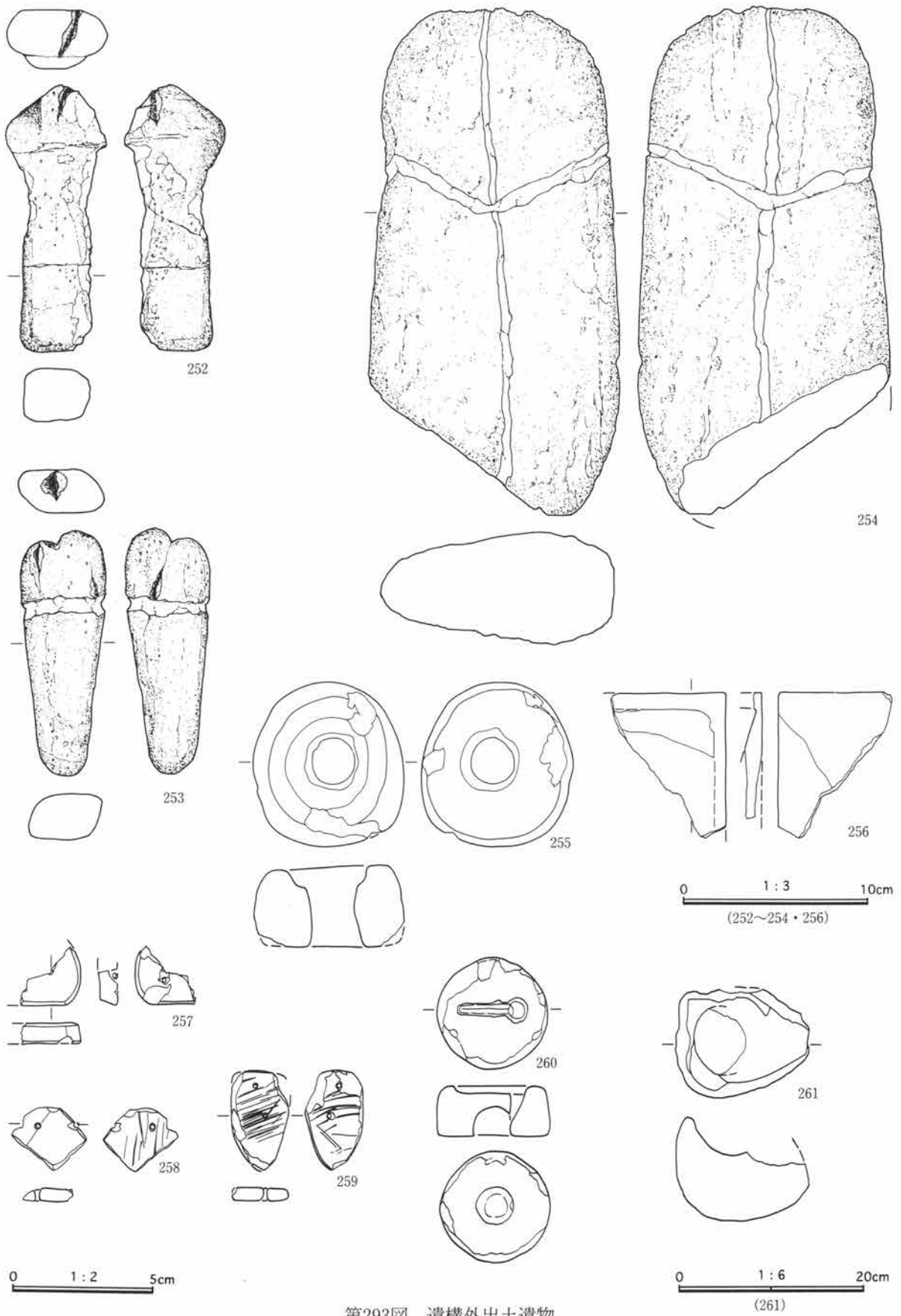
第290図 遺構外出土遺物



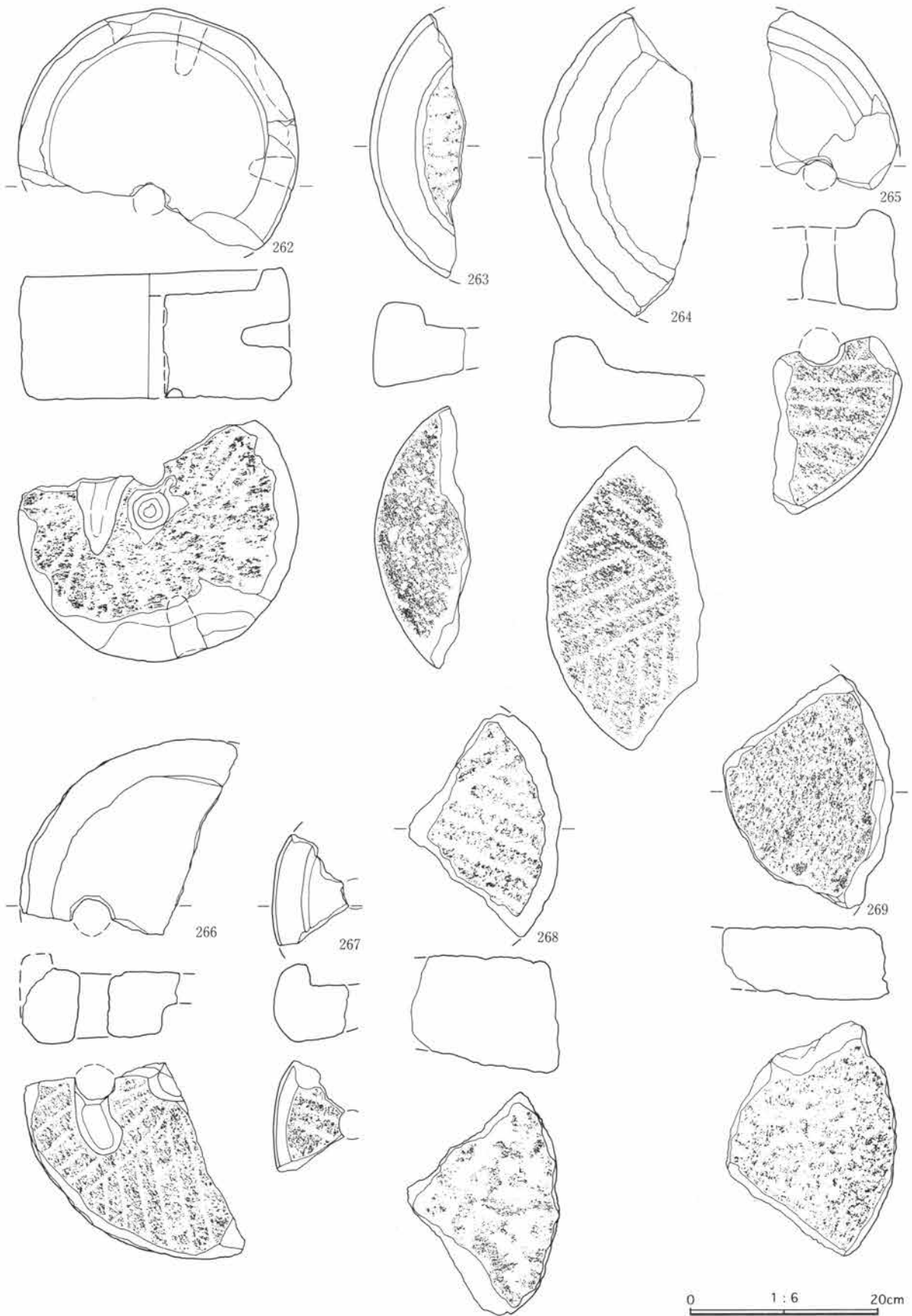
第291図 遺構外出土遺物



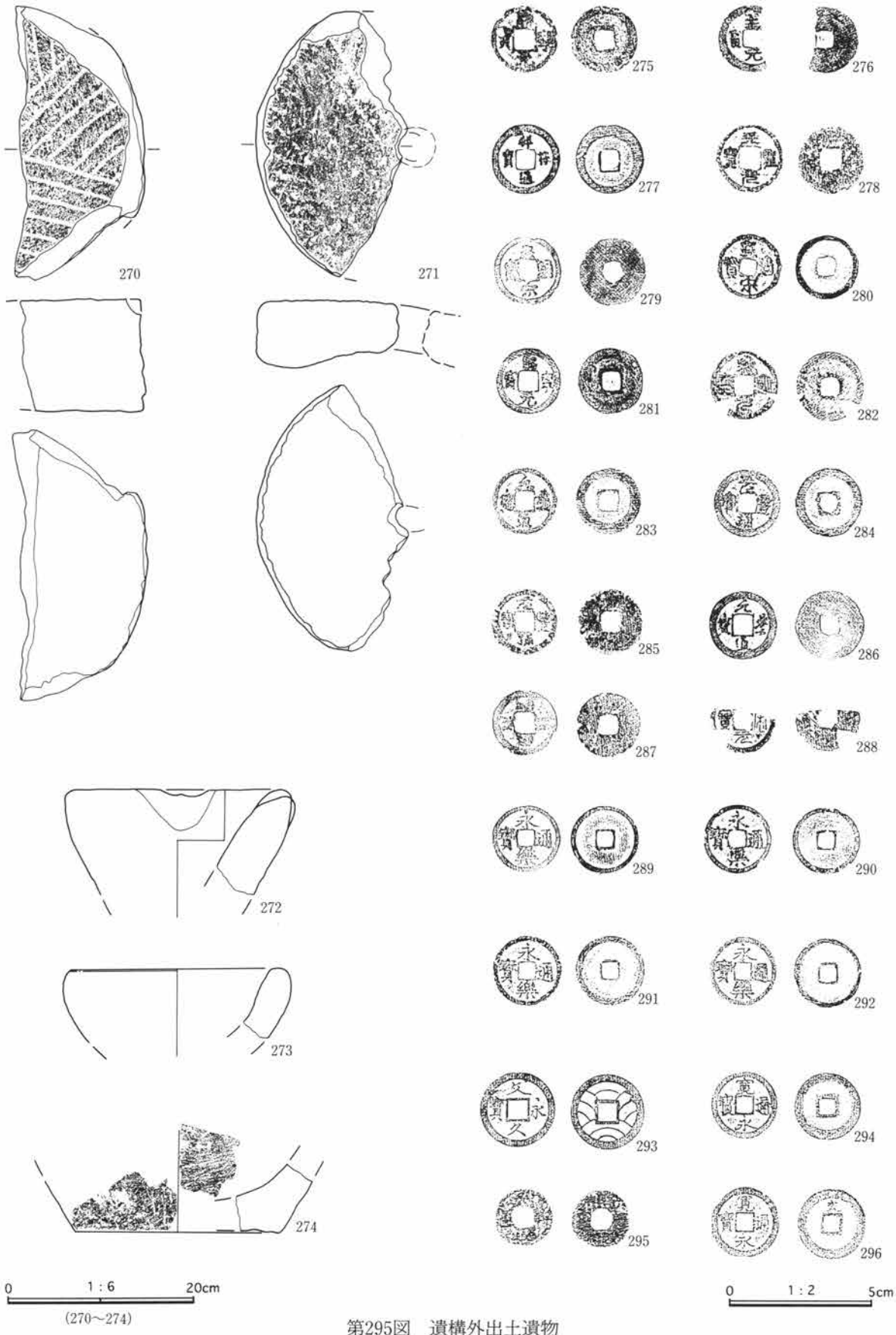
第292図 遺構外出土遺物



第293図 遺構外出土遺物



第294図 遺構外出土遺物

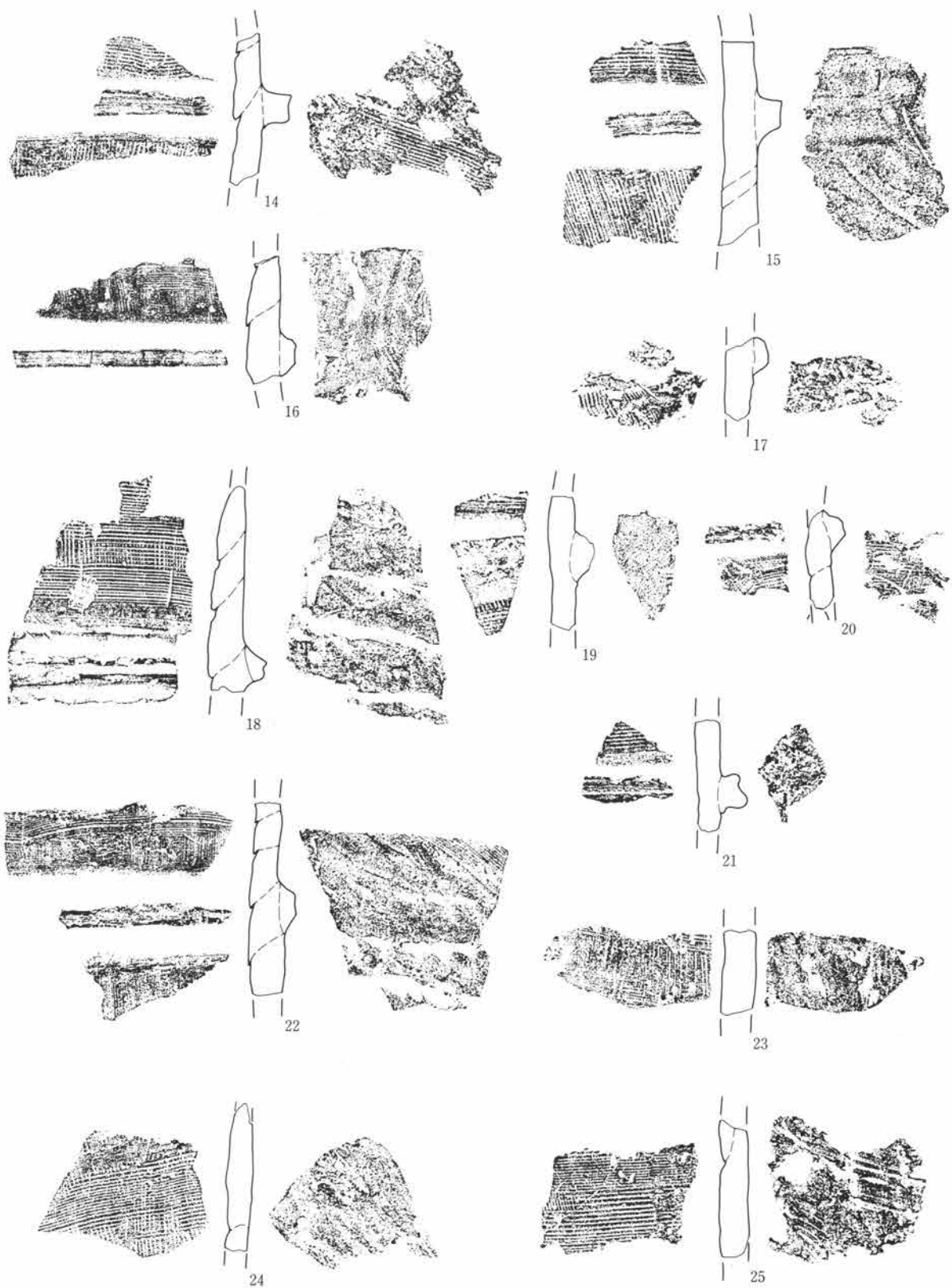


第295図 遺構外出土遺物



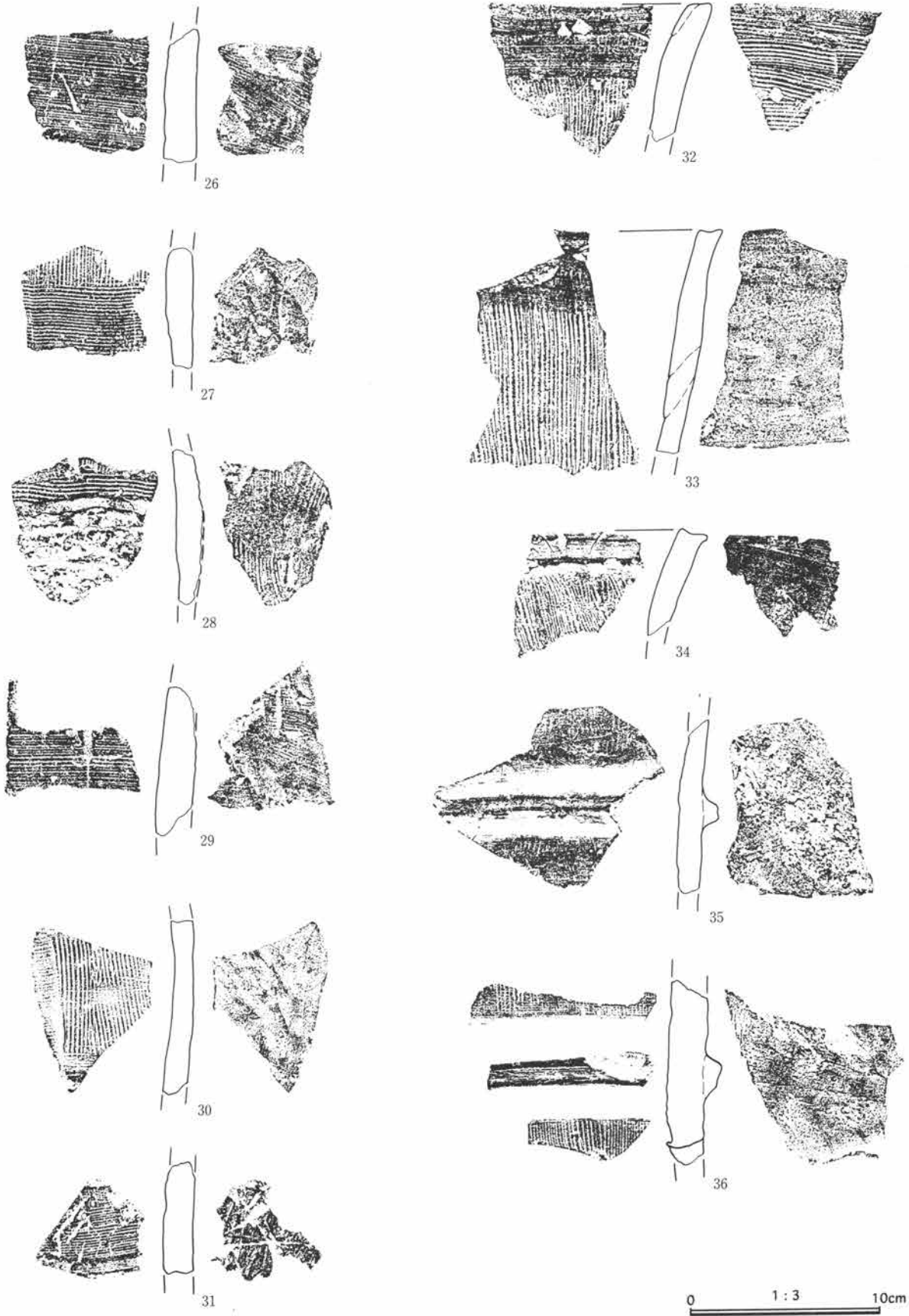
第296図 出土埴輪



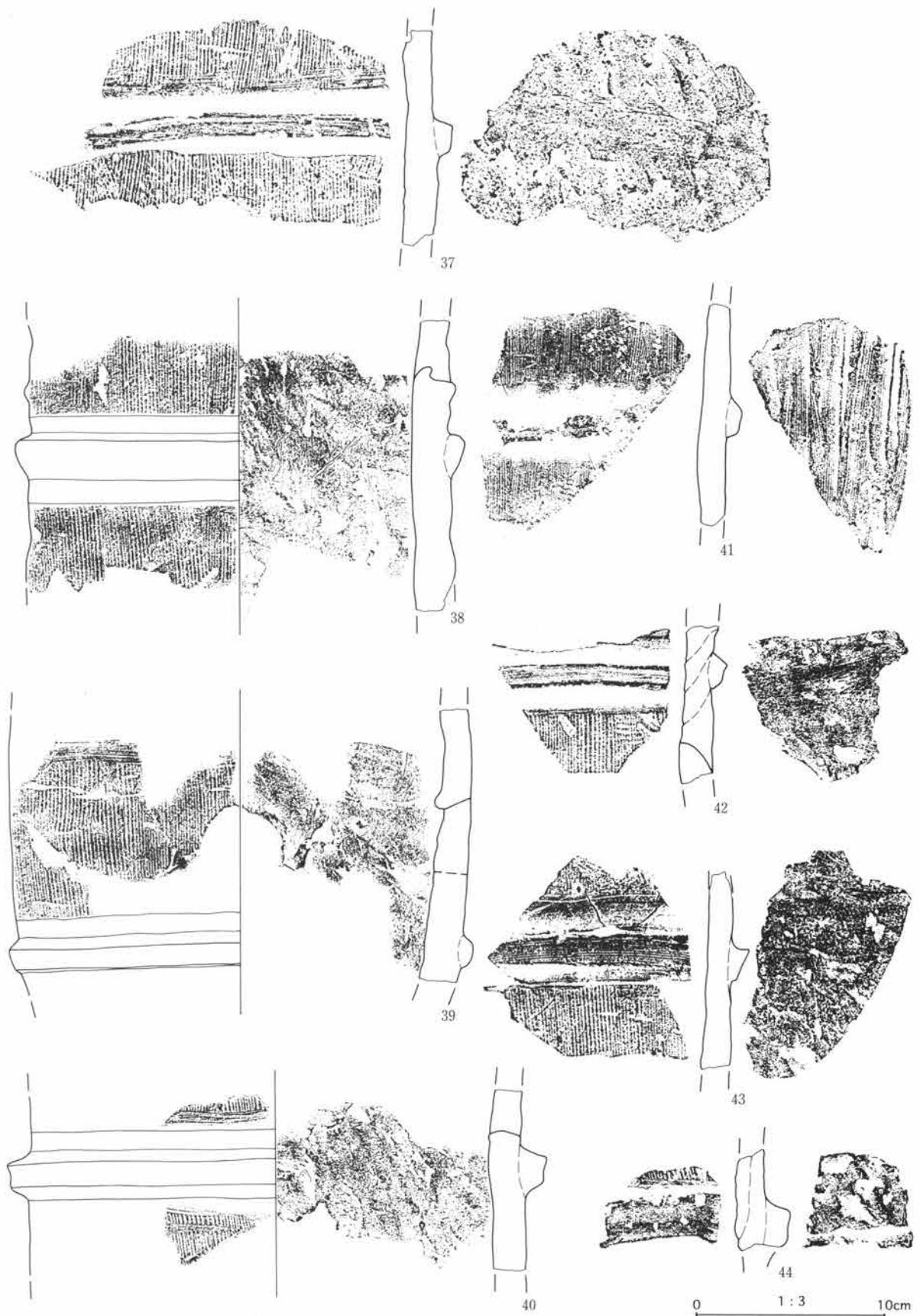


0 1:3 10cm

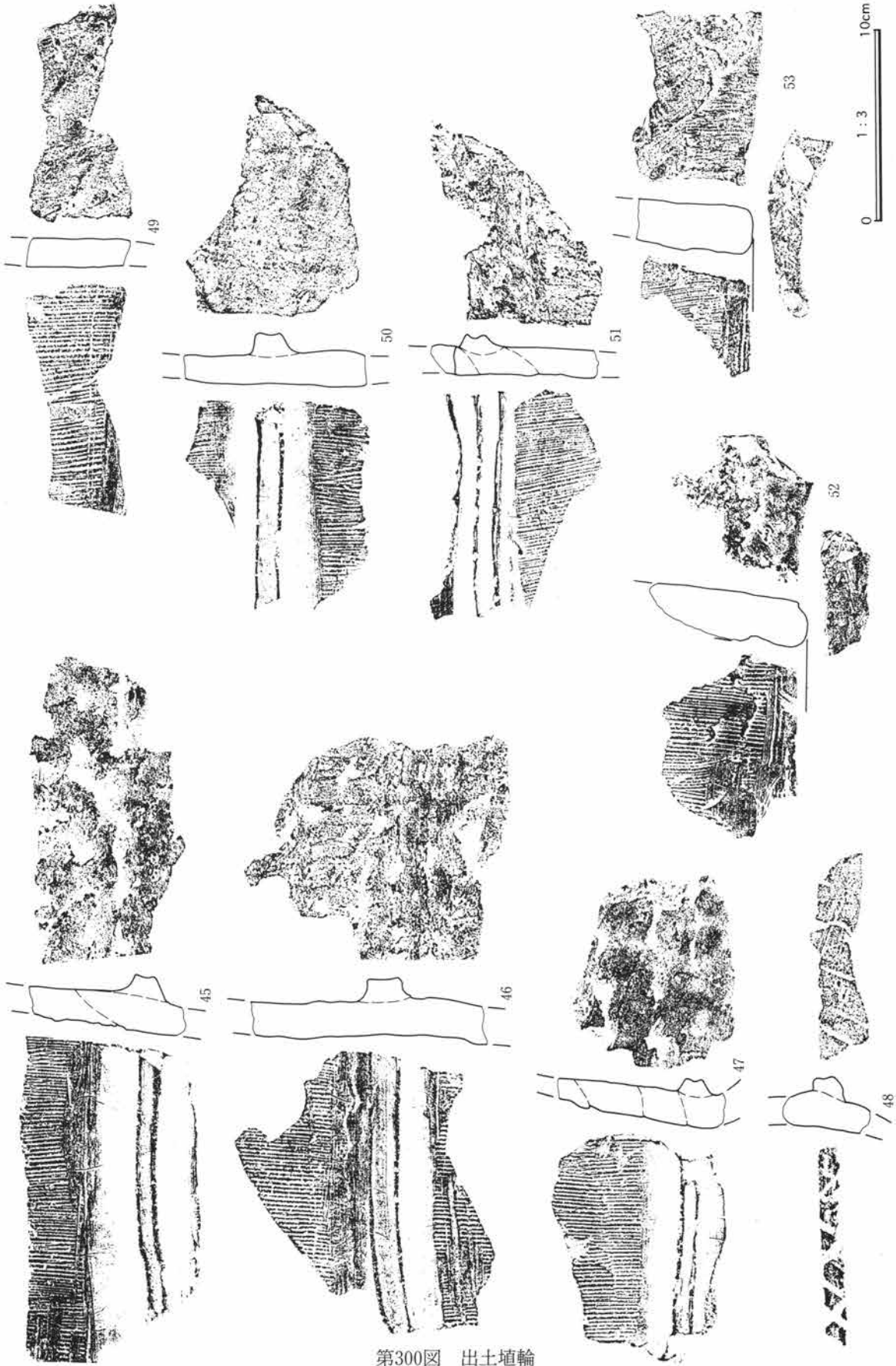
第297図 出土埴輪



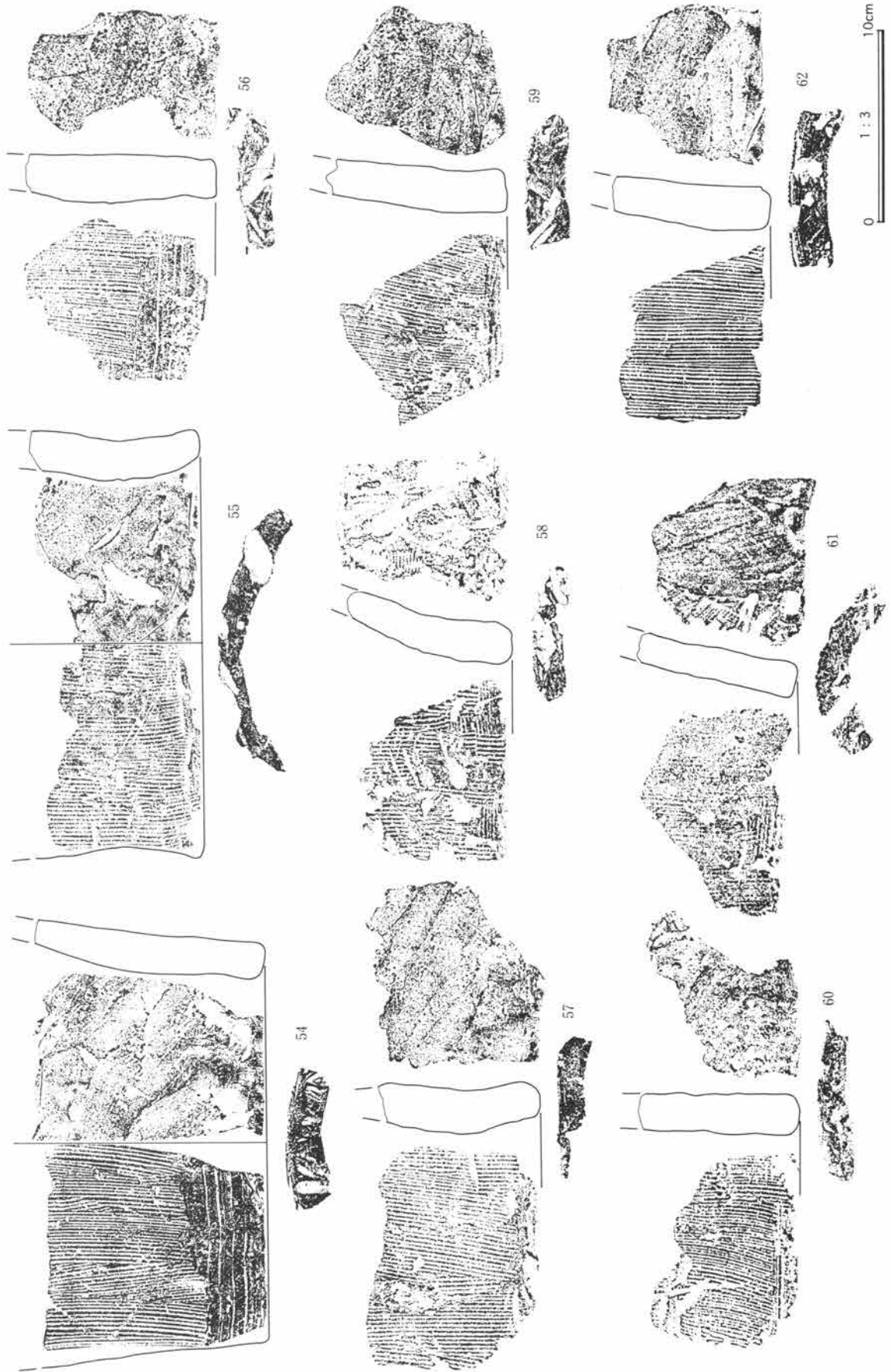
第298図 出土埴輪



第299図 出土埴輪

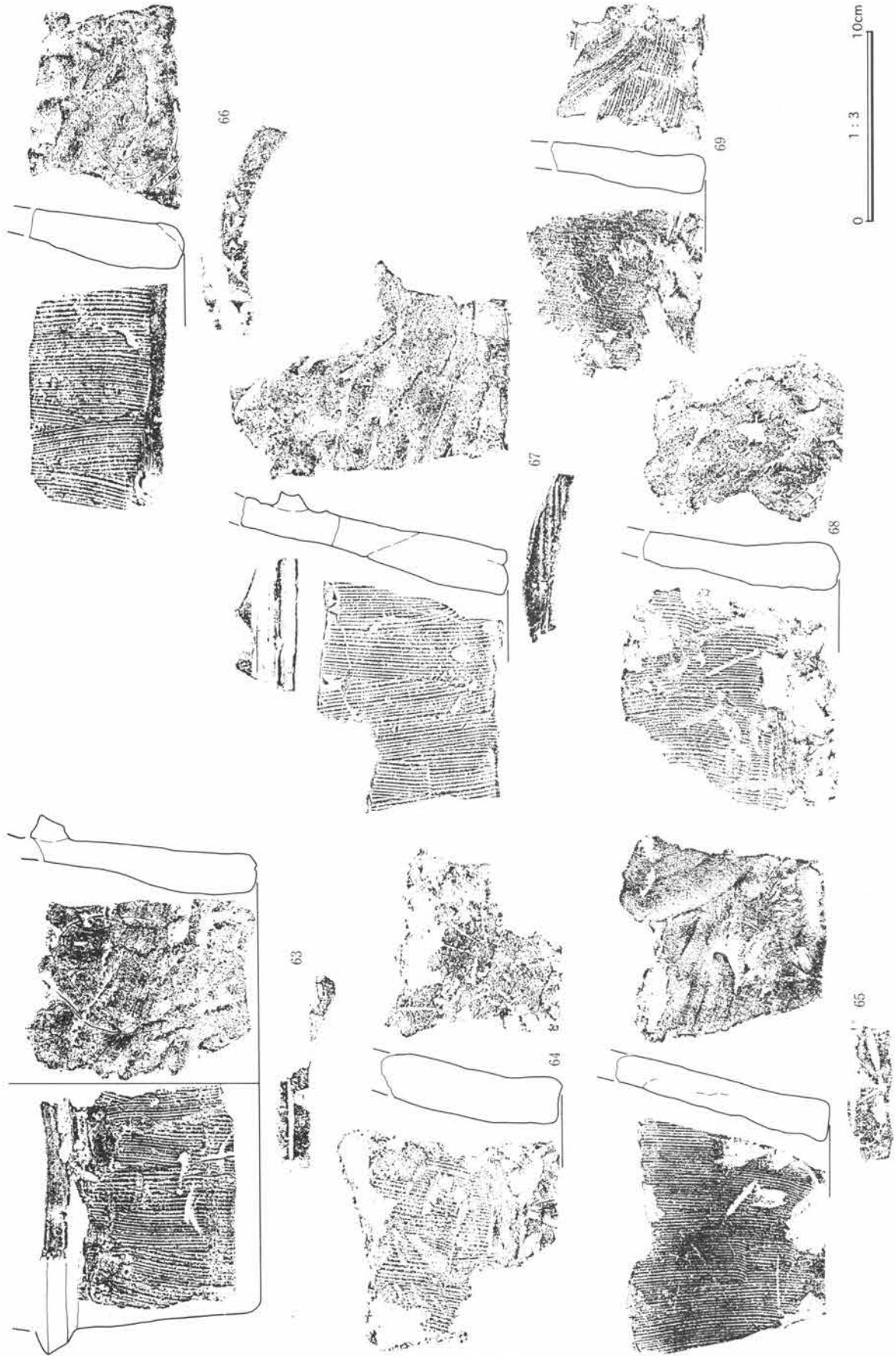


第300図 出土埴輪

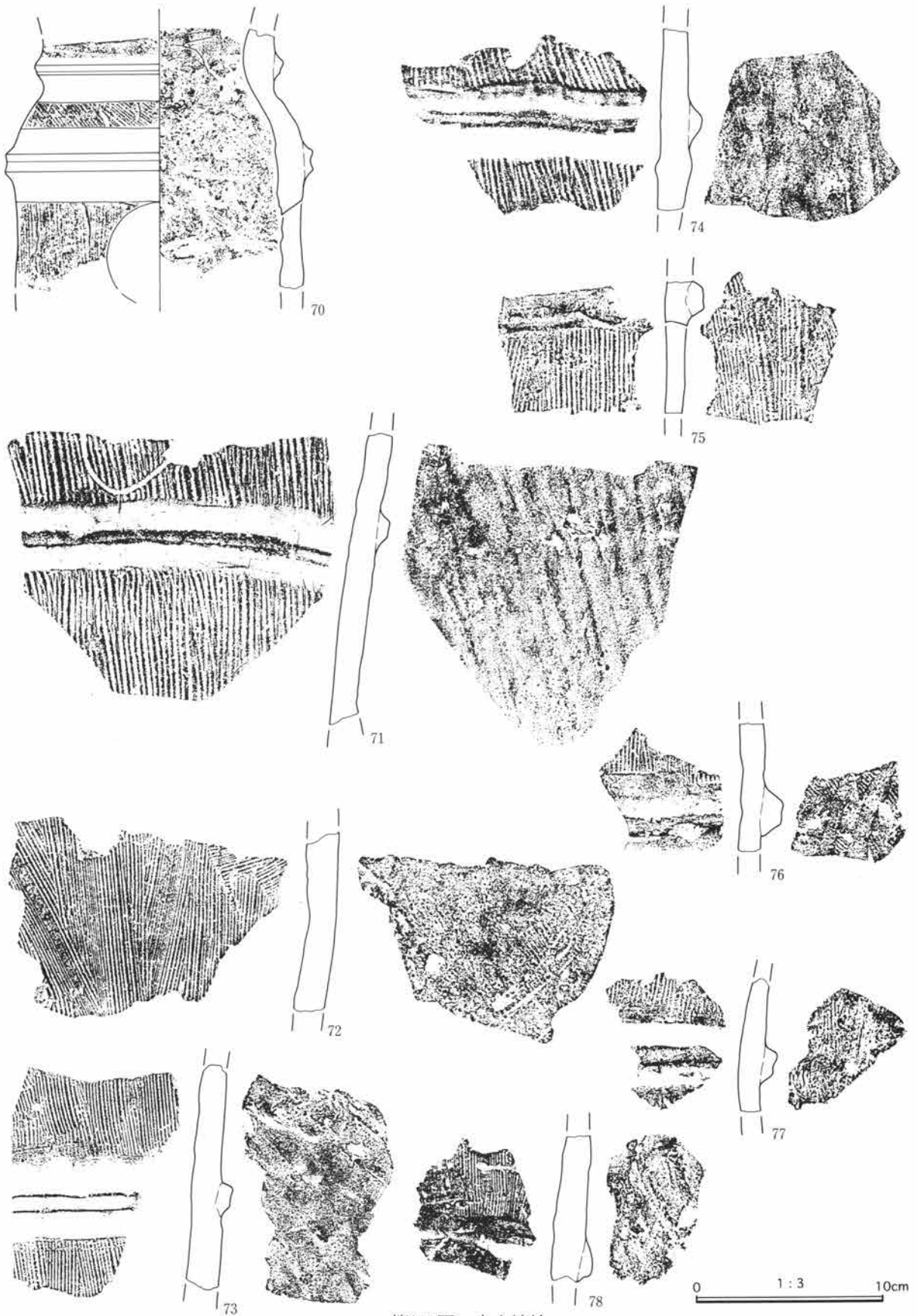


第301図 出土埴輪



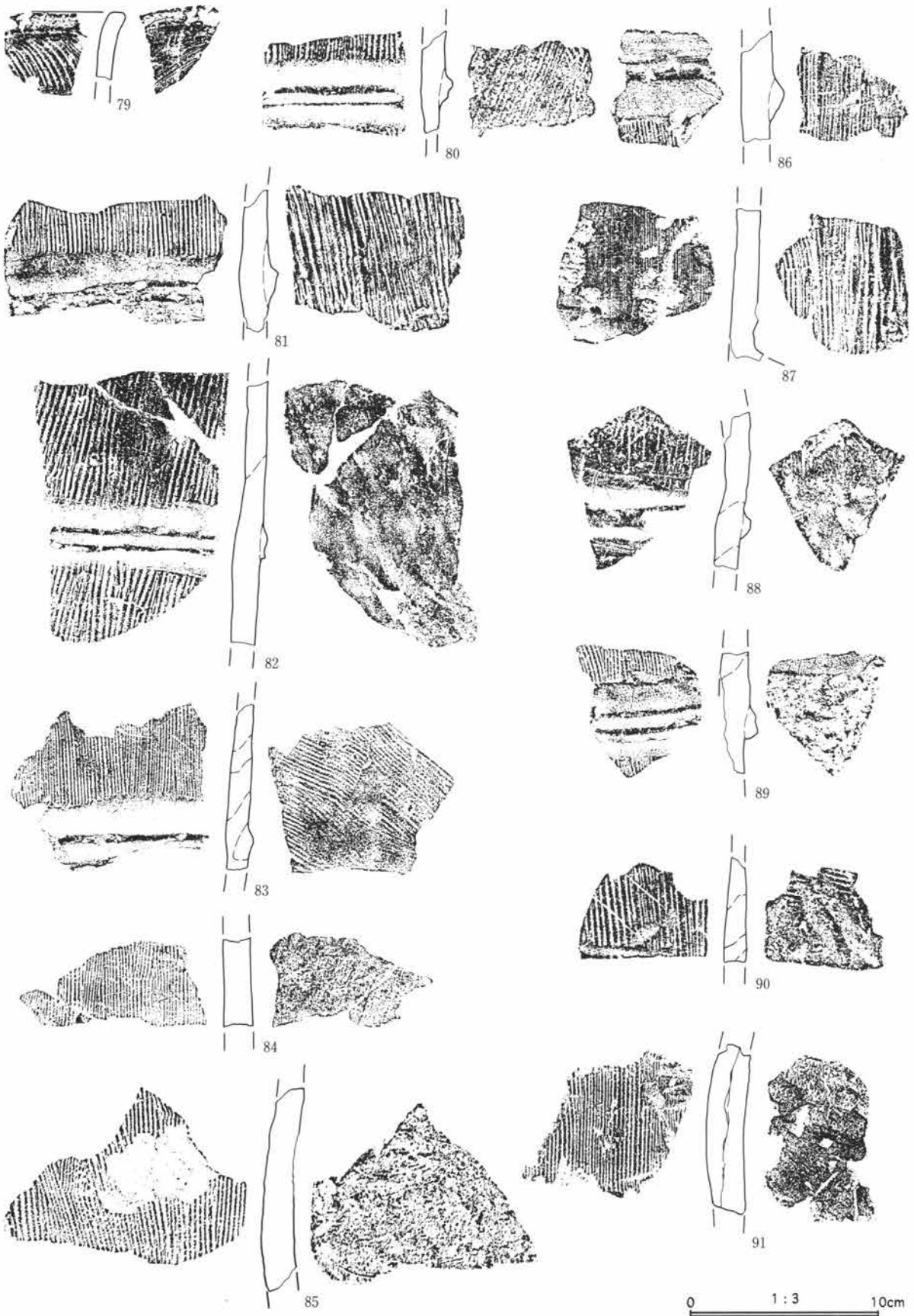


第302図 出土埴輪

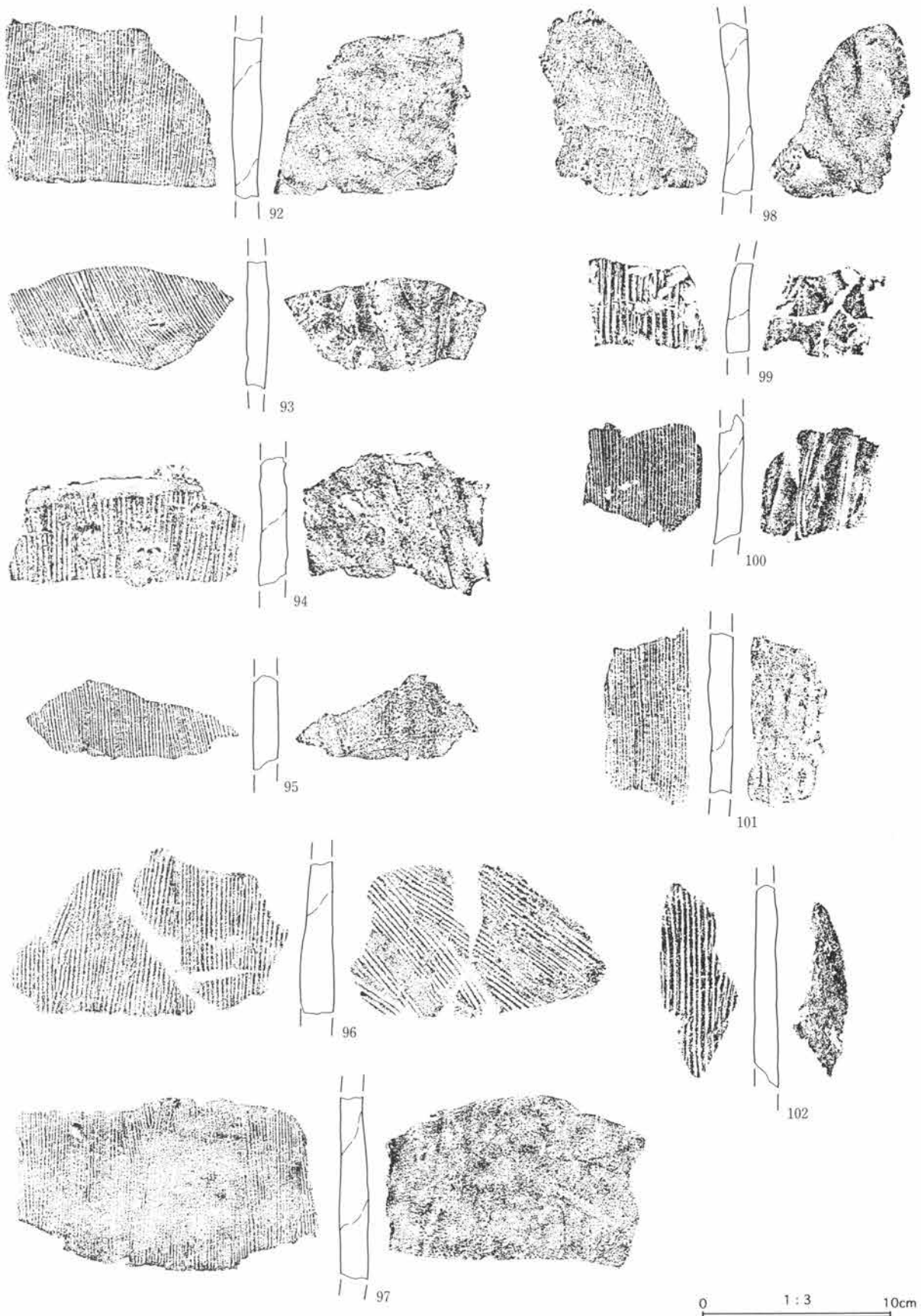


第303図 出土埴輪

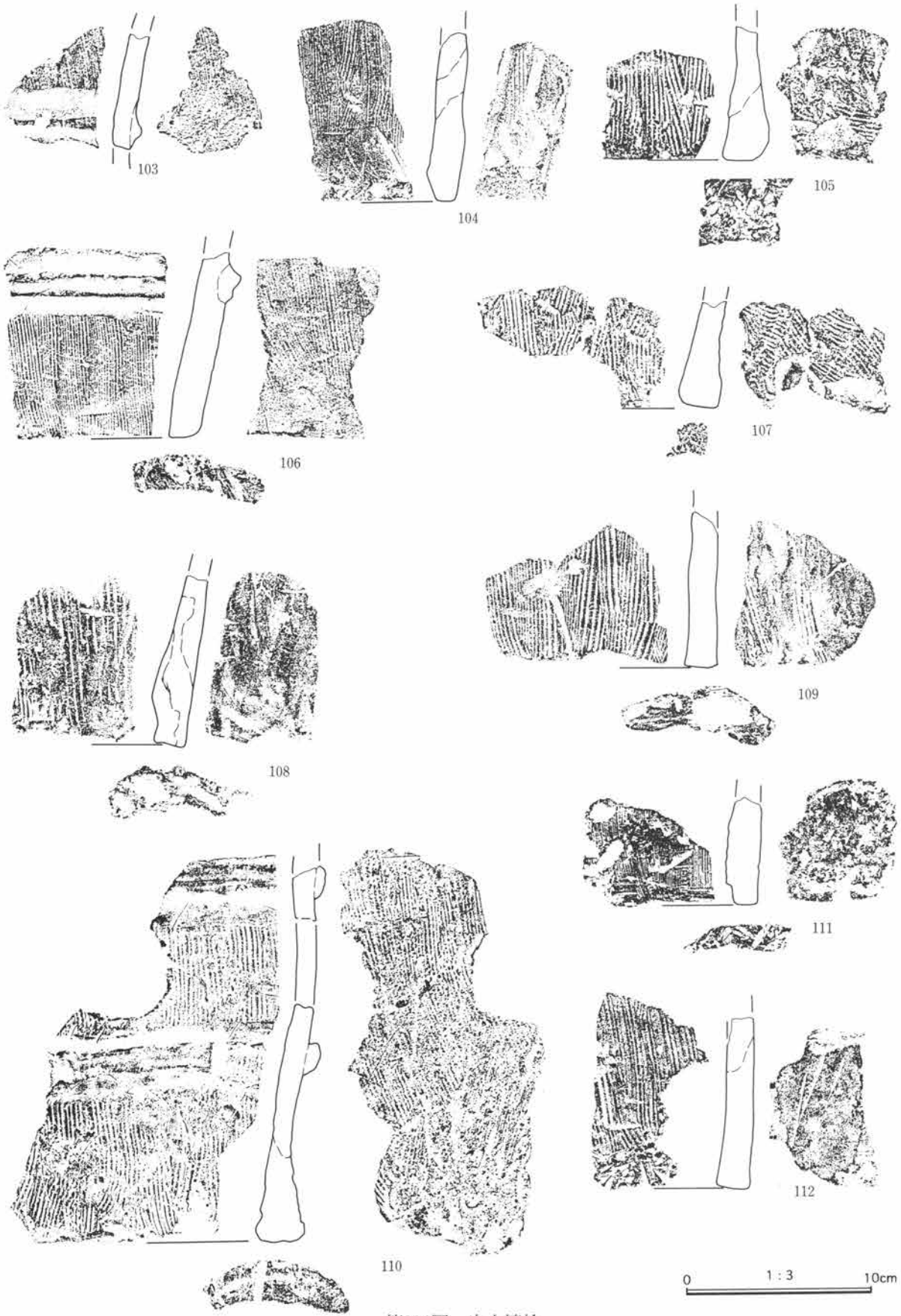




第304図 出土埴輪



第305図 出土埴輪



第306図 出土埴輪

### 第3章 検出遺構と遺物

遺構外出土遺物観察表

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成形の特徴	備考
274-1 149 No0806	土師器 杯	⅔	口径 14.2 底径 — 器高 5.3	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	口縁部周辺横撫で。底面へら削りあり。	
274-2 149 No0800	土師器 杯	⅔	口径(15.0) 底径 — 器高 3.3	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明褐色	口縁部周辺横撫で。底面へら削りあり。	
274-3 149 No0660	土師器 杯	⅔	口径(15.0) 底径 — 器高 5.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	口縁部周辺横撫で。体部外面へら削りか。内面暗文状研磨あり。	
274-4 149 No0661	土師器 浅盤	杯部⅔	口径(17.8) 底径 — 器高( 6.5)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐色	口縁部周辺横撫で。体部外面へら削り。内面暗文状研磨あり。	
274-5 149 No0798	土師器 浅杯	略完形	口径 17.0 底径 — 器高 4.1	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	口縁部周辺横撫で。底面側へら削りあり。	
274-6 149 No0801	土師器 杯	略完形	口径 14.2 底径 — 器高 5.1	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	口縁部周辺横撫で。底面にへら削りあり。	
274-7 149 No0802	土師器 杯	⅔	口径 13.6 底径 — 器高 5.0	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明褐色	口縁部周辺横撫で。底面へら削りあり。	
274-8 149 No0648	土師器 杯	⅔	口径 11.0 底径 — 器高 4.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明褐色	整形状態不明瞭。小形の割に器肉厚い。	内面黒色 処理
274-9 149 No0547	土師器 杯 (鉢)	口縁～底部 ⅔	口径(14.6) 底径 — 器高( 8.0)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～明赤褐色	底部外面はへら削り、口縁部外面は横方向の撫での後、横方向のへら磨き、内面は全面に撫での後、口縁～底部中に横方向のへら磨きを施す。	
274-10 149 No0505	土師器 杯	口縁～底部 破片	口径(14.4) 底径 — 器高( 4.9)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はへら削り、外面口縁部下は粗い撫で、口縁部は内外面共に横方向の丁寧な撫で、内面は撫での後斜方向のへら研磨を施す。	
274-11 149 No0002	土師器 杯	口縁～底部 ⅔	口径(12.0) 底径 — 器高( 3.8)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に撫で、内面は撫でを施す。	
274-12 149 No0647	土師器 杯	口縁～底部 ⅔	口径(13.8) 底径 — 器高( 4.4)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	口縁部の内外面は横撫で。底面へら削りあり。	
274-13 149 No0805	土師器 杯	⅔	口径(12.5) 底径 — 器高( 3.7)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：黒褐色	口縁部の内外面は横撫で。底面へら削りあり。	
274-14 149 No0548	土師器 杯	口縁～底部 ⅔弱	口径(13.8) 底径 — 器高 4.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～黒褐色	底部外面はへら削り、口縁部外面は横方向の撫で、内面は全面に撫での後、口縁部～底部上位にへら磨きを施す。	
274-15 149 No0804	土師器 杯	⅔	口径(13.3) 底径 — 器高 4.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	口縁部の内外面は横撫で。口縁部立ち上がり内外面に浅い稜立つ。	
274-16 — No0807	土師器 杯	⅔	口径 12.1 底径 — 器高( 4.0)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明黄褐色	口縁部の内外面は横撫で。体部外面から底にかけ大まかなへら様の削り。	
275-17 149 No0511	土師器 杯	口縁～胴部 ⅔	口径(12.5) 底径 — 器高( 4.4)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はへら削り、口縁部は外面が横方向の撫で、内面は撫での後に格子状の粗いへら磨きを施す。	
275-18 149 No0872	土師器 杯	⅔	口径(12.3) 底径 — 器高 5.2	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	口縁部の内外面横撫で。底面へら削りあり。	
275-19 — No0803	土師器 杯	⅔	口径(12.0) 底径 — 器高 4.6	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：褐色	口縁部の内外面横撫で。底面へら削りあり。	
275-20 149 No0386	土師器 盤	口縁～底部 ⅔	口径 16.9 底径 — 器高( 2.5)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部外面はへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫でを施す。底部内面は、器肉が荒れ、整形は不詳。	

第4節 遺構外出土遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
275-21 — No0835	土師器 小型甕	口縁～胴部 ¼	口径(9.5) 底径 — 器高(6.0)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい黄橙色	口縁部の内外面横撫で。内面板状工具痕。外面へら削りあり。	
275-22 149 No0828	土師器 埴	½	口径 9.7 底径 — 器高 9.4	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明褐色	口縁部の内外面横撫で。体部外面へら削りあり。	
275-23 149 No0833	土師器 小型甕	略完形	口径 13.4 底径 — 器高(7.4)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明褐色	口縁部の内外面横撫で。体部内面板状工具痕、外面へら削り痕あり。	内面黒色 処理
275-24 149 No0827	土師器 小型甕	口縁～胴部 ¼	口径(14.0) 底径 — 器高(11.3)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明黄褐色	口縁部の内外面横撫で。体部外面へら削り。下半部欠損。	
275-25 149 No0826	土師器 小型甕	½	口径 16.9 底径 4.5 器高 13.9	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明褐～にぶい黄褐色	口縁部の内外面横撫で。体部外面へら削り。底面平底。	
275-26 149 No0350	土師器 甕	口縁～底部 ½	口径 18.3 底径 — 器高(24.8)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙～黒褐色	外面胴部～底部は斜方向のへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面も横方向の撫でを施す。	
275-27 149 No0690	土師器 甕	口縁～底部 ¾	口径 17.1 底径 7.8 器高 29.0	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:暗褐～にぶい褐	口縁部の内外面横撫で。体部内面板状工具痕。体部外面へら削りあり。	
276-28 149 No0498	土師器 甕	口縁～胴部 上位破片	口径(23.1) 底径 — 器高(12.7)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙～橙色	外面胴部上位は横～斜方向の粗いへら削り。口縁部は弱いくびれを持ち、横方向の撫で、内面も横方向の撫でを施す。	
276-29 150 No0497	土師器 甕	口縁～胴部 中位½周	口径(17.9) 底径 — 器高(16.7)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい黄橙～黒褐	外面胴部は縦方向(下から上)の丁寧なへら削り。口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部は異方向の撫でを施す。	
276-30 — No0831	土師器 甕	口縁部破片	口径(21.5) 底径 — 器高(7.6)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明褐色	口縁部の内外面に横撫であり。内面に整形痕あり。外面にへら削りあり。	
276-31 149 No0351	土師器 甕	口縁～胴部 中位全周	口径 22.0 底径 — 器高(16.7)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙～黄橙色	胴部外面は縦方向のへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は撫でを施す。	
276-32 150 No0352	土師器 甕	口縁～胴部 中位全周	口径(18.2) 底径 — 器高(22.6)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:黄橙～明赤褐色	胴部外面は縦方向のへら削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、内面胴部も横方向の粗い撫でを施す。	
276-33 — No0830	土師器 甕	口縁～胴部	口径 21.7 底径 — 器高(15.0)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明赤褐色	口縁部の内外面に横撫であり。内面に整形痕あり。外面にへら削りあり。	
276-34 — No0786	土師器 甕	口縁部破片	口径(17.8) 底径 — 器高(8.2)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:明赤褐色	口縁部の内外面に横撫であり。外面にへら削り状痕あり。	
276-35 — No0832	土師器 甕	底部	口径 — 底径 6.3 器高(5.2)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	内面に整形痕あり。外面にへら削りあり。	
277-36 150 No0683	土師質 広口甕	口縁～肩部 ¼	口径(30.0) 底径 — 器高(7.4)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明褐色	口縁部の内外面横撫であり、内面整形痕、体部外面へら削りあり。	
277-37 — No0829	土師器 甕	口縁～胴部	口径 23.2 底径 — 器高(13.0)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明黄褐色	口縁部の内外面横撫であり、内面整形痕、体部外面へら削りあり。	
277-38 150 No0011	土師器 甕	口縁～胴部 上位破片	口径(19.0) 底径 — 器高(7.6)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙～灰褐色	胴部外面は縦方向の削り、口縁部は内外面共に横方向の撫でを施すが、外面の一部に粘土折り返しの痕跡を残す。胴部内面は横方向の削りを施す。	
277-39 — No0787	土師器 甕	5号井戸 口縁部破片	口径 17.3 底径 — 器高(6.9)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	口縁部の内外面横撫であり。体部外面へら削りあり。	
277-40 150 No0029	土師器 甕	口縁～胴部 破片	口径(23.0) 底径 — 器高(9.5)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	口縁部は外反し、口唇部は外反し平坦の外面胴部は縦方向の削り、口縁部は横方向の撫で、内面口縁部は丁寧な撫でを施す。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
277-41 150 No0834	土師器 甗	1/4	口径(23.0) 底径( 8.4) 器高 23.5	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:黄褐色	口縁部の内外面横撫であり。外面研磨条痕あり。内面整形痕あり。	
277-42 150 No0152	須恵器 土釜	口縁~底部 1/2強	口径 21.8 底径 8.9 器高 20.9	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄橙~黒色	器形は全体的に歪み、口縁は波打つ。胴部外面は縦方向(下から上)のヘラ削り、口縁部は内外面共に横方向の撫で、胴部内面は縦方向の撫でを施す。	
277-43 — No0365	土師器 高杯	杯部下位~ 脚部破片	口径 — 底径 — 器高( 6.0)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:明赤褐~黒褐色	杯部外面の稜(段)は不明瞭。体部外面は上位が撫で、下位は一部に削痕を残す。杯部内面は撫で、脚部外面は縦方向のヘラ磨き、内面はヘラ削りを施す。	
277-44 150 No0850	甗支脚	一部残存	上方小口面 径 5.2 器高 (3.9)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明褐色	上方に指などの整形痕あり。	
277-45 150 No0740	甗支脚	6号井戸 略完形	長さ 11.0 最大径( 8.4)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明褐色	体部中位に指などの整形痕あり。	
278-46 — No0819	須恵器 杯	1/4	口径 12.2 底径 5.6 器高 3.5	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:褐色	体部の内外面にロクロ目あり。底面糸切り痕あり。	
278-47 — No0817	須恵器 蓋	口縁部破片	口径 5.2 底径 — 器高( 2.2)	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:オリーブ灰色	内外面にロクロ目あり。内面の口縁部際に返りあり。	
278-48 — No0811	須恵器 杯	略完形	口径 11.1 底径 — 器高 5.0	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰色	内外面にロクロ条痕あり。口縁部直立気味で深さがあり、在地特色と異なる。	
278-49 150 No0808	須恵器 杯	略完形	口径 10.6 底径 — 器高 4.0	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:黒色	内外面にロクロ条痕あり。器肉厚く、地方製品である。	外面煤付 着
278-50 — No0810	須恵器 杯	1/4	口径(12.7) 底径 — 器高 4.0	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰色	内外面にロクロ条痕あり。薄作りである。	
278-51 — No0812	須恵器 杯	口縁部破片	口径 — 底径 — 器高( 3.1)	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色	内外面にロクロ条痕あり。器肉厚く独特である。	
278-52 — No0809	須恵器 杯	1/4	口径(11.1) 底径 — 器高( 4.4)	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰色	内外面にロクロ条痕あり。器肉の肉取りに変化あり。	
278-53 — No0816	須恵器 大型杯か	B区4号溝 底部破片	口径 — 底径 10.6 器高( 2.2)	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色	内外面にロクロ条痕あり。底面回転ヘラ削りか。	
278-54 — No0874	須恵器 甗か	5号溝 1/3	口径(10.6) 底径 — 器高( 6.6)	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰色	外面に複合沈線帯あり。内面にロクロ条痕あり。	
278-55 — No0871	須恵器 甗か	1号溝 破片	最大径( 9.8) 器高( 5.0)	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:暗灰色	外面に櫛目~列点の刺突文、その上下に沈線2条による隆部あり。ほかロクロ条痕あり。	
278-56 150 No0836	須恵器 甗	頸部~胴部 1/2	最大径 8.9 器高( 9.8)	胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰色	頸部外面上方に細かい目の波状文、列点刺突文、その上下に沈線帯あり。	太田金山 窯跡群製 か。
278-57 — No0841	須恵器 長頸壺か	肩部破片		胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色	種はほかに平瓶も考え得る。外面に列点刺突文、ロクロ回転条痕あり。	
278-58 — No0840	須恵器 長頸壺	3号溝 肩部破片	最大径 20.0 器高( 4.9)	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:オリーブ灰色	外面に列点刺突文、沈線3条、内面にロクロ条痕あり。	
278-59 — No0839	須恵器 提瓶	36・37井戸 胴部破片		胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:暗灰色	片面にカキ目あり、片面に整形痕あり。	
278-60 — No0837	須恵器 提瓶	肩部破片		胎:粗砂粒 焼:還元焰 色:灰色	提瓶肩部片で、扁平部にカキ目入る。	



第4節 遺構外出土遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
278-61 — No0838	須恵器 提瓶	36号井戸 胴部破片		胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：暗灰色	提瓶肩部片で、扁平部にカキ目入り、外面に3条の沈線帯あり。	
279-62 150 No0493	須恵器 杯	略完形 口縁一部欠	口径 12.4 底径 6.0 器高 4.0	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰～にぶい橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り、ロクロ右回転。	
279-63 150 No0192	須恵器 杯	完形	口径 14.6 底径 6.7 器高 4.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙～橙色	ロクロ成・整形。底部回転糸切り、ロクロ右回転。	
279-64 150 No0818	須恵器 杯	1/2	口径 15.3 底径 6.5 器高 4.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明褐色	内外面にロクロ目あり。底面に右回転による糸切り痕あり。	
279-65 150 No0813	須恵器 杯	3/4	口径 13.9 底径 9.1 器高 3.3	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：褐灰色	内外面にロクロ目あり。底面に右回転による糸切り痕とその周囲に回転ヘラ削りあり。	
279-66 150 No0821	須恵器 椀	3/4	口径 13.8 底径 7.1 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：橙色	内外面にロクロ目あり。底面に貼付高台あり。	高台径 6.7
279-67 150 No0494	須恵器 椀	略完形 口縁一部欠	口径 13.3 底径 6.6 器高 5.9	胎：粗砂粒 焼：還元焰 色：灰白～暗灰色	ロクロ成形。器形は歪む。高台部貼付時に底部切離痕を撫で消す。内面に重ね焼き痕を残す。	高台径 7.0
279-68 150 No0579	須恵器 椀	59号住居内 口縁1/4欠	口径(15.4) 底径 7.6 器高 5.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	ロクロ成形。内面には指頭による水引き痕が明瞭に残る。ロクロ右回転。高台は肉厚で、底部切離後に貼り付け、内側糸切り痕を調整。	高台径 7.7
279-69 150 No0147	須恵器 椀	口縁～底部 1/2	口径(11.6) 底径 6.9	胎：細砂粒 焼：酸化・還元焰 色：浅黄橙～黒色	ロクロ成形。ロクロ右回転。底部回転糸切り後に高台貼付、糸切り痕撫で調整。内面全面に不歩方向のヘラ磨きを施す。	
279-70 — No0814	須恵器 杯	1/3	口径 12.6 底径 7.5 器高 3.5	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	内外面にロクロ目あり。底面に糸切り痕あり。器肉薄い。	
279-71 150 No0578	須恵器 杯	口縁～底部 1/4弱	口径(15.0) 底径(6.8) 器高 4.0	胎：細砂粒 焼：酸化・還元焰 色：灰白～淡赤橙色	ロクロ成形。底部回転糸切り、ロクロ右回転。	
279-72 — No0815	須恵器 杯	4号溝 口縁部破片	口径 13.0 底径 7.8 器高 2.7	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	内外面にロクロ目あり。底面に回転ヘラ削りに見える整形痕あり。	
279-73 — No1440	灰釉陶器 椀	口縁～底部 1/3	口径 13.5 底径 6.7 器高 3.6	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	内外面にロクロ目あり。高台貼付。	高台径 6.9
279-74 — No0822	須恵器 大型椀	B区 底部	口径 — 底径 10.3 高台径 11.3	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：褐色	底面に糸切り痕と貼付脚後の回転整形痕が見える。	
279-75 — No0823	須恵器 小椀	底部1/2	口径 — 底径 6.5 高台径 7.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	内面に回転条痕あり。底面は貼付脚後の回転条痕あり。	
279-76 — No0820	須恵器 椀	底部破片	口径 — 底径 8.8 高台径 9.1	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：灰色	器肉極めて薄い。内外面に回転条痕あり。	
279-77 150 No0896	瓦塔 屋蓋部	6号溝 破片	厚さ 4.5	胎：細砂粒 焼：還元焰 色：黄灰色	塔形の屋蓋部片か。降棟、瓦表現などがある。還元気味が注意される。	
280-78 150 No0846	手捏ね 杯	3号溝 底部	口径(5.0) 底径 3.0 器高 3.4	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明褐色	内外面下方に指などの圧痕あり。	
280-79 150 No0848	手捏ね 埴か	1号溝西 底部	最大幅 5.3 底径 3.8 器高(2.5)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：褐色	内外面に成形痕あり。	
280-80 150 No0008	土製品 ミニチュア	3/4	口径 3.3 底径 2.7 器高 2.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	手捏ね成形。未調整、内面に指頭圧痕を残す。	



第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
280-81 150 No0845	手捏ね 杯	7号溝 3/4	口径 6.8 底径 2.6 器高 4.5	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	内外面に指などの圧痕・整形痕あり。	
280-82 150 No0847	手捏ね 杯	底部	最大幅 4.7 底径 2.9 器高(3.1)	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	内外面に指などの圧痕・整形痕あり。	
280-83 150 No0115	土製品 ミニチュア	略完形 口縁一部欠	口径 4.1 底径 — 器高 2.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：褐～黒褐色	手捏ね成形。内外面共にヘラ及び指頭による撫でを施す。	
280-84 150 No0844	手捏ね 杯	3/5	口径 9.1 底径 4.9 器高 5.7	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：明褐色	内外面に指などの圧痕・搔ならし痕・整形痕あり。	内面黒色 処理
280-85 150 No0849	手捏ね 杯	1号溝	口径 — 底径 2.4 器高(2.6)	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	内外面に指などの圧痕・搔ならし痕・整形痕あり。	
280-86 151 No0920	土師器 杯	底部	最大長 5.9	色：明赤褐色	底面の墨書で、内外に蔵手のような墨痕あり。	
280-87 150 No0919	土製品 円盤	3/5完形	長さ 4.0 幅 3.5 厚さ 1.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	手捏ね後、各所にだまかにヘラ削り目あり。	
280-88 151 No0891	土製品 土製模造品 (鏡?)	1/5	長さ 4.3 幅 4.2 厚さ 2.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	手捏ね。つまみ部は貼り付け後に指頭圧跡。撫で等の調整は一切なし。	
280-89 151 No0883	土製品 土錘	完形	長さ 2.8 径 0.9	色：にぶい褐色	全量から見れば、細い類に属す。	
280-90 151 No0887	土製品 土錘	略完形	長さ 4.1 径 1.8	色：橙色	全量から見れば、太い類に属す。	
280-91 151 No0881	土製品 土錘	完形	長さ 4.1 径 1.0	色：浅黄色	全量から見れば、細い類に属す。	
280-92 151 No0854	かわらけ	17号住 完形	口径 8.6 底径 4.8 器高 1.4	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～にぶい褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
280-93 151 No0857	かわらけ	26号住 完形	口径 8.0 底径 5.2 器高 2.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。口縁部に数ヶ所油煙付着。灯明皿として利用か。	
280-94 151 No0866	かわらけ	完形	口径 7.0 底径 4.2 器高 2.0	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。口縁部に油煙付着。灯明皿として利用か。	
280-95 151 No0851	かわらけ	10号住 完形	口径 7.9 底径 4.9 器高 1.6	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙～にぶい褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
280-96 151 No0860	かわらけ	45号住 完形	口径 7.0 底径 5.2 器高 1.7	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り後に撫で、ロクロ左回転。口縁部に油煙付着。灯明皿として利用か。	
280-97 151 No0852	かわらけ	13号住 略完形 口縁一部欠	口径 8.0 底径 5.1 器高 1.9	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：灰褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
280-98 151 No0853	かわらけ	16号住 略完形 口縁一部欠	口径 8.2 底径 5.4 器高 1.5	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	底部肉厚。ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ右回転。	
280-99 151 No0862	かわらけ	4号井戸	口径 9.0 底径 5.9 器高 1.7	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り後、ハケ状工具にて調整。ロクロ左回転。	
280-100 151 No0861	かわらけ	62号住 口縁～底部 1/2	口径 9.0 底径 4.0 器高 1.8	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：赤褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ右回転。	

第4節 遺構外出土遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成形の特徴	備考
280-101 151 No0864	かわらけ	完形	口径 8.5 底径 4.7 器高 1.8	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ右回転。	
280-102 151 No0859	かわらけ	41・44号住 口縁~底部 1/2	口径 8.9 底径 6.0 器高 1.6	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙~赤褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ右回転。器形やや歪む。	
280-103 151 No0858	かわらけ	44号住 口縁~底部 1/2	口径 9.2 底径 5.0 器高 1.8	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ右回転。底部肉厚。	
280-104 151 No0855	かわらけ	17号住 口縁~底部 1/2弱	口径 8.4 底径 6.6 器高 1.4	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ右回転。	
280-105 151 No0867	かわらけ	表採 略完形 口縁一部欠	口径 8.1 底径 5.6 器高 1.7	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。	
280-106 151 No0856	かわらけ	19号住 口縁~底部 1/2	口径 10.0 底径 7.2 器高 2.6	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:浅黄褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ右回転。	
280-107 151 No0863	かわらけ	完形	口径 9.4 底径 4.9 器高 1.7	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:橙~にぶい橙色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ右回転。底部やや肉厚。	
280-108 151 No0865	かわらけ	口縁~底部 2/4	口径 11.0 底径 6.5 器高 2.4	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい褐色	ロクロ成形、底部回転糸切り、ロクロ左回転。底部肉厚。	
281-109 — No0842	土師質須恵 器 羽釜	口縁部破片	口径(34.6) 底径 — 器高( 7.6)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:橙色	内外面に粗い整形痕があり、口縁部下外面に指などの圧痕あり。鏝を貼り付け。	
281-110 — No0843	須恵器 羽釜	5号溝 口縁部破片	口径(20.7) 底径 — 器高( 9.0)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい黄褐色	内外面に粗いロクロ目あり。鏝を貼り付ける。	
281-111 151 No0684	須恵器 羽釜	口縁~胴部 1/6	口径(23.4) 底径 — 器高( 9.3)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:明赤褐色	内面に整形痕、体部外面に縦方向のヘラ削り痕あり。鏝を貼り付ける。	
281-112 — No1402	軟質陶器 内耳鍋か	13号住 胴部~底部 破片	口径(30.3) 底径(16.4) 器高 11.4	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:黒褐色	口縁部の外面横撫で。内面回転条痕あり。外面若干の凹凸あり。	
281-113 — No1401	軟質陶器 内耳鍋	13号住 口縁部破片	口径(26.6) 底径 — 器高( 8.2)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:黒褐色	口縁部の内外面に回転条痕あり。器内薄作り。	
281-114 — No1400	軟質陶器か 不明	40号住 口縁部破片	口径(30.4) 底径 — 器高( 7.8)	胎:細砂粒 焼:酸化焰 色:黒褐色	形状に特異さがあり、器種不明。	
281-115 — No1397	軟質陶器 内耳鍋	口縁部破片	口径(29.1) 底径 — 器高( 5.3)	胎:細砂粒 焼:還元焰 色:灰色	口縁部の内外面に回転条痕あり。器内薄作り。	
281-116 — No1418	軟質陶器 内耳盤形	口縁部破片	口径(32.0) 底径 — 器高( 5.9)	胎:粗砂粒 焼:酸化焰 色:にぶい黄褐色	底面を欠く。内外に回転条痕あり。	
282-117 151 No1417	軟質陶器 内耳盤形	口縁~底部 破片	口径 34.2 底径 — 器高 5.8		口縁部の内外面に横撫であり。体部外面下方に凹みあり。内面に耳部の貼付あり。	
282-118 — No1421	軟質陶器 内耳盤形	口縁部破片	口径 38.6 底径 — 器高( 3.2)		底を欠く。体部に穿孔があり、割れの補修痕か。	
282-119 — No1422	軟質陶器 内耳盤形	口縁部破片	口径 33.7 底径 — 器高( 4.4)		底を欠く。体部に穿孔があり、割れの補修痕か。	
282-120 151 No1420	軟質陶器 内耳盤形	口縁部破片	口径 34.0 底径 — 器高( 3.2)		内面側に補修痕らしき穿孔あり。内耳の貼り付け。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
282-121 — No1423	軟質陶器 内耳か	底部破片			内耳盤形の底部片らしき器肉があり、さらに補修痕らしき穿孔あり。	
282-122 151 No1433	軟質陶器 火鉢か	口縁～底部 1/2	口径 45.1 底径 — 器高 11.7		体部外面に回転条痕あり。内面平滑。口縁部外面に折れる。	
282-123 — No1398	軟質陶器 内耳	口縁部破片	口径 37.0 底径 — 器高( 3.9)		内外に回転条痕あり。外面口縁部下大きく凹む単位が1条あり。	
283-124 — No1428	陶器か 播鉢	口縁～底部 破片	口径(33.8) 底径 10.9 器高 12.3		外面にロクロ整形痕あり。内面に10+ $\alpha$ 条を単位とする卸し目あり。口作りに特徴あり。	
283-125 — No1414	陶器か 播鉢	口縁部破片	口径(34.5) 底径 — 器高( 3.1)		外面にロクロ整形痕あり。内面に8+ $\alpha$ 条を単位とする卸し目あり。	
283-126 — No1412	軟質陶器 火鉢	体部片			外面に隆帯2条、その間に印花文2単位あり。内面に整形痕あり。	
283-127 — No1413	軟質陶器 火鉢	体部片			外面平滑で器面厚。中央に隆帯1条、その下に菱形の印文あり。内面に整形痕。	
283-128 — No1409	焼締陶器 甕	体部片			外面に叩き目。内面に擦痕あり。	濯美か
283-129 — No1404	焼締陶器か 甕	体部片			体部外面に整形の擦痕あり、内面に擦痕あり。	
283-130 — No1406	焼締陶器 甕	体部片			体部外面に格子目印文あり。内面に擦痕あり。	
283-131 — No1411	焼締陶器 甕	体部片			体部外面に叩き目あり。内面に擦痕あり。	
283-132 — No1410	焼締陶器 甕	体部片			外面は平滑。内面に整形時の撫で痕、成形時の紐作痕あり。	
283-133 — No1408	焼締陶器か 甕か	底部片	底径(12.2)		内面に凍ハゼ様の凹みあり。外面に幾分凹凸あり。	
283-134 — No1405	焼締陶器か 甕か	底部片	底径(17.2)		内外面平滑であるが、外面に整形痕残る。	
284-135 151 No1453	磁器 皿	完形	口径 13.7 底径 6.9 器高 3.3		染付施文で、内面中央に帆掛舟、周囲に具象化した施文あり。外面に唐草文が略され施文。	
284-136 — No1454	磁器 皿	底部	口径 — 底径 9.2 器高( 3.1)		染付施文で、内面中央に花文、周囲に草花文、外面唐草、外面底に銘施文あり。	
284-137 151 No1455	磁器 皿	口縁～底部 1/2	口径 9.6 底径 5.0 器高 2.6		染付施文で内面に草花らしき施文。外面に略された唐草文あり。	
284-138 151 No1435	陶器 浅い碗	口縁～底部 2/3	口径 14.0 底径 5.2 器高 5.1		内面に臨海図らしき施文あり。全体に器肉薄作り。	
284-139 151 No1442	磁器 小碗	1/2	口径 10.2 底径 4.2 器高 7.1		口縁部外面に格子ほかの染付施文あり。器肉厚い。	
284-140 — No1446	磁器 皿	口縁～底部 破片	口径(13.2) 底径( 7.2) 器高 4.2		内面に草花文らしき染付施文。外面に略した唐草文施文あり。	

第4節 遺構外出土遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
284-141 — No1445	磁器 皿	口縁～底部 1/5	口径(14.0) 底径(8.0) 器高(4.0)		内面に草花文らしき染付施文。外面に略した唐草文施文あり。	
284-142 — No1448	磁器 小碗	口縁部破片	口径(11.4) 底径— 器高(4.1)		口縁部周辺に染付圏線の施文あり。外面丸文を染付。	
284-143 — No1449	磁器 小碗	口縁部破片	口径(11.4) 底径— 器高(3.2)		口縁部周辺に染付圏線の施文あり。外面に丸文を施す。	
284-144 — No1444	磁器 蓋	口縁～底部 1/5	口径(10.2) 底径(5.7) 器高(2.7)		口縁部際内面に圏線の施文あり。外面に染付施文あり。	
284-145 — No1443	磁器 碗	底部破片	口径— 底径(4.4) 器高(4.2)		外面に草文らしき施文あり、高台は削り出ししか。	
284-146 — No1452	磁器 碗	口縁～底部 1/3	口径(8.0) 底径(5.2) 器高(7.1)		外面に草文、略雷文、口縁部下内面に雷文帯など染付。	
285-147 151 No1439	陶器 皿	略完形	口径(11.5) 底径(6.2) 器高(2.2)		内外面にロクロの回転条痕あり。	
285-148 — No1438	陶器 皿	口縁～底部 2/5	口径(10.8) 底径(6.6) 器高(1.8)		内外面にロクロの回転条痕あり。	
285-149 — No1457	陶器 皿	口縁～底部 1/3	口径(9.2) 底径(3.0) 器高(2.0)		内外面にロクロの回転条痕あり。	
285-150 151 No1437	陶器 皿	口縁～底部 1/2	口径(11.0) 底径(6.1) 器高(2.2)		内外面にロクロの回転条痕あり。	
285-151 — No1451	陶器 皿	口縁部破片	口径(10.9) 底径— 器高(1.8)		口縁部に煤付着。内外面にロクロの回転条痕あり。	
285-152 — No1441	陶器 灯明受皿	口縁部破片	口径(10.4) 底径(3.3) 器高(2.4)		口縁部外面に釉部分的に掛かる。内外面にロクロの回転条痕あり。	
285-153 — No1458	陶器 灯明受皿	破片	口径(10.4) 底径(5.0) 器高(2.0)		口縁部外面に釉部分的に掛かる。内側に割り込みあり。	
285-154 151 No1456	陶器 小杯	略完形	口径(5.5) 底径(3.0) 器高(3.0)		内外面にロクロの回転条痕あり。体部外面下方露胎部となる。	
285-155 — No1436	陶器 皿	口縁～底部 1/3	口径(13.0) 底径(6.9) 器高(2.7)		内外面にロクロの回転条痕あり。体部外面下方露胎部となる。	
285-156 — No1447	陶器 皿・瓶	底部破片	口径— 底径(6.5) 器高(2.8)		全体に器面平滑。高台削り出ししか。	
285-157 — No1450	陶器 仏花瓶	破片	最大径(5.0) 器高(4.0)		仏花瓶のような小瓶。	
285-158 — No1614	陶器 不明	口縁部破片	口径(5.3) 底径— 器高(2.3)		外面に刻線で蓮弁様を刻む。	
285-159 151 No1459	陶器 甗	口縁～底部 1/2	口径(12.0) 底径(6.9) 器高(9.9)		内外面にロクロの回転条痕あり。	最大径13.2
285-160 — No1460	陶器 甗	口縁部破片	口径(24.8) 底径— 器高(4.4)		内外面にロクロの回転条痕あり。口縁端部を折り返す特色あり。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
285-161 151 No1462	陶器 鉢	口縁～胴部 1/2	口径 28.9 底径 — 器高(12.4)		内外底に釉溜りらしき跡あり。体部内面にロクロの回転条痕あり。	
285-162 — No1416	陶器 鉢	底部	台部径 10.0 器高( 5.9)		外面に釉境らしき個所あり。器肉やや薄い。上半は片口となる可能性あるが、はっきりしない。	
285-163 152 No0898	土製品 泥人形 (大黒天)	3/4	長さ 4.1 幅 2.2	胎：細砂粒、砂質 焼：酸化焙 色：にぶい黄橙色	左肩～胴左半身部を欠失。表面は全体的にやや磨滅する。胴中心部から下面にかけて径3mm程の孔が有。	
285-164 152 No0899	土製品 泥人形	破片	長さ( 3.1) 幅 1.2 厚さ( 0.6)	胎：細砂粒、砂質 焼：酸化焙 色：浅黄橙色	泥人形の一部で、貼付部の剝離片と考えられるが、全体形状は不明。	
285-165 152 No1434	軟質陶器 焜炉	口縁～底部 1/2	口径(27.2) 底径(23.0) 器高 —	胎：粗砂粒 焼：酸化焙 色：明褐色	体部中央に透しあり、底側に貼り出しあり。外面の上・下に沈線帯あり。	
285-166 152 No1424	軟質陶器 火起しか	1/4	口径 — 底径 — 器高 5.4	胎：細砂粒 焼：還元焙 色：黄灰色	把手欠損する。器肉は全体的に厚い。	
285-167 — No1415	陶器 大皿	底部片	最大径(24.3) 底径(12.1) 器高 4.6		底面に高台あり。内面に絵付あり。外面に施釉部と露胎部境あり。	
286-168 — No0976	男瓦				瓦一覧表(4)参照	
286-169 — No0971	棧瓦	13号溝			瓦一覧表(4)参照	
286-170 — No0975	男瓦				瓦一覧表(4)参照	
286-171 — No0977	男瓦				瓦一覧表(4)参照	
286-172 — No1103	女瓦	14号溝			瓦一覧表(4)参照	
286-173 — No0978	棧瓦				瓦一覧表(4)参照	
286-174 — No0985	女瓦	2号溝			瓦一覧表(4)参照	
286-175 — No0982	棧瓦	2号溝			瓦一覧表(4)参照	
286-176 152 No1102	女瓦	14号溝			瓦一覧表(4)参照	
287-177 — No1104	女瓦	14号溝			瓦一覧表(4)参照	
287-178 — No1105	女瓦				瓦一覧表(4)参照	
287-179 — No0983	棧瓦	2号溝			瓦一覧表(4)参照	
287-180 — No0984	棧瓦	2号溝			瓦一覧表(4)参照	

第4節 遺構外出土遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
287-181 152 No1389	青磁 碗				口縁部尖る。	中国
287-182 152 No1393	青磁 碗				外面に櫛目施文、内面に劃文あり。釉薄い。	同安系 12c
287-183 152 No1383	青磁 碗か				外面にロクロの回転条痕あり。器種不明瞭である。	中国か
287-184 152 No1394	青磁 碗か				外面に櫛目施文、釉薄い。	同安系 12c
287-185 152 No1388	青磁 碗か				器種不明瞭である。	中国か
287-186 152 No1392	青磁 碗				内・外面に劃花文あり。	中国
287-187 152 No1384	青磁 瓶か				外面にロクロの回転条痕あり。器種不明瞭である。	中国か
287-188 152 No1395	青磁 碗				外面に劃文あり。	中国
287-189 — No1385	青磁 碗				高台削り出し。	中国
287-190 152 No1396	青磁 碗				高台削り出し。	中国
287-191 152 No1390	白磁 皿				口縁端部口禿。外面にロクロの回転痕あり。	中国 14c
287-192 152 No1387	白磁 皿				器肉薄く、宋代白磁。	中国 11・12c
287-193 152 No1391	白磁 皿か				器肉やや厚い。内面に劃花文あり。外面にロクロの回転痕あり。	中国 11・12c
287-194 — No1386	白磁 碗か				碗と思われる体部片である。	中国 11・12c
287-195 152 No4080	金尺	破片	最大長 11.2 最大幅 1.4 厚さ 0.19	銅製	表は1分目盛で1寸毎に区画し、5分目に「印」を打つ。1寸=30.3mm。裏は魯班尺で42.8mm(30.3×2)毎に区画する。後の転用か、先端部を剣先状に加工する。	
287-196 152 No4088	不明	トレンチ		鉄製	小柄小刀状の利器で、下方中央に小刀区らしき変換部あり。	79.32g
287-197 152 No4089	鉄ナベ	トレンチ		鉄製	板状で長軸断面形は弧を成す。	21.69g
288-198 152 No2128	砥石	表採	長 (5.8) 幅 (3.7) 厚 2.0	頁岩	2次被熱。中砥より上級。	59g 2面使用
288-199 152 No2166	砥石	49号住付近	長 (8.0) 幅 (2.2) 厚 3.1	頁岩	側部1面。小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏2面使用。合せ砥級。	55g 2面使用
288-200 152 No2135	砥石		長 5.5 幅 1.9 厚 2.0	砥沢石	各面使用。小形砥。中砥級。	35g 6面使用

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
288-201 152 No2191	砥石		長 (4.4) 幅 (4.4) 厚 1.0	珪質頁岩	使用面欠。3面に削痕。被熱。合せ砥。	18g 3面使用
288-202 152 No2145	砥石		長 (7.0) 幅 (1.2) 厚 2.0	頁岩	4面剥落、2面使用。合せ砥級。	38g 2面使用
288-203 152 No2221	砥石		長 (8.7) 幅 6.5 厚 (1.0)	頁岩	表・裏、片側部使用。剥片材。裏面に削痕あり。(軟質)合せ砥級。	60g, 3面使用, 2131・ 2128と同一
288-204 152 No2222	砥石		長 (7.2) 幅 6.3 厚 (1.3)	頁岩	剥落材。(軟質)合せ砥級。	56g, 3面使用, 2131・ 2128と同一
288-205 152 No2212	砥石		長 (7.0) 幅 (5.0) 厚 4.4	点紋頁岩	表・裏2面使用。小口・片側部削痕。片側部は節理か川原石面・原石面を残す。硬質。合せ砥か。	166g 2面使用
288-206 152 No2137	砥石		長 (6.2) 幅 2.7 厚 2.1	砥沢石	小口削目、3面研磨、1面削り。中砥級。	65g 3面使用
288-207 152 No2139	砥石		長 (4.9) 幅 2.8 厚 2.3	砥沢石	小口削目か、4面使用。中砥級。	47g 4面使用
288-208 152 No2126	砥石		長 (7.4) 幅 3.3 厚 1.8	砥沢石	表・裏、側部使用。中砥級。	74g 4面使用
288-209 152 No2151	砥石		長 10.7 幅 2.6 厚 2.0	砥沢石	表・裏、側部4面使用。小形尖形。中砥級。刃付砥。	90g 4面使用
288-210 152 No2160	砥石		長 (9.0) 幅 3.0 厚 2.7	砥沢石	表・裏・側部4面使用。中砥級。刃付砥。	101g 4面使用
288-211 152 No2144	砥石	2層	長 (8.0) 幅 3.1 厚 1.5	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部4面使用。中砥級。	46g 4面使用
289-212 152 No2138	砥石		長 (6.0) 幅 2.7 厚 1.7	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。2面削り、2面使用。中砥級。刃付砥。	37g 2面使用
289-213 152 No2147	砥石		長 (3.0) 幅 2.5 厚 2.1	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表・裏、側部使用。中砥級。	36g 4面使用
289-214 152 No2818	砥石		長 (7.8) 幅 4.4 厚 2.8	砥沢石	小口は旧欠。吊砥、小穴あり(径0.6cm)。表・裏、側部の4面使用。刃付砥。手持砥。	140g 4面使用
289-215 152 No2162	砥石		長 (9.2) 幅 3.4 厚 2.6	砥沢石	小口面は節理か川原石面・原石面を残す。表面使用。裏・側部3面削り。中砥級。刃付砥。	96g 1面使用
289-216 152 No2816	砥石	18層	長 8.3 幅 3.8 厚 1.8	砥沢石	小口面は旧欠。被熱。表・裏、側部4面使用。中砥級。手持砥。	89g 4面使用
289-217 152 No2814	砥石	1トレンチ	長 (7.7) 幅 3.4 厚 1.8	砥沢石	小口面は旧欠。表・裏、側部の4面使用。中砥。刃付砥。手持砥。	61g 4面使用
289-218 152 No2214	砥石		長 12.7 幅 2.9 厚 3.5	砥沢石	表面使用。片側部使用顕著。両小口・裏・片側部削痕。中砥級。	236g 1面使用
289-219 153 No2148	砥石		長 (4.8) 幅 (5.9) 厚 (1.6)	砥沢石	側部に削りあり。中砥級。	50g 1面使用
289-220 153 No2133	砥石		長 (3.2) 幅 2.5 厚 1.5	砥沢石	各面研磨。中砥級。	14g 4面使用



第4節 遺構外出土遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
289-221 153 No2150	砥石		長 (4.6) 幅 (3.6) 厚 2.5	砥沢石	表・裏、側部4面使用。中砥級。	61g 4面使用
289-222 153 No2141	砥石		長 (5.7) 幅 3.9 厚 2.4	砥沢石	小口は原石面。中砥級。	51g 4面使用
289-223 153 No2680	砥石	表採	長 7.6 幅 4.1 厚 4.5	砥沢石	刃ならし傷あり。表・裏、側部のうち2面使用、2面削り。中砥級。手持砥。	143g 2面使用
290-224 153 No2153	砥石	表採	長 (11.7) 幅 (3.8) 厚 2.2	砥沢石	表・裏、側部4面使用。中砥級。	104g 4面使用
290-225 153 No2233	砥石		長 (17.1) 幅 5.3 厚 4.5	砥沢石	表・裏、側部4面使用。小口は節理か川原石面・原石面を残す。側部2面に刃ならし傷。中砥級。	601g 4面使用
290-226 153 No2815	砥石		長 8.3 幅 3.7 厚 3.0	凝灰質砂岩	小口は旧欠と未使用。表・裏、側部のうち1面使用、3面未使用。中砥級。手持砥。	183g 1面使用 近世か
290-227 153 No2812	砥石		長 7.8 幅 3.7 厚 1.8	流紋岩	小口は旧欠と未使用。表・裏、側部のうち3面使用、1面削り。中砥級。手持砥。	83g 3面使用
290-228 153 No2813	砥石		長 5.5 幅 4.1 厚 1.0	砂岩	小口は旧欠と未使用。表・裏、側部のうち3面使用、1面小ハゼ。名倉砥へ中砥級。手持砥。	43g 3面使用
290-229 153 No2817	砥石		長 7.7 幅 3.7 厚 3.1	凝灰質砂岩	小口は旧欠と削り。表・裏、側部のうち3面使用、1面削り。中砥級。手持砥。	155g 3面使用 近世か
290-230 153 No2819	砥石		長 (7.1) 幅 5.9 厚 (3.5)	流紋岩	小口は旧欠と調欠。表・裏、側部のうち2面使用、2面削り。中砥級。手持砥。	170g 2面使用
290-231 153 No2134	砥石	表採	長 (5.1) 幅 (3.5) 厚 (1.0)	変玄武岩	金属研磨用か。硬質の為不明。中砥級。	32g 1面使用 中世以前か
290-232 153 No2230	砥石		長 (6.1) 幅 (9.5) 厚 (3.4)	凝灰質砂岩	自然材か人工材か不明。鋳型材か。軟質。荒砥級。	188g 3面磨耗
290-233 153 No2226	砥石		長 (7.4) 幅 6.9 厚 3.6	粗粒安山岩	表・裏、側部4面使用。小口面は節理か川原石面・原石面を残す。裏面に刃ならし傷。荒砥級。	190g 4面使用
291-234 153 No2677	砥石	5トレンチ	長 (13.5) 幅 11.4 厚 5.3	粗粒安山岩	自然石利用。表・裏使用。荒砥。手持砥。	889g 2面使用
291-235 153 No2224	砥石		長 5.9 幅 6.0 厚 4.8	榛名ニッ岳軽石	不定形砥。7～8面体。多角柱状。荒砥級。	60g 7～8面使用
291-236 153 No2245	磨石	13号住	長さ(18.2) 幅 13.0 厚さ 5.7	粗粒安山岩	小口は河原石面。主体は否金属。置砥。荒砥級。	1.7kg 5面使用
291-237 — No2679	砥石	表採	長さ(15.5) 幅 (11.6) 厚さ 7.1	粗粒安山岩	小口は旧欠と自然面。表・裏、側部のうち3面使用。荒砥。手持砥。	940g 3面使用
291-238 153 No2132	転用砥石		長さ(6.2) 幅 2.5 厚さ 1.9	焼き物	研磨痕なし。4面に整形痕あり。	30g 土器片
292-239 153 No2953	こもあみ石	完形	長さ 12.6 幅 5.4 厚さ 3.8	粗粒安山岩	平面形は紡錘形を、横断面は隅丸三角形を呈する。	393g

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
292-240 153 No2952	こもあみ石	完形	長さ 12.1 幅 4.8 厚さ 3.5	細粒安山岩	平面形は紡錘形を、横断面は隅丸三角形を呈する。	312 g
292-241 153 No2954	こもあみ石	完形	長さ 14.3 幅 4.9 厚さ 4.2	粗粒安山岩	平面形は紡錘形を、横断面は楕円形を呈する。	445 g
292-242 153 No2958	こもあみ石	完形	長さ 13.8 幅 4.2 厚さ 3.0	粗粒安山岩	平面形は紡錘形を、横断面は楕円形を呈する。	249 g
292-243 153 No2955	こもあみ石	完形	長さ 12.9 幅 6.0 厚さ 3.7	粗粒安山岩	平面形は紡錘形を、横断面は楕円形気味。	390 g
292-244 153 No2957	こもあみ石	完形	長さ 14.6 幅 6.6 厚さ 4.8	粗粒安山岩	平面形は紡錘形を、横断面は楕円形気味。	713 g
292-245 153 No2883	こもあみ石	3号住 完形	長さ 14.0 幅 6.3 厚さ 5.7	砂岩	平面形は紡錘形を、横断面は隅丸三角形を呈する。	741 g
292-246 153 No2956	こもあみ石	完形	長さ 16.5 幅 5.6 厚さ 3.7	灰色安山岩	平面形は紡錘形を、横断面は隅丸菱形を呈する。	560 g
292-247 153 No2959	磨石類	完形	長さ 14.3 幅 8.6 厚さ 3.6	粗粒安山岩	平面形は楕円形を、横断面は楕円形を呈する。	728 g
292-248 153 No2882	こもあみ石	完形	長さ 14.3 幅 4.7 厚さ 4.4	玢岩	平面形は不整の楕円形を、横断面は隅丸三角形を呈する。	474 g
292-249 153 No2975	磨石類	完形	長さ 16.0 幅 15.0 厚さ 5.0	粗粒安山岩	平面形は円形。横断面は楕円形を呈す。	1.8kg
292-250 153 No2789	板碑	破片	長さ — 幅 — 厚さ 3.0	緑色片岩	肉厚。裏面に幅14.4mm程の工具痕が残る。	550 g
292-251 153 No2804	宝篋印塔 屋蓋	破片	長さ 8.4 幅 — 厚さ 8.3	粗粒安山岩	屋蓋の隅飾部。雲形を呈し、周囲に縁を持つ。外側にあまり開かず、ほぼ直立し立ち上がる。	400 g
293-252 154 No2879	石製 陽物	17号住 完形	長さ 13.0 幅 5.4 厚さ 3.0	変質安山岩	短い石棒状で、陽物の特徴を作り出す。	307 g
293-253 154 No2880	石製 陽物	3号溝 完形	長さ 12.9 幅 4.6 厚さ 2.4	雲母石英片岩	短い石棒状で、陽物の特徴を作り出す。	191 g
293-254 154 No2881	石製 陽物か	11号溝 上部のみ	長さ 26.9 幅 13.4 厚さ 5.8	フォルンフェルス	下方欠。線刻で陽物の特徴を作り出すが、不要と思われる線もあり。	3.1kg
293-255 154 No2847	石製 輪状	45号住 完形	直径 5.5 厚さ 3.0	軽石	輪状を呈し、穿孔上位に段あり。	46 g
293-256 154 No2853	石製 硯	破片	長さ(7.6) 幅(6.1)	頁岩(珪質頁岩)	墨溜に墨痕あり。下方と左側を失う。	38 g
293-257 154 No2841	石製 丸納	1/4	長さ 1.8 幅 2.2 厚さ 0.7	珪質頁岩	表面精研磨。裏面に留めの小孔あり。左側欠。	5 g
293-258 154 No2840	石製模造品 不明	2/3	長さ 2.2 幅 2.7	滑石	片側に寄って小孔2ヶ所あり。有孔円盤の欠損品か。	3.61 g
293-259 154 No2828	石製模造品 剣形		長さ 3.5 幅 2.0	滑石	中央に1穴、上方に1片あり。表・裏面に擦痕あり。	5.85 g

## 第4節 遺構外出土遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目 (cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
293-260 154 No0890	土製品 鋳型か (鉄砲玉)	完形	長さ 3.9 幅 4.0 厚さ 1.8	胎：粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	やや細かな粘土で整形されている。裏面と表面に凹みが設けられている。上面に湯口らしき小穴が裏面に達する。そのため鋳型か。	29.12 g
293-261 154 No2803	石製品 凹石	25号住 1/3	高さ 10.9	榛名二ツ岳軽石	自然石の一面に播鉢状の凹みを有し、凹み円部は磨耗する。	900 g
294-262 153 No2099	石臼 上臼	54号住 1/2	直径 29.0	粗粒安山岩	穀臼である。主溝と副溝の区分弱い。中央に出枕穴あり。側部に挽手穴あり。	870 g
294-263 153 No2671	石臼 上臼	破片	最大径 — 高さ 8.7	粗粒安山岩	上面及び側面の各所に幅 5 mm程の太い溝状の工具痕が残り、整形は粗雑。挽面は磨耗し、目は残らない。	2.5kg
294-264 154 No2670	石臼 上臼	1/3	最大径 — 高さ 9.5	粗粒安山岩	側面及び上面は丁寧な磨き整形。全体に表面は磨耗。挽面やや偏減りし、2～2.5cm間隔の目が残る。	5.3kg
294-265 154 No2669	石臼 上臼	破片	最大径 — 高さ 10.3	粗粒安山岩	上面及び側面は工具痕を残し、整形は粗い。供給口の一部を有し、挽面は磨耗するが 2 cm程の間隔の目が残る。	2.5kg
294-266 154 No2672	石臼 上臼	1/3	最大径 — 高さ 7.8	粗粒安山岩	上面縁部を欠損。上面は丁寧な磨き、側面は工具痕を残す粗い整形。供給口の一部を残し、挽面は磨耗するが 1.5～2 cm間隔の目を残す。	3.8kg
294-267 154 No2683	石臼 上臼	表採		粗粒安山岩	側面及び上面は丁寧な磨き整形。挽面は磨耗するが 1.5～2 cm間隔の目が残る。	700 g
294-268 154 No2674	石臼 下臼	1/4	最大径 — 高さ 12.2	粗粒安山岩	側面及び下面えぐり部は表面に細かな凹凸を残し、やや粗雑な整形。挽面は平坦で、2～2.5cm間隔の深い目が残る。	4.9kg
294-269 154 No2676	石臼 下臼	1/4	最大径 — 高さ 7.6	粗粒安山岩	側面及び下面えぐり部は荒い工具痕を残し、整形は粗雑。挽面は平坦で磨耗し、目は残らない。	3.9kg
295-270 154 No2673	石臼 下臼	1/3弱	最大径 — 高さ 11.7	粗粒安山岩	側面一部剥落。側面及び下面えぐり部は工具痕の細かい凹凸を残す。挽面は 1.7～2.5cm間隔の深い目が残る。目は 6 分割。	6.1kg
295-271 154 No2675	石臼 下臼	1/2	最大径 — 高さ 8.3	粗粒安山岩	側面及び底面えぐり部の整形は丁寧な磨き。挽面は摩耗し、目は残らない。	3.3kg
295-272 154 No2678	石鉢	破片		粗粒安山岩	口縁部破片。器内はやや厚手で、口縁もややいびつ。内外面共に丁寧な整形。	1.1kg
295-273 154 No2681	石鉢	破片		粗粒安山岩	口縁部破片。小型石鉢。整形は丁寧だが、工具痕を若干残す。	20 g
295-274 154 No2682	石鉢	破片		粗粒安山岩	底部破片。外面の整形は丁寧な磨き。内面体部底部付近に細かい溝状の工具痕が残る。	500 g
295-275 154 No4082	古銭 開元通宝	完形	最大径 2.40 厚さ 0.14	銅製	全体に腐食が著しい。	3.04 g 唐
295-276 154 No4007	古銭 至道元宝	2/3	最大径 2.41 厚さ 0.11	銅製	真書体。「道」文字部分を欠失。やや腐食・磨滅するものの文字・縁の稜は残す。裏面は縁の稜なし。	1.45 g 北宋 995年
295-277 154 No4078	古銭 祥符通宝	完形	最大径 2.50 厚さ 0.13	銅製	磨滅・腐食は比較的少なく、遺存状態は良好。裏面の縁幅が若干不均質。	3.14 g 北宋 1009年
295-278 154 No4086	古銭 天聖元宝	完形	最大径 2.43 厚さ 0.11	銅製	篆書体。全体に磨滅・腐食し、大きく亀裂が入る。外縁部は所々腐食により欠損。	2.64 g 北宋 1023年
295-279 154 No4010	古銭 皇宋通宝	完形	最大径 2.42 厚さ 0.10	銅製	真書体。全体に腐食・磨滅し、特に孔部に腐食による欠損。裏面は縁の稜を残さない。	2.83 g 北宋 1039年

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素材)	器形・成整形の特徴	備考
295-280 154 No4085	古銭 皇宋通宝	完形	最大径 2.34 厚さ 0.12	銅製	真書体。全体に腐食が著しく、やや磨滅する。	3.21 g 北宋 1039年
295-281 154 No4011	古銭 熙寧元宝	完形	最大径 2.38 厚さ 0.14	銅製	真書体。全体にやや磨滅・腐食する。縁部左上部及び下方に腐食による穴が貫通。	3.65 g 北宋 1068年
295-282 154 No4094	古銭 熙寧元宝	欠	最大径 2.48 厚さ 0.11	銅製	2分割。篆書体。全体に磨滅・腐食が著しい。	2.61 g 北宋 1068年
295-283 154 No4006	古銭 元豊通宝	完形	最大径 2.38 厚さ 0.09	銅製	真書体。やや磨滅するものの遺存状態は良好。裏面の縁幅が不均質。	2.50 g 北宋 1078年
295-284 154 No4012	古銭 元豊通宝	完形	最大径 2.44 厚さ 0.12	銅製	真書体。全体に磨滅・腐食する。孔部の鑄造不完全。	3.32 g 北宋 1078年
295-285 154 No4084	古銭 元豊通宝	完形	最大径 2.34 厚さ 0.11	銅製	篆書体。全体に腐食が著しい。	2.94 g 北宋 1078年
295-286 154 No4093	古銭 元豊通宝	完形	最大径 2.45 厚さ 0.13	銅製	真書体。(ほかの元豊通宝と若干書体が異なる。)若干磨滅・腐食するものの、比較的遺存状態は良好。	4.18 g 北宋 1078年
295-287 154 No4075	古銭 紹聖元宝	完形	最大径 2.35 厚さ 0.12	銅製	篆書体。磨滅・腐食が著しく、外縁も所々腐食により欠損する。	2.77 g 北宋 1094年
295-288 154 No4087	古銭 聖宋元宝	欠	最大径 2.34 厚さ 0.10	銅製	篆書体。「聖」字部分を欠失し、全体に腐食が著しい。外縁部を所々腐食により欠損し、「元」字右側は腐食により貫通する。	0.94 g 北宋 1101年
295-289 154 No4077	古銭 永樂通宝	完形	最大径 2.46 厚さ 0.13	銅製	磨滅・腐食は少なく、遺存状態は良好。右下部縁端が若干歪む。	3.40 g 明 1408年
295-290 154 No4081	古銭 永樂通宝	完形	最大径 2.42 厚さ 0.11	銅製	全体に若干腐食し、縁部に所々腐食による欠損がみられる。	2.51 g 明 1408年
295-291 154 No4083	古銭 永樂通宝	完形	最大径 2.50 厚さ 0.14	銅製	全体にやや腐食するものの、文字・縁の稜は良好に残る。	3.41 g 明 1408年
295-292 154 No4079	古銭 永樂通宝	完形	最大径 2.46 厚さ 0.13	銅製	磨滅・腐食は比較的少なく、遺存状態は良好。裏面の縁幅に若干不均質な所有り。	2.96 g 明 1408年
295-293 154 No4091	古銭 文久永宝	完形	最大径 2.66 厚さ 0.11	銅製	腐食・磨滅はほとんどなく、遺存状態は極めて良好。「宝」の文字の一部に鑄くずれが有る。裏面波文様有り。波文右上部に鑄くずれ有り。	3.81 g
295-294 154 No4076	古銭 寛永通宝	完形	最大径 2.41 厚さ 0.09	銅製	磨滅・腐食は極めて少なく、遺存状態は良好。「宝」の文字の一部が若干鑄くずれる。	2.93 g
295-295 154 No4090	古銭 □聖元宝?	完形	最大径 2.10 厚さ 0.12	銅製	磨滅・腐食が著しく、文字の判読不可。外径は小さい。	2.35 g
295-296 154 No4092	古銭 寛永通宝	完形	最大径 2.51 厚さ 0.12	銅製	全体にやや腐食がみられ、外縁も所々欠損する。裏面上方に「文」の文字有り。	3.26 g

遺構出土埴輪観察表

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
296-1 155 No1577	埴輪 形象埴輪 靱	5号溝A 背板左側下 張出部		胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：にぶい赤褐色	円筒部から粘土板を張り出させ、縁金具表現の粘土帯 貼付。外面ナデ仕上げ、円筒部内面縦指ナデ。	胎土に結 晶片岩
296-2 155 No1569	埴輪 形象埴輪 盾？	50号住居 盾面上部破 片	ハケメ 7本	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：にぶい赤褐色	円筒部から粘土板が張り出す。外面縦ハケ張出部斜め ハケ、内面縦指ナデ。	胎土に結 晶片岩
296-3 155 No1567	埴輪 形象埴輪 盾	1号溝A 左張出部上 位破片	ハケメ 8本	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	円筒部から粘土板が張り出す。前面斜めハケ、張出部 横ハケ、後面斜めハケ、内面指ナデで粘土紐接合痕残 る。前面に縦方向の沈線あり。	
296-4 155 No1566	埴輪 形象埴輪	57号井戸 円筒状破片		胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面磨耗、内面縦指ナデ。	
296-5 155 No1573	埴輪 形象埴輪 髷？	遺構外 破片	ハケメ 12本	胎：細～粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面縦ハケ後左下の弧を描く沈線から放射状の平行沈 線を施し、平行沈線間を刺突。内面縦指ナデ。	馬具の一 部か。
296-6 155 No1570	埴輪 形象埴輪	52号住西 円筒状破片		胎：細～粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面磨耗、内面縦指ナデ。	
296-7 155 No1574	埴輪 形象埴輪	3号溝 円筒状破片	ハケメ 9本	胎：細砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	外面縦ハケ、円筒部右側に剥離痕。内面縦指ナデ。	
296-8 155 No1572	埴輪 形象埴輪 鶏？	3号溝 小破片	ハケメ 11本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	外面縦ハケ後赤彩、内面ハケメ。	14住6と 同一個体 か
296-9 155 No1576	埴輪 形象埴輪 鶏？	3号溝西 小破片	ハケメ 11本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄橙色	外面縦ハケ後赤彩、内面指ナデ。	14住6と 同一個体 か
296-10 155 No1575	埴輪 形象埴輪 盾か靱	3号溝A 張出部破片	ハケメ 14本	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	片面横ハケ、片面磨耗。円筒部からの剥離痕を残す。	
296-11 155 No1470	埴輪 円筒埴輪	44号住居 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 12本 突帯高 1.3 突帯幅 1.0	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面横ハケ後突帯横ナデ、内面斜めハケ、粘土紐接合 痕残る。透孔上部僅かに残存。突帯断面強い方形。	
296-12 155 No1469	埴輪 円筒埴輪	5号土坑 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 9本 突帯高 1.0 突帯幅 1.0	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後横ハケのち突帯横ナデ。静止痕間隔4.6 cm。内面横指ナデ後荒い斜め指ナデ。突帯断面強い台 形。	
296-13 155 No1464	埴輪 円筒埴輪	3、4号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 13本 突帯高 1.4 突帯幅 1.4	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデのち横ハケ。静止痕間隔 4.5cm、工具幅7.5cm以上。内面縦・斜め指ナデ。透孔 右側残存。突帯断面強い方形。	透孔半円 形か
297-14 155 No1465	埴輪 円筒埴輪	3号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 11本 突帯高 1.4 突帯幅 1.2	胎：細～粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデのち横ハケ。内面斜め指 ナデ後荒い斜めハケ。突帯断面強い方形。	
297-15 155 No1467	埴輪 円筒埴輪	1号溝 胴部～基底 部	ハケメ 12本 突帯高 1.4 突帯幅 1.2	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯位置に幅3mmの浅い沈線、横ハケ後 突帯横ナデ。内面基底部斜め指ナデ後胴部横指ナデ。 上端に透孔下部僅かに残存。突帯断面強い方形。	
297-16 155 No1466	埴輪 円筒埴輪	38号井戸 胴部突帯周 辺破片	突帯高 0.8 突帯幅 1.0	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後横ハケのち突帯横ナデ。内面横指ナデ後 荒く縦指ナデ、粘土紐接合痕残る。突帯断面台形。	
297-17 155 No1463	埴輪 円筒埴輪	1号溝 突帯周辺破 片	ハケメ 8本 突帯高 0.6 突帯幅 1.0	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデのち縦ハケ。内面指ナデ。 外面赤彩。突帯磨耗、断面強い方形？	
297-18 155 No1471	埴輪 円筒埴輪	1号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 12本 突帯高 1.0 突帯幅 0.8	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙色	外面縦ハケ後横ハケのち突帯横ナデ。内面横指ナデ、 オサエ。突帯断面強い台形。	外面赤彩 僅かに残 る
297-19 155 No1474	埴輪 円筒埴輪	3号溝 胴部突帯周 辺破片	突帯高 1.1 突帯幅 1.2	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後突帯上下に横ハケ。内面指オサエ。突帯 破損、断面強い台形？	
297-20 155 No1472	埴輪 円筒埴輪	6、10号溝重 胴部突帯周 辺破片	突帯高 0.8 突帯幅 0.6	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面横ハケ後突帯横ナデ、内面横ハケ・横ナデで粘土 紐接合痕残る。突帯断面台形。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
297-21 155 No1473	埴輪 円筒埴輪	1号溝 胴部突帯周 辺破片	突帯高 1.0 突帯幅 1.4	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦横ハケ、突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ。突帯強いM字形。	
297-22 155 No1468	埴輪 円筒埴輪	59号住居 胴部～基底 部？	ハケメ 18本 突帯高 0.8 突帯幅 0.9	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、横ハケ。静止痕間隔は6.5cm。内面斜め指ナデ後上位を斜めハケ。粘土紐接合痕残る。突帯断面台形。	外面に煤付着
297-23 155 No1480	埴輪 円筒埴輪	3号溝周辺 胴部破片	ハケメ 12本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後弱い横ハケ。内面斜め指ナデ。	
297-24 155 No1478	埴輪 円筒埴輪	3号溝周辺 胴部破片	ハケメ 13本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後横ハケ、右端透孔残存、上端に突帯剥離痕。静止痕間隔6cm以上。内面斜め指ナデ。	
297-25 155 No1481	埴輪 円筒埴輪	3号溝西 胴部破片	ハケメ 9本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後横ハケ、静止痕間隔4.5～5cm？内面斜め指ナデ。	横ハケ反時計回り
298-26 155 No1482	埴輪 円筒埴輪	44号住居 胴部破片	ハケメ 13本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面横ハケ、静止痕間隔5.5cm以上。内面横板ナデ。	
298-27 155 No1475	埴輪 円筒埴輪	3号溝 胴部破片	ハケメ 11本	胎：細～粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後横ハケ、静止痕弱い。静止痕間隔5.3cm。内面横・斜め指ナデ。	
298-28 155 No1484	埴輪 円筒埴輪	11号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 10本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：還元焼きみ 色：橙～褐灰色	外面縦ハケ後横ナデのち突帯横ナデ、突帯剥離し幅3mmの浅い沈線露出。内面縦ハケ後突帯位置指オサエ。	須恵質
298-29 155 No1476	埴輪 円筒埴輪	3号溝周辺 胴部破片	ハケメ 12本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面横ハケ、静止痕間隔4.3cm以上。内面斜めハケ後一部ナデ。	
298-30 155 No1477	埴輪 円筒埴輪	4号溝 胴部破片	ハケメ 9本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：淡橙色	外面縦ハケ後横ハケ(工具幅6cm以上)のち上下端横ナデ、右端に透孔残存。内面斜め指ナデ後荒く縦指ナデ。	
298-31 155 No1483	埴輪 円筒埴輪	3号溝1、2 ベルト胴部 破片	ハケメ 14本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後横ハケ(工具幅4.1cm以上)下位に突帯貼付横ナデ残存。内面縦・斜め指ナデ。	
298-32 155 No1486	埴輪 円筒埴輪	客土 口縁部破片	ハケメ 11本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後口唇部横指ナデ、内面横ハケ後口唇部横ナデ。	外面赤彩ナデ。
298-33 155 No1485	埴輪 円筒埴輪	客土 口縁部破片	ハケメ 9本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後口唇部横指ナデ、内面横・斜め指ナデ後口唇部横ナデ。	外面赤彩
298-34 155 No1487	埴輪 円筒埴輪	3号溝 口縁部破片	ハケメ 10本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後口唇部横指ナデ、内面斜め指ナデ後口唇部横ナデ。	
298-35 155 No1500	埴輪 円筒埴輪	13号溝 胴部突帯周 辺破片	突帯高 0.8 突帯幅 0.6	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：灰白色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、内面磨耗。突帯断面台形。	外面赤彩
298-36 156 No1501	埴輪 円筒埴輪	44号住カマド 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 9本 突帯高 0.9 突帯幅 1.2	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、下端に透孔一部残存。内面斜め指ナデ後突帯位置横指ナデ。突帯断面台形。	
299-37 155 No1491	埴輪 円筒埴輪	1号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 10本 突帯高 1.0 突帯幅 1.2	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、内面斜め指ナデ後突帯位置横指ナデ。突帯断面台形。	
299-38 155 No1489	埴輪 円筒埴輪	3号溝 胴部～基底 部？	残存高 15.4 ハケメ 11本 突帯高 0.9	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙～黄褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、内面斜め指ナデ後突帯位置一部に横指ナデ。胴部透孔下部残存。突帯断面台形。	
299-39 156 No1488	埴輪 円筒埴輪	3号溝 胴部破片	残存高 14.3 ハケメ 10本 突帯高 0.4	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、上端にも突帯貼付横ナデ残存。内面斜め指ナデ。突帯断面台形。	透孔円形
299-40 156 No1490	埴輪 円筒埴輪	3号溝 口縁部～胴 部破片	ハケメ 9本 突帯高 1.4 突帯幅 1.2	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデのち口縁部に小孔穿孔。内面斜め指ナデ。突帯断面強い台形。	口縁部外面赤彩・小孔



## 第4節 遺構外出土遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
299-41 156 No1497	埴輪 円筒埴輪	13号溝 胸部突帯周 辺破片	ハケメ 14本 突帯高 0.8 突帯幅 1.0	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、突帯磨耗。内面縦ハケ。 突帯断面台形。	外面煤付 着
299-42 156 No1498	埴輪 円筒埴輪	54号住居 胸部突帯周 辺破片	ハケメ 9本 突帯高 0.8 突帯幅 0.8	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ後突帯 位置横指ナデ。透孔切断面内面角を指ナデ。	透孔円形 か。
299-43 156 No1494	埴輪 円筒埴輪	19号井戸 胸部突帯周 辺破片	ハケメ 10本 突帯高 1.0 突帯幅 1.6	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：浅黄褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面下半は斜め指ナデ、 上半は横指ナデその後突帯位置横指ナデ。上端に透孔 一部残存。突帯断面台形。	外面突帯 上位まで 赤彩
299-44 156 No1503	埴輪 円筒埴輪	10?号溝 胸部突帯周 辺破片	ハケメ 10本 突帯高 1.2 突帯幅 1.6	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ、粘土 紐接合痕残る。突帯断面強い方形か。	
300-45 156 No1493	埴輪 円筒埴輪	60号住居 胸部突帯周 辺破片	ハケメ 12本 突帯高 1.0 突帯幅 1.0	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：浅黄褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ、粘土 紐接合痕残る。突帯断面強い台形。	
300-46 156 No1492	埴輪 円筒埴輪	13号溝 胸部突帯周 辺破片	ハケメ 9本 突帯高 1.2 突帯幅 1.6	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ後荒く 縦指ナデのち突帯位置に横ナデ。粘土紐接合痕残る。 左端に透孔一部残存。突帯断面強い台形。	
300-47 156 No1496	埴輪 円筒埴輪	4号溝 胸部突帯周 辺破片	ハケメ 10本 突帯高 0.8 突帯幅 0.8	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：浅黄褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ後突帯 位置指オサエ、粘土紐接合痕残る。突帯断面台形。	
300-48 156 No1502	埴輪 円筒埴輪	17、37、57住 突帯周辺破 片	突帯高 0.6 突帯幅 1.0	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙色	突帯貼付後側辺に工具押圧による幅3mmの斜位沈線。 ひとつおきに沈線を交差させる。内面斜め板ナデ。突 帯断面強い方形。	突帯側辺 にキザミ
300-49 156 No1504	埴輪 円筒埴輪	3号溝 胸部破片	ハケメ 9本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄褐色	外面縦ハケ、下端に突帯貼付横ナデ残存。内面斜め指 ナデ。	外面赤彩 ナデ。
300-50 156 No1495	埴輪 円筒埴輪	10号溝 胸部～基底 部破片	ハケメ 11本 突帯高 1.1 突帯幅 1.2	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：浅黄褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面縦・斜め指ナデ後 突帯位置に指オサエ。右上端に透孔一部残存。突帯断 面強い台形。	
300-51 156 No1499	埴輪 円筒埴輪	10号溝 胸部突帯周 辺破片	ハケメ 11本 突帯高 0.6 突帯幅 1.0	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：暗灰黄色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面縦指ナデ後突帯位 置に横指ナデ。上端の突帯に接して透孔一部残存。突 帯断面台形。	
300-52 156 No1507	埴輪 円筒埴輪	1号溝 基底部破片	ハケメ 11本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後下端を横ナデ、一部板ナデ。内面指オサ エ。底面僅かに棒状圧痕あり。	
300-53 156 No1515	埴輪 円筒埴輪	1号溝 基底部破片	ハケメ 12本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後下端を横ナデ。内面斜め指ナデ。底面 僅かに棒状圧痕あり。	
301-54 156 No1506	埴輪 円筒埴輪	3号溝 基底部破片	底径(20.7) 残存高 12.0 ハケメ 11本	胎：細砂粒、白色粒 焼：還元焰 色：橙色	外面縦ハケ後下端に強い横板ナデ。内面斜め指ナデ。 底面棒状圧痕あり。	
300-55 156 No1512	埴輪 円筒埴輪	5号溝 基底部破片	底径(22.2) 残存高 8.8 ハケメ 9本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄褐色	外面縦ハケ、内面斜め指ナデ。底面平坦で棒状圧痕あ り。	
301-56 156 No1522	埴輪 円筒埴輪	31号井戸 基底部破片	ハケメ 12本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：還元焰 色：褐灰色	外面縦ハケ後下端に横ナデ。内面斜め指ナデ後縦指ナ デのち斜め指ナデ。底面棒状圧痕あり。	須恵質
301-57 156 No1514	埴輪 円筒埴輪	44号住カマド 基底部破片	ハケメ 9本	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後下端横ナデ一部残存。内面斜め指ナデ。 底面平坦。	基部幅 8 cm
301-58 156 No1520	埴輪 円筒埴輪	10号溝 基底部破片	ハケメ 9本	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面下半横ハケ後縦ハケのち下端狭く横ナデ。内面縦 指ナデ後一部に縦・横ハケ。底面棒状圧痕あり。	
301-59 157 No1517	埴輪 円筒埴輪	31号井戸 基底部破片	ハケメ 12本	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後下端横ナデ。内面横・斜め指ナデ。底面 棒状圧痕あり。	
301-60 157 No1519	埴輪 円筒埴輪	3号溝 基底部破片	ハケメ 12本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい黄褐色	外面縦ハケ後下端横板ナデ。内面下半を基部段階の指 オサエ後斜め指ナデ。	



第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
301-61 157 No1521	埴輪 円筒埴輪	13号溝 基底部破片	ハケメ 10本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面下半横ハケ後縦ハケ。内面縦指ナデ後一部斜めハケ。底面棒状圧痕あり、基部重ね合わせ右端が上(底面に相対して見た場合)。	
301-62 157 No1510	埴輪 円筒埴輪	5号井戸 基底部破片	ハケメ 10本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：黄橙色	外面縦ハケ。内面横・斜めナデ、下端基部段階の指オサエあり。底面平坦。	
302-63 157 No1505	埴輪 円筒埴輪	3号溝 基底部破片	底径(24.0) 残存高 12.0 ハケメ 11本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、下端横ナデ。内面斜め指ナデ。底面径3mmの棒状圧痕横位に伸びる。突帯断面強い台形。突帯高1.0、突帯幅1.2。	基部幅8 ～9cm
302-64 157 No1516	埴輪 円筒埴輪	1号溝西上 基底部破片	ハケメ 10本	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：淡黄色	外面縦ハケ後下端横ナデ、上端突帯貼付横ナデ一部残存。内面斜め指ナデ。底面棒状圧痕あり。	基部幅8 ～9cm
302-65 157 No1509	埴輪 円筒埴輪	10号溝 基底部破片	ハケメ 12本	胎：細～粗砂粒 焼：酸化焰 色：浅黄橙色	外面縦ハケ。内面斜め指ナデ後一部縦指ナデ。底面弱い棒状圧痕あり。	基部幅9 ～10cm
302-66 157 No1508	埴輪 円筒埴輪	44号住カマド 基底部破片	ハケメ 11本	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：還元焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後下端横ナデ。内面斜め指ナデ。底面棒状圧痕あり。	
302-67 157 No1511	埴輪 円筒埴輪	3溝・1溝東 胴部～基底 部破片	ハケメ 11本 突帯高 0.8 突帯幅 0.8	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ、粘土紐接合痕残る。底面木目圧痕あり。基部重ね合わせ右端が上。胴部突帯に接して透孔残存。突帯断面台形。	基部幅6 ～7cm
302-68 157 No1513	埴輪 円筒埴輪	8号溝 基底部破片	ハケメ 13本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後下端横ナデ。内面斜め指ナデ、粘土紐接合痕残る。底面棒状圧痕あり。	基部幅8 cm
302-69 157 No1518	埴輪 円筒埴輪	5号溝 基底部破片	ハケメ 9本	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ。内面横ハケ後一部斜め指ナデ。底面棒状圧痕あり。	基部幅6 ～7cm
303-70 157 No1523	埴輪 円筒埴輪 朝顔形	57号井戸 頸部～胴部 破片	残存高 13.6 ハケメ 10本	胎：細～粗砂粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面胴部斜め指ナデ後肩部オサエ、頸部縦指ナデ。透孔断面内側指で強いナデ。突帯断面台形。突帯高0.4、突帯幅0.8。	外面頸部 ～肩部赤 彩
303-71 157 No1524	埴輪 円筒埴輪	42号井戸 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 7本 胴部幅 11.0	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、下端にも横ナデ残存。内面縦指ナデ。外面に「U」形ヘラ描き残存。突帯断面台形。突帯高0.6、突帯幅0.8。	74と接合 外面ヘラ 描き
303-72 157 No1525	埴輪 形象埴輪?	58号住居 馬胴部?	ハケメ 10本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ、斜めハケ。内面斜めハケ、磨耗著しい。左右に緩い弧を描く。	朝顔形?
303-73 157 No1527	埴輪 円筒埴輪	1号土坑 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 10本 突帯高 0.6 突帯幅 1.0	胎：細砂粒、白色粒 焼：還元焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ後突帯位置指オサエ。粘土紐接合痕残る。突帯断面台形。	
303-74 157 No1526	埴輪 円筒埴輪	1号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 6本 突帯高 0.8	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面縦指ナデ。右上端に透孔僅かに残存。突帯断面台形。	71と接合
303-75 157 No1529	埴輪 円筒埴輪	13号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 8本 突帯高 0.9 突帯幅 1.0	胎：細砂粒、白色粒 焼：還元焰 色：灰黄褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面縦ハケ。右端に透孔残存。突帯断面台形。	須恵質 透孔円形 か。
303-76 157 No1531	埴輪 円筒埴輪	3号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 10本 突帯高 1.0 突帯幅 1.0	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ後斜めハケのち荒く縦指ナデ。突帯断面強い台形。	
303-77 157 No1528	埴輪 円筒埴輪	15号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 9本 突帯高 0.6 突帯幅 1.0	胎：粗砂粒、白色粒 焼：還元焰 色：褐灰色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜めハケ後一部斜め指ナデのち突帯位置オサエ。突帯断面台形。	須恵質
303-78 157 No1530	埴輪 円筒埴輪	3号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 14本 突帯高 0.7	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面縦指ナデ。突帯角破損。突帯断面台形。	
304-79 157 No1557	埴輪 円筒埴輪	4号溝 口縁部破片	ハケメ 8本	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後口唇部横ナデ。内面斜めナデ後口唇部横ナデ。	
304-80 157 No1536	埴輪 円筒埴輪	4号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 7本 突帯高 0.5 突帯幅 0.8	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜めハケ。突帯断面低いM字形。	

第4節 遺構外出土遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
304-81 157 No1535	埴輪 円筒埴輪	37・57号住 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 8本 突帯高 0.6	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜めハケ。突帯断面低い台形。	
304-82 157 No1534	埴輪 円筒埴輪	3号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 6本 突帯高 0.2 突帯幅 0.9	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、上端にも僅かに横ナデ残る。内面斜め指ナデ。右端突帯に接して透孔残存。突帯断面低い台形。	透孔円形
304-83 158 No1533	埴輪 円筒埴輪	3号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 14本 突帯高 0.3	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、内面斜めハケ後突帯位置軽いオサエ。右上端に透孔一部残存。突帯断面低い三角形。	
304-84 158 No1554	埴輪 円筒埴輪	17住掘り方 胴部破片	ハケメ 12本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ。内面指ナデ。	
304-85 158 No1541	埴輪 円筒埴輪	58号住居 胴部破片	ハケメ 9本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面縦ハケ、一部表面剝離。内面磨耗するが斜め指ナデか。	
304-86 158 No1555	埴輪 円筒埴輪	1号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 11本 突帯高 0.6	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ。内面縦ハケ。突帯断面低い台形。	
304-87 158 No1545	埴輪 円筒埴輪	2号井戸 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 10本 突帯高 0.2	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面縦ハケ。	
304-88 158 No1537	埴輪 円筒埴輪	1号溝 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 5本 突帯高 0.4	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面縦指ナデ。突帯断面低い台形。	
304-89 158 No1538	埴輪 円筒埴輪	17住掘り方 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 11本 突帯高 0.4 突帯幅 0.8	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯位置左斜め上にナデ上げたのち突帯貼付横ナデ。内面縦指ナデ、剝離著しい。突帯断面台形。	
304-90 158 No1549	埴輪 円筒埴輪	1号溝 口縁部破片	ハケメ 6本	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ後上半斜めハケのち荒く斜め指ナデ。	外面平行斜線のヘラ描き
304-91 158 No1550	埴輪 円筒埴輪	3号溝 基底部破片	ハケメ 11本	胎：細砂粒、白色粒 焼：還元焰 色：褐灰色	外面縦ハケ後上端に僅かに突帯貼付横ナデ残存。内面斜め指ナデ。	須恵質
305-92 158 No1543	埴輪 円筒埴輪	17住掘り方 胴部破片	ハケメ 12本	胎：細～粗砂粒 焼：還元焰 色：橙色	外面縦ハケ。内面斜め指ナデ。	
305-93 158 No1547	埴輪 円筒埴輪	遺構外 胴部破片	ハケメ 12本	胎：細～粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面縦ハケ。斜め指ナデ。	
305-94 158 No1542	埴輪 円筒埴輪	32号井戸 胴部破片	ハケメ 8本	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜め指ナデ、上端荒い指オサエ、粘土紐接合痕残る。	
305-95 158 No1548	埴輪 円筒埴輪	47号住居 胴部破片	ハケメ 12本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面縦ハケ。内面縦指ナデ。	
305-96 158 No1540	埴輪 円筒埴輪	4号溝 胴部破片	ハケメ 9本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ、下端に横ナデ残存、突帯貼付横ナデの可能性あり。内面斜めハケ後荒く斜め指ナデ。	
305-97 158 No1539	埴輪 円筒埴輪	17住掘り方 胴部破片	ハケメ 12本	胎：細～粗砂粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ。内面縦指ナデ。	
305-98 158 No1544	埴輪 円筒埴輪	8号井戸 胴部破片	ハケメ 13本	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：にぶい橙色	外面縦ハケ。内面縦指ナデ。	外面灰～黒色のもの付着？
305-99 158 No1553	埴輪 円筒埴輪	7号溝 胴部破片	ハケメ 7本	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ。内面磨耗するがナデ、縦ハケか。	
305-100 158 No1556	埴輪 円筒埴輪	5号土坑 胴部破片	ハケメ 11本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面縦ハケ。内面縦ハケ後縦ナデ。	

第3章 検出遺構と遺物

図番号 写真図版	遺物名称 種別・器種	出土位置 遺存状態	量目(cm)	胎土・焼成・色調 (素 材)	器形・成整形の特徴	備考
305-101 158 No.1546	埴輪 円筒埴輪	3号溝 胴部破片	ハケメ 12本	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：灰褐色	外面縦ハケ。内面縦指ナデ。	
305-102 158 No.1551	埴輪 円筒埴輪	58号住居 胴部破片	ハケメ 6本	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ。内面縦指ナデ。	
306-103 158 No.1552	埴輪 円筒埴輪	54号住居 胴部突帯周 辺破片	ハケメ 11本 突帯高 0.6	胎：粗砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面斜めハケ後突帯位 置弱い指オサエ。突帯断面低い台形～三角形。	
306-104 158 No.1558	埴輪 円筒埴輪	17号住居 基底部破片	ハケメ 13本	胎：細～粗砂粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面縦ハケ後下半を板による押圧。内面縦指ナデ後一 部縦ハケのち荒く縦指ナデ、下端を横ケズリ。	底部調整
306-105 158 No.1561	埴輪 円筒埴輪	10号溝 基底部破片	ハケメ 8本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：還元焰ぎみ 色：橙～灰褐色	外面縦ハケ後最下端短く縦ケズリ？内面指ナデ後一部 横ハケ。底面外角に棒状圧痕。	底部調整 か？須恵 質ぎみ
306-106 158 No.1564	埴輪 円筒埴輪	10号溝 基底部破片	ハケメ 13本 突帯高 0.8 突帯幅 1.2	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ。内面縦ハケ後下端を斜 めナデ・横ナデ。底面棒状圧痕あり。突帯断面弱いM 字形。	底部調整 か？
306-107 158 No.1563	埴輪 円筒埴輪	10号溝 基底部破片	ハケメ 9本	胎：粗砂粒、白色粒 焼：還元焰ぎみ 色：橙～灰色	外面縦ハケ。内面斜め指ナデ後斜めハケ。底面ごく一 部残存し、平坦。	須恵質ぎ み
306-108 158 No.1562	埴輪 円筒埴輪	1号溝 基底部破片	ハケメ 5本	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：にぶい赤褐色	外面縦ハケ。内面縦指ナデ。底面棒状圧痕あり。基部 の重ね合わせ右端が上(底面と相対した場合)。	
306-109 158 No.1565	埴輪 円筒埴輪	1号溝 基底部破片	ハケメ 10本	胎：細砂粒、赤色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ。内面縦指ナデ、縦ハケ後荒く縦指ナデ。	
306-110 158 No.1532	埴輪 円筒埴輪	10溝、22井 胴部～基底 部破片	残存高 19.8 ハケメ 8本 突帯高 0.5	胎：細～粗砂粒 焼：還元焰ぎみ 色：橙～褐灰色	外面縦ハケ後突帯貼付横ナデ、基底部最下端横ナデ。 内面基底部指ナデ・縦ハケ後胴部縦ハケのち突帯位置 を弱い指オサエ・横ナデ。底面棒状圧痕。突帯台形。	透孔円形 須恵質ぎ み
306-111 158 No.1560	埴輪 円筒埴輪	1号溝 基底部破片	ハケメ 14本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：橙色	外面縦ハケ後全体を弱く横ナデ。内面縦指ナデ。底面 棒状圧痕あり、基部の重ね合わせ右端が上(底面に相対 した場合)。	
306-112 158 No.1559	埴輪 円筒埴輪	5号溝 基底部破片	ハケメ 7本	胎：細砂粒、白色粒 焼：酸化焰 色：明赤褐色	外面縦ハケ。内面ナデ、板ナデ。底面一部のみ残存。	

瓦観察表の凡例

通番・当該報告書に於ては、掲載遺物全てに与えられた整理用遺物通番を用いた。瓦種・特に「玉男」は玉縁付男瓦を表す。生産地・この項目は古代瓦を想定して作成してある。県内11窯跡群乃至窯跡等の推定である。この根拠は以下に続く項目と胎土等の特徴に拠る。作り・造瓦技法を表す。「半截」は半截作り、「一作」は一枚作り、「桶巻」は桶巻作りを表す。成形・基本的な形を作り上げる技法。整形・成形後の諸作業を表す。面取り・側部面取りと端部面取りで、「側」は前者「端」は後者を表す。粘剝・粘土タタラからの粘土板剝取痕、「凸」は凸面側、「凹」は凹面側、○は凸凹両面に認められた場合に記した。胎土・胎土の特徴を分類し、その分類を記した。焼成・焼成焙を略称と焼き上りの状態、「酸」は酸化焙焼成、「中」は中性焙焼成、「還」は還元焙焼成を表す。「軟」は軟質、「並」は並質、「硬」は硬質、「締」は焼締を表す。色調・焼成焙に関り、灰色系が還元焙、橙色乃至黄色系が酸化焙、双方の中間色は中性焙を表す。色調の決定は筆者の観念的色調を使用した。厚さ・断面のなかで平均的な厚さを示す部分を計測した。布目・成整形時に使用された布の織り目の疎密状態を示し、「消」は布目の擦り消し（撫で消し）、「紐」は吊紐痕を表している。出土地・調査区内等の出土遺構を表したが、調査時の取納番号等は割愛した。摘要・これらの項目で示せなかった点に就いて文字数の許す限り記した。

胎土分類

- A類 素地は粗く割れ口はザングリしている。粗粒シルトを多量に含む、角粒岩片を多く含んでいる。焼成は3種有るが、焼き上がりは甘く軟質である。
- B類 A類のシルトを除去した状態で、ほぼ同一の素地土と考えられる。焼き上がりも A類に同じ。
- C類 砂質味が強く素地は粗いが、分類中では粗さは最も少ない。白色粒子を少量、白色微粒子をやや多く含む。焼成は還元焙が多い。
- D類 B類に類似した胎土で粗い。夾雑物に白色粒子を含む。焼成は酸化焙～中性焙が主体。この要因と考えられる赤褐色粒子をやや多く含んでいる。
- E類 砂質味が強く粗い。含有鉱物には白色粒子・黒色鉱物粒子等を含む。
- F類 素地土は非常に密で良質である。白色微粒子を多く含む。笠懸古窯跡群中の胎土の中でも最も良質な素地土である。

瓦一覽表(1)

図番号	出土地	瓦種	生産地	作り	成形	整形		面取り		粘剝	胎土	焼成	成焼	色調	厚さ(cm)	布目	摘要
						整形	叩具	側	端								
148-10	5井戸	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	凸	A	酸	並	灰褐	2.3	—	凸面横骨
151-34	8井戸No16	女瓦	笠懸	一作	型台	撫	板目	—	—	—	—	還	並	灰白	1.6	—	古代
151-35	8井戸	男瓦	—	半截	轆轤	縦撫	—	2	2	—	A	酸	並	鈍橙	2.5	並	
152-40	10井戸	玉男	—	半截	轆轤	—	—	2	—	—	A	中	軟	純黄橙	2.7	並	
153-51	17井戸No23	玉男	—	半截	轆轤	—	—	2	—	—	A	中	軟	褐灰	2.7	並	
153-52	17井戸No15	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	A	中	軟	純黄橙	2.3	紐	
154-59	17井戸No6	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	凸	A	中	軟	黒灰	2.2	—	離砂
154-60	17井戸No8・19	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	凸	A	酸	並	褐灰	2.5	—	
156-75	19井戸	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	凸	C	還	並	灰	2.2	—	
156-76	19井戸	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	凸	A	酸	軟	鈍橙	2.5	—	離砂
157-77	19井戸No3	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	C	中	並	黒灰	2.7	—	離砂
162-125	46井戸No1	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	3	—	—	A	酸	軟	鈍橙	3.0	紐	
164-140	47井戸	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	—	凹	B	中	軟	黒灰	2.4	—	離砂
166-162	55井戸	玉男	笠懸	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	C	還	並	灰	1.8	並	
166-163	55井戸	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	A	還	軟	灰	3.1	並	
167-164	55井戸	玉男	—	半截	轆轤	—	—	1+α	—	凹	A	還	軟	灰	2.6	紐	
167-165	55井戸	男瓦	笠懸か	半截	轆轤	—	—	3	2	—	B	酸	軟	純黄橙	2.8	並	
167-166	55井戸	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	○	A	還	軟	黒灰	2.8	—	
168-167	55井戸	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	1	凹	A	還	軟	黒灰	2.0	—	
174-17	1溝	棧瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	—	中	硬	灰	1.6	—	
174-18	1溝東	棧瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	—	中	硬	灰	1.5	—	
174-19	1溝	棧瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	—	還	硬	黒灰	1.5	—	
174-20	1溝	棧瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	—	還	硬	灰	1.8	—	
174-21	1溝	棧瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	—	還	硬	灰	1.8	—	
181-91	3溝	鎧瓦	—	半截	印籠	—	—	—	—	—	A	中	軟	灰褐	3.0	並	
181-92	3溝	玉男	—	半截	轆轤	—	—	2	—	—	A	中	軟	褐灰	2.5	紐	
181-93	3溝	男瓦	—	半截	轆轤	縦撫	—	2	—	凹	A	酸	軟	黒灰	2.7	紐	
181-94	3溝	男瓦	—	半截	轆轤	縦撫	—	3	—	凹	C	中	軟	黒灰	2.7	並	
182-102	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	2	2	凸	D	酸	並	灰褐	1.5	—	
182-103	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	2	—	凸	A	酸	軟	灰褐	2.9	—	離砂

瓦一覽表(2)

図番号	出土地	瓦種	生産地	作り	成形	整形		面取り		粘剝	胎土	焼成	成焼	色調	厚さ(cm)	布目	摘要
						整形	叩具	側	端								
182-104	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	2	2	—	A	中	軟	黒灰	2.5	—	離砂
182-105	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	2	○	A	中	軟	黒灰	1.9	—	

第3章 検出遺構と遺物

図番号	出土地	瓦種	生産地	作り	成形	整形		面取り		粘剝	胎土	焼焔	成焼	色調	厚さ (cm)	布目	摘要
						整形	叩具	側	端								
182-106	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	2	1	—	A	中軟	暗灰	2.1	—		
182-107	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	A	酸軟	灰褐	2.1	—		
182-109	3溝	女瓦	笠懸	一作	型	撫	—	—	2	—	C	酸並	褐灰	2.4	—		
182-110	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	A	中軟	橙	1.7	—		
183-111	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	2	凸	A	中軟	灰	2.4	—		
183-112	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	1	—	凸	A	中軟	灰褐	2.9	—	離砂	
183-113	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	凸	D	酸並	灰褐	2.1	—		
183-114	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	2	—	A	酸軟	灰褐	2.1	—		
183-115	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	1	1	—	A	還軟	暗灰	2.0	—		
183-116	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	2	—	凸	A	中軟	黒灰	2.5	—	離砂	
183-117	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	2	—	D	中並	灰黄	1.7	—	凸面模骨痕	
184-118	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	2	凸	E	酸並	灰橙	2.2	—	古代か	
184-119	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	2	凸	D	酸並	黄橙	1.5	—	凸面模骨痕	
184-120	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	2	2	—	B	酸並	灰褐	2.1	—		
184-121	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	1	—	○	D	中並	灰褐	2.3	—		
184-122	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	A	酸軟	黄褐	2.7	—		
184-123	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	2	1	—	C	還並	暗灰	2.5	—		
184-124	3溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	A	中軟	暗灰	2.5	—	離砂	
195-238	4溝	鎧瓦	—	半截	印籠	—	—	—	—	—	A	中軟	暗灰	2.5	—	周縁部のみ残	
195-239	4溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	—	A	中軟	暗灰	2.5	並		
196-240	4溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	凹	C	中軟	暗灰	1.0	並		
196-241	4溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	—	A	中軟	灰褐	2.4	並		
196-242	4溝	玉男	—	半截	轆轤	—	—	—	—	凹	A	酸軟	灰褐	2.9	並		
196-243	4溝	男瓦	—	半截	轆轤	縦撫	—	—	—	—	C	中軟	暗灰	2.5	並		
196-244	側道下一括	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	—	A	酸軟	橙	2.2	並		
196-245	4溝	女瓦	笠懸?	一作	型	撫	—	—	2	—	C	中並	暗灰	2.5	—		
196-246	4溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	A	酸軟	褐灰	2.0	—		
196-247	4溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	○	B	酸軟	褐灰	2.3	—		
196-248	4溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	—	—	B	酸軟	褐灰	2.0	—		
196-249	4溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	B	中軟	灰	2.2	—		
196-250	4溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	—	—	A	中軟	褐灰	1.9	—		
196-251	4溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	A	中軟	黄橙	1.9	—		
196-252	4溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	—	—	C	還並	灰	2.3	並		
196-253	4溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	○	A	中軟	暗灰	2.9	—		
196-254	4溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	C	中並	褐灰	2.0	—		
197-255	4溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	A	還軟	灰	1.5	—		
197-256	4溝	女瓦	笠懸?	一作	型台	撫	—	—	—	—	A	中軟	白灰	1.4	—		
197-257	4溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	3	2	—	B	還軟	暗灰	1.5	—		
197-258	4溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	2	—	A	中軟	灰褐	2.1	並		
197-259	4溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	—	—	C	還並	暗灰	1.9	—		
199-288	5溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	凸	D	酸並	暗褐	2.0	—		
199-289	5溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	凹	B	酸軟	黒褐	2.7	—		
199-290	5溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	C	酸並	灰褐	2.3	—		
203-335	6溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	—	A	中軟	灰褐	1.9	並		
203-336	6溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	—	A	中軟	暗灰	2.3	紐		
203-337	6溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	—	A	酸軟	灰褐	2.1	並	古代	
203-338	6溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	—	D	中並	暗灰	2.2	—		
203-339	6溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	2	凹	B	酸軟	褐灰	2.0	—		
203-340	6溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	D	酸並	暗灰	2.1	—		
204-341	6溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	2	凹	A	中軟	灰	2.9	—		
204-342	6溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	B	酸軟	赤褐	2.3	—		
204-343	6溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	1	—	—	D	中並	灰褐	1.9	並		
204-344	6溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	—	凹	D	中並	灰褐	1.8	—		
207-380	9溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	D	中並	黒灰	2.4	—	700と接合	
213-461	10溝	玉男	—	半截	轆轤	—	—	2	—	—	A	中軟	灰	3.1	紐		
213-462	10溝	玉男	笠懸か	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	E	中軟	灰褐	2.7	紐		
213-463	10溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	—	—	C	還並	褐灰	2.5	—		
213-464	10溝	玉男	—	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	A	中軟	灰	2.2	並		



第4節 遺構外出土遺物

瓦一覽表(3)

図番号	出土地	瓦種	生産地	作り	成形	整形		面取り		粘剥	胎土	焼焔	成焼	色調	厚さ (cm)	布目	摘要
						整形	叩具	側	端								
213-465	10溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	A	還軟	暗灰	2.3	並		
214-466	10溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	—	—	A	中軟	灰褐	2.3	並		
214-467	10溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	凹	A	還軟	暗灰	2.6	並		
214-468	10溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	凹	A	還軟	暗灰	2.5	紐		
214-469	10溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	3	—	A	中軟	灰褐	1.9	並		
214-470	10溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	—	—	A	還軟	暗灰	1.8	並		
214-471	10溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	—	—	A	中軟	灰	2.4	—		
214-472	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	凸	A	酸軟	灰褐	2.6	—	離砂	
214-473	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	—	A	中軟	褐灰	2.4	—		
215-474	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	A	酸軟	灰褐	2.5	—		
215-475	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	凸	A	中軟	暗灰	2.4	—		
215-476	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	D	酸並	橙	2.2	—		
215-477	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	—	—	C	酸並	暗灰	2.7	—		
215-478	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	—	—	A	中軟	灰褐	2.6	—		
215-479	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	凸	B	酸軟	灰褐	2.1	—		
216-480	10溝	女瓦	笠懸か	一作	型台	撫	—	—	2	凹	D	酸並	灰褐	2.4	—		
216-481	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	—	凸	D	酸並	灰褐	2.2	—		
216-482	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	A	還軟	灰	2.5	—		
216-483	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	—	凹	D	酸並	灰褐	2.1	—		
216-484	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	—	—	A	酸軟	灰褐	2.7	—	凹面離砂	
216-485	10溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	凹	A	中軟	褐灰	2.3	—		
225-575	11溝No105	宇瓦	—	一作	印籠	撫	—	—	—	—	A	還軟	灰	3.0	—		
225-576	11溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	2	—	A	還軟	暗灰	2.9	並		
225-577	11溝	男瓦	—	半截	轆轤	縦撫	—	2	—	—	C	還並	灰	2.7	並	居分寺中間Ⅲ類粘土	
225-578	11溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	凹	A	還軟	黒灰	2.0	並		
225-579	11溝	男瓦	笠懸	半截	轆轤	—	—	3	2	—	C	還並	灰	2.5	並		
226-580	10・11溝	玉男	—	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	C	酸軟	褐	2.1	紐		
226-581	11溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	—	C	還並	白灰	2.1	紐		
226-582	11溝	棧瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	中	硬	白灰	2.0	—		
226-583	11溝	男瓦	—	半截	轆轤	縦撫	—	—	—	—	A	還軟	灰褐	3.1	並		
226-584	11溝	棧瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	中	硬	灰	1.7	—		
226-585	11溝	棧瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	還	硬	暗灰	1.5	—		
227-586	11溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	2	—	A	酸軟	赤褐	2.5	—	離砂	
227-587	11溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	凹	C	還並	灰	2.1	—		
227-588	11溝	棧瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	中	硬	白灰	1.9	—		
227-589	11溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	—	A	中軟	灰	2.2	—		
227-590	11溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	C	酸並	灰	1.8	—		
227-591	11溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	A	酸軟	灰	2.4	—		
227-592	11溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	C	中並	褐灰	2.5	—		
227-593	11溝	棧瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	還	硬	白灰	1.9	—		
227-594	11溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	—	—	A	還硬	白灰	1.8	—	鬩斗瓦	
227-595	11溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	A	酸軟	褐灰	1.4	—		
227-596	11溝	棧瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	中	硬	暗灰	1.8	—		
232-660	13溝No294	鎧瓦	—	半截	印籠	—	—	—	—	—	C	中硬	橙	2.3	—		
232-661	13溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	2	—	A	中軟	褐灰	2.1	並		
232-662	13溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	C	還硬	黒灰	2.2	並		
233-663	13溝	玉男	—	半截	轆轤	—	—	—	—	凹	A	還軟	暗灰	2.0	紐		
233-664	13溝	玉男	—	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	C	還並	褐灰	2.4	紐	72と接合	
233-665	3・13溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	1	2	—	—	還軟	暗灰	3.1	並		
233-666	13溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	—	C	還並	暗灰	2.2	並		
234-667	13溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	—	A	中軟	黒灰	2.2	並		
234-668	13溝	男瓦	—	半截	轆轤	縦撫	—	2	2	凹	A	還軟	暗灰	2.1	並		
234-669	13・14溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	B	還軟	暗灰	2.3	並		
234-670	13溝	男瓦	—	半截	轆轤	縦撫	—	—	—	—	A	還軟	灰	2.3	並		
234-671	13溝	男瓦	—	半截	轆轤	縦撫	—	2	—	凹	A	中軟	白灰	2.3	紐		
235-672	13溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	A	還軟	灰	2.2	並		
235-673	13溝	男瓦	笠懸	半截	轆轤	—	—	2	—	凹	C	還並	暗灰	2.3	並		
235-674	13溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	3	1+α	凹	A	還軟	暗灰	2.6	紐		
235-675	13溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	—	—	D	中並	黒褐	2.1	並		

第3章 検出遺構と遺物

瓦一覽表(4)

図番号	出土地	瓦種	生産地	作り	成形	整形		面取り		粘割	胎土	焼焙	成焼	色調	厚さ (cm)	布目	摘要
						整形	叩具	側	端								
235-676	13溝	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	—	2	凹	A	還軟	灰	2.6	並		
236-677	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	凹	A	還軟	黒灰	1.8	—	離砂	
236-678	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	1	—	A	還軟	黒灰	2.3	—		
236-679	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	凹	D	中軟	灰褐	2.5	—	離砂	
236-680	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	凹	A	酸軟	灰褐	2.6	—		
236-681	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	凹	D	酸並	灰褐	2.0	—		
236-682	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	—	A	中軟	灰黄	1.9	—		
237-683	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	A	中軟	黒灰	2.7	—	離砂	
237-684	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	凹	A	酸軟	灰褐	2.6	—		
237-685	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	2	凹	A	中軟	灰	2.5	—		
237-686	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	—	—	D	中並	灰褐	2.2	—		
237-687	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	2	凸	B	酸軟	橙	2.7	—		
237-688	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	1	凹	C	中並	黄灰	2.4	—		
237-689	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	A	還軟	灰	1.8	—		
237-690	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	—	凸	A	中軟	灰褐	2.1	—	離砂	
237-691	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	—	—	A	酸軟	橙	2.0	—		
238-692	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	1	—	A	中軟	灰褐	2.9	—	離砂	
238-693	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	正格	1	2	凸	A	酸軟	暗灰	3.0	—		
238-694	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	2	—	C	還並	灰	2.6	—		
238-695	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	C	中並	褐灰	2.1	—		
238-696	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	凹	A	酸軟	灰褐	1.8	—	凹面離砂	
238-697	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	—	—	A	還軟	暗灰	2.3	—		
238-698	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	—	—	A	中軟	橙	2.7	—		
238-699	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	凸	D	中並	灰黄	2.6	—	679と同一個体が	
239-700	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	A	中軟	暗灰	2.4	—	380と接合	
239-701	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	凹	A	中軟	灰	2.7	—		
239-702	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	凹	D	酸並	灰褐	2.5	—		
239-703	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	凹	A	還軟	灰	2.1	—		
239-704	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	凸	C	中並	灰	2.5	—		
239-705	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	凸	C	中並	暗灰	1.8	—		
239-706	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	3	—	—	A	還軟	暗灰	2.5	—		
239-707	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	B	酸並	暗灰	1.8	—		
239-708	13溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	凹	D	中並	灰黄	1.9	—		
248-788	14溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	1	—	A	中軟	暗灰	2.0	—		
248-789	14溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	—	2	—	A	中軟	黒灰	2.9	—	離砂	
248-790	14溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	—	—	A	中軟	灰褐	2.9	—		
248-791	14溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	凸	A	酸軟	黄褐	2.0	—	離砂	
248-793	15溝	女瓦	—	一作	型台	撫	繩単	—	—	—	A	酸軟	灰	1.8	—		
267-32	18土坑	玉男	—	半截	轆轤	—	—	2	—	—	A	還軟	暗灰	2.7	紐		
271-72	50土坑No2	男瓦	—	半截	轆轤	斜撫	—	3	—	凹	C	中並	暗灰	2.5	並	664と接合	
273-91	99土坑	男瓦	笠懸	半截	轆轤	—	—	—	—	—	A	酸軟	黄橙	—	粗	古代	
286-168	—	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	3	凹	A	還軟	灰褐	2.8	並		
286-169	13溝	棧瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	—	中硬	黒灰	1.9	—		
286-170	—	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	2	2	凹	A	中軟	灰褐	2.5	並		
286-171	—	男瓦	—	半截	轆轤	—	—	3	—	凹	A	中軟	黄褐	2.0	並		
286-172	14溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	2	凸	A	還軟	灰褐	2.1	—		
286-173	—	棧瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	—	還硬	灰	1.8	—		
286-174	2溝	女瓦	—	一作	型	撫	—	—	—	—	A	還硬	灰	1.5	—		
286-175	2溝	棧瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	—	還硬	灰	1.6	—		
286-176	14溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	1	2	凸	A	中軟	暗灰	2.2	—		
287-177	14溝	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	—	凸	D	酸並	灰黄	2.2	—		
287-178	不明	女瓦	—	一作	型台	撫	—	2	—	—	A	酸軟	暗褐	2.8	—	離砂両面	
287-179	2溝	棧瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	—	還硬	黒灰	1.7	—		
287-180	2溝	棧瓦	—	一作	型台	撫	—	—	—	—	—	還硬	暗灰	1.7	—		



# 第4章 調査成果

## 第1節 住居跡出土の土器

飯田 陽一

本遺跡のある旧荒砥村地域は、旧石器時代から遺跡の宝庫として知られる地域である。古代以降に限って概観すると、この地域の遺物は各地からの搬入品が多く、複雑な様相を呈している。

本遺跡の集落の時期は古墳時代後半に集中している。住居跡の構造に関しては、カマド出現以降の時期である。前述のような多様な土器の混在する様相の地域にあって一遺跡の土器を分析することには限界が大きい。該期の土器の内容と住居内の土師器杯のセットを中心に概略をまとめてみる。

古墳時代の土師器杯を高杯の身部を含め次のように分類した。

A 半球状と呼べるような深い碗状の杯で丸底が多く、口縁は内湾気味である。単純な口縁の1類と、須恵器杯の影響と思われる沈線や弱い稜のある2類とがある。

B 内斜口縁の杯である。端部屈曲の鋭い1類と、だれた2類に分けた。

C 須恵器模倣杯である。口縁が直立するものをA類としたが、端部が平坦なものや弱い沈線状で古式の須恵器の特徴を留めるものと、端部の丸いものとで細分が可能である。口縁の開く物を2類、口縁中

位が有段のものを3類、口縁の内傾する、須恵器杯身の模倣杯を4類とした。

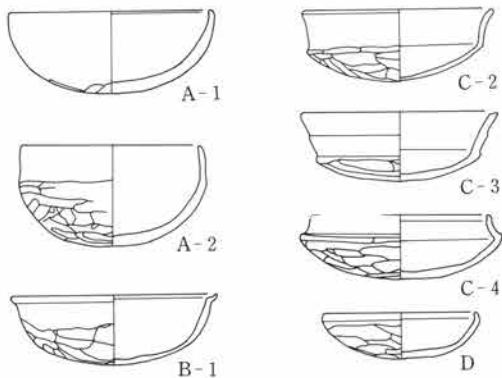
D 模倣杯の影響が消えた扁平な杯で、平底になる以前のもの。口縁端部が上方につまみあげられるように尖るものが多い。

E その他。

左下図は、このうち代表的な土器を示したものである。

これらの遺物の住居内での供伴状態を見てみよう。1/2個体以上の前記土器が複数出土した住居の一覧が下記の通りである。

	A1	A2	B1	B2	C1	C2	C3	C4	D	E
8 住						1		1		
9 住	5				1	1				1
10 住					3	2	1			
13 住	4	1	1							
16 住			1	2	1					
18 住	1				2	1				
20 住			1							
24 住	1				2	4				
26 住	1				1	9	1			1
28 住			1	1						
29 住	4		1	1	1					
30 住									3	
32 住					5					
43 住	1				4					
49 住		1				2	1	1	1	
56 住	1				1					
59 住		1			2					
62 住					1	1				



第307図 土師器杯分類例

これらの上記土器の住居間の供伴状況を示したものが次表である。分類した土器群ごとの出土住居総数と出土土器総点数を左に並べ、他の土器群との共伴状況を、住居軒数と供伴土器総数とを右側で示すようにした。すなわち、A1を出土した住居は8軒で、18点を数える。このうちA2の土器を出土したのは1軒だけだが、A2の土器と供伴したA1の土器は4点になる。

第4章 調査結果

		A1	A2	B1	B2	C1	C2	C3	C4	D
A 1	住居数	8	×	1	2	1	7	4	1	—
	土器数	18	×	4	8	4	14	8	1	—
A 2	住居数	3	1	×	1	—	1	1	1	1
	土器数	3	1	×	1	—	2	2	1	1
B 1	住居数	5	2	1	×	3	2	—	—	—
	土器数	5	2	1	×	3	2	—	—	—
B 2	住居数	3	1	—	3	×	2	—	—	—
	土器数	4	1	—	3	×	3	—	—	—
C 1	住居数	12	7	1	2	2	×	6	2	—
	土器数	24	12	2	2	2	×	10	4	—
C 2	住居数	8	4	1	—	—	6	×	3	2
	土器数	21	15	2	—	—	18	×	13	3
C 3	住居数	3	1	1	—	—	2	3	×	1
	土器数	3	1	1	—	—	2	3	×	1
C 4	住居数	2	—	1	—	—	—	2	1	×
	土器数	2	—	1	—	—	—	2	1	×
D	住居数	2	—	1	—	—	—	1	1	×
	土器数	4	—	1	—	—	—	1	1	×

次に、これらの土器のうち、特徴あるものについて1/2個体以下の破片も含めて見てみよう。

内面黒色処理の土器は、北毛地域に多い土器であるが、本遺跡からも少量出土している。9住10は小形平底の鉢状でEに分類した。24住からはA 1が1点、C 2が2点出土している。52住の出土品もC 2である。

C 3とした有段の口縁をもつ杯も少量出土しており、埼玉方面からの搬入も考えられる。

暗文の土器は本遺跡でも顕著に見られる。これをおおまかに正放射と斜放射に分け、前述の土器分類に照らすと以下の通りである。

	A1	A2	B1	B2	C1	C2	C3	C4	D
正放射		2			1	3		2	1
斜放射	6		8	1	1	2			

模倣杯や須恵器杯の影響のあるA 2、C 1、C 2、C 4では正放射が圧倒的であり、斜放射でも典型的なものは59住2の1点のみで、他の2点は雑なものである。それに対し、須恵器の影響を受けていないA 1、B 1、B 2に正放射が一点も見られない。ただし、須恵器の影響から遠ざかるD類や奈良時代1住1の杯も斜放射に戻っている。

数少ない資料を操作したデータであるが、須恵器杯の模倣による影響は、器形のための模倣でなく、土師器製作の手法そのものにも変化を与えていることが、この遺跡に遺物を供給した製作集団の中に看取できよう。

7世紀代から住居の軒数は少なくなり、8世紀後半から9世紀代にかけての集落は、空白に近い状況となる。

上武道路の各遺跡からは、比企丘陵産を示す白色針状物を含む須恵器が出土することが多いが、本遺跡にそれらが見られないのは、埼玉方面からの供給時期に集落がなかったことが原因している。

この時期の瓦が遺跡内で出土するようになることと、集落が途切れていることとは無関係とは思われず、計画的な集落移動の痕跡と想定している。再び住居数が増加するのは灰釉陶器や羽釜・土釜が見られる10世紀以降となる。新しい集落では、竈構築材に埴輪片を使用するなど、古墳時代の集落には見られなかった特徴が現れている。

参考文献

- 田中広明 1989 「上毛野・北武蔵の古墳時代後期の土器生産」『東国土器研究』2号
- 松本 保 1988 「古墳時代後期における群馬県北部の土器様相」『東国史論』3号

## 第2節 出土埴輪について

南雲 芳昭

二之宮宮下西遺跡から出土した埴輪は、二次利用および投棄された姿で出土したものである(14・17・36・44号住居跡, 第296~306図1~112)。ここではそれらの時期と課題等に触れたい。

### 1. 二次調整が施される資料

14住8・10, 第296図11~第298図31, 48が相当する。この中で、17は二次調整に縦ハケが施され、外面に赤彩が認められる。

また、48は突帯部分のみの資料であるが、突帯側面に幅3mmほどの工具の押圧による斜線がみられる。斜線は1間隔ごとに交差させている。

他は二次調整にB種横ハケが認められる資料である。黒斑は認められず、色調はにぶい橙色~浅黄橙色を呈している。14住8は静止痕が4.8→5.8cmで推移している。12, 13, 18などは静止痕間隔は4cm代であり、22は6.5cm, 27は5.3cmで推移している。明確に

複数回巡る資料は認められない。工具幅は6cm以上や7.5cm以上が確認できる。14住8や15, 28などは突帯位置に幅広い浅い沈線が認められ、突帯の割りつけ線と思われる。また、14住8や12, 18などは横ハケ後に突帯上を横ナデしている。

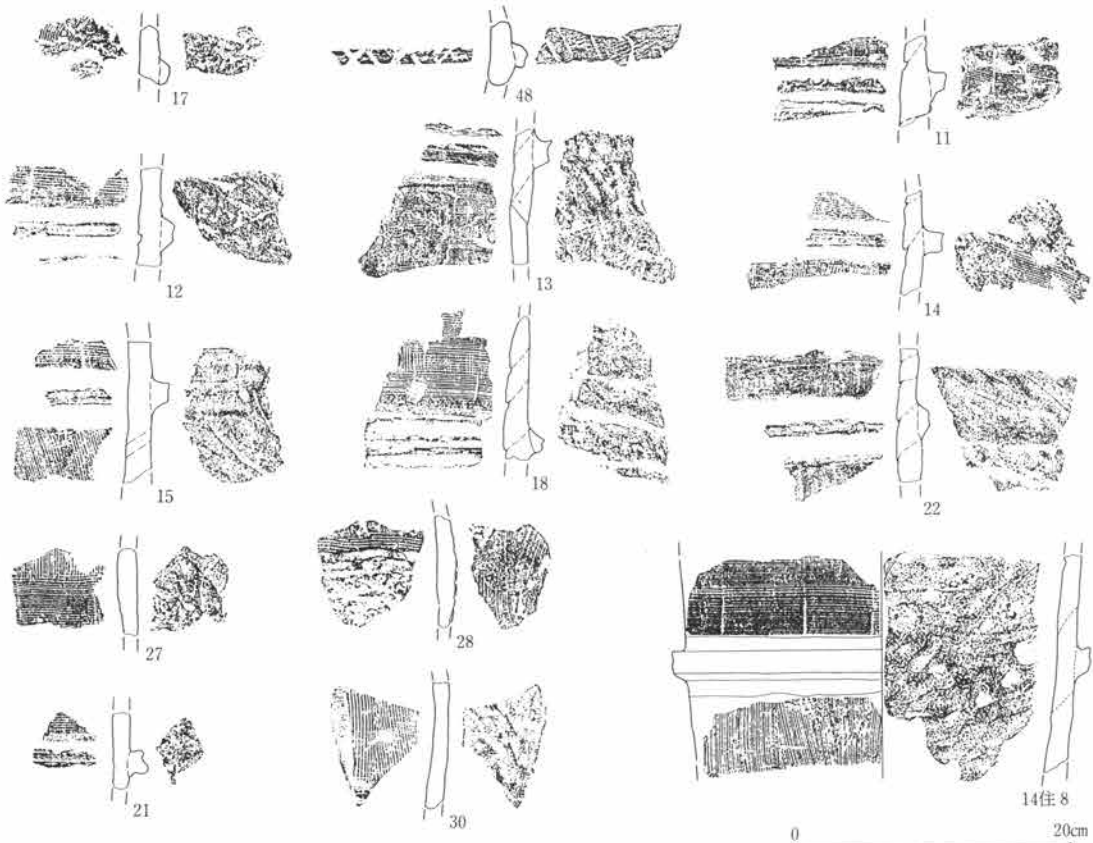
### 2. 一次調整のみの資料

古相を示す資料 一次調整のみの資料で古く位置付けられるのが44住4, 32~68である。これらにはぶい橙色~浅黄橙色系の色調であり、横ハケを有する一群と同様である。35のみ灰白色を呈し外面全面に赤彩が残る。黒斑は認められない。

54, 56, 63, 66などはハケメの後、基底部最下端に強い横ナデが施される。口縁部の32, 33などの外面は赤彩され、40では上位の突帯横ナデに接して副次的に小孔が穿孔される。この小孔についてはHr-FA降下以前の類例が増加している<sup>(1)</sup>。

突帯は突出度も強く端正で丁寧に作られている。とくに44は幅、突出度ともに強いことが看取される。

中相を示す資料 70~78がこれにあたり、色調は



第308図 二次調整が施される資料

第4章 調査結果

にぶい橙色～橙色系のものである。70には肩部まで赤彩が残る。75,76,77,110が突帯形状などから当グループの中でも古相を示し、端正に作られた突帯をもつ70,73がこれに次ぎ、71,74が後出的である。72は形象の一部あるいは朝顔形の花状部であろう。110の基底部最下端に巡る浅く幅広の沈線および横ナデは、技法的に古相と同様である。粗雑さが目立つために中相としたが古相資料と共伴する可能性も否定しきれない。

新相を示す資料 79～109,111,112,17住11、36住5,44住3などが相当する。色調は橙色～褐色系である。104は基底部で、外面に板による押圧、内面には横ケズリを用いた底部調整が施される。105の外面下端や106内面下端の痕跡も底部調整の可能性もある。また36住5の第1条突帯が高い位置にあることや、17住11での低位置突帯が一般的に後出的要素といえよう。さらに後者は形象埴輪の基台部の可能性も考えられる。突帯は台形、三角形が看取でき、突出度

も弱く粗雑さが目立つ。

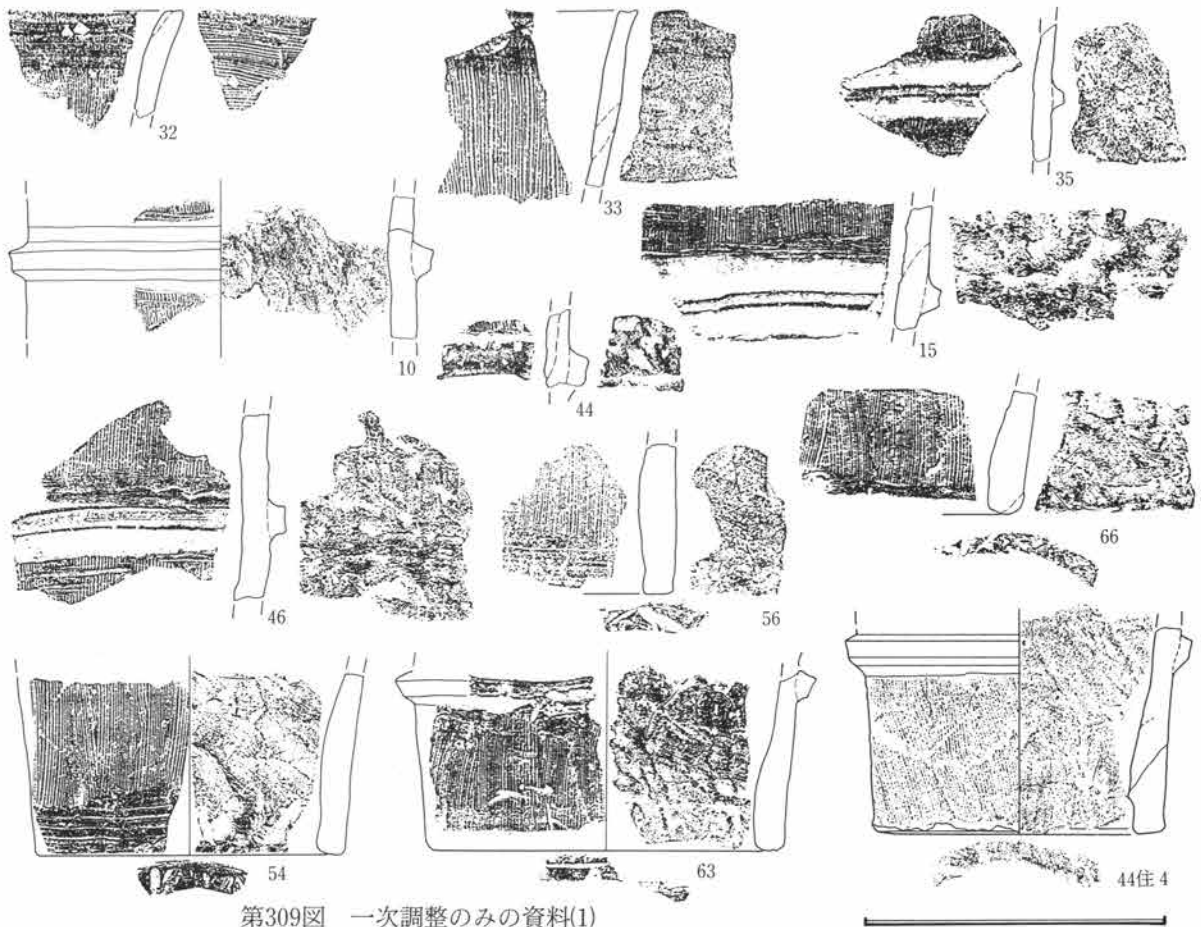
3. 形象埴輪

1～10,14住6がある。14住6は横ハケを持つ円筒埴輪と同様の色調で、形状、赤彩などから鶏と思われる。8,9も同一個体であろう。

他は橙～褐色系の色調である。3は盾の可能性があり、1は靱の背板左側下位の張出部である。2は盾と思われるが残存部は無文で靱の可能性もあろう。両者の胎土には結晶片岩が顕著に認められる。5は鬚あるいは馬具の一部の可能性が考えられる。

4. 小 結

本遺跡出土埴輪では小破片で部位不明の17が4世紀代に遡る可能性がある。しかし、B種横ハケを伴う円筒埴輪の口縁部に広義の二次調整縦ハケが施される場合があり、5世紀代にずれ込む可能性も考えられる。<sup>(2)</sup>48の類例は伊勢崎市お富士山古墳に認められる。さらに口唇部に同様の施文を施す例とともに太田天神山古墳を頂点とする政治的紐帯を示している



第309図 一次調整のみの資料(1)

(3)とされる。本資料に黒斑は看取できないが、類例から野焼きと推定され、5世紀前半～中頃と考えられる。

B種横ハケは一瀬分類のBc種<sup>(4)</sup>、若松分類のB2a種<sup>(5)</sup>である。これらの資料の年代をおよそ5世紀後半としておきたい。

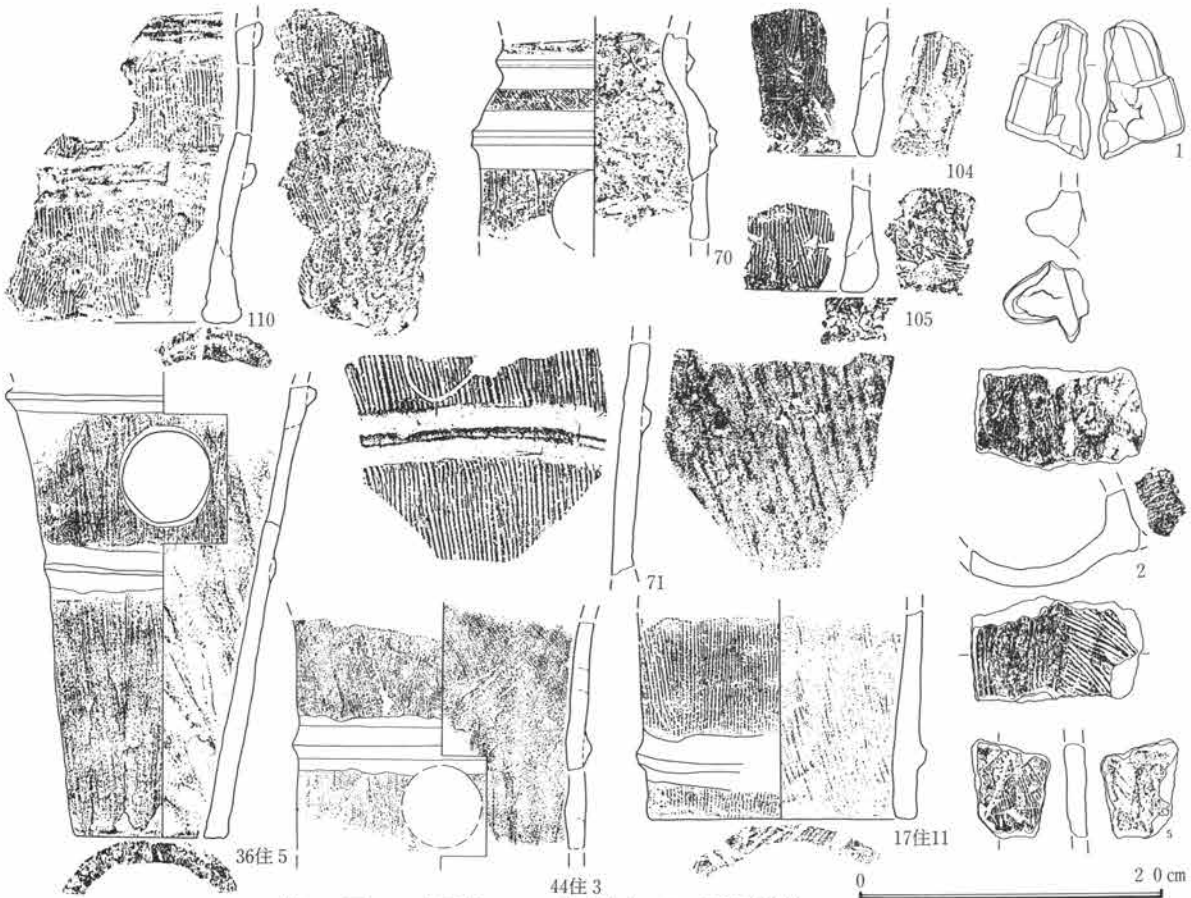
また一次的調整のみで古相を示す資料に、基底部最下端の横ナデや小孔穿孔などの様相が認められた。これらは、たとえばB種横ハケを持つ今井神社古墳出土埴輪にもみられるものであり、B種横ハケを有する円筒埴輪と共伴する時期と考えられる。さらに形象埴輪の鶏にも同様の時期が与えられてよいであろう。中相を示す資料は、一部古相に通じる様相から、5世紀末～6世紀前半として大きな齟齬はない。新相を有する資料では、底部調整や低位置突帯などの要素から、6世紀中葉～後半とすることができる。鶏以外の形象埴輪も、新相の資料と同様の時期と考えられる。3と7が浅黄橙色に類似した色調を示すが、詳細が不明のため他と同一と捉えておく。

これらの形象埴輪のなかで、1、2の胎土に藤岡地域で生産された埴輪に顕著にみられる結晶片岩が認められることに注目したい。これは伊勢崎市波志江今宮遺跡の古墳群のなかで、6世紀後半の形象埴輪の胎土に結晶片岩が看取されるという現象と類似する<sup>(7)</sup>。6世紀後半代には藤岡方面から埴輪が流入している事実の一端を示すものと理解されるのである。今後、中毛地域においても製作技法や胎土に留意が必要であろう。

以上のように時期と課題抽出を試みた。これらの埴輪が本来どこの古墳に立てられていたのか興味あるところであるが、今回はここで筆を置きたい。

註

- (1) 南雲芳昭「A区2号墳・3号墳出土の埴輪について」『行幸田山遺跡』淡川市教育委員会 1987
- (2) 註(6)文献などで認められる。
- (3) 橋本博文「上野東部における首長墓の変遷」『考古学研究』第26巻第2号No.102 1979
- (4) 一瀬和夫「古市古墳群における大型古墳埴輪集成」『大水川改修にともなう発掘調査概要V』大阪府教育委員会 1988
- (5) 若松良一「第1章ヨコハケ調整円筒埴輪の技術史的検討」『諏訪山33号墳の研究』1987
- (6) 群馬県埋蔵文化財調査事業団『荒砥宮川遺跡、荒砥宮原遺跡』1993
- (7) 群馬県埋蔵文化財調査事業団『波志江今宮遺跡』1995刊行



第310図 一次調整のみの資料(2)および形象埴輪



## 第3節 砥 石

大江 正行

### 1. 序 項

整理担当新倉明彦から砥石をもって、遺跡究明に寄与せよとの依頼があったので以下、方法・手順・観察、遺跡での分布とあり方、得られた内容の順で報告する。作業過程の中で、整理班ならびに校正班の多大な協力があったことに感謝の意を表す。

### 2. 方法・手順・観察

砥石の観察は既報告の中で行ってきたので参照されたい。方法はかつて行った小柄小刀二百数十点の研磨体験と使用砥味を基とし、石材観察は、石材観察に長じた飯島静雄の名称による。観察は、新倉の作成した観察一覧を埋めるべく記入し、用語は、先学大村邦太郎や、既集大成である加藤安雄『上州の砥石』上毛史学第10号、1960などを基とする。現行砥石との比較内容は、斯界に長じた松永砥石株式会社のカatalogによる。その比較内容は、天然砥石と鎌砥石項によれば鎌砥石は中砥ぎの場合粒度240・320番を中研ぎと区分し、120番を荒砥ぎ、800・1000番を中仕上げと区分している。天然砥石項では、長崎県大村砥を荒砥ぎとし150番、同県天草砥を荒砥ぎとし500番、(特)備水砥を中砥ぎとし700番、青砥を中仕上げとし1000番、本山合砥を最終仕上げとし6000番と標記している。本項でいう荒砥とは、鎌砥120番以下、大村砥150番以下に相当する個体に、中砥とは、鎌砥中砥ぎの240・320番から天草砥500番の間に相当する個体を、合砥を青砥と本山合砥間の粒度で、合せの痕跡のある個体として捉えた。形態は、手持ち・置砥の大きさの区分境は明瞭にしていなが、大きさと磨耗状態による。刃付砥は、先尖りの個体に使用した。本書中の掲載法は、住居跡・井戸跡・穴跡・溝跡など個別遺構で扱われた個体は、その個別遺構に関連しての遺物図中に掲載され、観察内容も、続いて記載されている。そのほか、潜在的な状態の遺構に伴う資料や不要な出土、現耕作に

よって旧存在場所を失った個体などについては遺構外として扱われている。

### 3. 遺跡での分布とあり方

以下のとおりで、形状は、附図と遺構報告中の遺物図を参照されたい。石材名は略記である。

#### 住居跡

無番(整2215, 9住174, 粗安)、11住7(砥)、11住8(粗安)、12住3(砥)、17住10(砂岩)、116(24住整2229, 粗安)、31住11(砥)、36住6(粗安)、37住4(砥)、無番(43住, 整2171, 砥)、54住3(砥)、無番(62住, 整2227, 粗安)。

所見 計12点のうち、精砥石なし、中砥級砥沢石6、荒砥級の粗粒安山岩5、砂岩1であった。おそらく日常的な使用であろう。

#### 溝跡

1号溝—22(砥)、23(砥)、24(砥)、25(砥)、26(珪頁)、27(流)、28(粗安)。

所見 計7点のうち、精砥石の珪質頁岩1、中砥級の砥沢石4、流紋岩1、荒砥級の粗粒安山岩1であり、形態上は刃付砥1、大形の置砥1が含まれ、工作作業と大形の研磨主体が推測される。他の出土遺物は羽口1点、中世～19世紀頃の土陶器が含まれている。

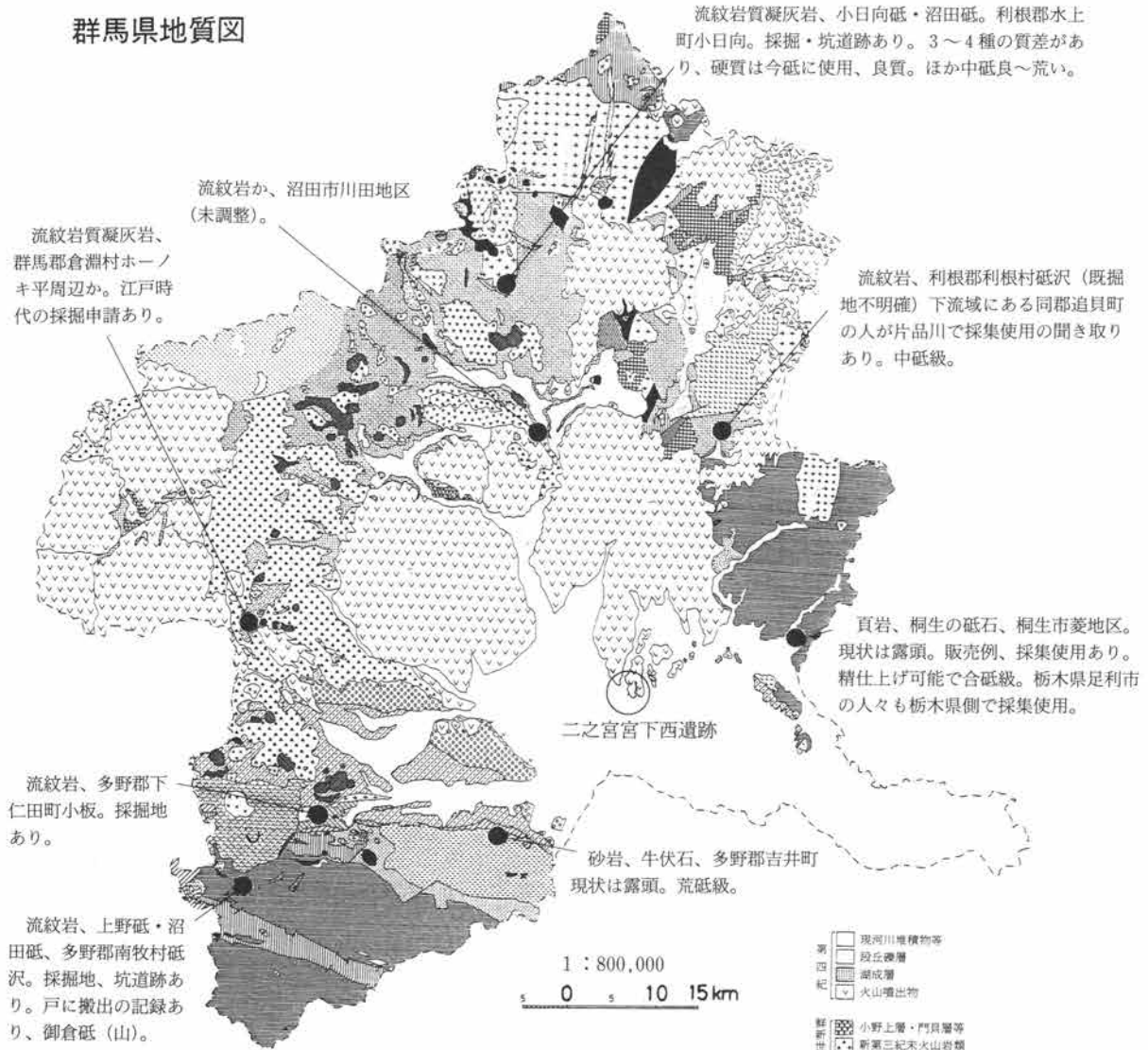
3号溝—125(珪頁)、126(砥)、127(砥)、128(砥)、129(砥)、130(砥)、131(砥)、132(砥)、133(砥)、134(砥)、135(砥)、136(砥)、137(砥)、138(砥)、139(砥)、140(砥)、141(砥)、142(砥)、143(砥)、144(砥)、145(凝灰質砂岩)、146(凝灰質砂岩)、147(砂岩)、148(粗安)、149(粗安)、150(粗安)、151(粗安)、152(粗安)、153(粗安)、154(粗安)、155(粗安)、156(粗安)、157(粗安)、158(粗安)、159(軽石)、160(デイスait)、161(二ツ岳軽石)。

所見 計37点のうち精砥石の珪質頁岩1、中砥級の砥沢石19、流紋岩0、デイスait1、荒砥級の凝灰質砂岩2、砂岩1、軽石1、二ツ岳軽石1、粗粒安山岩11であった。125珪質頁岩は京都鳴滝砥に近いほか、凝灰質砂岩は鋳型材か関連材の転用材に見え、刃付砥が9点以上含まれる。128には近世以降に見られる櫛目状の工具痕が、126の側面には、近世以降に思える削整形痕が残される。粗粒安山岩の大形荒砥は顕著な数量で存在している。全体を通じては、工作のための作業が推測され、その一部鋳製にも使用された可能性もあり、鍛冶の打物の作業過程でもあった可能性あり。他の出土遺物は、13世紀頃から18世紀頃に向け、16～18世紀頃の遺物が図示され、鋳関連資料も1点あり。おそらくは、砥石の存在も、16,17世紀頃の遺物の量的な主体時期と直結するであろう。4号溝—265(砥)、266(砥)、267(砥)、268(砥)、269(砥)、270(珪質頁岩)、271(粗安)、272(粗安)、273(粗安)、274(粗安)。

所見 計10点があり、精砥石の珪質頁岩1、中砥級の砥沢石5、荒砥級の粗粒安山岩4であった。270の珪質頁岩は合砥としての平滑面があり、京都鳴滝砥に近似。全体中、刃付砥が2点含まれ、工作の作業に使用か。他の遺物は、15～18世紀頃までの個体の掲示があり1点羽口が図示されている。そのため、砥石の使用された時期も16～18世紀頃であろう。5号溝—291(砥)、292(砥)、293(デイスait)、294(粗安)、295(粗安)、296(白転用か、粗安)、297(軽)。

所見 計7点があり、精砥石なし、中砥級の砥沢石2、デイスait1、荒砥級の粗粒安山岩3、軽石1である。定形砥少なく、小形と自然石面を残す材が多い。他の遺物中に298(頁岩)があり、県外搬入の精砥石の可能性が高く、土陶磁器は17～18世紀に図の主体あり。6号溝—345(砥)、346(砥)、347(砥)、348(砥)、349(砥)、350(砥)、

群馬県地質図



小林二三雄・久保誠二・飯島静雄ほか「地形・地質編」『群馬県の貴重な自然』（群馬県）1990、21・22頁第3図群馬県地質図を引用し、本書中で使用した砥石産出地と補足説明用に他の産出地も加えて作成した。

群馬県は、火山を含み、変化に富む岩石の存在県である。そのため新・旧多くの石材産出地が存在している。砥石種も、その例外ではなく、荒砥・中砥・合砥の3種が産出する。この3種は、製品加工から剃刀・刀剣研磨までを可能とし、旧来上野国と称された一国内で3種が揃う状況は注目されるべき点である。上図中、黒丸印が、採集・採掘地で、このほか安山岩製の荒砥級の軽石を含めれば、相当数の採集地が加わるはずである。

合砥級は、珪質頁岩の桐生の砥石と流紋岩質凝灰岩の小日向砥（沼田砥）の一部がある。中砥級は、砥沢砥（沼田砥）、小坂、倉淵村ホウノキ平周辺、川田（未調査）、小日向砥（沼田砥）、利根村砥沢などが流紋岩または、流紋岩質凝灰岩であり、未調査地は推定である。中でも甘楽郡南牧村砥沢砥は、研がれる鉄製品（研磨主体）にあたるヒケ傷の生じが弱く、良質な中砥で、江戸時代には御倉砥として名高かったという。

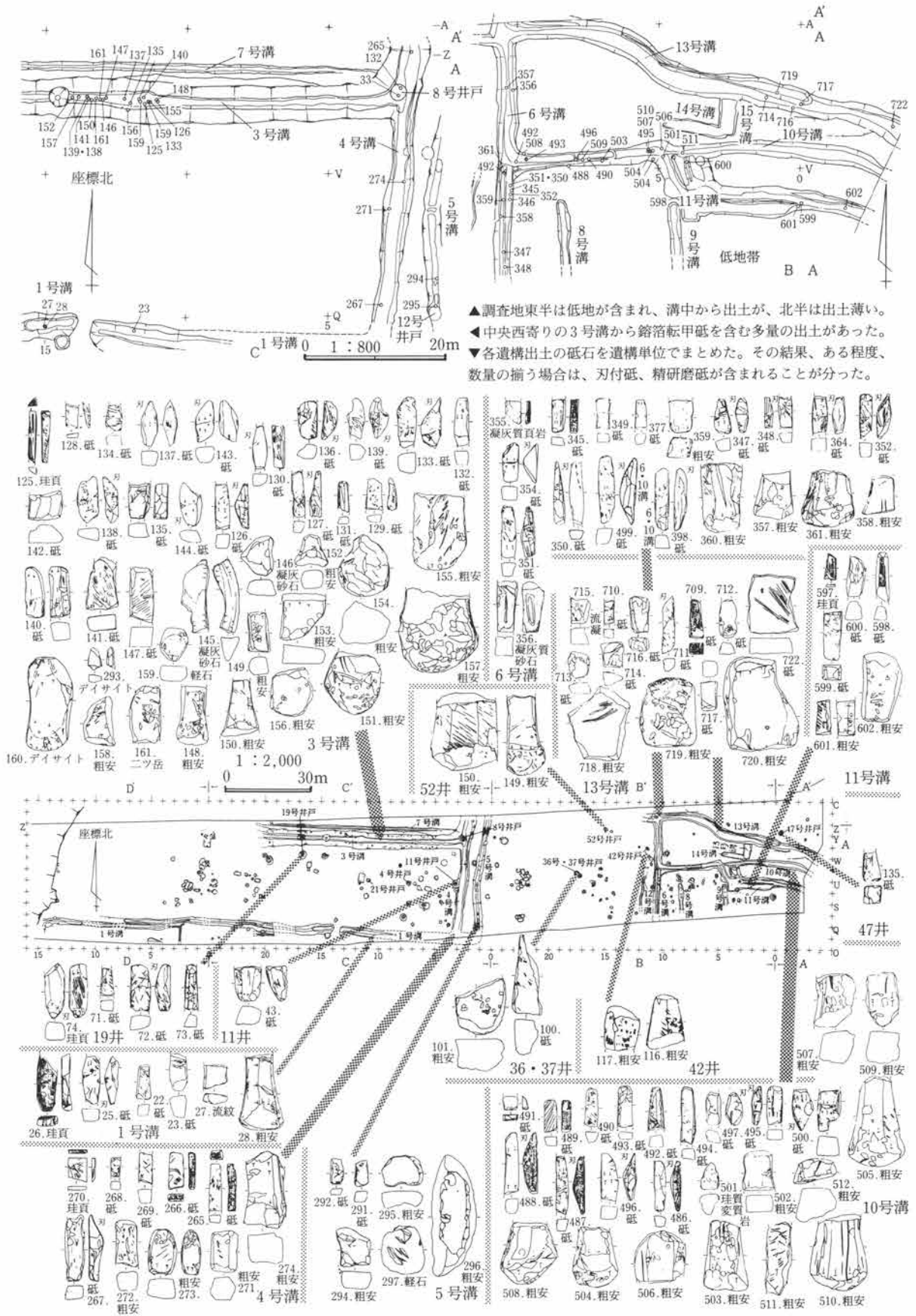
当遺跡は上図中の白丸印の位置にあり、石材を観察した飯島静雄によれば砥沢砥として指摘が多くにある。砥沢砥の旧採掘地まで直線で50kmを測るが、中世を含む以前の出土砥石には、節理面ばかりでなく転石時の河原石面が多くの場合に残されており、鍋川上流域の河原石も相当量使用されたようである。出土砥石中に珪質頁岩製の砥石が少量含まれる。質は合砥級で、現在市販の鳴滝砥や刀剣研磨の内雲砥に似た性質である。同材は、桐生市菱地区から栃木県足利市にかけ露頭があり、軟～硬質材が得られ、出土の同級は、それに似た感じの質感である。

- 第四紀
  - 現河川堆積物等
  - 段丘礫層
  - 湖成層
  - 火山噴出物
- 新第三紀
  - 小野上層・門貝層等
  - 新第三紀末火山岩類
  - 米沢新第三紀層
  - 鬼怒川流紋岩類
  - 切ヶ久保溶結凝灰岩および同相当層
  - いわゆるグリーンタフ
  - 本宿層（完岩層を含む）
  - 上部層（板鼻層）
  - 中部層（富岡層群主部）、藪塚層も同記号
  - 下部層（内山層・下仁田層・牛伏層）
  - 南蛇井層、その他
- 中新世
  - 片品川流紋岩類・金山流紋岩類（溶結凝灰岩）
  - 奥日光流紋岩類（溶結凝灰岩）
  - 中生層（奥利根・岩室・戸倉沢・鎌倉・山中）
  - 秩父中・古生層
  - 岡上中の石灰岩
- 先新第三紀
  - 安山岩～デイサイト
  - 流紋岩～デイサイト・石英斑岩等
  - 石英閃緑岩～ひん岩（新第三紀末深成岩類）
  - 輝緑岩
  - はんれい板（片品塩基性岩類）
  - かこう岩
  - かんらん岩～蛇紋岩
- 火成岩類
  - 三波川結晶片岩
  - みかぶ緑色岩類
  - 上野層変成岩類（ホルンフェルス化した結晶片岩）

附図1 群馬県の砥石産出地



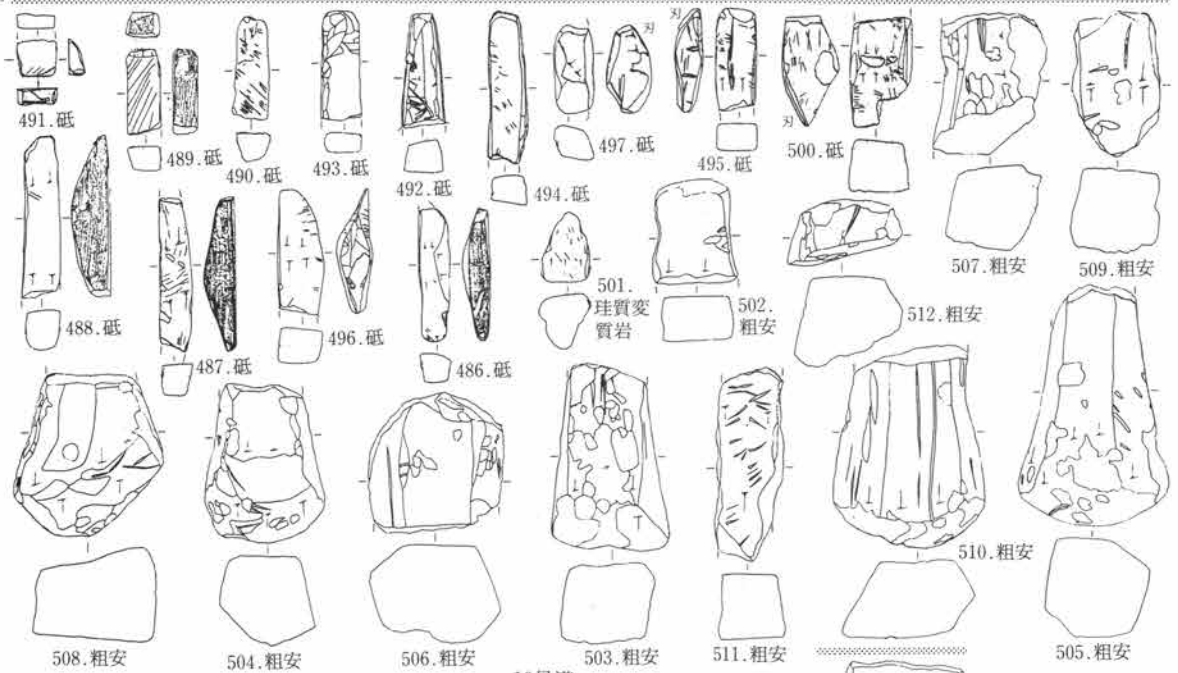
第4章 調査結果



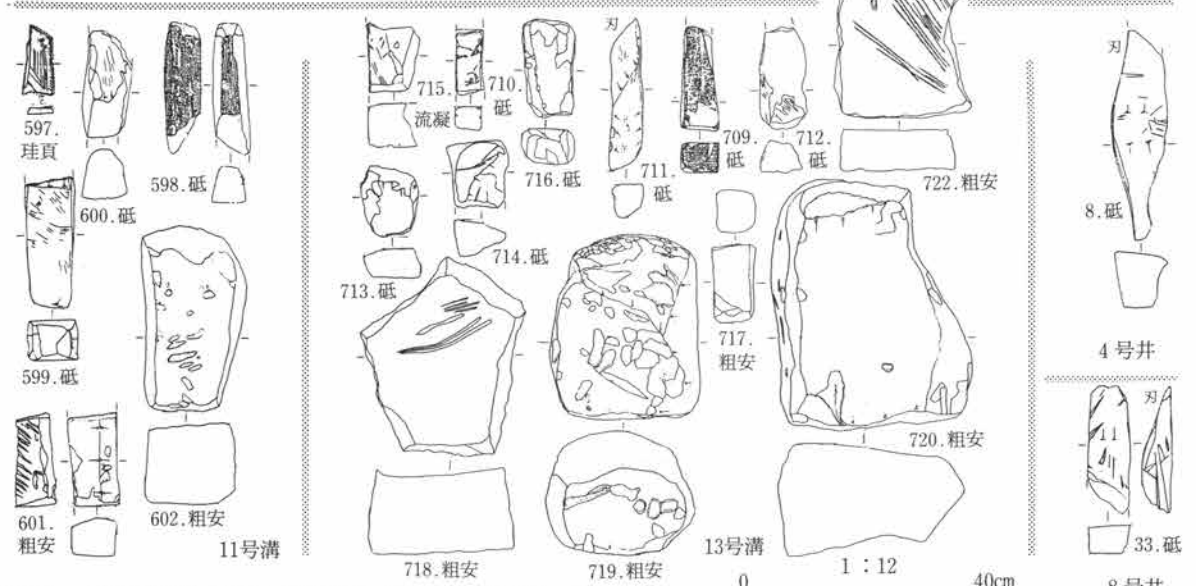
附図2 砥石関連遺構と砥石の組み合わせ



6号溝



10号溝

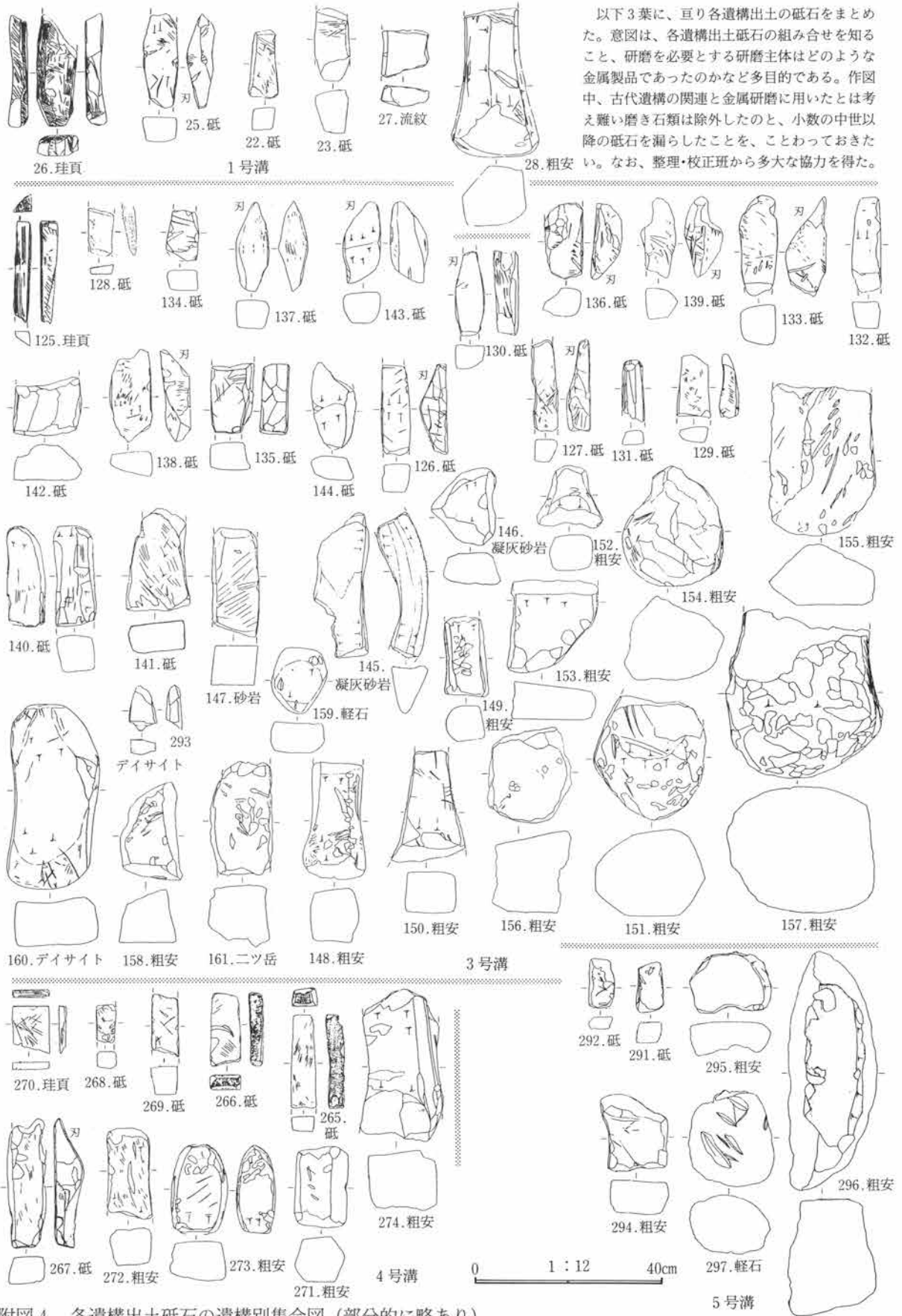


11号溝

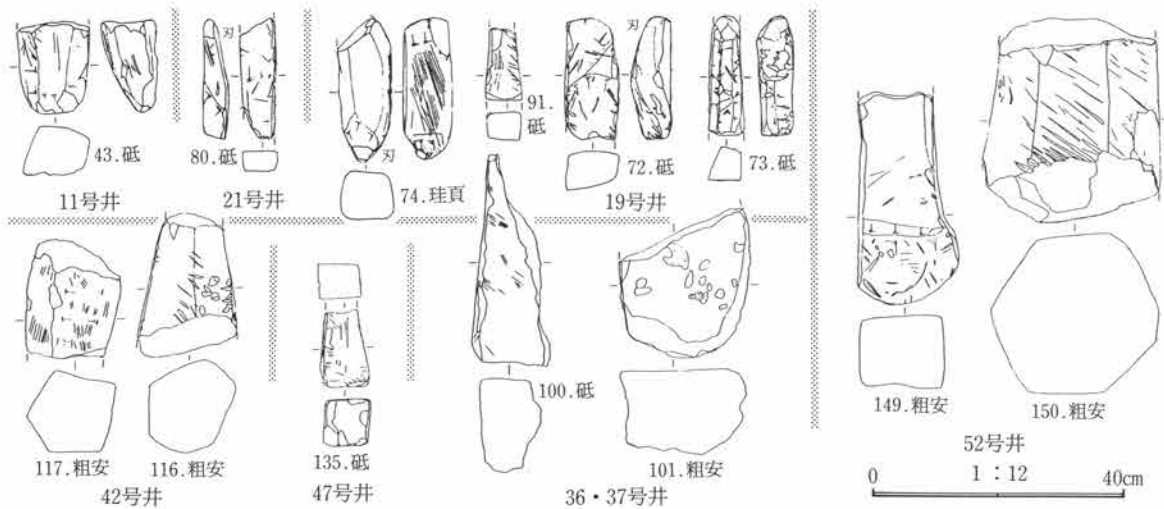
13号溝

附図3 各遺構出土砥石の遺構別の集約図(部分的に略あり)

第4章 調査結果



附図4 各遺構出土砥石の遺構別集合図（部分的に略あり）



附図5 各遺構出土砥石の遺構別集合図(部分的に略あり)

351(砥)、352(砥)、353(砥)、354(砥)、355(凝灰岩質頁岩)、356(凝灰岩質砂岩)、357(粗安)、358(粗安)、359(粗安)、360(粗安)、361(粗安)。

**所見** 計17点があり、精砥石に凝灰岩質頁岩1、中砥級に砥沢石10、荒砥級に凝灰岩質砂岩1、粗粒安山岩5がある。この中で刃付砥が8点以上含まれ、345の側面に近世以降の側面整形の櫛目条痕あり。他の遺物は羽口が6点図示され、17・18世紀の土陶器多い。

8号溝-377(砥)

**所見** 中砥級砥沢石1点の出土で、他の遺物は、16・17世紀頃の土陶器が図示されている。

10号溝-486(砥)、487(砥)、488(砥)、489(砥)、490(砥)、491(砥)、492(砥)、493(砥)、494(砥)、495(砥)、496(砥)、497(砥)、498(砥)、499(砥)、500(砥)、501(珪質変質岩)、502(粗安)、503(粗安)、504(粗安)、505(粗安)、506(粗安)、507(粗安)、508(粗安)、509(粗安)、510(粗安)、511(粗安)、512(粗安)。

**所見** 計27点中、精砥石はなく、中砥級の砥沢石15、珪質変質岩1、荒砥級の粗粒安山岩11であった。刃付砥は6点以上含まれ、粗粒安山岩の置砥が多い。近世以降に多い櫛目状工具による整形も4点があり、うち3点が刃付砥であり、18世紀以降の時期が含まれる可能性があり、全体としては、工作の作業に関連した遺物か。他の遺物は羽口が6点図示され、18・19世紀頃の土陶器に主体がある。

11号溝-597(珪質頁岩)、598(砥)、599(砥)、600(砥)、601(粗安)、602(粗安)。

**所見** 計6点中、精砥石は珪質頁岩、中砥級の砥沢石3、荒砥級の粗粒安山岩2であった。18世紀以降の時期とも考えられる櫛目状工具による整形痕1点がある。他の遺物は16~18世紀頃の個体を含んで図示されている。

13号溝-709(砥)、710(砥)、711(砥)、712(砥)、713(砥)、714(砥)、715(流紋岩質凝灰岩)、716(流)、717(粗安)、718(石鉢転用、粗安)、719(粗安)。

**所見** 計11点があり、精砥石はなく、中砥級の砥沢石6、流紋岩1、流紋岩質凝灰岩1、荒砥級の粗粒安山岩3であった。うち1点に18世紀以降とも考えられる櫛目条工具の整形痕がある。刃付砥は1点以上がある。他の遺物は、羽口が2点含まれ、13~19世紀初頃までの土陶器の図示があり、16~18世紀の個体が多い。

**井戸跡**

4号井戸-8(砥)、8号井戸-33(砥)、11号井戸-43(砥)、19号井戸-71(砥)・72(砥)・73(砥)・74(珪質頁岩)、21号井戸-80(砥)、36・37号井戸-100(砥)・101(粗安)、42号井戸-116(粗

安)・117(粗安)、47号井戸-135(砥)、52号井戸-149(粗安)・150(粗安)。

**所見** 計15点があり、他の遺物は、4号井戸で、羽口2点、15世紀頃の内耳鍋が、11号井戸では16世紀頃の土師質土器皿が新しい。19号井戸では、18世紀の遺物をまじえ、21号井戸では、羽口1点と13・14世紀頃の個体が、42号井戸では、15世紀後半頃の鉢、16世紀後半頃の内耳鍋1点が含まれて図示されている。

**その他**

198(頁)、199(頁)、200(砥)、201(珪質頁岩)、202(頁)、203(頁)、204(点文頁岩)、205(点文頁岩)、206(砥)、207(砥)、208(砥)、209(砥)、210(砥)、211(砥)、212(砥)、213(砥)、214(砥)、215(砥)、216(砥)、217(砥)、220(砥)、221(砥)、222(砥)、223(砥)、224(砥)、225(砥)、226(凝灰質砂岩)、227(砂岩)、228(砂岩)、229(凝灰岩質砂岩)、230(流紋岩)、231(変玄武岩)、232(凝灰質砂岩)、233(粗安)、234(粗安)、235(軽石)、236(粗安)、237(粗安)、238(土器片砥)。

**所見** 計39点がある。表採資料が多く含まれている。頁岩製が4点あり、後世の青砥が含まれているし、組成傾向が異なる。

**4. 得られた内容**

古代の砥石は、住居跡から出土した砥石12点のうち6点が砥沢砥であり、中砥として100%の存在率である。各々は、川原石面や採集時以前の節理面など自然面を、残している特色がある。研磨の主体は鎌など日常的な中での使用であろう。

中世以降の砥石は、総数189点のうち、古代12点、表採など個別遺外39点を除外した138点について見たい。まず、砥石の存在理由は、多くの羽口、鉄滓を含む金属滓、炉壁材などと、数量は明確ではないが鑄造関連の遺物の存在から鉄製品製作と銅主材による鑄造が周囲において存在したと考えられ、附図2に示したように数個所の遺構からまとまって出土

#### 第4章 調査結果

し、特に3号溝中では集中傾向があり、鑄造関連廃材利用砥も存在しているため、138点の多くは、この活動に伴って存在していると推定しておきたい。では、いつその生産活動が始められたのか、整理済となった掲載遺物のみから時期を推考すれば、羽口・砥石を伴う遺構の上限として4号井戸から15世紀の軟質陶器製内耳鍋が最も古く、同じく15世紀前半頃の同製内耳鍋の出土のある12号溝からは砥石の報告はない。この点から活動は15世紀頃からと考えたい。下限は砥石出土遺構に18世紀代の軟質陶器や陶・磁器を含むのでその頃と考えたい。その間の約400年間、砥石出土遺構に16・17世紀の軟質陶器・陶・磁器・土師質土器を含むので継続していたようである。

この138点のうち、精砥石は、26(珪頁)・74(珪頁)・125(珪頁)・270(珪頁)・355(凝灰岩質頁岩)・597(珪頁)・74(珪頁)があり、26・74の珪質頁岩は合せ砥にして使用していないが桐生の砥石に似ている。125・270の珪質頁岩は京都産鳴滝砥に似ている。597は京都産内曇砥に似ており、今まで実見したうち県内唯一である。この中で合せ砥として平滑面が見られるのは125・270・355・597の4点であり、一般的には、その面を習すのは名倉砥が使用されるが、名倉砥の存在は明確にできなかった。前出合せ砥4点は、刃物砥として使用されたに違いないが、それを除く3点は、刃付砥気味に先を尖らせたり、一般の用法と異なっているため凹部や細部の特殊な場合を考えておきたい。鑄造製品の細部などの可能性もあろう。

また遠地からの精砥石の搬入は、上州における戦

乱の禍中では考え難く、商品として流通し得た時期の遺物と考えておきたい。

中砥中には、砥沢石が多量に含まれてあり、さらに刃付砥の存在が際立って多い。またその刃付部の研磨用の面積の大きい個体もあり、鎌・小刀程度の研磨主体ではなく、大形や長大な刃物を造り出していたと推定される。腰刀・脇差・斧・鋤・鍬などである。一方で荒砥の多さがそれを物語り、荒砥の多くは、使用破損し、二分以上に割れ、それほど頻度の高い使用である。それら中・荒砥の使用は、古代住居跡出土砥石のゆったりとした消耗と異なり、ずいぶん早く研磨しているように見え、各面の角ばりがシャープな砥石も見られ、工業的な活動の中での消耗を思わせる。

鑄造と鍛冶存在の推測は、近世史料中に、鑄師の存在が小嶋・倉林姓などが県内村落に点在して見えるがここ、二の宮の地において、同姓の存在は薄弱である。

さて、製作された製品の流通はという設問に対しては、やはり二の宮赤城神社の存在を無視することはできないであろう。周囲の洗橋一足を洗う、千足一人の足どりの多さ(両例当団大西雅広による)はそれを示し、16世紀代には門前市を成す観もあったことを考えておきたい。さらに15世紀代には、後代に継続性を持つことができるだけの、製品の一貫した生産と、それを求め、必要とする人々の存在があったはずであり、付近での売り店の存在も考えておきたい。



## 第4節 出土の瓦に就いて

木津博明

### はじめに

当該遺跡は前章で報告されたとおり、発見された遺構の主要乃至主体は、中世後半から近世に至る時期の遺構・遺物であった。これらの中で、溝状遺構を主体に多数の瓦が出土している。筆者は、整理・編集担当者より、当該遺物の所見を求められ、文章化も請われた。これにより、筆者は本拙文を草する次第であるが、自身は発掘調査現場は実見していないことと、遺跡の詳細に就いて理解していないため、当該遺物種のみでの記述となることで編集者の了解を得た。

また、当文を草するに当たり、限られた頁数下での記述のためと、当該事業関連等の周辺遺跡でも瓦の出土があるため、当該遺跡だけでは明らかにできないことも有ることから、当該地域の総括に就いては別稿に於て詳述したい。

### 1. 瓦観察表に就いて

当該遺跡出土の瓦に就いては、同一の観察視点により15項目からなる瓦観察表を作成したが、1点当たり1行の字数に制約が有るため、表記を省略化して記した。表記上の省略化に就いては、観察表の凡例を参照して戴きたい。

### 2. 出土瓦の概要

出土瓦の概要は、別表に示したとおり4種25基の遺構等から209点の瓦が出土している。これらの瓦は、古代・中世・近世～近代所産の瓦であるが、出土した瓦は全て破片（細片）であった。

前章で報告されたとおり、想定される瓦の年代観と供伴遺物との年代観には隔たりがあり、当該遺物と出土遺構との関係には、直接的な関係を示していない。

出土瓦209点の内訳は、古代男瓦3点・同女瓦2点、中世鎧瓦3点・同宇瓦1点・同男瓦60点内玉縁付男瓦14点・同女瓦125点・棧瓦17点で、古代瓦が、2.38%・中世瓦91.84%・棧瓦8.13%である。このう

ち主体を占める中世瓦187点の傾向を見ると、鎧瓦1.60%・宇瓦0.53%・男瓦32.81%・女瓦65.10%である。

### 3. 古代瓦に就いて

古代瓦は男瓦3・女瓦2点の合計5点が出土している。両者のうち男瓦では、瓦no940(以下瓦noは省略)が2点の接合で比較的大形の瓦であるものの、他は小破片であることから、出土量・遺存度共に良好な資料とは言い得ない。

出土瓦の胎土には二者が認められ、瓦観察表中の胎土項目でE・Fの分類が該当する。

当該遺跡に近接する荒砥洗橋遺跡では、E類胎土の宇瓦（篋描重弧文）・男瓦が出土している。一方、西接する荒砥洗橋遺跡では、「大郷長」を墨書した8世紀後半の土師器坏が出土しており、二之宮谷地遺跡では、笠懸古窯跡群鹿の川支群の製品とする女瓦が出土し、瓦塔も出土している。

### 4. 中世瓦に就いて

中世瓦は4種187点が出土している。内訳は鎧瓦3点・宇瓦1点・男瓦60点（内玉縁付男瓦14点を含む）女瓦123点・道具瓦(?)2点が出土している。これらの全ての瓦は、破片乃至細片で接合率も極めて低かった。出土地は別添観察表中に示したが、多くの瓦は調査区内東側、東接する二之宮宮下東遺跡寄りの低地部の溝状遺構内より出土している。これらの溝状遺構からは、近世陶磁器が共伴しており、推定される瓦の年代観よりより新しい遺構からの出土である。そして、破片化が進んだ状態の状況と、接合関係が僅少であることから、二次的以上に破片化した段階でこれらの遺構に廃棄されたと判断される。このことから、当該瓦類は、堂宇からの落下・近世段階まで（共伴陶磁器の年代まで）の使用とは考え難く、近傍の地に瓦葺き建物が存在していたことは推定されるものの、少なくとも近世後半には、中世段階で葺かれた瓦は屋根から下ろされていた事が判断される。

出土した中世瓦類では、軒先瓦が4点と少なく文様意匠の全容が窺える瓦は1点もない。

#### 第4章 調査結果

鏡瓦では、主要意匠（内区）に三つ巴文を用いている。926は外区部分を欠損するが、巴の中心部は比較的古式な様相を呈している。鏡瓦925・935は周縁部まで巴の尾が延び、外区をもたない意匠だが、内区中央部の状態が不明である。第311図にはこの鏡瓦925・935を図上復元を試みた。特徴としては、面径が広く、周縁部が上端で幅広で下端が狭いアンバランスな状態だが、2点からの復元であるために拠る。

字瓦（924）もやはり瓦当面の右半分しか遺存していない。唐草文を意匠とするが、均整・左偏向かは判然としないが、中心部の状況から均整状態を推定した。この鏡瓦（925・935）・字瓦双方の意匠を推定復元したのが第311図1・3である。

この鏡瓦926を除く軒先瓦はA類胎土を使用している。鏡瓦926の胎土は、砂質味を帯びるが夾雑物殆ど見られず、還元焰焼成気味で比較的焼き締まり良質でA類とは懸け離れている。この鏡瓦926の胎土にC類がやや類似した観があるものの、焼成技法が異なることから、鏡瓦926は現状で唯一の存在と判断される。

男瓦・女瓦は出土瓦の主体を占める。しかしこれらの瓦は、その全てが破片・細片化しており個別で全容の窺えるものは皆無である。この状況の中で、東接する二之宮宮下東遺跡からは、A類胎土の女瓦のほぼ完形品が出土している。恐らく、この二之宮宮下東遺跡出土の瓦は、当該遺跡出土の瓦と共に同一乃至別の堂宇に葺かれていたことはほぼ確実であろう。又、当該遺跡出土の男瓦の中でも、遺存の良好な個体から形状の復元を試み、二之宮宮下東遺跡出土の瓦とともにA類胎土の組み瓦をしたのが第311図の組瓦復元図で、組み瓦として4種の瓦の形状・大きさが明らかにされた資料としては、県内では国分寺中間地域に次ぐ2例目で非常に貴重な資料である。

男瓦は、全てが半截作りと判断され一枚作りのものは認められなかった。整形では、轆轤により作業の大半が行われており、叩き整形等は一切認められなかった。第311図2では、通有例に比較すると長さ

が寸詰まった状態だが、残存資料からはここまでが限界である（復元長は近似値を女瓦長に求めた）。

この男瓦で特筆されるのは、裏面上半に布の吊紐痕が見られる点である。吊紐痕は「U」字状を呈するが、圧痕には「U」の字の左上半を欠損する状態で「J」字状の状態である。観察表中には、「布目」の項目に「紐」を記入したものが該当する。この吊紐痕は、画一的ではないものの中世瓦に特徴的な技法の痕跡であり、14世紀末～15世紀前半の年代が与えられる。

又、玉縁部の基部寄りには浅い溝様の整・成形痕が認められる（第311図参照）。この溝様のものは、玉縁基部の整・成形に伴い偶発的に残ったものを筆者の勘違いにより述べている感も拭えないが、同様の整・成形痕は国分寺中間地域出土の男瓦にも認められている。この溝様のものは、雨水等が玉縁に流入した場合、両側の女瓦側に誘導する機能を凭せる為の処置と捉えられるが、明瞭な形として捉えられないのも特徴とも言える。しかし、国分寺中間地域例の如く、溝様を備える玉縁部と備えない二者は、胎土の違いにも明瞭な形で認められることから、今後の類例の増加により別稿としたい。

女瓦は全てが一枚作りと判断した。根拠としては、離砂・粘土板剝取痕・側部面取の状態に拠る。このほか特筆し得ることはない。

この両者を胎土分類から見ると、A類胎土が男瓦で70%、女瓦で53%を越えている。上述軒瓦類でA類胎土3者はこの男瓦・女瓦と組瓦を形成することから、建立された堂宇は、このA類種により主要部が葺かれた事が判断される。

#### 5. まとめ

当該遺跡から出土した瓦は上述したとおり、出土状態・遺存状態共に決して良いとは言えない。だが、中世瓦に就いては辛うじて組瓦がある程度分明に成しえた点に、当該遺跡出土の瓦の意義が見出せよう。

古代瓦は、整・成形の特徴から8世紀後半の年代観が与えられる。だが、前述のとおり近隣遺跡の既



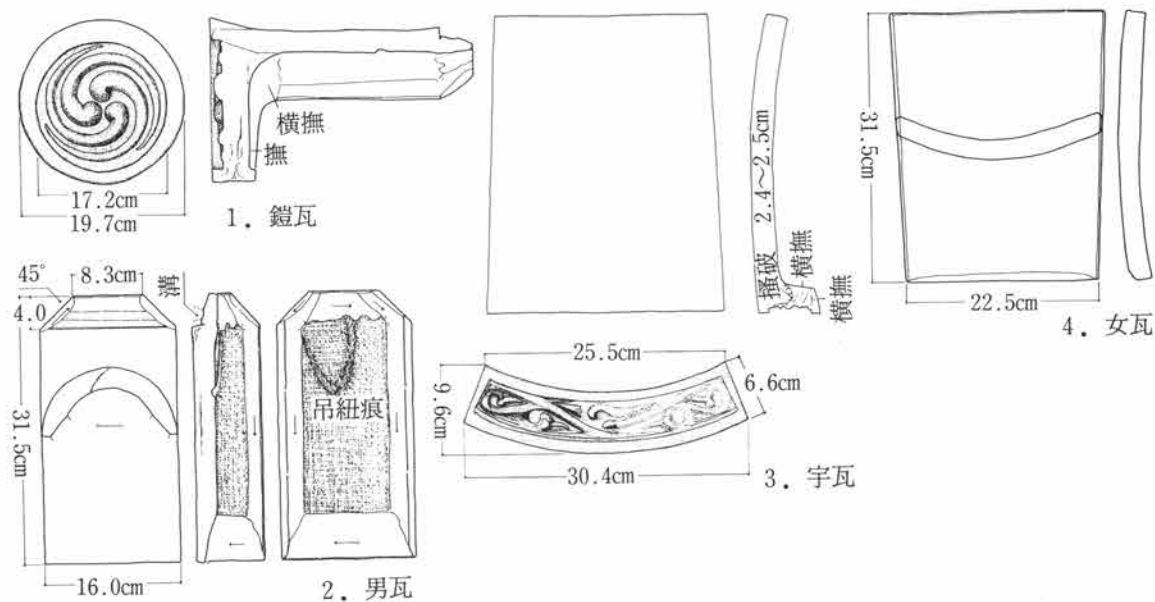
出資料等を再整理して、近隣遺跡の性格付けを考慮してから後に再考せねばならないと考える。

中世瓦の所産時期は男瓦の吊紐痕・瓦当意匠から、14世紀末～15世紀前半に比定される。そしてこの時期には、近隣に寺院跡の存在を示唆しているが、その実態はかなり間接的である。

かつてより、当該遺跡に近接する二之宮神社周辺では、境内に西接する畑（現公民館）では、少量の瓦が採集できた。又、1点ながらも境内でも内田憲治氏が採集している。筆者が採集している中世瓦は、厚さ2～3cm程の女瓦で、両面に離砂が認められ凹面には布目は認められなかった。内田氏が採集した瓦も拓本図を見る限りに於ては、類似する瓦と考えられた。

この二之宮神社境内で瓦が採集出来ることから、近隣に寺院跡の存在が示唆され、さらに、境内には赤城塔・梵鐘（中世）・塔心礎等仏教・寺院に関係する遺構・遺物が伝えられている。しかし塔心礎については、遺構としての査証・時期等不明瞭な点が多い。今後本格的な発掘調査の必要性がある。

又、二之宮神社の神宮寺とする玉蔵院が、二之宮神社の東方350m程に位置している。この玉蔵院は近世初期に大胡領移転するが、再び此の地に戻っている。此の点から、当該瓦はこの玉蔵院の所用であった可能性が考慮される。しかし、現段階では出土瓦だけでは資料不足の観は拭えず、今後の資料増加に期待したい。



第311図 宮下西遺跡出土中世瓦復原図

## 第5節 中世館跡について

新倉明彦

### 1、館の規模と形状

検出された1・3・4・5・6・7号の溝は、その形状と走行から副郭式の館跡に付随する堀跡と考えられ、その方位は下記の表のようにほぼ真北に平

溝	走行方位	巾・深(m)	備考
1号溝	N-89°-W	00/00	館副郭部南限、土橋有
3号溝	N-89°-W		館主郭部南限、木橋有
4号溝	N-03°-E		
5号溝	N-03°-W		館東限、仕切り有
7号溝	N-89°-W		3号溝の付帯施設
6号溝	N-01°-E		館外郭部東限

行または直行し設定されており、館は全体としてほ

ぼ南北軸に沿って造られていることが解る。調査区内において検出された各溝は、館の南半部にあたるものと考えられ、3号溝はその規模と走行及び後述の木橋跡の存在などから館主郭部の南限、副郭部との境の堀と考えられる。調査に伴い調査区外の館推定範囲内についても地下レーダー探査を行った結果、現道路下及び畑下から調査区各溝に続く堀の存在が確認され、館の規模は全体で南北約130m、東西約100m程を測り、主郭部分は一辺約100m程の方形を呈するものと判明した（下掲復原図参照）。

館の周囲は、東辺側のみ接近する二重の堀を持ち、副郭部西辺には堀を設けず、台地縁辺の比高差ある地形を境として利用しているものと考えられる。また、地元住民の方の話では、館北限にあたる部分にはかつて馬の背のような小高い丘があったとのこと、北辺部の位置と併せて土塁の存在が想定される。

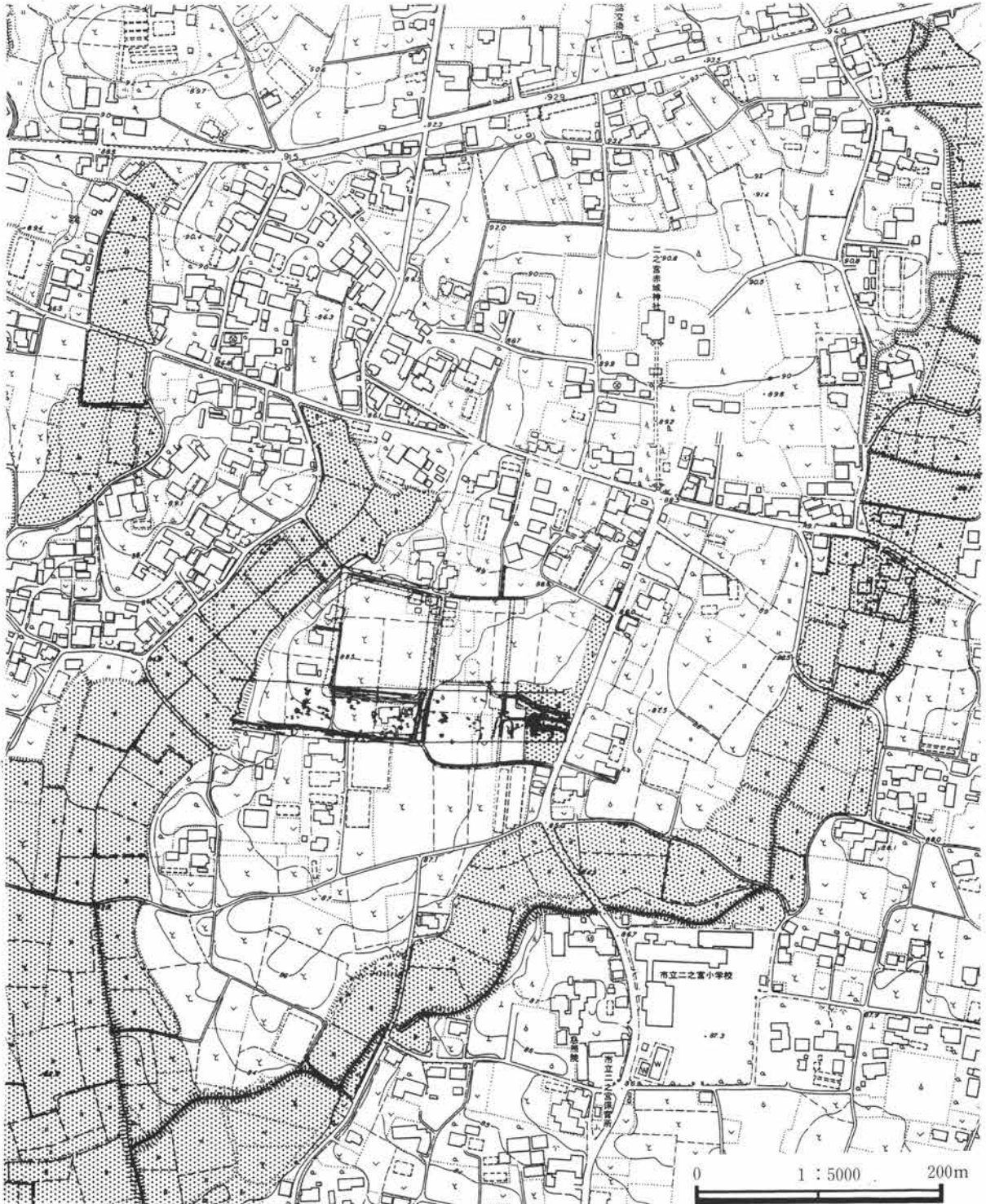


第312図 館推定復元図

堀(溝)の断面形状は葉研状を呈し、特に主郭部の周囲には幅員が広く深い堀と高い土塁が巡っていたものと推察される。

館の正面・出入口については、主郭部南辺堀(3

号溝)中央部の堀底付近には4穴の柱穴跡が検出されたことから、この位置に巾2m強、長さ4m強程の木橋が存在し、主郭部の出入口と考えられる。また、副郭部南辺部(1号溝)には地山を掘り残した



第313図 地形区分図(トーンの部分—水田)

## 第4章 調査結果

土橋跡が検出された。このことから、館の正面は南側であり、副郭部の土橋と主郭部の木橋の両者は防御性を考えてか、一直線上には配置されていないことが解る。

また、副郭部東辺の外堀（5号溝）内部には掘り残しによる仕切りが存在し、この部分のみ5号溝の走行が屈曲し内堀に接近するものの、土橋と考えるにはあまりにも巾が細すぎるため、この施設の意味は明らかではない。

館副郭部内部については、建物跡の遺構は明確に検出されなかったが、計60基を越える井戸跡が検出され、堀と重複し、館より年代的に新しいと思われる井戸が多いものの、出土遺物から中世に遡るものもあり、副郭部に於ける生活の痕跡が認められる。

### 2、館の立地と二之宮赤城神社

遺跡の北東に深い木々に囲まれ鎮座する二之宮赤城神社は、周囲に堀を持ち、その堀の東辺に折れが認められることから、古くより中世館跡と推定されている。本遺跡の館跡とは直線距離にして約300m強程の位置にあり、主軸方位もおおよそ一致する。また、二之宮赤城神社の南約400m、本遺跡の南東約200m程の所にある天台宗寺院慈照院の周囲には、かつて堀跡の一部が認められ(住職談)、本遺跡の館跡を含め、周囲一帯には中世の館群が存在していたものと推察され、その立地は、樹枝状に入り組んだ谷地に囲まれた舌状台地部に点在していた可能性が考えられる。

しかし、この点在する館群の立地を改めて考えるに、周辺には前述の水田地帯が入り組んで、多少の比高差ある微高地上に館跡は位置するものの、平野部のおおむね平坦地の真ん中に位置し、中世の山城の裾部に位置する館とは異質な環境下にあり、戦乱時の防御性は高いものとは考えにくい。

### 3、館の廃絶と寺院

館の年代を推定出来る資料としては、3号溝(主郭部南辺堀)跡底面出土の板碑がある程度で、板碑

は紀年銘を逸するものの、その形態から南北朝から室町初頭頃のものと考えられ、館の年代もこれに近いものと推定される。

また、同3号溝の内部の埋没途上の層より大量の五輪塔が出土し、一部に五輪塔地輪を平坦に石畳状に敷き詰めた状態が確認され、併せて南側から近世墓跡も検出されていることから、館廃絶後の墓域への転用があったものと思われる。

この館の廃絶後については、遺跡地の伝承としてこの地を「玉蔵院畑」、前述の館北辺部の土塁跡の呼び名として「いとく(威徳・遺徳)寺山」など、複数の寺院名を残している。これらの寺院については幸い史料上からいくつかのことが明らかとなっている。

まず、玉蔵院については明和五年(1768年)三月の寺社御役所あて「御供米願書並起因・乍恐弁書」(次頁参照)によると、寺はかつて二之宮村に所在し、二之宮赤城神社の別当寺を務めていたが、天正元年(1572年)のころに大胡城主牧野駿河守の命により、祈願のため大胡城内に移転された寺院であり、玉蔵院に代わり大胡城に在った威徳寺が二之宮に移転し、玉蔵院の跡地を引き継いだと記している。大胡城内に移転した玉蔵院の位置については、二の丸の北西部の一段低い位置に玉蔵院曲輪として大胡城内の「牛込絵図」・「酒井家絵図」や「大胡城考」記載の図に記されている。その後玉蔵院は二度の火災で焼失し、廃寺となり、明治期に至って大胡の金胎寺・江木の西方寺と合併し、金蔵寺と改名するものの、寺の縁越により「二宮山」の山号を称した。

また、玉蔵院の跡を継いだ威徳寺(遺徳寺)についても宝永三年(1706年)の「二之宮村本山行事巫女注連筋出入りにつき閉門請書」、寛保二年(1742年)「前橋藩領内寺院本寺併所附帳」、安永九年(1780年)「改書上帳」、文化九年(1812年)「上野国本山派山伏名所記」などに二之宮村威徳寺の名が記載されており、館廃絶後に大胡城主の厚い赤城神信仰に伴い、大胡領であった当地の寺院である玉蔵院と大胡にあった威徳寺の移転、並びに移転後の加護があった

ことが明らかである。

玉蔵院の建立時期については明らかではないものの、元亀年間に玉蔵院第八世祐慶上人が前記の金胎寺を開山したとすることから、玉蔵院の二之宮在所の期間を考え合わせると、館の廃絶年代は、15世紀中頃であろうと推定される。また、前述の二之宮赤城神社・慈照院の地にあったと思われる中世館についても、慈照院境内出土の五輪塔銘文に記された二之宮社木造三重の塔の建立（文明18年=1486年）の時期を考え合わせると、それぞれの館は本遺跡の館と同様の13世紀後半から15世紀前半の同時期に存在していた可能性が高いものと推察される。

参考文献

『荒砥村誌』 鹿沼明著・荒砥村誌刊行委員会 1974年  
 『群馬県史』 資料編13近世5 群馬県 1986年  
 『群馬県史』 資料編14近世6 群馬県 1986年  
 『大胡城跡保存管理計画書』 大胡町教育委員会 1988年  
 『大胡町誌』 大胡町 1976年  
 『前橋市史』 第一巻 前橋市  
 『大胡城考』（『上毛及上毛人』）上毛郷土史研究会 1929年  
 『二之宮宮下西遺跡現地説明会資料』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986年  
 『群馬県古城址の研究』 上巻 山崎一著 群馬県文化事業振興会

御供米願写並びに起因  
 抑々当院御供米の事二百有余年無違下置候処明和五戊子年春二月領主松平大和守武陽川越城主國督有之前橋領内堀越村、茂木、江木、増田、二之宮郷等都合六十余ヶ村領土地になり同三月二十五日代官前沢藤十郎殿於御役所引渡有之語領中宮閣、河原浜ニヶ村は前橋領地也、然る時二宮大明神御領地に相成上者右供米從公儀可被下置ニ而子年よりは可被召撫養於前橋役所神主六反田讀政へ被仰渡候（中略）  
 其後十二月六日寺社御奉行土岐美濃守殿より二宮明神並別当玉蔵院垣林会下等之起立書相認可罷出之候召伏故役寺より飛脚到來（中略）  
 此書は明和五年三月二十四日前橋役所へ差出則三原忠太殿請取申候爲役代写置候也

乍恐弁書

一、二之宮山神宮寺玉蔵院者二宮大明神別当則本尊千手觀世音田明神本地仏に御座候に付從御領主様之爲御供米河原浜村御藏米十二俵一斗九升五合毎年御寄付被成下難有百藏仕天下泰平別而殿様武運長久を御祈願奉抽藏精寺住職仕米候御事  
 一、大胡並二之宮村申伝儀夫根本玉蔵院者二之宮村に有之又二之宮威徳寺は大胡に有之候処天正元年之頃牧野駿河守殿大胡城へ御移被成候節御領内二宮大明神本地仏依御信仰天正五年丑年大胡城威徳寺より別当玉蔵院引替被仰付則玉蔵院者諸且家並田畑等捨置大胡城内へ引越御祈願相助申候由又威徳寺者大胡より二之宮村へ致院寺石玉蔵院之且家眞受今二之宮に有之候依之山号を大胡山城徳寺と申し本山修驗之一寺に御座候又玉蔵院山号を二之宮山と申候今二之宮村に玉蔵院古寺跡三反歩余の御除地指寺所持に御座候同引寺之儀必定に候先年駿河守殿越後に御國替之初々御引寺被成度思召候処玉蔵院勢多郡眞言宗担林に候故無地置然共玉蔵院守寫越後長岡御城内に建立有之則寺号玉蔵院と申御祈願相助申候依之兩所玉蔵院固本寺野州小俣鶴足寺に御座候  
 一、右申上候通寶寺には御座候得共眞言一派の檀林には御座候玉蔵院会下は東大間々桐生辺渡瀬瀬川限西利根三界南は広瀬川之通伊勢崎辺北者赤城山麓筋東西七里余南北五里程古院の數大寺小寺庵室坊跡都合八十ヶ寺余有之候且又眞言一派の所化学業之儀者四月一日より五十日冬十月朔日より五十ヶ日間談所へ會仕論議候事一派の控に御座候（中略）  
 駿河守殿御固替以後者年々衰微仕到へ十年程以前致類焼其後十九年以前焼失當時漸本堂造営有之候得共造作等一向出来ず荒寺にて難濟仕候右引寺故田畑之助成も無之尚又且家等當無御座候故極貧寺で檀林も相統成兼供併只今迄者殿様依御信心御寄付米頂戴仕候得共余分を以て所化飯料に仕夏冬高期学業相勤等相統仕米候是偏に殿様蒙御威光會下出家共学業仕御事に御座候  
 右之通申伝に御座候玉蔵院両度の焼失故秘藏書付因縁書等紛失故只々口伝義乍恐書に記し差上申候 以上  
 明和五年戊子三月二十四日  
 二宮明神別当河原原村  
 眞言檀林 玉蔵院  
 寺社御役所

第4章 調査結果

玉蔵院関連年表

西暦	大胡城	赤城神社(三夜沢)	赤城神社(二之宮)	玉蔵院	威徳寺	慈照院	遺跡及び周辺
1200			承久元(1219)年 二宮赤城明神主 田所忠治没				
1250							
1300			現二之宮赤城神社 の他に館造営か			現慈照院の他に館 造営か	この頃館造営か
1350							
1400							
1450			文明十八(1486) 年 二宮社に木造 三重の塔建立(慈 照院五輪塔銘文)			文明十八(1486) 年 二宮社に木造 三重の塔建立(慈 照院五輪塔銘文)	この頃館廃絶か 文明十七(1485) 年 磯部家石殿
1500							
1550	天正十八(1590) 年 牧野康成 徳 川家康と共に関東 に入り、大胡城主 となる。	永禄九(1566)年 由良成繁、大胡領 三夜沢に狼籍停止 の制札を発す(赤 城神社文書) 大正十(1582)年 北条高広・三夜沢 大明神に祈念書を 納める(赤城神社 文書)		元龜年間(1570~ 1572) 玉蔵院八 世祐慶上人が金胎 寺を開山 天正元(1572)年 大胡城主牧野駿河 守康成の命によ り、城の祈願寺と して二之宮より大 胡城内へ移転(玉 蔵院文書)	玉蔵院に代わり大 胡より二之宮町字 五分一に移転。旧 玉蔵院跡地を管 理。二宮別当寺務 を務める。(玉蔵院 文書)	玉蔵院に代わり二 宮大明神本地仏千 手観音菩薩をまつ る	
1600	元和二(1616)年 牧野駿河守康成越 後へ移封 牧野駿河守忠成、 赤城山神宮寺梵鐘 寄進		牧野駿河守康成、 赤城山神宮寺梵鐘 寄進	牧野駿河守康成、 越後に玉蔵院建立 (玉蔵院文書)			
1650	牧野駿河守忠成、 越後に玉蔵院建立 (玉蔵院文書)			大胡城廃城。十三 世円祐講堂を修復			
1700				正徳二(1712)年 玉蔵院第十九代有 専石造屋型を造立 (金蔵寺薬師堂)	宝永三(1706)年 「二之宮村本山年 得事巫女注連筋出 入につき閉門請 書」		
1750		寛保二(1742)年 「前橋藩領内寺院 本寺併所附帳」に 三夜沢村赤城大明 神と記載	寛保二(1742)年 「前橋藩領内寺院 本寺併所附帳」に 二ノ宮村二之宮大 明神と記載	寛保二(1742)年 「前橋藩領内寺院 本寺併所附帳」に 河原原村玉蔵院と 記載 寛延三(1750)年 大胡玉蔵院、2度 の火災で焼失(玉 蔵院文書)	寛保二(1742)年 「前橋藩領内寺院 本寺併所附帳」に 二ノ宮村威徳寺と 記載 安永九(1780)年 天台宗京都聖護院 末寺、山伏の住堂 〔改書上帳〕二之 宮町自治会所蔵)	寛保二(1742)年 「前橋藩領内寺院 本寺併所附帳」に 二ノ宮村慈照院と 記載 元文二(1737)年 中島山から大悲山 に改名	
1800			明和五(1768)年 神社境内絵図	明和五(1768)年 供米願い写し並び に大胡移転の起因 を記す寺の荒廃を も記す(玉蔵院文 書)	文化九(1812)年 「上野国本山派山 伏名所記」威徳寺 名記載		
				明治42(1909)年 大胡金胎寺と合 寺、金蔵寺となる。			伝承で二之宮宮下 西館跡の地を玉蔵 院 畑、館北側の 土塁を威徳寺山と 称す。



第6節 宮下西遺跡の人骨及び馬骨について

群馬県立大間々高等学校教諭  
宮崎重雄

A. ヒト

二之宮宮下西遺跡は群馬県前橋市二之宮にあり、2体分の人骨を出土した。

1. EX. B4土坑

この土坑は長方形をなし、長径が198cm、短径が160cm、深さが38cmである。

出土時のようすを写真で見ると、体軸は南北方向を向き、顔は東斜め下を向いている。下肢は胡座をかいた状態で、土坑の壁にもたれかかり、上肢は左右とも強く折り曲げ、左肩から顎のあたりに手を置いているように見える。

現状では頭蓋は破損が著しく、有効な計測値が得られないが、眉弓の隆起が強めで、外後頭隆起の発達がよく、上項線が明瞭で、乳様突起の発達も比較的良い方で、下顎骨も頑丈にできていて、男性的特徴を示している。

縫合線を外板で観察すると、冠状縫合は部分的に癒合が進んでいるが、矢状縫合にはほとんど癒合していない。内板では、冠状縫合はほぼ消失し、矢状縫合では半分前後が癒合している。

上顎・下顎とも第3大臼歯が萌出していて、その咬頭部のエナメル質が咬耗を受け、第1大臼歯は上顎・下顎とも咬頭部に象牙質が点状に露出し、上顎切歯・下顎切歯・上顎犬歯・下顎犬歯にも切縁・尖頭部に象牙質が露出し、切歯縫合は消失している。このことから壮年期の個体が推定される。

上顎中切歯は辺縁隆線に咬耗がみられ、特に左中切歯の遠心辺隆線では歯頸部に寄ったあたりに咬耗がみられる。弱い缺状咬合していたと思われる。

頬側あるいは唇側の歯頸部から歯根部にかけて、多くの歯が溶食を受けている。埋葬後の土中での風化によるものと思われ、齶蝕の可能性は少ないように見受ける。

残存歯式は下記の通りである。×は欠損のため状

況不明の歯である。

8 7 6 × 4 3 2 1	1 × 3 4 5 6 7 8
8 7 6 5 4 3 2 ×	1 2 3 4 5 6 7 8

上肢では左右の上腕骨・前腕骨が遺存していたが、腐食・破損が激しく、細片化していて復元は困難であった。

下肢も保存不良な大腿骨・脛骨が左右とも骨体のみ遺存している。骨体中央横径・同矢状径は大腿骨が28.0mm、24.0mmで、脛骨が19.0mm、28.7mmである。

2. 3区1号土坑

この土坑は楕円形をなし、長径が108cm、短径が70cm、深さが34cmである。

出土時のスケッチからは、体軸を南北に向け、顔を西に向けてた横臥屈葬であったことが観察される。

現存しているのは遊離歯21本であるが、うち歯種鑑定できるのは19本である。

この個体の歯はどれも小さく、例えば上顎犬歯の近遠心径は6.9mm、下顎犬歯のそれは6.6mmで、女性のものであろう。

上顎犬歯尖頭部や下顎第1小臼歯に舌側又は頬側咬頭に象牙質が点状～面状に露出し、上顎および下顎には第3大臼歯が萌出していて、わずかにエナメル質が咬耗を受けている。壮年期の個体と思われる。

下顎の第3大臼歯の歯頸部周辺は顕著な溶食を受けているが、これが齶蝕かどうかは不明である。

残存歯式は下記の通りである。( )内は左右不明の歯を示す。

8 7 6 5 4 3 × ×	× × 3 4 5 6 7 8
(8) × × 5 4 3 × ×	× × × 4 5 × 7 (8)

B. 馬歯(Equus caballus)

1. 2区2号土坑

ウマの遺骨の埋存していた土坑は卵形で、長径



第4章 調査結果

160cm、短径90cm、長軸は西北西—南南東方向である。しかし、このウマの脊柱は南北方向を向いていて、前肢と後肢を西側に伸ばし、中手骨と中足骨をその遠位端部で交叉させて横たわっている。おそらく、この交叉している部分で縛り、ここに棒を通して土坑に担ぎ込んだのであろう。頭部はほぼ180°回転していて、脳頭蓋が腹側に、下顎が背側にある。

出土時には脊椎・肋骨を除いてほとんどの部分が残存していたが、保存状態不良のため、取り上げ時点で、頭蓋や寛骨などを形をなさなくなっている。

上顎・下顎とも第1後臼歯が萌出し、すでにある程度の咬耗を受けている。第2後臼歯も萌出直後で、わずかに咬耗を受けている。この2本の歯は萌出直後間もなく、まだ咬合面付近がだいぶ太くなっている。上顎・下顎とも第1乳臼歯から、第3乳臼歯までが残っており、その歯根側に第2前臼歯から第4前臼歯までの永久歯が埋伏している。どの永久歯も歯根は未完成で、歯髓腔が大きく開いている。

切歯は乳切歯は破損していて、第1切歯が上下左右1本ずつ計4本程遺存している。いずれも未咬耗である。

この歯の萌出・咬耗の状況から、年齢は2.5才程度と推定される。

犬歯の萌出年齢にまだ達していないため、性別を判定することはできない。

EX.B 4人歯記録  
切歯

歯種		近遠心径	唇舌径	歯冠長	舌面窩	棘突起	舌側隆線	舌面溝	舌面齒頸溝	溶食(齧蝕?)	咬耗部位・咬耗度
上顎	右側	6.9	6.9	10.0			なし	なし	なし		咬耗ほとんどなし
	中	8.4	7.2	11.6	3型	なし	あり	あり	なし	歯頸部溶食。特に唇側が激しく、歯髓腔一部露出	切縁中央部に象牙質露出
	左側	8.4	7.4	10.9	3型	なし	あり	あり	なし	なし?	切縁部と近・遠心辺縁隆線でエナメル質のみわずか
下顎	右側	5.5	5.8	8.2					なし	唇側歯根面溶食	切縁に線状に象牙質露出
	中	6.1	6.9	9.1					なし	唇側歯根面溶食	切縁に線状に象牙質露出
	左側	6.1	6.9	9.4			あり	あり	なし	唇側歯根面溶食	切縁に線状に象牙質露出

III区1号土坑人歯記録表  
犬歯

歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	棘突起	中央舌面隆線	舌面溝	舌面齒頸隆線	舌面齒頸溝	遠心溝	副隆線	齧蝕	咬耗部位・咬耗度	
上顎	右	6.9	7.5	6.9							なし	尖頭部に象牙質が点状~面状に露出	
	左	6.9	7.1	8.1	?	明瞭	明瞭	明瞭	なし	明瞭	?	なし	尖頭部に象牙質が点状~面状に露出
下顎	右	6.6	7.4	9.6	なし	不明瞭	不明瞭	不明瞭	なし	明瞭	近心	なし	尖頭部に象牙質が点状に露出

歯の大きさは、中型在来馬相当の馬格を推定させる。

2. 4号溝

左下顎第2大臼歯1本だけが出土している。年齢は最も多く見積もっても5才までである。この溝からは、このほかに下顎の臼歯が出土しているが、歯冠高が45.0+mmであること以外は上記後臼歯と同一個体であるか否かも分からない。

3. 1区4号土坑

a. 左上顎第1後臼歯で、咬耗痕はないようである。計測不可。

b. 左右不明の下顎臼歯。

4. 2区1号溝 No.4

細片になりすぎて、馬骨であること以上にはわからない。

参考・引用文献

馬場悠男(1989)「人骨計測法」『江藤盛治・人類学講座一別巻1』, 雄山閣, 東京  
 Brothwell, D.R. 1981 Digging up bones. British Museum of Natural History, London.  
 藤田恒太郎(1949) 歯の計測基準について。人類学雑誌, 61: 27-32.  
 植原和郎・小泉清隆(1979) 歯冠近遠心径に基づく性別の判定—判別関数法による—。人類学雑誌, 87: 445-456.  
 上條雅彦(1949) 九州日本人口蓋縫合の解剖学的研究。其一縫合癒合の年齢的变化に就いて。臨床歯科学報, 4: 26-29.  
 上條雅彦(1994) 「日本人永久歯解剖学」, アナトーム社, 東京  
 片山一道(1990) 「古人骨は語る—骨考古学ことはじめ」, 同朋出版, 東京

第6節 宮下西遺跡の人骨及び馬骨について

上顎小白歯

歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	頰側副隆線	咬合面中央結節	咬合面溝型	舌側咬頭の位置	近遠心溝	齶歯	咬耗部位・咬耗度
右	2	6.7	8.9	5.8	近・遠心	なし	近心	なし	なし	舌側の遠心側半エナメル質のみ咬耗
	1	6.5	9.2	6.4	近・遠心	なし	7	近心	なし	舌側の遠心側半エナメル質のみ咬耗
左	1	6.3	9.0	5.8	近・遠心	なし	?	近心	なし	近心側半がエナメル質のみ咬耗
	2	6.5	9.0	5.0	近心	なし	?	近心	なし	近心側半がエナメル質のみ咬耗

下顎小白歯

歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	舌側咬頭の位置	連合隆線の経過	頰側副隆線	辺縁溝	咬合面の溝の形	舌側付加結節	舌側溝・舌面溝	Blackの分類	齶歯	咬耗部位・咬耗度
右	2	6.8	8.2	5.7			?	遠心			Y	なし	エナメル質のみ面状に咬耗
	1	6.5	7.9	6.4	近心	b	?	2	?	なし		なし	舌側咬頭に象牙質点状露出
左	1	6.4	7.7	6.3	近心	b	?	2	a	なし		なし	頰側咬頭に象牙質線状露出
	2	6.8	7.5	6.6			?	遠心			Y	なし	エナメル質のみ面状に咬耗

上顎大白歯

歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	カラベ	辺縁結節	辺縁溝	外形の緒	齶歯	咬耗部位・咬耗度
右	3	8.5	10.0	5.3	なし	遠心	C1	なし	ごくわずかエナメル質のみ咬耗
	2	9.1	11.1	5.3	なし	遠心	B2	なし	部分的にエナメル質のみ咬耗
	1	9.8+	9.9+						点状象牙質露出
左	1	10.0+	10.1	6.0					点状象牙質露出、頰側半欠損
	2	9.1	10.8+	5.6	なし	遠心	B2	なし	咬合面中央部以外エナメル質咬耗
	3	7.9	10.5	4.8	なし	遠心	C1	なし	部分的にエナメル質のみ咬耗

下顎大白歯

歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	齶歯	咬耗部位・咬耗度
左右不明	3	9.4	8.8	4.9	歯頸部の周囲顕著に溶食 エナメル質のみわずかに咬耗
左	2?	10.1	9.9	5.2	エナメル質のみ咬耗

下顎骨計測値

計測番号	計測部位	計測値
66	下顎角幅	
67	前下顎幅	54.4
69	オトガイ高	25.0
69(1)	下顎体高	29.9
69(2)	下顎体高(M2)	
69(3)	下顎体厚	
69b	下顎体厚(M2)	

計測法は馬場(1991)による

註：記録事項は主に上條(1994)に基づいた。計測値単位：mm

犬歯

歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	棘突起	中央舌面隆線	舌面溝	舌面歯頸隆線	舌面齶溝	遠心溝	副隆線	溶食(齶蝕?)	咬耗部位・咬耗度
上顎	右	7.8	8.6	11.1	極弱	あり	あり	あり	なし	?	頰側歯頸部にごく弱い溶食	尖頭部に小さな象牙質露出
	左	7.7	8.9	10.0+	なし	あり	あり	あり	なし	?		遠心辺縁隆線でエナメル質のみ大きく咬耗
下顎	右	7.0	8.4	11.0	なし	あり	あり	あり	なし	あり		尖頭部に小さな象牙質露出
	左	7.0	8.3	11.2	なし	あり	あり	あり	なし	?	頰側歯頸部に大きな溶食	尖頭部に小さな象牙質露出

上顎小白歯

歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	頰側副隆線	咬合面中央結節	咬合面溝型	舌側咬頭の位置	近遠心溝	溶食(齶蝕?)	咬耗部位・咬耗度
右	1	7.0	9.7	8.9	近・遠心	7	近心	近心	頰側歯頸部にごく弱い溶蝕	エナメル質のみ面状咬耗
左	1	7.1	9.9	8.6	近・遠心	8	?	?	頰側歯根部に溶食、歯髓腔露出	エナメル質のみ面状咬耗
	2	6.4	9.3	7.2	近・遠心	3	近心	近・遠心	頰側歯根部から歯頸部にかけて大きく溶食	エナメル質のみ面状咬耗

下顎小白歯3

歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	舌側咬頭の位置	連合隆線の経過	頰側副隆線	辺縁溝	咬合面の溝の形	舌側付加結節	舌側溝・舌面溝	Blackの分類	溶食(齶蝕?)	咬耗部位・咬耗度
右	2	6.8	8.2	6.3	近心		?				H型		エナメル質のみ面状に咬耗
	1	6.9	8.1	8.3		a	近・遠心	近・遠心	e				エナメル質のみ面状に咬耗
左	1	6.6	8.0	8.7	近心	a	近・遠心	近・遠心	a			頰側歯頸部に大きな溶食	エナメル質のみ面状に咬耗
	2	6.7	8.3	6.4	近心		近・遠心				H型	頰側歯頸部に大きな溶食	エナメル質のみ面状に咬耗

第4章 調査結果

上顎大白歯

歯種	近遠心径	唇舌径	歯冠長	遠心舌側咬頭の退化	カラベリーの結節	辺縁結節	辺縁溝	外形の緒型	溶食(蝕蝕?)	咬耗部位・咬耗度
右	3	8.2	11.4	6.1	隆線	なし	?	?		咬頭部のエナメル質のみ咬耗
	2	9.8	13.0	8.7	小結節	なし	?	?		ほぼ全面エナメル質咬耗
	1	10.1	12.1	7.0	咬頭	なし	?	?	頰側に極小の溶食	咬頭に象牙質点状露出
左	1	10.1	12.1	4.9	咬頭	なし	?	?	頰側の歯根から歯頸部に大きな溶食	咬頭に象牙質点状露出
	2	9.8	12.4	7.1	小結節	なし	?	?	近心頰側歯頸部に溶食	ほぼ全面エナメル質咬耗
	3	7.8	11.5	6.3	隆線	なし	?	?		咬頭部のエナメル質のみ咬耗

下顎大白歯

歯種	近遠心径	歯舌径	歯冠長	遠心咬頭の退化	第6咬頭	第7咬頭	裂溝型	辺縁溝	溶食(蝕蝕?)	咬耗部位・咬耗度	
右	3	10.0	9.7	6.7						咬頭部のエナメル質のみ咬耗	
	2	11.4	11.2	5.8		なし	なし	×4	なし	帯状にエナメル質咬耗	
	1	11.7	11.3	4.3		なし	なし	+5	遠心	頰側歯頸部に極小の溶食	各咬頭に点状の象牙質露出
左	1	11.3	11.4	4.9		なし	なし	+5	?	頰側歯頸部に溶食	各咬頭に点状の象牙質露出
	2	9.6	10.6	6.4		なし	なし	×4	近心		帯状にエナメル質咬耗
	3	10.6	10.2	6.0							咬頭部のエナメル質のみ咬耗

註：記録事項は主に上條(1994)に基づいた。計測単位：mm

J K-35 2区2号土坑

第1切歯

	上顎左	上顎右	下顎左	下顎右
近遠心径	20.8	20.2	18.9	18.9
唇舌径	11.2	11.4	10.1	10.2
歯冠高	45.7	45.6	45.4	46.3

上顎乳白歯

		第1乳白歯左	第2乳白歯左	第3乳白歯左
歯冠長	咬合面	40.3	27.9	27.0
歯冠幅	咬合面	20.9	23.6	23.0
原錐幅	咬合面	8.4	9.0	10.3
歯冠高	頰側	8.1	8.8	10.1
〃	舌側	7.5		
中附錐幅	頰側	6.1	4.3	3.3

J K-35 2区2号土坑

上顎白歯

		第2前白歯右	第3前白歯右	第1後白歯右	第2後白歯右
歯冠長	咬合面			27.9	28.7
〃	中央	34.8	28.5	24.3	24.5
歯冠幅	咬合面			23.5	24.9
〃	中央	23.0	25.9	26.3	24.8
原錐幅	咬合面			13.4	14.6
歯冠高	頰側			85.0	83.0+
〃	舌側	58.7	65.5+	78.4	83.0+
中附錐幅	頰側			2.6	2.5
〃	舌側			3.8	4.3

下顎白歯

		第2前白歯左	第3前白歯左	第4前白歯左	第1後白歯左	第2後白歯左
歯冠長	咬合面				30.1	30.8
〃	中央	30.3	30.0			
歯冠幅	前葉咬合面	14.7			11.8	9.1
〃	後葉咬合面				10.6	10.0
歯冠高	頰側*	43.5+	69.6+	58.3+	81.4+	68.9+
下後錐谷長					10.0	9.9
下内錐谷長					12.7	12.7
double knot長	咬合面				14.8	13.2
咬合面の傾斜					73°	80°
下内錐幅					4.5	4.2

\*は乳歯と永久歯を合わせたもの

下顎乳白歯

		第1乳白歯左	第2乳白歯左	第3乳白歯左
歯冠長	咬合面	32.7	29.6	30.0
歯冠幅	前葉咬合面		13.1	13.1
〃	後葉咬合面	12.8	14.0	13.7
歯冠高	頰側	12.0	10.5	14.0
下後錐谷長		10.1	9.6	9.1
下内錐谷長		16.5	12.6	12.0
double knot長	咬合面	16.0	17.0	13.8
下内錐幅		5.5	5.7	5.2

単位：mm

J K-35 4号溝

下顎白歯

		第2後白歯左
歯冠長	咬合面	24.4+
歯冠幅	前葉咬合面	12.8
〃	後葉咬合面	13.1
歯冠高	頰側	55.8+
〃	舌側	63.4+
下後錐谷長		8.4
下内錐谷長		9.7
double knot長	咬合面	13.0
〃	中央	12.2
咬合面の傾斜		70°

単位：mm

## 報告書抄録

フリガナ	ニノミヤミヤシタニシイセキ
書名	二之宮宮下西遺跡
副題	一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ	第189集
編集者	新倉明彦
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
発行年月日	平成7（1995）年3月27日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ニノミヤミヤシタニシ 二之宮宮下西	マエバシニノミヤマチ 前橋市二之宮町 アザミヤシタニシ 字宮下西 アザゴアイチ 字五分一	10201	10005— 00119	36° 21′ 41″	139° 10′ 11″	'860701～ '870331	12,000	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
二之宮宮下西		旧石器	土坑3基			
		縄文	なし			
	住居	古墳	竪穴住居跡	37軒		
	住居	奈良・平安	竪穴住居跡	20軒		
	館跡	中世	溝 14条		板碑、陶磁器	
	寺院跡	近世	溝 14条 (中世館跡を踏襲)		五輪塔、石臼、 砥石、陶磁器	大胡城関連二之宮山 玉蔵院、大胡山威徳 寺跡
			井戸	60基		
墓	近世	墓坑	8基	鏡、古銭		



# 写 真 图 版







遺跡周辺般空写真





中世館並びに古墳～平安時代集落跡（東より）





全景 (西より)



セクション (西より)



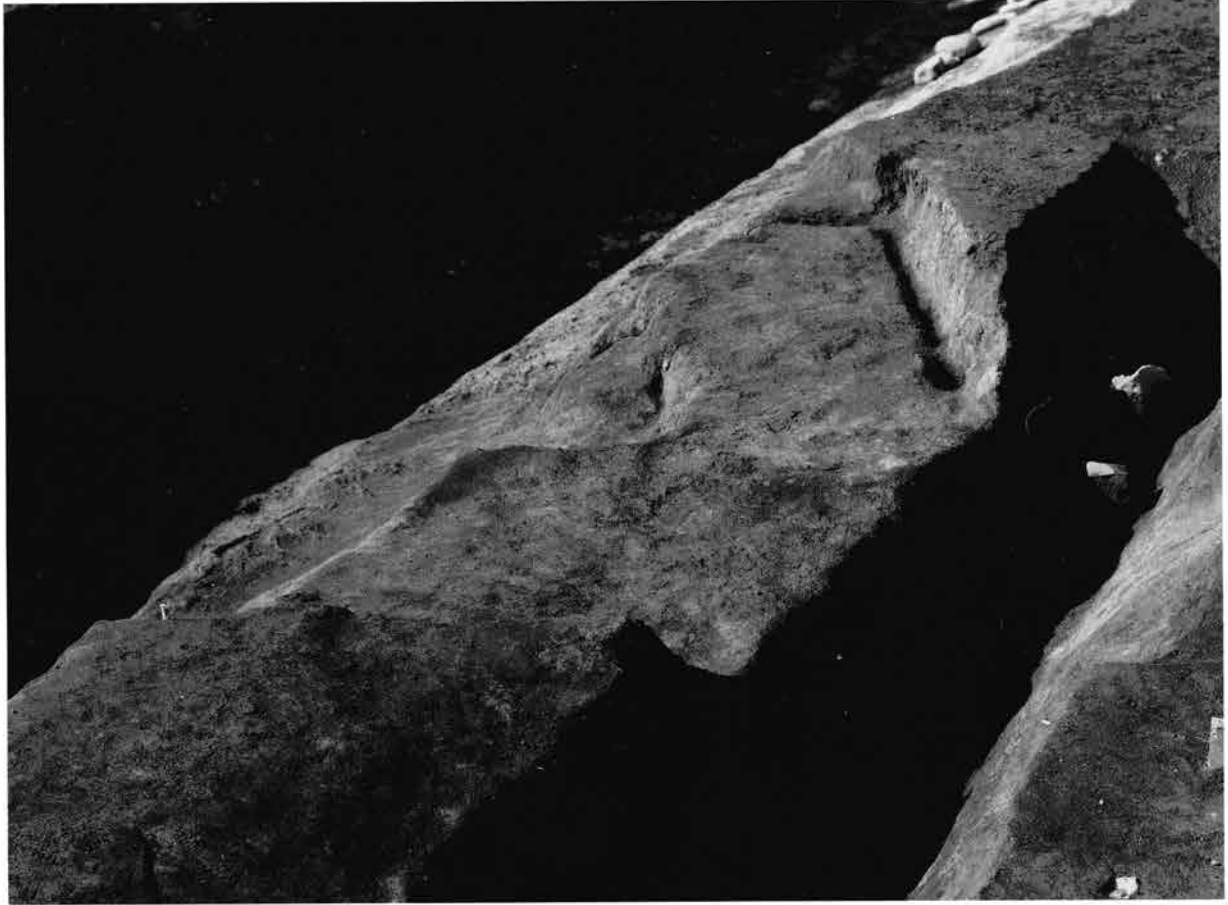
遺物出土状態 (西より)



カマドセクション (南より)



カマド掘り方全景 (西より)



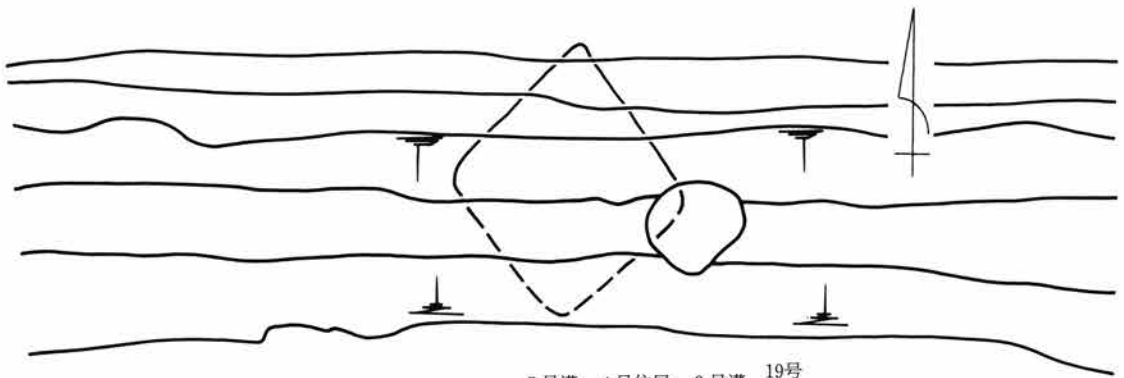
全景（南東より）



遺物出土状態（西より）



全景（南西より）



7号溝 4号住居 3号溝 19号井戸



全景(北西より)



カマド全景(南より)



カマド確認状態 (南西より)



カマド全景 (西より)



カマド掘り方 (西より)





7号住居跡カマド遺物出土状態 (西より)



8号住居跡全景 (南西より)





全景 (西より)



セクション (南より)



遺物出土状態 (北より)



遺物出土状態 (北より)



全景 (東より)



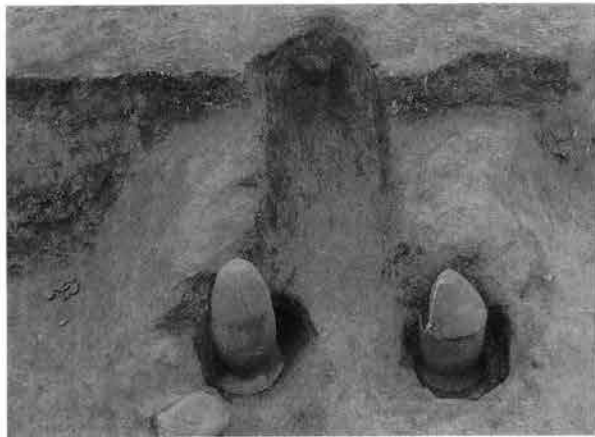
全景 (南より)



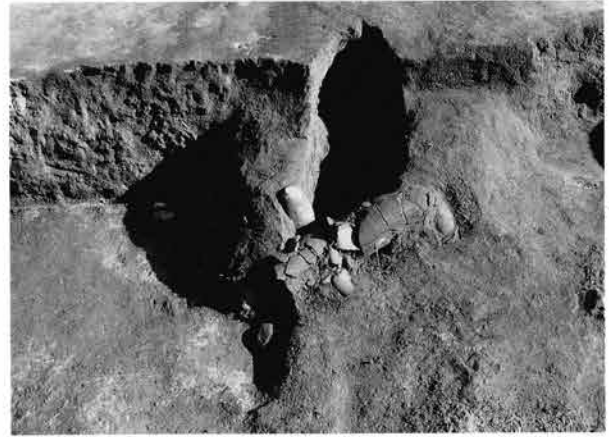
セクション(東より)



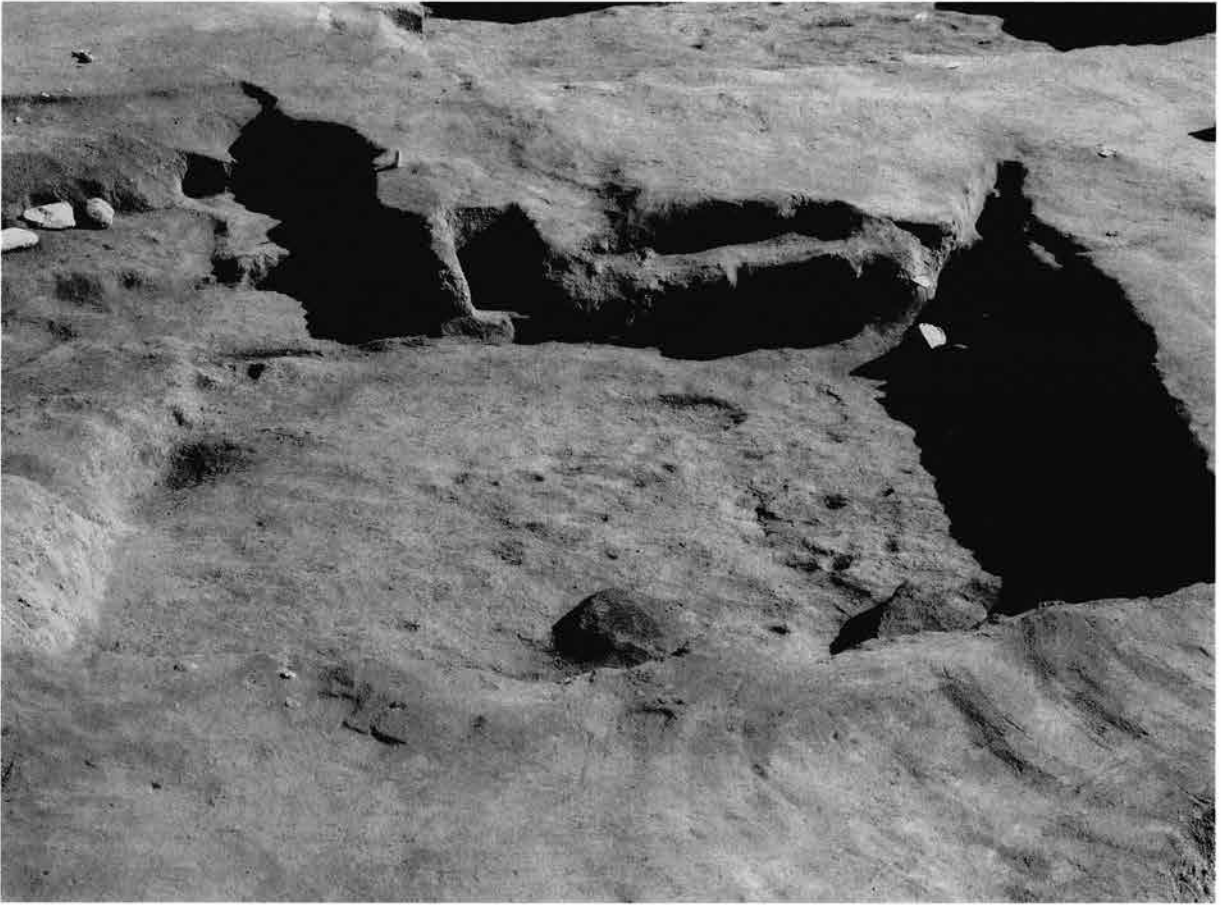
遺物出土状態 (南より)



カマド全景 (南西より)



カマド遺物出土状態 (南西より)



全景 (西より)



セクション (北より)



遺物出土状態 (北より)

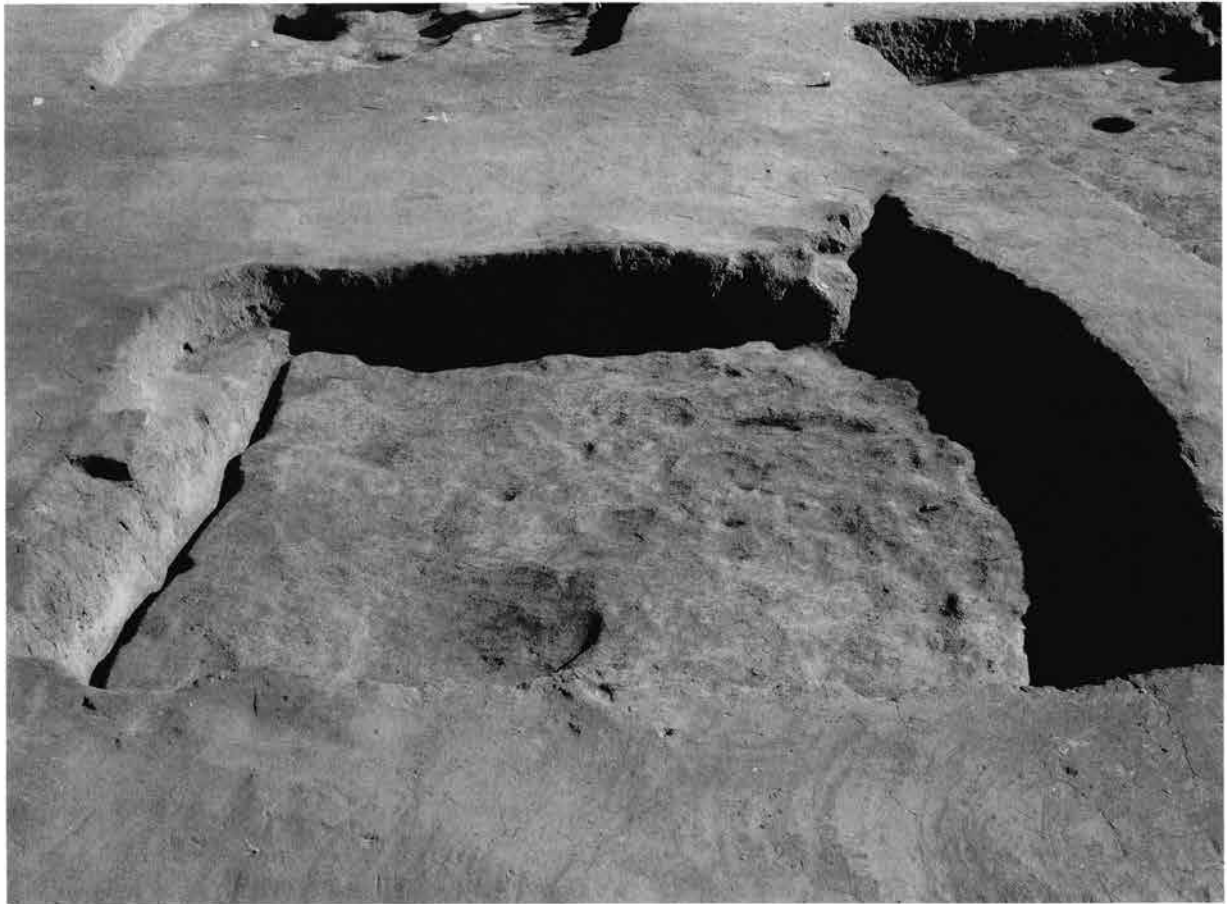


カマド全景 (西より)



カマドセクション (西より)





全景(西より)



セクション (南より)



遺物出土状態 (北より)



カマド全景 (西より)



カマド掘り方セクション (北西より)



全景 (西より)



セクション (南より)



遺物出土状態 (西より)



カマド全景 (南西より)



カマド掘り方セクション (西より)



滑石製模造品出土状態



遺物(勾玉)出土状態



遺物出土状態 (東より)



遺物出土状態 (西より)



掘り方全景 (西より)





全景 (西より)



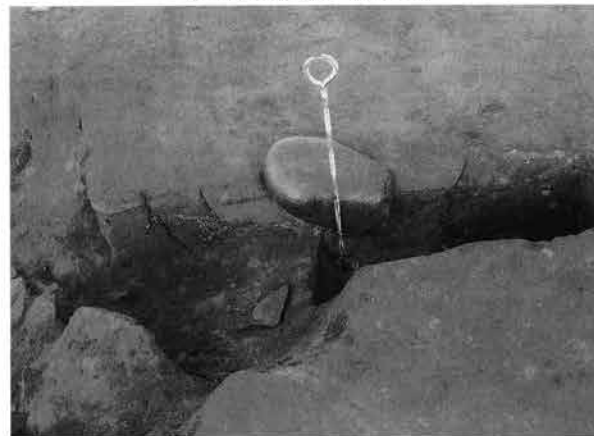
セクション (西より)



遺物出土状態 (東より)



カマドセクション (北東より)



カマドセクション (南西より)

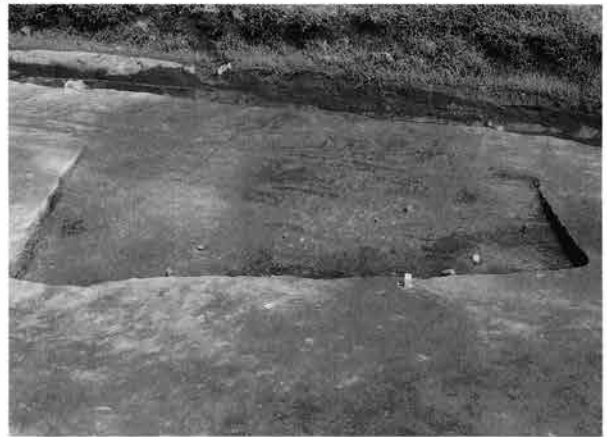




全景 (南より)



セクション (南東より)



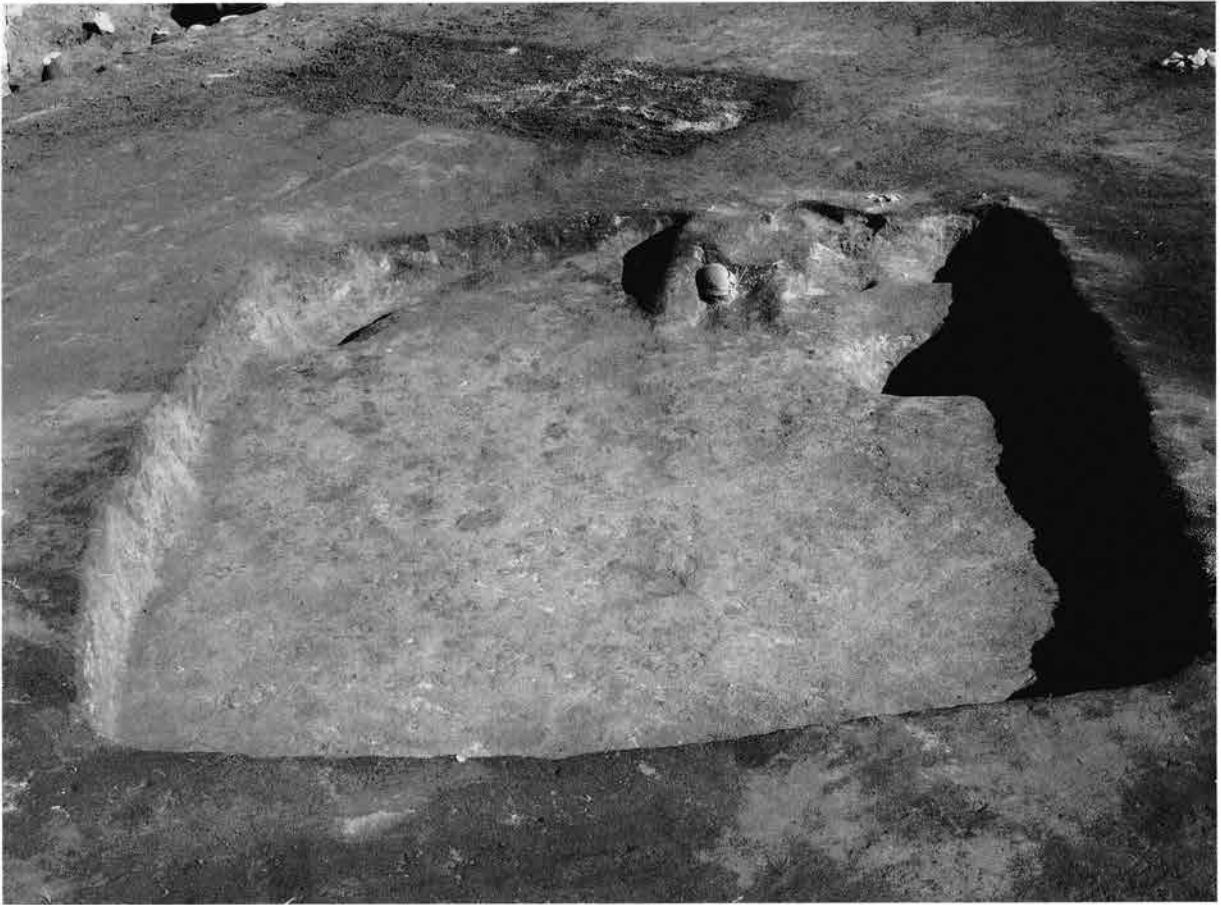
遺物出土状態 (南より)



カマドセクション (北より)



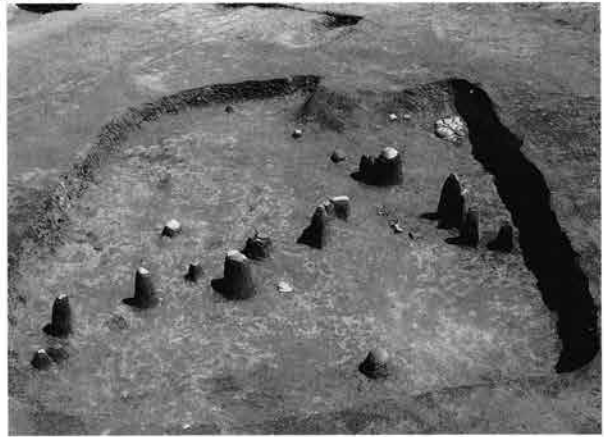
掘り方全景 (西より)



全景 (南西より)



セクション (西より)



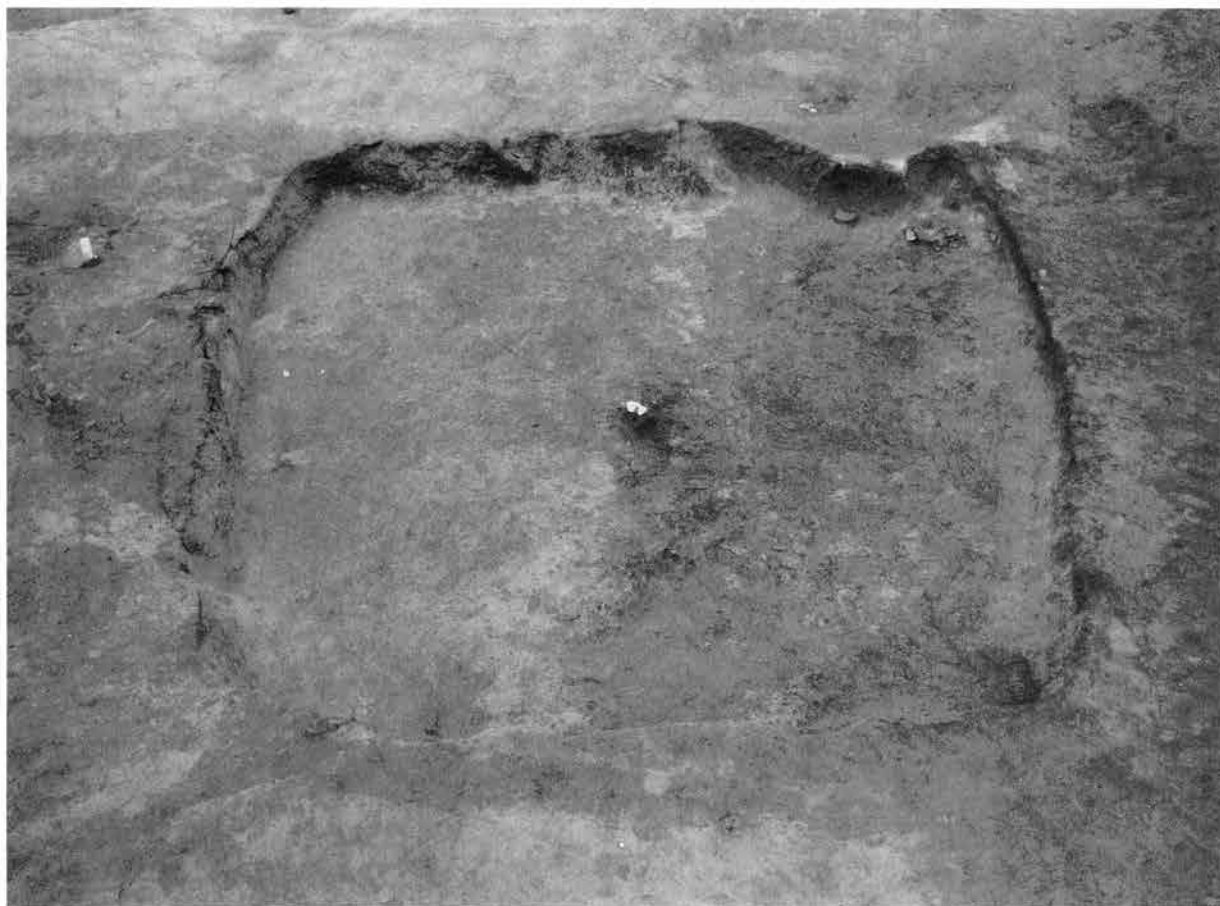
遺物出土状態 (南西より)



カマドセクション (南西より)



遺物出土状態 (西より)



全景（西より）



セクション（南より）





全景 (南より)



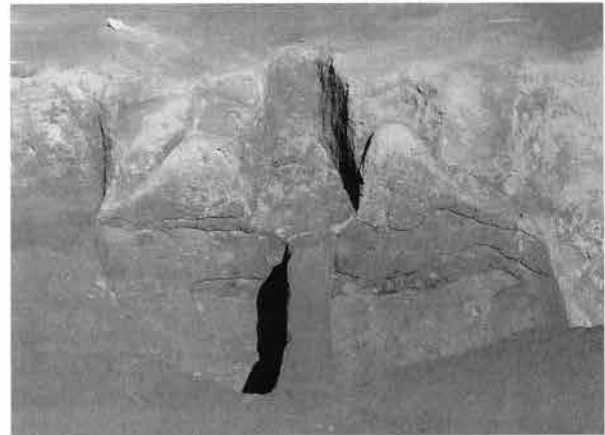
セクション (西より)



遺物出土状態 (西より)



カマド全景 (南東より)



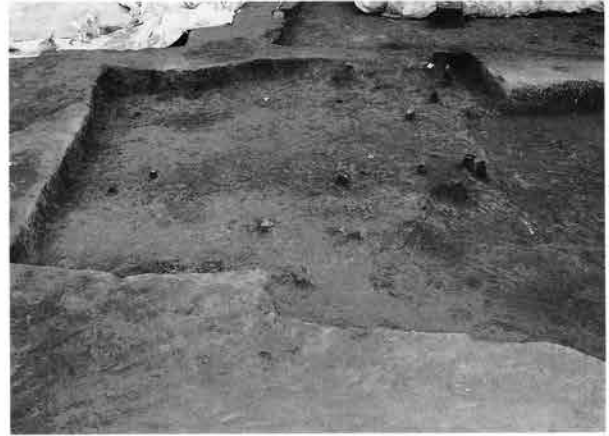
カマド掘り方セクション (南より)



全景 (南より)



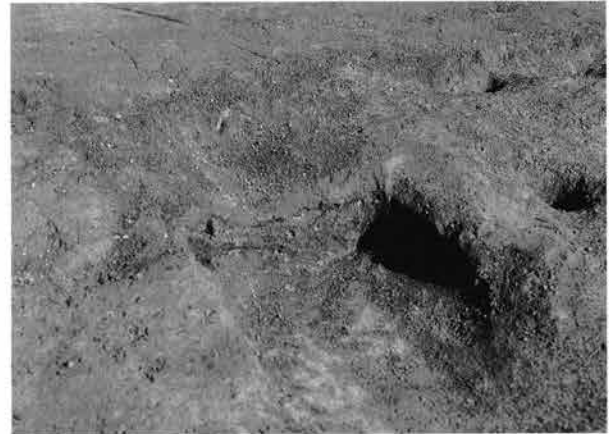
掘り方全景 (西より)



遺物出土状態 (南より)



カマド全景 (南より)



カマドセクション (東より)



全景 (南より)



遺物出土状態 (南より)



遺物(管玉)出土状態



カマドセクション (北西より)



カマド掘り方セクション (南西より)





全景 (西より)



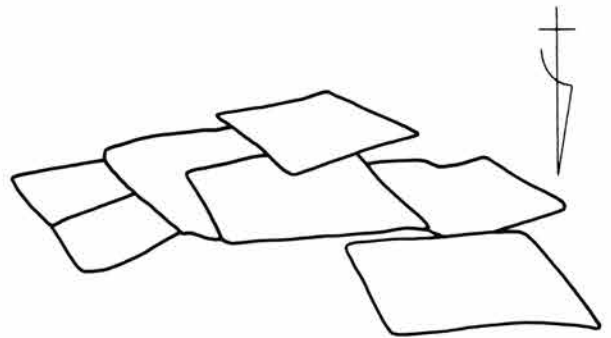
遺物出土状態 (西より)



遺物出土状態 (西より)



重複関係



20号住居 28号住居 27号住居 21号住居 19号住居 18号住居





全景 (西より)



セクション (南より)



遺物出土状態 (西より)



カマド掘り方セクション (西より)



掘り方全景 (西より)



全景 (西より)



セクション (西より)



遺物出土状態 (西より)



カマドセクション (北西より)



掘り方全景 (北西より)



全景 (西より)



遺物出土状態 (西より)



遺物出土状態 (西より)



カマドセクション (西より)



全景 (西より)

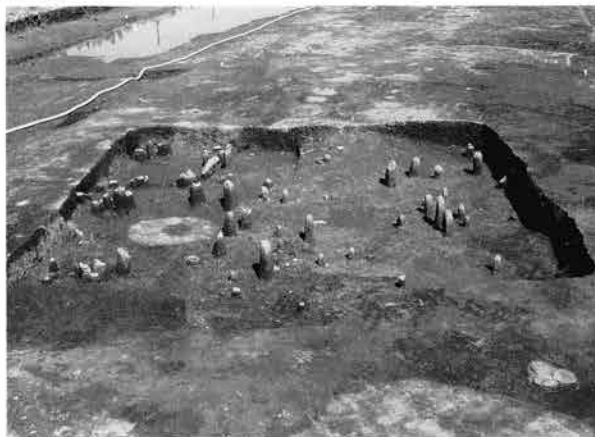




全景 (西より)



セクション (西より)



遺物出土状態 (西より)



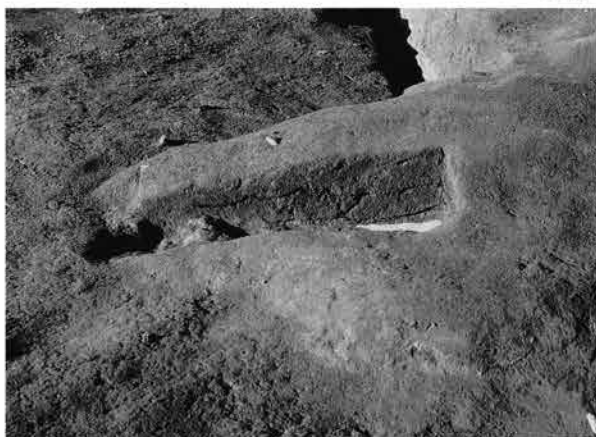
滑石製模造品出土状態



遺物出土状態



全景 (西より)



カマドセクション (南より)



遺物出土状態 (北より)



掘り方セクション



遺物出土状態



全景 (南西より)



セクション (南西より)



遺物出土状態 (南西より)

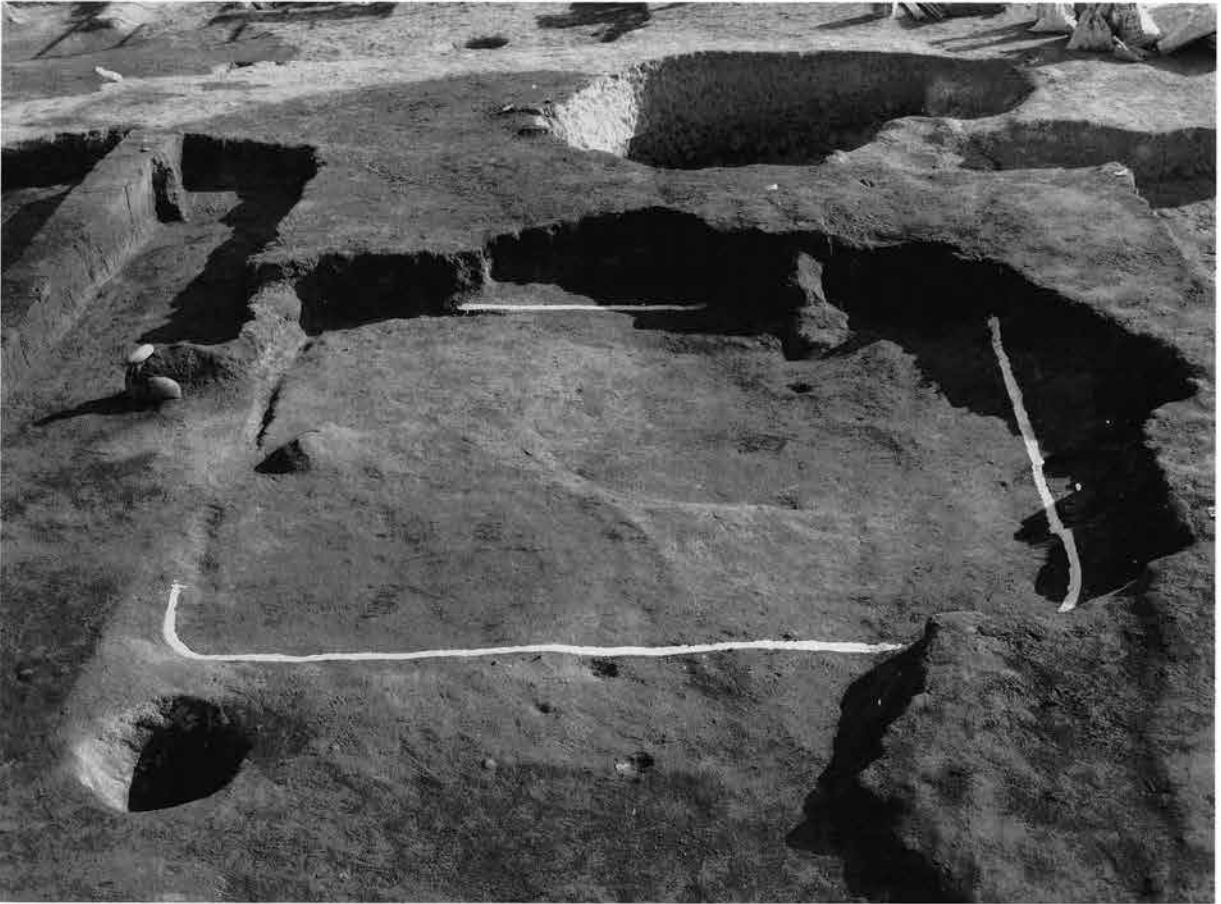


カマド遺物出土状態 (南東より)



遺物出土状態 (南西より)





全景 (西より)



セクション (西より)





全景 (西より)



セクション (西より)



遺物出土状態 (西より)



遺物出土状態



カマド全景(西より)



全景 (南東より)



セクション (西より)



遺物出土状態 (南より)



カマドセクション・遺物出土状態



カマドセクション (南東より)



全景（南より）



遺物出土状態（東より）





全景（西より）



セクション（西より）



セクション（南より）



遺物出土状態（北より）



カマドセクション（南より）



全景（西より）



遺物出土状態（西より）



全景（西より）



セクション（東より）



遺物出土状態（西より）



カマド遺物出土状態（西より）



カマドセクション（北より）



37号住居跡全景（西より）



36号住居跡遺物出土状態





全景 (南より)



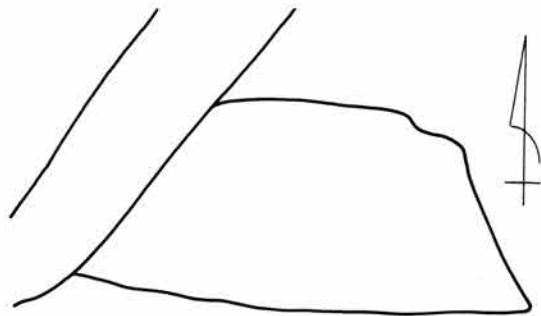
セクション (南より)



遺物出土状態 (東より)



カマドセクション (東より)



5号溝 38号住居



全景 (南より)



遺物出土状態 (南より)



カマドセクション (南より)



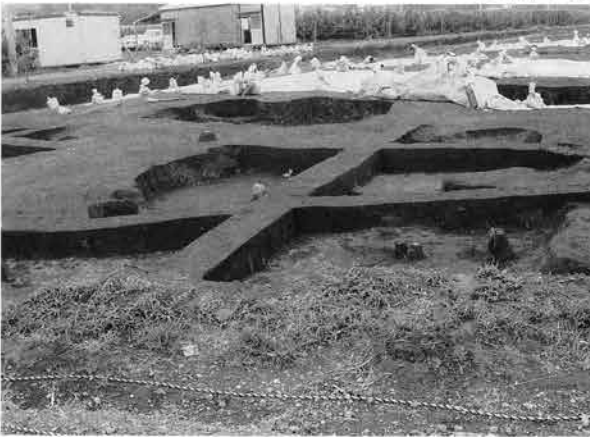
カマド煙道確認状態 (北より)



カマドセクション (東より)



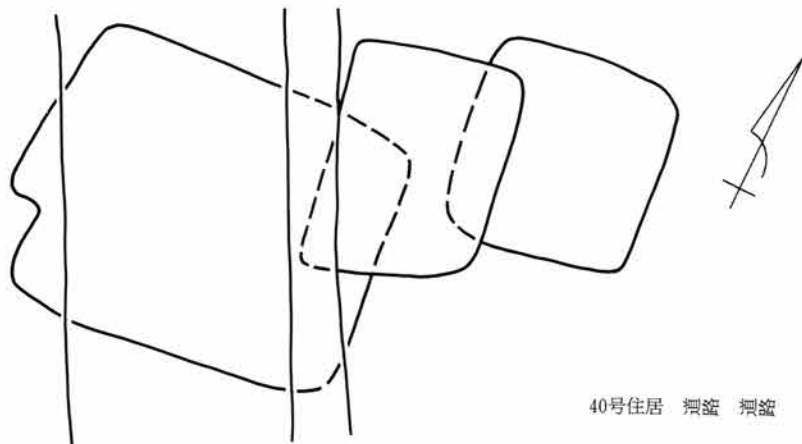
遺物出土状態（北より）



セクション（西より）



遺物出土状態（西より）



40号住居 溝跡 道路





遺物出土状態 (西より)



セクション (南より)



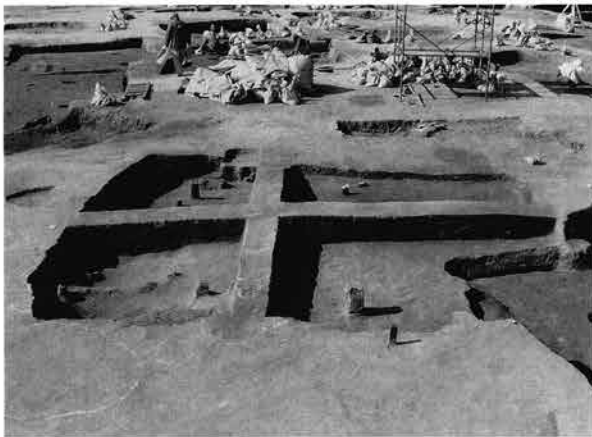
カマドセクション (北より)



カマド全景 (西より)



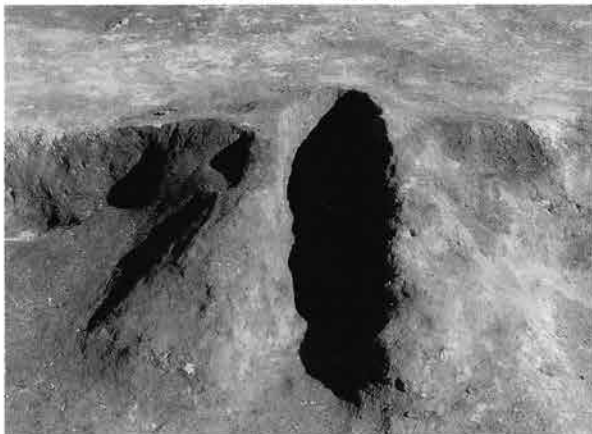
遺物出土状態 (西より)



セクション (東より)



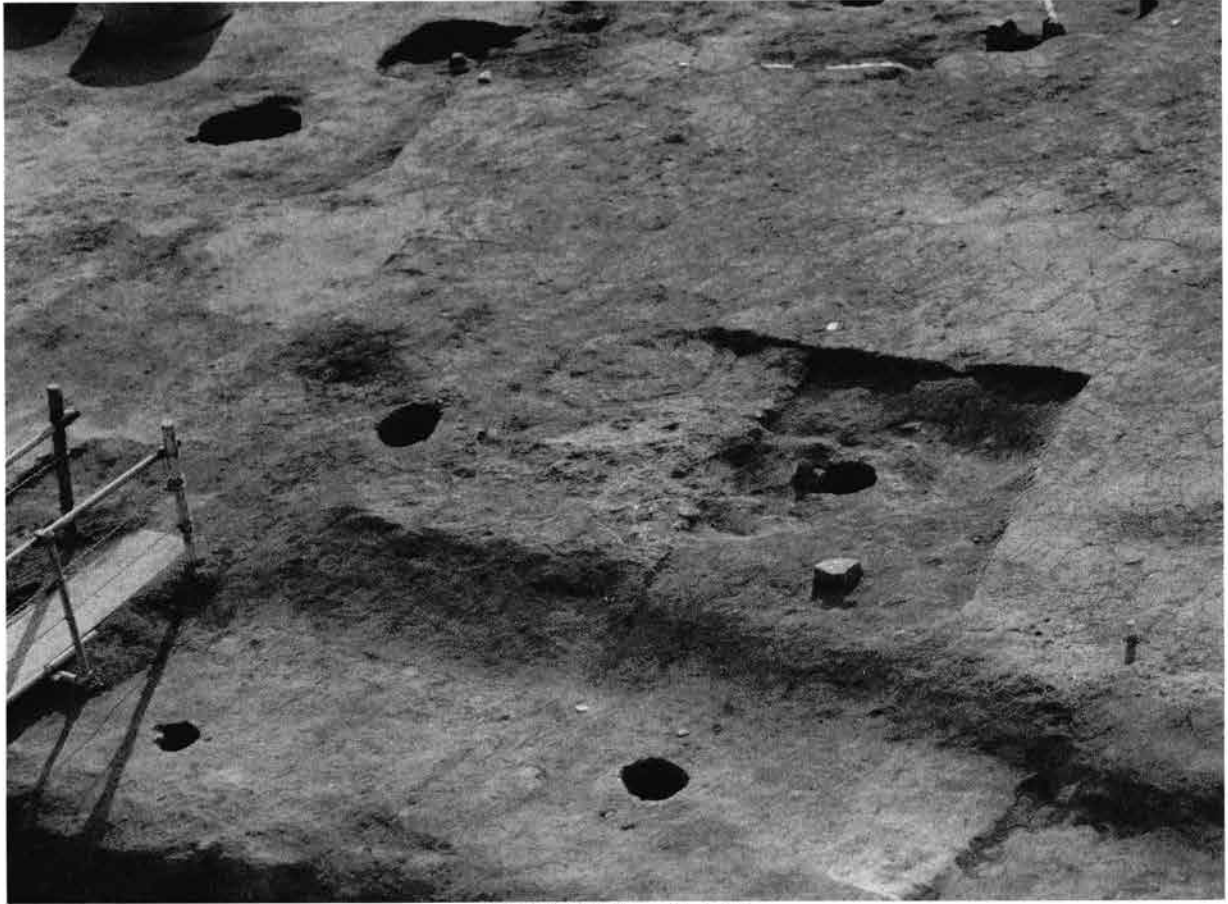
全景 (西より)



カマド全景 (西より)



カマド遺物出土状態 (南より)



42号住居跡全景（北より）



44号住居跡全景（西より）





45号住居跡遺物出土状態（西より）



47号・48号住居跡遺物出土状態（北より）





遺物出土状態 (西より)



セクション (西より)



ピット遺物出土状態



カマド全景 (西より)



カマド掘り方セクション (西より)



50号・51号住居跡全景（西より）



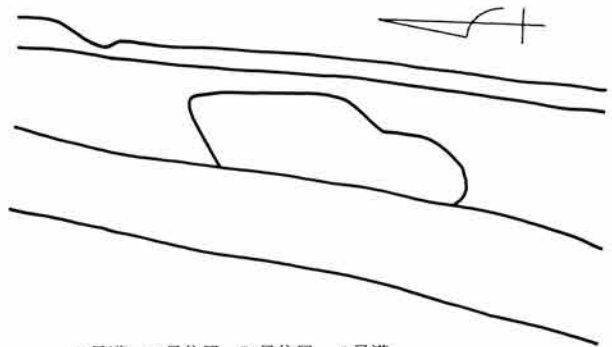
50号・51号住居跡セクション（南より）



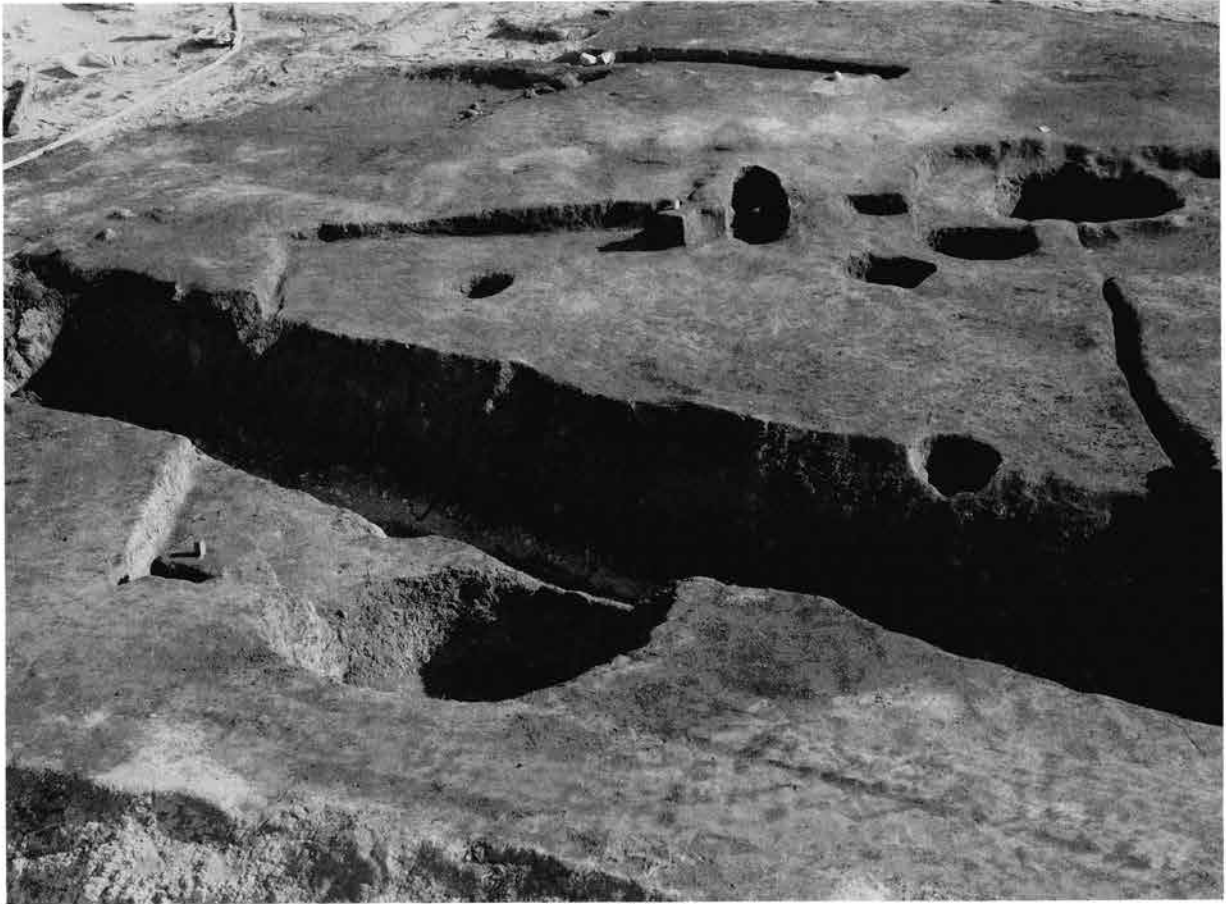
50号・51号住居跡セクション（南より）



50号・51号住居跡遺物出土状態（東より）



5号溝 50号住居 51号住居 4号溝



全景 (西より)



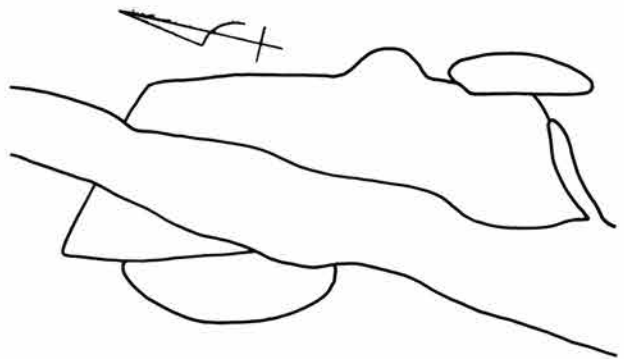
遺物出土状態 (西より)



貯蔵穴セクション



カマドセクション (南より)







53号住居跡全景（西より）



54号・55号住居跡遺物出土状態（北より）



56号住居跡全景（西より）



58号住居跡遺物出土状態（東より）



遺物出土状態 (西より)



遺物出土状態近景



遺物出土状態近景

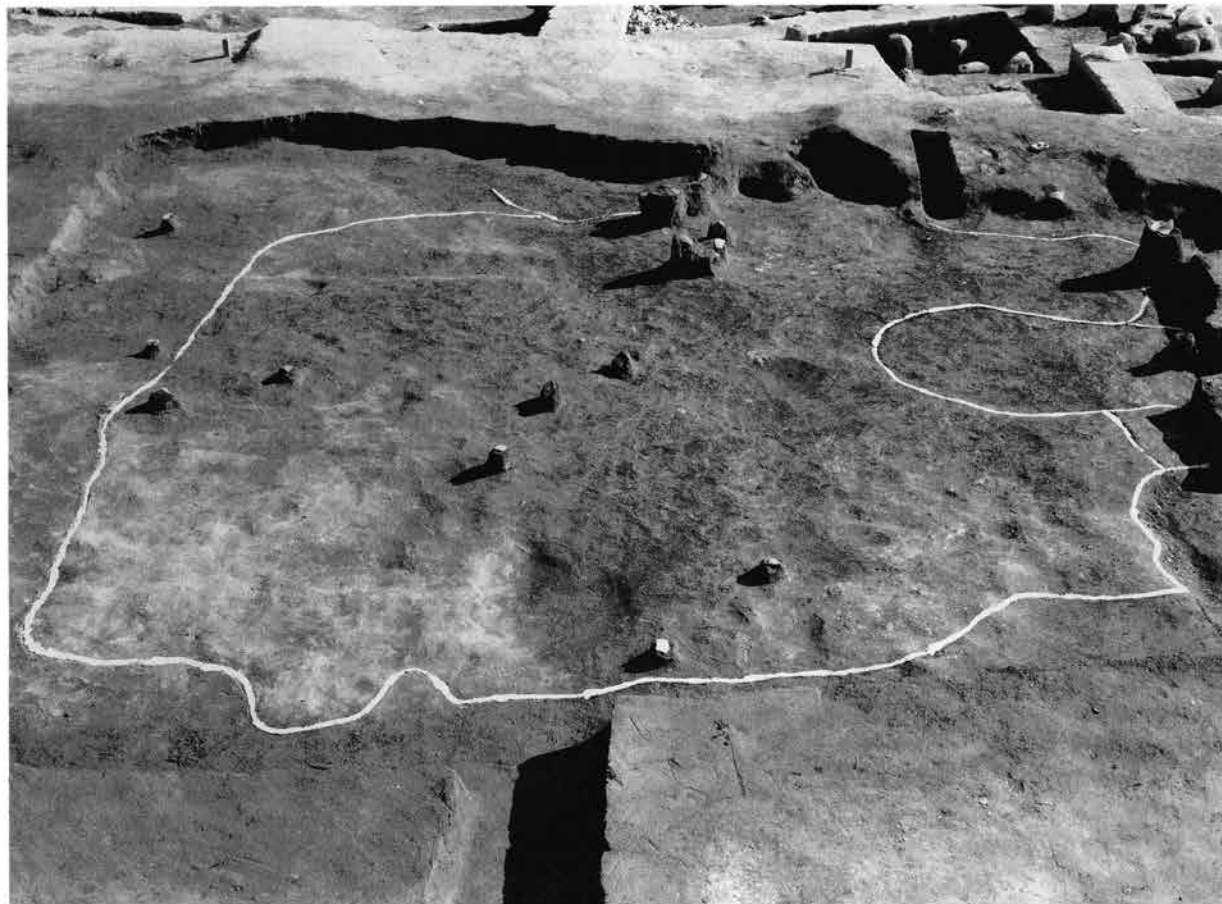


遺物出土状態近景



59・60号住居 62号井戸





遺物出土状態 (西より)



遺物出土状態近景



遺物出土状態近景



遺物出土状態近景



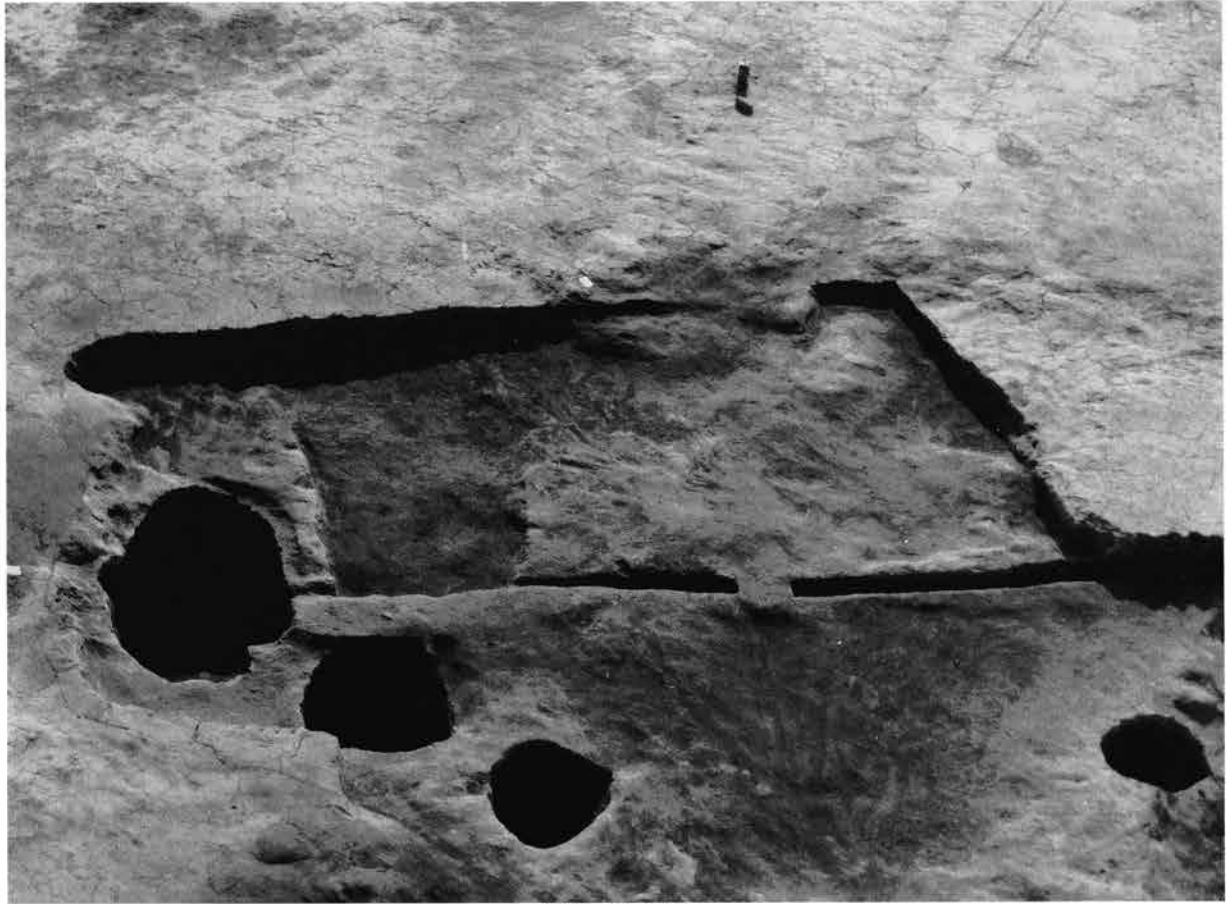
遺物出土状態近景



60号住居跡全景 (西より)



62号住居跡全景 (東より)

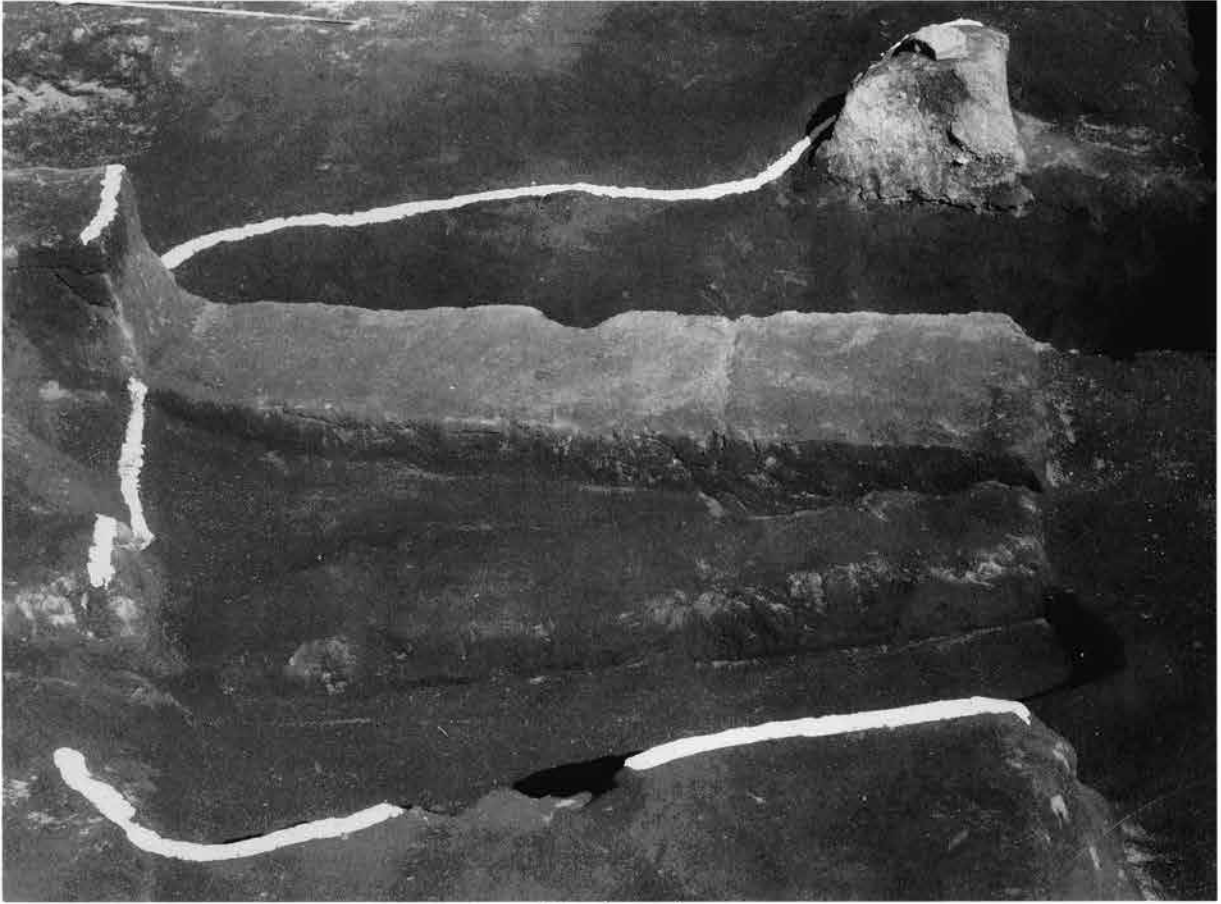


全景（北より）



63号・49号・61号住居跡周辺全景（北より）

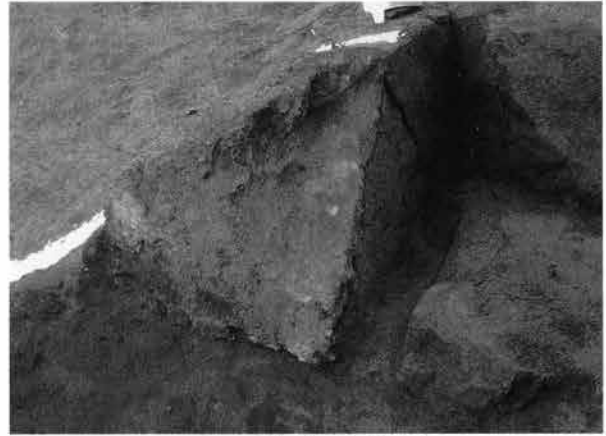




全景 (西より)



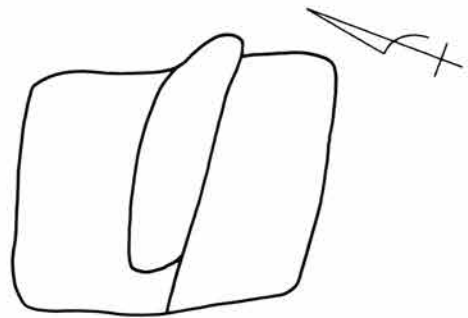
セクション (南より)



カマド全景 (西より)



カマドセクション (南より)



64号住居



1号井戸



1号井戸



2号井戸



2号井戸



3号井戸



3号井戸



4号井戸



4号井戸



5号井戸



6号井戸



7号井戸



8号井戸



9号井戸



9号井戸



10号井戸



10号井戸





11号井戸



11号井戸



12号井戸



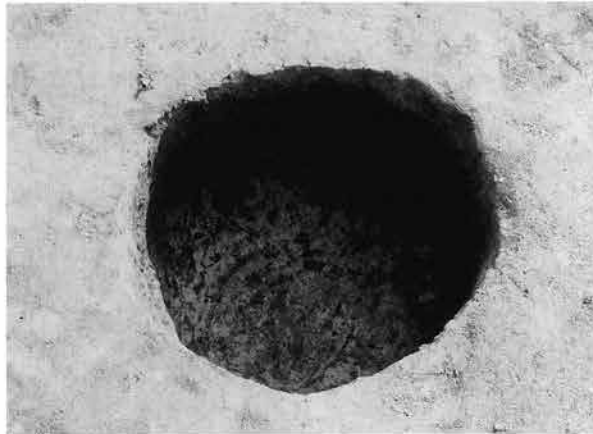
12号井戸



12号井戸



14号井戸



15号井戸



16号井戸



17号井戸



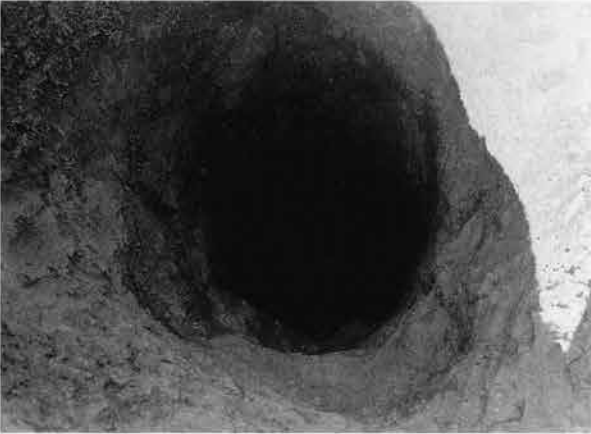
17号井戸



17号井戸



18号井戸



19号井戸



19号井戸



20号井戸



21号井戸



21号井戸



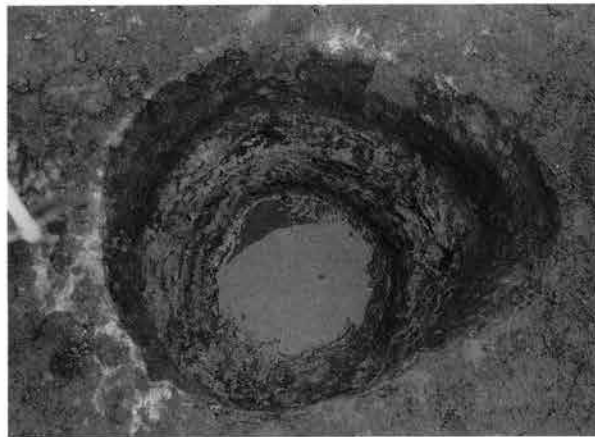
22号井戸



22号井戸



23号井戸



24号井戸



25号井戸

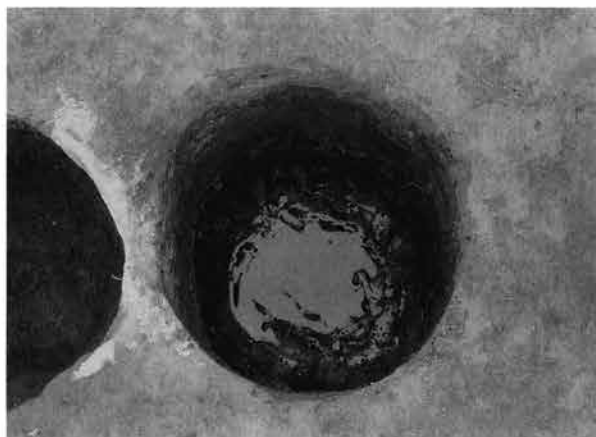


26号井戸



27号井戸





27号井戸



29号井戸



30号井戸



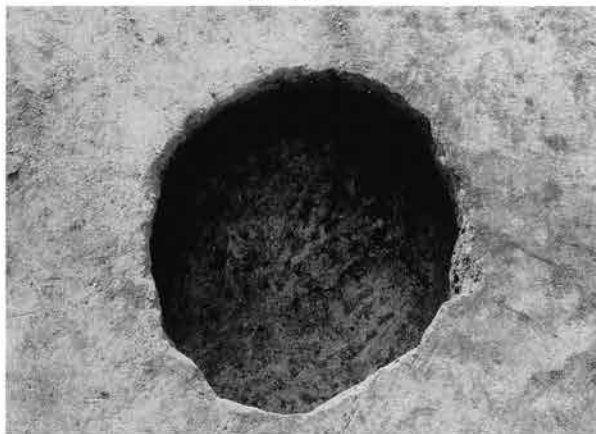
31号井戸



31号井戸



32号井戸



33号井戸



34号井戸



35号井戸



36号・37号井戸



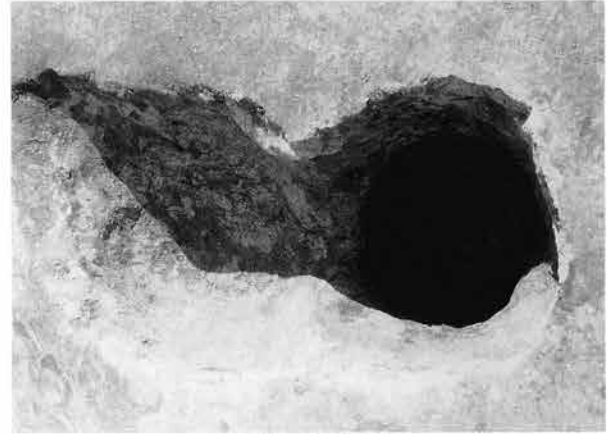
38号井戸



38号井戸



39号井戸



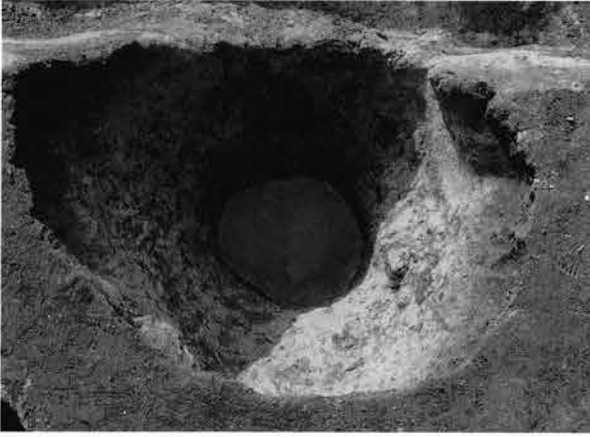
40号・41号井戸



41号井戸



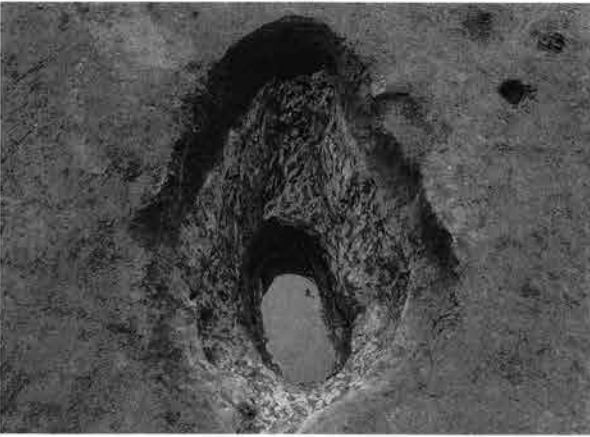
42号井戸



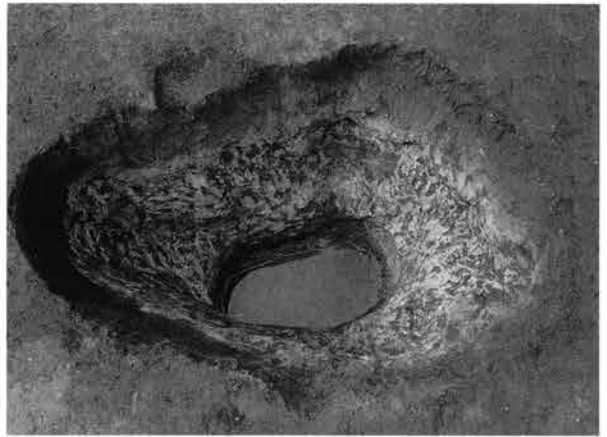
43号井戸



43号井戸



44号井戸



44号井戸



45号井戸



46号井戸



47号井戸

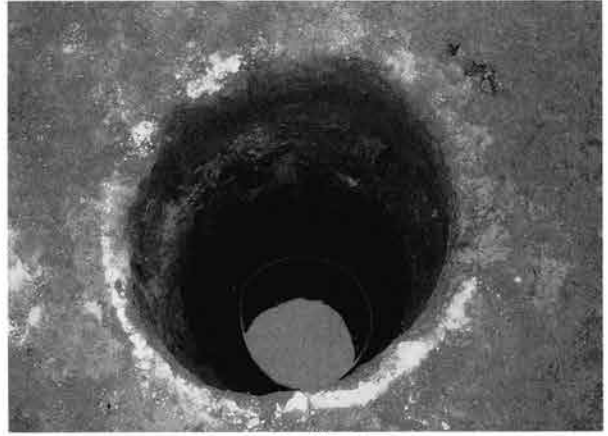


47号井戸





47号井戸



48号井戸



49号井戸



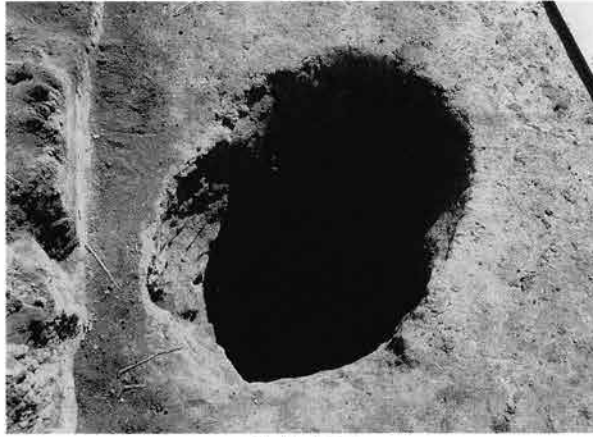
50号井戸



51号井戸



51号井戸



52号井戸



52号井戸



53号井戸



55号井戸



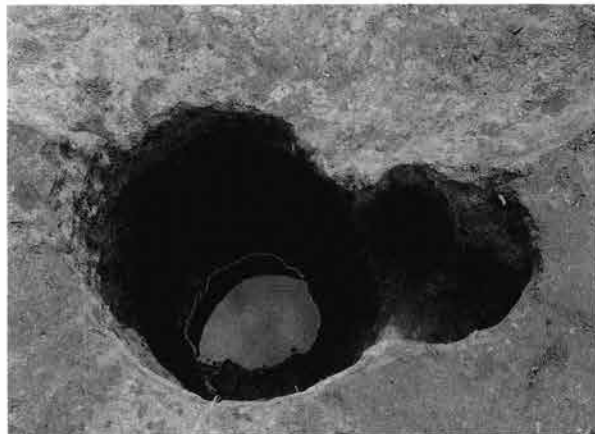
56号井戸



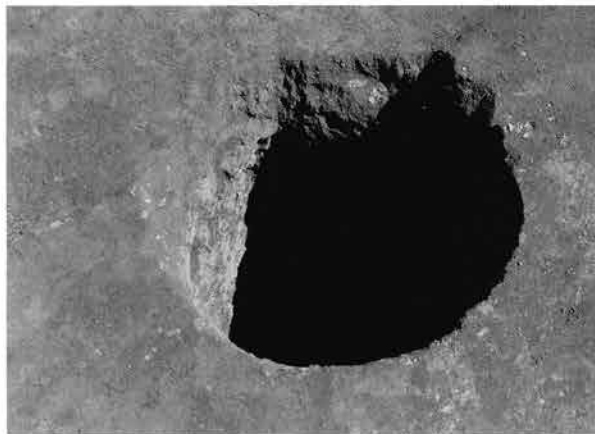
57号井戸



58号井戸



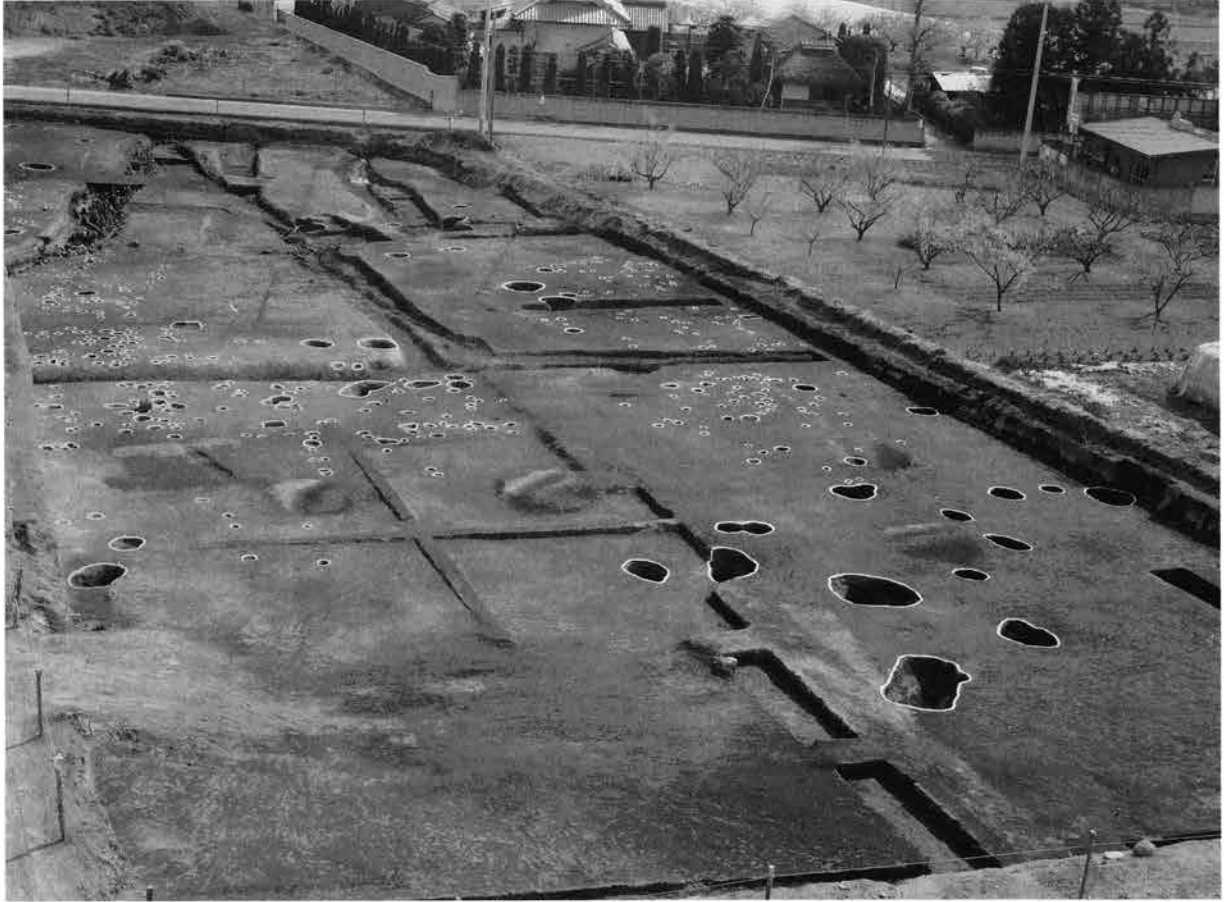
59号井戸



60号井戸



61号井戸

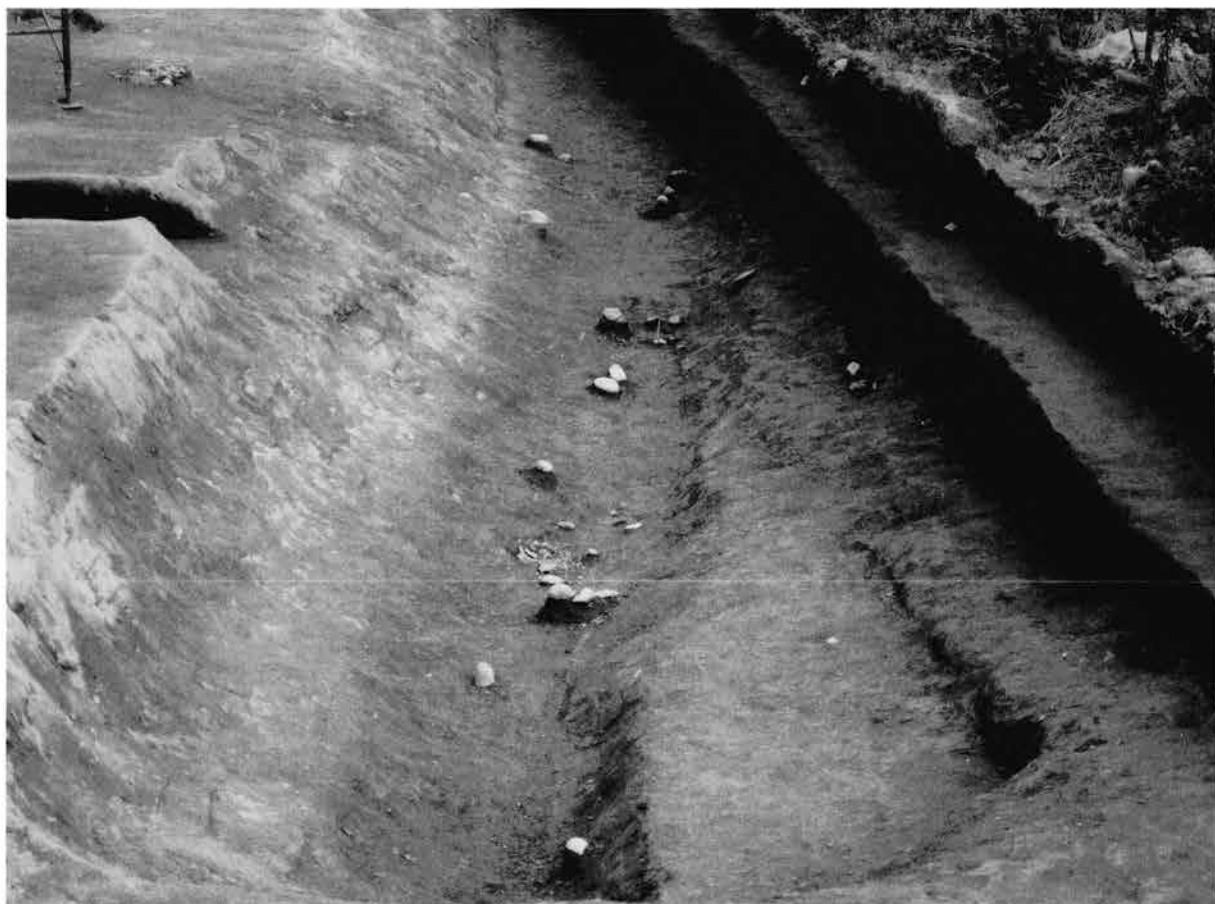


遺跡東端部遠景（西より）



遺跡中央～西端部遠景（北東より）

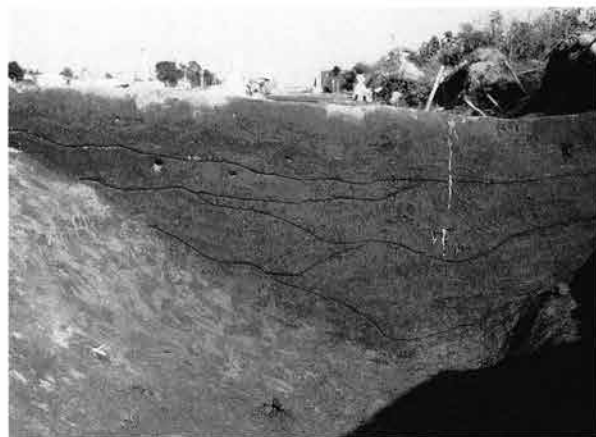




東端部土橋東側全景 (西より)



中央部セクション (西より)



東端部セクション (北より)



中央部遺物出土状態



中央部全景 (西より)



東側部全景 (西より)



全景 (東より)



全景 (西より)



西端部セクション (東より)



4号溝合流部セクション (南より)



遺物出土状態 (東より)



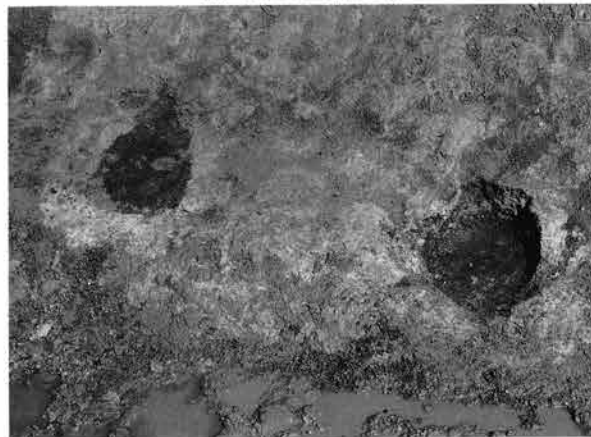
底面板碑出土状態



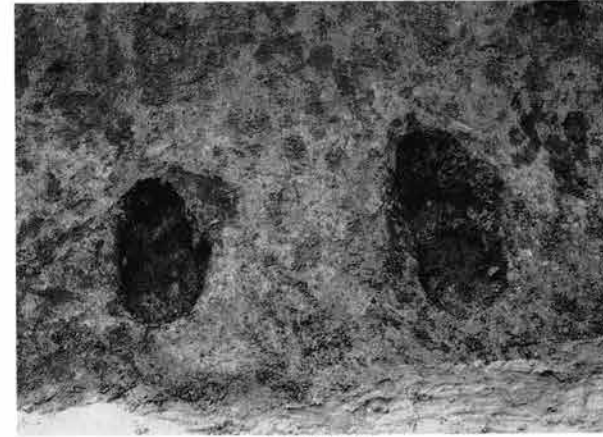
溝内敷石(五輪塔)跡



溝内敷石(五輪塔)跡



木橋柱穴跡



木橋柱穴跡





4号・5号溝全景 (南より)



4号・5号溝全景 (北より)



4号溝南端部セクション (北より)



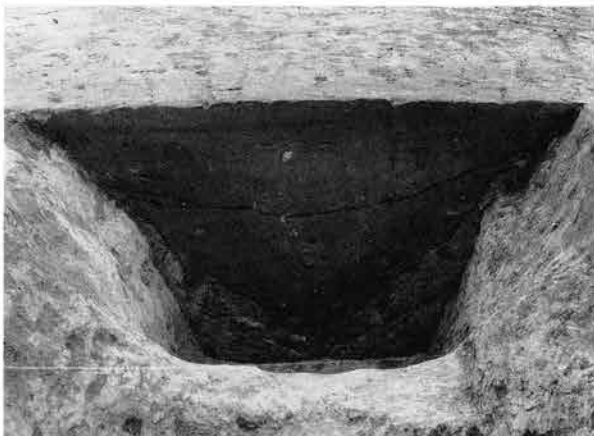
4号溝遺物出土状態 (南より)



4号溝南端部セクション (北より)



全景 (北より)



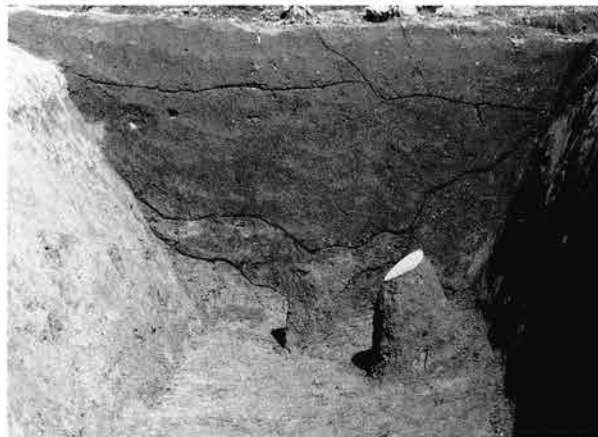
仕切り部北側セクション (南より)



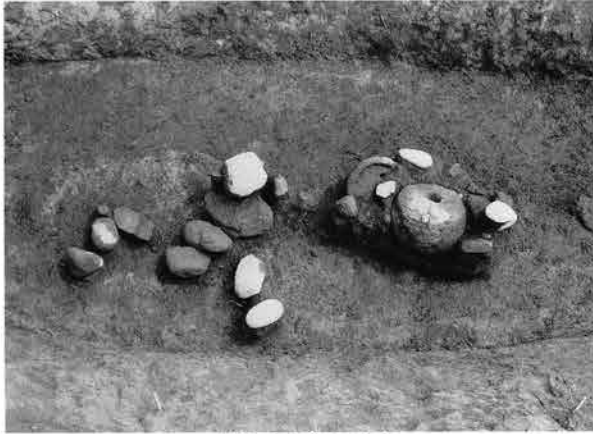
南端部セクション (北より)



南端部セクション (北より)



セクション (北より)



遺物出土状態近景



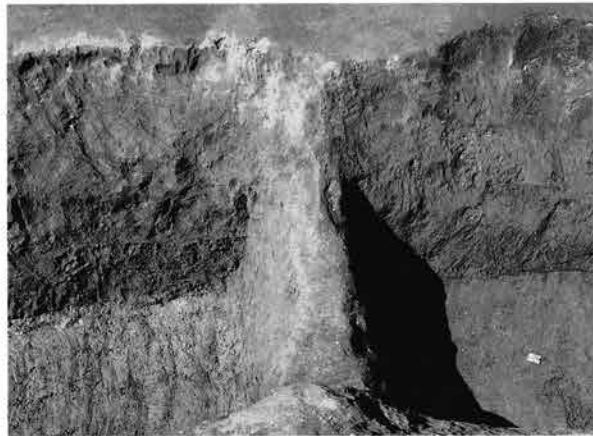
遺物出土状態近景



仕切り部 (北より)



遺物出土状態 (北より)



仕切り部近景



4号・5号溝全景 (北より)



仕切り部 (南より)





全景 (北より)



遺物出土状態 (北より)



セクション (北より)



仕切り部近景



遺物出土状態近景



遺物出土状態近景



全景 (東より)



3号・7号溝全景 (西より)



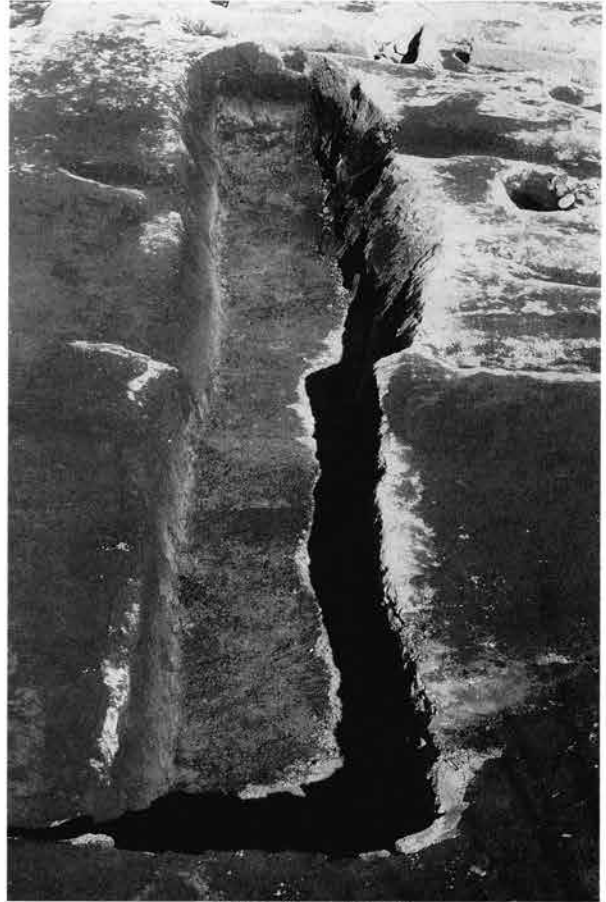
セクション



全景 (西より)



8号溝遺物出土状態 (南より)



9号溝全景 (南より)



9号溝遺物出土状態



9号溝仕切り部

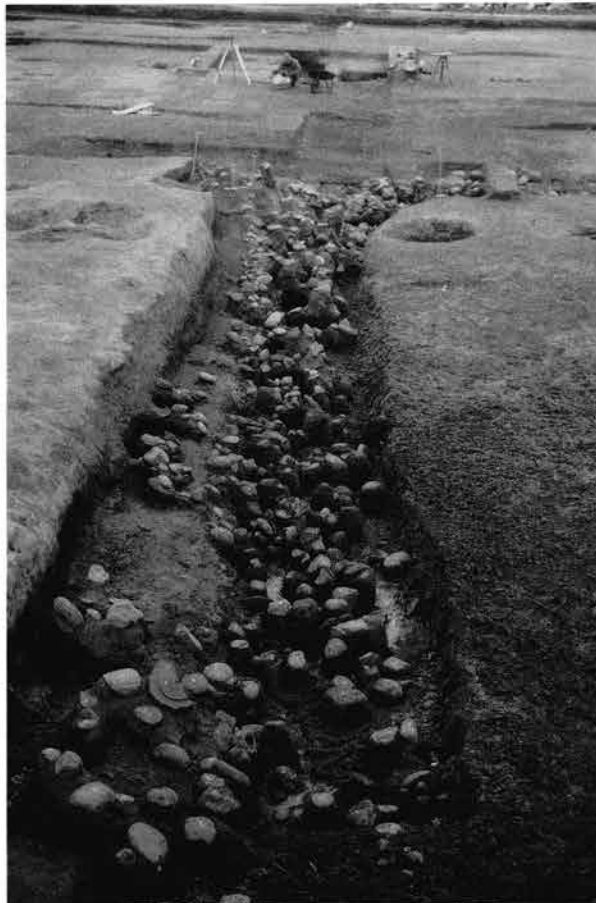


9号溝遺物出土状態 (南より)





全景 (東より)



西端部遺物出土状態 (東より)



遺物出土状態近景



遺物出土状態近景



遺物出土状態（東より）



全景（東より）



セクション



遺物出土状態近景



遺物出土状態近景



遺物出土状態近景



全景 (西より)



西端部セクション (南より)



遺物出土状態近景



遺物出土状態近景



遺物出土状態近景





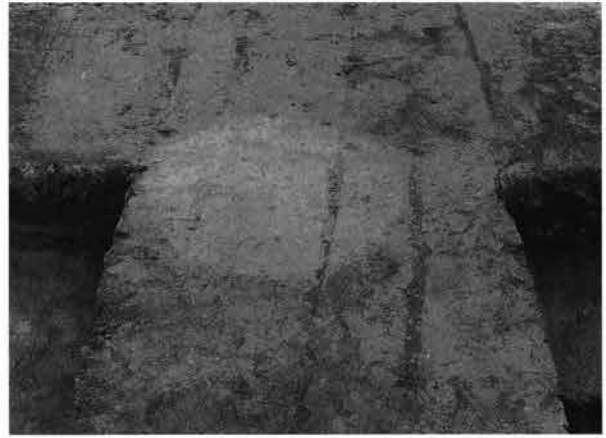
旧石器 2号土坑



旧石器 1号土坑



旧石器 2号土坑セクション



旧石器 2号土坑確認状態



旧石器試掘トレンチ設定状況遠景



1号土坑遺物出土狀態



2号土坑遺物出土狀態



3号土坑



4号土坑遺物出土狀態



4号土坑遺物出土狀態



4号土坑人齒出土狀態



4号土坑人齒出土狀態近景



5号土坑遺物出土狀態



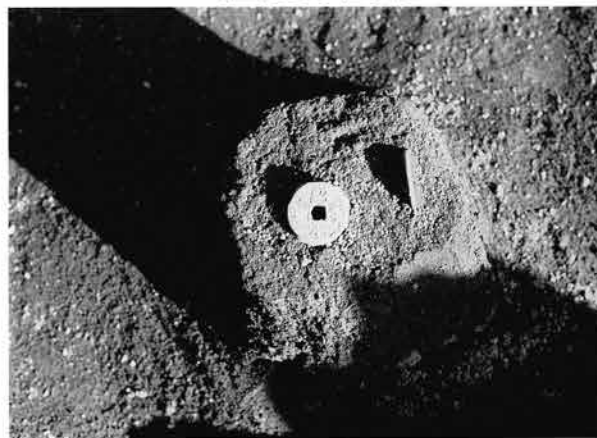
5号土坑



6号土坑遺物出土状態



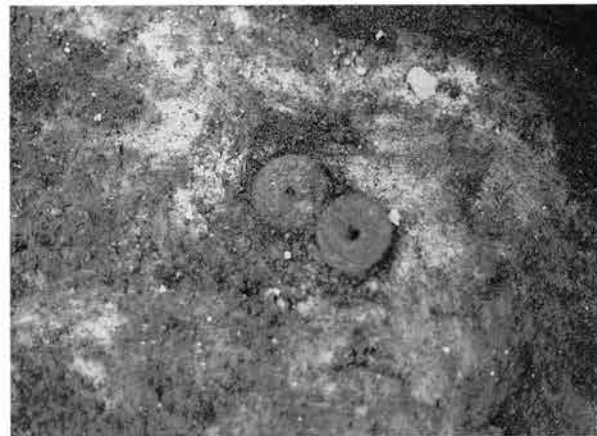
7号土坑遺物出土状態



7号土坑遺物出土状態近景



8号土坑遺物出土状態



8号土坑遺物出土状態近景



9号土坑



17号土坑遺物出土状態





18号土坑遺物出土狀態



18号土坑遺物出土狀態近景



18号土坑



20号·21号土坑



22号土坑



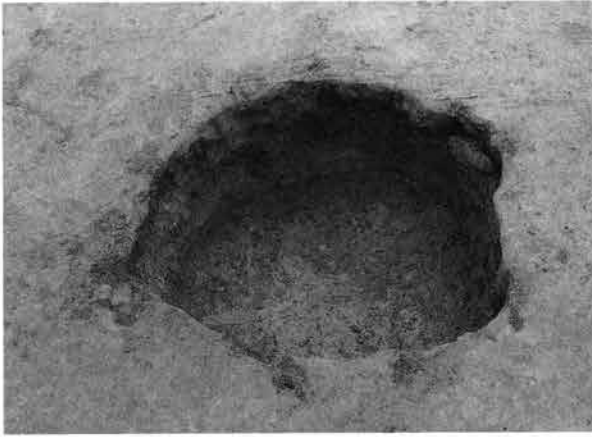
23号土坑



24号土坑遺物出土狀態



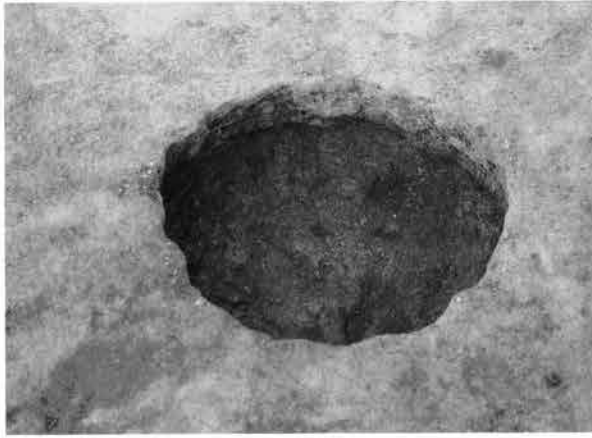
25号土坑遺物出土狀態



25号土坑



26号土坑遺物出土状態



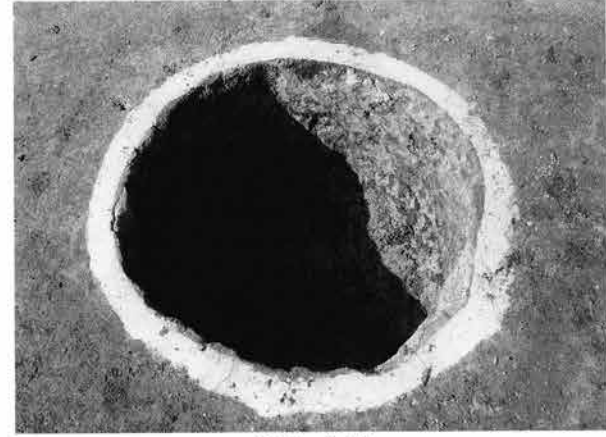
26号土坑



27号土坑遺物出土状態



28号土坑



29号土坑



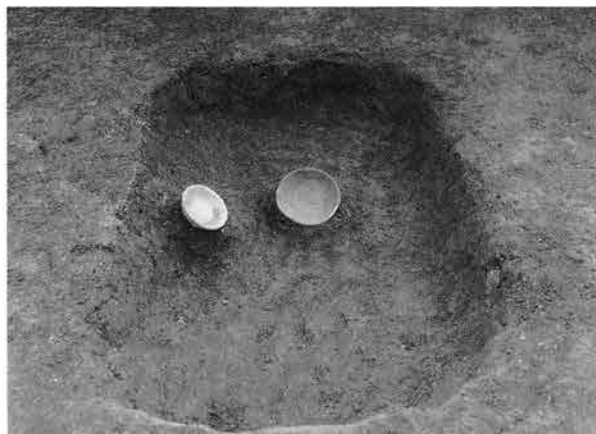
34号土坑遺物出土状態



34号土坑



35号土坑遺物出土狀態



35号土坑遺物出土狀態



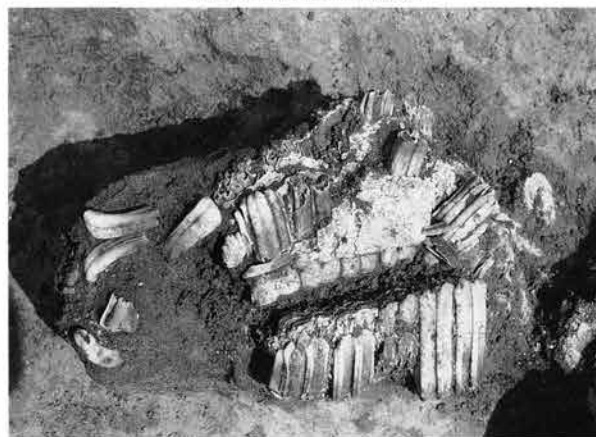
36号土坑



38号土坑馬骨出土狀態



38号土坑馬骨出土狀態



38号土坑馬骨出土狀態



38号土坑

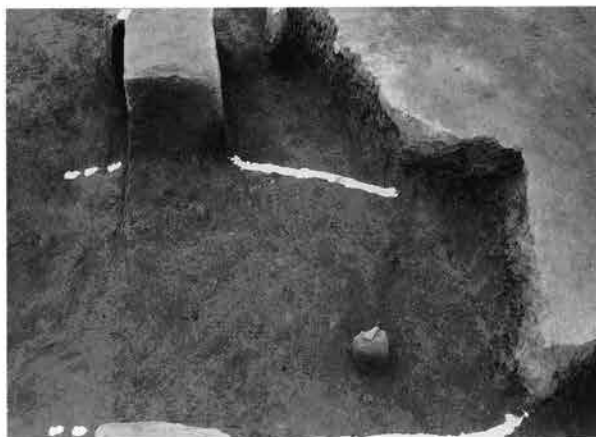


39号土坑遺物出土狀態





40号土坑遺物出土状態



41号土坑



42号土坑



46号土坑



45号土坑人骨出土状態



48号土坑



58号土坑



61号土坑遺物出土狀態



61号土坑



62号土坑



62号土坑



63号土坑



72号土坑



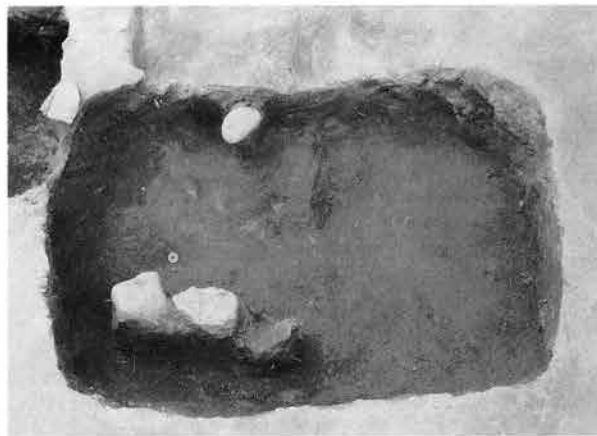
72号土坑



72号土坑



76号・77号土坑遺物出土状態



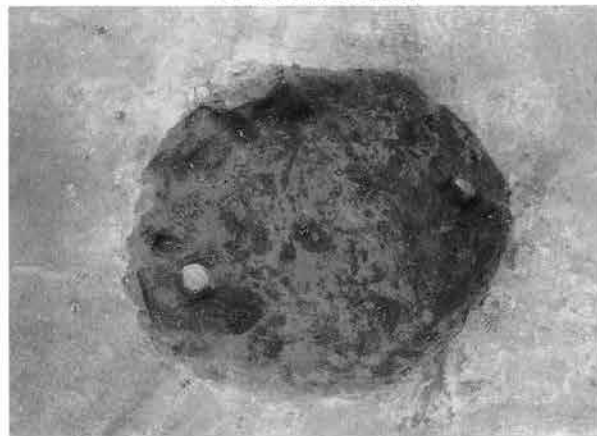
76号土坑遺物出土状態



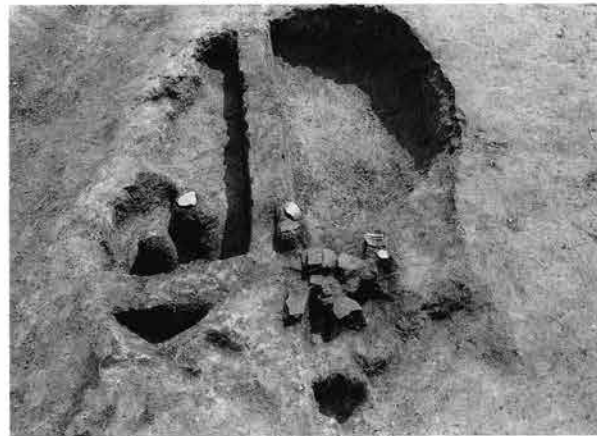
77号土坑遺物出土状態



77号土坑遺物出土状態近景



78号土坑



79号土坑遺物出土状態

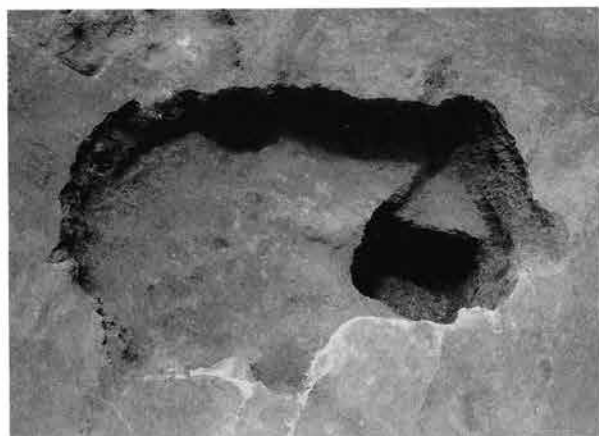


80号土坑

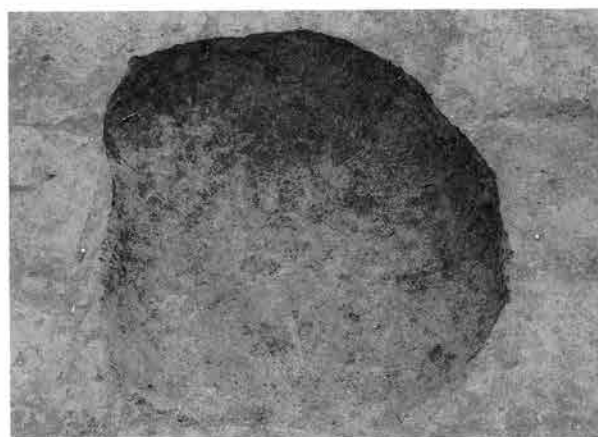


81号土坑遺物出土状態





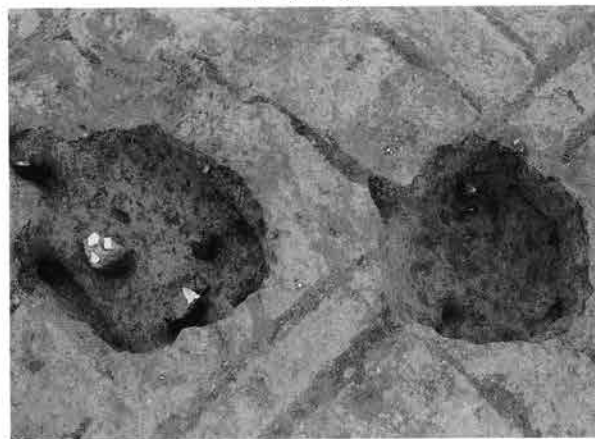
81号土坑



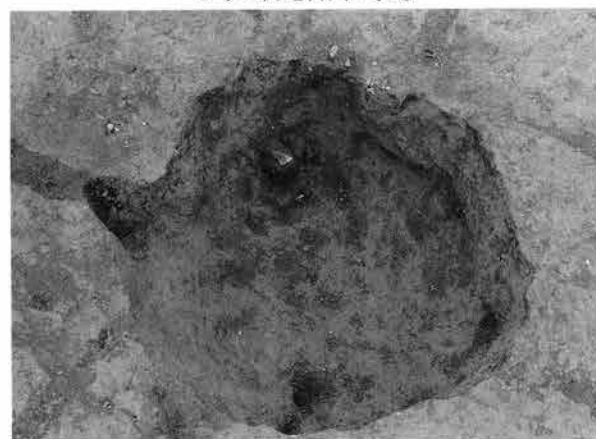
82号土坑



83号土坑遺物出土狀態



83号·84号土坑



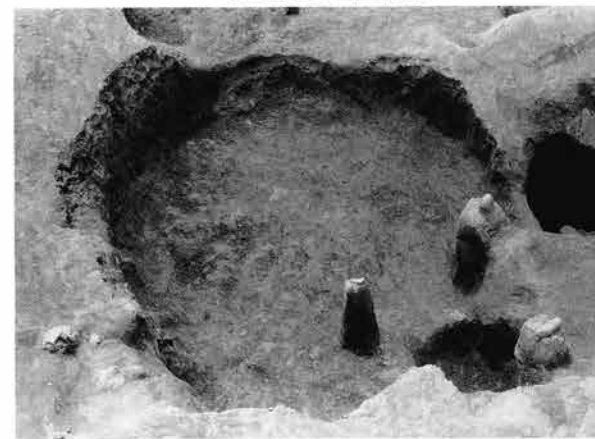
84号土坑



85号土坑遺物出土狀態



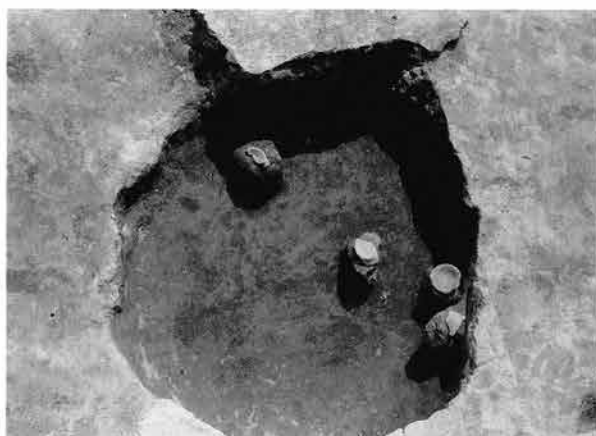
85号土坑



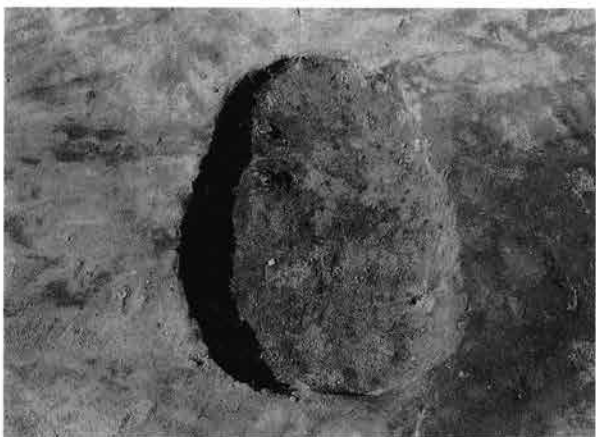
86号土坑



87号・88号土坑



88号土坑遺物出土状態



89号土坑



90号土坑



91号土坑



92号土坑



93号土坑



94号土坑



94号·95号·96号·97号土坑



97号土坑



98号土坑



99号土坑



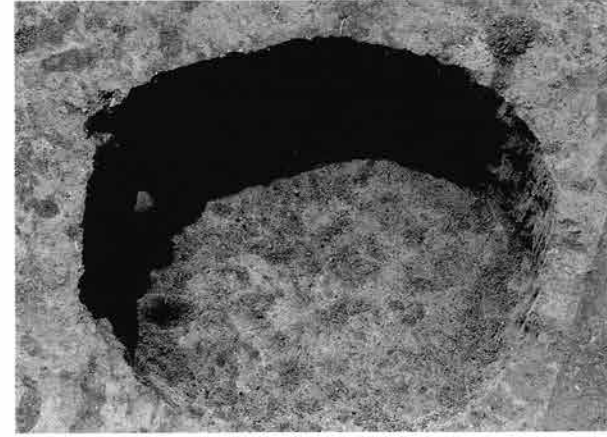
100号土坑



101号土坑



102号土坑



103号土坑





104号土坑



105号土坑



107号土坑



109号土坑



110号土坑



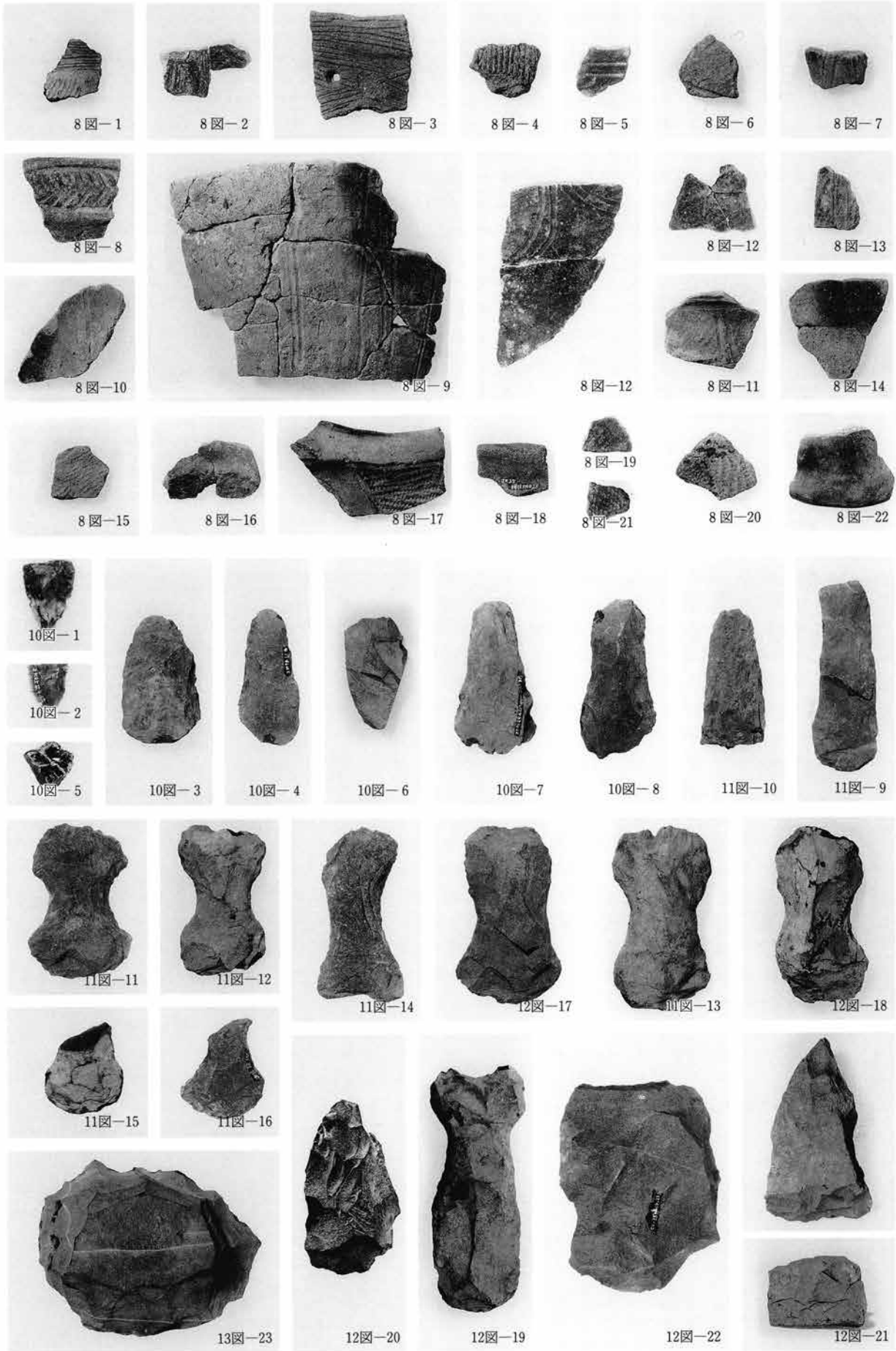
111号土坑

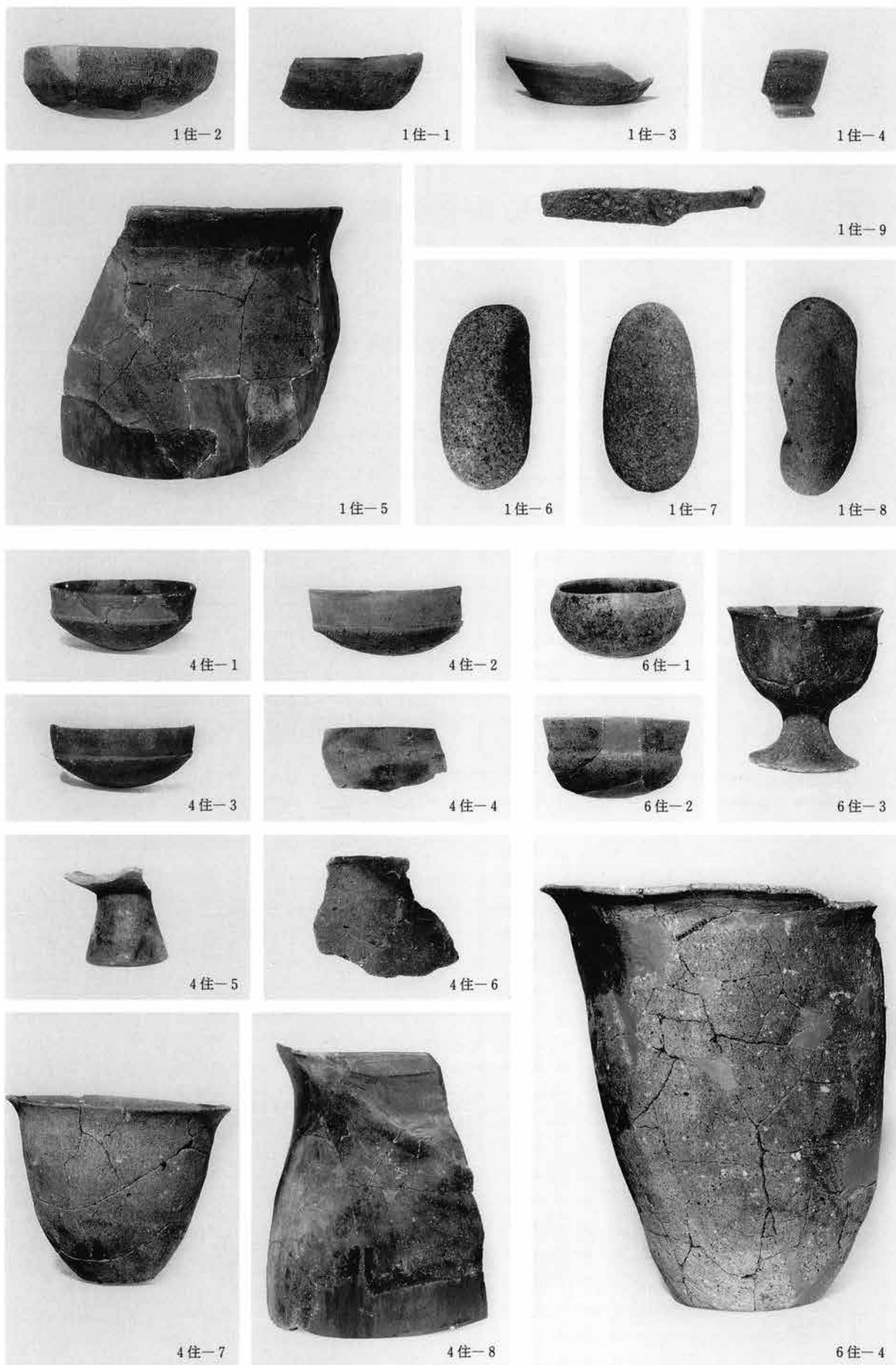


112号土坑



113号土坑









7住-1



7住-2



7住-3



7住-4



8住-1



8住-2



8住-3



8住-7



8住-4



8住-5



8住-6



9住-1



9住-2



9住-3



9住-4



9住-5



9住-6



9住-7



9住-8



9住-9



9住-10



9住-11



9住-12



9住-13



9住-14



9住-16



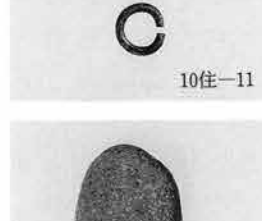
9住-17

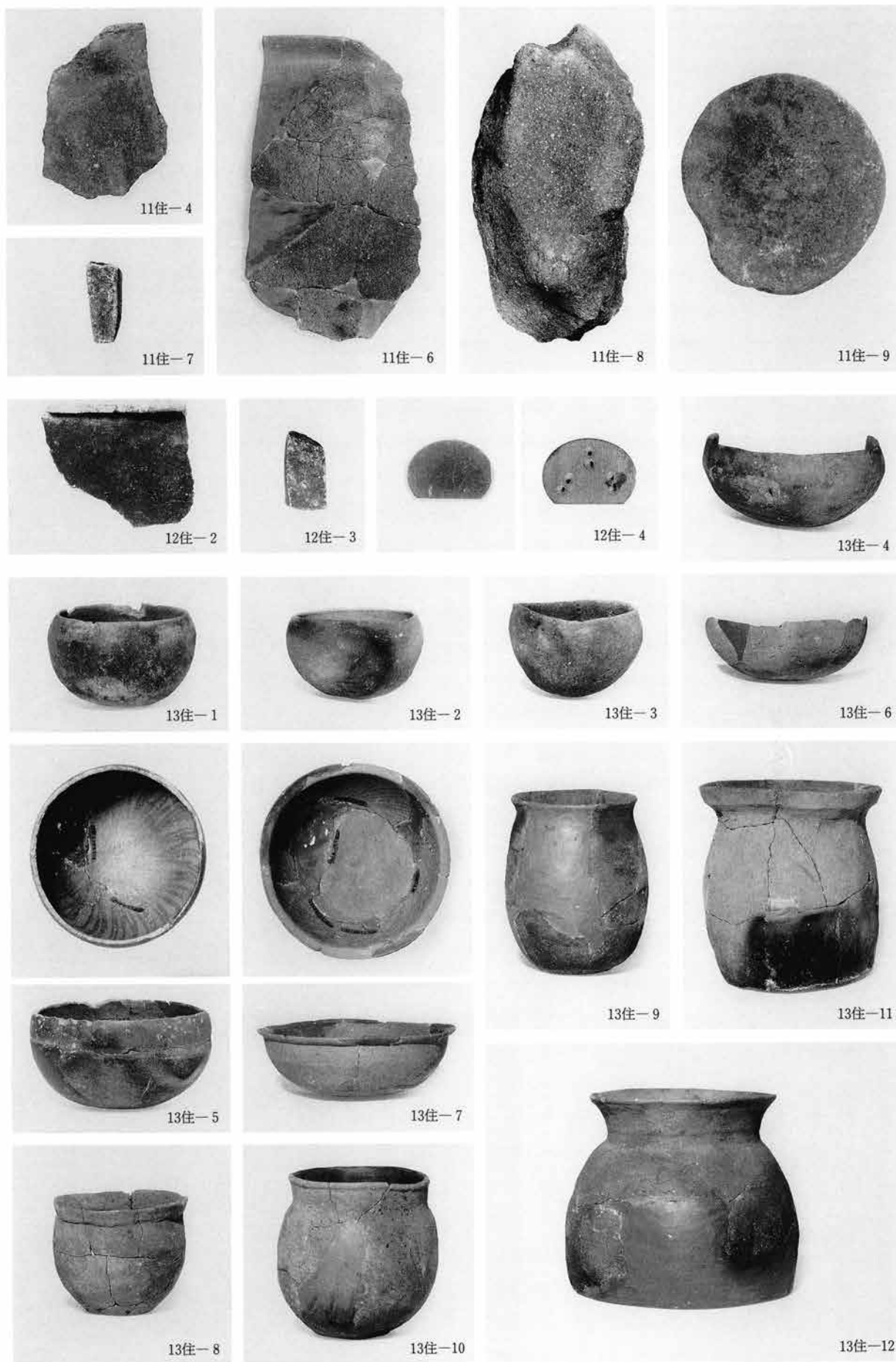


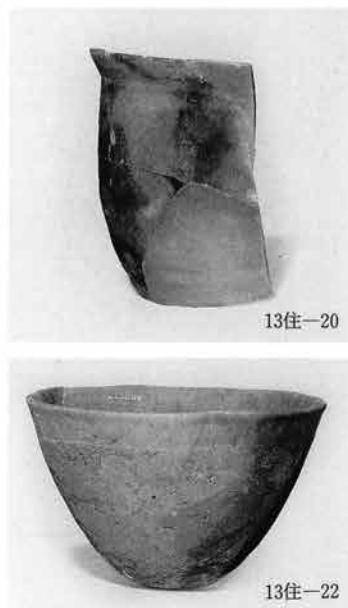
9住-15



9住-18

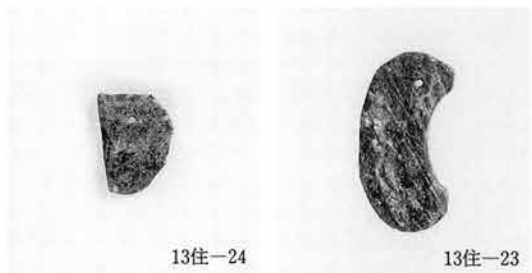








13住-19



13住-24

13住-23



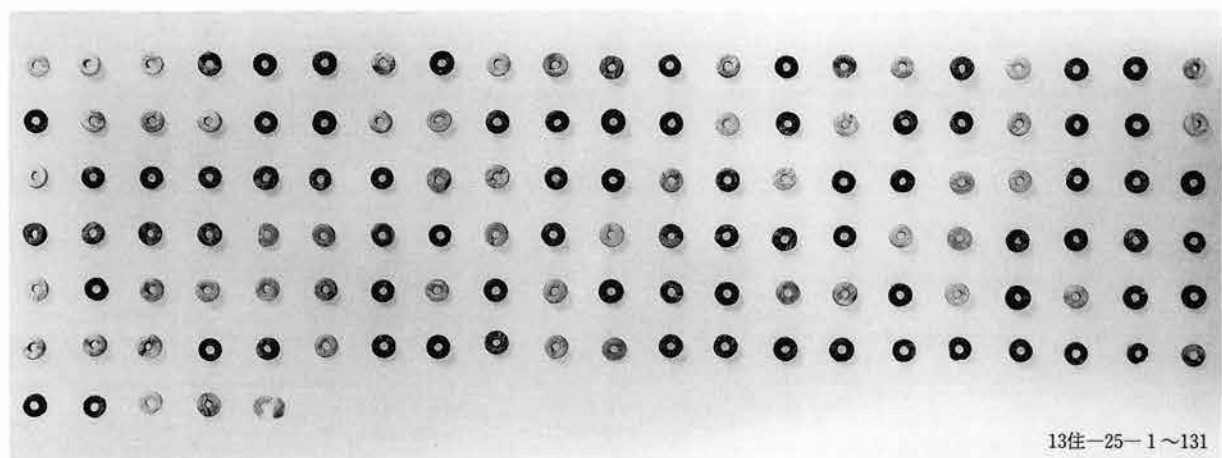
13住-31



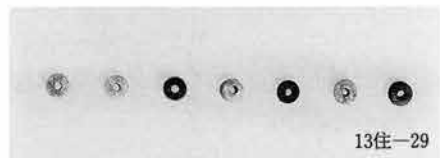
13住-21



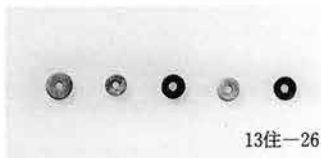
13住-30



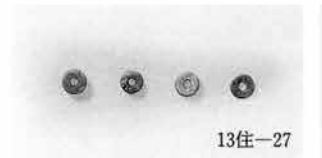
13住-25-1 ~ 131



13住-29



13住-26

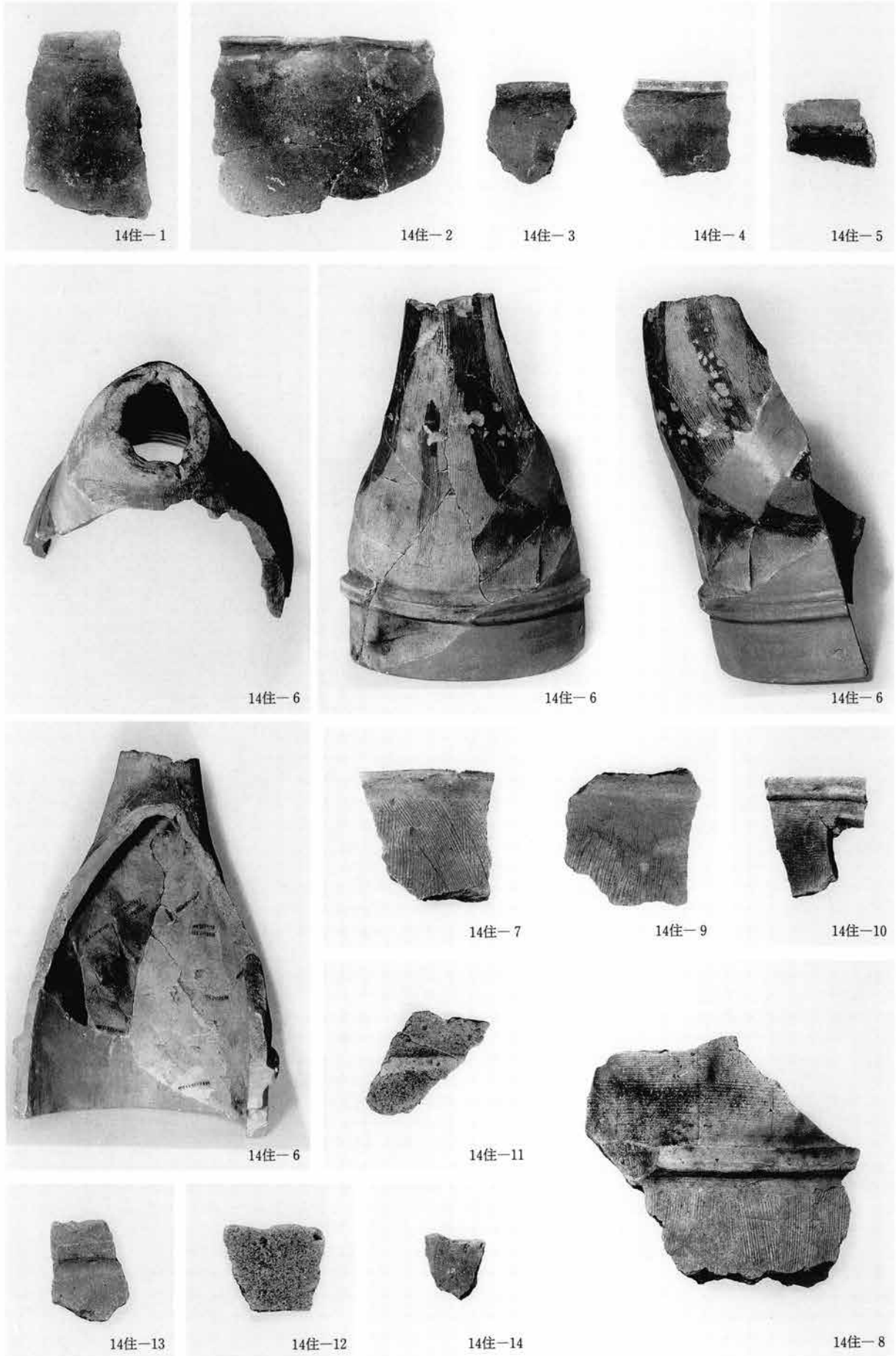


13住-27

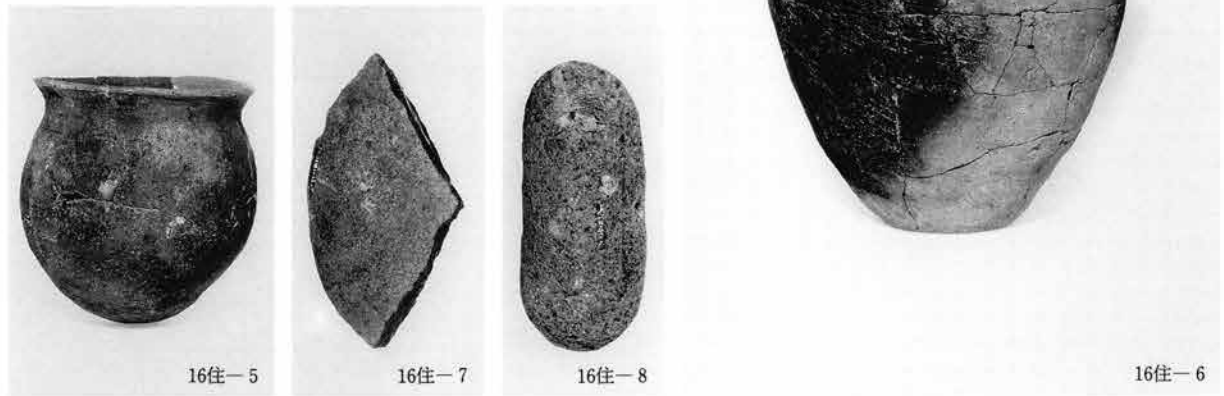
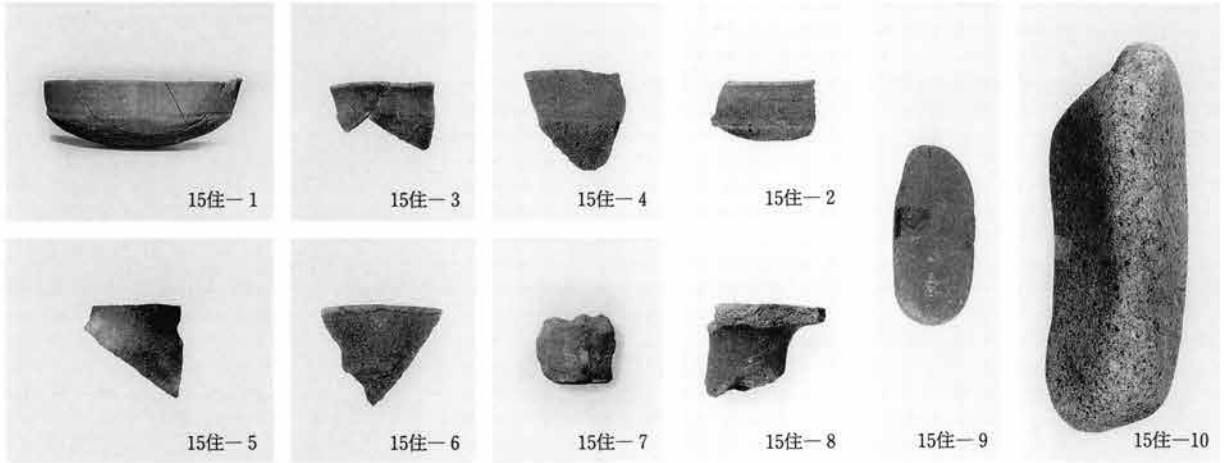


13住-28











17住-11



17住-10



17住-13



17住-12



18住-1



18住-2



18住-3



18住-4



18住-5



18住-12



18住-8



18住-7



18住-13



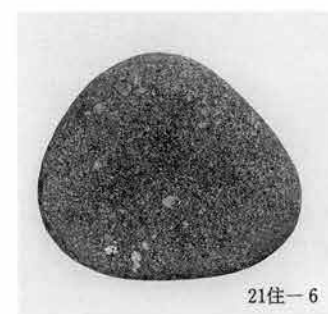
18住-14



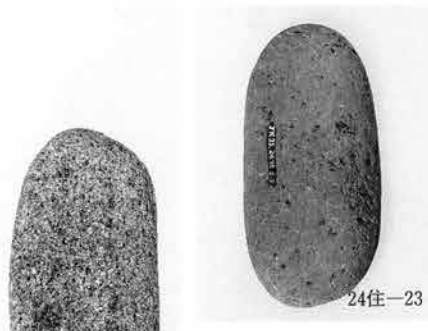
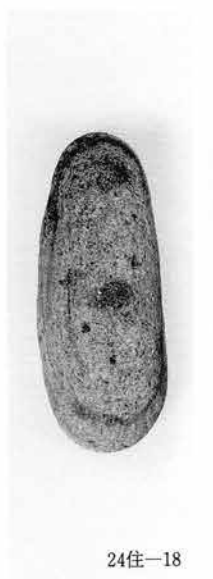
18住-11



18住-10











25住-9



25住-10



25住-11



25住-12



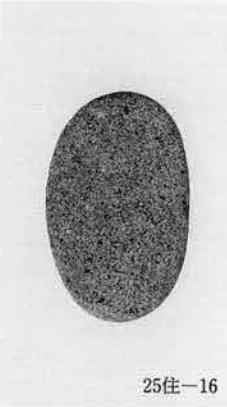
25住-13



25住-14



25住-15



25住-16



25住-17



25住-18



25住-19



25住-20



25住-21



25住-22



25住-23



25住-24



25住-25



25住-26



26住-1



26住-2



26住-3



26住-4



26住-5



26住-6

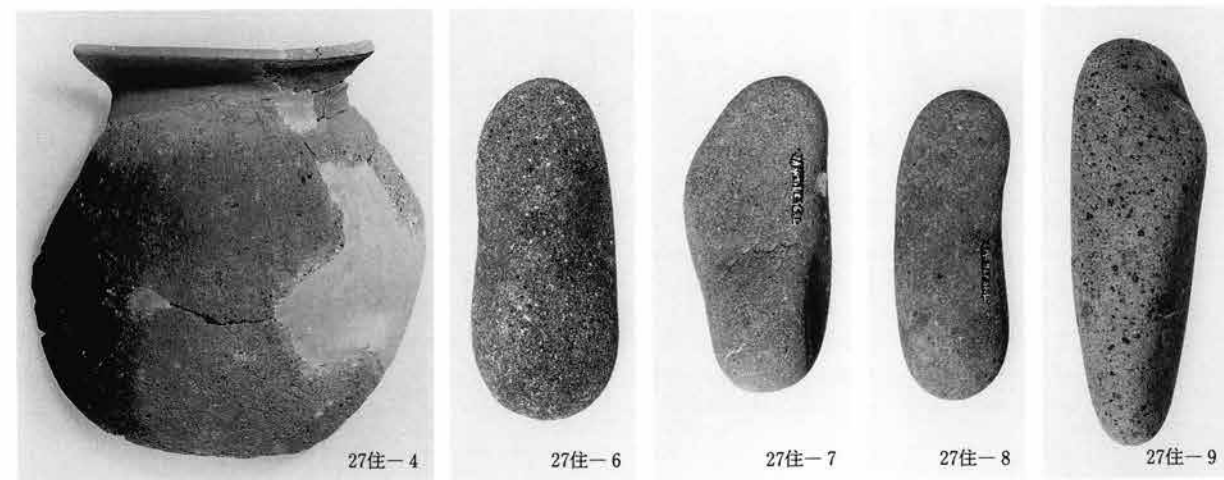
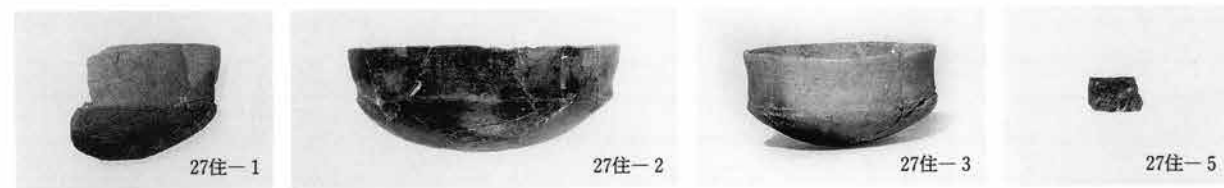
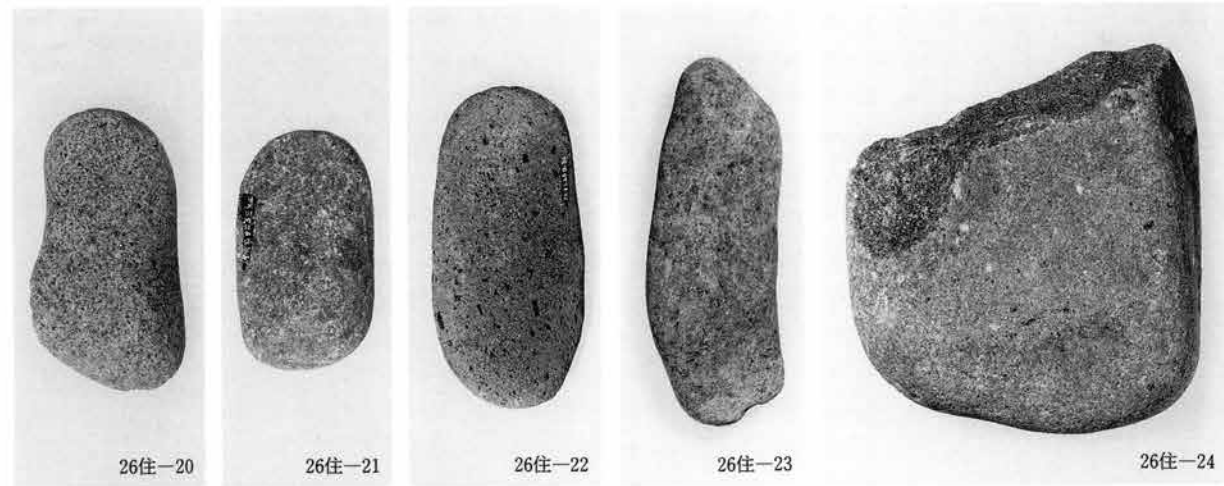
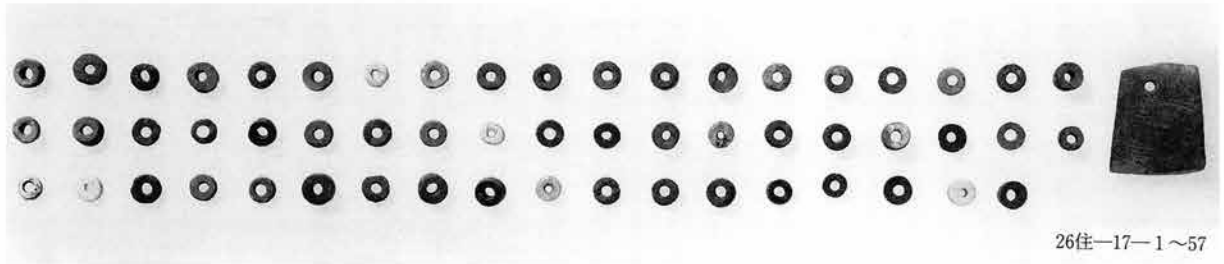
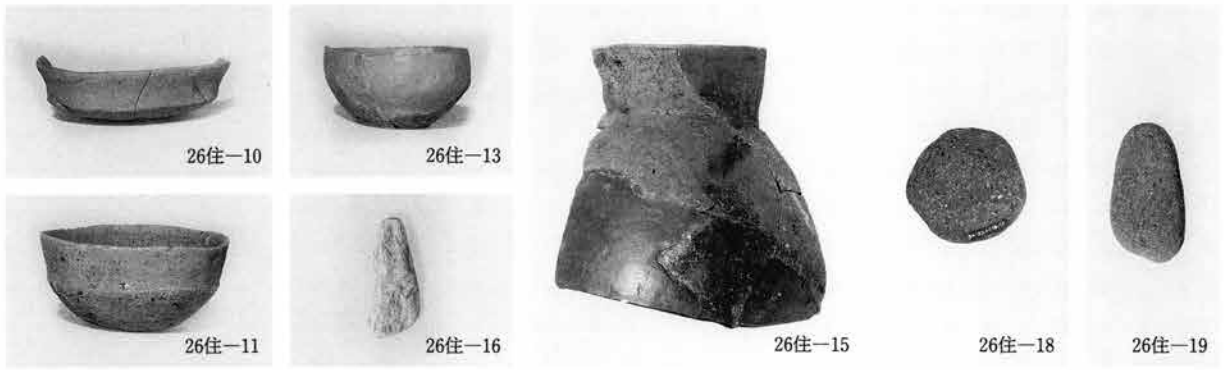


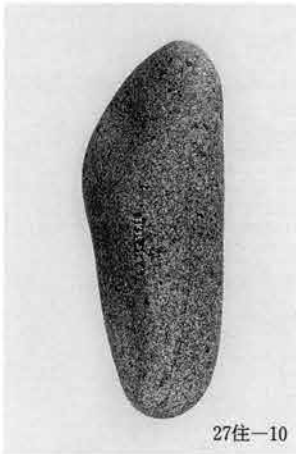
26住-8

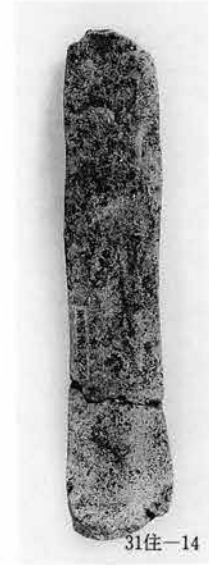


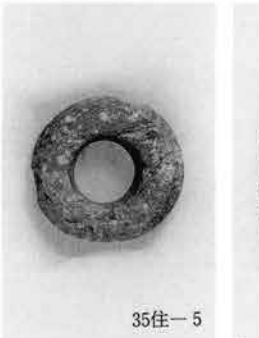
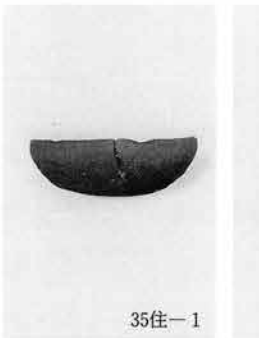
26住-9













36住-4



36住-6



36住-5



37住-1



37住-2



37住-3



37住-4



37住-5



37住-7



37住-6



37住-8



38住-1



38住-2



38住-3



38住-4



38住-5



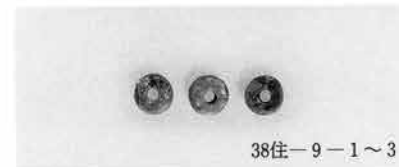
38住-6



38住-7

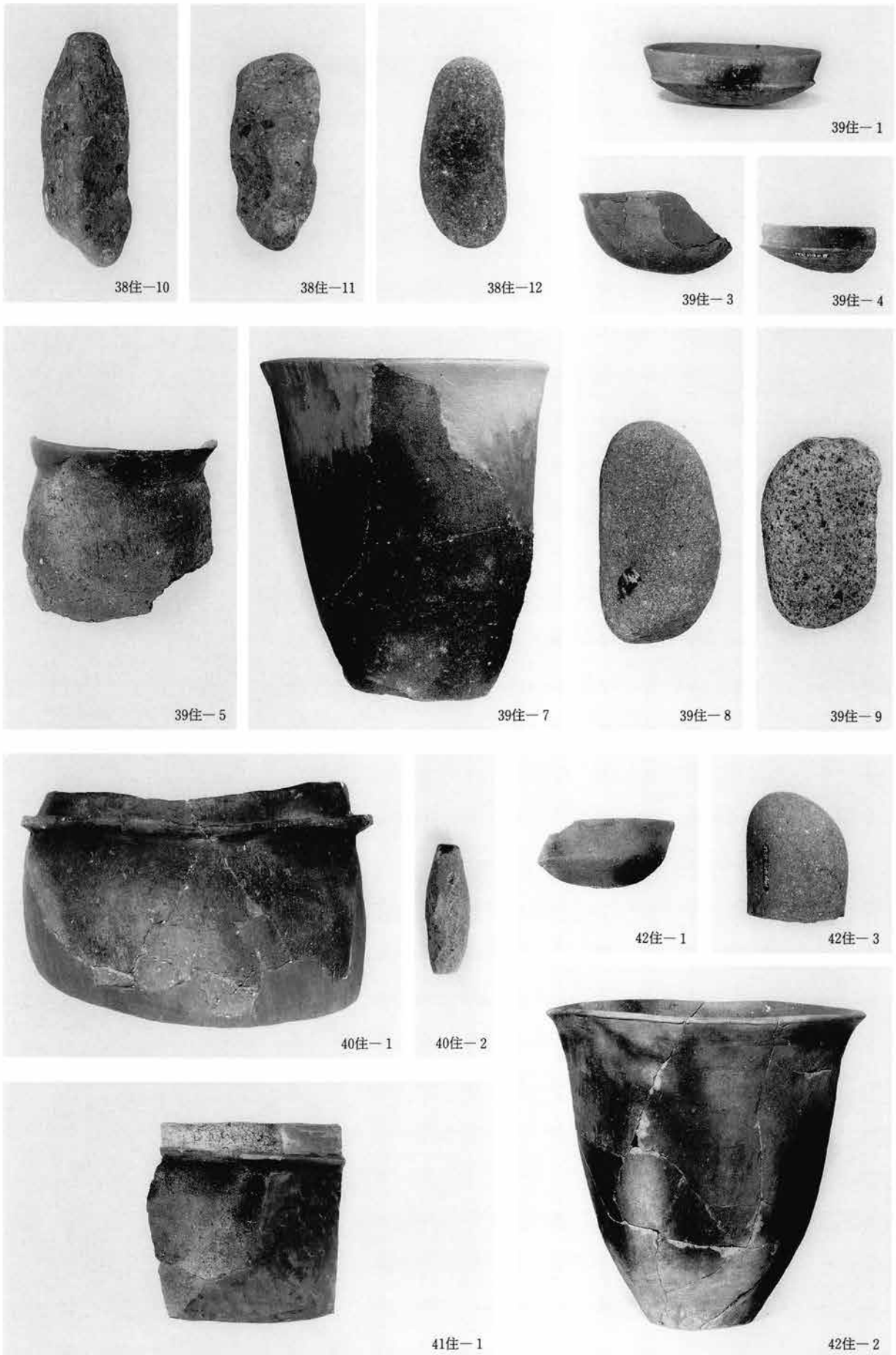


38住-8



38住-9-1~3









43住-1



43住-2



43住-3



43住-4



43住-5



43住-6



43住-7



43住-8



43住-9



43住-14



43住-10



43住-11



43住-13



44住-1



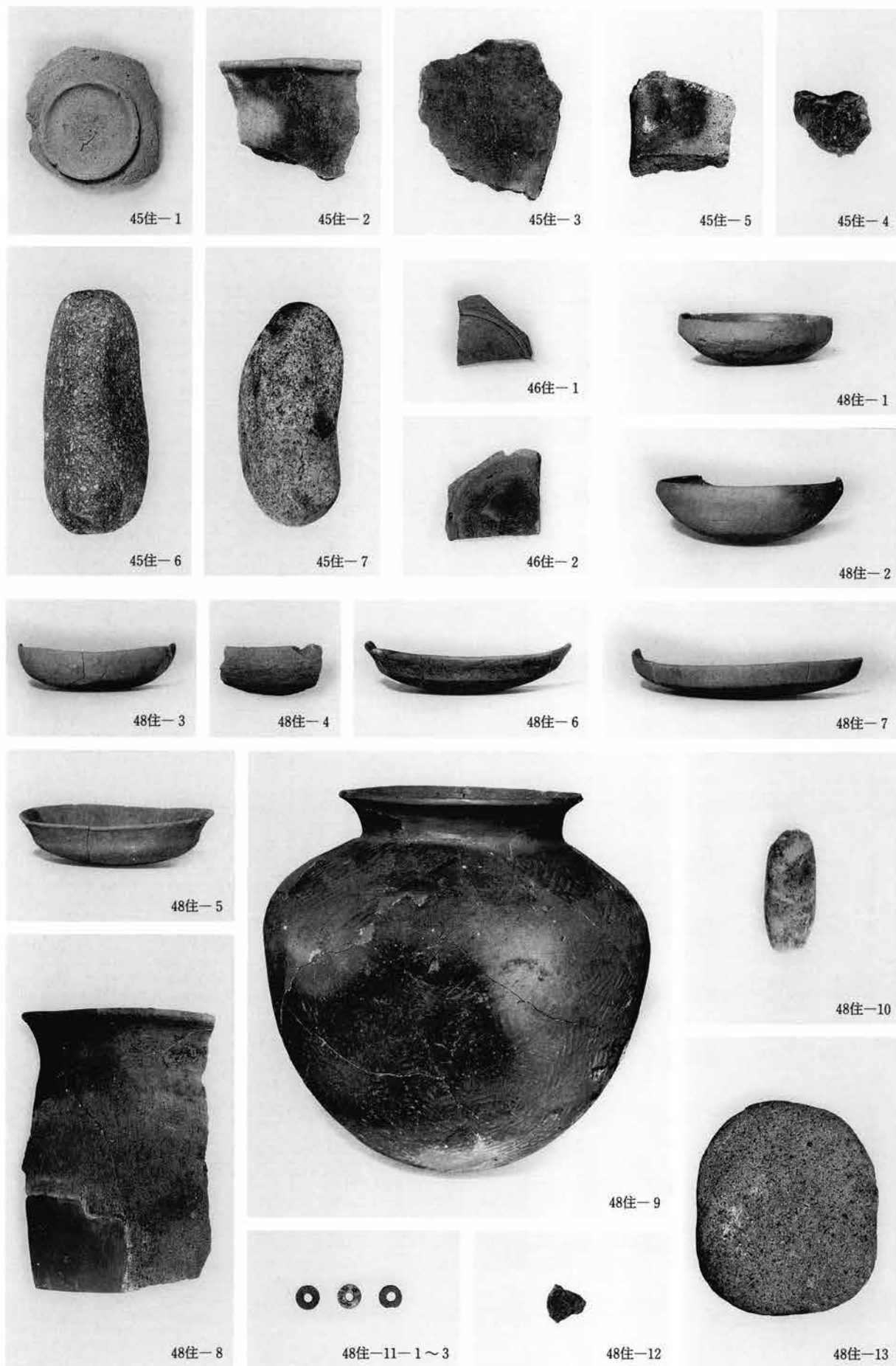
44住-2

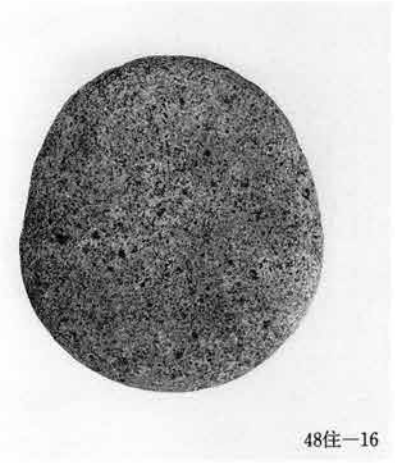


44住-3



44住-4









56住-6



56住-7



58住-1



58住-3



56住-8



58住-2



59住-1



59住-2



59住-3



60住-6



60住-1



60住-4



60住-2



60住-3



61住-1



61住-3



61住-4



60住-5



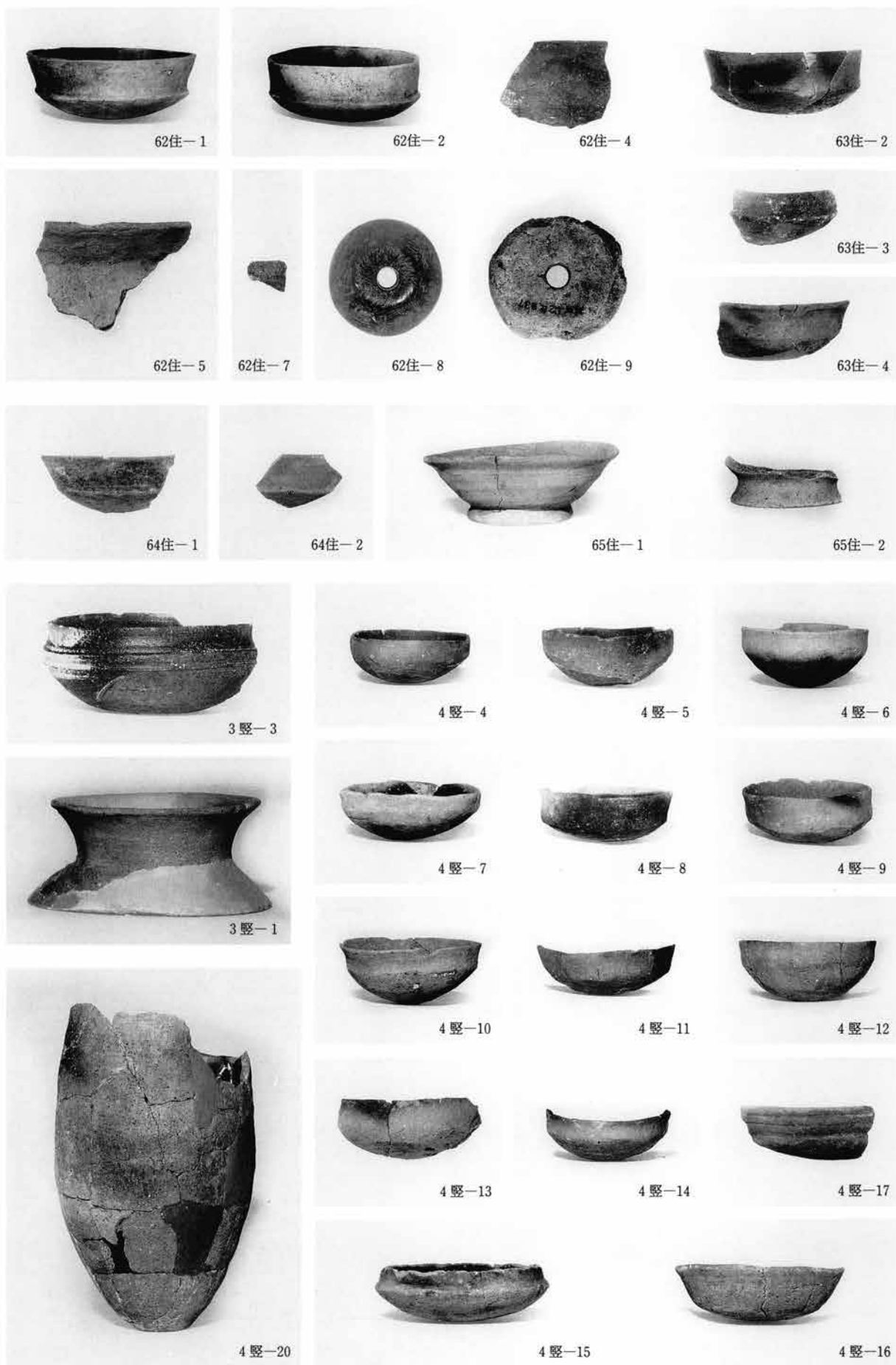
60住-7



61住-2



61住-5







1溝-7



1溝-12



1溝-13



1溝-15



1溝-16



1溝-14



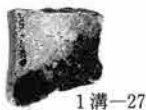
1溝-22



1溝-23



1溝-24



1溝-27



1溝-25



1溝-26



1溝-28



1溝-29



1溝-30



1溝-31



3溝-32



3溝-33



3溝-35



3溝-36



3溝-39



3溝-37



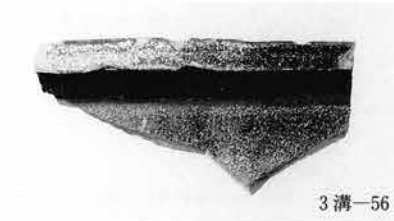
3溝-38



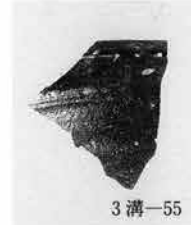
3溝-41



3溝-48



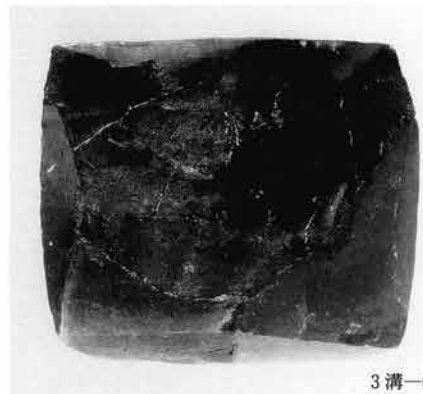
3溝-56



3溝-55



3溝-65



3溝-66



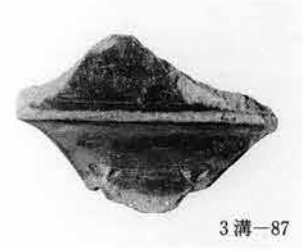
3溝-67



3溝-69



3溝-77



3溝-87



3溝-88



3溝-97



3溝-95



3溝-96



3溝-91



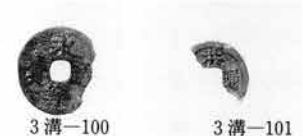
3溝-98



3溝-99



3溝-92



3溝-100



3溝-101



3溝-102



3溝-103



3溝-104



3溝-112



3溝-118



3溝-125



3溝-126



3溝-127



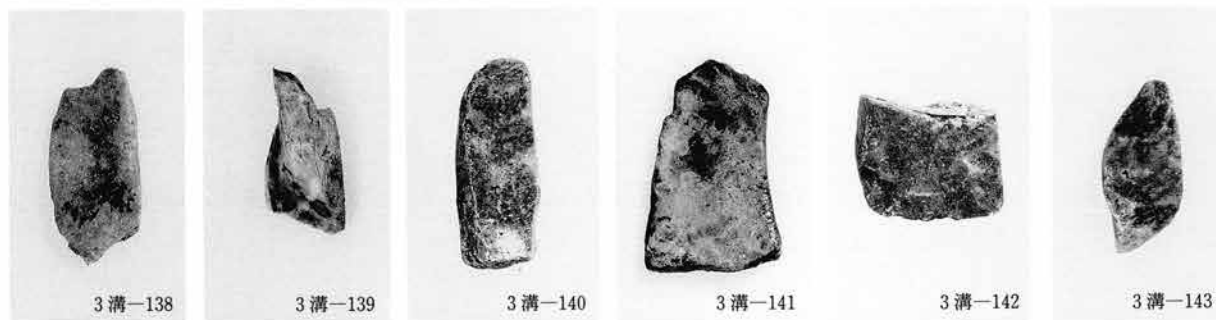
3溝-128

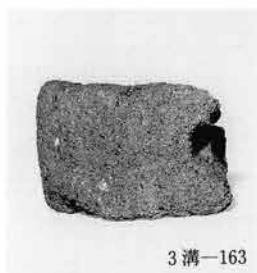


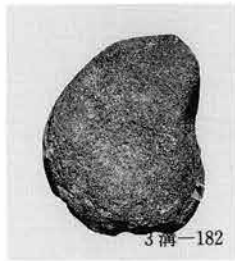
3溝-129



3溝-130







3溝-182



3溝-184



3溝-185



3溝-186



3溝-187



3溝-188



3溝-189



3溝-193



3溝-194



3溝-196



3溝-197



3溝-195



3溝-192



3溝-198



3溝-199



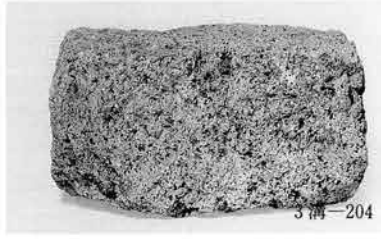
3溝-200



3溝-201



3溝-202



3溝-204



3溝-206



3溝-207



3溝-203



3溝-205



3溝-209



3溝-208





4 溝-210



4 溝-211



4 溝-212



4 溝-220



4 溝-221



4 溝-226



4 溝-230



4 溝-229



4 溝-236



4 溝-237



4 溝-260



4 溝-261



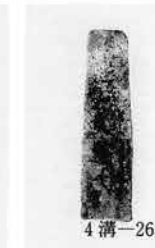
4 溝-262



4 溝-263



4 溝-264



4 溝-265



4 溝-266



4 溝-268



4 溝-267



4 溝-269



4 溝-271



4 溝-270



4 溝-272



4 溝-273



4 溝-275



4 溝-276



4 溝-274



4 溝-277



4 溝-278

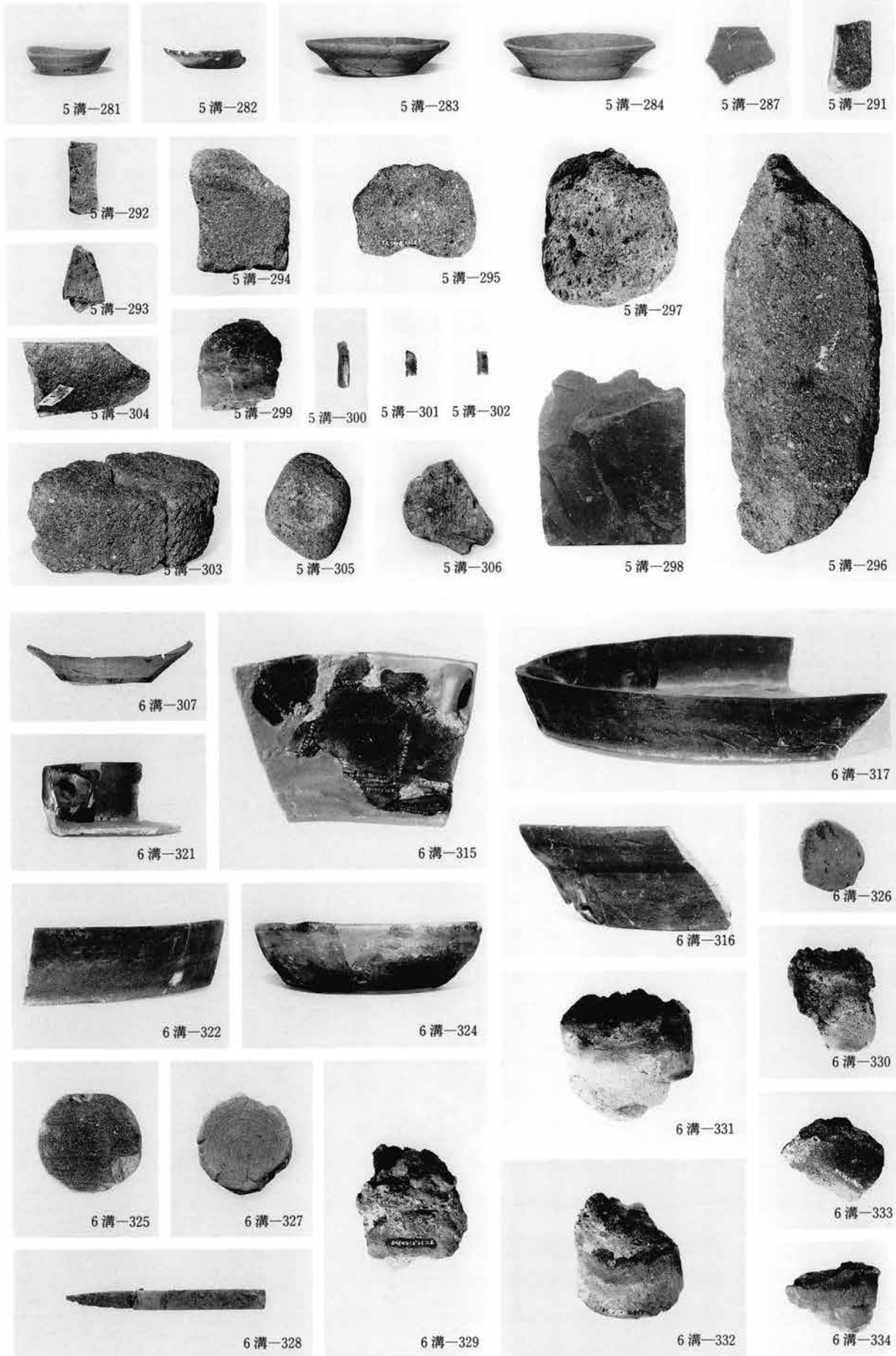


4 溝-279



4 溝-280







6溝-339



6溝-345



6溝-346



6溝-347



6溝-348



6溝-349



6溝-350



6溝-351



6溝-352



6溝-353



6溝-354



6溝-341



6溝-355



6溝-356



6溝-357



6溝-358



6溝-359



6溝-360



6溝-361



6溝-362



6溝-366



6溝-364



6溝-365



7溝-367



8溝-369



8溝-370



8溝-377



8溝-378



8溝-372



8溝-373



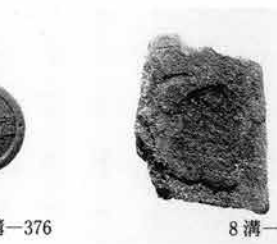
8溝-374



8溝-375



8溝-376



8溝-379



9溝-380



9溝-381



9溝-382



10溝-383



10溝-384



10溝-385



10溝-387



10溝-392



10溝-393



10溝-394



10溝-395



10溝-396



10溝-398



10溝-401



10溝-406



10溝-407



10溝-408



10溝-409



10溝-410



10溝-411



10溝-402



10溝-405



10溝-414



10溝-430



10溝-412



10溝-413



10溝-425



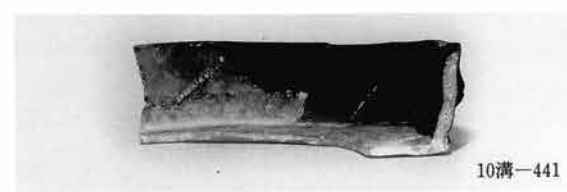
10溝-433



10溝-427



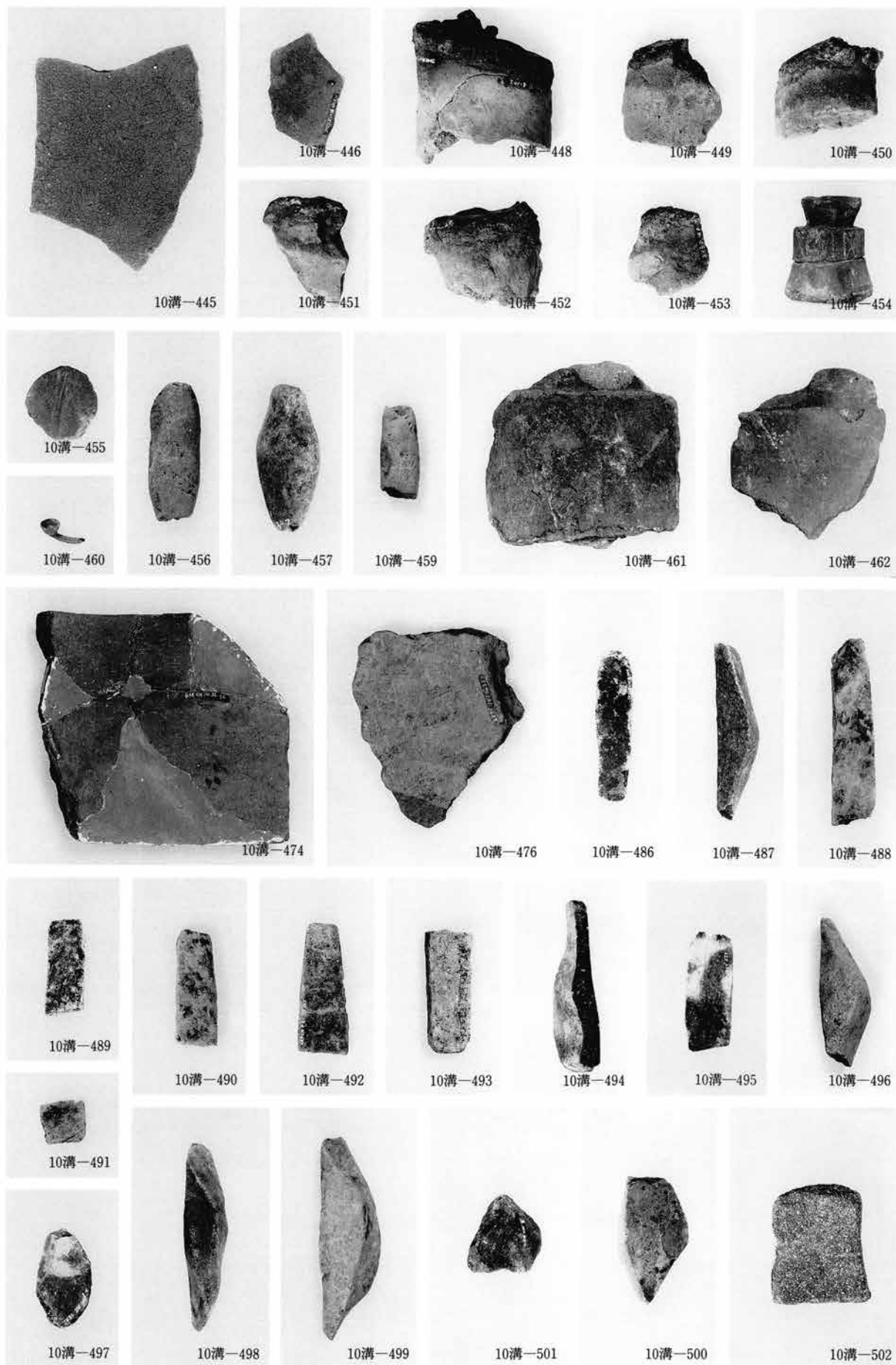
10溝-431

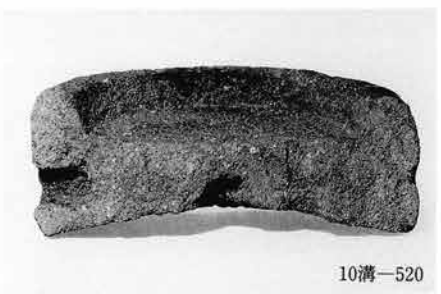
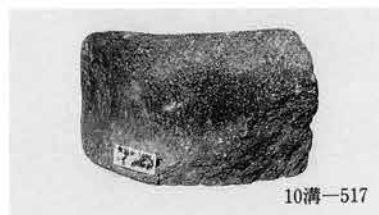
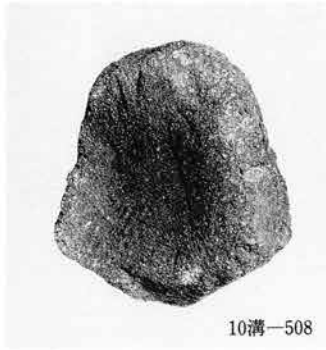


10溝-441



10溝-432









10溝-521



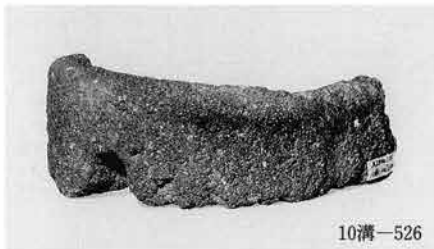
10溝-522



10溝-523



10溝-524



10溝-526



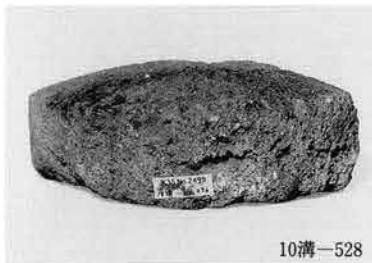
10溝-527



10溝-529



10溝-525



10溝-528



10溝-530



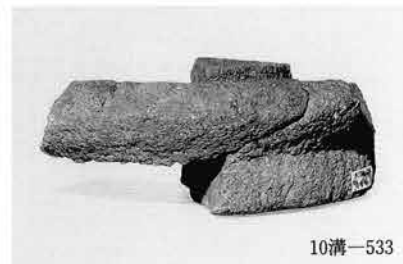
10溝-532



10溝-535



10溝-531



10溝-533



10溝-534



10溝-536



10溝-537



10溝-538



10溝-545



10溝-541



10溝-539



10溝-540



10溝-542



10溝-543



10溝-547



10溝-544

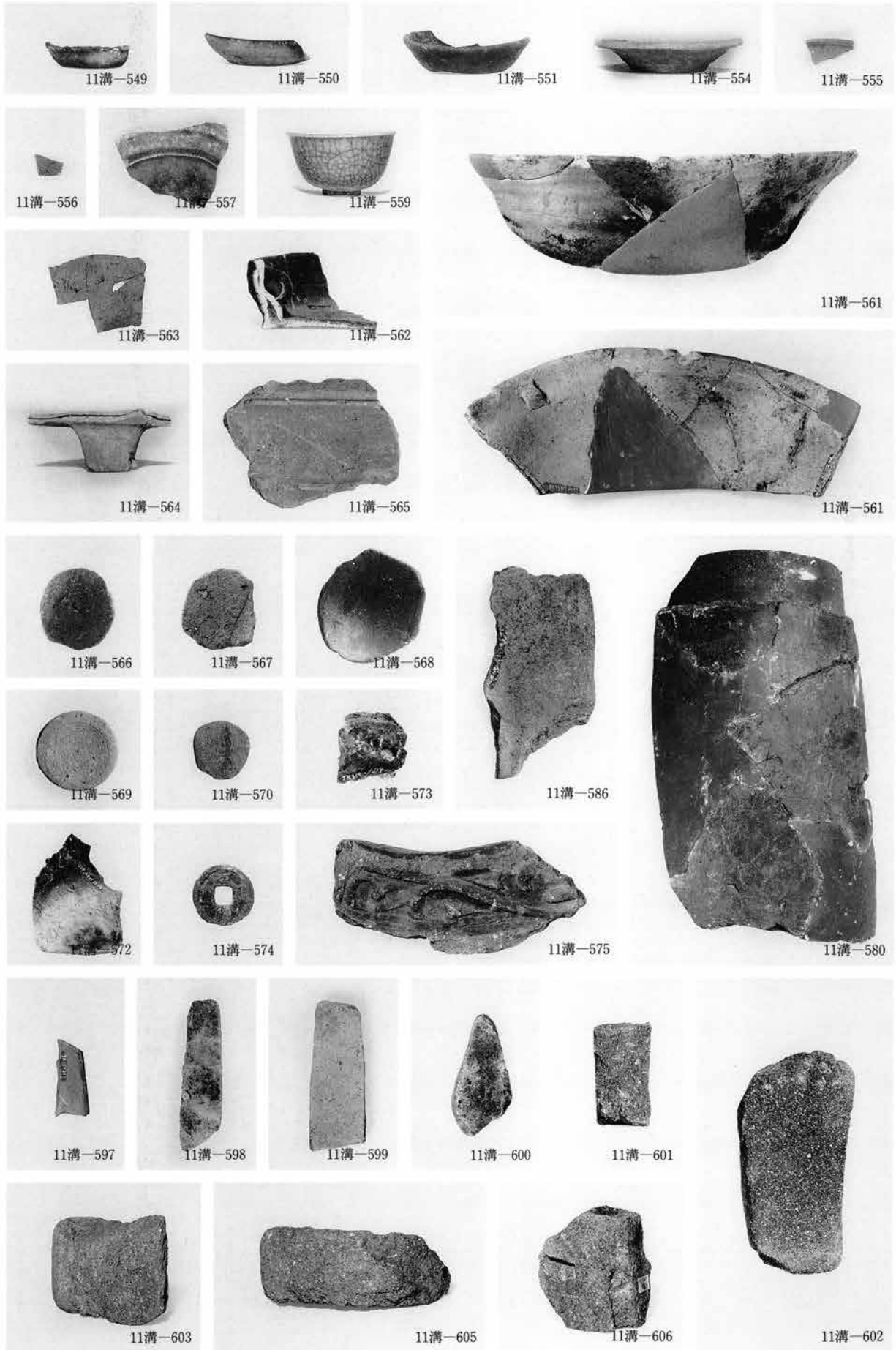


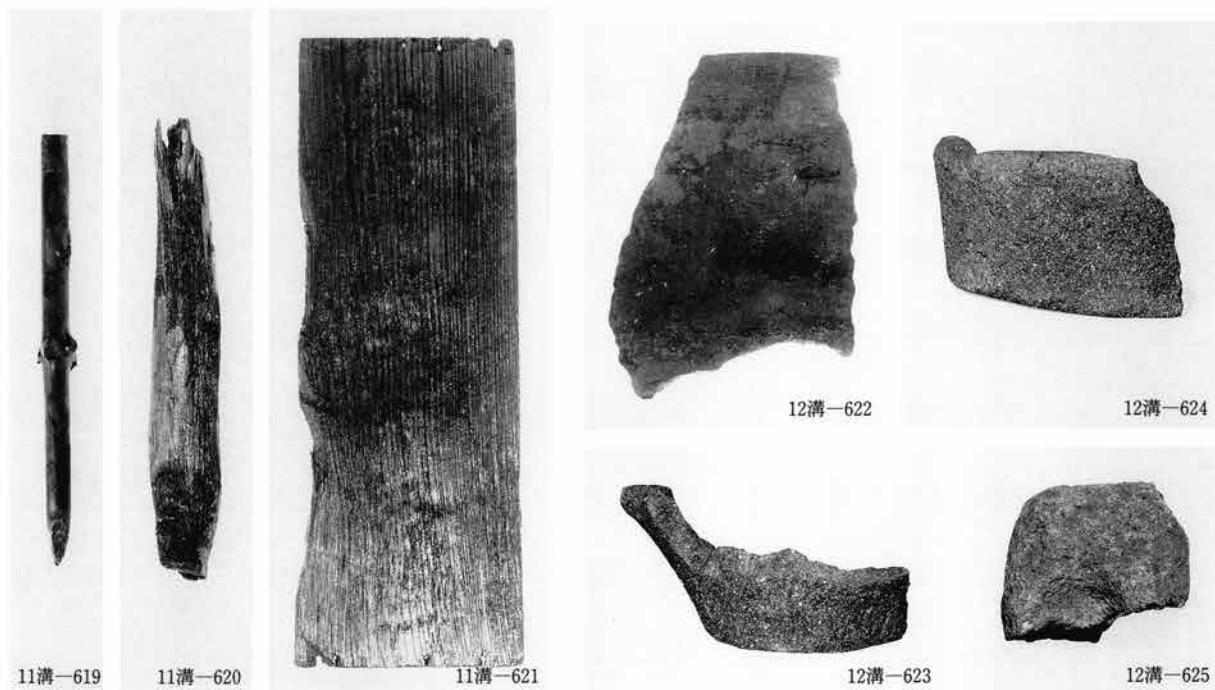
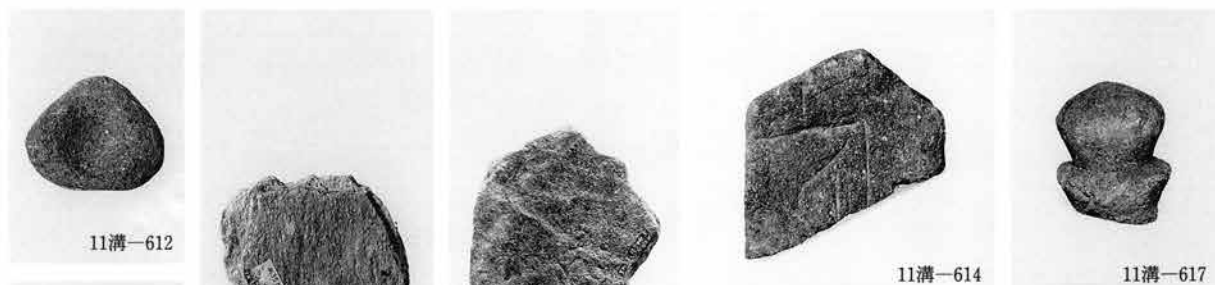
10溝-546



10溝-548









13溝-645



13溝-647



13溝-656



13溝-657



13溝-651



13溝-660



13溝-665



13溝-663



13溝-644



13溝-667



13溝-674



13溝-677



13溝-678



13溝-680



13溝-683





13溝-729



13溝-730



13溝-732



13溝-733



13溝-737



13溝-731



13溝-734



13溝-735



13溝-736



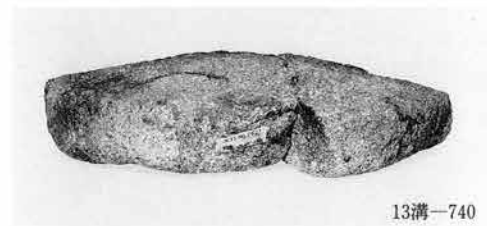
13溝-739



13溝-738



13溝-743



13溝-740



13溝-741



13溝-744



13溝-742



13溝-745



13溝-746



13溝-747



13溝-748



13溝-749



13溝-750



13溝-751



13溝-752



13溝-753



13溝-754





13溝-755



13溝-756



13溝-757



13溝-759



13溝-760



13溝-761



13溝-762



13溝-763



13溝-764



13溝-765



13溝-766



13溝-768



13溝-769



13溝-770



13溝-771



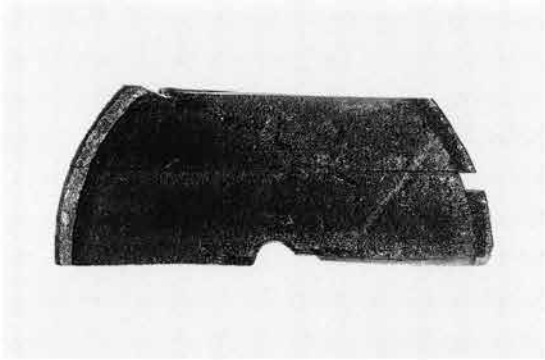
13溝-773



13溝-774



13溝-776



13溝-778



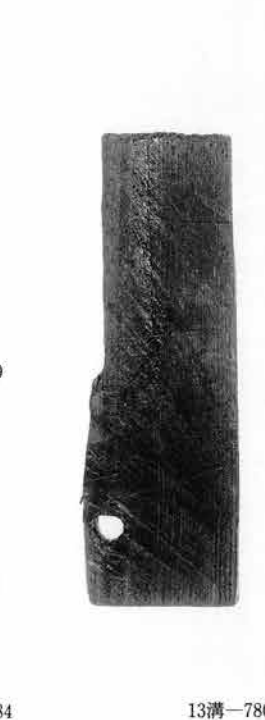
13溝-779



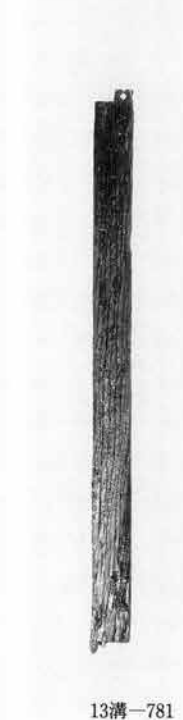
13溝-785



13溝-784

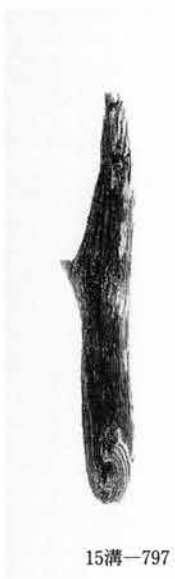
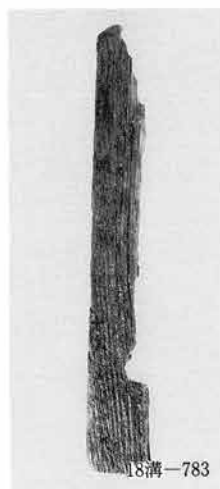
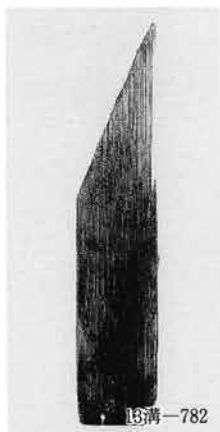


13溝-780



13溝-781







2井戸-1



2井戸-2



4井戸-6



4井戸-6



4井戸-5



4井戸-8



3井戸-3



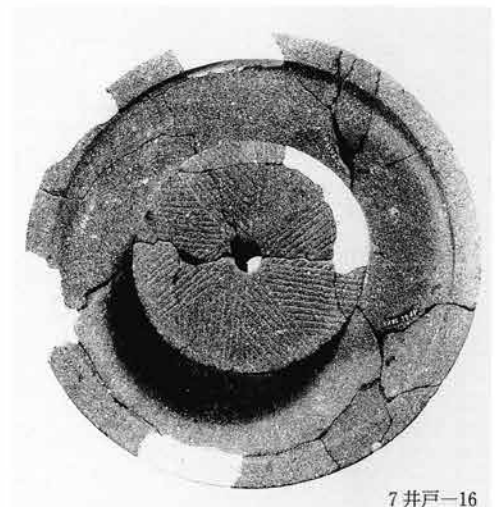
4井戸-7



5井戸-10



4井戸-4



7井戸-16



6井戸-11



7井戸-13



7井戸-16



6井戸-11



7井戸-15



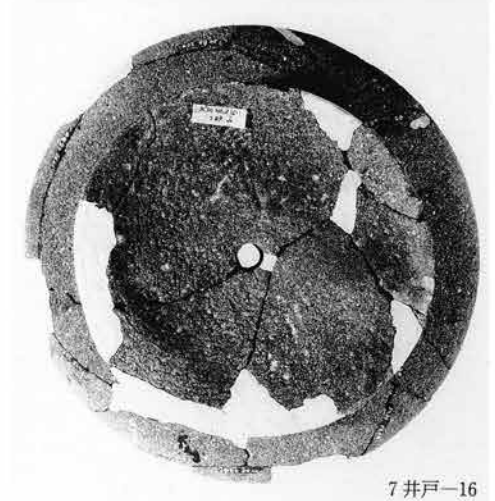
7井戸-12



7井戸-17



7井戸-14



7井戸-16



8井戸-21



8井戸-23



8井戸-29



8井戸-32



8井戸-34



8井戸-24



8井戸-25



8井戸-33



8井戸-31



9井戸-37



8井戸-26



8井戸-30



8井戸-35



9井戸-36



10井戸-38



10井戸-39



11井戸-42



11井戸-41



11井戸-43



11井戸-44



14井戸-45



14井戸-46



14井戸-47



17井戸-49



17井戸-52



17井戸-52



17井戸-53



17井戸-50



17井戸-54



17井戸-58



17井戸-57



17井戸-61



17井戸-56



19井戸-62



19井戸-64



19井戸-66



19井戸-65



19井戸-67



19井戸-69



19井戸-70



19井戸-73



19井戸-74



19井戸-72



19井戸-71

19井戸-76



19井戸-75



21井戸-79



21井戸-80



21井戸-81



21井戸-82



21井戸-83



22井戸-84



23井戸-85



23井戸-86



24井戸-88



30井戸-89



30井戸-91



32井戸-92



36・37井戸-95



36・37井戸-94



36・37井戸-101



36・37井戸-100



38井戸-102



36・37井戸-98



36・37井戸-99



41井戸-104



41井戸-106



41井戸-107



42井戸-108



42井戸-115



41井戸-105



42井戸-110





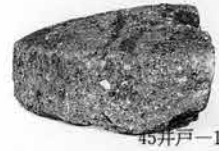
42井戸-112



42井戸-113



44井戸-120



45井戸-122



42井戸-117



42井戸-118



42井戸-116



45井戸-123



46井戸-124



47井戸-135



47井戸-126



46井戸-125



47井戸-133



47井戸-139



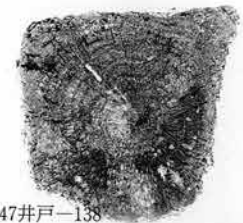
47井戸-128



47井戸-129



47井戸-136



47井戸-138



47井戸-130



47井戸-131



47井戸-132



47井戸-133



47井戸-137



47井戸-140





50井戸-141



50井戸-145



51井戸-147



53井戸-152



53井戸-154



50井戸-144



50井戸-146



51井戸-148



53井戸-153



52井戸-149



52井戸-150



52井戸-151



55井戸-155



55井戸-156



55井戸-158



55井戸-157



55井戸-168



55井戸-162



55井戸-165



55井戸-166



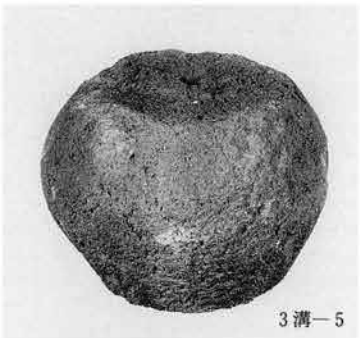
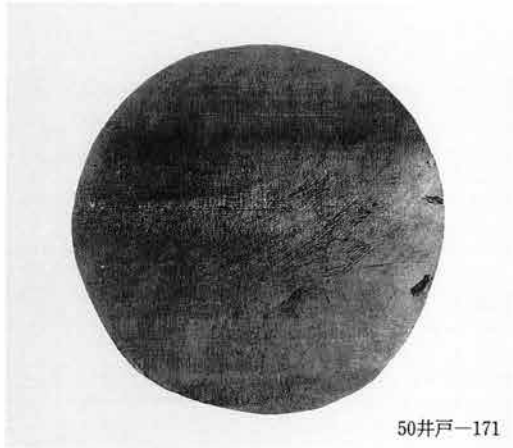
55井戸-163

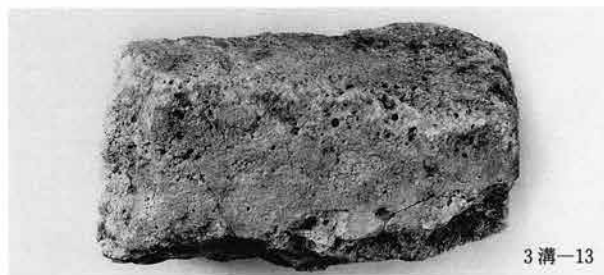


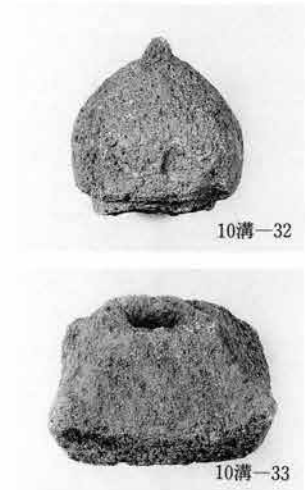
55井戸-161



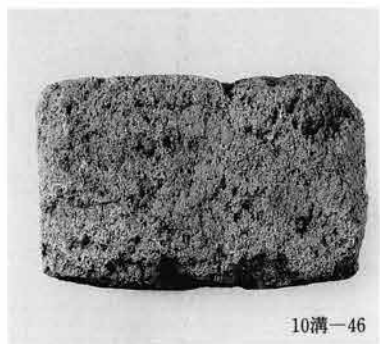
55井戸-169













13溝-65



13溝-66



13溝-67



13溝-68



13溝-69



13溝-70



13溝-71



13溝-72



13溝-77



13溝-73



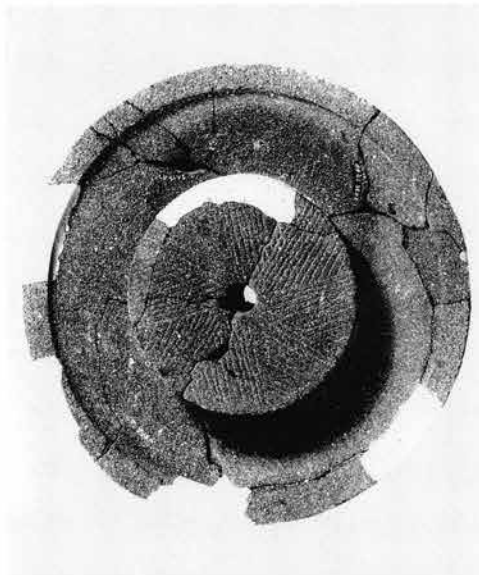
13溝-74



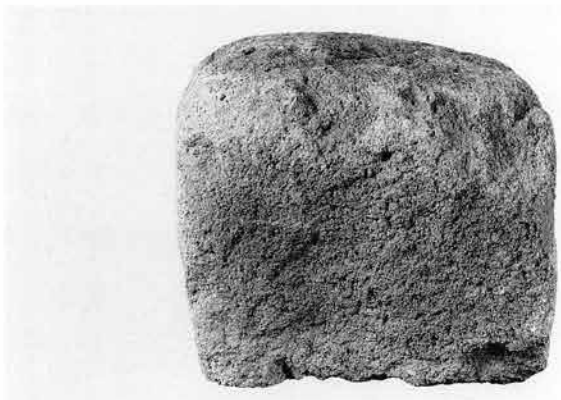
13溝-75



13溝-76



7井戸-80



4井戸-79



7井戸-80





8井戸-81



17井戸-82



19井戸-83



19井戸-84



42井戸-86



42井戸-89



42井戸-88



42井戸-87



22井戸-85



47井戸-90



47井戸-91



遺構外-92



遺構外-93



遺構外-95



不明-97



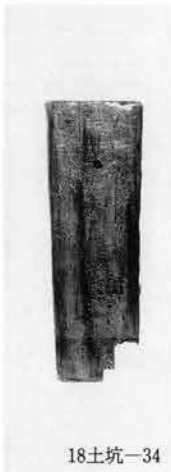
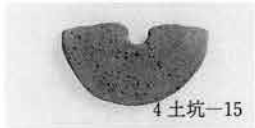
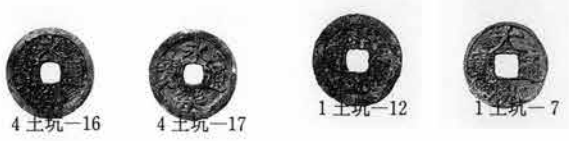
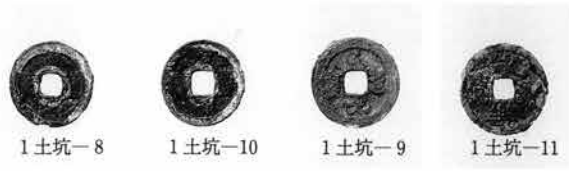
遺構外-96



遺構外-94



不明-98





18土坑-35



18土坑-36



18土坑-37



18土坑-38



18土坑-16



18土坑-49



18土坑-50



27土坑-54



27土坑-55



26土坑-52



26土坑-51



27土坑-56



26土坑-53



27土坑-58



29土坑-60



36土坑-66



36土坑-65



35土坑-62



36土坑-66



36土坑-67



35土坑-63



46土坑-70



46土坑-71



58土坑-75



64土坑-76



64土坑-78



64土坑-77



58土坑-73



76土坑-78



76土坑-80



77土坑-81



77土坑-82



77土坑-83



77土坑-84



58土坑-74



79土坑-85



79土坑-80



85土坑-87



98土坑-88



88土坑-88



98土坑-89



100土坑-93



104土坑-95



104土坑-98



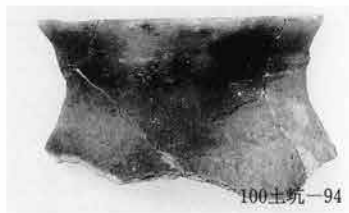
104土坑-96



116土坑-100



100土坑-92



100土坑-94



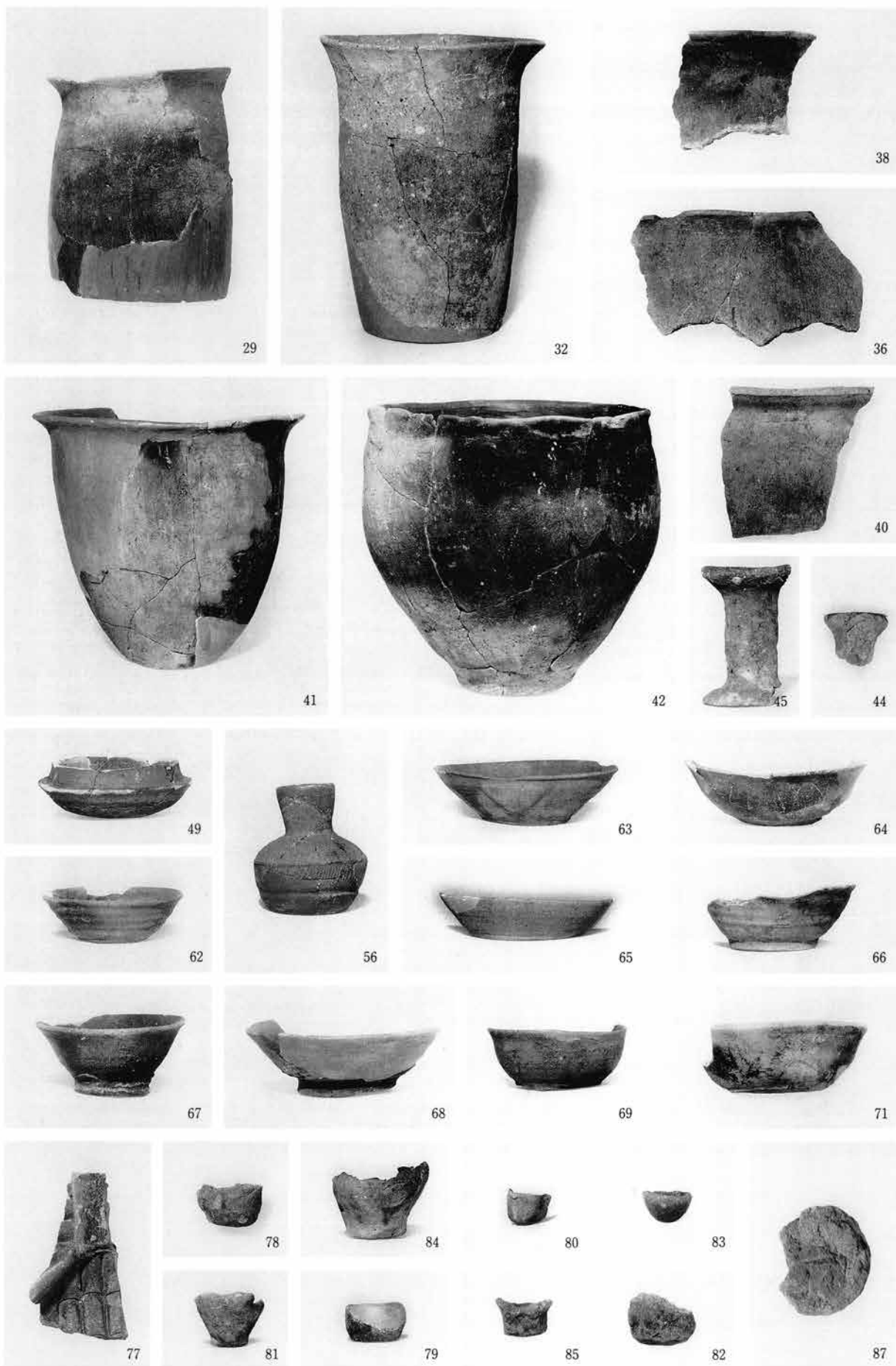
106土坑-99



116土坑-101











88



86



92



93



94



95



96



97



89



90



91



98



99



100



101



102



103



104



105



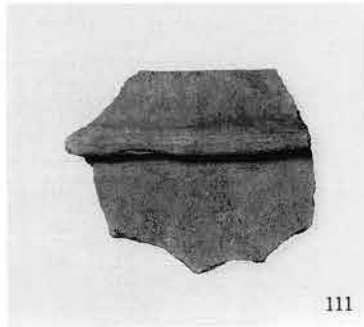
106



107



108



111



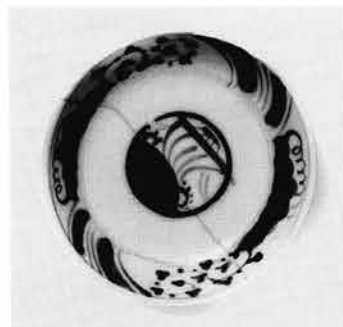
117



120



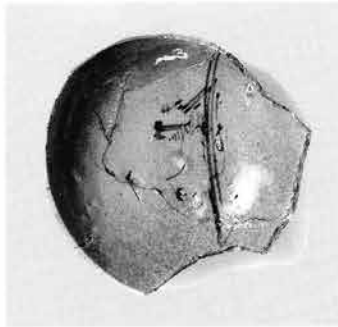
122



135



137



138



139



147



150



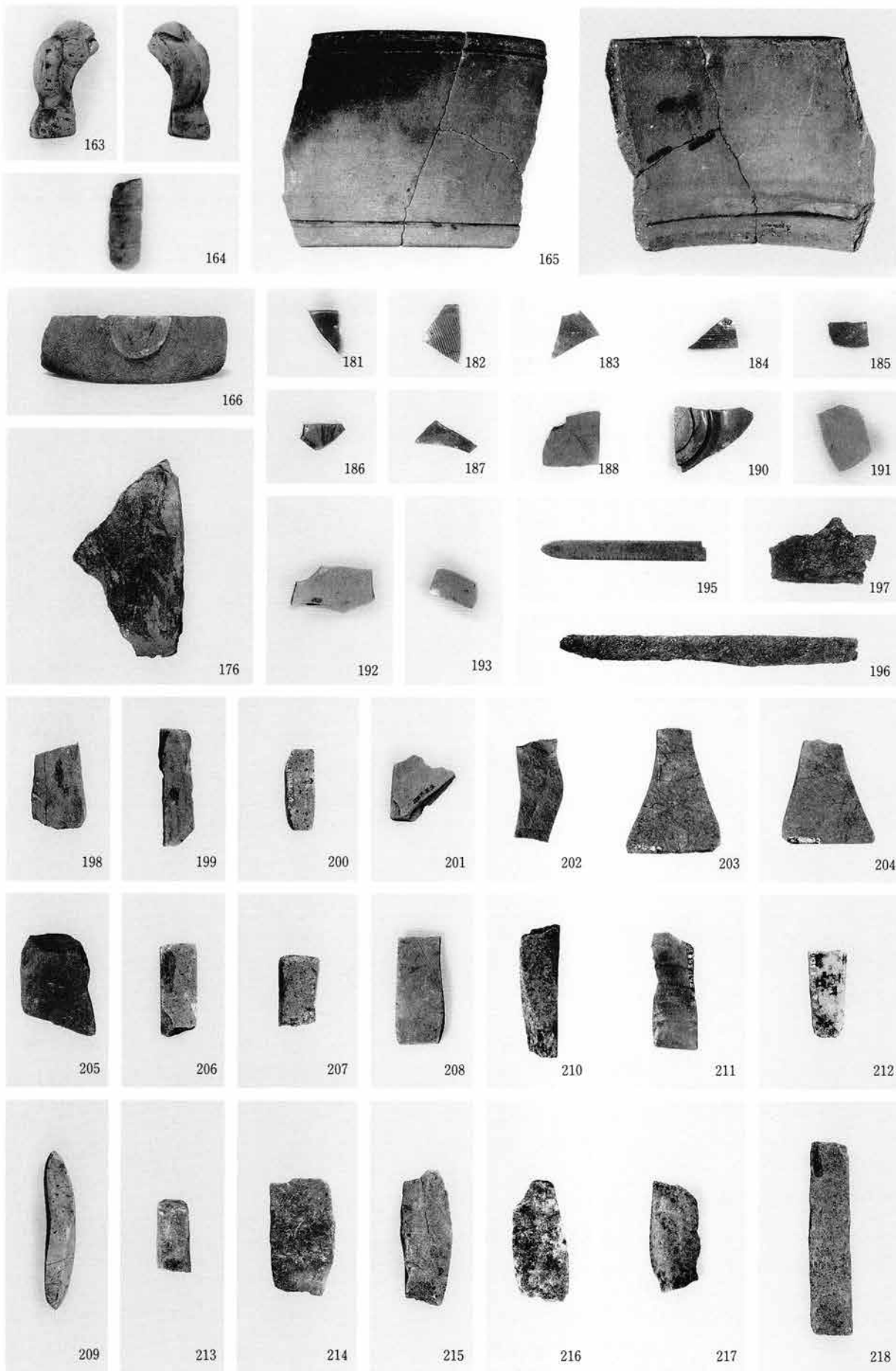
154

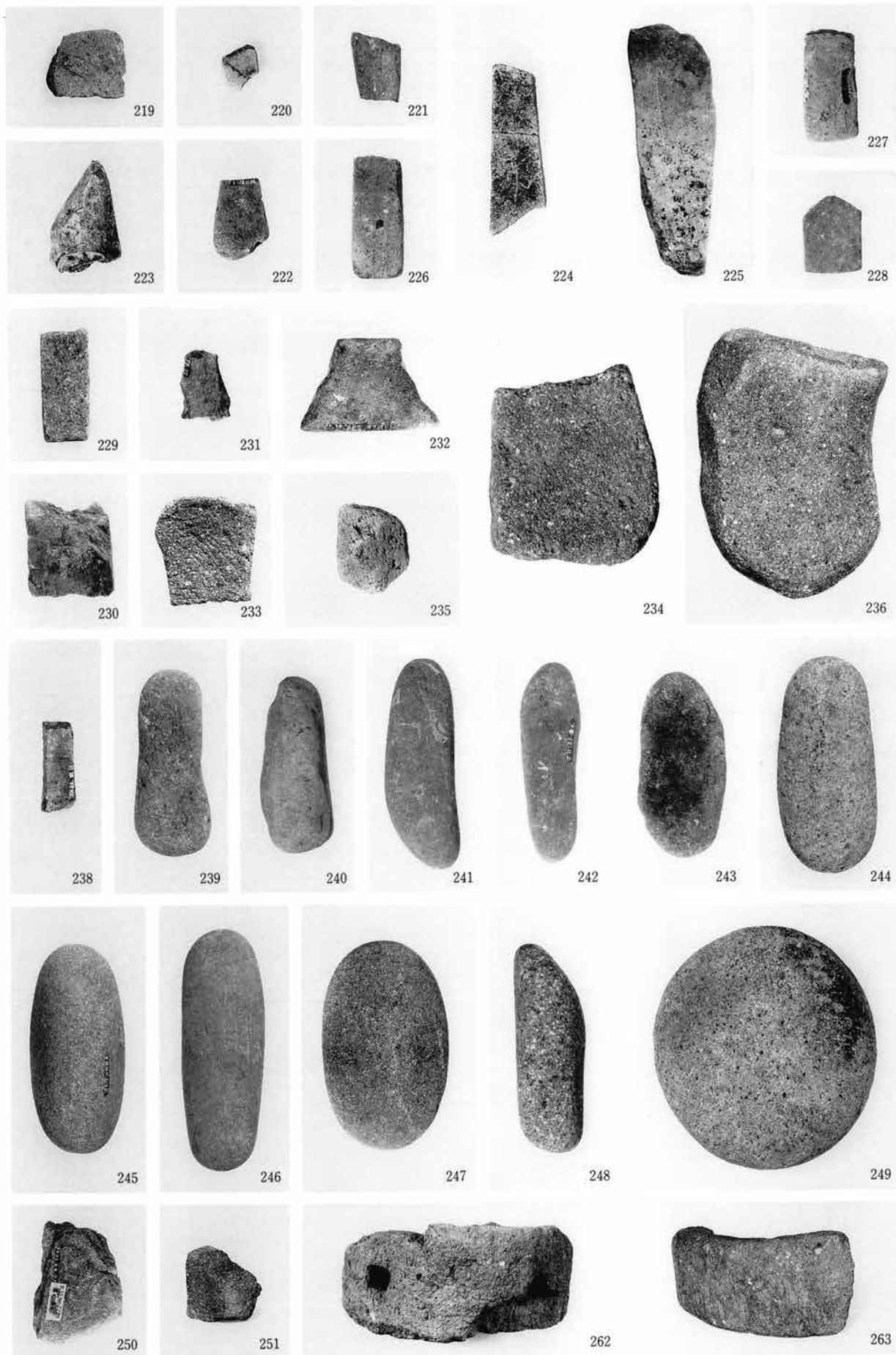


161



159







264



265



266



268



269



270



271



272



273



274



267



275



276



277



278



279



280



281



282



283



284



285



286



287



288



289



290



291



292



293



294



295



296



258



259



252



253



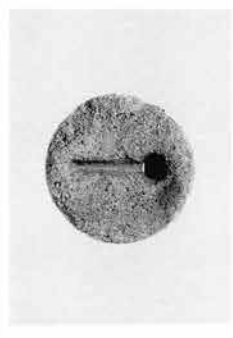
254



257



256



260



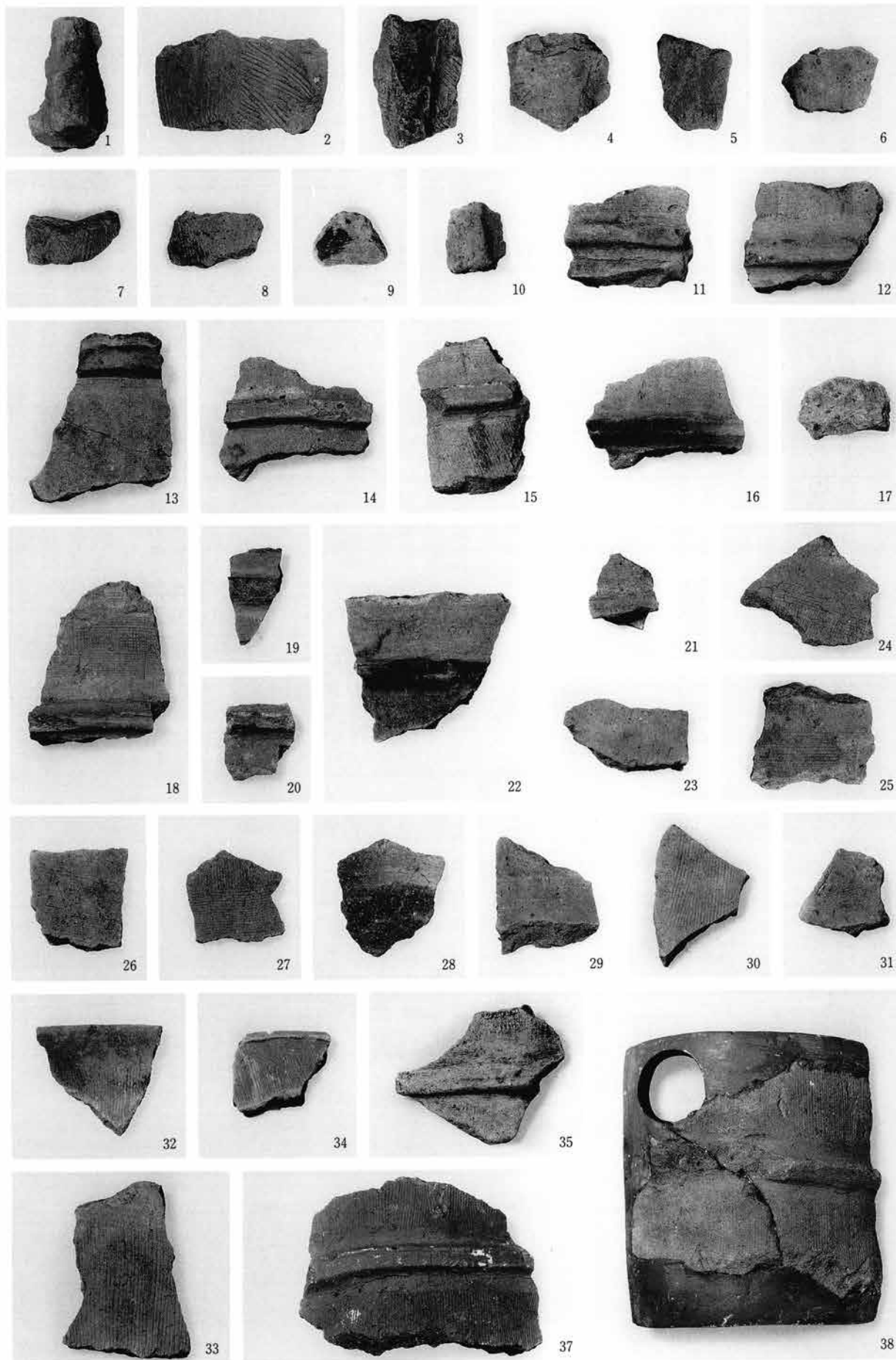
255

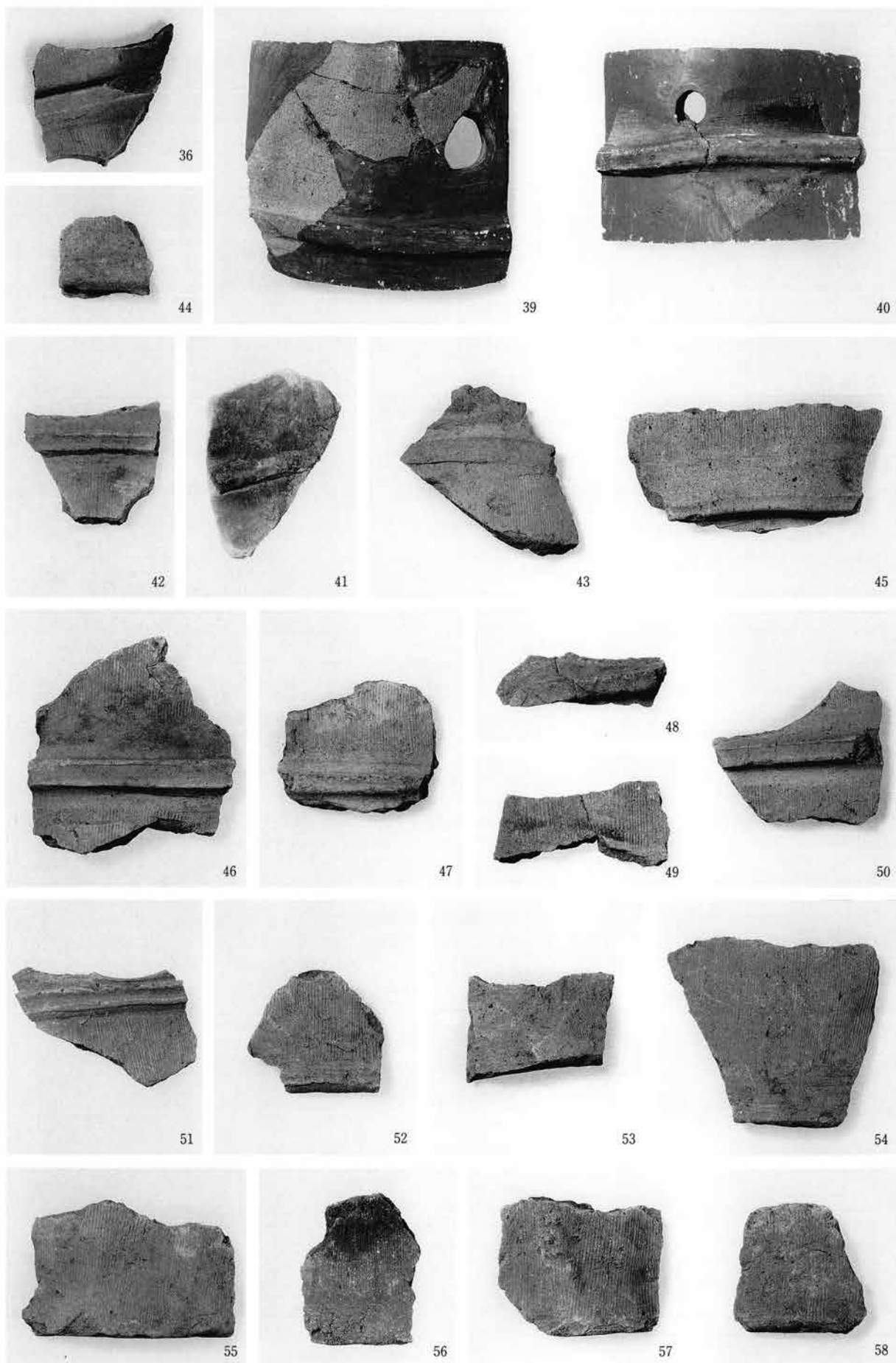


261

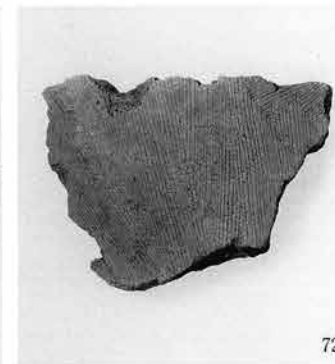
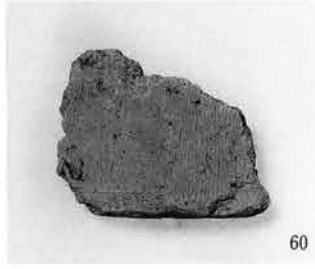


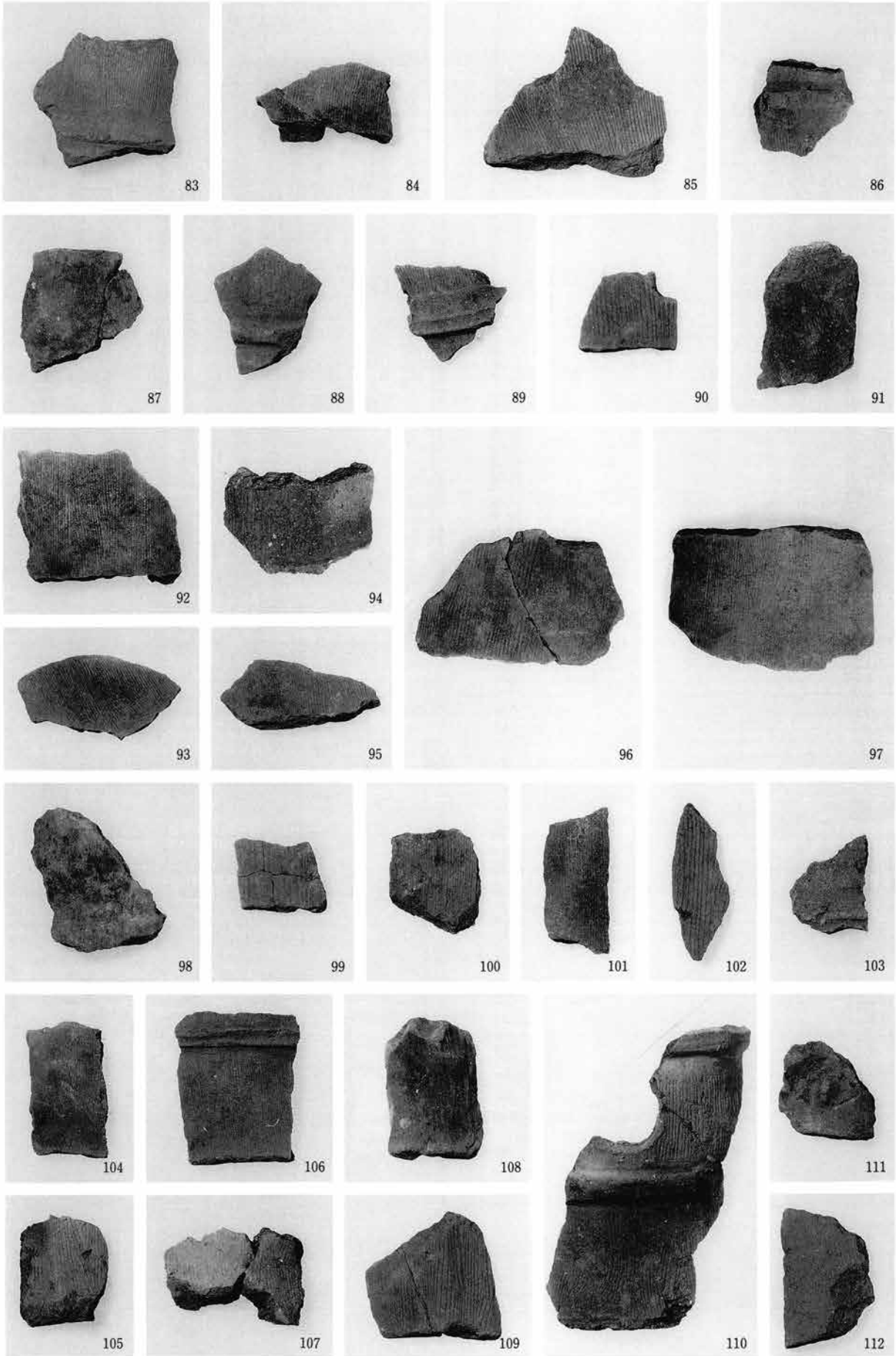
266











財群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第189集

## 二之宮宮下西遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成7年3月20日 印刷  
平成7年3月27日 発行

編集・発行／財群馬県埋蔵文化財調査事業団  
〒377-0061 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2  
電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社



